
PeopleSoft Enterprise HRMS 9.0 アプリケーションの基礎 PeopleBook

2006 年 12月

PeopleSoft Enterprise HRMS 9.0 アプリケーションの基礎 PeopleBook
SKU HRMS9HAF-B 1206JPN
Copyright © 1988–2006, Oracle. All rights reserved.

本プログラム（ソフトウェアおよび文書）には、財産的情報が含まれています。本プログラムは、使用および公開に関する制約が明記されたライセンス契約に従うことを条件として提供され、著作権、特許権などの知的財産権法および産業財産権法により保護されています。本プログラムのリバース エンジニアリング、逆アセンブル、または逆コンパイルは、他の独立したソフトウェアとの相互運用性の確保に必要とされる範囲または法的に規定された範囲を除き、禁じます。

本書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。本書の内容に問題があった場合は、当社まで書面によりご通知ください。Oracle は、本書の内容に全く誤りがないことを保証するものではありません。ライセンス契約に明示的に規定された場合を除き、形式または手段（電子的、機械的など）、および目的の如何にかかわらず、本プログラムを複製または転送することを禁じます。

本プログラムが、アメリカ合衆国政府、またはその代理として本プログラムを使用する者に提供される場合には、以下の条項が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

本プログラムは、原子力、航空、大量輸送、医療などの本質的に危険を伴う用途を目的として作成されていません。危険を伴う用途に本プログラムを使用する場合の障害対策、バックアップ、および冗長構成などの適切な措置を講じた安全性の確保は、ライセンス供与を受けた者の責任とし、これらの用途に使用された場合のいかなる損失や障害について、当社は一切責任を負いません。

本プログラムには、Web サイトへのリンクが含まれており、サードパーティのコンテンツ、製品、およびサービスへのアクセスが発生する場合があります。サードパーティの Web サイトの運用およびそのコンテンツについて、Oracle は一切責任を負いません。これらのコンテンツの使用上の全ての責任は、使用者が負うこととします。サードパーティから製品またはサービスを購入する場合は、その購入者とサードパーティの間の直接取引になります。(a) サードパーティの製品またはサービスに関する品質、(b) サードパーティとの契約におけるいかなる条件の遵守（製品またはサービスの提供、また、購入された製品またはサービスに関する保証義務など）について、Oracle は一切責任を負いません。サードパーティとの取引に伴ういかなる損失や障害について、Oracle は一切責任を負いません。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、および Siebel は、米国 Oracle Corporation およびその関連会社の両方またはいずれかの登録商標です。その他の会社名および製品名は所有各社の商標です。

オープン ソースの利用について

Oracle は、オープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアの使用または配布について責任を負いません。また、これらのソフトウェアまたは文書の使用によるいかなる損失や障害についても一切責任を負いません。Oracle の PeopleSoft 製品には以下のオープンソースソフトウェアが使用される場合があります、これらには下記の免責条項が適用されます。

Apache Software Foundation

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 2000–2003. The Apache Software Foundation. All rights reserved. ライセンスは、Apache ライセンス バージョン 2.0 (以下「ライセンス」) に基づいて許可されます。ライセンスの順守なく、このファイルを使用することは禁じられています。ライセンスのコピーは、<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0> で入手できます。

適用法により求められた場合、または書面をもって同意された場合を除き、ライセンスに基づいて配布されたソフトウェアは、明示的、黙示的を問わず一切の保証または条件なしに現状のまま提供されています。特定の言語下のライセンス許諾事項および制限事項については、ライセンスを確認してください。

OpenSSL

Copyright (c) 1998–2005 The OpenSSL Project. All rights reserved.

この製品には、OpenSSL Project (<http://www.openssl.org/>) によって OpenSSL Toolkit 用に開発されたソフトウェアが含まれています。

このソフトウェアは OpenSSL Project によって現状のまま提供されており、商品性や特定の目的への適合性に対する保証はもとより、明示的にも黙示的にも、一切の保証はありません。OpenSSL Project およびその共同提供者は、いかなる損害に対しても責任を負いません。これは、その損害が、直接的、間接的、付随的、特殊、典型的、または必然的であるか否かを問いません。また、代替品の購入や代替サービスの利用、有用性およびデータや利益の損失、業務の中断に対する保証もいたしません。本ソフトウェアの使用によるあらゆる損害の発生に対して、契約の記載や、重大な過失などによる権利侵害の有無にかかわらず、また、そのような損害の可能性について報告を受けていたとしても、OpenSSL Project は一切責任を負いません。

Loki Library

Copyright (c) 2001 by Andrei Alexandrescu. このコードは次の書籍に掲載されています。Alexandrescu, Andrei. “Modern C++ Design: Generic Programming and Design Patterns Applied”. Copyright (c) 2001 Addison-Wesley. このソフトウェアの複製、変更、配布、および販売は、その目的を問わず、全ての複製に上記の著作権表示を付すること、付属文書に著作権表示およびこの許可表示の両方を付することを条件に許可されます。

Helma Project

Copyright (c) 1999–2004 Helma Project. All rights reserved. このソフトウェアは現状のまま提供されており、商品性や特定の目的への適合性に対する保証はもとより、明示的にも黙示的にも、一切の保証はありません。Helma Project およびその共同提供者は、いかなる損害に対しても責任を負いません。これは、その損害が、直接的、間接的、付随的、特殊、典型的、または必然的であるか否かを問いません。また、代替品の購入や代替サービスの利用、有用性およびデータや利益の損失、業務の中断に対する保証もいたしません。本ソフトウェアの使用によるあらゆる損害の発生に対して、契約の記載や、重大な過失などによる権利侵害の有無にかかわらず、また、そのような損害の可能性について報告を受けていたとしても、Helma Project は一切責任を負いません。

Helma には、個別のライセンス条件に基づいてリリースされたサードパーティソフトウェアが含まれます。ライセンスの一覧については、Helma のディストリビューションに含まれるライセンス ディレクトリを参照してください。

Sarissa

Copyright (c) 2004 Manos Batsis.

このライブラリは、フリー ソフトウェアです。フリー ソフトウェア財団 (Free Software Foundation) によって発行された GNU Lesser General Public License (バージョン 2.1 またはそれ以降のバージョン) の定める条件の下で再配布や修正を行うことができます。

このライブラリの有用性は保証されるものではなく、商品性や特定の目的への適合性に対する黙示的な保証を含め、一切の保証なく配布されます。詳細については、GNU Lesser General Public License を参照してください。

GNU Lesser General Public License は、このライブラリと共に提供されています。提供されていない場合は、Free Software Foundation, Inc. (59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA) にお問い合わせください。

ICU

ICU ライセンス – ICU 1.8.1 およびそれ以降の著作権表示および許可表示 Copyright (c) 1995–2003 International Business Machines Corporation and others. All rights reserved.

本ソフトウェアおよび関連文書ファイル（以下「ソフトウェア」）の複製を取得する全ての人に対し、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、配布、および/または販売する権利およびソフトウェアを提供する相手に同じことを許可する権利等を含む、ソフトウェアの無制限の取扱いを、上記の著作権表示およびこの許可表示がソフトウェアの全ての複製に付され、付属文書にも記載されることを条件に無償で許可します。ソフトウェアは現状のまま提供されており、商品性、特定の目的への適合性、およびサードパーティの権利の非侵害に対する保証はもとより、明示的にも黙示的にも、一切の保証はありません。この表示に示された著作権保持者は、いかなる損害賠償または損害に対する責任を負いません。契約行為、過失、またはその他の不法行為であっても、本ソフトウェアの使用や機能に起因または関係する、特殊、間接的、または結果的損害、あるいは有用性、データまたは利益の損失による損害か否かにかかわらず、著作権保持者は一切責任を負いません。この許可表示に記載されている場合を除き、著作権保持者による書面による事前の許可がない限り、著作権保持者の名前は広告や、その他の販売/使用プロモーション、またはこのソフトウェアのその他の取引に使用できません。

ここに記載された名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Sun の JAXB 実装 – JDSDK 1.5 relaxngDatatype.jar 1.0 ライセンス

Copyright (c) 2001, Thai Open Source Software Center Ltd, Sun Microsystems. All rights reserved.

このソフトウェアは著作権保持者およびその共同提供者によって現状のまま提供されており、商品性や特定の目的への適合性に対する保証はもとより、明示的にも黙示的にも、一切の保証はありません。開発者およびその共同提供者は、いかなる損害に対しても責任を負いません。これは、その損害が、直接的、間接的、付随的、特殊、典型的、または必然的であるか否かを問いません。また、代替品の購入や代替サービスの利用、有用性およびデータや利益の損失、業務の中断に対する保証もいたしません。本ソフトウェアの使用によるあらゆる損害の発生に対して、契約の記載や、重大な過失などによる権利侵害の有無にかかわらず、また、そのような損害の可能性について報告を受けていたとしても、開発者は一切責任を負いません。

W3C IPR SOFTWARE NOTICE

Copyright (c) 2000 World Wide Web Consortium, (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University). All Rights Reserved.

注: W3C Software Copyright Notice and License の原著は、<http://www.w3.org/Consortium/Legal/copyright-software-19980720> で入手できます。

このソフトウェアおよび文書は現状のまま提供されており、著作権保持者は、商品性、特定の目的への適合性、およびソフトウェアおよび文書の使用によるサードパーティの特許権、著作権、商標またはその他の権利の非侵害に対する保証はもとより、明示的にも黙示的にも、一切の表明や保証を行うものではありません。著作権保持者は、ソフトウェアまたは文書の使用にかかわる直接的、間接的、特殊、必然的ないかなる損害に対しても責任を負いません。

目次

はじめに

この PeopleBook について	xxxiii
PeopleSoft Enterprise アプリケーションを使用するにあたって必要な知識.....	xxxiii
アプリケーションの基礎.....	xxxiii
最新版ドキュメンテーションおよび出力されたドキュメンテーションの入手.....	xxxiv
最新版ドキュメンテーションの入手 (英語版のみ).....	xxxiv
出力されたドキュメンテーションの注文とダウンロード.....	xxxiv
追加情報.....	xxxv
表記規則.....	xxxvi
表記規則.....	xxxvi
注意事項の表示.....	xxxvii
国、地域、業種の表記.....	xxxviii
通貨コード.....	xxxviii
ご意見・ご要望をお寄せください.....	xxxviii
PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xxxix

まえがき

PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎 – まえがき.....	xlili
対象の PeopleSoft 製品.....	xlili
遅延処理.....	xlili
PeopleSoft Enterprise HRMS で使用する共通フィールド.....	xlili
PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xlili
PeopleBook で使用する共通グループ ボックス – 氏名.....	xlvi
PeopleBook で使用する共通グループ ボックス – 給与コンポーネント.....	xlvi

第 1 章

PeopleSoft Enterprise HRMS – はじめに.....	1
PeopleSoft Enterprise HRMS の概要.....	1
PeopleSoft Enterprise HRMS の統合.....	1
PeopleSoft Enterprise HRMS の導入.....	1

第 2 章

HRMS について.....	3
-----------------------	----------

コントロール テーブル、トランザクション テーブル、およびプロンプト テーブル.....	3
ビジネス ユニット、テーブルセット、およびセットID.....	4
有効日.....	5
個人構造とポジション構造.....	5

第 3 章

HRMS におけるシステム データ規定の使い方.....	9
PeopleSoft Enterprise HRMS システム データ規定について.....	9
ビジネス ユニットとセットID の設定に使用するコンポーネント.....	9
事前設定.....	10
ビジネス ユニットの使い方.....	10
ビジネス ユニットについて.....	11
ビジネス ユニット構造の決定.....	12
テーブルセットの使い方.....	14
テーブルセットについて.....	14
テーブルセット共有の設定.....	17
データ セットの制御.....	18
複数のセットID の参照.....	19
権限リストとシステム デフォルトの使い方.....	24
権限リストへの関連付け.....	25
ビジネス ユニット HR デフォルトの定義.....	25
システムによるデフォルト値の決定.....	27

第 4 章

法定区域の使い方.....	29
法定区域について.....	29
法定区域テーブルの相互関係について.....	29
法定区域の設定.....	30
法定区域とトランザクションの関連付け.....	31
法定区域とトランザクションについて.....	31
法定区域の管理.....	31
トランザクション処理の法定区域の使い方.....	32
デフォルト法定区域の設定.....	33
PeopleCode トランザクション処理への影響の確認.....	34
REG_REGION のプロンプト編集トランザクション ビューの作成.....	34
ヒューマン リソース管理トランザクションへの REG_REGION の追加.....	35

第 5 章

HRMS セキュリティの設定と管理	39
PeopleSoft のセキュリティについて.....	39
HRMS のデータ権限セキュリティについて.....	44
データ セキュリティとデータ取得.....	45
セキュリティ データ.....	48
セキュリティ結合テーブル.....	54
セキュリティ セットとセキュリティ アクセス タイプ.....	63
HRMS セキュリティ プロセス フロー.....	66
HRMS データ権限の例.....	68
データ権限セキュリティの導入.....	69
将来の日付のセキュリティについて.....	70
特殊な職務のセキュリティ オプションについて.....	71
データ権限セキュリティの導入に使用するページ.....	72
HRMS セキュリティのインストール.....	72
セキュリティ セットの表示.....	75
セキュリティ更新グループの設定.....	76
セキュリティ タイプの使用可能設定.....	77
SQL ステートメントの入力.....	78
ツリー ベースのデータ権限の設定と割り当て.....	80
部門セキュリティ ツリーによるデータ権限セキュリティについて.....	80
ツリー ベース権限の設定と割り当てに使用するページ.....	83
セキュリティ ツリーの構築と修正.....	83
セキュリティ ツリーの検証.....	87
ツリー ベース データ権限の行セキュリティ権限リストへの割り当て.....	87
ツリーおよび行セキュリティ権限リスト データによる SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ.....	88
ロール ベース データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て.....	88
ロール ベース データ権限セキュリティの権限リストへの割り当てに使用するページ.....	89
フィールド値による権限リストへのデータ アクセス権の付与.....	89
セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ.....	90
リフレッシュ プロセスを使用するタイミングについて.....	90
セキュリティのリフレッシュに使用するページ.....	96
夜間リフレッシュ プロセスの実行.....	96
トランザクション セキュリティ結合テーブル リフレッシュ プロセスの実行.....	97
SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスの実行.....	99
SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスの実行.....	100
データ権限セキュリティの照会.....	101
データ権限の照会について.....	101
データ権限セキュリティの照会に使用するページ.....	103
検索ビューの検索.....	104

セキュリティ データの検索.....	105
ユーザー セキュリティ データの検索.....	108
SJT_PERSON および SJT_PERSON_USF のトランザクション セキュリティ データの検索.....	110
SJT_DEPT のトランザクション セキュリティ データの検索.....	111
HRS_SJT_JO のトランザクション セキュリティ データの検索.....	112
管理者用データ権限セキュリティの設定.....	113
管理者のデータ権限について.....	114
管理者用行セキュリティプロセスに使用するページ.....	115
管理者のデータ権限の処理.....	115
ユーザー ID の作成とロック.....	116
ユーザー ID のセキュリティについて.....	116
このセクションで使用する共通フィールド.....	116
ユーザー ID の作成とロックに使用するページ.....	117
ユーザーの作成.....	117
ユーザーのロック.....	118
採用管理ソリューション用の追加セキュリティのアクティブ化.....	118
採用管理ソリューションのデータ権限セキュリティについて.....	118
採用管理ソリューションのセキュリティ設定に使用するページ.....	119
採用管理ソリューションのセキュリティ設定.....	120
国別機能のセキュリティ設定.....	120
国別機能のセキュリティについて.....	120
国別機能へのアクセス許可に使用するページ.....	121
国別機能へのアクセス許可.....	121
国別機能へのアクセスの制限.....	121
データ権限セキュリティの修正.....	122
採用および異動のためのセキュリティの修正.....	122
ユーザー各自によるデータ更新の許可.....	122

第 6 章

PeopleSoft Enterprise HRMS の設定とインストール.....	125
導入デフォルトの設定.....	125
導入デフォルトについて.....	125
導入デフォルトの設定とレポートに使用するページ.....	126
導入する PeopleSoft アプリケーションの選択.....	127
HRMS オプションの選択.....	128
アプリケーション（産業）別導入情報の入力.....	131
国別導入情報の入力.....	134
国別機能の選択.....	136
自動採番の開始番号の指定.....	137

サードパーティ アプリケーション使用時のパラメータの定義.....	140
フリガナ文字タイプの入力.....	141
PeopleTools オプション ページの HRMS オプションの設定.....	141
国コードの管理.....	142
国コードについて.....	142
国コードの管理に使用するページ.....	143
国情報の表示と更新.....	143
国別住所フォーマットの指定.....	144
国別都道府県/州、および市区町村の指定.....	145
HRMS のレポート作成で使用する追加情報の定義.....	146
都道府県/州、その他の国別情報の追加.....	147
法定区域の設定.....	147
法定区域の設定に使用するページ.....	148
法定区域の定義.....	148
法定トランザクション タイプの設定.....	149
法定トランザクション タイプについて.....	150
法定トランザクション タイプの更新または追加に使用するページ.....	150
トランザクション タイプへの法定区域の追加.....	150
個人情報のインストール.....	151
個人情報のインストールに使用するページ.....	151
個人情報のインストール設定の選択.....	151

第 7 章

検索/マッチングの設定と使い方.....	155
検索/マッチングについて.....	155
自動検索.....	156
自動検索条件について.....	157
検索/マッチングの設定.....	157
検索/マッチングの設定に使用するページ.....	158
検索ルール コードの定義.....	159
検索パラメータの定義.....	161
検索の権限の定義.....	162
検索/マッチング結果フィールドの表示または追加.....	163
検索/マッチング結果の設定.....	164
検索結果の詳細の入力.....	166
検索結果の例外の定義.....	166
検索結果の権限の設定.....	167
検索/マッチングの使い方.....	169
検索ボックスによる検索と検索/マッチングの違いについて.....	169

検索/マッチングに使用するページ.....	170
検索条件の選択.....	170
検索結果の表示.....	174
 第 8 章	
言語の設定と使い方.....	179
PeopleSoft の言語サポートについて.....	179
使用言語の設定.....	180
ブラウザの使用言語の設定.....	180
“使用言語の設定” ページの使い方.....	181
全角文字の使い方.....	181
全角文字について.....	181
フリガナ システム アーキテクチャについて.....	182
フリガナ機能のシステム設定.....	185
フリガナ情報の入力.....	186
フリガナを使ったレコード検索.....	187
 第 9 章	
通貨の設定と使い方.....	189
通貨について.....	189
通貨桁数の設定.....	189
通貨桁数について.....	190
通貨桁数機能のアクティブ化.....	190
通貨桁数とレポート作成.....	190
通貨桁数拡張に伴うデータベースの拡張.....	191
多通貨の表示.....	193
現在の為替レート計算に関する情報の表示.....	194
通貨設定レポートの実行.....	194
通貨設定レポートの実行に使用するページ.....	194
 第 10 章	
周期の設定と使い方.....	195
周期 ID について.....	195
周期 ID.....	195
給与レートでの周期の使い方.....	197
給与計算での周期の使い方.....	198
給与レート換算での周期について.....	198

給与レートへの係数の適用.....	199
給与レートの他の周期への換算.....	200
職務データ給与レート周期.....	202
グローバル ペイロールにおける周期について.....	203
エレメント定義での周期の使い方.....	203
ジェネレーション コントロールと周期の使い方.....	205
カレンダー期間と周期の使い方.....	206
レートコードとシステム エレメントでの周期の使い方.....	207
周期 ID と国別デフォルトの定義.....	207
周期 ID と国別デフォルトの定義に使用するページ.....	208
周期 ID、周期タイプ、および年次化係数の定義.....	208
国別周期デフォルトの設定.....	209

第 11 章

組織構造基本テーブルの設定.....	211
関係者タイプの設定.....	211
関係者タイプについて.....	211
関係者タイプの設定に使用するページ.....	212
関係者タイプの定義.....	212
休日スケジュールの設定.....	215
職務レコードの休日スケジュール デフォルトについて.....	215
休日スケジュールの設定に使用するページ.....	215
休日スケジュールの作成.....	215
ビジネス ユニットの定義.....	216
ビジネス ユニットの更新に使用するページ.....	217
ビジネス ユニットの追加および更新.....	217
他のアプリケーションのビジネス ユニットの指定.....	221
ビジネス ユニットのデフォルトの設定.....	222
会社情報の入力.....	223
会社について.....	223
会社情報の入力に使用するページ.....	224
会社の定義.....	225
会社のデフォルト情報の設定.....	227
(BEL) デフォルト情報と給与係数の入力.....	237
(BEL) 取扱機関とセットID の関連付け.....	238
(USA) チップ割り当ての設定.....	238
(CAN/USA) 一般会計の勘定コードの入力.....	239
(USA) FICA と税情報の入力.....	240
電話番号情報の入力.....	242

会社ルールの定義.....	243
事業所の定義.....	243
事業所について.....	243
事業所の定義に使用するページ.....	244
事業所のプロフィールの作成.....	244
事業所の電話番号の設定.....	251
所在地の設定.....	252
所在地について.....	252
所在地の設定に使用するページ.....	253
会社の所在地の入力.....	253
所在地のプロファイルの設定.....	254
軍の所在地の設定.....	259
軍の所在地の設定に使用するページ.....	259
軍の所在地の入力.....	259
会社所在地の設定.....	260
会社所在地の設定に使用するページ.....	260
会社所在地の設定.....	260
部門の管理.....	261
部門について.....	261
部門の管理とレポートに使用するページ.....	262
部門の基本情報の定義.....	262
特定ユーザーの部門情報の有効化と管理.....	266
部門の相互チェックを行う SQR 検証の実行.....	267
プライマリ権限リストの基本設定.....	268
プライマリ権限リストの基本設定について.....	268
権限リストのデフォルト設定に使用するページ.....	268
テーブルセット共有のデフォルト設定.....	268
給与計算システムのデフォルト設定.....	269

第 12 章

個人情報基本テーブルの設定.....	273
市民権ステータス コードの定義.....	273
市民権ステータスの定義に使用するページ.....	273
市民権ステータスの定義.....	273
国民 ID タイプの定義.....	274
国民 ID タイプの定義に使用するページ.....	274
国民 ID タイプの国コードへの割り当て.....	274
敬称情報の設定.....	276
敬称情報について.....	277

敬称情報の設定に使用するページ.....	278
氏名タイプの入力.....	278
氏名プレフィックスの入力.....	279
氏名サフィックスの入力.....	280
敬称プレフィックスの定義.....	280
敬称サフィックスの定義.....	281
住所タイプの定義.....	281
住所タイプの入力に使用するページ.....	282
住所タイプの入力.....	282

第 13 章

職務の設定.....	283
補助職種コードと職種コードの定義.....	283
補助職種コードと職種コードについて.....	283
職種コードと補助職種コードの定義に使用するページ.....	283
補助職種コードの設定.....	284
職種コードの設定.....	284
職務系列の定義.....	285
職務系列について.....	285
職務系列の設定に使用するページ.....	285
職務系列への職務のグループ化.....	285
職務の分類.....	285
職務コードについて.....	285
職務の分類に使用するページ.....	287
新規職務コードの追加.....	287
職務評価基準への点数の割り当て.....	294
職務コードへの市場給与マトリックスの関連付け.....	296
職務コードへの給与プラン情報と固定的賃金の給与レートコードの関連付け.....	297
職務コードへの固定的賃金外の給与レートコードの関連付け.....	299
業務の定義.....	299
業務について.....	299
業務の定義に使用するページ.....	300
業務コードの定義.....	300
支給グループの設定.....	301
支給グループについて.....	301
支給グループの設定に使用するページ.....	302
支給グループの設定.....	303
支給グループのプロセスコントロールの設定.....	305
支給グループの給与計算パラメータの設定.....	308

(USA) FLSA 支給期間定義の指定.....	310
職務コードと支給グループのレポートの実行.....	312
職務コードと支給グループのレポートの実行に使用するページ.....	313

第 14 章

銀行および銀行支店の設定.....	315
銀行および銀行支店の設定について.....	315
銀行の設定.....	315
(GBR) イギリスの銀行および住宅金融組合の設定.....	315
CI BANK_EC コンポーネント インターフェイス.....	317
銀行および銀行支店の設定.....	317
銀行および銀行支店の設定に使用するページ.....	318
銀行の設定.....	318
銀行支店の定義.....	320
IBAN 情報の設定.....	321
IBAN 設定について.....	321
IBAN 情報の設定に使用するページ.....	322
IBAN 情報の設定.....	322
送金元銀行の指定.....	323
送金元銀行について.....	323
送金元銀行の指定に使用するページ.....	324
送金元銀行の定義.....	324
IBAN 情報の編集.....	326
(CAN/USA) カナダとアメリカの銀行データの指定.....	327
(JPN) 口座タイプと会社コードの指定.....	328
銀行および銀行支店のレポート.....	329
銀行/支店レポートに使用するページ.....	329

第 15 章

チャートフィールドとチャートフィールド組み合わせの設定とその使い方.....	331
PeopleSoft チャートフィールドについて.....	331
標準チャートフィールド.....	331
事前設定.....	333
一般会計システムとバージョンの指定.....	334
一般会計システムとバージョンによる比較について.....	335
一般会計システムとバージョンの指定に使用するページ.....	336
PeopleSoft Enterprise 一般会計の指定.....	336
その他の一般会計システムの指定.....	336

チャートフィールド設定テンプレートの設定.....	336
標準チャートフィールド設定について.....	337
標準チャートフィールド設定テンプレートの確認と更新に使用するページ.....	337
PeopleSoft Enterprise Financials からのチャートフィールド設定のインポート.....	338
標準チャートフィールド設定テンプレートの確認と更新.....	338
チャートフィールド値の入力と管理.....	341
Financials からのチャートフィールドのインポートについて.....	341
その他の会計システムを使用している場合のチャートフィールド値について.....	342
チャートフィールドの設定と確認に使用するページ.....	343
関係会社チャートフィールドの使い方.....	346
プロジェクト値およびグラント値の追加.....	346
代替勘定科目値の追加.....	347
有効なチャートフィールド組み合わせの入力と管理.....	348
組合せコードについて.....	349
有効組合せテーブルのロードについて.....	349
スピード入力について.....	352
チャートフィールド組み合わせの入力と確認に使用するページ.....	352
勘定コード ロード プロセスの実行.....	352
組合せコードの定義.....	353
勘定コードの確認と管理.....	355
勘定コード テーブルについて.....	355
勘定コードの確認と管理に使用するページ.....	355
勘定コードの確認と管理.....	355
HRMS トランザクションでのチャートフィールド組み合わせの編集.....	357
チャートフィールドの検証について.....	357
HRMS トランザクションでのチャートフィールド組み合わせの編集に使用するページ.....	358
チャートフィールド詳細の編集と確認.....	358
組合せコードによる検索.....	359
スピード入力による検索.....	360

第 16 章

国別機能の設定.....	363
国別機能の設定について.....	363
(CHE) スイスの郵便番号の管理.....	363
スイスの郵便番号管理について.....	363
スイスの有効な住所の管理に使用するページ.....	364
スイスの有効な住所の更新.....	364
(DEU) コントロール テーブルの設定.....	365
ドイツの産業調査コードの設定に使用するページ.....	365

ドイツの産業調査コードの設定.....	365
(ITA) 市区町村コードの設定.....	365
イタリアの市区町村データのロードに使用するページ.....	365
(JPN) コントロール テーブルの設定.....	366
学齢について.....	366
日本のコントロール テーブルの設定に使用するページ.....	368
学齢テーブルの設定.....	368
郵便番号テーブルの設定.....	369
郵便番号テーブルの管理.....	370
日本の給与コンポーネントのパラメータ設定.....	371
(NLD) 郵便番号のロード.....	372
郵便番号のロードに使用するページ.....	372
郵便番号テーブルへの郵便番号のインポート.....	372
(ESP) コントロール テーブルの設定.....	373
スペインのコントロール テーブルの設定に使用するページ.....	373
(GBR) 国民保険番号プレフィックスの設定.....	373
国民保険番号プレフィックスについて.....	373
国民保険番号プレフィックスの設定に使用するページ.....	374
国民保険番号プレフィックスの確認.....	374
国民保険番号プレフィックスの更新.....	375

第 17 章

市場給与の設定とその使い方.....	377
市場給与について.....	377
市場給与機能.....	377
市場給与プロセス フロー.....	377
事前設定.....	379
地域と市場給与マトリックスの設定.....	380
市場給与マトリックスについて.....	380
地域と市場給与マトリックスの設定に使用するページ.....	381
市場給与マトリックスに対する地域の定義.....	381
市場給与マトリックス定義の設定.....	382
市場給与統計の入力データの定義.....	383
市場給与統計の出力データの定義.....	385
検索キーの指定.....	385
出力データ内容の表示と入力.....	386
マトリックス結果の表示.....	387
データのマッピングとマトリックスのロード.....	387
データのマッピングとマトリックスのロードに使用するページ.....	388

給与統計データのマッピング.....	388
市場給与データの職務コードへの関連付け.....	389
市場給与データの 1 つの職務コードへの関連付け.....	390
ファイルからの市場給与データのロード.....	391
ワークフォース リワードからの市場給与データのロード.....	391
手動による市場給与データのロード.....	392
職務コード別市場給与データの表示.....	392

第 18 章

機関の設定.....	393
機関テーブルについて.....	393
機関.....	393
PeopleSoft Enterprise 買掛金管理との統合.....	393
機関情報の入力.....	394
機関に関するページについて.....	394
機関の設定に使用するページ.....	395
機関プレフィックスの指定.....	401
機関の基本情報の入力.....	401
機関の住所情報の入力.....	402
支払時に使用する代替名の表示.....	403
機関の所在地の指定.....	404
銀行口座情報の入力.....	404
支払処理情報の入力.....	406
機関の連絡先情報の入力.....	407
福利厚生保険証券情報の入力.....	408

第 19 章

グループ定義の設定と使い方.....	411
グループビルドについて.....	411
グループビルド機能の使い方.....	411
グループの作成.....	412
グループ定義の設定.....	412
グループ定義について.....	413
グループビルドに使用するクエリーの定義について.....	415
部門別グループの自動生成について.....	415
グループの定義に使用するページ.....	417
グループ条件とグループ定義で使用するフィールドの選択.....	417
グループ条件の定義.....	419

グループ プロファイルの作成.....	419
グループのレコード、フィールド、およびフィールド値の指定.....	421
グループのレコード、フィールド、およびフィールド値の表示.....	425
グループ メンバーの表示とソート.....	426
部門からのグループの作成.....	427
グループ セキュリティの設定.....	428
グループ セキュリティについて.....	428
グループ セキュリティの設定に使用するページ.....	429
デフォルト コンポーネント アクセスの設定.....	429
グループ別セキュリティの設定.....	431
ユーザー別セキュリティの設定.....	432
PeopleSoft の各アプリケーションでのグループの絞り込み.....	432
グループ結果とレポートの表示.....	433
グループのメンバー資格について.....	433
共通フィールド.....	433
グループ結果とレポートの表示に使用するページ.....	434
複合グループ結果の表示.....	434
グループ結果の消去.....	434
グループ結果について.....	434
結果の消去に使用するページ.....	435
使用可能結果の消去.....	435
使用不可結果の消去.....	435

第 20 章

HRMS システムの管理.....	437
ポータル ナビゲーションの分析.....	437
ポータル ナビゲーションの分析に使用するページ.....	437
ポータル ナビゲーションの分析.....	437
ID の削除の制限.....	439
ID の削除を制限するのに使用するページ.....	439
ヒューマン リソース管理データのリフレッシュと検証.....	439
ヒューマン リソース管理データのリフレッシュと検証に使用するページ.....	440
従業員テーブルのリフレッシュ.....	441
個人情報コンポーネントに対するリフレッシュ オプションの選択.....	441
個人データ テーブルのリフレッシュ.....	442
将来日付データを使用した個人データ テーブルのリフレッシュ.....	442
氏名表示のリフレッシュ.....	442
ヒューマン リソース管理データの整合性の検証.....	443
アクセス/更新テーブルの分析レポートの使い方.....	444

アクセス/更新テーブルの分析レポート ユーティリティについて.....	444
アクセス/更新テーブルの分析レポートの実行に使用するページ.....	445
アクセス/更新テーブルの分析レポートの実行.....	445
コア コンポーネント インターフェイスの呼出ユーティリティを使ったコンポーネント インターフェイスのテスト.....	448
コア コンポーネント インターフェイスの呼出ユーティリティを使ったコンポーネント インターフェイスのテストに使用するページ.....	448
コンポーネント インターフェイスのテスト.....	448
 第 21 章	
インターフェイスの登録.....	451
HCM インターフェイス レジストリについて.....	451
HCM インターフェイス レジストリの管理.....	453
HCM インターフェイス レジストリの管理に使用するページ.....	454
HCM インターフェイス レジストリの使い方.....	455
レジストリ フォルダの WSDL コードの表示.....	457
レジストリ フォルダのオーディット結果の確認.....	458
レジストリとインターフェイスの詳細の確認.....	458
レジストリに登録されているインターフェイスの WSDL コードと XSD コードの表示.....	461
RegistryDoc の表示.....	462
新規インターフェイスの登録.....	466
レジストリ ウィザードを使った新規インターフェイスの登録に使用するページ.....	467
レジストリ ウィザードへのインターフェイス情報の入力.....	467
インターフェイス仕様の入力.....	469
インターフェイスの実装.....	471
登録したインターフェイスの実装.....	472
タイプの実装.....	472
サービスの実装.....	473
例外の実装.....	475
SQLView の実装.....	476
登録されたインターフェイスの利用.....	476
登録されたインターフェイスの利用について.....	477
サービス インターフェイスの呼び出し.....	477
サービス呼び出しでの無効データ チェックの設定.....	478
コンポーネント インターフェイスのプール.....	479
コレクションサイズのインターフェイスの利用.....	479
複合タイプとポータル ページ間のバインド.....	479
SQLView の利用.....	479
レジストリ フォルダ構造の管理.....	480
レジストリ フォルダ構造の管理に使用するページ.....	480

レジストリ フォルダ構造の管理.....	480
サービスのテスト.....	482
サービスのテストに使用するページ.....	482
サービスのテスト.....	482
変換マップの表示と登録.....	483
変換マップの表示と登録に使用するページ.....	483
変換マップの表示.....	483
変換マップの登録.....	484
インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピング.....	486
インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピングについて.....	486
インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピング.....	486
マッピングされたサービスの削除.....	488
インテグレーション ブローカーを使った Web サービスの提供.....	488

第 22 章

HCM イベント マネージャの使い方.....	491
HCM イベント マネージャについて.....	491
この章で使用する共通フィールド.....	496
HCM イベント マネージャの実装手順.....	496
イベントの定義と登録.....	497
新規イベントについて.....	497
イベントの定義と登録に使用するページ.....	498
新規イベントのアプリケーション クラスの作成.....	498
イベント マネージャ フレームワークへのイベントの登録.....	499
イベント ハンドラの作成.....	503
イベント ハンドラの登録.....	513
イベント ハンドラの登録に使用するページ.....	514
ビジネス イベントへのイベント ハンドラの登録.....	514
イベント ハンドラとイベントのテスト.....	517
イベントのテストについて.....	517
イベント ハンドラとイベントのテストに使用するページ.....	517
イベント ハンドラのテスト.....	517
イベントのテスト.....	519
イベントの起動.....	521
イベントの監視.....	523
イベントの監視に使用するページ.....	524
イベント インスタンスの確認.....	524
イベント ハンドラ例外の確認.....	526
イベント ハンドラ例外の確認.....	527

イベント サマリの表示.....	528
イベント サマリの表示に使用するページ.....	528
イベント インスタンスのサマリの表示.....	528
失敗したイベント ハンドラの表示.....	529
HCM イベント マネージャ コンポーネントのヘルプ表示.....	530
HCM イベント マネージャ コンポーネントのヘルプ表示に使用するページ.....	530
HCM イベント マネージャ コンポーネントのヘルプ表示.....	530

第 23 章

組織図の設定と作成.....	533
組織図について.....	533
事前設定.....	533
組織図を作成する方法.....	533
処理について.....	534
組織図の作成に使用するページ.....	534
組織図の作成.....	534
組織図ファイルのクライアント コンピュータへのコピー.....	535
組織図の確認.....	536
Visio 組織図ウィザードの使用.....	537

第 24 章

マス アップデート処理の設定と実行.....	539
マス アップデート処理について.....	539
マス アップデートのアーキテクチャ.....	539
マス アップデートのプロセス フロー.....	540
マス アップデートの実行手順.....	541
マス アップデートを正しく行うためのヒント.....	541
マス アップデートのためのトランザクション プロセッサの設定.....	542
トランザクション プロセッサの設定について.....	542
マス アップデートのためのトランザクション プロセッサの設定に使用するページ.....	543
マス アップデートのためのトランザクション プロセッサの設定.....	543
マス アップデート定義のための必要条件エレメントの定義.....	546
マス アップデート定義の設定.....	546
マス アップデート定義について.....	546
マス アップデート定義の設定に使用するページ.....	547
マス アップデートの一般情報の定義.....	547
マス アップデートの共通のデータ変更の定義.....	549
マス アップデートの追加のデータ変更の定義.....	552

マス アップデートの作成.....	552
マス アップデートの作成について.....	553
マス アップデートの作成に使用するページ.....	553
マス アップデートの生成.....	553
マス アップデート レポートの生成.....	554
マス アップデート レポートの生成に使用するページ.....	554
マス アップデート レポートの生成.....	554
マス アップデートの管理.....	555
マス アップデートの管理に使用するページ.....	555
マス アップデートの管理.....	555
マス アップデート トランザクションの詳細の確認.....	559
マス アップデートの実行.....	560
マス アップデート処理について.....	560
マス アップデートの実行に使用するページ.....	561
マス アップデート プロセスの実行.....	561
未処理のマス アップデートの削除.....	562
マス アップデートの削除に使用するページ.....	562
マス アップデートの削除.....	562

第 25 章

承認の設定と使い方.....	565
承認について.....	565
承認で使う用語.....	565
承認ワークフロー エンジン.....	567
承認ビジネス プロセス フロー.....	567
承認の設計.....	569
他の承認機能.....	571
情報ソース.....	573
承認ワークフローのための HRMS トランザクションの導入.....	573
承認コンポーネントのナビゲーション.....	574
承認コンポーネントのナビゲーションに使用するページ.....	574
承認トランザクションの登録.....	575
承認トランザクション レジストリについて.....	575
事前設定.....	577
承認トランザクションの登録で使用するページ.....	577
承認トランザクションの登録.....	577
ワークフロー トランザクションのリンク.....	582
ワークフロー トランザクションのリンクで使用するページ.....	582
ワークフロー トランザクションのリンク.....	582

承認トランザクションの設定.....	585
承認トランザクションの設定について.....	585
承認トランザクションの設定で使用するページ.....	586
承認トランザクションの設定.....	586
承認プロセス定義の設定.....	591
承認プロセス定義の設定に使用するページ.....	592
承認プロセス定義の設定.....	592
承認プロセスの条件の定義.....	597
承認プロセスのパスの定義.....	601
承認プロセスのステップの定義.....	602
HRMS 承認プロセス定義の例の確認.....	605
動的承認の定義.....	609
動的パスについて.....	609
動的承認の権限について.....	609
動的承認の定義で使用するページ.....	610
動的承認の定義.....	611
承認用の通知テンプレートの定義.....	613
汎用テンプレート定義について.....	613
承認通知テンプレートの定義で使用するページ.....	614
汎用テンプレート定義の入力.....	614
承認用のユーザーの定義.....	615
承認ユーザーの定義で使用するページ.....	615
ワークフロー ロールのユーザーへの添付.....	615
ユーザー プロファイルのワークフロー定義.....	617
ユーザー リストの定義.....	618
通知/エスカレーション マネージャの設定.....	620
通知とエスカレーションについて.....	620
通知/エスカレーション マネージャの設定で使用するページ.....	621
イベントのサーバーへの関連付け.....	621
エスカレーション イベントの設定.....	621
イベント ステータスの表示.....	622
NEM の設定.....	623
承認のためのセキュリティの設定.....	623
承認の管理.....	625
承認管理について.....	625
管理者承認で使用するページ.....	627
承認の管理.....	627
特定の承認プロセスに対する承認の管理.....	630
承認オーディット レポートの作成.....	632
承認オーディット レポートについて.....	632

承認オーディット レポートの実行に使用するページ.....	633
承認オーディット レポートの作成.....	633
セルフサービス承認トランザクションの使い方.....	634
セルフサービス承認トランザクションの処理に使用するページ.....	635
承認トランザクション リクエストの確認.....	635
承認トランザクション リクエストのジョブの選択.....	636

第 26 章

委任の設定と使い方.....	637
委任について.....	637
委任コンポーネント間の移動.....	642
委任コンポーネント間の移動に使用するページ.....	642
ワークフロー トランザクションの登録.....	642
ワークフロー トランザクションの登録に使用するページ.....	643
ワークフロー トランザクションの登録.....	643
委任のための権限リストとロールの設定.....	644
委任のための権限リストとロールの設定について.....	645
権限リストとロールの設定.....	646
委任インストール設定の定義.....	646
委任インストール設定の定義に使用するページ.....	646
委任インストール設定の定義.....	646
委任トランザクションの設定.....	648
委任トランザクションの設定に使用するページ.....	649
委任トランザクションの設定.....	649
用意されている委任トランザクションの確認.....	651
管理者による委任リクエストの追加.....	652
管理者による委任リクエストの追加に使用するページ.....	652
管理者による委任リクエストの追加.....	652
委任管理.....	653
委任の管理に使用するページ.....	653
委任管理.....	653
バッチ委任リクエストの処理.....	656
バッチ委任リクエストの処理に使用するページ.....	656
バッチ委任リクエストの処理.....	656
セルフサービスの委任の使い方.....	656
セルフサービス委任の処理に使用するページ.....	657
委任アクティビティの参照.....	658
委任に関するヘルプの表示.....	659
委任リクエストに対する職務の選択.....	660

委任日付の入力.....	660
委任対象のトランザクションの選択.....	661
所属階層からの代理人の選択.....	662
名前による代理人の選択.....	663
委任リクエストの送信.....	664
委任リクエストの送信確認の表示.....	664
委任対象の代理人の管理.....	665
委任リクエストの詳細の表示.....	666
代理権の管理.....	666
委任リクエストの受諾確認の表示.....	667
委任リクエストの辞退確認の表示.....	668
複数トランザクションの詳細の表示.....	668
委任用の標準の通知テンプレートの確認.....	669

第 27 章

メタデータおよびクエリー ビルダーの使い方.....	671
HCM メタデータ リポジトリの管理.....	671
HCM メタデータ リポジトリについて.....	671
このセクションで使用する共通フィールド.....	672
HCM メタデータ リポジトリの管理に使用するページ.....	674
基本クラスの定義.....	675
オブジェクト クラスの定義.....	676
クラス属性の詳細の入力.....	677
クラス関係の詳細の入力.....	678
メタデータ定義のエクスポート.....	680
メタデータ定義のインポート.....	681
クエリー ビルダーによる SQL クエリーの作成.....	681
クエリー ビルダーについて.....	682
クエリーの作成に使用するページ.....	682
クエリーの属性の選択.....	684
結果の属性のロード.....	686
クエリー条件の選択.....	686
クエリー結果の表示.....	688
クエリーの保存とロード.....	688
定義済みクエリーの実行.....	689

第 28 章

HCM 変換フレームワークの使い方.....	691
-------------------------------	------------

変換フレームワークについて.....	691
PeopleSoft インテグレーション ブローカーの基本メッセージ フォーマット.....	693
HCM 変換マップの設定と管理.....	694
HCM 変換マップの設定と管理に使用するページ.....	695
HCM 変換マップの設定.....	695
HCM 変換マップ レジストリの使い方.....	697

第 29 章

定型文書の設定と作成.....	699
PeopleSoft Enterprise HRMS 定型文書について.....	699
事前設定.....	699
PeopleSoft Enterprise HRMS 定型文書の使い方.....	700
PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の定型文書の作成.....	700
PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の定型文書の作成について.....	701
定型文書の作成.....	702
定型文書ファイルでの名称指定規則の使用.....	704
定型文書の設定.....	705
定型文書を印刷するための準備.....	707
定型文書の応用.....	708
定型文書のトラブルシューティング.....	711
標準文書コードの設定.....	713
標準文書コードの設定と一覧出力に使用するページ.....	714
標準文書コードの設定.....	714
その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書の作成.....	715
その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書について.....	715
PeopleSoft プロセス スケジューラを使った定型文書の作成.....	716
定型文書ファイルでの名称指定規則の使用.....	717
定型文書を印刷するための準備.....	717
定型文書の応用.....	718
サンプル定型文書.....	720

第 30 章

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスク - 360 度ビューの設定.....	723
PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクについて.....	723
PeopleSoft Enterprise HRMS 情報の抽出と表示.....	723
PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクに対するセキュリティの設定.....	724
PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクに対する直属部下の設定.....	726

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクに対する直属部下の設定に使用するページ.....	726
直属部下のアクセス タイプの設定.....	726

第 31 章

セルフサービストランザクションの設定と使い方.....	727
セルフサービストランザクションの設定.....	727
セルフサービストランザクションのルールについて.....	727
セルフサービストランザクションのルールの設定に使用するページ.....	732
承認およびデータベース更新の設定.....	732
アプリケーション管理者への通知ルールの設定.....	733
コンポーネント インターフェイス ルールの設定.....	734
トランザクションの確認.....	734
トランザクションの確認に使用するページ.....	734
トランザクション アクティビティの確認.....	734
直属部下データへのアクセス権限の設定.....	735
直属部下の設定に使用するページ.....	736
管理者セルフサービスへのアクセス権限の決定.....	736
直属部下の設定.....	737
トランザクション手順メッセージの設定.....	739
セルフサービストランザクションにおけるワークフローの使い方.....	740
ワークフローのアクティブ化に使用するページ.....	740
ワークフロー メッセージ デフォルトのアクティブ化.....	741
ワークフローの通知ルールの定義.....	742
ユーザー基本設定の通知方法の設定.....	743

第 32 章

共通コンポーネントの使い方.....	745
PeopleSoft Enterprise HRMS 共通コンポーネントについて.....	745
この章で使用する共通フィールド.....	745
共通コンポーネント ページ.....	745
直属部下機能の設定.....	746
直属部下機能について.....	747
直属部下機能の設定に使用するページ.....	748
直属部下機能に関するコンポーネントとトランザクションの設定.....	748
直属部下 UI に表示されるアクションとフィールドの選択.....	749
直属部下 API のテスト.....	751
メソッドから返される例外とデータの表示.....	753
メソッド実行のトレース ログの表示.....	753

直属部下ユーザー インターフェイスのテスト.....	754
個人検索の設定.....	756
個人単純検索について.....	756
個人単純検索の設定に使用するページ.....	756
個人単純検索用コンポーネントの設定.....	756
個人単純検索のテスト.....	758
個人単純検索の結果の表示.....	759
HR ノートパッドの設定.....	759
HR ノートパッドについて.....	759
HR ノートパッドの設定に使用するページ.....	760
アプリケーションで使用する HR ノートパッドの設定.....	760
メモの保存条件の設定.....	761
アプリケーション メモ ページ リンクの設定.....	763
ノートパッド設定のテスト.....	764
テキスト カタログの設定.....	765
テキスト カタログについて.....	765
このセクションで使用する共通フィールド.....	766
テキスト カタログの処理に使用するページ.....	766
テキスト カタログの設定.....	768
テキスト カタログ エントリに対するキーの指定.....	769
テキスト カタログ エントリの定義.....	770
HTML としてテキスト カタログ エントリを表示.....	772
テキスト ID に関する全ての有効日と適用条件の表示.....	772
テキスト カタログ エントリの翻訳.....	773
テキスト検索のテスト.....	774

第 33 章

PeopleSoft Enterprise HRMS における PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスの使い方.....	777
PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスについて.....	777
DSMAPINPUT FullSync ロード プロセスを使ったディレクトリ データのロード.....	777
ディレクトリ ロード プロセスについて.....	777
DSMAPINPUT FullSync ロード プロセスを使ったディレクトリのロードに使用するページ.....	778
一時テーブルの消去.....	778
フル データ パブリッシュの実行.....	778
サービス オペレーション モニターを使ったトランザクションの確認.....	779
メンバーシップ エントリ プロセスの実行.....	779
DSMAPINPUT FullSync プロセスを使ったディレクトリ データのオーディット.....	779
ディレクトリ オーディット プロセスについて.....	779
DSMAPINPUT FullSync オーディット プロセスを使ったディレクトリのオーディットに使用するページ.....	780

一時テーブルの消去とロード.....	780
DSMAPINPUT_FULLSYNC_A のフル データ パブリッシュの実行.....	780
サービス オペレーション モニターを使ったトランザクションの確認.....	781
ディレクトリ グループ メンバーのロードと LDIF ファイルのマージ.....	781
HRMS における PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスの使い方.....	781
サンプル マッピングと付属のサービス オペレーションへのアクセス.....	782
サンプル マッピングの使い方.....	782
付属のサービス オペレーションの確認.....	783

第 34 章

PeopleSoft Enterprise HRMS におけるインテグレーション ポイントの使い方.....	787
導入するインテグレーションの特定.....	787
サービス オペレーションおよびキューのアクティブ化.....	788
HRMS ローカル インテグレーションの使い方.....	788
その他の HRMS インテグレーションの使い方.....	790

付録 A

グループ ビルドの導入 (開発者向け).....	793
グループ ビルド機能を導入したアプリケーション プログラムまたはバッチ プログラムの作成.....	793
PeopleCode API コールの導入.....	793
PeopleSoft アプリケーション エンジン API コールの導入.....	798
クライアント専用ワークフローの開発.....	799
グループ バージョンの使い方.....	802
バージョン番号について.....	802
バージョンの使い方 (開発者向け).....	803

付録 B

PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの診断プラグイン.....	805
PeopleTools 診断フレームワークについて.....	805
標準装備の HRMS アプリケーション診断プラグイン.....	805
ヒューマン リソース管理の基本福利厚生管理.....	805
PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の基本報酬管理と予算計画.....	806
ePerformance-パフォーマンス管理.....	806
グローバル ペイロール.....	807
勤務管理.....	810

付録 C

PeopleSoft Enterprise HRMS の標準ワークフロー	817
一般ワークフロー情報.....	817
メッセージ エージェントを使ったロール ユーザーの作成.....	818
動的ロール ユーザー クエリーの使い方.....	818
教育・研修管理の標準ワークフロー	819
研修リクエストの承認イベント.....	819
研修の承認イベント.....	819
研修リクエスト イベント (CSE).....	820
研修リクエスト イベント (SCE).....	820
研修リクエスト イベント (ST).....	821
確認の送信.....	821
キャンセルの送信.....	822
スケジュール変更の送信.....	822
人事・労務管理の標準ワークフロー	823
従業員の入社手続き.....	823
職務データの管理.....	826
個人データの管理.....	828
従業員の雇用終了手続き.....	829
基本報酬管理と予算計画の標準ワークフロー	831
アドホック給与変更の承認または却下.....	831
予算計上済み給与変更の承認または却下.....	832
給与変更処理.....	832
給与変更リクエスト.....	833
記入票の管理の標準ワークフロー	833
記入票の管理の通知イベント.....	833
利潤分配管理 (フランス機能) の標準ワークフロー	834
資金リリース リクエストの承認.....	834
資金エラー.....	834
金融機関の変更.....	835
資金ステータスの変更.....	835
資金リリース リクエストの却下.....	836
資金のリリース リクエスト.....	837
公認資格認定管理の標準ワークフロー	837
公認資格認定管理の採用ワークフロー.....	837
公認資格認定管理の追加ワークフロー.....	838
公認資格認定管理の分類変更ワークフロー.....	838
公認資格認定管理の職務変更ワークフロー.....	839
公認資格認定管理の再認定ワークフロー.....	839
公認資格認定管理の雇用終了ワークフロー.....	840

変動報酬管理の標準ワークフロー.....	840
プラン別報奨割当 (承認).....	841
プラン別報奨割当 (却下).....	841
グループ別報奨割当 (承認).....	841
グループ別報奨割当 (却下).....	842
資金割当 (グループ).....	842
変動報酬ツリーの変更.....	842
変動報酬ツリーの削除.....	843
変動報酬ツリー名の変更.....	843

付録 D

PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎のレポート群.....	845
PeopleSoft Enterprise HRMS 基本レポート: 概要.....	845
HRMS 基本レポート.....	845
社有車管理レポート.....	847
報酬管理レポート.....	848
オランダ給与管理レポート.....	848
給与パッケージ管理レポート.....	849
教育・研修管理レポート.....	850
人事・労務管理レポート.....	853
基本福利厚生管理レポート.....	859
コミットメント会計管理レポート.....	870
フランス利潤分配管理レポート.....	871
労使関係管理レポート.....	871
ポジション管理レポート.....	874
公認資格認定管理レポート.....	875
プロフィール管理レポート.....	875
変動報酬管理レポート.....	876
法定提出書類用レポート.....	879
(AUS) オーストラリア法定提出書類用レポート.....	882
(BRA) ブラジル法定提出書類用レポート.....	882
(CAN) カナダ法定提出書類用レポート.....	883
(FRA) フランス法定提出書類用レポート.....	883
(GBR) イギリス法定提出書類用レポート.....	884
休暇欠勤管理レポート.....	885
安全衛生モニター管理レポート.....	887
キャリア プランと後任計画レポート.....	890
基本報酬管理と予算計画レポート.....	891
パフォーマンス管理レポート.....	895

総合人件費レポート.....	895
海外赴任管理レポート.....	895
PeopleSoft Enterprise HRMS レポート: 主要レポート.....	896
PeopleSoft Enterprise 用語一覧.....	903
索引	923

この PeopleBook について

PeopleSoft Enterprise PeopleBook には、オラクル社の PeopleSoft Enterprise アプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

ここでは、以下の事項について説明します。

- PeopleSoft Enterprise アプリケーションを使用するにあたって必要な知識
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションおよび出力されたドキュメンテーションの入手
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見・ご要望について
- PeopleBook で使用する共通フィールド

注: PeopleBook では、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェック ボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、PeopleBook のセクション、章、PeopleBook 全体、または製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。共通フィールドについては、この章の後半を参照してください。

PeopleSoft Enterprise アプリケーションを使用するにあたって必要な知識

この PeopleBook の内容を十分に理解して活用するには、PeopleSoft Enterprise アプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも 1 つの入門トレーニング コースを修了することをお勧めします。

この PeopleBook では、ユーザーが PeopleSoft Enterprise のメニューやページ、ウィンドウなどを使って情報を追加、更新、削除できることを前提としています。また、Web ブラウザと、Microsoft Windows または Microsoft Windows NT の操作に習熟していることも必要です。

ここでは、PeopleSoft システムを操作できることを前提としているため、操作手順についての説明は省略しています。この PeopleBook では、PeopleSoft Enterprise システムを効果的に使っていただくために必要な情報や、PeopleSoft Enterprise アプリケーションを導入するために必要な情報を提供します。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの PeopleBook では、PeopleSoft Enterprise アプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一方、一部のアプリケーションについて、システムを設定したり設計するときに必要となる情報は、『PeopleSoft Enterprise アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれています。『PeopleSoft Enterprise アプリケーションの基礎 PeopleBook』は、ほとんどの製品ラインに用意されています。それぞれの PeopleBook のまえがきに、関連する『PeopleSoft Enterprise アプリケーションの基礎 PeopleBook』の情報が記載されています。

『PeopleSoft Enterprise アプリケーションの基礎 PeopleBook』で取り上げている項目は、どの PeopleSoft Enterprise アプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものばかりです。PeopleSoft システムを導入する場合、1 つのアプリケーションだけを導入する、製品ラインの中からいくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する、または製品ライン全体を導入するといったように複数の選択肢がありますが、いずれの場合でも、この『PeopleSoft Enterprise アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。基礎的な内容を理解することが、導入タスクに着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションおよび出力されたドキュメンテーションの入手

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- 出力されたドキュメンテーションの注文とダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社の PeopleSoft Customer Connection Web サイトから入手できます。オラクル社の PeopleSoft Customer Connection にある Documentation セクションでファイルをダウンロードし、既存の PeopleBook ライブラリに追加することができます。PeopleBook の CD-ROM に含まれる PeopleSoft Enterprise ドキュメンテーション全体へのアップデートを含め、役に立つ最新情報が掲載されています。

重要: アップグレードが必要な場合は、オラクル社の PeopleSoft Customer Connection でアップグレードに関する指示に変更がないか確認してください。常に、アップグレード処理に関する最新情報が掲載されています。

関連項目:

オラクル社の PeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

出力されたドキュメンテーションの注文とダウンロード

PeopleSoft Enterprise ドキュメンテーションは、PeopleBook CD-ROM に収録されていますが、オラクル社の Web サイトから入手することもできます。以下のいずれかの方法で入手できます。

- PDF ファイルをダウンロードする。
- 印刷・製本されたドキュメンテーションを注文する。

PDF ファイルのダウンロード

PeopleSoft Enterprise ドキュメンテーションの PDF 版は、Oracle Technology Network からオンラインでダウンロードできます。PDF ファイルは、メジャー リリースごとに提供され、ソフトウェア出荷後にオンラインで入手できます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>.

印刷・製本されたドキュメンテーションの注文

印刷・製本されたドキュメンテーションは、Oracle Store から注文できます。

参照: Oracle Store: http://oraclestore.oracle.com/OA_HTML/ibeCCtpSctDspRte.jsp?section=14021

追加情報

オラクル社の PeopleSoft Customer Connection Web サイトから、以下の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	[Updates + Fixes]
ビジネスプロセス図	[Support]、[Documentation]、[Business Process Maps]
インタラクティブ サービス リポジトリ	[Support]、[Documentation]、[Interactive Services Repository]
ハードウェア要件とソフトウェア要件	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Hardware and Software Requirements]
インストール ガイド	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Installation Guides and Notes]
統合情報	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications]
最低要件	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Supported Platforms]
最新版ドキュメンテーション	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]
PeopleBook サポート ポリシー	[Support]、[Support Policy]
プレリリース ノート	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]、[Category]、[Release Notes]
製品出荷予定	[Support]、[Roadmaps + Schedules]

情報	ナビゲーション
リリースノート	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]、[Category]、[Release Notes]
リリースバリュープロポジション	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]、[Category]、[Release Value Proposition]
製品概要	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]、[Category]、[Statement of Direction]
トラブルシューティング情報	[Support]、[Troubleshooting]
アップグレード関連のドキュメンテーション	[Support]、[Documentation]、[Upgrade Documentation and Scripts]

表記規則

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

PeopleBook は、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCode の関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべき PeopleCode の予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCode の構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー + キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら 2 番目のキーを押すという意味です。たとえば、Alt + W は、Alt キーを押しながら W キーを押すことを表します。

表記規則	説明
monospace font (固定幅のフォント)	PeopleCode のプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
...(省略記号)	PeopleCode の構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ }(中かっこ)	PeopleCode の構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[](角かっこ)	PeopleCode の構文で、省略できる要素を示します。
&(アンパサンド)	PeopleCode の構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCode の変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

注意事項は、以下のような形式で示されています。

注

PeopleSoft Enterprise システムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

PeopleSoft システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照:”、または“関連項目:”という形で示しています。すぐ前で説明した情報に関連する他のドキュメンテーションが相互参照として示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常はセクションの見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA) 従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米) 減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使って表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

通貨コード

金額は ISO が定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見・ご要望をお寄せください

PeopleBook についてのご意見、ご要望を下記にお寄せください。

〒158-0097
東京都世田谷区用賀 4-10-1
SBS タワー 13F

(日本オラクル株式会社内) 日本オラクルインフォメーションシステムズ株式会社
WPTG ランゲージマネジャー宛

TEL: 03-5797-6471

または、ETSJPN_US@ORACLE.COM へ電子メールでご連絡ください。

いただいた電子メール全てにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

PeopleBook で使用する共通フィールド

指定日	この日付までのデータが、レポートまたはプロセスの対象になります。
ビジネス ユニット	ビジネス情報をまとめる上位レベルの組織の ID です。ビジネス ユニットを利用して、1 つの大きな組織の中に地域別または部門別に複数のユニットを定義することができます。
説明	30 文字までのテキストを入力できます。
有効日	テーブル行が有効になる日付、またはアクションが開始される日付です。たとえば、元帳を 6 月 30 日に締める場合、元帳締めの有効日は 7 月 1 日となります。情報をいつ表示、変更できるかも有効日により管理されます。この情報を使用するページやバッチ処理では、現在行が使用されます。
1 回限り、常時処理、実行しない	<p>“1 回限り” を選択すると、次のバッチ処理実行時にリクエストが実行されます。バッチ処理が実行されると、処理頻度は自動的に “実行しない” に設定されます。</p> <p>“常時処理” を選択すると、バッチ処理が実行されるたびに毎回リクエストが実行されます。</p> <p>“実行しない” を選択すると、バッチ処理が実行されてもこのリクエストは実行されません。</p>
プロセス モニター	このリンクをクリックすると、プロセス リスト ページに移動して、送信したプロセス リクエストのステータスを確認できます。
レポート マネージャ	このリンクをクリックすると、レポート リスト ページに移動して、レポート内容の表示、レポート ステータスの確認、レポートと配信リストの詳細を表示する内容詳細メッセージの照会を行うことができます。
リクエスト ID	レポートまたはプロセスの選択条件のセットを表す ID です。
実行	このボタンをクリックしてプロセス リクエスト ページにアクセスすると、プロセスまたはジョブの実行場所、およびプロセスの出力フォーマットを指定できます。
セットID	コントロール テーブル情報のセット、つまり、テーブルセットを表す ID です。テーブルセットを使用すると、コントロール テーブル情報や処理オプションをビジネス ユニット間で共有できます。これは、データの重複やシステムメンテナンスの作業を減らすために使用されます。ビジネス ユニット内のレコード グループにセットID を割り当てると、レコード グループ内の全てのテーブルは、そのビジネス ユニットと、そのレコード グループに同じセットID を割り当てているその他のビジネス ユニットとの間で共有されます。たとえば、いくつかのビジネス ユニット間で共有される共通の職務コードのグループを定義したりできます。職務コードを共有する各ビジネス ユニットには、そのレコードについて同じセットID が割り当てられます。
略称	15 文字までのテキストを入力できます。
ユーザー ID	トランザクションを実行する人物を表す ID です。

ここからは EnterpriseOne
の用語です。

住所録番号

エンティティのマスター レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナント、などの ID として使用できます。アプリケーションによっては、ページ上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員 ID、応募者 ID、参加者 ID、などに相当する場合があります。

仮定通貨コード

取引金額の表示に使う通貨を指定する 3 文字のコードを入力します。このコードを使用すると、取引を最初に入力したときに使用した外国通貨または国内通貨以外の任意の通貨で、取引金額を表示できます。

バッチ番号

システムで処理されるトランザクションのグループを表す番号が表示されます。バッチ番号は入力フォーム上で割り当てることができます。自動採番プログラム (P0002) を使用して自動的に割り当てることもできます。

バッチ日付

バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白にすると、システム日付がバッチ日付になります。

バッチ状況

バッチの転記状況を示すユーザー定義コード (UDC) テーブル 98/IC のコードが表示されます。有効な値は次のとおりです。

空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。

A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。

D: バッチが正常に転記されています。

E: バッチにエラーがあります。転記する前にバッチを修正する必要があります。

P: バッチの転記中です。転記が完了するまでバッチは使用できません。転記中にエラーが発生すると、バッチ状況は E に変更します。

U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されていません。

事業所

個別のエンティティ (倉庫、作業、プロジェクト、ワーク センター、配送と製造を行う事業所) を表すコードを入力します。一部のシステムでは、ビジネス ユニットと呼ばれます。

ビジネス ユニット

コストの追跡対象となる業務内の個別のエンティティを表す英数字のコードを入力します。一部のシステムでは、事業所と呼ばれます。

カテゴリ コード

特定のカテゴリ コードを表すコードを入力します。カテゴリ コードとは、組織要件の追跡とレポートのためにカスタマイズするユーザー定義のコードです。

会社

特定の組織、資金、その他のレポート対象を表すコードを入力します。会社コードは F0010 テーブルに登録されている必要があり、完全な貸借対照表を持つレポート対象を指定する必要があります。

通貨コード

取引の通貨を表す 3 文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOne では、国際標準化機構 (ISO) が定める通貨コードが使用されます。通貨コードは F0013 テーブルに保存されます。

伝票会社	<p>伝票に関連付けられた会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付と共に使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2 つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	<p>当初伝票を識別する番号が表示されます。当初伝票は伝票、請求書、仕訳、タイムシートなどになります。当初伝票番号は入力フォーム上で割り当てることができます。自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることもできます。</p>
伝票タイプ	<p>UDC テーブル 00/DT の 2 文字の UDC を入力します。このコードは、伝票、請求書、仕訳、タイムシートなどのトランザクションのソースと目的を表します。JD Edwards EnterpriseOne では、指定した伝票タイプ用に以下のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、トランザクション、レコードが有効になる日付を入力します。このフィールドの意味はプログラムに応じて異なります。たとえば、有効日付は以下の日付を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付 • 価格が有効になる日付 • 為替レートが有効になる日付 • 税率が有効になる日付
会計期間、会計年度	<p>総勘定元帳の期間と年度を表す数字を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白にして、会社名および番号プログラム (P0010) で定義した現行会計期間と年度を使用できます。</p>
元帳日付	<p>取引が転記される会計期間を表す日付を入力します。入力した取引の日付と会社とに割り当てられた会計期間パターンが比較され、適切な会計期間番号と年度を取得して日付が検証されます。</p>

PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎 – まえがき

この章では、以下の内容について説明します。

- 対象の PeopleSoft 製品
- 追加のリソース
- 遅延処理
- PeopleSoft Enterprise HRMS で使用する共通フィールド

注:『PeopleSoft Enterprise HRMS 9.0 アプリケーションの基礎 PeopleBook』には、HRMS システムの設定や設計に関する基本的な情報が記載されています。特定の製品の導入方法や処理方法に関する詳細については、該当する HRMS アプリケーションの PeopleBook を参照してください。

対象の PeopleSoft 製品

この PeopleBook では、PeopleSoft Enterprise HRMS について説明します。

遅延処理

PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションには、遅延処理モードで動作するページがあります。これらのページの多くのフィールドは、ボタン、リンク、またはタブをクリックしてページを保存またはリフレッシュするまで、更新や検証が行われません。この遅延処理は、ページのフィールド値に対してさまざまな影響を及ぼします。たとえば、フィールドにデフォルト値が入っている場合、値を入力しても、ページが更新されると全てデフォルトに上書きされます。他にも、ページを保存またはリフレッシュすると、残高や合計が更新されるという影響があります。

PeopleSoft Enterprise HRMS で使用する共通フィールド

PeopleSoft Enterprise HRMS で使用する共通フィールドを説明します。

PeopleBook で使用する共通フィールド

住所 1、住所 2、住所 3	自由形式テキスト入力フィールド。番地、部屋番号、およびその他の住所情報を入力できます。
指定日	この日以前のデータが、レポートやプロセスに含まれます。
ブロック	スペインの住所では、建物または隣接している建物をブロックと呼ぶ場合があります。必要に応じて住所にブロック名を入力します。

ビジネス ユニット	上位の業務組織を表す ID コード。ビジネス ユニットを使って地域または部門による組織単位を設定し、さらに大きな組織の構成単位にすることができます。
市	住所での市区町村名。
コメント	自由形式テキスト入力フィールド。コメントを入力できます。
会社コード	ビジネスの組織単位。PeopleSoft Enterprise Payroll for North America または PeopleSoft Enterprise Pension Administration を使用しているアメリカ企業の場合は、給与報告のために政府規定の固有の事業主 ID 番号 (EIN) を持つ事業単位。
国	住所に使用する国名。選択する国によって、他の住所フィールドが調整されます。[国] の値を有効値リストから選択して、TAB キーを使ってフィールド間を移動します。国を選択すると、国テーブルで事前設定されたその国の標準フォーマットに合わせて、住所フィールドが自動的に表示されます。表示されるフィールドに該当する住所データを入力します。
郡 (県および州)	必要に応じて、住所に郡 (県/州) の名前を入力します。
通貨コード	通貨を指定する 3 文字のコード。
説明	36 文字までの自由形式テキストで、定義する対象について説明できます。
部門	社内の組織単位を示す識別コード。
部屋番号	スペインの住所では、部屋の名称または番号を識別します。
有効日	テーブル行が有効になる日付で、アクションが開始される日付。たとえば、元帳を 6 月 30 日に締める場合、この元帳締めの有効日は 7 月 1 日となります。また、この日付により情報の表示や変更ができる日が決まります。ページやバックグラウンド処理には、現在行の情報が使用されます。
電子メール	個人または組織の電子メール アドレス。
従業員 ID、個人 ID、ID	組織に関連する各個人に固有の ID コード。
雇用レコード番号	システムにより自動的に割り当てられた番号。個人が 2 つ以上の職務データレコードを持っていることを示します。
FAX (FAX 番号)	個人または組織の FAX 番号。
フロア	スペインの住所では、階の名称または階数を識別します。
住宅	住宅タイプを識別します。
イニシャル	個人のイニシャル。
言語、言語コード	印刷するレポートのフィールド ラベルとレポート見出しに使用する言語。指定した言語で、フィールドに値が表示されます。また、従業員、非従業員、関係者、応募者が使用する言語も表します。
最終実行日時	レポートまたは処理が最後に実行された日付。
納税地	組織の納税地。
氏名	個人の氏名。

国民 ID	所得、個人の識別、福利厚生管理などの情報の追跡やその他の目的で国が居住者に設定している ID コード。たとえば、アメリカ居住者の場合は社会保障番号、ドイツ居住者の場合は社会保険番号、イギリス居住者の場合は国民保険コードとなります。
番地	スペインの住所でのストリート、本通り、または他の住所フィールドに関連する番号。住所に番地がない場合、“s/nn (sin numero)” と入力して、番地がないことを示します。
電話番号	個人または組織の電話番号。
内線電話	個人または組織の内線番号。
電話番号タイプ	[電話番号] フィールドに入力する電話番号のタイプを識別します。有効値は、[勤務先]、[学校]、[携帯電話]、[寮]、[FAX]、[自宅]、[その他]、[ポケベル 1]、[ポケベル 2]、[テレックス] です。
郵便番号	住所の郵便番号。
プレフィックス	個人のプレフィックス (Mr.、Ms.、Mrs.、Dr. など)。
処理頻度	[処理頻度] グループボックスで該当する頻度を指定します。[1 回限り] を選択すると、リクエストは次回バックグラウンド処理が実行されるときに実行されます。バックグラウンド処理が実行されると、処理頻度は自動的に [実行せず] に設定されます。[常時] を選択すると、リクエストはバックグラウンド処理が実行されるたびに実行されます。[実行せず] を選択すると、このリクエストはバックグラウンド処理の実行時には無視されます。
プロセス モニター	このリンクをクリックしてプロセス リスト ページにアクセスすると、送信済プロセス リクエストのステータスを確認できます。
法定区域	法定区域とは、特定の法律や規定を持ち、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の対象となっている地域を指します。各国特有の法規定に基づいたトランザクションが多数ありますが、法定区域はこのトランザクションの処理に使います。
レポート ID	レポートを識別します。[レポート マネージャ] リンクをクリックして、レポート マネージャ コンポーネントにアクセスすると、レポート内容、レポートのステータス、レポートの説明と配布リストを示す内容詳細メッセージを確認することができます。
リクエスト ID	レポートまたはプロセスの選択条件セットを表すリクエスト ID。[実行] をクリックしてプロセス リクエスト ページにアクセスすると、プロセスまたはジョブの実行場所や、プロセスの出力フォーマットを指定できます。
ラン コントロール ID	ページに指定されたラン コントロール設定を識別します。
実行日	プロセスが実行された、またはレポートが作成された日付。
実行時間	プロセスが実行された、またはレポートが作成された時間。
セットID	コントロール テーブル情報のセットを表す ID。セットID によって、複数のビジネス ユニット間でコントロール テーブル情報のセットを共有できます。
略称	15 文字までの自由形式テキスト。
階数	スペインの住所では、階名または番号を識別します。
都道府県/州	住所の都道府県/州。

ステータス	テーブルの行が、アクティブと非アクティブのどちらになっているかを示します。
住所タイプ	住所が広場、通り、本通り、道路などであるかどうかを識別します。スペインの法律では、公文書の住所に住所タイプを含める必要があります。
ユーザー ID	トランザクションの作成者に対する ID。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler

PeopleBook で使用する共通グループ ボックス – 氏名

以下のフィールドは、PeopleSoft Enterprise HRMS で氏名情報を入力、表示するいずれの場合にも使用されます。

使用フォーマット	対象となる個人に適切な氏名フォーマットを持つ国を選択します。選択した氏名フォーマットに合わせて、氏名グループ ボックスに適切なフィールドが表示されます。
名前フィールドのリフレッシュ	姓、名の各フィールドに加えた変更を [氏名] フィールドに反映するには、このボタンをクリックします。ページの保存時に、情報が更新されます。

氏名、現在の氏名

以下は、氏名グループ ボックスに表示されるフィールドです。これらのフィールドが一度に全て表示されるわけではありません。使用フォーマット フィールドで選択した国によって、表示されるフィールドが変化します。

タイトル	タイトルを選択します。ドイツの Duevo Directive の規定に基づいて従業員情報を報告する場合、このフィールドは必須フィールドとなり、Duevo 指定のルールに従って入力を完了する必要があります。
プレフィックス、氏名プレフィックス	必要に応じてプレフィックス (氏名プレフィックス) を選択します。
敬称プレフィックス	必要に応じて敬称プレフィックスを選択します。
名	個人の正式な名前を入力します。
別名	オランダでは、正式な名前と異なる名前を個人が使用する際、別名としてその名前を入力します。この個人に対し手紙や宛先ラベルを作成する場合には、この別名が使用されます。
使用する姓	オランダでは、既婚の個人に対する氏名追加情報を入力します。[使用する姓] グループ ボックスには、[パートナーの姓]、[パートナーのプレフィックス]、[使用する姓] の 3 つのフィールドが表示されます。
ミドル ネーム	必要に応じて個人のミドル ネームを入力します。
姓	個人の正式な姓を入力します。
サフィックス	必要に応じてサフィックスを選択します。
第 2 姓	スペインの個人に対し、第 2 姓 (母方の姓) を入力します。

フリガナ

このフィールドを使って、個人名のフリガナを入力できます。

注: 日本語で氏名を入力する場合、姓と名の間にはスペースを入れても入れなくてもかまいません。アルファベットを使って名前を入力する場合は、姓と名の間をコンマで区切ります。

警告: “インストール テーブル” のフリガナ ページで指定した文字種を使用してください。間違った文字を使用すると、エラー メッセージが表示されます。

敬称サフィックス

必要に応じて適切な敬称サフィックスを選択します。ドイツの Duevo Directive の規定に基づいて従業員情報を報告する場合、このフィールドは必須フィールドとなり、Duevo 指定のルールに従って入力を完了する必要があります。

氏名

システムで使用する氏名が表示されます。

日本用の氏名フォーマット

個人の氏名フィールドを表示するページでは、氏名は通常、名、姓の順で表示されます。しかし使用フォーマットの国が日本の場合（使用フォーマットに “JPN” が選択されている場合）は、姓、名の順で表示されます。

また、氏名フィールドが “姓,名” の形ではなく、“姓 [スペース] 名” の形で表示される点が他とは異なります。つまり、姓と名の間はカンマ (,) ではなくスペースによって区切られます。

参照: 第 8 章、「言語の設定と使い方」、「全角文字の使い方」、181 ページ

PeopleBook で使用する共通グループ ボックス – 給与コンポーネント

[給与コンポーネント] グループ ボックスは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の多くのページに表示されます。

[金額] タブ

[金額] タブにアクセスします。

給与コンポーネント								
金額		コントロール		変更		換算		
給与レートコード	連番	給与レート	通貨	周期	給与点数	パーセント	レートコードグループ	
1 GXRCF1	0	1,000.00	USD	月次				

給与コンポーネント – 金額タブ

[給与レート コード]

給与レート コードは、給与コンポーネントを識別するための値です。この給与レート コードに関連付けられている給与情報が [給与コンポーネント] グリッド内に表示されます。

注: “職務データ” の給与データ ページで年功給与レート コードがデフォルトで表示される場合、その給与レート コードの値は編集できません。

[連番]

同じ給与レート コードが重複して使用される場合、連番を入力します。

[給与レート]、[通貨]、[周期]

給与レートと、そのレートに使用される通貨、また給与が支払われる周期（年次、週次、時間など）。

- [給与点数]** この給与レートコードに給与点数が設定されている場合は、その値が表示されます。
- [パーセント]** この給与レートコードのレートタイプにパーセントが選択されている場合、この職務の給与レートまたはレートコードグループ（レートコードグループを使用している場合）に適用されるパーセントが表示されます。
- [レートコードグループ]** レートコードグループを使用すると、従業員の給与パッケージの一部として給与コンポーネントをパーセントで計算する際に詳細を指定することが可能になります。

[コントロール] タブ

[コントロール] タブにアクセスします。

給与コンポーネント							
金額		コントロール		変更		換算	
給与レートコード	連番	ソース	計算方法	手動による更新	デフォルト値上書き不可	詳細	
1 GXRCF1	0	手動	なし	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	詳細	

給与コンポーネント - コントロール タブ

- [ソース]** 給与レートコードのソース（プレミアム吸収型、年功給、職務コード、手動など）が表示されます。
- [手動による更新]** 給与コンポーネントを手動で変更した場合は、このチェックボックスが自動的にオンになります。
- [デフォルト値上書き不可]** オンになっている場合、[職務データ] の [給与データ] ページで従業員の給与パッケージを手動変更できません。
- [詳細]** [詳細] リンクをクリックすると、[給与レートコード 2 次ページ] が表示されます。

[変更] タブ

[変更] タブにアクセスします。

給与コンポーネント							
金額		コントロール		変更		換算	
給与レートコード	連番	変更額		変更点数	変更率		
1 GXRCF1	0	 USD	月次				

給与コンポーネント - 変更タブ

個人の給与に関する変更を表示します。

- [変更額]** この給与コンポーネントのレートに対する変更額です。
- [変更点数]** この給与コンポーネントに対する変更を点数で表したものです。変更点数がない場合もあります。
- [変更率]** この給与コンポーネントに対する変更率です。変更率がない場合もあります。

[換算] タブ

[換算] タブにアクセスします。

給与コンポーネント						
金額		コントロール	変更	換算		
	給与レートコード	連番	換算済給与レート			FTE 適用
1	GXRCF1	0	1,000.000000	USD	月次	<input type="checkbox"/>

給与コンポーネント - 換算タブ

個人の給与の換算レートを表示します。

- [換算済給与レート]

この給与コンポーネントの換算済み給与レートが表示されます。全ての固定的賃金コンポーネントが、職務通貨および給与周期に換算されます。
- [FTE 適用]

このチェック ボックスをオンにすると、年次化または非年次化ができるよう、システムによって給与レートに FTE 係数が掛けられます。FTE とは、労働者の通常の常勤勤務時間に対するパーセント値です。レートコードのタイプがパーセントの場合、このフィールドは使用できません。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 報酬管理

第 1 章

PeopleSoft Enterprise HRMS – はじめに

この章では、PeopleSoft Enterprise HRMS の概要と、以下の項目について説明します。

- PeopleSoft Enterprise HRMS の統合
- PeopleSoft Enterprise HRMS の導入

PeopleSoft Enterprise HRMS の概要

PeopleSoft Enterprise HRMS は、PeopleSoft ピュア インターネット アーキテクチャ (PIA) とエンタープライズ ポータル テクノロジに基づいたアプリケーションとビジネス プロセスを統合したセットです。

PeopleSoft Enterprise HRMS で提供されている高度な機能と、コラボレーティブ機能やセルフサービス機能によって、採用から退職までのヒューマン リソース管理を可能にし、戦略的なビジネス目標を持って人事・労務に関する調整を積極的に行うことができます。

PeopleSoft Enterprise HRMS の統合

PeopleSoft Enterprise HRMS は、PeopleSoft Enterprise Financials、PeopleSoft Enterprise ワークフォース アナリティクス、および PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントなどの、他の PeopleSoft アプリケーションと統合できます。PeopleSoft Enterprise HRMS は、他のサード パーティのアプリケーションと統合することもできます。PeopleSoft Enterprise HRMS では、さまざまな統合テクノロジーを使うことによって、データの送受信が可能です。

統合に関する注意事項については、各 PeopleBook の導入のセクションで説明します。サードパーティのアプリケーションとの統合に関する補足情報は、PeopleSoft の Web サイトの Customer Connection に掲載されています。

PeopleSoft Enterprise HRMS の導入

PeopleSoft セットアップ マネージャを使用すると、導入する機能に基づいて、実行する必要がある設定タスクのリストを生成できます。この設定タスクには、設定する必要があるコンポーネントが、テーブルにデータを入力すべき順番でリストされます。また、関連する PeopleBook ドキュメンテーションへのリンクも含まれます。

PeopleSoft Enterprise HRMS には、既存システムから PeopleSoft Enterprise HRMS のテーブルヘデータをロードするコンポーネント インターフェイスも用意されています。テーブルにデータをロードするには、Excel to Component Interface ユーティリティを使用します。

以下は、『PeopleSoft Enterprise HRMS 9.0 アプリケーションの基礎 PeopleBook』で説明する、コンポーネント インターフェイスを持つコンポーネントの一覧です。

コンポーネント	コンポーネント インターフェイス	参照先
部門コンポーネント (DEPARTMENT_TBL)	DEPARTMENT_TBL	参照: 第 11 章、「組織構造基本 テーブルの設定」、「部門の管理」、 261 ページ
事業所コンポーネント (ESTABLISHMENT_DATA)	ESTABLISHMENT_DATA	参照: 第 11 章、「組織構造基本 テーブルの設定」、「事業所の定 義」、243 ページ
“職務作業内容テーブル”コンポー ネント (JOB_CODE_TASK_TABLE)	JOB_CODE_TASK_TABLE	参照: 第 13 章、「職務の設定」、 「業務の定義」、299 ページ
“職務コードテーブル”コンポーネン ト (JOB_CODE_TBL)	CI_JOB_CODE_TBL	参照: 第 13 章、「職務の設定」、 「職務の分類」、285 ページ
“作業内容テーブル”コンポーネント (JOB_TASK_TABLE)	JOB_TASK_TABLE	参照: 第 13 章、「職務の設定」、 「業務の定義」、299 ページ
所在地コンポーネント (LOCATION_TABLE)	LOCATION_TABLE	参照: 第 11 章、「組織構造基本 テーブルの設定」、「所在地の設 定」、252 ページ
“FLSA カレンダーテーブル”コン ポーネント (FLSA_CALENDAR)	FLSA_CALENDAR	
“給与計算実行テーブル”コンポー ネント (PAY_RUN_TABLE)	PAY_RUN_TABLE	
“納税地テーブル”コンポーネント (TAX_LOCATION_TBL)	TAX_LOCATION_TBL	

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook; PeopleSoft Setup Manager

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook

第 2 章

HRMS について

この章では、以下の内容について説明します。

- コントロール テーブル、トランザクション テーブル、およびプロンプト テーブル
- ビジネス ユニット、テーブルセット、およびセットID
- 有効日
- 個人構造とポジション構造

注: この章では、PeopleSoft Enterprise HRMS で使われる基本概念のいくつかを説明します。

コントロール テーブル、トランザクション テーブル、 およびプロンプト テーブル

PeopleSoft Enterprise HRMS は、会社、勤務地、システム仕様などの重要な一般データが一元管理された、テーブル ベースのシステムです。PeopleSoft Enterprise HRMS では、複数のユーザーが同時に同じ基本情報にアクセスできる一方で、データの正確性と一貫性を保つことが可能です。

PeopleSoft Enterprise HRMS で一元管理されるテーブルには、コントロール テーブル、トランザクション テーブル、およびプロンプト テーブルがあります。

コントロール テーブル

コントロール テーブルには、ユーザーが PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションを使って行う日々のビジネス活動（トランザクション）の処理および検証に使用する情報が保存されます。

コントロール テーブルに保存される情報は共通で、組織間で共有されます。たとえば、顧客のマスター リスト、ベンダー、アプリケーション、アイテム、勘定科目チャートなどです。コントロール テーブルでこれらの共有情報を一元管理することにより、重複データを削減してデータの一貫性を保ち、複数のユーザーが同時に同じ基本情報にアクセスできるようになります。

通常、コントロール テーブルに保存される情報は固定的で、ビジネス ポリシーや組織構造、処理ルールなどに根本的な変更がない限り、更新されません。

注: コントロール テーブルには、SETID キー フィールド（セットID）が含まれます。コントロール テーブルを設定すると、セットID によって、複数のビジネス ユニット間でコントロール テーブル情報を共有できるようになります。

トランザクション テーブル

トランザクション テーブルには、ユーザーが PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションを使って行う日々のビジネス活動（トランザクション）に関する情報が保存されます。

トランザクション テーブルに保存される情報は何度も変更され、コントロール テーブルに保存される情報よりも頻繁に更新されます。

注: トランザクション テーブルには、BUSINESS_UNIT フィールドが含まれます。このフィールドは、キーフィールドとして使用される場合とそうでない場合があります。

プロンプト テーブル

プロンプト テーブルは、PeopleSoft アプリケーション ページ上のフィールドに関連付けられているテーブルで、ユーザーがプロンプト オプションや検索オプションを選択すると、ページ上のフィールドに有効なデータ値を表示します。

プロンプト テーブルに保存されるデータ値は、コントロール テーブル、トランザクション テーブル、または他の PeopleSoft テーブルから検索されます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer

ビジネス ユニット、テーブルセット、およびセットID

PeopleSoft では、ビジネス ユニット、テーブルセット、およびセットID を使用して HRMS システム データを規定します。

ビジネス ユニット

ビジネス ユニットとは、特定のビジネス情報を追跡および報告するために作成する論理的な単位のことです。ビジネス ユニットには、制限や要件などが事前に設定されていません。ビジネス ユニットは柔軟な構造設計であるため、ユーザーの組織の業務構造に合わせて PeopleSoft Enterprise HRMS を導入することができます。

ビジネス ユニットは、少なくとも 1 つ定義する必要があります。BUSINESS_UNIT フィールドは、全てのトランザクション テーブルにあります。

テーブルセットとセットID

テーブルセットとセットID は、複数のビジネス ユニット間で情報を共有または制限することができるよう設計されています。たとえば、テーブルセットとセットID を使用すると、国コードなどの重複した情報を集中管理できる一方で、部門コードや職務コードなどの他の情報を分散管理することができます。テーブルセットとセットID によって、データの重複を最小限にとどめ、データの整合性を維持し、システム管理タスクを削減することを全体的な目的としています。

テーブルセットとセットID は、少なくとも 1 つずつ定義する必要があります。SETID キー フィールドは、全てのコントロール テーブルにあります。

関連項目:

第 3 章、「HRMS におけるシステム データ規定の使い方」、9 ページ

有効日

PeopleSoft Enterprise HRMS では、有効日を設定して、過去、現在、未来の情報を保存します。有効日を設定すると、次のことが可能になります。

- データの履歴を日付順に管理できます。有効日付きの情報をテーブルに保存することによって、過去のトランザクションを確認したり、将来のイベントを計画したりすることができます。たとえば、過去のある時点までシステムをロール バックし、データの履歴を分析することができます。また、テーブルやデータを事前に設定しておくことも可能です。メモ ファイルや保留ファイルを作る必要もありません。
- データの正確性を保ちます。プロンプト テーブルの有効日とアプリケーション ページの有効日と比較することによって、アプリケーション ページの有効日時点で有効な値だけが表示されます。たとえば、1998 年 5 月 1 日付けで有効になる部門コードを作成したとします。職務データ コンポーネントで、ある従業員に対し 1998 年 5 月 1 日より前の有効日を持つデータ行を新たに挿入した場合、プロンプト テーブルから部門フィールドを選択する際に、新しい部門コードはまだ有効になっていないため表示されません。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer

個人構造とポジション構造

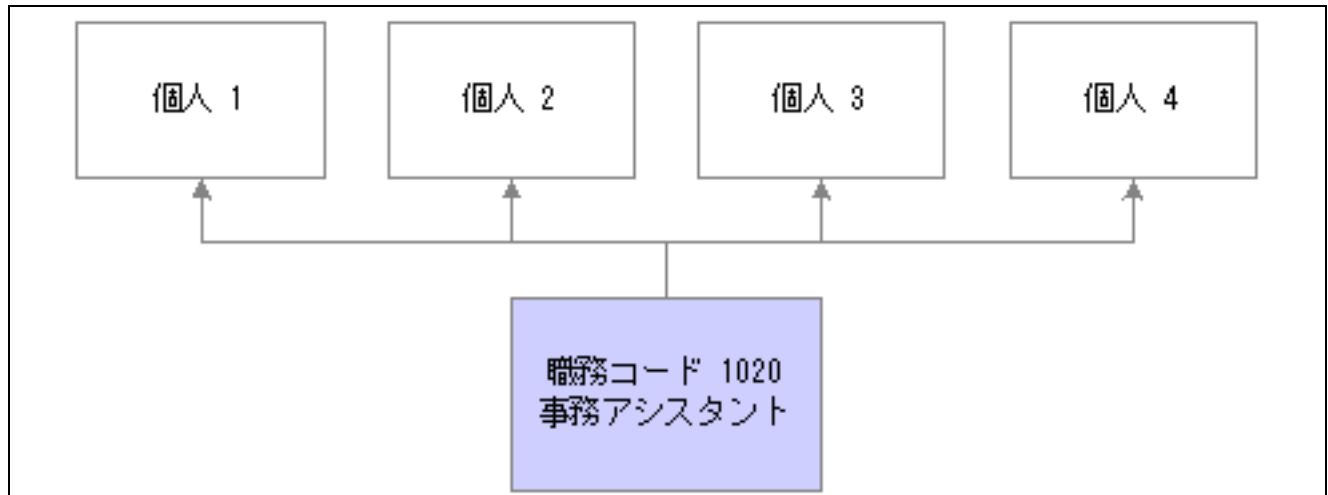
PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システムは、個人を基準にする方法とポジションを基準にする方法の 2 とおりで構成および運用することができます。コントロール テーブルで情報を設定する前に、どちらの方法を採用するか決定する必要があります。選択した方法によって、システム内での情報処理方法が異なります。

相違点

個人を基準にして PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理を運用する場合、職務コードを使って職務データをグループに分類します。この職務コードを使って個人データと職務データをリンクします。ポジションを基準に PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理を運用する場合、EEO（雇用機会均等法）や給与調査データなどの一般的なグループ分けや職務分類には職務コードを使いますが、職務コードの中の各ポジションをそれぞれ区別し、個人とこれらのポジションをリンクするのが特徴です。

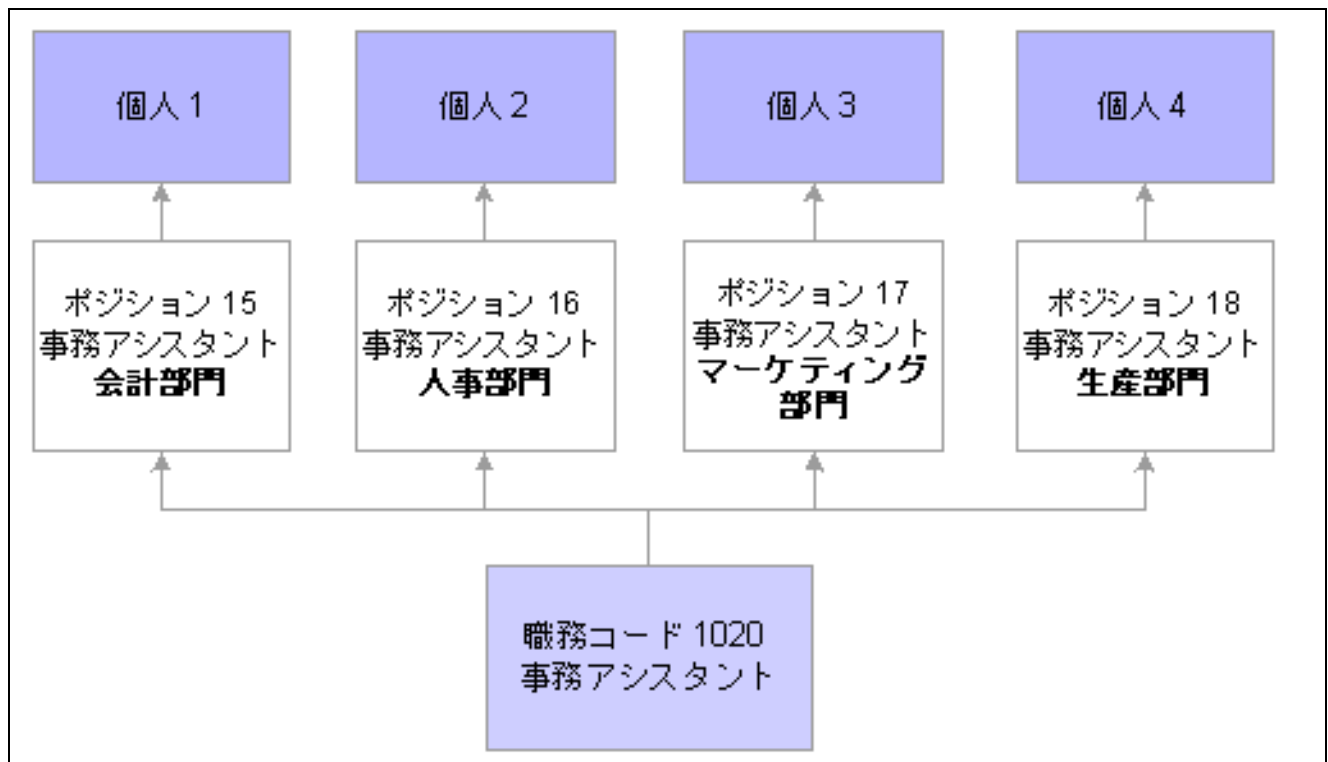
1 つの職務コードに複数のポジションを設定できます。ポジションによって、特定の部門または勤務地における特定の職務についてさらに詳しく管理できます。たとえば、職務コード 1020（事務アシスタント）に対し、マーケティング部門、研究部門、給与担当グループなど、事務アシスタントの複数のポジションにそれぞれ別のポジション番号を付けて定義できます。通常は、1 つのポジションに対し 1 人の労働者という関係が成り立っています。

対照的に、職務コードは労働者に対して、基本的には 1 対複数の関係になります。勤務する部門、場所、会社が異なる場合でも、多くの労働者に同じ職務コードが使われます。労働者が携わる職務は、労働者の職務レコードに入力するデータによって判別します。



個人を基準にした HRMS の運用

ポジションを基準としてシステムを運用する場合は、さまざまなポジションの属性を定義し、これらのポジションに労働者を割り当てたりはしたりします。そのポジションに実際に個人が割り当てられているかどうかにかかわらず、電話番号、郵送先などそのポジションに関する情報を管理します。各ポジションに特有のデータに基づいて、組織計画、採用管理、キャリアプラン、予算編成などを行うことができます。



ポジションを基準にした HRMS の運用

2 つの方法を区別する理由

ページやテーブルを使っているときは、個人とポジションのどちらを基準にしても大きな違いはありません。ただし、システムによってデータが処理される方法が、どちらを基準にするかによって大きく異なります。2 つの方法のどちらを使うかによって、個人データやポジション（または職務）データを入力および管理する方法とその場所が異なります。

適切な方法を選択するには

システムの運用を個人を基準にして行うか、またはポジションを基準にして行うかを決めるには、以下の事柄を考慮する必要があります。

- 組織が流動的な場合、つまり労働者を大まかにグループ分けして捉え、新しい職務を頻繁に作成する傾向にある場合は、個人を基準にしてシステムを運用する方が効率的です。

この方法は、組織が絶えず拡張している場合や、新規プロジェクトが立ち上げられ、新しい職務や職務タイプを定期的に作成する必要がある場合に便利です。

- 組織がかなり安定している場合、つまり職務や職務内容がほぼ固定されており、既存のポジション間で労働者の配属や異動が行われる場合は、ポジションを基準にしてシステムを運用する方が効率的です。

たとえば、官公庁や病院など、実際にポジションに人を配属する前に予算に基づいてポジション計画を決めることが多い場合は、この方法が大変便利です。

- 組織内の部署やレベルによって効果的な方法が異なる場合は、2 つの方法を併用して PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理を運用することも可能です。

たとえば、会社の一部の部門や管理職レベルではポジションを基準としたシステム運用が効率的で、その他では個人を基準としたシステム運用が効率的な場合があります。その場合、“一部をポジション管理”という設定方法を選択すれば、両方の方法が使えます。

注: どの方法を選択しても PeopleSoft の給与計算システムが影響を受けることはありません。どの方法を使う場合でも、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America または PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使用できます。

年金、給与計算、および福利厚生管理のアプリケーションについて

PeopleSoft Enterprise Pension Administration を使っている場合、年金受給者（退職者、受益者、QDRO 代替受給者など）の管理には、労働者管理と同じテーブルを使います。退職者の管理は、ポジションではなく個人（この場合は受給者）を基準にすると、各受給者に対しそれぞれポジションを設定する必要がありません。現職労働者をポジション基準で管理し、年金受給者を個人基準で管理する場合は、“一部をポジション管理” オプションを使います。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールや PeopleSoft Enterprise Payroll for North America を使っている場合も同様です。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の Manage Base Benefits のビジネス プロセスまたは PeopleSoft Enterprise Benefits Administration を使用している場合は、システムの一部だけまたは全体をポジションで管理するようにポジション管理のオプションを設定できます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジションの設定」

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加」

第 3 章

HRMS におけるシステム データ規定の使い方

この章では、PeopleSoft Enterprise HRMS のシステム データ規定に関する概要、事前設定、および以下の処理について説明します。

- ビジネス ユニットの使い方
- テーブルセットの使い方
- 権限リストとシステム デフォルトの使い方
- 職務レコードの使い方

PeopleSoft Enterprise HRMS システム データ規定について

会社が成長し複雑になるに従って、さまざまな場所で同じタイプのデータを収集する必要があることが多くなります。PeopleSoft のビジネス ユニットとセットID を使用すると、ビジネスを会社や部門とは異なる論理ユニットに編成することができます。また、ユニット間で組織内のデータを共有する方法を定義することができます。

PeopleSoft Enterprise HRMS のシステム データは、ビジネス ユニット、テーブルセットとセットID、およびテーブルセット共有を使用して規定されます。ビジネス ユニットは、ユーザーの組織の業務構造に合わせて PeopleSoft Enterprise HRMS を導入することができる論理的な単位です。テーブルセット、セットID、およびテーブルセット共有は、ビジネス ユニット間で HRMS システムに保存されている情報を共有したり制限したりできる組織的な手段です。

ビジネス ユニット 論理的な組織単位です。

セットID 多くのコントロール テーブルに対する上位レベルのキーです。

テーブルセット コントロール テーブルの行のセットを指し、セットID によってグループ化されます。特定のビジネス ユニットで使用されます。

ビジネス ユニットとセットID の設定に使用するコンポーネント

ビジネス ユニットのマッピングが済んだら、次のコンポーネントを使ってビジネス ユニットとセットID を設定し、権限リストまたはビジネス ユニットに基づき、システムのデフォルト値を定義します。

コンポーネント	ナビゲーション
テーブルセット ID コンポーネント (SETID_TABLE)	[PeopleTools]、[ユーティリティ]、[管理]、[テーブル セット ID]
ビジネス ユニット コンポーネント (HR_BUSINESS_UNIT) 参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、 「ビジネスユニットの定義」、216 ページ	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、 [ビジネスユニット]
レコード グループ コンポーネント (REC_GROUP_TABLE)	[PeopleTools]、[ユーティリティ]、[管理]、[レコード グ ループ]
プライマリ権限リスト基本設定コンポーネント (OPR_DEF_TBL_HR) 参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、 「プライマリ権限リストの基本設定」、268 ページ	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[プ ライマリ権限リスト基本設定]
ビジネス ユニット オプション デフォルト コンポーネ ント (BUS_UNIT_OPT_HR) 参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、 「ビジネスユニットのデフォルトの設定」、222 ページ	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[ビ ジネス ユニット オプション デフォルト]
テーブルセットコントロールコンポーネント (SET_CNTRL_TABLE1)	[PeopleTools]、[ユーティリティ]、[管理]、[テーブル セットコントロール]

事前設定

PeopleSoft Enterprise HRMS を導入する前に、会社の事業運営方針を詳細に検討します。さらに、組織の事業構造、業務慣行、および業務手順をどのようにマッピングするかについて分析します。

ビジネス ユニットとテーブルセット ID は、インストール テーブル コンポーネント (INSTALLATION_TBL) の設定および会社コンポーネント (COMPANY_TABLE) への会社の入力の前または後のいずれでも設定できます。ただし、インストール テーブル コンポーネントと会社コンポーネントは、テーブルセットコントロール コンポーネント、ビジネス ユニット オプション デフォルト コンポーネント、およびプライマリ権限リスト基本設定コンポーネントの設定を開始する前に設定する必要があります。

ビジネス ユニットの使い方

このセクションでは、ビジネス ユニットの概要とビジネス ユニット構造の決定方法について説明します。

ビジネス ユニットについて

ビジネス ユニットとは、特定のビジネス情報を追跡および報告するために作成する論理的な単位のことです。ビジネス ユニットには、制限や要件などが事前に設定されていません。ビジネス ユニットは柔軟な構造設計であるため、ユーザーの組織の業務構造に合わせて PeopleSoft Enterprise HRMS を導入することができます。

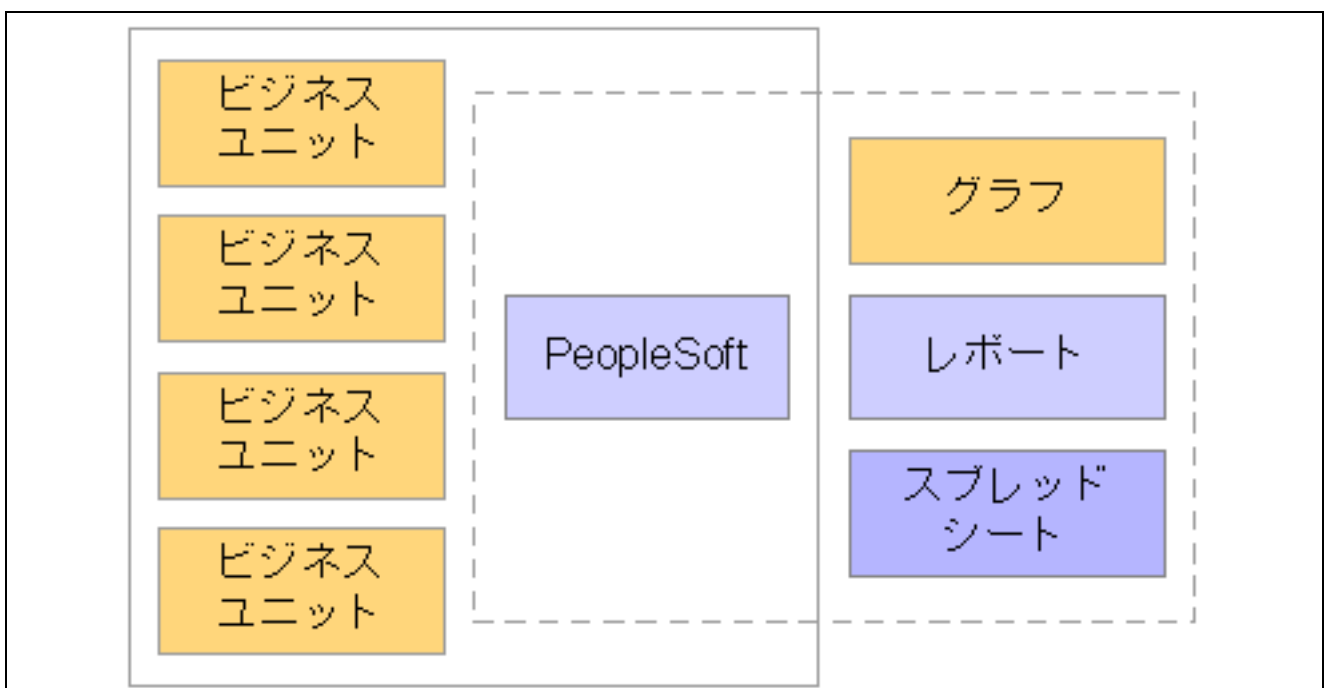
ビジネス ユニットでは処理ルールが共有されます。そのため、組織の構造に合わせて、また社内の人事部門の要望を反映させて、組織内のさまざまなレベルでビジネス ユニットを作成することができます。組織全体で同じ処理ルールを使用している場合は、ビジネス ユニートを 1 つ設定するだけで済みます。一方、会社、国、または業務内容ごとに異なる処理ルールを使用している場合は、複数のビジネス ユニートを設定することもできます。

PeopleSoft Enterprise HRMS ではビジネス ユニートの定義が事前設定されていないため（部門と会社についてはあらかじめ設定された定義があります）、ビジネス ユニートを組織の構造に合わせて定義し、PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションに導入することができます。ビジネス ユニートは、PeopleSoft Enterprise HRMS、Financials、Manufacturing、および Distribution の各アプリケーション間で共有できます。または、1 つの PeopleSoft Enterprise アプリケーションに限定して定義することも可能です。

注: PeopleSoft Enterprise HRMS では、ビジネス ユニートは、少なくとも 1 つ設定する必要があります。

PeopleSoft Enterprise HRMS におけるビジネス ユニートの定義方法は、ユーザー次第です。またデータ処理を容易にするためのビジネス ユニートの使い方もユーザーの自由です。たとえば、組織内の各法人ごとにビジネス ユニートを設定し、中央の人事管理部門がそのビジネス ユニートの処理を全て行うよう設定できます。この人事管理部門が各ユニットの情報、労働者、プロセスの間のインターフェイスとなり、管理を実行します。一方、組織内の会社、所在地、または支店ごとにビジネス ユニートを設定し、データを中央の親ビジネス ユニートと共有しながら、人事管理情報を各ユニット別に管理することもできます。

各ビジネス ユニットでは別々に人事管理情報が管理されますが、1 つの集中管理データベースを設定することで、ユニット間で重複するデータを管理する手間が省けます。さらに重要なポイントは、複数のビジネス ユニートにまたがるレポートを作成できることです。これによって、全体像を把握しながら、詳細を比較することができます。



集中管理データによるビジネス ユニット間の分析およびレポート作成

関連項目:

第 2 章、「HRMS について」、「コントロール テーブル、トランザクション テーブル、およびプロンプト テーブル」、3 ページ

ビジネス ユニット構造の決定

ビジネス ユニットによって柔軟な構造設計が実現されるため、組織の業務構造に合わせて PeopleSoft Enterprise HRMS を導入することができます。組織によっては、従来の構造とビジネス モデルの共通点が明白な場合があります。そうでない場合は、組織構造を反映して PeopleSoft Enterprise HRMS の優れた機能を最大限に活用するために、ビジネス ユニットの設定に綿密な検討および分析が必要です。PeopleSoft Enterprise HRMS の導入にあたってビジネス ユニットの設定方法を決定するときは、次の点に留意してください。

- ビジネス ユニット機能は、個人を組織構造の中に位置付けるための 1 つの方法と考えます。
- ビジネス ユニットは、職務、ポジションおよび個人の職務レコードに常に関連付けられています。
- ビジネス ユニットは事前設定された定義がありません (部門と会社についてはあらかじめ設定された定義があります)。ビジネス ユニットという新しい組織レベルは、会社の役に立つ形で導入することができます。
- ビジネス ユニットは法律上の企業体ではなく、レポート作成やロールアップ データの収集に関する特定のビジネス情報を追跡する方法です。

設計の初期段階から PeopleSoft の導入パートナーと密接に作業を進め、PeopleSoft Enterprise HRMS システムにビジネス ユニットの定義する最適な方法を決定するようにします。企業によって要件はそれぞれ異なり、また発生する可能性のある要素をあらかじめ全て網羅することは不可能です。しかし、企業のビジネス ユニット構造を具体化し、設定するビジネス ユニットの数を仮決定したら、以下の点を再確認してください。

- ビジネス ユニット構造とビジネス ユニットの数は正しいか。
- これらの構造でうまくいかない要因があるか。
- これらの構造により使いたい機能が使用できなくなる可能性があるか。
- これらの構造によりレポート作成のオプションに対する制限が発生する可能性があるか。
- これらの構造により夜間処理に予定以上の時間がかかる可能性があるか。

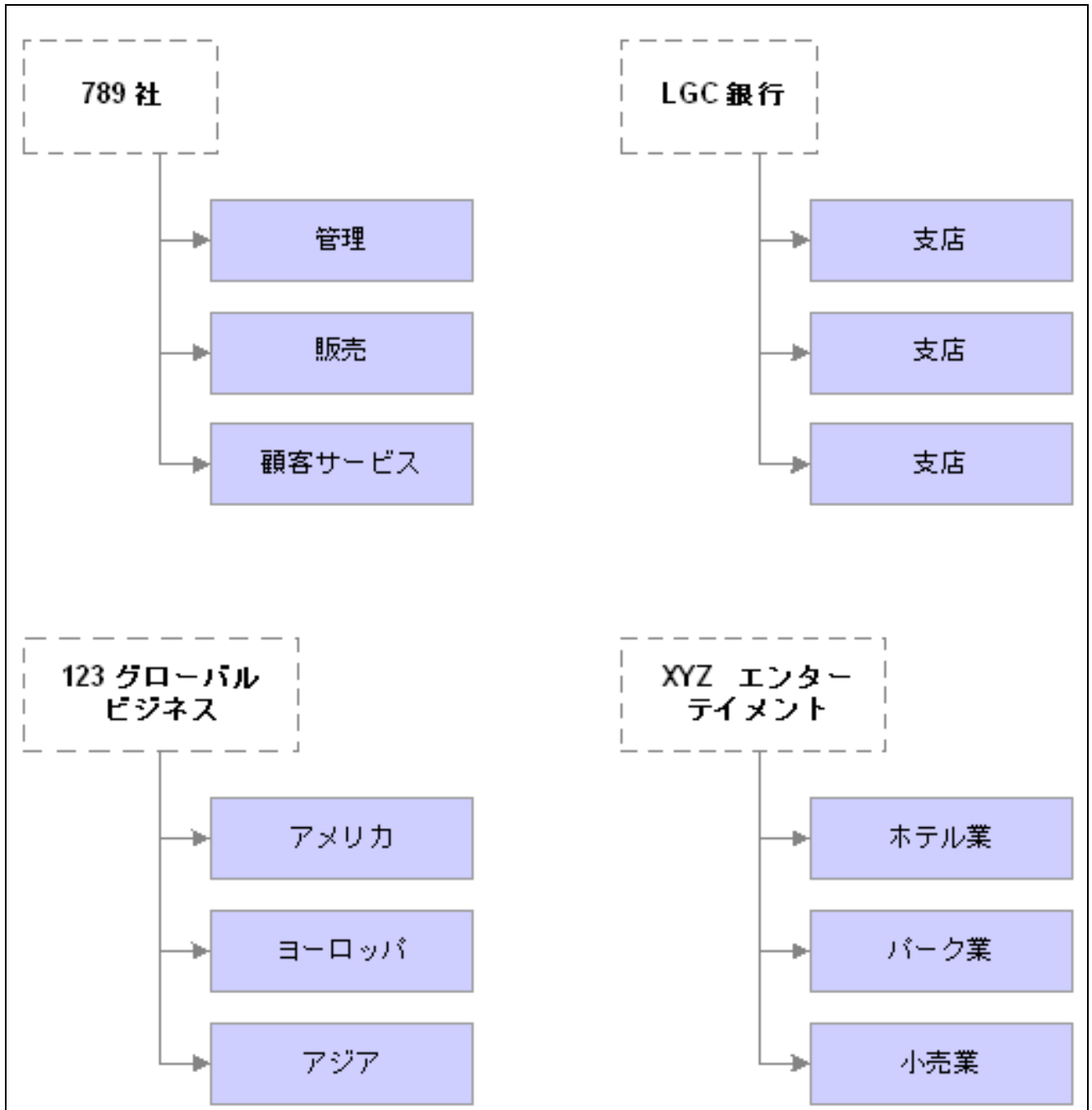
ビジネス ユニット構造の例

ビジネス ユニットの定義方法は、産業分野、法定要件、法定提出書類要件、または業務責任の割り振り方によって異なります。次のシナリオを考えてみます。

- LGC 銀行は、各支店をそれぞれ 1 つのビジネス ユニットとして扱っており、そのため従業員のレポート作成を各支店ごとに行うことができます。
- 123 グローバル ビジネスは多国籍企業で、海外で業務を行う必要性から、事業運営を地域ごとに分割しています。このような企業にとっては、各オフィスの情報よりも地域ごとの情報の方が重要です。ヨーロッパやアジアの市場に対して、アメリカの工場の状況はどうなっているかなどの情報を検討する必要があります。そうすることで、ビジネスの要件やニーズを追跡することができます。
- XYZ エンターテインメントには、子会社があります。このような多角経営企業では、それぞれの子会社やコスト センターをビジネス ユニットとして定義することができます。たとえば、ホテル事業と小売販売業を営む会社の場合は、2 つの事業に関する情報を個別に維持しながら、1 つのデータベースにまとめて一元管理することも可能です。

- 789 社は、販売と顧客サービスの状況など、情報を業務別または目的別に管理しています。この会社では、人事管理、福利厚生および給与計算の各部門の業務ニーズに合わせて、ビジネス ユニットを作成しています。

これらの方法を全て組み合わせて設定することも、またそれぞれの組織ニーズに合わせたその他の単位を設定することも可能です。ビジネス ユニットは必要な数だけ設定できますが、ビジネス ユニットの数が多
いほど管理する情報も増大します。ただし、システムにはビジネス ユニットが少なくとも 1 つは必要です。



ビジネス ユニットは、支店、地域、子会社および業務内容として設定できます。

ビジネス ユニットの導入

組織全体に対してビジネス ユニットを 1 つ導入することも可能ですが、複数のビジネス ユニットを設定すると、レポート作成とデータ コントロールで重要なオプションが使用できるようになります。複数のビジネス ユニットを設定すると、次のことが可能になります。

- ツリー構造の管理による、会社独自のロールアップ レポートの作成。
- 複数のビジネス ユニットに、部門コンポーネント (DEPARTMENT_TBL) や所在地コンポーネント (LOCATION_TABLE) などのコントロール テーブルの管理を分散。

PeopleSoft Enterprise HRMS のビジネス ユニット機能は、大企業や多国籍企業が複数分野にわたるデータ フローを管理する場合に役立ちます。

注: PeopleSoft Enterprise Benefits Administration を導入している場合は、ビジネス ユニットの関連付けに基づいて、労働者の福利厚生資格を決定する資格ルールを定義できます。

テーブルセットの使い方

このセクションでは、テーブルセットの概要と以下の方法について説明します。

- テーブルセット共有の設定
- データ セットの制御
- 複数のセットID の参照

テーブルセットについて

テーブルセットを使うには、テーブルセット、セットID、テーブルセット共有の違いを理解する必要があります。

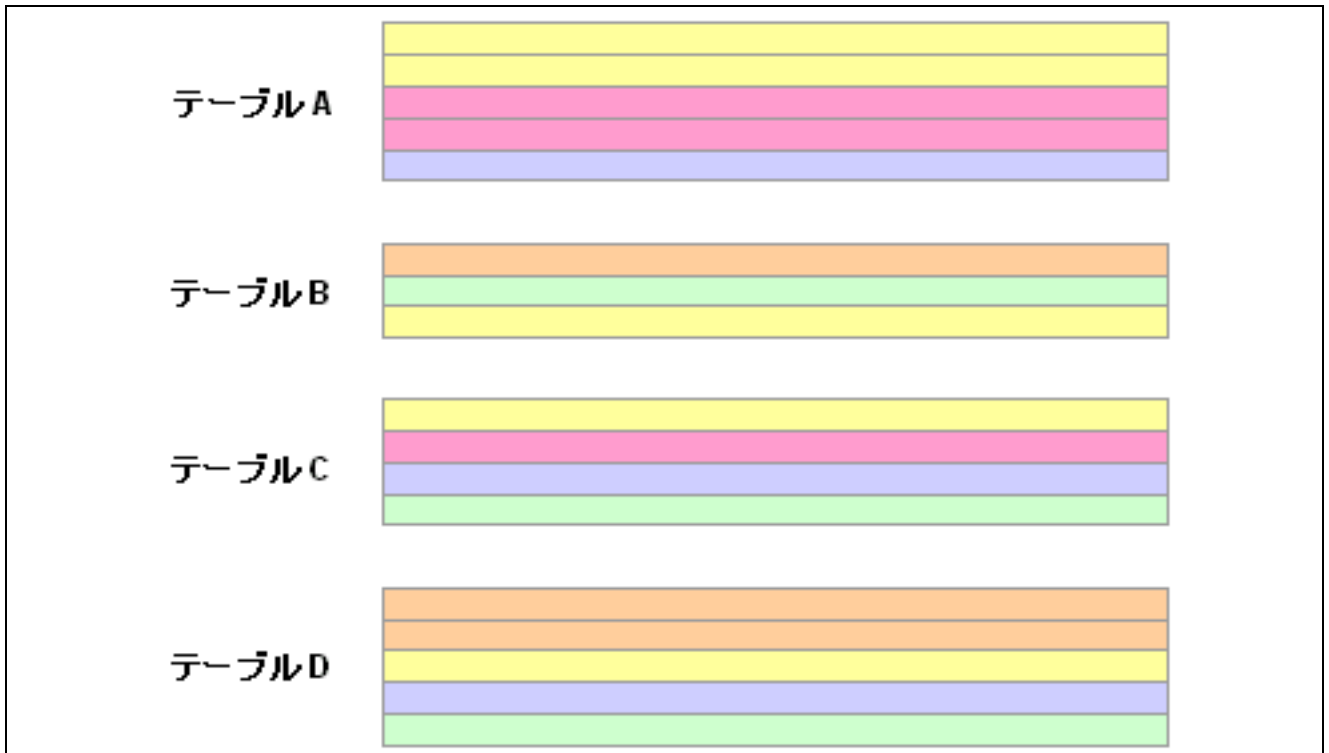
テーブルセット	同じ上位レベル キーで特定されるコントロール テーブルのデータ行のセット。
セットID	<p>データ行のセットを特定する上位レベルのキー。セットID には、次の 2 種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 物理的なセットID ビジネス ユニットのセットID (BUSINESS_UNIT = SETID)。物理的なセットID のデータ行は、ビジネス ユニットと 1 対 1 の関係にあります。• 論理的なセットID 汎用的に使用され、ビジネス ユニット以外のビジネス ルールによって特定される論理的なセットID。論理的なセットID は、複数のビジネス ユニット間でデータ行を共有するのに使用されます。
テーブルセット共有	テーブルセットのデータ行を複数のビジネス ユニット間で共有すること、または 1 つのビジネス ユニットに制限すること。

注: テーブルセットとセットID という用語は、同じ意味で使われることもあります。ほとんどの場合は区別なく使用しても間違いではありませんが、混乱を招く可能性があります。

テーブルセットは必要に応じて定義できますが、その数が多くなるほどテーブルセット共有は複雑になります。組織によっては、1 つのテーブルセットだけで済む場合もあります。

注: PeopleSoft Enterprise HRMS では、テーブルセットとセットID は、少なくとも 1 つずつ作成する必要があります。

セットID とテーブルセットの数は常に同じです。たとえば、次の図は 4 つのコントロール テーブルを表しています。それぞれの色がセットID を表しており、同じ色の行は全て同じテーブルセットに属しています。この図には 5 つのテーブルセットがあります。



テーブルセットは、セットID によって特定されるデータ行です。

セットID がキーとなっている PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 のコントロール テーブルには、以下のものがあります。

- 所在地コンポーネント
- 部門コンポーネント
- 給与プラン コンポーネント
- 職務コード コンポーネント

テーブルセット共有

テーブルセット共有によって、コントロール テーブルのデータの一部または全てをビジネス ユニット間で共有できます。そのため同じデータを何度も入力する必要がなくなります。情報の共有で重要なのは、ビジネス ユニット間で共有できるデータ行、制限された特定のビジネス ユニットで共有できるデータ行、および制限をかけるデータ行を決定することです。

たとえば、国コードなどの重複する情報を、共有する 1 つのセットID を使用して集中管理し、一方、部門コードや職務コードなどの情報を複数のセットID を使用して分散管理することができます。テーブルセット共有は、データの重複を最小限にとどめ、データの整合性を維持し、システム管理タスクを削減することを目的としています。

テーブルセットは HRMS システムの基本構成要素です。テーブルセットに含まれる各テーブルには、会社特有のビジネス ルールや処理オプションに従ってデータを入力します。さらに、テーブルセット コントロール コンポーネント (SETID_TABLE) でビジネス ユニットに対するテーブルセット割り当てを更新することにより、複数のテーブルセットの組み合わせや照合が可能です。

テーブルセットにある全てのテーブルを共有する必要はありません。PeopleSoft Enterprise HRMS では、必要に応じて、任意の数のビジネス ユニットで任意のテーブルの組み合わせを共有することができます。テーブルセット コントロール ページを使用して、各ビジネス ユニットの共有対象データとその共有方法を指定します。

次の図は、あるレコード グループでは 1 つのテーブルセットが組織の 3 つ全てのビジネス ユニットで共有され、別のレコード グループでは各ビジネス ユニットがそれぞれ独自のセットID を使用している例を示しています。3 番目のレコード グループでは、1 つのテーブルセットが 2 つのビジネス ユニットで共有され、3 番目のビジネス ユニットは別のセットID の値を使用しています。



テーブルセットは、ビジネス ユニット間で共有することも、各ビジネス ユニットごとに固有に設定することもできます。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Server Tools

レコード グループとテーブルセット共有

テーブルセットを共有するために、コントロール テーブルはレコード グループに分割されます。レコード グループは、同じセットID のグループを同じように使用するコントロール テーブルとビューがセットになったものです。

レコード グループは次の 2 つの目的に使用されます。

- 膨大な量のデータを重複して入力することなくテーブルセット共有を設定できるため、時間を節約できます。
- システム内の関連するテーブルやビュー全体に一貫してテーブルセット共有が実行されることで、セーフティ ネットとしての役割を果たします。

レコード グループにはテーブルが 1 つしかない場合と、複数のテーブルとビューがある場合があります。各レコード グループに含まれるテーブルやビューは、レコード グループ コンポーネントを使って更新または修正することができます。

ビジネス ユニットとセットID

ビジネス ユニットの作成時には、ビジネス ユニットにセットID を割り当てる必要があります。次の 2 つの方法があります。

- 新規のビジネス ユニットでのみ使用するコントロール テーブルのデータ行を作成する場合は、ビジネス ユニットの作成時にそのビジネス ユニットのセットID を作成します。

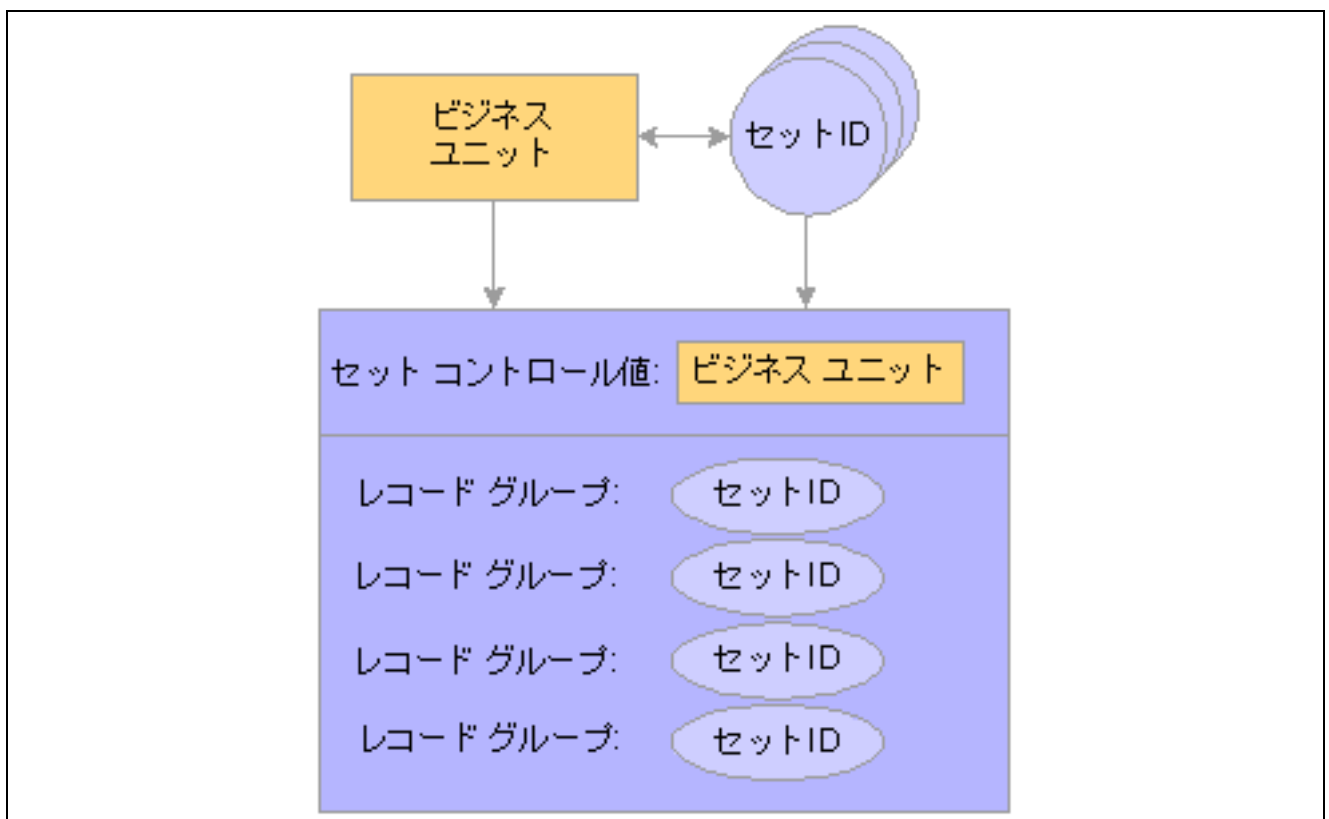
ビジネス ユニットの作成時にセットID を作成すると、ビジネス ユニットの保存時にテーブルセット ID コンポーネントにレコード セットID が自動的に作成されます。

注: これは、1 つのビジネス ユニットののみを使用する場合に最適な方法です。

- 作成するビジネス ユニットと他のビジネス ユニット間でデータ行を共有させる（テーブルセット共有）場合は、作成するビジネス ユニットに対して使用を許可するデータ行に関連付けられている、または関連付ける予定の既存のセットID を選択します。

いずれの方法を選択した場合も、ビジネス ユニートを保存すると、自動的にビジネス ユニットに対してテーブルセット コントロール コンポーネントにレコードが作成され、システム内の各レコード グループがロードされ、さらに各レコード グループには、ビジネス ユニットに対して選択したセットID が関連付けられます。テーブルセット コントロール コンポーネントのセットID の割り当ては変更できます。

次の図は、セットID とビジネス ユニートの関係、およびビジネス ユニットに対して自動作成されるテーブルセット コントロール コンポーネントのレコードを表しています。コンポーネント内のセットID の割り当ての一部または全ては変更可能です。



テーブルセット コントロールによって、ビジネス ユニットが各レコード グループに対して使用するテーブルセットが決まります。

テーブルセット共有の設定

テーブルセット共有の設定は簡単です。テーブルセット コントロールを使用して、ビジネス ユニット間で使用できるようにするデータ、または特定のビジネス ユニットに使用を制限するデータを制御します。テーブルセット コントロールを設定する前に、以下を作成します。

- レコード グループ
- ビジネス ユニット
- セットID

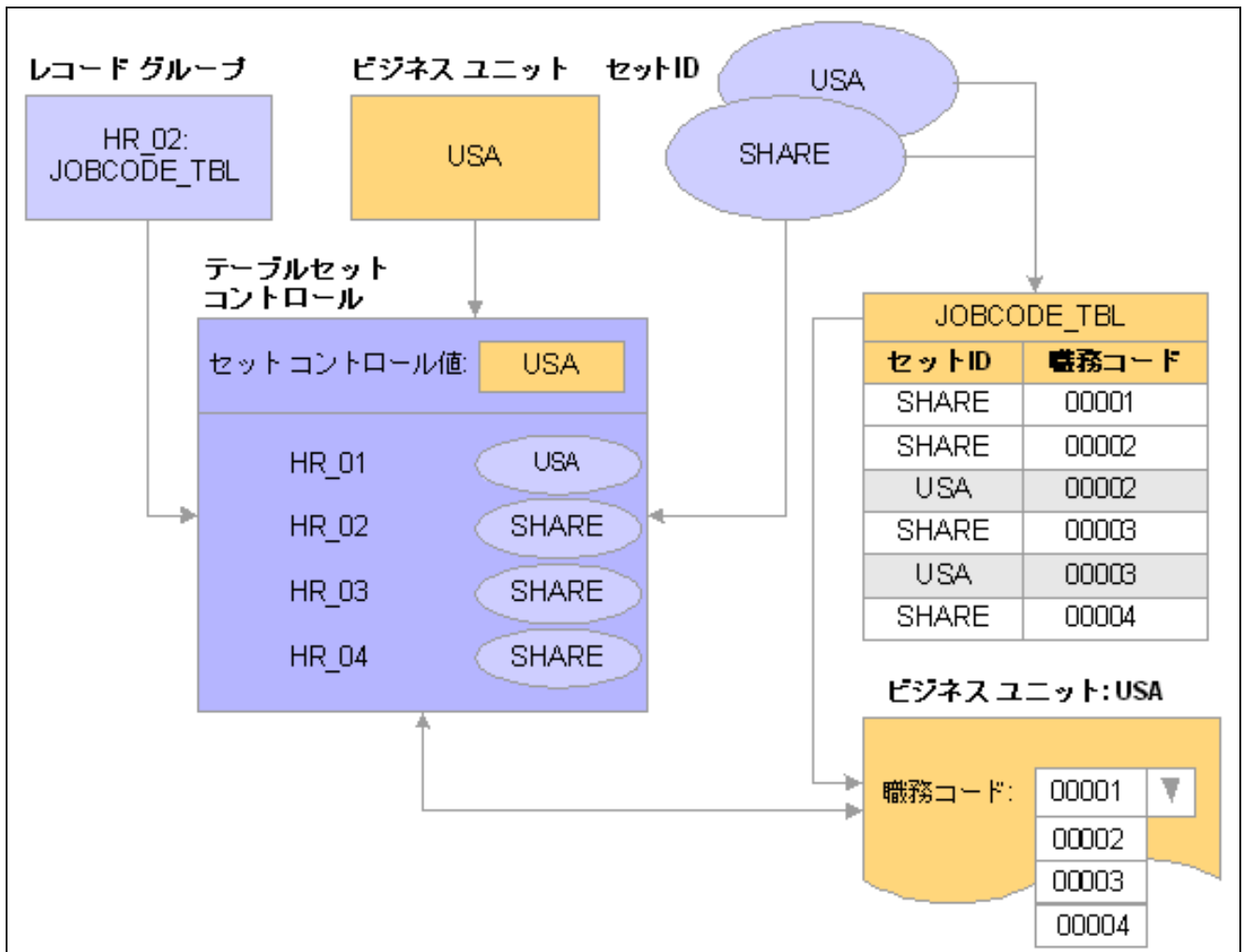
ビジネス ユニットを作成して保存すると、ビジネス ユニットに対して、テーブルセット コントロール コンポーネントにレコードが作成され (セット コントロール値)、各レコード グループのセットID に、ビジネス ユニットに対して選択したセットID がロードされます。ビジネス ユニットで、特定のレコード グループの別のセットID の行にアクセスできるようにする場合は、デフォルトのセットID を適切なセットID に変更します。つまり、多くのテーブルセット共有の設定はバックグラウンドで行われます。

データ セットの制御

テーブルセット コントロールの設定に基づいて、トランザクション コンポーネントでユーザーが使用できるフィールド オプションが決まります。たとえば、新規従業員の職務データ レコードの作成時に職務コード フィールドのドロップダウン リストを選択すると、以下の項目に基づいて選択できるオプションが絞り込まれます。

1. この職務データ レコードが含まれるビジネス ユニット
USA
2. このフィールドのテーブル コントロール データ
JOBCODE_TBL
3. 上記のテーブルが含まれるレコード グループ
HR_02
4. このビジネス ユニットの上記のレコード グループに割り当てられているセットID
SHARE
5. コントロール テーブルで上記セットID をキーとする行
セットID “USA” をキーとする行のみが表示されます。

次の図は、ビジネス ユニット “USA” のテーブルセット コントロール、およびそのビジネス ユニットに対して表示される職務コード値の決定方法を表しています。



テーブルセット共有のプロセス

レコード グループ “HR_01” に含まれるフィールド テーブルにアクセスした場合は、セットID “USA” をキーとする値が表示されます。表示されるデータは、ユーザーがアクセスしているテーブルが含まれるレコード グループのテーブルセット コントロール コンポーネントに指定されているセットID によって決まります。

複数のセットID の参照

ページによっては、2 つのセットID を参照する場合もあります。セットID 機能を使用する場合は、ページ プロセッサがこのような状況でどのように機能しているのかを理解することが重要です。それによって、データ レコードのデフォルト値がどのように設定されるかが理解しやすくなります。

あるセットID をキーとするテーブルに、別のセットID テーブルの検索画面が表示されるフィールドが存在する場合、PeopleSoft Enterprise HRMS では次の 2 つの状況が考えられます。

シナリオ 1: コントロール テーブルに複数のセットID があるが、そのセットID に基づくデフォルト値が設定されていない場合

複数のセットID があるコントロール テーブルの例として部門コンポーネント (DEPARTMENT_TBL) があります。部門コンポーネントの DEPT_TBL レコードには、部門と部門の所在地の 2 つのセットID があります。所在地プロンプトのセットID は、LOCATION_TBL レコードから取得されます。

部門プロフィール

コミットメント会計/E&G

セットID: SHARE

部門: 13000

このセットID を使用するビジネス ユニット

部門プロフィール

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

*有効日:

1989/04/07

*ステータス:

アクティブ

*名称:

Finance

略称:

Finance

所在地セットID:

SHARE

Table Set shared across Corp

所在地コード:

KUDE00

Delaware Operations

会社コード:

GBI

Global Business Institute 9999

管理者タイプ

☐ なし

☒ 従業員 ID

☐ ホンション

管理者 ID:

KU0007

Betty Locherty

管理者のホンション コード:

従業員 ID:

予算年度終了月日:

*予算レベル:

部門

部門プロフィール ページ

1 つのプロンプトに 2 つのセット ID がある場合、[所在地コード] フィールドに以下の値が表示されるように、コンポーネントを設定できます。

- 全てのセットID の全ての所在地
- 部門セットID の所在地のみ

全ての所在地を表示するように設定した場合、部門のセットID にアクセスできるどのビジネス ユニットでも使用されないセットID の所在地を指定して部門を作成すると、問題が発生します。1 つの所在地セット ID のみを表示するように設定した場合、部門のセットID にアクセスできるビジネス ユニットが異なる所在地セットID を使用していると問題が発生します。

たとえば、ある組織では、4 つのビジネス ユニットに対して、DEPT レコード グループと LOCATION レコード グループに使用するテーブルセット コントロールを以下のように設定しています。

ビジネス ユニット:		PDEV	EURO	ASIA	RUSS
レコード グループ:	DEPT	USA	EURO	USA	EURO
	LOCATION	USA	EURO	ASIA	RUSS

注: テーブルセット コントロールはテーブルセット コントロール コンポーネントで設定します。

所在地セットID を部門のセットID に制限した場合、ASIA および RUSS ビジネス ユニットでは有効な所在地を指定して部門を設定することができません。全てのセットID の全ての所在地を表示するように設定した場合、ユーザーがセットID “EURO” の所在地を指定して、セットID “USA” の部門を作成してしまうというリスクがあります。

部門に対して表示する所在地を制限しながら、一方で異なるテーブル共有を可能にするには、部門セット ID が USA の場合は、所在地セットID が USA と ASIA に、部門セットID が EURO の場合は、所在地セットID が RUSS と EURO に制限されるように設定できます。

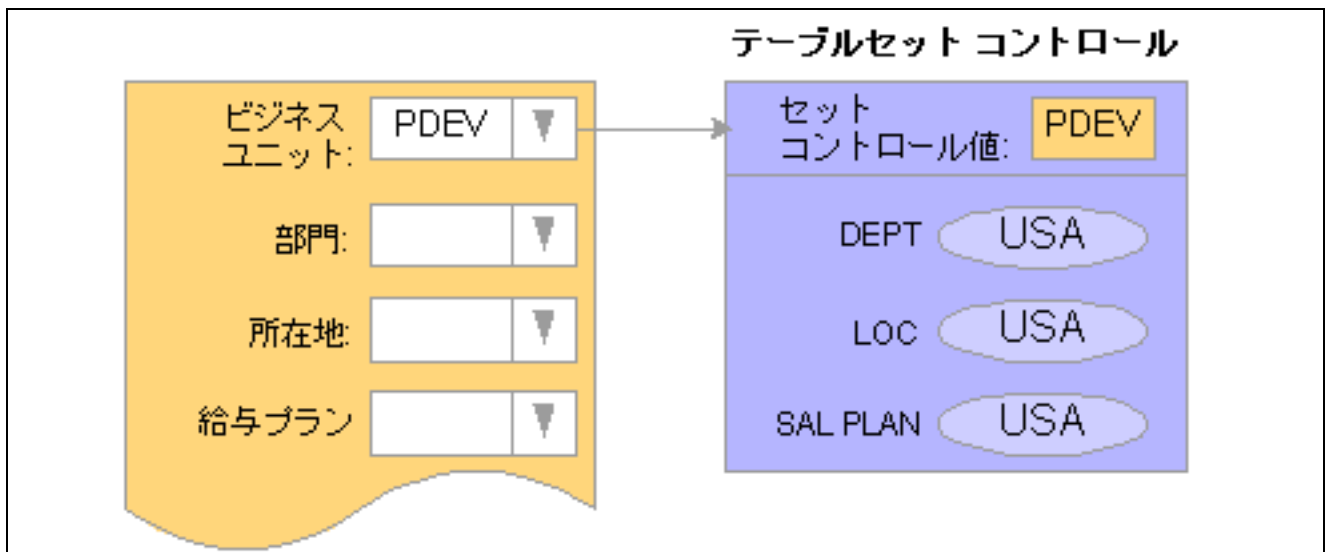
シナリオ 2: トランザクション レコード全体のデフォルト設定をコントロールするセットID が複数あるトランザクション テーブルの場合

レコード全体のデフォルト設定をコントロールするセットID が複数あるトランザクション テーブルの例として、職務データ コンポーネント (JOB_DATA) があります。

従業員の職務データ レコードを作成する際は、勤務地ページ (JOB_DATA1) でビジネス ユニットを選択します。ビジネス ユニットのテーブルセット コントロールによって、コンポーネントに含まれるその他のフィールドに表示する値や、設定されたデフォルトを使用するかどうかが決まります。

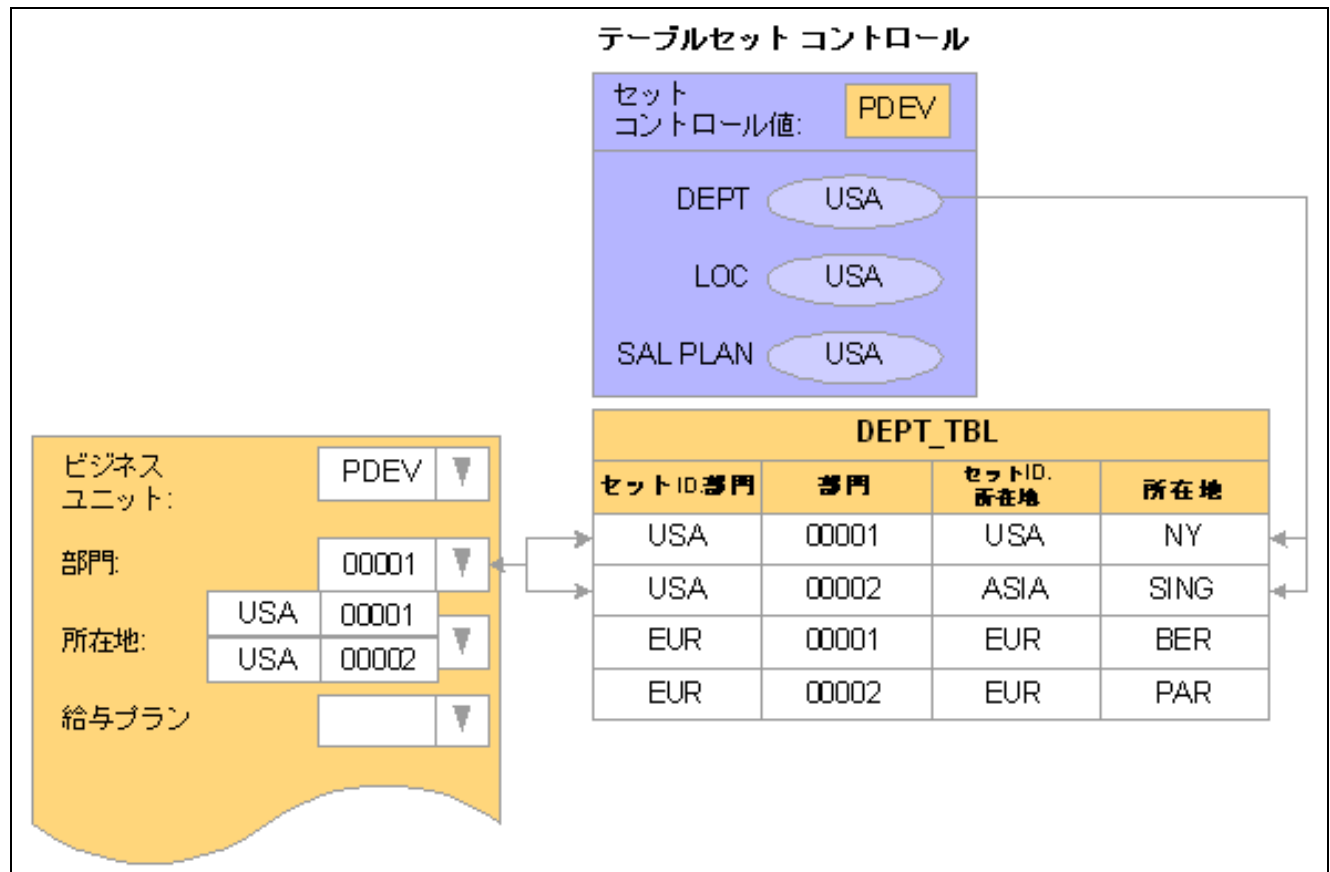
ビジネス ユニットに選択されたセットID に含まれる部門のみが表示され、ビジネス ユニットに対して有効なセットID に所在地が含まれる場合のみ、部門の所在地がデフォルトで設定されます。所在地には関連付けられた給与プランがあり、ビジネス ユニットに対して有効なセットID にその給与プランが含まれている場合のみ所在地の給与プランがデフォルトで設定されます。選択したビジネス ユニットに対して有効なセットID にデフォルト値が含まれていない場合、フィールドは空白のままとなり、ユーザーが有効なセットID に含まれる値のリストから選択することになります。

たとえば、職務データ コンポーネントでビジネス ユニットを選択します。ビジネス ユニットのテーブルセット コントロールがシステムによって参照され、コンポーネントに含まれる多くのフィールドについて有効なセットID が特定されます。

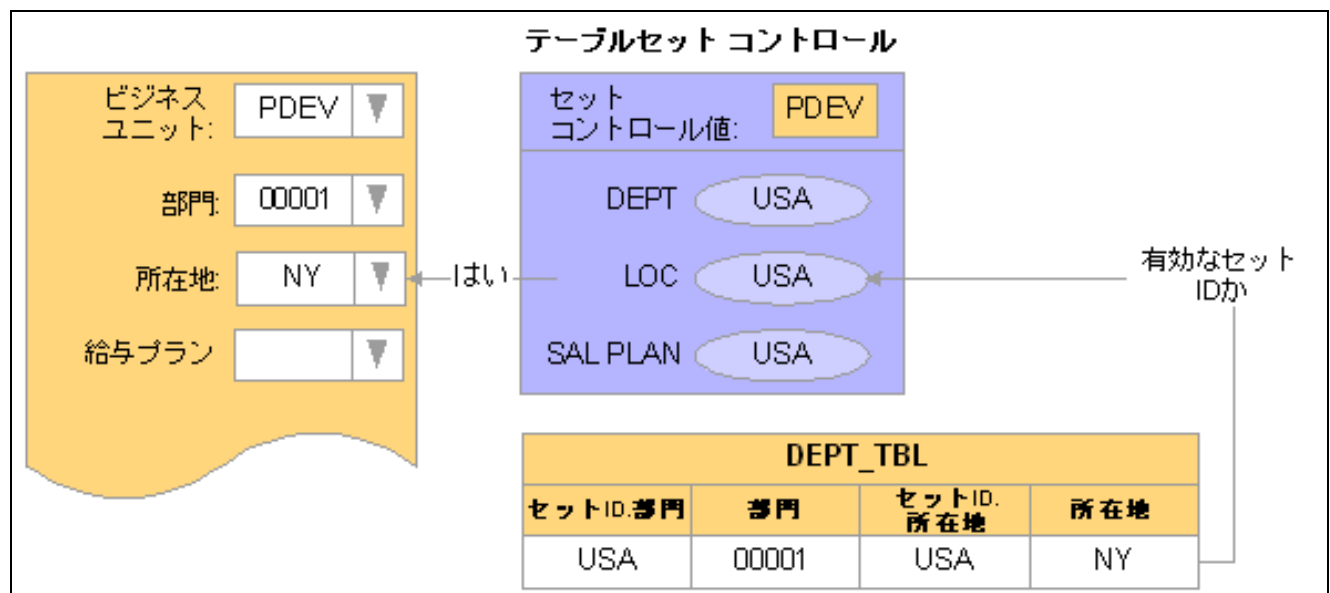


ビジネス ユニットを選択すると、ページの多くのフィールドについて有効なセットID が特定されます。

部門を選択します。ビジネス ユニットに選択された DEPT セットID に含まれる部門のみが表示されます。

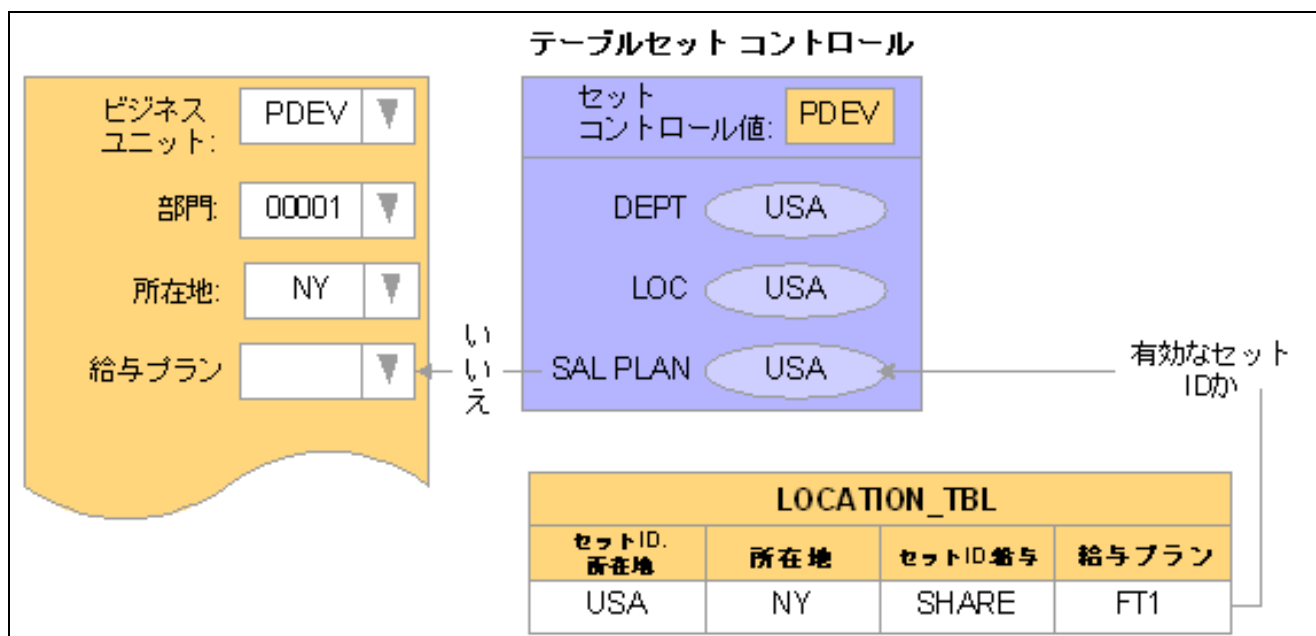


選択された部門に関連付けられた所在地のセットID がこのビジネス ユニットに対して有効であるかがシステムによってチェックされます。有効な場合、所在地フィールドにデフォルト所在地が自動的に入力されます。有効でない場合、所在地フィールドは空白になります。



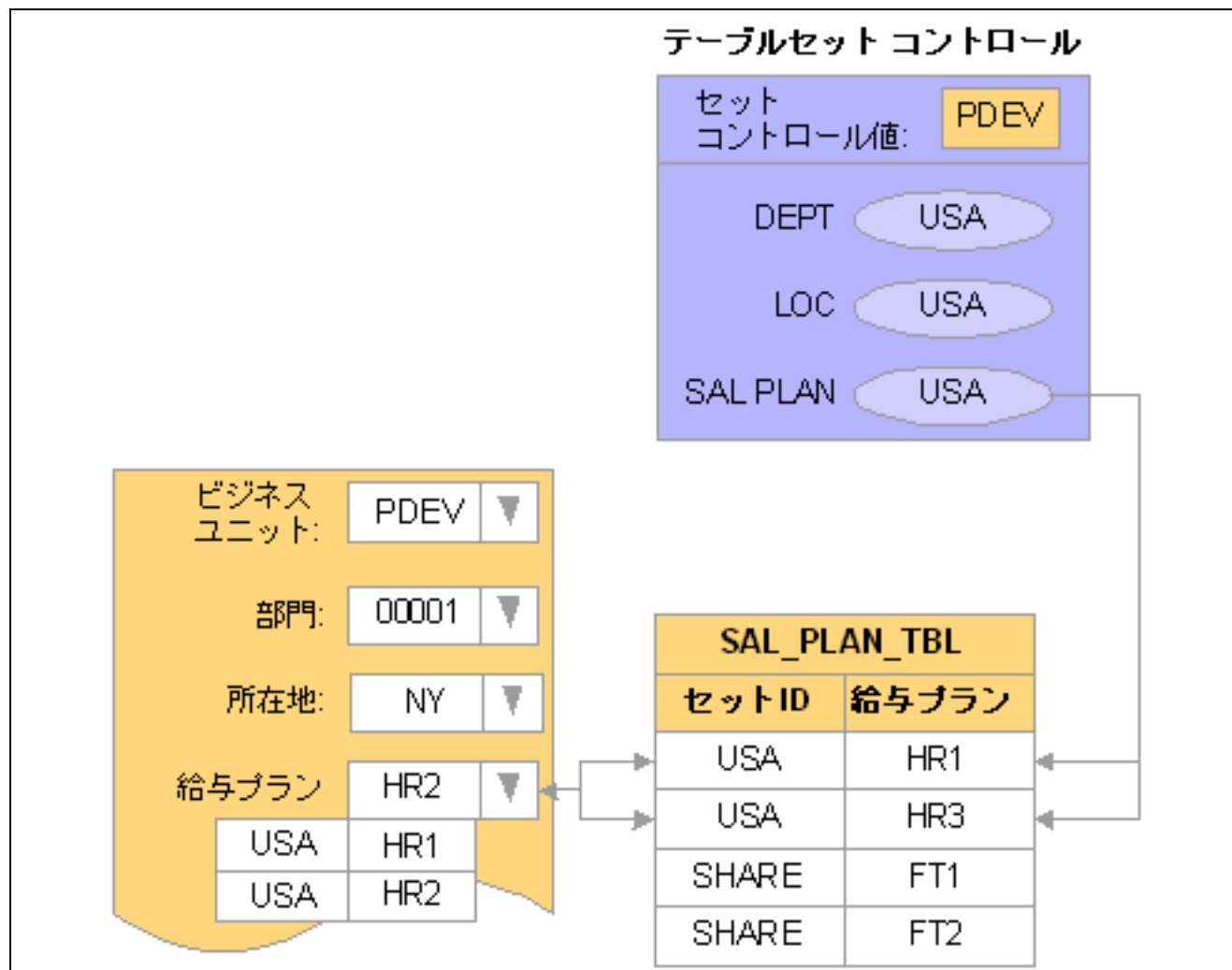
デフォルト値は、ビジネス ユニットに対して有効なセットID に含まれる値である場合にのみ、自動的に入力されます。

この所在地に関連付けられた給与プランのセットID がこのビジネス ユニットに対して有効であるかがシステムによってチェックされます。



値のセットID がビジネス ユニットに対して有効でない場合、デフォルト値は入力されません。

ビジネス ユニットに対して有効な給与プランを選択します。



有効なセットID を持つ値のみを選択できます。

注: セットID を使用するコントロール テーブルの多くでは、選択したセットID に対してアクセス権を持つビジネス ユニットを確認できます。これにより、コントロール値の設定時に、適切なビジネス ユニットでそれらの値が使用可能となるかを確認できます。

権限リストとシステム デフォルトの使い方

このセクションでは、以下の作業を行う方法について説明します。

- 権限リストへの関連付け
- ビジネス ユニット HR デフォルトの定義
- システムによるデフォルト値の決定

権限リストへの関連付け

PeopleSoft のセキュリティは、権限リストという構成要素に基づいています。権限リストに基づいて、アプリケーション、機能、メニュー、データなどへのユーザー アクセスが許可されます。権限リストのほとんどはロールごとにグループ化されており、そのロールがユーザーに付与されます。ただし、アプリケーションの特定の機能をコントロールし、ユーザー プロファイルに直接割り当てられる権限リストが 4 つあります。

その 1 つはプライマリ権限リストで、ユーザー別のデフォルト値の特定に使用されます。プライマリ権限リスト基本設定コンポーネント (OPR_DEF_TBL_HR) で、プライマリ権限リストに以下の項目を設定します。

- 以下のフィールドのデフォルト値の設定
 - ビジネス ユニット
 - セットID
 - 会社コード
 - 国
 - 法定区域
 - 換算先通貨
 - 通貨レート タイプ
- 給与計算システムや産業などのアプリケーションの設定

ユーザーがシステムにログオンすると、ユーザーのプライマリ権限リストがシステムによって参照され、適用する設定、およびプライマリ権限リストのデフォルト設定機能をサポートするコンポーネントにデフォルトとして入力する値が特定されます。この機能により、各ユーザーの職務内容に応じた適切な情報を入力できるようになります。

注: 全てのコンポーネントでプライマリ権限リストのデフォルト値が使用されるわけではありません。

警告: 権限リストにシステム ユーザーを関連付けておかないと、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理において重大なデータ エラーが発生する可能性があります。

関連項目:

第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、39ページ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

ビジネス ユニット HR デフォルトの定義

HCM コンポーネントにアクセスすると、ユーザーのプライマリ権限リストに関連付けられた値に基づいて、ビジネス ユニット、会社、国などのフィールドに自動的に値がロードされます。また、ビジネス ユニット オプション デフォルト ページ (BUS_UNIT_OPT_HR) でセットID にデフォルト値を関連付けることもできます。

設定したテーブルセット コントロールとビジネス ユニット デフォルト オプションに基づいて、トランザクション コンポーネントの選択フィールドにロードされるデフォルト値が決定されます。これらのデフォルト値は、ビジネス ユニット フィールドからデフォルト値を取得するように識別されたコンポーネントにのみ使用されます。

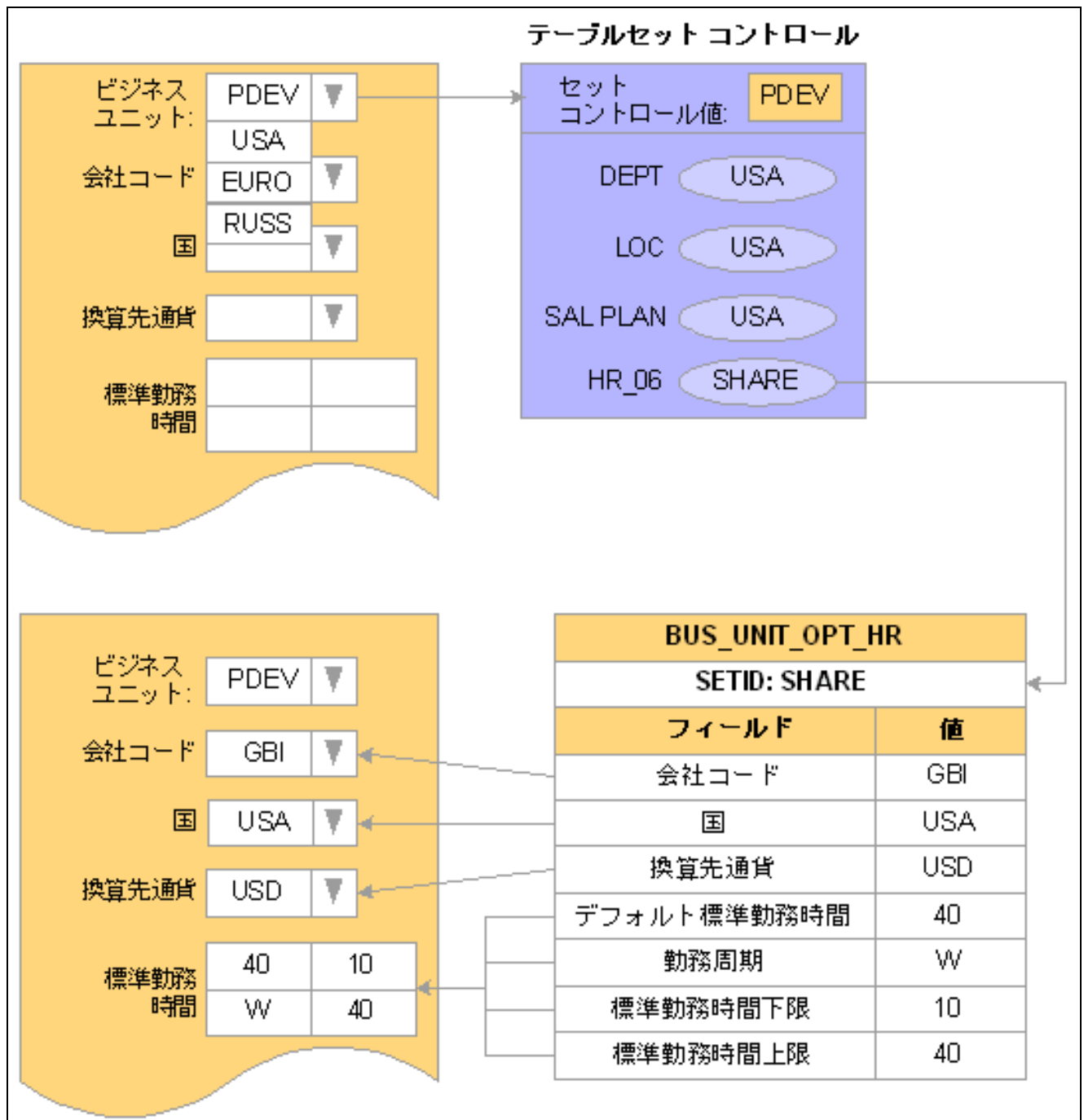
ビジネス ユニットのデフォルトを設定するには、次の手順に従います。

1. テーブルセット コントロールのレコード グループ ページ (SET_CNTRL_TABLE1) で、ビジネス ユニットのビジネス ユニット デフォルトをコントロールするセットID を選択します。

この設定により、デフォルト設定ルールをビジネス ユニット間で共有できます。

2. ビジネス ユニット オプション デフォルト コンポーネントでセットID のデフォルト値を入力します。

ビジネス ユニット デフォルトを使用するコンポーネントにアクセスしてビジネス ユニットを選択すると、テーブルセット コントロールのレコード グループ ページの設定に基づいて、ビジネス ユニットのデフォルト設定に使用されるセットID が特定されます。ビジネス ユニット オプション デフォルト コンポーネントが参照され、選択されたセットIDに設定したデフォルト値が取得されます。そして、それらの値はトランザクション コンポーネントにロードされます。次の図は、このプロセスを表しています。



テーブルセット コントロールとビジネス ユニット デフォルト オプションが参照され、選択したビジネス ユニットのデフォルト値が決定されます。

注: ビジネス ユニット オプション デフォルト レコード (BUS_UNIT_OPT_HR) を含むレコード グループは HR_06 です。

同種のデフォルト設定を共有しているビジネス ユニットが複数存在する場合は、ビジネス ユニット オプション デフォルト ページでビジネス ユニットのデフォルト値を設定するという方法があります。しかし、このようなデフォルト共有の操作は、権限リストを使用して即時に管理することができません。

システムによるデフォルト値の決定

PeopleSoft Enterprise HRMS システムにおけるページ レベルのデフォルトのほとんどは、ビジネス ユニット別ではなくプライマリ権限リスト別に設定されます。通常、ビジネス ユニットのデフォルト設定はビジネス ユニットに基づくコンポーネントや従業員 ID (EmplID) を上位レベルのキーとして使用しているコンポーネントでのみ使用されます。

次の表は、ビジネス ユニット オプション デフォルト コンポーネントとプライマリ権限リスト基本設定コンポーネントのどちらで定義したデフォルト値を使用するかが決定される際の最も一般的な 4 つのシナリオを示しています。

コンポーネント	デフォルトの決定方式
ビジネス ユニットを選択します。	ビジネス ユニット デフォルト オプション コンポーネントからデフォルト値がロードされます。
従業員 ID の値を入力します。ビジネス ユニット値は入力しません。	従業員 ID と雇用レコード番号の組み合わせに対して個人の職務レコードがチェックされ、個人のビジネス ユニットが特定されます。その値に基づき、ビジネス ユニット デフォルト オプション コンポーネントからデフォルト値がロードされます。
コンポーネントに、ビジネス ユニットフィールドと従業員 ID フィールドのいずれも含まれていません。	プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントからデフォルト値がロードされます。
コンポーネントで、ビジネス ユニットまたは従業員 ID が関連付けられていないセットID が使用されています (所在地コンポーネントや部門コンポーネントなど、設定/コントロールコンポーネントのほとんどが該当します)。	プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントからデフォルト値がロードされます。

警告: 上記のルールに沿っていない場合もあります。あくまでガイドラインとして参照してください。ページレベルでの実際のデフォルト設定は、主にページの機能によって異なります。

注: 上記カテゴリのどれにも属さない例外的なページに対応できるように、ある程度の柔軟性が備わっています。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Administration Tools

第 4 章

法定区域の使い方

この章では、法定区域および法定区域テーブルの相互関係の概要と、以下の内容について説明します。

- 法定区域の設定
- 法定区域とトランザクションの関連付け

法定区域について

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の法定区域機能は、法規定や地域関連の編集作業に使用します。法定区域は、PeopleCode の編集作業、設定処理、およびユーザーが参照するコードや値の管理に使用します。

法定区域とは、特定の法律や規定を持ち、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の対象となっている地域を指します。各国特有の法規定に基づいたトランザクションが多数ありますが、法定区域はこのトランザクションの処理に使用します。法規定は人種、身体障害、安全衛生などに関するものです。法定区域を使った場合、法規定コード、PeopleCode の編集ロジック、および設定処理は、国やトランザクションによって異なります。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システムにデータを入力するときは、該当する法定区域で使われる特定のコードやデータを使用しなければなりません。法定区域機能を使うと、ユーザーは正しいデータ セットに絞って作業できるため、データ入力が迅速かつ正確になります。

この機能は、従業員の国籍が多岐にわたる企業で特に役立ちます。以下は、ビジネス データを整理するうえで法定区域の概念が役に立つ例です。

- アメリカ勤務の従業員がカナダに出張中、安全衛生にかかわる事故が発生したとします。この場合は、“保険事故の詳細” コンポーネントにある法定区域を使って、事故が発生した国に該当する保険事故データやコード（身体部位、危険事象、診断結果コードなど）を入力します。
- PeopleSoft Enterprise Benefits Administration が導入されており、その自動資格処理機能を使って、アメリカおよびカナダの従業員の福利厚生登録オプションを決定するとします。カナダとアメリカでは福利厚生のルールがかなり異なるので、資格ルール テーブルの法定区域を使って、福利厚生資格ルールセットをカナダの従業員用とアメリカの従業員用に 2 つ設定します。

法定区域テーブルの相互関係について

次のページは、ユーザー システムの法定区域コントロールの確認と設定に使用します。

- 法定区域 (REG_REGION)
- トランザクション タイプ (REG_TRX)

- タイプ別法定区域 (REG_TRX_REGION)

法定区域ページは、既存の法定区域の確認、修正、および法定区域の追加に使います。法定区域は国ごと、または州や都道府県ごとに設定します。

トランザクション タイプ ページでは、既存の法定トランザクション タイプを確認、修正したり、新規の法定トランザクション タイプを設定、説明したりします。

タイプ別法定区域ページでは、既存の法定トランザクション タイプの定義に使われる法定区域の確認および修正、新規作成する法定トランザクション タイプの定義に使われる法定区域の設定をします。

次の表は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理において法定区域の定義および管理に使う法定区域のページ間の関係を示しています。

REG_REGION_TBL	>	REG_TRX_REGION	<	REG_TRX
REG_REGION		REG_TRX		REG_TRX
DESCR50		REG_REGION		DESCRLONG
COUNTRY				
REG_AVAIL				

法定区域のページには、有効日または有効ステータスがありません。REG_REGION および REG_TRX には、どちらも関連言語テーブルがあります。不要データを非表示にするには、REG_AVAIL = NOT とするか、またはその不要データをトランザクションの区域リストから削除します。

注: 設定する際は、最初に法定区域を作成してからトランザクションを作成し、法定区域とトランザクションの相互関係を設定してください。法定区域は多数のトランザクションで使われます。

法定区域の設定

システムに設定されている法定区域以外の国々とビジネス取引がある場合は、新規の法定区域を追加することもできます。または、ビジネスの運営方法に影響がある国内地域（州や都道府県など）を法定区域として追加作成することもできます。たとえばアメリカの場合、法定コードやデータ定義が州によってかなり異なるのであれば、法定区域を州レベルで設定することもできます。法定区域を追加するには、法定区域ページを使います。

注: 法定区域の新規作成は必須ではありません。法定区域は、地域特有の法規制を設定するなど、特別に必要な場合にだけ新規作成します。システムにあらかじめ設定されている既存の法定区域を使ってください。ビジネス取引が単一の国に限られており、法定区域のためにデータを入力するユーザーに負担をかけたくない場合は、その単一区域をプライマリ権限リスト基本設定コンポーネント (OPR_DEF_TBL_HR) のデフォルト法定区域として割り当てることができます。

注: 法定区域の範囲を国からさらに狭めることもできますが、PeopleSoft では標準法定区域は国レベルに設定することをお勧めします。

新規の法定区域を作成する際は、設定を単純化して一貫性を保つため、データ名はなるべく次の表記規則に従って設定してください。

- 国レベルの新規法定区域には、国テーブル コンポーネント (COUNTRY_TABLE) にある 3 文字の ISO 認定国コードを使います。
- 国よりも狭い範囲の区域には、3 文字の国コードに 2 文字の区域固有コードを続けます。たとえば、州や都道府県レベルの区域には CCCSS という形式 (CCC は国コード、SS は州/都道府県コード) を使います。この方法を使うと、たとえばカナダのブリティッシュ コロンビア州の法定区域コードは CANBC となります。

関連項目:

[第 6 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS の設定とインストール」、「法定トランザクション タイプの設定」、149 ページ](#)

法定区域とトランザクションの関連付け

このセクションでは、法定区域およびトランザクションの概要と、以下の内容について説明します。

- 法定区域の管理
- トランザクション処理の法定区域の使い方
- デフォルト法定区域の設定
- PeopleCode トランザクション処理への影響の確認
- REG_REGION のプロンプト編集トランザクション ビューの作成
- ヒューマン リソース管理トランザクションへの REG_REGION の追加

法定区域とトランザクションについて

法定区域は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システム全体にわたるコンポーネントのコントロール フィールドとして使われます。法定区域はほとんどの場合、必須フィールドです。

PeopleCode により、ページで処理される特定のトランザクションと、該当する法定トランザクション タイプまたはビューが関連付けられます。法定区域の各フィールドでは、トランザクション固有のビューによる編集プロンプトが設定されています。このビューには、該当する法定トランザクション タイプが適用可能であり、ユーザーがアクセス権を持つ国だけが表示されます。

標準デフォルトは、ユーザーが適切な法定区域とトランザクションを選択するのに役立ちます。

注: 通常、デフォルトを上書きして、正しい法定区域をトランザクションに割り当てることができます。

法定区域の管理

法定区域のサイズおよび定義は国よりも大きい場合も小さい場合もあり、トランザクションやアプリケーションによって異なります。ただし、標準の区域は国コードになっています。

トランザクション ビューやアプリケーション ビューを追加して、トランザクションに該当する区域だけを表示することもできます。[法定区域] フィールドをトランザクション レコードの上に配置し、トランザクション固有のビューから編集プロンプトを定義します。このビューでは、ユーザーが使用できる国 ([全ユーザーにアクセス権あり] か、またはグローバル セキュリティが設定されているユーザー対象の [グローバル セキュリティ設定済ユーザー]) だけが表示されます。たとえば、次の表はシステムに既に設定されている法定区域の一部を示しています。

トランザクション タイプ	法定区域	名称	国コード (代替検索)	セキュリティ ステータス
STANDARD (標準)	BEL	ベルギー	BEL	グローバル セキュリティ設定済ユーザー
HANDS (安全衛生)	BEL	ベルギー	BEL	
STANDARD (標準)	CAN	カナダ	CAN	全ユーザーにアクセス権あり
HANDS (安全衛生)	CANBC	カナダ - ブリティッシュコロンビア州	CAN	
STANDARD (標準)	DEU	ドイツ	DEU	全ユーザーにアクセス権あり
STANDARD (標準)	FRA	フランス	FRA	アクセス禁止
STANDARD (標準)	GBR	イギリス	GBR	グローバル セキュリティ設定済ユーザー
STANDARD (標準)	JPN	日本	JPN	アクセス禁止
STANDARD (標準)	NLD	オランダ	NLD	アクセス禁止
HANDS (安全衛生)	QC	カナダ - ケベック州	CAN	
STANDARD (標準)	USA	アメリカ	USA	全ユーザーにアクセス権あり

法定区域を追加して、独自に設定することもできます。たとえば、アメリカの 50 州を追加して、ほとんどのトランザクションを州単位で管理することができます。

トランザクション処理の法定区域の使い方

各個人に対して通常使う法定区域は、従業員 ID と雇用レコード番号が組み合わされた、現時点で有効な職務データ レコードにあるデータによって決まります。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理ビジネス プロセス機能のトランザクションの中には、通常個人に関連付けられている法定区域とは異なる区域が必要なものもあります。この場合は、トランザクションに法定区域を追加設定します。法定区域テーブルのトランザクション ビュー (通常は標準ビュー) を使って、そのトランザクションに適した法定区域のプロンプトを設定します。

REG_REGION がページ バッファにあると、地域編集と設定処理を実行することができます。

注: 国別の編集ロジックでは区域の国フィールド (関連表示) を必ず使用し、ユーザーがより詳細なレベルでその他の編集を行えるようにします。

デフォルト法定区域の設定

通常、法定区域は必須フィールドです。デフォルトの法定区域を自動設定する方法は、使用している PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のビジネス プロセスによって異なります。このデフォルトはいつでも上書きできます。次の表は、デフォルトの法定区域が自動設定されるコンポーネントと、その法定区域のデフォルト値が指定されているコンポーネントの一覧です。

コンポーネント	法定区域のデフォルト値が指定されているコンポーネント
ポジション データ (POSITION_DATA)	プライマリ権限リスト基本設定
職務データ (JOB_DATA)	ポジション データ (労働者がポジションに割り当てられている場合) または プライマリ権限リスト基本設定 (労働者がポジションに割り当てられていない場合)
保険事故の詳細 (HS_INCIDENT)	プライマリ権限リスト基本設定
障害者データ (DISABILITY)	職務データ
事業所 (ESTABLISHMENT_DATA)	プライマリ権限リスト基本設定
新規人材募集の作成 (HRS_JOB_OPENING)	ポジション データ (人材募集がポジションに割り当てられている場合) または プライマリ権限リスト基本設定 (人材募集がポジションに割り当てられていない場合)

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 安全衛生モニター管理、「保険事故情報の作成と管理」

第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事レコードへの追加情報の入力」、「障害データの追跡管理」

第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「事業所の定義」、243ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジションの設定」、「ポジションの作成」

PeopleCode トランザクション処理への影響の確認

ほとんどのトランザクションは、法定トランザクション タイプが "STANDARD" です。ユーザーが指定した法定区域に基づき、職務データ コンポーネントの個人の法定区域に対して PeopleCode の編集ロジックが実行され、トランザクションの正しい PeopleCode が確定されます。この PeopleCode はページ上のプロセスで使われます。

注: 職務データ コンポーネントの "法定区域" は必須フィールドです。職務データ コンポーネントからは、セキュリティ アクセス権のある法定区域の STANDARD のリストだけを参照できます。

法定トランザクション タイプ "HANDS" ではカナダの各州も法定区域に含まれるため、安全衛生トランザクション（保険事故）ではこのタイプが使われます。プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントの法定区域の値が、保険事故データ ページとレポート ページのデフォルト値として使用されます。

REG_REGION のプロンプト編集トランザクション ビューの作成

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理にはトランザクション タイプが 2 つあるため（従業員トランザクション用の STANDARD と安全衛生トランザクション用の HANDS）、それぞれのタイプに対して異なるプロンプト ビューが設定されています。トランザクションを追加する場合は、既存のビューを使って新しいプロンプト ビューを作成します。

```

REG_STANDARD_VW
SELECT
  S. OPRID,
  R. REG_REGION,
  R. DESCR50,
  R. COUNTRY
FROM PS_REG_REGION_TBL R,
     PS_REG_TRX_REGION T,
     PSOPRDEFN S
WHERE T. REG_TRX = 'STANDARD'
AND T. REG_REGION = R. REG_REGION
AND (R. REG_AVAIL = 'ALL'
     OR (R. REG_AVAIL = 'GBL'
         AND S. OPRID = (SELECT OPRID FROM PS_SCRTY_TBL_GBL G
                          WHERE S. OPRID = G. OPRID
                          AND G. COUNTRY = R. COUNTRY)))
REG_HANDS_VW

```

```

SELECT
S. OPRID,
R. REG_REGION,
R. DESCR50,
R. COUNTRY
FROM PS_REG_REGION_TBL R,
     PS_REG_TRX_REGION T,
     PSOPRDEFN S
WHERE T. REG_TRX = 'HANDS'
AND T. REG_REGION = R. REG_REGION
AND (R. REG_AVAIL = 'ALL'
     OR (R. REG_AVAIL = 'GBL'
         AND S. OPRID = (SELECT OPRID FROM PS_SCRTY_TBL_GBL G
                          WHERE S. OPRID = G. OPRID
                          AND G. COUNTRY = R. COUNTRY)))

```

注: 必要であれば、トランザクション ビューを新規作成することができます。新規ビューを作成するには、“名前をつけて保存”を使ってハードコードのトランザクション名を変更します。

ヒューマン リソース管理トランザクションへの REG_REGION の追加

次に、法定区域をヒューマン リソース管理のトランザクションと関連付ける例を 2 とおり示します。

例 - 職務データ

職務データ コンポーネントで REG_REGION を個人に関連付けるには、次の手順に従います。

1. REG_REGION フィールドを JOB レコードに追加します。
2. REG_REGION フィールドを必須フィールドにします。
3. フィールドをレコードに追加してから、標準ビュー (REG_STANDARD_VW) からプロンプト編集を定義します。
4. このフィールドを JOB_DATA1 ページに追加します。

[法定区域] を検索すると、ユーザーにアクセス権のある法定区域のみが表示されます。

例 - 安全衛生

安全衛生の保険事故に法定区域を関連付けました。法定区域は必須フィールドです。安全衛生でセットID を主キーとして持つ設定コンポーネントから返される値は、全てこのフィールドによって管理されます。たとえば、保険事故の法定区域を GBR (イギリス) と指定すると、“保険事故の詳細”の詳細ページ (HS_INC_DESCRIPTION) の [危険事象] には、GBR のコードのみが表示されます。安全衛生の保険事故のプロンプト編集ロジックは REG_HANDS_VW です。

警告: 労働災害にリンク設定した値は全て必ず同じ法定区域に属するようにしてください。法定区域が変更されて新規の法定区域のセットID が元のものとは異っている場合 (更新/表示モードで作業しているときなど)、リンクされた設定フィールドや設定値は、データの一貫性を保つために全て削除されます。たとえば、法定区域 USA (アメリカ) のセットID は USA で、法定区域 GBR (イギリス) のセットID は GBR です。保険事故の法定区域 USA を GBR に変更すると、リンク設定された“保険事故の詳細”コンポーネントの内容は全て失われます。法定区域を変更しようとする、続行して値を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

安全衛生では、各法定区域に対して次のセットID がマッピングされています。

法定区域	セットID
BEL	STD
CANAB	CAN
CANBC	CANBC
CANMB	CAN
CANNB	CAN
CANNF	CAN
CANNS	CAN
CANON	CAN
CANQC	CAN
CANSK	CAN
DEU	DEU
FRA	FRA
GBR	GBR
JPN	STD
NLD	STD
USA	USA

上記の法定区域は、“テーブルセット コントロール” のレコード コントロール ページ (SET_CNTRL_TABLE1) でそれぞれのセットID にマッピングされています。

安全衛生に特有のコード セットや値がある法定区域は、常にそれと同じ名前のセットID にマッピングされます。これに該当する国や地域は、CANBC (カナダのブリティッシュ コロンビア州)、DEU (ドイツ)、FRA (フランス)、GBR (イギリス)、および USA (アメリカ) です。

同じ名前のセットID にマッピングされない法定区域は 2 種類あります。現在、ブリティッシュ コロンビアを除くカナダの州には特定の州コードや値が設定されておらず、全て CAN というセットID にマッピングされています。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で直接サポートされているその他の国には区域固有のコードや値が現在設定されておらず、STD という一般セットID にマッピングされています。これに該当する国は、JPN (日本)、BEL (ベルギー)、および NLD (オランダ) です。

法定区域に関するトランザクションのその他の修正

次の PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理コンポーネントにも法定区域が追加されています。

- “ポジション データ”: プロンプト編集として REG_STANDARD_VW を共に使用します。
- “人材募集”: プロンプト編集として REG_STANDARD_VW を共に使用します。
- “事業所”: プロンプト編集として REG_STANDARD_VW を共に使用します。
- “プライマリ権限リスト基本設定”: プロンプト編集として REG_STANDARD_VW を共に使用します。
- “障害者データ” または “Accomodation Request” (環境改善リクエスト): プロンプト編集として REG_STANDARD_VW を共に使用します。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジションの設定」、「ポジションの作成」

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「事業所の定義」、243ページ

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268ページ

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事レコードへの追加情報の入力」、「障害データの追跡管理」

第 5 章

HRMS セキュリティの設定と管理

この章では、PeopleSoft のセキュリティおよび HRMS のセキュリティについて概説し、以下の方法について説明します。

- データ権限セキュリティの導入
- ツリー ベース権限の設定と割り当て
- ロール ベース データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て
- セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ
- データ権限セキュリティの照会
- 管理者用データ権限セキュリティの設定
- ユーザー ID の作成とロック
- 採用管理ソリューションのセキュリティ設定
- 国別機能のセキュリティ設定
- データ権限セキュリティの修正

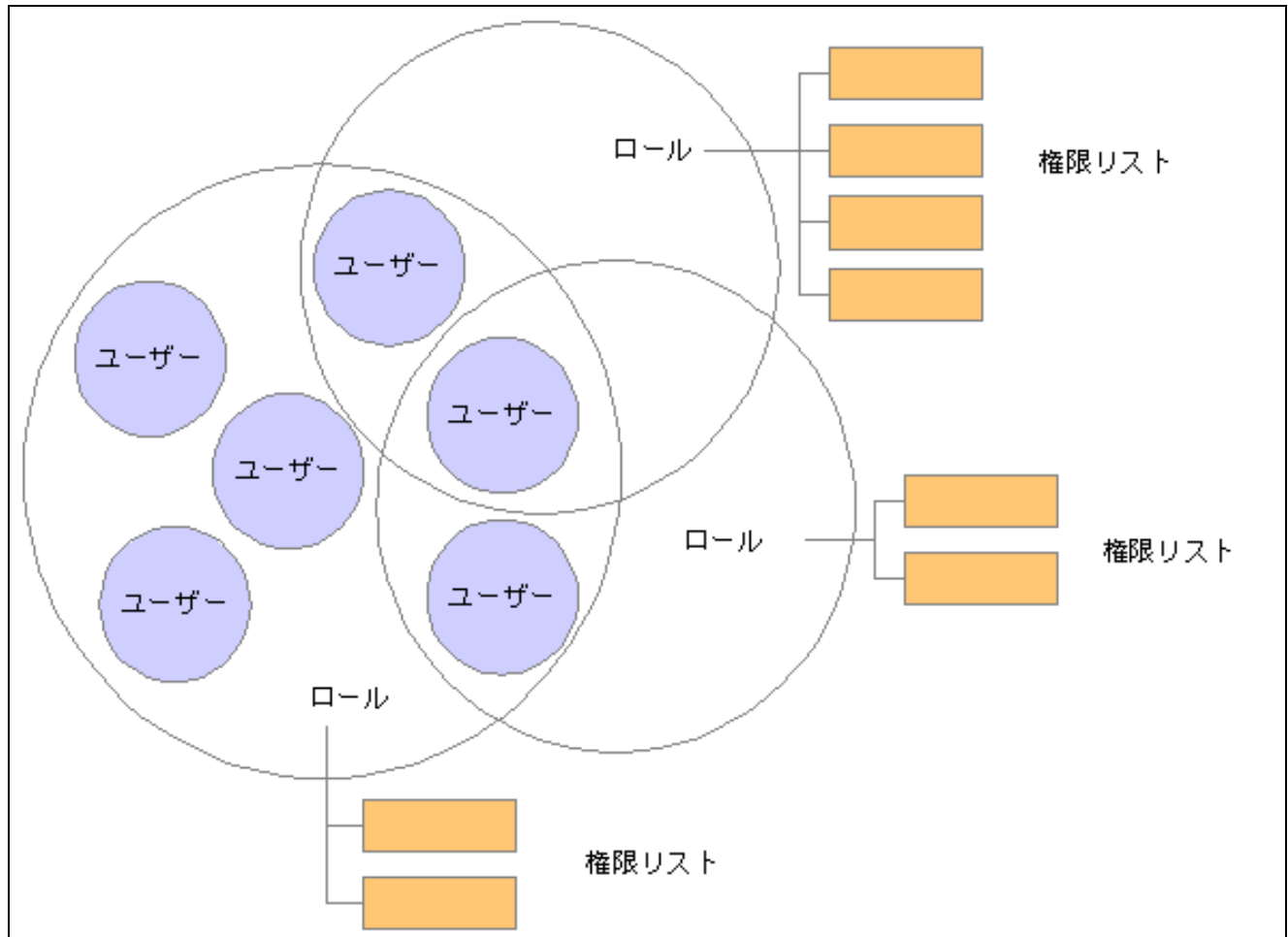
注: セルフ サービスのトランザクションでは、この章で説明するデータ権限セキュリティの他に、セルフ サービスに特有のセキュリティ機能が使用される場合があります。

関連項目:

第 31 章、「セルフサービストランザクションの設定と使い方」、727ページ

PeopleSoft のセキュリティについて

PeopleSoft のセキュリティは、権限リストとロールを基準にしています。次の図は、権限リストとロールの組み合わせによってユーザー セキュリティ プロファイルが作成される様子を示しています。



権限リストとロールによってユーザーのセキュリティ プロファイルが作成されます。

セキュリティを管理するには、次の手順に従います。

1. 権限リストを作成します。
2. ロールを作成し、ロールに権限リストを関連付けます。
3. ユーザー ID を作成し、ユーザー ID に権限リストとロールを関連付けます。

権限リストの作成

権限リストを作成し、メニュー、コンポーネント、コンポーネント インターフェイス、ページ、グローバル機能へのアクセス権を、他の情報と共に権限リストに割り当てます。権限リストはロールに割り当てられますが、ユーザーに直接割り当てられる権限リストもあります。

権限リスト コンポーネント (ACCESS_CNTRL_LISTX) および権限リストのコピー コンポーネント (PERMISSION_SAVEAS) を使用して、権限リストを作成します。

一般	ページ	PeopleTools	プロセス	サインオン時間	コンポーネント インターフェイス
----	-----	-------------	------	---------	------------------

権限リスト: HCDPALL

説明: Data Permission All

一般オプション

ナビゲータ ホームページ: 

☐ アプリケーション サーバーの起動可

☐ メールによるパスワードの送信可

タイムアウト時間

☐ タイムアウトなし

☒ タイムアウト時間 (分)

権限リスト コンポーネントおよび権限リストのコピー コンポーネントを使用して権限リストを作成します。

注: 権限リストへのデータ権限の割り当ては、部門ツリー セキュリティ ページ (SCRTY_TABL_DEPT) および権限リスト別セキュリティ ページ (SCRTY_CLASS)で行います。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Setting Up Permission Lists」

ロールの作成

ロールを作成し、そのロールに権限リストを割り当てます。その権限リストに付与したアクセス権が、ロールの下に結合されます。たとえば、管理者に必要な複数の権限リストを管理者のロールに割り当てると、これらが結合され、管理者が必要とするシステムの全てのエレメントへのアクセス権が管理者に与えられます。ロールはユーザーに割り当てられます。

ロール コンポーネント (ROLEMAINT) およびロールのコピー コンポーネント (ROLE_SAVEAS) を使用して、ロールを作成します。

一般

権限リスト

メンバー

動的メンバー

ワークフロー

ロール権限

その他

ロール クエリー

ロール名:

Standard Non-Page Permissions

名称:

Standard Non-Page Permissions

権限リスト			
権限リスト	名称	定義の表示	
ELS_COMPONENTEN	Components Developed by ELS	定義の表示	+ -
HCSPCOMPINT	Standard Comp Intf Permissions	定義の表示	+ -
HCSPMSGCHN	Standard Message Channels	定義の表示	+ -
HCSPMSSCHG	Standard Mass Change Perm	定義の表示	+ -
HCSPPRCS	Standard Process Permissions	定義の表示	+ -
HCSPQUERY	Standard Query Permissions	定義の表示	+ -
HCSPSERVICE	Standard Service security	定義の表示	+ -
HCSPSIGNON	Standard Signon Times	定義の表示	+ -

権限リスト ページ (ROLE_CLASS) で権限リストをロールに割り当てます。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Setting Up Roles」

ユーザー ID の作成

ユーザー ID を作成し、ユーザー ID にロールと権限リストを割り当てることにより、必要に応じてシステムへのアクセス権を付与します。

ロールに割り当てられる権限リストに加えて、以下の 4 つの特定の権限リストが、“ユーザー プロファイル”の一般ページ (USER_GENERAL) でユーザーに直接割り当てられます。ロールに割り当てられる権限リストと異なり、この 4 つの権限リストはそれぞれ 1 つずつしかユーザーに割り当てられません。

- ナビゲータ ホームページ

ナビゲータ ホームページは、PeopleSoft ワークフローで使用されます。

- プロセス プロファイル

プロセス プロファイルには、PeopleSoft プロセス スケジューラの権限が含まれます。

- プライマリ

プライマリ権限リストでは、グローバル セキュリティが付与されます。

- 行セキュリティ

行セキュリティ権限リストでは、部門セキュリティ ツリーに基づくデータ権限セキュリティが付与されます。権限リストへのデータ権限の割り当ては、部門 ツリー セキュリティ ページで行います。

注: 権限リスト別セキュリティ ページでは、ロールに関連付ける権限リストにデータ権限を割り当てることができます。

一般	ユーザー ID	ロール	ワークフロー	オーディット	その他	ユーザー ID クエリー
ユーザー ID: PS 名称: [PS] Peoplesoft Superuser <div> <input type="checkbox"/> アカウントのロックアウト </div>						
ロケオン情報						
シンボリック ID: <input type="text" value="sa"/> <div> <input type="checkbox"/> 次回ロケオン時にエクスパイア </div>						
パスワード: <input type="password" value="*****"/>						
パスワードの確認入力: <input type="password" value="*****"/>						
ユーザー ID 別名: <input type="text"/>						
電子メールアドレスの編集						
一般属性						
言語コード: <input type="text" value="英語"/> <div> <input type="checkbox"/> エキスパート エントリを有効化 </div>						
通貨コード: <input type="text" value="アメリカドル"/>						
デフォルト モバイル ページ: <input type="text"/>						
権限リスト						
ナビゲータ ホームページ: <input type="text" value="HCSPNAVHP"/> 説明						
プライマリ権限リスト: <input type="text" value="HCPPALL"/> 説明						
プロセス プロファイル: <input type="text" value="HCSPPRFL"/> 説明						
行セキュリティ権限リスト: <input type="text" value="HCDPALL"/> 説明						

ユーザー プロファイル コンポーネントおよびユーザー プロファイルのコピー コンポーネントでユーザー ID を作成し、一般ページでナビゲータ ホームページ、プロセス プロファイル、プライマリ、および行セキュリティの各権限リストを直接ユーザー プロファイルに割り当てます。

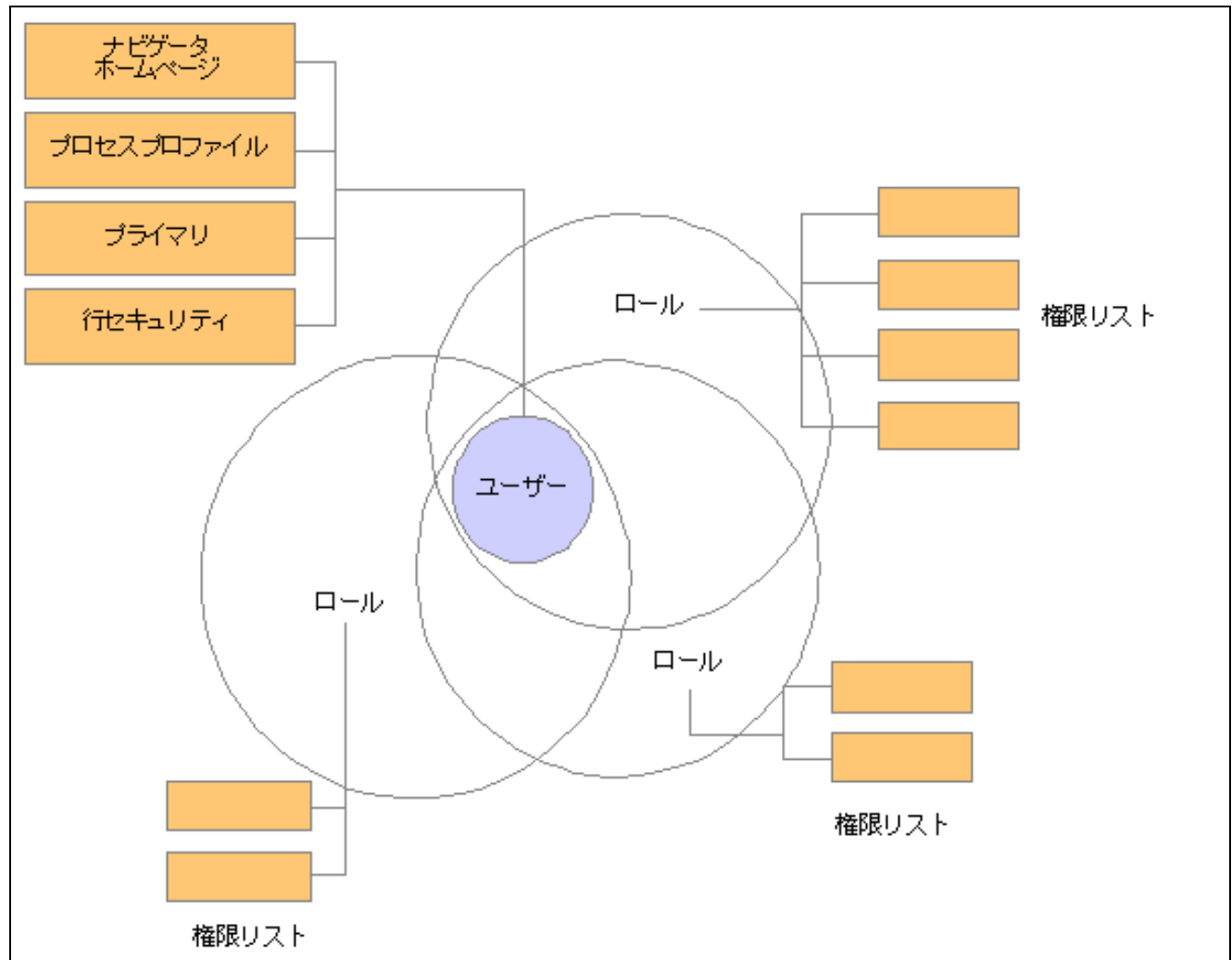
ロールと権限リストがユーザー ID の下に組み合わせられることにより、ユーザーにアクセス権が付けられます。たとえば、教育・研修の管理者には、管理者、講師、および従業員として必要なアクセス権を与えるため、管理者、講師、および従業員のロールを割り当てます。他の部門の管理者には、これと同じ管理者および従業員のロールを、それぞれの必要に応じた他のロールに加えて割り当てます。

“ユーザー プロファイル” のロール ページ (USER ROLES) を使用してユーザーにロールを割り当てます。

一般	ID	ユーザーロール	ワークフロー	オーディット	その他	ユーザー ID ケリー																																																																		
ユーザー ID: PS 名称: [PS] Peoplesoft Superuser																																																																								
<div> <div> 拡張 マイズ 検索 100 件表示 並び替え </div> <div> 最初 1-10/138 最後 </div> </div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ロール名</th> <th>名</th> <th>動的ロール</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AM Administrator</td> <td>Absence Mngmnt Administrator</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>AWE Administrator</td> <td>AWE Administrator</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>AppServer Administrator</td> <td>AppServer Administrator</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>Applicant</td> <td>Internal Applicant</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>Benefits Administrator</td> <td>[WF] Benefits Administrator</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>CS - Administrator</td> <td>CS - Administrator</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>CS Administrator NLD</td> <td>CS - Administrator Netherlands</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>Compensation Administ</td> <td>Compensation Administrator</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>Directory Administrator</td> <td>Directory Administrator</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>E&G Administrator</td> <td>Educ&Govt Administrator</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロール管理</td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <div> <div> 動的ロール ルール 実行サーバー: <input type="text"/> </div> <div> ロールのテスト リフレッシュ </div> <div> ロールの実行 </div> <div> プロセス モニター メッセージ モニター </div> </div>							ロール名	名	動的ロール				AM Administrator	Absence Mngmnt Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	AWE Administrator	AWE Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	AppServer Administrator	AppServer Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	Applicant	Internal Applicant	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	Benefits Administrator	[WF] Benefits Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	CS - Administrator	CS - Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	CS Administrator NLD	CS - Administrator Netherlands	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	Compensation Administ	Compensation Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	Directory Administrator	Directory Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-	E&G Administrator	Educ&Govt Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-
ロール名	名	動的ロール																																																																						
AM Administrator	Absence Mngmnt Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
AWE Administrator	AWE Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
AppServer Administrator	AppServer Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
Applicant	Internal Applicant	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
Benefits Administrator	[WF] Benefits Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
CS - Administrator	CS - Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
CS Administrator NLD	CS - Administrator Netherlands	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
Compensation Administ	Compensation Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
Directory Administrator	Directory Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			
E&G Administrator	Educ&Govt Administrator	<input type="checkbox"/>	ロール管理	+	-																																																																			

“ユーザー プロファイル” のロール ページでユーザー ID にロールを割り当てます。

次の図は、ユーザーのセキュリティ プロファイルが、割り当てられたロールおよびそのロールに割り当てられた権限リストと、ユーザーに直接割り当てられた権限リストによって構成される様子を示しています。



ユーザー セキュリティ プロファイルは、ロールとそのロールに割り当てられた権限リストによる権限の組み合わせによって構成されます。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Administering User Profiles」

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

HRMS のデータ権限セキュリティについて

データ権限セキュリティとは、システム内のデータ行へのアクセスの制御を指します。PeopleSoft Enterprise HRMS では、以下の種類のデータへのアクセスを制御できます。

- 個人
 - 従業員

- 非従業員
- 職務のある関係者
- 職務のない関係者

注: 職務のない関係者のデータは、職務のある関係者のデータとは異なる方法で保護されます。

- 採用管理の人材募集
- 部門

注: ポジション管理を使用している場合は、部門の行セキュリティによって、部門の予算とポジションが保護されます。部門コンポーネントはデータ権限によっては保護されないため、このコンポーネントへのアクセスを制限することによって部門定義へのアクセスを制御するか、検索レコードを DEPT_SEC_SRCH に変更します。

データ セキュリティとデータ取得

システムでは、セキュリティ検索ビューを使用してデータ権限セキュリティが適用されます。この適用方法を理解するには、コンポーネントにアクセスしたときのデータ取得方法を理解することが役立ちます。

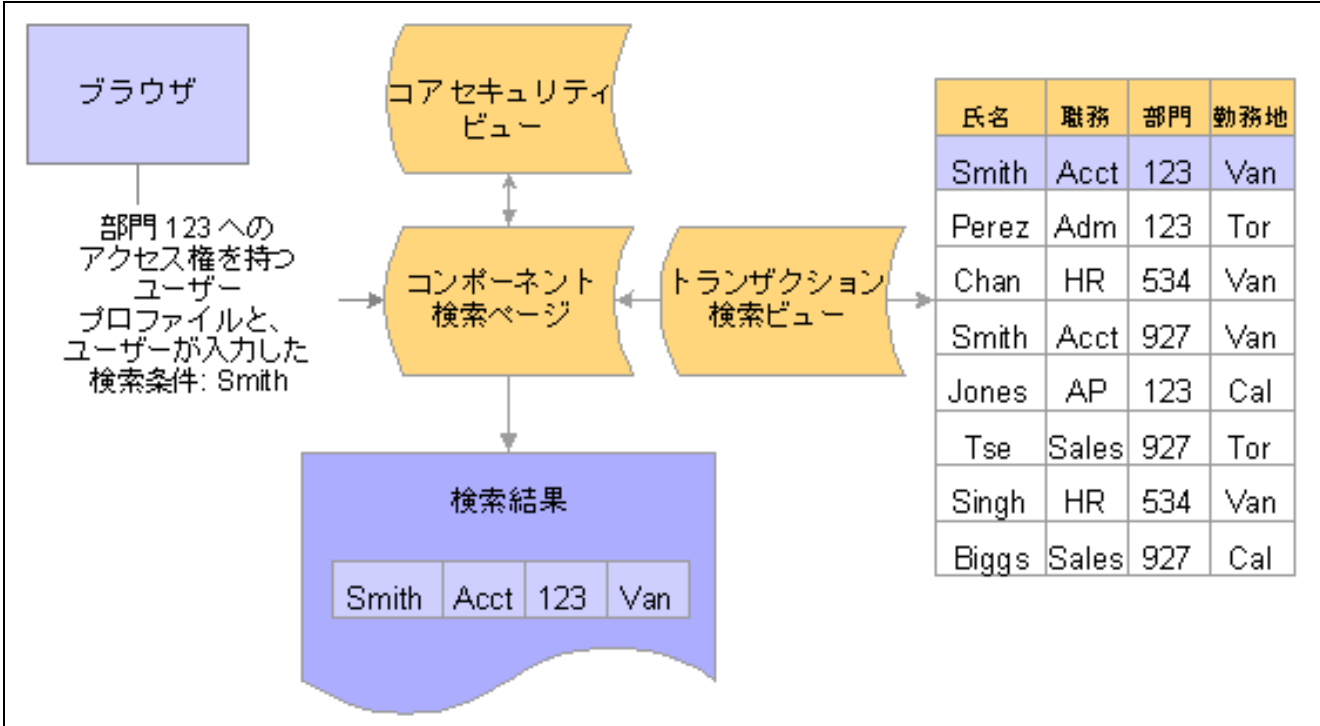
PeopleSoft Enterprise HRMS のコンポーネントを開くと、検索ページが表示されます。この検索ページには検索レコードが表示されます。表示されるフィールドは、各データ行を個別に識別する検索キー フィールドと代替キー フィールドです。キー フィールドまたは代替キー フィールドに入力された情報を基にして、参照または操作したいデータ行が検索されます（ただし、追加アクションの場合はキーを入力すると新規データ行が作成されます）。たとえば、キー フィールドとして従業員 ID、代替キーとして氏名が使われている検索ページの場合を考えてみます。氏名フィールドに “Smith” と入力すると、氏名フィールドのデータが “Smith” のデータ行が全て検索されます。

検索レコードも、データ権限セキュリティの適用に使用されます。機密データを含むコンポーネントの検索ビューには、データ アクセスを制御する検索ビューも含まれています。

ユーザー ID およびユーザー プロファイルに関連付けられた権限リストの値を含むユーザーのセキュリティ プロファイルが、ユーザーが検索ページで入力した値と共に SQL の SELECT ステートメントに挿入されます。検索ページとそのユーザーのデータ権限リストの両方の条件に一致するデータが取得されます。ユーザーの権限リストにデータ アクセスが許可されていない個人のデータは取得されません。

上記の例を使うと、氏名代替キー フィールドに “Smith” と入力した場合、Smith という名前の人のデータの中からアクセスが許可されているものだけが取得されます。

次の図は、データ取得のプロセスを示しています。



ユーザー プロファイル情報、検索条件、およびセキュリティビューにより、データ権限セキュリティが適用されます。

注: プロセスとクエリーのセキュリティは、ほぼ同じ方法で適用されます。

全ての PeopleSoft Enterprise HRMS コンポーネントでデータ権限セキュリティが必要なわけではありません。セキュリティ要件によっては、ページ全体、コンポーネント全体、あるいはメニュー全体に対するアクセスを制限するアプリケーション セキュリティを使うだけで間に合う場合もあります。給与情報などの機密情報を含むコンポーネントに限って、セキュリティ検索ビューを使います。SQL ビューとして定義されている検索レコードであれば (SQL テーブルとして定義されている検索レコードもあります)、個人データにアクセスするコンポーネントに対して必要に応じてデータ権限セキュリティを追加できます。

コンポーネントに設定できる検索レコードは 1 つだけです。1 つのコンポーネントに複数の検索レコードを関連付ける場合 (たとえば、あるユーザーにはデータ レベル セキュリティを設定し、別のユーザーには設定しないなど)、検索レコードごとにコンポーネントを異なるメニューで再設定し、アプリケーション セキュリティを使用して目的のコンポーネントに対するアクセス権を許可します。

コア セキュリティ ビュー

PeopleSoft では、個人の管理を行うコンポーネント用に、以下のコア セキュリティ ビューが提供されています。

全ての個人タイプのデータを保存するコンポーネント用のセキュリティ ビュー			
タイプ	将来の日付のセキュリティ	セキュリティ ビュー	返される行
コンポーネント検索ビュー	含む	PERALL_SEC_SRCH	EMPLID および異なる検索アイテムごとに 1 行。将来の日付の行を含む。
SQR ビュー	含まない	PERALL_SEC_SQR	EMPLID ごとに 1 行。
クエリー ビュー	含まない	PERALL_SEC_QRY	EMPLID ごとに 1 行。

職務のある個人のデータを保存するコンポーネント用のセキュリティビュー			
タイプ	将来の日付のセキュリティ	セキュリティビュー	返される行
コンポーネント検索ビュー	含む	PERS_SRCH_GBL	EMPLID と EMPL_RCD の組み合わせ、有効日、および異なる検索アイテムごとに 1 行。将来の日付の行を含む。
コンポーネント検索ビュー	含む	PERS_SRCH_EMP	従業員の場合のみ EMPLID ごとに 1 行。将来の日付の行を含む。
コンポーネント検索ビュー	含まない	PERS_SRCH_CURR	EMPLID ごとに 1 行。
SQR ビュー	含まない	FAST_SQR_SEC_VW	EMPLID ごとに 1 行。
クエリービュー	含まない	PERS_SRCH_QRY	EMPLID ごとに 1 行。
プロンプトビュー	含まない	EMPL_ACTV_SRCH	(システム日付の時点で) アクティブな現在の職務データレコードがある個人の場合、EMPLID ごとに 1 行。
プロンプトビュー	含まない	WORKER_PROMPT	(コンポーネントの有効日の時点で) アクティブな現在の職務データレコードがある従業員および非従業員の場合、EMPLID ごとに 1 行。

複数の職務データレコードが割り当てられる可能性のある個人のデータを保存するコンポーネント用のセキュリティビュー			
タイプ	将来の日付のセキュリティ	セキュリティビュー	返される行
コンポーネント検索ビュー	含む	EMPLMT_SRCH_GBL	EMPLID と EMPL_RCD の組み合わせ、有効日、および異なる検索アイテムごとに 1 行。将来の日付の行を含む。
コンポーネント検索ビュー	含む	EMPL_SRCH_EMP	従業員の場合のみ EMPLID と EMPL_RCD の組み合わせごとに 1 行。将来の日付の行を含む。
SQR ビュー	含む	FAST_SQRFUT_SEC	EMPLID ごとに 1 行。将来の日付の行を含む。
SQR ビュー	含まない	FAST_SQR_SEC_VW	EMPLID と EMPL_RCD の組み合わせごとに 1 行。

複数の職務データ レコードが割り当てられる可能性のある個人のデータを保存するコンポーネント用のセキュリティ ビュー			
タイプ	将来の日付のセキュリティ	セキュリティ ビュー	返される行
クエリー ビュー	含まない	EMPLMT_SRCH_QRY	EMPLID と EMPL_RCD の組み合わせごとに 1 行。
プロンプトビュー	含まない	PERJOB_PROMPT	(コンポーネントの有効日の時点で)アクティブな現在の職務データレコードがある個人の場合、EMPLID ごとに 1 行。

職務のない個人のデータを保存するコンポーネント用のセキュリティ ビュー			
タイプ	将来の日付のセキュリティ	セキュリティ ビュー	返される行
コンポーネント検索ビュー	該当なし	POI_SEC_SRCH	EMPLID、POI_TYPE、および異なる検索アイテムごとに 1 行。
SQR ビュー	該当なし	POI_SEC_SQR	EMPLID および POI_TYPE ごとに 1 行。
クエリー ビュー	該当なし	POI_SEC_QRY	EMPLID および POI_TYPE ごとに 1 行。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer

セキュリティ データ

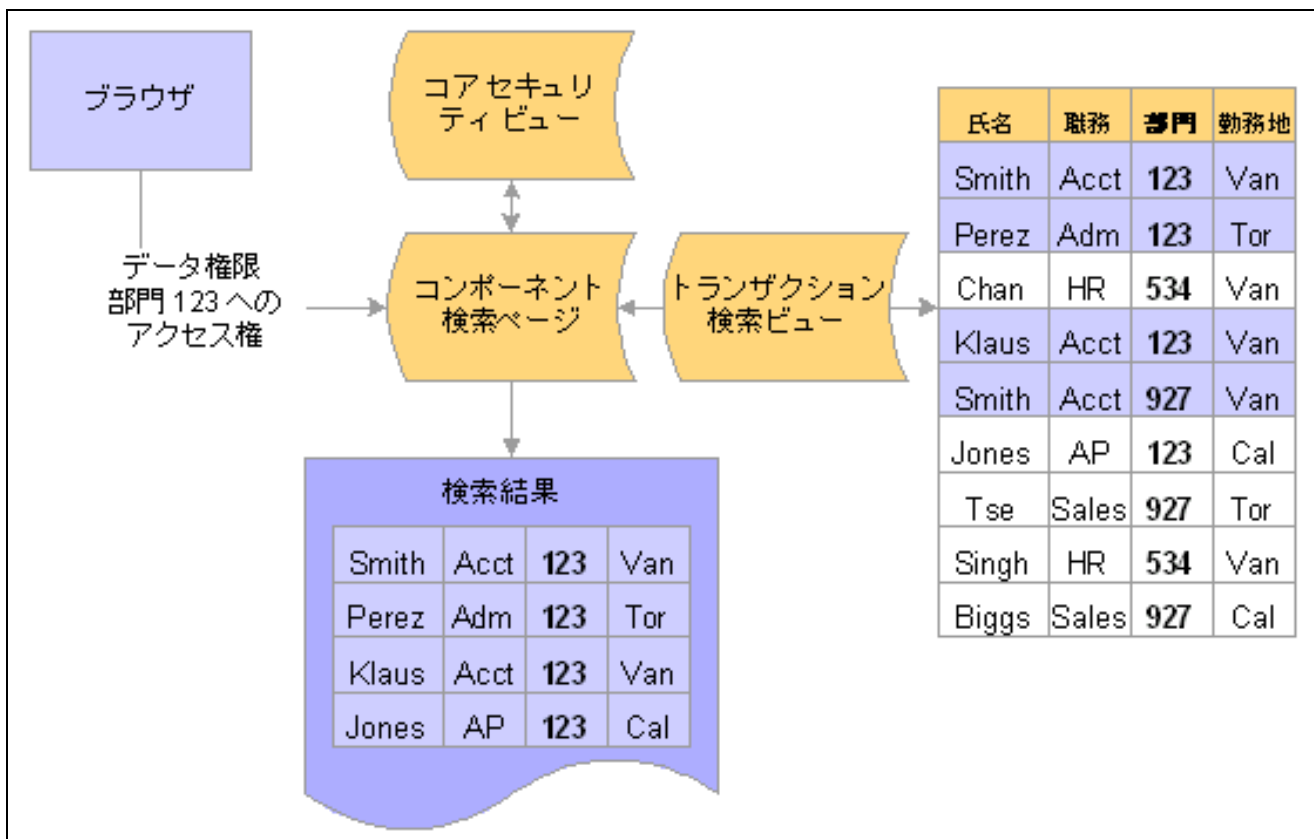
データ権限は、トランザクションとユーザーの 2 つの側面から制御されます。

トランザクション セキュリティ データ

トランザクション データは、保護される側のデータです。トランザクション データ行の一定のトランザクション フィールドは、その行へのアクセスのセキュリティを適用するために使用されます。このようなフィールドのデータが、トランザクション セキュリティ データと呼ばれます。トランザクション セキュリティ データの値がユーザーがアクセス可能な値 (ユーザー セキュリティ データ) と一致すると、そのデータ行全体がユーザーにとって利用可能になります。

ユーザーがコンポーネント検索ページにアクセスすると、セキュリティ検索ビューによってデータ行にフィルタがかけられ、ユーザーがアクセス可能なトランザクション セキュリティ データ値を持つデータ行のみが表示されます。

次の図は、組織内の個人データを保護するため、部門フィールドがトランザクション セキュリティ データとして使用されていることを示しています。



部門フィールドが、データ行を保護するトランザクション値になっています。

次の表は、トランザクション データの入力と管理を行うコンポーネント、トランザクション データが保存されるレコード、およびトランザクション セキュリティ データとして使用可能なフィールドを示しています。

データ タイプ	データを入力または管理するトランザクション コンポーネント	トランザクション データを保存するレコード	トランザクション セキュリティ データとして使用可能なフィールド
部門	部門コンポーネント (DEPARTMENT_TBL)	DEPT_TBL	<ul style="list-style-type: none"> セットID 部門
人材募集	人材募集 ページ (HRS_JO_360)	HRS_JOB_OPENING	<ul style="list-style-type: none"> 会社コード ビジネス ユニット 部門 ID 勤務地

データ タイプ	データを入力または管理するトランザクション コンポーネント	トランザクション データを保存するレコード	トランザクション セキュリティ データとして使用可能なフィールド
<ul style="list-style-type: none"> 従業員 非従業員 職務のある関係者 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員情報の作成コンポーネント (JOB_DATA_EMP) 非従業員情報の作成コンポーネント (JOB_DATA_CWR) 関係者情報の追加コンポーネント (JOB_DATA_POI) 職務データコンポーネント (JOB_DATA) 	JOB	<ul style="list-style-type: none"> 雇用情報(従業員、非従業員、または関係者) 法定区域 会社コード ビジネス ユニット 部門 勤務地 給与プラン 支給グループ (Payroll for North America を使用している場合)
職務のない関係者	<ul style="list-style-type: none"> 関係者情報の追加コンポーネント (PERS_POI_ADD) 関係者情報の管理コンポーネント (PERS_POI_MAINTAIN) 	PER_POI_SCRTY	<ul style="list-style-type: none"> 関係者タイプ 関係者タイプとビジネス ユニット 関係者タイプと機関 関係者タイプと会社コード

注: 個人については、雇用形態にかかわらず、最初は全て個人情報の追加コンポーネント (PERSONAL_DATA) に入力し、ここで個人情報の入力と ID の割り当てを行います。これらのページでは、トランザクション セキュリティ データは取得されません。トランザクション セキュリティ データは、個人の雇用情報の詳細を入力するコンポーネントで取得されます。

注: 職務データレコードまたは関係者タイプレコードを作成せずに個人情報を追加した場合、その個人は関係者タイプが不明の、職務のない関係者として保存されます。この個人データにアクセスし、その職務データまたは関係者タイプレコードを作成するには、タイプが不明の関係者に対するデータ アクセス権のあるユーザーが組織内にいなければならない、いない場合、このデータはアクセス不能になります。

システムに個人データを入力するユーザーは、個人データの入力時にその職務データまたは関係者タイプレコードを作成および保存しないとどうなるかを理解する必要があります。

従業員情報の作成コンポーネント、非従業員情報の作成コンポーネント、関係者情報の追加コンポーネント、または関係者情報の管理コンポーネントで個人のトランザクション レコードが完成し保存されると、その個人の不明という関係者タイプは削除されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理での個人情報の追加」、「個人情報の追加」

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理での個人情報の追加」、「職務のない関係者のデータへのアクセスの管理」

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加」、「従業員、非従業員、および関係者の雇用データの追加」

ユーザー セキュリティ データ

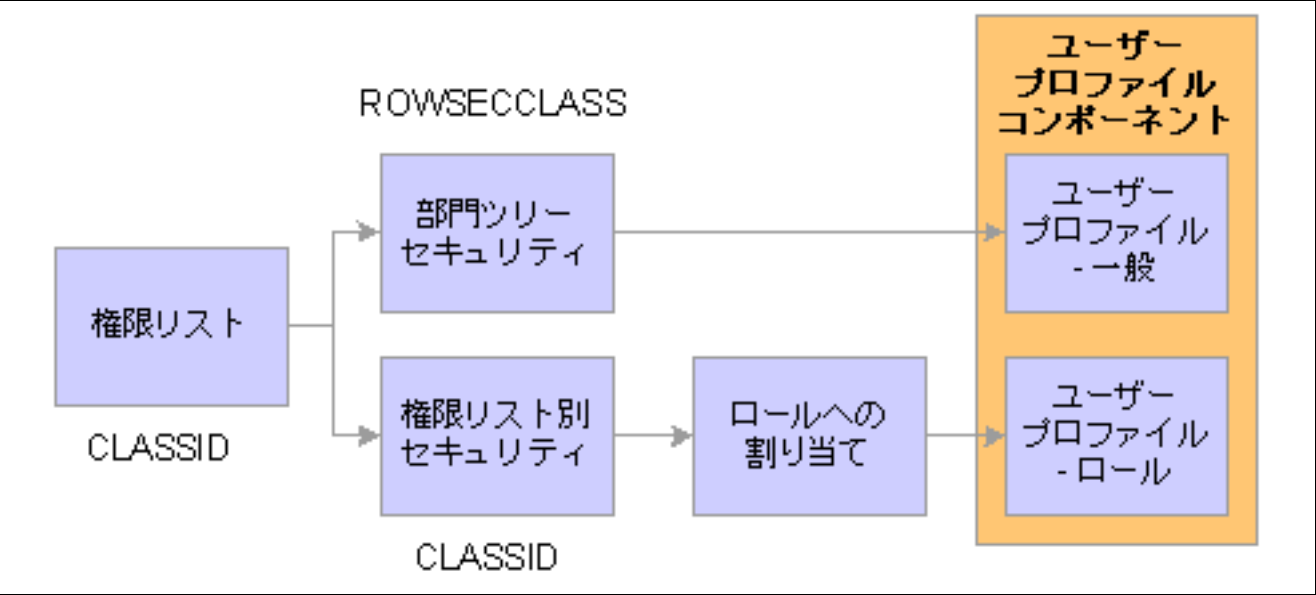
ユーザー セキュリティ データは、ユーザーのアクセス権に関するデータです。これを使用して、ユーザーがアクセス権を与えられたデータ以外にアクセスできないようにすることができます。HRMS データ権限のユーザー セキュリティ データは、権限リストに割り当てるデータ権限と、権限リストを割り当てるロールとユーザーから成ります。

データ権限は、行セキュリティ権限リスト (ROWSECCLASS) および通常の (ロール ベースの) 権限リスト (CLASSID) に付与されます。どちらの権限リストも、権限リスト コンポーネントおよび権限リストのコピー コンポーネントを使用して作成します。

権限リスト コンポーネントで権限リストを作成する場合は、アプリケーションの複数の側面に対してセキュリティを割り当てることができます。データ権限の割り当ては、別途部門ツリー セキュリティ ページおよび権限リスト別セキュリティ ページで行います。

注: 部門ツリー セキュリティ コンポーネントに権限リストを追加すると、ROWSECCLASS として保存されます。

以下の図は、権限リストが作成され、データ権限を割り当てられて、ユーザーに割り当てられる様子を示しています。



権限リストを作成し、ここにデータ権限を割り当て、これをユーザーに割り当てます。

以下の表は、データ権限が割り当てられたロール ベースの権限リストと、行セキュリティ権限リストの主な違いを示しています。

行セキュリティ権限リスト	ロール ベース権限リスト
“ユーザー プロファイル” の一般ページにある [行セキュリティ権限リスト] フィールドでユーザーに割り当てられます。	ロールを使用してユーザーに割り当てられます。
1 ユーザーにつき 1 つしか割り当てられません。	ユーザーに複数のロール ベース権限リストを割り当て、各リストのデータアクセス権を組み合わせることができます。

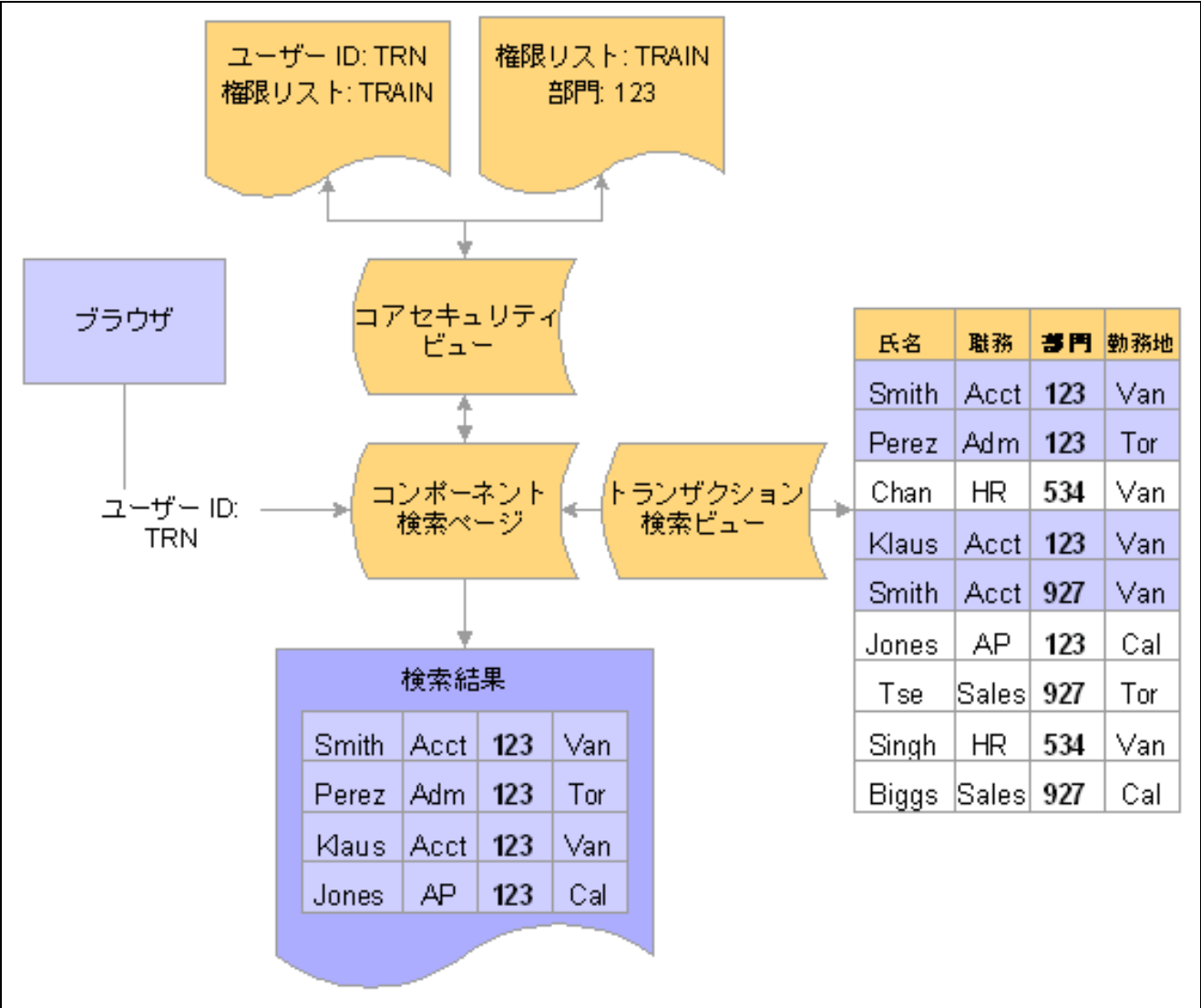
行セキュリティ権限リスト	ロール ベース権限リスト
<p>部門ツリー セキュリティ ページで割り当てられたデータ権限だけが含まれます。</p> <p>ユーザーは、権限リストコンポーネントで権限リストに付与されたアプリケーション アクセス権、または権限リスト別セキュリティ ページで付与されたデータアクセス権は利用できません。</p>	<p>権限リスト別セキュリティ ページで割り当てられたデータアクセス権、および権限リストコンポーネントで権限リストに付与されたアプリケーション アクセス権が含まれます。</p> <p>ユーザーは、部門ツリー セキュリティ ページで割り当てられたデータ権限は利用できません。</p>
<p>部門セキュリティ ツリー ベースのセキュリティだけを含めてください。</p>	<p>部門セキュリティ ツリー ベース以外のセキュリティのみ含められます。</p>

注: 同じ権限リストを行セキュリティ権限リストとロール ベース権限リストとして使用することができます。これにはその権限リストを、部門ツリー セキュリティ コンポーネントと権限リスト別セキュリティ コンポーネントの両方に追加してから、“ユーザー プロファイル” の一般ページとロールを使用してユーザーに追加します。

注: システムでは、行セキュリティ権限リストに関連付けられた、ツリー ベース以外のセキュリティも認識されます。以前のリリースでツリー ベース以外のセキュリティを使用するようシステムを変更している場合も、必要なのはカスタマイズしたテーブルをインポートして、行セキュリティ権限リストおよびセキュリティ定義を SJT_CLASS に取り込むことです。引き続き “ユーザー プロファイル” の一般ページの [行セキュリティ権限リスト] フィールドで、権限リストをユーザーに割り当てることができます。

システムを初めて使用する場合、またはツリー ベース以外のセキュリティを初めて使用する場合は、ロール ベース権限リストを使用することをお勧めします。こちらの方が、柔軟性は大幅に高くなります。

次の図は、検索ページで、ユーザーに割り当てられた権限リストと、そのリストによってユーザーに与えられるデータ権限が判別される様子を示しています。



ユーザーに割り当てられた権限リストとそのリストによって与えられるデータ権限が判別された後に、一致するデータ行が取得されます。

次の表は、ユーザー セキュリティ データの入力と管理を行うページと、ユーザー セキュリティ データが保存されるレコードを示しています。

データ タイプ	データを入力または管理するセキュリティ ページ	ユーザー セキュリティ データが保存されるレコード
行セキュリティ権限リスト	部門ツリー セキュリティ ページ	SCRTY_TBL_DEPT このデータは SJT_CLASS_ALL にロードされます。
ロール ベース権限リスト	権限リスト別セキュリティ ページ	SJT_CLASS このデータは SJT_CLASS_ALL にロードされます。

データ タイプ	データを入力または管理するセキュリティ ページ	ユーザー セキュリティ データが保存されるレコード
ロールに割り当てられる権限リスト	“ロール” – 権限リスト ページ	PSROLECLASS このデータは SJT_OPR_CLS にロードされます。
ユーザーに割り当てられるロール	“ユーザー プロファイル” – 一般ページ	PSROLEUSER このデータは SJT_OPR_CLS にロードされます。
ユーザーに割り当てられる行セキュリティ権限リスト	“ユーザー プロファイル” – 一般ページ	PSOPRDEFN このデータは SJT_OPR_CLS にロードされます。

注: PSROLECLASS、PSROLEUSER、PSOPRDEFN のデータは、USER PROFILE メッセージと ROLE_MAINT メッセージを有効にしたとき、または SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスを実行したときのいずれかの場合に、システムによって自動的に SJT_OPR_CLS にロードされます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「PeopleSoft のセキュリティについて」、39 ページ

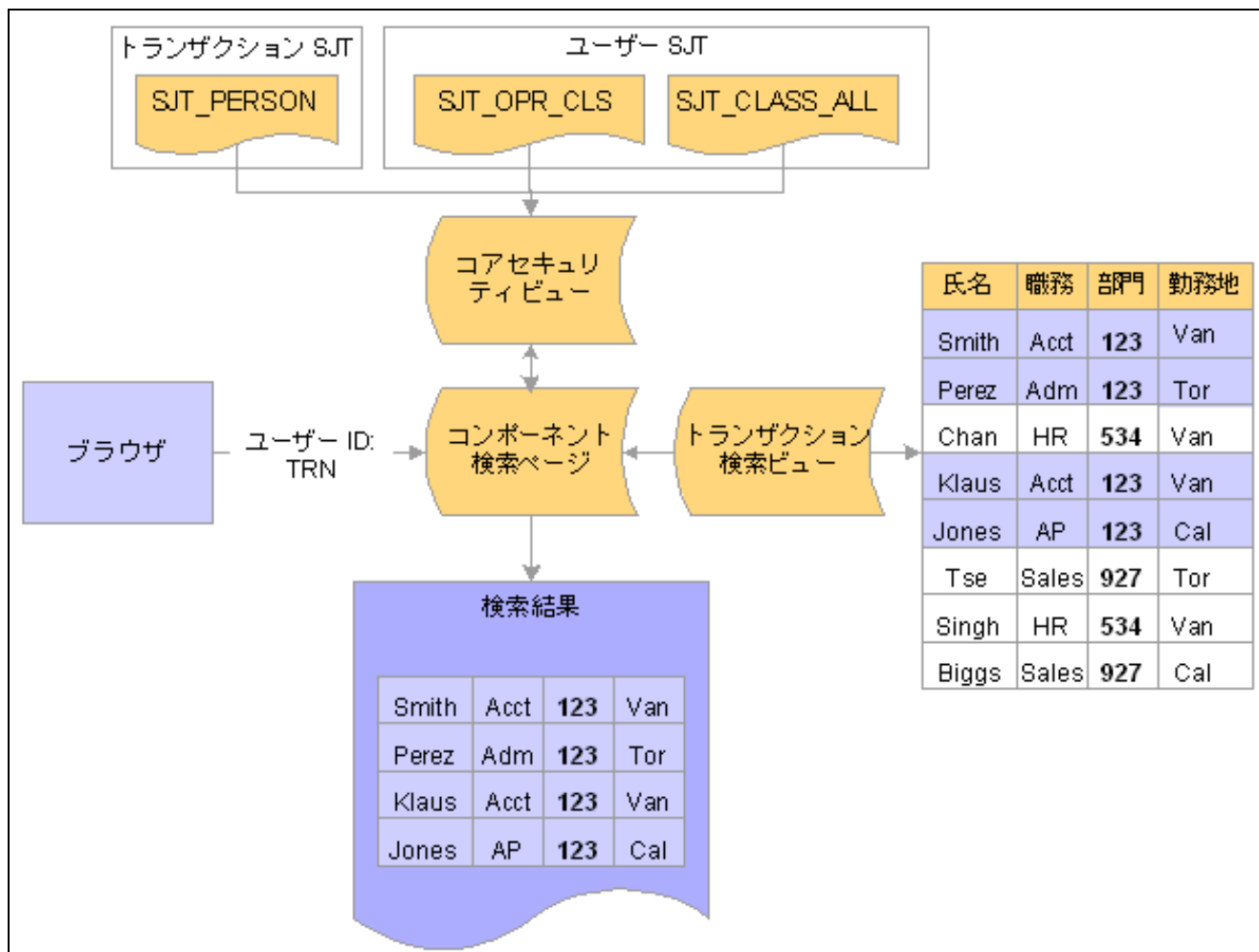
参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「ツリー ベースのデータ権限の設定と割り当て」、80 ページ

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「ロール ベース データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て」、88 ページ

セキュリティ結合テーブル

セキュリティ データは、トランザクションおよびユーザーのセキュリティ結合テーブル (SJT) に保存されます。セキュリティ検索ビューを使用してトランザクション コンポーネントにアクセスすると、セキュリティビューではセキュリティ結合テーブルが参照され、データがどのように保護されているか、およびユーザーにどのようなアクセス権があるかが判別されます。

次の図は、検索ページで、セキュリティ結合テーブルを使用してユーザーに割り当てられた権限リスト、およびそのリストによってユーザーに与えられるデータ権限が判別される様子を示しています。トランザクション セキュリティ結合テーブルは、コンポーネントに保存されるデータのタイプによって決定されます。



コア セキュリティビューでは、セキュリティ結合テーブルに保存されたセキュリティ データを使用して、ユーザーがアクセス可能なデータ行が決定されます。

トランザクション セキュリティ結合テーブル

各トランザクション セキュリティ結合テーブルには、各データ行を保護するために必要なトランザクション データが保存されます。セキュリティ結合テーブルには、キー フィールドの異なる組み合わせごとに 1 つのデータ行が保存されます。

トランザクション セキュリティ結合テーブルには、以下の 4 つがあります。

トランザクション セキュリティ結合テーブル	説明	保存するデータのソース	キー フィールド
SJT_PERSON SJT_PERSON_USF 注: SJT_PERSON はコアの職務データコンポーネントを使用している場合に使用され、SJT_PERSON_USF は USF の職務データコンポーネントを使用している場合に使用されます。	HCM システムにおける個人 (従業員、非従業員、職務のある関係者、および職務のない関係者) のトランザクション データを保存します。	<ul style="list-style-type: none"> • JOB • JOB_JR • PER_ORG_ASGN • PER_POI_SCRTY 	SCRTY_TYPE_CD SCRTY_KEY1 SCRTY_KEY2 SCRTY_KEY3 EMPLID
SJT_DEPT	HCM 部門のトランザクション データを保存します。	DEPT_TBL	SCRTY_TYPE_CD SCRTY_KEY1 SCRTY_KEY2 SCRTY_KEY3 SETID DEPTID
HRS_SJT_JO	システムにおける人材募集のトランザクション データを保存します。	<ul style="list-style-type: none"> • HRS_JOB_OPENING • HRS_JO_RTEAM_VW 	SCRTY_TYPE_CD SCRTY_KEY1 SCRTY_KEY2 SCRTY_KEY3 HRS_JOB_OPENING_ID

以下はキー フィールドの説明です。

- SCRTY_TYPE_CD (セキュリティ アクセス タイプ コード)

セキュリティ アクセス タイプは、トランザクション セキュリティ データに使用されるフィールドを示します。たとえば、セキュリティ タイプが 002 の場合は、勤務地によって個人データを保護することができます。

セキュリティ アクセス タイプは、セキュリティ アクセス セットごとに一意です。

- SCRTY_KEY1、SCRTY_KEY2、および SCRTY_KEY3 (セキュリティ キー)

キー セキュリティ フィールドによって、データ行を保護するセキュリティ トランザクション データが一意に識別されます。キー フィールドは、セキュリティ アクセス タイプによって決定されます。たとえば、個人データが勤務地によって保護される場合、キー セキュリティ フィールドは BUSINESS_UNIT (勤務地のプロンプト値) と LOCATION になります (この例の場合、3 番目のキー フィールドは不要です)。

- EMPLID

個人情報のページで割り当てられた、個人を一意に識別する番号です。

- SETID および DEPTID

部門のセットID と部門 ID です。

- HRS_JOB_OPENING_ID

人材募集ページで割り当てられた、人材募集を一意に識別する番号です。

各テーブルには、使用するセキュリティのタイプに応じて追加のフィールドが保存されます。

たとえば、セキュリティ アクセス タイプに職務部門ツリー (001) を使用して職務のある個人のデータを保護する場合、セキュリティ結合テーブル SJT_PERSON のキー フィールドは以下のようになります。

SCRTY_TYPE_CD	SCRTY_KEY1	SCRTY_KEY2	SCRTY_KEY3	EMPLID
001	部門セットID: SHARE	部門 ID: 123	該当なし	IN3321
001	部門セットID: SHARE	部門 ID: 534	該当なし	IN7894
001	部門セットID: USA	部門 ID: OKL	該当なし	US8390

たとえば勤務地 (002) と職務部門ツリーのように、2 つのセキュリティ アクセス タイプを使用した場合は、SJT_PERSON は以下のようになります。

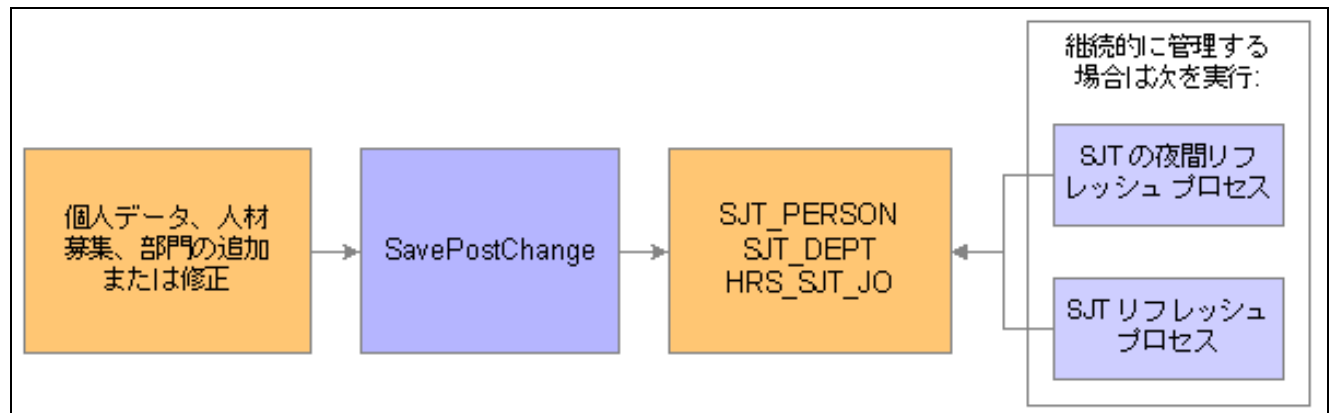
SCRTY_TYPE_CD	SCRTY_KEY1	SCRTY_KEY2	SCRTY_KEY3	EMPLID
001	部門セットID: SHARE	部門 ID: 123	該当なし	IN3321
002	勤務地ビジネス ユニット: FRA01	勤務地コード: PAR	該当なし	IN3321
001	部門セットID: SHARE	部門 ID: 534	該当なし	IN7894
002	勤務地ビジネス ユニット: AUS01	勤務地コード: SYD	該当なし	IN7894
001	部門セットID: USA	部門 ID: OKL	該当なし	US8390
002	勤務地ビジネス ユニット: USA	勤務地コード: KSC	該当なし	US8390

注: 勤務地および部門を一意に識別するために 3 つのキー フィールドは必要ないため、この例の場合、3 番目のセキュリティ キー フィールドは不要です。

初めてセキュリティ アクセス タイプを使用可能にするときには、SJT リフレッシュ プロセスを使用してトランザクション データをセキュリティ結合テーブルにロードします。最初のロードの後は、トランザクション コンポーネントでトランザクション セキュリティ データに変更を加えると、自動的に PeopleCode の SavePostChange を使用してテーブルが更新されます。必要に応じて SJT リフレッシュ プロセスを実行するか、夜間リフレッシュ プロセスによって、PeopleCode で更新されなかった変更を取り込むこともできます。

注: トランザクション コンポーネント サブページ SCRTY_SJT_SBP の SavePostChange PeopleCode によって、セキュリティ結合テーブルが更新されます。

次の図は、トランザクション セキュリティ結合テーブルが最新の状態に保たれる様子を示しています。



トランザクション セキュリティ結合テーブルを最新の状態に保ちます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「夜間リフレッシュプロセスの実行」、96 ページ

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「トランザクション セキュリティ結合テーブルリフレッシュプロセスの実行」、97 ページ

ユーザー セキュリティ結合テーブル

ユーザー セキュリティ結合テーブルには、ユーザーのデータ権限の決定に必要なユーザー セキュリティデータが保存されます。セキュリティ結合テーブルには、キー フィールドの異なる組み合わせごとに 1 つのデータ行が保存されます。

ユーザー セキュリティ結合テーブルには、以下の 2 つがあります。

ユーザー セキュリティ結合テーブル	説明	保存するデータのソース	キー フィールド
SJT_CLASS_ALL	部門ツリー セキュリティ ページまたは権限リスト別 セキュリティ ページでデータアクセス権が付与された全ての権限リストのデータ権限情報が保存されます。	<ul style="list-style-type: none"> • SCRTY_TBL_DEPT • SJT_CLASS 	CLASSID SCRTY_SET_CD SCRTY_TYPE_CD SCRTY_KEY1 SCRTY_KEY2 SCRTY_KEY3
SJT_OPR_CLS	データ権限のあるユーザーのユーザー ID と、そのユーザーに割り当てられたデータ権限を含む権限リストが保存されます。	<ul style="list-style-type: none"> • PSOPRDEFN • PSROLEUSER • PSROLECLASS 	OPRID CLASSID

セキュリティ アクセス タイプ フィールドとセキュリティ キー フィールドに加えて、ユーザー セキュリティ結合テーブルには以下のフィールドが保存されます。

• SCRTY_SET_CD (セキュリティ セット コード)

セキュリティ セットは、HRMS において保護されるデータのセットです。たとえば、PPLJOB は職務のある個人のデータに対するセキュリティ セットであり、DEPT は部門データに対するセキュリティ セットです。セキュリティ セットごとに、セキュリティ アクセス タイプが設定されます。

• OPRID

ユーザーのユーザー ID です。

- CLASSID

ロール ベースまたは行セキュリティの権限リストの ID です。

注: セキュリティ結合テーブルでは、行セキュリティ権限リスト (ROWSECCLASS) が CLASSID 権限リストとして保存されますが、行セキュリティフラグを使用して識別されます。

SJT_CLASS_ALL の権限リスト データは、以下の 2つのソースから取り込まれます。

- SCRTY_TBL_DEPT

ツリー ベース データ権限を権限リストに追加するときには、部門ツリー セキュリティ ページを使用します。権限リストの情報は SCRTY_TBL_DEPT レコードに保存されます。

- SJT_CLASS

ツリー ベース以外のデータ権限を権限リストに追加するときには、権限リスト別セキュリティ ページを使用します。権限リストの情報は SJT_CLASS レコードに保存されます。

たとえば、セキュリティ アクセス タイプに職務部門ツリー (001) を使用して職務のある個人のデータを保護する場合、SCRTY_TBL_DEPT テーブルのキー フィールドは以下ようになります。

ROWSECCLASS	SETID	DEPTID
TRAIN	部門セットID: SHARE	部門 ID: 123
PAY1	部門セットID: SHARE	部門 ID: 534
PAY2	部門セットID: USA	部門 ID: OKL

SCRTY_TBL_DEPT テーブルからデータをロードするには、SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスを実行する必要があります。SJT_CLASS_ALL では、SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスによって以下の処理が行われます。

- 使用可能なツリー ベースのセキュリティ アクセス タイプ (およびそのセキュリティ セット) ごとにデータ行が作成され、部門ツリー セキュリティ ページで設定したデータ権限が与えられます。

たとえば、セキュリティ アクセス タイプ 012 (RS 部門 ID) およびセキュリティ アクセス タイプ 001 (職務部門ツリー) を使用可能にし、行セキュリティ権限リスト TRAIN に部門 123 に対するデータ権限を付与した場合、このプロセスによってセキュリティ アクセス タイプごとに行が作成され、権限リストに部門 123 の職務のある個人および部門 123 の人材募集に対するアクセス権が与えられます。

- 行セキュリティ権限リストが CLASSID 権限リストとして保存されます。

- 部門セットID が SCRTY_KEY1 として、部門 ID が SCRTY_KEY2 として保存されます。

たとえば、セキュリティ アクセス タイプに勤務地 (002) を使用して職務のある個人のデータを保護する場合、セキュリティ結合テーブル SJT_CLASS のキー フィールドは以下ようになります。

CLASSID	SCRTY_SET_CD	SCRTY_TYPE_CD	SCRTY_KEY1	SCRTY_KEY2	SCRTY_KEY3
TRAIN	PPLJOB	002	勤務地ビジネス ユニット: FRA01	勤務地コード: PAR	該当なし

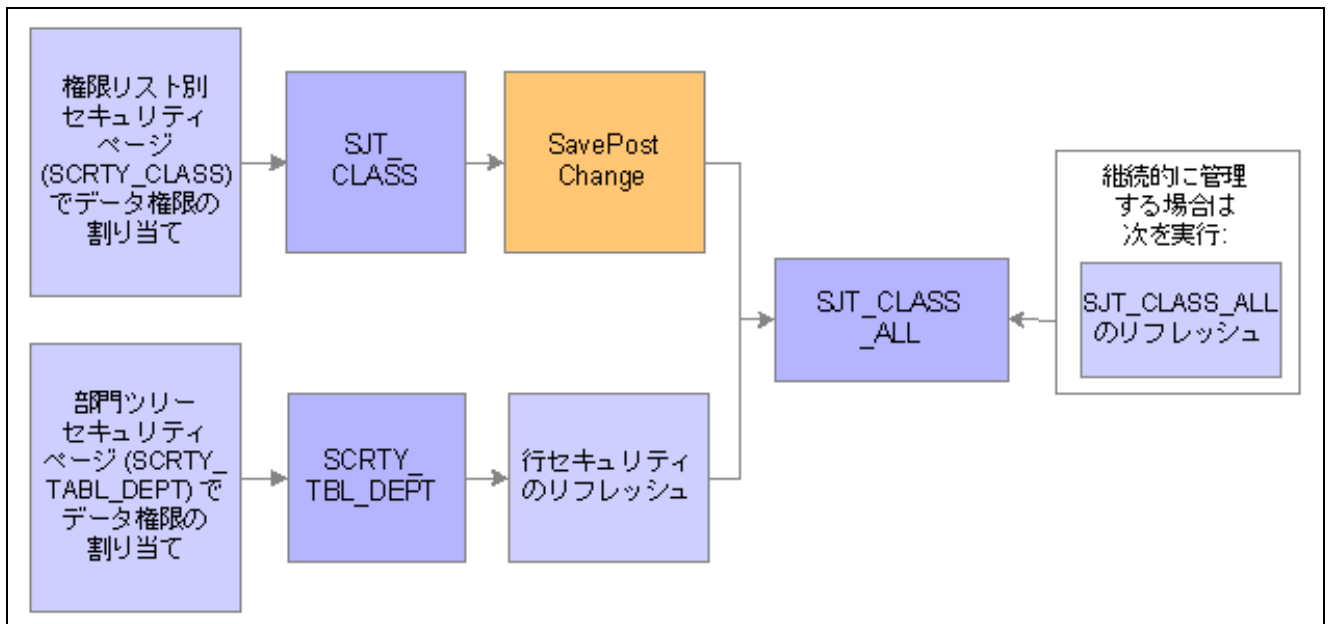
CLASSID	SCRTY_SET_CD	SCRTY_TYPE_CD	SCRTY_KEY1	SCRTY_KEY2	SCRTY_KEY3
PAY1	PPLJOB	002	勤務地ビジネス ユニット: AUS01	勤務地コード: SYD	該当なし
PAY2	PPLJOB	002	勤務地ビジネス ユニット: USA	勤務地コード: KSC	該当なし

権限リスト別セキュリティ ページで行った修正を保存すると、自動的に SavePostChange PeopleCode によってセキュリティ結合テーブル SJT_CLASS_ALL のデータが更新されます。

両方のセキュリティ アクセス タイプを使用している場合、SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスを実行し、PeopleCode によって更新が行われた後の SJT_CLASS_ALL は、次のようになります。

CLASSID	SCRTY_SET_CD	SCRTY_TYPE_CD	SCRTY_KEY1	SCRTY_KEY2	SCRTY_KEY3
TRAIN	PPLJOB	001	部門セットID: SHARE	部門 ID: 123	該当なし
TRAIN	PPLJOB	002	勤務地ビジネス ユニット: FRA01	勤務地コード: PAR	該当なし
PAY1	PPLJOB	001	部門セットID: SHARE	部門 ID: 534	該当なし
PAY1	PPLJOB	002	勤務地ビジネス ユニット: AUS01	勤務地コード: SYD	該当なし
PAY2	PPLJOB	001	部門セットID: USA	部門 ID: OKL	該当なし
PAY2	PPLJOB	002	勤務地ビジネス ユニット: USA	勤務地コード: KSC	該当なし

次の図は、権限リスト ユーザー セキュリティ結合テーブルが最新の状態に保たれる様子を示しています。



ユーザー セキュリティ結合テーブルを最新の状態に保ちます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SJT_CLASS_ALL のリフレッシュプロセスの実行」、99 ページ

セキュリティ結合テーブル SJT_OPR_CLS には、ユーザー ID とデータ権限が含まれる権限リストとの関係が保存されます。SJT_OPR_CLS のデータは、以下の 3 つのソースから取り込まれます。

- PSOPRDEFN

このレコードには、ユーザー ID と“ユーザー プロファイル”の一般ページで割り当てられた行セキュリティ権限リストとの関係が含まれます。

- PSROLEUSER

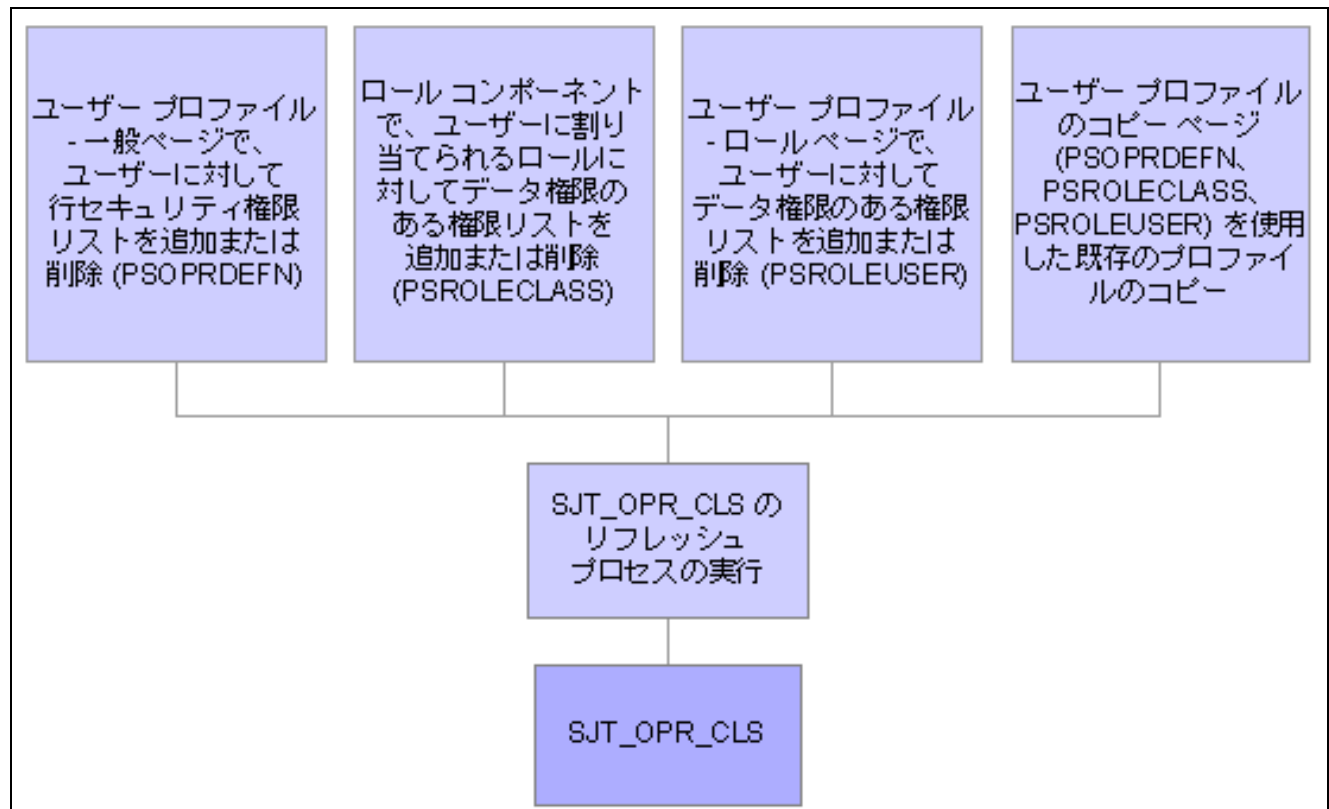
このレコードには、ユーザー ID と“ユーザー プロファイル”のロール ページで割り当てられたロールとの関係が含まれます。

- PSROLECLASS

このレコードには、ロールと“ロール”の権限リスト ページで割り当てられた権限リストとの関係が含まれます。

SJT_OPR_CLS を PSOPRDEFN、PSROLEUSER および PSROLECLASS のデータで更新するには、データセキュリティを含む権限リストを (“ユーザー プロファイル”の一般ページで行セキュリティ権限リストを追加する、“ユーザー プロファイル”のロール ページでデータ権限のあるロールを追加する、“ロール”の権限リスト ページでデータ権限を含むロール ベース権限リストをユーザーに割り当てられたロールに追加する、または既存のユーザー プロファイルをコピーして新規のユーザー プロファイルを作成する、のいずれかの方法で) ユーザー プロファイルに追加するたび、またはユーザー プロファイルから削除するたびに、SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスを実行します。

次の図は、いつユーザー プロファイル セキュリティ結合テーブルを更新するかを示しています。



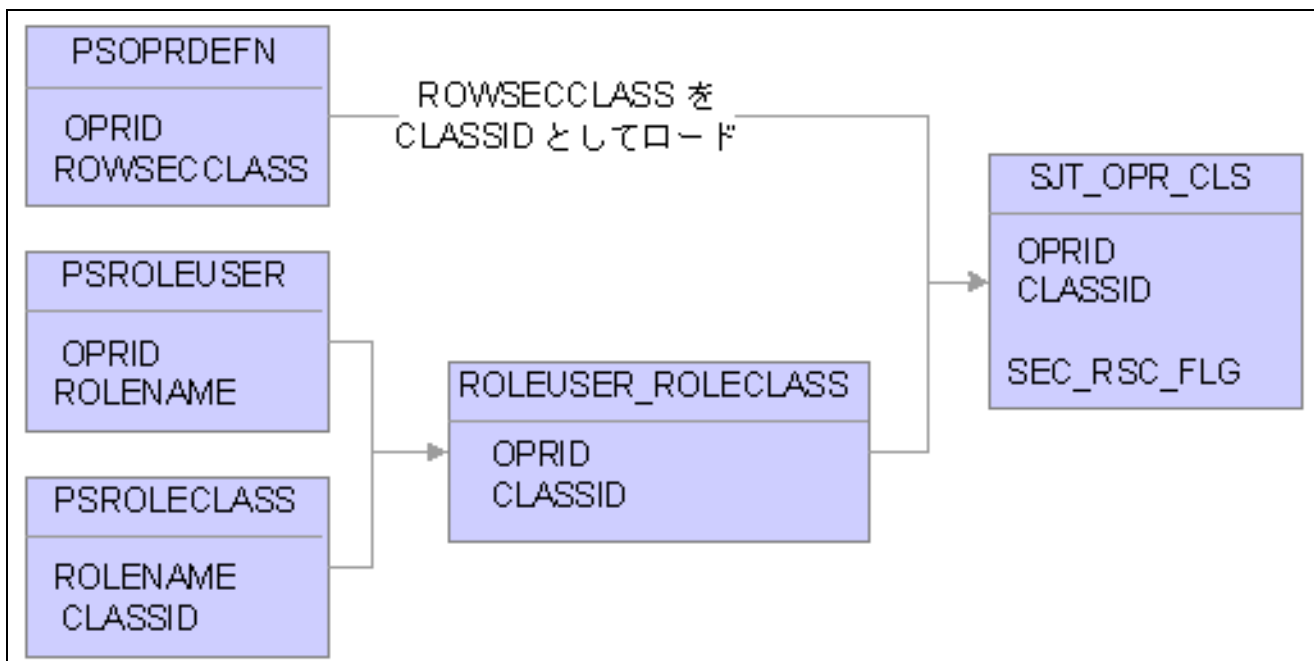
SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスを実行して、SJT_OPR_CLS を最新の状態に保ちます。

注: USER_PROFILE メッセージとローカル サブスクリプション HCM_Refresh_SJT_OPR_CLS、および ROLE_MAINT メッセージとローカル サブスクリプション HCM_Role_Refresh_SJT_OPR_CLS を有効にして、SJT_OPR_CLS を自動更新することもできます。システムの出荷時には、これらのメッセージは有効にされていません。

SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスでは、PSOPRDEFN から直接 SJT_OPR_CLS に OPRID および ROWSECCLASS の値がロードされ、行セキュリティ権限リストが CLASSID として保存されます。

ユーザー プロファイルとロール ベース権限リストの関係確立するため、このプロセスでは最初に PSROLEUSER から OPRID と ROLENAM、および PSROLECLASS から ROLENAM と CLASSID が一時テーブルにロードされ、次に OPRID と CLASSID およびその関係が SJT_OPR_CLS にロードされます。

次の図は、SJT_OPR_CLS に保存されるデータとそのソースを示しています。



SGT_OPR_CLS にユーザー プロファイルと権限リストの関係が保存されます。

注: SEC_RSC_FLG フィールドは、CLASSID が元は ROWSECCLASS 権限リストであった場合に、値 Y によってこれを示します。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SGT_OPR_CLS のリフレッシュプロセスの実行」、100ページ

セキュリティ セットとセキュリティ アクセス タイプ

セキュリティ セットは、保護されるデータをグループ化したものです。このセットは、トランザクション セキュリティ データのソースによって異なります。たとえば、職務のない関係者は、JOB レコードではなく PER_POI_SCRITY レコードのトランザクション データを使用して保護されるため、職務のある個人とは異なるセキュリティ セットが使用されます。

PeopleSoft は以下の 5 つのセキュリティ セットを提供しています。

セキュリティ セット	説明	データを保存するセキュリティ結合 テーブル
PPLJOB	職務のある個人 JOB レコードがある個人のデータ、およびその個人に関連する全てのデータが含まれます。	SGT_PERSON
PPLUSF (日本未対応機能)	アメリカ連邦政府の職務のある個人 GVT_JOB レコードがある個人のデータ、およびその個人に関連する全てのデータが含まれます。	SGT_PERSON_USF

セキュリティ セット	説明	データを保存するセキュリティ結合 テーブル
PPLPOI	職務のない関係者 JOB レコードがない個人のデータ、 およびその個人に関連する全ての データが含まれます。	SJT_PERSON
DEPT	部門 部門の予算およびポジションが含 まれます。	SJT_DEPT
RSOPN	人材募集 人材募集に関連付けられた応募者 のデータを含む、人材募集のデー タが含まれます。	HRS_SJT_JO

注: 必要になる可能性が高いセキュリティ セットは、全て用意されています。新規セットの追加は、カスタマイズと見なされます。

参照: Customer Connection に掲載されているセキュリティに関するホワイト ペーパーを参照してください。『Human Capital Management Row Level Security in HRCS 9.0』

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「セキュリティ セットの表示」、75 ページ

セキュリティ アクセス タイプは、セキュリティ セット内のデータを保護する方法です。各セキュリティ セットには複数のセキュリティ アクセス タイプ用意されており、そこから選択して使用可能にすることができます。セキュリティ アクセス タイプによって、特に以下の判別がされます。

- セキュリティ トランザクション データ
- 将来日付の行のデータ セキュリティがあるか
- そのアクセス タイプで部門セキュリティ ツリーが使用されるか

注: 部門階層はセキュリティ ツリー上にのみ構築可能であり、部門ツリーによるアクセス権は、行セキュリティ権限リストにのみ付与することができます。

部門セキュリティ ツリーを使用しないセキュリティ アクセス タイプには階層構造がなく、権限リストごとに個別に各フィールド値をリストする必要があります。

次の表は、セキュリティ セットごとのセキュリティ アクセス タイプを示しています。

セキュリティ セット	セキュリティ アクセス タイプ
PPLJOB	<ul style="list-style-type: none"> • 職務部門ツリー (001) • 勤務地 (002) • 職務ビジネスユニット (003) • 職務会社 (004) • 職務法定区域 (005) • 職務給与等級 (014) • 雇用情報 (015) • 職務 - 部門 ID - ツリーなし (025) • 職務会社/支給グループ (032)
PPLUSF	<ul style="list-style-type: none"> • US 連邦政府部門ツリー (016) • US 連邦政府勤務地 (017) • US 連邦政府企業 (018) • US 連邦政府ビジネスユニット (019) • US 連邦政府給与等級 (020)
PPLPOI	<ul style="list-style-type: none"> • 関係者ビジネスユニット (006) • 関係者勤務地 (007) • 関係者機関 (008) • 関係者 (009)
DEPT	<ul style="list-style-type: none"> • ツリー別部門 (021) • 部門 - ツリーなし (022) • セットID 別部門 (023)
RSOPN	<ul style="list-style-type: none"> • RS 会社 (010) • RS ビジネス ユニット (011) • RS 部門 ID (012) • RS 勤務地 (013) • 採用チーム (031)

注: 必要になる可能性が高いセキュリティ アクセス タイプは、全て用意されています。新たなタイプを追加することはできませんが、アプリケーションと SQL に精通している必要があります。

セキュリティ管理者は、データ権限の割り当てに、使用可能に設定されたセキュリティ アクセス タイプのみ使用することができます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「セキュリティタイプの使用可能設定」、77ページ

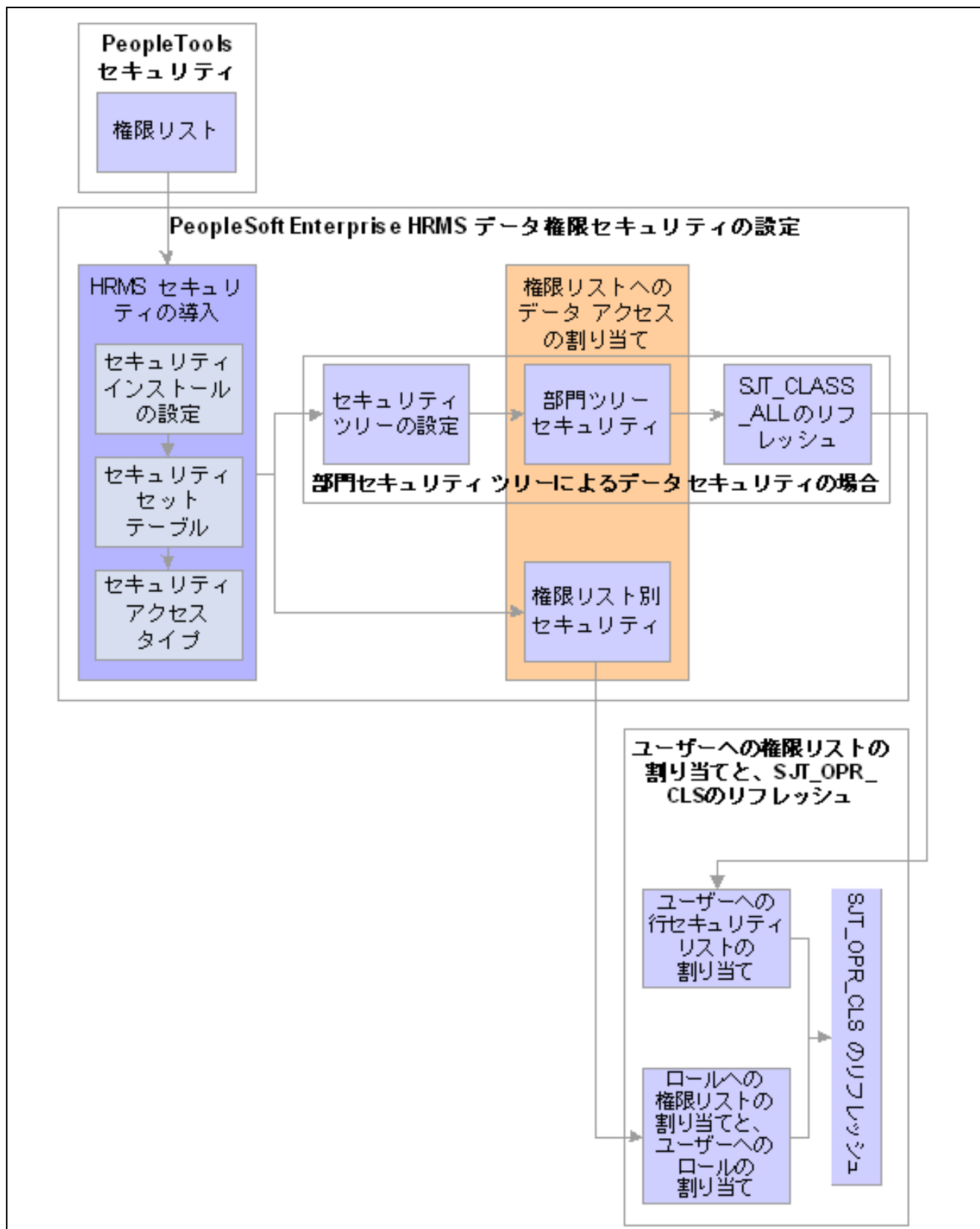
複数のセキュリティ アクセス タイプの使用可能設定と使用

複数のセキュリティ アクセス タイプを使用してセキュリティ セット内のデータへのアクセス権を権限リストに付与した場合、セキュリティ アクセスでは 2 つのタイプの結合や交差ではなく合併が作成されます。たとえば、PPLJOB セキュリティ セットで職務会社と職務ビジネス ユニットを使用可能にし、権限リストに会社 A の個人およびビジネス ユニット B の個人に対するアクセス権を付与した場合、この権限リストを割り当てられたユーザーは会社 A の個人およびビジネス ユニット B の個人にアクセスすることができ、このユーザーに与えられるアクセス権はビジネス ユニット B と会社 A の両方に属する個人に限定されません。

注: トランザクション フィールドを結合してデータを保護するセキュリティ アクセス タイプの作成に関する詳細については、Customer Connection に掲載されているセキュリティに関するホワイト ペーパーを参照してください。

HRMS セキュリティ プロセス フロー

HRMS データ権限セキュリティの設定は、次のプロセス フローに従って行います。



PeopleSoft Enterprise HRMS データ権限セキュリティの設定

HRMS データ権限を設定するには、次の手順に従います。

1. PeopleTools のページで権限リストを設定します。
2. セキュリティ インストール設定コンポーネントでセキュリティ インストールの設定を行います。
3. セキュリティ セット テーブル コンポーネントでセキュリティ セットを確認します。
4. セキュリティ アクセス タイプ コンポーネントでセキュリティ アクセス タイプを使用可能にします。
5. データ権限を権限リストに割り当てます。
 - セキュリティ ツリー ベースのセキュリティ アクセス タイプを使用している場合は、セキュリティ ツリーを設定し、部門ツリー セキュリティ コンポーネントでデータ権限を割り当て、SJT_CLASS_ALL をリフレッシュします。
 - セキュリティ ツリー ベース以外のセキュリティ アクセス タイプを使用している場合は、権限リスト別セキュリティ コンポーネントでデータ権限を割り当てます。
6. 権限リストをユーザーに割り当てます。ロール ベースの権限リストを使用している場合はロールを使用して割り当てます。行セキュリティ権限リストを使用している場合はユーザー プロファイルに直接割り当てます。
7. SJT_OPR_CLS をリフレッシュします。

HRMS データ権限の例

以下のセキュリティをそれぞれの権限リストに付与します。

権限リスト	ページ	セキュリティ アクセス タイプ	セキュリティ値
JobByDept	部門ツリー セキュリティ ページ	職務部門ツリー (001)	部門 10100 (最初のキーとしてセットID SHAREを選択する必要があります)
JobByLoc	権限リスト別セキュリティ ページ	勤務地 (002)	勤務地 UK1 (最初のキーとしてビジネスユニット GBR01を選択する必要があります)
MyJobs	部門ツリー セキュリティ ページ	職務部門ツリー (001)	部門 11000 (セットID SHARE)
	権限リスト別セキュリティ ページ	勤務地 (002)	勤務地 USA (ビジネスユニット GBL01)

以下のロールに権限リストを割り当てます。

ロール	権限リスト	結果
Role 1	JobByDept	ツリーベースの部門セキュリティ(セキュリティアクセスタイプ 001)はロールと一緒に使用できないため、Role 1 にアクセス権は与えられません。
Role 2	JobByLoc	勤務地 UK1 で職務のある個人へのアクセス権が与えられます。
Role 3	MyJobs	勤務地 USA で職務のある個人へのアクセス権が与えられます。 部門 11000 へのアクセス権は与えられません。

以下の行セキュリティ権限リストとロールをユーザーに割り当てます。

ユーザー ID	行セキュリティ権限リスト	ロール	職務のある個人にアクセス可能な範囲
User A	JobByDept		部門 10100
User B	JobByDept	Role 2	部門 10100 勤務地 UK1
User C		Role 2	勤務地 UK1
User D		Role 3	勤務地 USA
User E	MyJobs		部門 11000 勤務地 USA
User F		Role 1	アクセス不可
User G	JobByDept	Role 2 Role 3	部門 10100 勤務地 UK1 勤務地 USA

データ権限セキュリティの導入

データ権限セキュリティを導入するには、セキュリティ インストール設定コンポーネント (SCRTY_INSTALL)、セキュリティ セット コンポーネント (SCRTY_SET_TBL)、およびセキュリティ アクセス タイプ コンポーネント (SCRTY_TYPE2_TBL) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- HRMS セキュリティのインストール
- セキュリティ セットの表示
- 更新グループの設定
- セキュリティ タイプの使用可能設定
- SQL ステートメントの入力

将来の日付のセキュリティについて

セキュリティ インストール設定ページでは、勤務地ページ (JOB_DATA1) で使用すると SJT_PERSON に将来の日付の行を作成する SavePostChange PeopleCode をトリガする異動区分を選択することができます。

システムでは、通常は現在のトランザクション セキュリティ データを使用してデータが保護されます。現在の行のトランザクション セキュリティ データに対するデータ アクセス権のあるユーザーだけが、個人データにアクセスすることができます。

将来の日付のトランザクション セキュリティ データ行を含めた場合は、現在のデータと将来の日付の値の両方を使用してデータが保護されます。この場合、現在の行のトランザクション セキュリティ データに対するデータ アクセス権のあるユーザーと、将来の日付の行のトランザクション セキュリティ データに対するデータ アクセス権のあるユーザーに、個人データへのアクセスが許可されます。

次の操作を行った場合にのみ、SJT_PERSON に将来の日付のセキュリティ行が作成されます。

1. セキュリティ インストール設定ページで 1 つまたは複数の異動区分を選択します。
2. セキュリティ アクセス タイプで将来の日付の行を使用可能にします。

注: これで、タイプによって将来の日付のセキュリティの使用/不使用を選択することができます。

3. セキュリティ インストール設定ページで選択した異動区分の 1 つを使用して、JOB レコードを使用するコンポーネントに将来の日付の行を作成し保存します。

[将来の日付を持つセキュリティ行をトリガする異動] グリッドで転属という異動区分を選択した場合は、個人に対して異動区分が転属である将来の日付の職務データ行を作成すると、その新たな行のトランザクション データを使用して SJT_PERSON に行が追加されます。将来の日付のトランザクション セキュリティ データに対するデータ権限のあるユーザーは、この個人のデータにアクセスすることができます。

注: 将来の日付のセキュリティ行を使用するのは、コンポーネント セキュリティ ビューだけです。

たとえば、2005 年 1 月 1 日現在、Kenny Wong が部門 42000 で勤務しているとします。2006 年 7 月 1 日から、Kenny Wong は 部門 44000 に転属します。2006 年 4 月 15 日に、この異動を見越して、人事部門担当者がこの異動に関する将来の日付の職務データ行を入力します。

Julie Sparrow は部門 42000 を管理し、Barry Deere は部門 44000 を管理しており、それぞれ自分が管理する部門に属する個人のデータに対する権限を持っています。

2006 年 4 月 15 日現在、Kenny Wong には以下の 2 つの職務データ行が設定されています。

有効日	異動区分	部門
2005 年 1 月 1 日	採用	42000
2006 年 7 月 1 日	転属	44000

データ権限は、そのセキュリティ アクセス タイプで将来の日付のセキュリティを使用しているか、またセキュリティ インストール 設定 ページで異動区分 “転属” を選択しているかどうかによって異なります。

• 選択していない場合

- 将来の日付の行に基づく新しい部門の情報はまだ有効になっていないため、SavePostChange PeopleCode ではこの情報による SJT_PERSON の更新は行われません。

注: 転属が有効になると、SJT の夜間更新プロセスにより SJT_PERSON が更新され、古い行に新しい行が上書きされます。

- Kenny のデータに、Julie は 2006 年 6 月 30 日まで アクセスすることができ、Barry は 2006 年 7 月 1 日からアクセスすることができます。

• 選択している場合

- SavePostChange PeopleCode により、将来の日付のトランザクション セキュリティ データを含む新しい行が SJT_PERSON に作成されます。システムでは、この行は将来の日付の行として識別されます。

注: 転属が有効になると、SJT の夜間更新プロセスにより SJT_PERSON が更新され、古い行が削除されて将来の日付の行が現在の行になります。

注: 将来の日付のセキュリティを使用しない検索ビューでは、データ権限の適用時に将来のセキュリティ行は使用されません。

- Kenny のデータに、Julie は 2006 年 6 月 30 日まで アクセスすることができ、Barry は 2006 年 4 月 15 日からアクセスすることができます。

特殊な職務のセキュリティ オプションについて

特殊な職務のセキュリティ オプションを使用しない場合は、ID と雇用レコード番号の異なる組み合わせごとに 1 つのトランザクション セキュリティ データ行が作成されます。特殊な職務のセキュリティ オプションを使用した場合は、異なるセキュリティ キー値で SJT_PERSON に追加の行が作成され、権限リストでは通常アクセスできない行へのアクセスが可能になります。

たとえば、部門によってデータを保護し、本国での職務のデータレコードに対するアクセス権を持つユーザーには赴任先での職務のデータレコードの表示を許可するが、赴任先での職務のデータレコードに対するアクセス権を持つユーザーには本国での職務のデータレコードの表示を許可しない場合、本国での職務のデータレコード (雇用レコード番号 0) が部門 25000 にあり、赴任先での職務のデータレコード (レコード番号 1) が部門 20000 にある個人に対して、以下の 3 つのデータ行が SJT_PERSON に作成されます (ここには、関連する列だけが示されています)。

キー 1	キー 2	従業員 ID	雇用レコード番号	本国/赴任先	海外アクセス タイプ
SHARE	25000	K0G019	0	本国	
SHARE	25000	K0G019	1	赴任先	本国->赴任
SHARE	20000	K0G019	1	赴任先	

特殊な職務のセキュリティ オプションを許可する、本国→赴任がマークされた行が作成されます。赴任先のレコードに本国のレコードの部門値を含む行を作成することにより、本国のレコードに対するデータ権限のあるユーザーが、赴任先のレコードにアクセスできるようになります。

その他の特殊な職務のセキュリティ オプションについても同様に、追加の行が作成され、アクセスを可能にするキー値が挿入されます。

データ権限セキュリティの導入に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
セキュリティインストール設定	SCRTY_INSTALL	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティインストール設定]、[セキュリティインストール設定]	インストールする HRMS セキュリティ設定を選択します。
セキュリティセットテーブル	SCRTY_SET_TBL	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティセット]、[セキュリティセットテーブル]	既存のセキュリティセットと、そこに関連付けられたセキュリティアクセスタイプを確認します。
セキュリティ更新グループ	SCRTY_SJT_UPD	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティセット]、[セキュリティ更新グループ]	SJT リフレッシュプロセスによって更新可能なデータグループを定義します。
セキュリティタイプテーブル	SCRTY_TYPE2_TBL	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティアクセスタイプ]、[セキュリティタイプテーブル]	既存のセキュリティアクセスタイプの使用可能設定や変更、または新規セキュリティアクセスタイプの作成に使用します。
セキュリティタイプ SQL	SCRTY_TYPE2_SQL	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティアクセスタイプ]、[セキュリティタイプ SQL]	新規セキュリティタイプの SQL ステートメントの入力に使用します。

HRMS セキュリティのインストール

セキュリティ インストール 設定ページにアクセスします。

セキュリティ インストール 設定

特殊な職務情報のセキュリティ バージョン

☒ 本国/赴任先のアクセスを含む

本国から赴任先を表示

☒ 追加された雇用レコードを含む

両方

☒ 兼務セキュリティ JPN

将来の日付を持つセキュリティ行をトリガする異動

[カスタマイズ](#) | [検索](#) | [最初](#) | [1-12/12](#) | [最後](#)

*異動区分	異動区分名称		
ADD	非従業員の追加	+	-
ADL	追加職務	+	-
ASG	赴任	+	-
HIR	採用	+	-
JRC	職務の再分類	+	-
POI	関係者の追加	+	-
POS	ポジション変更	+	-
PRE	FPS 内定	+	-
PRO	昇進	+	-
REH	再雇用	+	-
TAS	臨時職務	+	-
XFR	転属	+	-

セキュリティ インストール 設定 ページ

[特殊な職務情報のセキュリティ バージョン]

ここで選択したオプションは、インストールで使用可能になりますが、使用するセキュリティ アクセス タイプに対して改めて選択するまでは有効になりません。このため、セキュリティ アクセス タイプによってセキュリティ バージョンの使用と不使用を選択することができます。

[本国/赴任先のアクセスを含む]

このオプションは、海外赴任の管理用です。赴任した従業員には、本国のレコードと赴任先のレコードがあります。以下のオプションの中から 1 つを選択します。

- [本国から赴任先を表示]: 本国のレコードを表示するデータ権限のある人に、従業員の赴任先のレコードの表示も許可する場合に選択します。赴任先のレコードに対するデータ権限だけがある人は、従業員の本国のレコードは表示できません。
- [赴任先から本国を表示]: 赴任先のレコードを表示するデータ権限のある人に、従業員の本国のレコードの表示も許可する場合に選択します。本国のレコードに対するデータ権限だけがある人は、赴任先のレコードは表示できません。
- [両方]: 本国のレコードに対するデータ権限のある人に赴任先のレコードの表示を許可し、赴任先のレコードに対するデータ権限のある人に本国のレコードの表示を許可する場合に選択します。

[本国/赴任先のアクセスを含む] をオンにしない場合は、通常のデータ権限ルールが適用されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 海外赴任管理、「海外赴任管理の使用」

[追加された雇用レコードを含む]

このオプションは、“雇用レコードの追加” コンポーネント (JOB_DATA_CONCUR) を使用して雇用レコードが追加された個人に対して使用します。

雇用レコードが追加された個人には、アクティブな職務データレコードを含む従業員または非従業員主雇用レコードと、追加職務データを含む追加雇用レコードがあります。以下のオプションの中から 1 つを選択します。

- [追加レコードから主雇用レコードを表示]: 追加職務データレコードを表示するデータ権限のあるユーザーに、個人の主雇用職務データレコードの表示も許可する場合に選択します。主雇用職務データレコードに対するデータ権限があるユーザーは、追加職務データレコードは表示できません。
- [主雇用レコードから追加レコードを表示]: 主雇用職務データレコードを表示するデータ権限のあるユーザーに、個人の追加職務データレコードの表示も許可する場合に選択します。追加職務データレコードに対するデータ権限があるユーザーは、主雇用職務データレコードは表示できません。
- [両方]: 主雇用職務データレコードを表示するデータ権限のあるユーザーに追加職務データレコードの表示も許可し、追加職務データレコードを表示するデータ権限のあるユーザーに主雇用職務データレコードの表示も許可する場合に選択します。
- [なし]: 全てのユーザーに追加職務データレコードの表示を許可する場合に選択します。

[追加された雇用レコードを含む] をオンにしない場合は、通常のデータ権限ルールが適用されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加」、「雇用レコードの追加」

[兼務セキュリティ JPN]

(JPN) 個人の兼務レコードに対するアクセス権のあるユーザーに、その個人の主務レコードへのアクセスを許可する場合に選択します。

特定の従業員 ID の主務と呼ばれるレコード、すなわち職務データ コンポーネントからアクセスできる職務に、兼務が割り当てられます。

[兼務セキュリティ JPN] をオンにしない場合は、通常のデータ権限ルールが適用されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「(JPN) 兼務管理」、「兼務管理用セキュリティの設定」

[将来の日付を持つセキュリティ行をトリガする異動]

ここで選択した異動区分を職務データ コンポーネントの将来の日付の行で使用すると、JOB レコードを使用するコンポーネントで SavePostChange PeopleCode がトリガされて SJT_PERSON に将来の日付のセキュリティ行が作成されます。ここでリストされた異動以外では、将来の日付の行に対するセキュリティ行は作成されません。

将来の日付の行を作成するには、[セキュリティ タイプ テーブル] の [将来の日付を含む] チェック ボックスをオンにする必要があります。このため、セキュリティ アクセス タイプによって将来の日付のセキュリティの使用と不使用を選択することができます。

セキュリティ セットの表示

セキュリティ セット テーブル ページにアクセスします。

セキュリティ セット テーブル

セキュリティ更新テーブル

セキュリティ セット

検索 | 全件表示

最初 3/5 最後

セキュリティ セット:

PPLPOI

+

-

名称:

個人 - 職務なし

略称:

関係者

コメント:

職務のない個人に対する行レベルセキュリティを提供する、セキュリティ アクセス タイプのセットを定義します。対象の個人には PER_POI_TYPE のレコードがあります。

オーナー ID:

HR コア

トランザクション セキュリティ結合テーブル:

SJT_PERSON

SJT 一時テーブル (AE フォース用):

SJTPRJ_TMP

フィルド リストの SQL ID:

SEC_PPLCORE_FLDNM
EMPLID, POI_TYPE, PER_ORG, EMPL_RCD, BUSINESS_UNIT,
SETID_DEPT, DEPTID, SETID_LOCATION, LOCATION,
COMPANY, REG_REGION, APPT_TYPE, HR_STATUS, EMPL_STATUS,
OTHER_ID_JPN, REPORTS_TO, SUPERVISOR_ID, INSTITUTION,

セキュリティ アクセス タイプ

カスタマイズ | 検索

最初 1-4/4 最後

セキュリティ アクセス タイプ	名称	使用可
006	関係者ビジネス ユニット	<input checked="" type="checkbox"/>
007	関係者勤務地	<input type="checkbox"/>
008	関係者機関	<input type="checkbox"/>
009	関係者	<input checked="" type="checkbox"/>

セキュリティ セット テーブル ページ

- [オーナー ID]

PeopleSoft オブジェクトのオーナー ID を持つセキュリティ セットは、システム データであり、このページで変更することはできません。提供されているセキュリティ セットのセキュリティ更新グループは変更可能です。
- [トランザクション セキュリティ結合テーブル]

このセキュリティ セットのトランザクション データを保存するセキュリティ結合テーブルです。

注: セキュリティ セットを新規作成するには、セキュリティ セットを作成する前にアプリケーション デザイナでこのテーブルを作成しておく必要があります。

セキュリティ セットの新規作成には、システムの変更が必要になります。詳細は、Customer Connection に掲載されているセキュリティに関するホワイト ペーパーを参照してください。

- [SJT 一時テーブル (AE プロセス用)]

PeopleSoft アプリケーション エンジンで使用される一時レコードです。トランザクション セキュリティ結合テーブルをコピーしたもので、アプリケーション エンジン プロセス フィールドも含まれます。このテーブルでは、アプリケーション エンジン プロセスを使用してトランザクション セキュリティ結合フィールドが更新されます。
- [フィールド リストの SQL ID]

トランザクション セキュリティ結合テーブル内のフィールド (キー フィールドは含まれません) のリストです。
- [SQL 作成]

このボタンをクリックすると、値フィールド リストの SQL と SQL ID が作成されます。

[セキュリティ アクセス タイプ]

このセキュリティ セットのセキュリティ アクセス タイプがリストされ、使用可能になっているものが示されます。使用可/不可の切り替えは、セキュリティ タイプ テーブル ページで行います。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「セキュリティ タイプの使用可能設定」、77ページ

セキュリティ更新グループの設定

セキュリティ更新グループ ページにアクセスします。

セキュリティ セット テーブル

セキュリティ更新グループ

セキュリティ セット

検索 | 全件表示

最初 3/6 最後

セキュリティ セット:

PPLPOI

個人 - 職務なし

+ -

カスタマイズ | 検索 |

最初 1-4/4 最後

	*更新する行		
1	雇用形態	+	-
2	関係者タイプ	+	-
3	セキュリティタイプ	+	-
4	従業員 ID、関係者タイプのリスト	+	-

セキュリティ更新グループ ページ

SJT リフレッシュ プロセスを使用したセキュリティ セットの更新時に使用可能にするリフレッシュ オプションを選択します。ここで選択したオプションが、SJT リフレッシュ ページでこのセキュリティ セットに対して使用可能になります。このためセキュリティ結合テーブルの一部を選択して更新することができます。

たとえば、リフレッシュ オプションに [関係者タイプ]、関係者タイプに外部の講師を選択することによって、外部の講師について全ての行をリフレッシュすることができます。

セキュリティ タイプの使用可能設定

セキュリティ タイプ テーブル ページにアクセスします。

セキュリティ タイプ テーブル

セキュリティ タイプ SQL

セキュリティ アクセス タイプ

セキュリティ タイプ: 002 勤務地

略称: 勤務地 トランザクション ラベル: 勤務地

セキュリティ セット: PPLJOB 個人 - 職務あり トランザクション セキュリティ結合テーブル: SJT_PERSON

☒ 使用可

☐ 将来の日付を含む

☐ 部門セキュリティ ツールを使用

トランザクション テーブル: JOB

セキュリティ キー 1: BUSINESS_UNIT セキュリティ キー 1 のアソシエート レコード: BUS_UNIT_TBL_HR

セキュリティ キー 2: LOCATION セキュリティ キー 2 のアソシエート レコード: SEC_LOC_PR_VW

セキュリティ キー 3: セキュリティ キー 3 のアソシエート レコード:

特殊な職務情報のセキュリティ バージョン

海外赴任のアクセス セキュリティ タイプ:

雇用レコードのセキュリティ タイプ:

☐ 兼務セキュリティ JPN

セキュリティ タイプ テーブル ページ

1 つのセキュリティ セットで複数のセキュリティ アクセス タイプを使用可能にすることができ、また複数のアクセス タイプを使用して権限リストにデータ アクセス権を割り当てることができます。

注: 必要性の高いセキュリティ アクセス タイプはほとんど提供されているため、新たにタイプを作成する必要はありません。インストールに必要なタイプの使用可/不可を切り替えます。

セキュリティ アクセス タイプの新規作成方法については、Customer Connection に掲載されているセキュリティに関するホワイト ペーパーを参照してください。

注: 使用可能なセキュリティ アクセス タイプおよび使用するオプションの数が多いほど、セキュリティ 結合テーブルに保存されるデータ行が多くなります。これはシステムのパフォーマンスに影響を与えます。データ権限の管理に必要なセキュリティ タイプとオプションだけを使用可能にすることをお勧めします。

[セキュリティ タイプ]

新規セキュリティ タイプには、自動的に番号が設定されます。

[トランザクション ラベル]

フィールド ラベルを入力します。このラベルは、このセキュリティ タイプがデータを収集するフィールドとして使用されるときにトランザクション ページに表示されます。

たとえば、職務のない関係者のデータへのアクセスを制御するために関係者タイプの他にもフィールドを使用する場合、ここで入力したラベルが “関係者情報の追加” ページおよび “関係者情報の管理” ページでセキュリティ トランザクション値の検索条件に使用されます。

[セキュリティ セット]、[トランザクション セキュリティ 結合テーブル]	<p>データを保護するセキュリティ セットと、そのセキュリティ セットに関連付けられたセキュリティ結合テーブルです。</p> <p>参照: <u>第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「セキュリティ セットの表示」、75ページ</u></p>
[使用可]	セキュリティ タイプを使用可能にする場合に、オンにします。
[将来の日付を含む]	セキュリティ結合テーブルでこのタイプの将来の日付のセキュリティ行を保存できるようにする場合に、オンにします。セキュリティ インストール設定 ページで選択された異動に関する将来の日付の行が含まれるセキュリティ 結合テーブルだけが更新されます。
[部門セキュリティ ツリー を使用]	<p>このセキュリティ タイプで部門セキュリティ ツリーを使用する場合に、オンにします。</p> <p>部門セキュリティ ツリーは部門に対してのみ作成でき、また部門セキュリティ ツリー ベースのデータ権限は行セキュリティ権限リストにのみ付与できます。</p>
[トランザクション テーブル]	このタイプのセキュリティを制御するフィールドを保存するトランザクション テーブルです。
[特殊な職務情報のセキュリティ バージョン]	<p>セキュリティ インストール設定 ページで [特殊な職務情報のセキュリティ バージョン] のオプションをオンにする場合は、このセキュリティ アクセス タイプのオプションをオンにします。</p> <p>参照: <u>第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「HRMS セキュリティのインストール」、72ページ</u></p>
[セキュリティ キー 1 のプロンプト レコード]、[セキュリティ キー 1]、[セキュリティ キー 2 のプロンプト レコード]、[セキュリティ キー 2]、[セキュリティ キー 3 のプロンプト レコード]、[セキュリティ キー 3]	<p>このタイプのセキュリティ データ フィールドを定義します。このフィールドは、トランザクション テーブル レコード上になければなりません。</p> <p>プロンプト レコードは、権限リストに値を割り当てるときにプロンプト フィールド値のソースとなるレコードです。ここで一意の識別を行うために必要な全てのレコードとフィールドを選択する必要があります。</p> <p>たとえば、勤務地 (キー 2) を選択するには、最初にビジネス ユニット (キー 1) を選択する必要があります。BUSINESS_UNIT フィールドのプロンプト レコードは BUS_UNIT_TBL_HR、LOCATION フィールドのプロンプト レコードは LOCATION_TBL です。</p>

トランザクション セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ

以下の操作を行ったときには、必ずトランザクション セキュリティ結合テーブルをリフレッシュする必要があります。

- セキュリティ アクセス タイプの使用可/不可の切り替え
- 使用可能なセキュリティ アクセス タイプに将来の日付のセキュリティを含む/含まないの切り替え
- 使用可能なセキュリティ アクセス タイプに対する特殊な職務情報のセキュリティ バージョンの変更

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「トランザクション セキュリティ結合テーブル リフレッシュプロセスの実行」、97ページ

SQL ステートメントの入力

セキュリティ タイプ SQL ページにアクセスします。

セキュリティタイプ テーブル		セキュリティタイプ SQL	
セキュリティ アクセス タイプ*	002	勤務地	
トランザクション テーブル	JOB	SJT テーブル	SJT_PERSON
セキュリティ キー 1 Fld	BUSINESS_UNIT	セキュリティ キー 2 Fld	LOCATION
セキュリティ キー 3 Fld			
SQL ステートメント			
フィルド リストの SQL ID: このセキュリティ セットについての、SJT テーブルのキー以外のフィルドのリスト。通常、セット内のタイプ全てについて同一です。	SEC_PPLCORE_FLDNM SQL 作成		,EMPLID , POI TYPE , PER.ORG , EMPL.RCD , BUSINESS_UNIT , SETID.DEPT , DEPTID , SETID.LOCATION , LOCATION , COMPANY , REG_REGION , APPT_TYPE , HR.STATUS , EMPL.STATUS , OTHER.ID_JPN , REPORTS_TO , SUPERVISOR.ID , INSTITUTION , NATIONAL_ID , SETID.JOB.CODE , JOB.CODE , MAIN.APPT.NUM_JPN , ORG.INSTANCE.ERN , HOME.HOST.CLASS , PAY.SYSTEM.FLG , GP.PAYGROUP , PAYGROUP
キー内容の SQL ID: SJT テーブルの SCRTY_KEY1、SCRTY_KEY2、および SCRTY_KEY3 にロートされるフィルド。フロンツ フィルドと同じである必要があります。	SEC_KEY_002_SEL SQL 作成		,BUSINESS_UNIT ,LOCATION ,

セキュリティ タイプ SQL ページ (1/3)

フィルド内容の SQL ID: SJT テーブルのキー以外のフィルドを持つ選択フィルドリスト。相関名が必要な場合、またはこのタイプについてトランザクション テーブルに値がない場合を除いて、通常は SEC_SQL_FLDNM と同一になります。値がない場合は、スペース、0、または %datetime の適切な値を入力する必要があります。	SEC_PPLJOB_FLDVAL SQL 作成		, JOB.EMPLID , JOB.POI TYPE , JOB.PER.ORG , JOB.EMPL.RCD , JOB.BUSINESS_UNIT , JOB.SETID.DEPT , JOB.DEPTID , JOB.SETID.LOCATION , JOB.LOCATION , JOB.COMPANY , JOB.REG_REGION , JOB.APPT.TYPE , JOB.HR.STATUS , JOB.EMPL.STATUS , JR.OTHER.ID_JPN , JOB.REPORTS_TO , JOB.SUPERVISOR.ID , ' ' , JOB.SETID.JOB.CODE , JOB.JOB.CODE , JOB.MAIN.APPT.NUM_JPN , PA.ORG.INSTANCE.ERN , PA.HOME.HOST.CLASS , JOB.PAY.SYSTEM.FLG , JOB.GP.PAYGROUP , JOB.PAYGROUP
From 句の SQL ID: このセキュリティタイプ テーブルの取得元テーブル。通常はトランザクション レコードですが、別のテーブルを結合することもできます。	SEC_PPLJOB_FROM SQL 作成		PS_JOB JOB, PS_JOB_JR JR, PS_PER_ORG_ASGN PA
Where 句の SQL ID: このセキュリティ アクセス タイプの WHERE 句。トランザクション レコードが有効日で管理されている場合は、有効日の結合をここに追加する必要があります。結合する必要がない場合は、1=1 を入力します。	SEC_PPLJOB_WHERE SQL 作成		PA.EMPLID = JOB.EMPLID AND PA.EMPL.RCD = JOB.EMPL.RCD AND JOB.EFFDT = (SELECT MAX(EFFDT) FROM PS_JOB JOB2 WHERE JOB.EMPLID = JOB2.EMPLID AND JOB.EMPL.RCD = JOB2.EMPL.RCD AND JOB2.EFFDT <= %CurrentDateIn) AND JOB.EFFSEQ = (SELECT MAX(EFFSEQ) FROM PS_JOB JOB3 WHERE JOB.EMPLID = JOB3.EMPLID AND JOB.EMPL.RCD = JOB3.EMPL.RCD AND JOB.EFFDT = JOB3.EFFDT) AND JR.EMPLID = JOB.EMPLID AND JR.EMPL.RCD = JOB.EMPL.RCD AND JR.EFFDT = JOB.EFFDT AND JR.EFFSEQ = JOB.EFFSEQ

セキュリティ タイプ SQL ページ (2/3)

<p>Where句- 将来日:</p> <p>将来の日付を持つトランザクションが必要な場合の WHERE 句です。このタイプについて、[将来の日付を含む] がわの場合、SQL を入力する必要はありません。</p>	<p>SEQ_PPLJOB_FUTWHERE</p> <p style="text-align: right;">SQL 作成</p> <pre>PA.EMPLID = JOB.EMPLID AND PA.EMPL_RCD = JOB.EMPL_RCD AND JOB.EFFDT IN (SELECT EFFDT FROM PS_JOB JOB4 WHERE JOB4.EMPLID = JOB.EMPLID AND JOB4.EMPL_RCD = JOB.EMPL_RCD AND JOB4.EFFDT > %CurrentDateIn) AND JOB.EFFSEQ = (SELECT MAX(EFFSEQ) FROM PS_JOB JOB3 WHERE JOB.EMPLID = JOB3.EMPLID AND JOB.EMPL_RCD = JOB3.EMPL_RCD AND JOB.EFFDT = JOB3.EFFDT) AND JREMPID = JOB.EMPLID AND JREMP_RCD = JOB.EMPL_RCD AND JREFFDT = JOB.EFFDT AND JREFFSEQ = JOB.EFFSEQ</pre>
---	---

セキュリティ タイプ SQL ページ (3/3)

アプリケーション エンジンでは、このページの SQL フラグメントを使用して、トランザクション セキュリティ 結合テーブルを更新する UPDATE および INSERT ステートメントが作成されます。

任意の SQLID を使用することができますが、[SQL 作成] ボタンをクリックすると、セキュリティ セットとタイプに基づいて一意の ID が作成されます。

警告: このページは、SQL 結合およびテーブルの相互関係を熟知しているユーザー以外は使用しないでください。

ツリー ベースのデータ権限の設定と割り当て

ツリー ベースのデータ権限を設定し使用するには、ツリー マネージャ コンポーネント (PSTREEMGR)、セキュリティ ツリー検証コンポーネント (RUNCTL_PER506)、部門ツリー セキュリティ コンポーネント (SCRTY_DATA)、および SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ コンポーネント (SCRTY_OPR_RC) を使用します。

このセクションでは、部門セキュリティ ツリーによるデータ権限セキュリティの概要と、以下の方法について説明します。

- セキュリティ ツリーの構築と修正
- セキュリティ ツリーの検証
- ツリー ベース データ権限の行セキュリティ権限リストへの割り当て
- ツリーおよび行セキュリティ権限リスト データによる SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ

注: 行セキュリティ権限リストをユーザーに割り当てた後には、SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスを実行する必要があります。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SJT_OPR_CLS のリフレッシュプロセスの実行」、100ページ

部門セキュリティ ツリーによるデータ権限セキュリティについて

各セキュリティ セットには、ツリー ベースのセキュリティ アクセス タイプが設定されています。ツリー ベースのセキュリティ アクセス タイプでは部門セキュリティ ツリーを使用して部門の階層が設定され、ユーザーはこの階層を使用して簡単にデータを割り当てることができます。

PeopleSoft ツリー マネージャを使って、組織の部門セキュリティ階層を構築します。セキュリティ ツリーでは、データへのアクセスを許可、制限するためのグラフィック ツールが使用できます。セキュリティ ツリーの構成は、組織の階層を正確に反映させたものでなくても構いませんが、できる限り近いものにしてください。

行セキュリティ権限リストに部門グループへのアクセスを許可するには、その全ての部門が所属する部門へのアクセスを許可します。必要に応じて、個別の部門または部門グループへのアクセスを制限することができます。次の図は、セットID が SHARE の部門セキュリティ ツリーの例です。



SHARE の部門セキュリティ ツリーの一部

このセキュリティ ツリーを使用して、たとえば行セキュリティ権限リストに部門 13000 へのアクセス権を付与することによって、部門 13000 およびこの部門に所属する全ての部門が含まれ、この権限リストに 14 の財務部門に属する全ての個人へのアクセスを許可することができます。

また、分岐した構成単位の 1 つに対するアクセスを制限することもできます。たとえば、行セキュリティ権限リストにビジネス サービスを除く財務部門の全ての個人に対するアクセス権を付与する必要がある場合、部門 13000 へのアクセスを許可するが、部門 15000 へのアクセスは制限し、部門 13000、20000、22000、25000、27000、および 31000 へのアクセスは許可することができます。

注: ツリー ベース データ権限は、行セキュリティ権限リストにのみ付与することができます。

データ セキュリティおよびツリー マネージャを使って作業を始める前に、PeopleSoft Enterprise HRMS コントロール テーブルで人事関連のデータが定義されていることを確認してください。

警告: このセクションでは、PeopleSoft ツリー マネージャの概要を全て記載していません。そのため、セキュリティツリーの構築、修正の前には、『Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Tree Manager』でツリー マネージャの使用法の詳細を確認することをお勧めします。セキュリティは、非常に重要なシステム コンポーネントであるため、導入の前に PeopleSoft のセキュリティの全容とそのツールについて理解しておくことが重要です。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「ツリー ベースのデータ権限の設定と割り当て」、80 ページ

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「ロール ベース データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て」、88 ページ

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Tree Manager

セキュリティ ツリーと部門

部門セキュリティ ツリーを構築するには、PeopleSoft では会社レベルから部門レベルまで、組織における全ての構成単位を部門として定義します。部門データは部門コンポーネント (DEPARTMENT_TBL) で作成、保存されます。このコンポーネントへはツリー マネージャまたは HRMS 基本設定のメニューからアクセスできます。セキュリティ アクセスは作成した部門に基づいて割り当てられるため、組織内にある全単位を部門コンポーネントで定義して各単位に部門 ID を設定し、セキュリティ ツリーに追加できるようにしてください。

ツリーは、レベルおよびノードで構成されています。

- レベルとは、階層内のレベルを意味します。
- ノードは組織内の単位を表し、各レベルに追加されて階層内での位置を表します。

たとえば、ツリーの第 1 レベルを会社レベルとします。第 2 レベルは、地域レベルになります。第 1 レベルに追加されるノードは会社レベルのノードで、会社という部門であることを意味します。第 2 レベルに追加されるノードは地域レベルのノードで、事務所などの地域部門であることを意味します。組織内の最初のノードがルート ノードになります。このノードは、この階層における最上位のノードです。その他の全ノード (部門) はルート ノードに所属します。

データには、作成した階層に基づいてアクセス権を設定します。ある部門へのアクセスを許可すると、その部門に所属する各部門へのアクセスも許可したことになります。

注: セキュリティ ツリーには、非アクティブな部門も残しておく必要があります。そうしないと、非アクティブな部門に以前属していて、退職、雇用終了、異動した個人のデータにアクセスできなくなります。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「部門の管理」、261 ページ

セキュリティ ツリーと有効日

セキュリティ ツリーは、全て DEPT_SECURITY と呼ばれます。セキュリティ ツリーは、セットID と有効日によって一意に識別されます。

将来の日付のツリーを構築して、レポート構造の変更を反映したり、新しいツリーを使用してアクセスを許可したりすることができます (また、場合によっては過去のツリーを使用することもできます)。

部門ツリー セキュリティ ページで権限リストにデータを割り当てるときに、ツリーを有効にする日付を選択します。部門ツリー セキュリティ ページの [セキュリティ プロファイルの定義] グリッドに行を追加し、セキュリティ ツリーのセットID を選択すると、[ツリー 指定日] フィールドで選択された日付で有効なセキュリティ ツリーが参照されます。

たとえば、現在が 2005 年 4 月で、日付が 2006 年 1 月 1 日でセットID が SHARE の将来の日付のセキュリティ ツリーが作成されているとします。この新しいツリーを使用してデータ権限をテストしたいとします。部門ツリー セキュリティ ページの [ツリー指定日] フィールドに、2006 年 1 月 1 日と入力します（またはそれより後の日付を入力します。この日付は、ツリーの正確な有効日である必要はありません）。[セキュリティ プロファイルの定義] グリッドに行を追加し、セットID として SHARE を選択します。グリッド内の [ツリー有効日] フィールドに 2006/01/01 と表示され、将来の日付のツリーを使用して権限リストに権限が適用されます。

将来の日付のツリーが有効になっても、古いツリーを参照する権限リストのセキュリティ プロファイルは自動的に更新されません。たとえば、2006 年 1 月 1 日には、引き続き前の SHARE のツリーを使用して、これを参照していた全ての権限リストにデータ権限が適用されます。

新しいツリーを参照するように権限リストを更新するには、部門ツリー セキュリティ ページを開き、指定日に 2006 年 1 月 1 日と入力して [ツリー有効日のリフレッシュ] ボタンをクリックします。この権限リストによって参照される全てのツリーの有効日が更新され、2006 年 1 月 1 日の時点で有効なツリーの日付になります。

ツリー ベース権限の設定と割り当てに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ツリー マネージャ	PSTREEMGR	[ツリー マネージャ]、[ツリー マネージャ]、[ツリー マネージャ]	部門セキュリティツリーの設定または修正に使用します。 ツリーを設定または修正したときには、必ず SJT_CLASS_ALL のリフレッシュプロセスを実行する必要があります。
部門テーブル/セキュリティ	RUNCTL_PER506	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティツリー 検証レポート]、[部門テーブル/セキュリティ]	部門コンポーネントに入力されたデータと、現在のセキュリティツリーに追加された部門の間の相違点が出力されます。
部門ツリー セキュリティ	SCRTY_TABL_DEPT	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[部門ツリー セキュリティ]、[部門ツリー セキュリティ]	行セキュリティ権限リストにツリー ベースの部門データ アクセス権を付与します。
行セキュリティのリフレッシュ	SCRTY_OPR_RC	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[ユーザー セキュリティテーブルのリフレッシュ]、[行セキュリティのリフレッシュ]	セキュリティツリーの構築、修正時、または行セキュリティ権限リストの作成、修正時に、SJT_CLASS_ALL のリフレッシュプロセスを実行して、SJT_CLASS_ALL をユーザー セキュリティデータによって更新します。

セキュリティ ツリーの構築と修正

セキュリティ ツリーの構築は、自動または手動で行うことができます。

セキュリティ ツリーの手動による構築

セキュリティ ツリーの手動による構築方法は、『Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Tree Manager』に説明されています。セキュリティ ツリーを作成したら、ツリー定義/プロパティ ページ (PSTREEDEFN) で以下のデータを入力します。

フィールド	説明
[ツリー名]	“DEPT_SECURITY” と入力します。
[ストラクチャID]	DEPARTMENT を選択します。PeopleSoft では、このストラクチャID が出荷時に設定されています。
[名称]	ツリーの説明となる名称を入力します。
[セットID]	ツリーに追加する部門のセットID を選択します。
[有効日]	このツリーが有効になる日付を入力します。この日以前に有効となっている部門のみを追加します。
[ステータス]	ツリーのステータスを選択します。
[カテゴリ]	ツリーのカテゴリを選択します。
[レベルの適用]	<p>以下のオプションから 1 つ選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [階層に基づいて適用] レベルを構成する組織単位が 1 種類だけの場合は、このオプションを選択します。たとえば、会社レベルに所属するのは地域という単位だけ、地域に所属するのは部門という単位だけの場合などです。 • [各ノードに適用] ある組織の下位に複数種類の組織単位がある場合は、このオプションを選択します。たとえば、会社レベルに地域と部門という 2 種類の単位が所属する場合です。 • [適用しない] セキュリティ構造が階層化されていないため、レベルにより各組織単位をグループ化する必要がない場合は、このオプションを選択します。
[このツリーの全詳細値]	空欄にしておきます。
[詳細値の重複を許可]	空欄にしておきます。

基本のツリー ストラクチャを作成したら、ノードを追加します。セキュリティ ツリーでは、各ノードが組織におけるビジネス単位を表します。部門コンポーネントでノードを定義し、組織内の各ビジネス単位に対応する部門を作成します。

セットID 内の部門ごとにノードを作成する必要があります。組織に部門を追加するたびに、ツリーにノードを追加することができます。

新規部門に追加される個人のデータ セキュリティを管理するために、将来の日付で新規部門を追加するには、将来の日付のセキュリティ ツリーを構築します。こうすることによって、新規部門が有効になる前に個人データを追加し、一方でその個人の現在のデータへのアクセスも制御することができます。

セキュリティ ツリーの自動構築

既存の組織構造を使って、セキュリティ ツリーを構築することができます。以下の SQR プロシージャを使って、既存階層をインポートしてセキュリティ ツリーを構築します。部門データを一時的な部門テーブルにインポートすると、そのデータを使ってセキュリティ ツリーが構築されます。

部門の階層を設定し、データ セキュリティ ツリーを自動構築するには、次の手順に従います。

1. 組織単位のデータをインポートします。

SQR やその他のバッチ機能など、PeopleSoft が提供するインポート ユーティリティを使って、組織単位データを一時テーブル R_PER507 にインポートします。この一時テーブルに部門データをロードする前に、組織に存在する全部門の階層構造を設定しておく必要があります。これには、R_PER507 一時テーブルの REPORTS_TO_DEPT フィールドを使用します。R_PER507 テーブルは PeopleSoft Enterprise HRMS に含まれています。部門テーブル (DEPT_TBL) に似ていますが、以下の列が追加で含まれています。

追加されている列	説明
SETID_RPDEPT	所定の部門の所属先部門のセットIDを指定します。部門テーブルの他のデータに加え、この列にもデータをロードする必要があります。
REPORTS_TO_DEPT	所定の部門の所属先部門を指定します。部門テーブルの他のデータに加え、この列にもデータをロードする必要があります。
ORGCODEFLAG	この部門が特定日に処理の対象となるかどうかを示します。この列には、部門データと REPORTS_TO_DEPT フィールドの値を基準に、値がロードされます。
ORGCODE	階層における部門の位置を設定します。この列には、部門データと REPORTS_TO_DEPT フィールドの値を基準に、値がロードされます。
TREE_LEVEL_NUM	一時作業列です。
PARENT_NODE_NUM	一時作業列です。

追加されている列	説明
TREE_NODE_NUM	一時作業列です。
TREE_NODE_NUM_END	一時作業列です。

2. 所属階層を設定します。

PER507 を実行して、ツリーの所属階層を設定します。このユーティリティでは、ユーティリティの実行時に入力した日付の時点で部門がアクティブであるか非アクティブであるかどうかが判別され、その決定に従って R_PER507 テーブルの ORGFLAG 列にデータがロードされます。ユーティリティを実行すると、REPORTS_TO_DEPT フィールドの値に基づいて所属階層を反映した組織コードが作成され、それによって ORGCODE 列にデータがロードされます。部門階層は、ORGCODE の値を使って設定されます。

3. 部門のセキュリティ ツリーを構築します。

PER508 を実行して、部門セキュリティ ツリー (DEPT_SECURITY) を構築します。ツリーの有効日には、手順の 2 で処理された部門の有効日の中で最新の日付が使用されます。

注: 異なる時点でのセキュリティ構造や組織構造を反映した複数のツリーを設定する場合は、各ツリーに対し指定日をそれぞれ設定して手順の 2 を実行し、この手順を繰り返します。

4. 部門データを部門コンポーネントへ移動します。

PER509 を実行して、R_PER507 で設定した情報を部門テーブル (DEPT_TBL) へ移動します。このユーティリティを実行しないと、部門コンポーネントの表示、更新はできません。

5. セキュリティ ツリーに番号を振り直し、不足している番号を追加調整します。

PTUGAPTR.SQR を実行して、ツリーのノード番号を振り直し、不足している番号を追加調整します。

セキュリティ ツリーの修正

既存のツリーは、ノードまたはレベルのいずれかを変更して修正できます。通常、セキュリティ ツリーを修正するとツリー ノード番号が変更されるため、ツリー ノード番号を更新する必要があります。また、SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスを実行してデータ アクセス プロファイルとセキュリティ結合テーブルを更新する必要があります。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「ツリーおよび行セキュリティ権限リスト データによる SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ」、88 ページ

セキュリティ ツリー番号調整

PeopleTools では、各ノードに番号が割り当てられており、ノード番号を調整するための連続した未使用の番号が保持されています。これは、セキュリティ ツリーのセクションに変更を加える際に使用されます。ノードを移動させると、移動させたノード (および移動させたノードの子ノード) の右側にあるノードの番号が自動的に付け替えられます。ツリーへの変更を保存すると、変更されたツリーの部分のみが保存されます。

ノード間の調整用未使用番号を更新するには、PTUGAPTR.SQR ユーティリティを実行します。未使用番号を更新するのは、以下の場合です。

- セキュリティ ツリー構造をロードする場合
- セキュリティ ツリーを修正する場合
- ツリーへの調整番号の挿入を指示するエラー メッセージが表示された場合

セキュリティ ツリーの検証

セキュリティ ツリーを構築したら、SQR 検証 (PER506.SQR) を実行して、部門コンポーネントにはあってもセキュリティ ツリーにはない部門 ID、またはセキュリティ ツリーにはあっても部門コンポーネントにはない部門 ID を確認してください。新規部門のツリー ベース セキュリティは、セキュリティ ツリーに新規部門を追加してからでないと設定できません。この SQR 検証を使うと、システムに登録されている各部門をセキュリティ ツリーに確実に追加することができます。

ツリー ベース データ権限の行セキュリティ権限リストへの割り当て

部門ツリー セキュリティ ページにアクセスします。

部門ツリー セキュリティ

行セキュリティ権限リスト:

HCDPALL

Data Sec by Tree (all trees)

ツリー有効日のリフレッシュ:

2007/03/23

ツリー有効日のリフレッシュ

セキュリティ プロファイルの定義					最初	1-32/32	最後
*セットID	*部門 ID	*アクセス コード	ツリー有効日				
AUS01	ALL DEPTS	All Departments	読/書	1980/01/01	+	-	
BEL01	10200	Headquarters - Belgium	読/書	1980/01/01	+	-	
CHE01	10200	Headquarters	読/書	2004/01/01	+	-	
DEU01	10200	Headquarters	読/書	2003/01/01	+	-	
ESP01	10000	Headquarters	読/書	1990/01/01	+	-	
ESP02	10000	Headquarters	読/書	1990/01/01	+	-	
FRA01	10200	France Headquarters	読/書	1980/01/01	+	-	
GBR01	ALL_DEPTS	Corporate Headquarters	読/書	1980/01/01	+	-	
GF001	GFDIG00	Department Corporate	読/書	1999/01/01	+	-	
GN001	GNDIG00	The Netherlands Dept DIG00	読/書	2000/01/01	+	-	

部門ツリー セキュリティ ページ

[ツリー指定日]

[セキュリティ プロファイルの定義] グリッドでツリーのセットID を選択すると、この日付の時点で有効なツリーが参照されます。将来の日付のツリーを参照する場合は、将来の日付を選択します。

たとえば、今日現在有効な部門セキュリティ ツリーを使用するには、このフィールドに今日の日付を入力します。

[ツリー有効日のリフレッシュ]

[セキュリティ プロファイルの定義] グリッドにリストされたツリーをリフレッシュして、[ツリー 指定日] フィールドの日付で有効なツリーにする場合にクリックします。

注: 行セキュリティ権限リストで確実に現在のツリーが使用されるようにするには、セットID に対するセキュリティ ツリーの新たなバージョンを作成するたびに、適切な指定日を入力してこのボタンをクリックする必要があります。

[セキュリティ プロファイルの定義]

[セットID]、[部門 ID]

アクセスを許可するツリーのセットID と部門 ID を入力します。行セキュリティ権限リストには、(特別に指定していない限り) セキュリティ ツリーでこ

の部門 ID に所属している各部門 ID へのアクセスが認められます。そのため、各部門 ID を個別に選択する必要はありません。

[アクセス コード]

この部門 ID のデータに対して行セキュリティ権限リストが持つアクセス権の種類を指定します。

アクセスを許可した部門 ID に所属する 1 つまたは複数の部門に対するアクセスを制限するには、行を挿入し、制限する部門の ID を選択してからアクセスコード [アクセス不可] を選択します。

アクセスを許可する部門 ID に所属する部門 ID に対するアクセスを制限する場合にのみ、明示的にアクセス制限を与える必要があります。それ以外の場合は、このページで部門またはその部門が所属する部門にアクセスが許可されていない限り、行セキュリティ権限リストはその部門にアクセスすることができません。

[ツリー有効日]

このセットID のツリーの有効日が表示されます。ツリーの有効日が正しいことを確認してください。ツリーの新しいバージョンを作成しても、有効日は自動的に更新されません。

ツリーを更新するには、[ツリー指定日] フィールドにツリーの有効日を入力して [ツリー有効日のリフレッシュ] ボタンをクリックします。

ツリーおよび行セキュリティ権限リスト データによる SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ

部門ツリー セキュリティ コンポーネントでツリーの追加、修正、または行セキュリティ権限リストの追加、修正を行ったときには、必ず SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスを実行して SJT_CLASS_ALL を新たなユーザー セキュリティ データによって更新する必要があります。

このプロセスを実行する前に部門ツリー セキュリティ ページで新規または修正後のツリーにアクセスすることができます。このため、ツリーを構築してから新規または既存の権限リストでそのツリーを使用する場合は、適切な行のリフレッシュを行っている限り、このプロセスは 1 回実行するだけで済みます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスの実行」、[99 ページ](#)

ロール ベース データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て

データ権限セキュリティをロール ベース権限リストに割り当てるには、権限リスト別セキュリティ コンポーネント (SCRTY_CLASS) を使用します。

このセクションでは、権限リストにフィールド値によるデータ権限セキュリティを割り当てる方法を説明します。

ロール ベース データ権限セキュリティの権限リストへの割り当てに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
権限リスト別セキュリティ	SCRTY_CLASS	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[権限リスト別セキュリティ]、[権限リスト別セキュリティ]	ロール ベース権限リストに、フィールド値によるデータ権限セキュリティを付与します。

フィールド値による権限リストへのデータ アクセス権の付与

権限リスト別セキュリティ ページにアクセスします。

権限リスト別セキュリティ

権限リスト HCCPBN1000 Benefits

セキュリティ セット 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

*セキュリティ セット: PPLJOB 個人 - 職務あり

セキュリティ タイプ* カスタマイズ | 検索 最初 1-3/3 最後

	セキュリティアクセスタイプ		権限リスト	セキュリティ値		
1	002	Business Unit	CFABU	Location Code	CCAB1	+ -
2	002	Business Unit	CFABU	Location Code	CCBC1	+ -
3	004	Company	CBT			+ -

権限リスト別セキュリティ ページ

[セキュリティ セット]

この権限リストによってデータを保護するセキュリティ セットを選択します。複数のセキュリティ セットのデータを保護するには、セキュリティ セットの行を追加します。

[セキュリティ タイプ]

[アクセス タイプ]

セキュリティ アクセス タイプを選択します。このセキュリティ セットで使用可能に設定されたタイプだけがリストされます。

1 つの権限リストに対して複数のアクセス タイプを使用してデータ権限を設定することができます。

注: このページでは、ツリー ベース セキュリティ タイプは使用できません。

注: セキュリティ アクセス タイプ 031 (採用チーム) は、アクセスを許可する人材募集の割り当てに使用されます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「採用管理ソリューション用の追加セキュリティのアクティブ化」、118 ページ

[キー 1]、[キー 2]、[セキュリティ キー 3]

この権限リストにアクセスを許可するトランザクション セキュリティ値を選択します。トランザクション値を選択するまでに、1 つ、時には 2 つのキープロンプトの選択が必要になる場合があります。

たとえば、この権限リストに、勤務地が UK1 である職務のある個人に対するデータ アクセス権を付与するには、[セキュリティ セット] で PPLJOB、[セキュリティ アクセス タイプ] で勤務地を選択します。勤務地を選択するには、最初にビジネス ユニットを選択する必要があります。このため、[キー 1] フィールドでビジネス ユニット GBR01 を選択し、[キー 2] で勤務地 UK1 を選択します。

この他にも勤務地を選択するには、行を追加します。

複数のアクセス タイプを使用するには、行を追加して異なるアクセス タイプを選択し、そのタイプのセキュリティ キーのフィールド値を選択します。

注: セキュリティ タイプは累積されず、OR 関係で結ばれます。

セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ

セキュリティ結合テーブルをリフレッシュするには、SJT テーブルのリフレッシュ - 夜間処理コンポーネント (SCRTY_SJTDLY_RC)、SJT テーブルのリフレッシュ コンポーネント (SCRTY_SJT_RC)、ユーザー セキュリティ テーブルのリフレッシュ コンポーネント (SCRTY_OPR_RC)、および SJT_OPR_CLS のリフレッシュ コンポーネント (SCRTY_OPRCLS_RC) を使用します。

このセクションでは、リフレッシュ プロセスを使用するタイミングと方法について説明します。

- 夜間リフレッシュ プロセスの実行
- トランザクション セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ プロセスの実行
- SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスの実行
- SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスの実行

リフレッシュ プロセスを使用するタイミングについて

PeopleSoft Enterprise HRMS の行レベル セキュリティには、4 つのリフレッシュ プロセスが用意されています。リフレッシュ プロセスを使用してセキュリティ データを最新の状態に保ち、最新の情報を使用してデータ権限が適用されるようにします。

重要: リフレッシュ プロセスは、プロセス定義に含まれる各行を順番にリフレッシュするように設計されています。したがって、行数が多い場合、プロセスの実行に非常に長い時間がかかります。パフォーマンスを向上させるには、ラン コントロール ページの [全ての行をリフレッシュ] チェック ボックスをオフにして、プロセスを同時に実行できるようにより限定したラン コントロール定義を作成することをお勧めします (たとえば、1 つのラン コントロールで全ての権限リストをリフレッシュするのではなく、各権限リストごとにラン コントロールを作成して同時に実行します)。ラン コントロールは保存可能であり、必要に応じて何度でも使用できます。

SJT の夜間リフレッシュ

トランザクション セキュリティ結合テーブルをリフレッシュする場合に、SJT の夜間リフレッシュ プロセスを夜間に実行します。夜間リフレッシュ プロセスでは、以下の処理が行われます。

- トランザクション セキュリティ結合テーブルを、SavePostChange PeopleCode をスキップしたトランザクション セキュリティ データの変更によって更新します。
手動入力またはコンポーネント インターフェイスをトリガするマス更新により、トランザクション コンポーネントで変更の実行と保存を行うと、自動的にトランザクション セキュリティ結合テーブルが更新されます。PeopleCode をスキップする場合は、リフレッシュ プロセスを使用して変更を取り込む必要があります。
- セキュリティ結合テーブルに含まれる将来の日付のセキュリティ行が有効になった（現在のカレンダー日とトランザクション レコードの有効日が一致した）ときに、このセキュリティ結合テーブルを更新します。これは、将来の日付の行が有効になっても SavePostChange PeopleCode はトリガされないためです。
- 将来の日付のセキュリティ行を使用している場合は、古いセキュリティ行を削除し、将来のフラグの付いた行を有効な行にします。

使用している全てのセキュリティ セットに対して、このプロセスを夜間に実行します。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「夜間リフレッシュ プロセスの実行」、96 ページ

[SJT リフレッシュ]

トランザクション セキュリティ結合テーブルをリフレッシュする場合に、SJT のリフレッシュ プロセスを実行します。

以下の処理を行うときには、このプロセスを使用してテーブルをリフレッシュする必要があります。

- セキュリティ アクセス タイプの使用可/不可の切り替え
セキュリティ アクセス タイプを使用可能にしたときには、そのタイプのトランザクション セキュリティ データをセキュリティ結合テーブルにロードする必要があります。
セキュリティ アクセス タイプを使用不可能にしたときには、セキュリティ結合テーブルからそのトランザクション セキュリティ データをクリアするため、このプロセスを実行する必要があります。実行しなくてもセキュリティが損なわれることはありませんが、不要な行を削除することでパフォーマンスを向上させることができます。
- コンポーネント インターフェイスをバイパスするプロセスを使用したトランザクション コンポーネントの更新
SJT の夜間リフレッシュ プロセスでもこのデータは取り込まれますが、スケジュールされた実行を待たず、直ちにテーブルをリフレッシュすることもできます。

このプロセスは、全てのセキュリティ セットに対して一括で、個別に、または小さなデータ グループごとに実行することができます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「トランザクション セキュリティ結合テーブル リフレッシュ プロセスの実行」、97 ページ

[行セキュリティのリフレッシュ]

SJT_CLASS_ALL をリフレッシュするには、SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスを実行します。

以下の処理を行うときには、このプロセスを使用して SJT_CLASS_ALL をリフレッシュする必要があります。

- セキュリティ アクセス タイプの修正。
この修正には、将来の日付のセキュリティ行を使用する選択、または職務データ セキュリティ オプションの変更が含まれます。

- 部門セキュリティ ツリーの構築または修正。
- 部門ツリー セキュリティ コンポーネントでの行セキュリティ権限リストの作成または修正。

この修正には、データ権限の追加または削除、およびツリーの有効日のリフレッシュが含まれます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SJT_CLASS_ALL のリフレッシュプロセスの実行」、99 ページ

SJT_OPR_CLS のリフレッシュ

SJT_OPR_CLS をリフレッシュするには、SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスを実行します。

ユーザー プロファイルとデータ権限を含む権限リストとの関係を作成または変更するときには、必ず SJT_OPR_CLS をリフレッシュする必要があります。以下の処理を行う場合に、このプロセスを実行します。

- データ権限のあるユーザー プロファイルのコピー
- “ユーザー プロファイル” の一般ページでの、データ権限がある行セキュリティ権限リストのユーザーへの追加またはこのリストの削除
- データ権限のある権限リストが割り当てられたロールのユーザーへの追加またはこのロールの削除
- ユーザーに割り当てられるロールへのデータ権限のある権限リストの追加またはこのリストの削除

注: 部門ツリー セキュリティ コンポーネントおよび権限リスト別セキュリティ コンポーネントでは、SavePostChange PeopleCode によって、いずれかのコンポーネントに初めて権限リストが追加されたときに SJT_OPR_CLS が更新されます。最初に [行セキュリティ権限リスト] フィールドまたはロールを使用してユーザーに権限リストを追加してからこれを部門ツリー セキュリティ ページまたは権限リスト別セキュリティ ページに追加する場合は、このプロセスの実行は不要です。

USER_PROFILE メッセージとローカル サブスクリプション HCM_Refresh_SJT_OPR_CLS、および ROLE_MAINT メッセージとローカル サブスクリプション HCM_Role_Refresh_SJT_OPR_CLS を有効にして、SJT_OPR_CLS を自動更新することもできます。

不要なパブリッシュを避けるために、システムの出荷時にはこれらのメッセージは有効に設定されていません。それらのメッセージを使用するには、次の手順に従います。

1. USERMAINT.GBL SavePostChange PeopleCode 内の以下の PeopleCode を非コメント化します。


```
/*
If %Mode="A" Then
    %MSG.CopyRowset (&USERPROFILECHANGE);
    &MSG.Publish();
Else
    %MSG.CopyRowsetDelta (&USERPROFILECHANGE);
    &MSG.Publish();
End-If,*/
```
2. PeopleSoft アプリケーション デザイナを使用して、次の手順に従い USER_PROFILE メッセージと ROLE_MAINT メッセージをアクティブに設定します。
 - a. 各メッセージを開きます。
 - b. [Properties] アイコンをクリックします。
 - c. [Use] タブをクリックします。
 - d. “アクティブ” チェックボックスをオンにします。

3. PeopleSoft アプリケーション デザイナを使用して、USER_PROFILE メッセージと ROLE_MAINT メッセージのハンドラ/アプリケーション クラスをアクティブに設定します。
 - a. 各メッセージを開きます。
 - b. メッセージ サブスクリプションで、HCM_Refresh_SJT_OPR_CLS (USER_PROFILE 用) または HCM_ROLE_REFRESH_SJT_OPR_CLS (ROLE_MAINT 用) を選択して右クリックし、メッセージ サブスクリプション プロパティを選択します。
 - c. “アクティブ” チェックボックスをオンにします。
4. キューが実行中であることを確認します。
 - a. [PeopleTools]、[インテグレーション ブロカー]、[サービス オペレーション モニター]、[メッセージ モニター] の順に選択します。
 - b. メッセージ モニター の “チャンネルのステータス” ページ (AMM_CHNL_STATUS) で、USER_PROFILE チャンネルと ROLE_MAINT チャンネルが表示されるまでスクロールします。
 - c. 両方のチャンネルのステータスが “実行中” であることを確認します。
5. 次の手順を実行して、USER_PROFILE メッセージおよび ROLE_MAINT メッセージを HRMS ノード上でアクティブに設定します。
 - [PeopleTools]、[インテグレーション ブロカー]、[インテグレーション設定]、[ノード定義] の順に選択します。
 - ノード定義 - トランザクション ページ (IB_NODETRXLIST) で、各メッセージのステータスを “アクティブ” に変更します。

参照: 第 34 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS におけるインテグレーション ポイントの使い方」、「HRMS ローカル インテグレーションの使い方」、788ページ

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスの実行」、100ページ

アクション別のリフレッシュ プロセス

次の表は、HRMS セキュリティを導入する際に実行する必要のあるリフレッシュ プロセスを示しています。

アクション	SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ	SJT のリフレッシュ
セキュリティインストール設定ページで、導入設定を変更する。	実行	実行
セキュリティアクセスタイプを使用可能に設定する。		実行
セキュリティアクセスタイプを使用不可に設定する。	実行	実行
使用可能であるセキュリティアクセスタイプの設定内容を修正する(たとえば、[将来の日付を含む] チェックボックスをオンまたはオフにするなど)。	実行	実行

次の表は、セキュリティ ツリーの使用時、および行セキュリティ権限リストの作成時および修正時に実行する必要のあるリフレッシュ プロセスを示しています。

アクション	SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ
部門セキュリティツリーを作成する。	
既存のツリーに別の有効日を設定して新しいバージョンのツリーを作成する。 注: この時点では SJT_CLASS_ALL をリフレッシュする必要はありません。新規のツリーを参照するようにデータ権限リストを更新する必要があります。SJT_OPR_CLS は、その後で実行します。	
有効日を変更せずに、部門セキュリティツリーを修正する。	実行
部門ツリー セキュリティ ページに新規の権限リストを追加して、そのリストにデータ権限を追加する。	実行
部門ツリー セキュリティ ページで、権限リストのデータ権限を修正する。	実行
既存のツリーに別の有効日を設定して新しいバージョンのツリーを作成したため、部門ツリー セキュリティ ページでツリーの有効日をリフレッシュする。	実行

次の表は、行セキュリティ権限リストの作成時および修正時に実行する必要があるリフレッシュ プロセスを示しています。

アクション	SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ
権限リスト別セキュリティページに新規の権限リストを追加して、そのリストにデータ権限を追加する。 注: コンポーネントを保存すると、SavePostChange PeopleCode を使用して SJT_CLASS_ALL が自動的に更新されます。	
権限リスト別セキュリティページで、権限リストのデータ権限を修正する。 注: コンポーネントを保存すると、SavePostChange PeopleCode を使用して SJT_CLASS_ALL が自動的に更新されます。	

次の表は、ユーザーのデータ権限の追加、削除、修正時に実行する必要があるリフレッシュ プロセスを示しています。

注: 次の表の内容は、SJT_OPR_CLS を自動更新する USER_PROFILE メッセージとローカル サブスクリプション HCM_Refresh_SJT_OPR_CLS、および ROLE_MAINT メッセージとローカル サブスクリプション HCM_Role_Refresh_SJT_OPR_CLS を有効に設定していない場合を前提としています。システムの出荷時には、これらのメッセージは有効にされていません。

これらのメッセージが有効な場合、SJT_OPR_CLS は自動的に更新されるため、以下に示すアクションに従ってリフレッシュ プロセスを実行する必要はありません。

アクション	SJT_OPR_CLS のリフレッシュ
ユーザー プロファイルの一般ページで、ユーザー プロファイルに行セキュリティ権限リストを追加する。	実行
ユーザー プロファイルの一般ページで、ユーザー プロファイルから行セキュリティ権限リストを削除する。	実行
ユーザー プロファイルの一般ページで、ユーザー プロファイルの行セキュリティ権限リストを変更する。	実行
データ権限が設定された権限リストを持つ既存のプロファイルをコピーして、新規のユーザー プロファイルを作成する(“ユーザー プロファイルのコピー” ページ、ユーザー作成プロセス、または “行セキュリティ-部門管理者” プロセスのいずれかを使用して作成する)。	実行
ロール ベースの権限リスト(権限リスト別セキュリティページでデータ権限が設定された権限リスト)を、ユーザーに既に割り当てられているロールに追加する。	実行
ロール ベースの権限リスト(権限リスト別セキュリティページでデータ権限が設定された権限リスト)を、ユーザーに既に割り当てられているロールから削除する。	実行
1つ以上のロール ベース権限リスト(権限リスト別セキュリティページでデータ権限が設定された権限リスト)が設定されたロールをユーザー プロファイルに追加する。	実行
1つ以上のロール ベース権限リスト(権限リスト別セキュリティページでデータ権限が設定された権限リスト)が設定されたロールをユーザー プロファイルから削除する。	実行
ロールを使用してユーザーに既に割り当てられている権限リストを、権限リスト別セキュリティページに追加して、その権限リストにデータ権限を設定する。	
ユーザー プロファイルの一般ページでユーザーに既に割り当てられている権限リストを、部門ツリーセキュリティページに追加して、その権限リストにデータ権限を設定する。	

次の表は、以下のトランザクション セキュリティ データの追加、削除、修正時に実行する必要のあるリフレッシュ プロセスを示しています。

- 個人の職務データ レコード
- 個人の関係者レコード
- 部門
- 人材募集

アクション	SJT リフレッシュ プロセス
既存のトランザクションレコードを追加、削除または修正する。	

アクション	SJT リフレッシュ プロセス
将来の日付のトランザクションレコードを作成する。	
コンポーネントインターフェイスをトリガする一括更新プロセスを使用して、複数のトランザクションレコードを作成、削除または修正する。	
コンポーネントインターフェイスをトリガしない(またはトランザクションレコードのコンポーネントインターフェイスをバイパスする)一括更新プロセスを使用して、複数のトランザクションレコードを作成、削除または修正する。	実行

セキュリティのリフレッシュに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
SJT の夜間更新	SCRTY_SJTDLY_RC	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[SJT テーブルのリフレッシュ - 夜間処理]、[SJT の夜間更新]	トランザクション セキュリティ結合テーブルをリフレッシュして、自動的にテーブルにロードされなかったデータ変更を取得します。深夜 0 時直後に実行して、有効な日付の変更を取得します。
SJT リフレッシュ	SCRTY_SJT_RC	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[トランザクション SJT のリフレッシュ]、[SJT リフレッシュ]	トランザクション ベースのセキュリティ結合テーブルの一部または全部のデータをリフレッシュして、自動的にテーブルにロードされなかったデータ変更を取得します。
行セキュリティのリフレッシュ	SCRTY_OPR_RC	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[ユーザー セキュリティテーブルのリフレッシュ]、[行セキュリティのリフレッシュ]	SJT_CLASS_ALL テーブルの一部または全部のデータをリフレッシュして、自動的にテーブルにロードされなかった権限リストに対する変更を取得します。
SJT_OPR_CLS リフレッシュ	SCRTY_OPRCLS_RC	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[SJT_OPR_CLS のリフレッシュ]、[SJT_OPR_CLS リフレッシュ]	SJT_OPR_CLS の一部または全部のデータをリフレッシュして、ユーザー プロファイルと権限リストの現在の関係を取得します。

夜間リフレッシュ プロセスの実行

“SJT の夜間更新” ページにアクセスします。

SJT の夜間更新

ラン コントロール ID: Nightly_Refresh

[レポート マネージャ](#)[プロセス モニター](#)

実行

SJT テーブルをリフレッシュして、当日が有効日の行を取得します。このプロセスにより、前日入力されたトランザクションを更新することもできます。このプロセスは、毎日午前 0:00 直後に実行されるように設定する必要があります。

行レベル セキュリティのリフレッシュ

トランザクション セキュリティ結合テーブル: SJT_PERSON

☒ 前日の変更内容を含む

指定日:

2004/09/01

31

“SJT の夜間更新” ページ

このプロセスが定期スケジュールを使用して毎晩深夜 0 時直後に実行されるように設定し、[指定日] フィールドは空白のままにします。このプロセスを深夜 0 時直後に実行することによって、有効になったばかりの、将来の日付であった行が取得されます。

[指定日]

このラン コントロール ID を定期的 to 実行するようにスケジュールする場合は、[指定日] は空白のままにします。実行のたびに、現在のシステム日付が使用されます。

[トランザクション セキュリティ結合テーブル]

更新するトランザクション セキュリティ結合テーブルを選択します。

[前日の変更内容を含む]

前日の変更内容を含める場合にオンにします。前日にトランザクション レコードに加えられた変更がないかシステム内が検索され、あればその変更によってトランザクション セキュリティ結合テーブルが更新されます。これによって、コンポーネントまたはコンポーネント インターフェイスの外でデータに加えられた変更を確実に取得することができます。

このチェック ボックスをオンにしない場合は、指定日に行われた変更だけを使用してトランザクション セキュリティ結合テーブルが更新されます。

注: 確実に最新の情報によってトランザクション セキュリティ結合テーブルが更新されるように、このプロセスを実行するときには毎回このチェック ボックスをオンにすることをお勧めします。このチェック ボックスをオフにするのは、パフォーマンスの問題が発生しており、かつ通常のユーザー インターフェイスまたはコンポーネント インターフェイスの外でレコードが更新されていないことが確実な場合だけにしてください。

トランザクション セキュリティ結合テーブル リフレッシュ プロセスの実行
STJ リフレッシュ ページにアクセスします。

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

97

SJT リフレッシュ

ラン コントロール ID: Refresh

レポート マネージャ

プロセス モニター

実行

SJT テーブルをリフレッシュします。トランザクション テーブルの基となるテーブルに対して、CI 以外からマス チェンジを実行した場合にリフレッシュが必要です。リフレッシュは、テーブル全体、または特定のテーブルについていつでも実行できます。

行レベル セキュリティのリフレッシュ

*リフレッシュするセット

特定のセキュリティ セット

セキュリティ セット:

個人 - 職務あり

SJT テーブル:

SJT_PERSON

☐ 全ての行をリフレッシュ

更新する行:

セキュリティ タイプ*

更新する行

セキュリティ タイプ*をロード

全て選択

全て選択解除

カラム名 | 検索 |

最初 1-3/3 最後

	選択	セキュリティ アクセス タイプ*	名前		
1	<input checked="" type="checkbox"/>	001	職務部門別	+	-
2	<input checked="" type="checkbox"/>	003	職務ビジネス ユニット	+	-
3	<input checked="" type="checkbox"/>	015	雇用情報	+	-

SJT リフレッシュ ページ

- [リフレッシュするセット]

全てのセキュリティ セットをリフレッシュする場合は、[全てのセキュリティ セット] を選択します。
1 つのセキュリティ セットをリフレッシュする場合は、[特定のセキュリティ セット] を選択します。
- [セキュリティ セット]、[SJT テーブル]

1 つのセキュリティ セットをリフレッシュする場合は、そのセットを選択します。そのセキュリティ セットに関連付けられたトランザクション セキュリティ 結合テーブルが表示されます。
- [全ての行をリフレッシュ]

セキュリティ結合テーブル内の全ての行をリフレッシュする場合はオンにします。
セキュリティ結合テーブル内の選択した行をリフレッシュする場合はオフにします。[更新する行] フィールドおよびグリッドが表示されます。
- [更新する行]

更新する行を選択します。ここで選択可能な行は、セキュリティ セット コンポーネントでセキュリティ セットに対して選択された行です。
- [更新する行]

[更新する行] グリッドに表示されるフィールドとボタンは、[更新する行] フィールドで更新する行として選択した行によって異なります。更新するデータ行を入力します。

たとえば、[更新する行] フィールドで [セキュリティ タイプ] を選択した場合は、トランザクション データをリフレッシュするセキュリティ タイプを選択します。

SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスの実行

“行セキュリティのリフレッシュ” ページにアクセスします。

行セキュリティのリフレッシュ

ラン コントロール ID: 1

[レポート マネージャ](#)[プロセス モニター](#)

実行

SJT_CLASS_ALL セキュリティ結合テーブルをリフレッシュします。
このリフレッシュは、セキュリティ タイプ、セキュリティ ツリー、ROWSECCLASS の変更/追加時に行われます。リフレッシュ プロセスは、データ全体、全ツリー、ツリー グループ、セキュリティ タイプ、権限リストのそれぞれについて実行できます。

特定のツリーに対して実行する場合以外は、全てのツリーの権限リストが新しいデータで更新されます。

行レベル セキュリティのリフレッシュ

☐ 全ての行をリフレッシュ

リフレッシュするセット:

権限リスト

ツリー有効日のリフレッシュ:

リフレッシュするセキュリティ セット

カスタマイズ | 検索 |

最初1/1最後

	権限リスト	名称		
1	HCCPC01200	Administer eCompensation	+	-

“行セキュリティのリフレッシュ” ページ

[行レベル セキュリティのリフレッシュ]

[全ての行をリフレッシュ]

SJT_CLASS_ALL の全ての行をリフレッシュする場合はオンにします。
選択した行をリフレッシュする場合はオフにします。[リフレッシュするセット] フィールドが表示されます。

[リフレッシュするセット]

リフレッシュする行のセットを選択します。[リフレッシュするセキュリティ セット] グリッドが表示されます。
以下から選択してリフレッシュすることができます。

- [全ツリー]
- [権限リスト]
- [セキュリティ タイプ]
- [選択したツリー]

[ツリー有効日のリフレッシュ]

テーブルをリフレッシュする日付を選択します。プロセスによって、この日の時点で有効なセキュリティ データによってテーブルがリフレッシュされます。

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

99

- [リフレッシュするセキュリティ セット]

リフレッシュする値を選択します。
たとえば、行セキュリティ権限リストを修正した場合は、テーブル全体をリフレッシュせずに、[リフレッシュするセット] フィールドで [権限リスト] を選択してから、ここで修正した権限リストを選択します。
特定のツリーを修正した場合は、[リフレッシュするセット] フィールドで [選択したツリー] を選択し、リフレッシュするセットID のツリーを選択します。

SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスの実行

SJT_OPR_CLS リフレッシュ ページにアクセスします。

SJT_OPR_CLS リフレッシュ

ラン コントロール ID: 1

[レポート マネージャ](#) [プロセス モニター](#)

実行

SJT_OPR_CLS セキュリティ結合テーブルをリフレッシュします。
この処理は、ユーザーまたはセキュリティ クラスがセキュリティ ロールに追加、またはセキュリティ ロールから削除されると実行されます。
全ての行、ユーザーのセット、またはクラス ID のセットに対して実行することができます。

行レベル セキュリティのリフレッシュ

☐ 全ての行をリフレッシュ

リフレッシュするセキュリティ セット:

クラス ID

グループ ホックス

カスタマイズ | 検索 |

最初 1/1 最後

クラス ID	説明		
<div>HCDPALL</div>	Data Sec by Tree (all trees)	<div>+</div>	<div>-</div>

SJT_OPR_CLS リフレッシュ ページ

SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスでは、システム日付で SJT_OPR_CLS がリフレッシュされます。

[全ての行をリフレッシュ]

SJT_OPR_CLS の全ての行をリフレッシュする場合はオンにします。
選択した行をリフレッシュする場合はオフにします。[リフレッシュするセキュリティ セット] フィールドが表示されます。

[リフレッシュするセキュリティ セット]

リフレッシュする行のセットを選択します。
以下から選択してリフレッシュすることができます。

- [クラス ID]
ユーザーに関連付けられた行セキュリティまたはロールベースの権限リストの ID を選択して、テーブルをリフレッシュする場合に選択します。
- [ユーザー ID]

100

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

選択したユーザー ID およびその ID に割り当てられた権限リストによってテーブルをリフレッシュする場合に選択します。

データ権限セキュリティの照会

データ権限セキュリティを照会するには、セキュリティ データの照会コンポーネントを使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 検索ビューの検索
- セキュリティ データの検索
- ユーザー セキュリティ データの検索
- SJT_PERSON および SJT_PERSON_USF でのトランザクション セキュリティ データの検索
- SJT_DEPT でのトランザクション セキュリティ データの検索
- HRS_SJT_JO でのトランザクション セキュリティ データの検索

データ権限の照会について

セキュリティ データの照会コンポーネントでは、設定したアクセス権の内容について疑問が生じた場合に、データ権限の設定をさまざまな面から迅速かつ簡単に照会することができます。このコンポーネントは 7 つのページで構成され、それぞれが異なる面から HRMS データ権限の照会を行います。

ページ	説明
検索ビューの検索	<p>コンポーネントで使用されているセキュリティ検索ビューに関する詳細を確認するときに使用します。検索ビューにはさまざまな種類があり、同じコンポーネントでもメニューによって異なるビューを使用している場合があります。</p> <p>セキュリティビューのテキストによって、コンポーネントのデータがどのセキュリティセットに含まれるか、また特別な選択条件があるかを確認することができます。</p> <p>検索ビューの検索を使用するには、以下の情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネント名 • マーケット • メニュー名 • ユーザーが使用したアクセス モード (追加か、更新か) <ul style="list-style-type: none"> - ユーザーがレコードを追加しようとしていた場合は、追加検索ビュー ([追加検索] フィールドに表示されます) を照会します。 - ユーザーがレコードを更新または確認しようとしていた場合は、[検索レコード名] または [上書き検索レコード] フィールドに表示される検索ビューを照会します。
セキュリティデータの表示	<p>選択したセキュリティセットおよびセキュリティアクセスタイプのセキュリティデータを確認する場合に使用します。ユーザー ID、権限リスト、またはセキュリティキーの値を選択することによって、あるいはこれら 3 つを組み合わせることによって、照会の対象を絞り込むことができます。</p> <p>権限リストのアクセス権と、パラメータによって保護されるトランザクション データの両方を確認することができます。</p> <p>たとえば、セキュリティセット PPLJOB およびセキュリティアクセスタイプ 001 (部門 11000) で権限リスト MyJobs に割り当てられたデータ権限を確認することができます。あるいは、セキュリティセット PPLJOB およびセキュリティアクセスタイプ 002 (112 職務のある個人) で権限リスト MyJobs がアクセス可能なトランザクション データを確認することができます。</p> <p>複数のアクセスタイプのアクセス権の一覧をコンパイルするには、グリッド内のデータを Microsoft Excel にダウンロードします。</p>

ページ	説明
ユーザー セキュリティ データ	<p>ユーザーのデータ権限プロファイル(ロール、ロールベース権限リスト、および行セキュリティ権限リストを含む)と、関連付けられたデータ権限を確認します。</p> <p>データ権限セキュリティを含むロールとロールベース権限リストだけが照会されます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • SJT_PERSON 検索 • SJT_DEPT 検索 • SJT_PERSON_USF 検索 (日本未対応機能) • HRS_SJT_JO 検索 	<p>トランザクション データに対するアクセス権を確認するときに使用します。以下の内容を確認することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • トランザクションレコードを保護するデータ • 選択したレコードに対するデータアクセス権を与えられた権限リスト • 選択した権限リストが割り当てられたユーザー

データ権限セキュリティの照会に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
検索ビューの検索	SCRTY_CLASS_DISP	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベルセキュリティ]、[セキュリティデータの照会]、[検索ビューの検索]	特定のコンポーネントで実際に使用されているビューの SQL テキストを照会します。[ビュー名] フィールドに照会するビューの名前を入力します。SQL オブジェクト ID を指定して、そのビューで使用されている SQL オブジェクトの定義を確認することができます。
セキュリティデータの表示	SCRTY_TRANS_DISP	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベルセキュリティ]、[セキュリティデータの照会]、[セキュリティデータの表示]	選択したセキュリティセットおよびアクセスタイプのセキュリティデータを表示します。選択したタイプを使用するユーザーセキュリティデータ、およびそのタイプによって保護されるトランザクションデータを表示することができます。
ユーザー セキュリティ データ	SCRTY_OPR_DISP	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベルセキュリティ]、[セキュリティデータの照会]、[ユーザーセキュリティデータ]	ユーザーのセキュリティデータ(割り当てられたロールと権限リストを含む)の照会と確認を行います。
SJT_PERSON 検索	SCRTY_SJT_PERSON	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベルセキュリティ]、[セキュリティデータの照会]、[SJT_PERSON 検索]	個人のデータを保護するために使用されるトランザクションデータ、およびその個人に対するアクセスが許可された権限リストとユーザーを確認します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
SJT_DEPT 検索	SCRTY_SJT_DEPT	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティデータの照会]、[SJT_DEPT 検索]	部門のデータを保護するために使用されるトランザクション データ、およびその部門に対するアクセスが許可された権限リストとユーザーを確認します。
SJT_PERSON_USF 検索 (日本未対応機能)	SCRTY_SJT_PER_USF	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティデータの照会]、[SJT_PERSON_USF 検索]	(USF) 個人のデータを保護するために使用されるトランザクション データ、およびその個人に対するアクセスが許可された権限リストとユーザーを確認します。
HRS_SJT_JO 検索	SCRTY_SJT_RSOPN	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティデータの照会]、[HRS_SJT_JO 検索]	人材募集のデータを保護するために使用されるトランザクション データ、およびその人材募集に対するアクセスが許可された権限リストとユーザーを確認します。

検索ビューの検索

“検索ビューの検索” ページにアクセスします。

検索ビューの検索(V)
セキュリティデータの表示
ユーザー セキュリティデータ
SJT_PERSON 検索
SJT_DEPT 検索
SJT_PERSON_USF検索

指定したコンポーネントで使用されているビューの SQL テキストを照会します。[ビュー名] フィールドに照会するビューの名前を入力します。SQL オブジェクト ID を指定して、ビューで使用されている SQL オブジェクトの内容を確認できます。

確認する検索ビューの検索

コンポーネント名: PERSONAL_DATA
マーク: GBL
検索レポート名: PERS_SRCH_ALL
追加検索: PERS_SRCH_ALL
メニュー名: ADMINISTER_WORKFORCE_(GBL)
上書き検索レポート: PERALL_SEC_SRCH

ビュー/SQL テキストの表示

ビュー名: PERALL_SEC_SRCH
ビュー テキスト:
SELECT DISTINCT %Sql(SCRTY_SEL_PKEY, OPR, SEC), %Sql(SCRTY_SEL_CORSBR, NM, SEC), %Sql(SCRTY_SEL_FLDSE, SEC) FROM %Sql(SCRTY_PER, FROM), PS_NAMES NM WHERE CLS, SCRTY_SET_CD IN ('PPLJOB', 'PPLPOT') AND %Sql(SCRTY_WHERE) AND %Sql(SCRTY_NO_APPT1) AND SEC.EMPLID = NM.EMPLID AND NM.NAME_TYPE = 'PRI' AND NMEFFDT = (SELECT MAX(B.EFFDT) FROM PS_NAMES B WHERE B.EMPLID = NM.EMPLID AND B.NAME_TYPE = 'PRI' AND B.EFFDT <= %CurrentDateIn)
SQL オブジェクト ID: SCRTY_PER_FROM
SQL テキスト: PSOPRDEFN OPR, PS_SJT_CLASS_ALL CLS, PS_SJT_PERSON SEC

“検索ビューの検索” ページ

セキュリティ検索ビューで使用されているビューおよび SQL テキストを照会するには、以下の情報を入力して検索する検索ビューを指定します。

- コンポーネント名
- マーケット
- メニュー名

[検索レコード名] 指定したコンポーネントに更新または表示モードでアクセスしたときに使用されるデフォルト検索レコードが表示されます。

注: メニュー レベルでコンポーネントに上書き検索レコードを割り当てることができます。コンポーネントで上書き検索レコードが使用されている場合は、[上書き検索レコード] にこれとは異なる検索レコードが表示されるので、そちらを検索してください。

[追加検索] 指定したコンポーネントに追加モードでアクセスしたときに使用される検索レコードが表示されます。

[上書き検索レコード] 指定したコンポーネントに更新または表示モードでアクセスしたときに使用される上書き検索レコードが表示されます。

[ビュー名]、[ビュー テキスト] 検索レコード ビューのテキストを確認する場合は、そのビューを [ビュー名] フィールドに入力します。Tab キーを押して [ビュー名] フィールドから出ると、ビュー テキストが表示されます。

[SQL オブジェクト ID]、[SQL テキスト] ビューで使用される SQL オブジェクト内の SQL テキストを確認する場合は、その SQL オブジェクトの ID を [SQL オブジェクト ID] フィールドに入力します。Tab キーを押して [SQL オブジェクト ID] フィールドから出ると、SQL テキストが表示されます。

注: SQL オブジェクトは、共通の SQL を保存するために使用されます。

たとえば、[人事・労務管理] メニューの個人情報コンポーネントに更新モードでアクセスした場合のセキュリティ検索ビューは、PERALL_SEC_SRCH です。この検索ビューでは、セキュリティ セット PPLJOB および PPLPOI と、トランザクション セキュリティ結合テーブル SJT_PERSON が使用されます。このビュー テキストには、APPT_TYPE (任務タイプ) が 1 の場合は行を返さないという特別な選択条件が含まれています。

この情報を使用して、セキュリティ データをより詳細に確認することができます。たとえば、セキュリティ セット PPLPOI ではどのデータが保護されているか、あるいはこのコンポーネントでユーザーがアクセスしようとしているレコードの任務タイプの値は 1 であり、そのためレコードにアクセスできないのか、などです。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer

セキュリティ データの検索

“セキュリティ データの表示” ページにアクセスします。

検索ビューの検索(V) セキュリティ データの表示 ユーザー セキュリティデータ S_JT_PERSON 検索 S_JT_DEPT 検索 S_JT_PERSON_USF検索 HRS_SJT_JO 検索

セキュリティ定義データと、それらの定義を通してアクセスされるトランザクション データを表示します。セキュリティ セットとセキュリティ アクセス タイプの指定は必須です。その他の検索条件の指定は任意で、必要に応じて組み合わせて使用します。

検索値の入力

*セキュリティ セット: 個人 - 職務あり PPLJOB トランザクション セキュリティ結合テーブル: S_JT_PERSON
 *セキュリティ アクセス タイプ: 職務部門別 001 全ての表示データをクリア

ユーザー ID: ID/氏名:
 行セキュリティ:
 権限リスト:
 セキュリティ キー 1: SETID_DEPT SHARE
 セキュリティ キー 2: DEPTID 25000
 セキュリティ キー 3:

セキュリティ データの表示 (1/3)

▼ セキュリティ定義を表示

セキュリティ定義を表示 クリットをクリア

▶ SQL を表示

セキュリティ定義データ - S_JT_CLASS_ALL

選択	権限リスト	セキュリティ キー 1	セキュリティ キー 2	セキュリティ キー 3	フリ	最初	1-8/8	最後
<input type="checkbox"/>	HCDPALL	SHARE	25000		<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	HCDPCAN	SHARE	25000		<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	HCDPFED	SHARE	25000		<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	HCDPMEX	SHARE	25000		<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	HCDPMYS	SHARE	25000		<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	HCDPPB	SHARE	25000		<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	HCDPTLEXT	SHARE	25000		<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>
<input type="checkbox"/>	HCDPUSA	SHARE	25000		<input checked="" type="checkbox"/>			<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>

セキュリティ データの表示 (2/3)

▼ トランザクション データを表示

トランザクション データを表示 クリットをクリア

セキュリティ データ - S_JT_PERSON

キー 1	キー 2	キー 3	従業員 ID	雇用 ID No.	名前	本国/赴任先	海外アクセス タイプ	登録の日付	差務
1 SHARE	25000		K0G017	0	Edward Jackson	本国		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 SHARE	25000		K0G018	0	Josephine Bonds	本国		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 SHARE	25000		K0G019	0	Janet Braxton	本国		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 SHARE	25000		K0G020	0	Jennifer Miller	本国		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 SHARE	25000		K0W005	0	Laura Jones	本国		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

セキュリティ データの表示 (3/3)

検索値フィールドをクリアするには、[全ての表示データをクリア] ボタンをクリックします。

[検索値の入力]

[セキュリティ セット]、[トランザクション セキュリティ結合テーブル]、[セキュリティ アクセス タイプ] セキュリティ データを確認するセキュリティ セットとアクセス タイプを選択します。そのセキュリティ セットで使用するトランザクション セキュリティ結合テーブルが表示されます。

注: 複数のセキュリティ アクセス タイプまたは以下の複数の追加パラメータに対するデータ権限セキュリティ データを照会するには、[セキュリティ定義を表示] および [トランザクション データを表示] グリッドの結果を Microsoft Excel にダウンロードして、検索を実行するたびにここに結果を追加します。

選択したセキュリティ セットまたはセキュリティ アクセス タイプの中で検索値を絞り込むには、以下のフィールドに 1 つまたは複数の値を入力します。

[ユーザー ID]、[ID/氏名] ユーザーのデータ権限セキュリティ データを確認する場合は、ユーザー ID を選択します。選択したプロファイルに割り当てられた個人の ID と氏名が表示されます。

[行セキュリティ] 行セキュリティ権限リストのデータ権限セキュリティ データを確認する場合は、権限リストを選択します。

ツリー ベースのセキュリティ アクセス タイプを選択し、ユーザー ID を入力すると、そのユーザー ID に関連付けられた行セキュリティ権限リストが自動的に入力されます。

このフィールドは、ツリー ベースのセキュリティ アクセス タイプを選択した場合にのみ使用することができます。

[セキュリティ キー 1]、[セキュリティ キー 2]、[セキュリティ キー 3] 選択したセキュリティ キーのデータ権限セキュリティ データを確認する場合は、ここで値を選択します。たとえば、部門 10000 のセキュリティ データを確認するには、[セキュリティ キー 1] で部門セットID SHARE を指定し、[セキュリティ キー 2] で部門 10000 を指定します。

[セキュリティ定義を表示] グループ ボックス内の [SQL を表示] グループ ボックスおよび [トランザクション データを表示] グループ ボックスを展開すると、SJT_CLASS_ALL テーブルの照会に使用される SQL と、この照会に対応するトランザクション セキュリティ結合テーブルが表示されます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「HRMS のデータ権限セキュリティについて」、44 ページ

[セキュリティ定義を表示]

[セキュリティ定義を表示] ボタンをクリックすると、検索条件に合致するユーザー セキュリティ データが表示されます。

グリッドには、権限リストと、その権限リストがアクセス可能なセキュリティ キーの値が表示されます。

[ツリー] 行セキュリティ (ツリー ベースの) 権限リストの場合は、自動的にこのチェック ボックスがオンになります。

[トランザクション データを表示]

[トランザクション データを表示] ボタンをクリックすると、選択したセキュリティ セットのトランザクション セキュリティ結合テーブルに保存されたトランザクション データが表示されます。グリッドに表示される行は、照会するセキュリティ セットによって異なります。

[セキュリティ キー 1] または [キー 1]、[セキュリティ キー 2] または [キー 2]、[セキュリティ キー 3] または [キー 3]	このデータ行を保護するために使用されているトランザクション セキュリティ データ (および必要なキー値) が表示されます。
[セットID]、[部門]、[有効日]、[名称]	部門のトランザクション データ行の場合は、データが保護されるセットID と部門が表示されます。
[人材募集 ID]	採用管理ソリューションの人材募集の行の場合は、データが保護される人材募集の ID が表示されます。
[従業員 ID]、[雇用レコード No.]、[名前]	個人のトランザクション データ行の場合は、データが保護される個人の ID、雇用レコード番号 (該当する場合)、および名前が表示されます。 一意の従業員 ID と雇用レコード番号の組み合わせが複数ある個人の場合は、複数のデータ行が表示されます。
[本国/赴任先]	このフィールドは、海外赴任の場合に使用され、そのトランザクション行が本国または赴任先のどちらの職務データ レコードのものが示されます。海外赴任の職務データ レコードの場合のみ “赴任先” と表示されます。 参照: <u>第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「HRMS セキュリティのインストール」、72ページ</u>
[海外アクセス タイプ]	海外赴任の職務データ レコードに対して特殊なセキュリティ オプションを使用している場合は、このフィールドに、この行が特殊な職務のセキュリティを使用可能にするために作成されたものかどうかが表示されます。 参照: <u>第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「特殊な職務のセキュリティ オプションについて」、71ページ</u>
[将来の日付]	このフィールドには、その行が将来の日付のトランザクション行かどうかが表示されます。 参照: <u>第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「将来の日付のセキュリティについて」、70ページ</u>
[兼務]	(JPN) この行が兼務のトランザクション行であるかどうかが表示されます。 参照: <u>第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「HRMS セキュリティのインストール」、72ページ</u>

ユーザー セキュリティ データの検索

“ユーザー セキュリティ データ” ページにアクセスします。

検索ビューの検索(V)	セキュリティデータの表示	ユーザー セキュリティデータ	SJT_PERSON 検索	SJT_DEPT 検索	SJT_PERSON_USF検索	HRS_SJT_JO 検索
-------------	--------------	----------------	---------------	-------------	------------------	---------------

ユーザー ID:
全ての表示データをクリア

ID/氏名: Betty Locherty

行セキュリティ: Data Sec by Tree (all trees)

セキュリティ定義を表示

ユーザー セキュリティデータのロールとクラス - SCRTY_OPR_ROLE

[カスタマイズ](#) | [検索](#) |

[最初](#) **1/1** [最後](#)

ロール名	名称	権限リスト	説明
1 Security: People without Jobs	Access to People without Jobs	HCDPALLPOI	Access to People w/out Jobs




ロール クラス別ユーザー セキュリティデータ定義 - SJT_CLASS_ALL

[カスタマイズ](#) | [検索](#) |

[最初](#) **1-5/5** [最後](#)

	権限リスト	セキュリティアクセス タイプ*	略称	セキュリティキー 1	セキュリティキー 2	セキュリティキー 3
1	HCDPALLPOI	009		00000		
2	HCDPALLPOI	009		00007		
3	HCDPALLPOI	009		00008		
4	HCDPALLPOI	009		00009		
5	HCDPALLPOI	009		00010		

ユーザー セキュリティ データ ページ (1/2)

ROWSECCLASS 別ユーザー セキュリティ データ定義 - SJT_CLASS_ALL						
			拡張列 ² 検索 	最初 	1-3108/3108 	最後
権限リスト	セキュリティアクセス ID ² *	略称	セキュリティ グループ 1	セキュリティ グループ 3	セキュリティ グループ 2	
1 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		10000	
2 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		11000	
3 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		12000	
4 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		13000	
5 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		14000	
6 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		15000	
7 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		21500	
8 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		25000	
9 HCDPALL	001	Job Dept	AUS01		27000	

ユーザー セキュリティ データ ページ (2/2)

[ユーザー ID] データ アクセス権を照会するユーザーの ID を選択します。
そのユーザーの氏名と行セキュリティ権限リストが表示されます。

[セキュリティ定義を表示] ボタンをクリックすると、グリッドに値が表示されます。

[ユーザー セキュリティ データのロールとクラス - SCRTY_OPR_ROLE]

ユーザーに割り当てられたロールと、そのロールに割り当てられたデータ権限のある権限リストが表示されます。

注: SCRTY_OPR_ROLE テーブルには、データ権限のある権限リストが割り当てられたロールだけが保存されます。データ権限のないロールは、グリッドに表示されません。

[ルール クラス別ユーザー セキュリティ データ定義 - SJT_CLASS ALL]

このユーザーのロールに関連付けられたロール ベース権限リストのデータ権限が表示されます。

[ROWSECCLASS 別ユーザー セキュリティ データ定義 - SJT_CLASS_ALL]

このユーザーに関連付けられた行セキュリティ権限リストの権限が表示されます。

関連項目:

第5章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「セキュリティデータ」、48ページ

SJT_PERSON および SJT_PERSON_USF のトランザクション セキュリティ データの検索

SJT_PERSON 検索ページまたはSJT_PERSON_USF 検索ページにアクセスします。

検索メニューの検索(V) セキュリティデータの表示 ユーザー セキュリティ データ **SJT_PERSON 検索** SJT_DEPT 検索 SJT_PERSON_USF検索 HRS_SJT_JO 検索

検索値の入力

従業員 ID: Z89002 Joanne Devey 全ての表示フィールドをクリア

雇用レコード No.:

関係者タイプ:

セキュリティ定義を表示

セキュリティ データ - SJT_PERSON カスタマイズ | 検索 | 最初 1-3/3 最後

セキュリティ データ 特殊職務フラグ

選択	従業員 ID	雇用レコード No.	関係者タイプ	関係者タイプ	セキュリティタイプ	名称	セキュリティキー 1	セキュリティキー 2	セキュリティキー 3
<input type="checkbox"/>	Z89002	0			001	職務部門メンバー	ZEBEN	ZD000000002	
<input type="checkbox"/>	Z89002	0		外部講師	006	関係者ビジネス エンリット	00008	ZBU00	
<input checked="" type="checkbox"/>	Z89002	0		外部講師	009	関係者	00008		

▼ 権限リスト データ

権限リストを表示

セキュリティ定義 - SJT_CLASS_ALL カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

選択	セキュリティセット	セキュリティタイプ	権限リスト	説明	セキュリティキー 1	セキュリティキー 2	セキュリティキー 3	フラグ
<input checked="" type="checkbox"/>	PPLPOI	009	HCDPALLPOI	Access to People w/out Jobs	00008			<input type="checkbox"/>

SJT_PERSON 検索ページ (1/2)

▼ ユーザー データ

ユーザーを表示

セキュリティ定義 - SJT_OPR_CLS カスタマイズ | 検索 | 最初 1-14/14 最後

権限リスト	ユーザー ID	従業員 ID	名前	行セキュリティクラス フラグ	ロール名
1 HCDPALLPOI	HCQAMAPP	MAPP002	BETTY TURTLE	ロール クラス	PeopleTools
2 HCDPALLPOI	HCQAMAPP001	MAPP001	FRANKLIN TURTLE	ロール クラス	PeopleTools
3 HCDPALLPOI	HCQAMEXC01	KU0007	Betty Locherty	ロール クラス	PeopleTools
4 HCDPALLPOI	HCQAMRT0006	MRT0006	Monique Lewin	ロール クラス	PeopleTools
5 HCDPALLPOI	HCQAMRT0008	MRT0008	Baldwin James	ロール クラス	PeopleTools
6 HCDPALLPOI	HCQAMRT0021	MRT0021	Maria McLean	ロール クラス	PeopleTools
7 HCDPALLPOI	HCQAMRT0022	MRT0022	Margaret Alexander	ロール クラス	PeopleTools
8 HCDPALLPOI	HCQAMRT0043	MRT0043	Andrea Gentles	ロール クラス	PeopleTools
9 HCDPALLPOI	HCQAMRT0044	MRT0044	John Ditka	ロール クラス	PeopleTools
10 HCDPALLPOI	HCQAMTA001	MTA0001	Donald Case	ロール クラス	PeopleTools
11 HCDPALLPOI	HCQAMTA1	KU0007	Betty Locherty	ロール クラス	PeopleTools
12 HCDPALLPOI	PS	KU0007	Betty Locherty	ロール クラス	PeopleTools
13 HCDPALLPOI	PSHC	KU0007	Betty Locherty	ロール クラス	PeopleTools
14 HCDPALLPOI	PSSTG	KU0007	Betty Locherty	ロール クラス	PeopleTools

SJT_PERSON 検索ページ (2/2)

注: SJT_PERSON_USF 検索ページには、関係者を検索するためのオプションは表示されません。

トランザクション セキュリティ データを確認する個人の従業員 ID を選択します。1 つの職務データ レコードだけを検索する場合は、雇用レコード番号を入力します。特定の関係者タイプだけを検索する場合は、そのタイプを選択します。

[セキュリティ定義を表示] ボタンをクリックすると、[セキュリティ データ – SJT_PERSON] グリッドに、この個人のレコードを保護するトランザクション セキュリティ データが表示されます。

[セキュリティ データ – SJT_PERSON]

[セキュリティ定義を表示] ボタンをクリックすると、[セキュリティ データ – SJT_PERSON] グリッドに値が表示されます。

入力した検索条件に合致する SJT_PERSON の行がリストされます。セキュリティ キーは [セキュリティ キー データ] タブで確認できます。その行が将来の日付の行か、本国/赴任先情報や兼務情報へのアクセスを許可するために作成された行か、などの特殊な職務情報セキュリティ オプション データを確認するには、[特殊職務フラグ] タブをクリックします。

表示された 1 つまたは複数の行に対するデータ アクセス権のある権限リストを確認するには、その行の [選択] をオンにして [権限リストを表示] ボタンをクリックします。

[権限リスト データ]

[権限リストを表示] ボタンをクリックすると、このグリッドに値が表示されます。

選択したトランザクション行にアクセス可能な権限リストが、セキュリティ セットおよびセキュリティ アクセス タイプごとに表示されます。

表示された 1 つまたは複数の権限リストに割り当てられたユーザーを確認するには、その行の [選択] をオンにして [ユーザーを表示] ボタンをクリックします。

[ユーザー データ]

[ユーザーを表示] ボタンをクリックすると、このグリッドに値が表示されます。

選択した権限リストに割り当てられたユーザーが表示され、各ユーザーにその権限リストが行セキュリティまたはロール ベース (ロール クラス) のどちらの権限リストとして割り当てられているか、またロール ベースの権限リストである場合はユーザー プロファイルでどのロールが割り当てられているかが示されます。

SJT_DEPT のトランザクション セキュリティ データの検索

SJT_DEPT 検索ページにアクセスします。

検索ビューの検索(V)

セキュリティデータの表示

ユーザーセキュリティデータ

SJT_PERSON 検索

SJT_DEPT 検索

SJT_PERSON_USF検索

HRS_SJT_JO 検索

検索値の入力

セットID: SHARE

全ての表示データをクリア

部門: 11000

Information Systems

セキュリティ定義を表示

セキュリティデータ - SJT_DEPT

カラムをカスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

	選択	セットID	部門	名称	セキュリティアクセスタイプ*	名称	セキュリティキー 1	セキュリティキー 2	セキュリティキー 3	将来の日付を含む	有効日
1	<input checked="" type="checkbox"/>	SHARE	11000	Information Systems	021	グループ部門	SHARE	11000		<input type="checkbox"/>	1980/01/01

権限リストデータ

権限リストを表示

セキュリティ定義 - SJT_CLASS_ALL

カラムをカスタマイズ | 検索 | 最初 1-4/4 最後

	選択	セキュリティセット	セキュリティアクセスタイプ*	権限リスト	説明	セキュリティキー 1	セキュリティキー 2	セキュリティキー 3	グループ
1	<input type="checkbox"/>	DEPT	021	HCDPALL	Data Sec by Tree (all trees)	SHARE	11000		<input checked="" type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	DEPT	021	HCDPFED	Data Sec by Tree - Federal	SHARE	11000		<input checked="" type="checkbox"/>
3	<input checked="" type="checkbox"/>	DEPT	021	HCDPMYS	Data Sec by Tree - Malaysia	SHARE	11000		<input checked="" type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	DEPT	021	HCDPTLEXT	[System] Data Perm - TL Ext	SHARE	11000		<input checked="" type="checkbox"/>

SJT_DEPT 検索ページ (1/2)

ユーザーデータ

ユーザーを表示

ユーザーセキュリティデータのロールとクラス - SCRTY_OPR_ROLE

カラムをカスタマイズ | 検索 | 最初 1-3/3 最後

	権限リスト	ユーザー ID	従業員 ID	名前	行セキュリティクラス フラグ*	ロール名
1	HCDPMYS	HCRMYS	KM0020	Philip Lim	行セキュリティクラス	
2	HCDPMYS	HCRMYS_KM0001	KM0001	Lee Choo	行セキュリティクラス	
3	HCDPMYS	HCRMYS_KM0008	KM0008	Lee Chin	行セキュリティクラス	

SJT_DEPT 検索ページ (2/2)

トランザクション セキュリティ データを確認する部門のセットID と部門 ID を選択します。

[セキュリティ定義を表示] ボタンをクリックすると、[セキュリティデータ - SJT_DEPT] グリッドに、この部門のレコードを保護するトランザクション セキュリティ データが表示されます。

HRS_SJT_JO のトランザクション セキュリティ データの検索

HRS_SJT_JO 検索ページにアクセスします。

検索ビューの検索(V)

セキュリティデータの表示

ユーザー セキュリティデータ

SJT_PERSON 検索

SJT_DEPT 検索

SJT_PERSON_USF検索

HRS_SJT_JO 検索

検索値の入力

人材募集 ID: 900003

全ての表示データをクリア

セキュリティ定義を表示

セキュリティ データ - HRS_SJT_JO

カスタマイズ | 検索 | 最初 1-5/5 最後

選択	人材募集 ID	セキュリティ アクセス タイプ*	名称	セキュリティ キー 1	セキュリティ キー 2	セキュリティ キー 3	従業員 ID
1 <input type="checkbox"/>	900003 010		RS 会社	NF			
2 <input type="checkbox"/>	900003 011		RS ビジネス ユニット	NFSBU			
3 <input type="checkbox"/>	900003 012		RS 部門 ID	NFEDS	NF005		
4 <input checked="" type="checkbox"/>	900003 013		RS 勤務地	NFSBU	NFNATIONAL		
5 <input type="checkbox"/>	900003 031		採用チーム	L00001			L00001

権限リスト データ

権限リストを表示

セキュリティ定義 - SJT_CLASS_ALL

カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

選択	セキュリティ セット	セキュリティ アクセス タイプ*	権限リスト	説明	セキュリティ キー 1	セキュリティ キー 2	セキュリティ キー 3	フリ
1 <input type="checkbox"/>								<input type="checkbox"/>

HRS_SJT_JO 検索ページ (1/2)

ユーザー データ

ユーザーを表示

ユーザー セキュリティ データのロールとクラス - SCRTY_OPR_ROLE

カスタマイズ | 検索 | 最初 1-322/322 最後

権限リスト	ユーザー ID	従業員 ID	名前	行セキュリティ クラス フラグ*	ロール名
1 HCDPALL	ESGBPI	KU0007	Betty Locherty	行セキュリティ クラス	PeopleTools
2 HCDPALL	HAM			行セキュリティ クラス	PeopleTools
3 HCDPALL	HAM_KOW001	KOW001	Antonio Smith	行セキュリティ クラス	PeopleTools
4 HCDPALL	HAM_KOW002	KOW002	Danilo Travantti	行セキュリティ クラス	PeopleTools
5 HCDPALL	HAM_KOW003	KOW003	Owen Wills	行セキュリティ クラス	PeopleTools
6 HCDPALL	HAM_KOW004	KOW004	Will Smitherson	行セキュリティ クラス	PeopleTools
7 HCDPALL	HAM_KOW005	KOW005	Laura Jones	行セキュリティ クラス	PeopleTools
8 HCDPALL	HAM_KOW006	KOW006	Paul Harvest	行セキュリティ クラス	PeopleTools

HRS_SJT_JO 検索ページ (2/2)

トランザクション セキュリティ データを確認する人材募集の ID を選択します。

[セキュリティ定義を表示] ボタンをクリックすると、[セキュリティ データ - HRS_SJT_JO] グリッドに、この人材募集のレコードを保護するトランザクション セキュリティ データが表示されます。

管理者用データ権限セキュリティの設定

管理者用データ権限セキュリティを設定するには、管理者用行セキュリティの設定コンポーネント (RUN_PER510) を使用します。

このセクションでは、管理者のデータ権限の概要および管理者用データ権限の設定方法について説明します。

管理者のデータ権限について

部門管理者に適切なデータ アクセス権を与えるには、管理者用行セキュリティの設定プロセスを使用します。このプロセスでは、以下の処理が行われます。

- ユーザー プロファイルのない新規管理者の場合は、ユーザー プロファイルを作成します。
- 部門管理者ごとに行セキュリティ権限リストを作成するか既存の権限リストを更新し、各管理者が担当する部門のデータにアクセスする権限を与えます。
- (たとえば管理者でなくなったなど) 古くなったユーザーの行セキュリティ権限リストを削除します。

部門プロファイル ページ (DEPARTMENT_TBL_GBL) の [管理者 ID] の値を使用して、部門の管理者が決定されます。管理者には、[管理者 ID] フィールドにその管理者の ID がリストされている全ての部門に対するアクセス権が与えられます。

部門ごとに 1 人の管理者しかリストされないため、その他の管理者のプロファイルは手動で更新する必要があります。これには、最初の管理者に対して自動的に作成される行セキュリティ権限リストを、それ以外の管理者のプロファイルに割り当てます。このリストは管理者用行セキュリティの設定プロセスを実行するたびに削除されることに注意してください。

注: 管理者用行セキュリティの設定プロセスでは、管理者の従業員 ID がユーザー ID として使用され、行セキュリティ権限リストには HCDP_DEPT_MGR[管理者の従業員 ID] という命名規則が適用されます。

はじめに

管理者用行セキュリティの設定プロセスでは、ツリー ベースのセキュリティを使用して管理者用行セキュリティ権限リストが作成されます。このプロセスを実行する前に、部門セキュリティ ツリーを設定しておく必要があります。

部門セキュリティ ツリーの階層ルールが権限リストにも適用されます。セキュリティ ツリーにおいて管理者が担当する部門に所属する部門がある場合、この管理者は自分が担当する部門に加えて、そこに所属する部門の個人データにもアクセスすることができます。

ユーザー セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ

管理者用行セキュリティの設定プロセスでは、行セキュリティ権限リストの作成と修正、および行セキュリティ権限リストのユーザー プロファイルへの追加またはユーザー プロファイルからの削除が行われます。どちらの処理でも、以下の操作が必要になります。

- SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスを実行して、SJT_CLASS_ALL を行セキュリティ権限リストのデータによってリフレッシュします。
- SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスを実行して、SJT_OPR_CLS を “ユーザー プロファイル” の一般 ページで割り当てられた新規ユーザー プロファイルと行セキュリティ権限リストの組み合わせによってリフレッシュします。

これらのリフレッシュ プロセスを実行するまでは、新たに設定されたデータ権限は適用されません。

参照: [第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスの実行」、99 ページ](#)

参照: [第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスの実行」、100 ページ](#)

管理者用行セキュリティ プロセスに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
行セキュリティの設定	RUNCTL_PER510	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[グループ別ユーザー メンテナンス]、[管理者用行セキュリティの設定]、[行セキュリティの設定]	管理者用行セキュリティ権限リストの設定と更新に使用します。

管理者のデータ権限の処理

“行セキュリティの設定” ページにアクセスします。

行セキュリティの設定

ラン コントロール ID: TEST

[レポート マネージャ](#)

[プロセス モニター](#)

実行

言語コード: 日本語

レポート パラメータ

指定日:

新規ユーザー ID 作成基準

ユーザー ID:

☐ ロックされたユーザーを作成

“行セキュリティの設定” ページ

- [指定日]

行セキュリティ権限リストが有効になる日付を選択します。
- [ユーザー ID]

デフォルトのユーザー ID を選択します。このデフォルト値に基づいて、新規ユーザー ID が作成されます。
- [ロックされたユーザーを作成]

全ての新規ユーザー ID をロックするには、このチェック ボックスをオンにします。

管理者用行セキュリティの設定プロセスは、以下の 2 つの PeopleSoft アプリケーション エンジンと 1 つの SQR レポートで構成されています。

1. HR_PER510

管理者のデータ権限の更新に必要な変更を決定します。
2. HR_PER510_CI

HR_PER510 によって決定された変更をデータベースに適用します。

3. SQR レポート PER510

HR_PER510 によって決定され HR_PER510_CI によって適用された変更と、それぞれのステータスをリストします。

注: 各プロセスを個別に選択し、それが正常に完了してから次のプロセスを選択して実行してください。

ユーザー ID の作成とロック

ユーザー ID を作成しロックするには、“ユーザーの作成” コンポーネント (CREATE_USERS) および “ユーザーのロック” コンポーネント (LOCK_USERS) を使用します。

このセクションでは、ユーザー ID のセキュリティの概要と、以下の方法について説明します。

- ユーザーの作成
- ユーザーのロック

ユーザー ID のセキュリティについて

グループビルドと “ユーザーの作成” ページを使用して、従業員のユーザー ID を作成します。グループビルドを使いグループの作成とロードを行います。次に、“ユーザーの作成” ページを使って、各グループメンバーのユーザー ID を作成します。

“ユーザーのロック” ページを使い、ユーザー ID が使用可能になるまでロックします。

関連項目:

第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、411ページ

このセクションで使用する共通フィールド

[グループ ID]	メンバーにユーザー ID が必要なグループの ID を選択します。
[グループをロード]	このボタンをクリックすると、ページにグループメンバーがロードされます。
[従業員 ID]、[名前]	選択したグループに属するメンバーの従業員 ID と名前が表示されます。
[ユーザー ID]	[ユーザー ID 作成] ボタンをクリックすると、メンバーのユーザー ID が表示されます。従業員 ID がユーザー ID として使用されます。
[アカウントのロックアウト]	ユーザー ID のアカウントがロックアウトされている場合は、このオプションがオンになります。

ユーザー ID の作成とロックに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ユーザーの作成	CREATE_USERS	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[グループ別 [ユーザー メンテナンス]、 [ユーザーの作成]、[ユーザーの作成]	グループのメンバーにユーザー ID を作成するのに使用します。
ユーザーのロック	LOCK_USERS	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[グループ別 ユーザー メンテナンス]、 [ユーザーのロック]、[ユーザーのロック]	ユーザー ID のグループをロックまたはロック解除するのに使用します。

ユーザーの作成

“ユーザーの作成” ページにアクセスします。

“ユーザーの作成” ページ

[ユーザー ID]

デフォルトのユーザー ID を選択します。このデフォルト値に基づいて、新規ユーザー ID が作成されます。作成されたユーザー ID は、後からユーザー ID コンポーネントで個別にプロファイルを修正することができます。

新規ユーザーの基準になるユーザー ID にデータ権限が与えられている場合は、SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスを実行する必要があります。これを実行しないと、新規作成されたユーザー プロファイルのデータ権限は認識されません。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「SJT_OPR_CLS のリフレッシュ プロセスの実行」、100 ページ

[ロックされたユーザーを作成]

全ての新規ユーザー ID をロックするには、このチェック ボックスをオンにします。

[ユーザー ID 作成]

クリックすると処理が実行されます。

ユーザーのロック

“ユーザーのロック” ページにアクセスします。

“ユーザーのロック” ページ

- [グループをロック] クリックすると処理が実行され、グループ全体のユーザー ID がロックされます。
- [グループをアンロック] クリックすると処理が実行され、グループ全体のユーザー ID のロックが解除されます。

採用管理ソリューション用の追加セキュリティのアクティブ化

PeopleSoft Enterprise 採用管理ソリューション用の追加セキュリティをアクティブ化するには、採用管理の行レベル セキュリティ コンポーネント (HRS_SEC_TBL) を使用します。

このセクションでは、人材募集に関するデータ権限セキュリティの概要と、採用管理ソリューション用の追加セキュリティのアクティブ化の方法について説明します。

採用管理ソリューションのデータ権限セキュリティについて

人材募集データへのアクセスは、3 つの点で保護されます。人材募集データへのアクセス権は、以下のユーザーに与えられます。

- 新規人材募集の作成コンポーネント (HRS_JO_LAUNCH) に示された、人材募集の作成者
- 人材募集のトランザクション データに対する標準のデータ アクセス権が与えられたユーザー
- 採用チーム

採用チームのアクセス権

採用チームのメンバーに、人材募集のトランザクション データに対する標準のデータ アクセス権が与えられていない場合があります。採用チームのメンバーに人材募集に対するデータ権限を設定するには、次の手順に従います。

1. 権限リスト別セキュリティ ページで次の操作を行います。
 - a. セキュリティセット RSOPN を選択します。

- b. [セキュリティタイプ]グループ ボックスで、セキュリティアクセス タイプ 031 (採用チーム)を選択します。
[キー 1]フィールドに対して“従業員 ID”と表示されます。このフィールドは空白のままにしておきます。このセキュリティアクセスタイプにはキー値がハードコードされているため、従業員 ID の値を指定する必要はありません。
2. 権限リストを 1 つまたは複数のロールに割り当て、そのロールを採用チームのアクセス権を必要とするユーザーに割り当てます。
3. 人材募集コンポーネント (HRS_JOB_OPENING) の [割当] グループ ボックスでユーザーを人材募集に割り当てます。

採用チームのメンバーが人材募集にアクセスすると、そのユーザーに割り当てられた権限リストに採用チームのアクセス権があるか、また人材募集に対するアクセス権を付与するときにそのユーザーが [割当] グループ ボックスにリストされているかどうか判別されます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「フィールド値による権限リストへのデータアクセス権の付与」、89ページ

参照: PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理 9.0 PeopleBook、「人材募集の作成」、「人材募集の作成」

応募者データへのアクセス

人材募集に関連付けられている応募者のデータは、その人材募集へのアクセス権を持つユーザーだけが利用できます。人材募集に関連付けられていない応募者のデータは、応募者コンポーネントへのアクセス権があれば誰でも利用できます。応募者データへのアクセスを制限するには、アプリケーション セキュリティを利用して応募者コンポーネントにアクセス可能なユーザーを制限します。

採用担当管理者の権限

“採用管理の行レベル セキュリティ” ページで [採用担当管理者] チェック ボックスをオンにすることによって、行セキュリティ権限リストに採用担当管理者の権限を付与することができます。この権限には、仮の応募者のステータスの変更や人材募集のステータスの上書きの権限が含まれます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理 9.0 PeopleBook、「応募者の入力」

PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理 9.0 PeopleBook、「人材募集の管理」

採用管理ソリューションのセキュリティ設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
採用管理の行レベル セキュリティ	HRS_SEC_TBL	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[採用管理の行レベル セキュリティ]	ユーザープロファイルコンポーネントでユーザーに割り当てられる行セキュリティ権限リストに、採用管理ソリューションの上位権限を付与します。 注: 1 人のユーザーに割り当てられる行セキュリティ権限リストは 1 つだけです。

採用管理ソリューションのセキュリティ設定

“採用管理の行レベル セキュリティ” ページにアクセスします。

採用管理の行レベル セキュリティ

行セキュリティ権限リスト	HCDPALL	Data Sec by Tree (all trees)
オプション <input checked="" type="checkbox"/> 採用担当管理者		

“採用管理の行レベル セキュリティ” ページ

注: このページで行セキュリティ権限リストを修正した場合、SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ プロセスを実行する必要はありません。

国別機能のセキュリティ設定

このセクションでは、国別機能のセキュリティの概要と、以下の方法について説明します。

- 国別機能へのアクセスの許可
- 国別機能へのアクセスの制限

国別機能のセキュリティについて

国別機能とは、国に特有の機能を指します。グローバル コンポーネント内の国別機能は、折りたたみセクションにあり、各国の国旗マークがつけられています。国別コンポーネントへのアクセスを許可するには、コンポーネント権限を使います。グローバル コンポーネント内の国別機能へのアクセスを許可するには、コンポーネント権限に加えてグローバル ページ ページを使います。

ユーザーにグローバル メニューの国別機能へのアクセスを許可するには、次の手順に従います。

1. [国別指定] の [国別機能インストール] (INSTALLATION_SEC) ページを使って、PeopleSoft Enterprise HRMS システムの一部としてインストールする国別機能を指定します。
ここで指定されていない国の国別機能にはアクセスすることができません。
2. グローバル ページ ページを使って、プライマリ権限リストに国別機能へのアクセスを許可します。
3. “ユーザー プロファイル” の一般ページで、必要とされる国へのアクセス権を持つプライマリ権限リストを、ユーザーに対して割り当てます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

国別機能へのアクセス許可に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
グローバル ページ	SCRTY_TBL_GBL	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[コンポーネントとページのセキュリティ]、[グローバル セキュリティの設定]、[グローバル ページ]	プライマリ権限リストがグローバル コンポーネントでアクセスできる国別機能を選択します。
グローバル ページ - 除外コンポーネント	SCRTY_GBL_SEC	“グローバル ページ” ページの [アクセス禁止コンポーネント] リンクをクリックします。	選択したコンポーネントの国別機能へのアクセスを制限します。

国別機能へのアクセス許可

グローバル ページ ページにアクセスします。

グローバル ページ

プライマリ権限リスト: HCPPGP Primary List - Global Payroll

セキュリティ詳細

カスタマイズ | 検索 |

最初 1-3/3 最後

*国	名称	アクセス禁止コンポーネント		
BEL	ベルギー	アクセス禁止コンポーネント	+	-
NLD	オランダ	アクセス禁止コンポーネント	+	-
CHE	スイス	アクセス禁止コンポーネント	+	-

グローバル ページ ページ

[プライマリ権限リスト]

この権限リストを割り当てられたユーザーは、グローバル コンポーネントで、このページで指定された国の国別機能にアクセスすることができます。

プライマリ権限リストは、権限リスト コンポーネントで定義します。ユーザーには、“ユーザー プロファイル” の一般ページでプライマリ権限リストが割り当てられます。

[国]

国を（場合によっては複数）選択すると、このプライマリ権限リストに割り当てられたユーザーは、その国の国別機能にグローバル コンポーネントからアクセスできます。

[アクセス禁止コンポーネント]

[アクセス禁止コンポーネント] リンクをクリックすると、除外コンポーネントページが表示されます。このページを使って、選択したコンポーネントの国別機能へのアクセスを制限することができます。

たとえば、個人データ コンポーネントを除いて、全てのグローバル コンポーネントのイタリア用セクションに対するアクセス権を権限リストに与えることができます。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268ページ

国別機能へのアクセスの制限

“グローバル ページ” の除外コンポーネント ページにアクセスします。

除外コンポーネント

カスタマイズ 検索 全件表示 最初 1/1 最後	
コンポーネント名	
PERSONAL_DATA	

除外コンポーネント ページ

[コンポーネント名]

選択したコンポーネントでは、この国の国別機能が制限されます。たとえば、個人データ コンポーネントでイタリアの国別機能へのアクセス権を制限する場合は、個人データ コンポーネントのシステム名を選択します。

データ権限セキュリティの修正

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 採用および異動のためのセキュリティの修正
- ユーザー各自によるデータ更新の許可

採用および異動のためのセキュリティの修正

PeopleSoft Enterprise HRMS では、ユーザーは自分が更新のアクセス権を持たない部門にも個人を割り当てることができます。アクセス権を持たないユーザーが個人の部門異動をできないようにするため、PeopleSoft Enterprise HRMS では、アクセス権を持つ部門 ID だけがユーザーに表示される DEPT_SEC_VW というビューを用意しています。

このビューを使う場合、全部門へのアクセス権を持つユーザーのクラスを作成して、そのユーザー クラスが異動を実行できるようにします。さらに、PeopleSoft アプリケーション デザイナで職務データレコードの定義を更新し、DEPT_ID フィールドのプロンプト テーブルを DEPT_SEC_VW に指定します。ユーザーがアクセス権を持つ部門にのみアクセスできるようにするには、DEPARTMENT_TBL コンポーネントのセキュリティ ビューをこのビューに変更します。この定義には、部門セキュリティ セットを使用します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer

ユーザー各自によるデータ更新の許可

PeopleSoft Enterprise HRMS では、ユーザーによる自分自身のデータの更新は、セルフサービス インターネット アプリケーション以外では許可されていません。しかし、他のコンポーネントにおいて、ユーザーが自分のデータを更新する必要がある場合もあります。ユーザーが自分のデータを更新できるようにするには、従業員 ID に対しデータの変更を認める PeopleCode 関数の Allow EmplIDChg を使用します。この関数では、単一のブール型パラメータが参照されます。このパラメータが true に設定されているとユーザーは自分のデータを更新できますが、false に設定されていると更新できません。

たとえば、ユーザーが各自の個人データを変更できるようにするには、個人データ コンポーネントの基礎となっているレコード定義の PERSONAL_DATA で、この PeopleCode 関数を有効にします。これでユーザーは職務情報を除く各自の個人データを変更できるようになります。

Allow EmplIDChg 関数を有効にするには、次の手順に従います。

1. PeopleSoft アプリケーション デザイナでレコード PERSON を開きます。
2. [EMPLID] フィールドで PeopleCode [RowInit] を開きます。
3. 次の行の後に新しいコードを挿入します。

```
/****** START OF ROW INIT PEOPLECODE *****/
```

4. 行を挿入し、既存コードの先頭行（注釈）の後に次のコードを入力します。

```
if %Component = Component.PERSONAL_DATA then  
    AllowEmplidChg(true);  
end-if;
```

5. 変更内容を保存して PeopleCode ページを終了します。

これでユーザーは個人データのページで自分のデータを更新できるようになります。

PeopleSoft Enterprise HRMS の他のページでユーザーが自分のデータを更新できるようにするには、更新を許可したい各ページで基となっているレコード定義に、この PeopleCode 関数を挿入します。

第 6 章

PeopleSoft Enterprise HRMS の設定とインストール

この章では、以下の項目について説明します。

- 導入デフォルトの設定
- PeopleTools オプション ページの HRMS オプションの設定
- 国コードの管理
- 法定区域の設定
- 法定トランザクション タイプの設定

導入デフォルトの設定

導入デフォルトを設定するには、インストール テーブル コンポーネント (INSTALLATION_TBL) を使用します。

このセクションでは、導入デフォルトの概要と以下の方法について説明します。

- 導入する PeopleSoft アプリケーションの選択
- HRMS オプションの選択
- アプリケーション（産業）別導入情報の入力
- 国別の導入情報の入力
- 国別機能の選択
- 自動採番の開始番号の指定
- サードパーティ アプリケーション使用時のパラメータの定義
- フリガナ文字タイプの入力

導入デフォルトについて

PeopleSoft Enterprise HRMS 導入の際は、導入するサイトごとに、インストール テーブル コンポーネントでシステムのデフォルト値、処理ルール、およびカウンタ値などの情報を全て指定する必要があります。インストール情報は、各サイトにつき 1 セットだけ設定できます。この情報は必ず入力が必要です。

警告: プライマリ権限リスト基本設定コンポーネント (OPR_DEF_TBL_HR) でも各プライマリ権限リストの情報を入力する必要があります。PeopleSoft Enterprise HRMS のデフォルト値の大部分は、インストール テーブル コンポーネントではなく、プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントから取得されます。PeopleSoft Enterprise HRMS の他のアプリケーションには、インストール テーブルの設定に基づくデフォルトがあります。しかし PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、システムのデフォルト値には全てプライマリ権限リスト基本設定コンポーネントでのユーザー設定が使われます。例外もありますが、それについてはデフォルト フィールド レベルで説明する際に触れます。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268ページ

最初にインストール テーブル コンポーネントにアクセスすると、サンプル企業の情報が例として既に入力されていることが分かります。実際のインストール情報を入力したら、ログオフして変更を保存します。

導入デフォルトの設定とレポートに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
製品	INSTALLATION_TBL1	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[製品]	導入する PeopleSoft アプリケーションを指定します。
グローバル ペイロールの国別機能	INSTALL_GP_SEC	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[製品] 製品ページの [グローバル ペイロール国別機能] リンクをクリックします。	導入する PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール国別機能を選択します。
インストール済インテグレーションパック	INSTALL_PIP_SEC	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[製品] 製品ページの [インストール済インテグレーションパック] リンクをクリックします。	給与計算のインテグレーション パックを使用する場合は、そのインテグレーション パックを選択します。
HRMS オプション	INSTALLATION_TBL1B	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[HRMS オプション]	システム運用の基準 (個人、ポジション、その両方) を指定します。 組織の方針に関連する PeopleSoft Enterprise HRMS のデフォルト値も入力します。
製品別設定	INSTALLATION_TBL1A	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[製品別設定]	製品 (産業) 別の導入情報を入力します。
国別指定	INSTALLATION_TBL3	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[国別指定]	国別の導入情報を入力します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
国別機能インストール	INSTALLATION_SEC	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[国別指定] “インストール テーブル” の国別指定ページで、[国別機能]リンクをクリックします。	PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理のユーザーに対して有効になる国別機能を指定します。
自動採番	INSTALLATION_TBL2	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[自動採番]	番号の割り当てを開始する番号を指定します。
サードパーティ/システム	INSTALLATION_TBL4	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[サードパーティ/システム]	PeopleSoft Enterprise HRMS に対して統計収集の条件を設定し、SQR セキュリティを有効にします。Visio などのサードパーティアプリケーションを使用するためのパラメータを定義します。
フリガナ	ALT_CHAR_TBL	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[フリガナ]	言語コードとフリガナ文字タイプを指定します。
インストール テーブル レポート-ランコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル レポート]、[ラン コントロール]	インストール テーブル レポート (PER702) を実行します。会社コード、標準勤務時間の上限と下限、社会保障番号などのフィールドにデフォルトとして設定されている値が一覧で表示されます。

導入する PeopleSoft アプリケーションの選択

製品ページにアクセスします。

製品	HRMS オプション	製品別設定	国別指定	自動採番	サードパーティシステム	ツリガナ
インストール - 製品						
<input checked="" type="checkbox"/> ヒューマン リソース管理	<input checked="" type="checkbox"/> 教育/公的機関機能対応	<input checked="" type="checkbox"/> Student Administration	<input checked="" type="checkbox"/> eBenefits			
<input type="checkbox"/> 福利厚生管理	<input checked="" type="checkbox"/> 米国連邦政府機能対応	<input checked="" type="checkbox"/> Contributor Relations	<input checked="" type="checkbox"/> eDevelopment-人材開発			
<input type="checkbox"/> Pension Administration	<input checked="" type="checkbox"/> 軍機能対応	<input checked="" type="checkbox"/> Gradebook	<input checked="" type="checkbox"/> eCompensation-報酬管理			
<input type="checkbox"/> Stock Administration	<input checked="" type="checkbox"/> フランス公的機関	<input checked="" type="checkbox"/> Campus Self Service	<input checked="" type="checkbox"/> eCompensation-報酬管理 (Mgr)			
<input checked="" type="checkbox"/> 勤務管理	<input type="checkbox"/> 通貨換算ユーティリティ	<input type="checkbox"/> 採用管理	<input checked="" type="checkbox"/> ePay-給与			
<input type="checkbox"/> Payroll for North America	<input type="checkbox"/> Pay/Bill Management	<input checked="" type="checkbox"/> Resume Processing	<input checked="" type="checkbox"/> ePerformance-パフォーマンス管理			
<input type="checkbox"/> 給与計算インターフェイス	<input type="checkbox"/> テレメトリ インターフェイス	<input checked="" type="checkbox"/> 応募者ゲートウェイ	<input checked="" type="checkbox"/> eProfile-人材ファイル			
<input checked="" type="checkbox"/> グローバル ペイロール コア	<input type="checkbox"/> Payroll Interface for ADP	<input checked="" type="checkbox"/> 外注獲得管理	<input checked="" type="checkbox"/> eProfile-人材ファイル (Mgr)			
<input checked="" type="checkbox"/> 休暇管理	<input checked="" type="checkbox"/> 従業員ポータル					
<input type="checkbox"/> Payroll for North America	<input checked="" type="checkbox"/> Government Portal					
<input type="checkbox"/> 給与計算インターフェイス	<input checked="" type="checkbox"/> Campus Portal					
<input checked="" type="checkbox"/> グローバル ペイロール コア	<input checked="" type="checkbox"/> HRMS ホール パック					
グローバルペイロール国別機能 インストール済インテグレーション パック	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計					
	<input type="checkbox"/> エンタープライズ ラーニング マネジメント					

製品 ページ

導入するアプリケーションを選択します。アプリケーションの機能にアクセスするには、このページでアプリケーションを選択する必要があります。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを導入する場合は、[グローバル ペイロール国別機能] リンクをクリックし、該当する国別機能を選択します。

インテグレーション パックを導入する場合は、[インストール済インテグレーション パック] リンクをクリックし、インテグレーション パックを選択します。

HRMS オプションの選択

HRMS オプション ページにアクセスします。

製品	HRMS オプション	製品別設定	国別指定	自動採番	サードパーティ/システム	フリガナ
HRMS デフォルト						
会社コード: <input type="text" value="GBI"/> Global Business Institute 9999						
標準勤務時間				ポジション管理オプション		
標準勤務時間下限: <input type="text" value="10.00"/>				<input type="radio"/> 全体		
標準勤務時間上限: <input type="text" value="40.00"/>				<input checked="" type="radio"/> 一部		
*デフォルト標準勤務時間: <input type="text" value="40.00"/>				<input type="radio"/> なし		
勤務周期: <input type="text" value="W"/> 週次						
給与レートコード				基本通貨		
*デフォルト給与周期: <input type="text" value="M"/> 月次				<input checked="" type="checkbox"/> 多通貨		
<input checked="" type="checkbox"/> レートコードグループの使用				*基本通貨: <input type="text" value="USD"/>		
<input checked="" type="checkbox"/> 給与点数使用				レートタイプ: <input type="text" value="OFFIC"/>		
<input checked="" type="checkbox"/> 複数ステップ給与等級						

HRMS オプション ページ

[会社コード]

デフォルトの会社コードを選択します。ここで選択するデフォルト値は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の一部のテーブルで使用されます。

組織が単一企業から成る場合は、その会社コードを入力します。複数の会社で構成される場合は、どの会社をデフォルトとして使用するかを決める必要があります。

[標準勤務時間]

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使っている場合、この機能を使って給与計算の入力を管理するには、そのエレメントが PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の適切なアイテムを参照しているか確認する必要があります。標準勤務時間が自動的に使用されるわけではありません。

[標準勤務時間下限]、[標準勤務時間上限]

従業員が標準勤務周期中に勤務する標準勤務時間の下限と上限を入力します。ここで指定した値が、デフォルト値として自動的に入力されますが、職務コード コンポーネント (JOB_CODE_TBL) またはポジション データ コンポーネント (POSITION_DATA) で上書きが可能です。

[デフォルト標準勤務時間]

会社の標準勤務周期中の勤務時間数を入力します。このフィールドは入力必須です。プライマリ権限リストの基本設定を定義するときに、インストール テーブルの標準勤務時間がデフォルト値になります。ここで入力した値は、職務コード テーブル コンポーネントのデフォルト標準勤務時間および給与プラン テーブル コンポーネント (SALARY_PLAN_TABLE) のデフォルト標準勤務時間にもなります。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、標準勤務時間を使用して常勤換算 (FTE) を計算し、パートタイムや時間給労働者に対して、休日勤務時間の比例配分や給与計算を行います。

- [勤務周期]** 従業員が標準勤務時間分の勤務を完了する必要がある周期を選択します。有効値は周期テーブルに保存されています。
- 標準勤務周期の年次化係数と標準勤務時間を組み合わせて FTE が計算されます。

参照: 第 13 章、「職務の設定」、「職務の分類」、285 ページ

[ポジション管理オプション]

システムの一部または全体をポジションを基準に運用するには、このグループ ボックスで設定します。

PeopleSoft Enterprise Pension Administration を使用している場合は、退職者の管理にポジション管理を使わないでください。従業員に対してポジション管理を使用する場合は、[一部] を選択して退職者を除外します。

注: ポジション管理を使うとシステムのデータ処理方法が大幅に変わり、ユーザー側もデータ管理方法を変える必要が生じます。

- [全体]** 組織内の全員のポジション データを追跡管理し、ヒューマン リソース管理システムを個人ではなくポジションを基準として運用します。
- [一部]** 使用可能なポジション データがあれば自動的に使われますが、ポジション管理によって組織全体を管理する必要はありません。このビジネス プロセスを試験的に使う場合や、会社の特定部門だけに使う場合にこのオプションを選択します。
- [なし]** 個人を基準にしてシステムを運用します。個人にポジション番号を割り当てることはできますが、勤務先電話番号や郵便箱 ID などの職務レコードにポジションに関連するデータは使われません。特定の管理職レベル以上のポジションだけを管理する場合には、この設定が便利です。

[給与レート コード]

- [デフォルト給与周期]** 給与のレポートに使用される値を選択します。これは必須フィールドです。さらに、この値は職務コード テーブルの給与周期のデフォルト値としても使用されます。

参照: 第 13 章、「職務の設定」、「職務の分類」、285 ページ

- [レート コード グループの使用]** 給与計算時に、レート コードをまとめてパーセントを適用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- [給与点数使用]** 給与レート コード タイプに“点数”が指定されているレート コードを使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- [複数ステップ給与等級]** 複数ステップ/給与等級プランを使用する場合、このチェック ボックスをオンにします。オンにすると、“給与等級”のステップ コンポーネント ページ (SALARY_GRADE_T3GBL) を使って給与レートが決定されます。

[基本通貨]

- [多通貨]** 複数の種類の通貨を使用して給与を支給する場合は、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは PeopleSoft Enterprise Payroll for North

America だけに影響します。PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、給与計算システムにある別の多通貨機能が使われます。

注: PeopleTools オプション ページ (PSOPTIONS) で、[多通貨] チェック ボックスをオンにします。

[基本通貨]

通貨コード ページ (CURRENCY_CD_TABLE) の値から通貨コードを選択します。ここで選択するコードは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理および PeopleSoft Enterprise Payroll for North America のページやレポートで、相対比率 (給与等級内での位置をパーセントで表した値) と合計金額を計算する際、デフォルト通貨として使われます。個々の行アイテムに使われる通貨とは無関係です。

たとえば、基本通貨がアメリカドルの場合、海外営業の担当者がフランスフランで経費報告書を提出しても、行アイテムの金額が全てアメリカドルに自動換算され、合計額がアメリカドルで表示されます。

注: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で使用するデフォルトの通貨は全て、プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントではなく、インストール テーブル コンポーネントで指定する基本通貨に基づいています。プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントの設定は、国別ページのデフォルト通貨には影響しません。

参照: PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook の「Currencies」

[レート タイプ]

通貨変換の際に使用されるデフォルトのレート タイプを指定します。プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントでプライマリ権限リストにデフォルトのレート タイプを指定していない場合にのみ、このフィールドで選択します。システムでは、まずプライマリ権限リスト基本設定 コンポーネントのデフォルトのレート タイプが参照され、指定がない場合には、この値が参照されます。

関連項目:

第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジションの設定」、「ポジションの作成」

第 2 章、「HRMS について」、「個人構造とポジション構造」、5ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画

第 9 章、「通貨の設定と使い方」、189ページ

アプリケーション (産業) 別導入情報の入力

製品別設定ページにアクセスします。

製品	HRMS オプション	製品別設定	国別指定	自動採番	サードパーティ/システム	フリガナ
<div> <div> 福利厚生機能 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> FMLA 管理 <input type="checkbox"/> COBRA 管理 <input type="checkbox"/> 福利厚生請求管理 <input type="checkbox"/> 遡及福利厚生/控除 <input checked="" type="checkbox"/> FSA 請求管理 福利厚生管理開始日: <input type="text" value="1999/01/01"/> </div> <div> 福利厚生控除クラス順序 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 従業員税引後 - 雇用主税引前 <input type="radio"/> 雇用主税引前 - 従業員税引後 </div> <div> 米国連邦政府機能対応 <ul style="list-style-type: none"> *デフォルト支給基準: <input type="text" value="年単位"/> <input type="checkbox"/> NFC インジケータ </div> </div>						
<div> <div> NA Payroll/給与計算インターフェイス <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 計算/確認の同時進行 <input checked="" type="checkbox"/> 従業員税データ自動作成 <input checked="" type="checkbox"/> 地方税に居住州を使用 </div> <div> TL/NA Payroll ペイシート オプション <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 最終小切手の変更 <input type="checkbox"/> オンライン小切手の変更 <input type="checkbox"/> 逆仕訳調整の変更 <input checked="" type="checkbox"/> 仮計算にロード </div> <div> AP 請求書番号プレフィックス AP プレフィックス: <input type="text" value="H"/> </div> <div> コミットメント会計 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> エンガンバランス トリガ </div> </div>						
<div> <div> ヒューマン リソース管理 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> マルチカンパニー企業 <input type="checkbox"/> 職務の自動終了 <input checked="" type="checkbox"/> 自動職務中断 仮社会保障番号のマスキ: <input type="text" value="999"/> 従業員 ID フィールドの長さ: <input type="text" value="4"/> </div> <div> 一般会計 GL バージョン N/A <div>バージョンの更新</div> </div> <div> 組合せ編集キャッシュ <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 検証結果をキャッシュ キャッシュ保存日数: <input type="text" value="0"/> </div> </div>						

製品別設定ページ

[福利厚生機能]

[FMLA 管理]、[COBRA 管理]、[福利厚生請求管理]、[遡及福利厚生/控除]、[FSA 請求管理]

該当する福利厚生機能のチェック ボックスをオンにして選択します。

[福利厚生管理開始日]

PeopleSoft の日付フォーマット (YYYY/MM/DD) で管理の開始日を入力します。

福利厚生控除クラス順序

415(c) 限度額を満たしている場合、控除クラスは、従業員税引前拠出金、従業員税引後拠出金、税引前福利厚生 (雇用主税引前拠出金)、非課税福利厚生 (雇用主税引後拠出金) の順に制限されます。限度額を満たしている場合、[雇用主税引前 - 従業員税引後] を選択することによって控除クラス順序を変更できます。この場合、雇用主税引前拠出金が先に制限され、次に従業員税引後拠出金が制限されます。したがって、控除クラスの順序は、従業員税引前拠出金、税引前福利厚生 (雇用主税引前拠出金)、従業員税引後拠出金、非課税福利厚生 (雇用主税引後拠出金) となります。

[NA Payroll/給与計算インターフェイス]

[計算/確認の同時進行]

このチェック ボックスをオンにすると、計算と確認の作業が同時に実行されます。ただし、1 人の個人に対して同時に 2 つの処理が行われる可能性があり、そのため、プロセスが異常終了した場合にデッド ロック状態が生じる恐れがあります。

[従業員税データ自動作成]

このチェック ボックスをオンにすると、次の条件を満たす場合は常に、従業員の連邦税、州税、地方税のレコードが自動的に作成されます。

- 従業員の採用手続きを行う場合
- 従業員の職務変更に伴って新たな納税地への移動が必要になった場合
- 従業員の雇用レコード追加に伴って新たな納税地への移動が必要になった場合

- 応募者管理システムを使って従業員を採用する場合
- 個人が新しい会社に異動する場合

[地方税に居住州を使用]

[従業員税データ自動作成] を選択すると、自動的にこのチェック ボックスもオンになります。従業員の居住する州と地方税の管轄区域が同じ場合は、オンのままにしておきます。同じでない場合は、このチェック ボックスをオフにしないと、従業員の給与小切手から地方税が誤って控除されてしまいます。

[ヒューマン リソース管理]

[マルチカンパニー企業]

組織が複数の会社から構成されている場合、このチェック ボックスをオンにします。PeopleSoft Enterprise Pension Administration を使用している場合は、年金受給者の所属先として会社を設定するため、このオプションをオンにしてください。

[職務の自動終了]

終了日が指定されている職務を自動的に終了させるには、このチェック ボックスをオンにします。これによって、該当する職務に対し、終了を指定する行が自動的に作成されます。

[自動職務中断]

個人が臨時職務に従事する間、その主要職務を自動的に一時中断する場合、このチェック ボックスをオンにします。

[仮社会保障番号のマスク]

社会保障番号が不明の応募者や個人に対してデフォルトの社会保険番号として使用する 3 桁の数字を入力します。実在の番号と重複するのを防ぐため、仮の番号には 800 より大きな値を割り当てます。

[従業員 ID フィールドの長さ]

従業員 ID に使用される文字数を入力します。

[AP 請求書番号プレフィックス]

[AP プレフィックス]

(省略可) HRMS で作成される買掛金管理 (AP) の請求書に使用されるプレフィックスを入力します。

[TL/NA Payroll ペイシート オプション]

[最終小切手の変更]、[オンライン小切手の変更]、[逆仕訳調整の変更]

これらのチェック ボックスをオンにすると、給与計算システムのユーザーが、PeopleSoft Enterprise 勤務管理から取得したデータにペイシートで変更を加えることができます。ただし、ペイシートに直接変更を加えても、PeopleSoft Enterprise 勤務管理には変更内容が反映されないなので、これらのオプションは選択しないことをお勧めします。

[仮計算にロード]

給与計算プロセスでは、[仮計算にロード] フィールドの値によって、新規の有効時間 (職務変更の前に勤務した追加時間で、以前にペイシートにロードされていない時間) をロードするかどうか判断されます。

- このチェック ボックスをオンにした場合、新規の時間も含めて全ての有効時間が新規のペイシートにロードされます。
- このチェック ボックスをオフにした場合、以下に示す例外を除き、新規の有効時間はペイシートにロードされません。

注: 従業員に職務データの変更があり、ペイシートが再作成された場合、給与計算プロセスでは、有効な時間が全て再ロードされ、職務変更の結果無効となった時間は却下されます。これは、[仮計算にロード] フィールドの設定にかかわらず、必ず実行されます。その場合、まず過去にロードした全ての時間が却下され、次に、有効な時間が再ロードされます。[仮計算にロード] がオフの場合でも、ロードされる新規時間もあります。ただし、職務データ変更のために処理中である従業員についての時間のみです。

[コミットメント会計]

[エンカンバランストリガ]

さまざまなオンライン イベントから起動されるプレエンカンバランストリガとエンカンバランストリガを有効にします。各イベントによって、エンカンバランストリガ テーブル (ENCUMB_TRIGGER) にレコードが書き込まれます。次に、このレコードは夜間用エンカンバランス バッチ処理 (RUNCTL_ENC_NHT) の入力値として使用されます。

[一般会計]

[GL バージョン]

PeopleSoft Enterprise HRMS とインターフェイスをとっている PeopleSoft Enterprise 一般会計のバージョンが表示されます。バージョンを変更するには、[バージョンの更新] ボタンをクリックします。自動的に GL バージョンが更新されます。

注: PeopleSoft Enterprise 一般会計のバージョン 8.4 以降を使用している場合のみ、全てのチャートフィールド機能を使用することができます。

バージョンの更新

このボタンをクリックすると、PeopleSoft Enterprise Financials との統合がテストされ、Financials の最新バージョンが表示されます。

[キャッシュ確認]

検証結果をキャッシュに保存する場合、このチェック ボックスをオンにします。キャッシュの検証結果を使用できるようにすることによって、パフォーマンスが向上します。

[キャッシュ保存日数]

検証結果を保存する日数を入力します。この日数を超えたデータはキャッシュから削除されます。

国別導入情報の入力

国別指定ページにアクセスします。

製品

HRMS オプション

製品別設定

国別指定

自動採番

サードパーティシステム

フリガナ

国

国: USA

言語コード: ENG 英語 [国別機能](#)

▼  カナダ用パラメータ

ROE 最終番号: 自動振込ファイルの最終作成番号:

*国勢調査メトロエリア: FSA 繰越の最終請求番号:

*産業セクター: 最終 CPS 送信番号:

▼  オーストラリア用パラメータ

☒ 教育/公的機関

▼  日本用パラメータ

☒ 兼務可能

国別指定ページ

- [国]
- [国] デフォルト値として使用する国を選択します。
- [言語コード] データベースのデフォルトの基本言語が表示されます。
- [国別機能] このリンクをクリックすると、国別機能インストール ページが表示され、インストールする国別機能を選択することができます。

(CAN) [カナダ用パラメータ]

- [ROE 最終番号]、[自動振込ファイルの最終作成番号]、[FSA 繰越の最終請求番号]、[最終 CPS 送信番号]
- [ROE 最終番号]、[自動振込ファイルの最終作成番号]、[FSA 繰越の最終請求番号]、および [最終 CPS 送信番号] に値を入力します。
自動採番機能を使うと、最後に使った番号に 1 を足した番号が自動的に割り当てられます。また、番号が割り当てられるたびにインストール テーブルも自動更新されます。カナダの給与計算の場合、これらの値は PeopleSoft Enterprise Payroll for North America で使われます。
- [国勢調査メトロ エリア]
- [国勢調査メトロ エリア] フィールドには、所在地のカナダ統計局によって規定された国勢調査メトロ エリア (CMA) コードを入力します。プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントにデフォルトの CMA コードが指定されていない場合に限り、ここで指定するデフォルトの CMA コードが使われます。CMA は人口 10 万人以上の都市の主要労働市場を指します。このフィールドは、カナダの会社では必須フィールドになります。

参照: [第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268ページ](#)

[産業セクター]

カナダの雇用機会均等の目的に使われます。プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントにデフォルトの産業セクターが指定されていない場合に限り、ここで指定するデフォルト値が使われます。この値は部門コンポーネントにあるカナダの「産業セクター」フィールドのデフォルト値として使われ、対象部門の従業員が所属している産業セクターを表します。これは必須フィールドです。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268ページ

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「部門の管理」、261ページ

(AUS) [オーストラリア用パラメータ]**[教育/公的機関]**

オーストラリア公的機関の場合、このチェック ボックスをオンにします。

(JPN) [日本用パラメータ]**[兼務可能]**

兼務の追跡管理を行う場合、このチェック ボックスをオンにします。オンにすると、この機能がアクティブになり、新規ビジネス ユニットを作成する際に、ダミーの兼務職務コードが作成されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「(JPN) 兼務管理」

国別機能の選択

国別機能インストール ページにアクセスします。

国別機能インストール

国別機能	
<input checked="" type="checkbox"/> AUS - オーストラリア	<input checked="" type="checkbox"/> IND - インド
<input checked="" type="checkbox"/> BEL - ベルギー	<input checked="" type="checkbox"/> ITA - イタリア
<input checked="" type="checkbox"/> BRA - ブラジル	<input checked="" type="checkbox"/> JPN - 日本
<input checked="" type="checkbox"/> CAN - カナダ	<input checked="" type="checkbox"/> MEX - メキシコ
<input checked="" type="checkbox"/> CHE - スイス	<input checked="" type="checkbox"/> MYS - マレーシア
<input checked="" type="checkbox"/> DEU - ドイツ	<input checked="" type="checkbox"/> NLD - オランダ
<input checked="" type="checkbox"/> ESP - スペイン	<input checked="" type="checkbox"/> NZL - ニュージーランド
<input checked="" type="checkbox"/> FRA - フランス	<input checked="" type="checkbox"/> SGP - シンガポール
<input checked="" type="checkbox"/> GBR - イギリス	<input checked="" type="checkbox"/> USA - アメリカ
<input checked="" type="checkbox"/> HKG - 香港	

国別機能インストール ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で国別機能が設定されている各国の国名が表示されます。

- ・ 国別機能を有効にする場合は、その国のチェック ボックスをオンにします。セキュリティ アクセス権が与えられているユーザーは、選択した国の機能を参照および使用できるようになります。
- ・ 国の機能を有効にしない場合は、その国のチェック ボックスをオフにします。

国別機能インストール ページで国別のチェック ボックスをオンにしても、[グローバル セキュリティの設定] の [グローバル ページ] (SCRTY_TBL_GBL) で、ユーザーのプライマリ権限リストに国別アクセスが許可されていないならば、国別機能はユーザーには表示されません。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「国別機能のセキュリティ設定」、120ページ

自動採番の開始番号の指定

自動採番ページにアクセスします。

製品	HRMS オプション	製品別設定	国別指定	自動採番	サードパーティ/システム	フリガナ
従業員 ID の最終採番番号:		29			安全衛生請求の最終採番番号:	94000
HS非従業員IDの最終採番番号:		1924002			保険事故届出管理最終採番番号:	70000007
TL契約社員IDの最終採番番号:					仕訳の最終採番番号:	
COBRA の最終採番従業員 ID:		10001			使用済最終ヘルプ コンテキスト番号:	10000000
ホスピタルの最終採番番号:		19360016			通知支払リクエスト最終採番番号:	124124
苦情申請の最終採番番号:		1			通知控除リクエスト最終採番番号:	
車両の最終採番番号:		3616008			FSA 請求の最終採番番号:	10039
申請 ID の最終採番番号:		19			疾病の最終採番番号:	
組合セクトの最終採番番号:		52			疾病レポートの最終採番番号:	
AP 請求の最終採番番号:					最終一時割当番号:	
					最終使用エレメント番号:	181688
					OSHA 申立の最終採番番号	

自動採番ページ

PeopleSoft Enterprise HRMS では、手動で番号を入力するフィールドと、自動的に番号が割り当てられるフィールドがあります。

以下の表に自動的に採番されるフィールドを示します。

フィールド	アプリケーション	ビジネス プロセス
[従業員 ID の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース 管理	人事・労務管理、採用管理
[HS 非従業員 ID の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース 管理	安全衛生モニター管理、教育・研修管理
[TL 契約社員 ID の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise 勤務管理	人事・労務管理
[COBRA の最終採番従業員 ID]	PeopleSoft Enterprise Benefits Administration PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース 管理 (基本福利厚生)	COBRA 管理

フィールド	アプリケーション	ビジネス プロセス
[ポジションの最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	ポジション管理、後任計画
[苦情申請の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	労使関係管理
[車両の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	社有車管理
[申請 ID の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	研修予算管理
[組合せコードの最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 PeopleSoft Enterprise Payroll for North America	コミットメント会計
[AP 請求の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	
[安全衛生請求の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	安全衛生モニター管理
[保険事故届出管理最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	安全衛生モニター管理
[仕訳の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise Payroll for North America	GL インターフェイス管理
[使用済最終ヘルプ コンテキスト 番号]	PeopleSoft Enterprise HRMS	Windows のオンライン ヘルプのカ スタマイズ
[遡及支払リクエスト最終採番 番号]	PeopleSoft Enterprise Payroll for North America	遡及プロセス管理
[遡及控除リクエスト最終採番 番号]	PeopleSoft Enterprise Benefits Administration PeopleSoft Enterprise ヒューマン リ ソース管理 (基本福利厚生)	遡及福利厚生/控除管理

フィールド	アプリケーション	ビジネス プロセス
[FSA 請求の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise Benefits Administration: FSA Claims Administration	FSA 管理
[疾病の最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	休暇欠勤管理
[疾病レポートの最終採番番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	休暇欠勤管理
[最終一時割当番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	人事・労務管理
[最終使用エレメント番号]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理	プロフィール管理

このページに表示されるフィールドに自動採番機能を利用するには、各フィールドで最後に使用された数字を入力します。自動採番機能を使うと、最後に使った番号に 1 を足した番号が自動的に割り当てられます。また、番号が割り当てられるたびにインストール テーブルの値も自動更新されます。

注: 2 とおりの番号が設定されてしまわないように、採番は常に手動または自動のどちらかで行うよう統一してください。

ID について

ID データを他のシステムから PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理に変換する際は、ID の重複を避けるため、前のシステムで使われていた番号の最大値を入力してください。たとえば、前のシステムで最後に割り当てた ID が 1000 の場合は、[従業員 ID の最終採番番号] フィールドに "1000" と入力します。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で従業員を追加すると、ID には自動的に "1001" が割り当てられ、それに応じて [従業員 ID の最終採番番号] フィールドも更新されます。

ID を常に手動で入力するには、[従業員 ID の最終採番番号] フィールドと [応募者 ID の最終採番番号] フィールドに、"999999999"(9 を 9 桁) と入力します。

社会保障番号や社会保険番号を ID として使用する場合は、PeopleSoft アプリケーション デザイナを使って従業員 ID フィールドのフォーマットを変更します。

ゼロの自動挿入

データ入力のスピードと精度を向上させるため、一部のページでは、ユーザーが自動採番された番号を入力すると、その数字の前に自動的に 0 (ゼロ) が挿入されます。たとえば、"4" を入力すると、その前に 0 (ゼロ) が追加され、00000004 (1 つの番号につき合計 8 桁) と表示されます。このようにゼロが自動挿入されるのは、以下のフィールドです。

- 人材募集 ID
- 職務要件検索番号
- 苦情申請 ID
- 保険事故番号

- 申請 ID
- ポジション番号

注: ゼロが挿入されていない番号を既に使っている場合は、データを PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用に変換しても正確に番号が追跡できるように採番番号を変更してください。

データ変換の詳細については、ヒューマン リソース管理プロジェクトの担当者に問い合わせるか、または PeopleSoft アプリケーション デザイナのドキュメントを参照してください。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer

サードパーティ アプリケーション使用時のパラメータの定義

サードパーティ/システム ページにアクセスします。

製品

HRMS オプション

製品別設定

国別指定

自動採番

サードパーティ/システム

フリガナ

パフォーマンス モニタ パラメータ

*情報収集の開始時間:

2000/11/29 11:46

☐ テーブル統計収集

*情報収集の終了時間:

2000/11/29 11:46

☐ グローバル統計収集

*書き込み間隔:

300

秒

サードパーティ設定

組織図:

なし

システム デフォルト

スケールの最大行数:

25

コミット単位 (処理済従業員数):

300

サードパーティ/システム ページ

[パフォーマンス モニタ パラメータ]

- [情報収集の開始時間]、[情報収集の終了時間]

情報の収集を開始する日付と時刻、および終了する日付と時刻を入力します。
- [テーブル統計収集]

統計データをローカルに収集する場合、このチェック ボックスをオンにします。
- [グローバル統計収集]

統計データをグローバルに収集する場合、このチェック ボックスをオンにします。
- [書き込み間隔]

統計収集の周期を秒数で入力します。
- [サードパーティ設定]
- [組織図]

ヒューマン リソース管理データを基にした組織図の作成に使用するサードパーティのアプリケーションを入力します。

[システム デフォルト]

[スクロールの最大行数]	サードパーティ アプリケーションのスクロール可能なデータ ボックスの最大行数を入力します。
[コミット単位 (処理済従業員数)]	コミット前にサードパーティ アプリケーションによって処理される人数の上限を入力します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Administration Tools

第 23 章、「組織図の設定と作成」、533ページ

フリガナ文字タイプの入力

フリガナ ページにアクセスします。

フリガナ ページ

注: [インストール テーブル] で設定するフリガナ文字タイプは、HRMS アプリケーション全体の設定に影響します。インストールされている全ての言語コードについて、フリガナ文字タイプを設定するかどうか、またどのタイプを設定するかを検討してください。

使用中の言語コードに対してフリガナ文字タイプが指定されていない場合、フリガナ フィールドに文字を入力しようとすると、警告メッセージが表示されます。

言語コードにフリガナ文字タイプが指定されている場合、ユーザーがそれ以外の文字タイプをフリガナ フィールドに入力しようとすると、警告メッセージが表示されます。

注: 警告メッセージを無視して、指定以外の文字セットを入力することも可能ですが、異なる種類のフリガナ文字セットでデータをソートする場合に問題が生じる可能性があります。

PeopleTools オプション ページの HRMS オプションの設定

PeopleTools オプション ページの HRMS オプションを設定するには、PeopleTools オプション コンポーネント (PSOPTIONS) を使用します。

このセクションでは、PeopleTools オプション ページの HRMS オプションを設定する方法について説明します。

PeopleTools オプション ページを使用して、次の項目に関連したさまざまな設定を行うことができます。

- マルチカンパニー企業
- 業務に複数の通貨を使用する組織
- 複数ジョブ機能

[PeopleTools]、[ユーティリティ]、[管理] の順にクリックし、PeopleTools オプション ページにアクセスします。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Administration Tools

各機能を有効にするには、必要に応じて以下のチェック ボックスをオンにします。

[マルチカンパニー企業] 組織が複数の会社から構成されている場合、または、年金受給者の所属先として会社を設定するために PeopleSoft Enterprise Pension Administration を使用している場合は、このチェック ボックスをオンにします。

[多通貨] 複数の通貨でデータ入力を行う必要がある場合には、このチェック ボックスをオンにします。たとえばアメリカとイタリアに事務所があり、給与の計算にアメリカドルとイタリア リラの両方が使用される場合です。[多通貨] チェック ボックスをオンにすると、金額フィールドを含むページに通貨コードのフィールドが表示されます。

注: [多通貨] チェック ボックスは、独自の多通貨機能を持っている PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールには影響を及ぼしません。

[複数ジョブ使用可] PeopleTools の出荷時には、このオプションがオンになっています。PeopleSoft Enterprise HRMS の機能を最大限に活用するため、このオプションをオンのままにしておいてください。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

国コードの管理

国コードを管理するには、国テーブル コンポーネント (COUNTRY_TABLE)、国テーブル - HR コンポーネント (HR_COUNTRY_TABLE)、および都道府県/州コンポーネント (STATE_DEFN) を使用します。

このセクションでは、国コードの概要と、以下の方法について説明します。

- 国情報の表示と更新
- 国別住所フォーマットの指定
- 国別都道府県/州、および市区町村の指定
- HRMS のレポート作成で使用する追加情報の定義
- 都道府県/州、その他の国別情報の追加

国コードについて

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、個人、会社、事務所などの住所の一部として、国名が多くのページで表示されます。国はコード (たとえばカナダは CAN) で表され、これらは国テーブル コンポーネントにリストされています。ページ内の国フィールドにはデフォルトの国コードが表示されますが、この値は変更できます。デフォルトのコードは、プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントおよびビジネス ユニット オプション デフォルト コンポーネント (BUS_UNIT_OPT_HR) の設定によって決まります。国テーブル コンポーネントの住所フォーマット ページ (ADDR_FORMAT_TABLE) では、特定の国の住所に必要な情報を定義することもできます。

会社が事業を営んでいる国、およびシステムに登録する個人が居住している国全てに対し、国コードが必要です。国名ページ (COUNTRY_DEFN) には、あらゆる国名と国コードが初期設定されています。また PeopleSoft では、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のバージョンごとに、国際標準化機構 (ISO) が認定する国名に準じてこのページを更新します。

国コードを追加する場合は、PeopleSoft のアカウント マネジャーに連絡してください。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の次のバージョンで、そのコードが国テーブルに追加されます。

国コードの管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
国名	COUNTRY_DEFN	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[国テーブル]、[国名]	国情報を表示または更新します。
住所フォーマット	ADDR_FORMAT_TABLE	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[国テーブル]、[住所フォーマット]	国テーブルから選択した国の住所フォーマットを指定します。
有効な住所	EO_ADDR_VALIDAT	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[国テーブル]、[有効な住所]	国テーブルで選択した国の都道府県/州や市区町村を指定します。
国テーブル - HR	HR_COUNTRY_DEFN	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[製品/国別設定]、[国テーブル - HR]	HRMS のレポート作成に必要な、国に関する追加情報を指定します。
都道府県/州	STATE_DEFN	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[都道府県/州]、[都道府県/州]	国テーブルで選択した国の州や都道府県、またはそれに該当するエンティティを追加します。
国テーブルレポート - ランコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[国テーブルレポート]、[ランコントロール]	国テーブルレポート (PER708) を実行すると、全ての国の文字コードが出力されます。

国情報の表示と更新

国名ページにアクセスします。

国名ページ

[国コード (2 桁)]

アメリカ政府が割り当てた国コードがある場合に、そのコードを入力します。

[EU 加盟国]

EU 加盟国である場合は、このチェック ボックスをオンにします。このフィールドは参照用で、システム処理やレポート作成には影響しません。

国別住所フォーマットの指定

住所フォーマット ページにアクセスします。

国名

住所フォーマット

有効な住所(V)

国:

AUT オーストリア

*住所編集ページ:

EO_ADDR_DFT_SEC

☐ 住所検索可

☐ 住所確認

住所フィールド

カスタマイズ | 検索 | 最初 1-9/9 最後

	フィールド名	上書きラベル	表示	印刷	行番号	位置番号	名称使用	前区切り文字	後区切り文字
1	COUNTRY		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>		
2	ADDRESS1	住所 1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	1	<input type="checkbox"/>		
3	ADDRESS2	住所 2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2	1	<input type="checkbox"/>		
4	ADDRESS3	住所 3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	3	1	<input type="checkbox"/>		
5	ADDRESS4	住所 4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	4	1	<input type="checkbox"/>		
6	CITY	市	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5	1	<input type="checkbox"/>		
7	STATE		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5	2	<input checked="" type="checkbox"/>		
8	POSTAL	郵便番号	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5	3	<input type="checkbox"/>		
9	COUNTY	郡	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	6	1	<input type="checkbox"/>		

住所フォーマット ページ

[住所編集ページ]

使用可能なオプションのリストから住所ページを選択します。[住所フィールド] グループ ボックス内に、その住所ページのフィールドが一覧表示されます。

[住所検索可]

このチェック ボックスをオンにすると、住所検索が可能になります。

[住所確認]

このチェック ボックスをオンにすると、“有効な住所” ページで表示される都道府県/州および市区町村と照合した住所入力の検証が可能になります。

[住所フィールド]

[フィールド名]

[フィールド名] 列には、PeopleSoft Enterprise HRMS で使用できる住所フィールドが表示されます。

[上書きラベル]

必要な場合は、表示されたフィールド名を別のラベルで上書きできます。

[表示]

このチェック ボックスをオンにすると、この国に住所の入力が必要な場合は、常にこのフィールドが表示されます。

- [印刷]** このチェック ボックスをオンにすると、国の住所が印刷される場合は、常にこのフィールドが印刷されます。
- [行番号]** このフィールドが表示される際の行番号を入力します。
- [位置番号]** 選択された行のフィールドの位置を指定します。
- [名称使用]** このチェック ボックスをオンにすると、このフィールドの名称が表示されます。
- [前区切り文字]、[後区切り文字]** 必要に応じて、住所エレメントの区切り文字を入力します。

国別都道府県/州、および市区町村の指定

“有効な住所” ページにアクセスします。

国名 住所フォーマット 有効な住所(V)

国 JPN 日本

有効な住所

行番号	郵便番号	都道府県/州	市	住所 1		
1	064-0811	01	札幌市	中央区南十一條	+	-
2	100-0004	13	千代田区	大手町	+	-
3	100-0011	13	千代田区	内幸町	+	-
4	100-6106	13	千代田区	永田町 山王パーク	+	-
5	102-0074	13	千代田区	九段南	+	-
6	102-0082	13	千代田区	一番町	+	-
7	105-0023	13	港区	芝浦	+	-
8	106-0045	13	港区	麻布十番	+	-

“有効な住所” ページ

[有効な住所]

“有効な住所” ページには、都道府県/州ページに入力されている都道府県/州のコードと、それに対応する市区町村が保存されます。住所フォーマット ページで [住所確認] チェック ボックスをオンにすると、入力された住所と“有効な住所” ページで保存された値がチェックされ、市区町村と都道府県/州の検証が行われます。

注: (JPN) 日本の郵便番号データは、郵便番号テーブルと有効な住所テーブル (EO_ADDR_VALIDAT) の両方に保存されます。有効な住所テーブルと郵便番号テーブルの同期を保つため、新たに郵便番号を入力するときは郵便番号ページに入力する必要があります。“有効な住所” ページに値を入力しても、郵便番号テーブルは更新されません。

関連項目:

第 16 章、「国別機能の設定」、「(ITA) 市区町村コードの設定」、365ページ

第 16 章、「国別機能の設定」、「郵便番号テーブルの管理」、370ページ

HRMS のレポート作成で使用する追加情報の定義

国テーブル - HR ページにアクセスします。

国テーブル - HR	
国:	AUS オーストラリア
▼  オーストラリア	
オーストラリア公的機関	
国コード:	<input type="text"/>
▼  ベルギー	
NIS 国別番号:	<input type="text"/>
▼  フランス	
INSEE 国別番号:	<input type="text" value="501"/>
▼  オランダ	
国籍:	<input type="text"/>
▼  カナダ	
*統計用カナダ所在地コード:	<input type="text" value="03461"/>
▼  アメリカ	
1042 用国コード:	<input type="text" value="AS"/>

国テーブル - HR ページ

(AUS) [オーストラリア]

[オーストラリア公的機関] オーストラリア公的機関の 4 桁の国コードを入力します。

(BEL) [ベルギー]

[NIS 国別番号] (国家統計局 (NIS) 国別番号) 社会保険に対する採用と雇用終了のレポート作成に使用する NIS 国別番号を入力します。

(FRA) [フランス]

[INSEE 国別番号] (国立統計経済研究所 (INSEE) 国別番号) INSEE は、フランスの公的統計経済機関です。INSEE は番号を発行します。この番号は税務当局、社会保障機関、商工会議所などにおいて、組織やその下の子会社などを識別するために使われます。

(NLD) [オランダ]**[国籍]**

対象の国の 4 桁の国籍コードを入力します。国籍コードは、オランダ規格協会 (NEN) によって定義され、オランダでの賃金の申告で使用されます。市民権/旅券ページで従業員に指定された国コードによって、従業員に適用する国籍コードが判別されます。

(USA) [アメリカ]**[1042 用国コード]**

(USA) 連邦政府機関および州政府機関に対して賃金および税のレポートを MMREF フォーマットで提出する場合に使用する国コードを入力します。

都道府県/州、その他の国別情報の追加

都道府県/州ページにアクセスします。

都道府県/州	
国:	BEL ベルギー
住所の略称:	LX
数値コード:	<input type="text" value="10"/>
*州:	<input type="text" value="リュクサンブール"/>

都道府県/州ページ

PeopleSoft が提供する都道府県/州テーブルには、全サポート対象国の都道府県、州、あるいはそれに相当する地域単位が全て含まれています。都道府県/州コードは標準の郵便番号を基準にしています。PeopleSoft では、システムのバージョンごとにこのテーブルを更新しています。

会社が事業を営んでいる全ての国の都道府県/州コードが必要です。この情報は、システム内の多くの住所フィールドで使用されます。

[住所の略称]

選択した都道府県/州のコードが表示されます。

[数値コード]

数値コードがある場合はそれを入力します。アメリカの各州には、連邦政府によって法定書類用の数値コードが割り当てられています。カナダの新しい州に数値コードを入力する必要はありません。

法定区域の設定

法定区域を設定するには、法定区域コンポーネント (REG_REGION) を使用します。

このセクションでは、法定区域の定義方法について説明します。

法定区域の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
法定区域	REG_REGION	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[法定区域]、[法定区域]	法定区域を設定します。

法定区域の定義

法定区域ページにアクセスします。

法定区域

法定区域: CANON

*区域名: カナダ - オンタリオ

国: CAN  カナダ

セキュリティ アクセス: 全ユーザーにアクセス権あり

デフォルト レコード グループ セットID

セットID: CANON カナダ - オンタリオ

または

既存の法定区域からコピー

法定区域ページ

[国]

リストから国を選択します。法定区域を作成するときは、必ず国コードを指定してください。国コードを指定しておけば、システム トランザクションに州または都道府県レベルの区域が使われている場合でも国別の編集ができます。追加する国がリストにない場合は、国テーブルを使って国を追加してください。

[セキュリティ アクセス]

リストからセキュリティ アクセス レベルを選択します。企業において、ユーザーは限られた法定区域だけを使う場合が多く、その場合この機能を使ってそれ以外の法定区域をユーザーに対して非表示にすることができます。ドロップ ダウン リストの値はトランスレート テーブルに保存されています。法定区域のプロンプト編集ビューでは、ドロップ ダウン リストの値を使って、ユーザーがアクセスする法定区域がアクセス権のあるものだけに制限されます。有効値は以下のとおりです。

- [全ユーザーにアクセス権あり]: ユーザーはこの法定区域を選択できます。
- [アクセス禁止]: ユーザーはこの法定区域を選択できません。
- [グローバル セキュリティ設定済ユーザー]: プライマリ権限リストにこの法定区域の国別機能へのアクセス権が割り当てられているユーザーのみが、この法定区域を選択できます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「国別機能のセキュリティ設定」、120ページ

注: 国別のデータ セキュリティ管理機能を使わない場合は、法定区域へのアクセスに [全ユーザーにアクセス権あり] または [アクセス禁止] のいずれかを選択してください。管理を簡略化するため、セキュリティアクセスは各法定区域に対して 1 回だけ設定され、その設定が全トランザクションに使われます。

[デフォルト レコード グループ セットID]

このグループ ボックスを使って、該当法定区域に対応付けるセットID を指定します。法定区域は安全衛生管理などのいくつかのアプリケーションでセット処理に使われるため、セット コントロール値であると言えます。デフォルト レコード グループ セットID によって、この新規法定区域の設定処理に関する初期の相互関係が設定されます。

[セットID]

法定区域を追加する場合、最初は [セットID] フィールドは入力可に、[既存の法定区域からコピー] フィールドは入力不可の状態になっています。[セットID] フィールドにはデフォルトのセットID が表示されますが、これは追加した法定区域コードと同じです。このコードと一致するセットID を定義していない場合は、法定区域の該当セットID を有効値リストから選択してください。リストのセットID は、テーブル セットID を使って設定されています。これらのセットID からのみ選択できます。

注: セットID を指定する前に、[PeopleTools]、[ユーティリティ]、[管理] メニューにあるコンポーネントで、セットID、レコード グループ、セット コントロール値およびテーブルセット レコード グループ コントロールを定義してください。

参照: 第 3 章、「HRMS におけるシステム データ規定の使い方」、9ページ

[既存の法定区域からコピー]

新しい法定区域に割り当てられるセットID を既存の法定区域からコピーすることができます。このオプションは、作成中の新規法定区域と作成済みの別区域のデフォルト レコード グループ セットID が同じになるときに使用します。

コピーする法定区域を入力します。

関連項目:

第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、39ページ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Administration Tools

法定トランザクション タイプの設定

法定トランザクション タイプを設定するには、トランザクション タイプ別法定区域コンポーネント (REG_TRX_REGION) を使用します。

このセクションでは、法定トランザクション タイプの概要とトランザクション タイプに法定区域を追加する方法について説明します。

法定トランザクション タイプについて

次の表のように、2 セットの法定トランザクション タイプが既に定義されています。

法定トランザクション タイプ	対象となる国または区域	理由
STANDARD (標準)	システムでサポートされている全ての国	ほとんどのアプリケーションでは、規定や法定の編集ロジックが国レベルで適用されます。
HANDS (安全衛生)	システムに含まれている全ての国と、カナダの各州	ほとんどのアプリケーションでは国レベルで規定や法定の編集ロジックが適用されますが、カナダでは州固有の法律によって安全衛生に関する申告が規定されています。

トランザクション タイプ別法定区域コンポーネント (REG_TRX_REGION) の 2 ページを使って、新規法定区域のトランザクション タイプへの割り当て (システムに国または法定区域を追加した場合) と、新規法定トランザクション タイプの設定を行います。

法定トランザクション タイプの更新または追加に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
トランザクションタイプ別法定区域 - トランザクションタイプ	REG_TRX	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[トランザクションタイプ別法定区域]、[トランザクションタイプ]	法定トランザクションタイプの説明を更新するか、または新しい法定トランザクションタイプを追加します。
トランザクションタイプ別法定区域 - タイプ別法定区域	REG_TRX_REGION	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[トランザクションタイプ別法定区域]、[タイプ別法定区域]	法定トランザクションタイプを構成する法定区域を定義します。

トランザクション タイプへの法定区域の追加

タイプ別法定区域ページにアクセスします。

トランザクション タイプ	タイプ別法定区域
--------------	----------

法定トランザクション タイプ	STANDARD
----------------	----------

<div> <div> <div>拡張マイズ</div> <div>検索</div> <div>全件表示</div> <div> </div> </div> <div> <div>最初</div> <div>◀ 1-8/8 ▶</div> <div>最後</div> </div> </div>					
法定区域	国	セキュリティ アクセス	区域名		
AUS	AUS	ALL	オーストラリア		
BEL	BEL	ALL	ベルギー		
BRA	BRA	ALL	ブラジル		
CAN	CAN	ALL	カナダ		
CHE	CHE	ALL	スイス		
DEU	DEU	ALL	ドイツ		
ESP	ESP	ALL	スペイン		
FRA	FRA	ALL	フランス		

タイプ別法定区域ページ

[法定区域] このトランザクション タイプに属する法定区域を選択します。

個人情報インストール

個人情報をインストールするには、個人情報のインストール コンポーネント (INSTALL_PERSON) を使用します。

このセクションでは、個人情報のインストール方法について説明します。

個人情報インストールに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
個人情報のインストール	INSTALL_PERSON	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[個人情報のインストール]、[個人情報のインストール]	個人情報の追加コンポーネント(PERSONAL_DATA)に関するインストール設定を行います。

個人情報インストール設定の選択

“個人情報のインストール” ページにアクセスします。

個人情報のインストール

インストール設定

☒ チェックリストを表示
☐ 自動検索/マッチングを実行

デフォルト チェックリスト

従業員チェックリスト:

HCEMP

従業員情報の追加

非従業員チェックリスト:

HCCWR

非従業員情報の追加

フランス公的機関従業員

HCEMP

従業員情報の追加

関係者タイプ*のチェックリスト

カスタマイズ

検索

最初

1-12/12

最後

	関係者タイプ*	名称	POI チェックリスト	名称
1	00000	不明		
2	00001	COBRA 有資格受益者		
3	00002	Pension 受給者		
4	00003	Stock - 取締役役員		
5	00004	Stock - ヒューマンリソース管理外従業員		
6	00005	グローバル ペイロール受給者		
7	00006	学生還付		
8	00007	外部研修生	HCPOI	関係者情報の追加
9	00008	外部講師		
10	00009	Campus Solutions 個人		
11	00010	その他		
12	00011	その他受給者		

“個人情報のインストール” ページ

[PERSONAL_DATA の機能に関するインストール設定]

[チェックリストを表示]

このチェック ボックスをオンにすると、雇用形態ページ (PERSONAL_DATA4) に [チェックリスト コード] フィールドが表示され、ユーザーが追加する個人に使用するチェックリストを選択し、個人チェックリスト コンポーネント (PERSON_CHECKLIST) でレコードを作成することができるようになります。

[自動検索/マッチングを実行]

このチェック ボックスをオンにすると、PERSONAL_DATA コンポーネントに個人情報を追加するときに自動的に検索とマッチングが実行されます。重複するレコードを入力していないか確認するため、データベースが検索されます。

[デフォルト チェックリスト]

新規の個人情報に以下のいずれかの雇用形態を追加するときに雇用形態ページの [チェックリスト コード] フィールドに表示されるデフォルトのチェックリストを選択します。

- 従業員

- [従業員チェックリスト] フィールドでは、従業員を追加する場合に表示されるデフォルトのチェックリストを選択します。
- [フランス公的機関従業員] フィールドでは、フランス公的機関の従業員用のデフォルトのチェックリストを選択します。

- 非従業員

[非従業員チェックリスト] フィールドでは、非従業員を追加する場合に表示されるデフォルトのチェックリストを選択します。

- 関係者

[関係者タイプのチェックリスト] グリッドに一覧表示される関係者タイプの中でデフォルトのチェックリストを指定したいものに、それぞれチェックリストを選択します。

個人情報の作成時に雇用形態ページの [個人チェックリストに移動] リンクをクリックすると、選択したチェックリストを使用して個人チェックリスト コンポーネントにレコードが作成されます。

チェックリストの設定は、チェックリスト コンポーネント (CHECKLIST_TABLE) で行います。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事・労務管理のビジネス プロセスの設定」、「チェックリストの作成」

第 7 章

検索/マッチングの設定と使い方

この章では、PeopleSoft の検索/マッチングの概要と、以下の方法について説明します。

- 検索/マッチングの設定
- 検索/マッチングの利用

検索/マッチングについて

システムの機能を最大限に利用するには、データベースの整合性を保つ必要があります。多くの部門のユーザーがシステムにデータを入力する場合、入力されるレコードの重複を最小限にする必要があります。検索/マッチングによって、重複する ID レコードのチェック基準を定義することができます。検索可能な ID のタイプ (検索タイプと呼ばれます) には、以下のものがあります。

- 個人 (従業員 ID)
- 応募者 (PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理の HRS_PERSON_ID)

注: PeopleSoft では、これらの ID タイプを SM_TYPE フィールド内のトランスレート値として提供しています。これらは出荷時にはアクティブになっていますが、ライセンスされているアプリケーションに応じて非アクティブにすることもできます。ただし、ID タイプの値を追加または削除することはできません。

これらの ID タイプごとに、ユーザー セキュリティ ロールに基づいて、部門または事業領域独自の検索条件を定義し、検索を実行することができます。検索条件では、複数の検索ルールを定義し、これを検索パラメータ内に任意の順序で並べることができます。また、部門または事業領域ごとに、一致する可能性のある ID を識別するため検索結果に表示するデータを設定することができます。部門および事業領域では、複数の検索結果コードを設定し、アクセスを全てのユーザーに許可するか、特定のロールが割り当てられたユーザーだけに制限するかを設定することができます。

アドホック検索だけを許可するルールとパラメータを設定して、適切な権限を持つユーザーが、あらかじめ定義された条件の制約を受けずに、アドホック検索を実行できるようにすることもできます。

検索結果に返されるデータには、機密情報が含まれる可能性があります。フィールドの全体または一部をマスクするか、フィールド全体を表示するかを設定することができます。マスクの設定は、ユーザー セキュリティ アクセスを使用して制御することができます。検索結果と表示コントロールの定義によって、ユーザーはレコードを追加する前に検索/マッチングを実行し、そのレコードが既に存在しないか確認することができます。

ユーザーがデータを入力して新規 ID を保存すると、検索/マッチングがトリガされ、条件に一致する ID のリストに直接移動するように設定することによって、検索/マッチングを強制的に使用させることもできます。保存時に強制的に検索/マッチングが行われる場合、ユーザーは検索/マッチング コンポーネントにナビゲートして、ID が存在するか確認するためのデータを再入力する必要はありません。

検索ルールを定義して、検索するフィールドと、検索実行時の各フィールドの使用方法を指定します。検索ルールは 1 つでも複数でも使用できます。複数の検索ルールを使用する場合、検索/マッチングでは、定義した順序でルールが適用されます。最初のルールから開始され、そのルールに従って一致するレコードが 1 つでも見つかり、検索が停止されます。しかしそのルールに一致する ID が見つからなければ、次のルールに進み、一致する ID が見つかるまで同様の処理が続けられます。

また、複数の検索ルールを使用する場合は、ルールを最も制限の多いものから少ないものの順に並べる必要があります。たとえば、ルール 1 では、姓、名、電話番号、および国民 ID が完全に一致したときに、一致する ID が返されるとします。ルール 4 では、姓と名だけが一致すれば、一致する ID が返されるとします。この例の場合、ルール 4 ではルール 1 より多くの一致する ID が返される可能性があります。したがって、検索/マッチングで使用される検索ルールは、返された検索結果の重要性を示す指標として使用することができます。

検索パラメータは、1 つまたは複数の検索ルールのセットを、最も制限の多いルールが最初の検索順序番号、最も制限の少ないルールが最後の検索順序番号になるように順に並べたものです。検索パラメータは、検索ルールが 1 つしかない場合でも作成する必要があります。

ユーザーが検索を実行すると、このルールと順序に従って、重複の可能性がある ID が見つかるか、ID が見つからないまま全ての検索ルールを実行してしまうまで、検索が行われます。

検索結果コードを使用して、検索/マッチングによって見つかった一致する可能性のある ID について検索結果ページのグリッドに返されるデータを指定します。機密情報と考えられるフィールドには、フィールドレベルのセキュリティを定義することができます。たとえば、ユーザー プロファイルに割り当てられたプライマリ権限リストに基づいて、特定のユーザーに対しては生年月日全体を表示するが、他のユーザーには年だけを表示する（または何も表示しない）ように制限することができます。

いくつかの検索ルール、検索パラメータ、および検索結果が標準で用意されています。これらをそのまま使用するか、変更するか、または必要なだけ追加することができます。

警告: 検索フィールドを新たに追加するにはプログラミングに多大な労力が必要なため、追加することはお勧めしません。

関連項目:

第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「自動検索」、156 ページ

自動検索

自動検索では、トランザクション ページで新規 ID を作成するときに、強制的に検索/マッチングが使用されます。トランザクション ページから自動検索をトリガするには、そのページが含まれるコンポーネントに、有効な検索パラメータを関連付けます。ユーザーがそのページで新規 ID の作成に必要なデータを全て入力してトランザクション レコードを保存すると、自動的に検索/マッチングが開始されます。あらかじめ定義された検索パラメータと、ユーザーが入力したデータが、検索条件として使用されます。検索/マッチングで一致する ID が見つからなかった場合は、トランザクションが保存されます。検索/マッチングで一致する ID が 1 つでも見つかった場合は、検索結果ページのグリッド内に検索結果が表示されます。

コンポーネント名が検索パラメータ コードおよび検索結果コードに関連付けられている場合は、検索/マッチングにより検索結果ページのグリッド内に検索結果が表示されます。このためユーザーが検索結果ページに手動でナビゲートすることなく、重複の可能性がある ID を確認することができます。検索結果ページで結果を確認した後、ユーザーが [戻る] をクリックすると、新規 ID の保存を続行する場合は [OK] をクリックし、トランザクションを保存せず、さらに調べる場合は [キャンセル] をクリックするよう指示する画面が表示されます。

注: この設定は、HRS_PREP_FOR_HIRE コンポーネントから個人 ID を作成する場合にのみ有効です。

警告: 保存時に検索結果ページを表示するには、コンポーネント インターフェイス HCR_SM_SEARCH に対するアクセス権が割り当てられたセキュリティ ロールが必要です。

参照: 第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「検索結果の表示」、174ページ

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

注: この設定は、個人情報 (PERSONAL_DATA) コンポーネントから一般企業用 HRMS の個人 ID を作成する場合、および Hire Employee (EE_HIRE) コンポーネントから米国連邦政府用 HRMS の個人 ID を作成する場合にのみ有効です。

自動検索/マッチング機能の有効化

HRMS で自動検索/マッチング処理が行われるようにするには、“個人情報のインストール” ページ (INSTALL_PERSON) の [自動検索/マッチングを実行] チェック ボックスをオンにします。

このチェック ボックスをオンにすると、検索パラメータおよび検索結果コードが PERSONAL_DATA コンポーネント (米国連邦政府の場合は EE_HIRE コンポーネント) に関連付けられているかがチェックされます。関連付けられているコードがある場合は、そのルール名が表示されます。ない場合は、検索パラメータおよび検索結果コードを PERSONAL_DATA または EE_HIRE コンポーネントに関連付けるまでは自動検索/マッチング処理は実行されないことを知らせる警告が表示されます。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「関係者タイプの設定」、211ページ

自動検索条件について

検索/マッチングで電話番号および電子メール アドレスの値が検索に使用されるのは、優先される電話番号または電子メール アドレスが指定されているときだけです。したがって、新規 ID を保存すると自動的にトリガされる検索ルールで PhoneRule および EmailAddressRule を使用するには、その ID に優先される電話番号および優先される電子メール アドレスが入力されている必要があります。

新規個人 ID を保存するとトリガされる検索ルールに Address1Rule、Address2Rule、Address3Rule、Address4Rule、CityRule、CountryRule、CountyRule、PostalRule または StateRule が含まれている場合、検索/マッチングでは、住所タイプが自宅住所である住所フィールドだけを使用して検索が実行されます。つまり、自宅住所以外の住所タイプを入力した場合、検索/マッチングでは住所フィールドが検索条件として使用されません。

検索/マッチングの設定

検索/マッチングを設定するには、検索/マッチング ルール (HCR_SM_RULE)、検索/マッチング パラメータ (HCR_SM_PARM)、検索/マッチング結果フィールド (HCR_SM_RSLT_FLDS)、検索/マッチング結果 (HCR_SM_RESULT)、および検索/マッチング実行 (HCR_SM_SEARCH) の各コンポーネントを使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 検索ルール コードの定義
- 検索パラメータの定義
- 検索の権限の定義
- 検索/マッチング結果フィールドの表示または追加

- 検索/マッチング結果の設定
- 検索結果の詳細の入力
- 検索結果の例外の定義
- 検索結果の権限の設定

検索/マッチングの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
検索/マッチングルール	HCR_SM_RULE	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[検索/マッチング]、[検索/マッチングルール]	検索対象フィールドのセットを定義し、それぞれの検索方法を指定します。
検索パラメータ	HCR_SM_PARM	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[検索/マッチング]、[検索/マッチングパラメータ]、[検索パラメータ]	検索ルールの組み合わせと順序を定義します。この組み合わせ（検索パラメータ）を、ユーザーが検索を実行する前に選択することによって、検索が可能な検索フィールドが決定されます。
検索の権限	HCR_SM_PERM	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[検索/マッチング]、[検索/マッチングパラメータ]、[検索の権限]	検索パラメータを使用して検索を実行できるユーザーを指定します。また、新規 ID をデータベースに保存する際に検索パラメータを使用すべきコンポーネントがある場合は、そのコンポーネント名を指定します。
検索/マッチング結果フィールド	HCR_SM_RSLT_FLDS	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[検索/マッチング]、[検索/マッチング結果フィールド]	検索結果の定義に使用可能なフィールドを表示または追加します。
検索結果	HCR_SM_RESULT	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[検索/マッチング]、[検索/マッチング結果]、[検索結果]	検索結果に含める結果フィールドを指定し、フィールド値の表示方法を制御します。 注: このページと、類似したオブジェクト名 (HCR_SM_RESULTS) を持ち、やはり検索結果と呼ばれるページを混同しないよう注意してください。HCR_SM_RESULTS は、検索/マッチングによる検索結果が表示されるページです。
検索結果の詳細	HCR_SM_RDTL_PG	検索結果ページで [詳細ページを使用] オプションをオンにすると表示される [詳細を表示] ボタンをクリックします。	検索/マッチングによって返された特定の ID に関する詳細情報の表示に使用するページを定義します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
検索結果の例外	HCR_SM_RESULT_EXCP	検索結果ページの[例外]リンクをクリックします。	“検索結果の権限”ページで設定されたデータ表示コントロールに対するフィールドレベルでのセキュリティの例外を定義します。
検索結果の権限	HCR_SM_RSLT_PERM	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[検索/マッチング]、[検索/マッチング結果]、[検索結果の権限]	検索結果コードに対するアクセス権を持つユーザーを指定します。また、新規 ID が追加され、重複の可能性がある ID が見つかった場合に、検索/マッチングでその結果コードを使用すべきコンポーネントがある場合は、そのコンポーネントを指定します。

検索ルール コードの定義

検索/マッチング ルール ページにアクセスします。

検索/マッチング ルール

検索ルール コード: PSCS_10
検索タイプ: 個人

***名称:** 氏名,住所,市,生年月日,性別,SSN
☐ アドホック検索

*連番	検索フィールド	フィールド説明	必須	検索方法	開始位置	文字数	長さ		
1	Address1Rule	住所 1	<input checked="" type="checkbox"/>	先頭一致	1	5	55	+	-
2	CityRule	市区町村	<input checked="" type="checkbox"/>	先頭一致	1	10	30	+	-
3	FirstNameSrchRule	名前 (ファースト ネーム) 検索	<input checked="" type="checkbox"/>	先頭一致	1	3	30	+	-
4	LastNameSrchRule	姓検索	<input checked="" type="checkbox"/>	先頭一致	1	5	30	+	-
5	DateOfBirthRule	生年月日	<input checked="" type="checkbox"/>	完全一致			10	+	-
6	GenderRule	性別	<input checked="" type="checkbox"/>	完全一致			1	+	-
7	NationalIDRule	国民 ID	<input checked="" type="checkbox"/>	完全一致			20	+	-

検索/マッチング ルール ページ

[アドホック検索]

この検索ルールでアドホック検索を許可する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

アドホック検索では、ユーザーは組織であらかじめ定義された検索基準を無視して、あらかじめ定義されたオペランドを使用せず、評価対象の文字数制限なしに構成した検索を実行することができます。たとえば、アドホック検索では名が “John” に一致する ID を検索できるのに対し、非アドホック検索では名の最初の 3 文字 (この例の場合は “Joh”) だけを検索する設定がされている場合などがあります。

[検索フィールド]

検索フィールドは、システムにあらかじめ設定されています。

警告: 検索フィールドを新たに追加するにはプログラミングに多大な労力が必要なため、追加することはお勧めしません。

[連番]	検索フィールドが検索パラメータ内で使用されたときに表示される順序を指定します。
[検索フィールド]、[フィールド説明]	<p>この検索ルール コードに割り当てる各検索フィールドを選択します。[検索フィールド] フィールドから出ると、関連付けられた説明が表示されます。検索フィールドは、ユーザーに検索が許可されるフィールドです。</p> <p>検索フィールドは、システムにあらかじめ設定されています。検索フィールド値の追加または修正には、プログラミングに多大な労力が必要とされず。検索フィールドを削除しないでください。</p> <hr/> <p>注: ルールで Name Type (氏名タイプ)、National ID Type (国民 ID タイプ)、Phone Type (電話番号タイプ)、Email Type (電子メール タイプ)、または Address Type (住所タイプ) を指定せずに Name (氏名)、National ID (国民 ID)、Phone (電話番号)、Email Address (電子メール)、または Address (住所) フィールドを使用すると、該当する個人の全ての国民 ID、電話番号、電子メール、または住所が検索されます。</p> <hr/>
[必須]	<p>この検索ルールで検索する際に、該当する検索フィールドの値を必須にする場合は、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、ルールをより制限的なものにすることができます。</p> <p>このチェック ボックスをオフにすると、この検索ルールではこのフィールドが空白であるか、このフィールドが存在しなくても検索が受け付けられます。たとえば、検索ルール内の全てのフィールドが必須に指定されている場合は、このルールを使用して一致する ID を検索するには、各検索フィールドのデータが入力されていなければなりません。しかし、たとえば Date of Birth (生年月日) の [必須] チェック ボックスがオフになっている場合は、生年月日を指定しなくてもこの検索ルールを使用して検索することができます。</p>
[検索方法]	<p>検索時にフィールド値を評価する方法を指定します。</p> <p>[先頭一致]: 値が特定の文字列で始まっていなければなりません。この値を選択すると、[開始位置] フィールドにデフォルト値の 1 が表示され、[文字数] フィールドの定義が可能になります。開始位置のデフォルト値を変更することはできません。</p> <p>[部分一致]: 値に特定の文字列が含まれていなければなりません、その前後に他の文字列が含まれていてもかまいません。この値を選択すると、[開始位置] フィールドにデフォルト値の 1 が表示され、[文字数] フィールドの定義が可能になります。</p> <p>[完全一致]: 値が特定の文字列とまったく同じでなければなりません。</p> <p>[非使用]: この検索では、このフィールド値は使用しません。</p>
[開始位置]、[文字数]	<p>比較を開始する文字位置を入力し、その文字位置から何文字を比較対象にするかを入力します。</p> <p>たとえば、National ID (国民 ID) の検索方法として [部分一致] を選択し、[開始位置] に 3、[文字数] に 5 と入力した場合は、フィールド値の 3、4、</p>

5、6、7 番目の文字との比較が行われます。この結果、国民 ID にその 5 文字が含まれる ID が返されます。

検索方法として「先頭一致」を選択した場合は、「開始位置」はデフォルト値の 1 になり、検索/マッチングで最初の文字から何文字を使用して検索を実行するかを指定する必要があります。

[長さ]

その検索フィールドの文字数が示されます。「検索フィールド」列のフィールドから出ると、そのフィールドに関連付けられたフィールドに合計文字数が表示されます。

参照: 第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「検索/マッチングについて」、155 ページ

検索パラメータの定義

検索パラメータ ページにアクセスします。

検索パラメータ

検索の権限

検索パラメータ:

PSCS_TRADITIONAL

検索タイプ:

個人

*名称:

CS_Person_Traditional

ステータス:

アクティブ

☐ アドホック検索

検索/マッチング ルール				最初	1-6/6	最後
検索順序番号	*検索ルールコード	ルールコード説明				
10	PSCS_10	氏名、住所、市、生年月日、性別、SSN	定義の表示	+	-	
20	PSCS_20	社会保障番号のみ	定義の表示	+	-	
30	PSCS_30	氏名、生年月日、性別	定義の表示	+	-	
40	PSCS_40	氏名、性別	定義の表示	+	-	
45	PSCS_45	Full First Last Names	定義の表示	+	-	
50	PSCS_50	氏名のみ	定義の表示	+	-	

検索パラメータ ページ

[アドホック検索]

この検索パラメータでアドホック検索のみを許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。

アドホック検索では、ユーザーは組織であらかじめ定義された検索基準を無視して、あらかじめ定義されたオペランドを使用せず、評価対象の文字数制限なしに構成した検索を実行することができます。たとえば、アドホック検索では名が "John" に一致する ID を検索できるのに対し、非アドホック検索では名の最初の 3 文字（この例の場合は "Joh"）だけを検索する設定がされている場合があります。

注: アドホック検索が許可された検索パラメータからは、自動検索は実行できません。

[検索/マッチング ルール]

[検索順序番号]

この検索パラメータの検索ルール コードを適用する順序を入力します。最も制限の多い検索ルールを最も小さい検索順序番号に入力し、最も制限の少ない検索ルールを最も大きい検索順序番号に入力します。

検索ルールはいつでも変更することができます。ルールの順序を変更してページを保存すると、最後に入力した順序でルールが表示されます。

検索/マッチングでは、最初に番号の最も小さい検索ルールが処理され、一致する ID があれば、検索が停止されて結果が返されます。一致する ID がなければ、次のルールに進み、一致する ID が見つかるまで同様の処理が続けられます。

検索結果には、一致する可能性のある ID が見つかった検索ルールに対応する検索順序番号が表示されます。

アドホック検索では検索ルールを 1 つしか使用できないため、[アドホック検索] チェック ボックスをオンにした場合は、[検索順序番号] フィールドは表示されません。

[検索ルール コード]、[ルール コード説明]

使用する検索ルール コードを入力します。[検索ルール コード] フィールドから出ると、その検索ルールの説明が表示されます。有効な検索パラメータを作成するには、検索ルールを少なくとも 1 つは入力する必要があります。

[定義の表示]

このリンクをクリックすると、検索/マッチング ルール ページに移動して、ルール定義を表示または編集することができます。

検索の権限の定義

“検索の権限” ページにアクセスします。

検索パラメータ

検索の権限

検索パラメータ: PSCS_TRADITIONAL

検索タイプ: 個人

名称: CS_Person_Traditional

ステータス: アクティブ

☐ アドホック検索

検索パラメータのアクセス権

☐ フル アクセス

セキュリティ アクセスの制限

カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

	*ルール名	ルール説明		
1			+	-

検索対象コンポーネント

カスタマイズ | 検索 | 最初 1-3/3 最後

	*コンポーネント名	コンポーネント説明		
1	ADM_APPL_ENTRY1	Add Application	+	-
2	QUICK_ADMIT	Quick Admit	+	-
3	SOC_BIO_DEMO	CS Person Maintenance	+	-

“検索の権限” ページ

[検索パラメータのアクセス権]

[フル アクセス]

この検索パラメータ コードの使用を全てのユーザーに許可する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

[セキュリティ アクセスの制限]

この領域は、[フル アクセス] チェック ボックスがオフになっている場合にのみ表示されます。

[ロール名]、[ロール説明] この検索パラメータ コードの使用を、セキュリティ プロファイルに特定のロールが含まれるユーザーに限定します。

[検索対象コンポーネント]

[コンポーネント名]、[コンポーネント説明] 新規 ID の追加時に検索/マッチングを強制的に使用させる場合は、新規 ID の追加が行われるコンポーネントを選択します。ユーザーが新規 ID を作成するデータを入力してトランザクションを保存すると、検索/マッチングが自動的に開始されるようになります。検索対象を特定のコンポーネントに限定し、そこで全てのロールまたは特定のロールだけに権限を与えることもできます。

注: 1 つのコンポーネント名は、1 つの検索パラメータにのみ関連付けることができます。ただし、同じ検索パラメータを複数のコンポーネント名の中で使用することができます。この検索パラメータを使用する全てのコンポーネントを選択してください。

注: このフィールドは、[検索タイプ] が個人または組織の場合にのみ表示されます。

参照: 第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「検索/マッチングについて」、155 ページ

検索/マッチング結果フィールドの表示または追加

検索/マッチング結果フィールド ページにアクセスします。

検索/マッチング結果フィールド

検索結果フィールド:

DateOfBirth

検索タイプ:

個人

名称:

生年月日

☐ 有効日を使用

検索結果データ		
レコード名:	PERSON	PERSON レコード
フィールド:	BIRTHDATE	生年月日

システム データ - 更新不可

検索/マッチング結果フィールド ページ

多くの検索/マッチング結果フィールドがあらかじめ定義されており、検索結果コードの定義時に使用可能になっています。このようなフィールドについては、検索/マッチング結果フィールド ページに“システム データ - 更新不可”と表示されます。あらかじめ定義された検索フィールドのデータを編集することはできません。ただし、検索結果コードで使用可能にするフィールドを追加で選択することはできます。

[値の追加] タブを選択して検索結果フィールドの名前を入力すると、検索/マッチング結果フィールド ページのフィールドが入力可能な状態で表示され、検索結果内で使用可能にするレコードおよびフィールドを選択することができます。結果内のフィールド値の表示方法を制御するには、検索/マッチング結果の設定ページを使用します。

注: 有効日付きのレコードやタイプ関連 (住所タイプ、電子メール タイプ、電話番号タイプなど) のレコードに基づいて検索結果フィールドが作成される場合、検索/マッチング結果には、各日付 (履歴、現在および将来の日付) と各タイプの行が返されます。たとえば、性別フィールドは PERS_DATA_EFFDT レコードに含まれています。“性別”を検索結果フィールドとして使用すると、PERS_DATA_EFFDT に複数の行を持つ個人では、検索結果グリッドに同じ性別で複数の行が表示されます。これは、重複の可能性がある ID の評価が、各 ID に適用される全ての日付とタイプに対して行われるようにするためです。行を限定して表示したい場合は、現在の情報のみを表示するよう有効日を限定するロジック、または特定のタイプのみを返すロジック (たとえば、住所タイプが“自宅”の住所情報を選択するなど) を含むビューに基づく検索結果フィールドを作成できます。

検索/マッチング結果の設定

検索結果ページにアクセスします。

検索結果

検索結果の権限

検索結果コード:

PSCS_TRAD_MASK

検索タイプ:

個人

*名称:

OS_Pers 従来結果マスク

ステータス:

アクティブ

結果セット

☒ 詳細ページを使用

詳細を表示

検索/マッチング結果フィールド

カスタマイズ

検索

最初

1-9/9

最後

連番	*結果フィールド	フィールド説明	表示オプション	文字数	日	月	年	長さ		
1	NameType	氏名タイプ	フィールド全体を表示					3	例外	+ -
2	EffectiveDate	氏名有効日	フィールド全体を表示					10	例外	+ -
3	FirstName	名	フィールド全体を表示					30	例外	+ -
4	MiddleName	ミドル ネーム	フィールド全体を表示					30	例外	+ -
5	LastName	姓	フィールド全体を表示					30	例外	+ -
6	NationalID	国民 ID	末尾の文字列を表示	4				20	例外	+ -
7	DateOfBirth	生年月日	日付の一部を表示		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	10	例外	+ -
8	Gender	性別	フィールド全体を表示					1	例外	+ -
9	CampusID	キャンパス ID	先頭の文字列を表示	2				16	例外	+ -

検索結果ページ

[結果セット]

[詳細ページを使用]

検索によって返された各 ID の横に [詳細] リンクを表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

[詳細ページを使用] をオンにすると、[詳細を表示] ボタンが表示されます。

[詳細を表示]

このボタンは、[詳細ページを使用] チェック ボックスをオンにした場合にのみ表示されます。

このボタンをクリックすると“検索結果の詳細” ページにアクセスし、ユーザーが特定の ID に関する詳細の確認のために移動するページを定義することができます。

注: ここで定義したページに移動するには、ユーザーにそのページに対するアクセス権がなければなりません。

[検索/マッチング結果フィールド]

[連番]

検索/マッチング結果グリッドに結果が表示される順序を指定します。結果フィールドの順序はいつでも変更することができます。フィールドの順序を変更してページを保存すると、最後に入力した連番の順に結果フィールドが表示されます。

[結果フィールド]、[フィールド説明]

検索結果に返すデータを選択します。検索の実行に使用されるフィールド (検索フィールド) は、結果の表示に必要なフィールド (結果フィールド) と同じである必要はありません。

結果フィールドの定義は、検索/マッチング結果フィールド ページで行います。

[表示オプション]

そのフィールドのデフォルトの表示コントロールが表示されます。これは上書きすることもできます。個別のフィールド値全体を表示または非表示にするには、[フィールド全体を表示] または [フィールド全体をマスク] を選択します。その他には、以下のオプションがあります。

[先頭の文字列を表示]: フィールド値の先頭から、指定した数の文字が表示されます。このオプションを選択すると、[文字数] フィールドが表示されます。フィールド値の先頭から何文字を表示するかを入力する必要があります。

[末尾の文字列を表示]: フィールド値の末尾から、指定した数の文字が表示されます。このオプションを選択すると、[文字数] フィールドが表示されます。フィールド値の末尾から何文字を表示するかを入力する必要があります。

[日付の一部を表示]: 日付フィールド値の、指定した部分が表示されます。このオプションを選択すると、[日]、[月]、[年] チェック ボックスが表示されます。日付のどの部分を表示するかを選択する必要があります。たとえば、[年] を選択すると、年だけが表示されます。

[文字数]

フィールド値の先頭または末尾から何文字を表示するかを入力します。

[日]、[月]、[年]

日付値として日付のどの部分を表示するかを選択します。

[長さ]

フィールド値に表示可能な文字数が表示されます。

[例外]

このリンクをクリックすると、“検索結果の例外” ページに移動し、この検索結果に対するフィールド レベルの例外を定義することができます。

警告: 検索/マッチングでは、データ権限セキュリティにかかわらず、一致する可能性がある全ての ID が返されます。機密データまたはその一部をマスクするには、フィールド レベルのセキュリティを使用する必要があります。

参照: [第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、39 ページ](#)

検索結果の詳細の入力

“検索結果の詳細” ページにアクセスします。

検索/マッチング結果

検索結果の詳細

検索結果コード: PSCS_TRAD_MASK

検索タイプ: 個人

名称: CS_Pers Traditional Result Mask

ステータス: アクティブ

詳細ページ パラメータ

メニュー名: CC_BIO_DEMO_DATA

メニュー バー名: USE

アイテム名: SCC_BIO_DEMO

ページ名: SCC_BIO_DEMO_PERS

アクション モード: 更新/表示

“検索結果の詳細” ページ

[詳細ページ パラメータ]

[メニュー名]、[メニューバー名]、[アイテム名]、[ページ名]

特定の ID に関する詳細を提供するページに対応する各アイテムを選択します。

[アクション モード]

ユーザーが詳細ページにアクセスするときのモードを定義するアクションモードを選択します。以下のいずれかを指定できます。

- [追加]
- [修正]
- [データ入力]
- [更新/表示]
- [更新]

検索結果の例外の定義

“検索結果の例外” ページにアクセスします。

検索/マッチング結果

検索結果の例外

検索結果コード:

PSCS_TRAD_MASK

CS_Pers Traditional Result Mask

結果フィールド:

DateOfBirth

生年月日

フィールド レベル セキュリティの例外

カラム名 | 検索 | 最初 | 1-3/3 | 最後

プライマリ権限リスト	説明	表示オプション	長さ		
EODS1000	Directory Interface	フィールド全体を表示	10	+	-
EOEC9010	Credit Card Interface	フィールド全体を表示	10	+	-
HCCPCSSA50NL	CS The Netherlands	フィールド全体を表示	10	+	-

“検索結果の例外” ページ

検索結果ページで設定した検索結果に対する例外を定義することができます。たとえば、検索結果に含まれる生年月日フィールドの一部をマスクしたが、そのデータを必要とするユーザーにはフィールド全体が表示されるようにしたいとします。このような例外を、このページでプライマリ権限リストを使用して設定することができます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、39 ページ

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

[フィールド レベル セキュリティの例外]

- [プライマリ権限リスト]、[説明]

選択した結果フィールドの例外とするユーザーのプライマリ権限リストを選択します。[プライマリ権限リスト] フィールドから出ると、権限リストの説明が表示されます。
- [表示オプション]

検索結果ページで選択した表示オプションに対する例外として使用する表示オプションを選択します。

検索結果の権限の設定

“検索結果の権限” ページにアクセスします。

検索結果

検索結果の権限

検索結果コード:

PSCS_TRAD_MASK

検索タイプ:

個人

名称:

CS_Pers Traditional Result Mask

ステータス:

アクティブ

検索結果コードのアクセス権

☐フル アクセス

セキュリティ アクセスの制限

カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

	*ロール名	ロール説明		
1			+	-

検索対象コンポーネント

カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

	*コンポーネント名	コンポーネント説明		
1	SCC_BIO_DEMO	CS Person Maintenance	+	-

“検索結果の権限” ページ

- [フル アクセス]

この検索結果コードの使用を全てのユーザーに許可する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- [ロール名]、[ロール説明]

この検索結果コードの使用を、ここに入力したロールがセキュリティ プロファイルに含まれるユーザーに限定します。
- [コンポーネント名]、[コンポーネント説明]

このフィールドは、[検索タイプ] が個人の場合にのみ表示されます。

自動検索を使用しており、重複の可能性がある ID が存在する場合はユーザーに対して警告メッセージを表示し、自動検索の結果を表示するには、“検索の権限” ページで検索パラメータに対して選択したものと同じコンポーネント名（複数可）を選択します。検索対象を特定のコンポーネントに限定し、そこで全てのロールまたは特定のロールだけに権限を与えることもできます。

注: 1 つのコンポーネント名は、1 つの検索結果コードにのみ関連付けることができます。ただし、同じ検索結果コードを複数のコンポーネント名の中で使用することができます。この検索結果コードを使用する全てのコンポーネントを選択してください。検索/マッチングによって、入力したデータと一致する可能性がある ID が見つかると、検索結果ページが返され、見つかった一致する ID が表示されます。

参照: 第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「自動検索」、156 ページ

関連項目:
第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「検索結果の表示」、174 ページ

検索/マッチングの使い方

このセクションでは、検索ボックスによる検索と検索/マッチングの違いと、以下の方法について説明します。

- 検索条件の選択
- 検索結果の表示

検索ボックスによる検索と検索/マッチングの違いについて

検索ダイアログ ページからのレコード検索と、検索/マッチングを使用するレコード検索には、次のような違いがあります。検索ボックス ページは、データの表示または更新を行うために、限定された検索条件を使用して既存のレコードを取得する場合に使用します。検索/マッチングは、これより大きい検索条件のセットを使用してデータベース内の重複レコードを検出したり、単一の ID を一意に識別すべきデータが重複して含まれている異なるレコードを特定するために使用します。

ID とそこに関連付けられたデータの整合性を保つことは、システムの機能を最大限に利用するうえで重要です。検索/マッチングは、レコードを作成または再作成する前に、その個人 (EMPLID)、組織 (EXT_ORG_ID、PeopleSoft Enterprise Campus Solutions がライセンスされている場合のみ)、または応募者 (HRS_PERSON_ID、PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理がライセンスされている場合のみ) が既にデータベース内に存在していないかを判定することによって、レコードを重複して入力することを防ぐのに役立ちます。

検索/マッチングを使用して、ビジネス プロセスに関連する、一意の識別のためのデータが含まれるレコードが重複して存在しないかを判定するルールおよび検索パラメータを定義します。返された一致する ID と共に、どの結果フィールドを表示するかを設定することができます。また、ビジネス プロセスとユーザーに必要なセキュリティのレベルに基づいて、結果フィールド値の全体を表示するか、全体をマスクするか、一部をマスクするかを指定することができます。

ユーザーが新規 ID を作成し保存したときに、検索/マッチングが自動的に実行されるように設定することによって、重複の可能性を強制的に評価させることができます。

関連項目:

第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「自動検索」、156 ページ

検索/マッチングに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
検索条件	HCR_SM_SEARCH	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[検索/マッチング]、[検索/マッチング実行]、[検索条件] • [人事・労務管理]、[個人情報]、[個人情報の検索]、[検索条件] 	重複するレコードを検索する条件を入力します。
デフォルトの検索結果	HCR_SM_USERDFLT	検索条件ページの[ユーザー デフォルト]リンクをクリックします。	ユーザー ID に、特定の検索タイプにおけるデフォルト値として使用する検索結果コードを割り当てます。
検索結果	HCR_SM_RESULTS	検索条件ページに条件を入力して[検索]ボタンをクリックするか、[順序番号による検索]の[検索]ボタンの1つをクリックして、手動検索を開始します。	<p>手動検索による検索/マッチングの結果を表示し、ID の重複の可能性を検査します。</p> <p>注: このページを、類似したオブジェクト名 (HCR_SM_RESULT) を持つ、検索結果フィールドの定義に使用する[検索結果]の設定ページと混同しないでください。</p>

検索条件の選択

検索条件ページにアクセスします。

検索条件


検索タイプ: 個人

☐ アドホック検索

検索パラメータ: PSCS_TRADITIONAL

CS_Person_Traditional

検索結果ルール

検索結果コード: PSCS_TRAD_RESUL  CS_Person 従来結果

[ユーザー デフォルト](#)

検索

全てクリア

ID の転記リセット

検索条件

検索フィールド

検索値

住所 1



市区町村



名前 (ファースト ネーム) 検索



姓検索



生年月日



検索条件ページ (1/2)

Gender

National Id

順序番号による検索

検索順序番号	名称	
10	Name,Addr,City,Bday,Gender,SSN	検索
20	SSN Only	検索
30	Name,Bday,Gender	検索
40	Name,Gender	検索
50	Name Only	検索

検索条件ページ (2/2)

[検索タイプ] このページにアクセスするために選択した検索タイプ（個人）が表示されます。PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理がライセンスされている場合は、応募者を選択している可能性もあり、PeopleSoft Enterprise Campus Solutions がライセンスされている場合は、組織を選択している可能性もあります。

[検索パラメータ] このページにアクセスするために選択したパラメータのコードが表示されます。検索ダイアログ ページの検索パラメータ リストでは、セキュリティ ロールでアクセスが許可されている検索パラメータだけを選択することができます。

職責によっては、一日に何度も検索/マッチングのページにアクセスしなければならない場合があります。同じ検索パラメータを頻繁に使用する場合は、検索/マッチングのページにアクセスする前に、検索ダイアログ ページの [検索条件の保存] リンクをクリックして、検索条件を保存します。これで今後は [保存済検索の使用] からこの検索条件を選択できるようになります。

[アドホック検索] この検索パラメータ コードでアドホック検索が許可されている場合は、このチェック ボックスがオンになります。

アドホック検索では、ユーザーは組織であらかじめ定義された検索基準を無視して、あらかじめ定義されたオペランドを使用せず、評価対象の文字数制限なしに構成した検索を実行することができます。たとえば、アドホック検索では名が "John" に一致する ID を検索できるのに対し、非アドホック検索では名の最初の 3 文字（この例の場合は "Joh"）だけを検索する設定がされている場合などがあります。

アドホック検索が可能な場合は、検索条件ページに、選択した検索パラメータコードに設定された検索フィールドが表示され、各検索フィールドに対する[オペランド]フィールドが表示されます。[オペランド]フィールドを使用すると、入力した検索値と先頭が一致する、部分的に一致する、または完全に一致するという条件で検索を実行することができます。

また、アドホック検索では、[順序番号による検索]領域は使用されないため表示されません。

参照: 第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「検索パラメータの定義」、161 ページ

[検索結果ルール]

[検索結果コード]

この検索結果の表示に使用する検索結果コードを選択します。検索結果コードには、検索した構成要素が含まれる ID が既に存在するかを迅速に判別できるようにするため、検索/マッチングによって取得された ID をどう表示するか、またどのデータを返すかに関する全ての情報が含まれます。

[ユーザー デフォルト]

このリンクをクリックすると、“デフォルトの検索結果” ページにアクセスし、この検索タイプのデフォルト値として使用する検索結果コードを選択することができます。

デフォルトの検索結果コードは、ユーザー ID ごとに、各検索タイプにつき 1 つずつ選択することができます。

[ID の転記リセット]

転記された ID を新規の ID にリセットする場合にクリックします。

検索結果ページでは、重複の可能性を詳細に調査するため他のページにアクセスするときに、ID を転記するよう選択することができます。[ID の転記リセット] をクリックした場合は、選択した ID は転記されず、代わりに新規の ID が使用されます。特に新たな ID を作成するページにアクセスする場合に、このボタンを使用すると便利です。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268 ページ

[検索条件]

[検索フィールド]

選択した検索パラメータに関連付けられた各検索フィールドが表示されます。

[オペランド]

このフィールドは、その検索パラメータでアドホック検索が許可されている場合にのみ表示されます。パラメータでアドホック検索が許可されている場合は、[アドホック検索] チェック ボックスがオンになり、[順序番号による検索] 領域は表示されません。

検索の実行に使用するオペランドを選択します。有効値は、[先頭 =]、[部分 =] および [=] です。これらの値はトランスレート値として定義されており、変更することはできません。

[検索値]

指定する検索フィールドごとに、検索する値を入力します。Gender (性別) などのように、あらかじめ値が定義されている場合は、リストから値を選択します。あらかじめ定義された値がない場合は、検索値フィールドに直接データを入力します。

[全てクリア]

このボタンをクリックすると、[検索値] フィールドに入力した値が全てクリアされます。

[検索]

このボタンをクリックすると、入力した全ての値について検索が開始され、選択した検索パラメータに定義されている中で最も制限の多い検索順序番号から順に検索されます。検索が完了すると、自動的に検索結果ページに移動します。

注: [検索] をクリックすると、指定したデータだけが検索されます。選択した検索パラメータに対して定義された検索順序はフィルタリングされます。たとえば、検索/マッチングにより検索順序番号 10 で一致する可能性のある ID が 1 つでも見つかった場合、検索は停止され、検索順序番号 10 で取得された結果が表示されます。一致する ID が見つからなかった場合は、次の検索順序番号に進み、一致する ID が見つかるまで同様の処理が続けられます。特定の検索順序番号を使って検索を行うには、その順序番号の [検索] ボタンを使用します。

[順序番号による検索]

このページ領域は、[アドホック検索] チェック ボックスがオフになっている場合にのみ表示されます。

[検索条件領域] の [検索値] フィールドに条件を入力すると、そのフィールドを使って定義された検索順序番号の [検索] ボタンが使用可能になります。

[検索] ボタンをクリックすると、その番号の検索が実行されます。

検索が完了すると、自動的に検索結果ページに移動します。

検索結果の表示

検索結果ページにアクセスします。

検索結果

検索タイプ: 個人

☐ アドホック検索

検索パラメータ: PSCS_TRADITIONAL

CS_Person_Traditional

結果コード: PSCS_TRAD_MASK

CS_Pers 従来結果マスク

▼ 検索結果サマリ

[検索条件に戻る](#)

ID の検索結果数: 7

検索順序番号: 50 氏名のみ

検索結果								
結果			結果 2			その他の情報		
			従業員 ID	氏名タイプ*	氏名有効日	名	ミドルネーム	姓
1	ID の転記	詳細	AD5024	PRF	03/23/2001	John		Smith
2	ID の転記	詳細	AD5024	PRI	03/23/2001	John		Smith
3	ID の転記	詳細	AD6000	PRF	01/21/2002	Joanne		Smith
4	ID の転記	詳細	AD6000	PRI	01/21/2002	Joanne		Smith
5	ID の転記	詳細	AD6000	PRI	01/22/2002	Joanne		Smith
6	ID の転記	詳細	CC0066	PRF	07/13/2004	Johnat		Smith
7	ID の転記	詳細	CC0066	PRI	07/13/2004	Johnattan	William	Smith
8	ID の転記	詳細	CC0067	PRI	06/24/2004	Johnattaniel	Louis	Smithzierburgh
9	ID の転記	詳細	FA0080	PRI	06/26/1998	Johanna		Smith
10	ID の転記	詳細	FA0080	PRF	07/09/1998	Johanna		Smith

検索結果ページ (手動検索の場合)

検索結果						
結果		結果 2		その他の情報		
			従業員 ID			
1	ID の転記	詳細	AD5024	雇用情報サマリ	機関との関係	
2	ID の転記	詳細	AD5024	雇用情報サマリ	機関との関係	
3	ID の転記	詳細	AD6000	雇用情報サマリ	機関との関係	
4	ID の転記	詳細	AD6000	雇用情報サマリ	機関との関係	
5	ID の転記	詳細	AD6000	雇用情報サマリ	機関との関係	
6	ID の転記	詳細	CC0066	雇用情報サマリ	機関との関係	
7	ID の転記	詳細	CC0066	雇用情報サマリ	機関との関係	

検索結果 - その他の情報 タブ (自動検索の場合)

検索条件ページで条件を入力して [検索] ボタンまたは [順序番号による検索] 領域のいずれかの [検索] ボタンをクリックすると、検索が開始され、上のページ例のような結果が表示された検索結果ページに移動します。

自動検索の場合は、下のページ例のような検索結果ページが表示されます。つまり、ID の作成が可能なコンポーネント名に検索パラメータ権限と検索結果権限の両方が設定され、検索/マッチングが自動的に開始されるように設定されている場合です。このように設定されたコンポーネントで ID を追加しようとしたときに、保存時に検索/マッチングにより重複の可能性がある ID が検出されると、検索結果ページに、データベース内の少なくとも 1 つの ID が新規 ID 作成のために入力されたデータと一致していることを示す警告メッセージと、自動検索の実行に使用されたデータが表示されます。

検索結果

警告: 重複している可能性のある個人データが見つかりました。この個人のデータは既にデータベースに存在する可能性があります。

以下のリストを参照して、追加中の個人と一致する可能性のあるデータを探してください。ページ下部にある「戻る」ボタンをクリックすると、この個人データの追加を続行するかキャンセルするかを選択する画面が表示されます。

▼ 検索条件

必須	名称	検索方法	検索値
<input checked="" type="checkbox"/>	First Name Search	先頭 =	JO
<input checked="" type="checkbox"/>	Last Name Search	先頭 =	SMIT
<input checked="" type="checkbox"/>	Gender	=	U

▼ 検索結果サマリ

ID の検索結果数: 4

検索順序番号: 40

検索結果							
結果				結果 2 その他の情報			
		従業員 ID	氏名タイプ*	氏名有効日	名	姓	姓
1	ID の転記	0027	PRF	10/15/2004	John		Smith
2	ID の転記	MUTA084	PRI	01/01/1996	Joe		Smith
3	ID の転記	MUIF025	PRI	01/01/1996	Jose		Smits
4	ID の転記	FA0080	PRI	07/09/1998	Johanna		Smith
5	ID の転記	FA0080	PRI	06/26/1998	Johanna		Smith
6	ID の転記	FA0080	PRF	07/09/1998	Johanna		Smith
7	ID の転記	0027	PRI	10/15/2004	John		Smith

検索結果 - 結果 タブ (自動検索の場合)

参照: 第 7 章、「検索/マッチングの設定と使い方」、「検索/マッチングについて」、155 ページ

いずれの場合の検索結果ページでも、検索結果のリストや、検索で返されたレコードの詳細を表示することができます。また [ID の転記] をクリックすると、詳細な調査のため他のページにアクセスするときに ID が転記されるようにすることができます。

[検索結果サマリ]

[ID の検索結果数]

検索条件に一致した ID の数が表示されます。

この数は、[検索結果] グリッドに返された行の数より少ない場合がありますが、これはグリッドには同一の ID が何度も表示されることがあるためです。選択した検索結果コードに氏名フィールドが含まれている場合は、入力した検索条件に一致する氏名タイプおよび有効日ごとに行が返されます。検索結果コードに国民 ID フィールドが含まれている場合は、検索条件に一致するレコードに対して入力された国民 ID ごとに行が返されます。

[検索順序番号] 検索結果が見つかった検索順序番号が表示され、検索の厳密性が示されます。つまり、この番号が小さいほど、検索の制限が多く、重複する ID が見つかった可能性が高いことになります。この番号は、返された ID が入力された条件と一致する度合いを示す指標として使用することができます。

[検索結果]

選択した検索結果コードに基づいて、[結果] および [結果 2] タブに列が表示されます。列内の値には、ユーザーのロール セキュリティに応じてマスクされるもの、一部マスクされるもの、全体が表示されるものがあります。

[ID の転記]

このボタンをクリックすると、この後でアクセスするページの検索ボックスの ID フィールドに ID が転記されるので、自分で ID を覚えておく必要がなくなります。

[詳細]

選択した検索結果コードに、ID の詳細を確認するページへのリンクをユーザーに表示する設定がされている場合は、[詳細] リンクが表示されます。

[検索結果] - [その他の情報] タブ

このタブは、検索タイプが個人の場合にのみ表示されます。

[雇用情報サマリ]

このリンクをクリックすると、雇用情報サマリ ページにアクセスして、その個人の雇用情報を確認することができます。

[機関との関係]

このリンクをクリックすると、Campus Solutions の“機関との関係詳細” ページにアクセスして、その個人と機関との関係のタイプを特定し、それが探している個人なのかをより明確にすることができます。

注: このリンクは、PeopleSoft Enterprise Campus Solutions を併用している場合に使用され、“インストール テーブル” の製品ページ (INSTALLATION_TBL1) で [Student Administration] チェック ボックスか [Contributor Relations] チェック ボックス、またはその両方をオンにしている場合にのみ表示されます。

第 8 章

言語の設定と使い方

この章では、PeopleSoft の言語サポートの概要と以下について説明します。

- 使用言語の設定
- 全角文字の使い方

PeopleSoft の言語サポートについて

複数国対応システムで重要となるのは、言語のサポートです。PeopleSoft では、効率の良い多国語処理が提供されています。たとえば、セッションの最中に言語を切り替える場合、言語設定用の 1 つのフィールドの値を変更するだけで、システム全体が自動的に新しい言語に切り替わります。1 回のセッションで、ドイツ語から英語、英語からフランス語に変更し、またドイツ語に戻すことができます。このセクションでは、PeopleSoft の言語サポートの概要について説明します。

PeopleSoft では、いくつかの方法で多言語機能がサポートされています。PeopleTools には、フィールドラベル、ページ表示、メニュー アイテムなどを別の言語に翻訳するツールが組み込まれています。ログオンすると、画面内容は全てユーザーの指定した言語で表示されます（翻訳されている言語に限ります）。

PeopleSoft を修正してフィールド、ページ、メニュー アイテムなどを新規追加する場合は、PeopleTools に組み込まれている機能を使って、追加したアイテムを目的の言語に翻訳できます。

アプリケーションを修正する際は、多言語機能を完全に維持するために、新規に作成したアイテムを翻訳して登録します。1 つの言語しか使用していなければ、その言語で新規アイテムを入力するだけで済みます。ただし、複数の言語を使う場合は、新規アイテムを翻訳しておかないと、システムを別の言語に切り替えても、そのアイテムは元の言語のままで表示されます。その結果、同じページに複数の言語が表示されてしまうことがあります。

次の表は、サポートしている言語と言語コードの一覧です。

言語コード	言語
CFR	カナダ フランス語
DAN	デンマーク語
DEU	ドイツ語
DUT	オランダ語
ESP	スペイン語
FRA	フランス語

言語コード	言語
ITA	イタリア語
JPN	日本語
KOR	韓国語
POL	ポーランド語
POR	ブラジルポルトガル語
SVE	スウェーデン語
ZHS	簡体字中国語
ZHT	繁体字中国語

注: システム内のオブジェクトは、システムの出荷前に一度翻訳されます。これにはアプリケーションのページとメニュー アイテムが全て含まれています。ただし、新規にレコードを作成したりデータを追加する場合、新規のフィールド ラベルやデータ —(名称、コメント、説明、略称など)— を必ず翻訳してください。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Global Technology

使用言語の設定

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- ブラウザの使用言語の設定方法
- “使用言語の設定” ページ (INTERNATL_PREF) の使用方法

注: PeopleSoft には、使用言語の選択機能が標準装備されています。使用しているシステムの基本言語にかかわらず、PeopleSoft アプリケーションは、サポートされているどの言語でも表示できます。

ブラウザの使用言語の設定

PeopleSoft では、サポートされている各言語のサイン イン ページを表示できます。ただし、PeopleSoft のページはインターネット ブラウザで表示されるので、使用する言語がブラウザでサポートされていることを確認しておく必要があります。ブラウザの言語設定を確認して、使用する言語を選択してください。

一度設定が済むと、[言語] の各リンクをクリックするだけで、指定した言語でサイン イン ページを表示できます。ここで選択する言語によって、PeopleSoft インターネット アーキテクチャで表示されるアプリケーション全体の言語が決まります。

注: “マイ システム プロファイル” のプロフィール 一般情報ページ (USER_SELF_SERVICE) で指定する言語コードは、レポート実行または電子メール作成の場合にのみ適用されます。

“使用言語の設定” ページの使い方

PeopleSoft アプリケーションにログインした後は、“使用言語の設定” ページを使えば、セッション中いつでも使用言語を変更することができます。使用言語の設定を変更すると、システム全体が新規の言語で表示されるようになります（翻訳済みである場合）。使用言語を変更しても、言語コードの変更はデータベースに書き込まれず、そのセッションの間だけ PeopleTools のメモリに保存されます。

ここで指定する言語コードは、現在のセッションにおいて、その後使用される言語になります。現在のセッションからログオフするか、または再度使用言語を変更するまで、この言語が使われます。また、ツール設定では、この言語コードによって、数字、日付、通貨などに国別のフォーマットが適用されます。セッション中に言語コードを変更しても、ユーザー プロファイルの言語設定には影響しません。次のログイン時には、ユーザー ID に関連付けられた言語が表示されます。

使用言語を変更すると、— ページ、メニュー、フィールド— の内容などが全て、新規の使用言語で表示されます。

注: PeopleSoft の使用言語オプションは、Microsoft Windows の言語オプションとは無関係です。Windows の言語パラメータを変更するには、[スタート]、[設定]、[コントロール パネル] の順に選択します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Global Technology

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

全角文字の使い方

このセクションでは、全角文字の概要と以下について説明します。

- フリガナ機能のシステム設定
- フリガナ情報の入力
- フリガナを使ったレコード検索
- フリガナ システム アーキテクチャの使い方

全角文字について

PeopleSoft Enterprise HRMS では、フリガナ アーキテクチャと関連言語テーブル アーキテクチャが使われています。これにより、ユーザーは半角英数字と全角文字の両方でデータを入力することができます。また、基本言語テーブルと関連言語テーブルの間で切り替えを行い、半角または全角のいずれかで情報を表示することができます。

フリガナ アーキテクチャは、固有名詞の入力の際に 2 文字セットが必要とされる日本語などに対応しています。2 文字セットが必要なのは、固有名詞をバイナリ順ではなく、読み方順でソートできるようにするためです。日本語で氏名や名称などの固有名詞を入力する場合は、漢字、およびその読み方を表す全角文字（カタカナとひらがな）の両方を使える機能が必要です。PeopleSoft Enterprise HRMS で日本語を読み方順にソートできるようにするには、固有名詞を漢字で入力し、さらに読み方をカタカナやひらがなで入力できるよう、システムを設定する必要があります。

重要: (JPN) ひらがなやカタカナで読み方を入力する際は、入力方法を統一することが重要です。PeopleSoft Enterprise HRMS では、全角文字にバイナリ順ソートが自動的に適用されるため、読み方が同じでも文字が異なる場合は一緒にソートされません。たとえば、ひらがなの“ま”は“み”より前に、また“の”より後に表示されます。カタカナの“マ”がソート対象に含まれていた場合は、カタカナの“ミ”の前に来ますが、カタカナは、ひらがなの文字が全てソートされた後に表示されます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Global Technology

フリガナ システム アーキテクチャについて

PeopleSoft Enterprise HRMS では、氏名、住所、および説明に関するフィールドには、レコードの一部として対応フリガナ フィールドが付いていることがあります。このようなアーキテクチャによって、同一のフィールドでも言語コードによって異なった使い方ができます。

グローバル ページ関連のフリガナ フィールド

以下の表は、PeopleSoft Enterprise HRMS におけるフリガナ フィールドとそれに関連するグローバル ページのリストです。

ページ	2 次ページ	フィールド	コメント
BANK_BRANCH_EC		BRANCH_NAME_AC	
BANK_EC		BANK_NAME_AC	
COMPANY_TABLE1	COMPANY_ACDESCR_SEC	DESCR_AC	
COMPANY_TABLE1	COMPANY_ACADDR_SEC	COMPANY_ACADDR_SBP	COMPANY_TBL.CITY_AC COMPANY_TBL.ADDRESS1_AC COMPANY_TBL.ADDRESS2_AC DERIVED_GBL.POSTAL_BTN ADDR_POS_JPN_SEC
DEPEND_BENEF1	DEPENDBN_ACNAME_SEC	NAME_AC	
ESTAB_TBL1_GBL	ESTAB_ACDESCR_SEC	DESCR_AC	

ページ	2 次ページ	フィールド	コメント
ESTAB_TBL1_GBL	ESTAB_ACADDR_SEC	ESTAB_ACADDR_SBP	ESTAB_TBL.CITY_AC ESTAB_TBL.ADDRESS1_AC ESTAB_TBL.ADDRESS2_AC DERIVED_GBL.POSTAL_BTN ADDR_POS_JPN_SEC
HS_NON_EMPL1	HS_NE_ACNAME_SEC	NAME_AC	
PERSONAL_DATA1 APP_PERSONAL_DATA1	PERSDTA_ACADDR_SEC	PERSDTA_ACADDR_SBP	PERS_DATA_EFFDT.CITY_AC PERS_DATA_EFFDT.ADDRESS1_AC PERS_DATA_EFFDT.ADDRESS2_AC DERIVED_GBL.POSTAL_BTN ADDR_POS_JPN_SEC
PERSONAL_DATA1 APP_PERSONAL_DATA1	PERSDTA_ACNAME_SEC	NAME_AC	
PYE_BANKACCT		ACCOUNT_NAME_AC	
SRC_BANK		ACCOUNT_NAME_AC	
STATE_NAMES_TBL	STATE_ACDESCR_SEC	DESCR_AC	
TRN_INSTRUCTR_TBL1	TRN_INS_ACNAME_SEC	NAME_AC	
NAMES	NAMES_ACPREFNM_SEC	NAME_AC	

フリガナ フィールドによるレコード検索

以下は、レコード内またはサブレコード内にフリガナ検索キー (NAME_AC) を持つ PeopleSoft Enterprise HRMS 検索レコードです。これらのレコードではフリガナの入力と表示が可能です。

- NAMES
- NAMES_SS_TMP
- NE_INCIDENT_SRCH
- NE_PERSONAL_DTA
- OPR_ROWS_EE
- OPR_ROWS_EE2
- PERSON_NAME
- PERS_SRCH_ALL
- PHYSICIAN_SRCH
- PHYSICIAN_SRCH2
- SHS_EMPL_TAO
- SHS_EXEMPT_TAO
- SSF_PERSON_VW
- SUCCESS_TR_SRCH
- TRN_DMNDDEE_SRCH
- TRN_INSTR_SRCH
- UPG_NAMES_TAO
- WCS_NAME_SCH_VW
- WF_PERSON_NAME
- WORKER_PROMPT

注: このリストには、ヒューマン リソース管理システム以外のレコードは含まれていません。

フリガナでソートする PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理レポート

以下は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で [氏名] フィールドまたは [フリガナ] フィールドでソートするレポートを、システムの基本言語とレポート言語の設定環境別に挙げたものです。

基本言語	レポート言語	レポート ソート順
英語	日本語	BASE.NAME_AC
日本語	日本語	BASE.NAME_AC
英語	英語	BASE.NAME
日本語	英語	BASE.NAME

SQR/Crystal レポート

以下の SQR/Crystal レポートでは、レポートの言語と基本言語の設定に基づいて、日本語がフリガナでソートされます。

レポート ID	説明
PER001	部門内人事通知
PER002	従業員の生年月日
PER004	緊急連絡先
PER005	休職中の従業員
PER007	臨時従業員
PER009	組合会員資格
PER011	社内技能のインベントリ
PER012	部門別給与
PER013	給与変更従業員
PER020	従業員の住所録
PER023	給与履歴
CMP003	給与等級と職務コードによる相対比率分析
CMP004	下限以下の給与分析
CMP005	上限以上の給与分析

注: このリストには、[氏名] でソートされる国別の法定レポートは含まれていません。

フリガナ機能のシステム設定

このセクションでは、PeopleSoft Enterprise HRMS のフリガナ機能の設定方法について説明します。

警告: PeopleSoft Enterprise HRMS で、全角文字の入力を可能にしフリガナ機能を導入するには、日本語対応のデータベースと全角文字対応のオペレーティング システムを使用する必要があります。この環境が整っていない場合、PeopleSoft Enterprise HRMS では [フリガナ] フィールドに全角文字を入力できません。

PeopleSoft Enterprise HRMS でフリガナ機能を設定するには、次の手順に従います。

1. “インストール テーブル” のフリガナ ページ (ALT_CHAR_TBL) で、フリガナ文字タイプを言語コードとリンクさせます。

この設定は、PeopleSoft Enterprise HRMS 全体のインストールに影響します。

2. “プライマリ権限リスト基本設定” のデフォルト ページ (OPR_DEF_TBL_HR) で、特定ユーザー ID に対し、[フリガナの使用] チェック ボックスをオンにします。

特定のユーザーのフリガナ機能をオンにすると、グローバル (GBL) メニューで関連するフリガナ フィールドを持つ各フィールドの右側に、フリガナ ボタンが表示されます。

このボタンをクリックするとページが開き、そのページでフィールド値のフリガナを入力または表示します。

フリガナ情報の入力

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、グローバル (GBL) メニューのページで、固有名詞 フィールド (氏名、市区町村、会社名など) のフリガナ フィールドにアクセスできます。固有名詞フィールドの右側にあるフリガナ ボタンをクリックすると、フリガナ フィールドが表示されます。

注: 氏名ページで国別フォーマットが “JPN” に設定されている場合、氏名フィールドとフリガナ フィールドがページに表示され、氏名ページで両方のフィールドに直接情報を入力できます。住所ページでは、フリガナ ボタンを押してフリガナ フォーマットにアクセスします。住所ページにフリガナ ボタンが表示されるかどうかは、特定のページで国別フォーマットが “JPN” に設定されているかどうかによります。

住所履歴ページ (ADDR_HISTORY_SEC) で [住所フリガナ] ボタンをクリックすると、次のようなフリガナ ページが開きます。ここで、市区町村などの固有名詞を所定のフリガナ タイプで入力します。

フリガナ

AC 住所 1

都道府県:	トウキョウト
AC 市区町村:	セキヤク
AC 住所 1:	サンケンヂヤ
AC 住所 2:	
AC 住所 3:	

フリガナ ページ

注: タイトル バーには、フリガナの入力に指定されているフリガナ タイプが表示されます。

フリガナ フィールドにフリガナ情報を入力した後、[OK] をクリックしてページを閉じると、フリガナ ボタンの表示が変更されます。これは主要ページの固有名詞にフリガナが入力されていることを示します。

フリガナを使ったレコード検索

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、従業員を検索してそのレコードを更新または追加するためのオプションがいくつかあります。日本語対応システムを使用していれば、検索条件として日本語名をフリガナで入力できます。

たとえば、カワモト ノリコという日本人従業員の個人データレコードを更新するには、カーソルを [フリガナ] フィールドに置き、“カワモト” と入力して [検索] をクリックします。検索レコード ページのリスト ボックスに、“カワモト” で始まる名前が全て 50 音順にソートされ、漢字と仮名の両方で表示されます。

注: 日本人以外のユーザーの場合、フリガナ フィールドの値は、基本フィールドの値と同じです。

第 9 章

通貨の設定と使い方

この章では、通貨の概要と以下の方法について説明します。

- 通貨設定レポートの実行
- 通貨桁数の設定
- 多通貨の表示
- 現在の為替レート計算に関する情報の表示

通貨について

組織がグローバルな環境で運営されると、人事管理業務もグローバルになります。このため、従業員の給与や還付額を複数の通貨で、場合によっては複数のレートタイプを使って追跡すると同時に、1つの通貨を参照用として使い、世界中で発生する経費を追跡することにより、その合計金額を把握できるようにしておく必要があります。

PeopleSoft における通貨を理解するには、以下の 2 段階のプロセスが必要です。

- まず、通貨コード、通貨タイプ、為替レート、および基本通貨の定義構造を理解する必要があります。これらは PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理全体に共通して使用されます。
- この情報が PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理でどのように使われるかを理解する必要があります。たとえば、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールには、アプリケーションに特有の広範な通貨機能があります。通貨に関するアプリケーション特有の問題の詳細については、そのアプリケーション用のドキュメンテーションを参照してください。

注: PeopleSoft アプリケーション全体に共通する通貨設定については、他の PeopleBook で説明しています。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook の「Defining Currencies and Market Rates」

通貨桁数の設定

このセクションでは、通貨桁数の概要と以下について説明します。

- 通貨桁数機能のアクティブ化

- 通貨桁数とレポート作成
- 通貨桁数拡張に伴うデータベースの拡張

通貨桁数について

国際標準化機構 (ISO) の規格では、通貨の小数点以下の桁数は 0 から 3 の範囲とされています。たとえば、アメリカドルでは小数点以下 2 桁まで表示されますが、日本円には小数点以下がありません。このように通貨によって異なる桁数をサポートするため、PeopleSoft の金額フィールドは整数 13 桁小数 2 桁 (13.2 と表記) が標準になっています。金額フィールドは、整数 15 桁小数 3 桁 (15.3) まで任意に拡張できます。同じレコードにコントロール通貨があり、これによって金額フィールドの表示や処理が調整されます。

PeopleSoft では、オンライン処理やバックグラウンド処理の実行中、金額フィールドは全てコントロール通貨の桁数に合わせて端数処理されます。たとえば、金額フィールドが整数 15 桁小数 3 桁となっているデータベースでは、端数処理の結果、日本円は 123.000 に、またアメリカドルは 123.230 のようになります。日本円の場合、小数点以下に 0 以外の数字は付きません。アメリカドルでは、小数点以下 3 桁目に 0 以外の数字は付きません。

PeopleSoft のオンライン ページでは、金額フィールドが各通貨に合った桁数で表示されます。たとえば日本円は 123、アメリカドルは 123.23 と表示されます。金額を入力する際、定義されている桁数を超えることはできません。桁数が定義数を超えると、オンライン エラー入力として処理されます。

PeopleCode プログラムとバックグラウンド処理では、金額フィールドは全てコントロール通貨の桁数に合わせて端数処理されます。

通貨桁数機能のアクティブ化

通貨桁数機能は PeopleTools のオプションです。このオプションをオンにすると、付随機能が全てアクティブになります。このオプションをオフにしておくと、金額フィールドはアプリケーション デザイナの定義どおりに表示され、小数点以下はアプリケーション デザイナの定義に合わせて端数処理されます。

PeopleTools 多通貨オプションをアクティブにするには、PeopleTools オプション ページ (PSOPTIONS) で [多通貨] チェック ボックスをオンにします。この設定をしておくと、コントロール通貨フィールドを指定した金額フィールドには、その通貨に対して通貨コード ページ (CURRENCY_CD_TABLE) で指定されている桁数が適用されます。PeopleSoft アプリケーションによっては、多通貨オプションがオンになっている状態で出荷されているものがあります。デフォルトの設定は変更することができます。

注: [多通貨] チェック ボックスをいったんオフにすると、再度オンにしても、既存トランザクションの金額は自動的に端数処理されません。[多通貨] チェック ボックスをオフにすると、PeopleSoft ではデフォルトの金額フィールド サイズである整数 13 桁小数 2 桁のみがサポートされます。それより大きなサイズである整数 15 桁小数 3 桁はサポートされません。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Administration Tools

通貨桁数とレポート作成

PeopleSoft の大半の SQR レポートでは、通貨金額を表示する際、該当通貨に設定された小数部桁数が使われます。たとえば、日本円の金額は 123、アメリカドルの金額は 123.23 のようにレポートに表示されます。

Crystal Reports と PS/nVision (Excel) でレポートを作成すると、金額は小数点以下 2 桁まで表示されます。これらのレポートで小数点以下 3 桁まで表示する場合は、レポートを変更する必要があります。

PeopleSoft のサードパーティのレポート作成ツールでは、15 桁を超える数値フィールドは完全にはサポートされていません。PS/nVision (Excel) では、数値フィールドに 8 バイトの浮動小数点が使われています。このため 15 桁より後は切り捨てられます。Crystal Reports では 16 桁まで正しく表示されます。数字が 17 桁以上になると、小数位に無意味な数字が自動挿入されます。ただし、桁数が極端に多くない限り、問題はありません。これらのどのレポート作成ツールでも、以下に示す金額までは正確に表示されます。

- 100 兆円または 100 兆イタリア リラ: 小数点以下の桁数 = 0
- 1 兆ドル: 小数点以下の桁数 = 2
- 1000 億ディナール: 小数点以下の桁数 = 3

たとえば、整数 15 桁小数 3 桁の数値データベースの金額フィールドに数字の 2 を続けて入力すると、各レポートでの表示は次のようになります。

桁数	Crystal Reports	PS/nVision (Excel)	SQR
16	2,222,222,222,222.222	2,222,222,222,222.220	2,222,222,222,222.222
17	22,222,222,222,222.219	22,222,222,222,222.200	22,222,222,222,222.220
18	222,222,222,222,222.188	222,222,222,222,222.000	222,222,222,222,222.200

通貨桁数拡張に伴うデータベースの拡張

PeopleSoft アプリケーションによっては、データベースの金額フィールドを整数 13 桁小数 2 桁から整数 15 桁小数 3 桁のサイズまで拡張できるものもあります。たとえば、PeopleSoft Enterprise Financials、Distribution、および Manufacturing の各アプリケーション ラインでは、整数 15 桁、小数 3 桁の拡張フィールド サイズがサポートされています。

データベースを拡張するには、次の手順に従います。

1. データベースのバックアップをとります（省略可）。

このステップは任意ですが、できるだけ実行するようにしてください。バックアップをとっておけば、これ以降の作業の途中でデータベースに整合性の問題が起きても、修復が可能です。

2. 検証スクリプトを実行します。

PeopleSoft プロセス スケジューラから DDDAudit と SYSAudit を実行し、データベースにエラーがないことを確認します。[PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[プロセス リクエスト] の順に選択して、[ラン コントロール ID] に値を入力し、[実行] をクリックします。使用環境のサーバー名を指定して、プロセス リストから DDDAUDIT（次に SYSAUDIT）を選択します。[OK] をクリックしてプロセスを実行します。

3. スクリプト出力を調べて、データベースにエラーがないことを確認します。

DDDAudit レポートと SYSAudit レポートを検索して特定したら、データベースにエラーがないことを確認します。

4. FSINTLFD.DMS を実行して、フィールド サイズの国際化対応テーブルにデータをロードします。

データベースにエラーがなくなったら、FSINTLFD.DMS スクリプトを実行して、フィールド サイズの国際化対応テーブル (INTL_FLDSIZ_TBL) にデータをロードします。データ マーバーを使って、このスクリプトを実行します。アプリケーション デザイナでコントロール通貨が設定されている金額フィールドは、全てフィールド サイズの国際化対応テーブルにロードされます。これによって、小数点の左側へ 2 桁、右側へ 1 桁拡張されます。フィールド サイズの国際化対応テーブルに新しいフィールドが追加される前に、そのテーブルから既存フィールドが全て削除されます。

5. “フィールド サイズの国際化” ページを使って、結果を確認します。

“フィールド サイズの国際化” ページを表示します。[国際化対応サイズ] の列では、ほとんどのフィールドについて整数 15 桁、小数 3 桁 (15.3) と表示されています。[現在のサイズ] と比較すると、[国際化対応サイズ] 列の方が小数点から左に 2 桁、右に 1 桁多くなっています。つまり、[現在のサイズ] フィールドの値が整数 13 桁、小数 2 桁 (13.2) であるのに対して、[国際化対応サイズ] の列は整数 15 桁、小数 3 桁 (15.3) になっています。

6. PeopleTools プロセス TLSINST1.SQR を実行して、PSDBFIELD のフィールド サイズを変更します。

注: この SQR は、アプリケーション エンジンでもあります。この SQR にアクセスするには、[PeopleTools]、[ユーティリティ]、[国際化対応]、[フィールド サイズ処理] の順にクリックします。

SQRW を使って SQR TLSINST1.SQR を実行し、PSDBFIELD PeopleTools テーブルのフィールド サイズを変更します。これで PeopleTools の定義値が変更されますが、データベースのフィールド サイズは変わりません。

平均サイズ、または最大サイズのフィールドを使ったページを全て一覧表示するレポート TLSINST1.LIS も作成されます。PeopleSoft Enterprise の標準として、金額フィールドが拡張されている場合は、金額フィールド全てにカスタムのフィールド サイズを採用し、フィールドが重複しないようになっています。ページのリストを見て、読みやすくなるように調整します。

7. SQR.LOG を調べて、エラーの有無を確認します。

SQR ログは、特に指定のない限り C:\TEMP に作成されます。ログを表示し、フィールドのサイズが整数 15 桁、小数 3 桁に変更されていることを確認します。フィールド サイズをランダムにチェックして結果を照合し、手順 5 に示した金額フィールドが含まれる各種レコードを開きます。プロジェクトの構築、テーブルの SQL Alter スクリプトの実行、ビューの作成、およびインデックスの作成などの作業を実行するときは、スクリプトの実行状態を注意深く監視し、エラー ログを確認してください。

8. 全てのテーブルに SQL Alter を実行します。

- a. アプリケーション デザイナで、[File (ファイル)]、[New (新規作成)]、[Project (プロジェクト)] の順に選択します。
- b. [File (ファイル)] の [Save Project As (プロジェクトに名前を付けて保存)] を選択します。
- c. プロジェクト名に “CURR_TBL” と入力して保存します。
- d. [Insert (挿入)] の [Definitions into Project (定義をプロジェクトに挿入)] を選択します。
- e. [Definition Type (定義タイプ)] に [Records (レコード)]、[Type (タイプ)] には [Table (テーブル)] をそれぞれ選択します。
- f. [Insert (挿入)] ボタンをクリックすると、[Record Name (レコード名)] に値が表示されます。ロードされるテーブルの一覧が表示されます。
- g. [Select All (全て選択)] をクリックして、[Insert (挿入)] を再度クリックします。[Close (閉じる)] をクリックしてページを閉じます。
- h. [Build (ビルド)] の [Project (プロジェクト)] を選択します。
- i. [Build Options (ビルドオプション)] グループ ボックスの [Create Indexes (インデックスの作成)] と [Alter Tables (テーブルの変更)] をオンにします。

- j. [Build Execute Options (ビルド実行オプション)] の [Build script file (スクリプトファイルの作成)] がオンになっていることを確認します。
 - k. データベース管理者 (DBA) と共にスクリプトファイルを確認し、最適な SQL クエリー ツールを使って実行します。
9. SQL Create を使用して、全てのビューを作成します。
- a. アプリケーション デザイナで、[File (ファイル)]、[New (新規作成)]、[Project (プロジェクト)] の順に選択します。
 - b. [File (ファイル)] の [Save Project As (プロジェクトに名前を付けて保存)] を選択します。プロジェクト名を "CURR_VW" と入力して保存します。
 - c. [Insert (挿入)] の [Definitions into Project (定義をプロジェクトに挿入)] を選択します。[Definition Type (定義タイプ)] に [Records (レコード)]、[Type (タイプ)] には [View/QueryView (ビュー/クエリービュー)] をそれぞれ選択します。
 - d. [Insert (挿入)] ボタンをクリックし、次に [Select All (全て選択)] ボタンをクリックします。
 - e. [Insert (挿入)] ボタンを再度クリックし、[Close (閉じる)] ボタンをクリックしてページを閉じます。
 - f. [Build (ビルド)] の [Project (プロジェクト)] を選択します。
 - g. [Build Options (ビルドオプション)] グループ ボックスで [Create Views (ビューの作成)] をオンにします。
 - h. [Build Execute Options (ビルド実行オプション)] の [Build script file (スクリプトファイルの作成)] をオンにします。
 - i. データベース管理責任者 (DBA) と共同でスクリプトファイルを確認し、最適な SQL クエリー ツールを使って実行します。
10. 検証スクリプトを再実行します。
- DDDAudit と SYSAudit を再実行して、データベースにエラーがないことを確認します。
11. レポートを手動で変更します。
- PeopleSoft のほとんどの SQR レポートでは、金額フィールドが整数 15 桁、小数 3 桁に拡張されています。ただし、スペースが足りないため、整数 13 桁、小数 2 桁のままになっているレポートもあります。小数の最後の桁が重要であれば、SQR を更新して整数 12 桁、小数 3 桁の設定にして小数点以下 3 桁がレポートに表示されるようにしてください。以下は、小数点第 3 位を表示するために手動変更が必要なレポートのアプリケーション別リストです。

一般会計	GLS1001、GLS1003、GLS7000、GLS7009、GLS7010、GLS7012
売掛金管理	AR30001 (9.2)、AR30002 (9.2)、AR30003 (9.2)、AR30004 (12.2)

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Global Technology

多通貨の表示

“他の通貨で表示” ページを開くには、多通貨をサポートするページで [他の通貨で表示] ボタンをクリックします。

ある通貨で金額が表示されているページの多くは、別の通貨を使って表示することもできます。これは PeopleSoft の欧州通貨統合 (EMU) サポートの統合機能で、これによりシステムでサポートされている全ての通貨の換算金額を表示できます。

現在の為替レート計算に関する情報の表示

為替レート詳細ページには、現在と過去の為替レート、また換算に使った換算元通貨、換算先通貨、および為替レートが表示されます。[戻る] をクリックすると、[他の通貨で表示] ページに戻ります。

通貨設定レポートの実行

このセクションでは、通貨設定レポートの実行に使用するページについて説明します。

通貨設定レポートの実行に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
通貨レートレポート-ランコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[通貨・市場レート]、[通貨レートレポート]、[ランコントロール]	このページを使用して、通貨レートテーブルレポート (PER714) を実行します。このレポートには、為替レートについての情報が出力されます。
通貨コードテーブル-ランコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[通貨・市場レート]、[通貨コードテーブル]、[ランコントロール]	このページを使用して、通貨コードテーブルレポート (PER713) を実行します。このレポートには、通貨コードテーブルで定義した各通貨についての情報が出力されます。

第 10 章

周期の設定と使い方

この章では、周期 ID、給与換算の周期、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールにおける周期の概要、および周期 ID と国別デフォルトの定義方法について説明します。

周期 ID について

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 周期 ID
- 給与レートでの周期の使い方
- 給与計算での周期の使い方

周期 ID

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理、グローバル ペイロール、Payroll for North America のアプリケーションでは、周期 ID が使用されています。周期 ID は、周期テーブル コンポーネント (FREQUENCY_TBL) で定義します。各周期 ID には、周期タイプと、1 年間にその期間が生じる回数を示す年次化係数を設定します。

PeopleSoft Enterprise HRMS では周期 ID を使用して、給与計算、標準勤務時間の完了、および給与の支給などの処理を行う周期を定義します。

PeopleSoft には、標準周期セットが用意されています。ユーザーは、ユーザー独自で管理する非標準周期を追加定義できます。たとえば、周期タイプを“月次”、非標準年次化係数を“13”として定義して、1 年間で 13 の月次周期を持つ周期 ID を定義できます。

PeopleSoft の標準周期

PeopleSoft では、周期テーブル コンポーネントに以下の周期 ID が標準で設定されています。

周期 ID	名称	周期タイプ	年次化係数
A	年次	年次	1
B	隔週	隔週	26
BMX30	隔週 - メキシコ - 係数 30.0	隔週	25.7142857

周期 ID	名称	周期タイプ	年次化係数
BMX34	隔週 - メキシコ - 係数 30.4	隔週	26.0571428
C	契約	契約	1
D	日次	日次	260
D365	Diario 365 dias	日次	365
D426	日次 - 14 - 支給	日次	426
DMX30	日次 - メキシコ - 係数 30.0	日次	360
DMX34	日次 - メキシコ - 係数 30.4	日次	364.8
F	4 週 毎	4 週 毎	13
H	時間 毎	時間 毎	年次化で標準勤務時間 を使用
HMX30	Hourly Mexico Factor 30.0	時間 毎	2880
HMX34	Hourly Mexico Factor 30.4	時間 毎	2918.4008
JM	月次 - 日本	月次	12
M	月次	月次	12
M13	月次 - 13 - 支給	月次	13
M14	月次 - 14 - 支給	月次	14
Q	四半期 毎	四半期 毎	4
S	半月 毎	半月 毎	24

周期 ID	名称	周期タイプ	年次化係数
SMX34	Semimonthly Mexico Factor 30.4	半月毎	24.32
W	週次	週次	52
WMX30	週次 - メキシコ - 係数 30.0	週次	51.4285714
WMX34	週次 - メキシコ - 係数 30.4	週次	52.1142857

給与レートでの周期の使い方

給与レートに周期を関連付けて、給与の基準となる期間を定義します。たとえば、年次周期を使って従業員の基本給与を年間 60,000 ドルに設定したり、月次周期を使って月間 5,000 ドルに設定したりします。この給与レートを職務、ポジション、給与ステップ、または各職務レコードに関連付けると、その周期に関連付けられた年次化係数を使用して、給与が他の周期に換算されます。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システムを設定する際、複数のレベルでデフォルトの給与周期を定義できます。このデフォルト値はいろいろなページにロードされますが、通常はそのページで値を変更できます。

次の表に、給与周期の指定または使用の際に重要なページを示します。

コンポーネントまたはページ	デフォルト給与周期値
デフォルト周期ページ (DFLT_FREQUENCY)	国別デフォルト周期を定義し、“職務データ” の給与データページの [給与レート] グループボックスに表示される固定的賃金のレートの順序を指定します。
職務データ (JOB_DATA) の給与データページ (JOB_DATA3)	デフォルト周期ページで国別に指定した周期で固定的賃金情報が表示されます。
インストール テーブル (INSTALLATION_TBL) の HRMS オプション ページ (INSTALLATION_TBL1B)	デフォルトの給与周期と勤務周期を設定します。ここで設定されたデフォルト値は、[職務コードテーブル] に自動入力されます。
職務コードテーブル (JOB_CODE_TBL) の職務コードプロファイル ページ (JOB_CODE_TBL1_GBL)	[インストール テーブル] で設定した給与周期と標準勤務周期が、デフォルト値として使用されます。

コンポーネントまたはページ	デフォルト給与周期値
給与レートコードテーブルコンポーネント (COMP_RATECD_TBL)	給与レートコードページで、給与レート周期を指定します。PeopleSoft Enterprise HRMS のさまざまなページで表示される [給与コンポーネント] グループボックスで、給与レートコードを選択すると、このデフォルト値が自動的に入力されます。 また、給与レートコードに関連付けられた給与に、FTE (常勤換算) を適用すべきかどうかを、このページで指定することもできます。
給与プランコンポーネント (SALARY_PLAN_TABLE)	給与ステップに割り当てられた支給コンポーネントのデフォルト周期を指定します。
支給グループテーブルコンポーネント (PAYGROUP_TABLE)	支給グループの日次および月次の周期を指定します。この周期情報に従って給与レートが計算されます。

関連項目:

[第 13 章、「職務の設定」、「職務の分類」、285 ページ](#)

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 報酬管理、「報酬管理の設定」、「給与レートコードの設定」

給与計算での周期の使い方

グローバル ペイロールおよび Payroll for North America では、周期を使用して特定のイベントが発生する頻度を定義します。

グローバル ペイロールでは、エレメント、ジェネレーション コントロール パラメータ、カレンダー期間、レートコード エレメント、およびシステム エレメントを定義する際に、周期 ID を使用します。周期テーブルページで定義された周期に加えて、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、「ジェネレーション コントロール周期」 (GP_GCTL_FREQUENCY) で定義された周期も使用されます。

Payroll for North America では、周期 ID を使用して、支給期間周期の定義および給与レートと給与の比例配分の計算を行います。

関連項目:

[第 10 章、「周期の設定と使い方」、「グローバル ペイロールにおける周期について」、203 ページ](#)

給与レート換算での周期について

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 給与レートへの係数の適用
- 給与レートの他の周期への換算
- 職務データ給与レート周期

給与レートへの係数の適用

PeopleSoft Enterprise HRMS では、2 つの標準的な周期換算の計算式を使って、時間、日次、週次、月次、その他の周期で給与レートを計算および表示します。換算される周期によって、以下の係数を 1 つ以上、給与レートに適用することで計算が実行されます。

- 給与周期年次化係数
- 職務標準勤務時間
- 標準勤務周期の年次化係数
- FTE（常勤換算）係数

周期年次化係数

各周期 ID には、1 年間にその期間が生じる回数を表す年次化係数が設定されています。

参照: 第 10 章、「周期の設定と使い方」、「周期 ID」、195 ページ

標準勤務時間と標準勤務周期

時間給与レートを換算する際に、職務の標準勤務時間と標準勤務周期を使用して計算が行われます。職務の標準勤務時間では、従業員に義務付けられる勤務時間を定義します。標準勤務周期では、標準勤務時間を完了するための勤務周期を定義します。周期テーブル コンポーネントで定義した周期 ID（およびその年次化係数）を選択することで、標準勤務周期を定義します。

標準勤務時間と標準勤務周期は、以下のページで定義します。

コンポーネント	ページ	割り当てレベル
インストール テーブル	HRMS オプション	ユーザー組織
プライマリ権限リスト基本設定 (OPR_DEF_TBL_HR)	設定 (OPR_DEF_TBL_HR2)	プライマリ権限リスト
ポジション データ (POSITION_DATA)	ポジション情報 (POSITION_DATA1)	ポジション
給与プラン	給与プラン テーブル (SALARY_PLAN_TABLE)	給与プラン
職務コード	職務コード プロファイル	職務コード
職務データ	職務情報 (JOB_DATA_JOB_CODE)	従業員
新規人材募集の作成 (HRS_JOB_OPENING)	人材募集 (HRS_JOB_OPENING)	採用管理アプリケーション

BU オプション デフォルト ページ (BUS_UNIT_OPT_HR) で定義した標準勤務時間下限、標準勤務時間上限、および標準勤務周期が、“職務データ”と“ポジション データ”の各コンポーネントで確認編集に使用されます。

標準勤務時間と標準勤務周期のデフォルト

標準勤務時間と標準勤務周期の両方が定義されていれば、それらの値はデフォルト情報として自動挿入されます。以下に、指定された条件において職務データで使われるデフォルトのソースを示します。

条件	デフォルト ソース
従業員に給与プランを割り当てた場合	給与プランテーブル ページ
従業員にポジションを割り当てた場合	“ポジション データ” のポジション情報ページ
従業員に職務コードを割り当てた場合	“職務コード テーブル” の職務コード プロファイル ページ
給与プラン テーブル、職務コード テーブル、またはポ ジション データ テーブルで標準勤務時間を指定して いない場合	“インストール テーブル” の HRMS オプション ページ

常勤換算

FTE（常勤換算）とは、その従業員の通常の勤務時間を、常勤従業員の勤務時間に対するパーセント値で表わしたものです。FTE の計算には、ユーザーが定義した標準勤務時間と標準勤務周期が使用されます。

給与コンポーネントで [FTE 適用] を指定すると、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、標準勤務時間および勤務周期を使って FTE が計算され、パートタイムと時間給の従業員に対して、休日勤務時間および支給額が比例配分計算によって算出されます。

注: (FRA) フランスの法定区域に属している従業員については、PAID_FTE フィールドを使ってパートタイム時間給従業員の休日勤務時間および支給額が比例配分計算されます。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、次の方程式を使って FTE を計算します。

$$FTE = \frac{(\text{職務標準勤務時間}) \times (\text{職務標準勤務周期の年次化係数})}{\left\{ \begin{array}{c} \text{デフォルトの} \\ \text{常勤標準勤務時間} \end{array} \right\} \times \left\{ \begin{array}{c} \text{デフォルトの常勤標準} \\ \text{勤務周期の年次化係数} \end{array} \right\}}$$

FTE の方程式

デフォルト常勤標準勤務時間およびデフォルト常勤標準勤務周期のソースは以下のとおりです。

- 給与プラン テーブル（給与プランが従業員に設定されており、標準勤務時間と勤務周期の両方がこの給与プランに定義されている場合）
- プライマリ権限リスト基本設定テーブル（給与プランが従業員に設定されておらず、標準勤務時間と勤務周期の両方がプライマリ権限リスト基本設定テーブルで定義されている場合）

給与レートの他の周期への換算

給与レートは、標準の計算式によって、日次、月次などの周期に自動換算されます。時間給与との換算を行う計算式では、標準勤務時間と標準勤務周期が考慮されます。

給与レートの換算は、次の手順で行われます。

1. 従業員の給与の年間レートが算出されます。

2. 非年次化換算計算式を使った年間レートの除算によって、目的の周期でレートが算出されます。
3. 給与コンポーネントの「FTE 適用」が選択されている場合は、換算された給与レートと FTE 係数との乗算が実行されます。

注: (FRA) フランスの法定区域に所属する従業員の場合は、換算した給与レートに掛ける数字として PAID_FTE が使われます。

レートの年次化の計算

給与レートの年次周期への換算には、以下の計算式が使われます。

元の周期	年次周期への換算に使用する計算式
時間毎	年間給与 = 給与レート × 職務標準勤務時間 × 標準勤務周期の周期年次化係数
月次、日次、その他	年間給与 = 給与レート × 周期年次化係数

レートの非年次化の計算

給与レートの年次周期から他の周期への換算には、以下の計算式が使われます。

年次以外の周期	年次周期からの換算に使用する計算式
時間毎	時間給 = 給与レート / (職務標準勤務時間 × 標準勤務周期の周期年次化係数)
月次、日次、その他	年間給与以外の給与 = 給与レート / 周期年次化係数

上記の計算式の使用例を示します。

時間毎から月次への給与レート換算例

Teresa Johnson には、以下の職務データ情報があります。

職務データの変数	値
給与レート(時間給与)	10
職務標準勤務時間	35
標準勤務周期の周期年次化係数	52
月次の周期年次化係数	12

次の表では、Teresa Johnson の月間 FTE 給与レートの計算方法を示します。結果は、1 週間の勤務時間が 35 時間、1 年間で 52 週とした場合の、Teresa の月間給与を表します。

レート	計算式
年次	$10 \times 35 \times 52 = 18,200$
月次	年次化給与レート / 月次の周期年次化係数 $18,200 / 12 = 1516.67$

月次から隔週への給与レート換算例

Bill McKenny には、以下の職務データ情報があります。

職務データの変数	値
給与レート(月次)	2000
月次の周期年次化係数	12
隔週の周期年次化係数	26
[FTE 適用]の選択	オン
FTE 係数	0.95

次の表は、Bill McKenny の隔週給与レートの計算方法を示しています。

レート	計算式
年次	給与レート × 月次の周期年次化係数 $2000 \times 12 = 24,000$
非年次化レート	年次化給与レート / 隔週の周期年次化係数 $24,000 / 26 = 923.08$
FTE で乗算	$923.08 \times 0.95 = 876.85$

職務データ給与レート周期

国別のデフォルト周期は、“職務データ”の給与データ ページにある [給与レート] グループ ボックス内の給与レートの計算と表示に使用されます。デフォルト周期テーブルで従業員の国に関連付けられた周期が検索されます。このテーブルで周期をリストした順序で、[給与レート] グループ ボックス内の給与レートが表示されます。この章で前述した標準計算式を使って、給与レートがデフォルト周期に換算されます。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールおよび PeopleSoft Enterprise Payroll for North America では、支給グループに設定された周期を使用して日次と月次の給与レートが計算されるため、“職務データ”の給与データ ページに表示される給与レートがそれらのレートと異なる可能性があります。これは、その支給グループの日次または月次の周期が、デフォルト周期ページで国別に指定した日次または月次の周期と異なる場合に発生します。できるだけ、各国のデフォルト周期と一致する支給グループの周期を設定することをお勧めします。

支給グループ周期で計算された給与レートは、JOB.ANNUAL_RT、JOB.MONTHLY_RT、JOB.DAILY_RT、および JOB.HOURLY_RT フィールドの JOB レコードで使用されます。これらのフィールドは、人事異動サマリ ページおよび PS クエリーで参照できます。

関連項目:

第 10 章、「周期の設定と使い方」、「国別周期デフォルトの設定」、209ページ

グローバル ペイロールにおける周期について

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、エレメント、ジェネレーション コントロール パラメータ、カレンダー期間、レート コード エレメント、およびシステム エレメントを定義する際に、周期が使用されます。周期テーブル ページで定義された周期に加えて、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、ジェネレーション コントロール周期コンポーネントに定義された周期も使用されます。

ここでは、以下の項目について説明します。

- エレメント定義での周期の使い方
- ジェネレーション コントロールと周期の使い方
- カレンダー期間と周期の使い方
- レート コードとシステム エレメントでの周期の使い方

エレメント定義での周期の使い方

エレメントは、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールの最小コンポーネントで、給与計算を処理するための計算ルールの定義に使用されます。エレメントには、支給額（支給エレメント）、支給から控除される額（控除エレメント）、または業務から離れている時間（休暇欠勤エレメント）などが保持されます。

支給、控除、休暇欠勤などのエレメントは、独立して扱うことができます。一方、サポート エレメント（レートコードや端数処理ルールなど）は、他のエレメントと共に使用され、計算ルールを定義します。各エレメントは、一度定義すれば繰り返し使用できます。

支給、控除、休暇欠勤のいずれのエレメントに対しても、一定の金額や休暇日数に対する周期を指定する必要があります。周期に関連付ける各アイテムに対し、全体の処理プランにおいて周期がどのように機能するのかを考慮する必要があります。支給、控除、および休暇欠勤のエレメントに正しい周期を選択することは、処理を正確に行うために必要不可欠です。以下に例を示します。

支給エレメント	一定金額の支給周期を指定します。週次、月次、年次などです。
控除エレメント	一定金額が源泉徴収される周期を指定します。たとえば、支給期間ごと、月次、またはその年全体などです。
休暇欠勤エレメント	従業員に休暇が付与される周期を指定します。たとえば、月間 3 日、年間 3 日などです。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、支給、控除、休暇欠勤などのエレメント定義の際に、周期が使用されます。

支給エレメントの定義を例に説明します。この処理は、支給、控除、休暇欠勤の各エレメントに共通です。

“支給” の計算ページ (GP_ERN_DED_CALC) で、支給エレメントの計算ルール、周期、およびジェネレーション コントロールを定義します。

参照: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook、「支給エレメントおよび控除エレメントの定義」、「支給エレメントの計算ルールの定義」

計算ルールを選択したら、次にそのルールの各コンポーネントの詳細を定義する必要があります。たとえば、計算ルールに [金額] を選択した場合、支給エレメントの金額を指定します。

次の表に、周期変換が実行される計算ルールとコンポーネントを示します。

計算ルール	コンポーネント
金額	金額 (必要に応じて)
レート × ユニット	ユニット
レート × ユニット × パーセント	ユニット
ベース × パーセント	ベース

この支給エレメントが支給される周期を定義します。[カレンダー期間の周期を使用] を選択すると、期間ページ (GP_CALENDAR_PERIOD) でカレンダー期間に対して定義されている周期が使用されます。[指定の周期を使用] を選択すると、“支給” の計算ページで、周期のリストから直接周期を選択して定義できます。

参照: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook、「カレンダーの使い方」、「期間の作成」

[周期] フィールドの使用により、エレメントの値に対応する周期を指定できます。たとえば、週次の給与計算を行っており、[指定の周期を使用] を選択して、金額が 100 で周期が [月次] の支給エレメントを作成したとします。ジェネレーション コントロールの条件を定義していない場合、金額は年次化および非年次化されて、処理周期の金額になります。ここでは月次の周期に 12、週次の周期に 52 という年次化係数を組織で定義しているとします。システムでは、月間の金額である 100 が年次化され 1200 になります。次に、この年次化された金額が非年次化され、給与計算の処理周期 (この例では週次) に変換されます。各支給期間の支給額は、次のとおりです。

$$1200 / 52 = 23.08$$

周期を定義する利点は、組織が複数の支給周期 (週次、半月、月次など) を使用する場合に、各周期に対して別々の支給エレメントを作成しなくて済むことです。支給金額は、各支給周期に対応する支給期間の金額に自動換算されます。たとえば、年間賞与 1000 を全ての受給者に支給することが決まり、1 年間かけてこの賞与を分割支給するとします。時間給の受給者は週単位で、その他の給与受給者は月単位で支給を受けます。支給賞与を BON = 1000 と定義し年次の周期を設定すると、年次化と非年次化を通じて、この支給定義を週単位で支給される受給者と月単位で支給される受給者の両方に適用できます。“支給” の計算ページで割り当てられた周期に基づいて、支給周期に関係なく賞与額が正確に算出されます。

注: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、雇用形態（従業員、非従業員、または関係者）による区別はありません。給与計算処理は、全ての雇用形態に対して行われるので、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールのドキュメンテーションでは、全て“受給者”と呼ばれています。

ジェネレーション コントロールと周期の使い方

支給期間の周期は、システムにハードコードされていません。その代わりに、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、ヒューマン リソース管理の周期テーブル コンポーネントを使って、周期の計算方法が決定されます。たとえば、月次の周期に 12、週次の周期に 52 という年次化係数が定義されているとします。周期テーブル ページで定義されたこれらの周期は、システム内のどこでも簡単に使用することができます。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、“ジェネレーション コントロール周期”という追加のジェネレーション コントロール概念が用意されており、特定の支給または控除が変換される支給期間の制御（たとえば月の最初の支給期間のみ、など）に使用できます。ジェネレーション コントロール周期によって、意味のある名前を定義して、正しい周期 ID と支給期間を関連付けることができます。

ヒューマン リソース管理の周期テーブルに存在しない周期の例として、“月 - 第 1 週”があります。給与周期が週次であっても、月の最初の支給期間にのみ支給される支給エレメントが必要だとします。この場合、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、周期は月次になります。しかし、これでは目的に合った給与計算処理は行われません。そこで、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、この支給エレメントは“月 - 第 1 週”として定義（タグ付け）され、月の最初の支給期間にのみ支給が行われるように定義されます。

ジェネレーション コントロール周期コンポーネントは、ジェネレーション コントロールの周期処理の一部です。

ジェネレーション コントロールを使えば、エレメントを処理する際に、システムに多様なコントロール方法を認識させることができます。たとえば、支給エレメントが月の最初の支給期間のみ（週単位の給与計算）に支給される場合、給与計算処理を制御して、この支給が週 1 にだけ支給され、その月の残りの週の給与計算では支給されないようにすることができます。

- まず、“ジェネレーション コントロール”の条件ページ (GP_GCTL_CONDITION) で、ジェネレーション コントロール ID の各パラメータを定義します。

参照: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook、「計算エレメントの定義」、「ジェネレーション コントロール エレメント名の定義」

- 次に、支給エレメントを定義する際に、“支給”の計算ページで、ジェネレーション コントロール名を選択してこのテーブルを検索します。
- この方法では、各支給エレメントのパラメータを個別に再定義する必要はありません。

“支給”の計算ページで、[ジェネレーション コントロール] フィールドを空白にすると、受給者の通常の資格ルールに基づいて毎回、支給が実施されます。

注: [カレンダー期間の周期を使用] 以外の周期を選択すると、支給期間の周期を基に、支給額の非年次化が行われます。ジェネレーション コントロール周期が存在する場合は、ジェネレーション コントロールの周期に基づいて支給額の非年次化が行われます。周期換算時には、支給期間の周期はジェネレーション コントロールの周期によって上書きされます。たとえば、ある支給エレメントの金額が 1200、周期が年次、支給期間が月次であるとして、月次周期の年次化係数が 12 と定義されており、この支給に対してジェネレーション コントロール周期が指定されていない場合、支給金額は月あたり 100 に非年次化されます ($1200/12 = 100$)。この支給エレメントに対するジェネレーション コントロール周期が指定されている場合は、金額は異なります。たとえば、ジェネレーション コントロール周期が [四半期] と定義されているとします。この場合、支給は 300 に非年次化されます ($1200/4 = 300$)。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、[月 - 第 1 週]、[年次]、[1 月]、および [四半期] という 4 つの定義済みジェネレーション コントロール周期が用意されています。これらのジェネレーション コントロール周期は全て、対応するジェネレーション コントロール エLEMENTで使用できます。

カレンダー期間と周期の使い方

処理対象の周期を定義する際は、周期と共にカレンダー期間を使用します。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、給与計算や休暇欠勤の処理を実行する場合、計算対象期間を指定する必要があります。これは通常、支給期間と呼ばれます。期間ページで期間 ID を設定することによって、期間の選択条件を定義します。

参照: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook、「カレンダーの使い方」、「期間の作成」

各期間 ID に対しては、支給期間の開始日、終了日、および周期を定義します。この定義は支給カレンダーから切り離されているため、繰り返し使用でき、非常に柔軟に処理を行うことができます。

期間 ID で定義できる時間と周期データの例を以下に示します。

開始日	終了日	周期
6 月 1 日	6 月 7 日	週次
6 月 1 日	6 月 30 日	月次
6 月 1 日	6 月 15 日	半月毎
6 月 1 日	8 月 31 日	四半期毎

期間ページでは、支給、控除、または休暇欠勤のエLEMENTにジェネレーション コントロールの周期が指定されていない場合に非年次化に使用される周期を定義します。ただし、ジェネレーション コントロールの周期が支給、控除、または休暇欠勤のエLEMENT定義に含まれ、ELEMENTのジェネレーション コントロールとカレンダー ID のジェネレーション コントロールが一致する場合には、このジェネレーション コントロールの周期に基づいて非年次化係数が特定されます。

周期の例

次の表に、周期の例をいくつか示します。

周期	ELEMENT 1	ELEMENT 2a	ELEMENT 2b	ELEMENT 3
金額	1,200	1,200	1,200	1,200
周期 (ELEMENT 定義)	月次 (12)	月次 (12)	月次 (12)	月次 (12)

周期	エレメント 1	エレメント 2a	エレメント 2b	エレメント 3
ジェネレーションコントロール周期	なし	月次 (12)	月次 (12)	半月 (24)
支給期間の周期	半月 (24)	半月 (24)	半月 (24)	半月 (24)*
カレンダーのジェネレーションコントロール周期	なし	月次 (12)	なし	半月 (24)*
計算金額	600	1200	処理なし	600

周期が支給期間の周期と一致する場合には、関連する周期を指定する必要はありません。

参照: 第 10 章、「周期の設定と使い方」、「職務データ給与レート周期」、202ページ

レートコードとシステム エレメントでの周期の使い方

レートコード、または周期によって管理されるシステム エレメントを使用する支給または控除エレメントを定義する際は、その支給または控除エレメントには常に「カレンダー期間の周期を使用」の周期を指定する必要があります。システム エレメントは、PeopleSoft によって提供および管理されます。

周期によって管理されるシステム エレメントは、エレメント設定の際に指定された周期に従って、給与計算処理のカレンダー周期の部分で処理されます。次に、カレンダー周期によって非年次化が行われます。

周期 ID と国別デフォルトの定義

周期 ID と国別デフォルトを定義するには、周期テーブル コンポーネント (FREQUENCY_TBL) と 国別デフォルト周期コンポーネント (DFLT_FREQUENCY) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 周期 ID、周期タイプ、および年次化係数の定義
- 国別周期デフォルトの設定

周期 ID と国別デフォルトの定義に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
周期テーブル	FREQUENCY_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[報酬ルール設定]、[周期テーブル]	周期 ID、周期タイプ、年次化係数などを定義します。
デフォルト周期	DFLT_FREQUENCY	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[報酬ルール設定]、[国別デフォルト周期]、[デフォルト周期]	国別デフォルト周期を指定します。

周期 ID、周期タイプ、および年次化係数の定義

周期テーブル ページにアクセスします。

周期テーブル

周期 ID: D

周期情報

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

有効日: 1900/01/01

ステータス: アクティブ

名称: 日次

略称: 日次

管理責任: P PeopleSoft

周期タイプ: 日次

☐ 年次化で標準勤務時間を使用

周期年次化係数: 260.00000000

周期テーブル ページ

[管理責任]

管理責任を選択します。有効値は以下のとおりです。

- C (顧客): ユーザーが周期 ID を定義する場合にはこの値を選択します。ユーザーがこの周期コードの更新管理の責任を負います。
- P (PeopleSoft): PeopleSoft が周期を定義し、その更新管理の責任を負います。この値が選択されている場合、このページの他のフィールドは無効になります。

[周期タイプ]

周期タイプを選択します。有効値は以下のとおりです。

- [年次]
- [隔週]

- [契約]
- [日次]
- [4 週]
- [時間]: この値を選択すると、[年次化で標準勤務時間を使用] チェックボックスが選択可能になります。
- [月次]
- [四半期]
- [半月]
- [週次]

[年次化で標準勤務時間を使用]

このチェック ボックスをオンにすると、周期年次化係数ではなく職務の標準勤務時間を使って年次化が行われます。この場合、周期年次化係数には 0 (ゼロ) が設定され、フィールドには入力できなくなります。

注: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America、および PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、標準勤務時間を使って給与および支給周期の年次化を行う [時間] の周期タイプのみ使用できます。

[周期年次化係数]

1 年間に周期が生じる回数を定義します。

例:

- 給与周期が日次で、年間の勤務日数が 260 日なら、値は 260 になります。
- W53 という名称の周期に [週次] の周期タイプ、および年次化係数 53 を定義することができます。

重要: 既存の周期の有効ステータス、周期タイプ、年次化係数などを変更すると、その周期を使用した過去の計算値には新しい値が反映されないことを警告するメッセージが表示されます。

国別周期デフォルトの設定

デフォルト周期ページにアクセスします。

デフォルト周期

国:

CAN

カナダ

職務データに表示する周期

第 1 周期:

A

年次

第 2 周期:

M

月次

第 3 周期:

D

日次

第 4 周期:

H

時間毎

デフォルト周期ページ

指定した国のデフォルト値として設定する 4 つの周期を選択します。この 4 つのデフォルト周期は、“職務データ”の給与データ ページにある [給与レート] グループ ボックス内で表示される給与レートの計算に使用されます。このページで周期をリストした順番で、[給与レート] グループ ボックス内の給与レートが表示されます。

たとえば、[国] に CAN (カナダ) を指定して、[第 1 周期]に A (年次)、[第 2 周期]に M (月次)、[第 3 周期]に D (日次)、[第 4 周期]に H (時間毎) を指定します。次に、職務データ コンポーネントでカナダの従業員を選択すると、[給与レート] グループ ボックス内には、年次、月次、日次、時間毎の順に給与レートが表示されます。この章で前述した標準計算式を使って、給与レートがデフォルト周期に換算されます。

関連項目:

第 10 章、「周期の設定と使い方」、「職務データ給与レート周期」、202 ページ

第 11 章

組織構造基本テーブルの設定

この章では、以下の方法について説明します。

- 関係者タイプの設定
- 休日スケジュールの設定
- ビジネス ユニットの定義
- 会社情報の入力
- 法人タイプの定義
- 事業所の定義
- 所在地の設定
- 軍の所在地の設定
- 会社所在地の設定
- 部門の管理
- プライマリ権限リストの基本設定

関係者タイプの設定

関係者タイプを設定するには、関係者タイプ コンポーネント (POL_TYPE_TBL) を使用します。

このセクションでは、関係者タイプの概要、および新規の関係者タイプの設定方法と標準設定の関係者タイプをアクティブにする方法について説明します。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用形態、雇用レコード番号、および複数雇用レコードについて」、「雇用形態」

関係者タイプについて

PeopleSoft では、従業員ではないがその組織に関係している“関係者”の情報を追跡することができます。組織内の異なる領域で、複数の関係者タイプが使用されます。たとえば、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは“グローバル ペイロール受給者”関係者タイプが使用され、PeopleSoft Enterprise 採用管理ソリューションおよび PeopleSoft Enterprise Campus Solutions では、採用の前に研修が必要な応募者に対して“外部研修生”関係者タイプが使用されます。

以下の 3 つのコンポーネントで関係者タイプを選択します。

- 個人情報の追加コンポーネント (PERSONAL_DATA_ADD)

- 職務データ コンポーネント (JOB_DATA)
- 雇用情報サマリ コンポーネント (PERSON_ORG_SUMM)

汎用コンポーネントは [人事・労務管理] メニューに含まれますが、上記のコンポーネントは、異なるアプリケーション メニューでも使用されます。関係者タイプの設定または変更を行う際に、その関係者タイプを選択できるコンポーネントをメニュー別に限定できます。たとえば、採用管理メニューのコンポーネントのみで使用される“新規採用者” 関係者タイプを作成したり、Pension Administration (年金管理) のメニューでのみオプションとして取得される“年金受給者” 関係者タイプを人事・労務管理メニューでも使用したりすることができます。

関係者タイプの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
関係者タイプテーブル	POI_TYPE_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[関係者タイプ]、[関係者タイプテーブル]	使用される関係者タイプの確認、およびその関係者タイプで関係者情報が処理される際の管理特性の変更を行います。

関係者タイプの定義

関係者タイプ テーブル ページにアクセスします。

関係者タイプ テーブル	
関係者タイプ:	00007
*有効日ステータス:	アクティブ
*名称:	外部研修生
*略称:	外部学生
<input type="checkbox"/> 職務レコード必須	
関係者トランザクション	
関係者トランザクションのレコード:	PER_POI_TRANS
コンポーネント名:	TRN_INSTRUCTR_TBL1
マーケット:	GBL
メニュー名:	ADMINISTER_TRAINING_(GBL)
メニュー パー名:	USE
メニュー アイテム名:	PERSONAL_DATA
移動先 ページ名:	PERSONAL_DATA1
関係者タイプの用途	
関係者サマリ表示用レコード:	POI_TRN1_VW
関係者チェックリスト:	HCPOI
<input checked="" type="checkbox"/> 汎用追加コンポーネントで使用可 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用更新コンポーネントで使用可	
コメント: 研修管理モジュールの HR 製品によって使われます。この関係者タイプは、研修管理モジュールと、人事・労務管理の関係者情報の追加コンポーネントにおいて作成可能です。また、雇用前に研修が必要な採用予定者に対して、採用管理経由でこの関係者タイプを作成することもできます。	

関係者タイプ テーブル ページ

[有効日ステータス] 使用しないシステム標準設定の関係者タイプに対しては、[非アクティブ]を選択します。これにより、その関係者タイプは、HRMS トランザクション コンポーネントでオプションとして表示されません。

[職務レコード必須] その関係者タイプに関係者の職務レコードが必要な場合、このチェック ボックスをオンにします。

新規の関係者タイプに対してこのチェック ボックスをオンにすると、[関係者トランザクション] グループ ボックスにデフォルト情報がロードされ、上書きすることはできません。

[関係者トランザクション]

[関係者トランザクションのレコード] その関係者タイプによる関係者情報の処理および保持に使用するレコードを選択します。

PER_POI_TRANS レコード (雇用情報サマリ コンポーネントで使用される汎用の関係者トランザクション レコード) を選択した場合、[関係者トランザクション] グループ ボックスの残りのフィールドと [関係者サマリ表示用レコード] フィールドにデフォルト情報がロードされ、上書きすることはできません。

職務レコードを必要としない関係者タイプに対して PER_POI_TRANS 以外のレコードを選択した場合、[関係者サマリ表示用レコード] フィールドを指定してビューを作成し、トランザクション レコードのデータが雇用情報サマリ コンポーネントで表示されるようにする必要があります。

[コンポーネント名]

関係者トランザクションのレコードを使用するコンポーネントを選択します。個人情報の雇用形態ページでこの関係者タイプを選択し、[雇用データを追加] ボタンをクリックすると、ここで選択したコンポーネントに移動します。

**[マーケット]、[メニュー名]、
[メニュー バー名]、[メ
ニュー アイテム名]**

選択したコンポーネントに対して、メニューのマーケット、メニュー名、バー名、およびアイテム名を入力します。

[移動先ページ名]

[雇用データを追加] ボタンをクリックしたときに表示されるページのオブジェクト名を入力します。

[関係者タイプの用途]

**[関係者サマリ表示用
レコード]**

この関係者タイプのサマリ情報のソースとなるレコードを選択します。雇用情報サマリ コンポーネントでこの関係者タイプを持つ個人の雇用情報を表示する場合、このレコードからサマリ情報が取得されます。

PER_POI_TRANS 以外のレコードを選択した場合、ビューを作成してこのフィールドに指定し、トランザクション レコードのデータが雇用情報サマリ コンポーネントで表示されるようにする必要があります。PeopleSoft アプリケーション デザインで、PER_POI_TRANS ビューを使用して、異なるビューテキストでビューを作成します。

[関係者チェックリスト]

この関係者タイプのデフォルト チェックリストを選択します。個人情報の雇用形態ページ (PERSONAL_DATA4) で関係者タイプを個人に割り当て、関係者チェックリストを作成すると、個人チェックリスト ページ (PERSONAL_DATA4) でその個人のレコードが作成され、このチェックリストが追加されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事・労務管理のビジネス プロセスの設定」、「チェックリストの作成」

**[汎用追加コンポーネントで
使用可]**

[人事・労務管理] メニューの個人情報の追加コンポーネント、職務データ コンポーネント、および雇用情報サマリ コンポーネントで関係者のレコードを追加する際に、この関係者タイプを使用可能にする場合、このチェックボックスをオンにします。新規の関係者タイプに対しては全て、このチェックボックスはオンになります。

**[汎用更新コンポーネントで
使用可]**

[人事・労務管理] メニューの職務データ コンポーネントおよび雇用情報サマリ コンポーネントで関係者のレコードを更新する際に、この関係者タイプを使用可能にする場合、このチェックボックスをオンにします。

標準設定の関係者タイプの変更

システム標準設定の関係者タイプに対しては、以下のフィールドのみ変更が可能です。

- [有効日ステータス]
- [関係者チェックリスト]
- [汎用追加コンポーネントで使用可]
- [汎用更新コンポーネントで使用可]

休日スケジュールの設定

休日スケジュールを設定するには、休日スケジュール コンポーネント (HOLIDAY_SCHED_TBL) を使用します。

このセクションでは、職務レコードの休日スケジュール デフォルトの概要および休日スケジュールの定義方法について説明します。

職務レコードの休日スケジュール デフォルトについて

休日は、所在地、勤務スケジュール、またはその他の要因によって従業員グループの各セグメントごとに異なる場合があるため、必要なだけ休日スケジュールを定義することができます。

従業員の職務レコードに対する休日スケジュールのデフォルト設定は、給与計算システムによって異なります。

- PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールの場合

給与計算システムがグローバル ペイロールの場合、“職務データ” の給与計算ページに [休日スケジュール] のデフォルト値はロードされません。この給与計算ページでは、受給者の [休日スケジュール] を選択するか、このフィールドを空白のままにすることができます。このフィールドを空白のままにした場合、グローバル ペイロール処理では、受給者の支給グループに割り当てられた休日スケジュールが使用されます。

- PeopleSoft Enterprise Payroll for North America の場合

給与計算システムが Payroll for North America の場合、“職務データ” の給与計算ページにロードされるデフォルト休日スケジュールは、従業員を追加しているかどうかまたは職務データを更新しているかどうか、および所在地テーブルにデフォルト休日スケジュールを定義したかどうかによって決定されます。

休日スケジュールの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
休日スケジュール	HOLIDAY_SCHED_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[Holiday Schedule] (休日スケジュール)	給与計算処理で使用される休日を指定します。

休日スケジュールの作成

休日スケジュール ページにアクセスします。

休日スケジュール

休日スケジュール: J02

スケジュール情報

*名称: Holiday Schedule for Japan

略称: HS Japan

休日の詳細

カラム: 名前 | 時間数 | 休日タイプ | 開始時刻 | 終了時刻

2001/01/01	New Year's Day		標準			+	-
2001/01/08	Coming-of-Age Day		標準			+	-
2001/02/11	National Foundation Day		標準			+	-
2001/02/12	Substitute Holiday		標準			+	-
2001/03/20	Vernal Equinox Day		標準			+	-
2001/04/29	Greenery Day		標準			+	-
2001/04/30	Substitute Holiday		標準			+	-

休日スケジュール ページ

- [休日]

組織がこのスケジュールに適用する休日を全て入力します。
- [時間数]

(省略可) 各休日の支給時間数を指定できます。
Payroll for North America では、このフィールドの値を使用して、支給からの控除が行われます。
- [休日タイプ]

休日のタイプを選択します。
以下の値は、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America で使用されます。
[カナダ祭日]: この値は、カナダの法定休日に対して指定します。
[標準]: この値は、アメリカの休日またはカナダの法定外休日に対して指定します。
[U.S. 祭日]: 休日がアメリカの祝祭日に当たる場合に選択します。
- [開始時刻]、[終了時刻]

(省略可) 各休日の開始時刻と終了時刻を指定できます。
- 注: Payroll for North America およびグローバル ペイロールでは、これらのフィールドは参照されません。

ビジネス ユニットの定義

ビジネス ユニットの定義するには、ビジネス ユニット コンポーネント (HR_BUSINESS_UNIT)、ビジネス ユニット オプション デフォルト コンポーネント (BUS_UNIT_OPT_HR)、および GL ビジネス ユニット コンポーネント (BUS_UNIT_GL) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- ビジネス ユニットの追加および更新
- 他のアプリケーションのビジネス ユニットの指定
- ビジネス ユニット デフォルトの設定

ビジネス ユニットの更新に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ビジネス ユニット	BUS_UNIT_TBL_HR	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[ビジネス ユニット]、[ビジネス ユニット]	ビジネス ユニットの追加または更新を行います。
ビジネス ユニット - 相互参照	BUS_UNIT_TBL_HR2	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[ビジネス ユニット]、[相互参照]	ビジネス ユニットに関連付ける他の PeopleSoft アプリケーションのビジネス ユニートを指定します。
BU オプション デフォルト	BUS_UNIT_OPT_HR	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[ビジネス ユニット オプション デフォルト]、[BU オプション デフォルト]	特定のセットID について会社、国、および通貨などのシステム デフォルト値を設定します。
GL ビジネス ユニット	BUS_UNIT_TBL_GL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[GL ビジネス ユニット]、[GL ビジネス ユニット]	GL ビジネス ユニートを確認します。

ビジネス ユニットの追加および更新

ビジネス ユニット ページにアクセスします。

ビジネス ユニット

相互参照

ビジネス ユニット:

CFMBU

*ステータス:

アクティブ

*名称:

Canadian Business Unit

略称:

Can BU

デフォルト レコード グループ セットID

セットID:

CANON

カナダ - オンタリオ

または

既存ビジネス ユニットからコピー

ビジネス ユニット ページ

警告: システム パフォーマンスを最適化するために、ビジネス ユニットは 5 文字で設定してください。セットID やビジネス ユニットが 5 文字に満たない場合は、システム性能が大幅に低下します。

[ステータス]

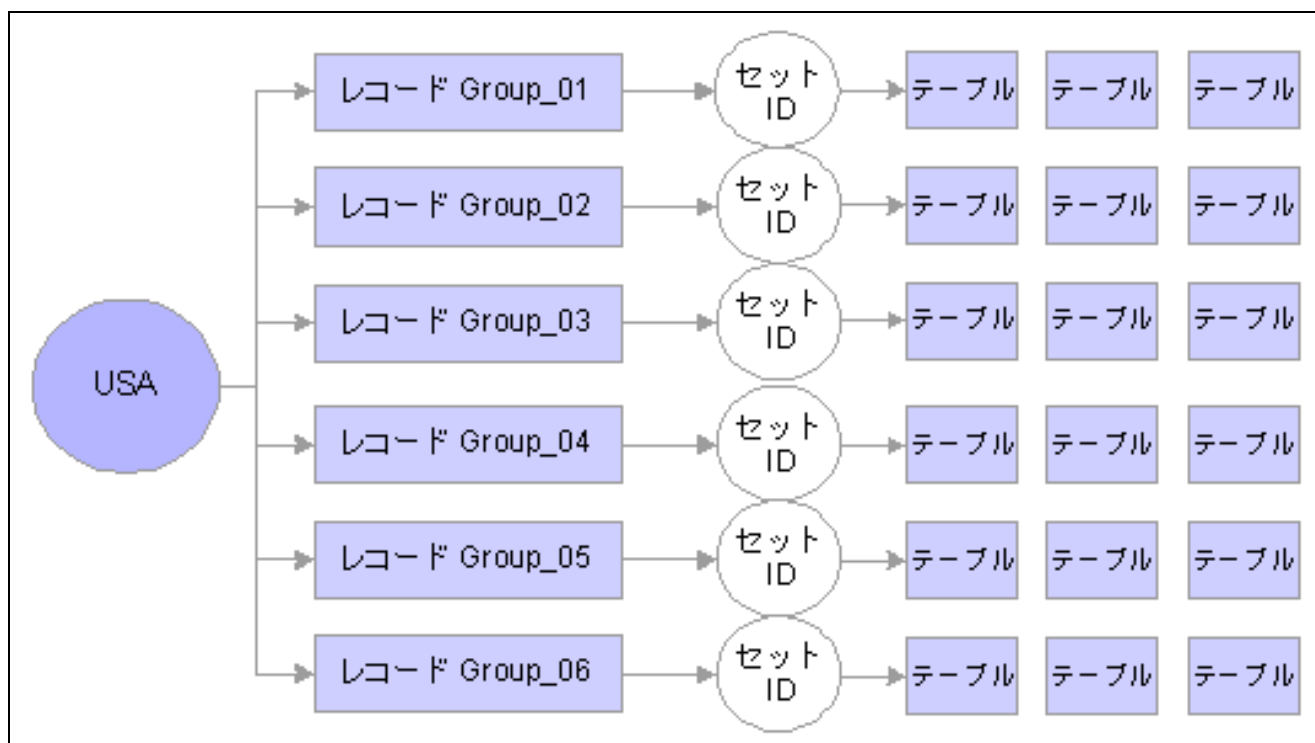
[アクティブ] または [非アクティブ] を選択します。[非アクティブ] を選択した場合は、PeopleSoft Enterprise HRMS のビジネス ユニット リストにこのビジネス ユニットは表示されません。

注: ビジネス ユニットには有効日が付いていないため、ビジネス ユニットの使用可能状態の切り替えにはこのフィールドを使います。

テーブルセット共有オプションについて

[デフォルト レコード グループ セットID]

ビジネス ユニット コンポーネントで新規のビジネス ユニットを定義する際、[デフォルト レコード グループ セット ID] グループ ボックスのオプションを使用して新規のビジネス ユニットにデフォルトのレコード グループ セットID を自動設定するように指定できます。[セットID] フィールド、または [既存ビジネス ユニットからコピー] フィールドに値を入力すると、新規ビジネス ユニットの各レコード グループに割り当てられるセットID が決定します。その結果、このビジネス ユニットのテーブルセット共有の設定が暫定的に決まります。有効値として該当するビジネス ユニットに使用されるテーブルセットは、レコード グループに割り当てられたセットID によって決定します。



テーブルセット共有

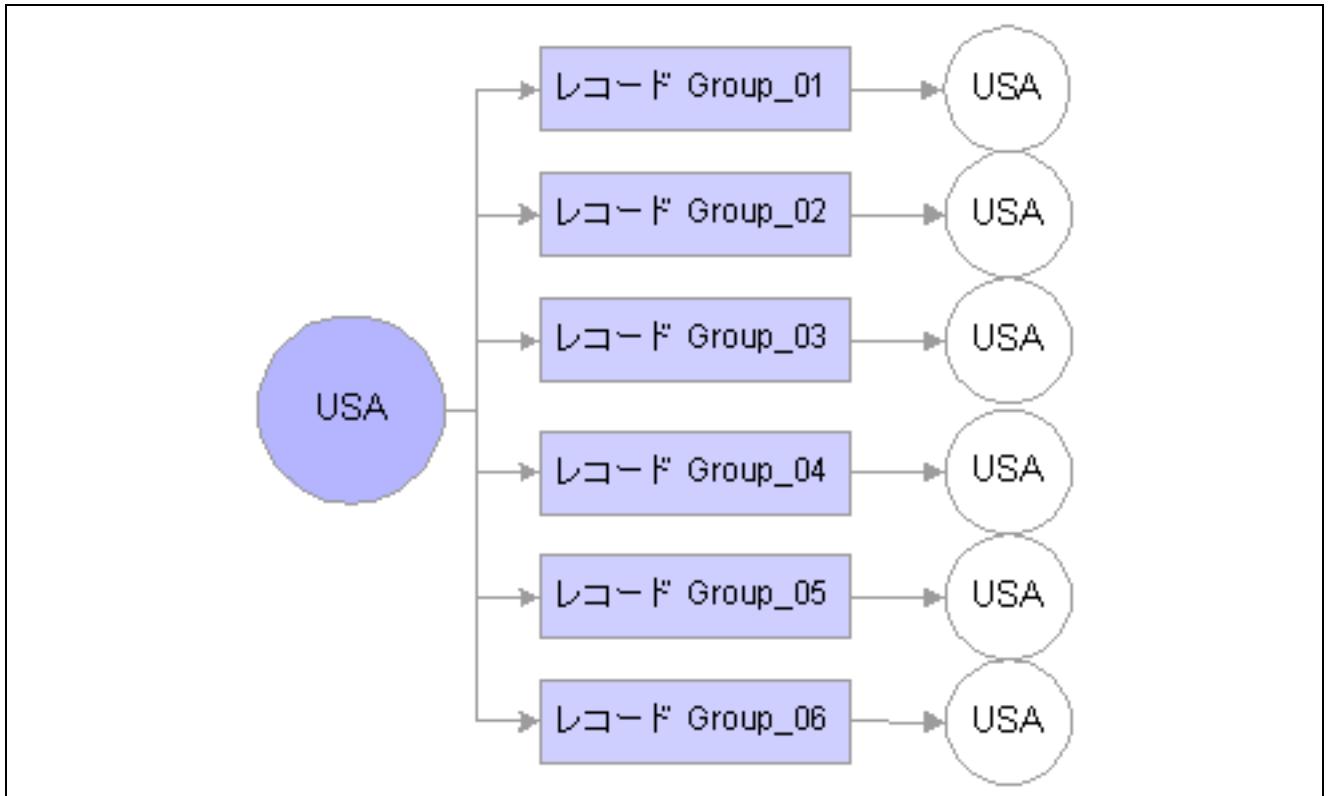
特定のデフォルト セットID を使用したテーブルセット共有設定

セットID の主要デフォルト (必要に応じて “テーブルセット コントロール” のレコード コントロール ページ (SET_CNTRL_TABLE1) で変更可) を使って作成している新規ビジネス ユニットにテーブルセット共有設定を定義する場合は、使用するデフォルトのセットID を入力します。

システムに新規のビジネス ユニットを追加すると、[セットID] フィールドにはそのビジネス ユニットと同じ名前が表示されます。たとえば、ビジネス ユニット名が USA の場合は、USA というセットID がデフォルトとして設定され、表示されます。デフォルト セットID は必要に応じて上書きできます。

注: 1 つのビジネス ユニットに関連付けることのできるデフォルト セットID は 1 つのみです。

ビジネス ユニートを保存すると、そのビジネス ユニットと同一名の新規セットID が自動的に作成され、ビジネス ユニット ページで指定したデフォルトのセットID が新規ビジネス ユニットの各レコード グループに割り当てられます。



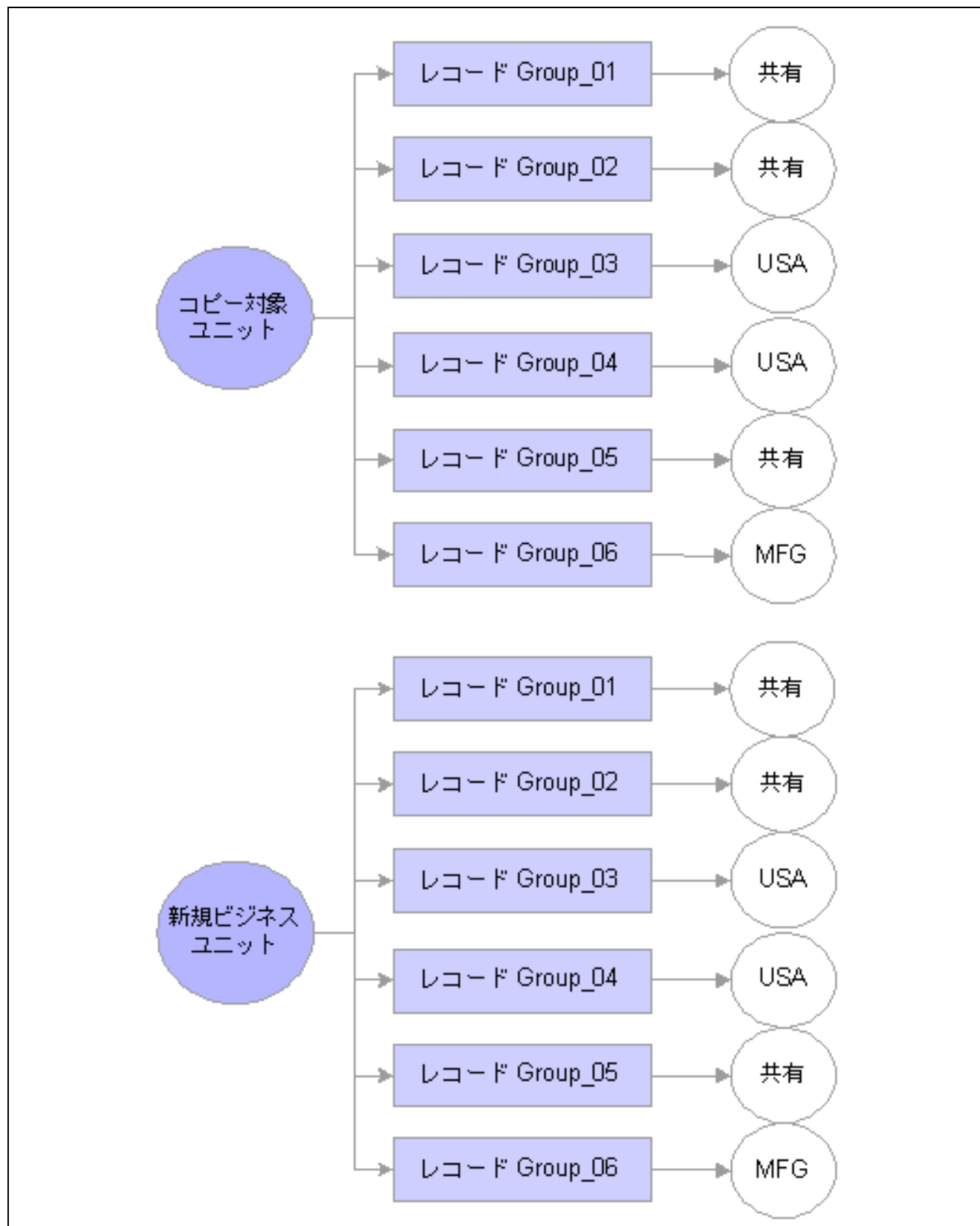
デフォルト セットID を使ったテーブルセット共有

既存ビジネス ユニットからのテーブルセット設定のコピー

[既存ビジネス ユニットからコピー] フィールドの機能を使うと、既存ビジネス ユニットのテーブルセット共有設定をコピーできます。

注: 初めてビジネス ユニット ページを開くと、[既存ビジネス ユニットからコピー] フィールドは、グレー表示になっています。このフィールドを使用可能にするには、[セットID] フィールドにある値を消去し、フィールドから移動します。

作成中の新規ビジネス ユニットのテーブルセット共有設定を、既に定義済みの別のビジネス ユニットの設定と同じにする場合、または 2 つのユニットの設定をレコード グループ数個を除いてほぼ同じにする場合は、コピー対象のビジネス ユニットを入力します。レコード グループが新規ビジネス ユニットにリンクされると、コピー元として選択したビジネス ユニットと同じセットID が各レコード グループに割り当てられます。



既存ビジネス ユニットからのテーブルセット共有設定のコピー

どちらの方法を選択しても、新規ビジネス ユニットを最初に保存した後は、デフォルトの [セットID] または [既存ビジネス ユニットからコピー] は入力不可になります。このビジネス ユニットのデフォルトレコードグループ セットID の情報を再度変更することはできません。これは、PeopleSoft Enterprise HRMS にある定義済みビジネス ユニットのテーブルセットレコードグループコントロールが誤って上書きされないようにするためです。

注: 新規ビジネス ユニットを追加してページを保存すると、全ての有効なテーブル値が自動作成されます。これらの値は PeopleTools から取得され、ビジネス ユニット ID、レコードグループ ID、およびセット ID に関連するものです。

ビジネス ユニットを作成すると、すぐにテーブルセット共有が設定されます。1 つのデフォルト セットID を使ってテーブル セット共有を設定した場合などは特に、この時点で細部の調整が必要です。“テーブルセットコントロール” のレコードコントロール ページで個別のレコードグループに割り当てられているセットID を変更して調整を行います。レコードグループを追加すると、このページのデフォルト セットID が使用されます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management の「PeopleTools Utilities」に含まれる「TableSet Control - Record Group」

他のアプリケーションのビジネス ユニットの指定

“ビジネス ユニット” の相互参照ページにアクセスします。

ビジネス ユニット		相互参照	
ビジネス ユニット:	CFMBU	Canadian Business Unit	
ビジネス ユニット相互参照			
資産管理 (AM) ユニット:	<input type="text"/>	売掛金管理 (AR) ユニット:	<input type="text"/>
受注管理 (OM) ユニット:	<input type="text"/>	買掛金管理 (AP) ユニット:	<input type="text"/>
貸借一致 (BA) ユニット:	<input type="text"/>	購買管理 (PO) ユニット:	<input type="text"/>
予算管理 (BD) ユニット:	<input type="text"/>	プロジェクト管理 (PG) ユニット:	<input type="text"/> 🔍
請求管理 (BD) ユニット:	<input type="text"/>	一般会計 (GL) ユニット:	CM02 🔍
在庫管理 (IN) ユニット:	<input type="text"/>		

“ビジネス ユニット” - 相互参照ページ

[ビジネス ユニット相互参照]

このグループ ボックスでは、ページに表示されている PeopleSoft アプリケーションに対して、適用可能な場合は、ビジネス ユニット相互参照を入力します。作成したビジネス ユニットに関連付ける、他の PeopleSoft アプリケーションのビジネス ユニットを指定します。

注: PeopleSoft Enterprise HRMS ビジネス ユニットに関連付けられている PeopleSoft Enterprise 一般会計ユニットは、“GL/HR ビジネス ユニット マッピング” のユニットリンク詳細ページ (BU_GL_HR_LNK) で確認できます。

ビジネス ユニットのデフォルトの設定

BU オプション デフォルト ページにアクセスします。

BU オプション デフォルト

セットID:BN2BUBenefit Administration

*会社コード:

*国:

*換算先通貨:

標準勤務時間

*デフォルト標準勤務時間:

標準勤務時間下限:

勤務周期: 週次

標準勤務時間上限:

▼ ベルギー

業界委員会:NACE コード:

▼ カナダ

*国勢調査地域エリア:

*産業セクター:

BU オプション デフォルト ページ

セットID に対し各種のデフォルト値を設定することで、ヒューマン リソース管理システム内のフィールドに表示されるデフォルト値を指定できます。ビジネス ユニット オプション デフォルト コンポーネントはセット ID をキーとしているため、複数のビジネス ユニット間でこのデフォルトを共有することができます。

警告: このページで入力または選択した値は、PeopleSoft Enterprise HRMS システム全体のデフォルト設定に影響します。

[会社コード]、[国]、[換算先通貨]

デフォルト値として使用される会社コード、国、および換算先通貨を選択します。

[標準勤務時間]

[デフォルト標準勤務時間]

デフォルト標準勤務時間は、給与プラン定義コンポーネント (SALARY_PLAN_TABLE)、職務コード テーブル コンポーネント (JOB_CODE_TBL)、またはインストール テーブル コンポーネント (INSTALLATION_TBL) から取得されます。

[勤務周期]

従業員が標準勤務時間として指定された時間数の勤務を完了する必要がある周期を入力します。標準勤務周期の年次化係数と、デフォルトの標準勤務時間を組み合わせて、常勤換算 (FTE) が計算されます。デフォルトの標準勤務周期は、給与プラン定義、職務コード テーブル、またはインストール テーブルの各コンポーネントから取得されます。ここで入力した値は、

	職務データ コンポーネント (JOB_DATA) およびポジション データ コンポーネント (POSITION_DATA) で確認のために使用されます。
[標準勤務時間下限]、[標準勤務時間上限]	このセットID に対する標準勤務時間下限と標準勤務時間上限のデフォルト値を入力します。ここで入力した値は、職務データ コンポーネントおよびポジション データ コンポーネントで確認のために使用されます。
(BEL) [ベルギー]	
[業界委員会]	会社に適合する業界委員会を選択します。これは、必要に応じて部門レベルで上書きできます。
[NACE コード]	会社の NACE コードを入力します。注: NACE コードの詳細レベルを選択することができます。グループ レベルで 5 桁、クラス レベルで 6 桁、およびサブクラス レベルで 7 桁です。
(CAN) [カナダ]	
[国勢調査メトロ エリア]	メトロ エリアを選択します。
[産業セクター]	産業セクターを選択します。

注: これらの値は PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のカナダの法定レポートに影響します。

会社情報の入力

会社情報を入力するには、会社法人タイプ コンポーネント (LEGAL_TYPE)、会社テーブル コンポーネント (COMPANY_TABLE)、および会社テーブル レポート コンポーネント (RUN_PER707) を使用します。

このセクションでは、会社の概要と以下の方法について説明します。

- 会社法人タイプの定義
- 会社の定義
- 会社のデフォルト情報の設定
- (BEL) デフォルト情報と給与係数の入力
- (BEL) 取扱機関とセットID の関連付け
- (USA) チップ割り当ての設定
- (CAN/USA) 一般会計の勘定コードの入力
- (USA) FICA と税情報の入力
- 電話番号情報の入力
- 会社ルールの定義

会社について

会社テーブル コンポーネントには、組織に属している 1 つまたは複数の会社に関する情報を入力できます。これには、住所、一般会計の勘定科目、税情報、給与計算処理情報などが含まれます。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理だけを使っている場合、新しく会社を追加する際は、“会社テーブル”の会社所在地ページだけに情報を入力します。またデフォルト設定ページで、会社にデフォルトの支給グループを設定することもできます。ここで選択する値は、この会社の従業員の職務データコンポーネントにデフォルトとして表示されます。ただし、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America を使っている場合と同様、会社を追加する場合は、各会社を独立した税務単位として扱うのが効率的な方法です。

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使っている場合、支給元が会社と同じ場合は、給与計算固有の会社情報を支給元コンポーネント (GP_PYENT) に追加入力する必要があります。入力 は PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールで行います。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook

PeopleSoft Enterprise Payroll Interface 9.0 PeopleBook

会社情報の入力に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
法人タイプ	LEGAL_TYPE_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[会社法人タイプ]、[法人タイプ]	多くの国では、会社法人、有限会社、協同組合など、いずれの場合でも会社の法人構造について報告することが義務付けられています。 それぞれの会社に対し、会社テーブルで正しい法人タイプを関連付けておき、レポート作成の際にその情報を利用することができます。
会社所在地	COMPANY_TABLE1	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[会社テーブル]、[会社所在地]	会社を定義し、詳細情報を設定します。
デフォルト設定	COMPANY_TABLE2_GBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[会社テーブル]、[デフォルト設定]	デフォルトの会社情報を設定します。たとえば、支給グループ、給与点数、ベルギーの場合は Claey's 計算の係数などを定義します。
(BEL) Claey's	COMP_TBL2ABEL_SBP	デフォルト設定ページの [Claey's デフォルト] リンクをクリックします。	Claey's 計算式を実行する際に使われるデフォルト情報と給与係数を入力します。
(BEL) 取扱機関	COMP_TBL2BBEL_SBP	デフォルト設定ページの [外部取扱機関] リンクをクリックします。	取扱機関とセットIDを関連付けます。
チップの処理	COMP_TBL6USA_SEC	デフォルト設定ページの [チップの処理] リンクをクリックします。	チップの割り当てに関する設定をします。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
(USA/CAN) 一般会計 負債勘定	COMP_TBL7USA_SEC	デフォルト設定ページの [GL 勘定科目] リンクをク リックします。	純支給額と自動振込みの 一般会計勘定コードを 入力します。
税詳細	COMP_TBL8USA_SEC	デフォルト設定ページの [税詳細] リンクをクリック します。	連邦事業主 ID (EIM) の指 定、会社の関連付け、およ びデフォルトの税ステータ スの定義を行います。
電話番号	COMPANY_TABLE3_GBL	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[組織構造]、[会社テーブル]、[電話番号]	会社の電話番号情報を 入力します。
ルール定義	COMPANY_TABLE4_GBL	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[組織構造]、[会 社テーブル]、[ルール定義]	会社の FTE ルールを定義 します。
会社テーブルレポート-ラ ンコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[組織構造]、[会社テーブルレポート]	会社テーブルレポート (PER707) を実行します。こ のレポートには、会社テー ブルに含まれる全ての会 社と、その名称、住所、 会社コード、有効日など のデフォルト情報が出 力されます。 別のレポートプログラム (PAY702) には、会社テー ブルに入力した一般会計 情報が出力されます。

会社の定義

会社所在地ページにアクセスします。

会社所在地(L)		デフォルト設定	電話番号(P)	ルール定義(R)
会社コード:	KD1			
<div>会社所在地</div> <div>検索 最初 1/1 最後</div>				
*有効日:	1980/01/01	*ステータス:	アクティブ	行に移動 + -
*名称:	Continental Commerce - Germany			
略称:	CC-Germany			
所在地セットID:	DEU01	Setid for DEU01 BU		
所在地コード:	KD912	Zweigstelle München		
*デフォルト セットID:	DEU	ドイツ テーブルセット		
法人 ID:				
国:	DEU	ドイツ		
住所:	Muenchner Strasse 14 85774 Munich バイエルン			
		住所編集		

会社所在地ページ (1/2)

<div>▼ ハルキ</div> <div>郵送先住所</div> <div>国: USA アメリカ</div> <div>住所: 住所の編集</div>							
<div>電子メール アドレス</div> <div>加タマイズ 検索 全件表示 最初 1/1 最後</div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>*アドレス タイプ*</th> <th>*電子メール アドレス*</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>+ -</td> </tr> </tbody> </table>		*アドレス タイプ*	*電子メール アドレス*		1		+ -
アドレス タイプ	*電子メール アドレス*						
1		+ -					
<div>▼ 日本</div> <div>代表者情報</div> <div>検索 全件表示 最初 1/1 最後</div> <div> <div>*有効日: 2004/02/26</div> <div>代表者肩書:</div> <div>代表者名:</div> </div>							

会社所在地ページ (2/2)

単一の会社から成る組織の場合、このテーブルは 1 回設定するだけですが、複数の会社で構成される組織の場合は、各会社ごとに会社コードを設定します。

(BEL) [ベルギー]

ベルギーの会社の電子メール アドレス情報を入力します。

(JPN) [日本]**[代表者肩書]**

有効日の時点における会社代表者の肩書きを入力します。これは、[辞令 JPN] レポート ページでデフォルトの肩書きとして使用されます。

このデフォルトは辞令 JPN ページで上書きできますが、そのまま使用した場合、この肩書きと名前が、採用、異動、昇格、退職などの辞令に印刷されます。

[代表者名]

代表者の氏名を入力します。このデフォルトは、[辞令 JPN] レポート ページで上書きできます。

関連項目:


PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「(JPN) 兼務管理」、「従業員の兼務データの記録と表示」

会社のデフォルト情報の設定

デフォルト設定ページにアクセスします。

会社所在地(L)		デフォルト設定		電話番号(P)		ルール定義(R)	
会社コード:		K1G					
<div>デフォルト設定 検索 最初 1/1 最後</div>							
有効日:	2004/01/01	ステータス:	アクティブ	行に移動			
名称:	GP US Company G						
法定区域:	USA	アメリカ					
点数値:		通貨コード:	USD				
▼ Payroll for North America							
支給グループ:							
デフォルトの支給プログラム:							
*ペイシート行数:	15	雇用終了者の計算可能日数:	30				
連邦税控除の優先権:	100						
州税控除の優先権:	110						
<input checked="" type="checkbox"/> 複数雇用コードの一括支払 <input checked="" type="checkbox"/> AP による税の支払							
GL 勘定科目				チップの処理		税詳細	

デフォルト設定ページ (1/6)


▼  ベルギー

会社情報

会社商号: [Claeys デフォルト](#)
商号の登録番号: [外部取扱機関](#)
法人企業: ☐ 給与限度額
公用語:


事業主データ

NOSS: 海外の社会保険制度:
RIZIV 番号: 連邦年金機関:
NOSS 所在地: 統計機関:
業界委員会:  NACE コード:

▼  カナダ

WCB


法人番号: レート番号:

▼  スイス

AHV 番号:
事故障害保険番号:
商号登録番号:

デフォルト設定ページ (2/6)


デフォルト設定ページ (3/6)


イタリア

<small>カスタマイズ</small> <small>検索</small> <small>全件表示</small> <small>最初</small> <small>1/1</small> <small>最後</small>				
	<small>*代表者タイプ*</small>	<small>従業員 ID</small>	<small>名称</small>	
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>

会社コードリスト
カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後


	<small>会社コードタイプ*</small>	<small>会社コード</small>	<small>メインコード</small>	
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>


オランダ

連邦雇用税 ID:

取扱権限
カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

	<small>セクトID</small>	<small>権限 ID</small>	<small>登録番号</small>	
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="+"/> <input type="button" value="-"/>


アメリカ


事業主 ID 番号: ☐ **FLSA 適用**

連邦準備銀行 ID:

連邦準備銀行地区:

雇用機会均等会社コード:

デフォルト設定ページ (4/6)


オーストラリア

給与パッケージ

給与税支払義務 ☐

TEC 給与レート コード:


TPV 給与レート コード:

高等教育権限

教育権限コード:

オーストラリア公的権限

権限コード:


ニュージーランド

分類ユニット:

デフォルト設定ページ (5/6)


メキシコ

会社情報

事業内容

*有効日:

2007/03/24 

会社設定:

RFC:

INFONAVIT ID:

% 貸付補助金:

% 貸付補助金

法定代表者

氏名:

RFC:

CURP:


ブラジル

*申告者区分:

なし

*SIMPLES オプション:

選択


マレーシア

整理番号:

登録番号:

デフォルト設定ページ (6/6)

[デフォルト設定]

[点数値] 点数を金額で入力します。

[Payroll for North America]

以下のフィールドは、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America を使用する会社に対して適用されます。

[支給グループ]

このフィールドに入力した支給グループは、この会社の全従業員のデフォルト支給グループとして表示されます。従業員の大半が同じ支給グループに属している場合は、デフォルトを設定することによって、従業員レベルでのデータ入力の時間を節約することができます。

注: このフィールドの長さは、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールまたは PeopleSoft Enterprise Payroll for North America のどちらを使用するかによって変わります。このページで支給グループを使用するためには、最初に PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールまたは Payroll for North America で支給グループを設定しておく必要があります。設定を行う場所は、どちらの給与計算システムを使っているかによって異なります。

[デフォルトの支給プログラム]

この会社の従業員に対するデフォルト値を選択します。

[ペイシート行数]	ペイシートの行数を入力します。ペイシートは、各支給期間において、従業員への支給額を計算するために必要なデータを保存しておく保管場所としての機能を果たします。
[雇用終了者の計算可能日数]	このフィールドは参照専用です。
[連邦税控除の優先権]、 [州税控除の優先権]	連邦税控除および州税控除の優先度を入力します。
[AP による税の支払]	買掛金管理 (AP) を使って税を管理している場合、このチェック ボックスをオンにします。
[GL 勘定科目]	一般会計の勘定科目コードに関する情報を入力する際に、このリンクをクリックします。
[チップの処理]	会社の方針に従ってチップを処理するためのパラメータを設定する際に、このリンクをクリックします。
[税詳細]	FICA と税詳細を入力する際に、このリンクをクリックします。
(BEL) [ベルギー]	
[会社商号]	ベルギーの会社商号 (Continental Commerce - Belgium など) を入力します。
[商号の登録番号]	ベルギーの商号登録簿にある公式登録番号を入力します。
[法人企業]	会社法人や共同組合など、会社の法律上の形態を選択します。さまざまな会社形態がトランスレート値として設定されています。会社の株式が公開か非公開か、または有限会社であるかないかなどを選択します。
[給与限度額]	<p>給与限度額の上限を設定する場合に、チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしても実際に給与額に限度が自動設定されるわけではありませんが、昇給が会社の上限額を超えたり昇給禁止期間に行われたりするのを防ぐために参照用としてこのチェック ボックスを使うことができます。</p> <p>会社に昇給禁止期間が設けられていたり、従業員の昇給に制限が設定されている場合は、このページの PeopleCode を変更できます。その後、このチェック ボックスをオンにすると、指定期間内の昇給が行われなように設定されます。</p>
[公用語]	会社の公用語を選択します。この値は、従業員のデフォルト公用語として使われます。ただし、会社の所在地が首都ブリュッセルの場合は例外で、従業員が指定した言語がデフォルトとして使われます。
[Claeys デフォルト]	<p>このリンクをクリックすると、Claeys ページが表示され、Claeys デフォルトおよび給与係数情報を入力できます。</p> <p>参照: <u>第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「(BEL) デフォルト情報と給与係数の入力」、237ページ</u></p>
[外部取扱機関]	このリンクをクリックすると、取扱機関ページが表示され、サードパーティ取扱機関を管理するためのベルギーの取扱機関情報を入力できます。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「(BEL) 取扱機関とセットID の関連付け」、238ページ

[NOSS] (社会保障局 (NOSS))	社会保障局 (NOSS) に登録された会社の番号を入力します。
[海外の社会保険制度]	会社の海外の社会保険制度 (連邦年金機関) を入力します。この情報は、ベルギーの組織がベルギー政府に提出する法定提出書類の要件を満たすために使用されます。システム上、この情報は必要ではありませんが、法定レポートの作成には重要です。
[RIZIV 番号]	RIZIV 番号を入力します。この番号は、連邦疾病障害保険機関 (Federal Institute for Illness and Disability Insurance) のカテゴリを表すものです。
[NOSS 所在地] (NOSS 所在地カテゴリ)	NOSS の所在地を入力します。
[統計機関]	統計機関を入力します。この情報は、ベルギーの組織がベルギー政府に提出する法定提出書類の要件を満たすために使用されます。システム上、この情報は必要ではありませんが、法定レポートの作成には重要です。
[業界委員会]	会社に適合する業界委員会を選択します。この値は、部門レベルで上書きできます。
[NACE コード]	会社の NACE コードを入力します。

注: NACE コードは、グループ レベルで 5 桁、クラス レベルで 6 桁、およびサブクラス レベルで 7 桁です。

(CAN) [カナダ]

[法人番号]、[レート番号]	カナダの従業員の 労働災害補償委員会 (WCB) データを管理している場合に入力します。
----------------	--

(CHE) [スイス]

[AHV 番号] (Alters-und Hinterbliebenen Versicherung 番号)	該当する AHV 補償機関の番号を入力します。6 桁までの数字を指定できます。
[事故障害保険番号]	事故障害保険会社によって会社割り当てられた番号を入力します。この番号は安全衛生管理レポートの作成に使用します。
[商号登録番号]	商号登録機関によって会社割り当てられた番号を入力します。フォーマットは、999.9.999.999-9 です。

(DEU) [ドイツ]

[OECD の許可必要] (経済協力開発機構 (OECD) の許可必要)	該当する場合、このチェック ボックスをオンにします。ドイツでは、OECD に加盟していない国出身の従業員が防衛やハイテク分野などの特定の産業に従事する場合、OECD の許可が必要です。
[健康診断必要]	ドイツの労働法に従って従業員の健康診断が必要な場合は、このチェック ボックスをオンにします。

(ESP) [スペイン]

[会計 ID コード] スペイン政府によって割り当てられた、会社の会計 ID コードを入力します。

(FRA) [フランス]

[SIREN コード] (Système Informatique pour le Repertoire des Entreprises コード) この会社の SIREN コードを入力します。SIREN コードは、フランス政府に対して会社の事業登録を行ったときに割り当てられるコードです。このコードはヒューマン リソース管理システムに必要ありませんが、社用文書で頻繁に必要になります。

[APE コード] (Activite Principale Exercee コード) APE コードを選択します。APE コードは、金融、ソフトウェア、保険など、会社の産業分野を指定するコードです。APE コードはフランスの法律によって義務付けられており、会社の法定レポート全てに記載する必要があります。

[銀行データ チェック デジット] 銀行データ チェック デジットを入力します (省略可)。

[基本スキーム] 会社の基本スキームを選択します。基本スキームは、必須基本スキーム ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[人事・労務管理]、[従業員データ FRA]、[基本スキーム]) で定義され、DADS レポートの作成に必須の情報です。

[オプション] このフィールドは、過去の DADS 標準 (DADS-TDS) の DADS レポートで以前使用されていました。現在、DADS-U 標準を使用する最新の DADS レポートでは使用されていません。

[会社資金資格] このスクロール領域には、“年金/準備金の契約” ページで会社で定義された年金/偶発事故準備金の契約が表示されます。資格番号リンクをクリックすると、契約定義が表示されます。

注: このページのフィールドに入力した番号のフォーマットは、自動的に検証されません。

(GBR) [イギリス]

[事業内容] 会社の事業内容を入力します。この情報は、[安全衛生管理] メニューにある 2 つのイギリス用 RIDDOR レポートで使われます。各従業員の職務レコードから、関連する会社の事業内容が出力されます。

(ITA) [イタリア]

[会社コード] イタリアの行政機関によって会社で割り当てられた会社コードを入力します。

[メイン コード] 入力された会社コードがレポート作成に使用される主要な会社コードである場合、このチェック ボックスをオンにします。

(NLD) [オランダ]**[連邦雇用税 ID]**

オランダ政府によって指定された連邦雇用税 ID を入力します。これは、税務当局に提出される賃金申告に必要です。

[取扱機関 ID]

会社に関連付けられている取扱機関を選択します。オランダの疾病レポートでは、機関情報ページの [HRMS クラス] フィールドの値が "I" (労働保険取扱機関) に設定されている取扱機関が使用されます。取扱機関は、機関テーブル コンポーネント ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[福利厚生 NLD]) を使用して設定します。

オランダの疾病レポート機能は、ヒューマン リソース管理の休暇欠勤管理ビジネス プロセスと PeopleSoft Enterprise Global Payroll for the Netherlands に標準で用意されています。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 休暇欠勤管理、「(NLD) オランダ疾病レポートの使い方」

[登録番号]

保険取扱機関の登録番号を入力します。この情報は保険取扱機関から取得します。オランダの疾病レポートで使用する取扱機関については、[登録番号] フィールドの指定は必須です。

(USA) [アメリカ]**[事業主 ID 番号]**

会社に関連付けられた固有の連邦事業主 ID 番号 (EIN) を指定します。この番号は、州法人税テーブル コンポーネントの州源泉徴収の事業主 ID のデフォルト値になります。

注: 同じ EIN を使って複数の会社を設定する場合は、TAX810XX、TAX860XX、TAX002XX など四半期レポートを、これらの合計を累計するように修正する必要があります。

年次 W-2 レポートを作成する場合には、W-2 レポート会社の機能を使って、従業員の残高をまとめることができます。

[FLSA 適用]

公正労働基準法が適用される従業員が、超過勤務手当について FLSA レートを計算する必要がある場合は、このチェック ボックスをオンにします。FLSA レートを計算する必要がない公正労働基準法が適用される従業員が含まれる支給グループがある場合は、支給グループの [FLSA 適用] チェック ボックスをオフにします。

会社テーブルの [FLSA 適用] をオフにすると、支給グループ テーブル (PAYGROUP_TABLE) の [FLSA 適用] が非表示になるため、全支給グループに対して FLSA 計算が適用できなくなります。

このチェック ボックスをオンにした場合は、[FLSA ルール] グループ ボックス内のオプションも選択し、FLSA に基づいて算出された割増しを超過勤務手当に対して適用する方法と場合を指定します。

[FLSA/契約]

FLSA 割増しは、契約レートより高い場合にのみ、適用されます。

[常に FLSA 割増を適用]

契約レートに関係なく、FLSA 割増し額を使います。

[連邦準備銀行 ID]	アメリカの貯蓄債券発行データを処理する際に、このフィールドが使用されます。連邦準備銀行 (FRB) によって、この会社に割り当てられた FRB ID を入力します。
[連邦準備銀行地区]	アメリカの貯蓄債券発行データを処理する際に、このフィールドが使用されます。連邦準備銀行地区を選択し、債券を発行する FRB を指定します。
[雇用機会均等会社コード]	アメリカ連邦政府によって会社に EE0-1 や VETS100 レポート用のコードが割り当てられている場合は、その番号を入力します。
(AUS) [オーストラリア]	
[給与税支払義務]	デフォルトの給与レートコンポーネントが課税対象かどうかを指定します。このチェックボックスをオンにすると、州給与税ページ (PKG_PYTX_RT_TBL) で設定した州の給与税率が、給与パッケージ処理が行われた従業員の給与計算に使用されます。
[TEC 給与レートコード]、 [TPV 給与レートコード]	給与パッケージ登録で使用するデフォルトの TPV 給与レートコードと TEC 給与レートコードを指定します。 給与レートコードは給与レートコード ページ (COMP_RATECD_TBL) で設定します。
[教育機関コード]	このグループ ボックスは、“インストール テーブル” の国別指定ページで [教育/公的機関] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ表示されます。DETYA レポートに必要な教育機関コードを入力します。レポート作成に必要な教育機関情報を管理するために使われます。また、この情報が必要なページでは、デフォルト値となります。
[機関コード]	このグループ ボックスは、“インストール テーブル” の国別指定ページで [教育/公的機関] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ表示されます。会社の機関コードを入力します。
(NZL) [ニュージーランド]	
[分類ユニット]	会社の分類ユニットを入力します。この情報は、分類ユニット テーブル ページ (CLS_UNT_TBL_NZL) から取得されます。このデータは、事故障害リハビリ補償保険 (ARCI) の事業主保険料の計算に使われます。
(MEX) [メキシコ]	
[会社設定]	会社の事業活動を定義します。財務、医薬、製造、サービス、旅行、販売などの値を入力します。
[RFC]	会社の RFC ID を入力します。 メキシコの財務省 (Secretaria de Hacienda y Credito Publico) では、RFC ID で会社を識別します。社会保障、税、給与関連のレポートで RFC ID が使われます。
[INFONAVIT ID]	会社の INFONAVIT ID を入力します。
[% 貸付補助金]	貸付補助金の率を入力します。この値は、連邦税の計算に使われます。
[氏名]	会社の法定代表者の氏名を入力します。
[RFC]、[CURP]	法定代表人者について、それぞれの値を入力します。

(BRA) [ブラジル]

[申告者区分] 事業所の法定区分を入力します。この情報は、レポート作成のために使います。

[SIMPLES オプション] 会社の拠出額を請求書作成後の実際の請求拠出額に置き換えるための SIMPLES 値を選択します。

(MYS) [マレーシア]

[整理番号] 会社の税整理番号 (会社 C ファイル番号) を入力します。この番号は、マレーシアの年税控除明細 CP159 レポート (GPMYTX05) に使われます。

[登録番号] マレーシア政府によって割り当てられた、会社を一意に識別するための登録番号を入力します。この番号は、CP39 月次税控除明細の電子フォーム (GPMYTX04) に使われます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 報酬管理、「報酬管理の設定」、「給与レートコードの設定」

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook

(BEL) デフォルト情報と給与係数の入力

Claeys ページにアクセスします。

Claeys デフォルト			
年功係数:	<input type="text"/>	年間給与係数:	<input type="text"/>
年齢係数:	<input type="text"/>	削減月数:	<input type="text"/>
訂正係数:	<input type="text"/>	Claeys 給与限度額:	<input type="text"/>
給与係数			
時間/年係数:	<input type="text"/>	月/年係数:	<input type="text"/>
週/年係数:	<input type="text"/>	年/年係数:	<input type="text"/>

Claeys ページ

[Claeys 給与限度額] Claeys 計算を適用する給与限度額を入力します。

[時間/年係数] 従業員の時間給与額を計算し、その金額を基にして年間合計額を計算する場合に、時間/年係数を入力します。

[月/年係数] 従業員の月間給与額を計算し、その金額を基にして年間合計額を計算する場合に、月/年係数を入力します。

[週/年係数] 従業員の週間給与額を計算し、その金額を基にして年間合計額を計算する場合に、週/年係数を入力します。

[年/年係数]

年間合計額を計算する場合に、年/年係数を入力します。

注: ベルギーの年係数は 13.85 に設定されています。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「(BEL) ベルギー従業員の追加データの入力」

(BEL) 取扱機関とセットID の関連付け

取扱機関ページにアクセスします。

取扱機関						
セットID	機関 ID	名称	関係会社	登録番号		
1					+	-

取扱機関ページ

[セットID]、[機関 ID]

オプション リストから値を選択します。リストにはベルギーの取扱機関だけでなく、有効な取扱機関が全て表示されます。

[関係会社]

関係会社があれば、それを入力します。

[登録番号]

登録番号があれば、それを入力します。

(USA) チップ割り当ての設定

“チップの処理” ページにアクセスします。

チップの処理

☐ チップの処理

チップ割当管理

*チップ割当事業所フィルタ:

職務勤務地

チップ率の下限:

8.000000

*チップの割当方法:

受領総額

チップ割当支給コード:

チップ支給管理

☐ 源泉徴収を繰延

☒ 最低賃金に調整

最低賃金調整支給コード:

チップ クレジット支給コード:

“チップの処理” ページ

[チップの処理]

チップの処理機能を使う場合に、このチェック ボックスをオンにします。チップを受け取った従業員から所定の支給期間内のチップ金額として報告され

た金額が、その支給期間に会社が受け取った総額に対する所定の率より少ない場合は、チップ割り当てが必要です。

[チップ割当管理]

以下の値は、チップ割当事業所ページ (TIPS_ESTAB_TBL) にロードされます。

[チップ割当事業所フィールド]

チップが発生する事業所を指定します。チップ割り当ては各事業所に対して行われます。事業所とは、レストランやホテルなどの独立した場所を指します。15 件のレストランを経営している会社の場合、チップはレストランごとに割り当てられます。この値は、チップ割当事業所ページで上書きできません。

[チップ率の下限]

従業員に分配されるチップ率の下限を入力します。連邦政府の規定率は 8% です。事業所のチップ率が 8% より低いことが文書で証明できれば、事業主はそれより低い率を申請できます。この値は、チップ割当事業所ページで上書きすることができます。

注: [チップ率の下限] の値は、連邦および州の規定に基づいています。

[チップの割当方法]

この会社で使うチップの割り当て方法を指定します。割り当て方法として [労働時間] を使えるのは、支給期間中の従業員が 25 人未満 (チップを受け取る従業員も受け取らない従業員も含む) の事業所だけです。この値は、チップ割当事業所ページで上書きすることができます。

[チップ割当支給コード]

チップ割り当て処理で計算された金額を保存するための、支給コードを選択します。この値は、チップ割当事業所ページで上書きできません。

[チップ支給管理]

以下の値は、支給グループ テーブル コンポーネントにロードされます。このコンポーネントでこれらの値を上書きすることができます。

[源泉徴収を繰延]

税テーブルで源泉徴収が適用された各支給について、月間の連邦税および州税申告で 20 ドル超のチップを受け取ったことを従業員が報告するまで、そのチップに対する税の徴収を繰り延べる場合に、このチェック ボックスをオンにします。

[最低賃金に調整]

会社が国税庁と特約を結んでいない限り、このチェック ボックスをオンにします。これにより、チップを受け取った従業員に対して必要な賃金調整が行われ、最低賃金に調整されます。

[最低賃金調整支給コード]

賃金とチップの合計が法定最低賃金より低い場合に使用される支給コードを選択します。

[チップ クレジット支給コード]

チップ クレジットを保存するための支給コードを選択します。チップ クレジットとは、報告されたチップのうち、連邦政府の最低賃金の支払いに使われる分を特定するための "メモ支給 (Memo Earnings)" です (州の最低賃金が連邦の最低賃金より高い場合は、州の最低賃金が使われます)。

(CAN/USA) 一般会計の勘定コードの入力

"会社テーブル" のデフォルト設定ページから一般会計負債勘定ページにアクセスします。

一般会計負債勘定

純支給額:

自動振込:

従業員前払

FWT:

EIC 前払:

FICA OASDI:

FICA メディケア:

事業主前払

FICA OASDI:

FICA メディケア:

FUT:

☐ 経費の配分

一般会計負債勘定ページ

各負債の組み合わせコードを選択します。

このページの [純支給額] フィールドおよび [自動振込] フィールドは、アメリカとカナダの両方に使用できます。負債の組み合わせコードは、アメリカの税務会計情報にのみ関連しています。カナダの会社では、賃金損失補償プラン テーブルを使って、一般会計の税務会計情報を入力します。

[経費の配分]

複数の職務を持つ従業員などが支給を受けている出向元の部門とそれ以外の部門間で福利厚生を経費を配分する場合に、このチェック ボックスをオンにします。従業員への支給総額に対する各部門での支給額の割合に基づいて、福利厚生を経費が配分されます。このチェック ボックスをオフにした場合は、全ての経費は従業員の出向元の部門に配分されます。

(USA) FICA と税情報の入力

“会社テーブル” のデフォルト設定ページから税詳細ページにアクセスします。

税詳細	
残高処理 共通給与マスタ ID: <input type="text"/> 他の共通 ID: <input type="text"/>	税申告タイプ* <input checked="" type="radio"/> W-2 または管轄地域 <input type="radio"/> W-2PR <input type="radio"/> 1099R <input type="radio"/> 非従業員 <input type="radio"/> なし
FICA ステータス - 事業主 <input checked="" type="radio"/> 対象 <input type="radio"/> 対象外 <input type="radio"/> マイクアのみ対象	FICA ステータス - 従業員 <input checked="" type="radio"/> 対象 <input type="radio"/> 対象外 <input type="radio"/> マイクアのみ対象
SDI ステータス - 従業員 <input checked="" type="radio"/> 対象 <input type="radio"/> 対象外	<input type="checkbox"/> FUT 免税 <input type="checkbox"/> SUT 免税

税詳細ページ

[残高処理]

2 社以上の関連会社が、1 人または複数の従業員を同時に採用し、その関連会社の中の 1 社が共通給与マスタとして支給を行う場合に、[残高処理] グループ ボックスのフィールドを使用します。これらのフィールドを使用すると、給与計算を行う際に、複数の会社の従業員残高を 1 つの残高として同時に処理することができます。

支払の必要のある社会保障税とメディケア税の総額は、従業員が 1 つの事業主（共通給与マスタ）に雇用されており、そこから給与の全額を支給されている場合と同様の方法で計算されます。また、特定の制限が満たされたかどうかを判断する際には、共通給与マスタに関連付けられた全ての会社の残高が認識されます。そのため、手動で従業員の残高を計算する必要はありません。

[共通給与マスタ ID]

共通給与マスタ ID を入力し、それを共有する会社について、全従業員の税金、控除、差し押え、および支給の残高を 1 つにまとめて処理するように指定します。

[他の共通 ID]

他の共通 ID を入力し、それを共有する会社について、全従業員の控除、差し押え、および支給残高を 1 つにまとめて処理するように指定します。

通常、税とは別の目的で会社を管理し、セクション 415 制限、年間累計控除額の上限、および年間支給額の上限を計算するために、全社の現在の従業員残高を正確に把握しておく必要がある場合に、他の共通 ID を使用します。有給休暇残数は、共通給与マスタ ID または他の共通 ID の処理には含まれません。

[税申告タイプ]

このグループ ボックスでの設定は、年度末の税申告プログラムに使用されます。適切な従業員グループ（W-2 の受取人または 1099R の受取人のどちらか）、または非従業員を選択し、数種類ある年度末税申告レポートのいずれかに含めます。

注: Payroll for North America を使い、プエルトリコ用にフォーム W2PR を作成するには、申告対象の税年度中に 1 社または数社でプエルトリコの従業員に対して給与が支給されていることが必要です。税の申告を適切に行うには、プエルトリコの各従業員の自宅住所の国コードは "USA"、州コードは "PR" にそれぞれ設定されている必要があります。

注: 年度末申告に退職者を含めるには、別の 1099-R 対象の会社を設定する必要があります。

- [FICA ステータス - 事業主]

このフィールドは、参照専用です。
- [FICA ステータス - 従業員]

このグループ ボックスの情報は、“職務データ” の職務情報ページ (JOB_DATA_JOBCODE) でデフォルト値として表示されます。
- [SDI ステータス - 従業員]

SDI ステータスに [対象外] が指定されていない州の場合は、従業員の SDI ステータスがデフォルト値として表示されます。
- [FUT 免税]

FUT 免税会社の場合、このチェック ボックスをオンにします。
- [SUT 免税]

SUT 免税会社の場合、このチェック ボックスをオンにします。

電話番号情報の入力

電話番号ページにアクセスします。

会社所在地(L) デフォルト設定 電話番号(P) ルール定義(R)

会社コード: KD1

電話番号/アクセス コントロール

有効日: 1980/01/01 ステータス: アクティブ 行に移動

名称: Continental Commerce - Germany

アクセス コントロール

産業: 主要産業 ☒ ユーザー産業上書き

産業セクター: 主要セクター

▼ フランス

労働協約:

電話連絡先

電話番号 147*	電話	国際プレフィックス
1 勤務先	089 99123456	049
2 FAX	089 99123401	049

“会社テーブル” - 電話番号ページ

- [プロセス コントロール]
- [ユーザー産業上書き]

ユーザー産業を上書きできるかどうかを指定します。
- (FRA) [フランス]
- [労働協約]

リストから労働協約コードを選択します。

[電話番号タイプ]、[電話] 勤務先や自宅などの電話番号タイプと電話番号を指定します。これらのフィールドは有効日で管理されており、またスクロールもできるので、複数の電話番号の入力や履歴データの管理が可能です。

会社ルールの定義

ルール定義ページにアクセスします。

The screenshot shows the 'Rule Definition' page for company 'K1G'. The 'FTE Fraction' field is set to '2'. The 'Status' is 'Active'. The 'Effective Date' is '2007/03/24'. The 'Payee FTE Fraction' is also set to '2'. The 'Country' is 'France'.

ルール定義ページ

[FTE 小数部桁数] FTE を計算する際に使用される小数部の桁数を入力します。

注: このフィールドを 0 (ゼロ) または空白のままにすると、入力した時間数や常勤/パートタイムのステータスに関係なく、職務データ コンポーネントでの FTE 計算はデフォルトで 1 に設定されます。

(FRA) [フランス]

[支給対象 FTE 小数部桁数] 支給のために FTE を計算する際に使用される小数部の桁数を入力します。

事業所の定義

事業所を定義するには、事業所コンポーネント (ESTABLISHMENT_DATA) および管理対象事業所サマリコンポーネント (CONTROLLED_ESTABS) を使用します。事業所コンポーネントの各テーブルへのデータロードには、ESTABLISHMENT_DATA コンポーネント インターフェイスを使用します。

このセクションでは、事業所の概要と以下の方法について説明します。

- 事業所のプロフィールの作成
- 事業所の電話番号の作成

事業所について

事業所コンポーネントでは、異なる場所で営業を行っている各事業所を定義し、住所や法定書類情報を入力します。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、会社の業務の法定要件を満たすように事業所を定義します。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で定義される事業所は、次のような特徴があります。

- 住所が指定されている。
- 会社に関連付けられている。
- 法定書類で使用される。

事業所は、必ずしも 1 つの建物や場所に存在している必要はなく、工業団地やオフィス パークである場合もあります。ただし、一般的にはまとまった 1 つの単位として申告される場所や施設を指します。

事業所は、たとえば以下の書類で使われます。

- アメリカの職業上の疾病/障害の記録 (Occupational Illness and Injury Record keeping) (OSHA 200) および均等雇用機会/差別撤廃措置 (Equal Employment Opportunity/Affirmative Action) に関する法定提出書類
- フランスの社会保障および経営統計に関する法定提出書類

注: (USA) AAP レポートをサポートするために、所在地と事業所には多対多の関係を設定できます。所在地と事業所の関係設定には、“所在地” のプロフィール ページ (LOCATION_TBL2_GBL) を使用します。“所在地” のプロフィール ページでは、その所在地の有効日の時点で有効な事業所のみが使用可能です。事業所住所ページで、事業所に関連付けられた所在地を表示します。

事業所の定義に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
事業所住所	ESTAB_TBL1_GBL	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[事業所]、[事業所住所] • [職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[法定要件データ定義]、[事業所]、[事業所住所] 	各事業所について、名称、法定区域、住所などの情報を入力し、プロフィールを作成します。
電話番号	ESTAB_TBL2_GBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[事業所]、[電話番号]	事業所の電話番号、FAX 番号、その他の関連する電話番号を入力します。
管理対象事業所	CONTROLLED_ESTABS	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[管理対象事業所サマリ]、[管理対象事業所]	選択した事業所 (本社ユニット) を管理事業所とする、全ての事業所が表示されます。

事業所のプロフィールの作成

事業所住所ページにアクセスします。

事業所住所電話番号

事業所 ID: PSUNV

事業所住所

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*有効日: 1900/01/01 31

*ステータス: アクティブ

+ -

*名称: PeopleSoft University

住所編集

略称: PSUNV

*法定区域: USA

本社ユニット

会社コード: PSU

PeopleSoft University

国: USA

アメリカ

住所: 4301 Hacienda Blvd.
Pleasanton, CA 94588

▼ スペイン

保険会社コード:

社会保障会社番号

加算マイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

	*事業主 SSN	社会保障制度 ID	事業主 SSN 日付	代表	IA コード	日数 日付	社会保障料減額 ID	資格有効日	
1								31	+ -

事業所住所ページ (1/4)

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

245

▼

フランス

SIREN コード:

120027016

☒ TDS 申告済事業所

閉鎖日:

31

NIC コード:

00019

申告済事業所:

APE コード:

511C

Energy

GRAM 基金 ID:

0033

GRAM Aquitaine

労働協約:

🔍

銀行 ID:

🔍

加納番号/口座番号/RIB キー:

輸送レポート:

輸送レポート日:

31

追加輸送レポート:

追加輸送レポート日:

31

URSSAF コード:

🔍

☒ 年次申告レポート

URSSAF 番号:

ASSEDIC 番号:

必須基本スキーム:

🔍

給与税支払義務:

▼

事業所活動:

AGRIBUSINESS

医療組織コード:

KF2

Internal Medical Service

研修休職コード:

KFV003

General Training Fund

事業所住所ページ (2/4)

事業所資金資格					加算マイズ	検索	最初	1/1	最後
資格番号	名称	機関番号	名称	資金コード	名称				
1 資格番号									

事業所リスク					検索	全件表示	最初	1/1	最後
*リスク コード	AT セクション	コード AT	標準レート	割引レート					
	00								

▼  **メキシコ**

建物: が什番号:

IMSS ゾーン:

IMSS サブゾーン:

IMSS セクター: リスク係数:

賃金ゾーン:

▼  **アメリカ**

セクション B

北米産業分類システム: SIC:

EEO ユニット番号: VETS-100 ユニット番号:

管理事業所 ID: [管理対象事業所](#)

セクション C

☐ EEO-1 従業員 100 人以上 ☐ 前年の EEO-1 レポート ファイル済

☐ EEO-1 関係会社 タウンズ ナンバー:

*EEO-1 官公庁契約業者:

セクション D

☐ 見習研修生雇用

事業所住所ページ (3/4)

セクション E

前年と同住所:

☒ はい ☐ いいえ ☐ 前年度のレポートなし

主要業務内容:

前年と同じ:

☒ はい ☐ いいえ ☐ 前年度のレポートなし

事業所の主要業務内容:

Higher Education

Research

セクション G

証明担当者:

☐ 本社から詳細をコピー

肩書:

氏名:

電話:

FAX 番号:

電子メール アドレス:

所在地

指定日:

1900/01/01

所在地

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

セットID	所在地コード	名称
1		

所在地

事業所住所ページ (4/4)

- [本社ユニット]

事業所を本社として定義するには、このチェック ボックスをオンにします。会社内で少なくとも 1 つの事業所を本社に指定する必要があります。
- [ESP] [スペイン]
- [保険会社コード]

勤務中の負傷に関して、事業所（職業センター）を担当する保険会社コードを選択します。保険会社コードは、保険会社テーブル ページ (INSUR_COMP_CD_ESP) で管理されます。
- [事業主 SSN]

スペイン政府によって割り当てられた、事業主の社会保障番号を入力します。
- [社会保障制度 ID]

社会保障制度 ID を選択します。
- [事業主 SSN タイプ] (事業主社会保障番号タイプ)

従業員との契約タイプを基に、[実習]、[正規]、または [研修] から値を選択します。
- [代表]

[事業主 SSN] フィールドに入力した値が、この事業所（職業センター）の代表番号の場合、このチェック ボックスをオンにします。1 つの事業所（職業センター）には、複数の事業主社会保障番号を指定することができます。

[IA コード] (産業アクティビティ (IA) コード)	IA コードを入力します。このコードは、産業アクティビティ ページ (INDSTRY_ACT_CD_ESP) で管理されます。
[日数タイプ]	有効なオプションから日数タイプを選択します。
[社会保険料減額 ID]	有効なオプションから社会保険料減額 ID を選択します。
[資格有効日]	資格の有効日を入力します。
(FRA) [フランス]	
[NIC コード] (Numero Interne de Classement コード)(内部ファイリング番号)	事業所の NIC コードを入力します。NIC 番号により、同一企業内の事業主が識別されます。
<p>注: SIRET 番号 (Système Informatique pour le Répertoire des Établissements、事業所登録番号) は、INSEE (Institut National de la Statistique et des Études Économiques、国立統計経済研究所) がフランスの企業に割り当てる番号です。INSEE は、フランスの公的統計経済機関です。SIRET 番号は、SIREN 番号と NIC 番号で構成されており、税務当局や社会保障管理当局が企業やその事業主を識別するために使われます。</p>	
[CRAM 基金 ID] (Caisse Regionale d' Assurance Maladie 基金 ID)	CRAM 基金 ID を選択します。CRAM は地方の社会団体に、労災の防止と補償を取り扱っています。CRAM 事務所は、労災関係の補償を管理する各地の CPAM (Caisse Primaire d'Assurance Maladie) 事務所の監督機関です。
[カウンタ番号/口座番号/RIB キー]	カウンタ番号、口座番号、RIB キーの情報を入力します。
[輸送レート]	輸送レートを入力します。輸送レートは法定控除です。事業所ごとにレートが設定されており、毎年 URSSAF が各事業所に通知します。この控除は、地域の交通機関の助成金として、また道路の建設および整備のための資金として使われます。PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでは、ここで入力した輸送レートを使用します。
[輸送レート日]	輸送レートの最終更新日付を入力します。この日付は、PeopleSoft Enterprise Global Payroll for France で提供されている DUCS レポートで使用されます。
[追加輸送レート]	必要に応じて追加輸送レートを入力します。輸送レートは法定控除であり、地方の条例によって定義されます。PeopleSoft Enterprise Global Payroll for France では、ここで入力した追加輸送レートを使用します。
[追加輸送レート日]	追加輸送レートの最終更新日付を入力します。この日付は、PeopleSoft Enterprise Global Payroll for France で提供されている DUCS レポートで使用されます。
[URSSAF コード] (Union de Recouvrement de la Securite Social et des Allocations Familiales コード)、 [URSSAF 番号]	URSSAF のコードと番号を入力します。URSSAF は、フランスの全事業主が社会保障拠出金を納めるように管理する機関です。
[基本スキーム]	DADS の社会保障コードを選択します。
[給与税支払義務]	給与税支払いの義務について、[あり] または [なし] を選択します。

[事業所活動]、[医療組織コード]

事業所活動を入力し、医療組織コードを選択します。医療組織コードは、医療組織ページ ([HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[職場環境保全]、[法定要件 FRA]、[医療組織]) で定義します。これらのフィールドは個人別採用明細で使用されます。

[事業所資金資格]

このスクロール領域には、“年金/準備金の契約” ページで事業所に定義された年金/偶発事故準備金の詳細が表示されます。資格番号リンクをクリックすると、年金/偶発事故準備金の契約定義が表示されます。

[事業所リスク]**[リスク コード]**

リスク コードを入力します。このリスク コードによって、さまざまなレートが関連付けられます。リスク コードを部門レベルで使うと、部門の労働災害レートを指定できます。

[AT セクション] (Section Accident du Travail セクション)(労働災害セクション)

事業所ごとにリスク コードを識別するのに必要な情報が表示されます。

[標準レート]

標準レート情報を入力します。このリスク コードによって、さまざまなレートが関連付けられます。リスク コードを部門レベルで使うと、部門の労働災害レートを指定できます。

(MEX) [メキシコ]

社会保障と税について必要な事業所登録 (Registros Patronal) 情報を入力します。

[建物名]

事業所住所の建物情報を入力します。

[ガイド番号]

IMSS が指定した番号を入力します。ガイド番号は、IMSS にレポートを提出する際、参照用に使われます。

[IMSS ゾーン]、[IMSS サブゾーン]、[IMSS セクター]

事業所の所在地の IMSS ゾーン、IMSS サブ ゾーン、および IMSS セクターを選択します。

IMSS ゾーン、IMSS サブ ゾーン、および IMSS セクターは、支給を行う事務所を示します。

[リスク係数]

IMSS の税金計算に使われるリスク係数を入力します。

[賃金ゾーン]

会社所在地の経済区域を選択します。賃金ゾーンによって最低賃金が決まります。有効値は、[A ゾーン]、[B ゾーン]、および [C ゾーン] です。

(USA) [アメリカ]

以下のアメリカ固有のセクションにデータを入力します。

[セクション B]**[北米産業分類]、[管理事務所 ID]、[SIC] (標準産業分類)、[VETS-100 ユニット番号]**

北米産業分類コード、管理事務所 ID、SIC コード、および VETS-100 ユニット番号について、この事業所に該当するものがあれば、その値を入力します。

[セクション C]

[EEO-1 従業員 100 人以上]、[EEO-1 関係会社]

この事業所に該当する場合は、チェック ボックスをオンにします。

[前年の EEO-1 レポート ファイル済]

デフォルトではオンに設定されています。前年、この事業所について EEO-1 レポートを提出しなかった場合は、このチェック ボックスをオフにします。

[セクション E]

[前年と同住所]

所在地が前年と同じ住所の場合は [はい]、そうでない場合は [いいえ] を選択します。また、前年にレポートを提出しなかった場合は、[前年度のレポートなし] を選択します。

[主要業務内容: 前年と同じ]

業務内容が前年と同じ場合は [はい]、そうでない場合は [いいえ] を選択します。また、前年にレポートを提出しなかった場合は、[前年度のレポートなし] を選択します。

[事業所の主要業務内容]

事業所の主な業務内容を入力します。業務内容は、ページに表示されている 4 行まで入力できます。

[セクション G]

[証明担当者]

証明担当者を選択します。

[本社から詳細をコピー]

本社から詳細をコピーする場合に、オンにします。

[所在地]

[指定日]

特定の時点でこの事業所に関連付けられている所在地を表示する日付を入力します。

[セットID]、[所在地コード]、[名称]

“所在地” のプロフィール ページでこの事業所に関連付けた所在地コードを表示します。

[所在地]

クリックすると、所在地コンポーネントにアクセスします。事業所コンポーネントから移動せずに、所在地コンポーネントを表示できます。

所在地コンポーネントで変更を保存するかキャンセルすると、事業所コンポーネントの画面に戻ります。

関連項目:

第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「所在地の設定」、252 ページ

事業所の電話番号の設定

電話番号ページにアクセスします。

事業所住所

電話番号

事業所 ID:

24200

事業所

検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

名称:

Accord State Univ

有効日:

1990/01/01

ステータス:

アクティブ

電話番号

検索 | 全件表示

最初

1/1

最後

電話番号タイプ:

電話:

+

-

▼

 フランス

事業所連絡先:

電話番号ページ

[電話番号タイプ]、[電話番号] この事業所の電話番号情報を入力します。

(FRA) [フランス]

[事業所連絡先] この事業所の連絡先を選択します。

所在地の設定

所在地を設定するには、所在地コンポーネント (LOCATION_TABLE) および所在地テーブル レポート コンポーネント (RUN_PER705) を使用します。所在地コンポーネントの各テーブルへのデータ ロードには、LOCATION_TABLE コンポーネント インターフェイスを使用します。

このセクションでは、所在地の概要と以下の方法について説明します。

- 会社の所在地の入力
- 所在地プロファイルの設定

所在地について

所在地コンポーネントでは、本社、支店、営業所など、組織の所在地を設定します。PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使っている場合、所在地別にレポートを作成する場合もあるので、所在地情報を設定する際は、そのことも考慮に入れてください。

所在地コンポーネントで定義する情報は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のさまざまなページで参照されます。たとえば、採用管理において応募者の希望勤務地を指定する際に使用されます。キャリア プランでは、研修コースを所在地に割り当てる際に使用されます。

注: (USA) “所在地” のプロファイル ページで法定区域に “USA” を選択した場合、AAP レポートをサポートするために、所在地と事業所には多対多の関係を設定できます。同ページの [アメリカ] セクションで、その関係を設定します。“所在地” のプロファイル ページでは、その所在地の有効日の時点で有効な事業所のみが使用可能です。事業所住所ページで、事業所に関連付けられた所在地を表示します。

所在地の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
住所	LOCATION_TABLE1	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[所在地]、[住所]	本社、支店、営業所などの所在地を入力します。
会社所在地のビジネスユニット	LOC_BU_SEC	住所ページの [このセットID を使用するビジネス ユニット] リンクをクリックします。	このセットID を使用するビジネス ユニットのリストが表示されます。
電話番号	BUS_PHONE_SEC	住所ページで [電話番号] リンクをクリックします。	各所在地の電話番号を入力します。
プロフィール	LOCATION_TBL2_GBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[所在地]、[プロフィール]	その所在地に適用される給与管理プラン、税情報、事業所情報、および国別情報などを指定します。
所在地詳細 BRA	LOCATION_TBL_BRA	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[所在地 BRA]、[所在地詳細 BRA]	ブラジルでの所在地の詳細を定義します。
所在地テーブルレポートランコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[所在地テーブルレポート]	所在地テーブルレポート (PER705) を実行します。このレポートには、所在地コード順に所在地が出力されます。所在地は有効日別に定義できるため、過去、現在、および将来の所在地が全て出力されます。

会社の所在地の入力

住所ページにアクセスします。

住所

プロフィール

セットID: SHARE

所在地コード: KCQC00

[このセットID を使用するビジネス ユニット](#)

会社住所

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

*有効日: 1980/01/01

*ステータス: アクティブ

*名称: Montreal Office

略称: Montreal

建物名:

階数:

言語コード: カナダ仏語

[電話番号](#)

国: CAN カナダ

住所: Place Ville Marie
300 St-Catherine Street
Suite 1100
Montreal QC P3F 2W1

住所編集

住所ページ

[建物名] 建物名がある場合は入力します。たとえば、本社がオフィス パークの “第 4 ビル” にある場合はこのビル名を入力します。

[階数] 該当する場合は階数を入力します。

[言語コード] この所在地で使用されている公用語の言語コードを選択します。

[電話番号] 電話番号を入力するには、このリンクをクリックします。

所在地のプロファイルの設定

プロフィール ページにアクセスします。

住所		プロフィール	
セットID:	SHARE	所在地コード:	KCQC00
所在地プロフィール 検索 全件表示 最初 1/1 最後			
名称:	Montreal Office		
有効日:	1980/01/01	ステータス:	アクティブ
給与デフォルト			
セットID:	SHARE	プラン:	
法定区域:	CAN	休日スケジュール:	KC01 Canadian Holiday Schedule
事業所 ID:			
▼ Payroll for North America			
納税地:			
小切手現金化の場所:			
▼ 🇨🇦 カナダ			
国勢調査エリア:	ケベック州モンリオール市		
CEC 管理地域:			
所在地コード:			
オフィス タイプ:			
▼ 🇨🇦 スイス			
自治体コード:			

プロフィール ページ (1/2)

▼ ドイツ	
Tariff:	<input type="text"/>
Tariff 地区:	<input type="text"/> 🔍
代表委員会 ID:	<input type="text"/> 🔍
産業調査 ID:	<input type="text"/> 🔍
▼ スペイン	
従業員最終登録番号:	<input type="text"/>
▼ イギリス	
<input type="checkbox"/> 北アイルランドレポート対象	
▼ アメリカ	
事業所 拡張表示 検索 全件表示 📅 最初 ◀ 1/1 ▶ 最後	
事業所 ID	名称
1 <input type="text"/> 🔍	
+	-
▼ メキシコ	
FONACOT ID 番号:	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 地方税	FONACOT 事務所: <input type="text"/>
	特別地方税: <input type="text"/>

プロフィール ページ (2/2)

[プラン]

給与プラン コンポーネントで作成した有効値の中から、該当する給与管理プランを選択します。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「基本報酬管理と予算計画の設定」、「給与プラン、給与等級および給与ステップの設定」

給与管理プランを所在地に関連付けておくと、同じ職務コードの従業員の
間で、通貨や生活費の違いを把握するのに役立ちます。所在地別に給与
管理プランを区別する必要がない場合は、このフィールドを空白にしてお
きます。

注: 選択できるのは、給与プラン コンポーネントで選択したセットID に関連付けられているプランに限ります。このページで選択した給与管理プランは、この所在地の従業員の職務データ コンポーネントでデフォルト値として使用されます。このページで給与管理プランを選択しない場合は、[職務コード テーブル] で入力した給与管理プランが使われます。

参照: 第 13 章、「職務の設定」、「職務の分類」、285ページ

[法定区域]

この所在地に関連する法定区域を入力します。

注: (USA) 法定区域に “USA” を選択した場合、[事業所 ID] フィールドは非表示になります。この所在地を事業所に関連付けるには、このページの [アメリカ] セクションにある [事業所] グリッドを使用します。

[休日スケジュール]

この所在地の休日スケジュールを選択します。

注: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使用している場合、このページの休日スケジュールは参照専用です。割り当てられた支給グループによって、処理対象の休日スケジュールのデフォルト値が決まります。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「休日スケジュールの設定」、215 ページ

[事業所 ID]

この所在地に関連付ける事業所 ID を選択します。

注: (USA) 法定区域に "USA" を選択した場合、[事業所 ID] フィールドは非表示になります。所在地がアメリカである事業所については、このページの [アメリカ] セクションで設定します。

[Payroll for North America]

[納税地]、[小切手現金化の場所]

納税地と小切手現金化の場所を入力します。このフィールドは参照専用です。

(CAN) [カナダ]

[国勢調査メトロ エリア]

カナダ統計局によって規定された、この所在地の国勢調査メトロ エリア (CMA) コードを選択します。CMA は人口 10 万人以上の都市の主要労働市場を指します。このフィールドは必須フィールドです。

[CEC 管理地域] (カナダ雇用センター管理地域)

オプション リストから値を選択します。

[所在地コード]

カナダ統計局によって定義された所在地コードを入力します。

注: (CAN) 公用語法 (Official Languages Act) が適用される組織の場合は、[所在地コード]、[オフィス タイプ]、"TBS (財務委員会) コード"、"首都圏" の各フィールドの情報を、カナダ政府に提出する公用語レポート (PER102CN と PER108CN) の一部として使います。軍機能のインストールの場合、所在地 MIL コンポーネントの最初のページに入力した所在地コードが、カナダ セクションの所在地コードにコピーされます。

(CHE) [スイス]

[自治体コード]

デフォルト値は、所在地の郵便番号に対応する自治体コードです。この所在地がある州の有効な自治体コード リストから別のコードを選択できます。

(DEU) [ドイツ]

[Tariff]

tariff (この所在地での業務タイプ) を入力します。たとえば、金融業、小売販売業、印刷業、製材業などです。

[産業調査 ID]

必要に応じて、有効値リストからこの所在地の産業調査 ID を選択します。産業調査コードは保険事故/疾病レポートに出力されます。このレポートは、安全衛生モニター管理ビジネス プロセスで作成され、従業員の勤務中に起きた事故や疾病が記録されます。

注: 職務データ コンポーネントで従業員の勤務地を入力する際、所在地コンポーネントで入力した所在地の値に基づいて [Tariff] および [Tariff 地区] のデフォルト値が決まります。

職務データ コンポーネントで従業員の勤務地および労働タイプを入力する際は、[代表委員会 ID] および [経営協議会 ID] の各フィールドに自動的に値がロードされます。これらの値は、“職務データ” の勤務地ページ (JOB_DATA1) での従業員の勤務先所在地、および労働組合情報ページ (JOB_LABOR) の労働タイプ (管理職または非管理職) の値に基づいています。

(ESP) [スペイン]

[従業員最終登録番号] スペイン政府は、各従業員に固有の従業員登録番号を割り当てることを事業主に義務付けています。この番号は法定レポートに使用します。番号の重複を避けるため、このフィールドで、最終登録番号の更新と保存が行われます。

(GBR) [イギリス]

[北アイルランド レポート対象] 北アイルランド レポート対象の所在地の場合、このチェック ボックスをオンにします。この所在地の従業員は、北アイルランドの所属コミュニティレポート (Fair Employment Monitoring Return) の対象になります。

(USA) [アメリカ]

[事業所 ID] この所在地について、1 つまたは複数の事業所 ID を選択します。

指定された事業所と所在地の関係は、差別撤廃措置プラン、雇用機会均等 (EEO)、職業安全衛生管理局 (OSHA)、およびその他の米国連邦政府の法定提出書類に使います。

その所在地の有効日の時点で有効な事業所のみが使用可能です。

[職務データ] の [勤務地] ページで、所在地および事業所を従業員に割り当てます。選択した所在地に割り当てられた事業所のみ選択できます。

注: 事業所の [名称] が空白の場合、その事業所は、最初にその所在地に割り当てた後で非アクティブになっています。

注: 事業所住所ページで、事業所に関連付けられた所在地を表示できません。

(MEX) [メキシコ]

[FONACOT ID 番号] 所在地の FONACOT ID を入力します。FONACOT とは、労働者消費推進保証基金のことです。

[FONACOT 事務所] 最寄りの FONACOT 事務所を指定します。

[地方税] 所在地の州が Chihuahua の場合は、このチェック ボックスをオンにします。

[特別地方税] 所在地の州が Chihuahua の場合、このフィールドのデフォルト値は Ciudad Juarez になります。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook

軍の所在地の設定

軍の所在地を設定するには、所在地コード MIL コンポーネント (GVT_LOCATION_TBL) と所在地 MIL コンポーネント (LOCATION_TABLE_MIL) を使用します。

このセクションでは、軍の所在地を設定する方法について説明します。

軍の所在地の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
所在地 MIL - 所在地住所	LOCATION_TABLE_MIL	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[組織構造]、[所在地 MIL]、[所在地住所]	軍の所在地を入力して、 所在地コードに関連付 けます。

軍の所在地の入力

所在地 MIL - 所在地住所ページにアクセスします。

所在地住所(A)

所在地プロフィール(P)

セットID: SHARE

所在地コード: KUMILUS08

[このセットID を使用するビジネス ユニット](#)

会社住所

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

*有効日: 1980/01/01 31

*ステータス: アクティブ

*名称: Honolulu, HI

略称: Honolulu

建物名:

階数:

言語コード: 英語

[電話番号](#)

所在地コードUSF: 152400003

HONOLULU

HI

国: USA

アフリカ

住所: Honolulu, HI 96801

Honolulu

[住所編集](#)

所在地 MIL - 所在地住所ページ

[所在地コード USF] 所在地コードを選択します。

参照: 第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「会社の所在地の入力」、253ページ

会社所在地の設定

会社所在地を設定するには、会社所在地テーブル コンポーネント (COMP_LOC_TBL) を使用します。
このセクションでは、会社所在地の設定方法について説明します。

会社所在地の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
会社所在地テーブル	COMP_LOC_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[組織構造]、[会社所在地]、[会社所 在地テーブル]	経営協議会 ID を会社と所 在地に関連付けます。

会社所在地の設定

会社所在地テーブル ページにアクセスします。

会社所在地テーブル

会社コード:GD3

セットID:DEU01

所在地コード:KD915Zweigstelle Brandenburg

会社所在地

検索 | 全件表示 | 最初1/1 | 最後

有効日:1980/01/01

経営協議会 ID:KDWC00915Works Council Berlin

ドイツ

代表委員会 ID:

社会保険ユニット:

会社所在地テーブル ページ

- [経営協議会 ID]

この会社および所在地の従業員を代表する経営協議会の ID を選択します。
- (DEU) [ドイツ]
- [代表委員会 ID]

経営協議会の代表委員会 ID を選択します。
- [社会保険ユニット]

社会保険ユニットを選択します。

部門の管理

部門を管理するには、部門コンポーネント (DEPARTMENT_TBL) および部門テーブル レポート コンポーネント (RUN_PER701) を使用します。このコンポーネントの各テーブルへのデータ ロードには、DEPARTMENT_TBL コンポーネント インターフェイスを使用します。

このセクションでは、部門の概要と以下の方法について説明します。

- 部門の基本情報の定義
- 特定ユーザーの部門情報の有効化と管理

部門について

会社および所在地データを定義したら、部門コンポーネントで組織内の部門を定義します。PeopleSoft Enterprise Payroll for North America または PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使っている場合は、賃金を負担するコスト センターに対応する部門コードを設定する必要があります。PeopleSoft Enterprise Pension Administration を使っている場合は、年金受給者のための部門も必要です。受給者全員を 1 つの部門にまとめて管理することもできますが、申告に便利のように、部門構成を使って受給者を管理することもできます。いずれのシステムも使用していない場合は、どのように部門を設定してもかまいません。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、部門の定義と表示を行う部門コンポーネントへのアクセス方法が 2 つあります。

- [HRMS 基本設定] メニューからのアクセス
- PeopleSoft ツリー マネージャからのアクセス

このセクションでは、[HRMS 基本設定] メニューにある部門コンポーネントの使用方法について説明します。

部門セキュリティ ツリーによるデータ権限セキュリティの使用

PeopleSoft では、PeopleSoft ツリー マネージャを使用してセキュリティ階層を構築し、従業員が所属する部門に基づいて、個人データへのアクセスを許可または拒否することができます。部門セキュリティ ツリーを使用してデータ アクセスを管理する場合は、部門コンポーネントへのアクセス方法に関係なく、作成する各部門を有効な部門セキュリティ ツリーに関連付ける必要があります。

また、PeopleSoft Enterprise HRMS では、データ権限セキュリティのその他のフィールドを使用することもできます。

関連項目:

[第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、39 ページ](#)

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Tree Manager

部門の管理とレポートに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
部門プロフィール	DEPARTMENT_TBL_GBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[部門]、[部門プロフィール]	部門の基本情報を定義します。
コミットメント会計/E&G	DEPARTMENT_TBL_CA	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[部門]、[コミットメント会計/E&G]	教育/公的機関のユーザーやコミットメント会計機能を使用するユーザーに特有の部門情報を使用できるように管理します。
部門テーブルレポート-ランコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[部門テーブルレポート]	このページを使って、部門 ID 別に全ての部門の一覧を出力する部門テーブルレポート (PER701) を実行します。

部門の基本情報の定義

部門プロフィール ページにアクセスします。

部門プロフィール

コミットメント会計/E&G

セットID: SHARE

部門: 10000

このセットID を使用するビジネスユニット

部門プロフィール

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

*有効日: 1985/03/22

*ステータス: アクティブ

*名称: Human Resources

略称: HR

所在地セットID: SHARE

Table Set shared across Corp

所在地コード: KUNY00

Corporation Headquarters

会社コード: GBI

Global Business Institute 9999

管理者タイプ

☐ なし
 ☒ 従業員 ID
 管理者 ID: KU0005 Reza Aliverdi
 ☐ ホンション
 管理者のホンション コード:
 従業員 ID:

予算年度終了月日:

*予算レベル: 部門






Payroll for North America

納税地:

部門プロフィール ページ (1/3)

▼  ベルギー	
業界委員会:	<input type="text"/> 
NACE コード:	<input type="text"/>
▼  カナダ	
産業セクター:	<input type="text"/> 
NAICS コード:	<input type="text"/>
▼  ドイツ	
納税地コード:	<input type="text"/> 
事故障害保険コード:	<input type="text"/> 
危険コード:	<input type="text"/> 
社会保険の事故番号:	<input type="text"/>
▼  フランス	
事業所 ID:	<input type="text"/> 
リスク コード:	<input type="text"/> 
	AT セクション <input type="text"/> 
▼  アメリカ	
雇用機会均等機能:	<input type="text" value="財政官庁"/>

部門プロフィール ページ (2/3)

▼  ニュージーランド	
分類ユニット:	<input type="text"/> 
▼  オーストラリア	
高等教育機関	
組織ユニット:	<input type="text"/> 
業務分野:	<input type="text"/>
オーストラリア公的機関	
機関コード:	<input type="text"/>
▼  メキシコ	
コスト センター:	<input type="text" value="610000"/>

部門プロフィール ページ (3/3)

[有効日]

[HRMS 基本設定] メニューから部門コンポーネントにアクセスして新規部門を追加する場合は、その有効日をセキュリティ ツリーの有効日より前、または同一日に設定します。

[名称]

Payroll for North America を使用していて、従業員の職務レコードで指定された部門を使って小切手の発行場所を指定する場合、その部門の名称とコードが小切手に自動的に出力されます。

[所在地コード]	部門の所在地を指定します。所在地コードの値は、所在地コンポーネントで管理します。
[会社コード]	この部門が属する会社のコードを指定します。指定した会社コードは、この部門に所属する全従業員の職務レコードでデフォルトとして使用されます。従業員をこの部門に追加すると、その従業員は、その部門が属する会社の従業員でもあると見なされます。ここで会社コードを入力しない場合は、職務データ コンポーネントで入力できます。ただし、ここで入力した会社コードを職務データ コンポーネントで変更することはできません。
[管理者タイプ]	
部門の管理者を指定しない場合、[なし] を選択します。管理者を指定する場合は、[従業員 ID] を選択して [管理者 ID] を入力するか、[ポジション] を選択して [管理者のポジション コード] を入力します。ポジション管理を部分的に使っている、つまり組織の一部のみでポジションを使用している場合は、どちらを選択してもかまいません。	
[管理者 ID]	[従業員 ID] を選択した場合、このフィールドが入力可能になります。管理者の ID を選択します。ここで選択する管理者 ID は、この部門に所属する全従業員の職務レコードで、デフォルトの監督者 ID として使用されます。さらに階層が複雑な場合には、デフォルト値を上書きして調整します。
[管理者のポジション コード]	[ポジション] を選択して、この部門のポジションが既に作成されている場合、管理者のポジション コードを選択します。このフィールドは必ず入力が必要なわけではありませんが、入力しておく、部門階層データなどのレポート作成の際に役立ちます。 [従業員 ID] フィールドには、現在そのポジションに就いている従業員の氏名と従業員 ID が表示されます。
注: ポジションには、どのポジションでも選択できるようになっています。検索画面でこの部門のポジションだけが表示されるようにしたい場合は、PeopleSoft アプリケーション デザイナで DEPT_TBL を更新し、このフィールドのプロンプト テーブルを DEPT_POSITIONS に設定します。	
[予算年度終了月日]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で予算を処理している場合は、予算年度の最終月日を入力します。この日付がこの部門の全てのポジションに適用されます。
[予算レベル]	この部門に定義される予算レベルを、[部門]、[職務コード]、[ライン項目]、[ポジション]、[なし] の中から選択します。
[Payroll for North America]	
[納税地]	部門の納税地域を指定します。入力した納税地コードは、この部門の従業員の税配分ページ (TAX_DISTRIBUTION または TAX_DIST_CAN) にロードされます。この情報は、従業員ごとに上書きできます。

(BEL) [ベルギー]**[業界委員会]**

会社に適合する業界委員会を選択します。これは、必要に応じて部門レベルで上書きできます。

[NACE コード]

会社の NACE コードを入力します。

注: NACE コードは、グループ レベルで 5 桁、クラス レベルで 6 桁、およびサブクラス レベルで 7 桁です。

(CAN) [カナダ]**[産業セクター]**

この部門の従業員が所属する産業セクターのコードを選択します。このコードはカナダの雇用機会均等レポートで使われます。

[部門コード CAN] (カナダ雇用統計用部門コード)

カナダの教職員調査で報告される 3 文字のコードを入力します。このフィールドは、高等学位を授与するカナダの機関のみが対象です。

[教職コード CAN] (カナダ雇用統計用教職コード)

教職と部門を関連付けるコードを選択します。教職コードは、教職コードテーブルで設定され、医療カテゴリと教職の関連付けに使用されます。この部門に関連付けられている教職コードによって、カナダ教職員調査で報告される医療カテゴリが特定されます。このフィールドは、高等学位を授与するカナダの機関のみが対象です。

(DEU) [ドイツ]**[納税地コード]**

コードを選択します。

注: 納税地コードが Payroll for North America の給与計算処理に及ぼす影響の詳細については、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America のドキュメンテーションを参照してください。

注: [事故障害保険コード]、[危険コード]、および [社会保険の事故番号] の各フィールドは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の安全衛生モニター管理のビジネス プロセス機能を管理するために使われます。

(FRA) [フランス]**[事業所 ID]**

この部門の事業所 ID を選択します。フランスの社会保障管理局では、特定の事業所で過去 3 年間に起きた労働事故数に基づいたリスク コードを指定します。各事業所は、事業所内で発生した労働事故数に応じて労働災害基金に拠出する義務があります。労働事故の発生件数が多いほど、拠出負担額が多くなります。

Global Payroll for France を使用している場合、このフィールドは必須です。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のポジション管理を使用している場合は、このフィールドの値が従業員の職務レコードにデフォルトとして使われます。

[リスク コード]

リスク コードのリストから値を選択します。ここで入力するリスク コードに基づいて、フランスの社会保障基金への拠出金の率を部門レベルで設定します。

[AT セクション]

[リスク コード] フィールドで選択したリスク コードに対する AT セクションを選択します。リスク コードと AT セクションは、事業所に対して定義されます。事業所に対して複数の AT セクションが定義されている場合は、使用する AT セクションをこのフィールドで指定します。

(USA) [アメリカ]

[雇用機会均等機能] (米国雇用機会均等 04 機能)

この部門に該当する機能カテゴリ (健康、消防保障など) を選択します。ここで選択するオプションは、米国連邦政府に提出する雇用機会均等に関するレポートに影響します。

(NZL) [ニュージーランド]

[分類ユニット]

会社の分類ユニットを入力します。この情報は、分類ユニット テーブルから取得されます。このデータは、事故障害リハビリ補償保険 (ARCI) の事業主保険料の計算に使われます。

(AUS) [オーストラリア]

以下のフィールドは、“インストール テーブル” の国別指定ページで [教育/公的機関] チェック ボックスがオンになっている場合にのみ表示されます。

[組織ユニット]

該当する高等教育機関のユニット コードを入力します。

[機関コード]

この部門の 4 桁のオーストラリア公的機関コードを入力します。

特定ユーザーの部門情報の有効化と管理

“コミットメント会計/E&G” ページにアクセスします。

部門プロフィール **コミットメント会計/E&G**

セットID: DEU01 部門: 10003

コミットメント会計/E&G 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日: 2004/01/01 ステータス: アクティブ

*FTE 編集: 編集なし

終身在償権処理

☐ 終身在償権付与可能

コミットメント会計

☐ コミットメント会計/予算機能を使用 *部門予算: 10003

☐ エンカバランス処理を使用

☐ 実績の配分を使用

☐ 勤務管理配分を使用

“コミットメント会計/E&G” ページ

[FTE 編集] (常勤換算編集)

この部門の FTE 最大値を超えたときに表示するメッセージとして、[警告] または [エラー] を選択します。この部門について FTE 編集を実行しない場合は、[編集なし] を選択します。

[終身在職権処理]

[終身在職権付与可能] この部門の有資格の従業員に終身在職権を与えることができる場合に、チェック ボックスをオンにします。

[コミットメント会計]

[コミットメント会計/予算機能を使用] この部門にコミットメント会計処理を使用する場合に、チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、[エンカンバランス処理を使用] と [実績の配分を使用] の両方のチェック ボックスが使用可能になり、デフォルトでオンに設定されます。

[エンカンバランス処理を使用] この部門にコミットメント会計のエンカンバランス処理を使用する場合に、チェック ボックスをオンにします。

[実績の配分を使用] この部門にコミットメント会計の実績配分の処理を使用する場合に、チェック ボックスをオンにします。

[部門予算] 部門グループの累計予算は、ここに入力した部門に集計されます。

ここで入力する部門は、現在定義している部門と同じセットID に含まれ、セキュリティ ツリーの上位に位置している必要があります。たとえば、部門 00010 と 00012 はセキュリティ ツリー上、部門 00005 よりも下位に位置付けられ、同じセットID である場合、部門 00010 と 00012 の [部門予算] に部門 00005 を指定することができます。部門 00010 と 00012 の予算は部門 00005 の予算として 1 つにまとめられます。

参照: 第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「ツリー ベースのデータ権限の設定と割り当て」、80 ページ

[勤務管理配分を使用] このチェック ボックスをオンにすると、PeopleSoft Enterprise 勤務管理に入力したタスク情報が、コミットメント会計の実績の配分処理に取り込まれます。このチェック ボックスは、PeopleSoft Enterprise 勤務管理のユーザーにだけ適用されます。

このチェック ボックスをオンにすると、実績の配分プロセスでは、勤務管理タスクの入力ごとに 1 つずつエントリが作成されます。次に、適切な比率（労働コスト配分に使用されるのと同じ比率）で支給が配分されます。

部門の相互チェックを行う SQR 検証の実行

部門コンポーネントに新しい部門を追加したら、それを必ずセキュリティ ツリーにも追加してセキュリティ 構造に含まれるようにしてください。セキュリティ ツリーを作成したら、SQR 検証 (PER506) を実行して、部門コンポーネントに含まれる部門 ID でセキュリティ ツリーに入っていないものを検出できます。この SQR を実行すると、セキュリティ ツリーに入っていて、部門コンポーネントに含まれていない部門も検出できます。後者の状況は、部門をシステムから削除したときにセキュリティ ツリーからノードを削除しなかった場合などに起こります。

SQR の実行手順は、アプリケーション環境によって異なります。標準の手順が不明なときは、システム管理者に問い合わせてください。

プライマリ権限リストの基本設定

プライマリ権限リストの基本設定を行うには、プライマリ権限リスト基本設定コンポーネント (OPR_DEF_TBL_HR) を使用します。

このセクションでは、プライマリ権限リストの基本設定の概要と以下の方法について説明します。

- テーブルセット共有のデフォルト設定
- 給与計算システムのデフォルト設定

プライマリ権限リストの基本設定について

プライマリ権限リスト基本設定コンポーネントを使用して、定義済みのテーブルセット共有やシステム全体で使用されるデフォルト値を各プライマリ権限リストに設定します。プライマリ権限リストは、“ユーザー プロファイル” の一般ページ (USER_GENERAL) でユーザーに割り当てられます。ユーザーが PeopleSoft Enterprise HRMS にログオンすると、そのユーザーが属している権限リストに対しプライマリ権限リスト基本設定コンポーネントで指定されているビジネス ユニット、セットID、通貨、国、および会社コードなどの値がデフォルトで表示されます。さらに、[グローバル セキュリティの設定] の [グローバル ページ] (SCRTY_TBL_GBL) での設定に従って、プライマリ権限リストにより国別機能へのユーザーのアクセスが制御されます。

関連項目:

第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「国別機能のセキュリティ設定」、120 ページ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Setting Up Permission Lists」

権限リストのデフォルト設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
プライマリ権限リスト基本設定 - デフォルト	OPR_DEF_TBL_HR	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[プライマリ権限リスト基本設定]、[デフォルト]	各プライマリ権限リストに、定義済みテーブルセット共有とシステム全般のデフォルトを設定します。
プライマリ権限リスト基本設定 - 設定	OPR_DEF_TBL_HR2	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[プライマリ権限リスト基本設定]、[設定]	各権限リストに給与計算システムとシステム全般のデフォルトを設定します。

テーブルセット共有のデフォルト設定

プライマリ権限リスト基本設定 - デフォルト ページにアクセスします。

デフォルト		設定
プライマリ権限リスト:	HOPPEG	Primary List - EG
<input type="checkbox"/> フリガナの使用		
*ビジネス ユニット:	EGVBU	Educ & Govt/State
*セットID:	EGVBU	E&G State / Government
*会社コード:	PSU	PeopleSoft University
*国:	USA	アメリカ
法定区域:	USA	アメリカ
*換算先通貨:	USD	アメリカドル
通貨レート タイプ:	OFFIC	Official Rate
氏名フォーマット	イギリス	

プライマリ権限リスト基本設定 - デフォルト ページ

PeopleSoft Enterprise HRMS システムを各ユーザーに合わせて調整し、ページに表示されるデフォルト値を制御することができます。

注: PeopleSoft Enterprise HRMS のプロンプト テーブルに表示される内容は、“テーブルセット コントロール” のレコード コントロール ページによって規制されます。プライマリ権限リストに設定したデフォルト値により、インストール テーブルで同じオプションに対して設定されているデフォルト値が上書きされます。

[フリガナの使用] このチェック ボックスをオンにすると、この権限リストの検索にフリガナを使用できます。

警告: このページで選択した [セットID] フィールドの値は、PeopleSoft Enterprise HRMS システム全体で、この権限リストのビジネス ユニットとセットID のデフォルトに影響します。

関連項目:

第 8 章、「言語の設定と使い方」、「全角文字の使い方」、181ページ

第 2 章、「HRMS について」、「ビジネス ユニット、テーブルセット、およびセットID」、4ページ

第 6 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS の設定とインストール」、「国コードの管理」、142ページ

第 4 章、「法定区域の使い方」、「法定区域とトランザクションの関連付け」、31ページ

第 9 章、「通貨の設定と使い方」、189ページ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Setting Up Permission Lists」

給与計算システムのデフォルト設定

プライマリ権限リスト基本設定 - 設定ページにアクセスします。

デフォルト		設定	
プライマリ権限リスト:		HOPPEG	Primary List - EG
産業:	<input type="text" value="主要産業"/>	産業セクター:	<input type="text" value="主要セクター"/> <input checked="" type="checkbox"/> ID の転記
給与計算情報			
給与計算システム:		<input type="text" value="Payroll for North America"/>	
標準勤務時間			
*デフォルト標準勤務時間:	<input type="text" value="40.00"/>	標準勤務周期:	<input type="text" value="W"/> 週次
標準勤務時間下限:	<input type="text" value="20.00"/>	標準勤務時間上限:	<input type="text" value="40.00"/>
▼ カナダ			
*国勢調査用 ID エリア:	<input type="text" value="ON"/>		
*産業セクター:	<input type="text" value="空輸送業"/>		

プライマリ権限リスト基本設定 - 設定ページ

PeopleSoft Enterprise HRMS システムを各権限リストに合わせて調整し、ページに表示されるデフォルト値を制御することができます。

- [産業]** 米国連邦政府のデータベースである場合は、[官公庁] を選択します。デフォルト値は [主要セクター] です。
- [産業セクター]** 連邦政府のデータベースである場合は、[US 政府] を選択します。デフォルト値は [主要セクター] です。
- [ID の転記]** メニュー全体に従業員 ID 検索キー情報を転記する場合に、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、現在使用している従業員 ID 検索キーが後続のメニューでも使われます。

注: データベースで米国連邦政府機能を十分に活用するには、[産業] フィールドに [官公庁] を指定し、[産業セクター] フィールドに [US 政府] を指定する必要があります。また、“インストール テーブル”の製品ページ (INSTALLATION_TBL1) で、[米国連邦政府機能対応] をオンにする必要があります。

[給与計算情報]

- [給与計算システム]** デフォルトの給与計算システムを選択します。PeopleSoft Enterprise HRMS のテーブルやページで給与計算システムを選択するとき、この権限リストに選択した値に基づいて、[Payroll for North America] または [グローバルペイロール] が表示されます。何も表示させないようにすることもできます。必要に応じて、このデフォルト設定を上書きすることができます。

[標準勤務時間]

- [デフォルト標準勤務時間]** デフォルト値は 40 時間です。ここで入力する値は、ヒューマン リソース管理システムでの従業員の常勤換算 (FTE) の算出方法および給与計算処理に影響します。

[標準勤務周期] 標準勤務周期を選択します。標準勤務周期とは、従業員が標準勤務時間分の勤務を完了しなければならない周期です。標準勤務周期の年次化係数と、デフォルトの標準勤務時間を組み合わせて、常勤換算 (FTE) が計算されます。

[標準勤務時間下限]、[標準勤務時間上限] このセットID に対する標準勤務時間下限と標準勤務時間上限のデフォルト値を入力します。ここで入力する値は、ヒューマン リソース管理システムでの従業員の常勤換算 (FTE) の算出方法および給与計算処理に影響します。

(CAN) [カナダ]

[国勢調査metro エリア] トランスレート テーブルに定義されたmetro エリアから値を選択します。

[産業セクター] トランスレート テーブルに定義された有効値のリストから値を選択します。

注: (CAN) これらの値は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のカナダの法定レポートに影響します。

関連項目:

第 6 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS の設定とインストール」、「導入デフォルトの設定」、125ページ

第 12 章

個人情報基本テーブルの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- 市民権ステータス コードの定義
- 国民 ID タイプの定義
- 敬称情報の設定
- 住所タイプの定義

市民権ステータス コードの定義

市民権ステータス コードを定義するには、市民権ステータス コンポーネント (CITIZEN_STATUS) を使用します。

このセクションでは、市民権ステータスの定義方法について説明します。

市民権ステータスの定義に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
市民権ステータス テーブル	CITIZEN_STATUS	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[市民権ステータス テーブル]、[市民権ステータス テーブル]	国ごとに、人事管理に必要な市民権ステータスを定義します。たとえば、ある国の母国籍を持っているか、帰化により市民権を取得したか、または永住在留資格を取得しているかを区別しなくてはならない場合があります。

市民権ステータスの定義

市民権ステータス テーブル ページにアクセスします。

市民権ステータス テーブル

国: AUS オーストラリア

国別市民権定義

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-8/9 最後

	*ステータス	*名称	略称		
1	1	出生者	出生者	+	-
2	2	帰化市民	帰化	+	-
3	3	永住外国人	永住権	+	-
4	4	一時在留外国人	一時在留	+	-
5	5	市民権保持者	市民権	+	-
6	6	外国人労働者	労働者	+	-
7	7	永住権保持者	永住権	+	-
8	8	外国人登録証保持者	外人登録	+	-

市民権ステータス テーブル ページ

[国]

このページにアクセスするために入力した国コードが表示されます。この国の市民権ステータス コードを指定します。

[ステータス]

定義する市民権ステータスのコードを入力します。必要な数だけ市民権コードを入力します。

国民 ID タイプの定義

国民 ID タイプを定義するには、国民 ID タイプ コンポーネント (NID_TYPE_TABLE) を使用します。
このセクションでは、国コードに国民 ID タイプを割り当てる方法について説明します。

国民 ID タイプの定義に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
国民 ID タイプ テーブル	NID_TYPE_TABLE	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[個人情報管理 タイプ]、[国民 ID タイプ]、 [国民 ID タイプ テーブル]	国コードに国民 ID タイプを 割り当て、個人 ID や応募 者 ID がない場合に使用す るデフォルト値または仮の 国民 ID を指定します。

国民 ID タイプの国コードへの割り当て

国民 ID タイプ テーブル ページにアクセスします。

274

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

国民 ID タイプ テーブル

国: BRA ブラジル

国民 ID タイプ

加ママイズ

検索

全件表示

最初

1-6/9

最後

国民 ID タイプ	フォーマット	*名称	略称	国民 ID フォーマット	国民 ID (フォーマットなし)		
C-RES	<input type="checkbox"/>	兵役証明書	C-RES			+	-
CAIXA	<input type="checkbox"/>	CAIXA	CAIXA	99999999999	99999999999	+	-
CPF	<input type="checkbox"/>	登録者	CPF	99999999999	99999999999	+	-
CTPS	<input type="checkbox"/>	労働・社会保障手帳	CTPS	XXXXXXXX	XXXXXXXX	+	-
ESTRAN	<input type="checkbox"/>	外国人 ID	外国人	XXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXX	+	-
PASEP	<input type="checkbox"/>	PASEP	PASEP	99999999999	99999999999	+	-

国民 ID タイプ テーブル ページ

給与計算、身分証明、または福利厚生为目的で、各国はそれぞれなんらかの形で国民 ID を管理しています。たとえば、ドイツの労働者には社会保険番号、イギリスの労働者には国民保険番号、米国の労働者には社会保障番号が割り当てられています。それぞれの国民 ID には、その国独自のフォーマット規定があります。

国民 ID を入力するグローバル ページで国コードを選択すると、このページで定義した情報が参照され、自動的にデフォルトの国民 ID タイプ（選択されている場合）が入力されるか、有効な国民 ID タイプをユーザーが確実に選択できるようになります。また、ユーザーが入力した国民 ID が、このページで指定したフォーマットに合っているかが検証されます。間違った桁数や文字を国民 ID に入力すると、警告メッセージが表示されます。

たとえば、個人情報詳細ページでアメリカ人の国民 ID 情報を新規入力すると、国民 ID タイプ テーブル ページで設定された情報を使用してアメリカで有効な国民 ID タイプが決定され、デフォルト値として社会保障番号 (PR) が入力されます。また、入力したデータが国民 ID フォーマットとして設定された値に合っているかが検証され、必要があれば入力したデータがフォーマットされます。この例の場合は、“999999999” と入力すると “999-99-9999” に再フォーマットされます。

注: 国民 ID フィールドのあるアプリケーション ページでは、この他にも UDF フォーマットを参照して適切な表示を決定するためのシステム チェックが実行されます。このフォーマットの指定は、PeopleSoft アプリケーション デザイナーで行います。

注: BEL、CAN、DEU、CHE、ESP、FRA、GBR、ITA、JPN、MEX、NLD および USA については、適切な国民 ID タイプが定義された国民 ID タイプ テーブルが用意されています。

注: (GBR) 有効な国民保険番号のプレフィックスを定義するには、国民 ID プレフィックス (GBR) ページを使用します。事業主が申告する年度末レポートには有効な国民保険番号プレフィックスのみを含めることが、内国歳入庁によって定められています。

参照: 第 16 章、「国別機能の設定」、「(GBR) 国民保険番号プレフィックスの設定」、373 ページ

注: (CAN/USA) カナダおよびアメリカ合衆国については、適切な国民 ID タイプとして “PR” (カナダの場合は社会保険番号、合衆国の場合は社会保障番号に相当します) が定義されています。この値は給与計算処理に必要なため、削除することはできません。

注: (DEU/JPN) ドイツと日本のユーザーについては、従業員の国民 ID データの入力は必須ではないため、PeopleSoft では、“NO” というデフォルト値を用意しています。

[国民 ID タイプ]	<p>個人（従業員、扶養家族、応募者など）の識別に使用する国民 ID のタイプを入力します。</p> <p>国民 ID タイプが不要な国の場合は、“NO” という値を作成し、[国民 ID フォーマット] フィールドは空白にしておきます。PeopleSoft Enterprise HRMS では国民 ID タイプが必須フィールドになっているページが多いため、こうすることによって、このような国出身の個人に値を入力することができます。</p>
[デフォルト]	<p>このチェック ボックスをオンにした場合、この行の国民 ID タイプが、この国出身の個人に対するデフォルト値として使われます。国には必ずしもデフォルトの国民 ID タイプを指定する必要はありませんが、デフォルト値を指定しない場合は、ユーザーがシステムに国民 ID を入力するたびに国民 ID タイプを指定しなければなりません。</p>
[国民 ID フォーマット]	<p>国民 ID のデフォルトのフォーマットを指定します。以下の値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーが値に英数字を入力するか値を空白にしておける場合は、“X” または “Z” • ユーザーが必ず文字を入力しなければならない場合は、“A” および任意の小文字 • ユーザーが必ず数値を入力しなければならない場合は、“9” • このフィールドを空白にした場合、ユーザーはこの国民 ID タイプに対して任意の値を入力する（または何も入力しない）ことができます。 <p>注: BEL、BRA、CAN、CHE、FRA、GBR、MEX、NLD、USA、DEU、ESP、MYS、および ITA の国民 ID については、ここで設定する一般情報に加えて、PeopleCode レコード ロジックによる特別なデータ検証が実行されます。</p>
[国民 ID (フォーマットなし)]	<p>実際にシステムに保存されている状態で国民 ID が表示されます。この値をフィールド表示フォーマットに一致させるには、アプリケーション デザインを使用します。</p>

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理での個人情報の追加」、「氏名と個人データの入力」

敬称情報の設定

敬称情報を設定するには、氏名フォーマット タイプ コンポーネント (NAME_FORMAT_TBL)、氏名タイプ コンポーネント (NAME_TYPE_TBL)、氏名プレフィックス コンポーネント (NAME_PREFIX_TABLE)、氏名サフィックス コンポーネント (NAME_SUFFIX_TABLE)、敬称プレフィックス コンポーネント (NM_ROYAL_PREF)、敬称サフィックス コンポーネント (NM_ROYAL_SUFF)、および氏名タイトル コンポーネント (TITLE) を使用します。

このセクションでは、敬称情報の概要と、以下の方法について説明します。

- 氏名フォーマット タイプの入力

- 氏名タイプの入力
- 氏名プレフィックスの入力
- 氏名サフィックスの入力
- 敬称プレフィックスの定義
- 敬称サフィックスの定義

敬称情報について

複数の国でグローバルに人材を管理している場合も、1 つの国だけで人材を管理している場合も、雇用レコードの一部としてさまざまな氏名や敬称を追跡管理していく必要があります。氏名プレフィックス、氏名サフィックス、敬称プレフィックス、敬称サフィックス、および氏名タイトルの各テーブルで、“Mr.”、“Mrs.”、“Mdme.”、“Mssr.”などの標準氏名プレフィックスや、“Jr.”、“Sr.”などの標準氏名サフィックスが定義できます。

ヨーロッパで人材を管理している場合、ドイツ従業員用の敬称プレフィックス “von” など、ドイツとオランダで標準的な敬称を追加することができます。また、“professor”、“doctor”、“count”などの称号も入力できます。これらのテーブルを使用すると、組織の人事管理システムでさまざまな敬称を柔軟に管理することが可能になります。

敬称情報の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
氏名フォーマットテーブル	NAME_FORMAT_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[氏名フォーマットタイプ]、[氏名フォーマットテーブル]	HRMS 全体で、氏名に関するページで使用する氏名フォーマットタイプを定義します。
氏名タイプテーブル	NAME_TYPE_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[氏名タイプ]、[氏名タイプテーブル]	氏名タイプおよびその処理順を定義します。
氏名プレフィックス	NAME_PREFIX_TABLE	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[氏名プレフィックス]、[氏名プレフィックス]	氏名情報を記録する際に使用する氏名プレフィックスを入力します。
氏名サフィックス	NAME_SUFFIX_TABLE	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[氏名サフィックス]、[氏名サフィックス]	氏名情報を記録する際に使用する氏名サフィックスを入力します。
敬称プレフィックス	NM_ROYAL_PREFIX	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[敬称プレフィックス]	敬称プレフィックスと名称を入力します。敬称プレフィックスのコードは主にドイツとオランダで使用されます。個人情報コンポーネントで個人名を入力する際に、これら標準の敬称プレフィックスを参照できます。
敬称サフィックス	NM_ROYAL_SUFFIX	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[敬称サフィックス]	敬称サフィックスを定義します。敬称サフィックスはドイツでのみ使用され、Duevo 公認の敬称サフィックスの検索画面が表示されます。個人情報コンポーネントで氏名を入力する際に、これら標準の敬称サフィックスを参照できます。
氏名タイトル	TITLE_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[氏名タイトル]	氏名と共に使用するタイトルを入力します。 人事管理システムで氏名と共に使用する“professor”、“mijnheer”などの標準タイトルを追跡管理します。

氏名タイプの入力

氏名タイプ テーブル ページにアクセスします。

氏名タイプ テーブル

氏名タイプ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-10/10 最後

処理順	氏名タイプコード	氏名タイプ	略称		
1	PRI	主氏名	主氏名	+	-
2	PRF	別名	別名	+	-
3	LEG	戸籍氏名	戸籍氏名	+	-
4	DEG	称号	称号	+	-
5	MDN	旧姓	旧姓	+	-
6	OTH	その他	その他	+	-
7	FR2	前氏名 2	前氏名 2	+	-
8	FTR	父方の氏名	父方の氏名	+	-
9	FR1	前氏名 1	前氏名 1	+	-
10	MTR	母方の氏名	母方の氏名	+	-

氏名タイプ テーブル ページ

- [処理順]
- この氏名タイプを処理する順番を入力します。
- [氏名タイプコード]、[氏名タイプ]、[略称]
- 氏名タイプのコード、氏名タイプの名称、および氏名タイプの略称を入力します。

注: 氏名タイプ PRI および PRF はシステム データなので、編集することはできません。

氏名プレフィックスの入力

氏名プレフィックス ページにアクセスします。

氏名プレフィックス

氏名プレフィックス

カスタマイズ | 検索 | 最初 1-5/5 最後

	*氏名プレフィックス	略称	*名称		
1	Dr	Dr	Dr	+	-
2	Miss	Miss	Miss	+	-
3	Mr	Mr	Mr	+	-
4	Mrs	Mrs	Mrs	+	-
5	Ms	Ms	Ms	+	-

氏名プレフィックス ページ

- [氏名プレフィックス]
- 追加する氏名プレフィックスを入力します。個人情報コンポーネントで個人名を入力する際に、これら標準の氏名プレフィックスを参照できます。
- ここで入力したプレフィックスは、個人名の一部として表示されます。

注: 氏名プレフィックスには有効日もステータスも付きません。

氏名サフィックスの入力

氏名サフィックス ページにアクセスします。

氏名サフィックス

氏名サフィックス

カスタマイズ | 検索 | 最初 1-3/3 最後

	*氏名サフィックス	略称	*名称		
1	III	III	III	+	-
2	Jr.	Jr.	Junior	+	-
3	Sr.	Sr.	Senior	+	-

氏名サフィックス ページ

- [氏名サフィックス]
- 追加する氏名サフィックスを入力します。個人情報コンポーネントで個人名を入力する際に、これら標準の氏名サフィックスを参照できます。
- [略称]、[名称]
- ここで入力したサフィックスの略称または名称が、個人名の一部としてページに表示されます。

注: 氏名サフィックスには有効日もステータスも付きません。

敬称プレフィックスの定義

敬称プレフィックス ページにアクセスします。

敬称プレフィックス

認定タイプ: DUEVO

敬称プレフィックス

カスタマイズ | 検索 | 100 件表示 | 最初 1-15/172 最後

	*敬称プレフィックス	*ステータス	略称	*名称		
1	a	アクティブ	a	a	+	-
2	aan de	アクティブ	aan de	aan de	+	-
3	aan den	アクティブ	aan den	aan den	+	-
4	al	アクティブ	al	al	+	-
5	am	アクティブ	am	am	+	-
6	an	アクティブ	an	an	+	-
7	an der	アクティブ	an der	an der	+	-
8	auf	アクティブ	auf	auf	+	-
9	auf dem	アクティブ	auf dem	auf dem	+	-
10	auf der	アクティブ	auf der	auf der	+	-
11	auf m	アクティブ	auf m	auf m	+	-
12	auff m	アクティブ	auff m	auff m	+	-
13	aus	アクティブ	aus	aus	+	-
14	aus dem	アクティブ	aus dem	aus dem	+	-
15	aus den	アクティブ	aus den	aus den	+	-

敬称プレフィックス ページ

- [認定タイプ]

ページにアクセスするときに選択した値が表示されます。ドイツの場合は“DUEVO”、オランダの場合は“NEN”が表示されます。
- [敬称プレフィックス]

半角 15 文字以内で敬称プレフィックスを入力します。
- [ステータス]

敬称プレフィックスには有効日が付かないため、プレフィックス コードを以後使用しない場合は、ステータスを [非アクティブ] に変更します。

敬称サフィックスの定義

敬称サフィックス ページにアクセスします。

敬称サフィックス

認定タイプ*: DUEVO

敬称サフィックス

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-15/55 最後

	*敬称サフィックス	*有効日現在のステータス	略称	*名称		
1	Bar	アクティブ	Bar	Bar	+	-
2	Baron	アクティブ	Baron	Baron	+	-
3	Baronesse	アクティブ	Baronesse	Baronesse	+	-
4	Baronin	アクティブ	Baronin	Baronin	+	-
5	Brand	アクティブ	Brand	Brand	+	-
6	Condesa	アクティブ	Condesa	Condesa	+	-
7	Earl	アクティブ	Earl	Earl	+	-
8	Edle	アクティブ	Edle	Edle	+	-
9	Edler	アクティブ	Edler	Edler	+	-
10	Erbgraf	アクティブ	Erbgraf	Erbgraf	+	-
11	Erbprinz	アクティブ	Erbprinz	Erbprinz	+	-
12	Ffr	アクティブ	Ffr	Ffr	+	-
13	Freifr	アクティブ	Freifr	Freifr	+	-
14	Freifrau	アクティブ	Freifrau	Freifrau	+	-
15	Freih	アクティブ	Freih	Freih	+	-

敬称サフィックス ページ

- [認定タイプ]

ページにアクセスするときに選択した値が表示されます。ドイツの場合は“DUEVO”、オランダの場合は“NEN”が表示されます。
- [敬称サフィックス]

半角 15 文字以内で敬称サフィックスを入力します。
- [有効日現在のステータス]

敬称サフィックスには有効日が付かないため、サフィックス コードを以後使用しない場合は、ステータスを [非アクティブ] に変更します。

住所タイプの定義

住所タイプを定義するには、住所タイプ コンポーネント (ADDR_TYPE_TBL) を使用します。

このセクションでは、住所タイプの入力方法を説明します。

住所タイプの入力に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
住所タイプ テーブル	ADDR_TYPE_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[個人情報管理タイプ]、[住所タイプ]、[住所タイプテーブル]	住所タイプおよびその処理順を定義するのに使用します。

住所タイプの入力

住所タイプ テーブル ページにアクセスします。

住所タイプ テーブル

住所タイプ				1-10/13	
*処理順	住所タイプコード	住所タイプ	略称		
1	HOME	自宅住所	自宅住所	+	-
2	MAIL	郵送先住所	郵送先住所	+	-
3	BUSN	勤務先住所	勤務先住所	+	-
4	CHK	小切手住所	小切手住所	+	-
5	DORM	学生寮住所	学生寮住所	+	-
6	LEGL	戸籍住所	戸籍住所	+	-
7	CAMP	学校住所	学校住所	+	-
8	OTH	その他	その他	+	-
9	BILL	請求先	請求先	+	-
10	OTH2	その他 2	その他 2	+	-

住所タイプ テーブル ページ

[処理順] この住所を処理する順番を入力します。

[住所タイプコード]、[住所タイプ]、[略称] 住所タイプのコード、住所タイプの名称、および住所タイプの略称を入力します。

注: 住所タイプ HOME、MAIL、BUSN、および CHK はシステム データなので、編集することはできません。

第 13 章

職務の設定

この章では、以下の内容について説明します。

- 補助職種コードと職種コードの定義
- 職務系列の定義
- 職務の分類
- 業務の定義
- 休日スケジュールの設定
- 支給グループの設定
- 職務コードと支給グループのレポートの実行

補助職種コードと職種コードの定義

補助職種コードを定義するには、補助職種定義コンポーネント (JOB_SUBFUNC_DEFN) を使用します。職種コードを定義するには、職種テーブル コンポーネント (JOB_FUNCTION_TBL) を使用します。

このセクションでは、補助職種コードと職種コードの概要、およびその設定方法について説明します。

補助職種コードと職種コードについて

補助職種コードを使用して、職種コードに割り当てられる補助職種を作成します。たとえば、給与計算の補助職種コードを作成して、それを経理の職種コードに割り当てることができます。また、必要に応じて、補助職種コードと職種コードにプロファイルを設定することもできます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: プロファイル管理、「プロファイル管理」

職種コードと補助職種コードの定義に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
補助職種	JOB_SUBFUNC_DEFN	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[補助職種]、[補助職種]	補助職種コードを設定します。
職種テーブル	JOB_FUNCTION_TBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職種]、[職種テーブル]	職種コードを設定します。職種と補助職種の関係を定義します。

補助職種コードの設定

補助職種ページにアクセスします。

補助職種

K11

補助職種詳細

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

*有効日

1980/01/01

31

*ステータス

アクティブ

+

-

*名称

Payroll

*略称

Payroll

補助職種ページ

職種コードの設定

職種テーブル ページにアクセスします。

職種テーブル

職種コード

H08

職種情報

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

有効日

1980/01/01

31

*ステータス

アクティブ

+

-

*名称

人事

略称

人事

▼ イタリア

INAIL コード

🔍

補助職種

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |

最初 1-3/3 最後

*補助職種	名称		
K09 🔍	Human Resources	+	-
K10 🔍	Benefits	+	-
K11 🔍	Payroll	+	-

職種テーブル ページ

(ITA) [INAIL コード]
(Istituto Nazionale per
l'Assicurazione contro gli
Infurtuni sul Lavoro コード)

INAIL コードを使って、職務に関連付けられたリスクレベル、および事業主に義務付けられている関連リスク保険で職務を分類します。

職務系列の定義

職務系列を定義するには、職務系列テーブル コンポーネント (JOB_FAMILY) を使用します。

このセクションでは、職務系列の概要と、職務を系列としてグループ化する方法について説明します。

職務系列について

類似している職務をグループ化して職務系列を作成します。プロファイル管理を使用すると、職務系列に含まれる全ての職務が記載された職務系列のプロファイルを作成できます。

職務系列の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
職務系列	JOB_FAMILY_TABLE	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務系列テーブル]、[職務系列]	職務系列を作成します。

職務系列への職務のグループ化

職務系列ページにアクセスします。

重要: 職務系列の有効日は、関連する職務コードの有効日以前の日付になっている必要があります。

職務の分類

職務を分類するには、職務コード テーブル コンポーネント (JOB_CODE_TBL) を使用します。CI_JOB_CODE_TBL コンポーネント インターフェイスを使用して、このコンポーネントのテーブルにデータをロードします。

このセクションでは、職務コードの概要と、以下の方法について説明します。

- 新規職務コードの追加
- 職務評価基準への点数の割り当て
- 給与統計情報の入力
- 職務コードへの給与プラン情報および固定的賃金の給与レート コードの関連付け
- 職務コードへの固定的賃金外の給与レート コードの関連付け

職務コードについて

HRMS では、職務は職務コードで識別します。職務に関する情報は、職務に従事している個人やグループとは別に管理します。たとえば、職務の給与等級や標準勤務時間は、その職務に誰がついているかを考慮せずに職務に割り当てます。

職務コードを保存すると、その職務コードと同じ給与レート コード ソースで、給与ステップに対し給与レート コード デフォルト ルールが作成されます。職務コードや給与ステップの設定テーブルの代わりに、レート コード デフォルト ルールが給与のデフォルト指定に使用されます。

HRMS の職務コードとポジションについて

HRMS では、ポジションと職務コードは別のもので、1 つの職務コードの中に、複数のポジションが存在することがあります。たとえば、事務アシスタントという職務コードを 1 つ定義し、その職務コードの下にマーケティング部門の事務アシスタント、研究部門の事務アシスタント、給与担当グループの事務アシスタントなど、異なる事務アシスタントのポジションを定義することができます。特定の部門や勤務地の特定職務の詳細を追跡するには、ポジションを使用します。通常は、1 つのポジションに対し 1 人の従業員という関係が成り立っています。職務コードの場合は、1 つの職務コードに対して複数の従業員、という関係になります。

ポジションを基準として PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理を運用する場合も、大まかなグループ分けや職務分類を行うために職務コードを使います。分類した職務コード グループを基に、各ポジションのデフォルトの職務データを管理します。

注: PeopleSoft Enterprise Pension Administration を使用する場合は、年金の受取人に対して、ポジションではなく職務を設定します。プロファイル管理を使用すると、職務コードのプロファイルを設定できます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: プロファイル管理、「プロファイル管理」

(JPN) 職務コードと職能等級管理の使い方

人材募集データの人材募集情報ページにある [職務コード] は、必須フィールドです。職能資格等級制度に基づく人材管理を行っている企業では、人材募集に職務コードを設定することが適切でない場合も考えられます。その場合は、このページの要件を満たすために、ダミーの職務コードを設定する必要があります。ダミーとして入力した職務コードには、プロセスを関連付けません。作成したそのダミー コードに対しても職務コード プロファイル ページで入力しなければならないフィールドが 6 つありますが、そのうち 5 つにはデフォルト値が入るため、職務名を入力するだけで済みます。職務名には、明らかにダミーの職務コードであることがわかる名前を使用してください。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジションの設定」

職務の分類に使用するページ


ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
職務コード プロファイル	JOB CODE_TBL1_GBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務コードテーブル]、[職務コードプロファイル]	システムに新しい職務コードを追加し、各職務コードの職務系列、給与、および法定提出書類情報を追加します。
職務コードのビジネスユニット	JOB CODE_BU	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務コードテーブル]、[職務コードプロファイル] 職務コードプロファイルページの [このセットID を使用するビジネスユニット] リンクをクリックします。	この職務コードのセットID に関連付けられた全てのビジネスユニットが表示されます。
評価基準	JOB CODE_TBL2_GBL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務コードテーブル]、[評価基準]	職務評価基準に点数を割り当てます。この情報を使用して、社内の職務コードをランク付けし、給与等級、給与ステップ、および対象者/非対象者の区分を査定することができます。
市場給与の一致	JOB CD_MP_SAL_SURV	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務コードテーブル]、[市場給与の一致]	職務コードに市場給与マトリックスを関連付けます。
デフォルト給与	JOB CD_COMP_RATE	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務コードテーブル]、[デフォルト給与]	職務コードに給与プラン情報および固定的賃金の給与レートコードを関連付けます。職務コードに給与レートコードを関連付けることによって、職務情報のページで従業員の職務レコードに関連付けられるデフォルトの給与パッケージを定義します。
固定的賃金外	JOB CD_NON_BASE	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務コードテーブル]、[固定的賃金外]	固定的賃金外の給与レートコードを職務コードに関連付けます。

新規職務コードの追加

職務コード プロファイル ページにアクセスします。

職務コード プロファイル		評価基準(E)	市場給与の一致(M)	デフォルト給与(D)	固定的賃金外
セットID:	DEU01	職務コード:	140035	このセットID を使用するビジネス ユニット	
<div> <div>職務コード プロファイル</div> <div>検索</div> <div>最初 1/1 最後</div> </div>					
*有効日:	1980/01/01	*ステータス:	アクティブ	行に移動 + -	
*職務名:	Analyst-Financial				
職務名略称:	Fin Anlyst				
職務内容:	Financial Analyst				
職務系列:	LHUMAN HR				
職種コード:	FIN 経理	補助職種:			
*標準勤務時間:	40.00	標準勤務周期:	W 週次		
給与コード:		*管理者レベル:	非管理職		
*周期:	M 月次				
正規/臨時:		<input type="checkbox"/> 健康診断必要			
組合コード:					
▼ シンガポール					
祝祭日前給与支給プログラム:					

職務コード プロファイル ページ (1/4)

▼  カナダ

全国職業分類コード:

支給均等職務分類: ☐ 季節就労

BPS アクティビティ:

カナダ教職員調査

*レポート:

職務範囲:

WCB 分類


州

レートグループ


WCB クラス

+


-

▼  ドイツ


☐ 医療監視必要

▼  イギリス

イギリス SOC コード:

▼  イタリア


INAIL コード:

▼  マレーシア

勤務日の勤務時間:

祝祭日前給与支給プログラム:

職務コード プロファイル ページ (2/4)

▼  アメリカ

*雇用機会均等法-1 職務カテゴリ:

*雇用機会均等法-4 職務カテゴリ:

*雇用機会均等法-5 職務カテゴリ:

*雇用機会均等法-6 職務カテゴリ:

標準職業分類コード:

職業分類コード:

雇用機会均等職務グループ:

*FLSA ステータス:

*チップ:

職務コード プロファイル ページ (3/4)

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

289

▼


オーストラリア

ASCO コード:

🔍

給与パッケージング オプション

パッケージ テンプレート ID:

🔍

パッケージ ルール ID:

🔍

高等教育機関

職種:

▼

業務タイプ:

▼

教務担当時間数 (年):

教務担当週数:

▼


ブラジル

ブラジル職業コード:

更新日時:

更新ユーザー:

職務コード プロファイル ページ (4/4)

〔職務コード〕 組織の中で特定の職務に関連付ける固有のコード。

[職務系列] 職務コードをより一般的なグループに分類するために、職務系列を選択します。たとえば、信託アナリストと運用アナリストは“アナリスト”という1つの職務系列にまとめられます。

【職種コード】 職務を機能面から分類した際に最もよく当てはまる職種コード（総務、文書、管理など）を選択します。

最もよく当てはまる補助職種コードを選択します。

【標準勤務時間】 この職務の標準勤務周期中のデフォルト勤務時間数を入力します。このページで【標準勤務時間】に入力した値が、この職務コードに関連付けられた全ての従業員のデフォルト値になります。個々の従業員の標準勤務時間は、職務データ コンポーネント (JOB DATA) で変更できます。

[標準勤務時間] には、“プライマリ権限リスト基本設定” の設定ページで定義した標準勤務時間の上限と下限の間の値を入力してください。“プライマリ権限リスト基本設定” の設定ページで標準勤務時間の上限と下限が定義されていない場合は、インストール テーブル コンポーネントの値が使われます。

【標準勤務周期】 従業員が就労しなければならない標準勤務時間の時間枠を選択します。
これらの値は、周期テーブル ページ (FREQUENCY TBL) で管理します。

標準勤務周期の年次化係数と標準勤務時間を組み合わせて、FTE（常勤換算）が計算されます。

参照: PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS
and Campus Solutions 9.0 PeopleBook

[給与コード] 給与コードを入力して、この職務コードに使われる給与プランを指定します。

[管理者レベル] 従業員に関連付けられた管理レベルを選択します。

[周期] 給与の計算周期を選択します。インストール テーブルで指定された周期がデフォルト値になります。

[健康診断必要]	この職務コードで雇用された従業員に対し健康診断が必要な場合は、このチェック ボックスをオンにします。
	注: ドイツの従業員を管理している場合、[職務コード プロファイル] のドイツ固有機能のセクションで、継続的な医療監視が必要な職務かどうかを指定する必要があります。特に、従業員が危険な作業環境におかれたり危険物を扱う場合はこの情報が必要になります。
[組合コード]	組合に関連付けられた職務コードを定義する場合は、組合コードを選択します。
[更新日時]	この職務コードの最終更新日時です。
[更新ユーザー]	最終更新ユーザーの情報です。
(SGP) [シンガポール]	
[祝祭日前給与支給プログラム]	<p>祝祭日前プログラム ページを使って、全タイプの祝祭日を含む祝祭日前給与支給プログラムを 1 つまたは複数設定する場合は、デフォルトの祝祭日前給与支給プログラムを選択した職務コードに関連付けます。</p> <p>祝祭日別の各プログラム詳細は、同じ場合も、異なる場合もあります。1 つの支給プログラムに、さまざまな祝祭日タイプを含めたり、支給エレメント、控除エレメント、試用期間の各種組み合わせと関連付けたりすることができます。</p> <p>この職務コードが、民族グループや宗教と共に、祝祭日前給与の従業員別詳細 (MYS/SGP) ページのデフォルト値を決定する基準になります。</p>
(CAN) [カナダ]	
[全国職業分類コード]	カナダの全国職業分類コードを選択します。
[季節就労]	季節就労職務の場合は、このチェック ボックスをオンにします。
[BPS アクティビティ] (勤務先給与計算調査 (BPS) アクティビティ)	カナダ統計局の勤務先給与計算調査 (BPS) に参加している場合、職務コードのビジネス アクティビティを選択します。
[レポート]	<p>職務コードをカナダ統計局の教職員調査のレポートに含める場合は、該当するレポートを選択します。</p> <p>このフィールドは、高等学位を授与するカナダの機関のみが対象です。</p>
[職務範囲]	<p>職務コードの職務範囲を、[教職のみ]、[教職とその他の職務]、または [研究] から選択します。[レポート] フィールドで値を選択した場合、このフィールドの入力は必須です。</p> <p>このフィールドは、高等学位を授与するカナダの機関のみが対象です。</p>
[州]	この職務コードの WCB (労働災害補償委員会) レポートの提出先の州を入力します。カナダの WCB レポートは常に州単位で処理されます。全国共通の WCB はありません。
[レート グループ]	この職務コードのレート グループを選択します。それぞれの産業には、査定の目的でレート グループが割り当てられています。グループ割り当ての基準は、産業タイプ、および各州の各産業における事故と傷害の発生頻度です。

[WCB クラス]	この職務コードの WCB クラスを選択します。WCB クラスは、この職務コードに該当する産業を表します。
(DEU) [ドイツ]	<hr/> 注: レート グループと WCB クラスは管轄州の WCB から取得できます。レートとレート コードは州によって異なります。 <hr/>
[医療監視必要]	この職務コードに継続的な医療監視が必要な場合は、このチェック ボックスをオンにします。たとえば、危険物を扱う職務に就いている従業員は、この職務に就いている間、安全衛生規定により定期検診が義務付けられています。
(GBR) [イギリス]	
[イギリス SOC コード](イギリス標準職業分類 (SOC) コード)	イギリスの標準職業分類 (SOC) コードを入力します。このコードは、北アイルランド公正雇用法で義務付けられているレポートに必要です。
(ITA) [イタリア]	
[INAIL コード]	有効なオプションから職務コードの INAIL コードを選択します。INAIL コードを使って、職務に関連するリスク レベル、およびそのレベルによって事業主に義務付けられている保険を分類します。
(MYS) [マレーシア]	
[祝祭日前給与支給プログラム]	<p>祝祭日前プログラム ページを使って、全タイプの祝祭日を含む祝祭日前給与支給プログラムを 1 つまたは複数設定する場合は、デフォルトの祝祭日前給与支給プログラムを選択した職務コードに関連付けます。</p> <p>祝祭日別の各プログラム詳細は、同じ場合も、異なる場合もあります。1 つの支給プログラムに、さまざまな祝祭日タイプを含めたり、支給エレメント、控除エレメント、試用期間の各種組み合わせと関連付けたりすることができます。</p> <p>この職務コードが、民族グループや宗教と共に、祝祭日前給与の従業員別詳細 (MYS/SGP) ページのデフォルト値を決定する基準になります。</p>
(USA) [アメリカ]	
[雇用機会均等法職務カテゴリ]	<p>職務カテゴリを選択します。雇用機会均等法 - 1 のコードは連邦職業カテゴリ (FOC) としても使われます。</p> <p>雇用機会均等法 - 1 レポートに有効な職務コードを取得するには、[EEO-1 記載なし] 以外の“雇用機会均等法 - 1 職務カテゴリ”を選択します。</p>
[標準職業分類コード]	アラスカ州で業務を行っている場合は、失業保険の提出書類用の標準職業分類 (SOC) コードを入力できます。アメリカの SOC コードは、標準職業分類コード テーブル (U.S.) に入力します。
[雇用機会均等職務グループ]	職務カテゴリをさらに細かく分類する場合は、この職務の属する雇用機会均等職務グループを入力します。

[FLSA ステータス] (公正労働基準法 (FLSA) ステータス)

この職務が FLSA に基づく規定の対象か対象外かを指定するコードを入力します。この値は、この職務コードに関連付けられた職務レコード全ての FLSA ステータスのデフォルトになります。たとえば [管理職]、[幹部役員]、[控除外]、[専門職] などの値があります。

(AUS) [オーストラリア]

[ASCO コード] (オーストラリア標準職業分類 (ASCO) コード)

ASCO コードを選択します。

[パッケージ テンプレート ID]、[パッケージ ルール ID]

この職務コードをオーストラリア用給与パッケージの一部として設定するパッケージ ルールおよびテンプレートに関連付ける場合に、これらのフィールドを使用します。これらの ID が、従業員給与パッケージのモデル作成時に、この職務に対するデフォルト値になります。これらのフィールドはポジション テーブルでも使用できますが、これらのフィールドよりポジション テーブルのフィールドが優先されます。

職務コードにテンプレートとルールを関連付けると、パッケージのモデル作成中に、パッケージ コンポーネントが自動的に従業員に割り当てられるようになります。テンプレートを使用することによって、モデル作成時に確実に正しいテンプレートとルールを使用できるため、時間を節約することができます。

注: パッケージ テンプレートは、パッケージ テンプレート ページで設定します。パッケージ ルールは、パッケージ ルール ページで設定します。

(AUS) [高等教育機関]

これらのフィールドは、インストール コンポーネントの国別指定ページでオーストラリア用パラメータの [教育/公的機関] チェック ボックスをオンにしている場合にのみ使用できます。

[職種]

組織におけるデフォルトの職種を選択します。

[業務タイプ]

組織におけるデフォルトの業務タイプを選択します。

[教務担当時間数 (年)]

教務担当時間数を入力します。この時間数は業務によって異なります。

[教務担当週数]

デフォルトの教務担当週数を入力します。

(BRA) [ブラジル]

[ブラジル職業コード]

公式リストから適切なブラジルの職業コード (CBO) を入力します。

2002 年 12 月 31 日までは、99999 という書式のコードが有効です。2003 年 1 月 1 日以降は、9999-99 という書式のコードが有効です。

注: CBO のリストを参照するには、www.mte.gov.br にアクセスします。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: プロファイル管理

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 報酬管理

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジションの設定」

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook

職務評価基準への点数の割り当て

評価基準ページにアクセスします。

職務コード プロファイル		評価基準(E)	市場給与の一致(M)	デフォルト給与(D)	固定的賃金外
セットID:	DEU01	職務コード:	140035		
評価基準		検索 全件表示 最初 1/1 最後			
有効日:	1980/01/01	ステータス:	アクティブ	行に移動	
名称:	Analyst-Financial				
職務評価条件			コミットメント会計		
	点数	パーセント	ポジション管理に使用 <input checked="" type="checkbox"/>		
専門知識:	<input type="text" value="0"/>				
職責度:	<input type="text" value="0"/>				
問題解決力:	<input type="text" value="0"/>				
合計点数:					
▼ フランス					
従業員カテゴリ:	<input type="text"/>	アクティビティタイプ:	<input type="text"/>		
INSEE コード:	<input type="text"/>				
職務カテゴリ コード:	<input type="text"/>				
▼ ドイツ					
職種コード:	<input type="text"/>				
BA コード:	<input type="text"/>				
技術職	<input type="checkbox"/>				

評価基準ページ (1/2)

研修プログラム		検索 全件表示	最初 1/1 最後
研修プログラム:	<input type="text"/>	+ -	

評価基準ページ (2/2)

[専門知識]

その職務を行うために必要な従業員の専門知識を表す点数を入力します。

[職責度]

割り当てられた仕事を行うための従業員の能力を表す点数を入力します。

[問題解決力]	困難な状況において問題を解決する従業員の能力を表す点数を入力します。
[合計点数]	<p>点数の値は、これらを社内の他の職務と比較して決定します。専門知識、職責度、および問題解決力が上がるにつれて点数が高くなります。たとえば、経理担当は秘書よりも責任が重いので、職責度の点数も秘書より高くなります。</p> <p>合計点数と、各要素の点数のパーセント、つまり相対的な重要度を表す値は、自動計算されます。たとえば、[専門知識] に合計点数の 33.2 パーセント、[職責度] に 33.7 パーセント、[問題解決力] に 33.1 パーセントを割り当てた場合、これら 3 つの要素の重要度はほぼ等しいことになります。</p> <p>しかし、[専門知識] に 54.4 パーセント、[職責度] に 9.2 パーセント、[問題解決能力] に 36.4 パーセントを割り当てた場合は、専門知識が職責度および問題解決能力よりも重要性が高く、職責度の重要性は低いことになります。</p>
[ポジション管理に使用]	<p>この職務コードをポジション管理で使用するかどうかを選択します。インストール テーブル コンポーネントで一部または全体にポジション管理を使用するように指定した場合、[ポジション管理に使用] チェック ボックスはデフォルトでオンに設定されます。</p> <p>チェック ボックスがオンに設定されているときは、ポジション レベルで職務コードに対する予算を作成していることになります。職務コードにポジションや従業員を割り当てる際に制限が加えられるわけではありません。[ポジション管理に使用] チェック ボックスがオフの場合も、職務コードを使ってポジションを設定することができます。チェック ボックスがオンに設定されていても、従業員の職務データ レコードに職務コードは入力できます。</p> <p>オフにすると、[プレンカンバランス] フィールドと [エンカンバランス給与オプション] フィールドが表示されます。</p>
[プレンカンバランス]	職務コードに対して直ちにエンカンバランスを計上する場合は [即時]、必要のない場合は [なし]、必要に応じて割り当てる場合は [必要時] を選択します。
[エンカンバランス給与オプション]	コミットメント会計を使用して給与のエンカンバランス処理を行う場合は、欠員ポジションの給与に対するエンカンバランスを計上する際に、ここで指定した値に基づいて給与金額が決定されます。
[エンカンバランス給与額]	[エンカンバランス給与オプション] で [ユーザー指] を選択した場合は、エンカンバランスとして計上する給与額を入力します。
(FRA) [フランス]	
[従業員カテゴリ]	<p>職務コードに対する従業員カテゴリを選択します。このコードは、以下の法定レポートに必須です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 個人記載事項 • 国籍別年間調査 • フランスの労働災害レポート
[INSEE コード]	この職務コードと、フランスの身体障害レポートで使用する INSEE コードを関連付けます。

[職務カテゴリ コード] 職務カテゴリ コードを選択します。このコードは個人別採用明細レポートに必要です。

(DEU) [ドイツ]

[BA コード] (Bundesanstalt fuer Arbeit コード) この職務コードの BA コードがある場合、それを選択します。

[技術職] この職務が技術職の場合に、チェック ボックスをオンにします。

[研修プログラム]

[研修プログラム] この職務コードに研修プログラムを関連付けることもできます。この機能は、キャリア プラン作成のときに便利です。この職務コードを持つ従業員の研修および人材開発プログラムを設定する際、デフォルトの研修プログラムを個人のキャリア研修プランの基準として使うことができます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジションの設定」

職務コードへの市場給与マトリックスの関連付け

“市場給与の一致” ページにアクセスします。

職務コードプロファイル

評価基準(E)

市場給与の一致(M)

デフォルト給与(D)

固定的賃金外

セットID: SHARE

職務コード: 110000

市場給与の一致

有効日: 1980/01/01

ステータス: アクティブ

名称: Accountant

マトリックス名: KUM001

Clerk Payroll 290080

マトリックスの編集

Clerk Payroll 290080 (1980-01-01)

地域	通貨	第 25 百分位数	第 50 百分位数	第 75 百分位数	第 100 百分位数	業界標準値	実効マーケット%	実効マーケット%標準	合計給与平均値
COUNTRIES	USD	26,000.00	27,000.00	27,500.00	28,000.00	27,000.00	10.00	2,700.00	29,000.00
MID ATLANTIC STATES	USD	24,000.00	25,000.00	25,500.00	26,000.00	25,000.00	10.00	2,500.00	27,000.00
MIDWEST REGION	USD	27,000.00	28,000.00	28,500.00	29,000.00	28,000.00	10.00	2,800.00	30,000.00

“市場給与の一致” ページ

[マトリックス名] 職務コードに関連付ける市場給与マトリックスを選択します。マトリックスの有効日が、職務コードの有効日以前の日付である必要があります。

[マトリックスの編集] このボタンをクリックすると “データの内容” ページにアクセスして、このマトリックスに関連付けられた値を表示および編集することができます。値を編集すると、同じマトリックスに関連付けられた他の職務コードも影響を受けます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook の「Using Configurable Matrices」

第 17 章、「市場給与の設定とその使い方」、377 ページ

職務コードへの給与プラン情報と固定的賃金の給与レートコードの関連付け

デフォルト給与ページにアクセスします。

[職務コード プロファイル](#)
[評価基準\(E\)](#)
[市場給与の一致\(M\)](#)
[デフォルト給与\(D\)](#)
[固定的賃金外](#)

セットID: DEU01

職務コード: 140035

デフォルト給与

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日: 1980/01/01

ステータス: アクティブ

名称: Analyst-Financial

職務給与比率

最低給与レート: 9,000.00

中間給与レート: 9,500.00

最高給与レート: 10,000.00

通貨: DEM

周期: M 月次

給与プラン/等級/ステップ

給与セットID: DEU01

給与プラン/等級/ステップ: KD01 G2 1

▼ 軍機能対応

兵役:

ランク:

中間額

時間: 52.50 DEM

日次: 420.00 DEM

月間: 9,100.00 DEM

年間: 109,200.00 DEM

給与ステップ コンポーネント

カスタマイズ | 検索

最初 1-2/2 最後

給与レートコード	連番	詳細	給与レート	通貨	周期	給与点数	パーセント	レートコードグループ
1 KDG02	0	詳細	8000.000000	DEM	M			
2 KDL02	0	詳細	240.000000	DEM	M		3.000	

デフォルト給与ページ

職務コードに給与レートコードを関連付けることによって、職務情報のページで従業員の職務レコードに関連付けられるデフォルトの給与パッケージを定義します。

[職務給与比率]

関税に対応するためにプラン/等級/ステップのデータを使用している国で、同様の業務を行う従業員の給与を比較するための情報を、職務給与比率によって求めます。職務に関連する業務についてプラン/等級/ステップのデータを使用している場合は、[職務給与比率] グループ ボックスを使用する必要はありません。

職務データ コンポーネントの給与データ ページに指定されている従業員の給与レートが、[職務給与比率] グループ ボックスに定義されている通貨と周期に変換されます。この結果が、職務コードの中間給与レートで除算されます。

[最低給与レート]、[中間給与レート]、[最高給与レート]、[通貨]、[周期]

この職務コードに適用できる周期（デフォルトで職務コード プロファイル ページの値が表示されますが、このページで上書きが可能です）に従って、給与の最低額、中間金額、および最高額を入力します。デフォルトとは異なる通貨を使う場合は、給与金額に対し通貨を選択します。

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

297

[給与プラン/等級/ステップ]

社内の給与プログラムが既に設定されている場合は、この職務の給与プラン/等級/ステップのデフォルト値を表すコードを選択します。これらのコードは、給与プラン テーブル、給与等級テーブル、および給与ステップ テーブルで定義されます。

[給与プラン/等級/ステップ] 給与プラン、等級、およびステップを選択します。この 3 つのフィールドは全てオプションです。デフォルトを設定すると、このページの残りの給与管理プラン フィールドと [給与ステップ コンポーネント] グリッドに、選択した等級に関連付けられた時給、月給、および年間給与の中間額が自動的に入力されます。

職務情報ページ (JOB_DATA_JOBCODE) で従業員に職務コードを割り当てると、ここで選択した値が給与プラン ページ (JOB_DATA_SALPLAN) にデフォルト値として入力されます。

注: 勤務地ページ (JOB_DATA1) で従業員に割り当てられた所在地コードに給与プランを割り当てた場合は、職務コードの給与プランではなく所在地の給与プランが、給与プラン ページのデフォルト値として使用されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「給与プラン、給与等級および給与ステップの管理」、「職務コード、所在地または労働協約と給与プランの関連付け」

[軍機能対応]

[兵役] この職務が属する兵役を選択します。この値は、ポジション管理でこの職務コードをポジションに関連付ける際、兵役のデフォルト値として使用されます。

[ランク] この職務が分類される軍のランクを選択します。この値は、ポジション管理でこの職務コードをポジションに関連付ける際、軍のランクのデフォルト値として使用されます。

[給与ステップ コンポーネント]

[詳細] レートコードに関連付けられている名称、給与レート コード タイプ、およびレートコード クラスを確認するときにクリックします。

[周期] 給与レートコードの給与周期がデフォルトの周期として表示されます。給与レートコードの周期は、給与レートコード ページで定義します。

参照: 第 10 章、「周期の設定と使い方」、195ページ

[給与点数] 給与レートコードに給与点数が関連付けられている場合は、その値が表示されます。

[パーセント] この給与レートコード タイプがパーセントである場合は、この職務の給与レートまたはレートコード グループに適用されるパーセントが表示されます。

注: グリッド内の列の順番は、設定方法により異なります。全ての列が表示されない場合があります。必要に応じて水平スクロール バーを使うと、全ての列を確認することができます。

[職務コード ベース コンポーネント]

この職務コードのデフォルトの固定的賃金に含めるレートコードを 1 つ以上選択します。レートコード定義から給与レート、通貨、周期のデフォルト値が取得されますが、必要であれば別の値を設定することもできます。

注: 給与レートコードにマトリックスが関連付けられている場合は、[給与レート] フィールドは使用できません。この場合、給与レートは、従業員の給与レコードにこの給与レートコードが追加されたときに、従業員のデータに基づいて動的に設定されます。

関連項目:

「PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎 - まえがき、」xliii

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「基本報酬管理と予算計画の設定」

職務コードへの固定的賃金外の給与レートコードの関連付け

固定的賃金外ページにアクセスします。

The screenshot displays the 'Fixed Payroll' page in the PeopleSoft HRMS interface. At the top, there are tabs for 'Job Code Profile', 'Evaluation Basis (E)', 'Market Pay Consistency (M)', 'Default Pay (D)', and 'Fixed Payroll' (which is selected). Below the tabs, the 'Set ID' is DEU01 and the 'Job Code' is 140035. The page title is 'Fixed Payroll Rates'. There are search and display controls at the top right. The main section contains fields for 'Effective Date' (1980/01/01), 'Status' (Active), and 'Name' (Analyst-Financial). Below these is a table for 'Fixed Payroll Rates' with columns: 'Rate Code', 'Rate', 'Currency', 'Period', 'Pay Points', 'Assignment', 'Rate Code', 'FTE', and 'Apply'. The table has one row with a search icon and a 'Details' link.

固定的賃金外ページ

HRMS の各ページでは、固定的賃金外の給与レートコードがデフォルト値として使用されることはありません。それらのコードは、給与計算に使用されます。

業務の定義

業務を定義するには、作業内容テーブル コンポーネント (JOB_TASK_TABLE) を使用します。JOB_TASK_TABLE コンポーネント インターフェイスを使用して、このコンポーネントのテーブルにデータをロードします。

このセクションでは、業務の概要と、業務コードを定義する方法について説明します。

業務について

データ入力などの業務コードを定義し、職務作業内容テーブル ページで、職務コードに割り当てます。また、職務作業内容テーブル ページでは、その業務の重要度と周期を指定します。プロファイル管理を使用すると、業務のプロファイルを設定できます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: プロファイル管理、「プロファイル管理」

業務の定義に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
作業内容テーブル	JOB_TASK_TABLE	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[作業内容テーブル]	業務内容を定義します。たとえば、従業員が重い箱を持ち上げて運ぶことが必要な職務の場合、重い箱を運ぶ作業を不可欠業務として定義します。障害がある従業員はフォークリフトを使って箱を運ぶことができるので、業務を重い箱を持ち上げる作業として指定しないでください。
職務作業内容テーブル	JOBCODE_TASK_TABLE	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務作業内容テーブル]	各職務コードに関連付ける業務を定義します。

業務コードの定義

“職務作業内容テーブル” ページにアクセスします。

職務作業内容テーブル

セットID: SHARE 職務コード: 140035 Analyst-Financial
 所在地セットID: SHARE 所在地コード: KCQC00 Montreal Office

職務コード: 検索 | 全件表示 最初 ◀ 1/1 ▶ 最後

*有効日: 1980/01/01 ⓘ 勤務時間比率の合計: 100.00 + -

詳細							
*業務セットID	業務	名称	*重要度	*周期	*影響度	勤務時間比率	
1 SHARE	K00010	Data Conversion	最重要	週次	比較的大	60.00	+ -
2 SHARE	K00037	System Design	普通	日次	非常に小	40.00	+ -

“職務作業内容テーブル” ページ

[業務セットID]

有効なオプションから業務セットID を選択します。有効値は、テーブルセット コントロール ページに保存されています。

[業務]

有効なオプションから業務を選択します。有効値は、作業内容テーブル ページに保存されています。

[重要度]	該当する職務コードに対し、業務の重要度を選択します。有効値は、トランスレート テーブルに保存されています。
[周期]	各職務コードに対する業務の発生頻度を入力します。有効値は周期テーブルに保存されています。
[影響度]	業務を実行しなかった場合の影響度を選択します。有効値は、トランスレート テーブルに保存されています。
[勤務時間比率]	業務に費やす勤務時間の比率を入力します。
[勤務時間比率の合計]	[勤務時間比率] フィールドから出ると、勤務時間比率の合計が表示されません。合計が 100% を超えることはできません。

注: この情報を作成しておく、応募者に職務要件を説明する場合に特に役立ちます。ADA では、応募者に身体障害があるかどうかを尋ねることは禁止していますが、応募している職務の業務リストを見せて、その業務を遂行する上で何か困難があるかを聞くことはできます。つまり、応募者に自分の身体障害について、またその業務を遂行するために必要な施設改善について説明する機会を与えることになります。

支給グループの設定

支給グループを設定するには、支給グループ テーブル コンポーネント (PAYGROUP_TABLE) を使用します。

このセクションでは、支給グループの概要と以下の方法について説明します。

- 支給グループの設定
- 支給グループのプロセス コントロールの設定
- 支給グループの給与計算パラメータの設定
- (USA) FLSA 支給期間定義の指定

支給グループについて

HRMS で使用する給与計算システムを導入する際、支給グループの設定は特に重要な作業の 1 つになります。たとえば、福利厚生や支給の内容によって、従業員に対し異なる支給グループを作成します。

支給グループの情報は、給与計算を処理する場合だけでなく、ヒューマン リソース管理で職務レコードや福利厚生プログラムを設定するときにも必要になります。人事・労務管理メニューの各ページ フィールドのデフォルト値の多くは、支給グループ テーブル コンポーネント (PAYGROUP_TABLE) で指定する支給グループの値に基づいたものです。会社テーブル コンポーネント (COMPANY_TABLE) で設定した各会社について、少なくとも 1 つの支給グループを設定します。

参照: [第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「会社情報の入力」、223 ページ](#)

支給グループの設定

支給グループの設定場所は、使用する給与計算アプリケーションによって異なります。

- PeopleSoft Enterprise 給与計算インターフェイス

PeopleSoft Enterprise 給与計算インターフェイスを使用している場合は、このセクションで説明する支給グループ テーブル コンポーネントと『PeopleSoft Enterprise Payroll Interface 9.0 PeopleBook』で説明されているページを使います。

- PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使用している場合は、このアプリケーションの支給グループ コンポーネントを使います。

参照: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook、「組織構造の定義」、「支給グループの定義」

- PeopleSoft Enterprise 給与計算アプリケーション以外の給与計算システム

PeopleSoft Enterprise 給与計算アプリケーションを使用していない場合は、このセクションで説明する支給グループ テーブル コンポーネントを使います。

注: 複数の給与計算アプリケーション (Payroll for North America とグローバル ペイロールなど) を使用している場合は、それぞれのアプリケーションに必要な支給グループを設定してください。そうでない場合は、使用するアプリケーションに必要な支給グループだけを設定します。会社と支給グループのキーは、給与計算アプリケーションに対して一意である必要があります。したがって、複数の給与計算アプリケーションに対して、同じキーの組み合わせを使用しないでください。

支給グループ テーブルの使い方

支給グループ テーブル コンポーネントは 9 ページで構成されます。ヒューマン リソース管理では、このコンポーネントの最初の 3 ページだけが情報を入力するために使用されます。これはこの 3 つのページで入力した情報が、HRMS の全てのアプリケーションで使われるからです。コンポーネントの最後の 6 ページは、Payroll for North America で使用されます。一部は給与計算インターフェイスでも使用されます。

支給グループの設定に使用するページ

注: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使っている場合は、このコンポーネントを使用しないでください。この他の支給グループ テーブル コンポーネントのページについては、『PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook』および『PeopleSoft Enterprise Payroll Interface 9.0 PeopleBook』で説明されています。以下に示すページについては、『PeopleSoft Human Resources PeopleBook: Administer Salaries for the Netherlands』でも説明されています。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
定義	PAYGROUP_TABLE1	[HRMS 基本設定]、[製品/ 業務別定義]、[給与計算イ ンターフェイス]、[Payroll]、 [支給グループテーブル]	支給グループを設定 します。
プロセスコントロール	PAYGROUP_TABLE2	[HRMS 基本設定]、[製品/ 業務別定義]、[給与計算イ ンターフェイス]、[Payroll]、 [支給グループテーブル]	特定の支給グループに含 まれる従業員の従業員タイ プオプションを設定します。
計算パラメータ	PAYGROUP_TABLE3	[HRMS 基本設定]、[製品/ 業務別定義]、[給与計算イ ンターフェイス]、[Payroll]、 [支給グループテーブル]	支給グループに対する詳 細な給与計算パラメータを 定義します。
FLSA 支給期間定義	FLSA_PERIOD_SBPNL	[HRMS 基本設定]、[製品/ 業務別定義]、[給与計算イ ンターフェイス]、[Payroll]、 [支給グループテーブル] 計算パラメータページの [FLSA 支給期間定義]をク リックします。	(USA) 支給グループの FLSA 計算に使用する FLSA 支給期間定義および その他のパラメータを 指定します。

支給グループの設定

定義ページにアクセスします。

注: USF 機能を使用する場合は、このページは不要です。

定義

プロセスコントロール

計算パラメータ

会社コード: FR Federal Reserve System-Board
支給グループ: F09

支給グループ情報

検索

最初

1/1

最後

*有効日:

2007/03/24

31

*ステータス:

アクティブ

+ -

*セットID:

F09

Q

☐ 退職者支給グループ

*名称:

PI 構成 ID:

Q

略称:

控除優先度:

*国:

USA

Q

USA

通貨:

Q

*デフォルト従業員タイプ:

時間給

▼

GL 使用

レート タイプ:

OFFIC

Q

変換日:

C

Q

周期

*支給:

Q

*日次:

D

Q

日次

*月次:

M

Q

月次

ページ 1 - 3

ページ 4 - 6

ページ 7 - 9

定義ページ

[支給グループ]

このページを開く際に指定した支給グループが表示されます。

注: 従業員の職務レコードでは、支給グループのデフォルト値は会社に基づいて決定されます。

[セットID]

支給グループの従業員が使用するシフト テーブルのセットID を選択します。シフト テーブルを使用しない支給グループには、汎用のセットID を使用します。

[退職者支給グループ]

退職者支給グループの場合は、チェック ボックスをオンにします。退職者は、退職者用の支給グループにまとめておくことをお勧めします。このチェック ボックスに関連する処理はありません。

[PI 構成 ID] (給与インターフェイス構成 ID)

該当する場合は、オンにします。PI 構成 ID は、給与計算インターフェイスの構成テーブル コンポーネント (INTRFC_CONFIG) を使用して設定します。そちらのコンポーネントを先に設定しておくか、またはこのフィールドをこの時点では空白にしておく必要があります。

注: 必ず給与計算インターフェイス用の値を入力してください。PI 構成 ID が正しく設定されていないと、給与計算インターフェイスでの給与計算処理が正しく行われません。詳細については、『PeopleSoft Enterprise Payroll Interface 9.0 PeopleBook』を参照してください。

[控除優先度]

支給グループの控除優先度を入力します。会社に対し小切手の一括支払オプションが設定されていない場合に、複数の職務を兼任する従業員に対して控除優先度が使用されます。

[デフォルト従業員タイプ]	<p>この支給グループで最も一般的な従業員タイプを選択します。この値は、この支給グループの従業員職務レコードのデフォルトとして使用されます。このページで入力するデフォルト値は、福利厚生プログラム テーブルの値で検証されます。そのため、このテーブルを先に設定しておく必要があります。テーブルが設定されていない場合は、このフィールドを空白のままにしておきます。有効値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [給与所得]: 累計勤務時間数ではなく、支給期間ごとに設定された金額を基に給与が支給される従業員に選択します。この場合も、例外をペイシートに入力できます。 • [時間給]: 各支給期間の勤務時間数が一定でない従業員にこの値を選択します。通常、時間給の従業員は勤務時間レポートが必要です。この場合、勤務時間数をペイシートに入力します。 • [例外時給]: 各支給期間の勤務時間数が一定である従業員にこの値を選択します。例外的な勤務についてのみペイシートに入力します。 • [該当なし]: 該当する値がない場合に選択します。
(CAN) [賃金補償プランのデフォルト]	<p>支給グループの賃金補償プランのデフォルト値を指定します。このデフォルト値により、従業員の税データ レコードが自動作成されるたびに、所得税データ CAN ページで従業員に適切な賃金補償プランが割り当てられます。</p>
[周期]	
[支給]	<p>支給期間の周期を選択します。</p> <hr/> <p>注: 給与に関するページで従業員の給与レートが計算される周期が支給期間と同じ周期 (たとえば月次など) である場合は、支給の周期と給与の周期に、同じ周期 ID を使用する必要があります。</p> <hr/>
[日次]	<p>Payroll for North America で日次給与レートを計算するために使用される周期を選択します。周期テーブルで周期タイプが日次に設定されている周期だけが選択可能です。</p>
[月次]	<p>Payroll for North America で月次給与レートを計算するために使用される周期を選択します。周期テーブルで周期タイプが月次に設定されている周期だけが選択可能です。</p>
[GL 使用]	<p>以下のフィールドは、PeopleSoft Enterprise 一般会計で使用されます。</p>
[レート タイプ]	<p>リストから該当する値を選択します。</p>
[変換日]	<p>有効値は、[C] (小切手発行日)、[P] (支給終了日)、[T] (今日の日付) です。</p>

支給グループのプロセス コントロールの設定

プロセス コントロール ページにアクセスします。

定義		プロセス コントロール		計算パラメータ	
会社コード:	FR	Federal Reserve System-Board			
支給グループ:	F09	FLSA Exempt Overtime			
支給グループ情報 検索 最初 1/1 最後					
有効日: 1980/01/01		ステータス: アクティブ + -			
エラーの確認 <input type="checkbox"/> エラーのまま継続 支給終了日エラー オプション: 選択なし		産業 産業: 主要産業 産業セクター: 主要セクター			
支給グループの従業員タイプ 検索 全件表示 最初 1/1 最後					
*従業員タイプ: <input checked="" type="checkbox"/> ペイシートの印刷 <input checked="" type="checkbox"/> 要確認 - ペイシート上の給与額に対する確認が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 要確認 - ペイシート上の支給期間に対する部分的な確認が必要					
ページ 1 - 3		ページ 4 - 6		ページ 7 - 9	

プロセス コントロール ページ

従業員レコードに従業員タイプを割り当てる前に、このページでオプションを設定します。たとえば、月次給与グループは給与所得者だけで構成し、隔週支給グループは時間給所得者と例外時間給所得者で構成することができます。

[エラーの確認]

[エラーのまま継続]

チェック ボックスをオンにすると、給与計算プロセスで非致命的の計算エラーが発生した場合でも支給の確認プロセスが続行されます。エラーが発生したペイシートは指定の不定期カレンダーに移動され、不定期処理の実行時に修正されます。

注: 1 つの給与計算実行 ID に関連付けられた全ての支給グループで、このページの [エラーの確認] オプションの設定を同じにする必要があります。この条件が満たされていない場合、その給与計算実行 ID でエラーが発生したペイシートは移動されません。

[支給終了日エラー オプション]

この値は、支給カレンダー作成プロセスで支給カレンダーを設定するときに使用されます。エラーの発生したペイシートが移動される不定期支給カレンダーの日付を選択します。

[翌日] を選択した場合は、支給カレンダー作成プロセスによって、それぞれの定期支給カレンダーにつき 1 つの不定期支給カレンダーが作成されます。不定期カレンダーの支給終了日は、定期支給カレンダーの支給終了日の 1 日後になります。たとえば、定期カレンダーの支給終了日が 5 月 31 日である場合、不定期カレンダーの支給終了日は 6 月 1 日です。

警告: ユーザーが独自に支給終了日を入力する場合は、移動した給与計算行を計算する前に、その日付の支給カレンダーが作成されていることを必ず確認してください。

[産業]

[産業] 組織の主な業務内容 ([主要産業]、[教育産業]、[官公庁]、[小売業] など) を選択します。

[産業セクター] [主要セクター]、[公的機関]、[US 政府] を選択するか、空欄にします。

[支給グループの従業員タイプ]

[従業員タイプ] [時間給]、[例外時給]、[給与所得] など、この支給グループで有効なオプションを選択します。PeopleSoft Enterprise Payroll for North America を使用する場合は、給与計算処理パラメータも指定する必要があります。または、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America によって支給を受ける従業員については、[ペイシートの印刷] をデフォルトとして選択したままにしておきます。

注: 支給グループに特定の従業員タイプが指定されていない場合、ユーザーは従業員に対しそのタイプを設定することはできません。つまり、支給グループに“給与所得”の従業員タイプが指定されていないければ、従業員が雇用されたときに、職務情報の従業員タイプに“給与所得”の値を指定することはできません。

[ペイシートの印刷]

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America を使っている場合、ペイシートを印刷するときにこの従業員タイプの従業員を必ず含むようにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスがオフになっても、従業員タイプはペイシートに表示されます。

注: [要確認 - ペイシート上の給与額に対する確認が必要] チェック ボックス、または [要確認 - ペイシート上の支給期間に対する部分的な確認が必要] チェック ボックスがオンの場合は、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

[要確認 - ペイシート上の給与額に対する確認が必要]

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America を使っている場合、ペイシートの [支給可] フィールドをデフォルトでオフにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。[支給可] フィールドでは、従業員に対する支給を行うか、確認するまでレコードを保留するかを指定します。つまり、支給計算では [支給可] がオンになっている従業員に対する処理だけが行われます。このオプションを選択する場合は、[ペイシートの印刷] もオンにする必要があります。

通常、時給の従業員は、給与の支払いを受けるために勤務時間数を入力する必要があります。このため、確認作業が必要な場合があります。ペイシートに従業員の勤務時間数を入力したら、手動で [支給可] を選択して、従業員への給与支給が行われるようにします。

例外時給および給与所得の従業員の場合、通常は必要時にのみ例外時間を入力します。そのため、確認作業は必要ありません。例外時給および給与所得の従業員には、支給周期ごとに基本給与や時給が支払われます。これはペイシートの作成時に [支給可] チェック ボックスがオンに設定されているためです。

[要確認 - ペイシート上の支給期間に対する部分的な確認が必要]

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America を使っている場合、ペイシートの [支給可] チェック ボックスを制御するには、このチェック ボックスをオンにします。従業員の採用、雇用終了、職務変更、給与レート変更など、職務レコードの変更が期間中に発生すると、支給期間の一部に対する

レコードが比例配分によって作成されます。通常、給与を比例配分するには、このチェック ボックスをオフにして確認が不要であることを示し、ペイシートで [支給可] をオンにします。それに対して従業員の比例配分を手動で確認したい場合は、このチェック ボックスをオンにします。ペイシート上で支給の調整を行ってから [支給可] チェック ボックスをクリックすることができます。このオプションを選択する場合は、[ペイシートの印刷] もオンにする必要があります。

支給グループの給与計算パラメータの設定

“支給グループ テーブル” の計算パラメータ ページにアクセスします。

定義プロセスコントロール計算パラメータ

会社コード: FRGFederal Reserve Board

支給グループ: F09FLSA Exempt Overtime

支給グループ情報

有効日: 1980/01/01ステータス: アクティブ

支給プログラム ID: GSGeneral Schedule

休日スケジュール: FHLFED Holiday Schedule

*標準勤務時間: FRG

*基本支給: FRG

*超過勤務時間: FOV

*休日勤務: FHL

デフォルト福利厚生プログラム: F02

適及支払プログラム ID:

最終小切手プログラム ID:

☒ FLSA 適用FLSA 支給期間定義

ページ 1 - 3

ページ 4 - 6

ページ 7 - 9

“支給グループ テーブル” - 計算パラメータ ページ

[支給グループ情報]

[支給プログラム ID]

この支給グループの従業員レコードに対するデフォルト値を選択します。支給プログラム ID は、Payroll for North American または給与計算インターフェイスの支給プログラム テーブル コンポーネント (EARNNS.PROGRAM.TBL) を使用して設定します。そちらのコンポーネントを先に設定しておくか、またはこのフィールドをこの時点では空白にしておく必要があります。

[休日スケジュール]

この支給グループの休日スケジュールを選択します。“所在地”のプロファイル ページの [休日スケジュール] フィールドを空白にした場合に、このページで指定した休日スケジュールが、従業員の職務レコードのデフォルトとして使われます。このため、休日スケジュール テーブルを先に設定しておくか、またはこのフィールドをこの時点では空白にしておく必要があります。

308

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

注: 給与計算インターフェイスでサードパーティの給与計算システムを使用して休暇手当の処理を行う場合は、休日スケジュール コンポーネントで “NONE” という休日スケジュールを設定します。

[デフォルト福利厚生プログラム]

支給グループのデフォルトの福利厚生/控除プログラムを選択します。選択したデフォルトの福利厚生/控除プログラムは、従業員の職務レコードのデフォルトとして使用されます。このページで入力するデフォルト値は、福利厚生管理の福利厚生/控除プログラム テーブルと照らし合わせて検証されます。そのため、テーブルを先に設定しておくか、またはこのフィールドをこの時点では空白にしておく必要があります。

[遡及支給プログラム ID]

支給グループを遡及支給プログラムに割り当てるための遡及支給プログラム ID を選択します。遡及支給計算に使用される支給コードを識別する遡及支給プログラム ID を選択します。

注: 遡及支給プログラム テーブルに遡及支給プログラムを定義し、支給テーブルに支給コードを定義します。定義する各遡及支給プログラムに、遡及支給計算の対象となる支給として、支給コードを必要なだけ指定できます。これらの支給コードは、遡及支給に使えるように設定することができます。

[最終小切手プログラム ID]

支給グループに対するデフォルトの最終小切手プログラムを指定する場合に、支給グループの最終小切手処理に使用される支給、控除、および累計を識別する最終小切手プログラム ID を選択します。

(USA) [FLSA 適用]

この支給グループに FLSA の規定を適用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、[FLSA 支給期間定義] ボタンが表示されます。このチェック ボックスをオフにすると、このボタンは表示されず、FLSA 支給期間の定義はできません。

FLSA 機能は Payroll for North America 専用です。このチェック ボックスは、FLSA 処理が FICA/税詳細ページ (“会社テーブル” のデフォルト設定ページからアクセスします) で有効化され、また該当する場合は各グループに対して有効化されている場合にのみページに表示されます。

注: FLSA が会社に対して有効化されていない場合、その会社内の支給グループに対して有効化することはできません。会社レベルで有効化すれば、支給グループ レベルで有効化する必要はありません。ただし、支給グループに対して FLSA を適用する場合は、会社と支給グループの両方のレベルで FLSA を有効化する必要があります。

注: FLSA 計算の対象にする従業員は、FLSA 対象のステータスを持ち、FLSA 支給グループに属している必要があります。

注: 支給グループの設定時に、FLSA 計算用に異なる超過勤務手当コードを使用している 2 つの異なる会社で、同じ支給グループ ID を使用しないでください。

(USA) [FLSA 支給期間定義]

このボタンをクリックすると、FLSA 支給期間定義ページにアクセスすることができます。

[支給]

このグループ ボックスを使い、各支給タイプの支給コードを定義します。

[標準勤務時間] 標準勤務時間の支給タイプに対する支給コードを選択します。

[超過勤務時間] 超過勤務時間の支給タイプに対する支給コードを選択します。

[基本支給] 基本支給タイプに対する支給コードを選択します。

[休日勤務] ペイシートの作成時に、支給期間内で休日が検出された場合、このフィールドに関連付けられた支給コードが使われます。休日スケジュール テーブルの休日タイプがカナダのものである場合は、ペイシートで法定休日支給を設定するために、この支給コードが使われます。

関連項目:

第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「休日スケジュールの設定」、215ページ

(USA) FLSA 支給期間定義の指定

FLSA 支給期間定義ページにアクセスします。

FLSA 支給期間定義

FLSA 支給期間定義:

Fixed FLSA Period

FLSA 使用有給時間

☐ 固定有給時間

☒ 実績有給時間

FLSA カレンダー ID:

FLSA 支給日数:

FLSA 支給期間定義ページ

FLSA 支給期間定義ページに表示される内容は、選択したオプションによって異なります。次の表に、[FLSA 支給期間定義] で選択した値に応じてページに表示されるフィールドを示します。

[FLSA 支給期間定義]	[FLSA 使用有給時間]: [固定有給時間] または [実績有給時間]	[基準式の使用]	[FLSA カレンダー ID]	[FLSA 支給日数]	[FLSA 超過時間数]
[Fixed FLSA Period] および [固定有給時間] を選択し、[基準式の使用] をオフ					
[Fixed FLSA Period] および [固定有給時間] を選択し、[基準式の使用] をオン					
[Fixed FLSA Period] および [実績有給時間] を選択					
[Law Enforcement]					
[Fire Protection]					

[FLSA 支給期間定義]

以下から該当する期間定義を選択します。

- [Fixed FLSA Period]: 7 日間または 14 日間。デフォルト値は 7 日間です。
- [Fire Protection]: 7 日間から 28 日間。
- [Law Enforcement]: 7 日間から 28 日間。
- ユーザー定義の FLSA 支給期間定義も、リストから選択することができます。

[Fixed FLSA Period] を選択した場合、期間は 7 日間または 14 日間のいずれかになります。超過時間数は Law Enforcement および Fire Protection の従業員にのみ適用されるため、[Fixed FLSA Period] が選択された従業員には FLSA 超過時間数は表示されません。

[FLSA 使用有給時間]**[固定有給時間] (1 週間の有給時間)**

従業員の職務レコードに入力した標準時間を使用する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、[基準式の使用] チェックボックスが表示されます。

[基準式の使用]	このチェック ボックスをオンにすると、[FLSA カレンダー ID] および [FLSA 支給日数] は表示されなくなります。基準式は、月または半月単位の支給周期でのみ使用されます。FLSA 支給期間は支給カレンダーの期間と同じだと見なされるため、FLSA カレンダー ID は不要になります。このチェック ボックスをオンにした場合、職務情報のページで勤務日の勤務時間のフィールドに情報を入力する必要が生じます。
[実績有給時間]	給与が支払われる従業員が 1 週間に実際に勤務した時間数に基づいてその従業員の FLSA レートを決定する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
[FLSA カレンダー ID]	FLSA カレンダーの ID を選択します。FLSA カレンダー ID は、FLSA カレンダー テーブル ページの [FLSA 期間開始日] および [FLSA 支給日数] フィールドに関連付けられています。これらのフィールドを使用して、FLSA 期間の開始日と終了日が定義されます。したがって、支給グループでは、FLSA カレンダー ID を使用して FLSA 期間が決定されます。このフィールドは、基準式の使用を選択した場合は表示されません。[Fixed FLSA Period] を選択した場合は、有効値リストには FLSA 支給日数が 7 または 14 の FLSA カレンダー ID だけが表示されます。[Fire Protection] または [Law Enforcement] を選択した場合は、有効値リストには 7 日間から 28 日間の FLSA カレンダー ID が表示されます。
[FLSA 支給日数]	FLSA 支給期間の長さ、つまり FLSA 開始日から FLSA 終了日までの日数です。この日数は自動的に表示されます。FLSA カレンダー テーブルで定義した FLSA 支給日数に基づいて決定されます。このフィールドは表示専用です。
[FLSA 超過時間数]	Fire Protection および Law Enforcement の従業員がこの時間数を超えて勤務すると、FLSA レートが適用されます。どちらのタイプの職務にも、FLSA の規定により異なるさまざまな超過時間数が定義されています。どちらの超過時間数の一覧表も、PeopleSoft に標準で用意されており、FLSA 期間テーブルに定義されています。必要に応じて、ユーザーが異なる超過時間数の一覧表を含む FLSA 期間定義を作成することもできます。

職務コードと支給グループのレポートの実行

職務コードと支給グループのレポートを実行するには、職務コード テーブル レポート コンポーネント (RUN_PER_709C) と支給グループ コンポーネント (RUN_PAY711) を使用します。

このセクションでは、職務コードと支給グループのレポートの実行に使用するページを示します。

職務コードと支給グループのレポートの実行に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ランコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務コードテーブルレポート]	職務コードテーブルレポート (PER709C) には、全ての職務コードの一覧が出力されます。
支給グループ	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[給与計算インターフェイス]、[レポート]、[Pay Group Table]	支給グループレポート (PAY711) には、各支給グループとそのグループに適用される処理特性が出力されます。

第 14 章

銀行および銀行支店の設定

この章では、銀行および銀行支店の設定について概説し、以下の作業を行う方法について説明します。

- 銀行および銀行支店の設定
- IBAN 情報の設定
- 送金元銀行の指定
- 銀行および銀行支店のレポート

銀行および銀行支店の設定について

ここでは、以下の項目について説明します。

- 銀行の設定
- (GBR) イギリスの銀行および住宅金融組合の設定
- CLBANK_EC コンポーネント インターフェイス

銀行の設定

HRMS で銀行を設定するには、次の手順に従います。

1. 銀行テーブル ページ (BANK_EC) で銀行情報を設定します。
2. 支店テーブル ページ (BANK_BRANCH_EC) で銀行支店情報を指定します。

注: イギリスの銀行の場合は、この他にも必要な設定があります。

参照: 第 14 章、「銀行および銀行支店の設定」、「(GBR) イギリスの銀行および住宅金融組合の設定」、315ページ

3. 送金元銀行口座ページで、給与計算処理に使用する送金元銀行を指定します。

(GBR) イギリスの銀行および住宅金融組合の設定

このセクションでは、イギリスの金融機関について銀行/支店コンポーネントのページを設定する方法を説明します。この設定は、従業員の銀行および住宅金融組合に関する情報を銀行口座管理ページに入力する前に行う必要があります。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事レコードへの追加情報の入力」、「銀行口座情報の入力」

業務で取り引きの生じる全ての銀行または住宅金融組合について設定を行う必要があります。この情報は、BANK_EC_TBL テーブルおよび BANK_BRANCH_TBL テーブルに保存されます。また、PYE_BANKACCT テーブルには、受給者の銀行および住宅金融組合の口座に関する詳細が保存されます。

イギリスの銀行については、銀行テーブル ページで銀行の支店を設定します。住宅金融組合については、銀行テーブル ページを使用してその組合の決済を行う銀行支店を設定します。支店テーブル ページおよび関連付けられた住宅金融組合住所ページを使用して、住宅金融組合の詳細を入力します。次の表に、これらのページの入力内容を示します。

口座タイプ	銀行テーブル ページ	支店テーブル ページと住宅金融組合住所ページ
銀行支店	銀行支店の名前、住所、電話番号を入力します。	空欄にしておきます。
住宅金融組合	住宅金融組合の決済を行う銀行支店の名前、住所、電話番号を入力します。	住宅金融組合の名前、住所、および銀行テーブル ページで設定された決済銀行にある、その住宅金融組合の口座の番号を入力します。

警告: 支店テーブル ページで住宅金融組合を設定し、その住宅金融組合を銀行テーブル ページで決済銀行に関連付ける必要があります。説明に従って住宅金融組合を設定しない場合、Global Payroll for the UK で提供される BACS インターフェイスおよびプロセスによって、有効なデータが生成されません。

次の例は、支店テーブル ページでの住宅金融組合の定義方法を示しています。

銀行テーブル

支店テーブル

国コード:

GBR

イギリス

銀行 ID:

300000

銀行タイプ:

商業

銀行名:

LloydsTSB

略称:

LLDS

支店情報

検索

全件表示

最初

1/1

最後

*住宅金融組合 ID:

NORTHERNROCK

*ステータス:

アクティブ

+

-

支店名

Northern Rock - Gosforth

略称:

NrthRock

口座番号:

00105678

[住所](#)

銀行識別コード (BIC):

銀行名カナ:

住宅金融組合の設定の例

この例では、住宅金融組合はその決済を行う LloydsTSB 銀行（銀行 ID 30000）に関連付けられています。住宅金融組合の決済口座は、[口座番号] フィールドに表示されています。

CI_BANK_EC コンポーネント インターフェイス

大量の銀行情報の設定が必要になる場合があるため、PeopleSoft に標準装備されている CI_BANK_EC コンポーネント インターフェイスを使用して銀行情報を Microsoft Excel のスプレッドシートから銀行設定テーブルにインポートすることによって、設定処理を簡単にすることができます。

銀行情報を提供しているウェブサイトまたはサービスから Excel のスプレッドシートに銀行情報をダウンロードしてから、この情報を Excel to Component Interface ユーティリティを使用して Excel のスプレッドシートから CI_BANK_EC コンポーネント インターフェイスにインポートします。CI_BANK_EC コンポーネント インターフェイスによって、PeopleSoft Enterprise HRMS の BANK_EC テーブルおよび BANK_BRANCH_TBL に銀行情報がロードされます。

注: Excel to Component Interface ユーティリティ使用時に PeopleSoft Enterprise HRMS データベースのどの行を更新し、どの行を追加するかは、ユーザーの側に委ねられています。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook

銀行および銀行支店の設定

銀行を設定するには、銀行コンポーネント (BANK_EC) を使用します。銀行支店を設定するには、銀行支店コンポーネント (BANK_BRANCH_TBL) を使用します。

このコンポーネントのテーブルに銀行データをロードするには、CI_BANK_EC コンポーネント インターフェイスを使用します。

参照: PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 銀行の設定
- 銀行支店の定義

銀行および銀行支店の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
銀行テーブル	BANK_EC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[銀行]、[銀行テーブル]	全ての金融機関の基本情報を設定します。 送金元の銀行とその口座を指定する前に、銀行テーブル ページの入力を完了する必要があります。
支店テーブル	BANK_BRANCH_EC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[銀行]、[支店テーブル]	銀行の支店を定義します。国によっては、銀行の支店情報が不要な場合もあります。
銀行支店 - ブラジル	BANKBRANCH_BRA_SEC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[銀行]、[支店テーブル] 支店テーブル ページの [その他の情報] リンクをクリックします。	ブラジルの銀行支店の追加情報を入力します。
銀行支店住所	BANK_BRA_ADR_SP	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[銀行]、[支店テーブル] 支店テーブル ページの [住所] リンクをクリックします。	銀行の支店住所を入力します。

銀行の設定

銀行テーブル ページにアクセスします。

銀行テーブル		支店テーブル	
国コード:	BRA	ブラジル	
銀行 ID:	B BRASIL	ステータス:	アクティブ
銀行タイプ:	一般	代替銀行 ID:	001
*銀行名:	BANCO DO BRASIL	略称:	BB
銀行識別コード (BIC):			
国:	BRA	ブラジル	
住所:	PRAIA DAS CASTANHEIRAS GUARAPARI エスピリト サント	住所編集	
電話番号:			
銀行名フリガナ:			

銀行テーブル ページ

- [銀行 ID]** このフィールドは自動表示です。各国用に、複数のフォーマットがあります。数字の ID と、英数字の ID があります。
- [銀行タイプ]** 銀行タイプを選択します。有効な値は、[商業]、[共同]、[一般]、[郵便局]、および [貯蓄] です。
- [代替銀行 ID]** 銀行の国家 ID があれば入力します。銀行が国際的な銀行業務の協会やシステムに加入している場合、国際取引に使用する代替銀行 ID が与えられています。
- [銀行名]** 銀行の名前を入力します。
- [銀行識別コード (BIC)]** SWIFT から提供される銀行識別コード (BIC) を入力します。保存時に、入力された文字数が 8 または 11 であるかどうかチェックされます。検証されるのは文字数だけであり、BIC が正確かどうかは検証されません。
- [国]** 銀行の所在国を選択します。
- [住所]** 銀行の住所が表示されます。
- [住所編集]** [住所編集] リンクをクリックすると、銀行の住所情報を変更することができます。
- [電話番号]** 銀行の電話番号を入力します。
- [銀行名フリガナ]** このフィールドは、“プライマリ権限リスト基本設定” のデフォルト ページにある [フリガナの使用] チェック ボックスをオンにしている場合に表示されます。日本語を使用する場合は、半角カタカナで銀行名を入力します。

(GBR) イギリスのユーザーが考慮すべき点

イギリスの銀行支店を設定するには、以下の情報を入力します。

【国コード】	“GBR” と入力します。
【銀行 ID】	銀行支店のソート コードを入力します。
注: 住宅金融組合を設定する場合は、その住宅金融組合の決済を行う銀行支店のソート コードを入力します。決済は通常、銀行の本店によって行われます。	
【銀行タイプ】	イギリスの銀行の場合は、オプションです。
【代替銀行 ID】	イギリスの銀行の場合は、空欄にしておきます。
【銀行名】	支店の説明を入力します。銀行の名称だけでなく、支店の所在地も含めて入力します。

銀行支店の定義

支店テーブル ページにアクセスします。

支店テーブル ページ

【支店 ID】	銀行の支店 ID を入力します。支店 ID のフォーマットは国によって異なります。
【支店名】	銀行の支店名を入力します。
【銀行識別コード (BIC)】	SWIFT から提供される銀行識別コード (BIC) を入力します。保存時に、入力された文字数が 8 または 11 であるかどうかチェックされます。検証されるのは文字数だけであり、BIC が正確かどうかは検証されません。
【銀行名フリガナ】	このフィールドは、“プライマリ権限リスト基本設定” のデフォルト ページにある [フリガナの使用] チェック ボックスをオンにしている場合に表示されます。日本語を使用する場合は、半角カタカナで支店名を入力します。
【住所】	[住所] リンクをクリックすると、銀行支店住所ページにアクセスすることができます。
【その他の情報】	[その他の情報] リンクをクリックすると、“銀行支店 - ブラジル” ページにアクセスすることができます。

(GBR) イギリスのユーザーが考慮すべき点

イギリスの住宅金融組合を設定するには、支店テーブル ページで以下の情報を入力します。

[住宅金融組合 ID]	住宅金融組合に 固有の ID を入力します。
[ステータス]	従業員の口座詳細には、ステータスがアクティブである住宅金融組合のみ入力できます。
[支店名]	住宅金融組合の正式名称を入力します。
[口座番号]	決済銀行にある、この住宅金融組合の口座番号を入力します。
[住所]	[住所] リンクをクリックすると、住宅金融組合住所ページにアクセスして、住宅金融組合の本店の住所を入力することができます。

(BRA) “銀行支店 – ブラジル” ページ

[確認番号]	銀行が割り当てる確認番号を入力します。ファイル転送に、確認番号が必要な場合があります。
[支店所在地]	銀行支店の所在地を入力します。
[コンタクト名]	銀行支店のコンタクト先の名前を入力します。

IBAN 情報の設定

IBAN 情報を設定するには、IBAN 国別設定 (SETUP_IBAN_TBL) コンポーネントを使用します。

この章では、IBAN 設定の概要と、IBAN 情報の設定方法について説明します。

IBAN 設定について

国際銀行口座番号 (IBAN) は、多国間で利用できるように、ISO 規格に準拠して割り当てられた、銀行口座を一意に識別する口座番号です。PeopleSoft アプリケーションでは、銀行口座レベルでこの情報を保存することができます。

IBAN 機能を使用するには、IBAN 国別設定ページの [IBAN 使用可] チェック ボックスをオンにしておく必要があります。このページでは、基本銀行口座番号 (BBAN) の作成に適用されるルールを設定することもできます。IBAN 機能を使用可にすると、その国の送金元銀行口座ページと銀行口座管理ページに [IBAN] フィールドと [IBAN 編集] リンクが表示されるようになります。

関連項目:

第 14 章、「銀行および銀行支店の設定」、「送金元銀行の指定」、323ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事レコードへの追加情報の入力」、「銀行口座情報の入力」

IBAN 情報の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
IBAN 国別設定	SETUP_IBAN_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[IBAN 国別設定]	指定した国で IBAN 機能を使用できるようにします。BBAN の検証ルールを作成します。

IBAN 情報の設定

IBAN 国別設定ページにアクセスします。

IBAN 国別設定

国: FRA フランス

IBAN 設定

☒ IBAN 使用可

☐ IBAN 必須

連番	*銀行口座フィールド	*開始位置	*長さ	必須	操作
1	銀行 ID	1	5	<input type="checkbox"/>	[+]
2	銀行支店 ID	6	5	<input type="checkbox"/>	[+]
3	口座番号	11	11	<input type="checkbox"/>	[+]
4	チェックディジット	22	2	<input type="checkbox"/>	[+]

IBAN 国別設定ページ

[IBAN 使用可]

この国で IBAN 機能を使用できるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。IBAN を使用可にすると、この国コードを使用して送金元銀行口座または受給者銀行口座を設定するときに、[IBAN] フィールドと [IBAN 編集] リンクが表示されるようになります。

[IBAN 必須]

この国の口座を設定するときに IBAN の値を必須にするには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、この国コードを使用して送金元銀行口座または受給者銀行口座を設定するときに、[IBAN] フィールドを必ず入力しなければなりません。

参照: 第 14 章、「銀行および銀行支店の設定」、「送金元銀行の指定」、323 ページ

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事レコードへの追加情報の入力」、「銀行口座情報の入力」

[基本銀行口座番号]

[連番]

基本銀行口座番号 (BBAN) に値が表示される順番を指定します。

[銀行口座フィールド]	BBAN の構成に使用するフィールドを選択します。
[開始位置]	銀行口座フィールドが開始される位置を指定します。
[長さ]	この銀行口座フィールドに割り当てられる文字数を入力します。
[ゼロ埋め]	[長さ] と実際の銀行口座フィールドの値の文字数に差がある場合にその差をゼロで埋めるには、このチェック ボックスをオンにします。

送金元銀行の指定

送金元銀行を指定するには、送金元銀行口座コンポーネント (SRC_BANK) を使用します。

このセクションでは、送金元銀行の概要と以下の方法について説明します。

- 送金元銀行の定義
- IBAN 情報の編集
- (CAN/USA) カナダまたはアメリカの銀行データの指定
- (JPN) 口座タイプと会社コードの指定

送金元銀行について

送金元銀行は、給与を支給する際にその資金を引き出す銀行です。各送金元銀行について、適切な銀行と支店、口座番号、および FB フォーマットを指定します。

アメリカ、カナダ、日本など、国によっては、送金元銀行口座ページの [その他の必須情報] リンクを使用してアクセスするページで、送金元銀行の追加情報を設定する必要があります。ヨーロッパ諸国の場合は、国際銀行口座番号 (IBAN) の情報を定義する必要があります。この情報には、送金元銀行口座ページの [IBAN 編集] リンクを使用してアクセスします。

給与計算の設定

PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールを使用している場合は、送金元銀行を支給元に関連付ける必要があります。

参照: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook、「銀行振込の定義」

送金元銀行の指定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
送金元銀行口座	SRC_BANK	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[送金元銀行口座]	資金を引き出す銀行に送金元銀行 ID を割り当て、その銀行の情報を定義します。
国際銀行口座番号	BANKACCT_IBAN_SEC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[送金元銀行口座] 送金元銀行口座ページの [IBAN 編集] リンクをクリックします。	(BEL, FRA, DEU, CHE, ITA, ESP, NLD, GBR) 国際銀行口座番号の入力と編集を行います。IBAN の生成については、口座を提供する銀行または銀行支店が責任を負います。 このページは、送金元銀行口座ページで選択した国に対して、IBAN 国別設定ページで IBAN の設定が済んでいる場合に使用できます。
銀行の追加情報 CAN, 銀行の追加情報 USA	SRC_BANK_PY_SP	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[送金元銀行口座] 送金元銀行口座ページの [その他の必須情報] リンクをクリックします。	(CAN, USA) カナダまたはアメリカの銀行データを指定します。 このページは、送金元銀行口座ページで [国コード] の値に CAN または USA を選択した場合にのみ使用できるようになります。
銀行の追加情報 JPN	GPJP_SRC_BANK_SEC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[送金元銀行口座] 送金元銀行口座ページの [その他の必須情報] リンクをクリックします。	(JPN) 日本の銀行の口座タイプと会社コードを指定します。

送金元銀行の定義

送金元銀行口座ページにアクセスします。

送金元銀行口座 (0)

送金元銀行 ID:

KI1

*名称:

Cariplo

ステータス:

アクティブ

銀行詳細

国コード:

ITA

イタリヤ

*銀行 ID:

05035

Cariplo

銀行支店 ID:

21602

Branch 2

*口座番号:

014

チェック デジット:

*口座名義:

Account Family

*通貨コード:

ITL

イタリア リラ

IBAN:

IT61 0503 5216 0201 4

IBAN 編集

口座名義カナ:

国内 FB:

銀行振替 ID:

国際 FB:

送金元銀行口座ページ

[名称]	銀行の名前を入力します。
[国コード]	銀行所在地の国コードを選択します。
[銀行 ID]	銀行 ID を選択します。
[銀行支店 ID]	銀行の支店 ID があれば選択します。
[口座番号]	銀行の口座番号を入力します。各国には独自の口座番号フォーマットがあります。
[チェック デジット]	銀行 ID、銀行支店 ID (ある場合)、および口座番号の検証に使用する値を入力します。このフィールドは、チェック デジットが使用される国の場合にのみ表示されます。

注: このフィールドは IBAN 口座用ではありません。IBAN のチェック デジットは、このページの [IBAN 編集] リンクをクリックしてアクセスする国際銀行口座番号ページで入力します。

[口座名義]	銀行口座の名義を入力します。
[通貨コード]	通貨コードを選択します。
[IBAN]	IBAN が表示されます。このフィールドの値は、国コードが BEL、FRA、DEU、CHE、ITA、ESP、NLD、または GBR である場合にのみ表示されます。
[IBAN 編集]	このリンクをクリックすると、国際銀行口座番号ページにアクセスして、IBAN を編集することができます。

注: IBAN の生成については、口座を提供する銀行または銀行支店側が全て責任を負います。

選択した国によっては、この追加ページがない場合もあります。このページは、ヨーロッパで営業している会社の情報を記録するときに使用します。

参照: 第 14 章、「銀行および銀行支店の設定」、「IBAN 情報の編集」、326 ページ

[その他の必須情報]

銀行の追加情報のページにアクセスするには、このリンクをクリックします。選択した国によっては、このページが使用されない場合もあります。このページは、アメリカ、カナダ、または日本でのみ営業している会社の情報を記録するときに使用します。

参照: 第 14 章、「銀行および銀行支店の設定」、「(CAN/USA) カナダとアメリカの銀行データの指定」、327 ページ

参照: 第 14 章、「銀行および銀行支店の設定」、「(JPN) 口座タイプと会社コードの指定」、328 ページ

[口座名義フリガナ]

このフィールドは、「プライマリ権限リスト基本設定」のデフォルト ページにある [フリガナの使用] チェック ボックスをオンにしている場合に表示されます。日本語を使用するときは、半角カタカナで銀行口座名を入力します。

[国内 FB] (国内ファーム バンキング)

送金元銀行口座で使用されている FB フォーマットを指定します。国内取引用の FB 名を入力します。受給者または受取人の口座が国内の場合、デフォルトの FB 名は選択した送金元銀行口座の [国内 FB] フィールドから取得されます。国内の口座の国コードは、インストール時に選択した国コードと同じです。

注: アメリカとカナダの場合は該当しません。

[銀行振替 ID]

決済システムにおいて銀行の識別に使用される銀行振替 ID を入力します。

[国際 FB] (国際ファーム バンキング)

国外取引用の FB 名を入力します。受給者または受取人の口座が国外の場合、デフォルトの FB 名は選択した送金元銀行口座の [国際 FB] フィールドから取得されます。国外の口座の国コードは、インストール時に選択した国コードとは異なります。

注: このコンポーネントに含まれる支給 ID 割当ページは、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでのみ使用されます。詳細については、PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールのドキュメンテーションに記載されています。

IBAN 情報の編集

国際銀行口座番号ページにアクセスします。

国際銀行口座番号	
国:	IT 計算
チェック デジット:	61
基本銀行口座番号:	0503521602014

国際銀行口座番号ページ

注: IBAN の生成については、口座を提供する銀行または銀行支店側が全て責任を負います。

注: 保存時にデータが検証されます。無効な値がある場合は、ページが保存されません。

[国] IBAN の生成に使用される国コードを入力または編集します。

[計算] このボタンをクリックすると、IBAN が生成されます。[国] および [基本銀行口座番号] フィールドの値は、送金元銀行口座ページのデータを使用して自動的に入力されます。ユーザーは [チェック デジット] フィールドに入力し、必要があればデフォルトの値を修正します。

[チェック デジット] IBAN の検証に使用される数を入力します。

[基本銀行口座番号] IBAN の生成に使用される口座番号を入力または編集します。

(CAN/USA) カナダとアメリカの銀行データの指定

“銀行の追加情報 CAN” ページ または “銀行の追加情報 USA” ページにアクセスします。

銀行の追加情報 USA

送金元銀行 ID: 001

名称:

処理待ち日数

処理待ち日数: 10

▼ Payroll for North America

小切手フォーム ID: LCHCK

通知フォーム ID: KUADV

振込方法: テーフ

OK キャンセル

“銀行の追加情報 USA” ページ

(USA) [処理待ち日数]

[処理待ち日数]

処理待ち日数を入力します。この送金元銀行レベルで入力したデータに基づいて、予告通知処理が必要かどうかが決まります。このフィールドに “0” と入力した場合は、受給者レベルで予告通知は生成されません。“0” 以外の数値を入力した場合は、予告通知が必要になります。

会社からの送金先の口座を変更する場合（たとえば、従業員が自動振込用の口座を変更する場合）、銀行では、ダミーのレコードを使って振込処理を試行し、変更後の口座が有効（既存）であるか確認しておくことを推奨しています。指定した処理待ち期間、つまり、ダミー処理から口座への振込みが可能になるまでの期間のことを、“処理待ち日数” といいます。

注: 予告通知処理を使うことで、従業員レベルで指定した送金番号の確認ができます。

[Payroll for North America]

[Payroll for North America] グループ ボックスは、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America がインストールされている場合にのみ表示されます。このグループ ボックスでの定義は、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America を使用する場合にのみ必要です。

[小切手フォーム ID] 会社が小切手を振り出す場合は、この送金元銀行口座で使用するフォーム ID を選択します。

[通知フォーム ID] 会社が自動振込を行う場合は、この送金元銀行口座で使用するフォーム ID を選択します。

小切手または自動振込の番号を割り当てるときに、支給確認プロセスおよび給与小切手の再印刷プロセスによってこのフィールドが参照され、使用する小切手および通知の番号が決定されます。フォーム ID は、フォームテーブルで定義します。

[振込方法] 銀行振込み処理に必要なトランザクションを指定します。オプションは、[テープ]、[ファイル転送]、[フロッピー]、および [書類] です。

PeopleSoft Enterprise Payroll for North America の場合、このフィールドは参照専用です。給与計算処理にはいかなる影響も与えません。

(CAN) [ルートのフォーマット]

ルートのフォーマットを入力します。

ルート番号を使って、銀行に送るテープまたはファイルでルート番号 (銀行 ID) を表す方法を指定します。この番号は前にゼロを付けることができます。銀行 ID と銀行支店 ID のどちらが先になるかによって、番号が変わることがあります。

自動振込みファイル作成の SQR プログラム DDP001CN で作成された自動支払いのルート番号に適用するフォーマットを選択します。このフォーマットを使用して、従業員の小切手をその個人銀行口座に振り込みます。有効値は以下のとおりです。

- [リードゼロ,銀行 ID,支店 ID]
- [リードゼロ,支店 ID,銀行 ID]
- [銀行 ID,支店 ID] (リードゼロなし)
- [支店 ID,銀行 ID] (リードゼロなし)

(JPN) 口座タイプと会社コードの指定

“銀行の追加情報 JPN” ページにアクセスします。

銀行の追加情報 JPN

送金元銀行 ID:

KJ0001

名称:

Mizuho Bank

*口座タイプ:

当座

会社コード:

“銀行の追加情報 JPN” ページ

- [口座タイプ]

送金元銀行の口座タイプです。有効値は、[当座] または [普通] です。
- [会社コード]

金融機関によって会社割り当てられている ID を入力します。

銀行および銀行支店のレポート

銀行および銀行支店のレポートを作成するには、銀行/支店レポート (RUN_PAY701) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、銀行および銀行支店のレポートを作成するためのページを示します。

銀行/支店レポートに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
銀行/支店レポート	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[銀行/支店]	銀行および銀行支店テーブルの情報が一覧表示される銀行/支店レポートを実行します。

第 15 章

チャートフィールドとチャートフィールド組み合わせの設定とその使い方

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、PeopleSoft チャートフィールドの概要、事前設定として必要なインテグレーション ポイント、および以下の作業を行う方法について説明します。

- 一般会計システムとバージョンの指定
- チャートフィールド設定テンプレートの設定
- チャートフィールド値の入力と管理
- 有効なチャートフィールド組み合わせの入力と管理
- トランザクションで使用された勘定コードの確認と管理
- HRMS トランザクションでのチャートフィールド組み合わせの編集

注: PeopleSoft Enterprise 8.4 Financials またはそれ以降のリリースと統合されている場合は、この章で説明するほとんどのコンポーネントは表示専用です。

PeopleSoft チャートフィールドについて

PeopleSoft アプリケーションでは、勘定科目表を保存したり、取引データや予算データを分類するための基本構造を提供するフィールドのことをチャートフィールドと呼びます。各チャートフィールドには固有の属性が設定されるため、対象カテゴリのデータを最も効率的かつ柔軟な方法で記録、レポート、分析することができます。1 つのチャートフィールドは常に 1 つのデータ カテゴリを表しますが、同一データを詳細に分類するため、複数の値が保存されます。

取引金額の基本カテゴリとして、勘定科目チャートフィールドが用意されています。これに加え、他のチャートフィールドを適切な値と共に使用することにより、製品別、プロジェクト別、資金別など任意の数のカテゴリ別に、同一取引について同時に記録することができます。この場合、同じ取引データに対して追加サブセットが作成されます。

PeopleSoft では、ほとんどの会計要件やレポート要件に対応するチャートフィールド セットとその関連機能を用意しています。チャートフィールドは、ユーザー固有の要件を満たすようにユーザーが設定する設計になっています。

標準チャートフィールド

次の表は、標準のチャートフィールドについて説明しています。

ラベル名	ラベル略称	チャートフィールド名 (フィールド長)	コンポーネント名	説明
勘定科目	勘定科目	ACCOUNT (10)	GL_ACCOUNT	取引の種別を分類します。これは必須フィールドです。企業で使用される勘定科目に使用します。
代替勘定科目	代替勘定科目	ALTACCT (10)	ALTACCOUNT	行政機関の取引の種別を分類します。法定会計に使用します。
業務ユニット	業務ユニット	OPERATING_UNIT (8)	OPERATING_UNIT	流通倉庫や販売センターなどの場所の指定に使用できます。
資金コード	資金	FUND_CODE (5)	FUND_DEFINITION	教育/公的機関の会計処理における基本的な構成単位です
部門	部門	DEPTID_CF (10)	DEPARTMENT	組織の部門別に情報を追跡管理します。取引の責任者や取引の影響を受ける人物の指定に使用できます。
プログラムコード	プログラム	PROGRAM_CODE (5)	PROGRAM_DEFINITION	組織内または組織全体のプログラムの支出を追跡管理します。関連するアクティビティのグループ、コストセンター、収益センター、責任センターおよび学問的プログラムの識別に使用できます。
クラス フィールド	クラス	CLASS_FLD (5)	CLASS_PNL	特定の充当金の識別に使用できます。
予算参照	予算参照	BUDGET_REF (8)	BUDREF_PNL	個々の予算が予算キーと重複する予算期間を共有している場合、それぞれの予算を一意に識別する際に使用します。
製品	製品	PRODUCT (6)	PRODUCT	収益性やキャッシュフローを、販売または製造した製品別に分析する際に役立つ追加情報を取得します。

ラベル名	ラベル略称	チャートフィールド名 (フィールド長)	コンポーネント名	説明
プロジェクト/グラント	プロジェクト	PROJECT_ID (15)	プロジェクト	グラントとプロジェクトの会計処理に役立つ追加情報を取得します。プロジェクトチャートフィールドには、有効日はありません。
チャートフィールド 1	なし	CHARTFIELD1 (10)	CHARTFIELD3	汎用の拡張チャートフィールドです。
チャートフィールド 2	なし	CHARTFIELD2 (10)	CHARTFIELD2	汎用の拡張チャートフィールドです。
チャートフィールド 3	なし	CHARTFIELD3 (10)	CHARTFIELD3	汎用の拡張チャートフィールドです。
関係会社	関係会社	AFFILIATE (5)	なし	1つのユニット間勘定科目を使用している場合に、ビジネスユニット間での取引のマッピングに使用します。
関係会社 - 資金	関係会社 - 資金	AFFILIATE_INTRA1 (10)	なし	1つのユニット内勘定科目を使用している場合に、資金間での取引の関連付けに使用します。出荷時には、非アクティブに設定されています。
関係会社 - 業務ユニット	会社 - 業務ユニット	AFFILIATE_INTRA2 (10)	なし	1つのユニット内勘定科目を使用している場合に、業務ユニット間での取引の関連付けに使用します。出荷時には、非アクティブに設定されています。

事前設定

次の表は、チャートフィールドとチャートフィールド組み合わせの機能を導入するために、HRMS データベースに設定する必要があるサービス オペレーションについて説明しています。

サービス オペレーション	説明
RELEASE_REQUEST	HRMS は、Financials の一般会計バージョンの更新をリクエストします。
RELEASE_RESPONSE	HRMS は、一般会計バージョンの更新データを Financials から受信します。
FSCM_CF_CONFIG	HRMS は、特定のチャートフィールド設定テンプレートを Financials から受信します。
各 GL チャートフィールドにつき 1 つのインテグレーション ポイント	HRMS は、Financials データベースからパブリッシュされたチャートフィールド値を受信します。 参照: 第 15 章、「チャートフィールドとチャートフィールド組み合わせの設定とその使い方」、「チャートフィールド値の入力と管理」、341 ページ
HR_ACCT_CD_LOAD	HRMS は、Financials データベースまたはフラットファイルからインポートされた組合せコードを受信し、一般会計勘定科目テーブル (GL_ACCT_CD_TBL) にロードします。
HR_CHARTFLD_COMBO_SYNC	HRMS は、Financials によってパブリッシュされたサービス オペレーションを受信し、スピード入力テーブルを最新の状態を保ちます。
COMBO_CF_EDIT_REQUEST	HRMS は、組合せコードを検証するリクエストを Financials データベース (8.4.01 以降のバージョン) に送信します。
COMBO_CF_EDIT_REPLY	HRMS は、組合せコードの検証リクエストに対する Financials データベースからの返信を受信し、処理します。

注: 上記のサービス オペレーションのほとんどでは、インテグレーション ブローカーを使用できるバージョンの PeopleSoft Enterprise 一般会計を使用する必要があります。

関連項目:

Customer Connection Web サイトの Implementation Guide セクションのインタラクティブ サービス リポジトリ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Integration Broker

第 34 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS におけるインテグレーション ポイントの使い方」、787 ページ

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook

一般会計システムとバージョンの指定

このセクションでは、さまざまなセットアップ オプションの機能を比較し、さらに以下の項目について説明します。

- PeopleSoft Enterprise 一般会計の指定
- その他の一般会計システムの指定

一般会計システムとバージョンによる比較について

インストール テーブルでの一般会計インジケータと一般会計バージョンの設定は、チャートフィールドの組み合わせ編集機能とチャートフィールド ページの表示内容に影響を与えます。

次の表は、インストール テーブルで設定される一般会計のインジケータとバージョンのさまざまな組み合わせに対するチャートフィールド機能を比較したものです。

一般会計インジケータ	一般会計バージョン	チャートフィールド設定テンプレートの更新	個々のチャートフィールド値の更新または追加	インテグレーション プローカーによる組み合わせの検証
オフ	N/A	可	可 (部門チャートフィールド以外)	不可
オン	N/A	不可 標準チャートフィールドテンプレートを使用	可 (部門チャートフィールド以外)	不可
オン	8.40.00 より前	不可 標準チャートフィールドテンプレートを使用	不可 参照専用	不可
オン	8.40.00	不可 PeopleSoft Enterprise Financials によって更新されるチャートフィールドテンプレートを使用	不可 参照専用	不可
オン	8.40.01 以降	不可 PeopleSoft Enterprise Financials によって更新されるチャートフィールドテンプレートを使用	不可 参照専用	可

注: 部門チャートフィールドは、常に読取専用設定されています。部門テーブルに加えられた変更は、部門チャートフィールドに自動的に反映されます。

関連項目:

第 6 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS の設定とインストール」、「導入デフォルトの設定」、125ページ

一般会計システムとバージョンの指定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
製品	INSTALLATION_TBL1	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[製品]	導入する PeopleSoft アプリケーションを指定します。
製品別設定	INSTALLATION_TBL1A	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブル]、[製品別設定]	製品(産業)別の導入情報を入力します。

関連項目:

第 6 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS の設定とインストール」、「導入デフォルトの設定」、125 ページ

PeopleSoft Enterprise 一般会計の指定

PeopleSoft Enterprise 一般会計システムとそのバージョンを指定、更新するには、次の手順に従います。

1. “インストール テーブル” – 製品ページ (INSTALLATION_TBL1) で、[一般会計] チェック ボックスをオンにします。
2. “インストール テーブル” – 製品別設定ページ (INSTALLATION_TBL1A) で、[一般会計] グループボックスの [バージョンの更新] ボタンをクリックします。

このボタンをクリックすると、Financials データベースへのリクエストが実行され、[GL バージョン] が自動的に更新されます。

注: [GL バージョン] のデフォルト値は、“N/A” です。この値は、PeopleSoft Enterprise Financials 8.4 またはそれ以降のリリースを使用している場合、[バージョンの更新] ボタンを使用して更新できます。

その他の一般会計システムの指定

PeopleSoft Enterprise 一般会計を使用していない場合、“インストール テーブル” – 製品ページの [一般会計] チェック ボックスをオンにしないでください。[GL バージョン] は、“N/A” と表示されます。

使用している一般会計システムが Payroll for North America によってサポートされている場合、関連するドキュメントのシステム設定の指示に従ってください。

チャートフィールド設定テンプレートの設定

標準チャートフィールド設定テンプレートを更新するには、標準チャートフィールド設定 (STANDARD_CF_TMPLT) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、標準チャートフィールド設定の概要と以下の項目について説明します。

- PeopleSoft Enterprise Financials からのチャートフィールド設定のインポート
- 標準チャートフィールド設定テンプレートの確認と更新

標準チャートフィールド設定について

PeopleSoft では、標準チャートフィールド設定テンプレートが用意されています。テンプレートには、14 のアクティブなチャートフィールドが以下の順序で設定されています。

- 勘定科目
- 部門
- プロジェクト/グラント
- 製品
- 資金コード
- プログラム コード
- クラス フィールド
- 関係会社
- 業務ユニット
- 代替勘定科目
- 予算参照
- チャートフィールド 1
- チャートフィールド 2
- チャートフィールド 3

注: PeopleSoft Enterprise Financials を使用している場合、チャートフィールド設定テンプレートは参照専用となります。このチャートフィールド設定テンプレートの修正は、Financials システムで実行する必要があります。Financials 8.40 以降のバージョンを使用している場合、チャートフィールド設定の変更は、FSCM_CF_CONFIG サービス オペレーションによって HCM に送信されます。

PeopleSoft Enterprise 一般会計を使用していない場合、“標準チャートフィールド設定” ページを使用して、標準チャートフィールド設定に以下の修正を行うことができます。

- ページおよびレポートでのチャートフィールドの表示順序の変更
- チャートフィールドの名称と略称のラベル変更
- チャートフィールドの非アクティブ化またはアクティブ化

非アクティブのチャートフィールドは、ページ、レポートおよびプロンプト リストには表示されません。非アクティブのチャートフィールドはインデックスに含まれません。表示はされませんが、レコードまたはページから削除されているわけではありません。これにより、設定に要する時間と労力が大幅に削減されます。

- ページおよびレポートに表示されるチャートフィールドのフィールド長の変更
- ユニット内関係会社チャートフィールドの関連チャートフィールドの変更

標準チャートフィールド設定テンプレートの確認と更新に使用するページ

注: PeopleSoft Enterprise Financials を使用している場合、チャートフィールド設定テンプレートは参照専用となります。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
標準チャートフィールド設定	STANDARD_CF_TMPLT	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[標準チャートフィールド設定]、[標準チャートフィールド設定]	チャートフィールド値ページで使用するチャートフィールドをアクティブに設定します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
アクション ステータス	STANDARD_CF_LOG	“標準チャートフィールド設定” ページの [設定ステータス] ボタンをクリックします。	チャートフィールドの変更ステータスについて表示します。レポートは PAY_CONFIG レポートによって作成されます。
チャートフィールドラベル	STANDARD_CFLBL_LNG	アクション ステータス ページのラベル詳細をクリックします。	基本言語と関連言語の両方のチャートフィールドラベルの変更を表示します。

PeopleSoft Enterprise Financials からのチャートフィールド設定のインポート

PeopleSoft Enterprise Financials 8.40 またはそれ以降のリリースと統合している場合、Financials システムでチャートフィールド設定プロセス (PYCONFIG) が完了すると、Financials データベースから HCM データベースに FSCM_CF_CONFIG サービス オペレーションが自動的に送信されます。

FSCM_CF_CONFIG サービス オペレーションは、Financials の最新のチャートフィールド テンプレートと、対応する全てのチャートフィールド ラベルから構成されます。サービス オペレーションを受信すると、HCM データベースでは、チャートフィールド設定テンプレートとラベルが比較され、HCM のチャートフィールド変更に必要なアクションが生成されます。これらの実行待ちのチャートフィールド変更アクションは、アクション ログ ファイルに記録されます。アクション ステータス ページでこれらの変更を確認し、システムに適用するタイミングを決定できます。“標準チャートフィールド設定” ページにあるボタンを使用して、設定ステータスを確認し、変更を適用します。

標準チャートフィールド設定テンプレートの確認と更新

“標準チャートフィールド設定” ページにアクセスします。

標準チャートフィールド設定

	ステータス	順序	フィールド名	フィールド略称	表示長	関係会社タイプ	ユニット内関連チャートフィールド
<input type="checkbox"/>	アクティブ	1	Account	Acct	10		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	2	Department	DeptID	10		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	3	Project/Grant	Proj/Grt	15		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	4	Product	Prod	6		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	5	Fund Code	Fund	5		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	6	Program Code	Program	5		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	7	Class Field	Class	5		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	8	Affiliate	Affl	5	ユニット間	ビジネス ユニット
<input type="checkbox"/>	アクティブ	9	Operating Unit	Operating Unit	8		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	10	Alternate Account	Alt. Account	10		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	11	Budget Reference	Budget Ref	8		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	12	Chartfield 1	Chartfield1	10		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	13	Chartfield 2	Chartfield2	10		
<input type="checkbox"/>	アクティブ	14	Chartfield 3	Chartfield3	10		
<input type="checkbox"/>	非アクティブ	99	Fund Affiliate	Fund Affil	10	ユニット内	
<input type="checkbox"/>	非アクティブ	99	Operating Unit Affiliate	Oper Unit Affil	10	ユニット内	

アクティブ

非アクティブ

影響

設定ステータス

適用

“標準チャートフィールド設定” ページ

“標準チャートフィールド設定” ページを最初に開いたときは、PeopleSoft によって提供された状態でチャートフィールドが表示されます。

[ステータス]

アクティブなチャートフィールドは、ページ、レポートおよびプロンプト リストに表示されます。非アクティブなチャートフィールドは、ページ、レポートおよびプロンプト リストには表示されませんが、レコードおよびページから削除されているわけではありません。

“関係会社 - 資金”と“関係会社 - 業務ユニット” は非アクティブの状態を提供されていますが、アクティブの状態を提供されたチャートフィールドでは要件を満たしていない場合、アクティブに変更できます。

警告: 全ての設定を実行済みで、システムが稼働中の場合、チャートフィールドのステータスを変更しないでください。ステータスによって、チャートフィールドがシステム全体でページ、レポートおよびプロンプト リストに表示されるかどうかが決まります。

[順序]

このフィールドの順序連番を変更することによって、表示順序を変更できます。非アクティブのチャートフィールドの順序の値は 99 です。アクティブのチャートフィールドには順序番号が必要です。非アクティブのチャートフィールドをアクティブに変更すると、使用可能な次の番号が自動的に割り当てられます。この番号は変更可能で、新たにアクティブにしたチャートフィールドに任意の連番を指定することができます。

	<p>ページを保存すると、最終的な並べ替えが自動的に行われ、連番内の欠番や重複が削除されます。</p>
[フィールド名称]、[フィールド略称]	<p>チャートフィールドの表示ラベルを変更するための、新規の名称と略称を入力します。これらの名称は、チャートフィールドのデータベース フィールド名ではなく、ページ、レポートおよびプロンプト リストに表示される名称です。</p>
[表示長]	<p>ページ上での表示長を変更するための新規の値を入力します。表示長には、チャートフィールドの実際のフィールド長よりも大きい値を指定できません。</p>
[関係会社タイプ]	<p>関係会社チャートフィールドは、ユニット間関係会社かユニット内関係会社のいずれかになります。標準チャートフィールドには、関係会社タイプはありません。</p>
[ユニット内関連チャートフィールド]	<p>アクティブのユニット内関係会社チャートフィールドにはそれぞれ、フィールド長が同じかそれより小さい固有のユニット内関連チャートフィールドを指定する必要があります。(ユニット間関係会社チャートフィールドには、ビジネス ユニットが必須です。)</p>
[アクティブ]	<p>非アクティブのチャートフィールドをアクティブにするには、アクティブにするフィールドの隣のチェック ボックスをオンにし、[アクティブ] ボタンをクリックします。</p>
[非アクティブ]	<p>アクティブのチャートフィールドを非アクティブにするには、非アクティブにするフィールドの隣のチェック ボックスをオンにし、[非アクティブ] ボタンをクリックします。</p>
<hr/> <p>警告: トランザクション データが転記済みであるチャートフィールドは、非アクティブにしないでください。非アクティブにすると、そのチャートフィールドは、ページやレポートに表示されません。</p> <hr/>	
[影響]	<p>このボタンをクリックすると、チャートフィールド設定 PSJob プロセス (PYCONFIG) がレポート モードで実行され、チャートフィールド変更の分析および新規テンプレートの適用による影響の割り出しが行われます。</p>
[設定ステータス]	<p>このボタンをクリックすると、アクション ステータス ページが表示され、標準チャートフィールドのアクティビティ ログや実行待ちの変更 (Financials からサブスクライブされているが未適用の変更など) を確認できます。</p> <p>サブスクライブされた変更を適用する前に、[影響] ボタンをクリックしてその影響を確認してください。</p> <p>変更の保存後、その変更を適用する前にキャンセルしたい場合、“設定ステータス - アクション ステータス” ページで、不要な設定アクションをキャンセルできます。これにより、チャートフィールドは、前の設定にリセットされます。</p>
[適用]	<p>このボタンをクリックすると、チャートフィールド設定 PSJob プロセス (PYCONFIG) が更新モードで実行され、チャートフィールド設定の変更が適用されます。</p>
<hr/> <p>警告: “標準チャートフィールド設定” ページに変更を加えた場合は、それらを有効にするために、チャートフィールド設定プロセスを更新モードで実行して変更を適用する必要があります。</p> <hr/>	

変更を適用すると、アクティブなチャートフィールドのみが表示されるようになります。チャートフィールドは、この標準設定で定義した順番とラベルで表示されます。

チャートフィールド値の入力と管理

チャートフィールド値を入力、管理するには、チャートフィールド値の定義コンポーネント (DEFINE_CF_VALUE) を使用します。

このセクションでは、チャートフィールド値の設定の概要と、以下の項目について説明します。

- 関係会社チャートフィールドの使い方
- プロジェクト値およびグラント値の追加
- 代替勘定科目値の追加

Financials からのチャートフィールドのインポートについて

PeopleSoft Enterprise Financials リリース 8.0 またはそれ以降のリリースを使用している場合、インテグレーション ブローカーを使用して、Financials データベースからチャートフィールド値をインポートし、それらのデータを最新の状態に保ちます。

次の表は、インテグレーション ブローカーによる Financials からのチャートフィールドのインポートで使用するサービス オペレーションの一覧です。

チャートフィールド	サービス オペレーション
勘定科目	ACCOUNT_CHARTFIELD_FULLSYNC ACCOUNT_CHARTFIELD_SYNC
プロジェクト/グラント	PROJECT_FULLSYNC PROJECT_SYNC
製品	PRODUCT_CHARTFIELD_FULLSYNC PRODUCT_CHARTFIELD_SYNC
資金コード	FUND_LOAD FUND_CF_SYNC
プログラムコード	PROGRAM_CF_FULLSYNC PROGRAM_CF_SYNC

チャートフィールド	サービス オペレーション
クラス フィールド	CLASS_CF_FULLSYNC CLASS_CF_SYNC
業務ユニット	OPER_UNIT_CF_FULLSYNC OPER_UNIT_CF_SYNC
代替勘定科目	ALTACCT_CF_FULLSYNC ALTACCT_CF_SYNC
予算参照	BUDGET_REF_CF_FULLSYNC BUDGET_REF_CF_SYNC
チャートフィールド 1	CHARTFIELD1_FULLSYNC CHARTFIELD1_SYNC
チャートフィールド 2	CHARTFIELD2_FULLSYNC CHARTFIELD2_SYNC
チャートフィールド 3	CHARTFIELD3_FULLSYNC CHARTFIELD3_SYNC

インポートしたチャートフィールド値は、チャートフィールド値ページで参照できます。

関連項目:

Customer Connection の Implementation Guide セクションのインタラクティブ サービス リポジトリ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Integration Broker

第 34 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS におけるインテグレーション ポイントの使い方」、787ページ

その他の会計システムを使用している場合のチャートフィールド値について

PeopleSoft Enterprise Financials と統合していない場合、または PeopleSoft Enterprise Financials システムにインテグレーション ブローカー機能が組み込まれていない場合、チャートフィールド値を HCM データベースに直接入力して管理する必要があります。

“標準チャートフィールド設定” ページでアクティブなチャートフィールドによって、チャートフィールド値の入力が可能なページが決まります。

注: チャートフィールド値には、特殊文字や組み込みブランクを使用しないことをお勧めします。一般的に使用される英数字やアンダースコアを使用してください。特殊文字や組み込みブランクはエラーの原因となる可能性があり、特にバックグラウンド処理で問題を引き起こす可能性があります。

プロジェクト チャートフィールドを除いて、チャートフィールド値の定義への変更には全て有効日が設定されます。そのため、いつ部門をアクティブに設定するか、製品ラインを導入するか、勘定科目をクローズするかなどを設定できます。有効日機能をアクティブ/非アクティブ機能と共に使用することにより、全ての変更や追加に関する完全な履歴を保持し、完全な監査証跡を提供し、過去、現在、将来の状況について比較することができます。あるチャートフィールド値を今後使用しない場合は、元の行を非アクティブにするのではなく、行を追加して有効日を設定した非アクティブなエントリを作成します。既存の行を非アクティブに設定するだけでは、チャートフィールド値がアクティブだったときの履歴が残りません。

最初にチャートフィールド テーブルに値を入力すると、以降はチャートフィールド値ページで管理できます。

チャートフィールドの設定と確認に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
チャートフィールド値	DEFINE_CF_VALUES	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[チャートフィールド値]、[チャートフィールド値]	アクティブなチャートフィールドのコンポーネントへのリンクが表示されます。アクセスするコンポーネントのリンクをクリックします。 注: このページには、“標準チャートフィールド設定”ページでアクティブに設定したチャートフィールドのコンポーネントへのリンクのみが表示されます。
一般会計勘定科目テーブル	GL_ACCOUNT	チャートフィールド値ページで[勘定科目]リンクをクリックします。	新しい勘定科目チャートフィールドの値を設定します。勘定科目の値は、他のチャートフィールド値と組み合わせで有効なチャートフィールド組み合わせを作成するのに使用されます。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
部門	DEPT_CHARTFIELD	チャートフィールド値ページで[部門]リンクをクリックします。	部門を確認します。一般的に、部門は、組織を大きな単位で分類した区分(事業部、業務ユニット、大学内の学部、関係官庁の支局など)を表します。通常、部門では予算と責任会計が重要視されます。 注: このページへの入力はできません。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
プロジェクト/グラント	PROJECT_CF	チャートフィールド値ページで[プロジェクト/グラント]リンクをクリックします。	プロジェクトの値を追加して、プロジェクトの開始日と終了日、およびプロジェクトステータスを設定します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
製品	PRODUCT	チャートフィールド値ページで[製品]リンクをクリックします。	製品コードを追加します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
資金コード	FUND_DEFINITION	チャートフィールド値ページで[資金コード]リンクをクリックします。	全てのタイプの資金について値を定義します。資金は、教育/公的機関の会計処理における基本的な構成単位です。資金は貸借一致の勘定科目セットとして管理され、財務報告書の作成に使用されます。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
プログラムコード	PROGRAM_DEFINITION	チャートフィールド値ページで[プログラムコード]リンクをクリックします。	コードを設定して、プログラムの財務情報の追跡を可能にします。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
クラス フィールド	CLASS_PNL	チャートフィールド値ページで[クラス フィールド]リンクをクリックします。	コードを設定して、給与や賞与などのクラス金額の財務情報の追跡を可能にします。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
業務ユニット	OPERATING_UNIT	チャートフィールド値ページで[業務ユニット]リンクをクリックします。	コードを設定して、財務情報の追跡のための業務ユニットを指定します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
代替勘定科目	ALTACCOUNT	チャートフィールド値ページで[代替勘定科目]リンクをクリックします。	新しい代替勘定科目チャートフィールドの値を設定します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
予算参照	BUDREF_PNL	チャートフィールド値ページで[予算参照]リンクをクリックします。	予算キーと重複期間を共有する複数の予算について、一意に設定します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
チャートフィールド 1	CHARTFIELD3	チャートフィールド値ページで[チャートフィールド 1]リンクをクリックします。	新しい勘定科目チャートフィールド 1 の値を設定します。チャートフィールド 1 はユーザーが設定可能なチャートフィールドです。標準チャートフィールドの他にチャートフィールドが必要な場合に、このチャートフィールドをアクティブにして設定します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。
チャートフィールド 2	CHARTFIELD2	チャートフィールド値ページで[チャートフィールド 2]リンクをクリックします。	新しい勘定科目チャートフィールド 2 の値を設定します。チャートフィールド 2 はユーザーが設定可能なチャートフィールドです。標準チャートフィールドの他にチャートフィールドが必要な場合に、このチャートフィールドをアクティブにして設定します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
チャートフィールド 3	CHARTFIELD3	チャートフィールド値ページで[チャートフィールド 3]リンクをクリックします。	新しい勘定科目チャートフィールド 3 の値を設定します。チャートフィールド 3 はユーザーが設定可能なチャートフィールドです。標準チャートフィールドの他にチャートフィールドが必要な場合に、このチャートフィールドをアクティブにして設定します。 注: PeopleSoft Enterprise Financials と統合している場合、このページは入力できません。

関係会社チャートフィールドの使い方

組織がコミットメント会計を使用しており、ビジネス ユニット、資金、業務ユニットなど複数の関連エンティティ間で同じ勘定科目チャートフィールド値を使用して、ユニット間またはユニット内の取引を管理する場合は、関係会社チャートフィールド値を使用します。たとえば、各エンティティにおいて、勘定科目 140000 をユニット間の売掛金および買掛金の両方の勘定科目として使用するとします。各エンティティでは、別の勘定科目を設定することができます。ただし、売掛金または買掛金の相手先エンティティを識別するため、各インスタンスにおいて、関係会社チャートフィールド値が会計処理行に割り当てられている必要があります。

PeopleSoft では、以下の関係会社チャートフィールドが標準で用意されています。

- 関係会社チャートフィールド
ビジネス ユニットと関連したユニット間会計処理でのみ使用されます。
- 関係会社 - 資金チャートフィールド
エンティティ間のユニット内会計処理で使用されます。
- 関係会社 - 業務ユニット チャートフィールド
エンティティ間のユニット内会計処理で使用されます。

関係会社チャートフィールドの値には、関連するチャートフィールドの値を使用します。つまり、勘定科目や部門などのように、単独のチャートフィールドとして関係会社の値を入力するための関係会社チャートフィールド ページが存在するわけではありません。

関係会社用に、ビジネス ユニットのユニット間関連チャートフィールドとして入力する必要があります。この値を入力すると、仕訳入力ページの関係会社フィールドのリスト ボックスで使用可能な値が設定されます。

プロジェクト値およびグラント値の追加

プロジェクト/グラント ページにアクセスします。

プロジェクト/グラント

セットID: SHARE
 プロジェクト: AD PROJ-CA
 ビジネス ユニット: CAN01
 *名称: ACCT_CD
 ステータス: アクティブ
 *インテグレーション: CAN01
 開始日: 31
 終了日: 31

有効日	*プロジェクト ステータス		
2004/09/09 31	<input type="text"/>	<input type="button" value="+"/>	<input type="button" value="-"/>

プロジェクト/グラント ページ

- [インテグレーション]** プロジェクトとプロジェクト レベルに対して、インテグレーション テンプレートを選択します。
- [開始日]、[終了日]** 両フィールドは参考情報としてのみ使用します。バックグラウンドでの処理はありません。
- [プロジェクト ステータス]** 有効日を入力してプロジェクト ステータスを選択し、プロジェクトの処理サイクルにおけるさまざまな段階を示します。

注: 両フィールドは参考情報としてのみ使用します。

代替勘定科目値の追加

代替勘定科目ページにアクセスします。

代替勘定科目

セットID: SHARE 代替勘定科目: 2000
 有効日: 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

*有効日: 1900/01/01 ステータス: アクティブ

*名称: ACCT_CD ☐ コントロール

*略称: ACCT OLD

詳細説明:

勘定科目タイプ* ☐

☐ 統計科目

代替勘定科目 ページ

PeopleSoft の代替勘定機能を使用すると、分析用の勘定科目や主要勘定科目と共に、法定勘定科目表について、詳細な取引レベルで入力できます。代替勘定科目を使用して、法定報告書類の要件に合わせた仕訳行や取引レベルの残高が得られます。主要勘定科目チャートフィールドには企業で使用する勘定科目が、代替勘定科目チャートフィールドには法定勘定科目が設定されます。代替勘定機能は、内部管理や親会社への提出用と、地方管轄機関や中央政府への提出用の、2 種類の異なるレポートを作成する必要のある企業にとって便利な機能です。

PeopleSoft アプリケーションでは、分析用または主要な勘定科目チャートフィールドは ACCOUNT です。

一方、地方行政監督機関から法定勘定科目の使用を求められる場合があります。PeopleSoft アプリケーションでは、この法定勘定科目のことを代替勘定科目チャートフィールド (ALTACCT) と呼びます。

ユーザーは、代替勘定科目チャートフィールドの値と勘定科目チャートフィールドの値を関連付けます。これにより、勘定科目チャートフィールドに値を入力すると、関連付けられた代替勘定科目にも自動的に値が入力されます。また、代替勘定科目チャートフィールドに値を入力すると、関連付けられた勘定科目にも自動的に値が入力されます。デフォルトの値は、選択リストから別の値を選択して上書きすることができます。選択リストに表示されるのは、あらかじめユーザーが勘定科目チャートフィールドまたは代替勘定科目チャートフィールドにマッピングした勘定科目値だけです。

注: 別のセットID が設定されていない限り、代替勘定科目チャートフィールドをマッピングできるのは同じ属性の勘定科目チャートフィールドのみです。

[詳細説明]	代替勘定科目の目的や用途、および転記される取引のタイプの説明を任意で入力できます。
	注: このフィールドは参考情報としてのみ使用します。
[勘定勘定タイプ]	勘定科目タイプ ページであらかじめ定義したタイプから選択します。
	注: このフィールドは参考情報としてのみ使用します。
[統計科目]	このチェック ボックスをオンにすると、金額が通貨額ではなく統計値として使用されます。このチェック ボックスをオンに設定した場合は、単位を指定する必要があります。
	注: このフィールドは参考情報としてのみ使用します。
[コントロール]	このチェック ボックスをオンに設定すると、仕訳ジェネレータによってのみ、この代替勘定科目を更新可能であることを示します。コントロール勘定科目は、アプリケーションに記録された明細のサマリを表します。
	注: このフィールドは参考情報としてのみ使用します。

有効なチャートフィールド組み合わせの入力と管理

HRMS に有効なチャートフィールド組み合わせを入力するには、勘定コード ロード コンポーネント (RUN_BUD003) と “組合せコード テーブル” コンポーネント (VALID_COMBO_TABLE) を使用します。

このセクションでは、組合せコード、有効な組み合わせのロード、およびスピード入力の概要と、以下の項目について説明します。

- 勘定コード ロード プロセスの実行

- 組合せコードの定義

組合せコードについて

組合せコードとは、チャートフィールドの組み合わせを定義するためのキーのことです。取引の一般会計への転記プロセスを実行する際、組合せコードによって、各取引に含めるチャートフィールドが特定されます。

有効な組合せコードとは、一般会計で有効なチャートフィールドの組み合わせです。有効な組合せコードは、有効組合せテーブル (VALID_COMBO_TBL) に保存され、チャートフィールド組み合わせの検証プロセスで使用されます。

注: 有効な組合せコードを使用せずに、トランザクション ページでチャートフィールド組み合わせを入力したい場合は、組合せコード テーブルにはロードしないでください。ユーザーが使用するチャートフィールド組み合わせは、システムによって勘定コード テーブル (ACCT_CD_TABLE) に自動的に入力されます。これにより、ユーザーはこれらの組み合わせを追跡したり再利用できます。

関連項目:

第 15 章、「チャートフィールドとチャートフィールド組み合わせの設定とその使い方」、「HRMS トランザクションでのチャートフィールド組み合わせの編集」、357 ページ

有効組合せテーブルのロードについて

このセクションでは、有効な組合せコードを有効組合せテーブルに入力する 3 つの方法について説明します。どの方法を使用するかは、主として、使用している一般会計システムとそのバージョンによって異なります。

PeopleSoft Enterprise Financials データベースからのインポート

PeopleSoft Enterprise Financials 8.0 またはそれ以降のリリースと統合している場合、インテグレーション ブローカーを使用して、Financials データベースから有効なチャートフィールド組み合わせをインポートして、それらのデータを最新の状態に保つことができます。

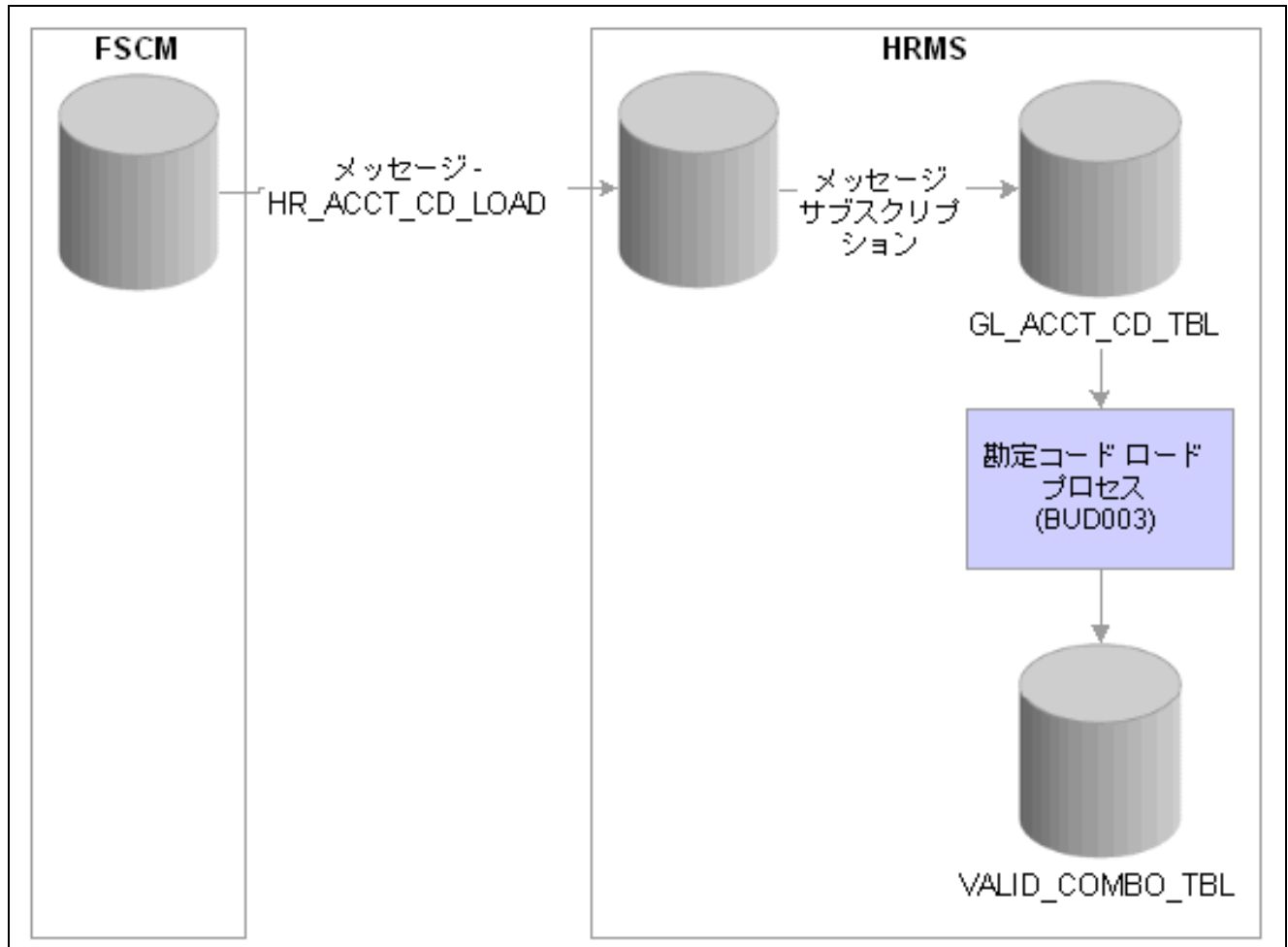
Financials から有効な組み合わせをインポートするには、次の手順に従います。

1. HR ACCT_CD_LOAD インテグレーション ブローカー サービス オペレーションを使用して、組み合わせデータ情報を Financials から HCM にパブリッシュします。

HRMS がこのサービス オペレーションを受信すると、データはハンドラによって正しいレイアウトに配置され、GL ACCT_CD_TBL にロードされます。

2. 勘定コード ロード SQR プロセス (BUD003) を実行して、有効組合せテーブルにロードします。

次の図は、Financials データベースからの有効組合せコードのインポート プロセスを示しています。



Financials データベースからの有効組合せコードのインポート

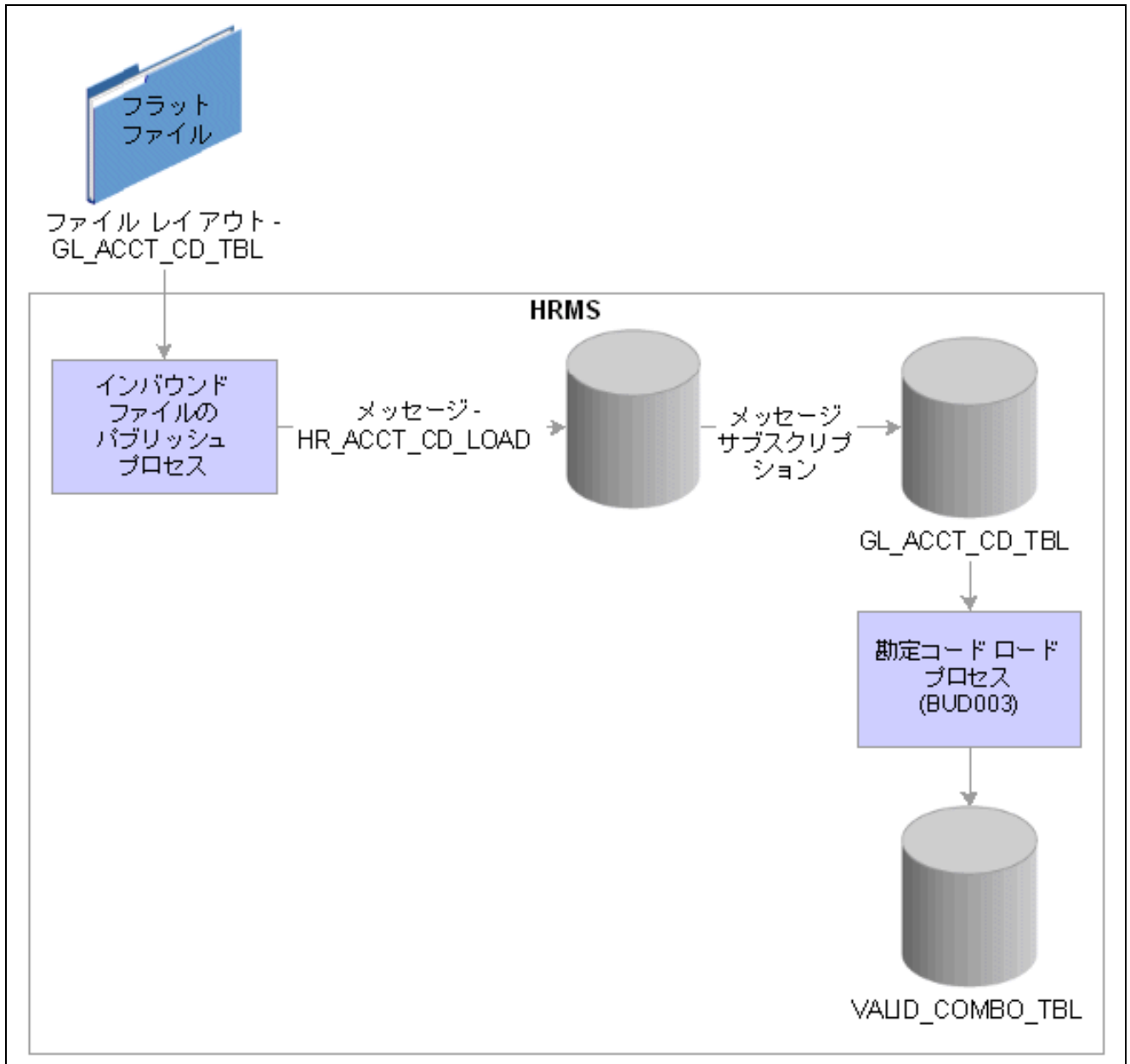
フラット ファイルのロード

インテグレーション ブローカー機能が組み込まれていない会計システムと統合している場合は、インバウンドフラットファイルプロセスを使用して、有効組合せテーブル (VALID_COMBO_TBL) にロードし、管理します。

インバウンドフラットファイルプロセスを使用して、有効な組合せコードをロードするには、次の手順に従います。

1. 有効な組み合わせデータを含むフラットファイルを、GL_ACCT_CD_TBL で指定されたレイアウトフォーマットで作成します。
2. HR ACCT_CD_LOAD サービス オペレーションを使用して、この組み合わせデータをパブリッシュするインバウンドフラットファイルプロセスを開始します。
サービス オペレーションが受信されると、データはハンドラによって正しいレイアウトに配置され、GL_ACCT_CD_TBL にロードされます。
3. 勘定コード ロード SQR プロセス (BUD003) を実行して、有効組合せテーブルにロードします。

次の図は、フラットファイルを使用した有効組合せコードのインポートプロセスを示しています。



フラットファイルを使用した有効組合せコードのインポート

手動によるロード

PeopleSoft Enterprise Financials と統合していない場合、有効なチャートフィールド組み合わせを“組合せコード テーブル” ページで直接入力できます。インストール テーブルで一般会計インジケータが選択されている場合、このページでデータを手動で入力することはできません。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook の「Using the Flat File Utility」

スピード入力について

“スピード入力”とは、頻繁に使用されるチャートフィールド組み合わせに使用するショートカット キーのことを指します。スピード入力を使用することによって、入力作業を最小限にし、仕訳の効率を大幅に向上させ、エラーを削減できます。

PeopleSoft Enterprise Financials 8.0 またはそれ以降のリリースと統合している場合、HR_CHARTFLD_COMBO_SYNC サービス オペレーションを使用して、スピード入力テーブルを最新の状態に保つことができます。Financials データベースのスピード入力テーブルに変更が加えられると、インテグレーション プローカーによる HCM の更新が起動されます。

チャートフィールド組み合わせの入力と確認に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
勘定コードロード	RUNCTL_FILEPATH	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[勘定コードロード]、[実行パラメータ]	勘定コードロードプロセス (BUD003) を実行して、HR_ACCT_CD_LOAD サービス オペレーションにより GL_ACCT_CD_TBL に既にインポート済みであるチャートフィールド組み合わせを組合せコードテーブルにロードします。
組合せコードテーブル	VALID_COMBO_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[組合せコードテーブル]、[組合せコードテーブル]	HRMS にインポート済みであり、勘定コードプロセス (BUD003) によってロードされている全ての組合せコードを確認します。 有効なチャートフィールド値の組み合わせをインポートしない場合は、手動でそれらの値を定義して、確認します。
組合せコードレポート	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[Combination Code Report] (組合せコードレポート)	組合せコードレポート (PAY760) を実行して、有効組合せテーブル (VALID_COMBO_TBL) の内容についてのレポートを作成します。
スピード入力	HMCF_SPEEDTYPE	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[チャートフィールドスピード入力]、[スピード入力]	PeopleSoft Enterprise Financials で管理されているスピード入力テーブルを確認します。

勘定コード ロード プロセスの実行

勘定コード ロード ページにアクセスします。

実行パラメータ

ラン コントロール ID: 002

[レポート マネージャ](#)[プロセス モニター](#)

実行

開始日:

2007/03/24

*インターフェイス先 GL リリース:

8.90

☐ 非アクティブ勘定をダウンロードしない

勘定コード ロード ページ

- [開始日]

PeopleSoft Enterprise 一般会計からインポートするチャート フィールド組み合わせの開始日を入力します。
- [インターフェイス先 GL リリース] (インターフェイス先一般会計リリース)

インターフェイスの対象となる PeopleSoft Enterprise 一般会計の GL バージョン番号を選択します。
- [非アクティブ勘定をダウンロードしない]

このチェック ボックスをオンにすると、現在の会計年度で該当する項目のない組み合わせが非アクティブになります。

このチェック ボックスをオフにすると、古い組み合わせが現在の会計年度でもアクティブのままになります。

組合せコードの定義

“組合せコード テーブル” ページにアクセスします。

組合せコード テーブル

セットID: SHARE

一般会計組合せコード: P00000001

組合せコード詳細

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

*有効日: 1990/01/01

*ステータス: アクティブ

*名称: Salaries

略称: Salaries

☒ 有効値

チャートフィールド詳細

Account :	610000
Department :	10500
Project/Grant :	
Product :	
Fund Code :	
Program Code :	
Class Field :	
Affiliate :	
Operating Unit :	
Alternate Account :	
Budget Reference :	P001-REF
Chartfield 1 :	P001SA-CF1
Chartfield 2 :	P00110-CF2
Chartfield 3 :	P0006101-3

“組合せコード テーブル” ページ

注: Financials からインポートされた組合せコードのチャートフィールド値は変更できませんが、名称を変更したり、アクティブまたは非アクティブに設定できます。

【一般会計組合せコード】 HRMS のページでこのコードを入力して、チャートフィールドのこの組み合わせをトランザクションで使します。

組合せコードは、以下の条件に合致する場合、インストール テーブルの [組合せコードの最終採番番号] フィールドに基づき、システムによって連番で生成されます。

- チャートフィールド組み合わせを、インテグレーション ブローカーによって Financials から受信済みであること
- 組合せコード値が、インバウンド フラット ファイルで提供されたものではないこと
- チャートフィールド組み合わせを手動で追加し、組合せコード値を事前に割り当てていないこと

【有効値】 このフィールドは、セットID に対して初めてチャートフィールド組み合わせを入力するときのみ入力可能となります。チャートフィールド組み合わせが有効な場合に、オンにします。同じセットID に組み合わせが既に存在している場合、このフィールドには、既存の組み合わせの値に基づいて値が自動的に入力され、変更することはできません。

[チャートフィールド詳細]

組合せコードを手動で設定している場合、このチャートフィールド組み合わせに適用される各チャートフィールドのチャートフィールド値を入力します。

勘定コードの確認と管理

トランザクションで使用された勘定コードの確認と管理を行うには、勘定コード テーブル コンポーネント (ACCT_CD_TABLE) を使用します。

このセクションでは、トランザクションで使用された勘定コードの概要と、その確認および管理方法について説明します。

勘定コード テーブルについて

トランザクション ページで有効な組合せコードを選択したか、または個々のチャートフィールド値の組み合わせを選択したかにかかわらず、HRMS トランザクションでチャートフィールド値の新規の組み合わせを使用すると、必ずレコードが作成されます。勘定コード テーブルにこの組み合わせが保存されて、トランザクションで使用されたチャートフィールド組み合わせの履歴が管理されます。

勘定コード レポート (PAY710) を使用して、勘定コード テーブルの内容についてレポートを作成できます。

注: 有効な組合せコードを使用せずに、トランザクション ページでチャートフィールド組み合わせを入力したい場合は、有効組み合わせテーブルには入力しないでください。ユーザーが使用するチャートフィールド組み合わせは、システムによって勘定コード テーブル (ACCT_CD_TABLE) に自動的に入力されます。これにより、ユーザーはこれらの組み合わせを追跡したり再利用できます。

勘定コードの確認と管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
勘定コード テーブル	ACCT_CD_TABLE	<ul style="list-style-type: none">• [HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[勘定コード テーブル]、[勘定コード テーブル]• [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[コミットメント会計]、[予算情報]、[勘定コード テーブル]、[勘定コード テーブル]	チャートフィールドの組み合わせが処理で使用されると、自動的にその組み合わせが勘定コード テーブルに入力されます。このページで、勘定コードに関する追加情報を管理します。
勘定コード	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[勘定コード]	勘定コードレポート (PAY710) を実行して、勘定コード テーブルの内容についてレポートを作成できます。

勘定コードの確認と管理

勘定コード テーブル ページにアクセスします。

勘定コード テーブル

勘定コード: P000000003

組合せコード詳細

*名称: Salaries

略称: Salaries ☐ 直接請求 ☒ 負債比例配分

チャートフィールド詳細	
勘定科目:	5000
部門:	114
プロジェクト/グラント:	FACTORY
製品:	
資金コード:	100
プログラムコード:	1000
クラスフィールド:	10
関係会社:	
業務ユニット:	
代替勘定科目:	
予算参照:	0001-REF
チャートフィールド 1:	0001SA-CF1
チャートフィールド 2:	000111-CF2
チャートフィールド 3:	00005001-3

インカンパランス勘定科目: 696600 フレインカンパランス勘定科目: 696700

勘定コード テーブル ページ

このページのチャートフィールド情報は入力できませんが、組み合わせに関する情報を管理できます。

[勘定コード] (組合せコード) 有効組合せテーブルにインポートまたは作成された有効な組合せコードでない場合、チャートフィールドのこの一意の組み合わせに組合せコードが自動的に割り当てられます。このコードをトランザクション ページで使用する、同じチャートフィールドの組み合わせを再利用できます。

[組合せコード詳細]

[直接請求]

実績の配分プロセスでこの組合せコードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。このフィールドの情報は参照専用のため、処理には影響しません。

[負債比例配分]

負債を比例配分する必要のある場合は、このチェック ボックスをオンにします。

実績 GL インターフェイス プロセスが実行される際、[負債比例配分] フラグの設定がシステムによって確認されます。このチェック ボックスをオンに設定すると、従業員負担の税金と控除が所得経費全体に比例配分されます。

- [エンカンバランス勘定科目]** 勘定コード テーブルの各勘定コードのエンカンバランス資金源として使用される勘定コードを入力します。会計年度エンカンバランス プロセスまたは夜間用エンカンバランス プロセスによって PeopleSoft Enterprise 一般会計にエンカンバランストランザクションの書き込みが行われる際、勘定コードの代わりにここで指定するエンカンバランス勘定コードが使用されます。
- [プレエンカンバランス勘定科目]** 勘定コードごとにプレエンカンバランス資金源として使用される勘定コードを入力します。会計年度プレエンカンバランス プロセスまたは夜間用プレエンカンバランス プロセスによって PeopleSoft Enterprise 一般会計にプレエンカンバランストランザクションの書き込みが行われる際、勘定コードの代わりにここで指定するプレエンカンバランス勘定コードが使用されます。

HRMS トランザクションでのチャートフィールド組み合わせの編集

このセクションでは、チャートフィールドの検証の概要と以下の項目について説明します。

- チャートフィールド詳細の編集または確認
- 組合せコードによる検索
- スピード入力による検索

チャートフィールドの検証について

チャートフィールド組合せコードを入力する、どの HCM トランザクション ページからも、共通の “チャートフィールド詳細” ページ (HMC_F_HRZNTL_CFLD) にアクセスでき、その組合せコードに関連付けられたチャートフィールド詳細を入力または表示することができます。新しいチャートフィールド組み合わせを入力すると、組合せコード検証プロセスがシステムによって実行され、入力された組み合わせが有効であるかどうかを確認されます。

以下のいずれかの検証方法が使用されます。

- PeopleSoft Enterprise Financials 8.4.01 またはそれ以降のリリースと統合している場合、COMBO_CF_EDIT_REQUEST と COMBO_CF_EDIT_REPLY サービス オペレーションによって、組み合わせの検証が Financials データベースに対して実行されます。
- PeopleSoft Enterprise Financials 8.4.01 またはそれ以降のリリースと統合しておらず、有効組合せテーブル (VALID_COMBO_TBL) に有効な組み合わせをロードした場合、有効組合せテーブルが検索され、指定された個々のチャートフィールド値に一致するチャートフィールド組み合わせが検出されます。
- PeopleSoft Enterprise Financials 8.4 またはそれ以降のリリースと統合しておらず、有効組合せテーブルに値をロードしていない場合、選択されたチャートフィールドの組み合わせは有効であると仮定され、一致する値を検出するためにトランザクション テーブルが検索されます。

一致する値が検出された場合、対応する組合せコードが使用されます。検出されなかった場合、次に使用可能な番号が割り当てられ組合せコードが生成されます。

HRMS トランザクションでのチャートフィールド組み合わせの編集に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
チャートフィールド詳細	HMCF_HRZNTL_CFLD	HRMS トランザクション ページの [チャートフィールド詳細] または [チャートフィールドの編集] リンクまたは ボタンをクリックします。	PeopleSoft Enterprise HRMS トランザクションでチャートフィールドまたは 組合せコードを入力または 確認します。
組合せコード検索	HMCF_VLD_CMBO_SRCH	“チャートフィールド詳細” ページで [Combination Codes] (組合せコード) オプション ボタンを選択して、[検索] ボタンをクリックします。	有効な組合せコードを使用して、チャートフィールドを検索します。
スピード入力検索	HMCF_SPD_TYP_SRCH	“チャートフィールド詳細” ページで [Speed Types] (スピード入力) オプション ボタンを選択して、[検索] ボタンをクリックします。	PeopleSoft Enterprise Financials のスピード入力を使用して、チャートフィールドを検索します。
組合せコード検索 (トランザクション)	HMCF_COMBO_CD_SRCH	“チャートフィールド詳細” ページで [ChartField Transactions] (チャートフィールドトランザクション) オプション ボタンを選択して、[検索] ボタンをクリックします。	チャートフィールドを個別に選択するか、またはトランザクションで既に使用されている有効なチャートフィールド組み合わせを検索します。

チャートフィールド詳細の編集と確認

“チャートフィールド詳細” ページにアクセスします。

チャートフィールド詳細

組合せコード: 

Search Options

☒ Combination Codes ☐ Speed Types

勘定科目	部門 ID	プロジェクト/クライアント	製品	資金	プログラム	クラス	関係会社	業務ユニット
<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 

“チャートフィールド詳細” ページ (1/2)

代替勘定科目	予算参照	チャートフィールド 1	チャートフィールド 2	チャートフィールド 3
<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 	<input type="text"/> 

“チャートフィールド詳細” ページ (2/2)

注: このページのタイトルは、アクセス元のトランザクション ページによって、より具体的な名称に変わる場合があります。

組合せコードがトランザクション ページで既に入力されている場合、関連付けられているチャートフィールド値がこの詳細ページに表示されます。トランザクション ページで修正モードにあるか、新規の有効日行を表示している場合、個々のチャートフィールド値を変更し、新しい組み合わせが有効であることをシステムにより判断することができます。それ以外の場合、このページは表示専用となり、チャートフィールド値の確認のみを行うことができます。

トランザクション ページで組合せコードを入力していない場合、詳細ページのチャートフィールド値は空白となり、必須のチャートフィールドに個別に値を入力できます。

注: “標準チャートフィールド設定” ページでアクティブに設定されているチャートフィールドのみが、このページに表示されます。

[Search Options] (検索オプション)

使用可能なオプションを選択して、既存のチャートフィールド組み合わせを検索します。使用可能なオプションは以下のとおりです。設定している組合せコード テーブルによって、使用できるオプションは異なります。

- [Combination Codes] (組合せコード)

このオプションは、有効組合せテーブル (VALID_COMBO_TBL) に値を入力している場合、使用可能です。

- [Speed Types] (スピード入力)

このオプションは、PeopleSoft Enterprise 一般会計からスピード入力の値をインポートしている場合、使用可能です。

- [ChartField Transactions] (勘定コード)

このオプションは、有効組合せテーブル (VALID_COMBO_TBL) に値をロードしておらず、システムによって組合せコードが勘定コード テーブル (ACCT_CD_TABLE) に入力されている場合、使用可能です。

組合せコードによる検索

組合せコード検索ページにアクセスします。

Search Combination Codes

一般会計組合せコード

勘定科目

P630015

部門

10000

プロジェクト/クライアント

SAMPLEPROJ - 0

製品

資金コード

FUND6

プログラムコード

クラス フィールド

関係会社

業務ユニット

CANADA

代替勘定科目

予算参照

チャートフィールド

1

チャートフィールド

2

チャートフィールド

3

検索

Clear

キャンセル

	選択	GL 組合せコード	勘定科目	部門 ID	プロジェクト/クライアント	製品	資金	プログラム
1	選択	PY0115111	P630015	10000	SAMPLEPROJ - 04		FUND6	

組合せコード検索ページ

組合せコードを検索するには、次の手順に従います。

1. 個々のチャートフィールド値を入力します。

それらのチャートフィールド値に一致するチャートフィールド組合せコードが全て検出されます。

2. 使用する組合せコードを選択します。

個々のチャートフィールド値が全て入力された状態で、チャートフィールド詳細ページが自動的に表示されます。

スピード入力による検索

スピード入力検索ページにアクセスします。

360

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

Search Speed Types

スピード入力キー

勘定科目

P630015

部門

10000

プロジェクト/クラント

SAMPLEPROJ - 0

製品

資金コード

FUND6

プログラムコード

クラス フィールド

関係会社

業務ユニット

CANADA

代替勘定科目

予算参照

チャートフィールド

1

チャートフィールド

2

チャートフィールド

3

検索

Clear

キャンセル

	選択	スピード入力	勘定科目	部門 ID	プロジェクト/クラント	製品	資金	プログラム	クラス	関係会社
1	選択									

スピード入力検索ページ

スピード入力を使用して組合せコードを検索するには、次の手順に従います。

1. 個々のチャートフィールド値を入力します。

それらのチャートフィールド値に一致するスピード入力が全て検出されます。

2. 使用するスピード入力を選択します。

個々のチャートフィールド値が全て入力された状態で、チャートフィールド詳細ページが自動的に表示されます。

3. これらの値はスピード入力を使用して選択されているため、有効なチャートフィールド組合せを作成するには、チャートフィールド値の追加入力が必要となる場合があります。

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

361

第 16 章

国別機能の設定

この章では、国別機能の設定の概要と、以下の作業方法について説明します。

- (CHE) 郵便番号の管理
- (DEU) 産業調査コードの設定
- (ITA) 市区町村テーブルの設定
- (JPN) コントロール テーブルの設定
- (NLD) 郵便番号のロード
- (ESP) コントロール テーブルの設定
- (GBR) 国民保険番号プレフィックスの設定

国別機能の設定について

自国または複数の国の従業員を管理するにあたって、テーブルをいくつか設定する必要があります。設定したテーブルは、国別の要件をサポートするために基本コントロール テーブルで参照されます。この設定は、支給グループなどの基本コントロール テーブルを設定したり、会社、所在地、部門、職務コードなどを定義する前に行ってください。

(CHE) スイスの郵便番号の管理

スイスの郵便番号を管理するには、“郵便番号のロード CHE” コンポーネント (POSTAL_LOAD_CHE) を使用します。

このセクションでは、スイスの郵便番号管理の概要と、その有効な住所の更新方法について説明します。

スイスの郵便番号管理について

郵便番号を更新するには、以下の手順に従います。

1. Swiss Post の Web サイトから最新の郵便番号の一覧をダウンロードして、保存した一覧ファイルへのパスをメモします。
2. Swiss Post の Web サイトから最新の代替名の一覧をダウンロードして、保存した一覧ファイルへのパスをメモします。
3. “有効な住所のロード CHE” ページで、メモしたファイルへのパスを入力し、有効な住所ファイルと代替名ファイルを有効な住所テーブルにロードします。

有効な住所テーブルの情報をを使用して、郵便番号に正しい市区町村名が対応しているかどうかを確認されます。

スイスの有効な住所の管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
有効な住所のロード CHE	POSTAL_LOAD_CHE	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[製品/国別設定]、[郵便番号のロード CHE]	スイスの郵便番号情報を、有効な住所テーブルにロードします。

スイスの有効な住所の更新

“有効な住所のロード CHE” ページにアクセスします。

有効な住所のロード

郵便番号ファイル:
代替名ファイル:

データロード

都道府県/州	郵便番号	市
1 VD	1000	Chailly-sur-Lausanne
2 VD	1000	Lausanne
3 VD	1000	Lausanne 1 CC Distribution
4 VD	1000	Lausanne 12
5 VD	1000	Lausanne 13
6 VD	1000	Lausanne 14
7 VD	1000	Lausanne 16
8 VD	1000	Lausanne 17
9 VD	1000	Lausanne 17 Riponne Cases

“有効な住所のロード CHE” ページ

- [郵便番号ファイル]** Swiss Post からダウンロードした郵便番号ファイルへの絶対パスを入力します。
- [代替名ファイル]** Swiss Post からダウンロードした代替名ファイルへの絶対パスを入力します。
- [データ ロード]** このボタンをクリックすると、郵便番号データが有効な住所テーブルにロードされます。
- [都道府県/州]、[郵便番号]、[市]** 最初は、このフィールドには、現在有効な住所テーブルのデータが表示されます。ロード処理を行うと、更新されたデータが表示されます。

(DEU) コントロール テーブルの設定

ドイツの産業調査コードを設定するには、産業調査コンポーネント (IDUST_INSPEC_GER) を使用します。このセクションでは、ドイツの産業調査コードの設定方法について説明します。

ドイツの産業調査コードの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
産業調査	INDUST_INSP_GER	[HRMS 基本設定]、[製品／業務別定義]、[人事・労務管理]、[従業員データ DEU]、[産業調査]	組織の所在地に関連付ける、ドイツの産業調査コードを設定します。

ドイツの産業調査コードの設定

産業調査ページにアクセスします。

産業調査コードには有効日が付いていないため、ステータスはありません。

【市】 ドイツの事業主責任保険協会（Berufsgenossenschaft）の規定に従って、この産業調査コードに関連する市区町村を指定します。

(ITA) 市区町村コードの設定

イタリアの市区町村コードを設定するには、“市区町村テーブルのロード ITA” コンポーネント (RUNCTL_CITYUPDATE) を使用します。

このセクションでは、イタリアの市区町村データのロードに使用するページを示します。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「国別テーブルの設定」

イタリアの市区町村データのロードに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
市町村更新	RUNCTL_CITYUPDATE	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[製品/国別設定]、[市区町村テーブルのロードITA]、[市町村更新]	イタリア財務省の Web サイトから提供される市区町村コードのデータファイルをダウンロードし、イタリアの市区町村テーブル更新プロセスを実行して市区町村データを更新します。

(JPN) コントロール テーブルの設定

日本のコントロール テーブルを設定するには、郵便番号 JPN コンポーネント (POSTAL_CODE_TBL)、学齢テーブル JPN コンポーネント (EDLVLAG_TBL_JPN)、パラメータ設定 JPN コンポーネント (SETUP_SALCOMP_JPN) を使用します。

このセクションでは、学齢の概要と、以下の項目について説明します。

- 学齢テーブルの設定
- 給与コンポーネントのパラメータ設定
- 郵便番号テーブルの設定
- 郵便番号テーブルの管理

学齢について

学齢テーブルによって、システム内に既に設定されている最終学歴を、採用時の“学齢基準”にリンクすることができます。学齢基準を使用して従業員の“学齢生年月日”が計算されます。学齢生年月日を使用すれば、いつの時点においても従業員の学齢を算出できます。従業員の学齢は、学齢給の計算に使用されます。学齢給とは、年功給の一種です。

従業員の学齢の計算

このセクションでは、学齢給の決定において、学齢基準がどのように使用されるかについて説明します。このセクションでは、説明の中で次の略語が使用されることがあります。

略語	意味
ELABa (Eductaion Level Age Basis)	学齢基準 (採用時)
AELABa (Adjusted Education Level Age Basis)	調整済み学齢基準 (採用時)
ELABi (Education Level – Adjusted Birth Date)	学齢生年月日
SCB (Standard Calculation Birthday)	学齢計算基準の月日
CSD (Company Seniority Date)	入社年月日
ELA (Education Level Age)	学齢

A 社では、4 年制大学卒業者の学齢基準を 22 と設定しています。また、学齢計算基準の月日 (勤続年数の加算日) は 4 月 1 日に設定されています。

ここで、A 社従業員の大和太郎さんの場合を例にして考えてみましょう。大和太郎さんは、1972 年 2 月 6 日生まれで、1994 年 3 月 23 日に 22 歳で 4 年制大学を卒業し、その後 2 年間は世界を旅して回りました。A 社は、1996 年 6 月 1 日付けで大和太郎さんを従業員として採用しました。入社日が 4 月 1 日でないのは、大和太郎さんが 1996 年 5 月に日本に帰国したためです。採用されたとき大和太郎さんは 24 歳でした。

大和太郎さんの学齢給を計算するには、毎年大和太郎さんの学齢を計算する必要があります。その計算には、学齢生年月日を使います。

従業員の学齢生年月日の計算には、学齢基準、入社年月日、および学齢計算基準の月日が使用されます。

従業員の入社年月日の月日が学齢計算基準の月日の前か後かによって、学齢基準の調整が必要となる場合があります。調整されたものを、“調整済み学齢基準”と呼びます。従業員の入社年月日（[配属開始日] フィールドの値）の月日が、学齢計算基準の月日より後の場合、従業員の学齢基準は 1（年）差し引かれます。

大和太郎さんの場合、入社日が 6 月 1 日で、A 社の学齢計算基準の月日である 4 月 1 日より後なので、大和太郎さんの学齢基準は 1 年引かれます。4 月 1 日かそれ以前に入社していれば、学齢基準の調整は必要ありません。

大和太郎さんの調整済み学齢基準は、次のように導き出されます。

- CSD（入社年月日の月日 = 6 月 1 日）> SCB（学齢計算基準の月日 = 4 月 1 日）であるため、調整 = -1
- この -1 によって、学齢基準が調整されます。

$$\text{ELABa (学齢基準)} - 1 = \text{AELABa (調整済み学齢基準)}$$

したがって、大和太郎さんの学齢基準は、次の値になります。

$$22 - 1 = 21$$

次に、この調整済み学齢基準を使用して、大和太郎さんの学齢生年月日を求めます。

計算式は次のとおりです。

$$\text{入社年} - \text{AELABa (調整済み学齢基準)} = \text{ELABi (学齢生年月日)}$$

すなわち

$$1996 - 21 = 1975$$

したがって、学齢給の計算に使用する大和太郎さんの学齢生年月日は、会社の学齢計算基準の月日との組み合わせによって、1975 年 4 月 1 日になります（実際の生年月日は 1972 年 2 月 6 日）。

ここで、学齢生年月日がどのくらい重要か見てみましょう。

1 年後の 1997 年、大和太郎さんの学齢が必要となります。計算は次のようになります。

$$\text{SCB (計算実行年の学齢計算基準の月日)} - \text{ELABi (学齢生年月日)} = \text{ELA (学齢)}$$

すなわち

$$1997 \text{ 年 } 4 \text{ 月 } 1 \text{ 日} - 1975 \text{ 年 } 4 \text{ 月 } 1 \text{ 日} = 22$$

これは、大学新卒者の学齢と同じです。この一連の計算によって、大和太郎さんが卒業後 2 年間旅をしたこと、その年の会社の学齢計算基準の月日より後に入社したことが、学齢の調整に全て反映され、それに基づいて適切な学齢給が導き出されます。

注: 4 月から 6 月までの 2 か月間がそれほど大きくないと会社が判断した場合、大和太郎さんの学齢生年月日を 1975 年 4 月 1 日から、1974 年 4 月 1 日に変更できます。その場合、1997 年の計算では、大和太郎さんの学齢が 23（1974 年 4 月 1 日～ 1997 年 4 月 1 日）となり、新卒者が 1 年間勤務した場合と同じになります。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 報酬管理、「年功給管理」

日本のコントロール テーブルの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
学齢テーブル JPN	EDLVLAG_TBL_JPN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[人事・労務管理]、[従業員データ JPN]、[学齢テーブル]、[学齢テーブル JPN]	企業で使用される学齢基準を設定します。
計算ルール設定	SETUP_SALCOMP_JPN	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[人事・労務管理]、[従業員データ JPN]、[パラメータ設定 JPN]、[計算ルール設定]	学齢計算に使用される基準日を設定し、特定の給与コンポーネントに等級範囲チェックを適用するかどうかを指定します。
郵便番号のロード JPN	RUNCTL_POSTAL_JPN	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[製品/国別設定]、[郵便番号のロード JPN]	日本郵政公社が提供している郵便番号の CSV ファイルをインポートします。
郵便番号	POSTAL_TBL_JPN	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[製品/国別設定]、[郵便番号 JPN]	日本の郵便番号を管理するための情報の入力、または正常にインポートされなかったデータの追加を行います。

学齢テーブルの設定

“学齢テーブル JPN” ページにアクセスします。

学齢テーブル JPN

学齢

カスタマイズ

検索

全件表示

最初

1-4/4

最後

	最終学歴	学齢基準		
1	C	C - 高校または同等	18	
2	F	F - 短期大学	20	
3	G	G - 大学	22	
4	I	I - 修士レベルの学位	24	

“学齢テーブル JPN” ページ

学齢基準は、従業員の学齢生年月日の計算に使用されます。さらに、その学齢生年月日を使用して、従業員の学齢と学齢給が計算されます。

[学齢基準]

最初のフィールドで選択した最終学歴に関連付ける値です。この学齢基準を使用して従業員の学齢生年月日が計算され、その学齢生年月日を使用して従業員の学齢が計算されます。

注: 最終学歴の値は、最終学歴テーブルで設定されたトランスレート値です。各従業員の最終学歴は、個人情報詳細ページの [個人情報の履歴] グリッドで、このテーブルにアクセスして設定します。これらのトランスレート値を変更（非アクティブにするなど）した場合、その値を使用している従業員レコードも、他の値を使うように変更する必要があります。トランスレート値を追加し、学齢基準と関連付ける場合は、“学齢テーブル JPN” ページにも同じ値を追加して学齢基準を割り当て、最終学歴テーブルとの同期をとる必要があります。このページで値を追加せずに、新しい最終学歴の値を個人情報詳細ページの [個人情報の履歴] グリッドなどで使用しても、従業員の学齢生年月日は計算されず、フィールドは空白のままになります。この結果、従業員の学齢も計算されません。

郵便番号テーブルの設定

“郵便番号のロード JPN” ページにアクセスします。

郵便番号のロード JPN

ラン コントロール ID: 1

レポート マネージャ

プロセス モニター

実行

URL ID

*URL ID:

データ ロード オプション

☒ 全ての都道府県

☐ 選択した都道府県

“郵便番号のロード JPN” ページ

注: このページを使用する前に、日本郵政公社の Web サイトから CSV ファイルをダウンロードして解凍し、自社内に設置している FTP サーバーに転送する必要があります。CSV ファイルは、Shift-JIS の文字セットでエンコードされている必要があります。郵便番号のロード プロセスを使用する前に、PeopleTools ユーティリティ メニューで URL データを定義する必要があります。

参照: 第 6 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS の設定とインストール」、「国別住所フォーマットの指定」、144 ページ

- [URL ID]

郵便番号データを含む CSV ファイルが保存されている FTP URL を選択します。
- [全ての都道府県]

全ての都道府県の郵便番号データをロードする場合、このオプションを選択します。

注: 郵便番号データの行数は 120,000 行を超えるため、全ての行をインポートする際は、バッチ処理のパフォーマンスを考慮してください。

[選択した都道府県] 特定の都道府県の郵便番号をロードする場合、このオプションを選択します。

ロード結果

住所 1 または住所 1 のフリガナの文字数が 55 文字を超える場合、フィールドは空白となります。また、住所 1 または住所 1 のフリガナが長すぎるために複数の行に分割されている場合、最初の行のみがインポートされ、残りの行は未インポート行としてログ レポートに出力されます。

住所 1 および住所 1 のフリガナの “以下に掲載がない場合 (イカニケイサイガナイバアイ)” を削除する場合、その文字列を スtring テーブル (プログラム ID は HGJPPSTL) に登録します。削除するテキストを [String テキスト] フィールドに入力します。

都道府県、市区町村、住所 1 が同じ 1 つの郵便番号で、読み方が異なるため住所 1 のフリガナが複数ある場合など、1 つの郵便番号に複数行存在するときには、全ての行が表示されないことがあります。

目的のデータがロードされない場合、郵便番号ページでデータを追加または編集します。



郵便番号ロード プロセスのログ レポート

プロセスが完了すると、インポートされた行数、およびインポートされなかった行数とその詳細な理由がリストされたプロセス ログ レポートが生成されます。行がインポートされなかった理由として、以下が考えられます。

- インポート ファイルが見つからなかった。
- ファイルが正しくフォーマットされていない。
- インポート ファイルが、[選択した都道府県] フィールドで指定した都道府県以外の都道府県のデータを含むファイルである。

郵便番号テーブルの管理

郵便番号ページにアクセスします。

郵便番号	
郵便番号:	105-0023
自治体コード:	<input type="text" value="000004"/>  Minato-ku
都道府県:	<input type="text" value="13"/>  東京都
市区町村:	<input type="text" value="Minato-ku"/>
住所 1:	<input type="text" value="Shibaura"/>
市区町村のフリガナ:	<input type="text" value="Minato-ku"/>
住所 1 のフリガナ:	<input type="text" value="Shibaura"/>

郵便番号ページ

- [自治体コード] この郵便番号が属する日本の自治体コードを選択して入力します。
- [都道府県] この郵便番号の都道府県をリストから選択します。

日本の給与コンポーネントのパラメータ設定

計算ルール設定ページにアクセスします。

計算ルール設定ページ

[学齢計算基準の月日]

この月日を基準に、全従業員の学齢が計算されます。

[学齢基準月]

学齢計算の基準の月を入力します。たとえば、1 月ならば“1”、2 月ならば“2”と入力します。学齢計算基準の月が設定され、この月を基準として、従業員の年功が計算されます。各従業員の学齢を計算する際に使用されます。

[学齢基準日]

学齢計算の基準の日を入力します。たとえば、[学齢基準月] に“4”、[学齢基準日] に“1”と入力すると、4 月 1 日が学齢計算基準の月日になります。

[範囲型給与チェック適用]

このチェック ボックスをオンにすると、“職務データ”の給与データ ページで、給与レートコード クラスが [DFRPAY](範囲型給与レートコード) の給与レートレコードが追加された場合に、そのコンポーネントの金額が給与等級テーブルで定義した等級の範囲内に収まっているかどうかを確認されます。

この確認は、レコードが手動で追加された場合でも、システムにより自動追加された場合でも実行されます。

また、このチェック ボックスをオンにすると、1 人の従業員の給与データ ページに対して DFRPAY (範囲型給与レートコード) クラスの給与レートコードが 1 つしか入力されないようにチェックがかかります。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加」、「給与情報の入力」

(NLD) 郵便番号のロード

オランダの郵便番号をロードするには、“郵便番号のロード NLD” コンポーネント (RUN_POSTAL_NLD) を使用します。

このセクションでは、郵便番号テーブルに郵便番号をインポートする方法について説明します。

郵便番号のロードに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
郵便番号のロード	RUNCTL_POSTAL_NLD	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[製品/国別設定]、[郵便番号のロード NLD]	ヒューマンリソース管理で、オランダの郵便番号テーブルに郵便番号をインポートします。

郵便番号テーブルへの郵便番号のインポート

“郵便番号のロード” ページにアクセスします。

郵便番号のロード

ラン コントロール ID: GN2002M01-101

[レポート マネージ](#)

[プロセス モニター](#)

実行

レポート リクエスト パラメータ

郵便番号ロード初期ファイル:

郵便番号更新ファイル:

“郵便番号のロード” ページ

オランダの郵政当局は全国の郵便番号の一覧表を発行しており、申し込めば入手できます。郵便番号コード テーブルのロード プロセスを実行すると、オランダ郵政当局 (TPG Post) 提供のソース ファイルにある全ての郵便番号がヒューマン リソース管理システムにロードされます。

[レポート リクエスト パラメータ]

- [郵便番号ロード初期ファイル]

オランダの郵便番号データを初めてシステムにロードする場合は、郵便番号の初期ロード ファイル名とそのパス情報を入力します。
- [郵便番号更新ファイル]

オランダの郵便番号テーブルを定期的に更新している場合は、更新される郵便番号ファイル名とそのパス情報を入力します。
- [実行]

このボタンをクリックすると、リクエストが実行されます。PeopleSoft プロセス スケジューラにより、郵便番号コード テーブルのロード プロセスがユーザー定義の間隔で実行されます。

(ESP) コントロール テーブルの設定

スペインのコントロール テーブルを設定するには、保険会社テーブル コンポーネント (INSUR_COMPANY_ESP) と産業アクティビティ テーブル コンポーネント (INDUSTRY_ACT_ESP) を使用します。

スペインで業務を行う場合、企業の主な業務内容と、職場で事故や病気が発生した場合に使用する保険会社について、スペイン政府が必要とする情報を入力する必要があります。

スペインの全ての従業員は、スペイン政府の定義した社会保障職業センターに所属することが義務付けられています。事業主は職業センター番号情報を使って、スペイン社会保障機関 (Instituto Nacional de la Seguridad Social) に従業員情報を報告します。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加」、「従業員、非従業員、および関係者の雇用データの追加」

スペインのコントロール テーブルの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
保険会社テーブル	INSUR_COMP_CD_ESP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[人事・労務管理]、[従業員データ ESP]、[保険会社テーブル]、[保険会社テーブル]	企業の保険会社に関するデータを入力します。
産業アクティビティ	INDSTRY_ACT_CD_ESP	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[人事・労務管理]、[従業員データ ESP]、[産業アクティビティテーブル]、[産業アクティビティ]	企業の業務内容に応じたコードを定義します。

(GBR) 国民保険番号プレフィックスの設定

このセクションでは、国民保険番号プレフィックスの概要と、以下の項目について説明します。

- 国民保険番号プレフィックスの確認
- 国民保険番号プレフィックスの更新

国民保険番号プレフィックスについて

2004/2005 税年度から、事業主の年度末報告には有効な国民保険番号プレフィックスのみを含めることが、内国歳入庁により義務付けられました。無効な国民保険番号プレフィックスを含む報告の提出は受け付けられません。

有効な国民保険番号プレフィックスを定義するには、標準で用意されている設定テーブルを使用します。個人情報詳細ページで個人の国民保険番号を入力すると、この国民保険番号プレフィックス テーブルに対してプレフィックスが検証されます。

国民保険番号のフォーマットは、“国民 ID タイプ テーブル” ページで定義されます。このページについては、この PeopleBook 内に説明があります。

関連項目:

第 12 章、「個人情報基本テーブルの設定」、「国民 ID タイプの定義」、274 ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理での個人情報の追加」、「氏名と個人データの入力」

国民保険番号プレフィックスの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
国民 ID プレフィックス (GBR)	NID_PREFIX_GBR	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[製品/国別設定]、[国民 ID プレフィックス (GBR)]	既存の国民 ID プレフィックスを確認します。
国民 ID プレフィックス詳細	NID_PR_GBR_SEC	“国民 ID プレフィックス (GBR)” ページで、国民 ID プレフィックスリンクをクリックするか、[追加] ボタンをクリックします。	新規の国民 ID プレフィックスの設定、または既存のプレフィックスのステータスの変更を行います。

国民保険番号プレフィックスの確認

“国民 ID プレフィックス (GBR)” ページにアクセスします。

国民 ID プレフィックス (GBR)

有効:

2007/03/25

31

ステータス:

アクティブ

リフレッシュ

追加

[AA](#) [AB](#) [AE](#) [AH](#) [AK](#) [AL](#) [AM](#) [AP](#) [AR](#) [AS](#) [AT](#) [AW](#) [AX](#) [AY](#) [AZ](#)
[BA](#) [BB](#) [BE](#) [BH](#) [BK](#) [BL](#) [BM](#)
[CA](#) [CB](#) [CE](#) [CH](#) [CK](#) [CL](#) [CR](#)
[EA](#) [EB](#) [EE](#) [EH](#) [EK](#) [EL](#) [EM](#) [EP](#) [ER](#) [ES](#) [ET](#) [EW](#) [EX](#) [EY](#) [EZ](#)
[FF](#)
[GY](#)
[HA](#) [HB](#) [HE](#) [HH](#) [HK](#) [HL](#) [HM](#) [HP](#) [HR](#) [HS](#) [HT](#) [HW](#) [HX](#) [HY](#) [HZ](#)
[JA](#) [JB](#) [JC](#) [JE](#) [JG](#) [JH](#) [JJ](#) [JK](#) [JL](#) [JM](#) [JN](#) [JP](#) [JR](#) [JS](#) [JT](#) [JW](#) [JX](#) [JY](#) [JZ](#)
[KA](#) [KB](#) [KE](#) [KH](#) [KK](#) [KL](#) [KM](#) [KP](#) [KR](#) [KS](#) [KT](#) [KW](#) [KX](#) [KY](#) [KZ](#)
[LA](#) [LB](#) [LE](#) [LH](#) [LK](#) [LL](#) [LM](#) [LP](#) [LR](#) [LS](#) [LT](#) [LW](#) [LX](#) [LY](#) [LZ](#)
[MA](#) [MW](#) [MX](#)
[NA](#) [NB](#) [NC](#) [NE](#) [NH](#) [NK](#) [NL](#) [NM](#) [NO](#) [NP](#) [NR](#) [NS](#) [NW](#) [NX](#) [NY](#) [NZ](#)
[OA](#) [OB](#) [OE](#) [OH](#) [OK](#) [OL](#) [OM](#) [OP](#) [OR](#) [OS](#) [OX](#)
[PA](#) [PB](#) [PC](#) [PE](#) [PG](#) [PH](#) [PJ](#) [PK](#) [PL](#) [PM](#) [PN](#) [PP](#) [PR](#) [PS](#) [PT](#) [PW](#) [PX](#) [PY](#)
[QQ](#)
[RA](#) [RB](#) [RE](#) [RH](#) [RK](#) [RM](#) [RP](#) [RR](#) [RS](#) [RT](#) [RW](#) [RX](#) [RY](#) [RZ](#)
[SA](#) [SB](#) [SC](#) [SE](#) [SG](#) [SH](#) [SJ](#) [SK](#) [SL](#) [SM](#) [SP](#) [SR](#) [SS](#) [ST](#) [SW](#) [SX](#) [SY](#) [SZ](#)
[TA](#) [TB](#) [TE](#) [TH](#) [TK](#) [TL](#) [TM](#) [TP](#) [TR](#) [TS](#) [TT](#) [TW](#) [TX](#) [TY](#) [TZ](#)
[WA](#) [WB](#) [WE](#) [WL](#) [WM](#) [WP](#)
[XX](#)
[YA](#) [YB](#) [YE](#) [YH](#) [YK](#) [YL](#) [YM](#) [YP](#) [YR](#) [YS](#) [YT](#) [YW](#) [YY](#) [YZ](#)
[ZA](#) [ZB](#) [ZE](#) [ZH](#) [ZK](#) [ZL](#) [ZM](#) [ZP](#) [ZR](#) [ZS](#) [ZT](#) [ZW](#) [ZX](#) [ZY](#) [ZZ](#)

“国民 ID プレフィックス (GBR)” ページ

デフォルトでは、現在の日付時点でアクティブである国民 ID プレフィックスがページ上に表示されます。国民 ID プレフィックス リンクをクリックすると、選択した国民 ID プレフィックスの有効日とステータスを表示、更新できます。

[有効]、[ステータス]

異なる日付時点でアクティブな国民 ID を表示する、または異なるステータスの国民 ID を表示するには、[有効] フィールドまたは [ステータス] フィールド (あるいはその両方) を更新して、[リフレッシュ] ボタンをクリックします。

[リフレッシュ]

ページをリフレッシュする場合にクリックします。[有効] または [ステータス] フィールドを変更した場合に、このボタンを使用します。

[追加]

クリックすると、新しい国民 ID プレフィックスを追加できます。“国民 ID プレフィックス詳細” ページが表示されます。

国民保険番号プレフィックスの更新

“国民 ID プレフィックス詳細” ページにアクセスします。

国民 ID プレフィックス詳細

プレフィックス:

最初		1/1	最後	
有効日	ステータス			
2007/03/24	アクティブ		+	-

“国民 ID プレフィックス詳細” ページ

新しい国民 ID プレフィックスを追加する、または既存の国民 ID プレフィックスのステータスを変更する場合に、このページを使用します。既存のプレフィックスを変更するには、新しい行を追加します。

プレフィックスがアクティブまたは非アクティブになる日付を指定して、[ステータス] フィールドでステータスを選択します。

第 17 章

市場給与の設定とその使い方

この章では、市場給与の概要と以下の方法について説明します。

- 地域と市場給与マトリックスの設定
- マトリックスへのデータのマッピングとロード

市場給与について

ここでは、以下の項目について説明します。

- 市場給与機能
- 市場給与プロセス フロー

市場給与機能

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の市場給与機能は、市場競争力のある報酬を従業員に支払うための指針として、給与統計データを使用する際に役立つ機能です。市場給与とは、基本報酬、変動報酬、報酬合計や、その地域別の値など、さまざまな給与エレメントを含めた、一連の給与報酬に関する情報です。PeopleSoft の市場給与機能では、市場給与を地域別に定義できます。

市場給与機能を使用すると、次のことが可能です。

- 地域を定義して、最終決定された市場データを従業員と関連付けることができます。
地域は、さらに国別、都道府県/州別、市区町村別に詳細に分類できます。
- 市場給与マトリックスを作成して、1 つまたは複数の職務コードと関連付けることができます。
- 既存の給与統計テーブルから市場給与テーブルにデータをアップロードできます。これにより、既存の機能が保持されます。
- 給与統計データを PeopleSoft Enterprise ワークフォース リワードからインポートできます（ただし、ワークフォース リワードのライセンスを所有している必要があります）。
- 市場データの結果をマトリックス形式で保存できます。

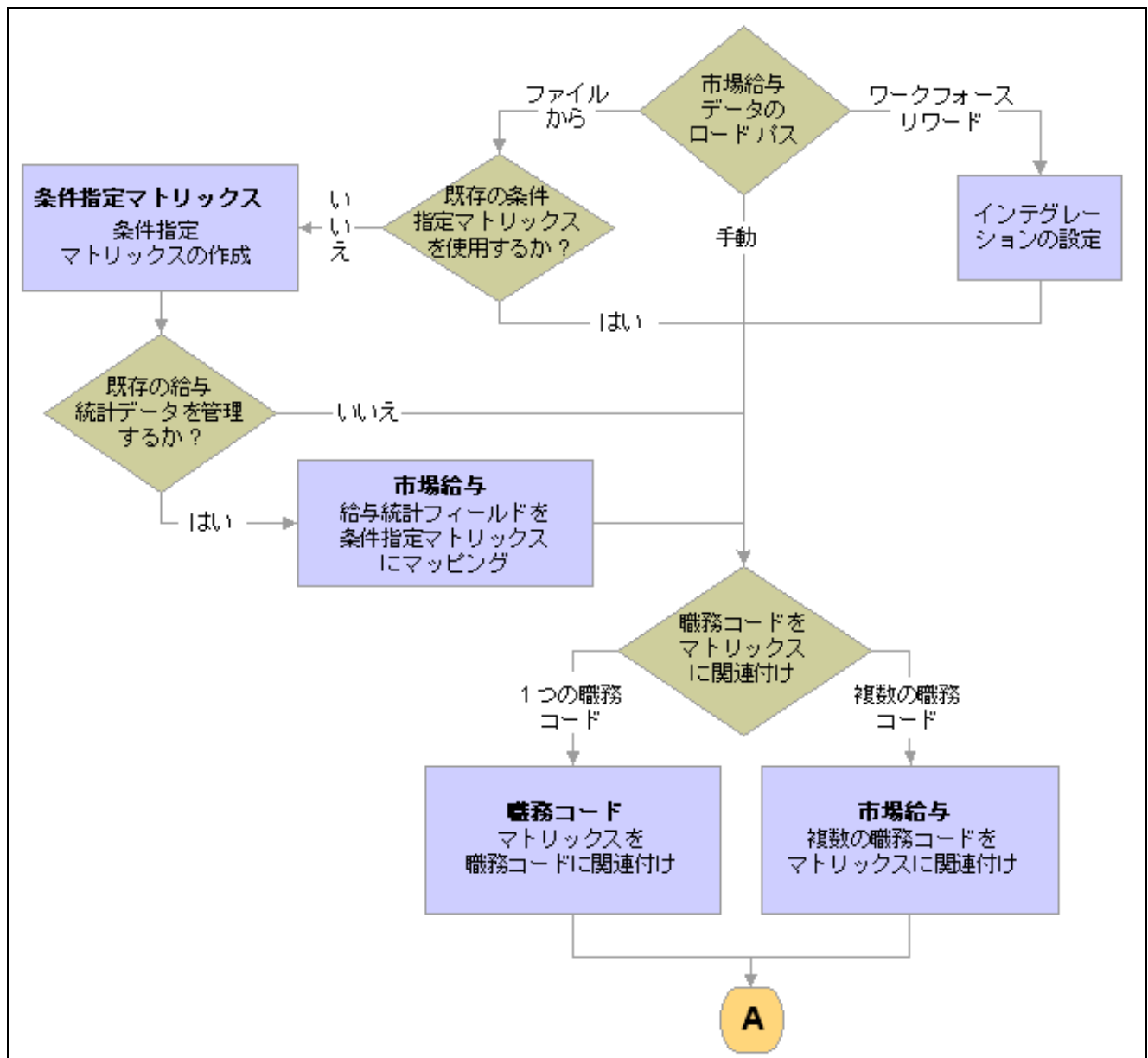
市場給与プロセス フロー

市場給与機能を設定するには、次の手順に従います。

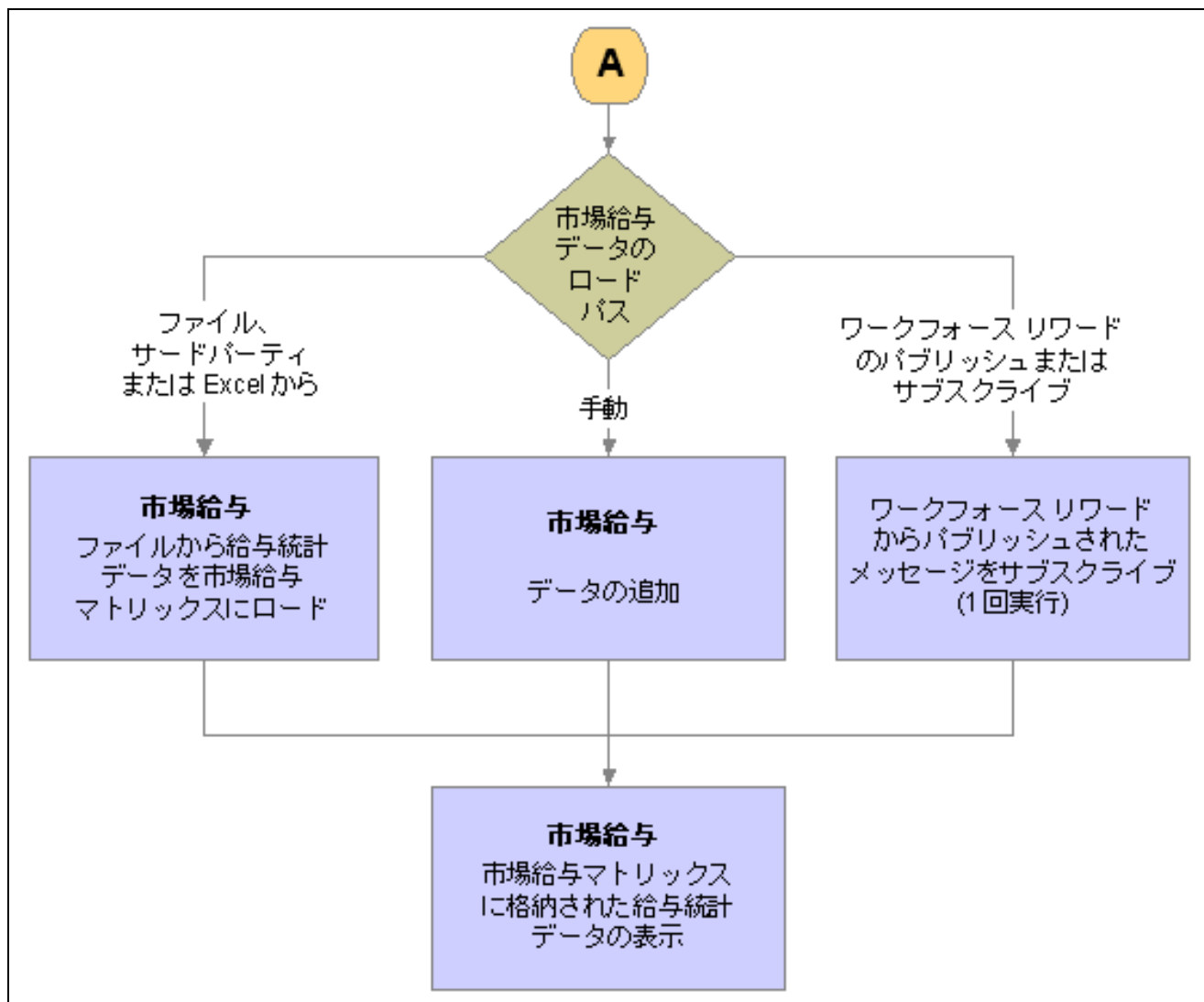
1. 地域を定義します。
2. 既存の条件指定市場給与マトリックスを選択するか、新たに作成します。
3. （省略可）既存の給与統計データ フィールドを条件指定マトリックス定義にマッピングします。

4. 市場給与マトリックスを職務コードに関連付けます。
5. 以下の 3 つの方法のうちいずれかを使用して、市場給与データをロードします。
 - 自動処理を使用してファイルからデータをロードします。
 - (ワークフォース リワードのユーザーのみ) ワークフォース リワードからパブリッシュされたメッセージをサブスクライブします。
ワークフォース リワードからパブリッシュされたメッセージをサブスクライブするためのインテグレーション ブロカー メッセージングを設定します。
 - 手動でデータを入力します。
6. 市場給与データをオンラインで職務コード別に表示します。

次の図では、市場給与の処理の流れを説明します。



条件指定マトリックスの作成と職務コードの関連付け



市場給与マトリックスへのデータのロード

事前設定

市場給与マトリックスの設定および使用の前に、以下のタスクを事前に実行しておく必要があります。

1. 会社の職務に対する職務コードの作成
参照: 第 13 章、「職務の設定」、283ページ
2. 採用処理での職務コードの従業員への割り当て
参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 PeopleBook: 人事・労務管理
3. 給与統計の実行と、給与データの分析
4. ワークフォース リワードとのインテグレーションの設定 (COMP_MKT_RATE_SYNC インテグレーション ブローカー メッセージとサービス オペレーションを使用して、ワークフォース リワードから給与データをインポートする場合)

地域と市場給与マトリックスの設定

地域とマトリックスを設定するには、地域の定義 (GEOGRAPHY_TBL) コンポーネントとマトリックスの定義 (WCS_LK_TBL_DEFN) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、概要と以下の方法について説明します。

- 市場給与マトリックスに対する地域の定義
- 市場給与マトリックス定義の設定
- 市場給与統計の入力データの定義
- 市場給与統計の出力データの定義
- 検索キーの指定
- 出力データ内容の表示と入力
- マトリックス結果の表示

市場給与マトリックスについて

PeopleSoft には、以下のマトリックスが用意されています。

- MARKET_PAY
- WFR_SURVEY_DATA

このマトリックスは、ワークフォース リワード アプリケーションから給与データをインポートする場合に使用されます。

条件指定マトリックスを追加設定して、市場給与統計データを含めることができます。

注: PeopleSoft で統計のマッチングを管理している場合は、標準の市場給与マトリックスを選択するか、統計機関や統計職務コードなどのフィールドを使用して新しいマトリックスを作成することにより、引き続き統計を管理できます。これらのフィールドを使用すると、いつでも必要なときに統計加入レポートを作成できます。統計加入レポートは、統計機関の要件に基づいて作成します。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「条件指定マトリックスの使い方」

地域と市場給与マトリックスの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
地域の定義	GEOGRAPHY_TBL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[市場給与]、[地域の定義]	国、都道府県/州、市区町村別に地域を定義します。地域を使用して、市場給与データを管理します。
マトリックスの定義	WCS_LK_TBL_DEFN	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[マトリックス]、[マトリックスの定義]、[マトリックスの定義]	市場給与マトリックス定義を設定します。
入力	WCS_LK_TBL_INPUTS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[マトリックス]、[マトリックスの定義]、[マトリックスの定義]、[入力]	市場給与統計の入力データを定義します。
出力	WCS_LK_TBL_OUTPUTS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[マトリックス]、[マトリックスの定義]、[マトリックスの定義]、[出力]	市場給与統計の出力データを定義します。
検索キー	WCS_LK_TBL_KEYS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[マトリックス]、[マトリックスの定義]、[マトリックスの定義]、[検索キー]	検索キーを指定して、市場給与統計に使用される従業員データのマッチングに使用します。
条件指定マトリックスキーのロード	WCS_LK_TBL_KEY_SEC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[マトリックス]、[マトリックスの定義]、[マトリックスの定義]、[検索キー] [プロンプトテーブルから値を選択]リンクをクリックします。	プロンプトテーブルを使用することにより、特定のソースの検索キーが自動的にロードされます。
データの内容	WCS_LK_TBL_DATA	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[マトリックス]、[マトリックスの定義]、[マトリックスの定義]、[データの内容]	出力データの値を表示または入力します。
表示	WCS_LK_TBL_VIEW	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[マトリックス]、[マトリックスの定義]、[マトリックスの定義]、[表示]	最新の保存バージョンのマトリックスが表示されます。

市場給与マトリックスに対する地域の定義

“地域の定義” ページにアクセスします。

地域の定義

セットID: SHARE

地域 ID: SOUTHWEST REGION

地域の定義

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

*有効日: 2000/01/01

*ステータス: アクティブ

+ -

*名称: Southwest Region US

	国		都道府県/州		市		
1	USA	アメリカ	AZ	Arizona		+	-
2	USA	アメリカ	NM	New Mexico		+	-
3	USA	アメリカ	OK	Oklahoma		+	-
4	USA	アメリカ	TX	Texas		+	-

* 必須フィールド

“地域の定義” ページ

地域は広く国単位で入力することも、特定の都道府県/州、市区町村に絞って入力することもできます。国、都道府県/州、市区町村単位のデータは、1 行または複数行を設定できます。ただし、同一地域内には同じ組み合わせの国、都道府県/州、市区町村のデータを複数設定することはできません。

警告: 同じ組み合わせの国、都道府県/州、市区町村のデータを別の地域に設定する場合は、従業員データと組み合わせるときにデータ コンフリクトが発生する可能性があるので、注意してください。

- [有効日]

地域の定義を変更できます。
- [ステータス]

[アクティブ] または [非アクティブ] を選択します。
- [名称]

会社で定義した名称を入力します。
- [国]、[都道府県/州]

一覧から有効な値を選択します。
- [市]

特定の市の名称を入力します。スペルは確認されないため、大文字と句読点を使用して名前を入力する必要があります。

市場給与マトリックス定義の設定

“マトリックスの定義” ページにアクセスします。

マトリックスの定義(D)

入力(I)

出力(O)

検索キー(K)

データの内容(D)

表示(V)

マトリックス名: MARKET_PAY

マトリックス定義

最初 1/1 最後

*有効日: 1900/01/01 31 *ステータス: アクティブ + -

*名称: 市場給与

略称: 市場給与

*マトリックス タイプ: MARKETPAY 市場給与統計

マトリックス環境

マトリックスの用途 (結果): MARKETPAY 市場給与統計

マトリックス対象 (ソース)

対象	名称	
EMPLOYEE	従業員	-

コメント:

最終更新日時: 04/08/10 12:06:20.000000 最終更新者: SAMPLE

“マトリックスの定義” ページ

[ステータス] [アクティブ] を選択します。全ての条件指定マトリックスのデフォルト値は [非アクティブ] です。マトリックスを使用するには、ステータスを [アクティブ] に変更する必要があります。

[有効日] 1 つまたは複数の職務コードにリンクする日付と同日か、それ以前の日付を入力します。

[マトリックス タイプ] [MARKETPAY] を選択します。

市場給与統計の入力データの定義

入力ページにアクセスします。

マトリックスの定義(D)	入力(I)	出力(O)	検索キー(K)	データの内容(C)	表示(V)										
マトリックス名: MARKET_PAY															
マトリックス定義 <div>最初 ◀ 1/1 ▶ 最後</div>															
有効日: 1900/01/01		ステータス: アクティブ													
名称: 市場給与		マトリックス タイプ: 市場給与統計													
マトリックス入力 <div>最初 ◀ 1-2/2 ▶ 最後</div>															
*ソート順 10	*ラベル 統計職務コード	*キー タイプ* 単一検索	データ タイプ* 文字列	小数部桁数 0	*表示形式 行										
<div>▼ 有効値</div> <div> テーブル: <input type="text"/> フィールド: <input type="text"/> セットID: <input type="text"/> </div>															
入力処理ソース <div>最初 ◀ 1/1 ▶ 最後</div>															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>*ソース ID</th> <th>名称</th> <th>対象</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SURVEY_JOB_CODE</td> <td>Survey Job Code</td> <td></td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		*ソース ID	名称	対象			SURVEY_JOB_CODE	Survey Job Code		+	-				
*ソース ID	名称	対象													
SURVEY_JOB_CODE	Survey Job Code		+	-											
<div>▼ 有効値</div>															
入力処理ソース <div>最初 ◀ 1/1 ▶ 最後</div>															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>*ソース ID</th> <th>名称</th> <th>対象</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SURVEY_PROVIDER</td> <td>Survey Provider</td> <td></td> <td>+</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		*ソース ID	名称	対象			SURVEY_PROVIDER	Survey Provider		+	-				
*ソース ID	名称	対象													
SURVEY_PROVIDER	Survey Provider		+	-											

入力ページ

[入力処理ソース]

[ソース ID]

市場給与データのソースを選択します。各マトリックスの入力ソースの最大数は 15 です。入力ソースの一般的なタイプには以下のものがあります。

- 地域
- 統計機関
- 統計職務コード

[有効値]

ソース ID を GEOAREA と指定した場合、このグループ ボックスにプロンプト値を入力できます。テーブルの値として GEOGRAPHY_TBL を、フィールドの値として GEOGRAPHY_ID を入力します。地域のキー値は、自動検証されません。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「条件指定マトリックスの事前定義ソース ID と 結果 ID」

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「条件指定マトリックスの使い方」、「地域に基づいたソースの定義」

市場給与統計の出力データの定義

出力ページにアクセスします。

マトリックスの定義(D) 入力(I) **出力(O)** 検索キー(K) データの内容(C) 表示(V)

マトリックス名: MARKET_PAY

マトリックス定義 最初 ◀ 1/1 ▶ 最後

有効日: 1900/01/01 ステータス: アクティブ

名称: 市場給与 マトリックス タイプ: 市場給与統計

マトリックス出力 最初 ◀ 1-8/8 ▶ 最後

*ソート順*結果 ID	*ラベル	データ タイプ	小数部 桁数
10 PROVIDER_DESCRIPTION	名称	文字列	

☐ 結果を返さない

▼ 有効値

テーブル: フィールド: セットID:

出力ページ

[結果 ID]

市場給与マトリックスの出力データを選択します。通常の出力データには、通貨、基本報酬、変動報酬、報酬合計などがあります。各マトリックスに設定可能な出力データの最大数は 30 です。

こうしたシステム標準値にはデフォルトで名称が定義されていますが、業務に見合ったラベル名に編集できます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「条件指定マトリックスの事前定義ソース ID と 結果 ID」

検索キーの指定

検索キー ページにアクセスします。

マトリックスの定義(D)

入力(I)

出力(O)

検索キー(K)

データの内容(C)

表示(V)

マトリックス名:

MARKET_PAY

マトリックス定義

最初1/1最後

有効日:

1900/01/01

ステータス:

アクティブ

名称:

市場給与

マトリックス タイプ:

市場給与統計

*検索キー フィルタ:

統計機関

[フラット テーブルから値を選択](#)

検索キー

検索 | 全件表示

最初1/1最後

*検索キー (文字)

*ソート順

ワイルドカード

CANADA

10

+

-

最初1/1最後

キー組合せの作成

検索キー ページ

このページは、従業員データの照合に使われるキー値の入力に使用します。市場給与マトリックスに適切な検索キーは、地域や統計機関などです。

注: マトリックスは、検索キーと出力データの値を指定せずに作成することができます。たとえば、マトリックスについてテンプレートを定義して、フラット ファイルなど他のソースから値をロードできます。ただし、マトリックスのステータスを “アクティブ” に変更して検索条件や検索値を定義していない場合は、警告が表示されます。

出力データ内容の表示と入力

“データの内容” ページにアクセスします。

マトリックスの定義(D)

入力(I)

出力(O)

検索キー(K)

データの内容(C)

表示(V)

マトリックス名:

MARKET_PAY

マトリックス定義

有効日:

1900/01/01

ステータス:

アクティブ

名称:

市場給与

マトリックス タイプ:

市場給与統計

マトリックス データ

検索

統計照会コード	統計機関	デフォルト	名称	給与統計	通貨	基本レート平均額	基本レート中央値	合計給与平均額
		<input type="checkbox"/>						

“データの内容” ページ

このページを使用して、入力フィールドと出力フィールドを確認します。データ値を空白にして、ファイルまたはワークフォース リワードから市場給与データをロードすることができます。データを手動で入力することもできます。

マトリックス結果の表示

表示ページにアクセスします。

マトリックスの定義(D)	入力(I)	出力(O)	検索キー(K)	データの内容(C)	表示(V)
マトリックス名: KUS001					
マトリックス定義 最初 ◀ 1/1 ▶ 最後					
有効日: 2000/01/01		ステータス: アクティブ			
名称: Pos In Range Salary Increase		マトリックス タイプ: 昇給マトリックス			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">保存済マトリックスの表示</div> (最新保存バージョンのマトリックスのみが表示されます)					

表示ページ

出力用のデータの内容を全て入力したら、マトリックスを保存する必要があります。このページでマトリックスを表示できるのは、マトリックスを保存した後のみです。

[保存済マトリックスの表示] ボタンをクリックすると、マトリックスの最新保存バージョンの生成結果が表示されます。

重要: このページには、最新保存バージョンのマトリックスのみが表示されます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「条件指定マトリックスの使い方」

データのマッピングとマトリックスのロード

市場給与データをマッピングし、マトリックスをロードするには、給与統計マッピングの定義 (SP_SURV_MAP_TBL)、市場給与の職務コードへの関連付け (SP_SAL_SURV_TBL)、ファイルからの市場給与データのロード (SP_SURVLOAD_TBL) および職務コード別市場給与レポート (SP_MPAY_RPT_TBL) の各コンポーネントを使用します。

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 給与統計データのマッピング
- 市場給与データの職務コードへの関連付け
- 市場給与データの 1 つの職務コードへの関連付け
- ファイルからの市場給与データのロード
- ワークフォース リワードからの市場給与データのロード
- 手動による市場給与データのロード
- 職務コード別市場給与データのレポート

データのマッピングとマトリックスのロードに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
給与統計マッピングの定義	SP_SURV_MAP_TBL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[市場給与]、[給与統計マッピングの定義]	市場給与マトリックスフィールドを既存の給与統計フィールドにマッピングします。
市場給与の職務コードへの関連付け	SP_SAL_SURV_TBL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[市場給与]、[市場給与の職務コードへの関連付け]	市場給与マトリックスを複数の職務コードに関連付けます。
市場給与の一致	JOB_CD_MP_SAL_SURV	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[任務属性]、[職務コードテーブル]、[市場給与の一致]	職務コードテーブルを使用して市場給与マトリックスと特定の職務コードを関連付けます。
市場給与データのロード	SP_SURV_LOAD_TBL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[市場給与]、[ファイルから市場給与データをロード]	ファイルから市場給与データをロードして、既存データを上書きするか新しくデータを追加します。
職務コード別市場給与レポート	SP_MPAY_RPT_TBL	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[市場給与]、[職務コード別市場給与レポート]	この有効日付きのレポートには、特定の職務コードにこれまで関連付けられた全ての市場給与定義が表示されます。

給与統計データのマッピング

“給与統計マッピングの定義” ページにアクセスします。

給与統計マッピングの定義

セットID: SHARE マトリックス名: MARKET_PAY 市場給与

検索 | 全件表示 最初 1/2 最後

有効日: 2004/06/11 *ステータス: アクティブ

*名称: MARKET_PAY

フィールド マッピング		1-14/14
マトリックス フィールド	ターゲット フィールド	
1 Midpoint Rate	中間レート	
2 Survey Job Code	統計職務コード	
3 Survey Provider	統計機関	
4 Survey Salary	給与統計	
5 統計職務コード		
6 統計機関		
7 名称		
8 給与統計		
9 通貨	通貨	
10 基本レート平均額		
11 基本レート中央値		
12 合計給与平均額		
13 合計給与中央値		
14 中間レート		

* 必須フィールド

“給与統計マッピングの定義” ページ

注: システムには MARKET_PAY マトリックスと WFR_SURVEY_DATA マトリックスが標準で用意されています。条件指定マトリックスを定義して、市場給与統計データを含めることもできます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「条件指定マトリックスの使い方」、「条件指定マトリックスの定義と管理」

[マトリックス フィールド] マトリックスの定義ページの値が表示されます。

[ターゲット フィールド] 値を選択します。これらの値は、職務コード テーブルから取得されます。

市場給与データの職務コードへの関連付け

“市場給与の職務コードへの関連付け” ページにアクセスします。

市場給与の職務コードへの関連付け

セットID: SHARE マトリックス名: KUM001 Clerk Payroll 290080

*有効日: 1980/01/01 *ステータス: アクティブ

*名称: Clerk Payroll Mkt Pay

関連職務コード		全件表示	最初	1/1	最後
1	290080				

マトリックスの編集

Clerk Payroll 290080 (1980-01-01)										
地域	通貨	第 25 百分位数	第 50 百分位数	第 75 百分位数	第 100 百分位数	業界標準値	変動率(%)	変動率(%)標準	合計給与平均額	
COUNTRIES	USD	26,000.00	27,000.00	27,500.00	28,000.00	27,000.00	10.00	2,700.00	29,000.00	
MID ATLANTIC STATES	USD	24,000.00	25,000.00	25,500.00	26,000.00	25,000.00	10.00	2,500.00	27,000.00	
MIDWEST REGION	USD	27,000.00	28,000.00	28,500.00	29,000.00	28,000.00	10.00	2,800.00	30,000.00	

* 必須フィールド

“市場給与の職務コードへの関連付け” ページ

追加ボタンをクリックして、市場給与データと職務コードを新たに関連付けます。虫眼鏡ボタンをクリックして、既存値を検索します。

[職務コード]

市場給与マトリックスに関連付ける職務コードを選択します。1 つの市場給与マトリックスには複数の職務コードに関連付けることができます。ただし、1 つの職務コードに関連付けることのできる市場給与マトリックスは 1 つだけです。

[マトリックスの編集]

このボタンをクリックすると、“マトリックスの定義” コンポーネントの “データの内容” ページにアクセスします。このページでは、[マトリックス データ] のフィールド情報を追加、修正または削除できます。

市場給与データの 1 つの職務コードへの関連付け

“市場給与の一致” ページにアクセスします。

職務コードプロファイル

評価基準(E)

市場給与の一致(M)

デフォルト給与(D)

固定的賃金外

セットID:

SHARE

職務コード:

110000

市場給与の一致

有効日:

1980/01/01

ステータス:

アクティブ

名称:

Accountant

マトリックス名:

KUM001

Clerk Payroll 290080

マトリックスの編集

Clerk Payroll 290080 (1980-01-01)

地域	通貨	第 25 百分位数	第 50 百分位数	第 75 百分位数	第 100 百分位数	業界標準値	変動率(%)	変動率(%)標準	合計給与平均額
COUNTRIES	USD	26,000.00	27,000.00	27,500.00	28,000.00	27,000.00	10.00	2,700.00	29,000.00
MID ATLANTIC STATES	USD	24,000.00	25,000.00	25,500.00	26,000.00	25,000.00	10.00	2,500.00	27,000.00
MIDWEST REGION	USD	27,000.00	28,000.00	28,500.00	29,000.00	28,000.00	10.00	2,800.00	30,000.00

“市場給与の一致” ページ

注: 職務コードについて、新しい有効日の付いたマトリックス データを参照するには、履歴の修正モードで入る必要があります。1 つの職務コードには、市場給与マトリックスを 1 度に 1 つだけ関連付けることができます。

[マトリックス名]

職務コードに関連付ける市場給与マトリックスを選択します。

[マトリックスの編集]

このボタンをクリックすると、関連付けられたマトリックスに関する“データの内容”ページにアクセスします。このページで、このマトリックスに関連付けられた値を表示および編集できます。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 基本報酬管理と予算計画、「条件指定マトリックスの使い方」、「データの内容フィールドへの値の入力」

ファイルからの市場給与データのロード

“市場給与データのロード” ページにアクセスします。

“市場給与データのロード” ページ

入力ファイルの必須フィールドは、SETID、EFFECTIVE DATE (yyyy-mm-dd 形式の日付)、EFFECTIVE STATUS、DESCRIPTION、JOB CODE、MATRIX ID です。これらのフィールドはこの順番である必要があります。また、マトリックスのフィールドは、マトリックス ID の後ろに、マトリックス内と同じ順番で続く必要があります。Excel などのユーティリティでは、表示フォーマットとは別のフォーマットに日付が再設定される場合があるため、ファイルを開いて日付フォーマットを確認することをお勧めします。日付のフォーマットは Excel で手動で定義することにより、正しく設定できます。

[ファイル名]

市場給与データのインポート元ファイルの名前を入力します。

[ファイル保管場所]

インポート ファイルの保管場所を入力します。“¥¥マシン名¥ディレクトリ”の形式で入力すると、保管場所にマシン名を指定することもできます。

[ロード プロパティ]

[追加] を選択すると、市場給与情報が既存ファイルに追加されます。

[上書き] を選択すると、システム内の既存データが、ファイルのデータによって置き換えられます。

ワークフォース リワードからの市場給与データのロード

ワークフォース リワードからパブリッシュされた COMP_MKT_RATE_SYNC インテグレーション ブローカーメッセージとサービス オペレーションを使用して、市場給与データをロードできます。これらの新しい目標基準レートは、WA_MKT_RATE_TBL から取得されます。

注: COMP_MKT_RATE_SYNC サービス トランザクションによって、市場レートが標準の条件指定マトリックス定義にロードされます。異なるフィールドが設定されたマトリックスにデータをロードする場合は、新しいメッセージとサービス オペレーションを作成する必要があります。

参照: PeopleSoft Enterprise Workforce Rewards PeopleBook の「Managing Market Compensation」

手動による市場給与データのロード

適切なマトリックスの “データの 内容” ページにアクセスします。

[マトリックス データ] グループ ボックスで、市場給与データを手動で入力します。

職務コード別市場給与データの表示

職務コード別市場給与レポート ページにアクセスします。

職務コード別市場給与レポート

セトID: SHARE 職務コード: 170005

有効日: 1980/01/01 マトリックス名: KUM003

Admin Assistant 170005 (1980-01-01)

地域	通貨	第 25 百分位数	第 50 百分位数	第 75 百分位数	第 100 百分位数	業界標準値	変動率-ターゲット %	変動率-ターゲット標準	合計給与平均値	総合人件費標準
MIDWEST REGION	USD	38,000.00	39,000.00	40,000.00	42,000.00	39,000.00	10.00	4,000.00	42,000.00	43,000.00
NEW YORK METRO	USD	36,000.00	37,000.00	38,000.00	40,000.00	37,000.00	10.00	3,700.00	40,000.00	41,000.00
MID ATLANTIC STATES	USD	36,000.00	37,000.00	38,000.00	40,000.00	37,000.00	10.00	3,700.00	40,000.00	41,000.00

職務コード別市場給与レポート ページ

このページには、現在の市場給与データだけでなく、利用可能な場合は過去および将来の市場給与データも表示されます。

第 18 章

機関の設定

この章では、機関テーブルの概要と、機関情報の入力方法について説明します。

機関テーブルについて

このセクションでは、機関、および PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システムと PeopleSoft Enterprise 買掛金管理の統合について説明します。

機関

機関とは、会社が従業員に代わって送金する、または従業員の給与小切手から源泉徴収する対象となる業者や組織のことです。機関には次のものがあります。

- 福利厚生取扱機関
- 差押機関
- 税計算ソフト会社

機関に関する情報は、機関テーブルに保存されます。このテーブルには、機関への支払に必要な情報および福利厚生取扱機関用の保険証券情報が保持されています。

PeopleSoft Enterprise 買掛金管理との統合

PeopleSoft Enterprise 買掛金管理、PeopleSoft Enterprise Payroll for North America、および PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の基本福利厚生管理では、インテグレーション ブローカーを使用して相互の機関テーブルをロードします。

注: PeopleSoft Enterprise 買掛金管理を使用して機関への支払を行う場合は、PeopleSoft Enterprise 買掛金管理から機関テーブルにアクセスして機関の入力と更新を行い、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システム (HRMS) に機関テーブルをエクスポートしてください。

警告: HRMS テーブルで機関を更新すると、連絡先情報が買掛金管理システムにエクスポートされます。ただし、HRMS から入力した既存の機関の銀行情報に対する変更は、買掛金管理システムへはエクスポートされません。

インテグレーション ポイント

インテグレーションを使用して機関テーブルを管理する前に、インテグレーション ブローカー ノードを設定し、以下のサービス オペレーションに対する適切なキュー、ハンドラおよびルーティングを有効にします。

サービス オペレーション	内容
VENDOR_FULLSYNC	買掛金管理で機関テーブルの全ての内容を HRMS 機関テーブルにパブリッシュします。
VENDOR_SYNC	買掛金管理で機関テーブルの更新を HRMS 機関テーブルにパブリッシュします。

PeopleSoft アプリケーションで使用されるインテグレーション ポイントの技術的な詳細については、Customer Connection のインタラクティブ サービス リポジトリを参照してください。

関連項目:

Customer Connection の Implementation Guide セクションのインタラクティブ サービス リポジトリ

第 34 章、「PeopleSoft Enterprise HRMS におけるインテグレーション ポイントの使い方」、787ページ

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Integration Broker

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook

機関情報の入力

機関情報を入力するには、機関管理コンポーネント (VENDOR_CONTROL)、機関情報コンポーネント (VNDR_ID)、機関テーブル コンポーネント (PROVIDER_TABLE)、および差押機関テーブル コンポーネント (GARNISH_PAYEE_TBL) を使用します。

このセクションでは、機関設定のページの概要と以下の方法について説明します。

- 機関プレフィックスの指定
- 機関の基本情報の入力
- 機関の住所情報の入力
- 支払時に使用する代替名の表示
- 機関の所在地の指定
- 銀行口座情報の入力
- 支払処理情報の入力
- 機関の連絡先情報の入力
- 福利厚生 の保険証券情報の入力

機関に関するページについて

機関情報を入力するには、以下のページを使用します。

- [機関管理]
- [機関情報]

- [住所]
- [所在地]
- [連絡先]
- [保険証券情報]

[機関管理]

PeopleSoft Enterprise 買掛金管理を使って機関へ支払を行う場合のみ、このページを使用します。さまざまなタイプの機関を特定するためのしくみが用意されています。

[機関情報]

このページでは、機関コードを登録し、その機関の名前およびタイプを指定します。

[住所]

このページは厳密な意味での住所情報に関するもので、所在地と混同しないでください。1 つの機関が異なる場所にある場合は、複数の住所を入力することができます。

[所在地]

機関の所在地とは物理的な住所のことではありません。特定の機関とどのように商取引を行うかを定義する、デフォルトのルールセットや条件を指します。機関の所在地は、支払条件、送金先情報、銀行口座情報などの情報で構成されます。所在地は住所ではありませんが、住所情報を参照します。

機関には必ず 1 つの所在地が必要です。機関が複数の業務に対して同じルールセットを使う場合は、その機関に対して 1 つの所在地を入力する以外に何もする必要はありません。ただし、機関のさまざまな商取引の場所（複数の支店、場所またはオフィスなど）に対して異なるルールセットを使う場合は、その機関に複数の所在地を設定し、所在地ごとに独自のビジネス ルールセットを指定することができます。

[連絡先]

このページでは、定期的に連絡をとる担当者に関する情報を入力します。機関の連絡先を必要な数だけ入力してその役割を指定できるため、質問する場合の問い合わせ先を簡単に判断したり、機関の連絡先へ電話をかけ直す前に、どのような用件なのか見当をつけることができます。

[保険証券情報]

保険証券情報は、福利厚生取扱機関では必須です。[基本福利厚生] の“プランと取扱機関”の機関テーブル コンポーネントで、該当の機関と保険証券情報を関連付けます。

機関の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[機関管理]	VNDR_CNTRL	[HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関管理]	PeopleSoft Enterprise 買掛金管理の機関に割り当てられるプレフィックスを指定します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[機関情報]	VNDR_ID1	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[機関情報] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[機関情報] 	機関の基本情報を入力します。
[住所]	VNDR_ADDRESS	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[住所] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[住所] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[住所] 	機関の住所情報を入力します。
[代替名]	VNDR_ADDR_ALTN	<p>住所ページの [代替名] リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[住所] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[住所] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[住所] 	支払時に使用する代替名を入力します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[Phone Information]	VNDR_ADDR_PHN	<p>住所ページの [電話番号] リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[住所] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[住所] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[住所] 	機関の住所に対応する電話番号情報を入力します。住所ごとに複数の電話番号を入力することができます。
[Email Address]	VNDR_ADDR_EMAILID	<p>住所ページの [電子メール ID] リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[住所] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[住所] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[住所] 	機関の電子メール アドレスを入力します。
[所在地]	VNDR_LOC	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[所在地] 	住所関連の情報や送金情報を入力します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[銀行口座]	VNDR_BANK_ACCOUNT	<p>所在地ページの[銀行口座]リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[所在地] 	機関の銀行口座情報を入力します。
[銀行住所]	VNDR_BANK_ACCT2	<p>所在地ページの[銀行口座]リンクをクリックし、さらに銀行口座ページの[銀行住所]リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[所在地] 	銀行の住所情報を入力します。銀行の[国]フィールドは、銀行口座ページからデフォルトで設定されます。住所のフィールドの形式は、国によって異なります。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[電話番号]	VNDR_BANK_ACCT3	<p>所在地ページの[銀行口座]リンクをクリックし、さらに銀行口座ページの[電話番号]リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[所在地] 	銀行の電話番号情報を入力します。
[コメント]	VNDR_LOC_COMMENTS	<p>所在地ページの[コメント]リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[所在地] 	所在地に関するメモやコメントを入力します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[支払オブション]	VNDR_PAY	<p>所在地ページの[支払オブション]リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[所在地] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[所在地] 	機関の所在地に対する支払処理のルールを入力します。
[連絡先]	VNDR_CNTCT	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[連絡先] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[連絡先] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[連絡先] 	機関の連絡先を入力します。必要に応じて複数の電話番号を入力します。
[Phone Information]	VNDR_CNTCT_PHN	<p>連絡先ページの[電話番号]リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[連絡先] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[連絡先] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[Garnishments]、[差押機関テーブル]、[連絡先] 	連絡先の電話番号情報を入力します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[保険証券情報]	VNDR_POLICY	<ul style="list-style-type: none"> • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[プランと取扱機関]、[機関テーブル]、[保険証券情報] • [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[Payroll for North America]、[機関]、[機関情報]、[保険証券情報] 	保険証券に関する情報と、その連絡先について入力します。

機関プレフィックスの指定

機関管理ページにアクセスします。

機関管理

セットID: BNUSA Benefit Administration

自動採番

☒ 自動採番を使用

HRMS 機関 ID プレフィックス:

機関 ID の最終採番番号: 0

機関管理ページ

[自動採番を使用]

PeopleSoft Enterprise 買掛金管理には、自動採番機能を使って ID を新しい取引先（機関）に割り当てるためのオプションがあります。

[HRMS 機関 ID プレフィックス]

[自動採番を使用] チェック ボックスをオンにした場合は、HRMS 機関を特定するために使用するプレフィックスを入力します。

機関の基本情報の入力

機関情報ページにアクセスします。

機関情報	住所	所在地	連絡先	保険証券情報
セットID: BNUSA 機関 ID: BNFTE				
機関名				
*名称 1: <input type="text" value="BNFTE"/>				
名称 2: <input type="text"/>				
*略称: <input type="text" value="BNFTE"/> BNFTE-001				
機関の分類				
*HRMS クラス: <input type="text" value="P"/>  一般保険会社				
*ステータス: <input type="text" value="承認済"/>				
*取引期間: <input type="text" value="1 回のみ"/>				

機関情報ページ

[名称 1]

給与小切手に表示される機関の名称を入力します。

[HRMS クラス]

このフィールド値によってビューの作成に使用する HRMS クラスが識別されるため、適切な機関を適切なテーブルで照会できるようになります。

また、買掛金管理の支払伝票を作成するために控除データを抽出する際に、課税控除と非課税控除を識別するためにも使われます。

以下のような有効値があります。

- クレジット カード業者 (C)
- 一般控除 (D)
- 差押機関 (G)
- 国民健康保険取扱機関 (H)
- 労働保険取扱機関 (I)
- 年金保険取扱機関 (M)
- 一般保険会社 (P)
- 税計算ソフト会社 (T)

福利厚生取扱機関の場合、[一般保険会社] (P) を選択します。

[ステータス]

HRMS 機関の場合、[承認済] を選択します。その他の値は、PeopleSoft Enterprise 買掛金管理で使用されます。

[取引期間]

HRMS 機関の場合、[標準] を選択します。その他の値は、PeopleSoft Enterprise 買掛金管理で使用されます。

機関の住所情報の入力

住所ページにアクセスします。

機関情報

住所

所在地

連絡先

保険証券情報

セットID: US001 機関 ID: BNFTE

機関住所

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

住所連番: 1

名称:

*住所種別: 勤務先

住所詳細

検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

有効日: 2007/05/23 ステータス: アクティブ

国: USA アメリカ

住所: [住所編集](#)

[代替名](#) [電話番号](#) [電子メールID](#)

“機関情報” - 住所ページ

[住所種別]

機関に対して住所を 1 つ以上入力します。

PeopleSoft Enterprise 買掛金管理を使用する場合は、少なくとも 1 つの住所が送金先の住所である必要があります。この住所は、支払伝票を作成する際に使用されます。

控除受取人に対して有効な住所種別は、[保険料支払先] および [送金先] のみです。その他の住所種別が機関に対して表示される場合は、買掛金管理部門に問い合わせてください。

[保険料支払先] は通常、福利厚生 の控除に適用されます。[送金先] は、課税などその他全ての控除タイプに適用されます。

支払時に使用する代替名の表示

代替名ページにアクセスします。

代替名

代替名 1:

代替名 2:

代替名ページ

- [代替名 1]、[代替名 2] この住所を使って所在地に対する支払情報が生成されるとき、PeopleSoft Enterprise 買掛金管理では機関情報ページで入力した名前とは異なる名前を使う必要がある場合に、このページでその名前を入力します。

機関の所在地の指定

所在地ページにアクセスします。

“機関情報” - 所在地ページ

- [所在地]** 入力する所在地情報の ID を入力します。機関に対して複数の所在地が設定されている場合は、[機関の所在地] タイトル バーの [前を表示] ボタンと [次を表示] ボタンを使って目的の所在地情報を表示することができます。
- [デフォルト]** 該当の機関について、この所在地を自動的に支払伝票に出力する場合は、このチェック ボックスをオンにします。デフォルトとして選択できる所在地は 1 つだけです。
- [機関への送金]** 支払の送金先となる機関に関する情報です。支払を受け取る機関の名前、所在地、および支払の送金先となる住所を特定するコードを選択する必要があります。
- [銀行口座]** このリンクをクリックすると、銀行口座ページが表示されます。給与計算部門に連絡して、この情報を設定してください。
- [コメント]** このリンクをクリックすると、コメント ページが表示されます。
- [支払オプション]** このリンクをクリックすると、支払オプション ページが表示されます。給与計算部門に連絡して、この情報を設定してください。

銀行口座情報の入力

銀行口座ページにアクセスします。

銀行口座

セットID: US001 機関 ID: BNFTE 所在地:

機関銀行口座情報 検索 | 全件表示 最初 ◀ 1/1 ▶ 最後

☐ デフォルト 名称:

承認 ID:

支店 ID: 銀行 ID:

口座タイプ:

口座番号: チェック デジット:

DFI ID タイプ: DFI ID:

[銀行住所](#) [電話番号](#)

銀行口座ページ

[デフォルト]

この銀行口座が所在地のデフォルトの銀行口座の場合は、[デフォルト] チェック ボックスがオンになります。デフォルトの銀行口座は、この機関の各支払スケジュールにコピーされます。

[承認 ID]

銀行/取引先を識別するための国別の数値です。この値によって、銀行/取引先のページにおける銀行情報の編集方法および表示方法が決まります。

[支店 ID]

銀行の支店 ID (該当する場合)。

[銀行 ID]

銀行の銀行 ID。

[口座タイプ]

銀行の口座タイプ。たとえば、[債券]、[当座預金]、[生命保険額面価格] などがあります。

[口座番号]

機関の銀行口座番号。

[チェック デジット]

銀行で使用されるチェック デジット。

[DFI ID タイプ]

この機関の所在地に対して自動決済システム (ACH)、電信、またはファーム バンキングによる支払を行う場合には、このフィールドに該当の DFI ID タイプが表示されます。この値によって [DFI ID] フィールドのフォーマットが決まります。

- [送金番号]: DFI ID は 9 桁で、チェック デジットが付きます。
- [SWIFT ID]: DFI ID は 8 文字または 11 文字 (半角英数字) で、5 ~ 6 文字目は有効な 2 文字の国コードです。
- [CHIPS ID]: DFI ID は 3 桁または 4 桁です。
- [カナダの銀行支店/銀行協会]、[相互保証]: DFI ID の確認はありません。

DFI ID タイプによって銀行の DFI ID のフォーマットが決まります。

[DFI ID]

銀行の DFI ID。フォーマットは、[DFI ID タイプ] フィールドに表示される値によって決まります。

- [銀行住所]

[銀行住所] リンクをクリックすると銀行住所ページが表示されます。
- [電話番号]

[電話番号] リンクをクリックすると電話番号ページが表示されます。

支払処理情報の入力

支払オプション ページにアクセスします。

支払オプション

セットID: CDN 機関 ID: CCRA 所在地: SURREY

支払管理

☐ 支払保留

☐ 個別支払

銀行

銀行 ID:

銀行口座:

支払処理

*フラグ:

コード:

支払方法

*フラグ:

コード:

支払オプション ページ

[支払管理]

[支払保留]

このチェック ボックスをオンにすると、PeopleSoft Enterprise 買掛金管理では、この機関に対する支払が自動的に保留になります。

[個別支払]

このチェック ボックスをオンにすると、PeopleSoft Enterprise 買掛金管理では、同じ支払サイクルで機関の支払伝票を複数処理する場合でも、支払伝票ごとに個別の支払が行われます。

[銀行]

[銀行 ID]

機関に対する支払元となる銀行のコード。

[銀行口座]

機関に対する支払元となる口座。

[支払処理]

[フラグ]

このフィールドによって支払処理の方法が決まります。

- [上位レベルのデフォルト]: 機関に対する支払処理の方法は管理階層から取得されます。
- [当レベルで指定]: 機関に対する支払処理の方法は [コード] フィールドで指定します。

[コード]

[フラグ] フィールドで [当レベルで指定] を選択した場合、このフィールドのドロップダウン リストで、買掛金管理部門が機関に対する支払を発行するときに従う支払処理の方法を指定します。

- [高額支払]

406

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

- [内部処理]
- [標準支払]
- [購買管理経由]

[支払方法]

[フラグ]

このフィールドによって支払方法が決まります。

- [上位レベルのデフォルト]: 機関に対する支払方法は管理階層から取得されます。
- [当レベルで指定]: 機関に対する支払方法は [コード] フィールドで指定します。

[コード]

[フラグ] フィールドで [当レベルで指定] を選択した場合、このフィールドのドロップダウン リストで、機関に対する支払方法を指定します。

- [自動決済システム]
- [顧客振出手形]
- [口座引落]
- [期日支払 FB]
- [ファーム バンキング]
- [Giro - FB]
- [Giro - マニュアル]
- [信用状]
- [マニュアル小切手]
- [システム小切手]
- [財務電信フラット ファイル]
- [機関振出手形]
- [電信レポート]

機関の連絡先情報の入力

連絡先ページにアクセスします。

機関情報		住所		所在地		連絡先		保険証券情報	
セットID: US001		機関 ID: BNFTE							
<div>連絡先</div> <div>検索 全件表示</div> <div>最初 ◀ 1/1 ▶ 最後</div>									
連番: 1		名称: <input type="text"/>							
<div>連絡先詳細</div> <div>検索 全件表示</div> <div>最初 ◀ 1/1 ▶ 最後</div>									
有効日: 2007/03/24		ステータス: アクティブ							
タイプ:									
連絡先氏名: <input type="text"/>									
肩書: <input type="text"/>									
住所連番: <input type="text"/>									
URL: <input type="text"/>		<input type="text"/>							
電話番号									

“機関情報” - 連絡先ページ

- [連番] 連絡先に自動的に割り当てられた番号です。
- [タイプ] 連絡先のタイプを選択します。
- [住所連番] 住所ページで入力した住所の 1 つを選択します。
- [URL] 連絡先の Web サイトのアドレスを入力します。
- [電話番号] このリンクをクリックすると、連絡先の電話番号ページが表示されます。

福利厚生 of 保険証券情報の入力

保険証券情報ページにアクセスします。

機関情報	住所	所在地	連絡先	保険証券情報
------	----	-----	-----	--------

セツID: BNUSA 機関 ID: BNFTE BNFTE

保険証券情報

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

*ケルーフ*番号: 12345

保険証券番号: 123123

保険開始日: 1980/01/01

保険終了日:

保険 URL ID

一般保険 URL ID:

認証保険会社 URL ID:

保険証券連絡先

カヌマイズ

検索 | 全件表示

最初 1/1 最後

連番	連絡先氏名

保険証券情報ページ

- [一般保険 URL ID]** 一般保険証券情報が提供されている機関の Web サイトのアドレスを選択します。
- [認証保険会社 URL ID]** 認証された加入取扱機関のリストが掲載されている機関の Web サイトのアドレスを選択します。
- [連番]** 連絡先ページで入力した連絡先リストから連絡先を選択します。連絡先を選択すると、[連絡先氏名] が自動的に表示されます。

第 19 章

グループ定義の設定と使い方

この章では、グループ ビルドの概要と、以下の作業方法について説明します。

- グループ定義の設定
- グループ セキュリティの設定
- PeopleSoft の各アプリケーションでのグループの絞り込み
- グループ結果とレポートの表示
- グループ結果の消去

グループ ビルドについて

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- グループ ビルド機能の使い方
- グループの作成

グループ ビルド機能の使い方

HRMS では、グループ ビルド機能により従業員のグループを作成する方法を標準化できます。作成したグループは、さまざまな目的に利用できます。

職務、部門、さらには会社の異なる従業員のグループに対して 1 つのビジネス プロセスを適用することが望ましいケースは多々あります。たとえば、組織の研究開発チームに特別な賞与プランを提示するとします。このチームには部門 10200 ～ 10500 の全従業員が含まれています。グループ ビルド機能を使って部門 10200 ～ 10500 で構成されるグループを作成し、変動報酬管理モジュールを使用してそのグループの奨励プランを管理できます。後で他のユーザーが基本報酬管理と予算計画モジュールを使って同じグループに対する昇給を管理することも可能です。グループは 1 度定義するだけです。

グループはグループ ビルドで定義し、以下の HRMS アプリケーションで 사용할 ことができます。

- PeopleSoft Enterprise 勤務管理
- PeopleSoft Enterprise Benefits Administration
- PeopleSoft Enterprise Stock Administration
- ePerformance-パフォーマンス管理
- PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の以下のビジネス プロセス
 - 基本報酬管理と予算計画
 - 総合人件費レポート

- 変動報酬管理
- 労使関係管理

グループの作成

PeopleSoft Enterprise HRMS でグループを作成するには、次の 3 つの手順に従います。

1. グループに属するメンバーを定義します。
2. グループ セキュリティを設定します。
3. 必要に応じて、PeopleSoft の各アプリケーションで、日付などアプリケーション特有のパラメータを設定します。

注: これらの手順は、PeopleSoft Enterprise HRMS のレコードとフィールドの構造に精通している経験豊富なユーザーが使用することを目的として設計されています。

グループ ビルドの各ページで以下の作業を行います。

- グループを定義するレコード、フィールド、および値を選択します。
- グループ セキュリティを設定します。

変動報酬管理のグループ

この後、変動報酬管理ビジネス プロセスで既存の人事考課のグループを使うには、既存のグループ ID と変動報酬管理ビジネス プロセス内の変動報酬グループ ツリーのノードをリンクします。

グループ ビルドには、NOGROUP というグループ ID があります。このグループは、変動報酬の処理に必要です。NOGROUP というグループ ID は、グループを指定しない変動報酬プランに使われます。このため、NOGROUP は予約済みのグループ ID となり、グループ ビルド アプリケーションではグループ ID が NOGROUP のグループは作成できません。

グループ定義の設定

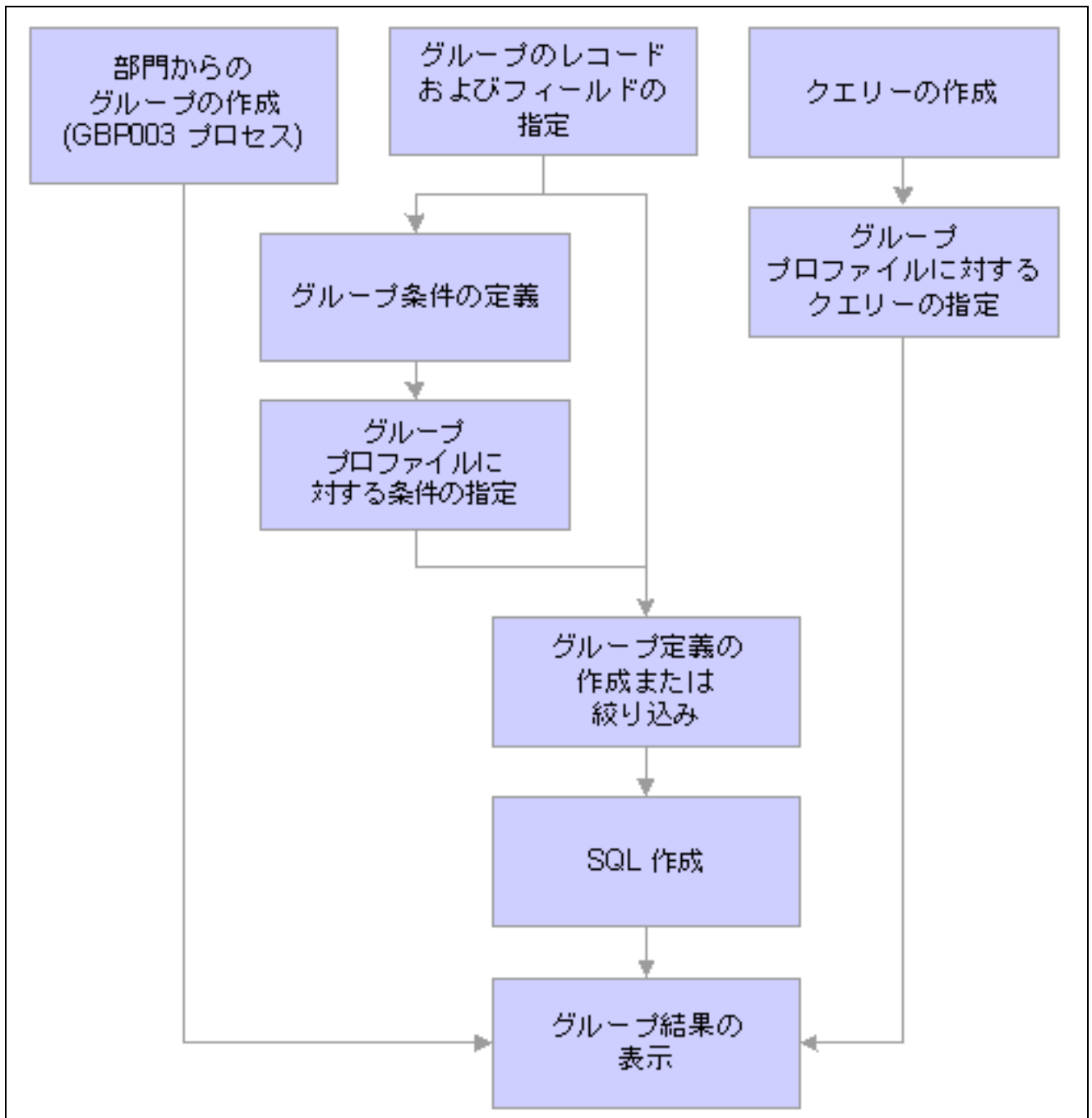
グループ定義を設定するには、レコード/フィールド コンポーネント (GB_REC_FIELD)、グループ条件コンポーネント (GB_REC_FIELD)、グループ ビルド - グループ定義コンポーネント (GB_GRP_DEFN_TABLE)、およびグループ ビルド (会社/部門) コンポーネント (RUNCTL_GBP003) を使用します。

このセクションでは、グループ定義の概要、クエリ定義の概要、部門別グループの自動生成の概要、および以下の方法について説明します。

- グループ条件とグループ定義で使用するフィールドの選択
- グループ条件の定義
- グループ プロファイルの作成
- グループのレコード、フィールド、およびフィールド値の指定
- グループのレコード、フィールド、およびフィールド値の表示
- グループ メンバーの表示とソート
- 部門からのグループの作成

グループ定義について

次の図は、グループの定義と作成に利用可能な方法を示しています。



グループ定義の方法

グループのメンバーを定義するには、次の手順に従います。

1. (クエリーを使用しない場合は必須) レコード/フィールド コンポーネント (GB_REC_FIELD) で各レコードにフィールドを選択して、グループ条件ページ (GB_GRP_CRIT1_TBL) とグループ定義ページ (GB_GRP_DEF2_TBL) でグループ条件を作成するために使用できるようにします。

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「グループ条件とグループ定義で使用するフィールドの選択」、417ページ

2. (省略可) グループ条件ページでグループ条件を作成します。

グループ条件とはレコードとフィールドとで構成される基礎単位で、さまざまなグループの作成に繰り返し利用できます。たとえば、従業員の部門と加入組合に基づいて複数のビジネス プロセスを処理する場合に、DEPT AND UNION CODE というグループ条件 ID を作成するとします。グループ条件 ID を一度作成しておけば、それを利用してさまざまなグループを定義できます。

レコード名	フィールド名
JOB	部門
JOB	組合コード

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「グループ条件の定義」、419ページ

3. グループ プロファイル ページ (GB_BRP_DEFN1_TBL) で、グループ条件 ID またはクエリーをグループ定義に指定します。

グループ プロファイル ページでは、グループ条件 ID とクエリーをグループ定義の一部として使用できます。

- グループ条件 ID の使い方

グループ条件 ID を使用すると、追加のレコード、フィールド、およびフィールド値をグループ定義ページで定義できます。ただし、グループ条件は 1 つのグループにつき 1 つしか使用できません。

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「グループプロファイルの作成」、419ページ

- PeopleSoft クエリーの使い方

PeopleSoft クエリーを使用すると、既存のクエリーを選択したり、新規のクエリーを作成できます。クエリーを使うと、グループ条件ページやグループ定義ページで使用可能な 32 のレコードよりも広い範囲のシステム レコードのセットにアクセスできます。ただし、クエリーはグループ定義で使われる特定のルールに従う必要があります。1 つのグループ定義に関連付けられるクエリーは 1 つだけです。

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「グループビルドに使用するクエリーの定義について」、415ページ

4. グループ定義ページで、レコード、フィールドおよびフィールド値を選択してグループを定義または絞り込みます。

グループ定義にグループ条件 ID を指定した場合は、グループ定義ページで、グループ条件のフィールドとレコードに適切なフィールド値を指定する必要があります。グループ定義には、その他のレコード、フィールド、および値を追加することもできます。

グループ定義にクエリーを指定した場合は、グループ定義ページでこれ以上選択することはできません。

グループ条件やクエリーを使わずに、グループ定義ページだけでグループを定義することもできます。

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「グループのレコード、フィールド、およびフィールド値の指定」、421ページ

注: グループ定義ページで利用できるのは、レコード/フィールド コンポーネントで選択したフィールドのみです。

注: グループ ID を保存した後は、グループ別セキュリティ ページ (GB_GRP_SEC_TBL) またはユーザー別セキュリティ ページ (GB_GRP_SEC_TBL) で、そのグループに対するアクセス権を自分自身に与える必要があります。この作業を行わないと、グループ ビルド - グループ定義コンポーネント (GB_GRP_DEFN_TBL) で、そのグループにアクセスできません。

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「グループ セキュリティの設定」、428ページ

グループ ビルドに使用するクエリーの定義について

グループ条件ページまたはグループ定義ページでは 32 のテーブルが利用できますが、それ以上のテーブルにアクセスするグループを定義するには、グループ ビルドで PeopleSoft クエリーを使用します。

グループ定義で使用するクエリーを定義する際には、以下の制約が適用されます。

- クエリーに挿入する最初のレコードは、グループ ビルド ビュー (GB_QRY_LINK_VW) である必要があります。
 - システムでは、グループ ビルド - グループ定義コンポーネントで作成した SQL ステートメントと PeopleSoft クエリーで作成した SQL ステートメントとの結合に、このビューが使用されます。
 - GB_QRY_LINK_VW レコードから以下の 4 つのフィールドを選択する必要があります。
 - EMPLID
 - EMPL_RCD
 - EFFDT
 - EEFFSEQ
 - PeopleSoft クエリーに追加するレコードには、最低 1 つの条件が必要です。
 - SQL ステートメントが返すフィールドは定義できません。
 - ユニオンは使用できません。
 - 集計式は使用できません。
 - ツリー オプションを式として使用することはできません。
 - プロンプトを式として使用することはできません。
- フィールド名、式、定数、In List、現在日付、および有効連番のみ使用可能です。
- 式の最大長は "254" バイトです。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Query

部門別グループの自動生成について

組織に部門セキュリティ構造がある場合、同様の構造をグループに対して作成するとなると、既に行った大量の作業をもう一度繰り返して行うことになります。作業の重複をできるだけ避けるため、既存の部門構造をグループ形式に変換するグループ ビルド SQR プロセス (GBP003) が用意されています。このプロセスでは、既存の会社、セットID、および部門構造に対応するグループを新しく作成します。

以下に例を示します。

- セットID USA の部門 10100 は、グループ USA 10100 になります。
- セットID USA の部門 10200 は、グループ USA 10200 になります。
- 会社 CCB は、グループ CCB になります。

ある部門にアクセスできるユーザーには、その部門に対して新しく作成されたグループに対するアクセス権限が自動的に与えられます。たとえば、セットID USA の部門 10200 にアクセスできるユーザーには、新しいグループ USA 10200 へのアクセス権限が与えられます。

グループの定義に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[レコード/フィールド]	GB_REC_FIELD	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[レコード/フィールド]、[レコード/フィールド]	グループ条件ページとグループ定義ページで使用するフィールドを選択します。
[グループ条件]	GB_GRP_CRIT1_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループ条件]	グループ条件 ID を作成します。グループ条件 ID は、他のエレメントと組み合わせて複雑なグループを作成する基礎単位です。
[コメント]	GB_GRP_CRIT1_SEC	グループ条件ページの [コメント] リンクをクリックします。	グループ条件の定義についてのコメントを自由形式で入力します。
[グループプロファイル]	GB_GRP_DEF1_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループビルド-グループ定義]、[グループプロファイル]	グループプロファイルを作成します。 (省略可) 既存のグループ条件 ID やクエリーをグループ定義に指定します。
[グループ定義]	GB_GRP_DEF2_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループビルド-グループ定義]、[グループ定義]	グループの定義やグループ条件の絞り込みに使用するレコード、フィールドおよびフィールド値を指定します。
[グループビルド定義の表示]	GB_GRP_DEF1_SEC	グループプロファイルページまたはグループ定義ページの [コメント] リンクをクリックします。	グループ定義に指定したレコード、フィールド、フィールド値および演算子を表示します。
[グループ結果]	GB_GROUP_RES_SEC	グループ定義ページの [グループ表示] ボタンをクリックします。	グループビルド-グループ定義コンポーネントで作成したグループのメンバーを表示およびソートします。
[グループビルド](会社/部門からのグループビルド)	RUNCTL_GBP003	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループビルド(会社/部門)]	グループビルド SQR プロセス (GBP003) を実行して既存の会社/部門構造をグループ形式に変換し、部門からグループを作成します。

グループ条件とグループ定義で使用するフィールドの選択

レコード/フィールド ページにアクセスします。

レコード/フィールド

レコード:JOB従業員職務履歴

デフォルト ルール オプション

検索 | 全件表示 | 最初2/15 | 最後

*フィールド名:DEPTID

*フィールド ラベル:部門

編集テーブル:DEPT_TBL部門

必要条件フィールド

カスタマイズ | 検索 | 最初1/1 | 最後

	*プロンプトを表示するフィールド	*フィールド ラベル	同等なレコード フィールド		
1	SETID	セットID			

レコード/フィールド ページ

検索ページで選択したレコードについて、グループ条件ページとグループ定義ページでグループ条件を作成する際に使用可能にするフィールドを選択します。このページで選択したフィールドのみが、グループ条件ページで使用可能になります。

[デフォルト ルール オプション]

[フィールド名]、[フィールドラベル]

グループ条件を作成する際に使用可能にするフィールド名を選択します。フィールド名を選択すると、その名称が [フィールド ラベル] に自動的に表示されます。この名称は変更可能です。

[編集テーブル]

フィールドの編集テーブルを選択します。フィールドはこのテーブルに表示されます。

[必須条件フィールド]

[プロンプトを表示するフィールド]、[フィールドラベル]

必要に応じて、グループ条件のフィールドを入力するために表示されるフィールドを選択します。

たとえば、デフォルト ルールのフィールドが部門の場合、“SETID” を選択します。これは、部門を選択する前に部門のセットID を選択する必要があります。[プロンプトを表示するフィールド] で値を選択すると、対応する [フィールド ラベル] に値が表示されます。

[同等なレコード フィールド]

[プロンプトを表示するフィールド] に選択した値と同等のレコード フィールドを選択します。たとえば、部門の SETID と同等のレコード フィールドは SETID_DEPT です。

[同等なレコード フィールド] の値は、[プロンプトを表示するフィールド] の値と同じものになる場合もあります。また、値自体がない場合もあります。同等のフィールドがない場合、このフィールドは空白のままにしておきます。

418

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

グループ条件の定義

グループ条件ページにアクセスします。

グループ条件

グループ条件 ID:KF001

*名称:Company and Employee Category

略称:Copy & Catg

コピー

条件定義									
		*レコード	*フィールド名	*フィールドラベル	編集テーブル				
1		JOB	COMPANY	Company	COMPANY_TBL		+	-	
2	AND	JOB	EMPL_STATUS	Employee Status			+	-	
3	AND	JOB	LABOR_AGREEMENT	Labor Agreement			+	-	

グループ条件ページ

- [AND]/[OR]

このフィールドは、2 行目のデータ行をページに追加した場合にのみ表示されます。このページで入力したレコードとフィールドの処理方法をシステムに対して指定するために使います。有効値はデフォルトの [AND] と [OR] です。
- [[]]

リンクしたレコードとフィールド名のセットまたはサブセットを作成します。AND/OR 条件を複数指定する場合、かっこを使うことにより指定が明確になります。ネストは 5 つのレベルまで可能です。虫眼鏡ボタンをクリックすると、値の一覧が表示されます。デフォルトでは何も表示されません。
- [レコード]

グループ条件の定義に含めるレコード名を入力します。レコード/フィールドコンポーネントで使用可能に設定したレコードが一覧表示されます。
- [フィールド名]

グループ条件の定義に含めるフィールド名を入力します。[レコード] フィールドで選択したレコードについて、レコード/フィールドコンポーネントで使用可能に設定したフィールドが一覧表示されます。
- [フィールドラベル]

Tab キーを押して [フィールド名] フィールドから出ると、このフィールドにフィールドラベルが表示されます。表示されたフィールドラベルは変更できます。
- [編集テーブル]

編集テーブルは、所定のフィールドに入力したデータを確認するために、システムで使用されます。入力したフィールド名が編集テーブルにリンクされている場合、Tab キーを使って [フィールド名] フィールドから出ると、このフィールドにそのテーブル名が表示されます。
- [D]

複数のレコードとフィールドをリンクするネストステートメントを完了します。虫眼鏡ボタンをクリックすると、値の一覧が表示されます。

グループプロファイルの作成

グループプロファイルページにアクセスします。

グループ プロファイル ページ

[グループ ID]

検索ページでグループ ID を入力または選択します。

注: NOGROUP というグループ ID は、グループを指定しない変動報酬プランに使われます。このため、NOGROUP は予約済みのグループ ID となり、グループビルドアプリケーションではグループ ID が NOGROUP のグループは作成できません。

[グループ条件 ID]

このグループ定義に既存のグループ条件を含める場合、ここにグループ条件 ID を入力します。含めない場合は、空白のままにしておきます。1 つのグループに含めることができるグループ条件 ID は 1 つだけです。



[グループ条件 ID] フィールドで値を変更した場合、このリフレッシュ ボタンをクリックしてグループ定義ページに新しい値を再ロードします。

[複合グループ - バッチ処理]

オンラインで作成すると時間がかかる複合グループに対してバッチ処理を行う場合に、このチェック ボックスをオンにします。バッチ処理は、システムを他の用途に使用していないオフ ピーク時に実行できます。

バッチ処理は、PeopleSoft プロセス スケジューラにより行われるため、このチェック ボックスをオンにする場合は、必ずプロセス スケジューラが起動していることを確認してください。処理が完了すると、プロセス スケジューラからユーザーに通知されます。スケジュールしておいたグループの実行ステータスが必要な場合は、“グループ定義” のグループ結果ページを参照してください。

[管理者セルフサービス使用可]

管理者セルフサービス トランザクションのアクセス タイプとしてグループ ID を使用する場合に、このチェック ボックスをオンにします。

[コメント]

このリンクをクリックして、“グループビルド定義の表示” ページにコメントを自由形式で入力し、グループ定義ページで定義した Where 句を表示します。

[クエリー名]

このグループ定義に既存のクエリーを含める場合、ここにクエリー名を入力します。含めない場合は、空白のままにしておきます。

警告: このフィールドの横にある虫眼鏡ボタンをクリックすると、レコード GB_QRY_LINK_VW を含む既存のクエリーが全て表示されます。ただし、グループビルドプロセスでは、EMPLID フィールド、EMPL_RCD フィールド、EFFDT フィールド、および EFFSEQ フィールドのあるクエリーのみが使用できます。これらのフィールドの設定されていないクエリーを選択すると、グループ定義ページに [集計開始] ボタンと [グループ表示] ボタンが表示されません。

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「グループビルドに使用するクエリーの定義について」、415 ページ

[管理者 ID]

グループに管理者がいる場合、その管理者を指定します。たとえば、定義するグループが部門 10200 の全従業員で構成される場合、その部門の管理者の従業員 ID をここに入力します。また、プロジェクトチームのリーダーを指定するために、このフィールドを使用することもできます。

変動報酬管理では、プランがグループにより管理される場合、グループ管理者 ID を使用して報奨割当ページにアクセスできるユーザーが決定されます。

[管理者セルフサービス使用可] チェック ボックスをオンにした場合、管理者 ID は必須です。

[承認者 ID] (承認者の従業員 ID)

このグループをグループ別変動報酬管理ビジネス プロセスで使用する予定の場合、グループに対する報奨を承認する従業員の ID をこのフィールドに入力します。虫眼鏡ボタンをクリックすると、値の一覧が表示されます。

[管理者セルフサービス使用可] チェック ボックスをオンにし、セルフサービス トランザクションでワークフローを使用する場合、承認者 ID は必須です。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Query

グループのレコード、フィールド、およびフィールド値の指定

グループ定義ページにアクセスします。

グループ定義ページ

[グループ定義]

このページは、グループ プロファイル ページで入力したグループ条件と組み合わせて使用できます。また、このページだけでグループを作成することもできます。以下のいずれかの方法で、このページを使用します。

- グループ プロファイル ページでグループ条件 ID を入力した場合

グループ定義ページのレコード名およびフィールド名には、グループ条件ページから値が自動的にロードされます。このページでレコード名およびフィールド名を変更することはできません。グループの定義を完了するには、グループ定義ページの [Where 句] グループ ボックスで、各フィールド名に適切なフィールド値を入力してパラメータを完成させます。定義には、レコード、フィールド名、およびフィールド値をさらに追加できます。

- グループ条件 ID を使用しない場合

グループの定義は全てこのページで行います。グループの作成に使用するレコード、フィールド名、およびフィールド値を全て入力します。

- グループ プロファイル ページでクエリーを入力した場合

クエリーに基づいて作成されるグループに対して、絞り込みの設定はできません。



ページの保存後、グループにメンバーが何人いるかを計算するには、この [集計開始] ボタンをクリックします。“グループビルド - グループ定義”のグループ プロファイル ページで [複合グループ - バッチ処理] チェックボックスをオンにした場合に、[集計開始] ボタンをクリックすると、作成対象のグループが PeopleSoft プロセス スケジュールに送信されます。

既に作成されている複合グループの場合、[集計開始] ボタンをクリックするとグループの行数が集計されます。

[集計結果]

[集計開始] ボタンをクリックすると、グループのメンバー数が表示されます。グループ定義に有効日付きのレコードを使用した場合、従業員 1 人につき複数行のデータがグループに含まれる場合があります。各データ行は 1 アイテムとして集計され、[集計結果] に表示されます。



グループを作成してグループ結果ページにアクセスするには、この [グループ表示] ボタンをクリックします。グループ結果ページには、グループの全メンバーが表示されます。

[コメント]

このリンクをクリックすると、「グループビルド定義の表示」ページにアクセスします。このページでは、コメントを入力したり、グループ定義ページで定義した Where 句を表示できます。

[Where 句]

[レコード (テーブル名)]

グループの定義に使うレコード名を入力します。虫眼鏡ボタンをクリックすると、有効なレコード名が一覧表示されます。このフィールドにグループ条件の定義内容がロードされている場合、その内容は変更できません。

[フィールド名]

グループの定義に使うフィールド名を入力します。虫眼鏡ボタンをクリックすると、[レコード] フィールドに入力したレコードの有効値が一覧表示されます。グループプロファイル ページでグループ条件 ID を入力した場合、このフィールドに値が自動的にロードされ、変更することはできません。

[ラベル]

[フィールド名] フィールドからカーソルを移動すると、このフィールドに自動的に値が入力されます。

[演算子]

フィールド値をグループに含めるか、除外するかを定義します。以下に示す有効な演算子の表を参照してください。

注: (JPN) 年功給、昇給などの日本特有の処理のためにグループを定義する場合には、JOB レコードの有効日フィールドに対する演算子に Current を設定しないでください。Current を選択すると、過去にさかのぼって処理を実行する際に、必要な結果が得られない場合があります。ここで有効日フィールドに対して Current を設定しない代わりに、処理ページの指定日を使って、現行データ以外のデータを抽出するプロセスを実行できます。

[編集テーブル]

編集テーブルは、所定のフィールドに入力したデータを確認するために、システムで使用されます。入力したフィールド名が編集テーブルにリンクされている場合、このフィールドにテーブル名が表示されます。

注: 入力したフィールド名が別のフィールドのキーに設定されている場合は、そのフィールドの定義を完了するために入力する必要があるその他のフィールドが自動的に表示されます。たとえば、ある給与ステップに基づいてグループを作成する場合、セットID、給与プラン、および給与等級も指定する必要があります。

[値]

リストからフィールド値を選択します。

有効な演算子

演算子	説明
<	～より小さい
<=	～以下

演算子	説明
<>	～と等しくない
=	～と等しい
>	～より大きい
>=	～以上
Between	
Current	
有効日 <	有効日が～より小さい
有効日 <=	有効日が～以下
有効日 >	有効日が～より大きい
有効日 >=	有効日が～以上
In List	
Is Null	フィールド値が 0
Like	
Max	最大
Min	最小
Not Between	間がない
Not Equal	
Not In list	List がない

演算子	説明
Not Like	
Not Null	フィールド値が 0 以外

有効日付きのデータを使ったグループの定義

グループの定義に使用できるレコードには、以下のように有効日付きのものがああります。

- JOB（職務情報）
- PERS_DATA_EFFDT（有効日付き個人データ）
- TL_EMPL_DATA（従業員時間プロファイル）
- COMPENSATION（給与）

システムには、これらのレコードの現在データと履歴データの両方が保存されるため、これらのレコードを使ってグループを作成する方法が 2 つあるということになります。

- 現在データを使う場合

たとえば、従業員の現在の職務のみを選択し、以前の職務は除外する場合です。条件 Current がレコードの有効日に自動的に追加されます。

- 履歴データを使う場合

たとえば、従業員が組織で担当した全ての職務を対象とする場合です。グループには 1 人の従業員について複数行のデータが含まれることがあります。グループを定義する際に有効日に関する条件を指定しない場合、現在のシステム日付時点の履歴データが全て検出されます。

有効日付きレコードを 2 つ含むグループ定義を作成する場合、有効日を使って 2 つのレコードをリンクできます。次の表に、2 つの有効日付きフィールドをリンクする方法を示します。

演算子	説明
有効日 <=	有効日が～以下
有効日 >=	有効日が～以上
有効日 <	有効日が～より小さい
有効日 >	有効日が～より大きい




グループのレコード、フィールド、およびフィールド値の表示

“グループビルド定義の表示” ページにアクセスします。

グループ・ヒルトン定義の表示

コメント:

--

Where 句						加算マイズ 検索 全件表示 		最初  1-4/4  最後	
	(テーブル名	フィールド名	演算子	値リスト)			
		JOB	COMPANY	=	KF1				
AND		JOB	HR_STATUS	=	A				
AND		JOB	LABOR_AGREEMENT	=	(FRA)KF01				
AND		JOB	EMPL_CTG	=	(FRA)(KF01)CADSUP				

“グループビルド定義の表示” ページ

[Where 句] グループ定義ページで定義した Where 句を表示します。

グループ メンバーの表示とソート

グループ結果ページにアクセスします。

グループ検索

検索氏名: ID:

1 から 25 まで (52)

グループのソート基準

☒ 従業員 ID ☐ 氏名

[検索]

グループの従業員						
従業員ID	名前	雇用コード No.	職務コード	有効日	有効日連番	名称
KF0001	Maurice Berger		0 250000	1980/01/01		0 Chief Executive Officer
KF0001	Maurice Berger		0 250000	1982/06/01		0 Chief Executive Officer
KF0001	Maurice Berger		0 250000	1984/06/01		0 Chief Executive Officer
KF0001	Maurice Berger		0 250000	1986/06/01		0 Chief Executive Officer
KF0001	Maurice Berger		0 250000	1988/06/01		0 Chief Executive Officer
KF0001	Maurice Berger		0 250000	1990/06/01		0 Chief Executive Officer

グループ結果ページ

グループメンバーのチャック制御の使い方

グループ メンバーは膨大な数になる場合もあるため、ページには複数のグループ メンバーが 1 つのチャンクとして一括でロードされます。“インストール テーブル” のサードパーティ/システム ページの [スクロールの最大行数] フィールドで、チャンクに含めることのできる行数を指定できます。フィルタおよびナビゲーション ボタンを使って、表示するチャンクを制御します。

フィルタ機能では、検索条件を入力してチャンクに含めるメンバーを指定できます。1 つまたは複数のフィルタ フィールドに情報を入力して、検索条件を絞り込むことができます。

重要: グループビルドでは、JOB テーブル、COMPENSATION テーブル、PERSON テーブル、および PER_ORG_ASGN テーブルが自動的に結合されます。このページのグループ結果と SQL エディタから起動したクエリの結果とを比較する場合、これら 4 つのレコードに結合結果を SQL エディタで追加して、結果を正しく比較できるようにしてください。

[集計開始] ボタンをクリックすると、システム日付がパラメータとして自動的に指定されます。たとえば、グループビルド - グループ定義コンポーネントで日付条件をまったく指定していなくても、JOB.EFFDT <= Given Date という条件が、作成された SQL に追加されます。

以下のフィルタおよびナビゲーション ボタンを使用して、メンバーのチャンク間を移動できます。

- [氏名]** 1 つ以上の文字をこのフィルタ フィールドに入力して検索すると、その文字で始まる姓の従業員がページに表示されます。
- ワイルドカードの % を使うと、レコードが選択しやすくなります。たとえば、John という名前の従業員を全員検索する場合は、「%John」と入力します。
- [ID] (従業員 ID)** 1 つ以上の数字をこのフィルタ フィールドに入力して検索すると、その数字で始まる従業員 ID を持つ従業員がページに表示されます。
- [グループのソート基準]** リストに表示されるメンバーを、従業員 ID と氏名のどちらの順序で表示するかを選択します。

注: (JPN) 基本言語とログイン言語に日本語を使用する非 UNICODE のデータベースで漢字を使用すると、「グループのソート基準」機能が使用できなくなります。



フィルタ フィールドに入力されている検索条件を全てクリアする場合は、この [リフレッシュ] ボタンをクリックします。

- [検索]** 新しい検索結果を表示するには、この [検索] ボタンをクリックします。[グループのソート基準] グループ ボックスの左側には、全行数のうち現在どの行が表示されているかが表示されます。たとえば、「1 から 4 まで (4)」と表示されている場合は、全 4 行のうち 1 行目から 4 行目までが表示されていることを示します。

注: [検索] ボタンをクリックすると、[リフレッシュ] アイコンをクリックするまで、このボタンは非表示になります。

部門からのグループの作成

グループビルド ページにアクセスします。

グループビルド SQR プロセス (GBP003) を実行して、部門構造をグループ形式に変換します。

処理が完了すると、グループビルドのページを使用してグループを表示して、グループが正しく生成されたかどうかを確認できます。

関連項目:

第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「部門別グループの自動生成について」、415 ページ

グループ セキュリティの設定

グループ セキュリティを設定するには、グループ セキュリティ デフォルト コンポーネント (GB_GRP_DEFN_TABLE)、グループ別セキュリティ コンポーネント (GB_GRP_SEC_TABLE)、ユーザー別セキュリティ コンポーネント (GB_OPR_SEC_TABLE) を使用します。

このセクションでは、グループ セキュリティの概要と以下の方法について説明します。

- デフォルト コンポーネント アクセスの設定
- グループ別セキュリティの設定
- ユーザー別セキュリティの設定

グループ セキュリティについて

グループは、必要に応じて、異なる会社や異なる部門にわたって設定できるため、データ権限セキュリティとは別に独自のセキュリティ構造を持っています。グループ セキュリティは、データ権限セキュリティに優先されます。たとえば、通常は部門 10100 にアクセスできないが、部門 10100 の従業員を含むグループにはアクセスできるユーザーの場合、その部門に所属するメンバーも含めグループ メンバー全員を参照することができます。したがって、グループ設定時には、セキュリティは考慮すべき重要な要素になります。

注: ユーザー プロファイルには、グループへのセキュリティ アクセスを設定するため、関連するメンバーを設定する必要があります (関連するメンバーの設定されていないユーザー ID は一覧表示されません)。これにより、確実にセキュリティがメンバーに割り当てられ、メンバーごとにグループを含むアクティビティについて追跡できるようになります。メンバーに対するユーザー プロファイルの割り当ては、[PeopleTools] の “セキュリティ” のユーザー プロファイル コンポーネントで行います。

グループ セキュリティの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
グループ セキュリティ	GB_GROUP_DFT_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループ セキュリティ デフォルト]	デフォルトコンポーネントアクセスを設定します。 グループビルド－グループ定義コンポーネントで作成したグループを使用または参照できるコンポーネントを指定します。
グループ別セキュリティ	GB_GRP_SEC_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループ別セキュリティ]	グループ別にセキュリティを設定します。選択したグループ ID へのアクセス権を持つユーザーを指定し、このグループでユーザーがアクセスできるコンポーネントを指定します。
ユーザー別セキュリティ	GB_OPR_SEC_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[ユーザー別セキュリティ]	ユーザー別にセキュリティを設定します。選択したユーザーがアクセスできるグループを指定し、このグループでユーザーがアクセスできるコンポーネントを指定します。

デフォルト コンポーネント アクセスの設定

グループ セキュリティ ページにアクセスします。

グループ セキュリティ

デフォルト コンポーネント

検索 最初 1-167/167 最後

コンポーネント名			
BUDGET_COMPARE_INQ		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
COMP_RATECD_TBL		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
CO_DPK_CATEGORY		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
CO_DPK_SUPPLIER		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
CO_ESV_EXTRACT		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
CO_ESV_SUPPLIER		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
CREATE_USERS		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
EE_NO_CURR_RVW_INQ		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
EE_REVIEW_BY_GROUP		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
EE_REVW_RESLT_INQ		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
EP_DESIRE_DIST		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
EP_DISTRIB_SUM		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	
EP_LATE_APPR		<input checked="" type="checkbox"/> システム データ	

グループ セキュリティ ページ

[コンポーネント名]

これらのフィールドには、グループを参照する PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の標準コンポーネントが自動的に入力されます。

コンポーネントは、以下のいずれかの方法でグループを参照できます。

- グループ ID を入力する必要のあるフィールドがページに表示される。
- 特定グループに属するメンバーのリストがページに表示される。

特定のグループまたはユーザーに対してグループ セキュリティを定義するときに、このデフォルト リストをグループ別セキュリティ ページおよびユーザー別セキュリティ ページにインポートできます。その後、特定のコンポーネントを削除して、グループまたはユーザーからアクセスできないようにします。

特定のコンポーネントがグループ別セキュリティ ページまたはユーザー別セキュリティ ページに表示されないようにするには、このリストからそのコンポーネント名を削除します。

[システム データ]

コンポーネントが PeopleSoft からシステム データとして配布された標準コンポーネントか、インストール時にカスタマイズして作成されたコンポーネントのどちらであるかを表示します。データがシステムにより提供される場合は、このチェック ボックスはオンになり、カスタム コンポーネントの場合はオフになります。このフィールドを変更することはできません。

グループ別セキュリティの設定

グループ別セキュリティ ページにアクセスします。

グループ別セキュリティ ページ

[有効日]

このセキュリティ設定が有効になる日付です。デフォルトでは今日の日付になります。別の日付でセキュリティアクセスを与えるには、日付を変更します。

[ユーザー ID]

グループ アクセス権限を設定または変更するユーザーの ID を入力します。



従業員の従業員 ID はわかっているが、対応するユーザー ID が不明なときに、この [従業員 ID 取得] ボタンをクリックして従業員のユーザー ID を検索します。ボタンをクリックすると、“ユーザー ID の検索” ページが表示されます。従業員 ID を入力して [OK] をクリックし、その従業員のユーザー ID がユーザー リストになれば、追加するように指定します。

従業員 ID が不明な場合、その ID を検索するには、[従業員 ID 検索] アイコン（虫眼鏡ボタン）をクリックします。“従業員 ID の検索” ページが表示されるので、目的の従業員 ID を検索します。

[ステータス]

このユーザーにこのグループへのアクセス権限を与える場合は [アクティブ] を、与えない場合は [非アクティブ] を選択します。

[コンポーネント名]

このグループに対するユーザーのセキュリティアクセスに含めるコンポーネントを選択します。有効な値は、グループ セキュリティ ページに表示されるデフォルト コンポーネントになります。

[デフォルト]

このボタンをクリックすると、このユーザーはグループ セキュリティ ページに表示される全てのデフォルト コンポーネントから現在のグループにアクセスできるようになります。このページにはデフォルト コンポーネントが表示されます。このグループの特定のユーザーにアクセス権を付与したくない場合は、そのコンポーネントを削除できます。

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「デフォルトコンポーネントアクセスの設定」、429ページ

ユーザー別セキュリティの設定

ユーザー別セキュリティ ページにアクセスします。

ユーザー別セキュリティ ページ

- [有効日]** このセキュリティ設定が有効になる日付です。デフォルトでは今日の日付になります。別の日付でセキュリティ アクセスを与えるには、日付を変更します。
- [グループ ID]** このユーザーのアクセス制御対象となるグループの ID を入力します。
- [ステータス]** このユーザーにこのグループへのアクセス権限を与える場合は [アクティブ] を、与えない場合は [非アクティブ] を選択します。
- [コンポーネント名]** このグループに対するユーザーのセキュリティ アクセスに含めるコンポーネントを選択します。有効な値は、グループ セキュリティ ページに表示されるデフォルト コンポーネントになります。
- [デフォルト]** このボタンをクリックすると、このユーザーはグループ セキュリティ ページに表示される全てのデフォルト コンポーネントから、指定したグループにアクセスできるようになります。このページにはデフォルト コンポーネントが表示されます。このグループの特定のユーザーにアクセス権を付与したくない場合は、そのコンポーネントを削除できます。

参照: 第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「デフォルトコンポーネントアクセスの設定」、429ページ

PeopleSoft の各アプリケーションでのグループの絞り込み

グループ定義を作成したら、グループ メンバーをアプリケーション レベルで絞り込みます。

グループの絞り込みには、以下の条件を指定できます。

- 時点

一部のプロセスでは、有効日の時点で処理対象のグループ メンバーのみが選択されます。この場合、全ての職務履歴行でグループが作成されると、有効日の時点のデータのみが選択されます。

- 期間

一部のプロセスでは、指定した開始日と終了日の範囲内で職務データを持つグループ メンバーが選択されます。

関連項目:

付録 A、「グループビルドの導入 (開発者向け)」、「グループビルド機能を導入したアプリケーション プログラムまたはバッチ プログラムの作成」、793 ページ

グループ結果とレポートの表示

このセクションでは、割当先グループ リストの概要と複合グループ結果を表示する方法について説明します。

グループのメンバー資格について

グループビルド - グループ定義コンポーネントでグループを定義する際に、グループのメンバー資格に期限を設定しないため、グループによってはメンバーのリストが長大になります。このように扱いにくくなる可能性のあるグループを管理しやすくするために、グループ メンバーを照会するためのページとレポートが用意されています。

関連項目:

第 19 章、「グループ定義の設定と使い方」、「グループ結果とレポートの表示」、433 ページ

共通フィールド

グループ ID

メンバーを表示するグループの ID を入力します。

指定日

レポートには、現在の日付または [絞り日] フィールドに指定した日付の時点で、そのグループに属しているメンバーが出力されます。

絞り日

グループ定義に有効日が付いたレコードが含まれている場合、実行するレコードの日付を入力します。たとえば、1990/1/1 という有効日を持つグループを実行する場合に、1998/2/15 時点でそのグループにある 1990/1/1 の有効日が付いた行のみを実行するとします。その場合には、指定日に 1990/1/1、絞り日に 1998/2/15 をそれぞれ選択します。

このフィールドを空白のままにしておくと、現在の日付でグループが実行されます。

グループ結果とレポートの表示に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[結果サマリ]	RSLT_SMRY_PNL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[複合グループ結果サマリ]	グループビルド－グループ定義コンポーネントで作成した複合グループのステータスを表示します。 あらかじめバックグラウンド処理を実行してグループを作成しておく必要があります。
[グループ重複]	RUNCTL_GBP001	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループ重複]	重複グループメンバーレポート (GBP001) を実行します。このレポートには、複数のグループに所属する従業員が出力されます。
[グループメンバーリスト]	RUNCTL_GBP002	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループメンバーリスト]	グループメンバーリストレポート (GBP002) を実行します。このレポートには、選択したグループのメンバーが出力されます。

複合グループ結果の表示

結果サマリ ページにアクセスします。

“グループビルド－グループ定義”のグループプロファイルページの[複合グループ－バッチ処理]チェックボックスをオンにすると、どのグループでも複合グループに指定できます。複合グループはバックグラウンド処理で作成され、処理が完了するとユーザーに通知されます。

グループ結果の消去

このセクションでは、グループ結果の概要と以下の作業方法について説明します。

- 使用可能結果の消去
- 使用不可結果の消去

グループ結果について

グループを作成したり実行するたびに、その結果がグループ結果テーブルに保存されます。次に同じグループを実行するときには、グループを前回実行したときからグループの定義と日付パラメータが変わっていないかどうかの確認が行われます。変更がある場合、グループ結果テーブルから前回の結果が削除され、新しい結果が保存されます。

結果の消去に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[グループ結果消去]	RUNCTL_GBP004	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループ結果消去]	グループ結果テーブルから前バージョンのグループ結果を消去します。
[使用不可結果消去]	RUNCTL_GBP005	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[使用不可グループ結果の消去]	グループ結果テーブルから全てのグループ結果を消去します。 このページを使用する前に、結果を消去するグループを保存しておく必要があります。

使用可能結果の消去

“グループ結果消去” ページにアクセスします。

グループ結果消去プロセスにより、使用可能グループ、つまりグループ結果テーブルに保存されている結果が現在のグループ定義と同期されていて、今現在のシステムによる検索対象となっているグループが削除されます。

[グループ ID] 結果を消去するグループの ID を入力します。グループ ビルドの結果テーブル (GB_GRP_RES_TBL) から結果が削除されます。

使用不可結果の消去

“使用不可結果消去” ページにアクセスします。

使用不可グループ結果の消去プロセスでは、使用不可グループ、つまり作成時の基準となったグループ定義が現在のものとは異なり、グループ結果テーブルに保存されている結果が現在のグループ定義と一致しないグループが処理されます。以下のいずれかが変更された場合、グループ結果は使用不可となります。

- 開発者クエリー定義
- グループ結果が保存されているグループ結果テーブル
- グループ定義
- ユーザー クエリー定義

第 20 章

HRMS システムの管理

この章では、以下の方法について説明します。

- ポータル ナビゲーションの分析
- ID の削除の制限
- ヒューマン リソース管理データのリフレッシュと検証

ポータル ナビゲーションの分析

ポータル ナビゲーションを分析するには、ポータル分析コンポーネント (RUNCTL_PORTAL) を使用します。

このセクションでは、HRMS ポータル ナビゲーションの分析方法について説明します。

ポータル ナビゲーションの分析に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[ポータル分析]	RUNCTL_PORTAL	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[ポータル分析]、[ポータル分析]	ユーザー、ロール、権限リストについて、ポータルナビゲーション構造を分析します。

ポータル ナビゲーションの分析

ポータル分析ページにアクセスします。

ポータル分析

ラン コントロール ID: PS

[レポート マネージャ](#)
[プロセス モニター](#)

実行

ファイル名:

REGISTRY.TXT

ポータル名:

EMPLOYEE

🔍

コンテンツ プロバイダ名:

HRMS

🔍

プロセス結果:

ポータル ナビゲーション ハードコピー

▼

ポータル オブジェクト名

ポータル オブジェクト名:

ACL_PURGE_PW_RUN_GBL

🔍

表示レベル:

☐

☐ オブジェクト名を表示

☐ メニュー コンポーネント マーケットを表示

☐ 非表示オブジェクトを無視

セキュリティ適用基準

☒ ユーザー ID

☐ ロール

☐ 権限リスト

ユーザー ID:

PS

🔍

ポータル分析ページ

[ファイル名]

プロセスによって、ここに入力した名称でファイルが作成され、ポータル分析の分析内容が記録されます。このファイルは、プロセスによりレポートリポジトリに配信されます。

[ポータル名]

分析するポータルの名前を入力します。

[コンテンツ プロバイダ名]

HRMS ポータル ナビゲーションを分析するには、[コンテンツ プロバイダ名] フィールドで HRMS を選択します。

[プロセス結果]

プロセス結果に以下のどちらかのオプションを選択します。

- [ポータル/メニュー パス]

ポータルとメニュー パスの直線リストが作成されます。このプロセス結果では、ページの他の値は使用されません。このため、このオプションを選択すると、これらの値の入力フィールドが非表示になります。

- [ポータル ナビゲーション ハードコピー]

このプロセス結果ではさまざまなオプションを選択する必要があり、より階層化されたナビゲーション表示が作成されます。

[ポータル オブジェクト名]

ポータル オブジェクト名を選択します。

[表示レベル]

出力するポータル レベルの数を入力します。全てのレベルを出力する場合は、空白にします。

[オブジェクト名を表示]

このチェック ボックスをオンにすると、コンテンツ参照またはフォルダのオブジェクト名が表示されます。

このチェック ボックスをオフにすると、ラベルのみが表示されます。

[メニュー コンポーネント マーケットを表示] このチェック ボックスをオンにすると、コンテンツ参照のメニュー、コンポーネント、およびマーケット情報が表示されます。

[非表示オブジェクトを無視] このチェック ボックスをオンにすると、非表示オブジェクトは含まれません。このチェック ボックスをオフにすると、非表示オブジェクトのオブジェクト名の前に "hidden" というテキストが表示され、非表示オブジェクトであることが示されます。

[セキュリティ適用基準]

ユーザー ID、ロール、または 権限リストに割り当てられたセキュリティ アクセスについて、ポータル ナビゲーションを分析します。[ユーザー ID]、[ロール]、[権限リスト] のいずれかを選択します。

ID の削除の制限

ID の削除を制限するには、ID 削除コントロール コンポーネント (ID_DEL_PRVNT_TABLE) を使用します。

このセクションでは、重要なレコードから ID が削除されないようにする方法について説明します。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「個人情報と職務情報の更新」、「ID の変更と削除」

ID の削除を制限するのに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[ID 削除コントロール]	ID_DEL_PRVNT_TABLE	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[データベース処理]、[ID 削除コントロール]、[ID 削除コントロール]	ID の削除処理や変更時に、ID を削除すべきでないレコードを入力します。これにより、情報が確実に履歴目的で保存されます。

ヒューマン リソース管理データのリフレッシュと検証

ヒューマン リソース管理データをリフレッシュして検証するには、「従業員テーブルのリフレッシュ」コンポーネント (RUN_PER099)、「個人情報の設定」コンポーネント (PERSON_DT_SETUP)、「個人データのリフレッシュ」コンポーネント (RUN_PERS_REFRESH)、「個人データの更新 - 将来日付」コンポーネント (RUN_PERSDATA_FUT)、「氏名表示のリフレッシュ」コンポーネント (NAME_DISPLAY_RC)、および「コア HR データ整合性の検証」コンポーネント (RUN_PER900) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- EMPLOYEES (従業員) テーブルのリフレッシュ
- 個人情報コンポーネントのリフレッシュ オプションの選択
- PS_PERSONAL_DATA (個人データ) テーブルのリフレッシュ
- 将来日付データを使用した PS_PERSONAL_DATA (個人データ) テーブルのリフレッシュ

- 氏名表示のリフレッシュ
- ヒューマン リソース管理データの整合性の検証

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「個人情報と職務情報の更新」、「レポート作成のためのテーブルのリフレッシュ」

ヒューマン リソース管理データのリフレッシュと検証に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[パラメータ]	RUNCTL_ASOF_DATE	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[データベース処理]、[従業員テーブルのリフレッシュ]、[パラメータ]	PS_EMPLOYEES スナップショットテーブルが、指定日付の時点でリフレッシュされます。
[個人情報の設定]	PERSON_DT_SETUP	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[データベース処理]、[個人情報の設定]、[個人情報の設定]	個人情報コンポーネント (PERSONAL_DATA) のリフレッシュスナップショットに含めるデータを選択します。選択するオプションが少ないほど、テーブルをリフレッシュする時間が速くなります。この選択は、HRMS のインストール時に行う必要があります。 PeopleSoft では、従業員 ID と氏名データのみが使用されます。アドホックレポート要件とクエリ要件に合わせる必要のあるオプションを選択します。
[個人データのリフレッシュ]	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[データベース処理]、[個人データのリフレッシュ]、[個人データのリフレッシュ]	個人情報コンポーネントがリフレッシュされます。“個人データのリフレッシュ”コンポーネント (RUN_PERS_REFRESH) により、“個人情報の設定”ページで選択したデータタイプがロードされます。
[個人データの更新]	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[データベース処理]、[個人データの更新 - 将来日付]、[個人データの更新]	このプロセスを深夜 0 時過ぎに実行して、個人情報コンポーネントを更新します。日付が変わり、将来日付のデータが現在日付のデータとなるため、データが更新されます。 “個人データの更新 - 将来日付”プロセスを使用すると、HR_PERSDATA アプリケーションエンジン プログラムが実行されます。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[氏名表示のリフレッシュ]	NAME_DISPLAY_RC	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[データベース処理]、[氏名表示のリフレッシュ]、[氏名表示のリフレッシュ]	NAME_DISPLAY フィールドと NAME_FORMAL フィールドに関して全てのレコードがリフレッシュされ、これらのフィールドの PeopleCode 定義に対して行われた変更内容が反映されます。レコードを全ての氏名フォーマットタイプを対象に更新するか、1つの氏名フォーマットタイプを対象に更新するかを選択できます。
[データ整合性の検証]	HRAUDIT	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[データベース処理]、[コア HR データ整合性の検証]、[データ整合性の検証]	コアヒューマンリソース管理データの整合性に関する検証を実行します。

従業員テーブルのリフレッシュ

パラメータ ページにアクセスします。

個人情報コンポーネントに対するリフレッシュ オプションの選択

“個人情報の設定” ページにアクセスします。

個人情報の設定

住所タイプ*:

自宅住所

その他の住所タイプ*:

郵送先住所

☒ インストール対象の国別機能を含む
☒ 主電話番号データを含む
☒ 喫煙者データを含む
☒ Campus Solutions データを含む
☒ 米国連邦データを含む

“個人情報の設定” ページ

[住所タイプ] リフレッシュ対象の住所タイプを選択します。

[その他の住所タイプ] リフレッシュ対象の二次住所タイプを選択します。

[インストール対象の国別機能を含む]	このチェック ボックスをオンにすると、“インストール テーブル” の国別指定ページでインストールした各国専用のグループ ボックスの情報が含まれます。
[主電話番号データを含む]	このチェック ボックスをオンにすると、PERSONAL_PHONE (個人データ - 電話番号) レコードの情報が含まれます。
[喫煙者データを含む]	このチェック ボックスをオンにすると、PERS_SMOKER (喫煙者履歴) レコードの情報が含まれます。
[Campus Solutions データを含む]	このチェック ボックスをオンにすると、PERSON_SA レコードの情報が含まれます。
[米国連邦データを含む]	このチェック ボックスをオンにすると、PERS_DATA_USF (有効日付き個人データの拡張 - USF 用) レコードの情報が含まれます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理での個人情報の追加」、「個人情報の追加」

個人データ テーブルのリフレッシュ

“個人データのリフレッシュ” ページにアクセスします。

将来日付データを使用した個人データ テーブルのリフレッシュ

“個人データの更新” ページにアクセスします。

氏名表示のリフレッシュ

“氏名表示のリフレッシュ” ページにアクセスします。

氏名表示のリフレッシュ

ラン コントロール ID: retro

[レポート マネージャ](#)
[プロセス モニター](#)

実行

このプロセスは、NAME_DISPLAY と NAME_FORMAL のフィールド定義の変更を反映するために、これらのフィールドを持つレコードを全て更新します。フィールド定義は、PeopleCode 内にある関数 Format_display_name の NAMEGBL_SBR.COUNTRY_NM_FORMAT.SavePreChange により行われます。全ての氏名フォーマット タイプを対象にレコードを更新することも、一部の氏名フォーマット タイプを選んでレコードを更新することもできます。

☒ 氏名フォーマットを全て更新

更新するレコード

☒ NAMES レコードを更新
☒ 扶養家族を更新
☒ HS 非従業員を更新
☒ フランス公的機関関連を更新
☒ 米国連邦政府関連の氏名を更新

“氏名表示のリフレッシュ” ページ

氏名フィールド フォーマットを更新したいレコードを選択します。

ヒューマン リソース管理データの整合性の検証

“データ整合性の検証” ページにアクセスします。

データ整合性の検証

ラン コントロール ID: audit

[レポート マネージャ](#)
[プロセス モニター](#)

プロセス リクエスト

言語コード: 英語

HR データ整合性の検証

☒ PERS_DATA_EFFDT データの検証
☒ EMPLOYMENT データの検証
☒ JOB データの検証
☒ JOB_JR データの検証

☒ NAME データの検証
☒ 自宅住所データの検証
☒ 障害者データの検証
☒ 民族データの検証

“データ整合性の検証” ページ

整合性について検証する HR テーブルを選択します。

アクセス/更新テーブルの分析レポートの使い方

このセクションでは、アクセス/更新テーブルの分析レポートについて説明します。

アクセス/更新テーブルの分析レポート ユーティリティについて

アクセス/更新テーブルの分析レポートでは、以下の処理を行います。

- 以下の PeopleSoft アプリケーションの分析
 - SQR レポート
 - COBOL プログラム
 - アプリケーション エンジン プログラム
 - PS クエリー ビュー
- アプリケーション内の SQL ステートメントで参照されるレコード名のレポート
- 参照したレコードがどのように処理されたか (SELECT、UPDATE、DELETE など) のレポート

レポートの情報は以下の目的に使用します。

- プログラムの機能とデータの管理方法の理解
- 提案されているカスタマイズの影響の評価
- プログラムの実行に必要な基本的なデータベース権限の設定
- 特定のレコードを使用または変更する全てのバッチ プロセスの特定

アクセス/更新テーブルの分析レポートのトラブルシューティング

プログラミング環境には柔軟性があり、PeopleTools で利用可能なメタ SQL のセットは非常に多いため、アクセス/更新テーブルの分析レポートで作成されるテーブル リストが不完全になる場合があります。このリストは以下の場合に不完全になります。

- SQR で動的な代替テーブルを使用できる場合
アクセス/更新テーブルの分析レポートでは、代替可能なテーブルのセットを完全には認識できないため、この種類の SQR がある場合は条件をレポートします。
- SQL ステートメントで使用可能で、実行時に SQR で変換可能な文字列変数内に、SQL 句の構文が SQR で組み込まれる場合
アクセス/更新テーブルの分析レポートでは、このスタイルのコーディングを検出できませんが、このような種類の SQL 句にあるテーブル参照は多くありません。
- (#INCLUDE) SQC ファイルを含む構文で SQR がライブラリを参照する場合
含まれるモジュールが汎用性の高いライブラリで、汎用のルーチンが多く含まれる場合は、参照されるテーブルが実際の数より多く表示されることがあります。
- 他のモジュールの (CALL ... USING) ルーチンを呼び出す構文で COBOL プログラムがライブラリを参照する場合

呼び出されるモジュールが汎用性の高いライブラリで、汎用のルーチンが多く含まれる場合は、参照されるテーブルが実際の数より多く表示されることがあります。

- プラットフォーム固有の手続き型ロジック (Microsoft SQL Server の “Transact-SQL” や Oracle の “SQL-Plus” など) を持つメタ SQL 句 %Execute() がアプリケーション エンジン プログラムに含まれる場合

このようなメタ SQL 句が使用されている場合、アクセス/更新テーブルの分析レポートでは未分析としてレポートされます。

- アプリケーション エンジン プログラムで PeopleCode ステップが使用されている場合

PeopleCode が使用されている場合、アクセス/更新テーブルの分析では、SQL ステートメントの有無に関係なく未分析としてレポートされます。

- 動的なオブジェクト参照を含むメタ SQL のフォームがアプリケーション エンジン プログラムに含まれる場合

アクセス/更新テーブルの分析レポートでは、代替可能なテーブルのセットを完全には認識できないため、この種類のメタ SQL がある場合は条件をレポートします。

アクセス/更新テーブルの分析レポートの実行に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
アクセス/更新テーブル	TAU_RUN_CONTROL	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[アクセス/更新テーブルの分析]、[アクセス/更新テーブル]	“アクセス/更新テーブル” ページを使用して、アクセス/更新テーブルの分析レポートを実行します。

アクセス/更新テーブルの分析レポートの実行

“アクセス/更新テーブル” ページにアクセスします。

アクセス/更新テーブル

ラン コントロール ID: PS

レポート マネージャ

プロセス モニター

実行

言語コード:

日本語

*アプリケーション タイプ:

SQR レポート

製品:

HR コア

分析アプリケーション

アプリケーション名:

P

(アプリケーション名、またはその一部を入力)

アプリケーション名を入力しない場合は、以下のリストでアプリケーションを指定してください。

アプリケーションの選択解除

使用可能アプリケーションのリフレッシュ

選択アプリケーション

PER510

PER900

+

最初

1-2/2

最後

<< 追加 <<

使用可能アプリケーション

☐ PER506

☐ PER510

☐ PER900

検索

全件表示

最初

1-3/3

最後

☐ PeopleTools テーブルを含む

Tools プログラムの場所:

“アクセス/更新テーブル” ページ

[アプリケーション タイプ] レポートで分析するアプリケーションのタイプを選択します。以下のオプションから選択します。

- [アプリケーション エンジン プログラム]
- [SQR レポート]
- [COBOL プログラム]
- [クエリー]

[製品] 分析を特定の製品のアプリケーションに制限する場合は、ここで選択します。

[アプリケーション名] 分析するアプリケーションの名前の一部または全部を入力します。“?”を入力すると、製品内の全てのアプリケーションがレポート対象になります。

注: アプリケーションのタイプによっては、製品内のアプリケーション数が 1,000 を超える場合もあります。

レポートを実行するには、このページに入力した情報だけを使用する方法と、入力した値を検索条件にして、[使用可能アプリケーション] グループボックスと[選択アプリケーション] グループボックスを使用してアプリケーションのリストを作成する方法があります。

<p>[使用可能アプリケーションのリフレッシュ]、[使用可能アプリケーション]</p>	<p>たとえば、[アプリケーション タイプ] フィールドで [SQR レポート]、[製品] フィールドで [ヒューマン リソース管理] を選択し、[アプリケーション名] フィールドに "R" を入力してユーティリティを実行すると、REG001FR、REG002FR、REG003FR のレポートが分析されます。検索を絞り込むには、[使用可能アプリケーションのリフレッシュ] ボタンをクリックし、分析するレポートを 3 つのレポートから選択して、[選択アプリケーション] リストに追加します。</p> <p>[使用可能アプリケーションのリフレッシュ] をクリックすると、[アプリケーション名] フィールドに入力した検索条件に一致するアプリケーションが [使用可能アプリケーション] グループ ボックスに表示されます。分析対象のアプリケーションを選択します。</p>
	<p>注: 1 回のみの変換ルーチンやインストール中に使用されるシステム設定ユーティリティなど、アプリケーションの数が少ない場合は、通常のラン コントロール ページには関連付けられず、[使用可能アプリケーション] リストには表示されません。このようなアプリケーションは、挿入ボタンをクリックして [選択アプリケーション] リストにアプリケーション名を入力します。</p>
<p>[追加]</p>	<p>[追加] をクリックすると、[使用可能アプリケーション] リストで選択したアプリケーションが [選択アプリケーション] リストに追加されます。</p> <p>[選択アプリケーション] リストにアプリケーションを追加したら、[アプリケーション名] フィールドに新しい検索条件を入力して、[使用可能アプリケーション] リストをリフレッシュできます。</p>
<p>[アプリケーションの選択解除]、[選択アプリケーション]</p>	<p>レポートでは、[選択アプリケーション] リストに含まれる全てのアプリケーションが分析されます。アプリケーションを追加したり削除する場合は、挿入アイコンおよび削除アイコンをクリックします。</p> <p>[アプリケーションの選択解除] ボタンをクリックすると、分析対象に選択したアプリケーションのリストがクリアされます。</p>
<p>[PeopleTools テーブルを含む]</p>	<p>分析対象に PeopleTools テーブルを含める場合は、このチェック ボックスをオンにします。PeopleTools テーブルでは、全ての PeopleSoft オブジェクトを定義し、関連する言語の制御、通貨換算、プロセス スケジューラ アクティビティなどのシステム動作を管理します。</p>
<p>[ソース コードの場所]</p>	<p>COBOL プログラムを分析する場合は、サーバー上の COBOL ソース コードの場所を示すパスを入力します。</p> <p>注: このフィールドは、COBOL プログラムを分析対象として選択した場合にだけ表示されます。</p>
<p>[Tools プログラムの場所]</p>	<p>SQR プログラムを分析対象にして、PeopleTools テーブルを除外する場合は、サーバー上の PeopleTools SQR コンポーネントの場所を示すパスを入力します。</p> <p>注: このフィールドは、SQR レポートを分析対象として選択した場合にだけ表示されます。</p>

コア コンポーネント インターフェイスの呼出ユーティリティを使ったコンポーネント インターフェイスのテスト

このセクションでは、コンポーネント インターフェイスをテストする方法について説明します。

コア コンポーネント インターフェイスの呼出ユーティリティを使ったコンポーネント インターフェイスのテストに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
コア CI 呼出	RUNCTL_CCI	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[コアコンポーネントインターフェイスの呼出]、[コア CI 呼出]	このページでは、サンプルデータを使用してコンポーネントインターフェイスを呼び出し、適切に実行するかどうかをテストします。
エラー ログ	RUNCTL_CCI2	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[ユーティリティ]、[コアコンポーネントインターフェイスの呼出]、[エラー ログ]	コンポーネントインターフェイスの呼び出し後にエラーが発生した場合は、このページで確認します。

コンポーネント インターフェイスのテスト

コア CI 呼出ページにアクセスします。

コア CI 呼出

エラー ログ

ユーザー ID: PS

ラン コントロール ID: PS

CI アクセス情報

コンポーネント インターフェイス名:

呼出 ID

CI アクセス モード:

☐ ログ ファイル 書込

コンポーネント インターフェイス アクセス キー

カスタマイズ

検索

最初

1/1

最後

ソート基準	プロパティ	値
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

実行する処理

検索

全件表示

最初

1/1

最後

連番:

処理:

☐ 繰越

親コレクション名:

収集キー

カスタマイズ

検索

最初

1/1

最後

ソート基準	プロパティ	値
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

プロパティと値の組合せ

カスタマイズ

検索

最初

1/1

最後

ソート基準	プロパティ	値
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

コア CI 呼出ページ

[CI アクセス情報]**[コンポーネント インターフェイス名]**

テストするコンポーネント インターフェイスの名前を選択します。

[呼出 ID]

必要な情報を全て入力したら、[呼出 ID] をクリックしてコンポーネント インターフェイスを呼び出し、このページで入力した情報を使用してテストします。

[CI アクセス モード]

以下のアクセス モードから 1 つ選択します。

- [作成]: [コンポーネント インターフェイス アクセス キー] グリッドに入力したキー値を使用して、コンポーネントに新規データ行を作成します。
- [検索]: [コンポーネント インターフェイス アクセス キー] グリッドに入力した検索条件に一致するデータ行のリストを検索します。
- [取得]: [コンポーネント インターフェイス アクセス キー] グリッドに入力した検索条件に一致するデータ行を 1 行検索します。

[ログ ファイル書込]

コンポーネント インターフェイス テストのログ ファイルを作成する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

[ソート基準]、[キー プロパティ]、[値]

コンポーネント インターフェイスのキー プロパティは、基になるコンポーネントの検索レコードの検索キーになります。検索で使用するキー フィールドを [キー プロパティ] フィールドで選択し、検索に使用するフィールドの値を [値] フィールドに入力します。

複数のキー フィールドで検索する場合は、検索結果のソート基準を指定します。

“作成” アクション モードを使用してコンポーネント インターフェイスをテストする場合は、全てのキー プロパティを使用します。

[実行する処理]**[連番]**

コンポーネント インターフェイスを使用してこのアクションを実行する順番を指定します。

[処理]

コンポーネント インターフェイスを使用して呼び出すアクションを選択します。

- [削除]: このグループ ボックスに入力した値に一致するデータ行を削除します。
- [取得]: このグループ ボックスに入力した値に一致するデータ行を取得します。
- [挿入]: このグループ ボックスに入力した値を使用して新規データ行を挿入します。

たとえば、現在行の日付が 2005 年 11 月 12 日の場合、11 月の行を現在行にしたままで、有効日が 2004 年 1 月 1 日の行を入力する場合は、このオプションを選択します。

- [メソッド呼出]:

コンポーネント インターフェイスのメソッドを実行します。メソッドでは、PeopleCode などを実行できます。たとえば、給与計画では、オンラインまたはバッチ プログラムで各従業員の昇給計算を実行できます。バッチ プログラムでは、メソッド `CI_SALARY_PLAN_GRP.Methods.SalPlanGrp` が実行されます。

- [更新]: 有効日付きのコンポーネントに有効日付きの新規行を挿入するか、または有効日が設定されていないコンポーネントのデータを更新します。
- [挿入なしで更新]: 既存のデータ行を更新します。

[繰越]

コンポーネント インターフェイスを使用して挿入する行よりも日付が新しい行がコンポーネントにある場合、このチェック ボックスをオンにすると、その行が更新されます。

[親コレクション名]

データの更新に使用する (レコードに対応する) コレクションを選択します。

[ソート基準]、[キー プロパティ]、[値]

([収集キー]) スクロール用のキーフィールドまたはフィールドを選択し、アクションを実行する行の値を入力します。

[ソート基準]、[プロパティ]、[値]

([プロパティと値の組合せ]) コレクションのフィールドと、このアクションで使用するフィールド値を選択します。

第 21 章

インターフェイスの登録

この章では、HCM インターフェイス レジストリの概要と以下の方法について説明します。

- HCM インターフェイス レジストリの管理
- 新規インターフェイスの登録
- 登録済みのインターフェイスの実装
- 登録済みのインターフェイスの利用
- レジストリ フォルダ構造の管理
- サービスのテスト
- 変換マップの表示と登録
- インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピング

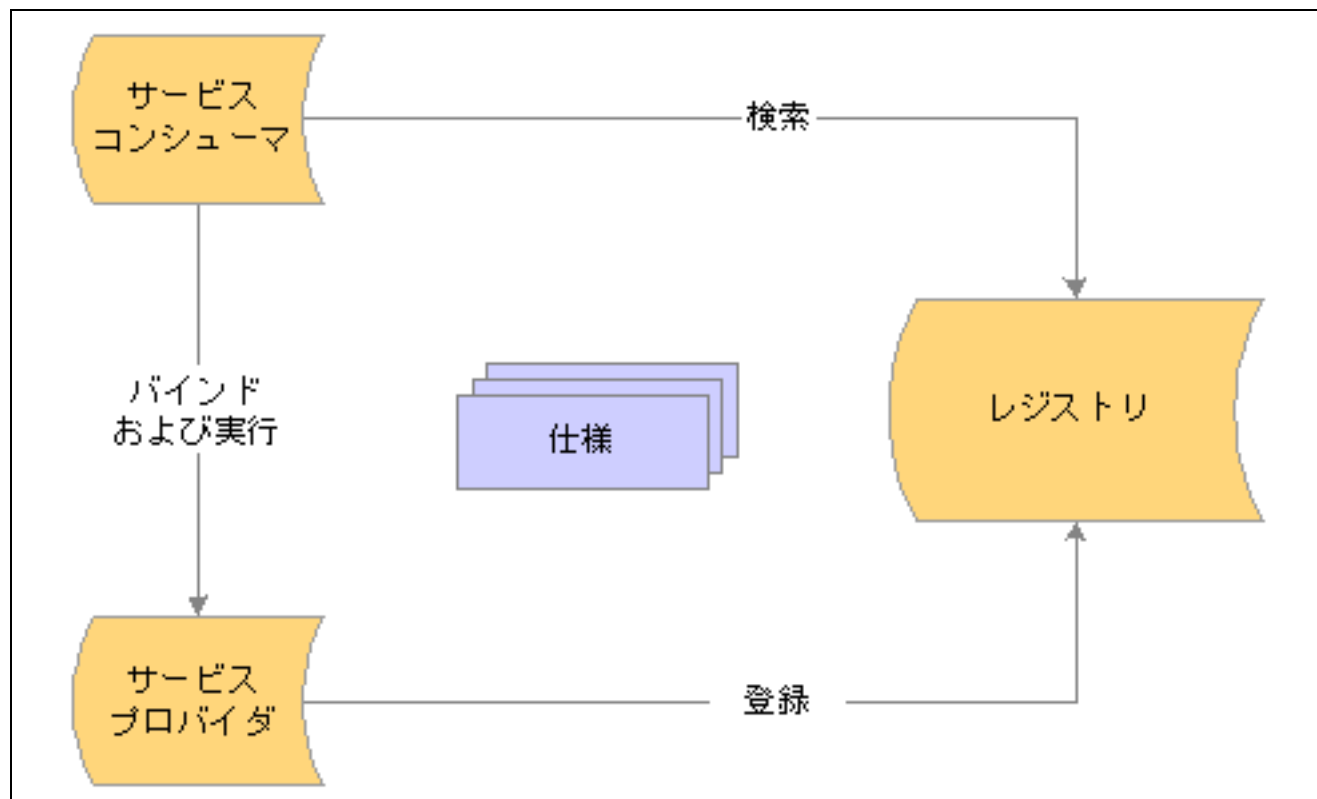
注: オラクル社の PeopleSoft Customer Connection に掲載されているレッド ペーパー『HCM Service Framework User Guide』には、HCM サービス フレームワークを利用するアプリケーションの設計、導入、管理、開発を行う開発者、設計担当者、および開発管理者のための追加の技術情報が記載されています。

関連項目:

HCM Service Framework User Guide

HCM インターフェイス レジストリについて

HCM インターフェイス レジストリには、サービス指向アーキテクチャ (SOA) で利用可能なサービスの全てのインターフェイス仕様が格納されます。HCM インターフェイス レジストリには、サービス プロバイダからの仕様が保存され、関連するサービス コンシューマに提供されます。サービス プロバイダはインターフェイスを登録します。サービス コンシューマはレジストリでインターフェイスを検索し、その情報を使用して、コンシューマとプロバイダ間で仕様をバインドして実行します。



レジストリにはサービスのバインドと実行に必要な情報が登録されており、サービス コンシューマはレジストリ内でインターフェイスを検索します。

サービス コンシューマとは、サービスを必要とするアプリケーション、サービス、あるいはその他のタイプのソフトウェア モジュールです。レジストリでサービスを検索し、通信経由でサービスにバインドしてサービス機能を実行する側になります。サービス コンシューマは、仕様に従った形式でサービスにリクエストを送信し、サービスを実行します。

サービス プロバイダは、コンシューマからのリクエストを受け取って実行するネットワーク対応のエンティティであるサービスです。サービス リクエストを実行するメインフレーム システム、コンポーネント、その他のタイプのソフトウェア システムがこれに該当します。サービス プロバイダは仕様をレジストリにパブリッシュして、サービス コンシューマがアクセスできるようにします。

インターフェイス レジストリを設定して使用するには、次の手順に従います。

1. レジストリ ウィザード ([HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[レジストリ ウィザード]) を使用して、インターフェイスを登録します。
2. プロバイダのアプリケーションにインターフェイスを実装します。
3. 登録済みのインターフェイスを呼び出せるようにコンシューマのアプリケーションを設定します。

インターフェイス仕様の設定

インターフェイス仕様では、サービスのリクエストと応答の形式など、サービスの利用側と提供側であるコンシューマとプロバイダの対話方法を指定します。HCM レジストリ には、HCM の既存のインターフェイス仕様がロードされます。レジストリに新しいインターフェイスを追加するには、最初にサービス間の仕様を定義する必要があります。

サービス間のインターフェイス仕様を定義するには、次の手順に従います。

1. インターフェイスの詳細 (署名、例外、警告など) を決定します。

2. プロバイダのオブジェクト ID でインターフェイスを登録します。
3. インターフェイスのステータスを “アクティブ” に設定します。

注: HCM レジストリのレジストリ ウィザードを使用して、インターフェイスを登録します。

インターフェイスは、以下のいずれかのカテゴリに分類されます。

- サービス
 - 同期リクエスト/応答 (サービス)
サービス インターフェイスは、手続き型の呼び出しであり、ローカルとリモートの両方が可能です。
 - 非同期パブリッシュ/サブスクライブ (イベント)
イベントは、メッセージングとインテグレーション ポイントに基づいて、通知 (アウトバウンド) または利用 (インバウンド) が可能です。
- sqlView (ビュー)
ビューは読み取り専用で SQL ベースです。
- タイプ
タイプは、サービス呼び出しで使用される複合データ タイプです。API でのサービス呼び出しには、以下のタイプがサポートされます。
 - 基本タイプ (ネイティブ PeopleCode データ タイプ)。文字列、日付、数値、ブール値、16 進数、配列などがあります。
 - 複合タイプ。複合タイプのレジストリまたは配列に定義されます。

注: サービス呼び出しでは、ネイティブで全ての基本タイプを使用できますが、複合タイプの定義とレジストリへの登録は、全て明示的に行う必要があります。

- 例外
例外とは、サービスの実行中に発生する可能性のある致命的なエラーであり、PeopleCode プログラムで特別な処理が必要になります。サービス プロバイダは、発生が想定される例外を特定して、コンシューマ側のコードで処理できるようにする必要があります。
例外を定義して、インターフェイス レジストリに登録します。

HCM インターフェイス レジストリの管理

HCM インターフェイス レジストリに登録されているインターフェイスを管理するには、サービス レジストリ コンポーネント (HMCR_IFC_REGISTRY) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- SOA インターフェイスの登録と管理
- HCM インターフェイス レジストリの使い方
- レジストリ フォルダの WSDL コードの表示
- レジストリ フォルダのオーディット結果の確認
- レジストリとインターフェイスの詳細の確認

- レジストリに登録されているインターフェイスの WSDL コードまたは XSD コードの表示
- RegistryDoc の表示

HCM インターフェイス レジストリの管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
HCM インターフェイス レジストリ	HMCR_IFC_REGISTRY	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[サービスレジストリ]、[HCM インターフェイスレジストリ]	HCM レジストリを確認して既存のインターフェイスを変更します。
<レジストリフォルダラベル>	HMCR_IFC_FLDR_ACT	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[サービスレジストリ]、[HCM インターフェイスレジストリ] インターフェイスフォルダをクリックします。	選択したインターフェイスフォルダの WSDL を生成してオーディットを実行します。
オーディット - <レジストリフォルダラベル>	HMCR_IFC_AUD_RSLT	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[サービスレジストリ]、[HCM インターフェイスレジストリ] <レジストリフォルダラベル> ページで [オーディットの実行] ボタンをクリックします。	レジストリフォルダのオーディットの結果を確認します。
インターフェイス レジストリ - 詳細	HMCR_WSDL_VIEWER, HMCR_IVW_VIEWER, HMCR_TYPE_VIEWER	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[サービスレジストリ]、[HCM インターフェイスレジストリ] インターフェイス (サービス、sqlView、タイプまたは例外) をクリックします。	選択したインターフェイスのレジストリとインターフェイスの詳細を確認します。
<レジストリエントリ名>	HMCR_WSDL_RAW_SEC	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[サービスレジストリ]、[HCM インターフェイスレジストリ] インターフェイスのサービスをクリックして、[WSDL の表示] ボタンをクリックするか、インターフェイスのタイプまたは例外をクリックして [XSD の表示] ボタンをクリックします。	レジストリに登録されているサービスの WSDL コードを表示するか、タイプまたは例外の XSD コードを表示します。

HCM インターフェイス レジストリの使い方

HCM インターフェイス レジストリ ページにアクセスします。

HCM インターフェイス レジストリ ページ (1/2)

HCM インターフェイス レジストリ ページ (2/2)

レジストリには、全てのコンテンツ オーナーとインターフェイスがツリー形式で表示されます。ツリーの詳細値は、登録済みのインターフェイスを表しています。登録済みのインターフェイスは、インターフェイスフォルダ別にグループ化されます。登録済みのインターフェイスをクリックすると、詳細ページで情報を確認できます。

[オーナー ID]	<p>オーナー ID を選択します。</p> <p>レジストリには、選択したコンテンツ オーナーに定義されている全てのインターフェイス（パブリックおよびプライベート）が表示されます。選択したオーナー以外のオーナーで定義されているパブリック インターフェイスも全て表示されます。</p>
[キャッシュのリフレッシュ]	<p>このボタンをクリックすると、レジストリの変更時にサービス、タイプ、例外、SQL ビューが保存されるキャッシュがリフレッシュされます。定義を修正、追加、削除する場合は、キャッシュをリフレッシュする必要があります。外部キャッシュのインポートが必要な場合も、キャッシュのリフレッシュが必要になります。</p>
[RegistryDoc の作成]	<p>このボタンをクリックすると、選択した HCM インターフェイス レジストリの RegistryDoc が生成されます。RegistryDoc は HTML 形式で生成され、データにアクセスするための [RegistryDoc を表示] リンクが表示されます。RegistryDoc では、レジストリを開かずにレジストリの表示やイントロスペクトが可能のため、レジストリの内容を迅速に確認できます。</p> <hr/> <p>注: RegistryDoc の生成は、PeopleTools プロセス スケジューラの設定とレポート ノードを利用します。レポート リポジトリとして機能するディレクトリは、共有モードで設定してください。</p> <hr/>
[RegistryDoc を表示]	<p>このリンクをクリックすると、生成した RegistryDoc が表示されます。新しいブラウザ ウィンドウが開き、レジストリ API の内容が HTML 形式で表示されます。</p>

レジストリの検索

以下の場合に、検索機能を使用してレジストリを検索します。

- サービス、sqlView、タイプ、例外の正確な名前やナビゲーションが不明の場合
- 特定の単語やパターンで名称を検索する場合

[名称検索]	<p>このチェック ボックスをオンにすると、[検索フィルタ] フィールドで指定した正確な単語で、レジストリに登録されているインターフェイスの名称が検索されます。</p> <p>[検索フィルタ] フィールドに単語のパターンを指定してインターフェイスの名称を検索するには、このチェック ボックスと [ワイルドカード検索] チェック ボックスをオンにします。</p>
[ワイルドカード検索]	<p>このチェック ボックスをオンにすると、[検索フィルタ] フィールドで指定した単語のパターンで、レジストリに登録されているインターフェイスが検索されます。</p> <p>[検索フィルタ] フィールドに単語のパターンを指定してインターフェイスの名称を検索するには、このチェック ボックスと [名称検索] チェック ボックスをオンにします。</p>
[検索フィルタ]	<p>レジストリに登録されているサービス、sqlView、タイプ、例外の完全一致検索を行う場合は、両方のチェック ボックスをオフにして、フィールドに値を入力します。レジストリの中から条件に一致するインターフェイスが表示されます。</p>

単語のパターンで検索するには、このフィールドに単語のパターンを入力して、[ワイルドカード検索] チェック ボックスをオンにします。入力したパターンに一致するインターフェイスが表示されます。

正確な単語で検索するには、このフィールドに単語を入力して、[名称検索] チェック ボックスをオンにします。指定した単語を含む名称のインターフェイスが表示されます。

単語のパターンで検索するには、このフィールドに単語のパターンを入力して、[名称検索] チェック ボックスと [ワイルドカード検索] チェック ボックスをオンにします。入力したパターンに一致する名称のインターフェイスが表示されます。

[検索]

このボタンをクリックすると、検索条件に一致するインターフェイスがレジストリから取得されます。

[リンク]

このリンクをクリックすると、レジストリの詳細にアクセスします。

レジストリ フォルダの WSDL コードの表示

〈レジストリ フォルダ ラベル〉 ページにアクセスします。

HR Core

WSDL の表示

```
<?xml version="1.0"?>
<wsdl:definitions targetNamespace="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/service"
xmlns:hcm="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005"
xmlns:hcmSchema="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema"
xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/"
xmlns:soapEncoding="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
xmlns:tns="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/service" xmlns:wsdl="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/"
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <wsdl:types>
    <xsd:schema targetNamespace="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema"
xmlns="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
      <xsd:complexType hcmSchema:ownerid="HCR" hcmSchema:uuid="HC_UUID_70741160817102005"
name="DepartmentIDsType">
        <xsd:sequence>
          <xsd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="1" name="departmentIDs" type="xsd:string"/>
        </xsd:sequence>
      </xsd:complexType>
      <xsd:complexType hcmSchema:ownerid="HCR" hcmSchema:uuid="HC_UUID_63830271514102005"
name="OrgAssignmentType">
        <xsd:sequence>
          <xsd:element minOccurs="1" name="EMPLID" type="xsd:string"/>
          <xsd:element minOccurs="1" name="EMPL_RCD" type="xsd:decimal"/>
          <xsd:element minOccurs="1" name="PER_ORG" type="xsd:string"/>
          <xsd:element minOccurs="1" name="ORG_INSTANCE_ERN" type="xsd:decimal"/>
          <xsd:element name="POI_TYPE" type="xsd:string"/>
        </xsd:sequence>
      </xsd:complexType>
    </xsd:schema>
  </wsdl:types>
  <wsdl:binding name="HCMService" type="tns:DepartmentIDsType">
    <soap:binding style="rpc" transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http"/>
  </wsdl:binding>
  <wsdl:port name="HCMService" binding="HCMService" address="http://localhost:8080/hcm/2005/service">
  </wsdl:port>
</wsdl:definitions>
```

オーディットの実行

戻る

〈レジストリ フォルダ ラベル〉 ページ

[WSDL の表示] グループ ボックスでは、選択したレジストリ フォルダで生成された WSDL を確認します。[オーディットの実行] ボタンをクリックすると、レジストリ フォルダのオーディットが実行されます。“オーディット - 〈レジストリ フォルダ ラベル〉” ページが表示され、レジストリ フォルダのオーディット結果を確認できます。

レジストリ フォルダのオーディット結果の確認

“オーディット - <レジストリ フォルダ ラベル>” ページにアクセスします。

オーディット - HR Core

						1 件 表示
	オブジェクト オーナー ID	インターフェイス のタイプ	クラス パス	ホスト名 ラベル	警告エラー	詳細説明
1	HR Core	サービス	HR Core.Department.Services.GetChildrenDepartmentIDs	GetChildrenDepartmentIDs	警告	1. The Service does not throw an exceptions.
2	HR Core	サービス	HR Core.Job.Services.AddAdditionalAssignment	AddAdditionalAssignment	警告	1. The Service does not throw an exceptions.
3					警告	2. Proxy path has not been set.
4	HR Core	サービス	HR Core.Job.Services.AddContingentWorkerInst	AddContingentWorkerInst	警告	1. The Service does not throw an exceptions.
5					警告	2. Proxy path has not been set.
6	HR Core	サービス	HR Core.Job.Services.AddEmploymentInstance	AddEmploymentInstance	警告	1. The Service does not throw an exceptions.

“オーディット - <レジストリ フォルダ ラベル>” ページ

レジストリとインターフェイスの詳細の確認

インターフェイス レジストリ - 詳細ページにアクセスします。

AddAdditionalAssignment

レジストリの詳細

UUID
HC_UUID_25856401612122005

場所

バージョン ステータス 範囲
1.0 使用中 パブリック

説明

@Description
This service is used to create an additional assignment for an existing person and existing organizational instance.

@Usage
This service accepts an OrganizationalAssignmentType as input. Also, there is a boolean flag.

コンシューマ コードの生成

プロバイダ コードの生成

WSDL の表示

インターフェイス レジストリ - 詳細ページ (1/3)



インターフェイス レジストリ - 詳細ページ (2/3)



インターフェイス レジストリ - 詳細ページ (3/3)

注: インターフェイス レジストリ - 詳細ページは、インターフェイスのタイプ（サービス、sqlView、タイプ、例外）によって若干異なります。

[レジストリの詳細]

[UUID]	UUID とは、レジストリ内のサービスに対するインターフェイスの固有 ID です。この ID は自動的に生成されます。
[場所]	この値は、必要に応じて自動的に表示されます。
[バージョン]	レジストリに登録されている各インターフェイスには、バージョン タイプがあります。必要に応じて、1 つのインターフェイスに複数のバージョンを割り当てることができます。
[ステータス]	レジストリに登録されているインターフェイスのステータスは、以下のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">• [リクエスト] インターフェイスがパーティによってリクエスト済みですが、実装されていません。• [使用中]

現在インターフェイスが定義中です。

- [アクティブ]

インターフェイスが使用可能な状態です。

- [非推奨]

インターフェイスは最新のバージョンで置き換えられていますが、まだサポートされています。

- [廃止]

選択したバージョンのインターフェイスは廃止されています。

注: インターフェイスのステータスは、登録されているインターフェイスのバージョン固有です。

[範囲]

このフィールドは、このバージョンのインターフェイスをどこから参照できるかを示します。

- インターフェイスが“パブリック”の場合は、どのアプリケーションでも使用できます。
- インターフェイスが“プライベート”の場合は、プロバイダ モジュール内でのみ使用可能です。

[コンシューマ コードの生成]

このボタンをクリックすると、このインターフェイスのコンシューマ スタブ コードが生成されます。このコードを使用してサービスを実装します。

参照: [第 21 章、「インターフェイスの登録」、「登録したインターフェイスの実装」、472 ページ](#)

[プロバイダ コードの生成]

このボタンをクリックすると、このインターフェイスのプロバイダ スタブ コードが生成されます。このコードを使用してサービスを実装します。

参照: [第 21 章、「インターフェイスの登録」、「登録したインターフェイスの実装」、472 ページ](#)

[WSDL の表示]

このボタンをクリックすると、レジストリに登録されているサービスの Web サービス記述言語 (WSDL) コードが生成されます。WSDL コードには、サービスの利用に必要なサービスに関する全ての詳細が記述されます。〈レジストリ エントリ名〉 ページが開き、WSDL コードを表示できます。

注: sqlView、タイプ、および例外の定義では、WSDL は表示されません。

[XSD の表示]

このボタンをクリックすると、レジストリに登録されているタイプまたは例外の XSD コードが生成されます。XSD コードには、複合タイプの利用に必要な情報である特定のタイプの定義が記述されます。〈レジストリ エントリ名〉 ページが開き、XSD コードを表示できます。

注: サービスおよび sqlView の定義では、XSD は表示されません。

[オーディットの実行]

このボタンをクリックすると、選択したレジストリ フォルダのオーディットが実行されます。オーディットにより、レジストリにエラーがないことを確認できます。また、インターフェイスの実装と仕様の間の整合性を確認することもできます。“オーディット - 〈レジストリ フォルダ ラベル〉” ページが表示され、オーディット結果を確認できます。

[インターフェイスの詳細]

インターフェイスは、XSD スキーマを使用して定義されます。スキーマは、インターフェイスのタイプ別にレジストリに保存されます。スキーマは登録時に生成されます。

注: スキーマでは、ビュー インターフェイスを実装するデータベース ビューではなく、sqlView インターフェイスの詳細を定義します。データベース ビューは、スキーマで定義したプロパティに一致する必要があります。

“サービス” タイプのインターフェイスには、“DoService” と呼ばれるオペレーションがあります。DoService は、1 つ以上の “input”、“output”、“outfault” のエレメントから構成され、各エレメントは 1 つ以上の単純タイプまたは複合タイプのいずれかで定義されます。

[例外の詳細]

サービス インターフェイスの例外の詳細と関連メッセージを確認します。

[導入]

[導入] グループ ボックスでは、このタイプまたは例外のクラスを実装する完全修飾のアプリケーションクラス パスを確認します。クラス パスには、このタイプのバージョンを示す下位パスが含まれます。レジストリに登録されているインターフェイスのバージョン属性は、このタイプ クラスのクラス パスのバージョンと一致する必要があります。

注: sqlView インターフェイスの場合、[導入] ボックスには、インターフェイス ビューを実装するデータベース ビューが表示されます。

注: 全ての例外では、PeopleTools ビルトインの例外クラスを拡張する baseException クラスを拡張する必要があります。

レジストリに登録されているインターフェイスの WSDL コードと XSD コードの表示

<レジストリ エントリ名> ページにアクセスします。

AddAdditionalAssignment

```
<?xml version="1.0"?>
<wsdl:definitions targetNamespace="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/service"
xmlns:hcm="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005"
xmlns:hcmSchema="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema"
xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/"
xmlns:soapEncoding="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
xmlns:tns="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/service"
xmlns:wsdl="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <wsdl:types>
    <xsd:schema targetNamespace="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema"
xmlns="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema"
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
      <xsd:complexType hcmSchema:ownerid="HCR"
hcmSchema:uuid="HC_UUID_63830271514102005" name="OrgAssignmentType">
        <xsd:sequence>
          <xsd:element minOccurs="1" name="EMPLID" type="xsd:string"/>
          <xsd:element minOccurs="1" name="EMPL_RCD" type="xsd:decimal"/>
          <xsd:element minOccurs="1" name="PER_ORG" type="xsd:string"/>
          <xsd:element minOccurs="1" name="ORG_INSTANCE_ERN" type="xsd:decimal"/>
          <xsd:element name="POI TYPE" type="xsd:string"/>
        </xsd:sequence>
      </xsd:complexType>
    </xsd:schema>
  </wsdl:types>
</wsdl:definitions>
```

戻る

<レジストリ エントリ名> ページ

RegistryDoc の表示

RegistryDoc を表示するには、HCM インターフェイス レジストリ ページの [Registry Doc の作成] ボタンをクリックします。RegistryDoc が生成され、[RegistryDoc を表示] リンクが表示されます。

[RegistryDoc を表示] リンクをクリックします。新しいブラウザ ウィンドウが開き、レジストリ API の内容が HTML 形式で表示されます。

The screenshot displays the RegistryDoc application interface, which is divided into three main panes:

- List:** Contains a list of root packages including [All Services Types](#), [HRMS EG](#), [HCM Profile Management](#), [HCM Service Framework](#), [HR Core Objects](#) (highlighted), [Human Resources](#), [RS Open Integration Framework](#), and [Campus Community](#).
- HR Core Objects:** Displays a list of services related to the selected root package, including [GetChildrenDepartmentIDs](#), [AddAdditionalAssignment](#), [AddContingentWorkerInst](#), [AddEmploymentInstance](#), [AddPOIInstance](#), [FindCompensation](#), [FindPOIJobData](#), [GetJobCompensation](#), [GetJobData](#), and [SetJobData](#).
- All Packages:** Displays a comprehensive list of services across all root packages, including [AddAdditionalAssignment](#), [AddContingentWorkerInst](#), [AddEmploymentInstance](#), [AddPOIInstance](#), [AddPOIType](#), [AddPerson](#), [AddPersonCS](#), [AddPersonCompetency](#), [AddPersonSimple](#), [CalcNextExamDate](#), [CalcYearsOfExperience](#), [CalendarCreate](#), [CalendarDelete](#), [CalendarSearch](#), [ChngOrgRelations](#), [DeleteAccommRequest](#), [DeleteAudiometricExam](#), [DeleteCitizenship](#), [DeleteDisabilityCHEInfo](#), [DeleteDisabilityESPInfo](#), [DeleteDisabilityFRAInfo](#), [DeleteDisabilityGERInfo](#), [DeleteDisabilityNLDInfo](#), [DeleteDisabilityNZLInfo](#), and [DeleteDriversLicenses](#).

RegistryDoc の表示

このページは 3 つのフレームで構成されます。左上のフレームには、RegistryDoc 内のルート パッケージが表示されます。左上のフレームのルート パッケージのリンクをクリックすると、選択したルート パッケージに関連する全てのサービス、sqlView、タイプ、例外のリストが表示されます。左下のフレームには、選択したルート パッケージの詳細が表示されます。右側のフレームには、全てのルート パッケージのサービス、sqlView、タイプ、例外が表示されます。

左下のフレームまたは右側のフレーム内のリンクをクリックすると、サービス、sqlView、タイプ、例外の詳細が表示されます。

AddAdditionalAssignment 1.0

[View WSDL 1.1](#)

Service description

This service is used to create an additional assignment for an existing person and existing organizational instance.

Service usage

This service accepts an `OrganizationalAssignmentType` as input. Also, there is a boolean flag, `IgnoreBlanks`, which depending on how it is set the service will act accordingly. If set to `True` then any blank values in the `OrganizationalAssignmentType` are ignored. If set to `False`, then any blank values will be treated as an attempt to blank out the existing value. This service returns the updated `OrganizationalAssignmentType` as an output.

Service properties

UUID	HC_UUID_25856401612122005	Owner Id	HR Core Objects
Path	HR Core.Job.Services.AddAdditionalAssignment		

Service attributes

Scope	Public	Status	In Work
Deployment	Local	Deployment Node	LOCAL_NODE
Implementation Path	HCR_JOB_SERVICES:Job:AddAdditionalAssignment_v1_0:implAddAdditionalAssignment		
Proxy Path			

Interface operation details

Service Operation Name DoService

Input Parameters

Name	Type
inIgnoreBlanks	boolean
inOrgAssignmentType	OrgAssignmentType

Output Parameters

Name	Type
outOrgAssignmentType	OrgAssignmentType

Method Signature

DoService(&inIgnoreBlanks As boolean, &inOrgAssignmentType As OrgAssignmentType, &outOrgAssignmentType As OrgAssignmentType)

サービス詳細の表示

サービス詳細ページの“View WSDL”（WSDL の表示）リンクをクリックすると、選択したサービスの WSDL コードが表示されます。


```

<?xml version="1.0" ?>
- <wsdl:definitions targetNamespace="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/service"
  xmlns:hcm="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005"
  xmlns:hcmSchema="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema"
  xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/"
  xmlns:soapEncoding="http://schemas.xmlsoap.org/soap/encoding/"
  xmlns:tns="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/service"
  xmlns:wsdl="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
- <wsdl:types>
- <xsd:schema targetNamespace="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema"
  xmlns="http://xmlns.oracle.com/Enterprise/HCM/2005/schema"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
- <xsd:complexType hcmSchema:ownerid="HCR"
  hcmSchema:uuid="HC_UUID_63830271514102005" name="OrgAssignmentType">
- <xsd:sequence>
  <xsd:element minOccurs="1" name="EMPLID" type="xsd:string" />
  <xsd:element minOccurs="1" name="EMPL_RCD" type="xsd:decimal" />
  <xsd:element minOccurs="1" name="PER_ORG" type="xsd:string" />
  <xsd:element minOccurs="1" name="ORG_INSTANCE_ERN" type="xsd:decimal" />
  <xsd:element name="POI_TYPE" type="xsd:string" />
  <xsd:element name="CMPNY_DT_OVR" type="xsd:string" />
  <xsd:element name="CMPNY_SENIORITY_DT" type="xsd:date" />
  <xsd:element name="SERVICE_DT_OVR" type="xsd:string" />
  <xsd:element name="SERVICE_DT" type="xsd:date" />

```

選択したサービスの WSDL コードの表示

サービスまたはタイプが別の複合タイプまたは例外を参照する場合、詳細ページのタイプ リンクをクリックすると、タイプまたは例外の詳細が表示されます。

OrgAssignmentType 1.0

Type description

-

Type usage

-

Type properties

UUID	HC_UUID_63830271514102005	Owner Id	HR Core Objects
Path	HR Core.Job.Types.OrgAssignmentType		

Type attributes

Scope	Public	Status	In Work
Implementation Path	HCR_JOB_TYPES:Job:OrgAssignmentType_v1_0:OrgAssignmentType		

Type class properties

Name	Type
EMPLID	string
EMPL_RCD	decimal
PER_ORG	string
ORG_INSTANCE_ERN	decimal
POI_TYPE	string
CMPNY_DT_OVR	string
CMPNY_SENIORITY_DT	date
SERVICE_DT_OVR	string
SERVICE_DT	date
SEN_PAY_DT_OVR	string
SENIORITY_PAY_DT	date
PROBATION_DT	date
PROF_EXPERIENCE_DT	date
LAST_VERIFICATN_DT	date
BUSINESS_TITLE	string
POSITION_PHONE	string
OWN_5PERCENT_CO	string

選択したサービスのタイプ詳細の表示

新規インターフェイスの登録

新規インターフェイスを登録するには、レジストリ ウィザード コンポーネント (HMCR_WZ_REGSRV) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- レジストリ ウィザードへのインターフェイス情報の入力
- インターフェイス仕様の入力
- インターフェイスの実装

レジストリ ウィザードを使った新規インターフェイスの登録に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
レジストリ情報	HMCR_WZ_STEP1	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[レジストリ ウィザード]、[レジストリ情報]	新規インターフェイスの情報を入力します。
インターフェイスの仕様	HMCR_WZ_STEP2	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[レジストリ ウィザード]、[インターフェイスの仕様]	新規インターフェイスの詳細を入力します。
実装	HMCR_WZ_STEP3	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[レジストリ ウィザード]、[実装]	インターフェイスを実装して、新規インターフェイスの登録を完了します。

レジストリ ウィザードへのインターフェイス情報の入力

レジストリ情報ページにアクセスします。

ステップ 1 / 3

1 2 3

続行

レジストリ情報

タイプ

タイプ

*名称

TestType

*バージョン

1.0

説明

テスト用のタイプ

*ステータス

使用中

*オブジェクト オーナー ID

ヒューマンリソース管理

*範囲

パブリック

[親フォルダの選択](#)
 ルート > HCM レジストリ > Workforce Administration > Contract > Types

レジストリ情報ページ

[タイプ]	<p>インターフェイスのタイプを選択します。</p> <hr/> <p>注: このコンポーネントのページ内容と入力する情報は、選択するインターフェイスのタイプによって異なります。</p> <hr/>
[名称]	<p>以下のガイドラインに従って、インターフェイスの内容を表す名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 語（スペースなし）。 • 大文字と小文字を混在させる。 • インターフェイスのタイプに応じて、以下の形式の 1 つを使用する。 <ul style="list-style-type: none"> 登録するインターフェイスのタイプの応じて、<名詞>Exception、<名詞>Service、または <名詞>sqlView の形式にします。 - “タイプ” インターフェイスの場合は、“<名詞>Type”。 - “サービス” インターフェイスの場合は、“<動詞><名詞>”。 - “例外” インターフェイスの場合は、“<名詞>Exception”。 - インターフェイス ビューの場合は、“<名詞><名詞>”。 <hr/> <p>注: ここで入力する名前がレジストリ ツリーに表示されるため、インターフェイスの内容を表すわかりやすい名前にします。</p> <hr/>
[バージョン]	<p>インターフェイスのバージョンを “n.n” の形式で指定します。</p> <p>1 つのインターフェイスに、複数のアクティブなバージョンを割り当てることができます。</p>
[ステータス]	<p>このバージョンのインターフェイスのステータスを選択します。有効値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [リクエスト] <p>インターフェイスがパーティによってリクエスト済みですが、実装されていません。</p> • [使用中] <p>インターフェイスが現在定義中です。</p> • [アクティブ] <p>インターフェイスを使用できる状態です。</p> • [非推奨] <p>インターフェイスは最新のバージョンで置き換えられていますが、まだサポートされています。</p> • [廃止] <p>選択したバージョンのインターフェイスは廃止されています。</p>
[オブジェクト オーナー ID]	<p>インターフェイス プロバイダを選択します。</p>
[範囲]	<p>インターフェイスの範囲を指定します。有効値は、[パブリック] (全てのアプリケーションで利用可能) または [プライベート] (プロバイダ アプリケーションでのみ利用可能) です。</p>

[親フォルダの選択] このリンクをクリックしてレジストリ フォルダ構造にアクセスし、新規インターフェイスを配置するフォルダを選択します。インターフェイスは機能別にグループ化します。

インターフェイス仕様の入力

インターフェイスの仕様ページにアクセスします。

ステップ 2/3

123

戻る

続行

インターフェイスの仕様

▼ 型のスキーマ

連番	エレメント名	*型のカテゴリ	単純型	*最小回数	*最大回数		
1	PERSID	単純	xsd:string	0	1	+	-
2	State	単純	xsd:string	0	1	+	-
3	Country	単純	xsd:string	0	1	+	-

インターフェイスの仕様ページ

注: このページの表示内容は、登録するインターフェイスのタイプによって異なります。このページでサービス インターフェイスを登録する方法については、「サービスの登録」を参照してください。

[実装からロード] 実装済みのインターフェイスに基づいてインターフェイス ビューを定義する場合は、[実装からロード] リンクをクリックしてビューを選択します。各エレメントには、ビューのレコードのフィールドがロードされます。

注: このリンクが表示されるのは、インターフェイス ビューを登録する場合のみです。

[連番] エレメントの発生順を指定します。

[エレメント名] エレメント名を入力します。エレメントとは、インターフェイスのプロパティです。エレメント名は、1 語で大文字と小文字を混在させ、自己記述的な表記にする必要があります。

注: インターフェイス ビューを実装する場合は、ビューのレコードの各フィールドに対応するように、エレメントを追加する必要があります。

注: サービス インターフェイスのエレメントは、指定した位置のパラメータを表す記述的なアイテムになります。エレメントの位置はパラメータに対応する必要がありますが、PeopleSoft フィールド名にする必要はありません。

[型のカテゴリ] エレメントのカテゴリを選択します。カテゴリでは、エレメントのデータ タイプが単純型か複合型かを指定します。単純データ タイプは、システム標準のデータ形式です。複合データ タイプは、レジストリに既に登録されている他のインターフェイス タイプを参照します。

	<hr/> 注: “例外” エレメントの場合は、常に [複合] を選択します。
	<hr/> 注: インターフェイス ビューの場合は、[単純] が選択され、それ以外は選択できません。
[単純型]	<p>エレメントが単純タイプの場合は、エレメントのシステム標準のデータ形式を選択します。有効値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • xsd:string • xsd:date • xsd:number • xsd:boolean
[複合型]	<p>エレメントが複合タイプの場合は、このエレメントで参照する登録済みのエレメントを選択します。</p> <hr/> <p>注: インターフェイスが “例外” の場合は、サービス フレームワーク フォルダから、“ExceptionType” を選択する必要があります。</p>
[最小回数]	<p>このエレメントの発生可能な最小回数を指定します。エレメントの発生が任意の場合は [0]、1 回以上発生させる必要がある場合は [1] を選択します。</p> <hr/> <p>注: “例外” エレメントの場合は、[1] を選択する必要があります。</p>
[最大回数]	<p>このエレメントの発生可能な最大回数を指定します。</p> <hr/> <p>注: “例外” エレメントの場合は、[1] を選択する必要があります。</p>

サービスの登録

サービスを登録する場合は、以下の 4 つのグループ ボックスに情報を入力します。

- [DoService リクエスト]

サービス インターフェイスが情報のリクエストに使用される場合は、このグリッドのフィールドを使用して、サービスのリクエストパラメータを定義します。
- [DoService 応答]

サービス インターフェイスが情報のリクエストの応答に使用される場合は、このグリッドのフィールドを使用して、サービスのリクエストパラメータを定義します。
- [例外]

サービス インターフェイスで定義する例外を全て表示します。選択できる例外は、レジストリに既に追加されている例外のみです。
- [警告]

サービスの実行中にログに記録される全ての警告とメッセージをコンシューマに理解できる形式で表示します。

インターフェイスの実装

実装ページにアクセスします。

実装ページ

注: このページの表示内容は、登録するインターフェイスのタイプによって異なります。このページでインターフェイス ビューを登録する方法については、「インターフェイス ビューの登録」を参照してください。

[運用]、[運用ノード]

このフィールドは、サービス インターフェイスを登録する場合にのみ表示されます。

サービスの運用場所を指定します。有効値は、[ローカル] (コンシューマと同じデータベースにある場合) または [リモート] (コンシューマのデータベースと別の場所にある場合) です。

サービスがリモートの場合は、運用ノードを選択します。

[パッケージのルート]

プロバイダのルート パッケージを選択します。ルート サフィックスは、登録するインターフェイスのタイプによって異なります。

- タイプ インターフェイスの場合は、“<オーナー ID>_TYPES”。
- 例外インターフェイスの場合は、“<オーナー ID>_EXCEPTIONS”。
- サービス インターフェイスの場合は、“<オーナー ID>_SERVICES”。

[クラス パス]

指定したタイプ クラスの適切なバージョンのクラス パスを選択します。

[実装アプリケーション クラス]

クラスを実装したら、レジストリに戻り、インターフェイスのアプリケーション クラスを選択します。最初にインターフェイスを登録するときには値を選択せず、インターフェイスを実装してから選択してください。

参照: 第 21 章、「インターフェイスの登録」、「登録したインターフェイスの実装」、472 ページ

注: サービス インターフェイスを実装する場合、このフィールドに入力するのは、サービスがローカルの場合のみです。

[クラス コードを作成]

このボタンをクリックすると、実装アプリケーション クラスの PeopleCode が生成されます。生成されたコードをコピーして、インターフェイスの実装時にアプリケーション クラス オブジェクトに貼り付けます。

参照: [第 21 章、「インターフェイスの登録」、「登録したインターフェイスの実装」、472ページ](#)

注: サービス インターフェイスを登録する場合、このボタンは表示されません。

[登録]

このボタンをクリックすると、インターフェイス定義が登録されます。定義が正常に登録されると、インターフェイスの UUID が表示されます。

インターフェイス ビューの登録

インターフェイス ビュー

このインターフェイスの sqlView を実装したら、このページに戻り、このインターフェイス ビューに対応するビューを選択します。

参照: [第 21 章、「インターフェイスの登録」、「登録したインターフェイスの実装」、472ページ](#)

関連言語のインターフェイス ビュー

関連言語ビューが存在する場合は、アプリケーション デザイナの実装で定義した関連言語ビューが表示されます。

登録したインターフェイスの実装

インターフェイスを登録したら、プロバイダ アプリケーションに実装します。コンシューマ アプリケーションで予期しない動作が発生しないように、プロバイダ アプリケーションにはインターフェイスを正確に実装する必要があります。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- タイプの実装
- サービスの実装
- 例外の実装
- SQLView の実装

タイプの実装

登録済みのタイプ インターフェイスを実装するには、次の手順に従います。

注: 登録済みのタイプは、PeopleCode アプリケーション クラスとして実装します。

1. アプリケーション デザイナで、名称指定規則 <NAMESPACE_PREFIX>_TYPES を使用して、機能モジュールごとにアプリケーション パッケージを作成します。

第 1 レベルのサブパッケージを使用して、実装クラスを機能別にグループ化し、第 2 レベルのサブパッケージを使用して、クラスをバージョン別にグループ化します。

2. インターフェイス タイプを実装するアプリケーション クラスを作成します。

アプリケーション クラスを作成する場合は、アプリケーション クラスを以下のようにする必要があります。

- baseType クラスを拡張する。
- baseType 親クラス定義を持つパッケージをインポートする。
- タイプが "string" の読み取り専用のプロパティ UUID を表示する。
- レジストリ内の対応するインターフェイスの正しい UUID を含む UUID プロパティがある。
- クラスで定義された配列プロパティを、エレメントなしの配列プロパティとしてインスタンス化する。
- toXmlNode、toXmlNodeString、fromXmlNode、truncateType の必須パブリック メソッドを実装する。

3. このインターフェイスの "レジストリ ウィザード - 実装" ページで、[クラス コードを作成] ボタンをクリックして作成されたスタブ コードをコピーし、インターフェイス タイプを実装するアプリケーション クラスに貼り付けます。

生成されたスタブ コードには、以下の必須メソッドが含まれます。

```
method toXmlNode(&parentNode As XmlNode);
method fromXmlNode(&parentNode As XmlNode);
method toXmlNodeString (&nodeName As string) Returns string;
method TruncateType();
```

XML 形式の必須メソッドは、このタイプを XML 表示できるようにマーシャリングしたり、XML 表示からアンマーシャリングするのに使用され、このタイプをリモート サービス呼び出しで使用する場合に必要になります。truncateType 必須メソッドは、全てのタイプ エレメントの値を表します。

4. レジストリ ウィザードで、レジストリに登録されているタイプ インターフェイスにアクセスし、タイプの実装の詳細にアプリケーション クラスを追加します。

サービスの実装

コンシューマ プログラムでは、サービス実装クラスを直接インスタンス化できません。バインドの遅延とリモート プロシージャ コールをサポートにより、このフレームワークでは、実装クラス名の変換が実行時まで遅延されます。このため、設計時にサービス コンシューマで利用可能な情報のみがインターフェイス名になります。

サービス マネージャは、実行時にレジストリ検索機能を使用して、インターフェイス名を実装クラス名に変換します。レジストリで定義した実装の詳細に応じて、サービス マネージャはローカル実装クラスまたはリモート実装のプロキシ クラスのいずれかのインスタンスをコンシューマに返します。

これらを考慮して、プロバイダ アプリケーションでは、サービスを完全に実装するために、以下の 2 つのアプリケーションクラスを提供する必要があります。

- 設計時にコンシューマ アプリケーションが参照可能なインターフェイス
- 実行時にサービス マネージャがバインド可能な実装クラス

注: 登録済みのサービスは、PeopleCode アプリケーション クラスとして実装します。

登録済みのサービス インターフェイスを実装するには、次の手順に従います。

1. アプリケーション デザイナで、名称指定規則 <NAMESPACE_PREFIX>_SERVICES を使用して、機能モジュールごとにアプリケーション パッケージを作成します。

第 1 レベルのサブパッケージを使用して、実装クラスを機能別にグループ化し、第 2 レベルのサブパッケージを使用して、クラスをバージョン別にグループ化します。第 3 (アプリケーション クラス) レベルのサブパッケージを使用して、インターフェイスとサービス実装を定義します。

2. サービス、インターフェイス、実装クラスを実装するアプリケーション クラスを 2 つ作成します。
3. レジストリに登録されているインターフェイスから、このサービスを選択し、[プロバイダ コードの生成] ボタンをクリックします。以下の 3 つのグループ ボックスで構成されるページが表示され、各ボックスにコードが表示されます。

- [インターフェイス PeopleCode]

インターフェイス PeopleCode をコピーし、インターフェイス アプリケーション クラスに貼り付けます。

- [導入 PeopleCode]

実装 PeopleCode をコピーし、実装アプリケーション クラスに貼り付けます。生成される実装コードは、アプリケーション クラスの実際のロジックの単なる骨組みです。このため、開発チームはプロバイダ アプリケーションの要件に合わせて、この実装クラスを修正する必要があります。

- [プロキシ PeopleCode]

4. 必要な情報がインターフェイス クラスと実装クラスに含まれていることを確認します。

この 2 つのアプリケーションの機能は異なります。インターフェイス クラスは抽象定義であり、実装クラスでどのメソッドとプロパティを登録済みの仕様に準拠させるかを詳細に記述しますが、実装の詳細は含まれません。実装クラスでは、インターフェイスを実際に実装し、抽象メソッド定義の実行コードを提供します。

インターフェイス アプリケーション クラスは、以下のようにする必要があります。

- 登録済みのサービスと同一の名前にする。
- baseService クラスを拡張する。
- baseService 親クラス定義をインポートする。
- 親 baseService クラスのインスタンスを作成するコンストラクタ メソッドを含める。
- 登録済みのサービスの署名に一致する署名を持つ抽象 DoService メソッドを定義する。

5. サービスの実装で以下のことを確認します。

- インターフェイスを実装する。
- DoService メソッドの具体的な実装を提供する。

開発チームはサービスの提供を決定したら、インターフェイスとインターフェイスを実装する実装クラスを作成します。

- 実装するインターフェイスと、インターフェイスで処理するタイプと例外をインポートする。

インポートは、プロバイダ コードを生成するごとに行います。

- エラーに対応するために、登録済みのインターフェイス仕様に従って例外をスローする。
- インターフェイス仕様に従って、警告をログに記録できるようにする。

インターフェイス アプリケーション クラスでは、サービスの実行時に生成された全ての警告の詳細を提供します。

- 実装がコンポーネント インターフェイスベースの場合は、API2CI フレームワークを使用して、コンポーネント インターフェイス仕様から抽象化する。

コンポーネント インターフェイスベースのサービスでは、以下のコードを使用して CI ライブラリ (レジストリで提供) をインポートする必要があります。

```
import HMGR_API2CI
```

コンポーネント インターフェイスは直接操作することができないため、DoService メソッドを使用する場合は、ciHandler と ciIdent の 2 つのローカル オブジェクトを宣言する必要があります。ciHandler は、コンポーネント インターフェイスへの全てのアクセスを管理するクラスです。ciIdent では、各 ciHandler インスタンスの固有の属性を定義します。

6. レジストリに登録されているサービス インターフェイスにアクセスし、タイプの実装の詳細に実装アプリケーション クラスを追加します。

注: 業務タスクを実行する場合に、他の複数のサービスを整理するサービスを使用することができます。これは集約サービスと呼ばれます。集約サービスは、業務取引や日常業務を管理したり、保存処理を実行するためのサービスであり、これらのプロセスは 1 回だけ実行すれば済むため、全体のパフォーマンスが向上します。サービスが集約モードで別のサービスを実行している場合、呼び出し元のサービス (集約サービス) では、呼び出し対象のサービスに RunAggregated フラグを設定するため、呼び出し対象のサービスでは日常業務や保存処理がスキップされます。

例外の実装

PeopleSoft では、デフォルトの例外処理を提供する baseException クラスが用意されています。このクラスは、PeopleTools 例外クラス上にあります。baseException クラス コンストラクタは、以下のパラメータを取ります。

- サービス ログのインスタンス
- メッセージ セット番号とメッセージ番号
- デフォルトのメッセージ テキスト
- メッセージ パラメータ "1 ~ 5" または "Null" (パラメータがない場合)

baseException クラス コンストラクタは、以下のロジックを実行します。

- PSMessages コレクションをサービス ログに追加します。
- 提供されたメッセージ セットとメッセージ番号の PeopleTools 例外を作成します。

登録済みの例外インターフェイスを実装するには、次の手順に従います。

注: 登録済みの例外は、PeopleCode アプリケーション クラスとして実装します。

1. アプリケーション デザイナーで、名称指定規則 <NAMESPACE_PREFIX>_EXCEPTIONS を使用して、機能モジュールごとにアプリケーション パッケージを作成します。
第 1 レベルのサブパッケージを使用して、実装クラスを機能別にグループ化し、第 2 レベルのサブパッケージを使用して、クラスをバージョン別にグループ化します。
2. このインターフェイスの "レジストリ ウィザード - 実装" ページで、[クラス コードを作成] ボタンをクリックして生成されたスタブ コードをコピーし、例外を実装するアプリケーション クラスに貼り付けます。
3. 例外の実装に以下の情報が含まれていることを確認します。
 - PeopleTools メッセージ カタログ内のエントリへのリンク

- デフォルトのエラー処理
- 例外固有のエラー処理（必要な場合）

注: レジストリに登録されている例外では、例外名、エラー メッセージ構造、および例外の意味構造（説明）を定義します。

4. 例外クラスの実装で以下のことを確認します。
 - レジストリに登録されている名前と同一である。
 - `baseException` を拡張して、`baseException` クラス定義をインポートする。
 - 以下のコンストラクタが含まれている。
 - 単一パラメータとして `LogType` のインスタンスを取り、`LogType` クラス定義をインポートする。
 - 親クラスのインスタンスによってデフォルトのエラー処理を容易にする。
 - レジストリ内の対応する例外の正しい UUID を UUID プロパティに割り当てる。
 - タイプが “string” の読み取り専用のプロパティ UUID を表示する。

SQLView の実装

登録済みの `sqlView` インターフェイスを実装するには、次の手順に従います。

注: 登録済みの `sqlView` インターフェイスは、タイプが “view” の PeopleSoft レコード定義として実装します。

1. レコード定義にフィールドを作成し、登録済みの `sqlView` インターフェイスの各フィールドに対応させます。
2. SQL の CREATE コマンドを実行し、データベースにビューを作成します。
3. レジストリに登録済みの `sqlView` を開き、実装レコード名を追加します。

新規のインターフェイス ビューを作成する場合は、レジストリ ウィザード コンポーネントを使用する必要があります。既存のビューを更新する場合は、レジストリにアクセスして、更新ボタンをクリックします。レジストリ ウィザード コンポーネントが表示されます。

参照: 第 21 章、「インターフェイスの登録」、「新規インターフェイスの登録」、466 ページ

登録されたインターフェイスの利用

このセクションでは、登録されたインターフェイスの利用の概要と以下の方法について説明します。

- サービス インターフェイスの呼び出し
- サービス呼び出しでの無効データ チェックの設定
- コンポーネント インターフェイスのプール
- コレクションサイズのインターフェイスの利用
- 複合タイプとポータル ページ間のバインド
- SQLView の利用

登録されたインターフェイスの利用について

アプリケーションで使用する必要があるインターフェイスがレジストリに登録されている場合、インターフェイスを呼び出すコンシューマ アプリケーションの PeopleCode イベントにコードを作成する必要があります。

注: 登録済みのサービスのレジストリの詳細ページで、[コンシューマ コードの生成] ボタンをクリックすると、コンシューマ アプリケーションに必要な全てのコードが生成されます。このコードを切り取り、コンシューマ アプリケーションの PeopleCode イベント (SavePostChange PeopleCode など) に貼り付けます。生成されたコードがこれらの手順で設定されている条件を満たしているかどうかを確認し、必要に応じて修正します。

注: コンポーネントの単一フィールドである SavePostChange PeopleCode には、“Set”、“Add”、“Delete”などの操作サービスのコードのみを置くことができます。操作サービス呼び出しは、複数の PeopleCode イベントにわたって展開することはできません。また、FieldChange PeopleCode に操作サービス呼び出しを置くこともできません。

サービス インターフェイスの呼び出し

アプリケーションを利用すると、以下の手順でサービス インターフェイスが呼び出されます。

1. フレームワーク クラス、サービス クラス、およびタイプ クラスをインポート、宣言、作成します。
2. サービス マネージャの LocateService メソッドを使用してサービス実装にバインドします。

サービス マネージャは、実装済みの適切なインターフェイス アプリケーション クラスを実行時に特定して、そのインスタンスをコンシューマ アプリケーションに返し、以下の手順で呼び出しを実行します。

- a. コンシューマコードのインポートステートメントで、必要な登録済みのインターフェイスを指定します。
- b. 登録済みのインターフェイスには、必要な実装済みのインターフェイスクラスに関する情報が含まれます。
- c. サービス マネージャの LocateService メソッドで、実装クラスのインスタンスを返します。

注: LocateService メソッドには、適切なサービスにバインドするために、サービス名とサービス バージョンが必要です。

コンシューマ コードで認識する必要があるのは、使用する登録済みのインターフェイスだけです。プロバイダ アプリケーションでは、どの実装済みクラスをコンシューマに返すかを指定します。これにより、コンシューマに影響を与えることなく、実装済みのインターフェイスをプロバイダで変更できるようになります。

3. タイプ インターフェイスを呼び出す場合、コンシューマ アプリケーションでは、タイプ クラスを DoService 呼び出しに渡す前に、入力パラメータ内のタイプ クラスのプロパティを設定する必要があります。

レジストリに登録されているタイプ インターフェイスでは、タイプ クラスのプロパティを記述します。コンシューマでは、コンシューマ アプリケーションからタイプ クラス プロパティに、プロパティを個別にマッピングできます。

4. サービス実装クラスの DoService メソッドを呼び出し、サービス署名で定義したパラメータを渡します。

サービス署名では、サービスに渡す必要がある入力または出力パラメータの数 (0 以上) を定義します。パラメータは、単純タイプ (文字列、数値、日付、ブール値など) または複合タイプにできます。パラメータのタイプは、インターフェイス レジストリのタイプとして、以下のように定義して登録されます。

- サービスのパラメータで複合タイプが必要な場合は、コンシューマでタイプ クラスをインポートしてローカル変数として宣言し、CREATE コマンドを使用してインスタンス化する必要があります。
- サービスのパラメータで単純タイプが必要な場合は、コンシューマで単純タイプを宣言するだけです。

5. 例外をキャッチして管理します。

コンシューマ コードでは、“try-catch” ブロック内の全てのサービスを呼び出す必要があります。try ステートメントと catch ステートメント間で実行される全てのコードは、保護された範囲にあるため、サービスの実行中にスローされる例外は、コンシューマ コードの catch ステートメントにコントロールをすぐに返します。これにより、コンシューマ アプリケーションで例外に応答できます。

コンシューマ コードでは、特定の例外または `baseException` をキャッチできます。`baseException` は、登録されている全ての例外の親クラスです。

注: サービス固有でない例外をキャッチする場合、コンシューマ コードでは常に `baseException` をキャッチする必要があります。

6. サービス実行ログの関連情報を解析します。

レジストリ フレームワークは、サービスの実行中にプロバイダによって出された全ての警告とメッセージを収集し、サービス実行ログとしてコンシューマ側に表示します。コンシューマでは、必要に応じて実行ログのクエリーを実行し、警告とメッセージに基づいてアクションを実行できます。

各サービスには、`ExecutionLog` と呼ばれるプロパティがあります。このプロパティは、`Log` と呼ばれる `LogType` の配列を持ち、以下の属性があります。

- `DEFAULT_TEXT`
- `MESSAGE_SET_NBR`
- `MESSAGE_NBR`
- `MESSAGE_SEVERITY`

サービスの `Log` クラスは、実行ログの内容を表示するための汎用メソッド `ShowLog()` を持ちます。

注: 全てのコンシューマ `PeopleCode` は、コンシューマ コンポーネント セッションの範囲内で実行されます。このトランザクションの範囲内では、コンポーネントの実行中に呼び出されるサービスも全て実行されます。サービスの実行中に致命的なエラーが発生した場合は、エラーが例外として明確にキャッチされない限り、コンポーネントトランザクション全体がロールバックされます。たとえば、コンシューマ アプリケーションのコンポーネントが、`SavePostChange PeopleCode` で呼び出されるサービスを 2 つ使用している場合、一方のサービスが正常に実行され、もう一方のサービスが致命的なエラーをスローすると、各サービスからコンポーネントにデータは保存されません。

サービス呼び出しでの無効データ チェックの設定

サービス呼び出しで “Add” アクションを使用してコンシューマ アプリケーションのコンポーネントを更新する場合は、無効なデータのチェックを設定する必要はなく、`Component.SavePostChange PeopleCode` のサービスを呼び出すことができます。

ただし、前に選択したデータをサービスで更新する場合は、無効なデータのチェックを設定して、基になるデータがコンシューマ側のユーザー操作で変更されていないことを確認する必要があります。これを行うには、Component.PostBuild PeopleCode に Get サービスを作成し、Component.SavePostChange PeopleCode に Set サービスを作成します。

レジストリでデータの不整合が検出されると、エラーが発生します。このエラーは、baseException でキャッチできます。

コンポーネント インターフェイスのプール

複数のサービスの実装で、各サービスがコンポーネント インターフェイスの同じインスタンスを使用する場合があります。パフォーマンスを向上するには、コンポーネント インターフェイスをプールします。コンポーネント インターフェイスの範囲は、1 つのローカル PeopleCode イベントにする必要がありますが、このイベントの範囲内のコードで、同じオープン コンポーネント インターフェイスを使用して、複数の呼び出しをサービスに送信できます。

コンポーネント インターフェイスのプールは、サービス マネージャの LocateService メソッドに渡されます。リクエスト側が PeopleCode イベントで 1 つのサービスしか呼び出さない場合は、コンポーネント インターフェイスのプールとして NULL が渡されます。

コレクションサイズのインターフェイスの利用

アイテムまたはコレクション（行セット）で実行するためのサービスを設定できます。コンシューマ アプリケーションが行のコレクションを使用する場合は、コレクション全体をサービスに渡すようにコンシューマ アプリケーションを設定する必要があります。コレクションのサービスに渡されないアイテムは、サービスによって削除されます。コンシューマが空のコレクションを渡すと、プロバイダ実装の全てのデータ行が効果的に削除されます。

コレクション タイプ クラスのロードや操作を行う場合や、Set サービスに戻す場合は、コレクションサイズの Get サービスを使用します。

複合タイプとポータル ページ間のバインド

全てのサービスでは、パラメータとして単純タイプと複合タイプを使用します。単純タイプは、PeopleCode データ タイプとして使用できます。プロバイダ アプリケーションでは、アプリケーション クラスとして複合タイプを実装します。アプリケーション クラスのプロパティはページ上に直接表示できないため、Rowset.Row.Record.Field オブジェクトに基づいて、コンシューマ アプリケーションでページを作成し、タイプ クラスのプロパティを各フィールドにマッピングする必要があります。

コンシューマ コードで、ヘルパー メソッドの PopulateToRowset の呼び出しを設定し、タイプ クラスのインスタンスからコンシューマ コンポーネントのユーザー インターフェイスに全てのデータをロードします。ヘルパー メソッドの PopulateFromRowset の呼び出しを設定し、タイプ クラスのユーザー インターフェイスで使用される行セットから全ての値をロードします。

注: 一部のタイプ クラスには、ヘルパー メソッドが用意されていません。また、コンシューマ コンポーネントで動作しないヘルパー メソッドもあります。このような場合は、独自のロジックを作成して、タイプ クラス値をコンシューマのユーザー インターフェイスにバインドする必要があります。

SQLView の利用

アプリケーションの利用では、登録済みの sqlView をバインドせずに直接使用できます。登録済みの sqlView は、以下で使います。

- 検索ビュー

- ・ プロンプト
- ・ 関連表示

レジストリ フォルダ構造の管理

HCM インターフェイス レジストリを管理するには、サービス レジストリの管理コンポーネント (HMCR_CONTENT_ADMIN) を使用します。

このセクションでは、レジストリ フォルダ構造を管理する方法について説明します。

レジストリ フォルダ構造の管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
コンテンツ管理	HMCR_CONTENT_ADMIN	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[サービスレジストリの管理]、[コンテンツ管理]	レジストリに対してフォルダを追加または削除します。

レジストリ フォルダ構造の管理

コンテンツ管理ページにアクセスします。

コンテンツ管理

操作

フォルダの作成

Create Tree

レジストリの詳細

フォルダ ラベル

JPM_SELFSESV

☐ 最終レベル

*オーナー ID

ヒューマンリソース管理

フォルダの詳細を入力してから、[ツリーを作成] ボタンをクリックしてください。

コンテンツ管理ページ (1/2)



コンテンツ管理ページ (2/2)

[フォルダの作成]

新規フォルダを作成するには、[操作] フィールドで [フォルダの作成] を選択して、フォルダのレジストリ詳細を入力します。

[フォルダ ラベル]

レジストリに表示されるフォルダ ラベルを入力します。

[オーナー ID]

オプションのリストから、フォルダ コンテンツのオーナー ID を選択します。

[最終レベル]

フォルダを最終フォルダにするかどうかを指定します。最終フォルダには、4 つのインターフェイス タイプのフォルダ以外の子フォルダを設定できません。このフォルダを最終フォルダにすると、4 つのインターフェイス フォルダが作成されます。

このチェック ボックスをオフにすると、フォルダは機能フォルダになり、子フォルダを追加することができます。

[Create Tree]

フォルダの詳細を入力したら、[Create Tree] ボタンをクリックします。このボタンをクリックすると、新規のレジストリ ツリーが作成されます。ツリーを展開し、新規フォルダを追加するノードを選択します。

新規フォルダを追加できるフォルダは、同じオーナー ID を持ち、最終レベル以外のフォルダのみです。

[フォルダの削除]

フォルダを削除するには、[操作] フィールドで [フォルダの削除] を選択します。レジストリ ツリーを展開し、削除するフォルダを特定してクリックします。削除するフォルダが子フォルダの場合、登録済みのインターフェイスを含むフォルダは削除できません。

サービスのテスト

新規作成されたサービスをテストするには、サービス テスタ コンポーネント (HMCR_SRV_TESTER) を使用します。

このセクションでは、サービスをテストする方法について説明します。

サービスのテストに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
サービス テスタ	HMCR_SRV_TESTER	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[サービス テスタ]、[サービス テスタ]	新規作成されたサービスをこの汎用コンポーネントでテストします。

サービスのテスト

サービス テスタ ページにアクセスします。

サービス テスタ

テスト名:

PS_TEST

サービス名:

AddAdditionalAssignment

バージョン:

1.0

UUID:

HC_UUID_25856401612122005

サービスの実行

○ 追加

○ ツール入力を使用

□ 入力パラメータを出力として使用

○ 修正

○ XML 入力を使用

○ 更新/表示

左 | 右

inOrgAssignmentType

EMPLID - (blank)

EMPL RCD - (blank)

PER ORG - (blank)

ORG INSTANCE ERN - (blank)

POI TYPE - (blank)

CMPNY DT OVR - (blank)

CMPNY SENIORITY DT - (blank)

SERVICE DT OVR - (blank)

SERVICE DT - (blank)

サービス テスタ ページ

このページでは、新規作成されたサービスを汎用コンポーネントでテストします。たとえば、レジストリ ウィザード コンポーネントを使用して対応する実装コードで新規サービスを作成する場合は、このページを使用してサービスをテストし、コミットするサービスが適切に動作するかどうかを確認できます。サービス テストの結果は、新しいウィンドウに XML で返されます。

- [追加]、[修正]、[更新/表示]

サービスを実行するモードを選択します。これらのオプションを使用して、サービス実行をさまざまなモードでテストできます。
- [ツリー入力を使用]、[XML 入力を使用]

XML 形式 (SOAP 1.2) またはツリー構造のどちらを使用して入力をロードするかを選択します。[XML 入力を使用] ボタンを選択すると、ツリー入力は対応する SOAP ドキュメントに変換されます。このオプションは、リモート サービスをテストする場合やサイズの大きいサービスの入力をロードする場合、または既存のサービスを新規サービスのテストにコピーする場合 (“名前を付けて保存” 機能と同様) に有効です。
- [入力パラメータを出力として使用]

サービスに入力パラメータがなく、渡される入力パラメータがこのサービスで更新される場合、このチェック ボックスをオンにします。リモート サービスは参照によって入力を更新できないため、このチェック ボックスはローカル サービスでのみ有効です。この条件に合うローカル サービスでも、使用できないローカル サービスには推奨されません。
- [サービスの実行]

入力したら、このボタンをクリックして、サービス リクエストを呼び出します。サービス呼び出しが完了すると、新しいウィンドウが開き、サービスの出力結果が XML 形式で表示されます。

変換マップの表示と登録

変換マップを表示するには、変換マップ レジストリ コンポーネント (HMTF_TRF_REGISTRY) を使用します。変換マップを登録するには、変換マップの登録コンポーネント (HMTF_WZ_TRF) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

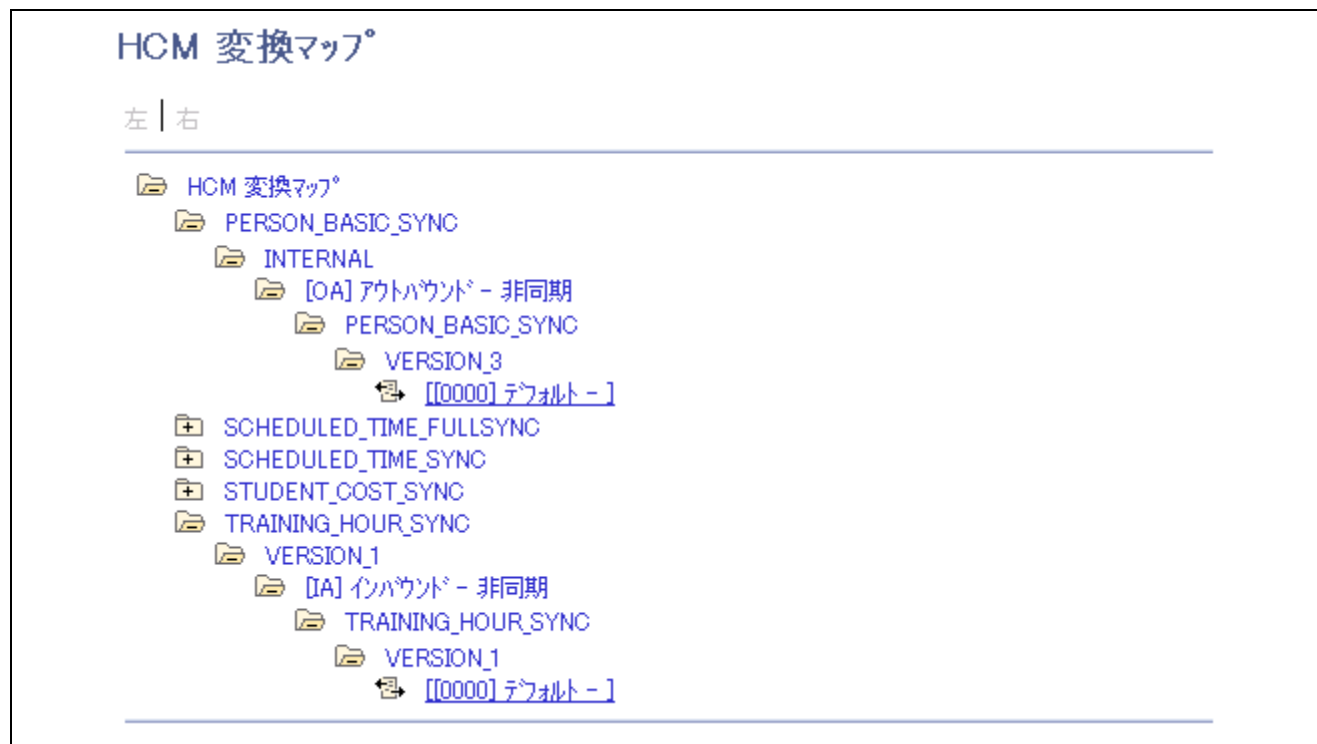
- 変換マップの表示
- 変換マップの登録

変換マップの表示と登録に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
HCM 変換マップ	HMTF_TRF_REGISTRY	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[変換マップ レジストリ]、[HCM 変換マップ]	HCM 変換マップを表示します。
変換マップ	HMTF_WZ_STEP1	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[変換マップの登録]、[変換マップ]	メッセージ バージョン間のメッセージの変換マップを作成します。

変換マップの表示

HCM 変換マップ ページにアクセスします。



HCM 変換マップ ページ

このページでは、変換マップの詳細を表示します。変換マップとは、受信メッセージ（変換元）を特定の形式（変換先）に変換するように指示したものです。変換を行う主な理由は、リリース間でレコード定義が変更される場合があるためです。

変換マップの登録

変換マップ ページにアクセスします。

変換マップ

変換元 メッセージ名 <input type="text" value="PERSON_BASIC_SYNC"/> メッセージ バージョン <input type="text" value="INTERNAL"/> *アプリケーション リリース <input type="text" value="デフォルト"/> オブジェクト オーナー ID <input type="text" value="HR コア"/>	変換先 メッセージ名 <input type="text" value="PERSON_BASIC_SYNC"/> メッセージ バージョン <input type="text" value="VERSION_3"/> トランザクション タイプ <input type="text" value="アウトバウンド - 非同期"/> UUID HC_UUID_83137131520072004
--	--

変換定義

```

<?xml version="1.0"?>
<transformation>
  <structure>
    <message message_name="PERSON_BASIC_SYNC">
      <PERSON class="R" source_record="PERSON">
        <EMPLID source_field="EMPLID" type="CHAR"/>
        <BIRTHDATE source_field="BIRTHDATE" type="DATE"/>
        <BIRTHPLACE source_field="BIRTHPLACE" type="CHAR"/>
        <BIRTHCOUNTRY source_field="BIRTHCOUNTRY" type="CHAR"/>
        <BIRTHSTATE source_field="BIRTHSTATE" type="CHAR"/>
      </PERSON>
    </message>
  </structure>
</transformation>

```

変換マップ ページ

2 つの異なるリリースの PeopleSoft Enterprise 製品間で情報を交換する必要がある場合は、変換を実行する必要があります。レコード定義はリリース間で変更される場合があります。変換を使用すると、リリース間でメッセージを変換して、このような問題を解決できます。このページでは、リリース間とバージョン間のメッセージの変換マップを作成します。

- [メッセージ名] バージョン間で変換する必要があるメッセージを選択します。
- [メッセージ バージョン] バージョン間で変換する必要があるメッセージのバージョンを選択します。
- [アプリケーション リリース] メッセージが属する PeopleSoft Enterprise アプリケーションのリリースを選択します。たとえば、メッセージの変換元を HRMS 8.3 システムにするか、または HRMS 8.8 システムにするかを指定します。[デフォルト]を選択すると、現在のリリースの製品が使用されます。
- [トランザクション タイプ] メッセージのトランザクション タイプを選択します。有効値は、[インバウンド - 非同期]、[インバウンド - 同期]、[アウトバウンド - 非同期] または [アウトバウンド - 同期] です。
- [オブジェクト オーナー ID] メッセージ オブジェクトのオーナーを選択します。
- [UUID] 変換の固有 ID が表示されます。この ID は自動的に生成されます。
- [変換定義] 変換定義を XML 形式で表示します。
- [登録] このボタンをクリックすると、変換が登録されます。

インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピング

このセクションでは、インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピングについての概要と、以下の方法について説明します。

- インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピング
- マッピングされたサービスの削除
- インテグレーション ブローカーを使った Web サービスの提供

インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピングについて

HCM サービスは、リモート (PeopleSoft 以外) のシステムから呼び出すことができます。SOA フレームワークには、受信リクエスト (サービス) を処理して必要な応答を返すビルトイン機能が含まれています。このビルトイン機能では、以下の処理ができます。

- Web サービスの自動生成
- PeopleSoft リポジトリへの WSDL のパブリッシュ
- UDDI への WSDL のパブリッシュ
- インテグレーション ブローカー サービスとインテグレーション サービス リポジトリ (ISR) の自動同期

PeopleTools インテグレーション ブローカー サービスは、サービスの変換機能として使用されます。HCM サービスをインテグレーション ブローカーにマッピングすることにより、HCM インターフェイス レジストリを業界標準に適合させることができます。

インテグレーション ブローカーへの HCM サービスのマッピング

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- インテグレーション ブローカー サービスへの HCM インターフェイス レジストリのマッピング
- インテグレーション ブローカーのサービス オペレーションへの HCM サービスのマッピング
- インターフェイスの詳細のマッピング
- サービス オペレーションのセキュリティの表示
- サービス オペレーションのハンドラの表示
- サービス オペレーションのルーティングの表示

インテグレーション ブローカー サービスへの HCM インターフェイス レジストリへのマッピング

HCM サービスをインテグレーション ブローカーにマッピングするには、HCM インターフェイス レジストリを使用します。マッピングは、製品の HCM サービスの最下位サブカテゴリである第 3 レベル フォルダでのみ可能です。

特定フォルダの HCM インターフェイス レジストリのメタデータをインテグレーション ブローカー サービスにマッピングするには、次の手順に従います。

1. HCM インターフェイス レジストリ ページで、第 3 レベルのフォルダのフォルダ名のリンクをクリックします。
レジストリ フォルダの WSDL が表示されます。
2. [サービス リポジトリに追加] ボタンをクリックして、サービス リポジトリに追加します。

インテグレーション ブローカーを設定している場合は、サービスの詳細が表示されます。

注: [サービス リポジトリから削除] ボタンは、レジストリ フォルダをインテグレーション ブローカーのサービス リポジトリにマッピングした場合にのみ使用できます。マッピングすると、[サービス リポジトリに追加] ボタンは使用できなくなります。これにより、修正アクションしか実行できなくなります。

フォルダのインテグレーション ブローカー サービス名は自動的に生成されます。このサービス名はフォルダの UUID になります。これは HCM インターフェイス レジストリ内で固有の文字列になるため、各サービスの名前は一意になります。必要に応じて、サービス管理コンポーネント ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[サービス ユーティリティ]、[サービス管理]) で、インテグレーション ブローカーのサービス名を変更して意味のある名前に変更することもできます。サービス別名フィールドには UUID サービス名のコピーが保存されるため、サービス名を変更しても固有名は確保されます。これにより、サービスと HCM インターフェイス レジストリを関連付ける方法が削除プロセスに確保されます。

注: サービス別名フィールドはサービスの削除処理に不可欠なため、サービス別名フィールドはどのような場合でも変更しないでください。

インテグレーション ブローカーのサービス オペレーションへの HCM サービスのマッピング

HCM インターフェイス レジストリ ページのレジストリ フォルダにある各 HCM サービスは、インテグレーション ブローカーのサービス オペレーションにマッピングされ、サービス ページ ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[サービス]) でフォルダに生成したサービスで確認できます。HCM サービスの名前は、サービス オペレーションの名前 (そのサービス オペレーションが存在しない場合) として使用されます。サービス オペレーションが既に存在している場合は、サービス オペレーション名フィールドの長さの制約 (30 文字) 内でアルゴリズムが機能します。このアルゴリズムにより、一意の名前が生成されるまで最後の文字が数字で置換されます。サービス オペレーションのバージョンは、HCM インターフェイス レジストリから取得されます。

インターフェイスの詳細のマッピング

各入出力インターフェイスは、インテグレーション ブローカーの非行セット ベースのメッセージにマッピングされます。このメッセージには、生成されたスキーマが付きます。また、HCM インターフェイス レジストリからバージョンも割り当てられます。メッセージの基本名は、HCM サービス名にサフィックス "_IM" (入力インターフェイス) または "_OM" (出力インターフェイス) が付きます (例: ADDPOITYPE_IM)。

出力エラーのインターフェイスは、インテグレーション ブローカーの非行セット ベースのパート メッセージにマッピングされます。これは、インテグレーション ブローカーのエラー メッセージの数は、サービス オペレーションごとに 1 つだけという制限のためです。このため、マッピングされた HCM サービスに関連する出力エラーは、全てインテグレーション ブローカーのコンテナ メッセージ内に作成されます。出力エラーメッセージは、サフィックス "_FM" で示されます (例: ADDPOITYPE_FM)。

サービス オペレーションのセキュリティの表示

生成する各サービス オペレーションには、標準の権限リスト HCSPSERVICE が割り当てられます。Web サービスの権限リストの詳細には、Web サービス アクセス ページ ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[サービス オペレーション]、[一般] の順にクリックし、[サービス オペレーションのセキュリティ] リンクをクリック) でアクセスします。

サービス オペレーションのハンドラの表示

生成する各サービス オペレーションには、ハンドラが割り当てられます。割り当てられたハンドラは、受信リクエストを処理する汎用ハンドラ クラスを参照して、必要な応答を生成します。汎用ハンドラは、HMCR_FRAMEWORK:IB_Framework:Handlers:IB_SyncRequestHandler です。サービス オペレーションのハンドラには、サービス オペレーション コンポーネントのハンドラ ページ ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[サービス オペレーション]) でアクセスします。

サービス オペレーションのルーティングの表示

HCM レジストリ内には、指定したサービスのコンシューマを示すものがないため、マッピング プロセスでルーティングは生成されません。必要なルーティングについては、開発チームで作成してください。

マッピングされたサービスの削除

インテグレーション ブローカーにマッピングした HCM サービスを削除する場合は、HCM インターフェイス レジストリを使用します。HCM インターフェイス レジストリの [サービス リポジトリから削除] ボタンは、インテグレーション ブローカーのメタデータに追加したフォルダに対してのみ使用できます。

削除プロセスでは、インテグレーション ブローカーのメタデータから、以下のオブジェクトを削除します。

- WSDL
- サービス
- サービス オペレーション
- サービス オペレーションのセキュリティ
- サービス オペレーションのハンドラ
- サービス オペレーションのルーティング
- メッセージ (入力、出力、エラー コンテナ、パート)
- メッセージ スキーマ

インテグレーション ブローカーを使った Web サービスの提供

HCM サービスをインテグレーション ブローカーにマッピングする主な理由は、インテグレーション ブローカーの Web サービス提供機能を使用することです。Web サービスを提供できるのは、“全て/ローカル”のルーティングとして定義したサービス オペレーションの場合だけです。これらのサービス オペレーション、ハンドラ、およびルーティングは、サービス オペレーション コンポーネントで作成します。

サービス オペレーションで“全て/ローカル”のルーティングを設定するには、次の手順に従います。

1. サービス オペレーション コンポーネント ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[サービス オペレーション]) にアクセスします。
2. [保存時のルーティング アクション] 領域の [全て/ローカルの生成] チェック ボックスをオンにします。
3. コンポーネントを保存します。

[ルーティング ステータス] 領域の [全て/ローカル] の値が“存在する”に更新されます。

また、ルーティングも生成され、このコンポーネントのルーティング ページに表示されます。

“全て/ローカル”として定義したサービス オペレーションを 1 つ以上持つサービスは、Web サービスとしてパブリッシュできます。

適合するサービスを Web サービスとしてパブリッシュするには、次の手順に従います。

1. Web サービスの提供コンポーネント ([PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[Web サービス]、[Web サービスの提供]) にアクセスして、Web サービスの提供ウィザードを起動します。
サービスの選択ページが表示されます。
2. Web サービスとしてパブリッシュするサービスを検索します。
3. 返された検索結果からサービスを選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

サービス オペレーションの選択ページが表示されます。

4. Web サービスとしてパブリッシュするサービスのサービス オペレーションを選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

WSDL の表示ページが表示されます。

5. サービスの [WSDL の表示] リンクをクリックして、このサービスで生成された WSDL を表示します。
6. WSDL の表示ページに戻り、[次へ] ボタンをクリックします。

パブリッシュ オプションの指定ページが表示されます。

7. 選択したサービスをパブリッシュする場所を定義します。

[UDDI にパブリッシュ] チェック ボックスまたは [WSDL リポジトリ] チェック ボックスをオンにして、対応する場所にサービスをパブリッシュします。

Web サービスの提供 - 結果ページが表示されます。

8. WSDL 生成ログを表示して、ウィザードの結果を確認します。

第 22 章

HCM イベント マネージャの使い方

この章では、HCM イベント マネージャ機能の概要、実装手順、および以下の方法について説明します。

- イベントの定義と登録
- イベント ハンドラの作成
- イベント ハンドラの登録
- イベント ハンドラとイベントのテスト
- イベントの起動
- イベントの監視
- イベント サマリの表示
- イベント マネージャ コンポーネントのヘルプ表示

HCM イベント マネージャについて

HCM イベント マネージャは、ビジネス イベントを起動するためのビジネス ロジックの定義、実装および実行を可能にする機能およびフレームワークです。

イベント マネージャ フレームワークを使用すると、アプリケーション コンポーネントで特定のデータを変更する場合や、特定の PeopleTools アプリケーション エンジン プロセスを実行する際に起動されるビジネス イベントを定義できます。また、これらのイベント インスタンスに対して動作するイベント ハンドラを定義することもできます。イベント ハンドラはイベント マネージャ フレームワークで実行されます。イベントを“起動する”とは、イベント インスタンスを作成することを指します。イベントが起動されると、イベント マネージャ フレームワークは、そのイベントに登録済みのイベント ハンドラのビジネス ロジックを自動的に実行します。

イベント マネージャ フレームワークの利点

イベント マネージャ フレームワークの使用には、いくつかの利点があります。主な利点の 1 つに、処理パフォーマンスの向上が挙げられます。イベント マネージャ フレームワークでは、イベントを定義するビジネス オブジェクトに関連するビジネス イベントを管理できます。イベントやイベント ハンドラ内で処理パフォーマンスを低下させるビジネス ロジックを分離することにより、クリティカル パスの一部としてバックグラウンドで実行される時間のかかるコードを主要なビジネス プロセスに埋め込む必要がなくなるため、パフォーマンスが向上します。イベント マネージャ フレームワークには、ビジネス ロジックを非同期で分離、自動処理、および監視するための簡易機能が用意されています。

2 番目の利点は、独自のイベントを定義し、標準で用意されているコードへの影響を最小限に抑えて、そのイベントに対して独自のイベント ハンドラを作成できることです。

3 番目の利点は、イベント監視コンポーネントを使用して、処理に関する詳細情報を確認できることです。この情報はトラブルシューティング時に役に立ちます。

イベントとイベント ハンドラ

イベント レジストリ コンポーネントでは、ビジネス イベントを登録して、そのビジネス イベントにイベント ハンドラを登録します。これにより、イベント マネージャ フレームワークでビジネス イベントを利用できるようになります。ビジネス イベントとは、個人情報 の追加、従業員の給与レートの変更、職務の終了、従業員の昇進や昇格などのビジネス環境における機能です。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理には、すぐに使用できるイベントが多く用意されています。また、PeopleTools のアプリケーション デザイナで追加のイベントを作成して登録することもできます。イベントを作成したら、イベント レジストリ コンポーネントでイベントを登録します。イベント ハンドラとは、特定のイベントのインスタンスに対して実行されるビジネス ロジックのモジュールで、対応するイベントに登録されます。イベント ハンドラはイベントに対して登録し、イベントの起動時に、関連するイベント ハンドラがイベント マネージャ フレームワークで実行されるようにする必要があります。イベント インスタンスの全てのプロパティとメソッド（特にイベント キー）は、実行時にイベント ハンドラで使用されます。

1 つのビジネス イベントに複数のイベント ハンドラを割り当てたり、複数のイベントに対して単一のイベント ハンドラを割り当てることができます。イベント レジストリ コンポーネントでイベントを定義する場合は、関連するイベントを起動するプロセスに対して、同期モードまたは非同期モードで機能するイベント ハンドラを割り当てることができます。登録済みのイベントが起動されると、イベント マネージャ フレームワークは、起動されたイベントに登録されているイベント ハンドラが同期か非同期かを特定します。イベント ハンドラが同期の場合、イベント マネージャ フレームワークは、イベントを起動するプロセスの一部として、該当のイベント ハンドラをインラインで実行します。イベント ハンドラが非同期の場合、イベント マネージャ フレームワークは、主要プロセスのクリティカル パスから分離されたプロセスとして、該当のイベント ハンドラを実行します。同じイベントに対して、同期と非同期のイベント ハンドラを同時に登録することができます。登録済みのイベント ハンドラは、どちらのモードで設定した場合でもイベント マネージャ フレームワークによって実行されますが、常に同期のイベント ハンドラが最初に実行されます。イベント ハンドラを複数のイベントに登録する場合は、イベント ハンドラを実行したイベントのタイプを把握できるように、渡されるイベント オブジェクトの Name プロパティを検証するコードをイベント ハンドラに含める必要があります。

イベント マネージャ フレームワークは、単純な通知と応答モデルに基づいて機能します。通知側から見ると、イベント マネージャ フレームワークは、イベントが発生したことをイベント インスタンスを作成したデータと共に通知します。応答側では、各アプリケーションがビジネス ロジックをイベント マネージャ フレームワークに関連付けて、ビジネス イベントに対して応答します。PeopleTools アプリケーション クラスをイベント レジストリ コンポーネントのイベントに関連付けることにより、イベント マネージャ フレームワークは、イベントの起動時にそのイベントに登録済みのイベント ハンドラをいつ実行するかを特定できます。

コンポーネントまたは PeopleTools アプリケーション エンジン プロセスでイベントを起動すると、ビジネス イベントごとに一意のイベント インスタンスが作成されます。作成されたイベント インスタンスは、イベントが発生したことをイベント マネージャ フレームワークに通知する“信号”として機能します。イベント インスタンスは、システムの固有のオブジェクトであり、イベント発生に関する基本的なデータを保持します。このデータは、イベントによって異なります。

実行中にエラーが発生したイベント ハンドラは、関連するイベントまたは主要プロセスの他のイベント ハンドラの実行を中断させる原因になります。このため、イベント マネージャ フレームワークには、イベント ハンドラとイベントの監視およびトラブルシューティングに対応したオプションが多く用意されています。イベント モニター コンポーネントまたはイベント サマリ コンポーネントでは、イベント インスタンス、およびイベント ハンドラの実行と例外を監視できます。ハンドラ テスタ コンポーネントとイベント テスタ コンポーネントでは、主要ビジネス プロセス以外のイベント ハンドラとイベントをテストすることもできます。

ローカル ノードとリモート ノード

イベント マネージャ フレームワークでは、複数のデータベース インスタンスに影響を与えるイベントを管理できます。イベント マネージャ フレームワークを使用すると、ローカルまたはリモートのデータベース（ノードとも呼ばれる）で発生するビジネス イベントを処理できます。リモート ノードでは、自身のローカル イベント レジストリのイベントに登録されたローカル実装のイベント ハンドラのみを実行できます。たとえば、HCM データベースで発生するイベントが、PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメント (ELM) データベースや PeopleSoft Financials データベースに大きく影響する場合があります。

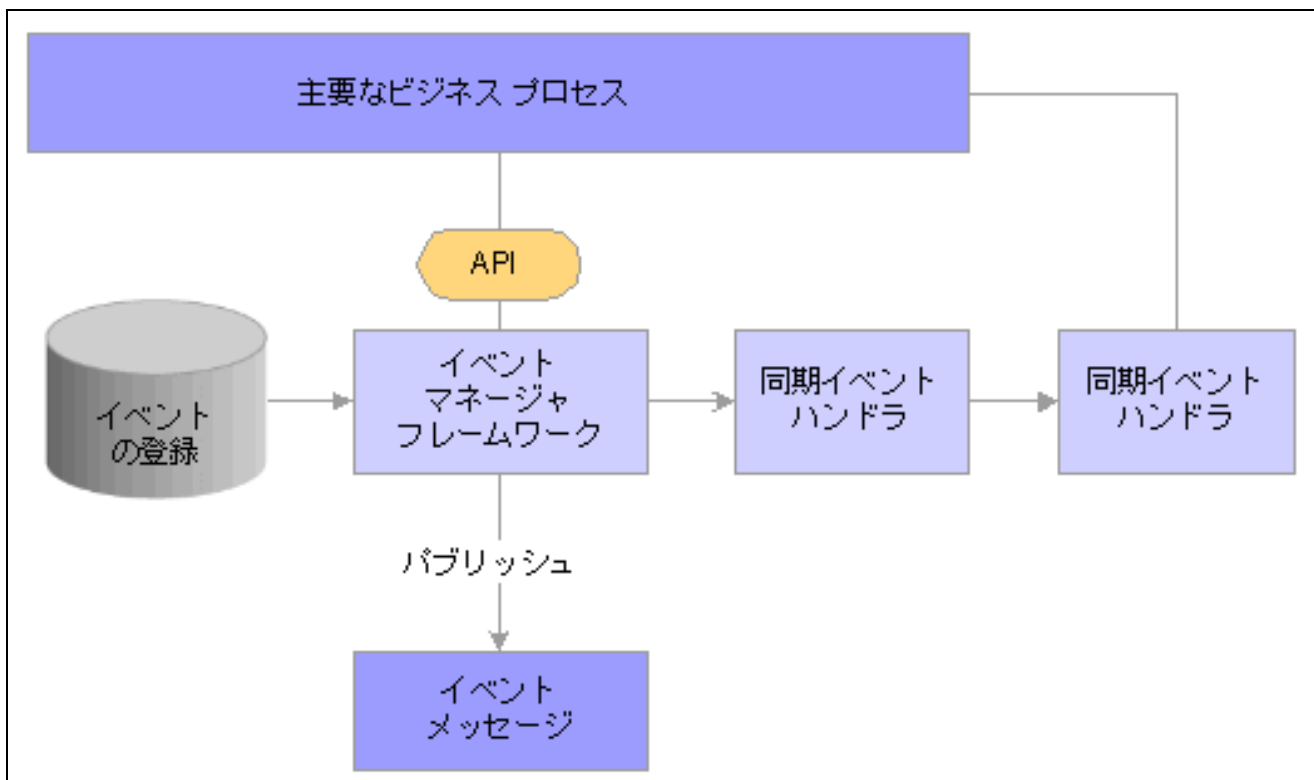
イベント マネージャ フレームワークは、現時点ではサービス指向アーキテクチャ (SOA) の分散型レジストリに統合されていません。代わりに、各データベースは独自のローカル イベント レジストリを持ちます。ローカル イベント レジストリ内では、ローカル プロセスで起動可能なイベント、およびリモート データベースで起動されるローカル データベース上のアプリケーションに関連するイベントを定義できます。リモート データベースのイベント処理に対応するには、リモート データベースにイベント マネージャ フレームワークを実装する必要があります。また、各ローカル イベント レジストリに、対象のリモート イベントとそのリモート イベントに関連するイベント ハンドラを登録する必要もあります。

イベント マネージャ フレームワーク側から見ると、非同期ハンドラのサポート プロセスは、リモート イベントとローカル イベントでほとんど違いはありません。イベント ハンドラをイベント レジストリのイベントに登録し、ローカル データベース、リモート データベース、または両方のタイプのデータベースで起動されるイベントに対してイベント ハンドラを実行できるように、イベント マネージャ フレームワークを設定します。これにより、ローカル データベースとリモート データベースで起動される同じイベントのインスタンスに対して、単一のイベント ハンドラで応答できるようになります。

リモート イベントのイベント ハンドラは、定義上は非同期です。このため、ローカル データベースでは、イベント マネージャ フレームワークはイベントに登録済みの同期ハンドラを実行してから、リモート イベントを実行します。

例: 同期イベント ハンドラを使用するローカル イベント

次の例は、登録済みの 2 つの同期イベント ハンドラを使用して、ローカル データベース上の主要ビジネス プロセスを処理するプロセスについて示しています。



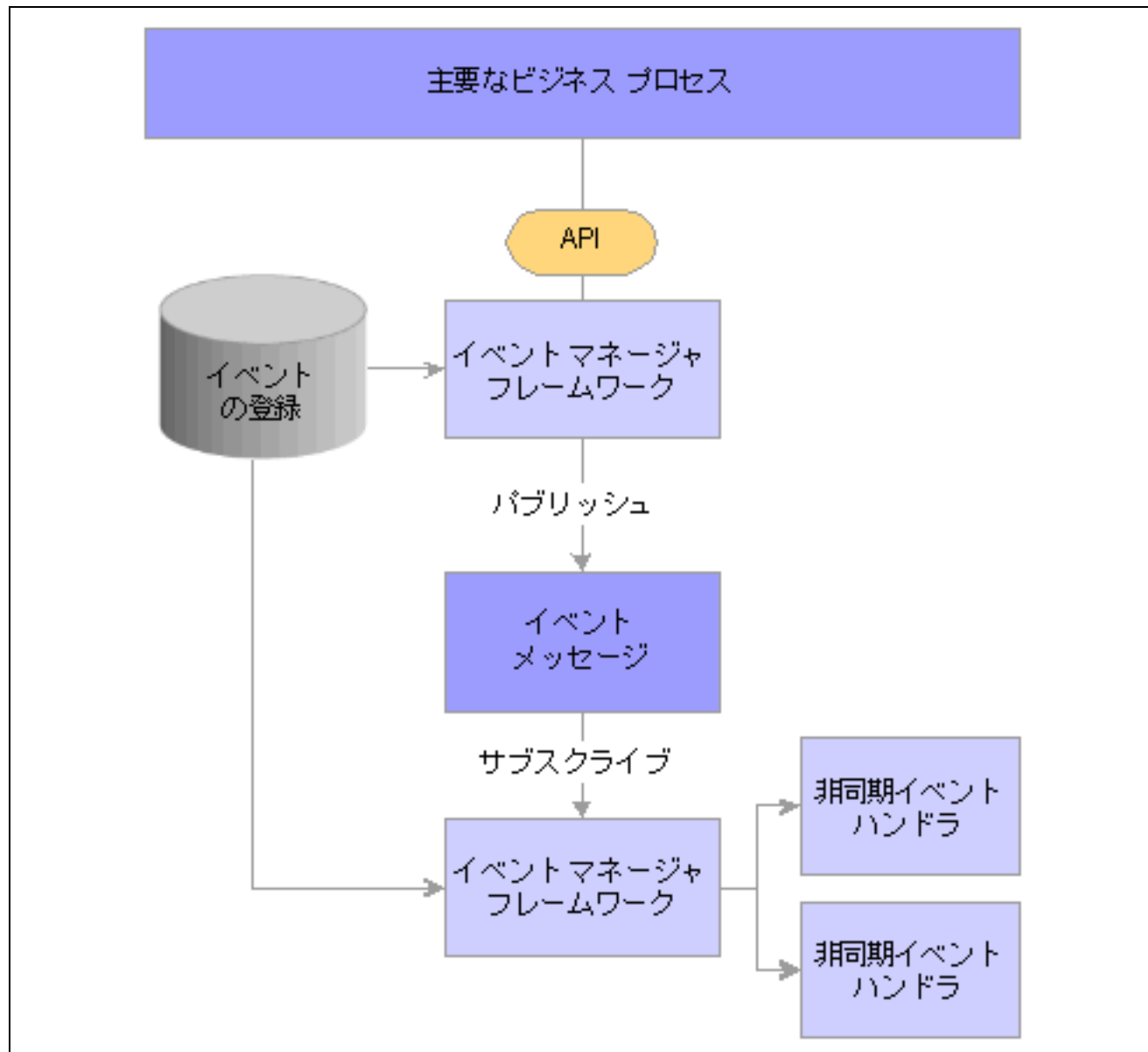
同期ハンドラを使用したローカル イベント

このシナリオでは、主要ビジネス プロセスがイベント マネージャ フレームワークのアプリケーション プログラム インターフェイス (API) を呼び出して、イベントを起動します。このフレームワークは、2 つのイベント ハンドラをインラインで順番に実行し、PeopleTools インテグレーション ブローカーの汎用イベント メッセージをパブリッシュして、主要ビジネス プロセスにプロセス コントロールを戻します。

注: PeopleTools インテグレーション ブローカーの汎用イベント メッセージには、XML 言語に似たコードが記述され、イベント名、イベント キー、およびイベントを起動したノードが示されます。

例: 非同期イベント ハンドラを使用するローカル イベント

次の例は、登録済みの 2 つの非同期イベント ハンドラを使用して、ローカル データベース上の主要ビジネス プロセスを処理するプロセスについて示しています。

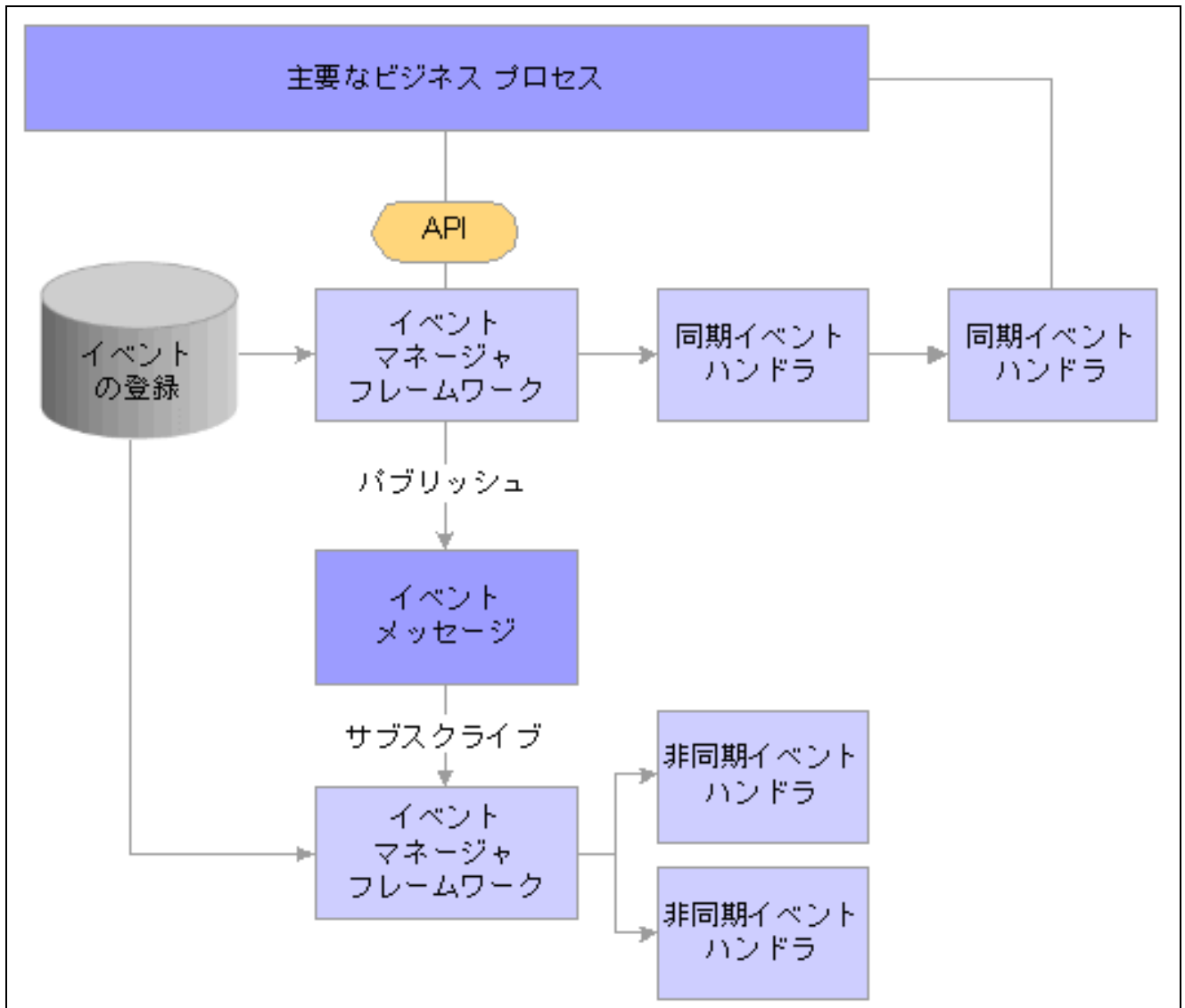


非同期ハンドラを使用したローカル イベント

このシナリオでは、主要プロセスがイベント マネージャ フレームワークの API を呼び出して、イベントを起動します。このフレームワークは、PeopleTools インテグレーション ブローカーの汎用イベント メッセージをすぐにパブリッシュし、遅延することなくプロセス コントロールを主要プロセスに戻します。PeopleTools インテグレーション ブローカーの通常のローカル サブスクリプションが汎用イベント メッセージを取得し、フレームワークを呼び出して、イベントに登録された非同期イベント ハンドラを実行します。

例: 同期イベント ハンドラと非同期イベント ハンドラの両方を使用するローカル イベント

次の例は、登録済みの同期ハンドラと非同期イベント ハンドラをそれぞれ 2 つずつ使用して、ローカル データベース上の主要ビジネス プロセスを処理するプロセスについて示しています。

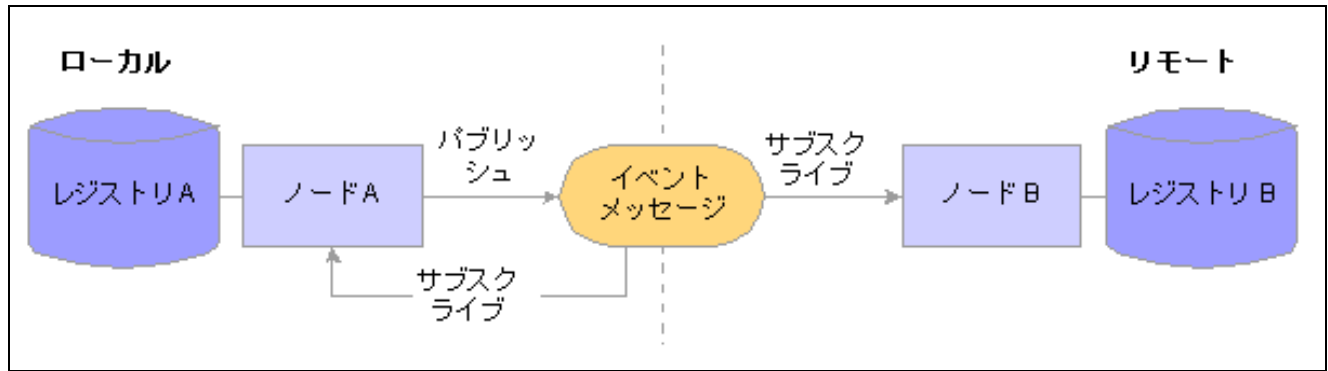


同期ハンドラと非同期ハンドラの両方を使用したローカル イベント

このシナリオでは、イベント マネージャ フレームワークが同期イベント ハンドラの実行中に、主要プロセスが待機しています。イベント マネージャ フレームワークは、PeopleTools インテグレーション ブローカーの汎用イベント メッセージのローカル サブスクリプションによって起動された分離プロセスとして、非同期イベント ハンドラを実行します。

例: リモート イベント

この例では、ローカル データベースとリモート データベースにまたがるイベント処理について示しています。



リモート イベント

このシナリオでは、ローカル イベント レジストリ (レジストリ A) とリモート イベント レジストリ (レジストリ B) にイベントが登録されています。

レジストリ A には、イベントに対して同期イベント ハンドラと非同期イベント ハンドラの両方が登録されています。このイベントに登録されているイベント ハンドラは、ローカル ソースに設定されています。レジストリ A でイベントが起動されると、イベント マネージャ フレームワークはイベントのログを記録 (ログを有効にした場合) して、汎用イベント メッセージをパブリッシュし、イベントに登録されている同期イベント ハンドラを実行します。次に、この汎用イベント メッセージをローカルでサブスクライブし、イベントにローカルで登録されている非同期イベント ハンドラを実行します。

レジストリ B のローカル イベント レジストリには、同じイベントが登録されており、アクティブになっています。このイベントに登録されているイベント ハンドラは、リモート ソースに設定されています。レジストリ B では、レジストリ A がパブリッシュした同じイベント メッセージをリモートでサブスクライブするため、レジストリ B はイベントの発生をログに記録し、登録済みの非同期ハンドラを実行します。

HCM イベント マネージャを拡張する場合のルール

カスタム イベントとイベント ハンドラを作成して、イベント マネージャ フレームワークの標準のオブジェクトを拡張する場合は、提供されるアップグレードと修正により拡張内容が影響を受けないように、以下のルールに従う必要があります。

- 作成するイベントがシステム データになるように指定しない。
- 新規イベント定義のアプリケーション クラスは、既存のアプリケーション パッケージではなく、1 つ以上の新規のアプリケーション パッケージに作成する。
- 新規のイベント ハンドラは、既存のアプリケーション パッケージではなく、1 つ以上の新規のアプリケーション パッケージに作成する。

この章で使用する共通フィールド



[ヘルプ] ボタンをクリックすると、Page Help ページにアクセスし、現在のページの詳細を表示できます。

HCM イベント マネージャの実装手順

HCM イベント マネージャをアプリケーション処理に実装するには、次の手順に従います。

1. ビジネス ロジックを実行するビジネス イベントを指定し、必要に応じて新規イベントを定義します。

多くの場合、イベントは、イベント レジストリ コンポーネントでアクセス可能なローカル イベント レジストリに既に定義されています。イベントが定義されていない場合は、新規のビジネス イベントを定義する必要があります。新規イベントを定義するには、次の手順に従います。

- a. PeopleTools のアプリケーション デザイナでアプリケーション クラスを作成します。
イベントレジストリコンポーネントのイベント定義ページで、このアプリケーション クラスのコードを生成するか、またはこの章に記載されているテンプレートコードを使用します。
 - b. イベントレジストリコンポーネントを使用して、イベント マネージャフレームワークにイベントを登録します。
2. PeopleTools のアプリケーション デザイナでイベント ハンドラを作成して、イベントに対応するビジネス ロジックを実行します。
イベント ハンドラを作成するには、“ProcessEvent()” という名前のメソッドを持つアプリケーション クラスを作成します。このメソッドには、この章に記載されているイベント マネージャのインターフェイス コードが含まれます。イベント ハンドラは、1 つ以上のビジネス イベントに対応できます。
 3. イベント レジストリ コンポーネントで、イベント ハンドラをイベントに登録します。
 4. イベントと登録済みのイベント ハンドラをテストします。

イベント ハンドラとイベントをテストするには、次の手順に従います。

- a. ハンドラテストコンポーネントを使用して、スタンドアロン モードでイベント ハンドラをテストします。
- b. イベントテストコンポーネントで、イベントを起動するビジネス プロセスと別にイベントをテストします。
- c. 関連するコンポーネントまたは PeopleTools アプリケーション エンジン プロセスで、イベントを起動するビジネス プロセスを実行し、ビジネス プロセス内でイベントをテストします。
イベントに登録済みのイベント ハンドラは、ビジネス イベントを起動すると、イベント マネージャフレームワークによって自動的に実行されます。

イベントの定義と登録

ビジネス イベントとイベント ハンドラを登録するには、イベント レジストリ (HCR_EM_REGISTRY) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、新規イベントの概要と以下の方法について説明します。

- 新規イベントのアプリケーション クラスの作成
- イベント マネージャ フレームワークへのイベントの登録

新規イベントについて

使用するシステムで起動可能な新規イベントをイベント マネージャ フレームワークで作成する必要がある場合があります。この章の概要の部分でも述べましたが、この場合は、先にビジネス ロジックを実行するビジネス イベントを指定し、必要に応じて新規イベントを定義します。新規イベントを定義するには、以下の作業を行う必要があります。

- PeopleTools のアプリケーション デザイナで、新規イベントの新規アプリケーション クラスを作成します。
- イベント レジストリ コンポーネントを使用して、イベント マネージャ フレームワークに新規イベントを登録します。

既存のビジネス イベントに新規のイベント ハンドラを登録する場合は、この手順を省略できます。

イベントの定義と登録に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
イベント定義	HCR_EM_REGISTRY	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベント マネージャ]、[イベントレジストリ]、[イベント定義]	イベントマネージャフレームワーク内で起動可能にするビジネスイベントを登録します。

新規イベントのアプリケーション クラスの作成

イベント マネージャ フレームワークの各イベントには、それぞれ対応するアプリケーション クラスが必要です。新規イベントの新規アプリケーション クラスを作成するには、PeopleTools のアプリケーション デザイナを使用します。アプリケーション クラスはどのアプリケーション パッケージにも格納できますが、“Events” という名前のサブパッケージの下に配置する必要があります。アプリケーション クラスは、ビジネス イベントの内容に応じて、コア HR アプリケーション パッケージ、または他の PeopleSoft 製品やモジュール (PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 国別機能など) のアプリケーション パッケージのいずれかで作成する必要があります。イベントのアプリケーション クラスの定義に使用するアプリケーション パッケージのオーナーは、そのイベントのオーナーになるため、イベントを起動するコードの作成と管理はそのオーナーが担当します。

新規イベントの新規アプリケーション クラスを作成するには、次の手順に従います。

1. 新規イベントのアプリケーション クラスの作成に使用するアプリケーション パッケージを決定します。
アプリケーション パッケージを決定したら、イベント レジストリ コンポーネントのイベント定義ページを使用して、クラス定義コードを自動的に生成できます。
2. [HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベント マネージャ]、[イベント レジストリ] の順にクリックします。
3. [値の追加] タブをクリックします。
4. 新規イベントの名前 (“MyNewEvent” など) を [イベント名] フィールドに入力し、[追加] ボタンをクリックします。イベント定義ページが表示されます。
5. [イベント クラス定義] グループ ボックスの [イベント クラス コードの生成] ボタンをクリックすると、このイベントの新規アプリケーション クラスの定義に必要な PeopleCode が自動的に作成されます。
参照: 第 22 章、「HCM イベント マネージャの使い方」、「イベント マネージャフレームワークへのイベントの登録」、499ページ
6. [イベント クラス コード] グループ ボックスのコードを全て選択して、クリップボードにコピーします。
アプリケーション クラスに関する必要情報をまだ作成していないため、ページは保存できません。
7. PeopleTools のアプリケーション デザイナにアクセスし、作成した新規イベント定義が含まれるアプリケーション パッケージを編集します。
たとえば、イベント アプリケーション クラスを HR_EVENT_MGR_DEMO ルート パッケージに作成します。
8. 新規イベントの新規アプリケーション クラスを “Events” サブパッケージに作成します。

新規アプリケーション クラスの名前は、イベントレジストリ コンポーネントで定義したイベント名と同じにする必要があります。ルート アプリケーション パッケージには、“Events” という名前のサブパッケージを含め、アプリケーション クラスをこのサブパッケージの一部として作成する必要があります。アプリケーション パッケージの構造は、HR_EVENT_MGR_DEMO:Events:MyNewEvent などにします。必要に応じて、第 2 レベルのアプリケーション パッケージを使用してアプリケーション クラスを構成することもできます。個人関連の全てのイベントをグループ化する場合、“Person” という名前の第 2 レベルのアプリケーション パッケージを使用すると、アプリケーション パッケージの構造は “HR_EVENT_MGR_DEMO:Events:Person:MyNewEvent” になります。

9. 新規アプリケーション クラスをダブルクリックして、対応する OnExecute PeopleCode プログラムを編集します。
10. 編集ウィンドウが表示されるので、イベント定義ページからコピーした生成済みのコードを貼り付けます。

以下のコードは、イベント クラス定義を実装するための参考用コードです。

```
import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;

class MyNewEvent extends HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;

    /* Constructor */
    method MyNewEvent (&EventName as string);

end-class;

method MyNewEvent
    /+ &EventName as string +/
    %Super = create HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent ("MyNewEvent");
end-method;
```

11. [保存] をクリックします。

新規イベントの定義で、PeopleTools のアプリケーション デザイナで行う作業はここまでです。

イベント マネージャ フレームワークへのイベントの登録

イベント定義ページにアクセスします。

イベント定義

登録済イベント

イベント マネージャ - レジストリ

?

イベント名

PersonAdded

*イベント ステータス

非アクティブ

*名称

新規個人追加

*説明

新規個人がデータベースに追加されました。

☐ ログを有効にする
 ☐ マルチチャネル
 ☒ システム データ

キー情報 (参照のみ)

レコード

PERSON

フィルド名

タイプ*

長さ

EMPLID

"ABC"

11

イベント クラス定義

パッケージ

HCR_EM_CORE_EVENTS

イベント クラス コードの生成

パス

Events:Person:PersonAdded

*オーナー ID

HR コア

▼ イベント クラス コード*

```
import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;

class Person Added extends HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent
  method Person Added(&EventName as string);
end-class;

method Person Added
  %Super = create HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent(" Person Added");
end-method;
```

イベント定義ページ

重要: ここで参照するアプリケーション クラスは、データベースに既に存在している必要があります。新規ビジネス イベントの作成時に、関連するアプリケーション クラスをまだ作成していない場合は、最初に [イベント クラス コードの生成] ボタンをクリックし、アプリケーション クラスの作成時に使用する PeopleCode を作成します。アプリケーション クラスに関する必要情報をまだ作成していないため、ページは保存できません。イベントのアプリケーション クラスは、PeopleTools のアプリケーション デザイナで作成します。アプリケーションクラスを作成したら、このページに戻り、イベント マネージャ フレームワークでイベントを登録します。

[イベント名]

イベント マネージャ フレームワーク内で起動可能にするビジネス イベントの名前が表示されます。新規ビジネス イベントを追加する場合は、追加モードでコンポーネントにアクセスしてイベントの名前を入力します。イベント名は、アプリケーション クラスの定義でイベントに指定した名前と同じにする必要があります。

重要: ビジネス イベントに割り当てる名前は、このイベントで選択したアプリケーション クラスに一致させる必要があります。アプリケーション クラスの名前は、[イベント クラス定義] グループ ボックスの [パス] フィールドに表示されます。

[イベント ステータス]

イベントのステータス ([アクティブ] または [非アクティブ]) を選択します。ローカル データベースのアクティブなイベントのみが起動されます。リモート データベースで起動される非アクティブなイベントは無視されます。

[名称]、[説明]	ビジネス イベントの名称と説明を入力します。名称は検索ページで使用されます。説明の部分には、イベントにアクセスするユーザーがその内容を理解できるように、ビジネス イベントの詳細な内容を入力します。
[ログを有効にする]	このチェック ボックスをオンにすると、このイベントのインスタンスごとに、行がログ テーブルに書き込まれます。ログへの書き込みは、ローカル データベースでこのイベントが起動されるたびに行われます。リモート データベースで起動されるイベントについては、このイベントの汎用イベント メッセージを受信するたびにローカル ログに書き込まれます。
[マルチチャネル]	<p>このチェック ボックスをオンにすると、このイベントがイベント マネージャ フレームワーク内のどのアクティブ キューにある場合でも、汎用イベント メッセージがパブリッシュされます。これにより、このイベントに登録済みで並行して実行中の非同期イベント ハンドラで、このイベントの複数のインスタンスを同時に処理できます。このチェック ボックスは、頻繁に処理する大量のイベントで使用し、同時に処理しても安全な場合にオンにします。マルチチャネル処理は、ローカル データベースで起動されるイベントのインスタンスのみに適用されます。このチェック ボックスをオンにすると、並行して実行中の同期ハンドラを使用して、このイベントをリモート データベースで処理することもできます。ただし、ローカル データベースで同期イベント ハンドラを実行する場合は、シングルスレッドのままになります。</p> <p>技術的な観点からは、このチェック ボックスをオンにしてローカル データベースでイベントが起動されると、汎用イベント メッセージのパブリッシュに、汎用マルチチャネル メッセージの 1 つがランダムに選択されます。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理には、HCR_EM_EVENT_QUEUE_1、HCR_EM_EVENT_QUEUE_2、HCR_EM_EVENT_QUEUE_3 の 3 つのマルチチャネル 汎用メッセージが用意されています。各メッセージは、PeopleTools インテグレーション ブローカーの別のキュー (HCR_EVENT_MANAGER_Q1、HCR_EVENT_MANAGER_Q2、および HCR_EVENT_MANAGER_Q3) に割り当てられます。</p> <p>このチェック ボックスをオフにすると、イベント マネージャ フレームワークは、このイベントの非同期イベント ハンドラをシングルスレッドとして実行します。この場合は、対応する HCR_EVENT_MANAGER キューにあるデフォルトの HCR_EM_EVENT メッセージが常に使用され、汎用イベント メッセージがパブリッシュされます。</p>
[システム データ]	PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で、システム データとしてアプリケーションに用意されているイベントの場合、このチェック ボックスはオンになっています。これらのイベントは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で指示されていない限り変更しないでください。
[キー情報 (参照のみ)]	<p>このグループ ボックスは、主に参照用として使用します。表示されるのは、イベントのキーとキーの元になるレコードです。</p> <p>イベントが起動されると、このキー セットはイベント インスタンスに関連付けられます。これらのイベント キーにより、イベント インスタンスとデータベース内の特定のオブジェクト (特定の従業員や職務データ行など) をイベント ハンドラで関連付けることが可能になります。イベントの各インスタンスは同じイベント キーを持ちますが、キー値は異なります。</p>
[レコード]	このイベントに最も頻繁に関連付けられるレコード名を選択します。ここで選択するレコードのキーはイベント キーと同じにする必要があります。これにより、このイベントにアクセスする全てのユーザーにこの情報が表示さ

れます。たとえば、このイベントが一般に職務データ コンポーネントに関連付けられる場合は、“JOB” レコードを選択します。選択したレコードの横には、このレコードのキーが表示されます。イベント マネージャ フレームワークでは、これらの署名キーではなくイベントキーが使用されるため、イベントが起動されると、イベント ハンドラではイベント キーが使用されます。署名キーは参照用として使用します。

- [フィールド名] 選択したレコードのキーとなるフィールドの名前が表示されます。
- [タイプ] 選択したレコードのキーとなる各フィールドのタイプが表示されます。
- [長さ] 選択したレコードのキーとなる各フィールドの長さが表示されます。

[イベント クラス定義]

イベント マネージャ フレームワークでは、各ビジネス イベントを簡単なアプリケーション クラスで表す必要があります。このグループ ボックスでは、ビジネス イベントとアプリケーション クラスを関連付けます。

- [パッケージ] ビジネス イベントに作成したアプリケーション クラスを含むルート アプリケーション パッケージを選択します。アプリケーション クラスはどのアプリケーション パッケージにも格納できますが、“Events” という名前のサブパッケージの下に配置する必要があります。
- [パス] イベントを表すアプリケーション クラスを選択します。“Events” サブパッケージの一部として、選択したパッケージ内にある全てのアプリケーション クラスの有効値が表示されます。

重要: 選択するアプリケーション クラスは、このイベントに指定した名前に一致させる必要があります。

- [オーナー ID] デフォルトでは、アプリケーション パッケージのオブジェクト オーナー ID 値を使用して、アプリケーション クラスのオーナーが表示されます。アプリケーション パッケージにオブジェクト オーナーがない場合は、値を選択できます。
- [イベント クラス コードの生成] このビジネス イベントを表すアプリケーション クラスをまだ作成していない場合は、PeopleTools のアプリケーション デザイナで作成する必要があります。このボタンをクリックすると、このイベント用の新規アプリケーション クラスの OnExecute PeopleCode が自動的に作成されます。[イベント クラス コード] グループ ボックスには、OnExecute プログラム用の PeopleCode が表示されます。このコードをクリップボードにコピーし、アプリケーション クラスの作成時に編集ウィンドウに貼り付けます。
- アプリケーション クラスはまだ作成していませんが、アプリケーション クラスに関する情報はこのページで必要になるため、このページをキャンセルして、アプリケーション クラスの作成後に再度このページに戻る必要があります。

[イベント クラス コード]

このグループ ボックスには、PeopleTools のアプリケーション デザイナでイベントに作成する必要がある新規アプリケーション クラスの OnExecute PeopleCode が表示されます。このグループ ボックスは、[イベント クラス コードの生成] ボタンをクリックすると表示されます。

生成されたコードをコピーして、ページを保存します。次に、PeopleTools のアプリケーション デザイナを開き、コピーしたコードを OnExecute プログラムに貼り付けて、ビジネス イベントのアプリケーション クラスを作成します。最後に、このページに戻り、[アプリケーション パッケージ] フィールドと [パス] フィールドで、PeopleTools のアプリケーション デザイナで作成した新規アプリケーション クラスの値を選択します。

イベント ハンドラの作成

イベント ハンドラとは、特定のタイプのイベントに応答するアプリケーション固有のコードです。イベント ハンドラはイベントに対して登録し、イベントの起動時に、適切なイベント ハンドラがイベント マネージャ フレームワークで実行されるようにする必要があります。

イベント ハンドラを作成するための要件

イベント マネージャ フレームワークに対応するには、イベント ハンドラの作成時に、以下の基準とコード要件に基づいてイベント ハンドラの全てのビジネス ロジックを実装する必要があります。

- アプリケーション クラス内の "ProcessEvent()" という名前のメソッドに、イベント ハンドラのエントリ ポイントを実装する必要があります。

関連するイベントが起動されると、イベント マネージャ フレームワークは ProcessEvent() メソッドを実行します。ProcessEvent() メソッド内では、他のメソッド、クラス、関数のライブラリのコードを自由に参照したり実行できます。このアプリケーション クラスは、必要に応じて他のアプリケーション クラスの拡張にすることができます。

- イベント ハンドラは、アプリケーション内の新規または既存のどのアプリケーション パッケージにも作成できますが、"Handlers" サブパッケージの下に作成する必要があります。
- アプリケーション クラスとそのアプリケーション クラスを含むアプリケーション パッケージのオーナーは、イベント マネージャ フレームワークではなく、関連するアプリケーションにする必要があります。
- イベント マネージャ フレームワークのアプリケーション パッケージから、イベント ハンドラを実装するアプリケーション クラスに baseEvent クラス定義をインポートする必要があります。

イベント ハンドラのアプリケーション クラスにある ProcessEvent() メソッドは、入力パラメータとして、baseEvent クラス オブジェクトのインスタンスを受け取ります。baseEvent クラス オブジェクトは、イベント マネージャ フレームワークにイベント ハンドラを実行させたイベント インスタンスを表しているため、baseEvent クラス オブジェクトでは、このイベントに関連付けられる基本プロパティとメソッドにアクセスできます。イベント ハンドラ コードでは、最低条件として、重要な処理を実行するイベント キーにアクセスする必要があります。

- 詳細なエラー、警告、その他のメッセージをイベント マネージャ フレームワークに返信できるようにするには、HandlerStatus プロパティに適切な値を入力する必要があります。

HandlerStatus プロパティは、baseEvent オブジェクトの一部である複合プロパティです。イベント マネージャ フレームワークでは、イベント ハンドラで baseEvent オブジェクトを使用できるようにします。このプロパティの構造は、HCM_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExecStatusType で定義されます。このプロパティには、総合ステータスのインジケータと例外配列の両方が含まれます。イベント マネージャ フレームワークは、このクラスの実行後にこのプロパティの内容を調べ、適切なアクションを実行します。

複合タイプの HandlerStatus は、ExceptionArray 構造へのエントリの追加を容易にするメソッドも実装します。このメソッドの名前は AddException() で、HCM_EVENT_MANAGER:base:Types:ExceptionType で定義された構造を引数として使用します。

注: イベント マネージャ フレームワークは、イベント ハンドラで使用されたイベント キーを表示する例外エントリを自動的に作成します。これらのイベント キーは、イベント モニター コンポーネントのページに表示されます。

HandlerStatus プロパティ内の構造は、次のとおりです。

- ExecutionStatus (文字列 - 値 "S" (成功)、"F" (失敗))
- ExceptionArray (配列):
 - EXCEPTION_TYPE (文字列 - 値 "E" (例外)、"K" (キー)、"T" (トレース))
 - MESSAGE_SET_NBR (数値)
 - MESSAGE_NBR (数値)
 - MSG_SEVERITY (文字列 - 値 "M" (メッセージ)、"W" (警告)、"E" (エラー))
 - MESSAGE_TEXT (文字列)
 - EXPLAIN_TEXT (文字列)

baseEvent クラスの詳細

イベント マネージャ フレームワークが baseEvent クラスを呼び出すと、baseEvent クラスは、イベント ハンドラのアプリケーション クラスの ProcessEvent メソッドに渡されます。これにより、基本クラスのプロパティとメソッドを使用して、イベントの内部処理を指示するイベント インスタンスに関する詳細情報を取得できます。

次の表は、イベント オブジェクトのパブリック プロパティを示しています。これらのプロパティは、イベント マネージャ フレームワークを実装するアプリケーション開発者を対象にしたものです。

パブリック プロパティ	説明
.Name	イベント インスタンスの名前 (タイプ) が文字列で入力されます。このプロパティの例は、"AssignmentTerminated" や "PersonAdded" などです。同じイベントハンドラを複数のイベントに登録する場合、処理対象の正確なイベントに応じてイベントのロジックが少し異なる場合は、このプロパティで処理を制御できます。
.EventID	ソース ノードでこのイベントインスタンスを識別する一意のシリアル番号が数値で入力されます。通常、このプロパティにはイベントハンドラは必要ありません。イベントハンドラは、フレームワーク内でこのプロパティを主にオーディットと監視用に使用します。
.KeyCount	<p>イベント インスタンスに関連付けられるキーの数が数値で入力されます。イベント キーは、イベントを起動した基本データの各キー フィールドの名前と値になります。</p> <p>配属 (職務) データの変更によって起動されるイベントのイベント キーの例は、EMPLID、EMPL_RCD、EFFDT および EFFSEQ です。したがって、このプロパティには、値 4 が含まれます。</p> <p>通常、イベントタイプが同じインスタンスは、全て同じキーを持ちます。</p>

パブリック プロパティ	説明
.IsLocal	ローカル データベースのアクティビティでイベントが起動された場合に True に設定されるブール値です (“ローカル” という語は、イベントハンドラコードが実行されるドメインに対して相対的にローカルという意味です)。
.EventNode	イベントを起動したアクティビティが発生したデータベースのノード名が文字列で入力されます。
.HandlerTraceEnabled	現在のイベントハンドラでイベントハンドラログのトレースとデバッグ情報を作成するかどうかを示すブール値です。

次の表は、イベント オブジェクトのパブリック メソッドを示しています。これらのメソッドは、イベント マネージャ フレームワークを実装するアプリケーション開発者を対象にしたものです。

パブリック メソッド	説明
.GetKeyList()	<p>イベントインスタンスのキー名を含む文字列の配列を返します。</p> <p>たとえば、職務レコードに関連するイベントでは、以下の要素を含む配列を返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EMPLID • EMPL_RCD • EFFDT • EFFSEQ
.GetKeyType(KeyName)	<p>リクエストされたイベントキーのデータタイプの内容が含まれる文字列を返します (KeyName で識別)。</p> <p>有効な戻り値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NUMBER • CHAR • SIGNEDNUMBER • DATE • DATETIME • TIME <p>例:</p> <pre>&myType = &myEvent. GetKeyType ("EMPLID");</pre> <p>&myType には “CHAR” が含まれます。</p>

パブリック メソッド	説明
<code>.GetNumericKey(KeyName)</code>	<p>リクエストされたイベント キーの値を返します。KeyType で数値として識別されます。</p> <p>例:</p> <pre>Local Number &myKeyvalue; &myKeyValue = &myEvent. GetNumericKey ("EFFSEQ");</pre> <p>&myKeyValue には 1 が含まれます。</p>
<code>.GetCharacterKey(KeyName)</code>	<p>リクエストされたイベント キーの値を返します。KeyType で文字列として識別されます。</p> <p>例:</p> <pre>Local String &myKeyvalue; &myKeyValue = &myEvent. GetCharacterKey ("EMPLID");</pre> <p>&myKeyValue には KU0010 が含まれます。</p>
<code>.GetDateKey(KeyName)</code>	<p>リクエストされたイベント キーの値を返します。KeyType で日付として識別されます。</p> <p>例:</p> <pre>Local Date &myKeyvalue; &myKeyValue = &myEvent. GetDateKey ("EFFDT");</pre> <p>&myKeyValue には 2005-12-30 が含まれます。</p>
<code>.GetTimeKey(KeyName)</code>	実装されません。
<code>.GetDateTimeKey(KeyName)</code>	実装されません。

イベント ハンドラのスケルトン コード

イベント ハンドラ クラスを作成する場合に、以下のスケルトン コードを開始点として使用できます。

```
import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;
import HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExceptionType; /* Optional */

class myHandlerClass
  /* Dummy Constructor */
  method myHandlerClass ();

  method ProcessEvent (&inEvent As HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent);

private
  instance HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent &myEvent; /* if you want to access
the event elsewhere */

end-class;
```

```

method myHandlerClass
end-method;

method ProcessEvent
  /* &inEvent as HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEventHandler +/

  /* The following 2 lines are required only if you want to pass detail info
  about */
  /* Errors, Warnings or other Messages back to the Event Manager framework. */
  Local HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExceptionType &myExceptionEntry;
  &myExceptionEntry = create HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExceptionType();

  &myEvent = &inEvent; /* if you want to access the event properties and
  methods elsewhere in this class */
  /* ===== */
  /* ----- Business Logic goes here ----- */
  /*
  /* ===== */
End-method;

```

“myHandlerClass” という名前のイベント ハンドラをイベント マネージャ フレームワークのインターフェイスにする場合、上記のコード内の以下の行が最低限必要になります。

```

import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;

method ProcessEvent(&inEvent As HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent);

method ProcessEvent

```

エラーと警告の処理

実行時に、ユーザーに通知する必要があるエラー、警告、その他の問題がイベント ハンドラに発生する場合があります。ほとんどの場合、この情報はイベント マネージャ フレームワークに戻しますが、この目的は、イベント モニター コンポーネントで確認できるようにするためです。この情報はイベント マネージャ フレームワークに必ず戻す必要はありませんが、戻す情報が多いほど、管理者が問題を簡単に解決できるようになります。

イベント マネージャ フレームワークでは、単純な例外配列スキームを使用して、イベント ハンドラから戻されるステータス情報を受け取り、イベント モニター コンポーネントに表示します。例外配列の構造は、メッセージ カタログのメッセージの構造と同じです。メッセージ カタログには、メッセージ セット番号、メッセージ番号、重要度レベル、メッセージ テキスト、および説明テキストが配列の各行に格納されます。メッセージ セット番号とメッセージ番号が重要になるのは、イベント マネージャ フレームワークに戻す情報がメッセージ カタログに記述される場合のみです。それ以外の場合は、メッセージ テキスト、説明テキスト、重要度のプロパティだけに値を入力して、この 2 つのプロパティは空白にできます。

前述のように、イベント ハンドラに渡されるイベント オブジェクトには、イベント ハンドラのステータスを通知するのに使用される複合プロパティが含まれます。ProcessEvent() メソッドを終了する前に、総合ステータスの単純プロパティに、少なくとも“S”(成功)または“F”(失敗)のいずれかの値を入力する必要があります。総合ステータス プロパティに値を入力しないと、イベント マネージャ フレームワークは、イベント ハンドラが正常に実行されたと認識します。これは任意ですが、複合プロパティの例外配列によって情報を戻すことを推奨します。たとえば、イベント オブジェクトが &inEvent としてハンドラに戻される場合は、総合ステータス プロパティに以下の値を入力します。

```
&inEvent.HandlerStatus.ExecutionStatus = "S";    /* Handler terminated
successfully */
```

イベント ハンドラが受け取るイベント オブジェクトに埋め込まれる例外配列については、直接扱う必要はありません。代わりに、この配列にアイテムを追加する場合は、AddException() メソッドを呼び出し、例外情報が既に入力されたオブジェクトを渡します。渡すオブジェクトは ExceptionType TypeClass のインスタンスになります。このクラスには、以下のプロパティが含まれます。

- メッセージ セット番号
- メッセージ番号
- メッセージの重要度
- メッセージ テキスト
- 説明テキスト(詳細)

以下の例は、イベント オブジェクトが inEvent としてイベント ハンドラに渡される場合に、メッセージ カタログに保存されていないメッセージの例外配列にメッセージを追加する方法を示しています。

```
&myExceptionEntry = create HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExceptionType();

&myExceptionEntry.MESSAGE_SET_NBR = 0;
&myExceptionEntry.MESSAGE_NBR = 0;
&myExceptionEntry.MSG_SEVERITY = "M";
&myExceptionEntry.MESSAGE_TEXT = "Hello World!";
&myExceptionEntry.EXPLAIN_TEXT = "";

&inEvent.HandlerStatus.AddException(&myExceptionEntry);
```

メッセージ カタログには、メッセージ セット番号とメッセージ番号を入力する必要があります。また、イベント モニター フレームワークで渡したり変換することができない代替トークンが含まれる場合もあるため、メッセージ カタログからテキストと説明テキストを取得する必要もあります。

注: AddException() メソッドを使用して、MSG_SEVERITY プロパティが“E”(エラー)に設定されている例外配列エントリを作成すると、イベント ハンドラの総合実行ステータス インジケータは自動的に“F”(失敗)に設定されます。つまり、総合ステータス プロパティは個別に設定する必要ありません。

注: イベント マネージャ フレームワークでは、イベントに登録した全てのイベント ハンドラが実行されます。特定のイベント ハンドラでエラーが発生した場合でも、イベント マネージャ フレームワークでは、イベントに登録されている残りのイベント ハンドラが実行されます。イベント マネージャ フレームワークでは、イベント ハンドラが発生させる例外をキャッチできます。登録済みの全てのイベント ハンドラを実行する前にイベント マネージャ フレームワークが終了することはありません。ただし、イベント マネージャ フレームワークには、例外処理やエラー処理のサブシステムがないため、イベント マネージャ フレームワークではキャッチできない例外をイベント ハンドラ コードで発生させないようにする必要があります。このような例外の 1 つに、PeopleCode エラー ステートメントがあります。このため、イベント ハンドラでは、エラー ステートメントの例外を発生させないようにします。これを行わないと、イベント マネージャ フレームワークが停止し、イベントに登録されている残りのイベント ハンドラが実行されなくなります。

コンポーネント インターフェイスと SOA サービスの例外

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、イベント ハンドラ内でコンポーネント インターフェイス (CI) とサービス指向アーキテクチャ (SOA) サービスが一般的に使用されることを前提にしています。このため、イベント マネージャ フレームワークには、このようなソースから例外をイベント マネージャ フレームワークに戻し、最終的にイベント モニター コンポーネントに渡すことを容易にする機能が用意されています。

CI や SOA のサービスによって発生する例外は、ログに書き込まれる例外と同様の形式で、イベント モニター コンポーネントのハンドラ例外ページに表示されます。重要度の情報は、メッセージの前に、“[CI]” や “[SOA]” を付けて表示されます。

イベント ハンドラ例外のログの構造は、CI 用の PeopleTools や SOA サービス用の SOA フレームワーク内の例外の構造に似ています。これらの例外が発生したら、原則的にイベント マネージャ フレームワークに戻す必要があります。イベント マネージャ フレームワークには、この処理を簡単にするためのメソッドが 2 つ用意されています。1 つは以下のメソッドです。

```
.HandlerStatus.AddCIException(&arrExceptions as array of Record, &Severity as string)
```

このメソッドでは、指定した例外の重要度に従って、標準の CI 例外配列から全ての例外をイベント ハンドラの例外ログにコピーします。重要度のコードは、“E” (エラー)、“W” (警告)、“M” (メッセージ) です。

複数の重要度コードを連結して指定することもできます。エラーと警告の両方をコピーする場合は、重要度コードを “EW” のように指定します。重要度コードを空白にすると、重要度に関係なく全ての例外がコピーされます。

このメソッドに渡される例外配列の構造は、標準の HCM CI ラッパーの FUNCLIB_CI バージョンで 사용되는例外配列と同一です。これは Record.CI_EXCEPTIONS の配列になります。FUNCLIB_CI ラッパーを使用している場合は、この関数で使用する例外配列をこのメソッドに渡すことができます。

CI を直接呼び出す場合は、最初に CI 例外を画面から %Session.PSMessages オブジェクトにリダイレクトするように PeopleTools に指示する必要があります。次に、このアイテムを PSMessages から Record.CI_EXCEPTIONS の配列にコピーし、これらの例外をこのメソッドにコピーできるようにします。

2 つ目は以下のメソッドです。

```
.HandlerStatus.AddSOAException(&inException As HMCR_TYPES:ExceptionTypes:ExceptionType_v1_0:ExceptionType)
```

このメソッドでは、標準の SOA 例外タイプ構造から、全ての例外をイベント ハンドラの例外ログにコピーします。

SOA サービスを呼び出すと、“try/catch” ブロックのサービスが常に実行されます。通常、イベント ハンドラでは、サービスを実行して、定義済みの例外が発生した場合にその例外をキャッチします。全ての例外をキャッチするように設定すると、特に呼び出されていない例外も全てキャッチされます。

SOA 例外は CI 例外と少し異なります。SOA サービスを呼び出す場合は、例外発生時に管理する例外は 1 つだけです。このメソッドに渡す例外は、“try/catch” ブロックでキャッチする例外構造になります。

以下の例は、例外をイベント マネージャに戻す SOA サービス呼び出しを示しています。

```
* try
*     &MyService.MyServiceManager.LocateService(&ServiceName);
*     &MyService.DoService();
*     catch <NamedException1> &e1
*         &myEvent.HandlerStatus.AddSOAException(&e1.ServiceException);
*         --- other exception processing ---
*     catch <NamedException2> &e2
*         &myEvent.HandlerStatus.AddSOAException(&e2.Service
Exception);
*         --- other exception processing ---
*     . . .
*     catch HMCRC_FRAMEWORK:ServiceFramework:baseClasses:baseException
&e0
*         &myEvent.HandlerStatus.AddSOAException(&e0.Service
Exception);
*         --- other exception processing ---
*     end-try
```

このコードで “<NamedExceptionX>” と表示されているアイテムは、SOA レジストリに登録されているアプリケーション固有の例外を表します。これらは、指定した SOA サービスによってスローされる例外として知られています。HMCRC_FRAMEWORK:ServiceFramework:baseClasses:baseException という名前のクラスは、全ての例外をキャッチするためのクラスで、汎用 SOA 例外のシェイプを定義します。

トレース/デバッグ情報の表示

イベント レジストリ コンポーネントの登録済ハンドラページには、イベント ハンドラの実行ログにトレース/デバッグ情報を書き込むかどうかを指定するための [トレース] チェック ボックスが表示されます。この機能は、イベント ハンドラの [ログ] フィールドで [全て] を選択した場合にのみ有効になります。

[トレース] チェック ボックスをオンにすると、イベント ハンドラによって、ハンドラの実行ログにトレース/デバッグ情報が生成されます。ログに書き込まれるトレース/デバッグ情報の量は、イベント ハンドラの作成時に決定します。通常は、イベント ハンドラ ログを調べる場合に、イベント ハンドラの実行パスをトレースできるように十分な情報が書き込まれるようにします。

このチェック ボックスで選択された値は、イベントの HandlerTraceEnabled Boolean プロパティを使用して、イベント ハンドラで使用されます。このプロパティが “True” の場合は、イベント ハンドラによってトレース/デバッグ情報が例外構造に作成されます。PeopleSoft ソフトウェアでは、トレース/デバッグ情報を簡単に作成するための以下のメソッドが用意されています。

```
&myEvent.HandlerStatus.AddTraceEntry(&Heading, &Detail);
```

このコードの “&Heading” は、トレース/デバッグ情報の見出しとして表示される文字列になります。“&Detail” は、作成するトレース/デバッグ情報の詳細を表す文字列になります。

トレース/デバッグ情報は、イベント モニター コンポーネントに表示されます。以下に例を示します。



Sample Trace Entry

More detail about the state of the Handler execution.

イベント モニター コンポーネントに表示されるトレース/デバッグ情報の例

この情報は、次のコードから作成されます。

```
&myEvent.HandlerStatus.AddTraceEntry("Sample Trace Entry", "More detail about the
state of the Handler execution.");
```

イベント ハンドラによって生成されるトレース/デバッグ情報に関するルールは、特に決まっています。これは各自の判断で行います。イベント ハンドラ コードのデバッグとトラブルシューティングに有効と判断できる情報にします。

トレース/デバッグ情報は、HandlerTraceEnabled プロパティが "True" の場合にのみ作成します。したがって、コードは以下ようになります。

```
If &myEvent.HandlerTraceEnabled Then
    &myEvent.HandlerStatus.AddTraceEntry("Method ABC()", "No data returned for:
" | &EmpId);
End-If;
```

サンプルのイベント ハンドラ コード

このセクションでは、ProfileItemUpdated イベントに応答する実用的なイベント ハンドラの例について説明します。

このイベント ハンドラでは、基になるイベントを調べて、イベントを起動したプロファイル アイテムが個人プロファイルに属しているかどうかを特定します。このプロファイル アイテムが個人プロファイルに属しており、管理者のコンピテンシー評価を表している場合は、対応するアイテムが管理者の "To Do" リストから削除されます。アプリケーション クラスは JPM_ItemHandler になります。JPM_ItemHandler は、"JPM_SYNDICATION" という名前のアプリケーション パッケージ内にあります。

このイベント ハンドラのコードは、以下ようになります。

```
import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;
import HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExceptionType; /* We'll be passing
exceptions back */

class JPM_ItemHandler
    /* Dummy Constructor */
    method JPM_ItemHandler();

    method ProcessEvent(&inEvent As HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent);

private
    instance HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent &myEvent;

end-class;

method JPM_ItemHandler
    /* Dummy Constructor */
end-method;

method ProcessEvent
```

```

/+ &inEvent as HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent +/

Local HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExecStatusType &myStatus;

/* We define the ExceptionType object because we want to pass detailed info
*/
/* about the execution of this method back to the Event Manager framework.
*/
Local HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExceptionType &myExceptionEntry;

&myEvent = &inEvent;      /* Make the Event object available throughout the
class */

/* Get the Event Keys – these vary, depending upon the Event – for this event,
there are 6 keys */
Local Number &keyProfileID = &myEvent.GetNumericKey("JPM_PROFILE_ID");
Local String &keyCatType = &myEvent.GetCharacterKey("JPM_CAT_TYPE");
Local String &keyCatItemID = &myEvent.GetCharacterKey("JPM_CAT_ITEM_ID");
Local String &keyCatQUAL1 = &myEvent.GetCharacterKey("JPM_CAT_ITEM_QUAL1");
Local String &keyCatQUAL2 = &myEvent.GetCharacterKey("JPM_CAT_ITEM_QUAL2");
Local Date &keyEffdt = &myEvent.GetdateKey("EFFDT");

/*----- Business Logic starts here -----
--- */
/* The profile item that raised the event is identified by the keys above. */
/* If this is a "Person" profile, and the Item is a Competency, and      */
/* and the Evaluation Type is "M", then delete the corresponding entry */
/* from the manager's "To-Do" list.
*/

Local string &ProfileEmplid, &OwnerEmplid;

If &keyCatType = "COMPETENCY" And &keyCatQUAL1 = "M" Then
    SQLExec("SELECT EMPLID, JPM_OWNER_EMPLID FROM PS_JPM_PROFILE WHERE  JPM_
PROFILE_ID = :1", &ProfileEmplid, &OwnerEmplid, &keyProfileID);
    If All(&ProfileEmplid, &OwnerEmplid) Then

        /* This is a "Person" profile, and there is an Owner ID – delete the
        corresponding ToDo entry */
        SQLExec("DELETE FROM PS_JPM_TO_DO_LIST WHERE JPM_OWNER_EMPLID=:1 AND JPM_
PROFILE_ID=:2 AND JPM_CAT_TYPE=:3 AND JPM_CAT_ITEM_ID=:4", &OwnerEmplid, &key
ProfileID, &keyCatType, &keyCatItemID);

    End-If;
End-If;

/* As an example – we'll send some detail status back to the Event Manager
Framework */
&myExceptionEntry = create HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExceptionType();

```



```

&myExceptionEntry.MESSAGE_SET_NBR = 9999;
&myExceptionEntry.MESSAGE_NBR = 1234;
&myExceptionEntry.MSG_SEVERITY = "M";
&myExceptionEntry.MESSAGE_TEXT = "Hello World!";
&myExceptionEntry.EXPLAIN_TEXT = "";
&myEvent.HandlerStatus.AddException(&myExceptionEntry);

&myExceptionEntry.MESSAGE_SET_NBR = 0;
&myExceptionEntry.MESSAGE_NBR = 0;
&myExceptionEntry.MSG_SEVERITY = "M";
&myExceptionEntry.MESSAGE_TEXT = "Everything is Just Fine!";
&myExceptionEntry.EXPLAIN_TEXT = "";
&myEvent.HandlerStatus.AddException(&myExceptionEntry);

If &myEvent.HandlerTraceEnabled Then
    &myEvent.HandlerStatus.AddTraceEntry("Sample Trace Entry", "Trace Detail
Information.");
End-If;
/* ----- End of Example Detail Status -----
----- */

End-method;
```

イベント マネージャ フレームワークに対応するには、上記のコードから以下の行をイベント ハンドラのコードに含める必要があります。

```

import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;
import HCR_EVENT_MANAGER:Base:Types:ExceptionType; /* We'll be passing
exceptions back */

method ProcessEvent (&inEvent As HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent);

method ProcessEvent
```

イベント ハンドラの登録

このセクションでは、イベント ハンドラをビジネス イベントに登録する方法について説明します。

イベント ハンドラの登録に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
登録済ハンドラ	HCR_EM_REGISTRY2	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベントマネージャ]、[イベントレジストリ]、[登録済ハンドラ]	選択したビジネスユニットにイベントハンドラを登録します。指定したタイプのイベントが起動された旨の通知をイベントマネージャフレームワークが受信すると、このページで指定したルールに従ってイベントハンドラが実行されます。

ビジネス イベントへのイベント ハンドラの登録

登録済ハンドラ ページにアクセスします。

イベント定義

登録済ハンドラ

イベント マネージャ - レジストリ

?

イベント名

AssignmentMilitaryRankChanged

イベント ステータス

アクティブ

☐ ログを有効にする

☐ マルチチャネル

ハンドラ実装

ハンドラ オブジェクト

ログ/トレース

...

* 順序	システム テーブル	* ハンドラ	* アクション クラス	名称	* ステータス		
10	<input checked="" type="checkbox"/>	HCR_EM_CORE_EVENTS	Handlers:UpdateMilitaryNames	名前再作成履歴	アクティブ	+	-
20	<input checked="" type="checkbox"/>	HCR_EM_CORE_EVENTS	Handlers:SyncMilitaryRankToJPM	JPM ファイル コンテナーの更新	アクティブ	+	-

登録済ハンドラ ページ (1/3)

イベント定義

登録済ハンドラ

イベント マネージャ - レジストリ

?

イベント名

AssignmentMilitaryRankChanged

イベント ステータス

アクティブ

☐ ログを有効にする

☐ マルチチャネル

ハンドラ実装

ハンドラ オブジェクト

ログ/トレース

...

* 順序	システム テーブル	* ハンドラ	* アクション クラス	* イベント ソース	* ハンドラ モード		
10	<input checked="" type="checkbox"/>	HCR_EM_CORE_EVENTS	Handlers:UpdateMilitaryNames	ローカルのみ	同期	+	-
20	<input checked="" type="checkbox"/>	HCR_EM_CORE_EVENTS	Handlers:SyncMilitaryRankToJPM	ローカルのみ	同期	+	-

登録済ハンドラ ページ (2/3)

イベント定義

登録済ハンドラ

イベント マネージャ - レジストリ

?

イベント名

AssignmentMilitaryRankChanged

イベント ステータス

アクティブ

☐ ログを有効にする

☐ マルチチャネル

ハンドラ実装

ハンドラ オプション

ログ/トレース

* 順序	システム データ	* パッケージ	* アプリケーション クラス パス	* ログ	トレース		
10	<input checked="" type="checkbox"/>	HCR_EM_CORE_EVENTS	Handlers:UpdateMilitaryNames	なし	<input type="checkbox"/>	+	-
20	<input checked="" type="checkbox"/>	HCR_EM_CORE_EVENTS	Handlers:SyncMilitaryRankToJPM	なし	<input type="checkbox"/>	+	-

登録済ハンドラ ページ (3/3)

注: 特定のイベント ハンドラを登録できるイベントの数は制限されません。

[ハンドラ実装]

[順序]

このイベントの起動時に、登録済みのハンドラが実行される順番を指定します。複数のイベント ハンドラがイベントに登録されている場合、実行順序は重要になります。

注: イベント ハンドラの実行順序は、同じモード（同期または非同期のいずれか）で実行中の他のイベント ハンドラに対して相対的な順番になります。

[システム データ]

このチェック ボックスをオンにすると、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、システム データとして、このイベントにイベント ハンドラが登録されます。このシステム データは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で指示されない限り変更しないでください。

[パッケージ]

イベント ハンドラのアプリケーション クラスを格納するルート アプリケーション パッケージを選択します。アプリケーション クラスはどのアプリケーション パッケージ内にも格納できますが、“Handlers” という名前のサブパッケージの下に配置する必要があります。

[アプリケーション クラス パス]

イベント ハンドラを実装するアプリケーション クラスを選択します。“Handlers” サブパッケージの一部として、選択したパッケージ内にある全てのアプリケーション クラスの有効値が表示されます。

[名称]

参照用に、イベント ハンドラの内容を簡単に入力します。

[ステータス]

イベント ハンドラのステータスとして [アクティブ] または [非アクティブ] を選択します。このイベントが起動されると、ステータスが “アクティブ” のイベント ハンドラのみが実行されます。

[ハンドラ オプション]

[イベント ソース]

このイベントでイベント ハンドラを実行する場合のソースを選択します。イベント マネージャ フレームワークでは、ローカル イベントとリモート イベントの両方をサポートしています。

有効値は以下のとおりです。

- [ローカル & リモート]: ローカル データベースまたはリモート データベースのいずれかで起動されるイベントのインスタンスで、イベント ハンドラを実行します。
- [ローカルのみ]: ローカル データベースのみで起動されるイベントのインスタンスで、イベント ハンドラを実行します。
- [リモートのみ]: リモート データベースのみで起動されるイベントのインスタンスで、イベント ハンドラを実行します。

[ハンドラ モード]

このイベントでイベント ハンドラを実行する場合のモードを選択します。この設定は、ローカル データベースで起動されるイベントのみに適用されます。

有効値は以下のとおりです。

- [非同期]: イベント ハンドラを分離 (バックグラウンド) プロセスとして実行します。イベントを起動するプロセスは、登録済みの全ての非同期イベント ハンドラが実行されるまで待機しません。
- [同期]: イベントを起動するビジネス プロセスとインラインでイベント ハンドラを実行します。イベントを起動するプロセスは、登録済みの全ての同期イベント ハンドラが実行されるまで待機します。

注: イベント マネージャ フレームワークは、[順序] 列に指定した値に関係なく、常に同期ハンドラを実行してから非同期ハンドラを実行します。

[ログ/トレース]

[ログ]

イベント ハンドラの実行ログを記録する方法を選択します。このオプションが適用されるのは、選択したイベントのイベント定義ページで、[ログを有効にする] チェック ボックスをオンにした場合のみです。

有効値は以下のとおりです。

- [全て]: このイベント ハンドラの全ての実行ログを記録します。このオプションは、選択したイベントのイベント定義ページで、[ログを有効にする] チェック ボックスをオンにした場合にのみ使用できます。
- [エラー]: 実行が失敗した場合のみ、このイベント ハンドラの実行ログを記録します。イベントのログを有効にせずにイベント ハンドラでこのオプションを選択すると、イベント ハンドラが失敗した場合に、イベント ログとイベント ハンドラのログが作成されます。
- [なし]: このイベント ハンドラの実行ログを記録しません。

[トレース]

このチェック ボックスをオンにすると、このイベント ハンドラの実行ログにトレース/デバッグ情報が書き込まれます。このオプションは、イベント ハンドラのデバッグに使用します。このオプションが使用できるのは、[ログ] フィールドで [全て] を選択して、イベント ハンドラの全ての例外をログに記録するように指定した場合のみです。

イベント ハンドラとイベントのテスト

このセクションでは、イベントのテストの概要と以下の方法について説明します。

- イベント ハンドラのテスト
- イベントのテスト

イベントのテストについて

通常、本稼動環境では、コンポーネントでアプリケーション データを変更するか、または PeopleTools アプリケーション エンジン プロセスを実行してイベントを起動します。イベントが起動されると、イベント マネージャ フレームワークは、イベント レジストリ コンポーネントで定義したイベントに登録されているイベント ハンドラを実行します。イベントをテストする場合は、最下位レベルのイベント ハンドラから開始し、次に、イベントを起動する最上位レベルのビジネス プロセスをテストする必要があります。このため、イベントをテストする場合は、次の手順に従います。

1. ハンドラ テスタ コンポーネントを使用して、スタンドアロン モードでイベント ハンドラをテストします。
2. イベント テスタ コンポーネントで、イベントを起動するビジネス プロセスと別にイベントをテストします。
3. 関連するコンポーネントまたは PeopleTools アプリケーション エンジン プロセスで、イベントを起動するビジネス プロセスを実行し、ビジネス プロセス内でイベントをテストします。

イベント ハンドラとイベントのテストに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
イベント マネージャ - イベント ハンドラのテスト	HCR_EM_HNDLR_TEST	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベント マネージャ]、[ハンドラ テスタ]、[イベント マネージャ - イベント ハンドラのテスト]	イベントを起動せずに、スタンドアロン プロセスとして単一のイベント ハンドラをテストします。この機能は、イベント ハンドラのテストとデバッグに使用します。
イベント マネージャ - アドホックテスト イベントの起動	HCR_EM_TESTER	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベント マネージャ]、[イベント テスタ]、[イベント マネージャ - アドホックテスト イベントの起動]	イベントを通常起動するビジネス プロセスを呼び出さずに、選択した定義済みのビジネス イベントをアドホックベースで起動します。これにより、イベントを通常起動するビジネス オペレーションを実行せずに、イベントをテストできます。

イベント ハンドラのテスト

イベント マネージャ - イベント ハンドラのテスト ページにアクセスします。

イベント マネージャ – イベント ハンドラのテスト

イベント

PerformanceDocCompleted

レコード

EP_APPR_ROLE

登録済ハンドラ

EP_EVENTS:Handlers:PerformanceDocCompleted

実行

ハンドラ例外

イベント キー

EP_APPRAISAL_ID: 1

EP_ROLE: a

EP_REVIEWER_ID: b

イベント キー

フィールド名	値	タイプ	長さ
EP_APPRAISAL_ID	1	~123~	8
EP_ROLE	a	~ABC~	8
EP_REVIEWER_ID	b	~ABC~	11

イベント マネージャ – イベント ハンドラのテスト ページ

[イベント]

実行するイベント ハンドラが登録されているイベントを選択します。イベント ハンドラは、常にイベントのコンテキスト内で実行する必要があります。

[レコード]

イベントを選択すると、イベント レジストリ コンポーネントの [キー情報 (参照のみ)] グループ ボックスのイベントに関連付けられているデフォルトレコードが表示されます。このレコードを使用してイベント キーが定義され、このイベントのキー情報が提供されます。通常、このレコードは、データ変更によりイベントを通常起動するデータベースのレコードになります。デフォルトレコードとは別のレコードを選択することもできますが、イベントを通常起動するレコードと同じキーにする必要があります。

[登録済ハンドラ] グループ ボックスには、イベント レジストリ コンポーネントで選択したローカル データベースのイベントに登録されているイベント ハンドラが表示されます。[イベント キー] グリッドにはキーも表示され、キー値を入力できます。

[登録済ハンドラ]

このグループ ボックスには、イベント レジストリ コンポーネントで選択したイベントに登録済みのイベント ハンドラが表示されます。

[実行]

このボタンをクリックすると、選択したイベント ハンドラが実行されます。イベント ハンドラを実行する前に、イベント、レコードおよびイベント ハンドラを選択し、イベント ハンドラに渡すイベント キー値を入力する必要があります。イベント キーの値は、[イベント キー] グループ ボックスの [値] 列に入力します。一度に実行できるイベント ハンドラは 1 つのみです。

イベント ハンドラは、イベント レジストリ コンポーネントの設定に関係なくすぐに実行されます。このページでイベント ハンドラをテストする場合、イベ

518

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

ントは起動されません。また、PeopleTools インテグレーション ブローカーの汎用メッセージもパブリッシュされず、ログも生成されません。

このボタンの左側には、イベント ハンドラの実行ステータスが表示されます。イベント ハンドラによって例外が作成された場合は、このページの [ハンドラ例外] グループ ボックスに直接表示されます。



イベント ハンドラをまだ実行していないことを示します。



イベント ハンドラが正常に実行されたことを示します。



イベント ハンドラの実行中に致命的なエラーが発生したことを示します。

[ハンドラ例外]

このグループ ボックスには、イベント ハンドラの実行結果が表示されます。表示される情報は、イベント キー、例外、およびイベント ハンドラの実行に関連付けられるトレース情報です。



イベント ハンドラの実行中に使用されるイベント キーが表示されます。イベント キーは、イベント ハンドラの実行後に [ハンドラ例外] グループ ボックス常に表示されます。



イベント ハンドラの実行中に生成された例外情報が表示されます。



イベント ハンドラの実行中に生成された警告です。



イベント ハンドラの実行中に生成されたエラーです。



イベント ハンドラの実行中に生成されたトレース情報です。

[イベント キー]

このグループ ボックスには、選択したイベントとレコードの一部になる各イベント キーの値を入力します。入力した値は、テスト中にイベント ハンドラに渡されます。[値] フィールドに入力するデータで検証は実行されません。データ値は正しい形式で入力し、文字データを入力する場合は、必要に応じて大文字と小文字を使い分けます。入力したキー値は、アプリケーション内からイベントを起動する場合と同じように、イベント ハンドラで使用されます。

イベントのテスト

イベント マネージャ - アドホック テスト イベントの起動ページにアクセスします。

イベント マネージャ – アドホック テスト イベントの起動

イベント

PerformanceDocCompleted

?

イベントの起動

レコード

EP_APPR_ROLE

?

イベント モニターの起動

レジストリ情報

イベント ステータス

アクティブ

☒ ログを有効にする

☐ マルチチャネル

イベント ハンドラ	モード	ログ	ステータス
EP_EVENTS:Handlers:PerformanceDocCompleted	非同期	なし	アクティブ

このボックスを閉じる

イベント キー

フィールド名	値	タイプ	長さ
EP_APPRAISAL_ID		123	8
EP_ROLE		ABC	8
EP_REVIEWER_ID		ABC	11

イベント マネージャ – アドホック テスト イベントの起動ページ

- [イベント]

起動するイベントを選択します。起動できるイベントは、ローカル イベント レジストリでアクティブなイベントのみです。イベントのステータスが不明の場合は、[イベント] フィールドでイベントを選択して、[イベント情報] ボタンをクリックします。
- [レコード]

イベントを選択すると、イベント レジストリ コンポーネントの [キー情報 (参照のみ)] グループ ボックスのイベントに関連付けられているデフォルト レコードが表示されます。このレコードを使用してイベント キーが定義され、このイベントのキー情報が提供されます。通常、このレコードは、データ変更によりイベントを通常起動するデータベースのレコードになります。デフォルト レコードとは別のレコードを選択することもできますが、イベントを通常起動するレコードと同じキーにする必要があります。

[イベント キー] グリッドにはキーが表示され、キー値を入力できます。

i

[イベント情報]

ボタンをクリックすると、選択したイベントに関してイベント レジストリ コンポーネントで選択した情報と登録済みのイベント ハンドラが表示されます。イベントの詳細は、[レジストリ情報] グループ ボックス内に表示されます。

[イベントの起動]

[イベント キー] グリッドの各イベント キーの [値] フィールドに値を入力したら、このボタンをクリックします。指定したイベント キーと値を使用して、イベント マネージャ フレームワークでイベントが起動されます。

コンポーネントや PeopleTools アプリケーション エンジン プロセスなどの通常のビジネス プロセスからイベントを起動した場合と同じように、イベントが処理され、イベントに登録済みのアクティブな全てのイベント ハンドラが実行されます。

520

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

イベントの処理は、イベント レジストリ コンポーネントで定義したローカル イベント レジストリ設定に基づいて制御されます。レジストリに登録されているイベント ハンドラに応じて、アクティブな同期イベント ハンドラがこのページからインラインで実行され、PeopleTools インテグレーション ブローカーの汎用メッセージ サブスクリプションで全ての非同期イベント ハンドラが実行されます。

[レコード] フィールドの下には、イベントが正常に起動されたかどうかが表示されます。このメッセージには、ローカル ノードのイベント ID とイベント チャンネル (マルチチャンネル イベントの場合) も表示されます。

[イベント モニターの起動] イベントを起動したら、このリンクをクリックして、起動したイベントの実行ステータスを表示します。新しいブラウザ ウィンドウが開いてイベント モニター コンポーネントが起動し、このイベント インスタンスの情報が自動的に表示されます。

参照: [第 22 章、「HCM イベント マネージャの使い方」、「イベントの監視」、523 ページ](#)

[レジストリ情報]

このグループ ボックスには、選択したイベントに関してイベント レジストリ コンポーネントで選択した情報と登録済みのイベント ハンドラが表示されます。このグループ ボックスは、イベントを選択して [イベント 情報] ボタンをクリックした場合にのみ表示されます。このデータを変更するには、選択したイベントのイベント レジストリ コンポーネントにアクセスする必要があります。

[イベント キー]

このグループ ボックスには、起動するイベントの一部になる各イベント キーの値を入力します。[値] フィールドに入力するデータで検証は実行されません。データ値は正しい形式で入力し、文字データを入力する場合は、必要に応じて大文字と小文字を使い分けます。入力したキー値は、アプリケーション内からイベントを起動する場合と同じように、イベント ハンドラで使用されます。

イベントの起動

イベント マネージャ フレームワークのイベントであるビジネス イベントの発生を確認したら、イベント マネージャ フレームワークでイベントを起動できます。

イベント マネージャ フレームワークには、イベントの作成と起動を行うための API が用意されています。この API コードは次のとおりです。

```
Import HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory;
Import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;
Local HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory &myEventFactory;
Local HCR_EVENT_MANAGER:base:baseEvent &myEvent;

&myEventFactory = create HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory();
&myEvent = &myEventFactory.CreateEventObject("EventName");
&myEvent.RaiseEventFromRecord(&Record);
```

イベントの名前をイベント ファクトリに渡します。イベント ファクトリによって、イベント オブジェクトのインスタンスが返されます。次に、イベント オブジェクトで `RaiseEventFromRecord()` メソッドを実行し、イベントを起動させるレコード オブジェクトを渡します。フレームワークは、このレコード オブジェクトのキーフィールドの値に基づいて、イベント キーを特定します。

重要: イベント オブジェクトをインスタンス化しても、イベントは自動的に起動されません。イベントを起動してイベント マネージャ フレームワークの後続の処理を開始するには、イベントの `RaiseEventFromRecord()` メソッドを呼び出す必要があります。

次の例では、“AssignmentMilitaryRankChanged”（兵役ランクの変更）と呼ばれるイベントを作成したとします。このイベントは、個人の配属（職務レコード）インスタンスの兵役ランクを割り当てまたは更新するビジネス イベントを表します。この配属（職務レコード行）のランク属性を変更する場合は、イベントを起動します。以下のコードは、職務コンポーネントの `JOB_MIL.MIL_WORN_RANK:SavePostChange PeopleCode` イベントに追加する擬似コードです。

```

Import HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory;
Import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;

Local HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory &myEventFactory;
Local HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent &myEvent;
Local Row &Row;
Local Record &Rec;
Local Field &Fld;
Local Number &ThisRowNumber;
Local String &ThisRank;
Local Boolean &RaiseEvent;

&Row = GetRow();
&Rec = GetRecord();
&Fld = GetField();

/* --- Should we raise an event? --- */
If INSTALLATION.MILITARY = "Y" Then
    &RaiseEvent = False;
    &ThisRank = &Fld.Value;
    If &Row.IsNew Then
        <If there is a previous row, and it's Military Rank is not = &ThisRank> Then
            &RaiseEvent = True;
        <End-If>
    Else
        If &Row.IsDeleted Then
            <If there is a previous row, and it's Military Rank is not = &ThisRank> Then
                &RaiseEvent = True;
            <End-If>
        Else
            /* Not deleted, and Not a new row - existing row was updated */
            If &Rec.IsChanged Then
                If &Fld.IsChanged Then
                    &RaiseEvent = True;
                End-If;
            End-If;
        End-If;
    End-If;
End-If;

```

```
End-If;  
End-If;  
If &RaiseEvent Then  
    &myEventFactory = create HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory();  
    &myEvent = &myEventFactory.CreateEventObject("MilitaryRankEvent");  
    &myEvent.RaiseEventFromRecord(&Rec);  
End-If;  
End-If;
```

上記のコードで、イベントを起動するアクションに関するコードは以下のとおりです。

```
Import HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory;  
Import HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent;  
  
Local HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory &myEventFactory;  
Local HCR_EVENT_MANAGER:Base:baseEvent &myEvent;  
  
    &myEventFactory = create HCR_EVENT_MANAGER:Utils:EventFactory();  
    &myEvent = &myEventFactory.CreateEventObject("MilitaryRankEvent");  
    &myEvent.RaiseEventFromRecord(&Rec);
```

重要: イベントの起動中に、特定の追跡およびログ情報がフレームワークによってデータベースに保存されます。このため、イベントの起動は、データベースの更新を標準で可能する PeopleCode イベントで行うことはできません。厳密には、SavePreChange、SavePostChange、Workflow PeopleCode のイベントでのみ可能です。

イベントの監視

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- イベント インスタンスの確認
- イベント ハンドラの実行結果の確認
- イベント ハンドラの例外の確認

イベントの監視に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
イベント マネージャ - モニター	HCR_EM_MONITOR	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベント マネージャ]、[イベント モニター]、[イベント マネージャ - モニター]	起動済みまたは処理済みのビジネス イベントのステータスと関連のイベントハンドラの例外を確認します。
イベント モニター - ハンドラ	HCR_EM_MONITOR2	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベント マネージャ]、[イベント モニター]、[イベント マネージャ - モニター] イベント マネージャ - モニター ページで、イベント インスタンスの [ハンドラ] リンクをクリックします。	選択したイベント インスタンスについて、ローカル ノードにある登録済みのイベントハンドラ例外の詳細を確認します。
イベント モニター - ハンドラ例外	HCR_EM_MONITOR3	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベント マネージャ]、[イベント モニター]、[イベント マネージャ - モニター] イベント モニター - ハンドラ ページの [例外を表示] ボタンをクリックします。	キー、例外およびトレース情報を表示します。この情報は、選択したイベントハンドラによって実行中にログに記録され、イベント マネージャフレームワークに戻されます。

イベント インスタンスの確認

イベント マネージャ - モニター ページにアクセスします。

イベント マネージャ - モニター

?

イベント選択

JPMProfileUpdated

リフレッシュ

過去

ノード

☐ イベント チャンネルを表示
 ☒ イベント キーを表示

イベント インスタンス					
ノード	イベント ID	イベント作成日時	ユーザー ID	イベント キー	ハンドラ
PSFT_HR	1176	2007/03/26 02:58 PST	PS	JPM_PROFILE_ID TEST	ハンドラ
PSFT_HR	1177	2007/03/26 02:59 PST	PS	JPM_PROFILE_ID 200001	ハンドラ
PSFT_HR	1178	2007/03/26 02:59 PST	PS	JPM_PROFILE_ID 200002	ハンドラ
PSFT_HR	1179	2007/03/26 03:00 PST	PS	JPM_PROFILE_ID 200003	ハンドラ
PSFT_HR	1180	2007/03/26 03:00 PST	PS	JPM_PROFILE_ID 200004	ハンドラ

イベント マネージャ - モニター ページ

検索条件

イベント インスタンスを取得するための検索条件を入力します。結果を取得するには、条件を 1 つ以上入力する必要があります。残りのフィールドは、検索結果を絞り込む場合に使用します。

- | | |
|------------------------|---|
| [イベント選択] | ローカルのイベント レジストリ コンポーネントに登録済みのイベントから、イベント インスタンスを確認するイベントを選択します。 |
| [過去] | イベントが起動された期間を指定します。リモート ノードの場合は、イベントがローカル ノードで発生した期間になります。最初のボックスには数値を指定します。次に、時間単位を [日間]、[時間]、[分間] から選択します。 |
| [ノード] | 検索結果を特定のノード内で起動されたイベントのイベント インスタンスに制限する場合は、そのノード名を選択します。 |
| [リフレッシュ] | 検索条件を変更したら、このボタンをクリックして、イベント インスタンスのリストをリフレッシュします。 |
| [イベント チャンネルを表示] | このチェック ボックスをオンにすると、汎用イベント メッセージがパブリッシュされたイベント チャンネルが表示されます。イベント チャンネルは、[イベント インスタンス] グリッドの [チャンネル] 列に表示されます。このフィールドは、イベントが起動されるノードでマルチチャンネルとして定義されたイベントに対してのみ有効になります。 |
| [イベント キーを表示] | 各イベント インスタンスのイベント キーが表示されます。イベント キーは、[イベント インスタンス] グリッドの [イベント キー] 列に表示されます。 |

[イベント インスタンス]

ログに記録されたイベント インスタンスの中から、検索条件に一致するイベント インスタンスを確認します。ローカルのイベント レジストリ コンポーネントでログを有効にしたイベントとイベント ハンドラのインスタンスのみが表示されます。イベントのログ オプションは、イベント定義ページで [ログを有効にする] チェック ボックスをオンにして設定します。イベントを起動するプロセスは、登録済みの全ての同期イベント ハンドラが実行されるまで待機します。

- | | |
|-------------------|---|
| [ノード] | イベント インスタンスが起動されたノードが表示されます。 |
| [イベント ID] | イベントの ID コードです。この値とノード値の組み合わせにより、ソース ノードでイベント インスタンスを一意に識別します。 |
| [イベント作成日時] | ソース データベース (ノード) でイベントが起動された日時です。イベントが起動されたノードがローカル ノードと異なるタイムゾーンで稼働しているノードの場合もあるため、このフィールドにはタイムゾーンが表示されます。 |
| [チャンネル] | メッセージがパブリッシュされたキューです。チャンネルを表示するには、[イベント チャンネルを表示] チェック ボックスをオンにする必要があります。イベント チャンネルは、PeopleTools インテグレーション ブローカーのメッセージ キューに対応します。 |
| [ユーザー ID] | イベントを起動したユーザーの ID です。このフィールドは、ローカル データベースで起動されるイベント インスタンスに対してのみ有効です。 |
| [イベント キー] | イベント インスタンスのキーです。キーを表示するには、[イベント キーを表示] チェック ボックスをオンにする必要があります。 |
| [ハンドラ] | 各行のイベント インスタンスのリンクをクリックすると、イベント モニター ハンドラ ページにアクセスします。このページでは、選択したイベント イン |

スタンスについて、ローカル ノードで実行された登録済みのイベント ハンドラの情報を表示できます。

イベント ハンドラ例外の確認

イベント モニター ハンドラ ページにアクセスします。

イベント モニター - ハンドラ

イベント

作成日時 2006/04/07 8:16PM PDT

メッセージ ノード PSFT_HR

処理日時 2006/04/07 8:16PM PDT

イベント ID 479

実行済ハンドラ

カスミズ | 検索 |

最初 1/1 最後

イベント ハンドラ	ハンドラ実行日時	ステータス
HJPM_EM_EVENTS:Handlers:UpdateVerifyIndex	2006/04/07 8:16PM	✓

ナビゲーション

[イベント インスタンスに戻る](#)

イベント モニター - ハンドラ ページ

このページには、例外をログに記録するように設定したイベント ハンドラの情報のみが表示されます。イベント ハンドラ例外をログに記録するには、該当するイベント ハンドラとイベントの組み合わせに対して、登録済ハンドラ ページでログ オプションを設定する必要があります。

このページの上部には、イベント ハンドラを実行した選択済みのイベント インスタンスと、ローカル ノードでイベントの処理を開始した日時が表示されます。ローカル イベントの場合、[処理日時] に表示されている日時は、イベントが作成された日時と基本的に同じです。リモート イベントの場合、[処理日時] に表示されている日時は、ローカル ノードが PeopleTools インテグレーション ブローカーからリモート イベントの通知を受信した日時になります。


[実行済ハンドラ]


このグリッドには、選択したイベント インスタンスに応答して、ローカル データベースで実行されたイベント ハンドラが表示されます。

イベント ハンドラの実行情報がない場合は、ハンドラ実行情報が存在しない理由を示すメッセージが表示されます。考えられる理由には、選択したイベントにイベント ハンドラが登録されていない、選択したイベントに対してログを記録するようにイベント ハンドラが設定されていない、選択したイベントに対して同期イベント ハンドラが登録されていない、PeopleTools インテグレーション ブローカーで非同期イベント ハンドラが実行されていない、イベントに対してイベント ハンドラが実行されていない、などがあります。

- [イベント ハンドラ]

イベント ハンドラを実装するアプリケーション クラスのフル パスが表示されます。
- [ハンドラ実行日時]

イベント ハンドラが実行された日時が表示されます。
- [ステータス] 

ステータスが“成功”でイベント ハンドラの実行が終了したことを示します。
- 

ステータスが“失敗”でイベント ハンドラの実行が終了したことを示します。



ステータスが“失敗”でイベントハンドラの実行が終了した場合、このボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、選択したイベント インスタンスのイベント ハンドラがリアルタイムで再実行されます。イベント ハンドラが実行されると、イベントハンドラの新しい実行日時とステータスでページが自動的にリフレッシュされます。



実行時にイベント ハンドラによって例外情報がイベント モニター フレームワークに戻されると、[例外を表示] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、イベント モニター - ハンドラ例外にアクセスし、イベント ハンドラ例外を表示できます。このイベント ハンドラとイベントの組み合わせに対して、登録済ハンドラページの [トレース] チェック ボックスをオンにした場合は、トレース情報も表示できます。

イベント ハンドラ例外の確認

イベント モニター - ハンドラ例外ページにアクセスします。

イベント モニター - ハンドラ例外

イベント

作成日時 2006/04/07 8:16PM PDT

メッセージ ノード PSFT_HR

処理日時 2006/04/07 8:16PM PDT

イベント ID 479

ハンドラ HJPM_EM_EVENTS:Handlers:UpdateVerifyIndex

表示対象 全てのエンリ

🔑 イベント キー

JPM_PROFILE_ID: HXTEMPL01

ナビゲーション

[ハンドラリストに戻る](#)

イベント モニター - ハンドラ例外ページ

このページの上部には、イベント ハンドラを実行した選択済みのイベント インスタンスと、ローカル ノードでイベントの処理を開始した日時が表示されます。

リモート データベースで起動されたイベントは、ローカル ノードで非同期イベント メッセージを受信して処理した後に、イベント モニター コンポーネントに表示されますが、イベント レジストリ コンポーネントでローカル データベースにイベントを登録する際に、イベントのログを有効にしていないと表示されません。

注: 汎用イベント メッセージに対して PeopleTools インテグレーション ブローカーのサービス オペレーションをアクティブにしていない場合、ローカルのイベント マネージャ フレームワークではリモート イベントが処理されないため、リモート イベントはイベント モニター コンポーネントには表示されません。

[ハンドラ] イベント ハンドラを実装するアプリケーション クラスのフル パスが表示されます。

[表示対象] このページに表示する情報のタイプにフィルタを適用する値を選択します。有効値は、[全てのエントリ]、[例外]、[キー] および [全てのトレース] です。イベント ハンドラによって生成された情報が生成順に表示されます。



イベント インスタンスのキーが表示されます。



イベント ハンドラ例外の情報が表示されます。



イベント ハンドラ例外の警告が表示されます。



イベント ハンドラ例外のエラーが表示されます。



イベント ハンドラのトレース情報が表示されます。トレース情報を表示するには、このイベント ハンドラとイベントの組み合わせに対して、登録済ハンドラページの [トレース] チェック ボックスをオンにする必要があります。

イベント サマリの表示

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- イベント インスタンスのサマリの表示
- 失敗したイベント ハンドラの表示

イベント サマリの表示に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
イベント マネージャ - イベント サマリ	HCR_EM_SUMMARY	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM イベント マネージャ]、[イベント サマリ]、[イベント マネージャ - イベント サマリ]	ローカル データベースでログに記録された全てのイベント インスタンスのサマリを表示します。このサマリは、イベント ハンドラの実行が失敗した原因を調べて解決方法を特定するなど、問題の迅速な特定に役に立ちます。
イベント マネージャ - ハンドラ エラー	HCR_EM_SUMMARY2	イベント マネージャ - イベント サマリ ページで、[ハンドラ エラー] 列のイベント ハンドラのリンクをクリックします。	選択したイベントとノードの組み合わせの全てのインスタンスで、失敗したイベント ハンドラのリストを表示します。
イベント モニター - ハンドラ 例外	HCR_EM_MONITOR3	イベント マネージャ - ハンドラ エラー ページで、失敗したイベント ハンドラの [詳細] ボタンをクリックします。	失敗したイベント ハンドラによって生成された例外を表示します。 参照: 第 22 章、「HCM イベント マネージャの使い方」、「イベント ハンドラ 例外の確認」、527 ページ

イベント インスタンスのサマリの表示

イベント マネージャ - イベント サマリ ページにアクセスします。

イベント マネージャ – イベント サマリ

このページの情報は、イベント マネージャ ログの内容を反映しています。ログに記録されているイベント インスタンスとイベント ハンドラ実行だけがこのページに表示されます。

リフレッシュ

イベント名	ノード名	イベント インスタンス	ハンドラ実行	ハンドラ エラー
JPMProfileAdded	PSFT_HR	2	0	0
JPMProfileItemUpdated	PSFT_HR	3	0	0
JPMProfileUpdated	PSFT_HR	9	0	0

イベント マネージャ – イベント サマリ ページ

[リフレッシュ] このページに表示される統計をリフレッシュします。このリフレッシュ オプションは、イベントの起動と処理が頻繁に行われる本稼動環境で役に立ちます。

サマリ グリッド

このグループ ボックスでは、ローカル データベースでインスタンスをログに記録した全てのイベントの統計を確認します。表示される情報は、ローカル データベースのイベント レジストリ コンポーネントでログを有効にしたイベントのイベント インスタンスのみです。ログに記録されたイベント インスタンスは、イベントとノードの組み合わせ別にグループ化されます。

- [イベント名]** イベント インスタンスがログに記録されたイベントの名前です。ノードと組み合わせせて表示されます。
- [ノード名]** イベント インスタンスが起動されたソース ノードの名前です。イベントと組み合わせせて表示されます。
- [イベント インスタンス]** ログに記録されたイベント インスタンスの数です。イベントとノードの組み合わせ別に表示されます。この数はイベントが起動された回数と同じです。
- [ハンドラ実行]** 実行されたイベント ハンドラの合計数です。イベントとノードの組み合わせ別に表示されます。
- [ハンドラ エラー]** 実行後に失敗のステータスが返されたイベント ハンドラの合計数です。イベントとノードの組み合わせ別に表示されます。失敗したイベント インスタンスがある場合は、数字がリンクで表示されます。このリンクをクリックすると、イベント マネージャ – ハンドラ エラー ページにアクセスします。このページでは、イベントとイベント ノードの組み合わせの全てのインスタンスで、失敗したイベント ハンドラのリストを表示できます。このページから、失敗したイベント ハンドラで生成された例外を表示することもできます。

失敗したイベント ハンドラの表示

イベント マネージャ – ハンドラ エラー ページにアクセスします。

イベント マネージャ – ハンドラ エラー

?

イベント AssignmentAdded

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |

最初 1/1 最後

イベント ID	ハンドラ名	イベント作成日時	イベント ハンドラ	ハンドラ実行日時	
1	PSFT_HR	2006/01/16 4:50PM	HCR_EM_CORE_EVENTS:Handlers:DemoHandler	2006/01/16 4:50PM	

ナビゲーション

[イベント サマリに戻る](#)

イベント マネージャ – ハンドラ エラー ページ

失敗した各イベント ハンドラの情報が表示されます。[詳細] ボタンをクリックすると、イベント モニター – ハンドラ例外にアクセスし、失敗したイベント ハンドラで生成された例外を表示できます。

HCM イベント マネージャ コンポーネントのヘルプ表示

このセクションでは、HCM イベント マネージャ コンポーネントでページ ヘルプを表示する方法について説明します。

HCM イベント マネージャ コンポーネントのヘルプ表示に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
Page Help	HR_PH_PAGE_HELP	現在のページの [ヘルプ] ボタンをクリックします。	HCM イベント マネージャフレームワーク内の現在のページに関する詳細を表示します。ヘルプ情報には、ページ情報の概要とフィールド別の説明が表示されます。

HCM イベント マネージャ コンポーネントのヘルプ表示

Page Help ページにアクセスします。

Page Help

Event Manager Summary

Event Manager – Event Summary

This page gives an overview of all of the logged Event instances in the local database. It should be noted that the only items that are visible in the Event Summary, are those Events and Handlers that are configured in the local Registry to be logged.

At the top of the page is a **Refresh** button, which can be used to refresh the statistics shown on this page. This is useful in a production environment in which Events are being raised and processed frequently.

Summary Grid
The Summary Grid displays the statistics for each type of Event in the local database. Only those Event types that have logged entries are displayed in this grid.

- **Event Name** – The type of Event
- **NodeName** – The node from which the Event was raised
- **Event Instances** – The total number of logged instances for this Event type and Node. (e.g. the number of times this Event has been raised).
- **Handler Executions** – The total number of Event Handlers that have been executed for Events of this Type, originating from this Node
- **Failed Handlers** – The total number of Handlers that were executed, and returned a "Failed" status for this Event type and Node. This is a hyperlink. Clicking on this link will display the "Event Summary – Failed Handlers" page, which displays a list of the Failed Handlers across all instances for this Event type and Node. From that page, you can view the Exceptions produced by any of the Failed Handlers.

ヘルプ: HCR_EM_SUMMARY

コンポーネント: HCR_EM_SUMMARY

ファイル: HR_PH_HELP1_LNK

Page Help ページ

ページの上部または下部にある [Return] 矢印ボタンをクリックすると、HCM イベント マネージャの元のページに戻ります。

第 23 章

組織図の設定と作成

この章では、組織図の概要、および組織図の作成方法とそのための事前設定について説明します。

組織図について

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のデータと Visio の組織図ウィザードを使って詳細な組織図を作成することができます。組織図を作成するには、ポジションまたは部門のどちらを基準に組織図を作成するか、つまり PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のポジション ツリーと部門ツリーのどちらを使用するかを決めます。次に、PeopleSoft プロセス スケジューラを使って組織図 SQR を実行します。残りの作業は全て Visio によって行われます。Visio の組織図ウィザードのフォーマット オプションでは、部門別または組織全体の詳細な組織図を簡単に作成できます。

事前設定

組織図を作成する前に 以下の作業を行う必要があります。

- Visio がクライアント コンピュータにインストールされていることを確認します。

Visio は、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理に標準装備されているわけではないので、別途購入の上、クライアント コンピュータにインストールする必要があります。Visio のインストールの詳細については、Visio のドキュメント類を参照してください。

- インストール テーブル コンポーネント (INSTALLATION_TBL) の “サードパーティ/システム” ページで、組織図インターフェイスとして Visio を選択します。
- 組織図インターフェイスのページを使用する前に、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理に組織と従業員のデータが設定されていることを確認します。

組織図を作成する方法

このセクションでは、処理の概要と以下の方法について説明します。

- 組織図の作成
- 組織図ファイルのクライアント コンピュータへのコピー
- 組織図の確認

- Visio 組織図ウィザードの使用

処理について

ヒューマン リソース管理のデータに基づいて組織図を作成するには、次の手順に従います。

- 組織図ページから組織図 SQR を実行します。
- 結果ファイルをクライアント コンピュータにコピーします。
- 組織図 SQR によって収集された組織図情報を確認します。
- Visio を起動し、Visio 組織図ウィザードを実行します。

組織図の作成に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
組織図	ORGCHART_PNL	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[組織構造の作成]、[組織図の作成]、[組織図]	PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理システムのツリー情報に基づいて、組織図を作成します。

組織図の作成

組織図ページにアクセスします。

組織図

ラン コントロール ID: 01

[レポート マネージャ](#)
[プロセス モニター](#)

実行

部門またはツリー情報

*レポート タイプ: ツリー

セットID: SHARE

Table Set shared across Corp

ツリー名: DEPT_SECURITY

ツリー ノード: 21000

Eastern Sales Region

ツリー レベル: 5

レベル数: 3

組織図ページ

[レポート タイプ]

レポート タイプを選択します。選択できるオプションは以下のとおりです。

- [部門]
選択した 1 つの部門に基づいて組織図を作成します。
- [ツリー]

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システムで定義されたツリーの 1 つに基づいて組織図を作成します。このオプションを選択した場合、組織図に複数の部門を含めることができます。

注: 組織図を作成するときは、アクティブな部門ツリーおよびポジション ツリーしか使用できません。また、組織図にツリーや部門を加えるには、そのツリーや部門に対するセキュリティ アクセス権限を持っている必要があります。

部門を使った組織図の作成

[レポート タイプ] フィールドに [部門] を選択すると、[セットID] および [部門] の各フィールドが表示されます。

[部門] 指定したセットID の部門 ID のリストから、組織図に含める部門を選択します。組織図は、1 度に 1 部門を使って作成されます (部門コードは、部門テーブルに部門を定義する際に作成します)。

[実行] 部門レポート タイプの組織図を作成する場合は、[実行] ボタンをクリックします。PeopleSoft プロセス スケジューラによって組織図 SQR が実行されます。

ツリーを使った組織図の作成

[レポート タイプ] に [ツリー] を選択すると、[セットID]、[ツリー名]、[ツリー ノード]、[ツリー レベル]、[レベル数] の各フィールドが表示されます。

1. リストからセットID を選択します。
2. リストからツリー名を選択します。

組織図に含めるツリー ノードとレベルの選択

[ツリー ノード] 組織図を開始するツリーのレベルを選択します。たとえば、部門ツリーを使用している場合は、部門を選択します。

[ツリー レベル] 選択したツリー ノードのツリー レベルが入力されます。

[レベル数] ツリーに含めるレベルの数を指定します。
たとえば、ツリー レベルに 5、レベル数に 3 を指定すると、組織図にはツリーのレベル 5 ~ 7 が含まれます。

関連項目:

第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「セキュリティツリーの構築と修正」、83ページ

組織図ファイルのクライアント コンピュータへのコピー

組織図 SQR によって ORGCHART.TXT ファイルが作成され、アプリケーション サーバーに保存されます。Visio を使って組織図を作成するには、この ORGCHART.TXT ファイルをクライアント コンピュータへコピーする必要があります。クライアント コンピュータで Visio を実行し、組織図を作成します。

ORGCHART.TXT ファイルをコピーするには、次の手順に従います。

1. [PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[プロセス モニター] の順にクリックし、“プロセス モニター” のプロセス リスト ページ (PMN_PRCSLIST) にアクセスします。

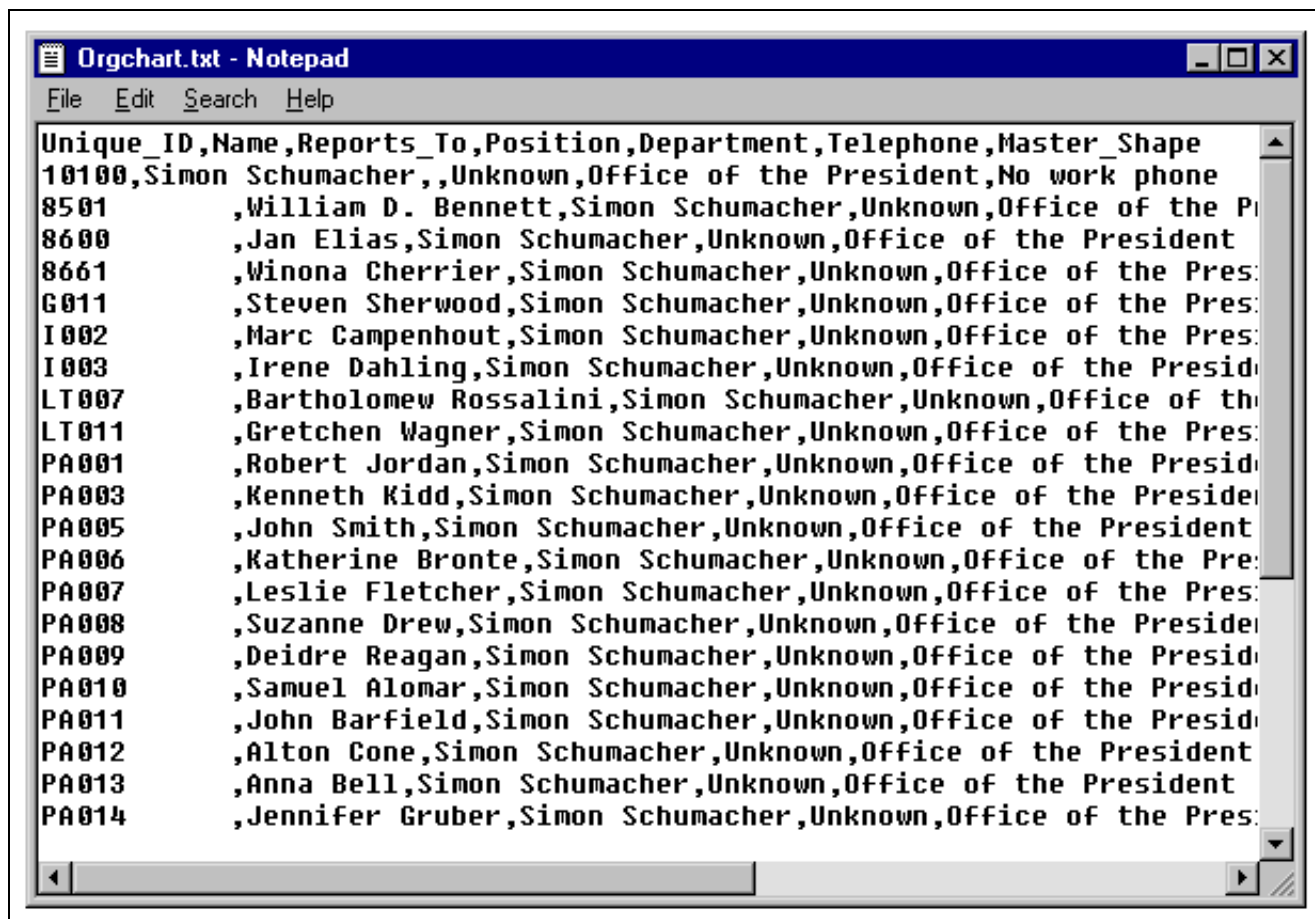
2. 組織図プロセスを探し、対応する [詳細] リンクをクリックします。
3. [ログ/トレースの表示] リンクをクリックします。
4. [ORGCHART.TXT] リンクをクリックしてファイルを開きます。
5. [ファイル]、[名前を付けて保存] を選択してクライアント コンピュータに保存します。

組織図の確認

テキスト エディタを使って ORGCHART.TXT ファイルを開き、内容を参照することで、組織図 SQR プロセスの結果を確認することができます。ファイルには以下のデータが含まれます。

- Unique ID (固有の ID)
- Name (名前)
- Reports To (直属上司)
- Position (ポジション)
- Department (部門)
- Telephone (電話番号)

以下は、ORGCHART.TXT ファイルの一例です。



ORGCHART.TXT ファイルの例

Visio 組織図ウィザードの使用

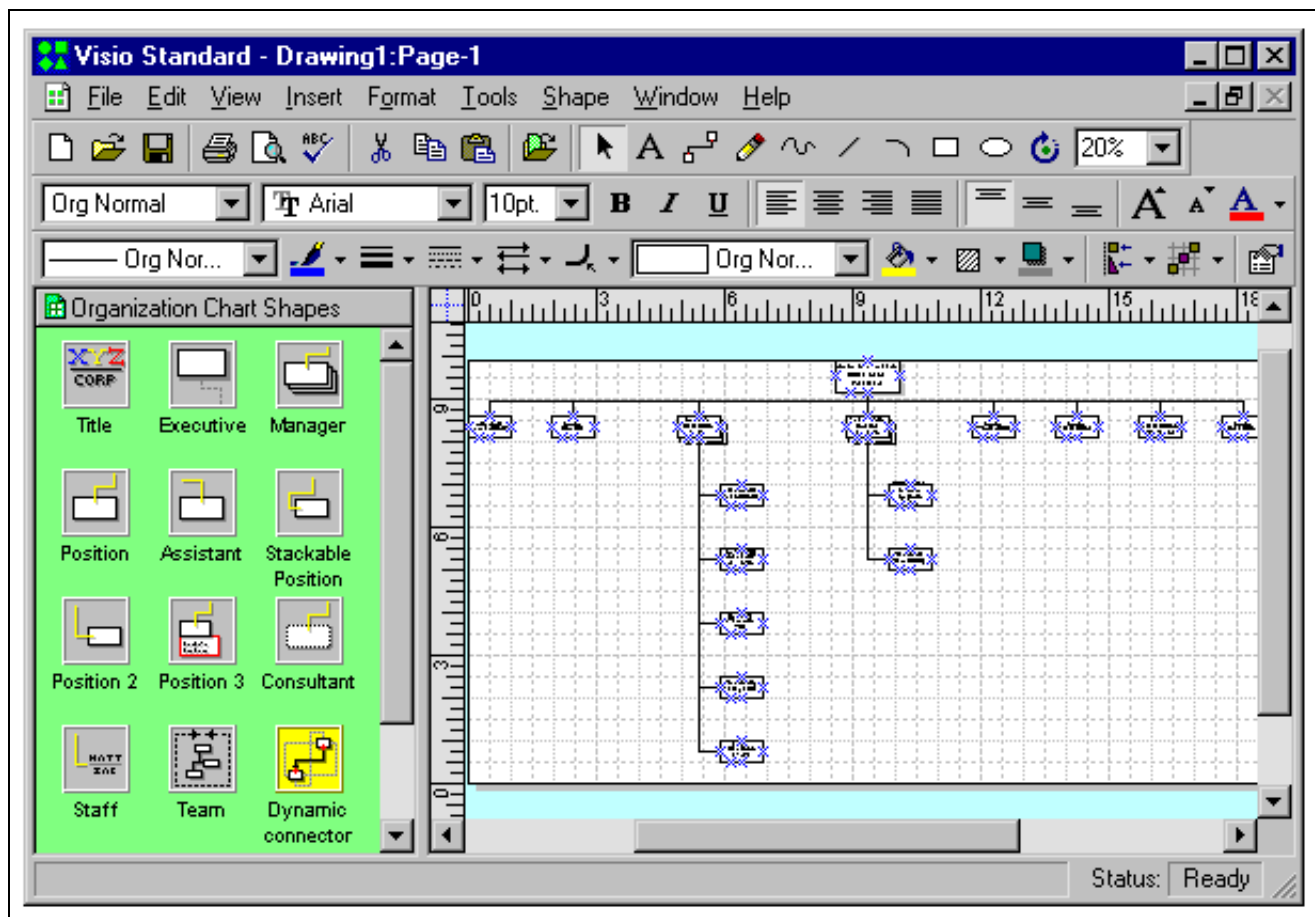
Visio を起動し、組織図ウィザードを使って組織図を自動的に作成します。

注: 以下の説明は、Visio 2000 を使用している場合のものです。Visio 2002 の組織図ウィザードは、Visio 2000 の場合と若干異なる可能性があります。

組織図ウィザードを実行するには、次の手順に従います。

1. Visio で [File]、[New]、[Organization Chart]、[Organization Chart Wizard] の順にクリックします。
2. 表示されたウィンドウで、オプションの [Information that's already stored in a file or database] を選択し、[Next] をクリックします。
3. 次のウィンドウで、オプションの [A text, Org Plus (*.txt)] または [Microsoft Excel file] を選択し、[Next] をクリックします。
4. 次のウィンドウで、組織情報が保存されているクライアント コンピュータの場所 (ORGCHART.TXT ファイルの保存場所) を「C:¥TEMP¥ORGCHART.TXT」のように入力し、[Next] をクリックします。
5. [Name] フィールドに [Name]、[Reports to] フィールドに [Reports_To]、[First Name] フィールド (省略可) に [<none>] を選択し、[Next] をクリックします。
6. [First Line] に [Name]、[Second line] に [Position] のように図に表示するデータを選択し、[Next] をクリックします。
7. ORGCHART.TXT ファイルに含まれるその他のフィールドを [Data file] 列から選択し、[Custom Property fields] 列に追加して組織図に追加します。[Next] をクリックします。
8. [I want the wizard to automatically break my organization chart across pages] を選択し、[Finish] をクリックします。

以下は、Visio で作成された組織図の一例です。



Visio で作成された部門組織図の例

注: Visio で作成した組織図を編集および印刷する方法の詳細については、Visio のドキュメントを参照してください。

第 24 章

マス アップデート処理の設定と実行

この章では、マス アップデート処理の概要と、以下の方法について説明します。

- マス アップデートのためのトランザクション プロセッサの設定
- マス アップデート定義の設定
- マス アップデートの作成
- マス アップデート レポートの生成
- マス アップデートの管理
- マス アップデートの実行
- 未処理のマス アップデートの削除

注: HRMS 特有のマス チェンジ テンプレートのサポートはなくなりました。便宜上、データベースにテンプレートは残っていますが、マス アップデート機能を使用することをお勧めします。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBooks: Security Administration

マス アップデート処理について

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- マス アップデートのアーキテクチャ
- マス アップデートのプロセス フロー
- マス アップデートの実行手順
- マス アップデートを正しく行うためのヒント

マス アップデートのアーキテクチャ

マス アップデート機能では、多数の従業員のデータを変更できます。たとえば、マス アップデート機能を使用すると、会社全体での昇給、部門の異動、職務コードの変更、労働協約の変更、および組織再編を実行できます。

マス アップデート機能は、以下のモジュールで構成されます。

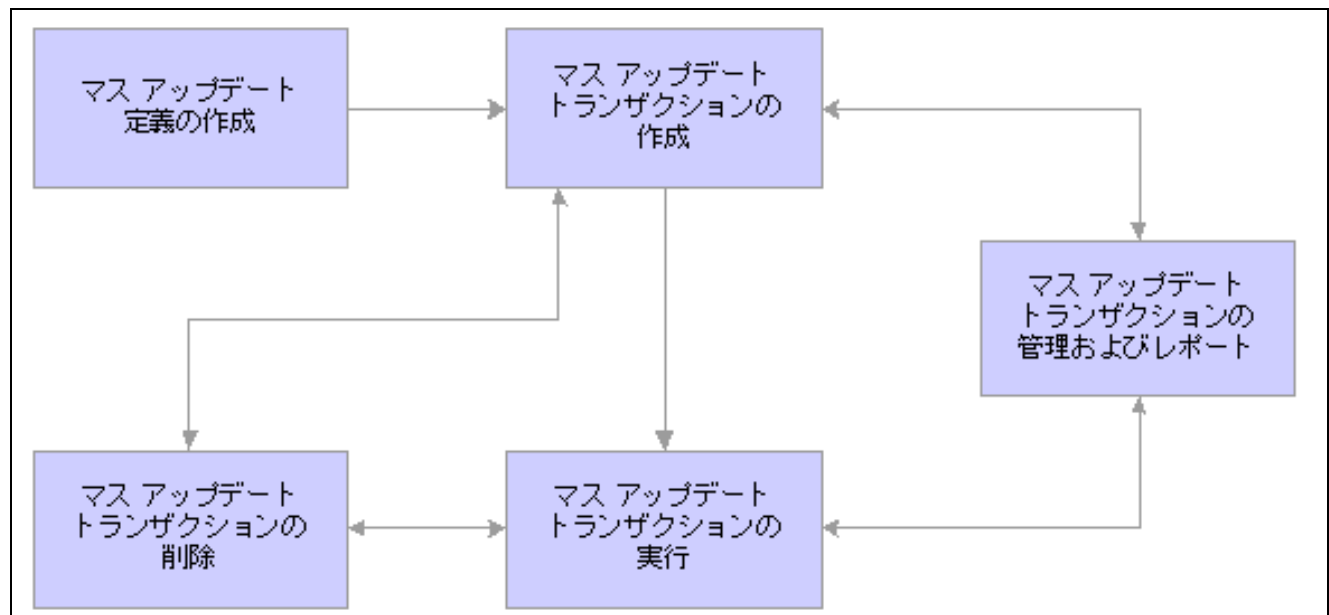
- マス アップデート マネージャ: マス アップデート機能のユーザー インターフェイスになるフロントエンドのモジュールです。マス アップデート マネージャは、以下から構成されています。
 - マス アップデートの定義を設定するためのマス アップデート定義コンポーネント (MU_SETUP)

- マス アップデートトランザクションを生成するためのマス アップデート作成コンポーネント (RUNCTL_MU_CREATE) および関連するアプリケーション エンジン (AE) プロセス
- マス アップデートトランザクションのリストを確認および印刷するためのマス アップデート レポート コンポーネント (RUNCTL_MU_PRINT) および関連する SQR (Structured Query Report)
- マス アップデートトランザクションの確認とプレビュー、オンラインでの個別処理、およびステータスの管理を行うためのマス アップデート管理コンポーネント (MU_MANAGE)
- マス アップデートをバッチで実行するためのマス アップデート実行コンポーネント (RUNCTL_MU_EXECUTE) および関連する AE プロセス
- 未処理のマス アップデートトランザクションを削除するためのマス アップデート削除コンポーネント (RUNCTL_MU_DELETE) および関連する AE プロセス
- トランザクション プロセッサ: プロセッサの設定コンポーネントで構成されるバックエンドのモジュールです。トランザクション プロセッサでは、マス アップデートに使用されるシステム データの設定と管理、およびトランザクション処理機能にアクセスするアプリケーション クラスの設定と管理を行います。トランザクション プロセッサ アプリケーション クラスの役割は、サービス指向アーキテクチャ (SOA) 内のサービスにアクセスして、情報の読み込み、選択、書き込み、更新を行うことです。各トランザクションは、エレメントのリストから成る XML メッセージになっており、各エレメントは従業員と雇用レコードの組み合わせに対する更新に関連付けられています。トランザクション プロセッサ アプリケーション クラスは、この XML メッセージを解釈して適切なサービスにアクセスし、そのサービス呼び出すオンラインまたはバッチ プロセスに承認と例外を返します。
- 実行マネージャ: スポーニングによる並列処理を管理および監視するマス アップデートのバッチ処理機能であるバックエンドのモジュールです。スポーニングとは、子プロセスの複数のインスタンスを親プロセスによって同時に実行する方法です。実行マネージャでは、マス アップデートのバッチ処理の複数のインスタンスを同時に実行できるため、パフォーマンスが向上します。

注: マス アップデートのフレームワークは、SOA フレームワークを利用します。

マス アップデートのプロセス フロー

次の図は、マス アップデート処理のプロセス フローを示しています。



マス アップデートのプロセス フロー

マス アップデートの実行手順

マス アップデートを処理するには、次の手順に従います。

1. マス アップデート定義コンポーネントで、マス アップデートの定義を設定します。
2. マス アップデート作成ページ (マス アップデート マネージャ モジュールの一部) で、マス アップデートの選択フェーズを実行して、マス アップデートのトランザクションを作成します。
3. トランザクションを確認して更新します。

マス アップデート管理コンポーネントを使用すると、トランザクションをオンラインで確認および更新できます。

マス アップデート レポート ページでは、レポートを生成してトランザクションを確認することもできます。

どちらのコンポーネントもマス アップデート マネージャ モジュールの一部です。

4. トランザクション プロセッサを使用してトランザクションを処理します。

トランザクションの処理は、マス アップデート マネージャ モジュールの一部であるマス アップデート管理コンポーネントで 1 つずつ行うことができます。

また、実行マネージャ モジュールの一部であるマス アップデート実行ページでトランザクションをバッチ処理することもできます。

5. (省略可) 必要に応じて、マス アップデート マネージャ モジュールの一部であるマス アップデート管理コンポーネントで、トランザクションをキャンセルします。
6. (省略可) 必要に応じて、マス アップデート管理コンポーネントでトランザクションを 1 つずつ削除するか、またはマストランザクション削除ページでトランザクションをバッチ処理で削除します。

どちらのコンポーネントもマス アップデート マネージャ モジュールの一部です。

マス アップデートを正しく行うためのヒント

マス アップデートを正しく行うために、以下の点に注意してください。

- 最初は小さなグループで更新をテストします。
- データの上書きが確実に必要な場合だけ修正オプションを使います。
できるだけ修正オプションを使用せずに、新しい有効日付きの行を追加します。
- マス アップデート プロセスを使ってオンライン処理を自動化する前に、コンポーネントを制御するルールを理解するために処理に慣れておく必要があります。マス アップデートを使ってコンポーネントを更新する場合、そのコンポーネントはオンラインでアクセスするときと同じルール (デフォルト設定フィールドや必須フィールドなど) で制御されています。
- 全てを変更する複雑なマス アップデート ID を作成する代わりに、組み合わせて使用できる単純なマス アップデート ID をいくつか作成します。

これにより、柔軟性が高まるだけでなく、エラーの原因を簡単に特定できます。

重要: マス アップデート機能では、サービスを使用してデータを更新します。サービスでは、コンポーネントに関連付けられたビジネス ロジックが全て実行されます。このため、コンポーネントが正しく機能し、データの整合性を保つことができます。ただし、この方法によるデータの更新処理は、より完全な方法である反面、SQL 更新など他の方法に比べて処理が遅くなります。マス アップデートを実行する場合は、処理セットのサイズを制限したり、サーバーのトラフィックの少ない夜間に更新処理を行うなど、効率を上げる手順を行ってください。

マス アップデートのためのトランザクション プロセッサの設定

マス アップデートに使用されるセクションとエレメントを定義する場合は、プロセッサの設定コンポーネント (MU_TP_SETUP) を使用します。

このセクションでは、トランザクション プロセッサの設定の概要と、以下の方法について説明します。

- マス アップデートのためのトランザクション プロセッサの設定
- マス アップデートの定義のための必要条件エレメントの定義

トランザクション プロセッサの設定について

トランザクション プロセッサとは、アプリケーションの変更処理をサービスによって可能にするアプリケーション クラスです。変更処理は、変更の詳細を含むトランザクションに基づいて行われます。マス アップデートはマス アップデート管理コンポーネントからオンラインで実行するか、またはマス アップデート実行コンポーネントからバッチ処理で実行しますが、このマス アップデートの実行にトランザクション プロセッサが使用されます。

マス アップデート処理は、トランザクション プロセッサの設定に基づいて実行されます。この設定を行うには、プロセッサの設定コンポーネントを使用する必要があります。このコンポーネントは、高度な経験を持ったテクニカル ユーザーを対象にしています。プロセッサの設定コンポーネントには、マス アップデートを実行するための多くのセクションが用意されています。

トランザクション プロセッサの設定では、マス アップデートに使用するセクションとセクション内のエレメントのリスト、および更新を管理するサービスを定義します。マス アップデート定義の作成には、マス アップデート定義コンポーネントを使用できます。マス アップデートの処理中に、マス アップデート マネージャがトランザクション プロセッサを起動し、該当するマス アップデートの定義で指定したセクション、エレメントおよび値を使用してマス アップデートトランザクションを処理します。トランザクション プロセッサは、セクションごとにトランザクション プロセッサ設定を参照して適切なサービスを特定し、トランザクションで定義した値を使用して該当のサービスを呼び出します。

注: 任務プロファイル マネージャ (JPM) カタログ タイプをシステムに追加する場合、新規に追加した JPM データに対してマス アップデートを実行するには、プロセッサの設定コンポーネントに JPM カタログ タイプを複製する必要があります。

マス アップデートのためのトランザクション プロセッサ の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
プロセッサの設定	MU_TP_SETUP	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[プロセッサの設定]	マス アップデートに使用するセクションとセクション内のエレメントのリスト、および更新を管理するサービスを定義します。マス アップデート定義コンポーネントでマス アップデート定義を作成する際に使用されるプロンプトと必要条件の情報も定義できます。
プロセッサの設定 - 必要条件	MU_TP_SETUP_PRE	プロセッサの設定ページの [詳細] ボタンをクリックします。	指定したセクションのマス アップデート定義の一部として定義する必要がある必要条件エレメントを定義します。定義した必要条件により、マス アップデートトランザクションで使用するエレメント間の関係が確立されます。

マス アップデートのためのトランザクション プロセッサの設定

プロセッサの設定ページにアクセスします。

プロセッサの設定

セクション 検索 | 全件表示 最初 ◀ 1/1 ▶ 最後

セクション: AREA STUDY

名称: 専攻分野

レベル: 個人 ☒ 将来行も対象にする

サービス: MassUpdatePersonProfile バージョン: 1.0

エレメント カスタマイズ | 検索 | 全件表示 最初 ◀ 1-5/5 ▶ 最後

名称	必要条件	プロンプト
エレメント		名称
AVERAGE_GRADE		成績
EFF_STATUS		ステータス
JPM_ADHOC_DESCR		専攻分野
JPM_DATE_5		取得日
JPM_TEXT254_1		専攻分野

プロセッサの設定ページ (1/3)

エレメント			カスタマイズ	検索	全件表示	最初	1-5/5	最後
名称	必要条件	プロンプト						
エレメント	必要条件定義あり		詳細					
AVERAGE_GRADE	<input checked="" type="checkbox"/>							
EFF_STATUS	<input checked="" type="checkbox"/>							
JPM_ADHOC_DESCR	<input checked="" type="checkbox"/>							
JPM_DATE_5	<input checked="" type="checkbox"/>							
JPM_TEXT254_1	<input checked="" type="checkbox"/>							

プロセッサの設定ページ (2/3)

エレメント			カスタマイズ	検索	全件表示	最初	1-5/5	最後
名称	必要条件	プロンプト						
エレメント	プロンプト	プロンプト レコード/フィールド						
AVERAGE_GRADE								
EFF_STATUS	トランスレート値	EFF_STATUS						
JPM_ADHOC_DESCR								
JPM_DATE_5	日付							
JPM_TEXT254_1								

プロセッサの設定ページ (3/3)

[セクション]

[セクション]

セクションの名前を入力します。セクションとはエレメントの機能グループであり、サービス内で定義されます。

[名称]

セクションの名称を入力します。マス アップデート定義コンポーネントでマス アップデートを定義する場合、名称は [セクション] フィールドのプロンプト値として使用されます。

[レベル]

コンポーネント インターフェイスが“雇用レコード”番号または“個人”のどちらに基づくかを選択します。デフォルトでは、“個人”値が選択されます。

マス アップデート マネージャ モジュールが個人用のマス アップデートを生成する場合、選択したレベルを使用して、同一個人に対してマス アップデートトランザクションを 1 回だけ生成します。

トランザクション プロセッサ モジュールでは、選択したレベルを使用して、正しいキー値が含まれるサービスにアクセスします。

[将来行も対象にする]

オンにすると、マス アップデート定義コンポーネントのセクションまたはサービスで、“将来行も対象”オプションを使用できるようになります。

[サービス]

対応するセクションの更新の管理に使用されるサービスを入力します。指定したサービスにより、対応するセクションに関連するマス アップデートの全てのコントロールとデフォルト値が設定されます。設定自身に処理ロジックは含まれません。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理には、職務データ（給与と労働協約の仕様を含む）、個人データ、任務プロファイル マネージャ、軍承認追跡などのマス アップデート処理で使用するサービスが用意されています。各サービスはデータ タイプを使用して定義し、同じ基本クラスを使用

します。各データタイプでは、サービスに使用できるエレメントを定義します。サービスを管理するには、サービス レジストリ コンポーネントを使用します。

注: 独自のサービスを作成して、マス アップデート機能に組み込むこともできます。マス アップデート プロセスで標準のサービス以外のデータにアクセスするには、特定の要件を管理するサービスを定義して登録し、トランザクション プロセッサの設定を更新する必要があります。

[バージョン]	指定したサービスのバージョンを入力します。
[エレメント]	
[エレメント]	このセクションを使用するマス アップデートで使用するエレメントまたはデータタイプのオブジェクト名を入力します。入力できる値は、サービスで定義される単純なデータタイプです。ここで指定したエレメントがマス アップデートで使用される情報になります。
[名称]	エレメントの名称を入力します。マス アップデート定義コンポーネントでマス アップデートを定義する場合、名称は [エレメント] フィールドのプロンプト値として使用されます。
[必要条件定義あり]	エレメントに必要条件を定義すると、このチェック ボックスが自動的にオンになります。
[詳細]	このボタンをクリックすると、必要条件ページにアクセスし、対応するエレメントの必要条件を定義できます。
[プロンプト]	<p>エレメントのプロンプトをどのように定義するかを選択します。選択したプロンプトにより、マス アップデート定義ページでセクションとエレメントの値の組み合わせを定義する方法が決まります。有効値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [アクション]: このセクションとエレメントの組み合わせでマス アップデートを処理する場合、エレメントで定義されるアプリケーション内で特定のアクションが実行されます。たとえば、エレメントでは、ボタンを押すアクションやデフォルト値を設定するアクションが実行されます（この場合はプロンプトなし）。 • [チェック ボックス]: このセクションとエレメントの組み合わせでマス アップデートを定義する場合、[ブール値] チェック ボックスが表示されます。 • [日付]: このセクションとエレメントの組み合わせでマス アップデートを定義する場合、日付フィールドが表示されます。 • [数値]: このセクションとエレメントの組み合わせでマス アップデートを定義する場合、[数値] フィールドが表示されます。 • [レコード]: このセクションとエレメントの組み合わせでマス アップデートを定義する場合、[文字値] フィールドが表示されます。このフィールドでは、[プロンプト レコード/フィールド] フィールドで指定したレコードの検索画面が表示されます。 • [トランスレート値]: このセクションとエレメントの組み合わせでマス アップデートを定義する場合に、[文字値] フィールドが表示されます。このフィールドでは、[プロンプト レコード/フィールド] フィールドで指定したフィールドの検索画面が表示されます。

[プロンプト レコード/
フィールド]

エレメントのプロンプトでレコードを選択した場合は、レコードを選択します。
エレメントのプロンプトでトランスレート値を選択した場合は、フィールド名
を選択します。

マス アップデート定義のための必要条件エレメントの定義

プロセッサの設定 - 必要条件ページにアクセスします。

必要条件

セクション: AREA STUDY 専攻分野
エレメント: AVERAGE_GRADE 成績

必要条件エレメント		検索	全件表示	最初	1/1	最後
必要条件セクション	必要条件エレメント	名称	プロンプト フィールド	連番		
AREA STUDY	JPM_CAT_ITEM_ID				1	

OK キャンセル

プロセッサの設定 - 必要条件ページ

[必要条件セクション]、[必
要条件エレメント]、[名称]

マス アップデートを定義する場合に、このセクションとエレメントの必要条
件になるセクションとエレメントを選択します。このコンポーネントで定義し
たセクションから必要条件セクションを選択し、選択した必要条件セクショ
ンに定義したエレメントから必要条件エレメントを選択します。必要条件エ
レメントを選択すると、その名称が表示されます。

[プロンプト フィールド]

必要条件エレメントの検索画面に使用するフィールドを選択します。この
フィールドは、必要条件フィールドの値がプロンプト レコードのどのフィール
ドにロードされるかを識別するために内部で使用されます。たとえば、エレ
メント“勤務地/部門”には、必要条件としてエレメント“勤務地/ビジネスユ
ニット”があります。フィールド SETID には、プロンプト レコード DEPT_TBL
で 사용되는場合にビジネス ユニットの値がロードされます。

[連番]

マス アップデートを定義する際に必要条件を入力する順番を入力します。

マス アップデート定義の設定

マス アップデート定義を設定してマス アップデートを処理するには、マス アップデート定義コンポーネ
ント (MU_SETUP) を使用します。

この章では、マス アップデート定義の概要と、以下の方法について説明します。

- マス アップデートの一般情報の定義
- マス アップデートの共通のデータ変更の定義
- マス アップデートのその他のデータ変更の定義

マス アップデート定義について

マス アップデート定義では、指定した定義でマス アップデートを実行する場合に、マス アップデート プロ
セスで使用するデータ変更とロード選択基準のセットを定義します。マス アップデート定義でマス アップ
デート プロセスを開始すると、定義を変更することはできなくなります。マス アップデート定義を定義す
るには、マス アップデート定義コンポーネントを使用します。マス アップデート定義コンポーネントは、マ
ス アップデート マネージャ モジュールの一部です。

マス アップデート定義は、ロード選択基準が重複しないように注意して確認する必要があります。マス アップデート プロセスでは、追加の変更を順番に管理し、従業員 ID と雇用レコード番号の組み合わせごとに 1 つずつ処理します。従業員 ID と雇用レコード番号の組み合わせが同じ場合は、変更するごとに前の変更内容が上書きされます。このため、マス アップデート定義では、従業員 ID と雇用レコード番号の組み合わせに対して、1 つのマス アップデートで適用される変更データの組み合わせは 1 つだけです。

たとえば、“部門” の値を “D1” から “D2” に変更し、“D2” の値を持つ全ての部門で、“勤務地” の値を “L3” に変更するとします。その他の変更ページを使用して、1 つのマス アップデート定義で部門要素の値を “D2” に更新し、部門 D2 の勤務地の値を “L3” に更新するように定義すると、マス アップデート プロセスでは、最初に部門 D1 の従業員を部門 D2 に異動し、部門 D2 の既存の従業員を異動してから勤務地を “L3” に更新します。従業員プロセスでは、部門を変更しても従業員の勤務地は変更されません。勤務地の変更を全体に適用する場合は、部門変更と勤務地変更の 2 つのマス アップデート定義を定義する必要があります。2 番目のマス アップデートは、最初のマス アップデートが終了してから適用する必要があります。

マス アップデート定義の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
マス アップデート定義	MU_SETUP	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデート定義]、[マス アップデート定義]	マス アップデート定義の一般情報を選択します。選択したオプションは、この定義で処理する全ての更新に適用されます。
共通の変更	MU_SETUP_CHANGES	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデート定義]、[共通の変更]	ロード選択基準と共通のデータ変更を指定して、マス アップデートの内容を定義します。有効なマス アップデート定義を作成するには、共通の変更ページまたはその他の変更ページのいずれかでデータを 1 行以上定義する必要があります。
その他の変更	MU_SETUP_ADD_CHG	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデート定義]、[その他の変更]	マス アップデート定義に追加するロード選択基準ごとにマス アップデートの内容を定義します。
マス アップデート定義 - サマリ	MU_SETUP_SUMMARY	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデート定義]、[サマリ]	マス アップデート定義に含まれる全てのデータ変更の詳細なサマリを確認します。

マス アップデートの一般情報の定義

マス アップデート定義ページにアクセスします。

マス アップデート定義		共通の変更	その他の変更	サマリ
マス アップデート ID:	K00003			
*名称:	Labor Agreement K00001 - Update K00002			
略称:	Labor			
ステータス:	新規			
コピー元:	<input type="text"/> 			
処理モード オプション				
<input checked="" type="radio"/> 新規有効日の追加		*参照日:	2006/01/01 	
<input type="radio"/> 現データの修正		<input checked="" type="checkbox"/> 将来行を対象に含める		

マス アップデート定義ページ

[マス アップデート ID] 新規のマス アップデート定義を追加する場合に、この定義の一意の ID を入力します。

[名称]、[略称] マス アップデート定義の名称と略称を入力します。

[ステータス] マス アップデート定義のステータスが表示されます。有効値は以下のとおりです。

- [新規]: マス アップデート定義が作成済みで、選択フェーズで使用できます。
- [開始済]: マス アップデート定義が選択フェーズの実行中です。選択フェーズは、更新フェーズを実行する前に複数回実行できます。
- [処理中]: マス アップデート定義が更新プロセス フェーズの実行中です。更新フェーズは、完了フェーズを実行する前に複数回実行できます。
- [終了]: マス アップデート定義が完了フェーズを実行して終了しています。それ以上マス アップデート処理を実行することはできません。

注: マス アップデート処理の更新フェーズを開始すると、マス アップデート定義は表示専用になります。

[コピー元] 別のマス アップデート定義を基にマス アップデート定義を定義する場合、基準となるマス アップデート定義を選択します。マス アップデート定義をコピーすると、マス アップデート定義コンポーネントにコピー元の定義のデータがロードされます。

マス アップデート定義をコピーする場合、コピー元のグループビルドと従業員を使用できるかどうかを検証されます。使用できない場合は、警告メッセージが表示され、使用できないグループビルドと従業員はコピー先の定義にロードされません。

注: 作成中の新規定義に入力したデータは全て上書きされます。

[処理モード オプション]

このグループ ボックスでは、マス アップデート定義の一般的な処理オプションを指定します。プロセスで、現データを修正するか、または新しい有効日付きの行を追加するかを指定します。また、将来の日付の行も処理対象にするかどうかを指定します。

[新規有効日の追加] 参照日を新規有効日にして新規行を挿入する場合は、このオプション ボタンを選択し、[参照日] で日付を指定します。新規有効日に指定した日付のレコードが既に存在し、このレコードに連番フィールドが含まれる場合は、その日付と新しい連番が付いた行が挿入されます。それ以外の場合は、データが上書きされます。レコードが同一有効日連番によって管理されていない場合は、データが上書きされます。このオプションを使用すると、新規情報が挿入され、更新前のデータは上書きされません。

[現データの修正] 間違ったデータを修正して、従業員レコードの情報を上書きする場合は、このオプション ボタンを選択します。[参照日] に入力した日付の時点で有効なレコード、または有効であったレコードが修正されます。

[参照日] 新しい有効日付きの行を挿入する場合や既存の行を修正する場合に、マス アップデート プロセスで使用する日付を入力します。

[将来行を対象に含める] 参照日以降に変更の対象になる従業員のデータ (ロード選択基準で定義) を更新する場合、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックス (遡及と同様) は、エレメント レベルで利用可能な繰越オプションと組み合わせて使用できます。

マス アップデートの共通のデータ変更の定義

共通の変更ページにアクセスします。

マス アップデート定義 共通の変更 その他の変更 サマリ

マス アップデート ID: K00003

名称: Labor Agreement K00001 - Update K00002

ロード選択オプション

加ママイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/1 最後

*選択基準	法定区域	労働協約	*処理		
労働協約	USA	K00001	対象	+	-

個人

加ママイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-2/2 最後

*従業員 ID	雇用レポート番号	名前	*処理		
KU0059	0	Vicki Zinn	対象外	+	-
KU0068	0	Marc Kessler	対象外	+	-

データ変更

加ママイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1-4/4 最後

*連番	*セクション	*エレメント	文字値	将来行も対象		
1	職務データ	異動区分	DTA		+	-
2	職務データ	異動理由	CDP		+	-
3	勤務地	法定区域	USA	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
4	労働組合	労働協約	K00002	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-

共通の変更ページ

[ロード選択オプション]

このグループ ボックスでは、マス アップデートのロード選択基準を定義します。定義する基準の行ごとに、関連する従業員データを対象にするか対象外にするかを選択できます。複数行の基準を組み合わせ、ロード選択基準を絞り込むこともできます。

[選択基準]

特定の従業員データをマス アップデートの対象にするか対象外にするかの選択基準を指定します。

選択基準を指定すると、その選択基準に関連するフィールドが表示されるので、更新処理する値を指定します。たとえば、[グループ]を選択すると、[グループ ID] フィールドが表示されます。更新処理では、指定したグループ ID を持つ従業員が全員選択されます。

注: マス アップデート定義をグループ別に設定するには、マス アップデート定義コンポーネントへのグループ アクセス権限を与える必要があります。マス アップデート定義を部門別 (ビジネス ユニットや会社などの他の基準でも設定可能。データベースで定義した行レベルのセキュリティは、どの選択基準でも適用されます) に設定するには、選択した部門へのアクセス権限をユーザーが持っている必要があります。

[ブール値]

必要に応じて、このチェック ボックスをオンにし、選択したロード基準のブール値を指定します。

[開始日付]、[終了日]

必要に応じて、選択したロード基準の日付範囲を入力します。

[ビジネス ユニット]

必要に応じて、選択したロード基準で従業員が所属するビジネス ユニットを選択します。

[文字値]

必要に応じて、選択したロード基準の文字値を入力します。

[法定区域]

必要に応じて、選択したロード基準の法定区域を選択します。

[労働協約]

必要に応じて、選択したロード基準の労働協約を選択します。

[兵役]

必要に応じて、選択したロード基準の兵役を選択します。

[処理]

選択したロード基準をマス アップデートの対象にするか対象外にするかを選択します。

[個人]

このグループ ボックスでは、特定の従業員をマス アップデートの対象にするか対象外にするかを指定します。

[従業員 ID]

マス アップデートの対象または対象外にする従業員を選択します。

[雇用レコード番号]

マス アップデートの対象または対象外にする従業員の雇用レコード番号を選択します。

[名前]

選択した従業員の氏名が表示されます。

[処理]

選択した従業員をマス アップデートの対象にするか対象外にするかを選択します。

[データ変更]

このグループ ボックスでは、更新するフィールドと更新する値を定義します。このページまたはその他の変更ページには、1 行以上入力する必要があります。

職務データを変更する場合は、異動区分と異動理由を指定する必要があります。異動区分と異動理由を指定しないで従業員の職務データまたは個人データのレコードに新しい有効日付き行を挿入すると、マス アップデート処理では、以下の値が新しいレコードに挿入されます。

変更タイプ	異動区分	異動理由
従業員データの変更	データ変更 (DTA)	なし

[連番]

マス アップデートを処理する順番を示す数値を入力します。デフォルトでは、最初の行が 1 に設定され、行を挿入すると番号が 1 つずつ増加していきます。

エレメントの中には、同じマス アップデート ID で関連エレメントをいくつか指定しないと更新できないものもあります。たとえば、職務レコードの勤務地を指定するには、まず適切なビジネス ユニットを指定する必要があります。ビジネス ユニット エレメントの処理が先に行われる必要があるため、このエレメントには勤務地より前の連番を割り当てる必要があります。

電話番号情報などのキーで管理されているエレメントも、連番を使ってキーが先に更新されるように設定する必要があります。たとえば、一括処理で電話番号を更新する前に、電話番号タイプを更新する必要があります。マス アップデートを設定する際に、電話番号タイプには電話番号より前の連番を指定します。

関連フィールドやキー フィールドを追加入力する必要がある場合は、警告が表示されます。

注: フィールドの順番は正しく指定してください。マス アップデートでフィールドを更新する際には、オンラインでアクセスしたときにコンポーネントを制御しているのと同じ制約（デフォルト設定フィールドや必須フィールドなど）も適用されることに注意してください。

[セクション]

マス アップデートを実行するエレメントを含むセクションを選択します。マス アップデートに使用されるセクションとエレメントの組み合わせは、プロセッサの設定ページのトランザクション プロセッサの設定の一部として定義します。

[エレメント]

マス アップデートでデータ変更を実行する対象として選択したセクション内のエレメントを選択します。エレメントはページのフィールドを参照します。マス アップデートに使用されるセクションとエレメントの組み合わせは、プロセッサの設定ページのトランザクション プロセッサの設定の一部として定義します。

エレメントの中には、プロセッサの設定ページで定義する必要条件が必要になるものもあります。この場合は、必要条件エレメントを最初に選択する必要があります。必要条件エレメントが必要なエレメントを選択する場合、必要条件のデータ変更を入力していないと、必要条件が作成されていない旨の警告が表示されます。

[文字値]

選択したエレメントで変更する新しい値を入力します。選択したエレメントのフィールド タイプに応じて、異なる値フィールドが表示されます。

[将来行も対象]

このチェック ボックスをオンにすると、マス アップデート プロセスで追加または修正される有効日付きの行だけでなく、既存の有効日付きの将来行が全て更新されます。有効日付きの将来行とは、マス アップデート定義ページで指定した参照日以降の有効日が付いた行です。このオプションは有効日が付いたデータだけに適用されます。

関連項目:

第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、39ページ

マス アップデートの追加のデータ変更の定義

その他の変更ページにアクセスします。

その他の変更ページ

その他の変更ページは、共通の変更ページと組み合わせて定義し、複数の変更を組み合わせて定義できます。その他の変更ページでは、複数の変更を入力できますが、どれも必須ではありません。

[変更番号]

[変更番号] フィールドには、マス アップデート定義にロード選択基準を追加した場合に、マス アップデート変更を処理する順番を入力します。追加ボタンをクリックすると、追加のロード選択基準のデータ変更の情報が挿入されます。最初の行は自動的に“1”に設定され、行を追加すると番号が1つずつ増加していきます。

注: このページの残りのフィールドは、共通の変更ページのフィールドと同じです。

マス アップデートの作成

このセクションでは、マス アップデートトランザクションの作成の概要と、マス アップデートトランザクションを生成する方法について説明します。

マス アップデートの作成について

マス アップデート作成コンポーネントでは、マス アップデート選択アプリケーション エンジン プロセス (HR_MASS_PREP) を実行して、マス アップデート処理の選択フェーズを実行します。このプロセスの主な役割は、ロードするマス アップデート定義を指定し、マス アップデート定義のロード選択基準で指定した個人 (従業員 ID と雇用レコード番号の組み合わせ) ごとにトランザクションを生成することです。このプロセスでは、トランザクションの生成中に、トランザクションごとに一意のトランザクション ID が割り当てられます。トランザクションの内容は XML 言語で作成され、トランザクション ID をキーにしたテーブルに保存されます。各トランザクションには、従業員 ID と雇用レコード番号の組み合わせごとに変更セットが 1 つずつ格納されます。

注: このラン コントロール ページは、他のマス アップデート処理コンポーネントと共有されます。

マス アップデートの作成に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
マス アップデート作成	RUNCTL_MU	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデート作成]	選択したマス アップデート定義で、マス アップデート トランザクションを生成します。

マス アップデートの生成

マス アップデート作成ページにアクセスします。

マス アップデート作成


ラン コントロール ID: DOC

[レポート マネージャ](#)[プロセス モニター](#)

実行

プロセス インスタンス:634

マス アップデート

カスタマイズ | 検索 |  最初 ◀ 1/1 ▶ 最後

*連番	*マス アップデート ID	名称	マス アップデート ステータス	
1	K000003	Labor Agreement K00001 - Update K00002	新規	<div><div>+</div><div>-</div></div>

マス アップデート作成ページ

[マス アップデート]

マス アップデート定義をグリッドに 1 つ以上入力します。

[連番]	指定したマス アップデート定義でマス アップデートトランザクションを生成する順番を入力します。デフォルトでは、最初の行は “1” に設定され、行を追加すると番号が 1 つずつ増加していきます。
	重要: 2 つ以上のマス アップデート定義でトランザクションを同時に作成する場合は、ロード選択基準が重複していないことを確認する必要があります。
[マス アップデート ID]、[名称]	マス アップデートトランザクションの生成で使用するマス アップデート定義を選択します。選択したマス アップデート定義の名称が表示されます。

- [マス アップデート ステータス]

選択したマス アップデート定義の処理ステータスが表示されます。
有効値は、[新規]、[開始済]、[処理中]、[終了] です。

参照: 「マス アップデート定義の設定」、「マス アップデートの一般情報の定義」

マス アップデート レポートの生成

このセクションでは、マス アップデート レポートを生成する方法について説明します。

マス アップデート レポートの生成に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
マス アップデートレポート	RUNCTL_MU	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデートレポート]	特定のマス アップデート定義に関連するトランザクションを確認またはプレビューするレポートを生成します。

マス アップデート レポートの生成

マス アップデート レポート ページにアクセスします。

マス アップデート レポート

ラン コントロール ID: DOC

言語コード:

英語

トランザクション ステータス

[レポート マネージャ](#)

[プロセス モニター](#)

実行

☐ メッセージを印刷する

マス アップデート

カスタマイズ | 検索 |

最初

1/1

最後

*連番	*マス アップデート ID	名称	マス アップデート ステータス	
1	K00003	Labor Agreement K00001 - Update K00002	新規	<div>+ -</div>

マス アップデート レポート ページ

マス アップデート SQR レポート (HRMASS) には、マス アップデート ID、名称およびステータスが表示されます。また、ステータスごとのトランザクションの合計数とトランザクションの詳細も表示されます。このレポートは、マス アップデート マネージャ モジュールの一部です。このレポートは、マス アップデート トランザクションの処理前、処理中、処理後のいつでも実行できます。マス アップデート トランザクションの処理前に実行する場合は、プレビューとしてこのレポートを使用できます。

- [言語コード]

レポートを出力する言語を選択します。
- [トランザクション ステータス]

レポートに表示するマス アップデート トランザクションのステータスを選択します。有効値は、[キャンセル]、[異常終了]、[準備完了]、[正常終了]、[警告] です。
- [メッセージを印刷する]

レポートにメッセージと例外の詳細を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

[マス アップデート]

このグループ ボックスでは、レポートに出力するマス アップデート定義を 1 つ以上入力します。

- [連番]

マス アップデート定義をレポートに表示する順番を指定します。デフォルトでは、最初の行は “1” に設定され、行を追加すると番号が 1 つずつ増加していきます。
- [マス アップデート ID]、[名称]

レポートを含めるマス アップデート定義を選択します。選択した定義の名称が表示されます。
- [マス アップデート ステータス]

選択したマス アップデート定義のステータスが表示されます。

マス アップデートの管理

このセクションでは、マス アップデートを管理する方法について説明します。

マス アップデートの管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
マス アップデート管理	MU_MANAGE	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデート管理]	実行マネージャモジュールの現在の職務データを監視して、生成されたマス アップデートトランザクションを管理します。トランザクションの詳細を表示したり、ステータスを変更できます。トランザクションをオンラインで個別に処理してマス アップデートの更新フェーズを実行することもできます。
トランザクション詳細	MU_MANAGE_DETAIL_S	マス アップデート管理ページで、各行の [詳細] ボタンをクリックします。	マス アップデートトランザクションの詳細を確認します。このページには、トランザクションの概要、ロード選択基準、変更、対象、メッセージおよび例外に関する情報が表示されます。

マス アップデートの管理

マス アップデート管理ページにアクセスします。

マス アップデート管理



▼ 現在の職務データ

プロセス インスタンス	ラン コントロール ID	マス アップデート ID	ステータス	未処理トランザクション	処理済トランザクション
				0	0

検索条件

マス アップデート ID:

セクション:

エレメント:

従業員 ID:

トランザクション ステータス:

検索

マス アップデート管理ページ (1/2)

▼ ステータス別トランザクション数

マス アップデート ID	トランザクション ステータス	件数
K00003	異常終了	23

1 ~ 23 / 23

マス アップデート トランザクション

マス アップデート	個人 ID	雇用コード番号	名前	*トランザクション ステータス	実行
K00003	K0HU10	0	Allison Smith	異常終了	実行
K00003	K0HU10	1	Allison Smith	異常終了	実行
K00003	K0HU11	0	Thomas Holmes	異常終了	実行
K00003	K0HU12	0	Patricia Happs	異常終了	実行
K00003	K0HU13	0	Joseph Barnes	異常終了	実行
K00003	K0HU14	0	Hector Walpoe	異常終了	実行
K00003	K0HU15	0	Penelope Gustaf	異常終了	実行
K00003	K0HU16	0	Roberta Wong	異常終了	実行
K00003	K0HU17	0	Mas Ravi	異常終了	実行
K00003	KU0010	0	Antonio Santos	異常終了	実行
K00003	KU0021	0	Salish Bir	異常終了	実行
K00003	KU0039	0	Shawn Quilligan	異常終了	実行
K00003	KU0042	0	Danny Johnson	異常終了	実行
K00003	KU0044	0	Daryl Reese	異常終了	実行
K00003	KU0045	0	Jorge Enriquez	異常終了	実行
K00003	KU0049	0	Julie Dyer	異常終了	実行

マス アップデート管理ページ (2/2)

[リフレッシュ] クリックすると、ページのデータが再ロードされます。

[現在の職務データ]

このグループ ボックスには、マス アップデート処理の現在の職務データの詳細が表示されます。

[プロセス インスタンス]	対応するインスタンスのプロセス インスタンス番号が表示されます。
[ラン コントロール ID]	インスタンスが処理するラン コントロール ID です。
[マス アップデート ID]	インスタンスが処理するマス アップデート定義です。
[ステータス]	プロセス インスタンスの実行ステータスです。
[未処理トランザクション]	プロセス インスタンスに割り当てられている未処理のマス アップデートトランザクションの数です。
[処理済トランザクション]	プロセス インスタンスで処理されたマス アップデートトランザクションの数です。この数には、エラーが発生した処理済みトランザクションも含まれます。

[検索条件]

このグループ ボックスでは、マス アップデートトランザクションを取得するための検索条件を指定します。

[マス アップデート ID]	マス アップデート定義を選択し、指定した定義内のマス アップデートトランザクションのみに検索対象を絞り込みます。
[セクション]	セクションを選択し、指定したセクションに関連するマス アップデートトランザクションのみに検索対象を絞り込みます。
[エレメント]	エレメントを選択し、指定したエレメントに関連するマス アップデートトランザクションのみに検索対象を絞り込みます。
[従業員 ID]	従業員 ID を選択し、指定した従業員 ID に関連するマス アップデートトランザクションのみに検索対象を絞り込みます。
[トランザクション ステータス]	トランザクション ステータスを選択し、指定したステータスのマス アップデートトランザクションのみに検索対象を絞り込みます。
[検索]	このボタンをクリックすると、指定した検索条件に一致するマス アップデートトランザクションのリストが表示されます。検索結果は、[マス アップデートトランザクション] グリッドに表示されます。

[ステータス別トランザクション数]

このグループ ボックスには、検索結果のマス アップデートトランザクションに関連する統計が表示されます。検索結果には、マス アップデート定義のリスト、各定義のステータス、および定義ごとのトランザクション数が表示されます。

[マス アップデートトランザクション]

[マス アップデート]	検索条件に一致する各マス アップデート定義の ID が表示されます。各行には、その定義に基づいたトランザクションを持つ従業員も表示されます。ID をクリックすると、マス アップデート定義コンポーネントにアクセスし、マス アップデート定義の詳細を確認できます。
[個人 ID]	検索条件に一致する各マス アップデートトランザクションに関連する個人の ID が表示されます。各行の 個人 ID のリンクをクリックすると、個人情報

報コンポーネントにアクセスして、各従業員の個人データレコードを確認できます。

注: このリンクは個人情報にアクセスしますが、マス アップデートトランザクション自身は個人データには関連付けられません。

[雇用レコード番号]

検索条件に一致する各マス アップデートトランザクションに関連する個人の雇用レコード番号が表示されます。各行の雇用レコード番号のリンクをクリックすると、職務データコンポーネントにアクセスして、個人の職務データレコードを確認できます。

注: このリンクは職務データにアクセスしますが、マス アップデートトランザクション自身は職務データには関連付けられません。

[名前]

検索条件に一致する各マス アップデートトランザクションに関連する個人の氏名が表示されます。各行の名前のリンクをクリックすると、各従業員の個人データにアクセスします。

[トランザクション ステータス]

マス アップデートトランザクションのステータスが表示されます。有効値は以下のとおりです。

- [キャンセル]: ユーザーがマス アップデートトランザクションをキャンセルしています。
- [異常終了]: マス アップデート プロセスでトランザクションを正常に処理できません。メッセージと例外を表示し、エラーに関する詳細を表示します。
ステータスを [キャンセル] に変更すると、トランザクションをキャンセルできます。処理が終了すると、このアクションは元に戻せません。
- [準備完了]: 選択フェーズでトランザクションが作成され、処理可能な状態になっています。
ステータスを [キャンセル] に変更すると、トランザクションをキャンセルできます。処理が終了すると、このアクションは元に戻せません。
- [正常終了]: マス アップデート プロセスでトランザクションが正常に処理され、更新が実行済みです。
- [警告]: 選択フェーズでトランザクションが作成され、処理可能な状態になっています。ただし、トランザクションの作成中に競合が発生しています。指定した雇用レコード番号の従業員が、1 つ以上の追加のロード選択基準の対象になっています。この場合、従業員は最新のロード選択基準に割り当てられます。

ステータスを [キャンセル] に変更すると、トランザクションをキャンセルできます。処理が終了すると、このアクションは元に戻せません。

トランザクション ステータスを変更して保存すると、マス アップデート定義のステータスも更新されます。マス アップデート定義の全てのトランザクションのステータスが [キャンセル] または [正常終了] で、ステータスが [準備完了]、[警告]、[異常終了] のトランザクションがない場合、マス アップデート定義のステータスは [終了] に変更されます。マス アップデートプロセスでは、ステータスが [準備完了] または [異常終了] のトランザクションのみが処理されます。それ以外のステータスのトランザクションは処理されません。

- 【詳細】** クリックすると、トランザクション詳細ページにアクセスします。このページでは、マス アップデートトランザクションの詳細と実行ログを確認できます。
- 【実行】** 各行のこのボタンをクリックすると、対応するマス アップデートトランザクションがオンラインで個別に処理されます。処理できるのは、ステータスが [準備完了] または [異常終了] のトランザクションのみです。トランザクションプロセッサが起動し、トランザクションが処理されます。処理が終了すると、トランザクションプロセッサにより、トランザクションとマス アップデート定義のステータスが更新されます。オンラインでのトランザクションの個別処理は、特にトラブルシューティングの場合に役立ちます。

マス アップデート トランザクションの詳細の確認

トランザクション詳細ページにアクセスします。

トランザクション詳細									
マス アップデート:	K00003	Labor Agreement K00001 - Update K00002							
個人 ID:	K0HU10	Allison Smith							
雇用レポート番号:	0								
トランザクション ステータス:	異常終了	トランザクション ID:	2						
更新者:	PS	更新日時:	07/05/27 05:49:24						
ロード選択基準 勤務地=GBIBU,KUNY00									
変更 処理モード オプション = 現行情報の修正 参照日 = 2006-01-01 職務データ: 異動区分 = DTA 職務データ: 異動理由 = CDP 勤務地: 法定区域 = USA (将来行も対象) 労働組合: 労働協約 = K00002 (将来行も対象) 労働組合: 勤務施設 ID = K00003 (将来行も対象)									
対象 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開始日</th> <th>開始連番</th> <th>終了日付</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2003/01/01</td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				開始日	開始連番	終了日付	2003/01/01		0
開始日	開始連番	終了日付							
2003/01/01		0							
メッセージと例外 <div style="text-align: right;"> カスタマイズ 検索 </div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>最終更新日時</th> <th>重要度</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>07/05/27 05:49:24</td> <td>エラー</td> <td> Une erreur est survenue avant d'enregistrer l'interface de composant. (18137,57) HMCR_API2CIciHandler.OnExecute Name:ciSave PCPC:5852 Statement:103 Called from:HR_MASS_UPDATE_SERVICES.MassUpdateJob_v1_0.implMassUpdateJob.OnExecute Name:save Statement:102 Called from:HR_MASS_UPDATE_SERVICES.MassUpdateJob_v1_0.implMassUpdateJob.OnExecute Name:DoService Statement:98 Called from:HR_TRANSACTION_PROCESSOR.TransactionProcessor.OnExecute Name:executeServices Statement:129 Called from:HR_TRANSACTION_PROCESSOR.TransactionProcessor.OnExecute Name:execute Statement:58 Called from </td> </tr> </tbody> </table>				最終更新日時	重要度	説明	07/05/27 05:49:24	エラー	Une erreur est survenue avant d'enregistrer l'interface de composant. (18137,57) HMCR_API2CIciHandler.OnExecute Name:ciSave PCPC:5852 Statement:103 Called from:HR_MASS_UPDATE_SERVICES.MassUpdateJob_v1_0.implMassUpdateJob.OnExecute Name:save Statement:102 Called from:HR_MASS_UPDATE_SERVICES.MassUpdateJob_v1_0.implMassUpdateJob.OnExecute Name:DoService Statement:98 Called from:HR_TRANSACTION_PROCESSOR.TransactionProcessor.OnExecute Name:executeServices Statement:129 Called from:HR_TRANSACTION_PROCESSOR.TransactionProcessor.OnExecute Name:execute Statement:58 Called from
最終更新日時	重要度	説明							
07/05/27 05:49:24	エラー	Une erreur est survenue avant d'enregistrer l'interface de composant. (18137,57) HMCR_API2CIciHandler.OnExecute Name:ciSave PCPC:5852 Statement:103 Called from:HR_MASS_UPDATE_SERVICES.MassUpdateJob_v1_0.implMassUpdateJob.OnExecute Name:save Statement:102 Called from:HR_MASS_UPDATE_SERVICES.MassUpdateJob_v1_0.implMassUpdateJob.OnExecute Name:DoService Statement:98 Called from:HR_TRANSACTION_PROCESSOR.TransactionProcessor.OnExecute Name:executeServices Statement:129 Called from:HR_TRANSACTION_PROCESSOR.TransactionProcessor.OnExecute Name:execute Statement:58 Called from							

[戻る](#)

トランザクション詳細ページ

[ロード選択基準]

マス アップデートトランザクションの生成時に使用されるロード選択基準を確認します。共通の変更とその他の変更のロード選択基準が含まれます。

[対象]

マス アップデートの対象となるトランザクションの日付範囲を確認します。

[メッセージと例外]

処理中にトランザクション プロセッサによって生成されたマス アップデートトランザクションのメッセージと例外を確認します。トランザクション プロセッサがメッセージまたは例外、重要度、および説明を生成した最終更新日時が順番に表示されます。

マス アップデートの実行

このセクションでは、マス アップデート処理の概要と、マス アップデート プロセスの実行方法について説明します。

マス アップデート処理について

マス アップデート実行コンポーネントでは、マス アップデートトランザクションをバッチ処理するマス アップデート アプリケーション エンジン (AE) プロセス (HR_MASS_UPD) を実行します。このバッチを実行することは、マス アップデート処理の更新フェーズを実行することを意味します。マス アップデート管理コンポーネントでは、マス アップデート処理のバッチ更新フェーズをオンラインで実行できません。

マス アップデート プロセス (HR_MASS_UPD) では、更新の候補となっているデータに関連するサービス (職務データの場合は JOB_DATA コンポーネント) を使用して、グループの各従業員のデータが取得されます。次に、従業員に新しい値が割り当てられて変更内容が保存され、このコンポーネントに適用されるビジネス ルールがトリガされます。また、実行結果レコードが作成され、全従業員に対して行われた全ての修正状況が追跡管理されます。

マス アップデート プロセスを実行するには、マス アップデート実行ラン コントロール ページを使用します。このページでは、マス アップデートのバッチ処理で使用するマス アップデート定義を 1 つ以上指定し、マス アップデート プロセスで各定義のトランザクションを処理する順番を指定します。並列処理のパラメータを指定することもできます。並列処理では、マス アップデート プロセスのインスタンスを同時に実行できるため、パフォーマンスが向上します。

マス アップデート プロセス (マス アップデート マネージャで起動) を実行すると、処理対象のトランザクション (ステータスが未処理のトランザクション) のセットに対してトランザクション プロセッサが呼び出されます。マス アップデート プロセスでは、未処理のマス アップデートトランザクションのキューと実行中のインスタンスのリストを監視します。監視処理は、処理待ちのトランザクションがなくなるか、ランコントロール ページで定義した並列処理の最大数に達するまで実行されます。

並列処理でプロセスを実行すると、マス アップデート マネージャはマス アップデート実行 AE プロセス (HR_MASS_EXE) を使用して実行マネージャを起動し、ラン コントロール ページで指定した並列処理のパラメータを使用します。マス アップデート実行プロセスでは、最初にインスタンス (スポーニングと呼ばれる) が作成されます。次に、[インスタンス別トランザクション数] フィールドで指定した数に基づいて、トランザクションがインスタンスに割り当てられ、PeopleTools プロセス スケジューラに送信してインスタンスが処理されます。インスタンス数が [最大インスタンス数] フィールドで指定した数以下の場合は、他のインスタンスがスポーニングされます。このプロセスは、インスタンスの最大許容数に達するまで繰り返されます。マス アップデート実行プロセスは、マス アップデート プロセスの子プロセスです。

注: PeopleTools のサーバー定義ページ (ナビゲーションは [PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[サーバー定義]) では、ロード バランシング オプションを指定できます。

マス アップデートの実行に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
マス アップデート実行	RUNCTL_MU	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデート実行]	マス アップデートプロセスを実行します。

マス アップデート プロセスの実行

マス アップデート実行ページにアクセスします。

マス アップデート実行

ラン コントロール ID: DOC

[レポート マネージャ](#)
[プロセス モニター](#)
[実行](#)

マス アップデート

最大サイズ | 検索 |

最初 1/1 最後

*連番	*マス アップデート ID	名称	マス アップデート ステータス	
1	K00003	Labor Agreement K00001 - Update K00002	新規	+ -

並列処理

☐ 並列処理でインスタンスを実行する
 最大インスタンス数:
 インスタンス別トランザクション数:

マス アップデート実行ページ

[マス アップデート]

このグループ ボックスでは、マス アップデート トランザクションの処理で使用するマス アップデート定義を選択します。

[連番] マス アップデートを実行する順番を指定します。デフォルトでは、最初の行は "1" に設定され、行を追加すると自動的に番号が 1 つずつ増加していきます。

[マス アップデート ID]、[名称] 処理に含めるマス アップデート定義を選択します。選択できるのは、開始済みまたは進行中のマス アップデート定義のみです。選択したマス アップデート定義の名称が表示されます。

[マス アップデート ステータス] マス アップデート定義のステータスが表示されます。

[並列処理]

このグループ ボックスでは、マス アップデート実行インスタンスの並列処理のパラメータを指定します。マス アップデート プロセスを別のハードウェアで同時に実行すると、パフォーマンスを向上できます。この場合、追加の設定は必要ありません。

[並列処理でインスタンスを実行する]

このチェック ボックスをオンにすると、複数のインスタンスを同時に実行できます。このプロセスでは、実行マネージャを使用して、サブプロセス（プロセス インスタンスと呼ばれます）の生成と監視を行います。サブプロセスは PeopleTools プロセス スケジューラで同時に実行されます。

このチェック ボックスをオフにすると、プロセスは PeopleTools プロセス スケジューラの単一のインスタンスで実行されます。この場合、マス アップデートは各トランザクションで連続してデータベースにコミットされます。

[最大インスタンス数]

プロセスで同時に生成および実行可能なインスタンスの最大数を入力します。このチェック ボックスは、インスタンスを並列処理で実行するように指定した場合に利用できます。

[インスタンス別トランザクション数]

新規インスタンスの作成前にインスタンスごとに処理可能なトランザクションの最大数を入力します。このチェック ボックスは、インスタンスを並列処理で実行するように指定した場合に利用できます。

未処理のマス アップデートの削除

このセクションでは、マス アップデートを削除する方法について説明します。

マス アップデートの削除に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
マス アップデート削除	RUNCTL_MU	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[マス アップデート]、[マス アップデート削除]	生成済みで未処理のマス アップデートトランザクションを削除します。

マス アップデートの削除

マス アップデート削除ページにアクセスします。

マス アップデート削除

ラン コントロール ID: DOC

[レポート マネージャ](#)
[プロセス モニター](#)
[実行](#)

マス アップデート				最初	1/1	最後
*連番	*マス アップデート ID	名称	マス アップデート ステータス			
1	K00003	Labor Agreement K00001 - Update K00002	新規			

マス アップデート削除ページ

マス アップデート マネージャによってマス アップデート削除アプリケーション エンジン (AE) プロセス (HR.MASS_DEL) が起動し、トランザクションの削除が実行されます。マス アップデート削除プロセスでは、選択したマス アップデート定義からマス アップデート作成コンポーネントで生成した未処理のマス アップデートトランザクションを削除します。また、必要に応じてシステム テーブルのクリーンアップも実行します。

[マス アップデート]

このグループ ボックスでは、マス アップデートトランザクションの削除で使用するマス アップデート定義を選択します。

[連番]	マス アップデートトランザクションを削除する順番を指定します。デフォルトでは、最初の行は“1”に設定され、行を追加すると自動的に番号が 1 つずつ増加していきます。
[マス アップデート ID]、[名称]	削除するマス アップデートトランザクションを含むマス アップデート定義を選択します。マス アップデート定義の名称が表示されます。選択できるのは、開始済みまたは進行中のマス アップデート定義のみです。
[マス アップデート ステータス]	マス アップデート定義のステータスが表示されます。

第 25 章

承認の設定と使い方

この章では、承認の概要と以下の項目について説明します。

- 承認コンポーネントのナビゲーション
- 承認トランザクションの登録
- ワークフロー トランザクションのリンク
- 承認トランザクションの設定
- 承認プロセス定義の設定
- 動的承認の定義
- 承認用の通知テンプレートの定義
- 承認用のユーザーの定義
- 通知/エスカレーション マネージャの設定
- 承認のためのセキュリティの設定
- 承認の管理
- 承認オーディット レポートの作成
- セルフサービス承認トランザクションの使い方

承認について

多くの日常のタスクは、昇進・昇格の承認のようにいくつかのステップと人々の共同作業を含む大きなプロセスの一部です。ワークフローという言葉は、このプロセスを指します。このような複数ユーザーが関わるプロセスを円滑に進めるために、PeopleSoft Enterprise には承認機能が用意されています。この機能を使用すると、自動的にワークフロー通知をトリガして、承認待ちトランザクションのプロセスで次の承認者に知らせることができます。

承認で使う用語

以下の用語は、承認機能を理解するうえで重要であり、この章の全体にわたって使用されます。

承認プロセス

ある特定のトランザクションが組織内で承認のためにどのような経路で送られるかというビジネス プロセスを表す一般的な用語。

承認ワークフロー エンジン (AWE)

承認プロセスの作成、実行、管理のための機能を提供するエンジン。

承認プロセス定義	承認ワークフロー エンジン内での承認プロセスの定義。定義には、ステージ、パス、ステップ、さまざまな階層、条件、およびその他の設定可能なパラメータが含まれます。
承認プロセス定義 ID (プロセス ID)	承認ワークフロー エンジンにおける特定の承認プロセス定義に関連する ID。承認ワークフロー エンジンに登録された各トランザクションには、少なくとも 1 つのプロセス ID が定義されている必要があります。
リクエスト	承認プロセスのために承認ワークフロー エンジンを使用するトランザクション。たとえば、昇進・昇格や転勤時の休暇リクエスト、人材募集などがあります。
承認ステップ または ステップ	ステップには 1 人または複数の承認者がいて、承認者のアクションは追跡されます。ステップは、指定人数の承認者による関与を必要とするように設定することができます。ステップには、考慮中のリクエストについてステップを有効にするかどうかを決定する条件を設定します。ステップには連番が付けられています。
承認パス または パス	パスは、ステップの順番です。たとえば、ステップ 2 はステップ 1 が承認された後でないと承認者に送られません。承認はなんらかの決定に基づいて、複数の承認パスを経由することも実際に可能です。パスは相互に排他的にすることも、並行させることもできます。パスは全て最終承認で 1 つにまとめられます。
承認ステージ または ステージ	ステージは、承認パスを集めたものです。承認ステージは、単一の順序になっています (ステージ 1、ステージ 2 など)。承認ステージは、直前のステージが完了すると実行されます。承認ステージが実行されると、それに含まれる全ての承認パスも同時に実行されます。承認ステージは、含まれる承認パスが全て完了したときに完了したと見なされます。
承認者	リクエストの承認 (却下、差し戻しなど) を行う権限を持つと決定されたユーザー。
依頼者 および発信者	依頼者は、承認ワークフロー エンジンでリクエストの開始者として扱うユーザーです。ほとんどの場合、依頼者と発信者は同じユーザーになります。ただし、委任機能を使用する場合は依頼者と発信者が異なることがあります。たとえば、管理者がトランザクションを直属の部下に委任して、部下がトランザクションを送信すると、部下が発信者で管理者は依頼者となります。
対象者	トランザクションを処理する対象となるユーザー。たとえば、Karen が上司の Russell に自分の部下の 1 人である Robbin の昇進・昇格リクエストを送信するとします。この場合、Karen は依頼者 (発信者) で Robbin が対象者となり、Russell は承認者です。
監督者 または管理者	導入時の直属部下の設定で定義されている、依頼者または承認者への管理責任を持つユーザー。
承認管理者 または 承認ワークフロー エンジン管理者	承認の設定、管理、トラブルシューティングおよびメンテナンスを担当するシステム管理者。
イベント または承認イベント	承認ワークフロー エンジンには、イベント主導型です。イベントは通常、送信や承認、却下、差し戻しなどシステム内のユーザーが実行可能なアクションです。
ステータス または承認ステータス	ステータスは通常、トランザクションの置かれる全体的な状況を表します。たとえば、承認待ち、保留中、承認済み、却下、終了などです。

承認条件	承認が必要かどうかの決定に使用するルール。承認条件のフィールドおよびディメンションは、承認条件の定義に使用されるデータ要素および属性です。
承認階層	トランザクション タイプによって必要とされる、実際の承認をモデルとする組織的な階層（たとえば、監督者や部門別の承認階層など）。
ユーザー リスト	SQL ステートメントの結果として、または PeopleSoft のロールや PeopleSoft アプリケーション クラスとして表される、ユーザー（PeopleSoft ユーザー ID）の集まり。
代替承認者 または代替ユーザー ID	ユーザーは、システム内の別のユーザーを指定の期間だけ自分に代わる承認者とすることができます。これは、PeopleTools のセキュリティ内のユーザー プロファイル コンポーネントにあるワークフロー ページで設定します。
委任	委任とは、あるユーザーが責務のある特定タスクについて、他のユーザーを自分の代理に任命することです。委任機能を使用すると、管理者トランザクションを開始または承認する権限を委任することにより、他のユーザーに自分の代理として管理者タスクを実行させることができます。

承認ワークフロー エンジン

承認ワークフロー エンジン (AWE) は、承認プロセスを作成、実行および管理するためのフレームワークと機能を提供します。このエンジンは、アプリケーション コンポーネント設定と組み合わせて一連のデータベース オブジェクトを使用し、ワークフローを用いて承認を処理する方法を決定します。

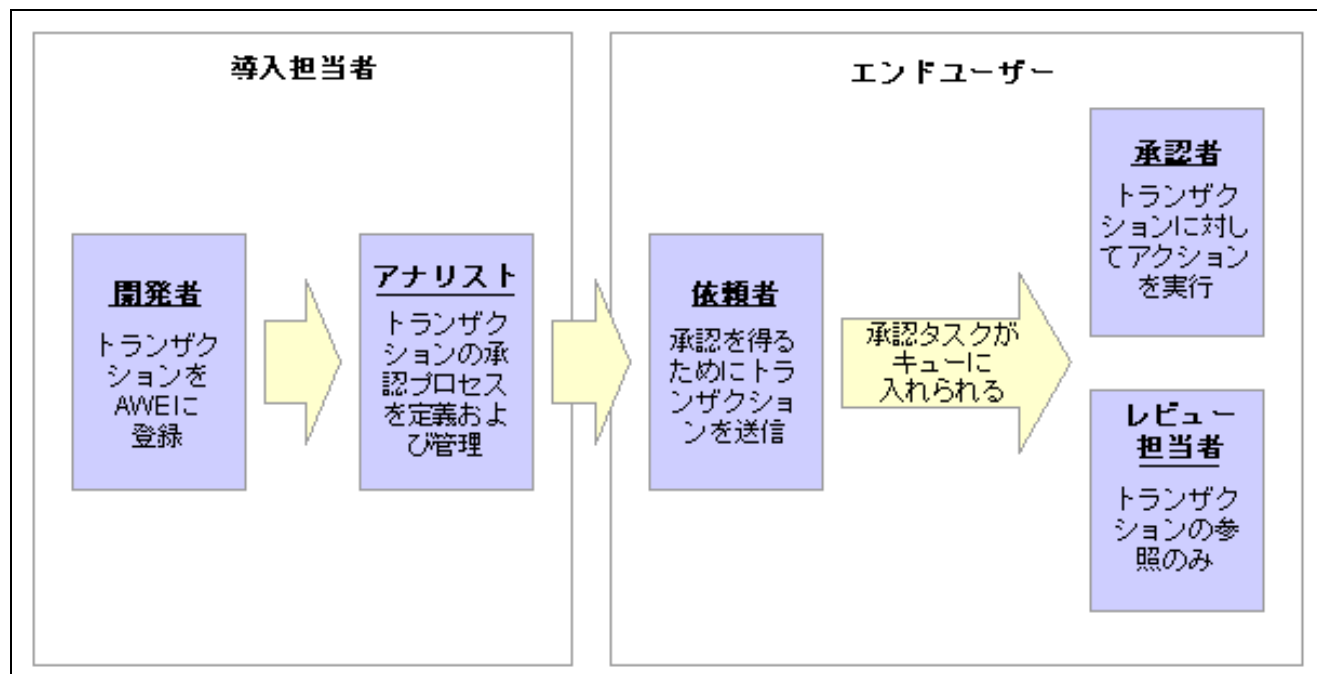
承認ワークフローは、依頼者が昇進・昇格などのトランザクションを送信するとトリガされます。アプリケーションによって、トランザクションが承認ワークフロー エンジンに渡され、エンジンは適切な承認プロセス定義を探して承認ワークフローを開始します。そして、承認者のグループがトランザクションに関連するタスクを実行します。

承認ワークフロー エンジンによって、3 つのレベルのユーザーが組織の要件を満たすトランザクション承認を作成、設定および使用できます。たとえば、昇進・昇格を提案してそれに対して承認を得るプロセスには、昇進・昇格を承認する担当者、承認者の順序および承認者への転送方法を定義する必要があります。

作成および管理のために PeopleSoft PeopleTools の高度な技術的スキルを必要とする標準の PeopleSoft ワークフローと対照的に、承認ワークフローは作成や設定および管理がはるかに簡単なワークフローを提供します。たとえば、承認ワークフローの全てのステップは、基底にある PeopleSoft の PeopleCode ではなく PeopleSoft ページを使用して定義します。これによって、職務権限を持つユーザーは専門の開発者にワークフロー ルールの作成を依頼しなくても、これらのオンラインの PeopleSoft ページを使用してワークフローを設計および管理することができます。

承認ビジネス プロセス フロー

この図は、承認機能の導入と使用のビジネス プロセス フローを示します。アプリケーション開発者やビジネス アナリストおよびエンドユーザーが、承認ワークフローを使用して行うタスクを示しています。



承認ビジネス プロセス フロー

承認ビジネス プロセス フロー内では、次のことが行われます。

- アプリケーション開発者は、トランザクション登録ページを使用することにより情報を承認ワークフローエンジンに登録します。このページでは、アプリケーションをエンジンに登録して、そのコンポーネント、イベント ハンドラおよびレコードを記述します。

レジストリの定義の一環として、アプリケーション開発者はレコードとテーブルを作成し、そこに相互参照情報を格納してイベントの通知テンプレートを設定します。この定義によって承認待ちのワークフロープロセスが決まり、どのトランザクションが承認または却下されるかがアプリケーションに伝えられます。また、アプリケーション開発者はトランザクション コンポーネントをリンクします。

注:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理には、承認ワークフロー エンジンに登録済みのトランザクションが数多く用意されています。これらのトランザクション レジストリは変更しないでください。これらの設定は出荷時のままにしておく必要があるためです。標準のトランザクション レジストリ定義の完全なリストを参照するには、[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[トランザクション登録]の順にクリックすることにより、トランザクション登録コンポーネントにアクセスします。

- 職務機能ビジネス アナリストは、アプリケーション トランザクションの承認プロセス定義を定義します。承認プロセス定義には、各承認プロセス ID について、承認ステージやパス、ステップ、受取人および通知の設定が含まれます。アナリストは、承認プロセス定義の基準とする承認トランザクション レジストリの入力項目を識別し、プロセスの詳細を定義します。
また、職務機能ビジネス アナリストは、ユーザー リスト定義、電子メール テンプレート定義およびトランザクションの設定を定義または確認します。
設定を完了したら、職務機能ビジネス アナリストは、承認プロセス トランザクションの管理とトラブルシューティングを担当します。
- 依頼者は、承認を得るためにトランザクションを送信します。

このアクションによって承認プロセスが開始されます。承認ワークフロー エンジンでは承認プロセス定義を読み込み、承認者のためにトランザクションをキューに入れます。

- 承認タスクが、電子メール通知またはワークリストの項目（または両方）を使用して承認者またはレビュー担当者へ送信されます。

ワークリストの項目に組み込まれた URL は、対応する承認コンポーネントをポイントします。

- 承認者はトランザクションに対してアクションを実行します。

承認者はリクエストを承認または却下したり、トランザクションのステータスのモニターや承認オーディットを行うことができます。承認プロセス中にエラーや条件またはルールの違反があった場合、承認管理者は通知を受け取り、問題を解決します。

- レビュー担当者はトランザクションを参照します。

承認の設計

承認プロセスを定義、検証して有効にしたら、トランザクションを処理して承認することができます。各 PeopleSoft アプリケーションには通常、トランザクション同士を区別する最上位のデータベース レコードが備わっています。たとえば、eProfile (マネジャー デスクトップ) アプリケーションの昇進・昇格トランザクションの最上位レコードは、HR_PROMOTE_DAT です。これらの最上位レコードを、ヘッダー レコードといいます。トランザクションが承認のために送信されると、承認ワークフロー エンジンでは承認プロセス定義をヘッダー レコードのインスタンス、および行のレコード（行レベルの承認が設定されている場合）と結合し、固有な承認プロセスのインスタンスを作成します。

承認では、ヘッダーと行の 2 つのレベルの処理を使用します。ビジネス アナリストは、両方のレベルで承認の流れを決定する承認プロセス定義を設定します。承認プロセス定義は次のものから構成されます。

- ステージ

ステージとは承認プロセスの一部で、並行する複数のパスを含めることができますが、ヘッダーまたは行レコードのレベルが同じである必要があります。ステージは 1 つずつ順番に実行され、前のステージが完了しないと次のステージは開始されません。ステージは、ヘッダーまたは行のどちらのレベルでもかまいません。行レベルでのステージでは、承認者が単一のトランザクションで個々の行アイテムを別々に承認できます。ワークフロー エンジンでは、それぞれのヘッダーと行を別々のものとして認識します。行とはヘッダーの子に当たります。ヘッダー ステージは固有のヘッダーについて処理を行います。行ステージは各行について処理を実行します。ステージは 1 つまたは複数のパスから構成されます。

- パス

パスには一連のステップが含まれます。パスは、ステージ内で並行して実行されます。パスの入力項目の条件によって、与えられたトランザクションまたはトランザクションの行についてパスが実行されるかどうかが決まります。

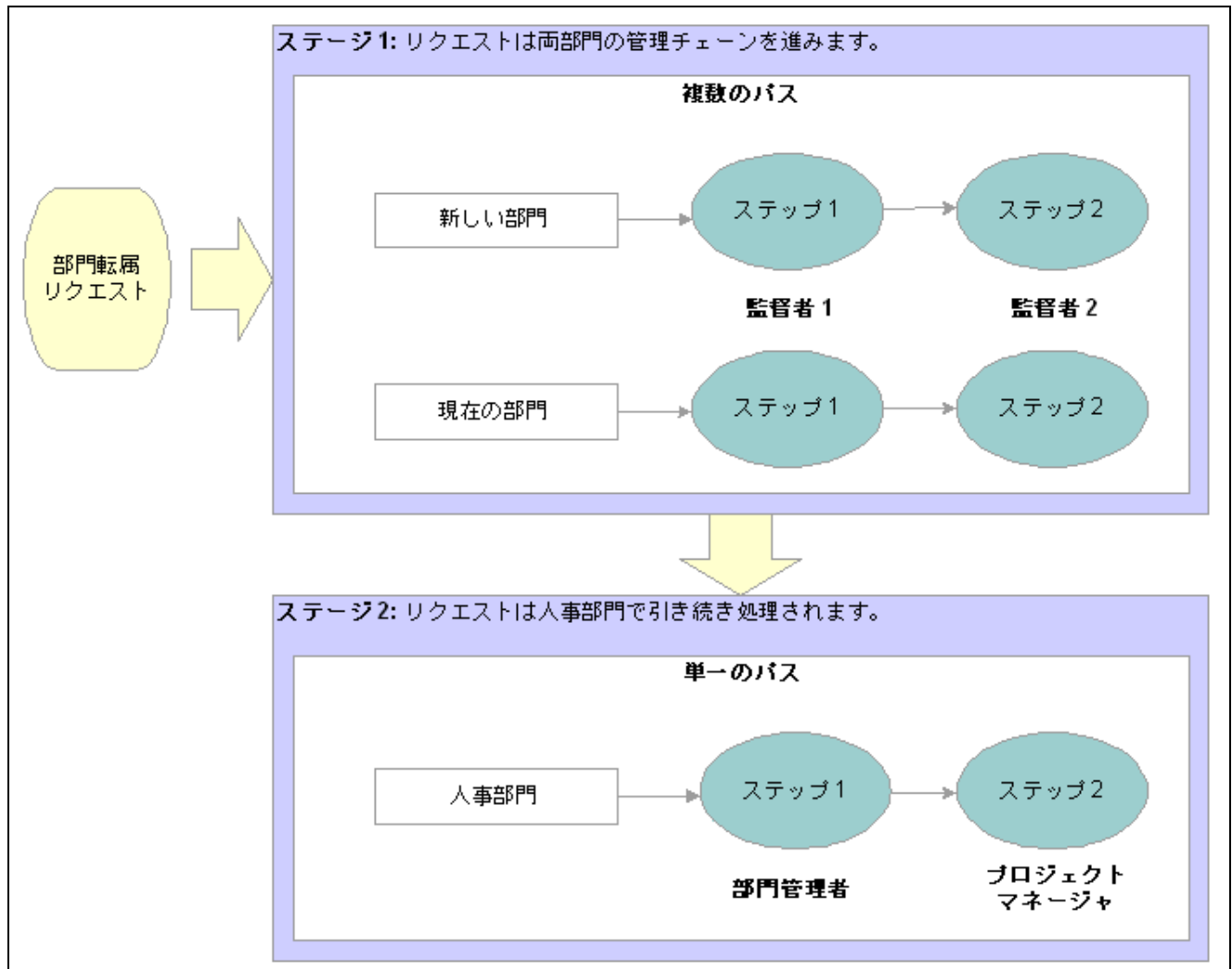
- ステップ

ステップは、1 人または複数の承認者またはレビュー担当者を表します。パス内のステップは順番に実行されます。ステップごとの個別の条件によって、そのステップが実行されるかどうかが決まります。また、各ステップには決められたレビュー担当者のグループがあります。レビュー担当者は、承認待ちのトランザクションについて電子メールやワークリスト、またはその両方により通知を受け取ります。ただし、ワークフローはレビュー担当者の評価を待たずに先に進みます。

関係者には、電子メール、ワークリストまたはその両方を使って、承認待ちのステップについての通知が送られます。必要な承認者は 1 人、全員または固定数のいずれかです。承認者はロールやクエリー、SQL オブジェクトを使用するか、またはカスタムのアプリケーション クラスを用いて指定できます。必要な数の承認者によってステップが承認されると、承認ワークフローは次のステップに進みます。承認ワークフロー エンジンに先のステップがない場合は、次のステージに進みます。

注: 先に進む前に複数の承認者による承認を必要とするように設定されている場合もありますが、全ての承認者は単独でステップを却下することができます。ある承認者がステップを却下した瞬間に、トランザクションの承認プロセスは先に進まなくなります。トランザクションが行レベルの場合は、その他の行は引き続き先に進みます。却下がヘッダー レベルの場合は、承認プロセスが終了してトランザクション全体が却下されます。

次の図は、承認プロセスで承認をルーティングするために、ステージ、パスおよびステップがどのように使われるかを示します。



承認プロセス

上の図は、従業員をある部門から別の部門に転属させるリクエストの例です。リクエストが、承認プロセス定義のさまざまなステージ、パスおよびステップを進むようすを表しています。

ヘッダー レベルおよび行レベルの承認

多くの PeopleSoft のトランザクションは、最上位レベルのレコード（ヘッダー）と、アプリケーションで単一のトランザクションを個別に識別するキーを持っています。そして、これらのトランザクションは、このヘッダー レコードの子レコード（行レベル レコード）を複数持つことができます。行レベルのレコードは、全てのトランザクションに存在するわけではない点に注意してください。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理には、行レベルの処理があるトランザクションは用意されていません。こうしたトランザクションには行レベル レコードが必要ないためです。

承認プロセスでは、アプリケーションのヘッダー キーを使用して承認プロセスとアプリケーション トランザクションを互いに関連付けます。たとえば、アプリケーション トランザクションを開いた場合、承認ワークフロー エンジンでは、まだリクエストを送信していない場合のみ承認のためにリクエストを送信できます。アプリケーション ヘッダーのキーが承認プロセス インスタンスのキーに互いに関連付けられるために、このチェックが可能となります。

トランザクション内の下位レベルで承認ステータスを追跡する必要がある場合、アナリストは同じリクエストの異なる行アイテムが異なる経路に従うよう承認プロセスを設定することができます。このような場合、承認ワークフロー エンジンはワークフローを個々の行アイテムに分割し、同じリクエスト内の異なる行アイテムが異なる経路に従って進むように、アナリストが承認プロセスを設定できるようにします。ワークフローのこれらの行は同じリクエストの一部のままでありますが、それぞれに追跡する必要があります。

行レベルの承認を行ごとに独立させることにより、あるトランザクションの一部の行を却下してその他を承認することができます。たとえば、あるトランザクションが複数の行を持ち、特定の行に特殊な承認者を使用することが可能です。専門分野のトランザクションを承認するために、特殊な承認者を追加することができます。

承認プロセスには、ヘッダー レベルと行レベルのプロセスを混在させることができます。たとえば、部門の管理者がリクエストを全体として管理し、他の承認者は自分の専門分野の行アイテムのみを調べるといったような場合です。トランザクションを承認するには、最終承認に両方のタイプの承認者が必要です。

他の承認機能

機能を組み合わせることにより、さまざまなタイプの承認にルールを作成できます。このセクションでは、以下について説明します。

- アドホック パスの承認
- アドホック レビュー
- 自己承認
- 依頼者へ転送
- 前のパスを省略
- 自動承認
- 代替承認者
- 差し戻し
- 承認コメント

アドホック パスの承認

承認プロセス中に、承認者は他の承認者またはレビュー担当者を、現在または後の承認プロセスのステージに追加することができます。

たとえば、管理者が依頼者の以前の管理者から承認を得たい場合、その管理者を承認者として追加できます。このアクションを“アドホック承認”といい、他のリクエストに使用される基準の承認プロセス定義が、追加の発生によって影響を受けない場合の承認インスタンスにのみ適用されます。

アドホック レビュー

アドホック レビュー担当者は、承認者または依頼者がトランザクションのレビューを依頼したいと考えるユーザーです。プロセスで設定されていれば、アドホック レビュー担当者には通知が送信され、ワークリストの項目または電子メールでトランザクションへのリンクが送られます。レビュー担当者は、リクエストに対してアクションを実行する権限を持ちません。

自己承認

一部のインスタンスでは、依頼者が承認者と同じである場合があります。依頼者が自分自身のトランザクションを承認する場合、これを自己承認といいます。自己承認は、チェック ボックスの設定で有効にします。有効にした場合は依頼者が承認したと見なされ、プロセスが続行します。ただし、依頼者の承認権限を制御するうえで役立つ条件を確立することができます。

たとえば、昇進・昇格や給与レート レコードの変更リクエストなど、自己承認の対象となり得るトランザクションのタイプに制限を設けることが可能です。

依頼者へ転送

“依頼者へ転送”は、ある状況下で承認を依頼者に送るようシステムに指示する機能です。

たとえば、副社長が監督者レベルの直属部下の昇進・昇格リクエストを送信した場合、リクエストの作成対象であるこの監督者に通知が送信されます。監督者は引き続き承認プロセスの一部となります。

前のパスを省略

[前の承認依頼ステップを省略]を有効にした場合、依頼者が認められた承認者となった時点のステップで承認フローが開始されます。

たとえば、副社長が自分の部門用に人材募集を送信する場合、副社長が認められた承認者となるステップ以前の申請承認ステップは省略されます。

自動承認

自動承認を有効にすると、ヘッダー レベルまたは行レベルでそのプロセスの承認者のアクションが記憶され、それより後の承認ワークフロー プロセスで自動的に同じアクションが適用されます。

代替承認者

代替ワークフロー承認者は、第 1 の承認者が不在の場合に、その承認者に代わって電子メールおよびワークリスト通知を受け取るよう任命されたユーザーです。代替承認者を識別する際は、代替承認者が代理を務める期間を入力します。代替承認者がその期間に在席かどうかは、自動的に判断されます。まず、トランザクションが委任されているかどうかシステムにより判断されます。委任されていない場合、代替ユーザーがユーザー プロファイルに定義されているかどうか確認されます。[PeopleTools]、[セキュリティ]、[ユーザー プロファイル]、[ユーザー プロファイル]の順に選択します。

差し戻し

“差し戻し”は、現在承認待ちのステップを承認待ちステータスから外し、前のステップをその承認者に戻します。差し戻しは、承認者が前のステップでの承認に疑問を持ち、説明を求めていることを意味します。差し戻しはパス内でのみ可能なため、パスの最初ステップを差し戻すことはできません。

注: 差し戻し機能では自己承認は無視されます。

承認コメント

依頼者はトランザクションにコメントを追加でき、承認者はそのコメントをリクエストトランザクションではなく、承認プロセスに直接関連付けることができます。承認管理コンポーネントには、コメントを特定のアプリケーショントランザクションにリンクした特定の承認プロセス インスタンスに関連付ける機能が用意されています。承認者は、他の承認者により追加されたコメントを参照することはできますが、前のコメントは変更できません。

情報ソース

承認ワークフロー エンジンとは、HRMS および他の製品ファミリー内の複数の PeopleSoft Enterprise アプリケーションで共有されている共通コンポーネントです。HRMS 製品ファミリーでは、承認ワークフロー エンジンに関するドキュメンテーションはさまざまな場所にあります。

- この章では、全ての製品ファミリーに適用される共通承認ワークフロー エンジンの機能、および HRMS 製品ファミリーに固有のステップと詳細について説明します。
- PeopleSoft Customer Connection の Web サイトに掲載されている『Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine』は、承認ワークフロー エンジンをアプリケーションに統合する手順について説明した、アプリケーション開発者向けのガイドラインです。このガイドでは、全てのオブジェクトの構築手順を詳細に説明し、アプリケーション ページ内での設定に関する追加情報を提供しています。
- アプリケーションに固有の HRMS PeopleBook (『PeopleSoft Enterprise Absence Management 9.0 PeopleBook』など) では、製品の標準ビジネス プロセスに関連する承認ワークフロー詳細を提供することにより、上記の内容をさらに詳細に解説しています。

導入の前に全ての適切な情報ソースに目を通して、それぞれの情報がどのように関連するかを完全に理解するようにしてください。

承認ワークフローのための HRMS トランザクションの導入

製品には、承認ワークフロー エンジンと動作するように設定済みの承認トランザクションが数多く用意されています。標準トランザクションについては、アプリケーション ページ内で標準トランザクション データを見直し、ビジネス プロセスに適しているか確認してください。

承認ワークフロー エンジンと使用するための標準 HRMS トランザクションを見直すには、次の手順に従います。

1. トランザクション登録ページを使用して、承認ワークフロー エンジンに承認トランザクションを登録します。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認トランザクションの登録」、575ページ

2. ワークフロー トランザクション ページを使用して、ヒューマン リソース セルフサービスのトランザクションを承認ワークフロー エンジンにリンクします。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ワークフロー トランザクションのリンク」、582ページ

3. トランザクション設定ページで、承認トランザクションの設定オプションを設定します。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認トランザクションの設定」、585ページ

4. プロセス定義の設定コンポーネントで、承認プロセス定義を設定します。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認プロセス定義の設定」、591ページ

承認プロセス定義を設定するには、次の手順に従います。

- a. プロセス定義の設定ページで、承認プロセス定義のステージ、パスおよびステップを定義します。

- b. プロセス定義の設定ページのリンクからアクセスする条件定義ページで、定義、パスおよびステップレベルでのワークフロー承認プロセスの条件を定義します。
- c. 承認パス定義ページで、ワークフロー承認プロセスのパスの詳細を設定します。
- d. 承認ステップ定義ページで、承認ワークフロープロセスのステップの詳細を定義します。
- e. さまざまなコンポーネントで動的承認を定義します。

参照: [第 25 章、「承認の設定と使い方」、「動的承認の定義」、609ページ](#)

- 5. 汎用テンプレート定義ページで、承認トランザクション用電子メールのテンプレートを作成します。

参照: [第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認用の通知テンプレートの定義」、613ページ](#)

- 6. ユーザー リスト定義ページで、承認トランザクションのユーザー リスト定義を管理します。

参照: [第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認用のユーザーの定義」、615ページ](#)

- 7. 通知/エスカレーション マネージャを設定します。

参照: [第 25 章、「承認の設定と使い方」、「通知/エスカレーション マネージャの設定」、620ページ](#)

- 8. PeopleTools のセキュリティ コンポーネントで、適切な権限リストやロールおよび Web ライブラリを設定します。

参照: [第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認のためのセキュリティの設定」、623ページ](#)

標準トランザクションの他に、承認ワークフロー エンジンと共に使用する他のトランザクションを導入する必要がある場合、追加の導入ステップを完了してください。これらのステップには、PeopleTools のアプリケーション デザイン内でのオブジェクト構築や、アプリケーション ページ内での設定が含まれます。追加の承認トランザクションの導入方法の詳細については、PeopleSoft Customer Connection の Web サイトに掲載されている『Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine』を参照してください。

参照: PeopleSoft Customer Connection の Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine

承認コンポーネントのナビゲーション

PeopleSoft Enterprise HRMS では、特定のビジネス プロセスやタスク、ユーザー ロールなどに便利なフォルダ グループをまとめたカスタム ナビゲーション ページを利用できます。

注: PeopleSoft Enterprise HRMS カスタム ナビゲーション ページの他にも、メニュー ナビゲーションや標準ナビゲーション ページが用意されています。

このセクションでは、カスタム ナビゲーション ページを使用して、承認機能のコンポーネント内を移動する方法を説明します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Using PeopleSoft Applications

承認コンポーネントのナビゲーションに使用するページ

この表は、承認機能の設定および管理コンポーネントのナビゲーションに使用するカスタム ナビゲーション ページの一覧です。

ページ名	ナビゲーション	用途
承認設定センター	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]	承認管理者および導入担当者は、このページのリンクを使用して、PeopleSoft Enterprise HRMS の承認ワークフロー エンジンに対するトランザクションの登録および設定に必要なコンポーネントにアクセスすることができます。
承認/委任	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[承認/委任]	承認管理者はこのページのリンクを使用して、承認トランザクションのモニターとトラブルシューティング、および PeopleSoft Enterprise HRMS の委任管理に必要なコンポーネントにアクセスできます。

承認トランザクションの登録

このセクションでは、承認トランザクション レジストリの概要、事前設定、承認トランザクションの登録方法について説明します。

承認トランザクション レジストリについて

承認トランザクション レジストリとは、開発者が承認ワークフロー エンジンに PeopleSoft Enterprise アプリケーションを登録する場合に使用するインターフェイスです。トランザクション登録ページを使用して、開発者はシステムが承認用に定義されたアプリケーション部分とどのように機能するかを定義します。承認が必要なトランザクションは、承認ワークフロー エンジンにリンクされる候補になります。開発者は、トランザクション登録ページを使用して、PeopleTools アプリケーション デザイナでアプリケーション トランザクション（提示条件や従業員休暇欠勤リクエストなど）用に作成したコンポーネントやイベント ハンドラ、レコードおよびクラスをリンクすることができます。トランザクション定義自体は、承認ワークフロー エンジンに対してトランザクションの構成を記述するメタデータです。場合によっては、トランザクションの追加や変更を行うことがあります。アプリケーション開発者はトランザクションを構成する主要なレコードおよびコンポーネントを登録し、それから職務機能ビジネス アナリストが承認プロセス定義の基準とする承認トランザクションを選択することができます。

標準承認トランザクション プロセス ID

PeopleSoft Enterprise HRMS には、承認ワークフロー エンジンと共に使用するアプリケーションに共通の承認トランザクション プロセス ID がいくつか用意されています。特にこれらのプロセス ID は、リクエストを処理する承認フレームワークが委任フレームワークとやりとりできるように、委任に関するトランザクションを承認ワークフロー エンジンに登録するために使用されます。

トランザクション登録ページで承認トランザクションを承認ワークフロー エンジンに登録する際は、承認トランザクションにヘッダー レコードを指定する必要があります。定義の一環として、これらの委任に関する各プロセス ID には、HCDL_DELEGATION ヘッダー レコードおよび選択フィールドが含まれます。これらのプロセス ID をトランザクション設定コンポーネントで設定する際は、このヘッダー レコードおよびリストされたいずれかのフィールドを使用して、承認トランザクションを処理するための追加条件を定義できます。この追加条件は条件定義ページで定義します。このページは、トランザクション設定コンポーネントからアクセス可能です。トランザクション登録コンポーネントにリストされていないフィールドは、条件定義には使用できません。

この表は、PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションに用意されている承認トランザクション プロセス ID の一覧です。

プロセス ID	説明
AbsenceManagement	休暇管理。
Absence_Mgmt_ByDeptManager	部門管理者による休暇管理。
Absence_Mgmt_ByPosMgmt	ポジション管理による休暇管理。
Absence_Mgmt_ByPosnDeptMgr	ポジション - 部門管理者による休暇管理。
Absence_Mgmt_ByPosnSupervisor	ポジション - 監督者による休暇管理。
Absence_Mgmt_BySupervisorId	監督者 ID による休暇管理。
Delegation	承認ワークフロー エンジンに対して委任トランザクションを定義します。
DelegationBatch	承認ワークフロー エンジンに対してバッチ委任トランザクションを定義します。
DelegationNotifyAdmin	承認ワークフロー エンジンに対して委任トランザクションを定義し、管理者が通知を受け取るようにします。
DelegationRevoke	承認ワークフロー エンジンに対して、取り消された委任トランザクションを定義します。
JPMNonpersonProfiles	非個人プロフィール。
JPMPersonProfiles	個人プロフィール。
JobOffer	条件提示。
JobOpening	人材募集。
PerformanceManagement	評価トランザクション承認。
PromoteEmployee	昇進・昇格トランザクションの承認。
ReportingChgEmployee	管理者変更トランザクションの承認。
TransferEmployee	転属トランザクションの承認。

注: アプリケーション固有の標準の承認トランザクション プロセス ID については、アプリケーション固有の PeopleBook に含まれている対応するドキュメンテーションを参照してください。

注: 製品に搭載されている承認には、承認トランザクション レジストリが既にロードされています。通常は追加設定は不要です。

事前設定

承認トランザクションを登録する前に、PeopleTools アプリケーション デザイナで必要なオブジェクトを全て作成する必要があります。

承認トランザクション レジストリを定義するための事前設定を完了するには、以下の作業を行います。

- 承認ワークフローに標準搭載の承認済みイベント ハンドラ クラスを拡張するトランザクション ハンドラ アプリケーション クラスを作成します。
- イベントの通知テンプレートを作成します。これにはヘッダー レベルおよび行レベルでの承認と却下が含まれます。
- 必要に応じて、トランザクション データ ソースを作成します。
- 条件ソースとして機能するトランザクション テーブルのビューを作成します。
- アドホック ユーザーのソースとして機能するビューを作成します。
- 承認者の連絡先情報のソースとして機能するビューを作成します。

関連項目:

[第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認ワークフローのための HRMS トランザクションの導入」、573 ページ](#)

承認トランザクションの登録で使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
トランザクション登録	PTAF_TXN	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[トランザクション登録]	各承認トランザクションに固有の承認プロセス ID を作成することにより、承認ワークフロー エンジンで承認トランザクションを登録します。トランザクション定義は、承認ワークフロー エンジンに対してトランザクションの設定を記述するメタデータです。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleCode Developer's Guide

承認トランザクションの登録

トランザクション登録ページにアクセスします。

トランザクション登録

プロセス ID: AbsenceManagement

*名称: Absence Management

オーナー ID: 休暇管理

*クロス リファレンス テーブル: GP_ABS_SS_V_XREF

▼ 通知オプション

*有効な通知方法: 電子メール/ワークリスト使用可

*通知処理方法: オンライン処理

電子メール承認を使用: ☒

フォーム ジェネレータ パッケージ ルート:

フォーム ジェネレータ クラス パス:

▼ デフォルト承認コンポーネント

*メニュー名: ROLE_EMPLOYEE

*承認コンポーネント: GP_ABS_SS_XFER

▼ 承認イベント ハンドラ クラス

ルート パッケージ ID: GP_ABS_EVT_HANDLER

パス: apprEventHandler

▼ 承認ステータス モニター

アトミック パッケージ: GP_ABS_EVT_HANDLER アトミック クラス: adhocAccessLogic

スレッド パッケージ: GP_ABS_EVT_HANDLER スレッド クラス: threadDescr

トランザクション登録ページ (1/2)

▼ トランザクション承認レベル

	*レベル	*レコード (テーブル) 名		
1	ヘッダー	GP_ABS_SS_DAT	+	-

レベル レコードのキー フィールド ラベル ID

	レコード (テーブル) 名	フィールド名	*フィールド ラベル ID
1	GP_ABS_SS_DAT	BGN_DT	BGN_DT
2	GP_ABS_SS_DAT	EMPLID	EMPLID
3	GP_ABS_SS_DAT	EMPL_RCD	EMPLRCD#
4	GP_ABS_SS_DAT	END_DT	END_DT
5	GP_ABS_SS_DAT	PIN_TAKE_NUM	PIN_TAKE_NUM
6	GP_ABS_SS_DAT	TRANSACTION_NBR	TRANSACTION_NBR

トランザクション登録ページ (2/2)

[プロセス ID]	この承認プロセスを追跡してトランザクションを特定するのに使用される名前を入力します。承認プロセスの名称を入力することもできます。
[オーナー ID]	このオブジェクトが属する PeopleSoft アプリケーションを選択します。
[クロス リファレンス テーブル]	<p>アプリケーション固有のトランザクション レコードの管理と、承認プロセスの実行インスタンスとの関連付けに使用するテーブルを選択します。リクエストによって承認プロセスが開始されるたびに、アプリケーションのヘッダーおよび行レベルのレコードを用いてプロセスが追跡されます。承認プロセス インスタンスをトランザクション インスタンスに関連付けるために、クロス リファレンス テーブルにコレスポネンスが格納されます。</p> <p>アプリケーション トランザクション レコードについてこのクロス リファレンス情報を使用すると、承認待ちの承認プロセスを確定して、アプリケーションに対してどのトランザクションを承認または却下するのか定義するときに便利です。</p> <p>アプリケーション開発者は、アプリケーション キーを含んだレコードを作成して、承認ワークフロー エンジンに用意されたサブレコードを含める必要があります。また、開発者は基準となるテーブルも構築する必要があります。</p>
[通知オプション]	
	電子メール、ワークリスト通知のどちらか一方、または両方を使用するか識別します。
[有効な通知方法]	<p>使用する通知のタイプを確定します。選択できるオプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• [電子メール/ワークリスト使用不可]• [電子メール通知のみ]• [電子メール/ワークリスト使用可]• [ワークリスト通知のみ]
[通知処理方法]	直ちに電子メールを処理するか（オンライン処理）、または NEM（通知/エスカレーション マネージャ）を使用してオフラインで処理（オフライン処理）することができます。
[電子メール承認を使用]	ワークフローで電子メールによる承認を使用することを定義します。
[フォーム ジェネレータ パッケージ ルート]	このパッケージ ルートは、フォーム ジェネレータ クラスにより提供されたスレッドを読み込み、既存の電子メール共同作業定義からフォームを作成します。
[フォーム ジェネレータ クラス パス]	承認すべきスレッドおよび言語コードのリストを受け取る、フォーム ジェネレータ クラスを呼び出します。このクラスはランタイム クラスを戻し、これによって適切な受取人が追加されて電子メールが送られます。
[デフォルト承認コンポーネント]	
	ワークリストの項目を選択する際にユーザーに表示されるデフォルトのコンポーネントを識別します。
[メニュー名]	ワークリストに登録するコンポーネントを含むメニュー名を選択します。
[承認コンポーネント]	承認の基準となるコンポーネントを選択します。

[承認イベント ハンドラ クラス]

このセクションを使用して、このトランザクションのイベントをモニターする際に使用されるアプリケーション クラスを定義します。イベントが発生するたびに、承認ワークフロー エンジンがアプリケーションに通知を送ります。アプリケーションが通知を受け取るには、アプリケーション開発者はイベント ハンドラ クラスの `ApprovalEventHandler` を拡張する必要があります。

トランザクションの結果、承認ワークフロー エンジンからのアクションが発生する場合、指定したイベント ハンドラ クラスによってトランザクションの処理方法が決まります。

イベント ハンドラ基本クラスによって、クラスを拡張することで上書き可能なハンドラの処理方法が定義されます。拡張クラスは引数なしにインスタンス化されるため、引数以外のコンストラクタが必要です。

この表は、各イベントの特定の条件を提供するためにシステムが引数を渡すための、さまざまなイベント ハンドラ処理方法を示します。また、アプリケーション（この場合は PeopleSoft Enterprise HRMS）における処理の例も挙げています。

イベント	パラメータ	起こり得るアプリケーションのアクション
PROCESS_LAUNCHED	1. ヘッダーレコード 2. 承認プロセス インスタンス	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーショントランザクションの編集を無効にします。 ステータス情報を表示します。
HEADER_DENIED	ヘッダーレコード	<ul style="list-style-type: none"> トランザクションを削除します。 再送信を無効にします。 トランザクションのイベントをログに記録し、再送信が許可されていれば前回の却下を強調表示します。
LINE_DENIED	行レベルのレコード	ヘッダーから行の数量を差し引いて、行アイテムを削除または無効にします。
HEADER_APPROVED	ヘッダーレコード	<ul style="list-style-type: none"> 人材募集が承認されたら条件提示文書を送ります。 休暇リクエストが承認された場合は、従業員の残りの休暇日数を更新します。 承認ワークフロー エンジンのステータス値が“承認待ち”の場合、ステータスを“処理待ち”に変更します。
LINE_APPROVED	行レベルのレコード	同じ休暇リクエストトランザクションで、ある従業員のリクエストが承認され、残りの従業員のリクエストが却下された場合、承認された従業員の PTO 残日数を更新します。

イベント	パラメータ	起こり得るアプリケーションのアクション
PROCESS_TERMINATED	ヘッダーレコード	アプリケーションのイベントをログに記録し、前回の送信以降の変更を強調表示します。これは、このリクエストの前回送信時に処理に関わった承認者にとって便利です。
ALL_LINES_PROCESSED	ヘッダーレコード	<p>注: この方法は、前のステージが行レベルで、個々の行が承認されると同時に LINE_APPROVED 側の呼び出しをトリガするようにアナリストがプロセスを設定している場合にのみ呼び出されます。</p> <p>システムが行うアクションは、アプリケーション開発者が行のソース設定をどのように定義したかによって異なります。行が承認と同時にソース設定される場合、全ての行が処理されるときに何もする必要はありません。このイベントは HEADER_APPROVED とは異なります。異なる通知を送ることでプロセスが簡略されます。</p>

[ルート パッケージ ID] イベントを提示する親アプリケーション クラスを選択します。これにより、イベントに基づいて実行するアクションが指定されます。

[パス] ルート パッケージ内で特定のクラスを使用するパスを選択します。

参照: PeopleSoft Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleCode Developer's Guide

[承認ステータス モニター]

このセクションを使用して、アドホック承認者の処理方法を制御します。全ての承認者はアドホック承認者およびレビュー担当者を追加または削除できます。

[アドホック パッケージ] アドホック承認に使用するアドホックのアプリケーション クラス パッケージを選択します。

[アドホック クラス] アドホックのアプリケーション クラス パスを選択します。承認者およびレビュー担当者の追加は、ここで定義するクラスにより処理されます。クラスを指定しない場合、デフォルトのクラスが使用されます。トランザクションに追加の制限がある場合、アプリケーション開発者はここで定義されるクラスを作成する必要があります。

[スレッド パッケージ] ここで指定するパッケージによって、システムのステータス モニターでトランザクション詳細がどのように表示されるかを定義します。バックグラウンドでは、承認は連番付きで定義されます。これによって、ユーザーにわかりやすい表示が可能となります。

[スレッド クラス] スレッド名称パッケージ内の特定のクラス、および表示の詳細を設定するワークリストの説明を入力します。

[トランザクション承認レベル]

このセクションを使用して、トランザクションの承認レベル（ヘッダー レベルまたは行レベル）とアプリケーションのサポート レベルを指定します。

[レベル] [ヘッダー] または [行] を選択します。これによって、承認のためにアプリケーションで有効になるレベルが確定します。最初の行は常にヘッダー レベルになります。ほとんどの場合、ヘッダー レベルのみ定義すれば十分です。

[レコード (テーブル) 名] このトランザクション レベルを表すデータベース テーブルを選択します。

[レベル レコードのキー フィールド ラベル ID]

このセクションを使用して、トランザクションに使われるフィールドを定義します。全てのキー フィールド名は、リストされた各レコード (テーブル) 名に対して表示されます。ここで定義されたフィールドに対してのみ条件を定義することができます。

[フィールド ラベル ID] トランザクションに使われるフィールド ラベル ID を選択します。

ワークフロー トランザクションのリンク

このセクションでは、ワークフロー トランザクションをリンクする方法を説明します。

ワークフロー トランザクションのリンクで使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ワークフロー トランザク ション	EO_TRANSACTIONS	[HRMS 基本設定]、[共通定 義]、[承認]、[承認設定セ ンター]、[ワークフロー ト ランザクション]	セルフサービス トランザク ションを適切な承認機能 (承認ワークフロー エンジ ン、または以前のリリース からの既存の承認ワーク フロー機能) にリンクしま す。承認ワークフロー エ ンジンを使用するトランザク ションの場合は、さらにそ のトランザクションに関連 する承認プロセス ID を指 定する必要があります。ト ランザクションの開始およ び承認の委任を有効にす ることもできます。

ワークフロー トランザクションのリンク

ワークフロー トランザクション ページにアクセスします。

ワークフロー トランザクション

▼ ワークフロー トランザクション					
*トランザクション名	*カテゴリ	説明	開始の委任		
EP_CREATE	HR_TRANSACTIONS	Appraisals by Dflt Access Type	<input type="checkbox"/>	+	-
EP_CREATE_GRP	HR_TRANSACTIONS	Appraisals by Group ID	<input type="checkbox"/>	+	-
GPOH_ABSENCE	HR_TRANSACTIONS	Absence	<input type="checkbox"/>	+	-
GPOH_ABSENCE_MGR	HR_TRANSACTIONS	Absence by Manager	<input type="checkbox"/>	+	-
GPOH_OVERTIME	HR_TRANSACTIONS	Overtime	<input type="checkbox"/>	+	-
GPOH_OVERTIME_MGR	HR_TRANSACTIONS	Overtime by Manager	<input type="checkbox"/>	+	-
GP_ABS_EESS_BAL	HR_TRANSACTIONS	Employee Absence Balance	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
GP_ABS_EESS_HIST	HR_TRANSACTIONS	Employee Absence History	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-

ワークフロー トランザクション ページ ([ワークフロー トランザクション] グリッド)

[ワークフロー トランザクション] グリッドと [承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション] グリッドは、相互に排他的です。両方のグリッドで同じトランザクションを登録することはできません。登録しようとするとエラーが表示され、ページを保存するにはどちらか一方を削除する必要があります。

[ワークフロー トランザクション]

[ワークフロー トランザクション] グリッドを使用して、以前のリリースからの既存のワークフロー設定を使うセルフサービス トランザクションを登録します。たとえば、現在セルフサービス トランザクションがコンポーネント インターフェイスを介して最終承認されると同時に、主要なレコードが更新されるよう設定されている場合、[ワークフロー トランザクション] グリッドにトランザクションの一覧を表示することができます。こうすることで、これらの設定値を活用できます。

[トランザクション名] どちらか一方のグリッドかまたは両方に、セルフサービス トランザクションの名称を入力します。

[カテゴリ] セルフサービス トランザクションにカテゴリを割り当てます。通常、セルフサービス トランザクションは全て HR_TRANSACTIONS のカテゴリに割り当てられます。カテゴリは、ワークフロー トランザクション カテゴリ ページで設定できます。

[説明] セルフサービス トランザクションの説明を入力します。

[開始の委任] 以前のリリースからの既存の承認設定を使用する対応するセルフサービス トランザクションについて、トランザクションの開始の委任を有効にする場合に選択します。トランザクションは開始タイプの委任トランザクションとして設定可能になります。委任トランザクションは、委任トランザクション設定ページで設定できます。

[承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション]

[承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション] グリッドを使用して、承認ワークフロー エンジン フレームワークと委任フレームワークを使用するセルフサービス トランザクションを登録します。このグリッドに入力したデータによって、トランザクション名と関連する HRMS セルフサービス トランザクションのテーブルは、承認プロセス ID にリンクされます。これらのトランザクションの承認プロセス ID は、承認ワークフロー エンジンの設定中にトランザクション登録ページで作成します。

注: 特定のトランザクションは一度しかリストすることができません。委任処理の要件に違反するため、同じ承認ワークフロー エンジンのトランザクションを複数の HR_TRANSACTIONS に割り当てることはできません。

承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション					
詳細 1		詳細 2			
*トランザクション名	*カテゴリ	説明			
EP_APPRAISAL	HR_TRANSACTIONS	Performance Document		+	-
GP_SS_ABS_APPR_L	HR_TRANSACTIONS	Manager Absence Approve		+	-
HR_PROMOTION	HR_TRANSACTIONS	Promotion		+	-
HR_REPORT_CHG	HR_TRANSACTIONS	Reporting Change		+	-
HR_TRANSFER	HR_TRANSACTIONS	Transfer		+	-
JPMNonpersonProfiles	HR_TRANSACTIONS	Nonperson Profiles		+	-
JPMPersonProfiles	HR_TRANSACTIONS	Person Profiles		+	-

ワークフロー トランザクション ページ (承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション - 詳細 1)

詳細 1		詳細 2			
*トランザクション名	*承認プロセス ID	開始の委任	承認の委任		
EP_APPRAISAL	PerformanceManagement	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
GP_SS_ABS_APPR_L	Absence_Mgmt_BySupervisor	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
HR_PROMOTION	PromoteEmployee	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
HR_REPORT_CHG	ReportingChgEmployee	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
HR_TRANSFER	TransferEmployee	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
JPMNonpersonProfiles	JPMNonpersonProfiles	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	+	-
JPMPersonProfiles	JPMPersonProfiles	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	+	-

ワークフロー トランザクション ページ (承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション - 詳細 2)

[トランザクション名]

どちらか一方のグリッドかまたは両方に、セルフサービス トランザクションの名称を入力します。

[カテゴリ]

セルフサービス トランザクションにカテゴリを割り当てます。通常、セルフサービス トランザクションは全て HR_TRANSACTIONS のカテゴリに割り当てられます。カテゴリは、ワークフロー トランザクション カテゴリ ページで設定できます。

[説明]

セルフサービス トランザクションの説明を入力します。

[承認プロセス ID]

承認ワークフロー エンジン フレームワークの導入時には、トランザクション登録ページでそれぞれの HRMS セルフサービス サービスについて、プロセス ID という固有のトランザクション レジストリ ID を定義します。このセルフサービス トランザクションに定義した承認プロセス ID を選択します。セルフサービス トランザクションと承認ワークフロー エンジン間にこのリンクを作成することにより、セルフサービス トランザクションはトランザクション名を用いて動的にこの承認プロセス ID を取り込み、承認ワークフロー エ

ンジン フレームワークを呼び出すことができます。承認ワークフロー エンジン フレームワークは、処理中にこのパラメータを必要とします。

[開始の委任]

承認ワークフロー エンジン フレームワークを使用する対応するセルフサービス トランザクションについて、トランザクションの開始の委任を有効にする場合に選択します。トランザクションは開始タイプの委任トランザクションとして設定可能になります。委任トランザクションは、委任トランザクション設定ページで設定できます。

[承認の委任]

対応するセルフサービス トランザクションについて、トランザクション承認の委任を有効にする場合に選択します。トランザクションは承認タイプの委任トランザクションとして設定可能になります。この機能は、下のグリッドで承認ワークフロー エンジン フレームワークに登録したトランザクションでのみ使用できます。

[開始の委任] および [承認の委任] チェック ボックスを両方とも選択すると、開始と承認を委任するようトランザクションを設定できるようになります。委任トランザクションは、委任トランザクション設定ページで設定できます。

関連項目:

[第 26 章、「委任の設定と使い方」、637 ページ](#)

承認トランザクションの設定

このセクションでは、承認トランザクションの設定方法を説明します。

承認トランザクションの設定について

トランザクション設定コンポーネントを使用して、通知をトリガするアクションや通知の送信先、通知内容を決める要素を選択および定義します。通知は承認トランザクション レジストリと共に機能するようにマッピングされており、メニューとコンポーネントおよび SQL 定義が含まれます。通知が送信されるイベントには以下のものがあります。

- トランザクションの承認プロセスの開始
- 承認者のキューへの承認ステップの追加
- レビュー担当者のキューへのレビュー ステップの追加
- 行またはヘッダーの却下
- 行またはヘッダーの承認
- 承認プロセスの完了

通知の受信者には、依頼者、承認者およびレビュー担当者が含まれ、これらの受信者はワークリストの項目や電子メールを介して通知を受信することができます。電子メールによる通知を使用する場合は、電子メール用テンプレートを作成する必要があります。

承認トランザクションの設定で使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
トランザクション設定	PTAF_TXN_NOTIFY	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[トランザクション設定]	承認プロセス ID に関連する全てのイベントと通知を設定することにより、承認トリガの特定の導入が使用される方法を設定します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleCode Developer's Guide

承認トランザクションの設定

トランザクション設定ページにアクセスします。

トランザクション設定

プロセス ID: AbsenceManagement

アドホック承認者オプション

*承認ユーザー情報ビュー: GP_ABS_SS_APRNM

アドホック ユーザー リスト:

通知オプション

電子メール承認者リスト:

*送付方法: インライン - HTML 電子メール

☐ 送信先セキュリティ チェックを実行

ユーザー ユーティリティ

ユーザー ユーティリティ パッケージ: HCSC_USER_UTILITIES

ユーザー ユーティリティ パス: UserUtilities

イベント

検索 | 全件表示 | 最初 1/7 最後

レベル (ヘッダー/行): ヘッダー *イベント: 最終承認時

メニュー名: ROLE_EMPLOYEE

承認コンポーネント: GP_ABS_SS_XFER

ページ名:

メニュー アクション: 更新

SQL オブジェクト ID: GP_ABS_SS_EML_BIND

通知

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 1/2 最後

主	デフォルト詳細	頻度	
*関係者	チャンネル	ユーザー リスト	デフォルト名
1 承認者	両方		GP_ABS_SS_APPR

トランザクション設定ページ

[アドホック承認者オプション]

[承認ユーザー情報ビュー] 承認管理コンポーネントを使用する際に、ユーザーに対して表示されるビューの詳細を提供します。

注: このビューのデータは、承認者リンクに表示される内容を表します。

[アドホック ユーザー リスト] これは、アドホック承認者となる資格のあるユーザーのリストのみを表示するときに使用するフィルタです。

[通知オプション]

このセクションは、トランザクション登録ページで指定のプロセス ID について [電子メール承認を使用] チェック ボックスを選択した場合にのみ表示されます。

[電子メール承認者リスト] 電子メールでの承認を許可するユーザーを明確に指定します。

注: 通知を受け取るユーザーが電子メール承認者リストに含まれる場合、そのユーザーは通常の電子メールによる通知ではなく、電子メール承認を受け取ります。

[送付方法] 電子メール承認をメール本文のテキストとして相手に送信するか、添付書類として送るかを定義します。

[送信先セキュリティ チェックを実行] このチェック ボックスを選択すると、通知を送信する相手のセキュリティがシステムで検証されます。

注: このセキュリティ チェックは、新規の承認についてのみ実行されます。

[ユーザー ユーティリティ]

ユーザー ユーティリティとは、委任と再割り当ての処理をユーザーが変更するための機能です。

HRMS トランザクションの場合、ワークフロー エンジンが承認ワークフロー エンジン フレームワークおよび委任フレームワークと機能するためには、[ユーザー ユーティリティ] セクションに特定の値を入力する必要があります。[ユーザー ユーティリティ パッケージ] フィールドでは、値 "HCSC_USER_UTILITIES" を選択する必要があります。[ユーザー ユーティリティ パス] フィールドでは、値 "UserUtilities" を選択する必要があります。PeopleSoft Enterprise HRMS にはこれらの値が用意されています。

注: ユーザー ユーティリティ クラスはユーザーを委任に突き合わせてチェックし、ユーザーが権限を委任したかどうかを判断します。委任していない場合は、ユーザー ユーティリティ クラスはそのユーザーのプロファイルに代替ユーザーが設定されているか確認します。

[ユーザー ユーティリティ パッケージ] 代替ユーザーの選択に使用する親アプリケーション クラスを選択します。

[ユーザー ユーティリティ パス] ルート パッケージ内で特定のクラスを使用するパスを選択します。

[イベント]

[イベント] セクションを使用して、ワークフロー通知をトリガするイベント パラメータを定義します。このセクションでは、[通知] セクションで指定した各関係者への通知に含める、デフォルト URL を構築する情報を定義します。

[レベル (ヘッダー/行)] [ヘッダー] または [行] を選択して、イベントの通知を送信するレベルを決定します。これらの各イベントに通知を送信するには、トランザクションのレベルで選択してください。

[イベント] 通知を送信するイベントを選択します。承認者は常にイベントの通知を受け取ります。依頼者およびシステム管理者は、エラーが発生したときに通知を受け取ります。

イベントの値は、次のとおりです。

[アドホック削除]

[アドホック挿入]
 [保留ステップ]
 [ロックアウト]
 [エラー時]
 [エスカレーション時]
 [最終承認時]
 [最終却下時]
 [プロセス起動時]
 [アクティブ化時]
 [割当変更時]
 [ステップ完了時]
 [終了時]
 [処理完了]
 [差戻し]
 [リクエスト情報]
 [追加リクエスト情報]
 [承認へ転送]
 [レビューへ転送]

注: [ロックアウト]、[エラー時]、[エスカレーション時]、[プロセス起動時]、[終了時]および[処理完了]は、ヘッダー レベルのみです。

[メニュー名]	通知の受信者をリンクするコンポーネントを含むメニュー名を選択します。これにより、通知を受けたユーザーのアクセス先が指定されます。値を入力しないと、受信者のアクセス先は、ワークリスト承認コンポーネントで指定したのと同じメニューとコンポーネントになります。
[承認コンポーネント]	通知の受信者がアクセスできるコンポーネントを選択します。
[ページ名]	定義したページは、電子メールの通知に含まれる URL から承認者が転送されるページになります。
[メニュー アクション]	これは、電子メールの通知に含まれる URL からユーザーが転送されたときに表示されるページのアクションです。
[SQL オブジェクト ID] (構造化照会言語オブジェクト ID)	電子メールの内容の取得に使用する SQL 定義 ID を選択します。SQL は、通知レベルのキー数と同じバインドの入力値を受け入れる必要があります。たとえば、ヘッダーまたは行のキーです。

[通知]

[通知] セクションを使用して、このページの [イベント] セクションで指定したデフォルト値以外に、通知の送信先および通知方法を定義します。

これらのオプションを使用すると、特定のトランザクションやリクエストに回答していない関係者に通知を送ることができます。関係者に通知を送る時間数や最大回数を、イベントごとに設定することができます。たとえば、最終承認について承認ワークフロー エンジンから依頼者に、2 時間おきに最高 5 回まで通知を送るよう設定できます。承認ワークフロー エンジンは、関係者がトランザクションやリクエストを処理していない場合にのみ通知をトリガします。

[関係者]

このイベントが発生したときに通知を受け取るユーザーを定義します。

- [A-代理]: 権限を誰かに委任してトランザクションを自分の代理で承認するように依頼した、特定の承認ワークフロー ステップに関連する承認者。
代理人が代わりにトランザクションを承認したことを委任者に連絡する通知用のテンプレートを定義することを推奨します。
- [A-プロキシ]: 権限を委任されてトランザクションを委任者の代理として承認するよう依頼された、特定の承認ワークフロー ステップに関連する承認者。
代理人が委任者の代わりにトランザクションを承認したことを連絡するための、通知用テンプレートを定義することを推奨します。
- [管理者]: 承認管理者。
- [承認者]: 特定の承認リクエストに関連する承認者。
- [動的]: 動的承認設定によって決定されるユーザー。
- [R-代理]: 権限を誰かに委任してトランザクションを自分の代理で開始するよう依頼した、特定の承認ワークフロー ステップに関連する承認者。
代理人が代わりにトランザクションを開始したことを委任者に連絡する通知用のテンプレートを定義することを推奨します。
- [R-プロキシ]: 権限を委任されてトランザクションを委任者の代理として開始するよう依頼された、特定の承認ワークフロー ステップに関連する承認者。
代理人が委任者の代わりにトランザクションを開始したことを連絡するための、通知用テンプレートを定義することを推奨します。
- [依頼者]: 特定の承認リクエストに関連する依頼者。
- [レビュー担当]: 特定の承認リクエストに関連するレビュー担当者。
- [ユーザー リスト]: 特定の承認リクエストを持つユーザー リストによって決定されるユーザー。

[チャネル]

関係者への通知方法を定義します。

- [両方]
- [電子メール]
- [なし]
- [ユーザー]
- [ワークリスト]

注: 通知設定は、[PeopleTools]、[セキュリティ]、[ユーザー プロファイル]、[ワークフロー] でも設定できます。この場合は 2 つのオプションがあります。[ワークリスト ユーザー] と [電子メール ユーザー] の一方または両方を選択できます。

[ユーザー リスト]	[関係者] として [動的] または [ユーザー リスト] のいずれかを選択します。これらの値を選択するとオプションが有効になります。
[テンプレート名]	この通知の電子メールの内容に使用する汎用テンプレートを選択します。汎用テンプレート ページを使用して、電子メールの内容を定義してください。このページにアクセスするには、[ファイナンス/サプライチェーン 設定]、[共通定義]、[承認]、[汎用テンプレート]を選択します。
[メニュー名]、[承認コメント]、[ページ名]、[メニューアクション]、[SQL オブジェクト ID]、[優先度]	[テンプレート詳細] タブで指定したフィールドの値によって、特定の関係者への通知に含まれる URL が作成されます。これらの値はそのタイプの関係者のみに関連し、このページの [イベント] セクションで全関係者について指定するデフォルトの URL 情報は上書きされます。[テンプレート詳細] タブの全フィールドは、[イベント] セクションの対応するフィールドと同じように定義されています。
[時間数]	通知の間隔を決定する時間数を入力します。
[最大通知]	通知の最大送信回数を決定する数値を入力します。承認者が処理を行わない場合、エスカレーションが承認管理者に送られます。

関連項目:

第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認用の通知テンプレートの定義」、613ページ

承認プロセス定義の設定

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 承認プロセス定義の設定
- 承認プロセスの条件の定義
- 承認プロセスのパスの定義
- 承認プロセスのステップの定義
- HRMS 承認プロセス定義の例の確認

承認プロセス定義の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
プロセス定義の設定	PTAF_PRCs_MAIN	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[プロセス定義の設定]	ワークフロー承認プロセスのステージを定義します。
条件定義	PTAF_CRITERIA	<ul style="list-style-type: none"> プロセス定義の設定ページで、[定義条件]リンクをクリックします。 プロセス定義の設定ページで、[警告条件]リンクをクリックします。 プロセス定義の設定ページの [パス] セクションから、[条件]リンクをクリックします。 プロセス定義の設定ページの [ステップ] セクションから、[条件]リンクをクリックします。 	ワークフロー承認プロセスの条件を定義します。条件定義を使用して、実行時に承認ワークフローエンジンがブール演算の結果 (真または偽) を出すために評価する計算ロジックを定義します。
承認パス定義	PTAF_PATH_SEC	プロセス定義の設定ページで、[パス] グループボックス内の [詳細]リンクをクリックします。	ワークフロー承認プロセスのパス詳細を設定します。
承認ステップ定義	PTAF_STEP_SEC	プロセス定義の設定ページで、[ステップ] グループボックス内の [詳細]リンクをクリックします。	ワークフロー承認プロセスのステップの詳細を定義します。
承認プロセスのコピー	PTAF_PRCs_COPY	承認プロセス定義の設定ページで、[別名保存] をクリックします。	既存の承認プロセス定義をコピーして新しいプロセス定義を作成します。新しい定義 ID と有効日を割り当てる必要があります。
承認のプレビュー	PTAF_PRV_MON_SRC	プロセス定義の設定ページで、[プレビュー]リンクをクリックします。	承認プロセス定義の経路をプレビューすることにより確認します。

承認プロセス定義の設定

承認プロセスを設定するには、承認プロセス コンポーネントを使用します。

プロセス定義の設定ページにアクセスします。

プロセス定義の設定

定義条件

警告条件

別名保存

承認プロセス表示

27ページ

プロセス ID: AbsenceManagement

定義 ID: SHARE

有効日: 1990/01/01

名称: Absence Management

*管理者ロール名: AM Administrator

*ステータス: アクティブ

優先順位: 1

☒ デフォルト プロセス定義

☒ ユーザー自動承認

☐ 依頼者へ転送

▼ ステージ

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

*ステージ番号: 1 名称: AbsenceManagement

▼ パス

検索 | 全件表示 | 最初 | 1/1 | 最後

名称: Absence Management *ソース: 静的

▼ ステップ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 | 最初 | 1-2/2 | 最後

	名称	承認者リスト	詳細	条件				
1	Abs Mgmt by Supervisor ID	AbsenceBySupervisorId						
2	Abs Mgmt by Supervisor ID	AbsenceBySupervisorId						

全て展開/全て折りたたむ

プロセス定義の設定ページ

ビジネス アナリストは、このページを使用して承認プロセス定義を設定します。プロセスは、ステージ、パスおよびステップから構成されます。承認パスに設定する承認ステップは、トランザクションに必要な承認レベルを表します。

次のような承認プロセスを構築できます。

- 組織または階層型の承認範囲内にある承認プロセス。
- 監督者や部門の承認など、代替階層を使用する承認プロセス。
- 部門と人事の同時承認など、並行する複数の経路を使用する承認プロセス。
- 最初に部門の承認を得てから次に人事の承認を得るといったような、段階ごとの経路を使用する承認プロセス。

通常の承認プロセスには次の関係者がいます。

- あるトランザクションを承認できる従業員や監督者。
- 各ステップに 2 人の承認者。あるステップで両方の承認者が承認しなければ、リクエストが次のステップに進みません。

[プロセス ID]

トランザクション登録ページで作成したプロセス ID。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認トランザクション レジストリについて」、575 ページ

[定義 ID]

自分にとって意味のある ID コードを入力してください。この ID は、設定ページ全体で検索フィールドとして使用されます。

注: 以前のリリースからアップグレードする場合は、[セットID] フィールドは [定義 ID] のデフォルト値として使用されます。

[定義条件]	<p>クリックすると、条件定義ページにアクセスし、このプロセス定義でのユーザーとフィールドの条件、および金額とアプリケーション クラスの条件を定義できます。この条件は、承認処理に使用する定義 ID を決定する際に使われます。</p> <p>参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認プロセスの条件の定義」、597 ページ</p>
[警告条件]	<p>クリックすると、条件定義ページにアクセスし、該当するステップでのユーザーとフィールドの警告条件、および金額とアプリケーション クラスの条件を定義できます。この条件はアプリケーションにより評価して、承認するトランザクションの条件を強調表示することができます。</p> <p>参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認プロセスの条件の定義」、597 ページ</p>
[別名保存]	<p>既存の承認プロセス定義をコピーして新しいプロセス定義を作成するには、これをクリックします。新しい定義 ID と有効日を割り当てる必要があります。</p>
[承認プロセス表示]	<p>クリックするとグラフィック ツールにアクセスし、承認プロセスのそれぞれのステージ、パスおよびステップを参照することができます。</p> <hr/> <p>注: グラフィックを表示するには、Adobe SVG Viewer 3.0 – English (U.S.) がクライアント マシンにインストールされている必要があります。</p> <hr/>
[プレビュー]	<p>クリックすると、実行時にワークフロー インスタンスがどのように表示されるかを確認できます。</p>
[有効日]	<p>この承認プロセスが有効になり、システムで利用可能になる日付を示します。この値は、特定の承認プロセス ID および定義 ID の承認プロセスに適用され、有効日の付けられたエンティティに関連する PeopleSoft の機能が含まれます。たとえば、承認プロセス ID、定義 ID および有効日が指定された複数の承認プロセスが有効の場合、最新の有効日を持つプロセスが使用されます。</p>
[管理者ロール名]	<p>ワークフローで使用されるユーザー リスト ロールを選択して、承認処理でエラーがあった場合に、トランザクションをそのロールに該当する全ユーザーに送信します。</p> <hr/> <p>注: エラーの条件は承認者がいないか、または十分な承認者がいないかのどちらかです。</p> <hr/> <p>参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザーリストの定義」、618 ページ</p>
[ステータス]	<p>この承認プロセスの現在のステータスを選択します。選択肢は以下のとおりです。</p> <p>[アクティブ]: 承認プロセスが使用できることを示します。</p> <p>[非アクティブ]: 承認プロセスが使用できないことを示します。</p> <p>特定の条件で開始されたトランザクションは、ステータスが [非アクティブ] の場合でもその定義を使用して続けられます。</p>

[優先順位]

選択すると、定義条件が評価される順序で定義がソートされます。優先順位が最も高く定義条件に一致する定義を使用して、トランザクションが処理されます。優先順位は 1 が最高です。複数の定義 ID に同じ優先順位を付けることができます。

注: 複数の定義 ID に同じ優先順位が設定されていると、複数の定義 ID が該当した場合に処理が一致しなくなることがあります。

[デフォルト プロセス定義]

選択すると、入力された条件に一致する定義 ID が他にない場合は、このプロセス定義をデフォルトとして使用します。

**[行の完了時に次の処理
を実行]**

選択すると、トランザクション内の他の行が完了するのを待たずに、各行が承認プロセスの次のステップに進むことができます。この設定は、プロセスの最後に行レベルのステージを持つ承認プロセスに適用されます。

行ごとの処理は、最後のステージが行レベルの場合にのみサポートされています。この設定では、行レベルのステージが承認プロセスの最後のステージであると見なされます。

[ユーザー自動承認]

オンにすると、該当する承認プロセスで承認者が実行したアクションが記録されます。この承認プロセスが次に承認者に提示された場合、承認者が前回選択したアクションが自動的に適用されます。承認プロセスでのステップの自動適用は、[ユーザー自動承認] チェック ボックスをオフにするまで変更されません。

この設定は、承認者がこのプロセスで以前に承認した特定の行またはヘッダーにのみ適用されます。ヘッダー承認とは、全ての行における行レベルの承認を意味します。

[依頼者へ転送]

[依頼者へ転送] は、自己承認のフラグと共に機能します。承認者が自己承認の条件に一致しなかった場合、このチェック ボックスが選択されていれば承認は転送されます。チェック ボックスが選択されておらず、承認者が自己承認の条件を満たしていなければ、承認は承認管理者に転送されます。

自己承認が設定済みで、自己承認をトリガする条件が満たされておらず、[依頼者へ転送] が選択されていなければ、依頼者を承認パスに含めることはできません。

[依頼者へ転送] が選択されていて自己承認の条件が満たされていれば、依頼者は承認パスの一部に含まれ、承認待ちの通知が依頼者に送られます。

[ステージ]**[ステージ番号]**

この承認ステージを実行する順番を入力します。ステージの名称を [名称] フィールドに入力することもできます。

ステージとは、承認プロセス内の論理的なグループの分類です。単一のステージを定義したり、複数のステージを使用することもできます。複数の場合は、ステージは決められた順序で実行されます。2 番目のステージが始まる前に、1 番目のステージが終了している必要があります。

各ステージは、ヘッダー レベルまたは行レベルのいずれかである必要があります。ヘッダー レベルのステージは、単一のヘッダーを処理します。行レベルのステージは、ヘッダーの下にある全ての行を同時に処理します。

[レベル]

承認を処理するレベルを選択します。ステージ内の全てのパスは、そのステージと同じレベルになります。有効値は以下のとおりです。

[ヘッダー]: ヘッダー レベルのステージでは、トランザクション全体について承認を行うことができます。

[行]: 行レベルのステージでは、選択条件で行アイテムの内容を区別する複数のパスを持つことができます。たとえば、ソフトウェアの行アイテムがソフトウェアの承認者に送られる、というような場合です。行レベルのステージでは、適切な場合には各行を異なる方法で転送することが可能です。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認について」、565ページ

[パス]**[名称]**

パスを識別する名称を入力します。パスは、ステップの順番です。パスの例として、給与 US\$100,000 以上の人材募集用に定義された幹部役員用のパス承認ステップなどがあります。他の例として、部門パスがあります。部門パスでは、人材募集で部門階層を上位方向に承認が必要になります。

ステージ内では複数のパスが同時に実行され、各パスはそれぞれが属するステージのレベルとなります。パスの入力条件によって、トランザクションのヘッダーまたは行のどちらに対してパスが実行されるかが決まります。たとえば、行レベルのステージでは、トランザクションの各行がそれぞれのパスに提示されます。パスの条件によって、そのパスが行に対してトリガされるかどうかが決まります。パスで入力した条件がヘッダーまたは行で無効であるとシステムが判断した場合、そのヘッダーまたは行のパスは無視されます。

ステージがアクティブになると（このステージの承認者が承認待ちの作業を取得）、ステージ内の全てのパスは同時にアクティブになります。また、ステージ内の全てのパスは、承認者に対して同時に作業のキューを出します。ステージの処理は、ステージ内の全てのパスが終了した時点で完了します。

[ソース]

承認プロセス時にステップをインスタンス化する方法を選択します。値は次のとおりです。

[静的]: 承認プロセスの実行時に、個々のユーザー定義のステップを使用する場合に選択します。

[動的]: 動的パス定義にはステップが 1 つだけ含まれます。開始時には、単一のステップ定義によって必要な数のインスタンスを順番に生成することができます。

ソースに [動的] を使用した場合、ステップ定義にユーザー リストを使用してパス内のステップが初期化されます。ステップのユーザー リストから承認者が戻されなくなるまで、単一のステップ定義が繰り返し実行されます。これらのインスタンスは全て順番にキューに入れられます。

注: ユーザー リストは、ユーザー リスト定義ページを使用してロールやクエリーおよびクラスに関連付けられます。このページにアクセスするには、[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[ユーザーリスト管理] を選択します。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザーリストの定義」、618ページ

[詳細]	クリックすると承認パス定義ページにアクセスします。ここでパス条件およびエスカレーションのパラメータを定義できます。
[条件]	クリックすると、条件定義ページにアクセスし、フィールドの条件、および金額とアプリケーション クラスの条件を定義できます。
[ステップ]	
<連番>、[名称]	ステップの名称を入力します。名称の横にステップの連番が表示されます。
[承認者リスト]	<p>このステップで使用する承認者のリストを選択します。承認者リストは、システム内のユーザーをグループ化するエンティティ、すなわち承認階層です。ロールやクエリーおよびアプリケーション クラスは、承認者リストの例です。このリストとリスト内のユーザーに基づいて、自動ビジネス プロセスが実行されます。このリストでは、承認ステップで使用可能なユーザー ソースが定義されています。</p> <p>承認ワークフローを設定する際は、ビジネス アナリストは承認者リストを使用して、承認するリクエストを評価する承認者およびレビュー担当者に承認タスクを割り当てます。</p> <p>承認エンジンには、ユーザー リスト定義に対して使用可能な 2 種類の条件情報があります。1 つはパス内の以前の承認で、もう 1 つはトランザクション（ヘッダーまたは行）のキーです。パス内の第 1 ステップの以前の承認者は、パスが所属するステージに関係なく常に依頼者です。SQL クエリーの場合は、バインド値によって条件が提供されます。バインド値は、以前の承認者（以前の承認者が複数いる場合は、呼び出しごとに 1 人）とヘッダー レコードのキーです。キー値は、対応するレコード オブジェクトに定義された順序で提供されます。</p> <p>参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザー リストの定義」、618 ページ</p>
[詳細]	クリックすると、条件ステップ定義ページにアクセスし、承認要件、自己承認の詳細、およびレビュー担当者を定義できます。
[条件]	クリックすると、ステップの条件定義ページにアクセスし、フィールドの条件、および金額とアプリケーション クラスの条件を定義できます。

承認プロセスの条件の定義

条件定義ページにアクセスします。

条件定義

***条件タイプ:** ユーザー入力

☒ 全ての条件必須

▼ ユーザー入力条件 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

説明:

▼ フィールド条件

コード: 検索 フィールド名: 検索

	*条件演算子	値	値
1	BETWEEN	<input type="text"/>	<input type="text"/>

▼ 金額条件

金額コード: 検索 金額フィールド: 検索

通貨フィールド: 検索

演算子: >

金額: 金額:

通貨コード: 検索

レートタイプ: 検索

OK キャンセル 適用

条件定義ページ

条件定義は評価時に真または偽を戻す、任意論理の一部です。条件定義は、たとえば転送パスの変更などトランザクションに固有の情報を使用して、承認ワークフロー エンジンプログラムします。条件に適用条件を設定するために、エンジンにはトランザクション キーがバインド値として用意されています。

このページを使用して、承認プロセス、ステージ、パスまたはステップのレベルで承認プロセスに適用する、異なるタイプの条件を定義します。このページで条件を定義するレベルは、ページにアクセスする際にクリックしたリンクによって異なります。1 つの論理演算子を持つ 1 つのフィールドと、承認を処理するためにトランザクション データを読み込むアプリケーション クラスから成る 1 つの定義値によって構成される定義を作成できます。承認ワークフロー エンジンが承認プロセスを起動しようとするたびに、最初に承認プロセス定義に関連付けられた条件定義が評価されます。条件定義から偽が戻された場合、エンジンは承認プロセス定義を使用しません。この場合、エンジンはパスとステップ条件定義を順番に解決します。

このページは警告条件の定義にも使用します。警告条件は他の条件タイプと原則的に同じですが、適用方法が異なります。警告条件を使用して、警告をいつ表示するかを決定できます。たとえば、トランザクションが指定の条件を満たす場合に、承認トランザクション ページで承認者にメッセージを表示することが可能です。このページを使用して警告条件を定義するには、プロセス定義の設定ページの [警告条件] のリンクをクリックしてください。警告条件には異なる点が 2 つあります。

- [説明] フィールドは、承認ページで表示される実際の警告テキストです。
- 条件によって、警告を承認ページに表示するか、あるいは行またはヘッダーを承認のために転送するかが決まります。

[条件タイプ] 次のオプションの中から 1 つを選択します。

- [常に真] を使用すると、この承認プロセスがトリガされます。条件は不要です。評価の結果が “真” となるパスのみを通ります。
- [アプリケーション クラス] の場合は、ワークフロー承認タスクが “真” となるかを判断するために、使用する特定のアプリケーション クラスを定義する必要があります。

注: ユーザー入力条件に必要な詳細レベルが含まれていない場合は、[アプリケーション クラス] を条件タイプとして使用してください。

- [ユーザー入力] の場合は、このページに全てのレコードとフィールドの組み合わせを入力する必要があります。これは、値または金額のどちらかに基づき、評価結果が “真” となるワークフローをトリガします。

[全ての条件必須]

選択すると、ワークフローがトリガされて評価が “真” となるために、条件定義ページで定義した全ての条件を満たす必要があることを示します。

[ユーザー入力条件]

このセクションは、[条件タイプ] に [ユーザー入力] を選択すると表示されます。このセクションを使用して、承認の追加条件を定義します。

[説明]

条件の説明を入力します。

[フィールド条件]

このセクションは、[条件タイプ] に [ユーザー入力] を選択すると表示されます。このセクションを使用して、承認プロセスで使用するファイルに含まれる、データ範囲またはデータ タイプを管理またはフィルタするためのレコードおよびフィールドを選択します。

[レコード]

承認条件の定義に使用するレコードを選択します。

[フィールド名]

承認条件の定義に使用するフィールドをヘッダー レコードから選択します。以下のフィールド条件グリッドで指定する値は、承認条件の決定に使用されます。

[条件演算子]

[値] フィールドに入力した条件に適用されるアクションを決定します。
以下の演算子が使用できます。

- [BETWEEN]: 条件として入力した 2 つの値の範囲に該当する値のみが使用されます。
- [=]: 入力した条件に等しい値のみが使用されます。
- [>]: 入力した条件に等しいか、大きい値を使用します。

[IS BLANK]

- [NOT BLANK]
- [<]: [値] フィールドに入力された値よりも小さいレコード値を使用します。
- [<>]: 入力された条件以外のレコード値を使用します。

[値]

2 つの [値] フィールドを使用して、演算子条件が評価する範囲を定義します。2 番目の値は、[条件演算子] が [BETWEEN] を使って評価された場合にのみ使用されます。

[金額条件]

このセクションは、[条件タイプ] に [ユーザー入力] を選択すると表示されます。このセクションを使用して、値または金額に基づいた承認条件を確立します。定義した値を使用して、トランザクションを承認するための転送経路が決まります。システムが承認プロセスまたはプロセス内のステップやパスの条件を評価するときは、このセクションで定義した金額が使用されます。

このセクションのフィールドの値は、[演算子] フィールドと共に使用され、ステップを実行するかどうかが決まります。

[金額レコード] 使用するレコード名を選択します。たとえば、給与フィールドを使用してステップをトリガすることができます。

[金額フィールド] 使用する金額レコード内のフィールドを選択します。

[通貨フィールド] 下の [通貨コード] フィールドで選択した通貨コードに対応する通貨フィールドを選択します。

[演算子] [金額] フィールドの値の処理方法を指定する演算子を選択します。有効な値は、[BETWEEN]、[>]、および [<] です。

[金額] [金額] フィールドを使って、[演算子] フィールドと共に使用する金額の範囲を指定します。

注: [条件演算子] に [BETWEEN] を使用すると、2 番目の [金額] フィールドがアクティブになります。

[通貨コード] 承認で使用する通貨単位を選択します。

[レート タイプ] カレント レートや支払レートなど、通貨の換算方法を選択します。

[アプリケーション クラスの条件]

このセクションは、[条件タイプ] に [アプリケーション クラス] を選択すると表示されます。このセクションでは、承認プロセスを定義するための条件として、アプリケーション パッケージを割り当てます。クラスを定義する際に、この条件は承認プロセス用に入力した他の条件と共に使用されます。

条件定義

*条件タイプ:

アプリケーション クラス

▼ アプリケーション クラスの条件

ルート パッケージ ID:

アプリケーション クラス パス:

アプリケーション クラスに基づく条件に対して、アプリケーション パッケージに基づく条件の説明テキスト

PTAF_CRITERIA:CriteriaBase を展開し、"チェック" メソッドを実行する必要があります。詳細については、システム管理者に連絡してください。

条件定義ページ ([アプリケーション クラスの条件] セクション)

[ルート パッケージ ID] 基本のアプリケーション パッケージを選択します。ここで選択した項目は、他のパッケージや子のアプリケーション クラスの親となります。

[アプリケーション クラス パス] ルート パッケージ内で特定のクラスを記述するパスを選択します。

承認プロセスのパスの定義

承認パス定義ページにアクセスします。

承認パス定義

条件

承認パス:

1

ステップ ソース:

静的

名称:

Absence Management

詳細説明:

☐ 前の承認依頼ステップを省略

タイムアウト オプション

カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

	エスカレーション オプション	時間数	日数	担当変更先	ユーザー リスト		
1	事前承認		3				

OK キャンセル

承認パス定義ページ

このページを使用して、承認パスの処理方法を決定する追加のパラメータを設定します。エスカレーション機能を使用して、承認が承認待ちリクエストの処理に時間がかかり過ぎている場合の時間的な要素を定義します。

- [条件]

クリックすると、条件定義ページにアクセスし、ユーザーとフィールドの条件、および金額とアプリケーション クラスの条件を定義できます。
- [承認パス]

作成または更新するパス名が表示されます。パスは通常、単一の所属関係階層（またはその他）から、リクエストの承認の順序を決定します。
- [ステップ ソース]

[静的]: 承認プロセスの実行時に、個々のユーザー定義のステップを使用する場合に選択します。

[動的]: 動的パス定義にはステップが 1 つだけ含まれます。開始時には、単一のステップ定義によって必要な数のインスタンスを順番に生成することができます。

ソースに [動的]を使用した場合、ステップ定義にユーザー リストを使用して（承認ステップ定義ページ）、パス内のステップが初期化されます。ステップのユーザー リストから承認者が戻されなくなるまで、単一のステップ定義が繰り返し実行されます。これらのインスタンスは全て順番にキューに入れられます。
- [承認者がいない場合管理者に通知]

選択すると、パスの承認者がいない場合に承認管理者へ通知が送られます。このオプションは、[ステップ ソース] が [動的] の場合にのみ使用できます。

注: これは、静的パスのデフォルトの処理です。

[前の承認依頼ステップを省略]	選択すると、このパスの承認者の 1 人が依頼者でもある場合、その承認者のステップより前にあるこのパスのステップを全て省略します。
[権限をチェック]	選択すると、承認の権限チェックが有効になります。
[権限のないユーザーをスキップ]	選択すると、承認の条件を一部満たさないとシステムが判断した場合に、承認プロセスでユーザー リストに含まれるユーザーを省略できます。
[タイムアウト オプション]	
[エスカレーション オプション]	<p>[事前承認]: 現在の承認者を省略します。</p> <p>[関係者通知]: 電子メールまたはトランザクション レジストリで定義された通知方法を使用して、関係者に通知します。</p> <p>[割当変更]: ユーザー ID またはユーザー リストを再び割り当てます。</p> <hr/> <p>注: [事前承認] を選択してユーザー リストを定義した場合、通知はユーザー リストのメンバーに送られます。</p> <hr/>
	参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザー リストの定義」、618 ページ
[時間数]	エスカレーションが実行されるまでに、トランザクションを 1 つのワークフロー ステップに保持できる時間数を入力します。このフィールドと [日数] フィールドの合計により、承認リクエストに対して承認者がアクションを実行するまでの合計時間が決まります。
[日数]	エスカレーションが実行されるまでに、トランザクションが 1 つのワークフロー ステップで保持できる日数を入力します。これは、トランザクションの承認または却下など、承認者が処理を行わねばならない期限です。
[割当変更先]	<p>オプションで [割当変更] を選択した場合、ユーザー名または特定のユーザー リストを入力できます。</p> <hr/> <p>注: ユーザー リストは、現在のユーザーと一致しないユーザー リストの最初のユーザーを割り当てます。</p> <hr/>
	参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザー リストの定義」、618 ページ
[ユーザー リスト]	<p>ワークフローの転送先のユーザー リストを選択します。</p> <p>参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザー リストの定義」、618 ページ</p>

承認プロセスのステップの定義

承認ステップ定義ページにアクセスします。

承認ステップ定義

条件

自己承認条件

連番:

2

名称:

Abs Mgmt by Supervisor ID

承認者

承認者リスト:

AbsenceBySupervisorId

承認者ロール名:

承認者要件

☒ 全ての承認者

☒ 一部の承認者

必要承認者数:

1

承認者要件

☐ 自己承認

レビュー担当者

レビュー担当者リスト:

OK

キャンセル

承認ステップ定義ページ

このページを使用して、ステップ定義の追加パラメータを設定します。

- [条件]

クリックすると、条件定義ページにアクセスし、フィールドの条件、および金額とアプリケーション クラスの条件を定義できます。
- [自己承認条件]

クリックすると、条件定義ページにアクセスし、ユーザーにフィールド条件や金額、アプリケーション クラス条件などの自己承認条件を設定することができます。
- [連番]

承認が転送される順番が表示されます。各ステップは通常、承認者への転送を示します。ただし、ステップ内で複数の承認者またはレビュー担当者に転送することも可能です。
- [承認者リスト]

ユーザー リストに基づいて、このステップで使用する承認者のタイプを選択します。

参照: [第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザー リストの定義」、618 ページ](#)
- [承認者ロール名]

ユーザー リストの他に、追加の承認チェックとしてロールを追加できます。ユーザーが持つ権限を指定するロールを選択します。承認ワークフロー エンジンでは、ユーザー リストから戻された内容にそのロールの全ユーザーを追加します。また、承認者がアクションを実行する際に、このロールが強制的に適用されます。承認者がこのロールの適用外になっているなど、ロールの割り当てが変更されている場合、この承認者はトランザクションの承認アクションから除外されます。
- [全ての承認者]

このステップでのトランザクションに、このステップで全ての承認者による承認が必要な場合に選択します。このステップでのトランザクションの承認には、全ての承認者または一部の承認者を選択できます。

[一部の承認者]

トランザクションの承認に全ての承認者が必要ない場合を選択します。このオプションを選択する場合は、[必要承認者数] フィールドに必要な承認者の人数を入力します。

注: 人数が満たされた後に、承認は次のステップに進みます。

[必要承認者数]

このステップでトランザクションを承認する承認者の最小人数を入力します。承認プロセスの開始時にこの人数が満たされない場合は、システム管理者に通知されます。

[自己承認]

依頼者が自分のリクエストを承認可能にする場合を選択します。依頼者がステップの承認者として表示される場合にのみ、この設定が適用されます。

[自己承認条件] リンクを使用して、依頼者の承認権限を制約する条件を確立できます。関連する条件が真となった場合、自己承認は許可されます。たとえば、依頼者に金額の上限を設定し、トランザクションがその金額を超過した場合に、その依頼者を承認者として使用不可にすることができます。

自己承認を選択して、依頼者が承認者となる場合、この条件が評価されます。条件が満たされた場合、依頼者の承認が得られたものと見なし、そのステップの最小承認者数が 1 人減ります。条件が満たされない場合、承認ワークフロー エンジンでは、この後に少なくともあと 1 つのステップがパスに必要となります。これは、アドホック ステップには適用されません。

注: 条件が満たされず、このあとにステップがない場合、システムにより追加のステップが 1 つ挿入されます。その場合、この選択内容が承認管理者に転送されます。

チェック ボックスの選択を解除すると、自己承認が許可されないことを示します。自己承認が有効でないと、依頼者は承認者となることはできません。いずれかのステップで依頼者が承認者になろうとした場合、依頼者は承認できないように除外されます。これが原因で、使用可能な承認者数が最小人数を下回った場合、エラーが発生します。その場合、プロセスは承認管理者に転送されます。

依頼者が承認者の場合、そのパスにある依頼者のステップより前のステップを省略するようにパスを設定できます。

[レビュー担当者リスト]

このステップで使用するレビュー担当者のタイプを選択します。特定の職種のロールにユーザーをマッピングするユーザー リストを使用します。このリストとリスト内のユーザーに基づいて、自動ビジネス プロセスが実行されます。このリストでは、承認および評価ステップで使用可能なユーザーソースが定義されています。

参照: [第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザーリストの定義」、618 ページ](#)

注: 静的ステップのエラー条件は、ステップに承認者がいないか、または十分な承認者がいないことです。

関連項目:

[第 25 章、「承認の設定と使い方」、「他の承認機能」、571 ページ](#)

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Workflow Technology の「User List Roles」

HRMS 承認プロセス定義の例の確認

このセクションでは、PeopleSoft Enterprise HRMS に固有のトランザクションについて、承認プロセス定義の設定方法の例を説明します。

この例では、従業員の休暇リクエストの承認を処理する承認プロセス定義を作成します。まず、承認プロセスのステージ、パスおよびステップを定義する必要があります。

プロセス定義の設定

[定義条件](#) | [警告条件](#) | [別名保存](#) | [承認プロセス表示](#) | [プレビュー](#)

プロセス ID: AbsenceManagement *管理者ロール名: AM Administrator ☒ デフォルト プロセス定義
 定義 ID: SHARE *ステータス: アクティブ ☒ ユーザー自動承認
 有効日: 1990/01/01 優先順位: 1 ☐ 依頼者へ転送
 名称: Absence Management

▼ ステージ 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

*ステージ番号: 1 名称: AbsenceManagement

▼ パス 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

名称: Absence Management *ソース: 静的 [詳細](#) | [条件](#)

▼ ステップ [カスタマイズ](#) | 検索 | 全件表示 最初 1-2/2 最後

名称	承認者リスト	詳細	条件				
1 Abs Mgmt by Supervisor ID	AbsenceBySupervisorId			↑	↓	+	-
2 Abs Mgmt by Supervisor ID	AbsenceBySupervisorId			↑	↓	+	-

[全て展開/全て折りたたむ](#)

承認プロセス定義の設定

この例では、承認プロセスにはステージとパスがそれぞれ 1 つずつ、ステップが 2 つあります。例にあるステージには組織で 1 つの承認パスが含まれ、このパスには従業員が休暇を取得するまでに 2 つのレベルの監督者による承認が必要です。まず、従業員の監督者が承認し、続いてその監督者の管理者がリクエストを承認する必要があります。

承認プロセス定義には、複数のステージ、パスおよびステップを定義できます。たとえば、従業員の休暇リクエストに管理者の承認が必要だとします。この場合、管理者の承認を必要とするステップを 1 つ含む追加のパスを既存のステージ内に作成します。

承認ワークフロー エンジンには、複数のステージとステップを順番に処理します。指定のパスで前のステップが完了するまで、エンジンは次のステップに進むことはできません。同じように、あるステージ内の全てのパスが完了しないと、エンジンは次のステージに進むことができません。ただし、パスの場合は静的（順番に処理）または動的（並行して処理）のいずれかとして定義できます。

ここで、承認ワークフロー エンジンが実行時に評価してブール演算の結果を出すロジックを追加します。条件は定義、パス、ステップのレベルで定義できます。この例の場合はロジックを定義レベルに追加し、このロジックによって従業員 ID の値を持たない休暇リクエストがあった場合に、承認ワークフロー エンジンに処理を停止するよう指示します。この条件を設定するには、プロセス定義の設定ページの上にある「定義条件」リンクをクリックします。

条件定義

***条件タイプ:** ユーザー入力

☒ **全ての条件必須**

▼ ユーザー入力条件 検索 | 全件表示 最初 ◀ 1/1 ▶ 最後

説明: + -

▼ フィールド条件

レコード: GP_ABS_SS_DAT 🔍 フィールド名: EMPLID 🔍

*条件演算子		最初 ◀ 1/1 ▶ 最後
1	NOT BLANK	+ -

▼ 金額条件

金額レコード: 🔍 金額フィールド: 🔍

通貨フィールド: 🔍

演算子: >

金額: 0.000 金額:

通貨コード: 🔍

レートタイプ: 🔍

OK
キャンセル
適用

プロセス条件の定義

[条件タイプ] フィールドの値として [ユーザー入力] を選択します。これによって、ページでフィールドが有効になり、条件を手動で定義できるようになります。また、[全ての条件必須] チェック ボックスも選択してください。このチェック ボックスはデフォルトで選択されています。次に、フィールド条件 グループ ボックスを使用して、必要なロジックを指定します。[レコード] フィールドで、このトランザクションのヘッダー レコードを選択します。トランザクションのヘッダー レコードは、トランザクション登録ページで定義します。この場合、トランザクションのプロセス ID は AbsenceManagement で、これにはヘッダー レコードの GP_ABS_SS_DAT が定義されています。プロセス ID のそのヘッダー レコード内に定義されたフィールドから、必要なものを選択します。この場合は、EMPLID が選択されています。ロジックを完了するには、[条件演算子] フィールドで [NOT BLANK] を選択します。[適用] に続いて [OK] をクリックします。

この条件定義のロジックは、休暇リクエストを処理する際に、承認ワークフロー エンジンがこの定義 ID を使用して、トランザクションの一部に従業員 ID を含む AbsenceManagement 承認プロセス ID に関連する、全てのトランザクションを処理することを意味します。トランザクションに従業員 ID の値が含まれない場合、承認ワークフロー エンジン は、関連の承認プロセス ID のトランザクション処理に必要な必須条件に一致する別の定義 ID を引き続き検索します。

次に、現在の承認者が 3 日以内に返答しない場合に、承認ワークフロー エンジンがパス内の次の承認者に承認を転送する必要があります。[パス] グループ ボックスの [詳細] リンクをクリックして、承認パス定義にアクセスします。

承認プロセス定義

条件

承認プロセス: 1

ステップ ソース: 静的

名称: Absence Management

詳細説明:

☐ 前の承認依頼ステップを省略

タイムアウト オプション カスタマイズ | 検索 | 最初 1/1 最後

	エスカレーション オプション	時間数	日数	割当変更先	ユーザー リスト
1	事前承認		3		

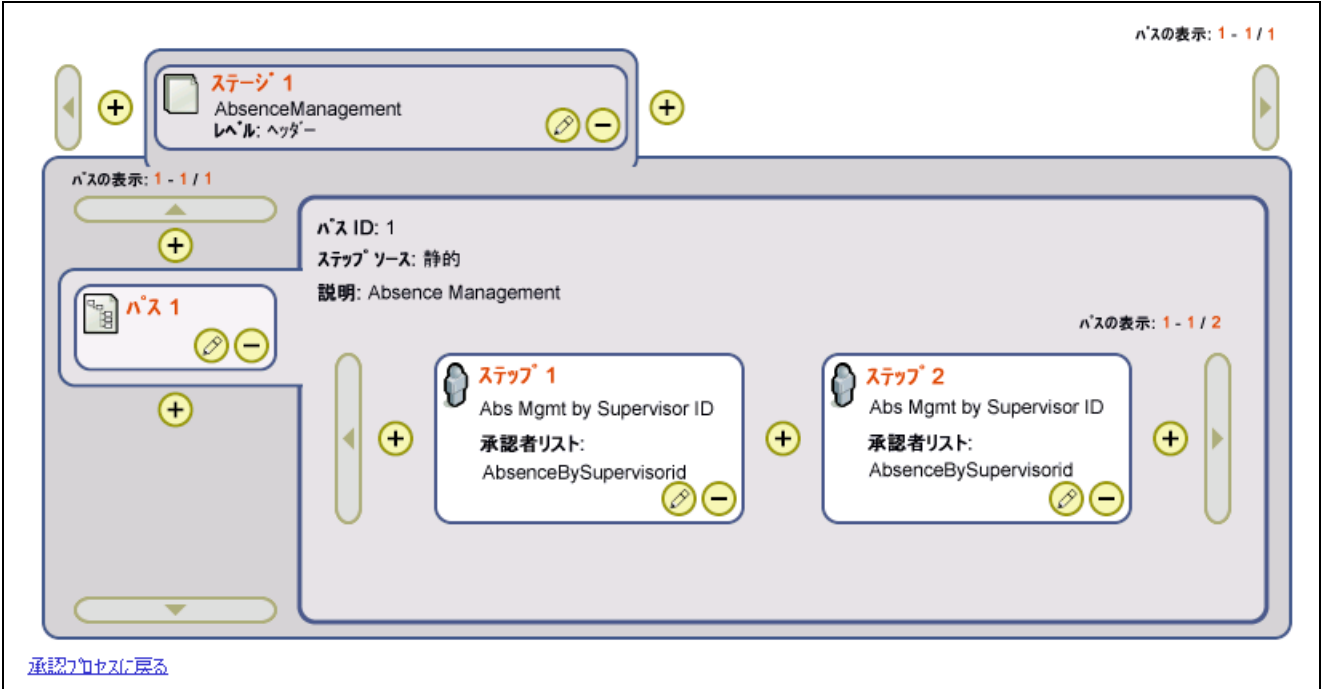
OK キャンセル

タイムアウト オプションの指定

[タイムアウト オプション] グループ ボックスを使用して、特定の時間が経過した後に特定のトランザクションやリクエストがどう処理されるかを定義します。たとえば、特定の時間や日数が経過した後、関係者へ通知したり、承認を先に進めるか、または割り当てをやり直すことができます。データベース内の特定のユーザーや定義済みのユーザー リストに、リクエストの割当先を変更することができます。

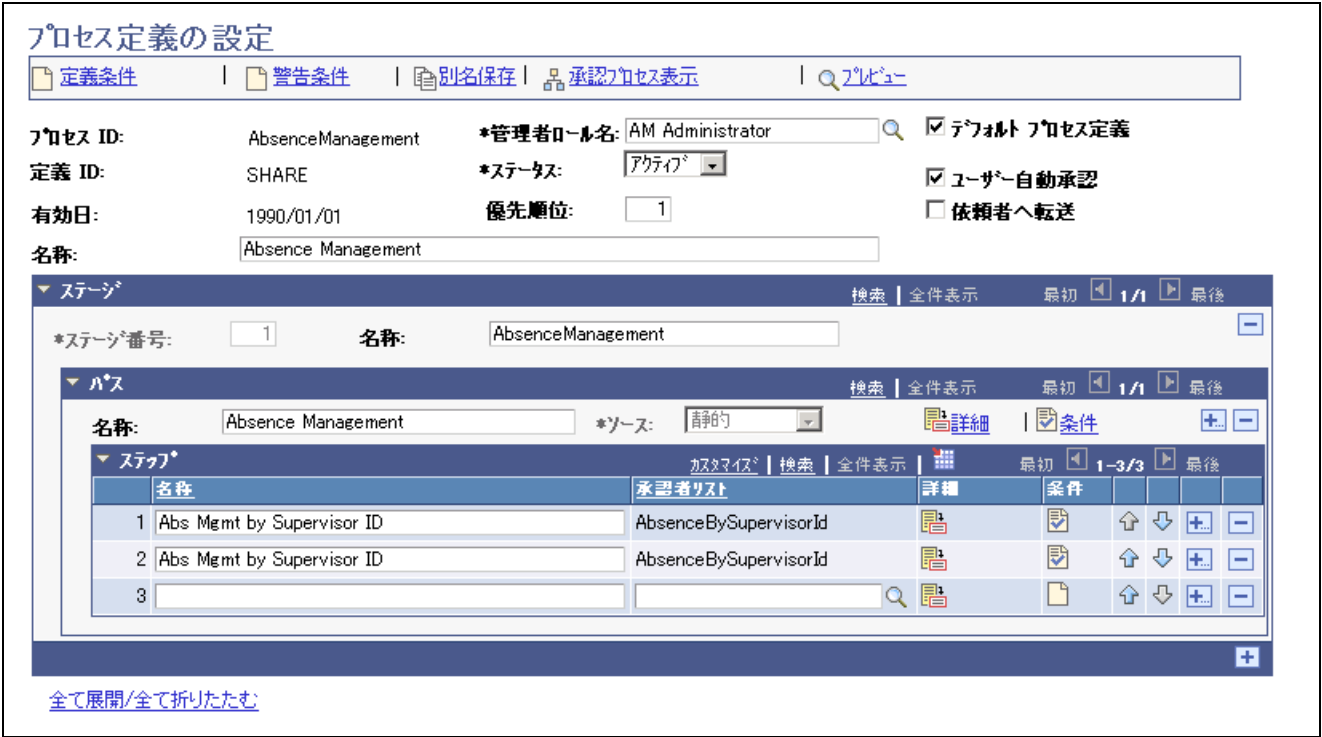
この例の条件を満たすには、[エスカレーション オプション] フィールドを [事前承認] に、[日数] フィールドを 3 にそれぞれ設定します。[OK] をクリックします。

これで承認プロセス定義が完了しました。次にグラフィックによる表示を見てみましょう。プロセス定義の設定ページの上にある [承認プロセス表示] リンクをクリックします。



承認プロセス定義の参照

プロセス定義の設定ページでは、承認プロセス定義をグラフィックを用いて表示し、必要があれば定義をすばやく修正することが可能です。[+] や [-] ボタン、または修正ボタンをクリックします。たとえば、休暇リクエストに 3 番目の承認ステップがあった方がよいとします。ステップ 2 の後の [+] をクリックしてください。



承認プロセス表示ページから追加ステップを追加

自動的にプロセス定義の設定ページに戻り、ステップ 2 の後に新しい行が挿入されているので、新しいステップをここに入力します。定義を終えたら [保存] をクリックします。

動的承認の定義

このセクションでは、動的パスおよび動的承認の許可の概要と、動的承認の定義方法を説明します。

動的パスについて

動的承認を使用するには、パス内に各ステップを個別に作成せずに、承認者のリストを定義する承認ステップを 1 つ作成します。

ワークフロー プロセスは、ステージ、パスおよびステップによって定義します。システムは、ステージを照会してワークフローのトリガがヘッダー レベルまたは行レベルで認識されるかを判断します。各ステージ内には、1 つのパスの最小要件があります。パスには、条件が満たされた場合にワークフロートリガおよび実行するアクションを定義するステップが含まれます。動的パスがなければ、承認管理者は考えられる全ての承認者にステップを作成します。動的ワークフローがあれば、承認管理者は 1 つのパスを作成し、システムは承認階層のユーザー リストを使用します。

注: 自己承認を使用していて、依頼者が許可された承認者のリストにある場合、そのロールは 1 つの承認として数えられます。

関連項目:

第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザー リストの定義」、618 ページ

動的承認の権限について

PeopleSoft アプリケーションでは、ワークフローを使用して承認パスを 2 つの方法で設定します。最初の設定方法では、ステップごとに全ての承認を定義します。2 番目の方法は、動的承認を作成するやり方です。動的承認を使用すると、1 つのステップを作成でき、そのステップがシステムの潜在的な全ての承認者を識別し、その承認者に承認を完了するための十分な権限があるかどうかを検索すると同時に、ユーザーがプロセス内の必要な承認者を全て参照できるように、視覚的なパスを作成します。監督者のロールでトランザクションを承認または却下でき、全ての条件が満たされたときに承認パスを停止する動的パスを設定できます。承認管理者はユーザー リストを作成し、システムはこのリストを使用して適切な監督権限のあるトランザクション承認者を選択し、権限をチェックします。動的パスは、前の承認者を考慮の対象とします。

動的パスの承認権限を作成するうえでの 2 つの重要なポイントは、次のことを行う機能です。

- 権限のチェック
- 権限のないユーザーをスキップ

システムはユーザー リストと承認権限を照会し、承認を完了するのに必要なユーザーを決定します。[権限のないユーザーをスキップ] を選択した場合、必須でないユーザーは承認待ちのステップとしてではなく、スキップされたステップとして表示されます。

動的承認の定義で使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
承認権限	PTAF_AUTH	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[権限] 注: このページは [PeopleTools] からでも利用できますが、アプリケーションで使用可能にするにはポータルナビゲーションに追加する必要があります。	動的パスのロールと承認者に権限を付与します。
プロセス定義の設定	PTAF_PRCS_MAIN	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[プロセス定義の設定]	ワークフロー承認プロセスのステージを定義します。 参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認プロセス定義の設定」、591 ページ
条件定義	PTAF_CRITERIA	<ul style="list-style-type: none"> プロセス定義の設定ページで、[定義条件]リンクをクリックします。 プロセス定義の設定ページで、[警告条件]リンクをクリックします。 プロセス定義の設定ページの [パス] セクションから、[条件]リンクをクリックします。 プロセス定義の設定ページの [ステップ] セクションから、[条件]リンクをクリックします。 	ワークフロー承認の条件を定義します。条件定義を使用して、実行時に承認ワークフローエンジンがブール演算の結果 (真または偽) を出すために評価する計算ロジックを定義します。 参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認プロセスの条件の定義」、597 ページ
承認パス定義	PTAF_PATH_SEC	プロセス定義の設定ページで、[パス] グループボックス内の [詳細]リンクをクリックします。	ワークフロー承認パスの詳細を設定します。 参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認プロセスのパスの定義」、601 ページ
ロール - 一般	ROLEDEFN	[PeopleTools]、[セキュリティ]、[権限リスト/ロール]、[ロール]	ワークフローのロールを設定します。 参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration
承認ステップ定義	PTAF_STEP_SEC	プロセス定義の設定ページで、[ステップ] グループボックス内の [詳細]リンクをクリックします。	承認ワークフローのステップの詳細を定義します。 参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認プロセスのステップの定義」、602 ページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ユーザーリスト定義	PTAF_USER_LIST	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[ユーザーリスト管理]	承認トランザクションの転送に使用されるユーザーリスト定義を作成および管理します。また、承認プロセスでステップと共に使用するユーザーのソースも定義します。 参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザーリストの定義」、618 ページ
ユーザー プロファイル	USER_GENERAL	[PeopleTools]、[セキュリティ]、[ユーザー プロファイル]、[ユーザー プロファイル]	ユーザー ID を設定してロールを割り当てます。 参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

動的承認の定義

動的承認の権限を設定するには、承認管理者は以下を実行する必要があります。

1. ユーザー リスト定義ページを使って、動的承認のユーザー リストを定義します。

承認ワークフロー エンジンには、承認を監督者に転送する最も一般的な承認シナリオに対応するユーザー リストが用意されています。依頼者がエンドユーザーで、直属の監督者が US\$5,000.00 を超える金額を承認できない場合、人材募集が US\$6,000.00 であれば、その人材募集は次のレベルの監督者に転送されます。直属の監督者のユーザー ID は、ユーザー プロファイルにリストされます。

注: ユーザー ID 承認転送を使って監督者を有効にするには、職務について自分の ID に監督者が割り当てられている必要があります。

2. 承認権限ページで動的パスに対してロールや承認者を許可することにより、承認権限を作成します。

承認権限ページは [PeopleTools] からでも利用できますが、アプリケーションで使用可能にするにはポータル ナビゲーションに追加する必要があります。このページをポータル ナビゲーションに追加するには、[PeopleTools]、[ポータル]、[フォルダ/コンテンツ参照] の順に選択します。表示されたページで [HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[権限] の順にクリックします。[ナビゲーションに表示しない] チェックボックスの選択を解除します。[保存] をクリックします。続いて、[PeopleTools]、[ポータル]、[ポータル セキュリティの同期] の順に選択し、ポータルのキャッシュが変更を認識するように、ポータル セキュリティの同期プロセスを実行します。

定義 ID を指定しない場合、権限は汎用になります。特定の定義 ID について承認権限を作成するには、各定義 ID に行を追加する必要があります。

注: 承認権限ページで自己承認を有効にすると、静的パスのステップで自己承認が置き換えられます。

3. 承認パス定義ページで動的承認パスを定義します。

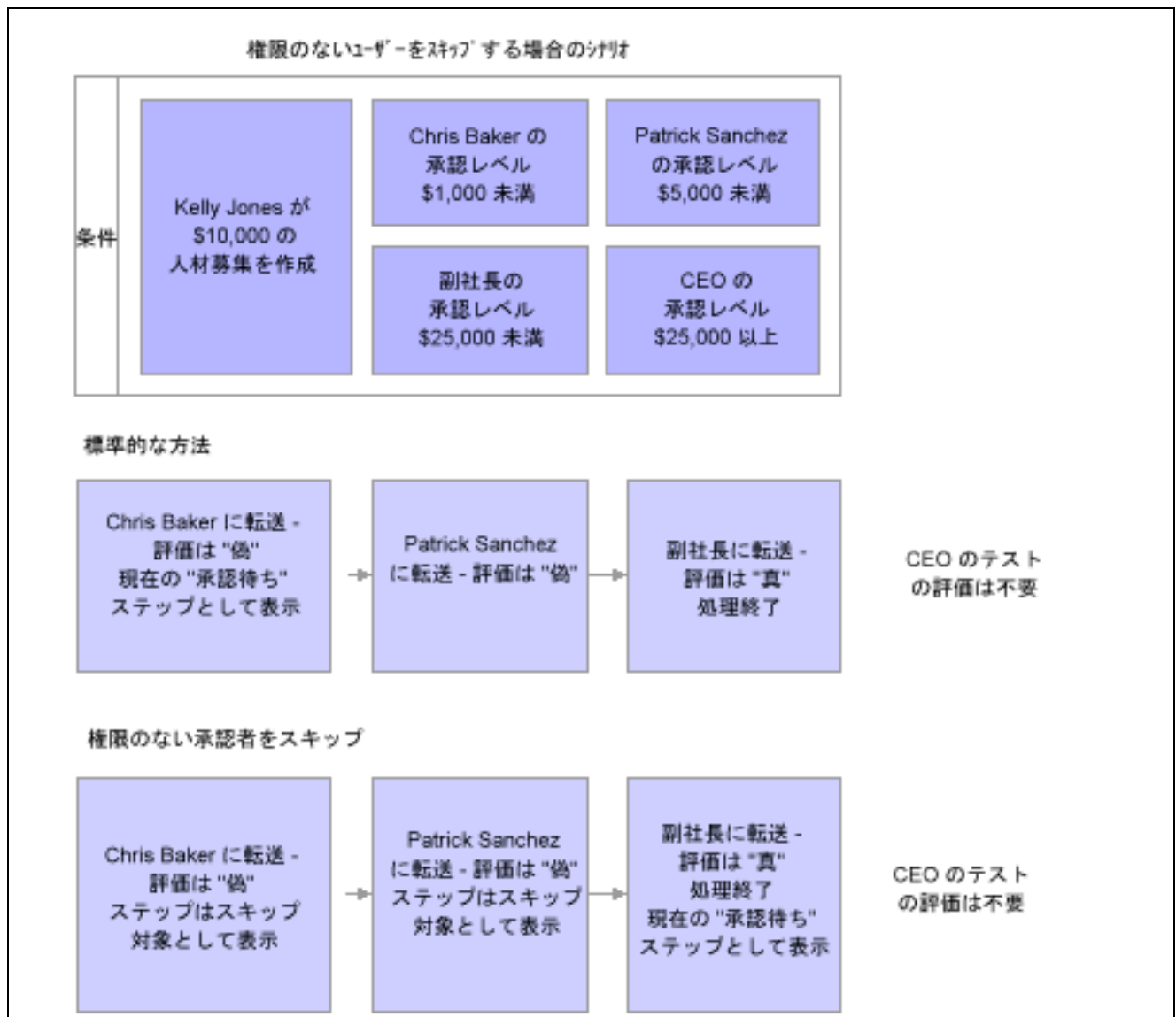
注: パス内でワークフロー エンジンをアクティブにするトリガとなる条件を作成する際は、差が発生しないように必ず最終承認者を [X] として設定してください。

動的承認パスを定義するには、次の手順に従います。

- [ステップソース] フィールドで、動的承認パスとして [動的] を選択します。
- [承認者がいない場合管理者に通知] チェックボックスを選択して、パスの承認者がいない場合に承認管理者へ通知するよう指示します。このオプションは、[ステップソース] が [動的] の場合にのみ使用できます。
- [前の承認依頼ステップを省略] チェックボックスを選択すると、このパスの承認者の 1 人が依頼者でもある場合、その承認者のステップより前にあるこのパスのステップを全て省略します。
- 承認権限を有効にするには、[権限をチェック] チェックボックスを選択します。
- [権限のないユーザーをスキップ] を選択すると、承認の条件を一部満たないとシステムが判断した場合に、承認プロセスでユーザーリストに含まれるユーザーを省略できます。

動的承認の例

この図は、標準的な方法のワークフロー転送設定、および権限のないユーザーをスキップするワークフロー転送の例を示します。



スキップする場合の承認シナリオの例

この例では、ワークフロー承認パスの条件は Chris Baker が月給 US\$1,000.00 未満、Patrick Sanchez は月給 US\$5,000.00 未満、副社長は US\$25,000.00 未満、CEO は US\$25,000.00 以上の人材募集に対してそれぞれ承認権限を持っています。

Kelly Jones が、US\$10,000.00 の人材募集を作成します。

権限のないユーザーをスキップするよう設定されていなければ、Chris Baker、Patrick Sanchez および副社長が承認パスで承認待ちステップとして表示されます。

権限のないユーザーをスキップするよう設定されていれば、承認パスには副社長のみが承認者として表示され、Chris Baker と Patrick Sanchez はスキップ対象として表示されます。

関連項目:

第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ユーザーリストの定義」、618ページ

承認用の通知テンプレートの定義

このセクションでは、汎用テンプレート定義の概要と入力方法について説明します。

汎用テンプレート定義について

承認ワークフロー エンジンが電子メール通知をトリガするたびに、トランザクション設定ページで設定した通知ルールに基づいて電子メールが作成されます。電子メールは、このページにある [通知] グループボックスの [テンプレート名] フィールドで指定したテンプレートに準拠します。

また、電子メール通知テンプレートでバインド変数 (%1、%2、%3 など) を指定した場合は、PeopleTools アプリケーション デザイナで SQL オブジェクトを作成する必要があります。承認ワークフロー エンジンは、この SQL オブジェクトを使用して、ユーザーが通知テンプレートに定義したバインド変数をロードします。SQL オブジェクトは、トランザクション設定ページの [SQL オブジェクト ID] フィールドで電子メール通知に割り当てます。

承認ワークフロー エンジンは、電子メール通知内で %1 バインド変数を、自動生成されたアプリケーション コンポーネントへのリンクのプレースホルダとして予約しています。電子メール通知に自動生成されたリンクを表示しない場合は、汎用テンプレート定義ページでテンプレート変数の一覧から %1 バインドを除外してください。

PeopleSoft Customer Connection に掲載されている『Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine』に、電子メール テンプレートの一例および関連する SQL オブジェクトの定義方法の説明があります。

参照: PeopleSoft Customer Connection の Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine

標準の承認通知テンプレート

アプリケーションに固有の標準の通知テンプレートについては、アプリケーション固有の PeopleBook に含まれている対応するドキュメンテーションを参照してください。

関連項目:

第 26 章、「委任の設定と使い方」、「委任用の標準の通知テンプレートの確認」、669ページ

承認通知テンプレートの定義で使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
汎用テンプレート定義	WL_TEMPLATE_GEN	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[汎用テンプレート]	汎用テンプレート定義を入力します。

汎用テンプレート定義の入力

汎用テンプレート定義ページにアクセスします。

汎用テンプレート定義

Blackberry 応答

テンプレート:

GP_ABS_SS_APPR

*名称:

休暇欠勤セルフサービス - 承認済

指示テキスト:

To, CC, BCC に名前または電子メール アドレスをセミコロンで区切って入力してください。名前を検索するには受信者の検索をクリックします。送信方法を表示または変更するには配信オプションをクリックします。

優先度:

2 - 中

*送信元:

ユーザー

電子メール ID:

件名:

この休暇リクエストは承認されました

メッセージ テキスト:

以下の休暇リクエストは承認されました

従業員 ID: %2 - %11
部門: %3
職務名: %4
休暇開始日: %5
休暇付与名: %6 - %8 - %9
休暇終了日: %7
ステータス: %10
URL: %12

以下は、このテンプレートに使用できる変数のリストです。

件名またはメッセージ テキストにテンプレート変数を使用することができます。

以下の変数も使用できます。

%Date、%DateTime、%Time、%ServerTimeZone、%EmailAddress、%NotificationPriority、%NotificationToList、%NotificationCCList

テンプレート変数

*値	*名称		
%1	URL (AWE により提供)	+	-
%2	従業員 ID	+	-
%3	部門	+	-

汎用テンプレート定義

汎用テンプレートを使用して、アドホック通知用に共通のフォーマットを設定します。

承認の場合は、最初のバインド変数を使用して電子メールに表示される URL が格納されます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Workflow Technology の「Using Notification Templates」、「Defining Generic Templates」

承認用のユーザーの定義

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- ワークフロー ロールのユーザーへの添付
- ユーザー プロファイルのワークフロー定義
- ユーザー リストの定義

承認ユーザーの定義で使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ユーザー プロファイル - ロール	USER_ROLES	[PeopleTools]、[セキュリティ]、[ユーザー プロファイル]、[ユーザー プロファイル] [ロール] タブを選択します。	ワークフロー ロールをユーザーに添付します。
ユーザー プロファイル - ワークフロー	USER_WORKFLOW	[PeopleTools]、[セキュリティ]、[ユーザー プロファイル]、[ユーザー プロファイル] [ワークフロー] タブを選択します。	ユーザー プロファイルのワークフローを定義します。
ユーザー リスト定義	PTAF_USER_LIST	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[承認設定センター]、[ユーザー リスト管理]	承認トランザクションの転送に使用されるユーザー リスト定義を作成および管理します。また、承認プロセスでステップと共に使用するユーザーのソースも定義します。

ワークフロー ロールのユーザーへの添付

ユーザー プロファイル - ロール ページにアクセスします。

ユーザー ID: HAM_KOW001
名称: AM2PNA Manager

ロール名	名称	動的ロール	定義の表示
EOPP_USER	Common Portal User	<input type="checkbox"/>	定義の表示
Employee	[WF] Employee	<input type="checkbox"/>	定義の表示
HCM Delegation Admin	HCM Delegation Admin	<input type="checkbox"/>	定義の表示
Manager	Manager	<input type="checkbox"/>	定義の表示
PAPP_USER	Enterprise Portal User	<input type="checkbox"/>	定義の表示
PeopleSoft User	PeopleSoft ユーザー	<input type="checkbox"/>	定義の表示
PeopleTools	PeopleTools	<input type="checkbox"/>	定義の表示
Standard Non-Page Per	Standard Non-Page Permissions	<input type="checkbox"/>	定義の表示

動的ロール ルール

実行サーバー:

[ルールのテスト](#) [リフレッシュ](#)

[ルールの実行](#)

[プロセス モニター](#)
[メッセージ モニター](#)

ユーザー プロファイル - ロール ページ

このページを使用して、ワークフロー ロールをユーザーに添付します。ロールとは、事務担当や購買担当、管理者など同じタイプの作業を行うユーザーのクラスです。ロールによって、ユーザーがワークフローでどのように機能するかを記述します。

ロール ユーザー ID によって、ワークリスト アイテムをユーザーに転送する方法、およびユーザーがワークフローで担当するロールの追跡方法が決まります。

[ロール名] このユーザーに割り当てるロールを選択します。ロール ユーザーとは、自動化されたビジネス プロセスに参加するユーザーのことです。

[動的ロール] このロールの定義が動的である場合に表示されます。この値は、PeopleSoft の PeopleCode に依存します。動的ユーザーは、ロールのメンバーシップをプログラムを使って取得できます。事前に定義済みのロールのルールを実行し、これらのルールに従ってユーザー プロファイルにロールを割り当てるバッチ プロセスを実行できます。この方法を“動的メンバーシップ”といい、プログラムによって特定のロールのロール ユーザーになるユーザーは、動的ロール ユーザーです。

一方で静的ロール ユーザーは、管理者がロールを手動でユーザー プロファイルに追加することにより、メンバーシップを取得します。

[ルート管理] 選択すると、ユーザーのルート管理プロファイル ページにアクセスし、ワークフローのルート管理プロファイルを選択できます。

PeopleSoft ワークフロー管理を使用すると、ルート管理を定義することができます。たとえば、発注されたアイテムの仕入先ベンダーや、アイテムを要求しているビジネス ユニット、アイテムを必要とする部門に応じて、購買要求を異なる購入担当者に転送するとします。ベンダー ID やビジネス ユニットおよび部門など、それぞれの要素にルート管理を定義して、各購買担当者に値の範囲を指定することができます。

[定義の表示] 選択すると一般 - ロール ページにアクセスし、ロール名の定義を変更できます。また、ロール メンバーのユーザー ID を表示して、ロールに含める適切な定義を選択したか確認することができます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration の「Administering User Profiles」

ユーザー プロファイルのワークフロー定義

ユーザー プロファイル - ワークフロー ページにアクセスします。

一般

ユーザー ID

ロール

ワークフロー

オーディット

その他

ユーザー ID クリー

ユーザー ID:

HAM_KOW001

名称:

AM2PNA Manager

ワークフロー属性

代替ユーザー ID:

開始日:

31

終了日:

31

ルート基本設定

☒ ワークリスト ユーザー

☒ 電子メール ユーザー

作業の再割当

☐ 割当変更先ユーザー:

保留中のワークリスト エントリ総数:

7

ユーザー プロファイル - ワークフロー ページ

このページを使用して、ワークフロー プロセスの一部となる代替ユーザーを定義します。代替ユーザーは、基本承認者および監督者が欠席中に承認を処理するために定義します。

- [代替ユーザー ID]

このユーザー ID が一時的に使用できなくなったときに、ワークリスト アイテムを受け取るユーザーを選択します。新しいワーク アイテムは、現在のロール ユーザーとして代替ロール ユーザーに割り当てられた担当者に自動的に転送されます。ユーザーのワークリストにある既存のアイテムは、割当先が変更されることはありません。
- [開始日]、[終了日]

現在のユーザー ID が使用可能でなくなる日付範囲を入力します。これらの値を使用して、代替ユーザーにルートが転送されます。
- [ワークリスト ユーザー]

選択すると、このロール ユーザーが承認ルートを受け取ることができます。ユーザーが PeopleSoft ユーザーでない場合は、チェック ボックスの選択を解除します。[ワークリスト ユーザー] と [電子メール ユーザー] の一方または両方を選択できます。
- [電子メール ユーザー]

このロール ユーザーを電子メールを受信可能にするときに選択します。電子メールを使用不可にするには、チェック ボックスの選択を解除します。
- [割当変更先ユーザー]

ワークリスト アイテムを別のユーザーに送るときに選択します。このチェック ボックスを選択した後に、ユーザー ID を選択します。ページを保存すると、ワークリスト アイテムは現在のユーザー リストから削除され、新しいユーザー リストに入れられます。

注: 委任機能を使用していて代替ユーザー ID を使用する場合は、「委任の設定と使い方」の章を参照してください。

ユーザー リストの定義

ユーザー リスト定義ページにアクセスします。

ユーザー リスト定義

ユーザー リスト: By Department Manager

*名称: Uses Department's Manager ID

ユーザー リスト ソース

☐ ロール
☐ SQL 定義
☐ クエリー
☒ アプリケーション クラス

ルート パッケージ ID: HCSC_USERLIST_UTILS
 アプリケーション クラス パス: HCSC_USERLISTS:GetApproversByDeptM

☐ ユーザーを入力に含む
☐ トランザクション キーを入力に含む

ユーザー リスト定義ページ

ユーザー リストとは、SQL ステートメントや PeopleSoft のロール、または PeopleSoft アプリケーション クラスの結果として表される、ユーザーの集まり (PeopleSoft ユーザー ID) です。ユーザー リストを使用して、トランザクションごとの承認階層のビジネス プロセスを表します。製品には定義済みのユーザー リストが用意されています。標準のユーザー リストが組織の階層に適さない場合、ユーザー リスト管理コンポーネントを使用して独自のリストを定義できます。

ユーザー リストのソース タイプを選択するときは、対応する値も選択する必要があります。1 つのユーザー リストに対して 1 つのユーザー リスト ソースしか選択できません。SQL 定義、クエリーおよびアプリケーション クラスのユーザー リスト ソースは動的で、ユーザーの識別に入力値を使用することができます。

[ユーザー リスト] 新しいユーザー リストを追加するか、現在のリストを変更できます。

[名称] このフィールドに入力した値は、セルフサービスの承認プロセスをグラフィック表示したものの一部に使われ、承認者名の下にユーザー リストの説明が表示されます。グラフィックによる表示がセルフサービスのユーザーに理解しやすいよう、明確で簡潔な説明を入力することが重要です。

[ロール] このユーザー リストのソースにロールを使用するときに選択します。ロールとは、購買担当者や管理者など同じタイプの作業を行うユーザーのリストです。各ロールにはパラメータのセットがあり、これによって組織内およびワークフロー プロセスでのロールの制限を決定します。

[SQL 定義] (構造化照会言語定義) このユーザー リストのソースに SQL 定義を使用するときに選択します。

[クエリー] このユーザー リストのソースにクエリーを使用するときに選択します。ソースをクエリーとして定義すると、転送をトリガするページのフィールド値に基づいて、ワーク アイテムを受け取る担当者が決まります。

注: クエリー オプションを使用して承認ワークフローのユーザー リストを定義する場合は、クエリー マネージャ コンポーネントでクエリーを作成するときに、クエリーの [クエリー タイプ] の値を [プロセス] に設定する必要があります。[クエリー タイプ] の値を [ユーザー] に設定すると、エラーになります。

[アプリケーション クラス]	<p>このユーザー リストのソースにアプリケーション クラスを使用するときに選択します。</p> <p>アプリケーション クラスを選択すると、トランザクションの発信者がシステムから渡されて、その発信者の承認者が決められます。後続の承認ステップでは、前のステップから承認者が渡されます。</p>
[ユーザーを入力に含む]	<p>選択すると、トランザクションの発信者がそれぞれのパスの第 1 ステップとして使用されます。各パスの後続の承認ステップでは、前のステップからの承認者が使用されます。</p>
[トランザクション キーを入力に含む]	<p>選択すると、承認ルートがトランザクション キーを基準とします。トランザクション キーは、データベース テーブルのキー フィールドです。システムの処理は、ユーザー リストが使用される承認レベルによって異なります。承認がヘッダー レベルの場合、ヘッダー レコードからのトランザクション レコード キーが使用されます。</p>

HRMS の標準ユーザー リスト

PeopleSoft Enterprise HRMS には、承認ワークフロー エンジンと共に使用するための以下の共通ユーザー リストが用意されています。

ユーザー リスト	説明
By Department Manager	部門プロファイル ページの [管理者 ID] フィールドを使用します。
By Partial Pos Mgmt – Dept Mgr	職務情報ページの [直属上司] フィールド、およびそのポジションの [管理者 ID] フィールドと部門プロファイル ページの部門を使用します。
By Partial Pos Mgmt – Suprvsor	職務情報ページの [直属上司] フィールド、および同じページからそのポジションの [監督者 ID] フィールドを使用します。
By Position Management	職務情報ページの [直属上司] フィールドを使用します。
By Supervisor ID	職務情報ページの [監督者 ID] フィールドを使用します。

注: アプリケーションに固有の標準のユーザー リストについては、アプリケーション固有の PeopleBook に含まれている対応するドキュメンテーションを参照してください。

複数の職務とユーザー リスト

PeopleSoft Enterprise HRMS には、特に従業員の職務情報を受け渡しするために作成されたアプリケーション クラスに基づいて、一連のユーザー リストや承認階層が用意されています。これらのユーザー リストは組織内のロールに呼応し、承認ワークフロー エンジンで、複数の職務を持つ従業員の承認を転送する際に使用される職務を選択できます。

複数の職務を持つ従業員が、セルフサービス承認処理中に職務に関連したトランザクションを受け取ったときは、トランザクションを処理する対象の職務を選択するようプロンプトが表示されます。複数職務機能の場合、標準のユーザー リストはユーザー リストのソースとして アプリケーション クラスを使用します。[ルート パッケージ ID] フィールドは HCSC_USERLIST_UTILS および次の標準アプリケーション クラス パスの値に設定されます。

アプリケーション クラス パス	関連のユーザー リスト定義
HCSC_USERLISTS:GetApproversByPositionMgmt	By Position Management
HCSC_USERLISTS:GetApproversByDeptManager	By Department Manager
HCSC_USERLISTS:GetApproversByPosnDeptMgr	By Partial Pos Mgmt – Dept Mgr
HCSC_USERLISTS:GetApproversByPosnSupervisor	By Partial Pos Mgmt – Suprvsor
HCSC_USERLISTS:GetApproversBySupervisorId	By Supervisor ID

標準のユーザー リストは、直属上司機能と共に PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理に標準搭載のさまざまなアクセス タイプに対応します。これらの標準ユーザー リストのそれぞれが、直属部下の構造の定義方法（監督者別や部門別など）に合わせて使用されます。

カスタムのユーザー リストを定義して複数の職務機能が必要とする場合、これらの同じアプリケーション ルート パッケージ ID およびアプリケーション クラス パスの値を使用する必要があります。PeopleSoft Enterprise HRMS は、定義済みの標準ユーザー リストでのみ複数職務機能をサポートしています。PeopleSoft Enterprise HRMS は、これらのカスタムのユーザー リストについては、複数職務機能をサポートしていません。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleCode Developer's Guide

通知/エスカレーション マネージャの設定

このセクションでは、通知とエスカレーションの概要および以下の方法について説明します。

- イベントのサーバーへの関連付け
- エスカレーション イベントの設定
- イベント ステータスの表示
- 通知/エスカレーション マネージャ (NEM) の設定

通知とエスカレーションについて

NEM は、通知およびエスカレーションを指定の間隔で処理する機能です。

たとえば、承認者が指定した時間内に承認待ちのトランザクションに返答しない場合に、エスカレーションを使用します。時間（タイムアウト）を指定して、アクションを催促するために承認を通知してエスカレーションを実行する承認者を切り替えることができます。タイムアウト オプションは、承認パス定義ページで定義します。

通知/エスカレーション マネージャの設定で使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
イベントタイプの定義	PTAF_NEM_EVENTS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[通知とエスカレーション]、[イベントタイプの定義]	イベントをサーバーに関連付けます。
イベントの定義	PTAF_NEM_SETUP	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[通知とエスカレーション]、[イベントの定義]	エスカレーション イベントの設定と評価およびアクションの詳細定義。
イベントステータス	PTAF_NEM_STATUS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認]、[通知とエスカレーション]、[イベントステータス]	イベントのステータスの表示。
ジョブセット定義のスケジューリング	SCHDLDEFN	[PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[ジョブセット定義のスケジューリング]	NEMを設定して、実行ジョブと実行頻度を定義します。

イベントのサーバーへの関連付け

イベント タイプの定義ページにアクセスします。

- [イベント タイプ] イベント タイプを選択します。システムには、ESCALATION_EVENT、APPROVAL ACTIVITY EMAIL および RECEIPT_NOTIFICATION_EVENT という値が用意されています。
- [サーバー名] エスカレーションを実行するサーバーを選択します。

エスカレーション イベントの設定

イベントの定義ページにアクセスします。

- [イベント タイプ] イベント タイプ ページで入力されたサーバー情報。
- [イベント タイプ詳細] イベント タイプ ページの [イベント タイプ詳細] フィールドに入力された値。
- [アクティブ] 選択すると、エスカレーション プロセスが有効になります。
- [定期処理] 評価プロセスの実行間隔を入力します。
- [処理間隔] アクション ステップの実行回数を制限するために、期間を入力します。
- [評価タイプ] 評価方法を選択します。有効値は以下のとおりです。
- [PeopleCode]: PeopleSoft アプリケーション デザインを使用して作成された、カスタム アプリケーション パッケージまたはクラスを使用している場合に選択します。
 - [クエリー OBJ]: PeopleSoft クエリー マネージャ ツールを使用して設定されたクエリーを使用する場合に選択します。
 - [SQL ビュー]: PeopleSoft アプリケーション デザインを使用して作成されたレコード オブジェクトを使用する場合に選択します。

注: エスカレーションの場合は、評価タイプは [SQL ビュー] を使用してください。

- [アクション タイプ]
- 以下のアクションのいずれかを選択します。
- [PeopleCode]: PeopleSoft アプリケーション デザイナを使用して作成された、カスタム アプリケーション パッケージまたはクラスを使用している場合に選択します。
 - [電子メール]: 電子メール アドレスと通知テンプレートを入力してください。

注: エスカレーションの場合、アクション タイプは [PeopleCode] を使用してください。

- [パッケージ]
- エスカレーション ユーティリティを含むアプリケーション パッケージを選択します。
- 注: エスカレーションの場合、パッケージ タイプは PTAF_CORE を使用してください。

- [クラス]
- エスカレーションの場合、Escalator を選択します。

イベント ステータスの表示

イベント ステータス ページにアクセスします。

イベント ID: ESCALATIONS

イベント タイプ: APPROVAL ACTIVITY EMAIL

ログ削除オプション

現在のイベント 全イベント

通知マネージャ

全件表示 | 最初 1-16/16 最後

	タイムスタンプ*	該当数	詳細
1	06/06/21 15:25:05	2	Custom action passed: SAC_AW:Escalator (18130,3023)

イベント ステータス ページ

- [ログ削除オプション]
- [現在のイベント]
- クリックすると、選択したイベント ID の全ての通知イベント ログが削除されます。
- [全イベント]
- クリックすると、全イベントの全ての通知イベント ログが削除されます。
- [通知マネージャ]
- [タイムスタンプ]
- ステータス レコードで、各インスタンスの実行の結果を追跡するときに使
用されます。
- [該当数]
- 行のセットから戻された行数が表示されます。
- [詳細]
- 各通知イベントの詳細なステータス メッセージが表示されます。

NEM の設定

ジョブセット定義のスケジューリング ページにアクセスします。

[スケジュール名]	通知/エスカレーション マネージャの場合は、SAC_NEM を選択します。
[ジョブ名]	通知/エスカレーション マネージャの場合は、NEM_MAIN を選択します。
[ステータス]	通知/エスカレーション マネージャの場合は、[アクティブ] を選択します。
[ラン コントロール ID]	希望する設定を実行したラン コントロールを入力します。
[定期処理名]	プロセスの実行頻度を指定する値を入力します。

承認のためのセキュリティの設定

必要な全てのオブジェクトを PeopleTools アプリケーション デザイナで定義し、アプリケーション コンポーネントで必要な設定が全て完了したら、適用可能な権限リスト、ロールおよび Web ライブラリの設定が正しいか確認してください。

この表は、承認フレームワークの標準権限リストを示します。

権限リスト名	説明	ロールの添付先
HCCPSCAW1010	これは、承認管理者の権限リストです。承認ワークフローエンジンの管理および構成オブジェクトの権限を付与します。これらのオブジェクトには、メニューパス [HRMS 基本設定]、[共通定義]、[承認] の下にある全てのコンポーネントが含まれます。製品には、このリストが承認ワークフローエンジンの管理者ロールに添付済みの状態で用意されています。また、この権限リストを管理者が継承できるように、組織に既に存在するアプリケーションに固有の管理者ロールに添付してください。	承認ワークフロー エンジン管理者

権限リスト名	説明	ロールの添付先
HCCPSCAW1020	これは、管理者の権限リストです。承認ワークフロー エンジンの管理者オブジェクトに権限を付与します。これらのオブジェクトには、管理者に固有のセルフサービス ページがいくつか含まれます。製品には、このリストが管理者ロールに添付済みの状態で用意されています。管理者ロールが割り当てられており、管理者と見なすことができるアプリケーション固有のユーザーは全て、この権限リストを自動的に継承します。	管理者
HCCPSCAW1030	これは、従業員の権限リストです。承認ワークフロー エンジンの従業員オブジェクトに権限を付与します。これらのオブジェクトには、従業員に固有のセルフサービス ページがいくつか含まれます。製品には、このリストが従業員ロールに添付済みの状態で用意されています。従業員ロールが割り当てられており、従業員と見なすことができるアプリケーション固有のユーザーは全て、この権限リストを自動的に継承します。	従業員

PeopleSoft Enterprise HRMS には承認ワークフロー エンジンの管理者ロールが用意されています。このロールには、HCCPSCAW1010 権限リストが既に割り当てられています。ただし、このロールは出荷時にはどのユーザーにも添付されていません。アプリケーション固有の管理者ロールがいなければ、このロールをアプリケーション固有の任意の管理者ユーザーに添付することにより使用できます。組織内にアプリケーション固有の管理者ロールがいる場合は、HCCPSCAW1010 権限をそのロールに割り当てることを推奨します。

ユーザーが承認ステータス モニターで承認ワークフロー エンジン関係者の追加情報を参照できるようにするには、ユーザーに正しい権限を割り当てる必要があります。また、ステータス モニターに承認が表示される方法に対応するため、WEBLIB_PTAF Web ライブラリに対して適切な製品の権限リストへのアクセス権を付与する必要があります。さらに、承認ワークフロー エンジンの一部である EMC 機能を使用可能にするには、権限リストのフル アクセス権を WEBLIB_PTAFEMC Web ライブラリに付与する必要があります。PeopleSoft Enterprise HRMS には、承認ワークフロー エンジン権限リストの一部として、これら 2 つの Web ライブラリが標準で用意されています。

権限リストのアクセス権を Web ライブラリに付与するには、次の手順に従います。

1. [PeopleTools]、[セキュリティ]、[権限/ロール]、[権限リスト] の順に選択します。
2. Web ライブラリにアクセス権を付与する権限リストを選択します。
3. Web ライブラリ ページで、Web ライブラリ WEBLIB_PTAF および WEBLIB_PTAFEMC に新しい行を挿入します。
4. 各 Web ライブラリについて、[編集] リンクをクリックします。
Web ライブラリ権限ページが表示されます。
5. [フル アクセス] ボタンをクリックして全ての機能へのアクセス権を付与するか、[アクセス権限] フィールドに値を入力して特定の iscript 機能へのアクセス権を付与します。

6. [OK] をクリックします。
7. 権限リストを保存します。

注: 承認ワークフロー エンジン フレームワークでは、システム内のそれぞれのユーザーが有効なオペレータ ID を 1 つ持っている見なします。承認プロセスを使用していて、従業員が複数のオペレータ ID を持つようにした場合、従業員が同じロールと権限リストを持つようにしてください。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

承認の管理

このセクションでは、承認管理の概要と以下の方法について説明します。

- 承認の管理
- 特定の承認プロセスに対する承認の管理

承認管理について

管理者承認コンポーネントでは、承認管理者はアクセス権のある全ての承認を参照できるだけでなく、承認待ちの承認に必要なアクションを行うことができます。

承認管理者は、次のアクションを行うことができます。

割当変更	検索条件に基づいて、承認管理者が承認待ちの承認を新しい承認者に割り当てられるようにします。
承認	承認管理者が割り当てられた承認者の代理で処理を行えるようにします。特定のユーザーについて、そのユーザーが特定のトランザクション内で承認待ちの場合に承認が開始されます。管理者がアクションを行うと、承認プロセスが再開されます。
却下	承認管理者が割り当てられた承認者の代理で処理を行えるようにします。特定のユーザーについて、そのユーザーが特定のトランザクション内で承認待ちの場合に却下が開始されます。
アドホック報奨	<p>承認管理者が、既存の承認者に連続または並行して、レビュー担当者または承認者を特定のトランザクションを追加できるようにします。連続する承認者の場合は、プロセス内の各承認が連番になります。ユーザーが承認者やレビュー担当者を追加できるのは、現在の承認待ちステップの後またはそれ以降になります。並行する承認の場合は、連番は関係なくなります。ユーザーは、現在承認待ちの全てのステージまたは後続のステージにあるアドホック パス内にアドホック ステップを挿入できます。</p> <p>トランザクションが送信されると、承認管理者はアドホック承認者を追加または削除することができます。アプリケーション開発者のコードにより要求されていれば、承認ワークフロー エンジンはプレビュー済みの承認プロセス インスタンスを起動します。</p>

トランザクション設定ページでアドホック承認ユーザー リストが定義されていれば、そのリスト内のユーザーのみがアドホック承認者またはレビュー担当者として追加できます。

ソース終了アクション

リクエストが承認されると、エンジンはアプリケーションに通知し、これによってソース終了アクションが実行されます。

- 終了アクション

トランザクションを承認すると、別のトランザクションが作成されたり、別のビジネス プロセスがトリガされることがよくあります。承認ワークフロー エンジンは、イベント通知のコールバック機能を提供することにより、このトリガをサポートしています。たとえば、昇進・昇格が承認されると、最終承認の後にソースに使用されて、これが終了アクションとなります。

- 行レベルとヘッダー レベルの終了アクションの違い

行レベルの承認を使用すると、トランザクションの他の行アイテムの承認を待たずに、承認されるとすぐに異なる行アイテムに対してアクションが実行できます。行アイテムが承認されるとすぐに、ソースとすることができます。

このアクションは、行レベルの承認ルートがプロセスの最後にあり、これ以上レビューが不要な場合にのみ実行することができます。この場合、アプリケーションは承認されるとすぐに個々の行を処理できます。承認ワークフロー エンジンは、重要な承認に関連するイベントについてアプリケーションに通知します。

ヘッダー アクションを使用すると、トランザクション行をまとめてグループ化して処理できます。

承認の割当変更

承認待ちのタスクを別の承認者に割り当て変更したり、承認管理者が特定の承認者に属する全てのタスクを別の承認者に割り当て変更することができます。割当変更は次のような場合に使用します。

- 承認者がタスクを別の承認者に割り当て変更して、特定のタスク (ステップ) を別の承認者に委任する。
- 承認管理者が、ある承認者に属するステップ内の全ての承認待ちタスクを、別の承認者に割り当て変更する。

この割当変更は通常、承認者が急遽欠席して、承認管理者が全ての承認待ちタスクを別の担当者に割り当て変更するときに発生します。

ワークフロー タスクを別の承認者に割り当て変更する場合、承認プロセス マップを修正することができます。

注: 承認ワークフロー エンジンは、管理上の割当変更およびエスカレーション用にのみ設定されています。

管理者承認で使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
承認のモニター	PTAF_ADM_MON_SRC	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[承認/委任]、[承認管理]、[承認のモニター]	承認管理者は、承認プロセスを検索してまとめて割当変更を行うことができます。
承認のモニター	PTAF_ADM_MON_ACT	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[承認/委任]、[承認管理]、[承認のモニター] 修正する承認ステップのリンクをクリックしてください。	承認管理者は、特定の承認プロセスに対してアクションを実行できます。

承認の管理

承認プロセスを表示するには、承認のモニター ページにアクセスします。

承認のモニター

▼ 検索条件

承認プロセス:
定義 ID:

ヘッダー ステータス:
最終更新日:

承認者:

承認者ステータス:

発信者:

▼ マス再割当

選択された承認者には、ユーザー プロファイルで代替承認者が選択されていません。承認待ちタスクの割り当て変更先として使用する代替承認者を手動で選択してください。

承認者のユーザー ID:
☐ 自動承認可

割当変更先:
☐ 自己承認可

コメント:

承認のモニター ページ (1/2)

検索結果[全て選択](#)[全て選択解除](#)

承認プロセス: AbsenceManagement									
処理番号:	<input type="text"/>	従業員 ID:	<input type="text"/>						
雇用コード番号:	<input type="text"/>	開始日:	<input type="text"/>						
休暇取得:	<input type="text"/>	終了日:	<input type="text"/>						
<input type="button" value="フィルタ"/>									
	更新	ステータス	処理番号	従業員 ID	雇用コード番号	開始日	休暇取得	終了日	
<input type="checkbox"/>	1 なし	承認済	1	K1GSMK08	0	2004-01-17	180514	2004-01-17	
<input type="checkbox"/>	2 なし	承認済	2	K1GSMK08	0	2004-03-06	180514	2004-03-08	
<input type="checkbox"/>	3 なし	承認済	3	K1GSMK08	0	2004-08-02	180514	2004-08-07	
<input type="checkbox"/>	4 なし	承認済	5	K1GSMK08	0	2004-09-20	180512	2004-09-20	
<input type="checkbox"/>	5 2006-09-19	終了	71	KOW007	0	2007-02-13	2342	2007-02-13	
<input type="checkbox"/>	6 2006-09-19	終了	77	KOW107	0	2007-02-13	2342	2007-02-13	
<input type="checkbox"/>	7 2006-09-19	終了	83	KOW207	0	2007-02-13	2342	2007-02-13	

承認のモニター ページ (2/2)

[検索条件]**[承認プロセス]**

承認プロセスを選択します。使用可能な承認プロセスのリストは、承認プロセス定義に関連付けられた管理者ロールによって決定されます。プロセス定義の設定ページの [管理者ロール名] フィールドで指定したロールにユーザーが関連付けられている場合、管理者承認コンポーネント内でそのプロセス ID を表示したり、処理を行うことができます。

[定義 ID]

プロセス定義の設定ページで指定されたプロセス定義を選択します。

[ヘッダー ステータス]

このフィールドでステータスを選択して、そのステータスを表示します。以下のいずれかのオプションを選択します。

- [承認済]
- [完了]
- [却下]
- [却下確定]
- [開始]
- [非アクティブ]
- [保留]
- [却下保留]
- [中断/却下保留]

• [終了]

注: 各ヘッダー ステータスの値の定義については、『Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine』を参照してください。

参照: PeopleSoft Customer Connection の Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine

[承認者]	承認者を選択します。特定の承認者の承認プロセスを表示したり、アクションを実行することができます。
[承認者ステータス]	使用可能なステータスを選択します。このフィールドは、特定の承認者が [承認者] フィールドで選択された場合にのみ使用可能になります。選択可能なステータスは、承認プロセス ID に関連付けられた相互参照テーブルにある、その承認者のステータスに基づきます。
[発信者]	承認プロセスを開始したトランザクションを入力したユーザーを選択します。
[マス再割当]	
[承認者のユーザー ID]	承認トランザクションが割り当てられた承認の承認者 ID を選択します。
[割当変更先]	[承認者のユーザー ID] フィールドで指定した承認者について、承認トランザクションの割当変更先とする担当者のユーザー ID を選択します。
[自動承認可]	指定の承認者に割り当てられた承認トランザクションの自動承認を許可するときに選択します。
[自己承認可]	選択すると、指定した承認者が代理でトランザクションを承認できるようになります。
[コメント]	マス再割当を説明するコメントを入力します。コメントはトランザクション自体の一部となります。
[再割当選択]	クリックすると、[承認者のユーザー ID] フィールドの承認者から [割当変更先] フィールドで指定した担当者に、承認トランザクションの割当先を変更します。検索結果で選択した承認トランザクションのみが割当先変更の対象となります。
[検索結果]	検索条件に一致する承認トランザクションを持つ承認プロセスごとに、固有のセクションが表示されます。各セクションには、指定の承認プロセスに固有のキー フィールドが含まれます。キー値を指定して [フィルタ] ボタンをクリックすることにより、セクション内で検索結果にフィルタを実行できます。
[全て選択]	クリックすると、検索結果にリスト表示された全ての承認トランザクションが選択されます。
[全て選択解除]	クリックすると、検索結果の全トランザクションが選択解除されます。
[フィルタ]	承認プロセス セクションで検索結果を絞り込むには、キー値を指定して [フィルタ] ボタンをクリックします。
[更新]	承認トランザクションが最後に更新された日付が表示されます。承認トランザクションが更新されたことがなければ、“なし” と表示されます。

- 【ステータス】 承認トランザクションのステータスとして、“保留”、“却下”、“終了”または“承認済”が表示されます。
- ＜キー値＞ 検索条件に一致する承認トランザクションごとに、キー値が表示されます。キー値は、承認プロセスによって異なります。

特定の承認プロセスに対する承認の管理

承認のモニター ページにアクセスして、特定の承認プロセスに対してアクションを実行します。

承認のモニター

承認プロセス:	Absence_Mgmt_BySupervisorId	定義 ID:	SHARE
処理番号:	13	従業員 ID:	KOW003
雇用コード番号:	0	開始日:	2005-08-07
休暇取得:	2343	終了日:	2005-08-08
承認者:	<input type="text"/>		
コメント:	<input type="text"/>		

保留中のタスクの割当変更

選択された承認者には、ユーザー プロファイルで代替承認者が選択されていません。承認待ちタスクの割り当て変更先として使用する代替承認者を手動で選択してください。

割当変更先:

☐ 自己承認可
☐ 自動承認可

管理者承認/却下

【承認】または【却下】ボタンをクリックして、上記で選択された承認者の代行業務を行います。このアクションは、このトランザクションのコンテキストで選択された承認者の承認待ちとなっている全てのタスクに適用されます。

承認のモニター ページ (1/2)

AbsenceManagement

休暇管理:保留

[コメントの表示/非表示](#)

Absence Management

承認済
 Paul Harvest
Absence By SupervisorId
2006/9/19 - 6:53 午後

保留
 Tom Soyer
JPM by Department Manager

→

コメント

[戻る](#)

承認のモニター ページ (2/2)

- [承認者]** 承認者を選択します。承認プロセス内の承認待ちのステップに関連する全ての承認者が一覧表示されます。
- [コメント]** [承認コメント履歴] セクションで承認グラフィックの下に表示されるテキストを入力します。
- [保留中のタスクの割当変更]**
- [割当変更先]** 承認プロセス内にある全ての承認待ちステップの割当変更先とする承認者を選択します。
- [自己承認可]** 自己承認を有効にするときに選択します。有効にすると、承認したものと見なされてプロセスが先に進みます。
- [自動承認可]** 自動承認を有効にするときに選択します。有効にすると、ヘッダー レベルまたは行レベルでそのプロセスの承認者のアクションが記憶され、それより後の承認ワークフロー プロセスで自動的に同じアクションが適用されます。
- [割当変更]** クリックすると、承認プロセス内にある全ての承認待ちステップの割当先が、[割当変更先] フィールドで指定した担当者に変更されます。
- [管理者承認/却下]**
- [承認]** 選択した承認者の代理で処理を実行するには、[承認] ボタンをクリックします。このアクションは、承認プロセスの条件に応じて選択された承認者の全ての承認待ちタスクに適用されます。
- [却下]** 選択した承認者の代理で処理を実行するには、[却下] ボタンをクリックします。このアクションは、承認プロセスの条件に応じて選択された承認者の全ての承認待ちタスクに適用されます。
- [差戻し]** 前のステップをその承認者に戻すときにクリックします。このボタンは、1 より後のステップでのみ使用可能です。
- たとえば、トランザクションに 3 人の承認者がいるとします。最初の承認者がトランザクションを承認し、これによってトランザクションがステップ 2 で承認待ちになります。管理者は依頼者からの追加情報が必要なために、トランザクションを依頼者に差し戻します。
- [再実行]** クリックすると、承認パスの全ての承認者に対して承認待ちトランザクションを再実行します。このボタンは、トランザクションが承認待ちのときにのみ使用可能です。
- [再送信]** クリックすると、承認パスの全ての承認者に対して完了済トランザクションが再送信されます。このボタンは、トランザクションが終了のときにのみ使用可能です。トランザクションが再送信できるのは現在のステータスにあるときのみで、承認のために再送信する前には更新できません。

自分に割り当てられたタスクの割当先変更

自分のタスクを別の承認者に割当変更するには、承認者として自分に割り当てられたステップを選択し、そのステップを代替承認者に割り当てるよう依頼します。このタスクを実行するには、承認管理者ロールが割り当てられている必要があります。

承認ワークフロー エンジン、そのステップの割当先を新しく指名した承認者に変更し、ワークリストから元の承認者を削除します。新しい承認者の項目が新しいワークリストに作成され、新しい承認者に通知が送られます。

承認ワークフロー エンジンには、承認スレッドにコメントを追加して割当変更をログに記録します。

管理者としてのタスクの割当変更

特定の承認者の承認待ちタスクの割当を別の承認者に変更するには、次のようにします。

1. 表示内容にフィルタを実行して、特定の承認者の承認待ちプロセスを表示する。
2. 割当を変更するステップおよび影響を受けるユーザーを指定する。

リクエストが承認ワークフロー エンジンに送信され、承認待ちの全ステップの割当が変更されます。

承認待ちタスクの割当を新しい承認者に変更すると、承認パスが更新されて承認トランザクションは新しい承認者に転送されます。

注: 割当変更先はユーザー プロファイルで作成できます。ただし、ユーザー プロファイルでワークフローの割当を変更しても、実際の承認プロセスは変更されません。承認のモニター コンポーネントを使用して割当を変更すると、割当が変更されて新しいユーザーのワークリストが作成されます。

また、承認管理者は割当を変更する代わりにアクションを実行することもできます。

[コメント]

以前のワークフローの流れを表示するには、[コメント] セクションを展開するか [コメントの表示/非表示] リンクをクリックします。このセクションは、トランザクションの変更のためにトランザクションが再送信された場合に使用可能になります。

承認オーディット レポートの作成

このセクションでは、承認オーディット レポートの生成方法について説明します。

承認オーディット レポートについて

承認ワークフロー エンジンには、トランザクションが承認プロセスを移動するにつれて、各承認トランザクションについて監査証跡を生成します。この監査証跡には、元の承認者とその代理人とのアクションの違いを追跡することなどが含まれます。承認オーディット レポート アプリケーション エンジンのプロセス (HCSC_AWE_ADT) によって、この監査証跡と、承認オーディット レポート ページで入力する実行条件に基づいてオーディット レポートが作成されます。

承認オーディット レポート (AWEAUDIT) のレポートには、必要に応じて承認トランザクション リクエストに関する以下のデータが含まれます。

- トランザクション番号。承認ワークフロー エンジンによって、各承認トランザクション リクエストに自動的に割り当てられます。
- 承認プロセス ID。承認プロセスの設定時に定義されます。
- 承認定義 ID。承認プロセスの設定時に定義されます。
- 現在の承認者名 (リクエストが承認待ちの場合)。
- 現在のリクエストのステータス。
- 依頼者名または発信者名。
- 代理人または委任者名 (該当する場合)。

- ・ 依頼者または発信者の従業員 ID。
- ・ 各承認の名称。
- ・ トランザクション送信日。
- ・ トランザクション完了日。

レポートの結果を限定するには、必要なフィールドにデータを入力します。フィールドを空白にすると、レポート プロセスにはその条件に関するあらゆる値の結果が含まれます。たとえば、リクエストの送信日の範囲を 2006 年 1 月 1 日から 2006 年 12 月 31 日とし、発信者として特定の依頼者を指定した場合、承認プロセス ID や承認定義 ID に関係なく、その担当者が 2006 年に依頼した全トランザクションを含むレポートが生成されます。

レポートは、PDF フォーマットによりオンラインで参照するか、印刷や保存したり、異なるフィルタ条件を使用して再作成することができます。また、TXT、XLS または CSV ファイルとしてローカルのマシンにダウンロードすることも可能です。レポートの上部には、生成された日時および選択されたフィルタの概要が表示されます。レポートのデータは、リクエストの送信日順にソートされます。

承認オーディット レポートの実行に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
承認オーディットレポート	HCSCAWE_RUN_CNTL	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[承認/委任]、[承認オーディットレポート]	実行条件に基づいて承認ワークフロー エンジンオーディットで処理された承認トランザクションの、詳細なリストレポートを生成します。

承認オーディット レポートの作成

承認オーディット レポート ページにアクセスします。

承認オーディット レポート

ラン コントロール ID: PS [レポート マネージャ](#) [プロセス モニター](#) [実行](#)

言語コード:

レポート フィルタ

開始送信日:

終了送信日:

承認プロセス ID:

承認定義 ID:

依頼者:

トランザクション ステータス:

承認オーディット レポート ページ


[開始送信日]、[終了送信日]

オーディット レポートに含める承認トランザクション リクエストの日付範囲を入力します。

[承認プロセス ID]	レポート結果を特定タイプの承認トランザクションに限定するための承認プロセス ID を選択します。
[承認定義 ID]	レポート結果を限定するための特定承認プロセス定義を選択します。
[依頼者]	依頼者を選択して、レポート結果を特定の担当者が送信した承認トランザクション リクエストに限定します。
[トランザクション ステータス]	ステータスを選択して、レポート結果を、現在のステータスが選択したものと同一承認トランザクション リクエストに限定します。

承認オーディット レポートのサンプル

以下は承認オーディット レポートのサンプルです。



承認ワークフロー トランザクション
オーディット レポート

プロセス ID: AbsenceManagement 定義 ID: Absence_Mgmt_BySupervisorId スロット ID: 1				
トランザクション作成者	HAM_KOW007			
トランザクション依頼者	HAM_KOW007			
トランザクション全体のステータス	P - P			
親スロット番号	1			
最終更新日時				

ステージ番号: 10 ノード番号: 1 ステップ番号: 1.00				
ステップタイプ	N - Normal			
ステップステータス	P - Pending			
アドホックステップの挿入者				
承認担当者				
承認者 (予定)	承認実行者	ユーザータイプ	ステップステータス	完了日時
HAM_KOW006	HAM_KOW006	A - Approver	P - Pending	

コメント

承認オーディット レポート (1/2)

ユーザー	コメント日時	コメント
HCQAMAM000	2006-05-11T10:57:10.000000-0700	I have an all day appointment
HCQAMAM0002	2006-05-11T10:57:10	I approve this request

承認オーディット レポート (1/2)

注: このレポートは、PeopleTools の XML Publisher 機能を使用して設定できます。

セルフサービス承認トランザクションの使い方

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 承認トランザクション リクエストのレビュー
- 承認トランザクション リクエストのジョブの選択

重要: このセクションでは、HRMS 製品ラインの複数アプリケーション内で共通の承認トランザクションのセルフサービス ページのみを列記します。アプリケーション内のビジネス プロセスに固有なセルフサービス ページの詳細については、アプリケーション固有の PeopleBook を参照してください。

セルフサービス承認トランザクションの処理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
承認ステータス ページ	HCM_APPR_STATUS	<ul style="list-style-type: none"> ・ [管理者セルフサービス]、[トランザクションの確認]、[トランザクションの確認] ・ [従業員セルフサービス]、[トランザクションの確認]、[トランザクションの確認] 	管理者と従業員が、自分に関連する承認トランザクションリクエストのステータスと詳細を参照できます。
ジョブの選択	HCM_JOB_SELECT	このページは、ユーザーがリクエストを送信または承認して、そのユーザーが複数のジョブを持つ場合に表示されます。	複数のジョブを持つユーザーは、承認リクエストを送信または承認するジョブを選択することができます。

関連項目:

第 26 章、「委任の設定と使い方」、「セルフサービスの委任の使い方」、656ページ

承認トランザクション リクエストの確認

トランザクションの確認ページにアクセスします。

トランザクションの確認

Betty Locherty

このページでは、承認用に送信済み、または自分で確認したトランザクションのステータスおよび関連情報を表示できます。ハイパーリンクをクリックすると各リクエストの詳細情報を確認できます。

トランザクション:

承認トランザクション					
トランザクション名	送信者	対象者	送信日時	トランザクション ステータス	
Absence Management	Betty Locherty	Betty Locherty	2007/3/26 - 6:04 午後	承認済	詳細表示
Delegation	Betty Locherty	Betty Locherty	2007/2/16 - 5:10 午前	保留	詳細表示
Delegation	Betty Locherty	Betty Locherty	2007/2/16 - 5:21 午前	承認済	詳細表示
Non-person profile			2006/4/3 - 2:54 午後	保留	承認/却下
Non-person profile			2006/4/3 - 2:59 午後	保留	承認/却下
Non-person profile			2006/4/3 - 3:03 午後	保留	承認/却下

トランザクションの確認ページ

ユーザーは、承認待ち、承認済み、却下済みまたは終了した承認トランザクション リクエストのステータスおよび詳細を参照することができます。結果はグリッドに表示されます。グリッドの各トランザクションについて、[詳細表示] リンクまたは [承認/却下] リンクをクリックすると、トランザクションの詳細を確認できるだけでなく、承認プロセスで次のアクションを実行することができます。

注: 承認ワークフロー エンジンに保存されたアーカイブトランザクションについては、PeopleTools のデータ アーカイブ マネージャ コンポーネントを使用するよう推奨します。

承認トランザクション リクエストのジョブの選択

ジョブの選択ページにアクセスします。

職務の選択

Danilo Travaniti

現在あなたには複数の職務があるため、この処理で使用する職務を選択してください。

	職務名	部門	監督者名	会社
<input checked="" type="radio"/>	Sales Manager	Sales Administration	Antonio Smith	Global Business Institute 9999
<input type="radio"/>	Bus Person	Business Services	Paul Harvest	Global Business Institute 9999

続行

ジョブの選択ページ

ユーザーがトランザクションを送信または承認し、そのユーザーが複数のジョブを持つ場合は、トランザクションを送信または承認するジョブを選択できます。こうすることで、リクエストが適切な担当者に転送されます。

注: アプリケーションにジョブの選択ページを導入する手順については、『Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine』ガイドを参照してください。

参照: PeopleSoft Customer Connection の Enterprise HCM 9.0 Approval Workflow Engine

第 26 章

委任の設定と使い方

この章では、委任の概要と以下の方法について説明します。

- 委任コンポーネント間の移動
- ワークフロー トランザクションの登録
- 委任のための権限リストとロールの設定
- 委任インストール設定の定義
- 委任トランザクションの設定
- 委任リクエストの追加
- 委任管理
- バッチ委任リクエストの処理
- セルフサービス委任の使い方
- 委任用の標準の通知テンプレートの確認

委任について

委任とは、ある個人が別の個人に特定の職責の代理業務を行う権限を付与することです。委任機能を使用すれば、ユーザーは管理トランザクションの開始権限または承認権限を委任することにより、管理職務を代理で行う権限を他のユーザーに付与することができます。

管理トランザクションを行う権限の委任は、通常次のような場合に発生します。

- 管理者が休暇を取って会社を休んでいる間、管理トランザクションの権限を別の個人に委任する。
- 上級管理者がトランザクションを処理する時間がないため、自分の権限を別の個人（アシスタントなど）に委任する。

委任関連用語

以下の用語は委任機能を理解するうえで重要で、この章全体を通じて使用されています。

委任	あるユーザーの権限を別のユーザーに委任する行為。
委任者	権限を別のユーザーに委任する個人。
代理人	別のユーザーの代わりに務める権限を付与されている個人。
開始の委任	委任フレームワークでは、他の人の代理としてトランザクションを開始する職務と、トランザクションを承認する職務を区別することができます。委任

者は、委任者の代理としてトランザクションの開始または送信だけを行う代理権を委任することができます。

承認の委任

委任フレームワークでは、他の人の代理としてトランザクションを開始する職務と、トランザクションを承認する職務を区別することができます。委任者は、委任者の代理としてトランザクションの承認または却下だけを行う代理権を委任することができます。

代理権

委任者から代理人に委任される権限。

委任リクエスト

委任者から代理人への代理権取得依頼。

委任期間

代理権が有効である期間。

委任管理者

代理権の設定や管理を担当しているシステム管理者。

取消

委任者や委任管理者が代理権を取り消すこと。

委任フレームワーク

委任機能のコアを成しているのが委任フレームワークです。委任フレームワークは、委任されたトランザクションに対する代理人の権限を管理します。代理人が代理権を持っていると、委任フレームワークは、委任されたトランザクションに固有のロールを代理人に一時的に割り当てます。そのロールによって、代理人は委任されたトランザクションに関連付けられているコンポーネントやページにアクセスできます。代理人に代理権がなくなると、委任フレームワークはそのロールを削除して、代理人が該当トランザクションを行えないようにします。

委任フレームワークは、以下のタイプの委任をサポートしています。

- 直属の部下、または所属階層内の間接の部下への権限の下方委任
- 管理者、または所属階層内の間接の上司への権限の上方委任
- 同じ部署の同僚、または所属階層内の別の部署の同僚への権限の水平委任

承認ワークフロー エンジンとの統合

委任フレームワークは、承認ワークフロー エンジン (AWE) と統合されています。この統合には、いくつかの利点があります。第一に、委任フレームワークと AWE との統合によって、AWE フレームワークがシステム内の代理権を認識できるようになります。第二に、委任フレームワークが、AWE フレームワークを使用して委任リクエストの受諾と辞退を管理できるようになります。

セルフサービスでの委任リクエストの作成

委任フレームワークは、PeopleSoft Enterprise HRMS のセルフサービス ソリューションの構成要素です。ユーザーは PeopleSoft Enterprise HCM のセルフサービス コンポーネントを使用して、選択したトランザクションの委任リクエストを作成することができます。

委任リクエストを作成すると、委任者は以下のことを行うことができます。

- アクセス権を持っているトランザクションだけを委任する。
たとえば、管理者ではない従業員は、管理者セルフサービス トランザクションへのアクセス権を持っていないため、管理者固有のトランザクションを委任することはできません。
- 1 つのトランザクションにつき、1 つの委任期間に 1 人の代理人のみに委任する。
- 全てのトランザクションを 1 人の代理人に委任したり、さまざまなトランザクションを異なる代理人に委任する。

委任管理

委任管理者は、委任管理コンポーネントを使用して、各種の便利なタスクを実行できます。実行できるタスクは以下のとおりです。

- 委任リクエストの追加コンポーネント (HCDL_ADMIN_ADD_DLG) を使用して、委任者の代わりに委任リクエストを作成する。
- 委任管理コンポーネント (HCDL_ADMIN_DLG) を使用して委任リクエストを確認し、必要に応じて委任者の代わりに委任リクエストを取り消す。
- 代理権の管理コンポーネント (HCDL_BATCH) を使用して、全ての委任トランザクションを毎日バッチ処理する。

通知

電子メール通知およびワークリスト通知を使用して、管理者と代理人に新規の委任リクエストや承認待ちのトランザクションが通知されます。通知の受信オプションとしてワークリスト アイテムを設定した場合、ワークリスト アイテムは代理人のワークリストにのみ作成され、委任者のワークリストには作成されません。承認のために代理人に電子メール通知が送信されます。委任者が委任者への通知を選択している場合には、委任者にも電子メール通知が送信されます。委任管理者は、汎用テンプレート コンポーネントを使用して、代理人や委任者用のさまざまな電子メール テンプレートを設定できます。

参照: 第 26 章、「委任の設定と使い方」、「委任用の標準の通知テンプレートの確認」、669ページ

リクエスト ステータスと委任ステータス

委任フレームワークは、リクエスト ステータスと委任ステータスを使用して委任リクエストを管理します。リクエスト ステータスによって、委任リクエストのステータスが決まります。委任ステータスによって、代理人の代理権がアクティブであるか非アクティブであるかが決まります。この 2 つのステータスの組み合わせによって、委任フレームワークによる委任の処理方法が決まります。

次の表は、委任のリクエスト ステータスを示し、個々のリクエスト ステータスに関連付けられている委任ステータスに基づいて委任フレームワークがどのように委任を処理するかを示しています。

リクエスト ステータス	委任ステータス	説明
送信済	非アクティブ	委任者が新規の委任リクエストを作成すると、リクエストステータスは“送信済”に設定され、委任ステータスは“非アクティブ”に設定されます。

リクエスト ステータス	委任ステータス	説明
受諾	アクティブ	<p>代理人が委任リクエストを受諾すると、リクエストステータスは“受諾”に設定されます。</p> <p>委任ステータスが“アクティブ”になるのは、次の2つの条件が発生した場合のみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 代理人が委任リクエストを受諾した。 • システム日付が、委任期間の開始日よりも後か同日で、終了日よりも前か同日である。 <p>委任ステータスが“アクティブ”になると、未処理の全てのトランザクションが委任者から代理人に再割り当てされます。また、トランザクションの一時権限リストとロールが代理人に割り当てられます。これによって、代理人はオンライントランザクションへのナビゲーションアクセスが可能になります。</p> <p>委任リクエストの“終了日”が空白の場合は、委任者または管理者が委任リクエストを取り消すまで、リクエストステータスは“アクティブ”のままとなります。</p>
受諾	非アクティブ	<p>代理人が委任リクエストを受諾したが、委任リクエストの日付が将来の日付の場合は、システム日付が開始日よりも後か同日になるまで、委任ステータスは“非アクティブ”のままとなります。</p>
辞退	非アクティブ	<p>代理人が委任リクエストを辞退すると、リクエストステータスは“辞退”に設定されます。委任ステータスは“非アクティブ”のままとなります。</p>

リクエスト ステータス	委任ステータス	説明
終了	非アクティブ	<p>代理人の代理権の期間が終了すると、リクエストステータスは“終了”に設定され、委任ステータスは“非アクティブ”に変わります。このような変更は、システム日付が代理権の期間の終了日より後になると発生します。</p> <p>未処理の全てのトランザクションが代理人から委任者に再割り当てされます。また、代理人の一時権限リストとロールが削除されます。これによって、オンライントランザクションへの代理人のナビゲーション アクセス権が削除されます。</p>
取消	非アクティブ	<p>委任者が委任リクエストを取り消すか、または委任管理者が委任者の代わりに委任リクエストを取り消すと、リクエストステータスは“取消”に設定され、委任ステータスは“非アクティブ”に変わります。</p> <p>未処理の全てのトランザクションが代理人から委任者に再割り当てされます。また、代理人の一時権限リストとロールが削除されます。これによって、オンライントランザクションへの代理人のナビゲーション アクセス権が削除されます。</p>

委任機能の導入に際しての注意事項

委任機能の導入に際して考慮が必要な事項があります。

考慮すべき重要事項は、以下のとおりです。

- 委任機能を有効にする必要があるか。
- どのようなトランザクションを委任できるようにする必要があるか。
- どの階層を委任できるようにする必要があるか。

また、以下のセキュリティ ニーズを分析し、それらのニーズに対応するプランを作成することも必要です。

- 委任コンポーネントに用意されている権限リストとロールを分析し、標準で提供されているオブジェクトを使用して委任機能を導入するか、新しいオブジェクトを作成して導入するかを決定する。
- 該当ロールが含まれている委任管理者の標準ユーザー プロファイルの定義方法を決定する。
- 該当ロールが含まれている委任者の標準ユーザー プロファイルの定義方法を決定する。
- 該当ロールが含まれている代理人の標準ユーザー プロファイルの定義方法を決定する。
- 委任者と代理人に同じプロファイルを与えるか、異なるプロファイルを与えるかを決定する。

委任の設定手順

委任フレームワークにトランザクションを導入するには、次の手順に従います。

1. ワークフロー トランザクションの登録ページで、ワークフローの委任トランザクションを登録します。
2. PeopleTools のセキュリティ コンポーネントを使用して、委任権限リスト/ロールを設定します。
3. “委任インストール設定” ページで、委任のインストール設定を定義します。
4. “委任トランザクション設定” ページで、委任トランザクションを設定します。

委任コンポーネント間の移動

PeopleSoft Enterprise HRMS には、特定のビジネス プロセスやタスク、ユーザー ロールをサポートするフォルダ グループをまとめたカスタム ナビゲーション ページが用意されています。

注: PeopleSoft Enterprise HRMS のカスタム ナビゲーション ページの他に、メニューによるナビゲーションと、標準のナビゲーション ページも使用できます。

このセクションでは、委任コンポーネント間の移動に使用するページを列挙します。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Using PeopleSoft Applications

委任コンポーネント間の移動に使用するページ

次の表は、委任機能用の設定コンポーネント間および管理コンポーネント間の移動に使用するカスタム ナビゲーション ページの一覧です。

ページ名	ナビゲーション	用途
委任設定センター	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[委任]、[委任設定センター]	このページのリンクを使用して、管理者は PeopleSoft Enterprise HRMS の委任フレームワークの設定に必要なコンポーネントにアクセスできます。
承認/委任	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[承認/委任]	このページのリンクを使用して、管理者は PeopleSoft Enterprise HRMS の委任の管理と承認トランザクションの管理に必要なコンポーネントにアクセスできます。

ワークフロー トランザクションの登録

このセクションでは、ワークフロー トランザクションの登録方法について説明します。

ワークフロー トランザクションの登録に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ワークフロー トランザクション	EO_TRANSACTIONS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[委任]、[委任設定センター]、[ワークフロー トランザクション]	セルフサービス トランザクションを適切なワークフロー機能に関連付けて、ワークフロー トランザクション カテゴリを割り当てることで、セルフサービス トランザクションをワークフロー トランザクションとして登録します。承認ワークフロー エンジンを使用する トランザクションの場合は、トランザクションに関連付けられている承認プロセス ID をさらに指定する必要があります。トランザクションの開始の委任および承認の委任を有効にすることもできます。

関連項目:

第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ワークフロー トランザクションのリンク」、582 ページ

ワークフロー トランザクションの登録

“ワークフロー トランザクション” ページにアクセスします。

ワークフロー トランザクション					
▼ ワークフロー トランザクション					
*トランザクション名	*オブジェクト	説明	開始の委任		
EP_CREATE	HR_TRANSACTIONS	Appraisals by Dflt Access Type	<input type="checkbox"/>	+	-
EP_CREATE_GRP	HR_TRANSACTIONS	Appraisals by Group ID	<input type="checkbox"/>	+	-
GPCH_ABSENCE	HR_TRANSACTIONS	Absence	<input type="checkbox"/>	+	-
GPCH_ABSENCE_MGR	HR_TRANSACTIONS	Absence by Manager	<input type="checkbox"/>	+	-
GPCH_OVERTIME	HR_TRANSACTIONS	Overtime	<input type="checkbox"/>	+	-
GPCH_OVERTIME_MGR	HR_TRANSACTIONS	Overtime by Manager	<input type="checkbox"/>	+	-
GP_ABS_EESS_BAL	HR_TRANSACTIONS	Employee Absence Balance	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
GP_ABS_EESS_HIST	HR_TRANSACTIONS	Employee Absence History	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
GP_ABS_EESS_REQ	HR_TRANSACTIONS	Employee Absence Request	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-

“ワークフロー トランザクション” ページ (1/3)

以下のクリットには、承認ワークフロー エンジン (AWE) と委任フレームワークを使用する各トランザクションの行を入力してください。[ワークフロー トランザクション] クリットと [承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション] クリットの両方にトランザクションを登録することはできません。

承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション					
詳細 1		詳細 2			
*トランザクション名	*カテゴリ	説明			
EP_APPRAISAL	HR_TRANSACTIONS	Performance Document		+	-
GP_SS_ABS_APPR_L	HR_TRANSACTIONS	Manager Absence Approve		+	-
HR_PROMOTION	HR_TRANSACTIONS	Promotion		+	-
HR_REPORT_CHG	HR_TRANSACTIONS	Reporting Change		+	-
HR_TRANSFER	HR_TRANSACTIONS	Transfer		+	-
JPMNonpersonProfiles	HR_TRANSACTIONS	Nonperson Profiles		+	-
JPMPersonProfiles	HR_TRANSACTIONS	Person Profiles		+	-

“ワークフロー トランザクション” ページ (2/3)

承認ワークフロー エンジン (AWE)/委任トランザクション					
詳細 1		詳細 2			
*トランザクション名	*承認プロセス ID	開始の委任	承認の委任		
EP_APPRAISAL	PerformanceManagement	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
GP_SS_ABS_APPR_L	Absence_Mgmt_BySupervisor	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
HR_PROMOTION	PromoteEmployee	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
HR_REPORT_CHG	ReportingChgEmployee	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
HR_TRANSFER	TransferEmployee	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-
JPMNonpersonProfiles	JPMNonpersonProfiles	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	+	-
JPMPersonProfiles	JPMPersonProfiles	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	+	-

“ワークフロー トランザクション” ページ (3/3)

注: 委任フレームワークの導入時に、全てのセルフサービス トランザクションを登録する必要があります。開始の委任または承認の委任に対して有効にした登録済みワークフロー トランザクションだけが、次のステップである委任トランザクションの設定に使用できます。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ワークフロー トランザクションのリンク」、582 ページ

委任のための権限リストとロールの設定

このセクションでは、委任のための権限リストとロールの概要と設定方法について説明します。

委任のための権限リストとロールの設定について

委任トランザクションを設定する前に、まず、委任トランザクションに対して権限リストとロール セキュリティを設定する必要があります。PeopleSoft Enterprise HRMS には、委任フレームワークの使用に必要な権限リストがシステム データとして用意されています。ユーザーが委任機能にアクセスできるようにする必要がある場合に、これらの権限リストをロールに付与することができます。

次の表は、委任フレームワーク用に標準で用意されている権限リストについて説明しています。

権限リスト名	説明	権限リストに割り当てられている ロール
HCCPDL1000	“委任設定センター” ページに属している委任設定コンポーネントと、“承認/委任” ページに属している委任管理コンポーネントにユーザーがアクセスできるようにします。	HCM Delegation Admin (administrator)
HCCPDL1100	セルフサービストランザクションのホーム ページである“委任管理” ページにユーザーがアクセスできるようにします。	Manager Employee

権限リストだけではなく、委任管理者ロールを定義して、それに HCCPDL1000 権限リストを割り当てる必要があります。このロールをユーザーに割り当てると、指定された委任管理者は、委任設定コンポーネントと委任管理コンポーネントにアクセスできるようになります。この目的のために、PeopleSoft Enterprise HRMS には、HCM Delegation Admin ロールがシステム データとして用意されています。このロールには、HCCPDL1000 権限リストが割り当て済みです。

委任機能を使用する PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションには、委任フレームワーク用に事前設定されているトランザクションが多数用意されています。これらのトランザクションには、代理人が委任された標準トランザクションを実行できるコンポーネントごとに固有の権限リストとロールが事前設定されています。代理人のステータスがアクティブになると、その委任トランザクションに固有のロールが、代理人のユーザー プロファイルに挿入されます。そのロールには、委任されたトランザクションを実行するために代理人がコンポーネントにアクセスできるようにする権限リストが含まれています。代理人のステータスが非アクティブになると、そのロールが代理人のユーザー プロファイルから削除されます。委任トランザクションを設定するには、委任トランザクション設定ページを使用して、トランザクションが実行されるコンポーネントと固有のロールをトランザクションに関連付けます。固有の権限リストは、PeopleTools のセキュリティのロールに関連付けられます。

参照: 第 26 章、「委任の設定と使い方」、「委任トランザクションの設定」、648ページ

委任対象のトランザクションを設定する際は、委任されたトランザクションに関連付ける個々のコンポーネントに固有のロールと権限リストを使用する必要があります。コンポーネントのポータル セキュリティに権限リストを付与し、固有のロールを固有の権限リストに関連付ける必要があります。また、ポータル セキュリティの同期プロセス ([PeopleTools]、[ポータル]、[ポータル セキュリティの同期]) を実行して、権限リストがポータル ナビゲーションに必ず関連付けられるようにすることも必要です。

警告: 委任トランザクションの設定に、既存のロールは使用しないでください。委任フレームワークでは、トランザクションに対する代理人の代理権に従って代理人のセキュリティ プロファイルのロールが許可されたり、取り消されたりするためです。その結果、委任フレームワークによって代理権が取り消されると、指定されたコンポーネントへのアクセス権を既に持っている代理人は、そのコンポーネントにまったくアクセスできなくなります。

関連項目:

第 26 章、「委任の設定と使い方」、「委任トランザクションの設定」、648ページ

権限リストとロールの設定

委任トランザクションに対して権限リストとロール セキュリティを設定します。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Security Administration

委任インストール設定の定義

このセクションでは、委任インストール設定の定義方法について説明します。

委任インストール設定の定義に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
委任インストール設定	HCDL_SYS_SETUP	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[委任]、[委任設定センター]、[インストール設定]、[委任インストール設定]	委任インストール設定を定義します。通常この作業は、委任のための権限リストとロールが設定された後、委任管理者が行います。

委任インストール設定の定義

委任インストール設定ページにアクセスします。

委任インストール設定

*管理者ロール:

HCM Delegation Admin

アクティブな代理人を確認する間隔:

7

日

有効階層

☒ 全個人

☒ 階層指定

- ☐ 部門セキュリティ グループ別
- ☐ 監督者の従業員 ID 別
- ☐ 部門管理者 ID 別
- ☐ 直属上司の本ポジション別
- ☒ 監督者 ID 別 - 一部本ポジション管理
- ☐ 部門管理者ID別-一部本ポジション管理
- ☐ グループ ID 別

委任インストール設定ページ

[管理者ロール]

委任管理者として指定するロールを選択します。委任フレームワークによって、このロールにエラーが転送されます。この目的のために、PeopleSoft シ

システムには、HCM Delegation Admin ロールがシステム データとして用意されています。用意されているロールを選択することもできますし、他のロールを使用することもできます。

[アクティブな代理人を確認する間隔]

終了日が設定されていない委任を使用する場合は、代理人のアクティブ/非アクティブの確認が特に重要です。セルフサービスで委任リクエストを作成する際に、委任者が“日付の入力”ページの[終了日]フィールドを空白のままにすると、終了日を設けない委任になります。

デフォルトでは、7 日が使用されます。このフィールドを空白にするか、0 を入力すると、この値はコンポーネントの保存時に自動的に 7 に設定されます。この例では、委任管理者がバッチ ジョブを実行すると、システム日付に 7 日が追加され、その日に代理人がアクティブかどうかチェックされます。

委任管理者は、代理権の管理 (HCDL_BATCH) アプリケーション エンジン プロセスと呼ばれるバッチ ジョブを実行して、代理人のアクティブ/非アクティブを確認することができます。職務データ レコードまたは関係者の同等のレコードで代理人がアクティブであるかを確認する際に、代理権の管理アプリケーション エンジン プロセスによってシステム日付に追加させたい日数を入力します。委任管理者は、“代理権の管理”ページでこのプロセスを実行できます。

[有効階層]

このグループ ボックスを使用して、トランザクションの委任時にセルフサービス ユーザーが代理人を選択する方法のオプションを定義できます。ここで選択するオプションによって、ユーザーが委任リクエストを作成するときに“代理人を階層から指定”ページに表示されるアクティブな代理人が決まります。これらの設定は、委任フレームワークを使用する全てのトランザクションに適用されます。たとえば、代休リクエストに対してアクティブな代理人を管理者 ID 別に、あるいは、昇進・昇格に対してアクティブな代理人を直属上司のポジション別にこのページに表示するように指定することはできません。

[全個人]

ユーザーが委任リクエストを作成するときに代理人の選択を制限しない場合は、このチェック ボックスをオンにします。“代理人を階層から指定”ページに[名前で検索]リンクが表示されます。ユーザーがこのリンクをクリックすると、“代理人を名前指定”ページが表示され、システム内のアクティブな任意の個人を検索して、代理人として選択できます。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。

[階層指定]

特定の階層に基づいて委任者が代理人を選択するように要求するには、このチェック ボックスをオンにします。選択できる階層は 1 つだけです。選択した階層は、トランザクション タイプとは無関係にシステム全体を通じて全ての委任リクエストに適用されます。セルフサービス ユーザーが代理人を階層から検索する場合は、階層の上位と下位の両方向の検索が可能です。

以下のいずれかのオプションを選択します。

- [部門セキュリティ ツリー別]: セキュリティ ツリーの情報を使って、従業員データへのアクセス権限を決定します。セキュリティ ツリーに基づき、ユーザーがデータへのアクセスを許可された従業員の一覧が表示されます。
- [監督者の従業員 ID 別]: 職務情報ページの[監督者の従業員 ID]フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。ユーザーの ID が、職務レコードの監督者 ID として指定されている従業員の一覧が表示されます。

- [部門管理者 ID 別]: 部門プロファイル ページ (DEPARTMENT_TBL_GBL) の [管理者 ID] フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。部門管理者のユーザーには、自分の部門に所属する従業員の一覧が表示されます。
- [直属上司のポジション別]: 職務情報ページの [直属上司ポジション] フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。ユーザーのポジションが、職務レコードの直属上司のポジションとして指定されている従業員の一覧が表示されます。

このオプションを選択できるのは、“インストール テーブル” の HRMS オプション ページでポジション管理ビジネス プロセスを有効にした場合のみです。

- [監督者 ID 別 – 一部ポジション管理]: 職務情報ページの [直属上司ポジション] フィールドと [監督者の従業員 ID] フィールドの両方を使って直属関係を定義します。このオプションは、ポジション管理オプションで “一部” が設定されている組織を対象にしています。直属関係の検索は、まず直属上司のポジション番号に基づいて行われ、次に監督者の従業員 ID について行われます。

このオプションを選択できるのは、HRMS オプション – インストール ページでポジション管理ビジネス プロセスを有効にした場合のみです。

- [部門管理者 ID 別 – 一部ポジション管理]: 職務情報ページ (JOB_DATA_JOB_CODE) の [直属上司ポジション] フィールドと、部門プロファイル ページの [管理者 ID] フィールドの情報を使って直属関係を定義します。このオプションは、ポジション管理オプションで “一部” が設定されている組織を対象にしています。直属関係の検索は、まず直属上司のポジション番号に基づいて行われ、次に部門管理者 ID について行われます。
- [グループ ID 別]: グループ ビルド機能で設定されたグループ ID を使って、データのアクセス権限を決定します。

このオプションを選択すると右側にフィールドが表示され、そのフィールドで有効なグループ ID を選択する必要があります。グループ ID は、“グループビルド – グループ定義” のグループ定義ページで定義します。

これらの階層は、直属部下機能に関連付けられており、“直属部下の設定” コンポーネントのターゲット情報ページにある [アクセス タイプ] フィールドに表示される階層と同じです。

[階層指定] チェック ボックスと [全個人] チェック ボックスをオンにすると、委任者は、リストから選択するか、システム内の任意のアクティブな代理人を検索するかを選ぶことができるため、代理人の階層選択は必須ではなく任意になります。

委任トランザクションの設定

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 委任トランザクションの設定
- 用意されている委任トランザクションの確認

委任トランザクションの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
委任トランザクション設定	HCDDL_TXN_SETUP	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[委任]、[委任設定センター]、[トランザクション設定]、[委任トランザクション設定]	委任トランザクションを設定します。この作業は、トランザクションを委任設定可能にするために、委任インストール設定の設定後に委任管理者によって行われます。

委任トランザクションの設定

“委任トランザクション設定” ページにアクセスします。

委任トランザクション設定

トランザクション名: Manager Absence Approve

トランザクション タイプ: 承認

*名称: Manager Absence Approve

委任トランザクション設定		検索 全件表示	最初 1/1 最後
*有効日:	2005/01/01	*ステータス:	アクティブ
セキュリティ			
*ロール:	Delegate Manager Absence Appr		
*コネクト名:	GP_SS_ABS_APPR_L		

“委任トランザクション設定” ページ

[トランザクション名]

トランザクションの名称が表示されます。新しい値を追加する場合は、ワークフローに対して設定済みで、かつ“ワークフロー トランザクション” ページの [開始の委任] または [承認の委任] がオンになっているトランザクションのリストから値を選択するための検索画面が表示されます。これらの条件に一致しないトランザクションは、委任設定には使用できません。

[トランザクション タイプ]

トランザクションの設定が [開始の委任] と [承認の委任] のどちらであるかが表示されます。委任フレームワークでは、他の人の代理としてトランザクションを開始する職務と、トランザクションを承認する職務を区別することができます。新しい値を追加する場合は、次のいずれかを選択するための検索画面が表示されます。

- [開始]: 委任者は、委任者の代理人としてトランザクションの開始または送信だけを行う代理権を委任することができます。
- [承認]: 委任者は、委任者の代理人としてトランザクションの承認または却下だけを行う代理権を委任することができます。

選択したトランザクションに対してどちらのオプションでも選択できますが、“ワークフロー トランザクション” ページで、該当する [開始の委任] チェッ

ク ボックスまたは [承認の委任] チェック ボックスをオンにした場合のみ、選択した値は有効になります。

[名称]

委任トランザクション設定の名称を入力します。関連付けられているトランザクションの表示時に、委任の全ページを通じてこの名称が使用されます。デフォルトでは、トランザクション タイプとトランザクション名を連結させた名称が使用されます。意味が類推できるような名称を常に付けるようにしてください。

[有効日]、[ステータス]

トランザクションの有効日を入力し、委任フレームワーク内でトランザクションがアクティブか非アクティブかを指定します。新しい有効日が設定されている行を入力することにより、必要に応じてトランザクションの使用可/不可を切り替えることができます。新しい行を入力すると、有効日としてシステム日付がデフォルトで使用されます。

[セキュリティ]

このグループ ボックスは、指定されたトランザクションに対する権限を委任される代理人に対して、セキュリティ アクセス権を設定するのに使用します。委任トランザクションがアクティブな間は、委任フレームワークにより、指定されたロールが代理人に一時的に割り当てられ、指定されたコンポーネントへの代理アクセス権が付与されます。

[ロール]

指定されたトランザクションの処理に使用する該当コンポーネントの権限リストが含まれているロールを選択します。委任可能にするトランザクションには、委任のみを目的とした固有のロールと関連権限リストが必要です。

代理人の代理権がアクティブになると、このロールが代理人のユーザー プロファイルに一時的に割り当てられ、代理権を持っている間は代理人は該当トランザクション コンポーネントにアクセスできます。代理人の代理権が終了すると、このロールは代理人のユーザー プロファイルから削除されます。したがって、代理人は該当トランザクション コンポーネントにアクセスできなくなります。

承認者が特定のロールを所有している必要がある承認トランザクションでは、そのトランザクションに対して代理権を持つ代理人は、トランザクションを承認するためのロールと同じロールを持っている必要があります。たとえば、承認者が管理者でなければならぬ昇進・昇格の承認では、昇進・昇格リクエストを正常に承認するためには、昇進・昇格を承認するための代理権を持つ代理人も管理者でなければなりません。

このフィールドの値は、ロール コンポーネントで設定したロールから検索/表示されます。

警告: 委任されたトランザクションと関連付ける個々のコンポーネントに固有のロールを使用する必要があります。

参照: 第 26 章、「委任の設定と使い方」、「委任のための権限リストとロールの設定について」、645 ページ

[コンポーネント名]

指定されたトランザクションに対するリクエストを処理できるコンポーネントのオブジェクト名を選択します。ユーザーが委任リクエストを作成すると、委任者のユーザー プロファイルがチェックされ、このコンポーネントへのアクセス権限を委任者が持っているかどうか確認されます。委任者がセキュリティ アクセス権を持っている場合のみ、トランザクションに対する委任リクエストの作成が許可されます。

用意されている委任トランザクションの確認

PeopleSoft には、委任フレームワーク用に事前設定されたトランザクションが多数用意されています。これらのトランザクションには、“委任トランザクション設定”コンポーネントからアクセスできます。次の表は、標準で用意されている委任トランザクションと設定の一覧です。

トランザクション名	固有のロール/権限リスト	コンポーネント名	委任トランザクションの説明
EP_APPRAISAL	Delegate_PerformancDoc_Approve	EP_APPRAISAL_APPR	記入票の承認を委任します。
GP_ABS_EESS_BAL	Delegate_Employee_Absence_Bal	GP_ABS_EESS_BAL	従業員の休暇残数照会の開始を委任します。
GP_ABS_EESS_HIST	Delegate_Employee_Absence_Hist	GP_ABS_EESS_HIST	従業員の休暇欠勤履歴照会の開始を委任します。
GP_ABS_EESS_REQ	Delegate_Employee_Absence_Rqst	GP_ABS_EESS_REQ	従業員の休暇欠勤リクエストの開始を委任します。
GP_ABS_MGRSS_BAL	Delegate_Manager_Absence_Bal	GP_ABS_MGRSS_BAL	管理者の休暇残数照会の開始を委任します。
GP_ABS_MGRSS_HIST	Delegate_Manager_Absence_Hist	GP_ABS_MGRSS_HIST	管理者の休暇欠勤履歴照会の開始を委任します。
GP_ABS_MGRSS_REQ	Delegate_Manager_Absence_Rqst	GP_ABS_MGRSS_REQ	管理者の休暇欠勤リクエストの開始を委任します。
GP_SS_ABS_APPR_L	Delegate_Manager_Absence_Appr	GP_SS_ABS_APPR_L	休暇欠勤リクエストの承認を委任します。
HR_EE_INF_MGR	Delegate_View_Employee_Info	HR_EE_INF_MGR	従業員情報の照会の開始を委任します。
HR_FULL_PART_CHG	Delegate_FullPartStat_Initiate	HR_MGR_FULL_PART	常勤/パートタイムのステータス変更の開始を委任します。
HR_LOCATION_CHG	Delegate_LocChange_Initiate	HR_MGR_LOCATION	勤務地変更の開始を委任します。
HR_PROMOTION (開始)	Delegate_Promotion_Initiate	HR_PROMOTE_MGR	昇進・昇格の開始を委任します。
HR_PROMOTION (承認)	Delegate_Promotion_Approve	HR_PROMOTE_APPR	昇進・昇格の承認を委任します。
HR_REPORT_CHG (開始)	Delegate_ReportingChg_Initiate	HR_MGR_REPORT_CHNG	管理者変更の開始を委任します。
HR_REPORT_CHG (承認)	Delegate_ReportingChg_Approve	HR_MGR_REPORT_APPR	管理者変更の承認を委任します。

トランザクション名	固有のロール/権限リスト	コンポーネント名	委任トランザクションの説明
HR_RETIRE	Delegate_Retire_Initiate	HR_RETIRE_EE	従業員の退職の開始を委任します。
HR_TERM	Delegate_Terminate_Initiate	HR_EE_TERMINATE	従業員の雇用終了の開始を委任します。
HR_TRANSFER (開始)	Delegate_Transfer_Initiate	HR_TRANSFER_MGR	転属の開始を委任します。
HR_TRANSFER (承認)	Delegate_Transfer_Approve	HR_TRANSFER_APPR	転属の承認を委任します。

注: アプリケーション固有の委任トランザクションの詳細については、該当するアプリケーションの PeopleBook を参照してください。

管理者による委任リクエストの追加

このセクションでは、管理者が委任リクエストを追加する方法について説明します。

管理者による委任リクエストの追加に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
委任リクエストの追加	HCDL_ADMIN_ADD_DLG	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[承認/委任]、[委任リクエストの追加]	委任管理者は、委任者の代理人として委任リクエストを作成できます。

管理者による委任リクエストの追加

“委任リクエストの追加” ページにアクセスします。

委任リクエストの追加

Antonio Smith 従業員 従業員 ID: KOW001 雇用コード番号: 0

開始日	終了日	トランザクションタイプ*	トランザクション名	代理人	名前	委任者に通知
2007/03/09	2007/03/13	承認	GP_SS_ABS_APPR_L	KOW006	Paul Harvest	<input checked="" type="checkbox"/>

[代理権の管理](#) [委任管理](#)

“委任リクエストの追加” ページ

注: 委任フレームワークがトランザクションに対する代理権を代理人に渡した後に委任の連鎖が発生しないようにするために、代理人はそのトランザクションに対する権限を別のユーザーに委任することはできません。委任フレームワークでは、トランザクションに対する権限は開始委任者から開始代理人にのみ渡されます。

注: ユーザーが委任リクエストを追加すると、“ユーザー プロファイル” の “ワークフロー” ページにある [代替ユーザー ID] フィールドの値がチェックされます。委任リクエストによって、委任リクエスト内のトランザクションの代替ユーザー ID が上書きされます。代替ユーザー ID が存在し、委任の日付と代替 ID の日付が重複すると、警告メッセージが表示されます。

[開始日]、[終了日]	委任をアクティブにする日付範囲を入力します。[開始日] の値は、今日よりも後の日付にする必要があります。[終了日] の値は、[開始日] の値よりも後の日付にする必要があります。委任の終了日を設定しない場合は、[終了日] フィールドを空白にします。
[トランザクション タイプ]、[トランザクション名]	委任するトランザクションを選択します。委任者がアクセス権を持っているトランザクションの中から選択するための検索画面が表示されます。これらのトランザクションは、“委任トランザクション設定” ページで定義した委任の日付範囲の間アクティブです。 選択したトランザクションが開始の委任と承認の委任のいずれであるかが表示されます。
[代理人]、[名前]	委任者がトランザクションを委任する代理人を選択します。
[委任者に通知]	代理人が委任者の代理人としてこのトランザクションを承認または開始したときに、委任者に電子メール通知を送信するには、このチェック ボックスをオンにします。
[代理権の管理]	このリンクをクリックすると、“代理権の管理” ページにアクセスします。このページでは、バッチ ジョブを実行して、委任トランザクションを処理することができます。
[委任管理]	このリンクをクリックすると、“委任管理” ページにアクセスします。このページでは、システム内の個々の委任リクエストを検索および管理することができます。

委任管理

このセクションでは、委任の管理方法について説明します。

委任の管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
委任管理	HCDL_ADMIN_DLG	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[承認/委任]、[委任管理]	委任管理者は委任リクエストを確認し、必要に応じて、委任者の代理人として委任リクエストを取り消します。
委任管理 - リクエスト詳細	HCDL_ADMIN_RQT_DTL	委任リクエストの [リクエストステータス] 列のリンクをクリックします。	委任管理者は、選択した委任リクエストの詳細を確認できます。

委任管理

“委任管理” ページにアクセスします。

委任管理

[代理権の管理](#)
[委任リクエストの追加](#)

選択条件

委任者:

開始日:

代理人:

終了日:

トランザクション名:

リクエスト ステータス:

委任ステータス:

検索結果

委任リクエスト

リクエスト詳細

	名称	委任者	名前	代理人	名前
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Balance	KU0007	Betty Locherty	KOMTX006	Andrew Pierce
<input type="checkbox"/>	Manager Absence History	KU0007	Betty Locherty	KOMTX006	Andrew Pierce
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Request	KU0007	Betty Locherty	KOMTX006	Andrew Pierce
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Approve	KU0007	Betty Locherty	KOMTX006	Andrew Pierce
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Approve	KOW006	Paul Harvest	KOW009	Boris Gonzales
<input type="checkbox"/>	Approve Promotion	KOW006	Paul Harvest	KOW009	Boris Gonzales
<input type="checkbox"/>	Initiate Promotion	KOW006	Paul Harvest	KOW009	Boris Gonzales

“委任管理” ページ

検索結果

委任リクエスト

リクエスト詳細

	開始日	終了日	リクエスト ステータス	委任ステータス	委任者に通知
<input type="checkbox"/>	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	2007/04/01	2007/04/08	送信済	非アクティブ	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	2007/03/27	2007/03/31	送信済	非アクティブ	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	2007/03/27	2007/03/31	送信済	非アクティブ	<input checked="" type="checkbox"/>

委任管理ページ - リクエスト詳細タブ

注: 委任者と代理人が重複したトランザクションを開始した場合は、代理人、委任者または委任管理者が重複したトランザクションを取り消すか、または、承認者が最初のトランザクションの承認時に重複したトランザクションを却下することができます。

- [代理権の管理]

このリンクをクリックすると、“代理権の管理” ページにアクセスします。このページでは、バッチ ジョブを実行して、委任トランザクションを処理することができます。
- [委任リクエストの追加]

このリンクをクリックすると、“委任リクエストの追加” ページにアクセスします。このページでは、委任者の代理人として委任リクエストを作成できます。

[選択条件]

このグループ ボックスでは、検索する委任リクエストの条件を指定します。全ての委任リクエストを検索するには、条件を指定しないで [検索] ボタンをクリックします。検索結果を絞り込むには、1 つ以上の条件を入力します。

[委任者]

委任リクエストを検索する委任者を選択します。既存のリクエストを持つ委任者の中から選択するための検索画面が表示されます。

[代理人]

委任リクエストを検索する代理人を選択します。既存のリクエストを持つ代理人の中から選択するための検索画面が表示されます。

[トランザクション名]

委任リクエストを検索するトランザクションを選択します。既存のリクエストに属しているトランザクションの中から選択するための検索画面が表示されます。

[開始日]、[終了日]

委任リクエストを確認する日付範囲を指定します。

[リクエスト ステータス]

検索するリクエストのステータスを選択します。リクエスト ステータスは、[受諾]、[終了]、[辞退]、[取消]、[送信済] です。

参照: [第 26 章、「委任の設定と使い方」、「委任について」、637 ページ](#)

[委任ステータス]

検索するリクエストの委任ステータスとして、[アクティブ] または [非アクティブ] のいずれかを選択します。

参照: [第 26 章、「委任の設定と使い方」、「委任について」、637 ページ](#)

[検索]

指定した検索条件に基づいて委任リクエストを検索するには、このボタンをクリックします。

[クリア]

全ての検索条件フィールドをクリアするには、このボタンをクリックします。

[検索結果]

指定した検索条件に基づいて、委任リクエストとリクエスト詳細が表示されます。

[リクエスト ステータス]

リクエストのステータスが表示されます。表示されるステータスは、[受諾]、[終了]、[辞退]、[取消]、[送信済] のいずれかです。委任リクエストのさらに詳しい情報を確認するには、この列のリンクをクリックします。“委任管理” の “リクエスト詳細” ページが表示されます。

[全て選択]

[検索結果] グループ ボックス内の全ての委任リクエストのチェック ボックスをオンにするには、このボタンをクリックします。

[全て選択解除]

[検索結果] グループ ボックス内の選択した全ての委任リクエストのチェック ボックスをオフにするには、このボタンをクリックします。

[取消]

委任者の代理人として委任リクエストを取り消すには、このボタンをクリックします。[検索結果] グループ ボックスで選択した全てのリクエストの委任が取り消されます。この変更によって影響を受ける代理人に通知が送信され、未処理の全てのトランザクションが自動的に委任者に再割り当てされます。

バッチ委任リクエストの処理

このセクションでは、バッチ委任リクエストの処理方法について説明します。

バッチ委任リクエストの処理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
代理権の管理	HCDL_BATCH	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[承認/委任]、[代理権の管理]	委任管理者は、全ての委任トランザクションを毎日バッチ処理することができます。

バッチ委任リクエストの処理

“代理権の管理” ページにアクセスします。

代理権の管理			
ユーザー ID:	PS	レポートリスト	プロセス モニター
ラン コントロール ID:	PS		プロセス リクエスト
指定日:	2007/03/26		

“代理権の管理” ページ

代理権の管理 (HCDL_BATCH) アプリケーション エンジン プロセスを実行するには、[プロセス リクエスト] ボタンをクリックします。このバッチ プログラムでは、ラン コントロール ページに表示されるシステム日付で全ての委任トランザクションが処理されます。このプロセスは、将来の日付が付いていた全ての委任トランザクションが今日の日付でアクティブになるようにアクティブ化して、今日の日付で期限切れとなった全ての委任リクエストを取り消し、非アクティブな代理人を検索します。影響を受ける委任トランザクション全てについて、リクエスト ステータスと委任ステータスが必要に応じて更新されます。代理人のナビゲーション セキュリティも、必要に応じて更新されます。

重要: 委任を管理し、無効な行を更新するために、このプロセスを毎日実行することをお勧めします。

セルフサービスの委任の使い方

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 委任アクティビティの表示
- 委任に関するヘルプの表示
- 委任リクエストに対する職務の選択
- 所属階層からの代理人の選択
- 名前による代理人の選択
- 委任リクエストの送信

- 委任リクエストの送信確認の表示
- 委任対象の代理人の管理
- 委任リクエストの詳細の表示
- 代理権の管理
- 委任リクエストの受諾確認の表示
- 委任リクエストの辞退確認の表示
- 複数トランザクションの詳細の表示

セルフサービス委任の処理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
委任管理	HCDL_MGR_DLG_HOME	<ul style="list-style-type: none"> • [セルフサービス]、[委任管理] • [セルフサービス]、[トランザクションの確認] <p>[詳細表示] リンク、または委任トランザクションの [承認/却下] リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [管理者セルフサービス]、[トランザクションの確認] <p>委任トランザクションの [詳細表示] リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 委任リクエストの作成中に [キャンセル] ボタンをクリックします。 	ユーザーは、自身に関連付けられている全ての委任アクティビティを表示できます。
委任管理 - 委任について	HCDL_DLG_INSTR	“委任管理” ページで [委任の説明] リンクをクリックします。	ユーザーは、委任機能に関する説明を参照することができます。
委任リクエストの作成 - 職務名の選択	HCDL_JOB_SELECTION	“委任管理” ページの [委任リクエストの作成] リンクまたは [代理人の確認] リンクをクリックします。	複数の職務を持つユーザーが、委任リクエストの作成や代理人の確認を行う職務を選択できます。
委任リクエストの作成 - 日付の入力	HCDL_ADD_DLG_DATES	“委任管理” ページで [委任リクエストの作成] リンクをクリックします。	開始日と終了日を指定して、トランザクションに対して代理権の期間を定義します。終了日を指定しないと、無期限の委任を指定したことになります。
委任リクエストの作成 - トランザクションの選択	HCDL_ADD_DLG_TXNS	“日付の入力” ページで、[次へ] ボタンをクリックします。	ユーザーは、委任対象のトランザクションを1つ以上選択できます。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
委任リクエストの作成 - 代理人を階層から指定	HCDL_ADD_DLG_SRCH	“トランザクションの選択” ページで、[次へ] ボタンをクリックします。	ユーザーは、所属階層に基づいて、委任対象のトランザクションの代理人を選択できます。
委任リクエストの作成 - 代理人を名前で指定	HCDL_ADD_DLG_SRCH	<ul style="list-style-type: none"> “代理人を階層から指定” ページの [名前で検索] リンクをクリックします。 “代理人を名前で指定” ページの [階層から検索] リンクをクリックします。 	ユーザーは、名前に基づいて委任対象のトランザクションの代理人を検索し、選択することができます。
委任リクエストの作成 - 委任の詳細	HCDL_ADD_DLG_DTL	“代理人を階層から指定” ページまたは “代理人を名前で指定” ページの [次へ] ボタンをクリックします。	ユーザーは、委任リクエストの詳細を確認して、委任リクエストを送信できます。
確認, 委任リクエストの受諾, 委任リクエストの辞退	HCDL_DLG_CONFIRM	<ul style="list-style-type: none"> 委任リクエストの追加時に “委任の詳細” ページの [送信] ボタンをクリックします。 “代理権の確認” ページの [受諾] ボタンまたは [辞退] ボタンをクリックします。 	ユーザーは、送信の確認、委任リクエストの受諾、または委任リクエストの辞退を参照することができます。
代理人の確認	HCDL_MGR_DLG_T	<ul style="list-style-type: none"> “委任管理” ページで [代理人の確認] リンクをクリックします。 委任リクエストを正常に完了した後、確認ページの [OK] ボタンをクリックします。 	ユーザーは、代理人を検索して委任リクエストのステータスを更新することで、代理人を管理できます。
代理権の確認	HCDL_MGR_DLG_T	“委任管理” ページで [代理権の確認] リンクをクリックします。	ユーザーは、代理人として選択された委任リクエストを受諾または辞退することができます。
委任リクエストの詳細	HCDL_REQUEST_DTL	“代理人の確認” ページで、委任トランザクションの [詳細] ボタンをクリックします。	ユーザーは、送信済の委任リクエストの詳細を確認できます。
複数トランザクション	HCDL_MULTI_TXNS	“代理権の確認” ページの [複数トランザクション] リンクをクリックします。	ユーザーは、代理権を持っている複数トランザクションの詳細を参照できます。

委任アクティビティの参照

“委任管理” ページにアクセスします。

委任管理

Betty Locherty

ユーザーのセルフサービストランザクションを個人に委任することができます。委任された個人は代理人として、ユーザーのまたは部下のトランザクションを開始または承認処理することができます。また、別の個人がユーザーに対してトランザクションの処理権限を委任する場合があります。

委任の説明

[委任リクエストの作成] をクリックして、委任するトランザクションと代理人を指定します。

[委任リクエストの作成](#)

[代理人の確認] をクリックして、委任したトランザクションおよび各トランザクションの代理人の一覧を表示します。

[代理人の確認](#)

[代理権の確認] をクリックして、委任されたトランザクションの一覧を表示します。また、承諾待ちの委任リクエストを受諾または辞退します。

[代理権の確認](#)

“委任管理” ページ

ユーザーは、自身に関連付けられている全ての委任アクティビティを表示できます。委任リクエストの作成、代理人にトランザクションの開始または承認を委任した委任リクエストの取消、代理人として選択された委任リクエストの辞退を行うことができます。このページにユーザーがアクセスする際にユーザーに適用可能なコンテンツと関連リンクだけが表示されます。具体的には、以下のものが表示されます。

- [委任の説明] リンクと、委任の説明の関連コンテンツ。委任フレームワークが使用されていれば、全てのユーザーが常時アクセスできます。
- [委任リクエストの作成] リンクと、委任リクエスト作成のための関連コンテンツ。委任設定のページを使用して委任可能になっているトランザクションに対して、ナビゲーション セキュリティ アクセス権をユーザーが所有している場合のみ表示されます。
- [代理人の確認] リンクと、代理人を確認するための関連コンテンツ。ユーザーがアクティブまたは非アクティブな委任リクエストを持っている場合のみ表示されます。
- [代理権の確認] リンクと、代理権を確認するための関連コンテンツ。ユーザーが代理人としての権限を委任されている場合のみ表示されます。

委任に関するヘルプの表示

“委任管理” – “委任について” ページにアクセスします。

委任管理

[戻る](#)

Betty Locherty

委任について

システム管理者がユーザーのシステムを適切に設定している場合、従業員/管理者セルフサービスのいくつかまたは全てのトランザクションを 1 人または複数の個人に委任することができます。トランザクションを委任する際には、委任するトランザクションの権限（開始権限または承認権限）を指定することができます。

たとえば、トランザクションの委任は、以下のような場合に利用できます。

- 一定期間オフィスを留守にするため、自分のまたは自分の部下のトランザクションの処理を行えない場合。期間を指定して、全てのトランザクションの処理を個人に委任することができます。
- 全てのトランザクションの処理をアシスタントに任せる場合。全てのトランザクションの処理を無期限に個人に委任することができます。

委任ホームページには、委任管理に使用するための 3 つのリンクが用意されています。

- **委任リクエストの作成** - トランザクションの処理を代理人に依頼するための、委任リクエストを作成します。
- **代理人の確認** - 代理人に委任したトランザクションを表示します。また代理人の代理権を取り消します。
- **代理権の確認** - 委任されたトランザクションを表示します。リクエストを受諾または辞退します。

“委任管理” - “委任について” ページ

このページは、PeopleTools のアプリケーション デザイナを使用してアクセスし、設定することができます。

委任リクエストに対する職務の選択

“委任リクエストの作成” の “職務名の選択” ページにアクセスします。

委任リクエストの作成

職務名の指定

Danilo Travantti

委任リクエストを確認または作成する職務名を選択してください。

職務情報			
	職務名	部門	監督者名
<input checked="" type="radio"/>	Sales Manager	Sales Administration	Antonio Smith
<input type="radio"/>	Bus Person	Business Services	Paul Harvest
会社			
			Global Business Institute 9999
			Global Business Institute 9999

[続行](#)
[キャンセル](#)

“職務名の選択” ページ

委任リクエストの作成または代理人の確認を行っているユーザーが複数の職務を持っている場合は、委任リクエストの作成や代理人の確認を行う職務を選択するための検索画面が表示されます。このページは、従業員が複数の職務を兼務している場合のみ表示されます。

委任日付の入力

“委任リクエストの作成” の “日付の入力” ページにアクセスします。

委任リクエストの作成

日付の入力


Betty Locherty

Director-Finance

委任リクエストの日付を入力してください。[開始日]には今日または今日以降の日付を入力します。[終了日]には、開始日と同じかまたはそれ以降の日付を指定します。委任リクエストの期限を設けない場合は、[終了日]はフラグにしてください。

委任日

開始日: 2007/03/26 

終了日: 2007/04/25 

次へ

キャンセル

“委任リクエストの作成” – “日付の入力” ページ

委任対象のトランザクションの選択

“委任リクエストの作成” の “トランザクションの選択” ページにアクセスします。

委任リクエストの作成

トランザクションの選択

Betty Locherty

Director-Finance

代理人に委任するトランザクションを選択してください。トランザクションは 1 つまたは複数指定できます。

トランザクション	
<input checked="" type="checkbox"/>	Approve Promotion
<input checked="" type="checkbox"/>	Employee Absence Balance
<input type="checkbox"/>	Employee Absence History
<input type="checkbox"/>	Employee Absence Request
<input type="checkbox"/>	Initiate Promotion
<input type="checkbox"/>	Initiate Terminate Employee
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Approve
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Balance
<input type="checkbox"/>	Manager Absence History
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Request

全て選択
全て選択解除

戻る
次へ
キャンセル

“委任リクエストの作成” – “トランザクションの選択” ページ

“委任トランザクション設定” ページの [開始の委任] または [承認の委任] に設定されていて、かつ委任者がコンポーネント アクセス権を持っているトランザクションのみが表示されます。

ユーザーは、単一の委任リクエストで 1 つまたは複数のトランザクションを別の個人に委任することができます。代理人は、複数トランザクションの委任リクエストを受信した場合は、そのリクエスト全体を受諾または辞退する必要があります。ただし、委任者が取り消すことができるトランザクションは、複数トランザクションのリクエストの中の 1 つのトランザクションだけです。委任者が複数トランザクションのリクエストから 1 つ以上のトランザクションを取り消すと、取り消されたトランザクションが複数トランザクションのリクエストから取り出され、個々の取り消されたエントリが承認ワークフロー エンジン (AWE) 内に作成されます。残りのトランザクションは、複数トランザクションのリクエスト内に留まります。取消後に 1 つのトランザクションだけが残った場合は、グループは解消され、複数トランザクションの委任リクエストではなく単一トランザクションの委任リクエストが表示されます。この機能によって、複数トランザクションのステータスの正確さが保持されます。

所属階層からの代理人の選択

“委任リクエストの作成” の “代理人を階層から指定” ページにアクセスします。

委任リクエストの作成

代理人を階層から指定

Betty Locherty

Director-Finance

このページには、ユーザーの階層に属し、代理人に指定できる個人が表示されます。代理人を指定するには、名前の左にあるオプション ボタンをおこなってください。ユーザーの階層以外の個人を検索する場合は、[名前で検索] リンクをクリックしてください。

[名前で検索](#)

	名前	従業員 ID	雇用形態	職務名	部門	監督者名
<input type="radio"/>	Allan Martin	KU0012	従業員	Manager-Project	Lab Facility	Betty Locherty
<input checked="" type="radio"/>	Andrew Pierce	K0MTX006	従業員	Clerk-III	Finance	Betty Locherty
<input type="radio"/>	Angela McKay	KU0069	従業員	Auditor-General	Finance	Betty Locherty
<input type="radio"/>	Annette Thompson	K0MTX009	従業員	Consultant-Junior	Finance	Betty Locherty
<input type="radio"/>	Annie Mirzoyan	KU0077	従業員	Analyst-Business	Finance	Betty Locherty
<input type="radio"/>	Ausencio Cruz	K0W301	従業員	Administrator	Finance	Betty Locherty

戻る

次へ

キャンセル

“委任リクエストの作成” – “代理人を階層から指定” ページ

ユーザーは、委任対象のトランザクションの代理人を選択することができます。委任管理者が“委任インストール設定” ページでトランザクションに対して特定の階層を指定すると、その指定に基づいて有効な代理人が表示され、ユーザーは代理人をこのリストから選択できます。有効な代理人には、委任者の直属または間接の部下と、委任者の管理者で始まる上位階層の全ての個人が含まれます。委任管理者が“委任インストール設定” ページの [全個人] チェック ボックスをオンにした場合は、[名前で検索] リンクが表示されます。このリンクを使用すると、システム内の全ての個人を検索してその中から選択できます。

名前による代理人の選択

“委任リクエストの作成” の “代理人を名前で指定” ページにアクセスします。

委任リクエストの作成

代理人を名前で指定

Director-Finance

代理人を氏名で検索します。[階層から検索] リンクを使用して、代理人を階層から検索することもできます。

[階層から検索](#)

姓:

名前:

検索

クリア

	名前	従業員 ID	雇用形態	職務名	部門	監督者名
<input checked="" type="radio"/>	Boris Gonzales	K0W009	従業員	Technologist-Laboratory I	Lab Facility	Paul Harvest
<input type="radio"/>	Claire Gonzales	FA0169	関係者			

戻る

次へ

キャンセル

“委任リクエストの作成” – “代理人を名前で指定” ページ

ユーザーは、代理人を名前で検索して、検索結果の有効な値のリストから選択できます。このページは、委任管理者が委任インストール設定ページの [全個人] チェック ボックスをオンにした場合のみ表示されます。

委任リクエストの送信

“委任リクエストの作成” の “委任の詳細” ページにアクセスします。

委任リクエストの作成

委任の詳細

Betty Locherty

Director-Finance

委任者の代わりに代理人が操作する際に受信する全ての通知を委任者も受信する場合に、[委任者に通知] チェック ボックスをオンにしてください。

代理人: Boris Gonzales

開始日: 2007/03/26

終了日: 2007/04/25

トランザクション
Approve Promotion
Employee Absence Balance

☒ 委任者に通知

“委任リクエストの作成” – “委任の詳細” ページ

委任期間、選択された代理人、および選択されたトランザクションが表示されます。[委任者に通知] チェック ボックスをオンにすると、代理人がトランザクションを承認または開始すると自動的に送信される通知を受信することができます。[送信] ボタンをクリックすると、委任リクエストを受諾または辞退した代理人に電子メール通知が自動的に送信されます。

委任フレームワークがトランザクションに対する代理権を代理人に渡した後に委任の連鎖が発生しないようにするために、代理人はそのトランザクションに対する権限を別のユーザーに委任することはできません。委任フレームワークでは、トランザクションに対する権限は開始委任者から開始代理人にのみ渡されます。

注: ユーザーが委任リクエストを追加すると、“ユーザー プロファイル” の “ワークフロー” ページにある [代替ユーザー ID] フィールドの値がチェックされます。委任リクエストによって、委任リクエスト内のトランザクションの代替ユーザー ID が上書きされます。代替ユーザー ID が存在し、委任の日付と代替 ID の日付が重複すると、警告メッセージが表示されます。

委任リクエストの送信確認の表示

“委任リクエストの作成” の確認ページにアクセスします。

委任リクエストの作成

Betty Locherty

Director-Finance

委任リクエストは正常に送信されました。リクエストのステータスを確認するには [代理人の確認] ページにアクセスしてください。

OK

“委任リクエストの作成” の確認ページ

注: 委任者と代理人が重複したトランザクションを開始した場合は、代理人、委任者または委任管理者が重複したトランザクションを取り消すか、または、承認者が最初のトランザクションの承認時に重複したトランザクションを却下することができます。

委任対象の代理人の管理

“代理人の確認” ページにアクセスします。

代理人の確認

Betty Locherty

Director-Finance

このページでは、各委任リクエストの代理人およびリクエスト ステータスを表示します。表示するステータスを選択して [リフレッシュ] ボタンをクリックすると、そのステータスのリクエストが表示されます。リクエストの詳細を確認するには、詳細アイコンをクリックしてください。リクエストを取り消すには、まずリクエストを選択し、次に [取消] をクリックします。

表示するリクエストのステータス:

リフレッシュ

トランザクション	名前	職務名	開始日	終了日	リクエスト ステータス	委任ステータス	
<input type="checkbox"/> Manager Absence Balance	Andrew Pierce	Clerk-III	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/> Manager Absence History	Andrew Pierce	Clerk-III	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/> Manager Absence Request	Andrew Pierce	Clerk-III	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/> Manager Absence Approve	Andrew Pierce	Clerk-III	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/> Approve Promotion	Boris Gonzales	Technologist-Laboratory I	2007/03/26	2007/04/25	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/> Employee Absence Balance	Boris Gonzales	Technologist-Laboratory I	2007/03/26	2007/04/25	送信済	非アクティブ	i

全て選択

全て選択解除

取消

[委任管理に戻る](#)

“代理人の確認” ページ

考えが変わった場合には、トランザクションの開始または承認を代理人に委任した委任リクエストを取り消すことができます。委任リクエストを取り消すには、取り消す委任リクエストのチェック ボックスをオンにして、[取消] ボタンをクリックします。リクエスト ステータスが “取消” に変わり、委任リクエストのステータスに関する電子メール通知が代理人に自動的に送信されます。

委任リクエストの詳細の表示

“委任リクエストの詳細” ページにアクセスします。

委任リクエストの詳細

Betty Locherty

Director-Finance

リクエスト詳細	
トランザクション:	Approve Promotion
代理人:	Boris Gonzales
委任者:	Betty Locherty
職務名:	Director-Finance
開始日:	2007/03/26
終了日:	2007/04/25
代理人の全てのトランザクションを委任者に通知:	はい

リクエスト ステータス	
リクエスト ステータス:	送信済
委任ステータス:	非アクティブ

リクエスト履歴					カスタマイズ ^o	検索	最初	1-2/2	最後
	トランザクション名	トランザクション タイプ ^o	リクエスト ステータス	名前	日時スタンプ ^o				
1	HR_PROMOTION	承認	送信済	Betty Locherty	07/03/26 20:05				
2	GP_ABS_EESS_BAL	開始	送信済	Betty Locherty	07/03/26 20:05				

[戻る](#)

“委任リクエストの詳細” ページ

[戻る] ボタンをクリックすると、“代理人の確認” ページに戻ることができます。

代理権の管理

“代理権の確認” ページにアクセスします。

代理権の確認

Betty Locherty

Director-Finance

このページでは、代理権を表示できます。特定のステータスを選択して [リフレッシュ] をクリックすると一致するリクエストが表示されます。リクエストの詳細を確認するには詳細アイコンをクリックしてください。

表示するリクエストのステータス:

リフレッシュ

	トランザクション	名前	職名	開始日	終了日	リクエストステータス	委任ステータス	
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Balance	Andrew Pierce	Clerk-III	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/>	Manager Absence History	Andrew Pierce	Clerk-III	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Request	Andrew Pierce	Clerk-III	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/>	Manager Absence Approve	Andrew Pierce	Clerk-III	2007/02/16	2007/02/19	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/>	Approve Promotion	Boris Gonzales	Technologist-Laboratory I	2007/03/26	2007/04/25	送信済	非アクティブ	i
<input type="checkbox"/>	Employee Absence Balance	Boris Gonzales	Technologist-Laboratory I	2007/03/26	2007/04/25	送信済	非アクティブ	i

全て選択

全て選択解除

取消

[委任管理に戻る](#)

“代理権の確認” ページ

代理人は、異なる委任者からの複数の代理権を保持することができます。代理人は、委任リクエストのチェック ボックスをオンにして、[受諾] ボタンまたは [辞退] ボタンをクリックする必要があります。委任リクエストのステータスに関する電子メール通知が、委任者に自動的に送信されます。

注: 複数の職務レコード (職務データ コンポーネントで定義) を持つ代理人に委任している場合は、その代理人の職務レコード番号 0 がデフォルトで使用されます。

[複数トランザクション]

“委任リクエストの作成” の “トランザクションの選択” ページで、委任者は単一の委任リクエストで 1 つ以上のトランザクションを別の個人に委任することができます。委任リクエストに複数のトランザクションが含まれている場合は、代理人は、[複数トランザクション] リンクをクリックして “複数トランザクション” ページにアクセスし、委任リクエストの個々のトランザクションに関する詳細を表示できます。複数トランザクションを持つ委任リクエストの場合は、代理人はリクエスト全体を受諾または辞退する必要があります。

“代理人の確認” ページで委任者が取り消すことができるトランザクションは、複数トランザクションのリクエストの中の共通トランザクションだけです。委任者が複数トランザクションのリクエストから 1 つ以上のトランザクションを取り消すと、取り消されたトランザクションが複数トランザクションのリクエストから取り出され、個々の取り消されたエントリが承認ワークフロー エンジン (AWE) 内に作成されます。残りのトランザクションは、複数トランザクションのリクエスト内に留まります。取消後に 1 つのトランザクションだけが残った場合は、グループは解消され、委任リクエストが複数トランザクションではなく単一トランザクションとしてが表示されます。この機能によって、複数トランザクションのステータスの正確さが保持されます。

委任リクエストの受諾確認の表示

“委任リクエストの受諾” ページにアクセスします。

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

667

委任リクエストの承諾

Betty Locherty

Director-Finance

委任リクエストを正常に受諾しました。受諾した委任リクエストは、[代理権の確認] ページで確認できます。

OK

“委任リクエストの受諾” ページ

[OK] ボタンをクリックすると、“代理権の確認” ページに戻ることができます。

委任リクエストの辞退確認の表示

“委任リクエストの辞退” ページにアクセスします。

委任リクエストの辞退

Antonio Smith

Administrator

委任リクエストを辞退しました。辞退済み委任リクエストを確認するには代理権の確認ページにアクセスしてください。

OK

“委任リクエストの辞退” ページ

[OK] ボタンをクリックすると、“代理権の確認” ページに戻ることができます。

複数トランザクションの詳細の表示

“複数トランザクション” ページにアクセスします。

複数トランザクション

複数トランザクション					
トランザクション	名前	開始日	終了日	リクエスト ステータス	委任ステータス
Initiate Promotion	Paul Harvest	2006/05/31	2006/06/16	受諾	アクティブ
Approve Promotion	Paul Harvest	2006/05/31	2006/06/16	受諾	アクティブ

[戻る](#)

“複数トランザクション” ページ

このページが表示されるのは、委任者が同一の委任リクエスト内の複数トランザクションの代理人となるユーザーを選択した場合のみです。

委任用の標準の通知テンプレートの確認

次の表は、用意されている委任通知、個々の通知の説明、通知のトリガ、および受信者の一覧です。

テンプレート名	通知の説明	トリガ	受信者
DelegationAccept	委任者が送信した委任リクエストを代理人が承認したことを示します。	代理人が委任リクエストを受諾した場合。	宛先: 委任者 CC: 代理人
DelegationAdminAdd	委任者の代わりに管理者が委任リクエストを代理人に送信したことを示します。	委任管理者が委任リクエストを追加および送信した場合。	宛先: 代理人 CC: 委任者
DelegationAdminRevoke	委任者の代わりに管理者が、代理人に割り当てられた委任リクエストを取り消したことを示します。	委任管理者が委任リクエストを取り消した場合。	宛先: 代理人 CC: 委任者
DelegationBatch	委任者およびリストされているトランザクションに対して代理権がアクティブまたは非アクティブにされたことを示します。また、トランザクションへの代理アクセスが許可されるようにセキュリティが更新されたことも示します。	委任管理者が代理権の管理バッチ処理を実行した場合。	宛先: 代理人 CC: 委任者
DelegationError	送信された委任リクエストでエラーが発生したことを示します。	委任者が委任リクエストを提出したが、エラーが発生した場合。	宛先: 委任者

テンプレート名	通知の説明	トリガ	受信者
DelegationNotifyAdmin	受諾された委任リクエストに対して、代理人が少なくとも1日間非アクティブであることがシステムによって認識されたことを示します。	委任管理者が代理権の管理バッチ処理を実行した場合。	宛先: 委任者 CC: 代理管理者
DelegationReject	委任者が送信した委任リクエストを代理人が辞退したことを示します。	代理人が委任リクエストを辞退した場合。	宛先: 委任者 CC: 代理人
DelegationRequest	委任者または委任者の代わりに管理者が、委任リクエストを代理人に送信したことを示します。	委任者が委任リクエストを作成および送信した場合。	宛先: 代理人 CC: 委任者
DelegationRevoke	委任者または委任者の代わりに管理者が、代理人に割り当てられた委任リクエストを取り消したことを示します。	代理人が委任リクエストを取り消した場合。	宛先: 代理人 CC: 委任者

第 27 章

メタデータおよびクエリー ビルダーの使い方

この章では、以下の項目について説明します。

- HCM メタデータ リポジトリの管理
- クエリー ビルダーの使い方

HCM メタデータ リポジトリの管理

HCM メタデータ リポジトリを管理するには、基本カタログ コンポーネント (HCMD_BASE_CATALOG)、オブジェクト カタログ コンポーネント (HCMD_OBJ_CATALOG)、エクスポート コンポーネント (HCMD_EXPORT_OBJS)、およびインポート コンポーネント (HCMD_IMPORT_OBJS) を使用します。

このセクションでは、HCM メタデータ リポジトリの概要と以下の作業方法について説明します。

- 基本クラスの定義
- オブジェクト クラスの定義
- クラス属性の詳細の入力
- クラス関係の詳細の入力
- メタデータのエクスポート
- メタデータのインポート

HCM メタデータ リポジトリについて

メタデータは、ユーザー システムのデータに関するデータです。メタデータによって、全てのオブジェクト、オブジェクト属性、およびオブジェクト間の関係について定義します。メタデータを使用して、PeopleSoft Enterprise HRMS データベースのレコードをオブジェクトとして定義して操作できます。

HCM メタデータ オブジェクト モデルは、次の 2 つの要素で構成されます。

- PeopleTools レベルのメタデータ
フィールド、フィールド ラベル、データベース レコードおよびビューに関する情報を提供します。
- HCM レベルのメタデータ
オブジェクト レベルでのオブジェクト間の関係を設定し、オブジェクトのサービスと代替レベルを定義します。

HCM メタデータ オブジェクト定義は、メタデータ リポジトリにクラスとして登録されます。これらのクラスは、基本の動作、処理、属性の必要性に応じて、次の 2 つのカタログに分類されます。

- 基本カタログ

オブジェクト クラスには、以下の特徴があります。

- クラスの基本の動作と属性を定義します。
- 処理とクエリーの効率化を図るため、オブジェクトをグループ化します。
- 派生クラスに対し親の属性のみを継承させます。

- オブジェクト カタログ

オブジェクト クラスには、以下の特徴があります。

- 親である基本クラスの子オブジェクトとして、基本クラスの全ての属性を継承させることが可能です。

注: オブジェクト カタログに必ず親クラス オブジェクトを設定する必要はありません。

注: 親クラス オブジェクト以外の全てのメタデータ クラス定義は、オブジェクト カタログで定義する必要があります。

- 継承された属性に加えて、固有の属性も定義されます。

たとえば、基本クラス オブジェクト “Person Base” は、派生オブジェクト クラス “Person” の親です。

このセクションで使用する共通フィールド

基本情報

以下のフィールドに情報を入力して、クラスの基本特性を定義します。

- クラス名
- 表示ラベル
- オブジェクト オーナー ID
- アクティブ フラグ

クラスの用途

以下のオプションを選択して、クラス オブジェクトがどのように使用されるかについて定義します。

- 以下のオプションから 1 つ選択します。
 - 製品アプリケーション: 標準の製品オブジェクト
 - ステージング: HCM システムへのデータのロードに使用される専用のステージング オブジェクト
 - レポート: 専用のレポート オブジェクト
 - システム: 通常はユーザーに表示されない HCM システム オブジェクト
 - 設定: HCM システム設定で使用する専用オブジェクト
 - ソース表示 (オブジェクト クラスのみ)
 - 属性マッピング (オブジェクト クラスのみ)
 - キーのマッピング (オブジェクト クラスのみ)
 - 一時使用 (オブジェクト クラスのみ)
- 動的ユーザー インターフェイスにクラスを表示させる場合は、[UI で使用] チェック ボックスをオンに設定します。

- クエリー ビルダーにクラスを表示させる場合は、[クエリーで使用] チェック ボックスをオンに設定します。

クラス オブジェクトが HCM システム データとして提供されたものである場合は、[システム データ] チェック ボックスがオンに設定されています。

永続性マッピング

このクラスがマッピングされる PeopleTools レコードの名前を入力します。PeopleTools レコードは、クラス オブジェクトの唯一のソースです。1 つのクラス定義は 1 つの PeopleTools レコードに対してマッピングされます。

クラスの属性 (レコード フィールド)

クラスの属性を照会または入力します。

[属性の詳細を表示] ボタンをクリックして、“クラスの属性の詳細” ページで詳細を照会したり、新しいクラス属性に関する詳細データを入力します。

レコード フィールドをインポート

このボタンをクリックすると、[永続化マッピング] グリッドの [レコード名] フィールドで選択した PeopleTools レコードに関連付けられたフィールドが全て、[クラスの属性] グリッドに入力されます。

有効値の上書きは行われません。

注: PeopleTools レコードを修正した後は、このボタンをクリックして PeopleTools レコード フィールドと属性の同期を保つことをお勧めします。

関係

このクラス定義と他のクラス定義との間の関係を定義します。たとえば、PeopleTools Person レコードへマッピングされる Person クラスは、以下のクラスと関係を定義することができます。

- 名称クラス
システム内の従業員に 1 つまたは複数の名称を設定できます。
- 住所クラス
システム内の従業員に 1 つまたは複数の住所を設定できます。
- 職務クラス
システム内の従業員に 0 または 1 ～複数の職務を設定できます。

[関係の詳細を表示] ボタンをクリックして、“クラスの関係の詳細” ページで詳細を照会したり、新しいクラス属性に関する詳細を入力します。

クラスの拡張

[クラスの拡張] グリッドでは、API からアクセス可能な追加属性を定義できます (これらのプロパティはクエリー ビルダーでは使用できません)。たとえば、必要に応じて Java タイプのクラスの拡張を MyJava という名称で作成して、[値] フィールドにプログラマがアクセス可能な Java ファイル名を設定できます。

以下のフィールドに値を入力して、クラスの拡張を定義します。

- タイプ
- 名称
- 値

HCM メタデータ リポジトリの管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
基本クラスの定義	HCMD_BASE_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM メタデータリポジトリ]、[基本カタログ]、[基本クラスの定義]	基本クラスに関する定義を設定および照会します。
オブジェクトクラスの定義	HCMD_OBJS_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM メタデータリポジトリ]、[オブジェクトカタログ]、[オブジェクトクラスの定義]	派生クラスに関する定義を設定および照会します。
クラスの属性の詳細	HCMD_OATT_SPG	<ul style="list-style-type: none"> [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM メタデータリポジトリ]、[基本カタログ]、[基本クラスの定義] <p>“基本クラスの定義” ページの [属性の詳細を表示] ボタンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM メタデータリポジトリ]、[オブジェクトカタログ]、[オブジェクトクラスの定義] <p>“オブジェクトクラスの定義” ページの [属性の詳細を表示] ボタンをクリックします。</p>	クラスの属性の詳細を入力または照会します。
クラスの関係の詳細	HCMD_OREL_SPG	<ul style="list-style-type: none"> [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM メタデータリポジトリ]、[基本カタログ]、[基本クラスの定義] <p>“基本クラスの定義” ページの [関係の詳細を表示] ボタンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM メタデータリポジトリ]、[オブジェクトカタログ]、[オブジェクトクラスの定義] <p>“オブジェクトクラスの定義” ページの [関係の詳細を表示] ボタンをクリックします。</p>	クラスの関係の詳細を入力または照会します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
メタデータ定義のエクスポート	HCMD_EXPORT_OBJS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM メタデータリポジトリ]、[エクスポート]、[メタデータ定義のエクスポート]	メタデータ定義をカタログから XML へエクスポートします。
メタデータ定義のインポート	HCMD_IMPORT_OBJS	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM メタデータリポジトリ]、[インポート]、[メタデータ定義のインポート]	メタデータ定義をインポートします。

基本クラスの定義

“基本クラスの定義” ページにアクセスします。

基本クラスの定義

クラス ID:

PERSON_BASE

ユーザー:

PS

最終更新日時:

2004/05/18 21:25:32

▼ 基本情報

*クラス名:

PersonBase

*名称:

個人基本クラス

表示ラベル:

Person

*オーナー ID:

HR 37

*アクティブ フラグ:

アクティブ

▼ クラスの用途

☒ 製品アプリケーション
 ☐ ステージング
 ☐ レポート
 ☐ システム
 ☐ 設定

☐ UI で使用
 ☒ クエリーで使用
 ☒ システム データ

▼ 永続化マッピング

*レコード名:

HCMD_PERS_BASE

レコードの説明:

Organization Person Base Obj.

▼ クラスの属性 (レコード フィールド)

アクティブ	*属性名	フィールド名	名称
<input checked="" type="checkbox"/>	EMPLID	EMPLID	従業員 ID

レコード フィールドをインポート

“基本クラスの定義” ページ (1/2)

▼ 関係

アクティブ	*関係名	*関係タイプ	*ターゲット クラス ID
<input checked="" type="checkbox"/>		1 対多 (子)	

▼ クラスの拡張

タイプ	名称	*値

“基本クラスの定義” ページ (2/2)

オブジェクト クラスの定義

“オブジェクト クラスの定義” ページにアクセスします。

オブジェクト クラスの定義

クラス ID:

EMAIL

ユーザー:

PS

最終更新日時:

2004/05/30 21:21:18

▼ 基本情報

*クラス名:

EmailAddresses

*名称:

電子メール アドレス

表示ラベル:

Email Addresses

*オーナー ID:

HR コア

*アクティブ フラグ:

アクティブ

▼ クラスの用途

☒ 製品アクション
 ☐ ソース表示
 ☐ UI で使用

☐ ステージング
 ☐ 属性マッピング
 ☒ クエリーで使用

☐ レポート
 ☐ キーのマッピング
 ☒ システム テーブル

☐ システム
 ☐ 一時使用

☐ 設定

▼ 永続化マッピング

*レコード名:

EMAIL_ADDRESSES

レコードの説明:

Email Addresses

▼ クラスの属性

親クラス:

検索コンポーネント:

コンポーネント インターフェイス名:

編集コンポーネント

メニュー名:

メニュー パー名:

アイテム名:

ページ名:

“オブジェクト クラスの定義” ページ (1/2)

▼ クラスの属性 (レコード フィールド)

アクティブ	*属性名	フィールド名	名称		
<input checked="" type="checkbox"/>	EMAIL_ADDR	EMAIL_ADDR	電子メール アドレス		
<input checked="" type="checkbox"/>	EMPLID	EMPLID	従業員 ID		
<input checked="" type="checkbox"/>	E_ADDR_TYPE	E_ADDR_TYPE	電子メール タイプ		
<input checked="" type="checkbox"/>	PREF_EMAIL_FLAG	PREF_EMAIL_FLAG	優先		

レコード フィールドをインポート

▼ 関係

アクティブ	*関係名	*関係タイプ	*ターゲット クラス ID		
<input checked="" type="checkbox"/>		1 対多 (子)			

▼ クラスの拡張

タイプ	名称	*値		

“オブジェクト クラスの定義” ページ (2/2)

676

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

[クラスの属性]

[親クラス] このクラス オブジェクトが親クラス オブジェクトの子として作成される場合は、ここで親クラス オブジェクトを選択します。子クラス オブジェクトには、親クラス オブジェクトの全ての属性が継承されます。

 オブジェクト クラスに親クラス オブジェクトを設定しない場合は、このフィールドは空白にします。

[コンポーネント インターフェイス名] クラスに関するデータの保存に使用される PeopleTools コンポーネント インターフェイスを選択します。クエリー ビルダーでこのコンポーネント インターフェイスを使用して、一括更新を行うことができます。たとえば、所在地 A の全ての従業員についてクエリーを作成した後、所在地 A の従業員 グループについて、職務データ コンポーネントの所在地情報を所在地 B に一括更新することができます。

[検索コンポーネント] この派生クラス オブジェクトのインスタンスを検索するための、検索コンポーネントを選択します。このフィールドに値を入力しない場合は、クエリービルダーの検索コンポーネントがデフォルトとして使用されます。

[編集コンポーネント]

このグループ ボックスでクラスに対してコンポーネントを入力すると、クエリー ビルダーでクラスを照会したときに、クエリー結果のハイパーリンクからコンポーネントまたはページへ移動できるようになります。このため、クエリー結果を照会しながら、コンポーネントを更新できます。

コンポーネントのメニュー名、メニュー バー名、アイテム名、およびページ名を入力します。

クラス属性の詳細の入力

“クラスの属性の詳細” ページにアクセスします。

クラスの属性の詳細

クラスの属性

*属性名:EMPLID

*別名:EMPLID

名称:従業員 ID

フィールド名:

*アクティブ:アクティブ

設定コントロール

☒ 変更可能

☒ 削除可能

用途

☒ クエリーで使用

☐ UI で使用

キー設定

☐ 業務的キー

クラス属性の拡張

	キー	拡張名	*拡張の値		
1	(無効な値)			+	-

“クラスの属性の詳細” ページ

[属性名]	属性名を入力します。対応するフィールド名と異なる文字列を入力することもできます。
[別名]	属性用の別名を入力します。
[フィールド名]	各属性ごとに、PeopleTools レコードの対応するフィールドを設定する必要があります。
[設定コントロール]	
[変更可能]	このチェック ボックスをオンにすると、動的ユーザー インターフェイスで属性を修正できます。
[削除可能]	このチェック ボックスをオンにすると、動的ユーザー インターフェイスで属性を削除できます。
[用途]	
[クエリーで使用]	このチェック ボックスをオンにすると、クエリー ビルダーに属性が表示されます。
[UI で使用]	このチェック ボックスをオンにすると、動的ユーザー インターフェイスに属性が表示されます。
[キー設定]	
[業務的キー]	このチェック ボックスをオンにすると、ビジネス ロジックでこの属性（フィールド）がキーであることが示されます。レコード レベルでこの属性をキーフィールドとして定義する必要はありません。

[クラス属性の拡張]

[クラス属性の拡張] グリッドでは、API からアクセス可能な追加属性を定義できます（これらのプロパティはクエリー ビルダーでは使用できません）。たとえば、必要に応じて Java タイプのクラスの拡張を MyJava という名称で作成して、値フィールドにプログラマがアクセス可能な Java ファイル名を設定できます。

以下のフィールドに値を入力して、クラスの拡張を定義します。

- [タイプ]
- [拡張名]
- [拡張の値]

クラス関係の詳細の入力

“クラスの関係の詳細” ページにアクセスします。

クラスの関係の詳細

クラスの関係

*関係名:

Filter

*アクティブ:

アクティブ

名称:

Filter

用途

☒ UI で使用

☒ クエリーで使用

ソースの基数

☒ 0..1

☐ 0..n

☐ 1..1

☐ 1..n

ターゲットの基数

☐ 0..1

☒ 0..n

☐ 1..1

☐ 1..n

*関係のターゲット:

EMPLOYMENT

☒ 双方向の関係

☐ 間接参照しない

関係属性のマッピング

*ソース属性名

*ターゲット属性名

1EMPLID

EMPL_RCD

“クラスの関係の詳細” ページ

- [関係名]

関係の名称を入力します。
- [クエリーで使用]

このチェック ボックスをオンにすると、クエリー ビルダーに関係が表示されます。
- [UI で使用]

このチェック ボックスをオンにすると、動的ユーザー インターフェイスに関係が表示されます。
- [ソースの基数]

以下のオプションから、ソース クラス オブジェクトの基数の設定を選択します。

• 0 対 1 (0.. 1)

• 0 対多 (0.. n)

• 1 対 1 (1.. 1)

• 1 対多 (1.. n)

[ターゲットの基数]

以下のオプションから、ターゲット クラス オブジェクトの基数の設定を選択します。

• 0 対 1 (0.. 1)

• 0 対多 (0.. n)

• 1 対 1 (1.. 1)

• 1 対多 (1.. n)

[関係のターゲット]

関係のターゲット クラス オブジェクトを選択します。

Copyright © 1988 – 2006, Oracle. All rights reserved.

679

[双方向の関係]

このチェックボックスをオンにすると、自動的に逆の関係（ソース オブジェクト クラスとターゲット オブジェクト クラスを反対にした関係）も有効になります。

[間接参照しない]

このチェックボックスをオンにすると、セットID 間接参照フィールドを含む関係に対する自動セットID 間接参照は行われません。

クエリービルダーによって、必要に応じて必須セットID ロジックが自動的に追加されます。このチェックボックスをオンに設定した場合は、[関係属性のマッピング] グリッドでロジックを定義する必要があります。たとえば、パフォーマンスを向上させるため、SETID_Location を、所在地テーブル (LOCATION_TABLE) のセットID フィールドに直接マッピングします。

[関係属性のマッピング]

マッピングする属性の名称を入力します。属性は好きな数だけマッピングできます。属性の名称は、マッピング先と同じ名称に設定する必要はありません。

メタデータ定義のエクスポート

“メタデータ定義のエクスポート” ページにアクセスします。

メタデータ定義のエクスポート

メタデータリポジトリのクラスを全てエクスポートするには、[全てのクラス定義をエクスポート] ボタンをクリックします。一部のクラスをエクスポートするには、条件フィルタを使用してエクスポートする定義の表示し、選択します。

全てのクラス定義をエクスポート

条件フィルタ

クラス ID:

ADDRESSES

クラス タイプ:

OBJS

オーナー ID:

アクティブ フラグ:

アクティブ

条件を適用

条件をリセット

検索結果

クラス ID

クラス名

名称

アクティブ フラグ

<input checked="" type="checkbox"/>	ADDRESSES	Addresses	Addresses	アクティブ
-------------------------------------	-----------	-----------	-----------	-------

[全て選択](#)
[全て選択解除](#)

選択した定義をエクスポート

“メタデータ定義のエクスポート” ページ

全てのクラス定義をエクスポート

このボタンをクリックすると、カタログの全てのメタデータ定義が XML ファイルにエクスポートされます。“メタデータ定義のエクスポート” ページが表示され、ここでエクスポート パスや作成されるファイル名を入力します。

[条件フィルタ]

エクスポートされるクラスを制限するには、[クラス ID]、[クラス タイプ]、[オーナー ID]、または [アクティブ フラグ] の各フィールドにフィルタ条件を入力します。

注: フィールドに複数のクラス ID を入力する場合は、値をコンマで区切ります。

条件を適用

このボタンをクリックすると、入力した条件が適用されます。[検索結果] グリッドに、条件を満たすクラス オブジェクトが表示されます。

条件をリセット

このボタンをクリックすると、検索条件フィールドがクリアされます。

[検索結果]

このグリッドには、検索条件を満たすクラス オブジェクトが表示され、デフォルトでは全てのクラス オブジェクトがエクスポート対象として選択されています。エクスポート対象でないクラス オブジェクトについては、左端のチェック ボックスをオフに設定します。

選択した定義をエクスポート

このボタンをクリックすると、選択したクラス オブジェクトが XML ファイルにエクスポートされます。

“メタデータ定義のエクスポート” ページ

[全てのクラス定義をエクスポート] ボタンまたは [選択した定義をエクスポート] ボタンをクリックすると、“メタデータ定義のエクスポート” ページが表示されます。アプリケーション サーバーへのフル パスとファイル名を入力します。ファイル名を指定しない場合は、プロセスによってデフォルトのディレクトリにファイルが作成されます。

メタデータ定義のインポート

“メタデータ定義のインポート” ページにアクセスします。

メタデータ定義のインポート**データ ファイル**

インポートする定義を持つファイルのパスとファイル名を入力してください。[ファイル データをロード] ボタンをクリックしてインポートするクラス定義を表示し、選択します。データベースに定義を追加するには、[インポート] ボタンをクリックします。

ファイル名

ファイル データをロード

“メタデータ定義のインポート” ページ

ファイル パスとファイル名を入力して、XML ファイルからデータをロードします。エクスポートされたファイルに存在するクラスの一覧が表示され、そのクラスが既に存在する場合はアイコンが表示されます。インポートするクラスを選択し、既存のクラス定義を上書きするかどうかを指定します。

クエリー ビルダーによる SQL クエリーの作成

クエリー ビルダーを使用して SQL クエリーを作成するには、クエリー ビルダー コンポーネント (EQRY_SAMP_HTML_CMP) および定義済クエリー コンポーネント (EQRY_VIEWER_CMP) を使用します。

このセクションでは、クエリー ビルダーの概要と以下の作業方法について説明します。

- 結果の属性の指定、保存、およびロード
- クエリー条件の定義
- クエリー定義の保存
- クエリー結果の表示

- クエリー ビルダーに定義されたクエリーの再利用

クエリー ビルダーについて

クエリー ビルダーは、PeopleSoft Enterprise HCM メタデータ リポジトリに定義されたクラス オブジェクトを照会するのに使用される柔軟なツールです。

クエリー ビルダーを使用して、以下の作業を行います。

- 元になるデータベース モデルに関する知識を必要とせずに、任意の長さ柔軟性を備えたクエリーを作成できます。

クエリー ビルダーにより、最も効率的な SQL がメタデータ クラス定義に基づいて自動的に作成され、全ての SQL 結合がメタデータに定義された関係に基づいて自動的に作成されます。また、クエリー ビルダーには、セットID と有効日の付いたロジックが含まれます。

- 使用可能な出力フィールドを好きな数だけ選択して、元になるクラスとクラス関係の両方から結果を表示させます。
- 現在のクエリーを修正して、別の出力や条件を含めることができます。
- 定義済みのクエリーを実行します。
- クエリー結果として返されたオブジェクトに移動します。
- 件数、合計、平均によって出力結果をグループ化し、グループ化された出力結果の最低値や最高値を表示させます。

クエリー ビルダーによって、集計に適切な SQL が自動的に生成されます。

- クエリー ビルダーで作成された構造化照会言語 (SQL) クエリーをプレビューします。

PeopleSoft クエリーではクエリーでレコードとフィールドが使用されますが、クエリー ビルダーではオブジェクトと属性が照会されます。この方式には、2 つの利点があります。

- ユーザーにとってはレコード名やフィールド名よりもオブジェクト名の方が認識しやすいため、システム内のオブジェクトを照会する方が簡単です。
- 既存のクエリー定義に影響を与えずに、システム オブジェクトの元になるレコードやフィールドの定義を変更できるため、より強力なクエリーとなります。

クエリーの作成に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
結果の属性	EQRY_OUTPUT_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[結果の属性]	クエリー結果で結果の属性として使用するオブジェクト属性を選択します。属性は必要な数だけ選択できます。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
属性の保存 ([出力名を入力してください。])	EQRY_OUT_S_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[結果の属性] “結果の属性” ページで [属性を保存] ボタンをクリックします。	結果の属性の設定内容をクエリーとして保存します。クエリーの出力名と説明を入力します。保存したクエリーは、クエリービルダーへのアクセス権限のある全てのユーザーが使用できます。クエリーを作成したユーザー以外はこのクエリーを使用不可にする場合は、[プライベートクエリー] チェックボックスをオンにします。
属性のロード ([ロードまたは現在の選択内容に追加する保存済出力列の選択])	EQRY_OUT_L_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[結果の属性] “結果の属性” ページで [属性をロード] ボタンをクリックします。	定義済みの結果の属性の設定内容を、現在のクエリーで使用するためにロードまたは追加します。使用可能な属性は、クエリービルダーの起動時に選択されているターゲットオブジェクトによって異なります。
条件	EQRY_ISCRIPT	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[条件]	照会する属性を指定して、演算子と値を使用して式を定義します。
条件属性ツリー ([X に関連付けられたオブジェクトから条件を選択してください。])	EQRY_ATT_TREE_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[条件] 条件ページで [属性名] フィールドの右隣の虫眼鏡ボタンをクリックします。	オブジェクト選択ツリーを使用してクエリー条件として使用する属性に移動し、選択します。
値の選択 ([X の値ビルダー])	EQRY_VBUILD_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[条件] 条件ページの [Value] フィールドの右隣の虫眼鏡ボタンをクリックします。	クエリー条件に使用する属性値を選択します。
条件の保存 ([条件名を入力してください。])	EQRY_PROP_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[条件] 条件ページで [条件を保存] ボタンをクリックします。	現在の条件の選択内容を、この後クエリーで使用するために名称を指定して保存します。クエリービルダーの起動時に選択されているターゲットオブジェクトについて、クエリー条件の選択内容が保存されます。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
条件のロード ([ロードまたは現在の選択内容に追加する保存済条件の選択])	EQRY_LOAD_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[条件] 条件ページで [条件をロード] ボタンをクリックします。	既存の条件の設定内容をロードします。
結果	EQRY_RESULT_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[結果]	クエリーの結果を照会します。
クエリーの保存/ロード	EQRY_COMBO_SAVE_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[クエリービルダー]、[クエリーの保存/ロード]	現在のクエリーを保存したり、定義済みのクエリーをロードします。
定義済クエリー	EQRY_VIEWER_PG	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[報酬管理]、[HCM クエリービルダー]、[定義済クエリー]	クエリービルダーコンポーネントで定義済みのクエリーを実行します。このページは、“クエリービルダー”の結果ページに似ています。

クエリーの属性の選択

“結果の属性” ページにアクセスします。

結果の属性
条件
結果
クエリーの保存/ロード

照会するクラス ID:
電子メール アドレス

有効日:
2005/05/31

属性の選択

[非表示](#)
[詳細](#)
[全て展開](#)
[全て折りたたみ](#)

左

右

Email Addresses

Email Address
Email Type
EmpID
Preferred

Person Core Objects

Birth Country
Birth Location
Birth State
Date of Birth
Date of Death
EmpID
Last Update to Assignment Data

Person Data Model

属性のリスト

選択した属性	Sort	Group By	Count	Sum	Avg	Min	Max
<div> <div>▼</div> Email Addresses - EmpID </div>	<div>▼</div>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				<div>⊞</div>
<div> <div>▲</div> Email Addresses - Email Type </div>	<div>▼</div>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				<div>⊞</div>

☒ 属性のリスト
☒ 外部結合を有効にする

☐ 集計

結果を表示

属性をクリア

デフォルト保存

属性を保存

属性をロード

“結果の属性” ページ

“結果の属性” ページを使用して、検索対象のオブジェクトの属性を選択します。オブジェクトに定義された属性は、どのような組み合わせでも選択できます。

結果の属性の定義中は、いつでもクエリーを実行して結果を参照できます。“結果の属性” ページに戻ってクエリー結果の属性を修正したり、条件ページでクエリーの選択内容を絞り込んだり、定義を保存できます。

[照会するクラス ID] 検索ページで照会用に選択したクラス ID が表示されます。

[属性の選択]

ターゲット クラス ID オブジェクトのフォルダと、選択したクラス ID に対して “オブジェクト クラスの定義” ページで関係が設定された全てのオブジェクトのフォルダが表示されます。この例では、Person Core Objects と Person Data Model の両方のオブジェクトが、Email Addresses オブジェクトと関係が設定されていることを示します。

フォルダをクリックすると、各オブジェクトの属性が表示されます。属性のリンクをクリックすると、[属性グリッド] に追加されます。

[属性の選択] 選択した属性の順序を変更して、結果ページに属性が表示される順序を定義できます。各結果列に表示されるデータのソート順序も定義できます。

[非表示] 属性ツリーを非表示にします。

[詳細] クエリー ビルダーを最初に開くと、[属性の選択] ツリーには直接関連付けによってターゲット オブジェクトに関連付けられたシステム オブジェクトが表示されます。この関係は HCM メタデータで定義され、クエリーで最も頻繁に使用するオブジェクトであることを示します。必要なオブジェクトが見つからない場合は [詳細] リンクをクリックすると、他のオブジェクトも表示されます。

[全て展開] 全ての属性ツリー フォルダの内容が表示されます。

[全て折りたたみ] 全ての属性ツリー フォルダが折りたたまれます。

[属性グリッド] このチェック ボックスをオンにすると、[属性グリッド] で定義した内容に基づいて結果列が表示されます。

[集計] このチェック ボックスをオンにすると、[集計] グリッドで選択した分類に基づいて結果が表示されます。

[外部結合を有効にする] このチェック ボックスをオンにすると、クエリーで外部結合を使用して、クエリーに追加データをまとめることができます。

結果を表示

クエリーが実行されます。結果ページが表示され、クエリーの結果が表示されます。

属性をクリア

(省略可) [選択した属性] リストに表示されている属性がクリアされます。

デフォルト保存

(省略可) 選択した属性が、ターゲット オブジェクトを使用するたびに表示されるデフォルト属性として設定されます。

属性を保存

(省略可) 現在の属性の選択内容がクエリーとして保存されます。

属性をロード

(省略可) 定義済みの属性の設定内容がロードされます。

[属性グリッド]

[選択した属性]

[選択した属性] リストには、ターゲット オブジェクトのリスト ボックス アイテムが Tools レコード定義の定義内容に基づいて自動的に入力されます。クエリーの属性は、必要に応じて追加または削除できます。



これらの矢印アイコンを使用して属性の並び順を変更し、クエリー結果の列の表示順序を定義します。たとえば、[選択した属性] リストの一番上の属性は、クエリー結果では一番左の列として表示されます。

[Sort]

(省略可) 列結果における属性のソート順序を示します。選択可能な値は、空白、[Asc](昇順)、および [Desc](降順) です。1 つまたは複数の列をソートできます。複数ソートを指定すると、列結果は左から右の順にソートされます。ソートされた列結果にはリンクが設定され、クエリー結果の列ヘッダーに表示されます。

[Group By]

このチェック ボックスをオンに設定すると、結果は属性別にグループ化されます。

[Count] (件数)、[Sum] (合計)、[Avg] (平均)、[Min] (最低)、[Max] (最大)

これらのチェック ボックスをオンに設定すると、各グループについて件数がカウントされます。トランザクション金額に関連する属性については、さらに集計や平均額を出したり、最低額や最高額を表示できます。

[集計]

このグリッドのチェック ボックスを使用して、結果ページでの結果の表示方法について指定します。たとえば、結果をオーダー番号別にグループ化して、そのグループごとにオーダー金額を集計したり、最低額や最高額を表示させることができます。

結果の属性のロード

属性のロード ページにアクセスします。

ロードまたは現在の選択内容に追加する保存済出力列の選択				
ロード	追加	選択した列の名前	名称	プライベートクエリー
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	BUSINESSEMAIL	Preferred Business Emails	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	JOB CODE GBI	Job Codes GBI excl SHARE&NERCT	<input checked="" type="checkbox"/>

属性のロード ページ

属性のロード ページを使用して、保存済みの結果列をクエリーに追加します。このページには、全てのユーザーによって保存された全ての属性セットと、ログオン ユーザーがプライベートに設定して保存した属性セットとが表示されます。

[ロード]

クエリーで結果の属性を置き換えます。

[追加]

クエリーに結果の属性を追加します。

[ユーザー ID]

結果の属性を作成して保存したユーザー。

[プライベート クエリー]

このチェック ボックスがオンになっている場合は、プライベート クエリーであることを示します。

クエリー条件の選択

条件ページにアクセスします。

結果の属性	条件	結果	クエリーの保存/ロード									
照会するクラス ID:		有効日:										
電子メール アドレス		2005/05/31										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性名</th> <th>演算子</th> <th>Value</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Email Addresses - Email Type</td> <td>=</td> <td>BUSN</td> </tr> <tr> <td><> AND Email Addresses - Preferred</td> <td>=</td> <td>Y</td> </tr> </tbody> </table>				属性名	演算子	Value	Email Addresses - Email Type	=	BUSN	<> AND Email Addresses - Preferred	=	Y
属性名	演算子	Value										
Email Addresses - Email Type	=	BUSN										
<> AND Email Addresses - Preferred	=	Y										

条件ページ

クエリー結果の属性をロードまたは定義した後、条件ページで任意に条件を追加して、クエリー結果をフィルタできます。選択できるのは、“結果の属性” ページで選択したオブジェクトの属性のみです。条件行を必要な数だけ指定します。または、条件の選択内容を後で使用するために保存したり、現在のクエリーで定義済みの条件選択内容を利用することもできます。

式でインデントを使用することにより、複雑なクエリーを自由に作成できます。クエリー ビルダーでは式をカッコで括ることにより、クエリーが正しく評価されるようにします。

- [属性名]** 照会するクラス ID に割り当てられたオブジェクトの属性を選択します。
- [属性名] フィールドの右隣の虫眼鏡ボタンをクリックすると、条件検索ページにオブジェクトの全ての定義済み属性が一覧表示されます。属性を選択して、条件ページに戻ります。
- [演算子]** ドロップダウン リストから演算子を選択して、条件のフィルタ方法を定義します。
- [Value]** 選択した属性について、クエリー条件として使用する値を入力します。

値の選択

[Value] フィールドの右隣の虫眼鏡ボタンをクリックして値の選択ページにアクセスして、クエリーのフィルタに使用する値を選択します。このページに表示されるフィールドは、条件ページで選択した演算子によって異なります。

[Between] または [Not Bet] 演算子を選択した場合は、[開始] フィールドと [終了] フィールドが表示され、ここに値を設定します。

[Like]、[Not like]、[=]、[<>]、[>]、[<=]、[<]、[>=] を選択した場合は、結果の比較に使用される値を選択します。

[In] または [Not In] 演算子を選択した場合は、1 つまたは複数のチェック ボックスをオンに設定して、結果を返してほしい範囲内の値を指定できます。

条件の定義中はいつでも、[結果を表示] ボタンをクリックしてクエリーを実行させ、条件ページまたは “結果の属性” ページに戻って定義内容を修正したり、必要に応じて保存できます。

条件の使い方

- 結果を表示** 結果ページにクエリーの結果が表示されます。
- 条件をクリア** 現在の属性名と値の選択内容が全てクリアされるので、最初から設定し直します。

条件を保存

(省略可) 現在の属性名と値の選択内容が保存されます。

条件を選択した後、今後使用するためにクエリー定義を保存できます。条件の保存ページで、クエリーの名前と説明を入力して、プライベートに設定するかどうかを選択します。

条件をロード

(省略可) 定義済みの属性名と値の設定内容がロードされます。

このページは、属性のロード ページと同様に機能します。全てのユーザーによって保存された全てのクエリー条件セットと、ログオン ユーザーがプライベートに設定して保存したクエリー条件セットが表示されます。

クエリー結果の表示

結果ページにアクセスします。

結果の属性	条件	結果	クエリーの保存/ロード
照会するクラス ID: 電子メールアドレス		有効日: 2006/06/23	
SQLの表示 Excelにダウンロード 新規追加 クエリーの再実行			
全件表示 最初 ◀ 1-50/558 ▶ 最後			
	従業員 ID	電子メールアドレス*	
1	0022	BUSN	
2	0023	BUSN	
3	0034	HOME	
4	0035	HOME	
5	0036	HOME	

結果ページ

結果ページで、クエリーの結果を表示します。結果列のリンクをクリックすると、属性が定義されているアプリケーション ページに移動することができます。

クエリー SQL を表示するには [SQL の表示] リンク、クエリー結果を Excel ヘダウンロードするには [Excel にダウンロード] リンク、新規条件を追加するには [新規追加] リンク、クエリーを再実行するには [クエリーの再実行] リンクをクリックします。

注: 現在のクエリー結果について [Excel にダウンロード] リンクをクリックすると、現在ページに表示されている結果のみが Microsoft Excel シートにダウンロードされます。全てのクエリー結果をダウンロードするには、[全件表示] リンクをクリックしてから、[Excel にダウンロード] リンクをクリックします。

集計グリッド

“結果の属性” ページの [属性グリッド] と [集計] グリッドで選択した内容に基づいて、ソート結果と集計結果が表示されます。このグリッドは、“結果の属性” ページの集計チェック ボックスをオンに設定した場合のみ表示されます。

クエリーの保存とロード

“クエリーの保存/ロード” ページにアクセスします。

“クエリーの保存/ロード” ページ

クエリーを定義する際、結果の属性と条件はそれぞれ別の定義として保存できます。これにより、さまざまな結果の属性や条件を、要件に合わせて柔軟に組み合わせることができます。さらに、出力（結果の属性）の選択内容と条件の選択内容を組み合わせたクエリー定義も保存することができます。

[クエリー名] クエリーを保存する名称を入力します。クエリー ビルダー クエリーを保存すると、結果の属性と条件の両方に関する選択内容が保存されます。

[プライベート クエリー] このチェック ボックスをオンにすると、クエリーがプライベートに設定され、このクエリーを作成したユーザーしか使用できなくなります。

ロード このボタンをクリックすると、定義済みクエリーがロードされます。

定義済みクエリーの実行

定義済みクエリー ページにアクセスします。

出力と条件の組み合わせ、名称、元のクラス ID、またはこれらの組み合わせについて検索して、クエリーを選択します。実行するクエリー結果をクリックします。[定義の表示] リンクをクリックすると、クエリービルダー コンポーネントにアクセスします。ここでクエリーの結果列、属性、または条件を変更して、クエリーに返すことができます。

注: クエリー ビルダー内から既存のクエリー定義をロードすることにより、その他の定義済みクエリーも使用できます。

第 28 章

HCM 変換フレームワークの使い方

このセクションでは、HCM 変換フレームワークの概要、および HCM 変換マップの設定と管理方法について説明します。

変換フレームワークについて

サービス オペレーション送信側アプリケーションで使用されるメッセージ構造は、サービス オペレーション受信側アプリケーションのメッセージ構造と異なることがあります。この場合、ターゲット アプリケーションで受信されるようにするには、メッセージを変換する必要があります。HCM 変換フレームワークでは、定義ロジックを使用してメッセージが変換されます。ユーザーが設定した情報を使用し、変換フレームワークにより正しい変換ロジックが適用され、ターゲット アプリケーションの要件に準拠するメッセージが生成されます。

HCM 変換フレームワークを使用すると、PeopleSoft アプリケーション間においても、Oracle、SAP、Siebel などのサードパーティのアプリケーションとの間においても、シームレスな統合が可能になります。変換マップには変換スキーマが関連付けられているため、スキーマを検索して修正することにより、外部の変更に対応できます。

変換マップ レジストリは、変換マップから構成されます。変換マップでは、ターゲット アプリケーションとソース アプリケーションの両方のメッセージについて、メッセージ プロパティを定義します。変換スキーマは、各変換マップごとに作成します。変換スキーマとは、2 つのアプリケーション間のメッセージ構造のマッピングを定義する XML ドキュメントです。

メッセージがアプリケーションで正常に受信されるよう、変換する必要がある場合は、インテグレーションブローカーのリレーションシップ コンポーネント (IB_RELATIONSHIP) でメッセージに変換プログラムを割り当てる必要があります。

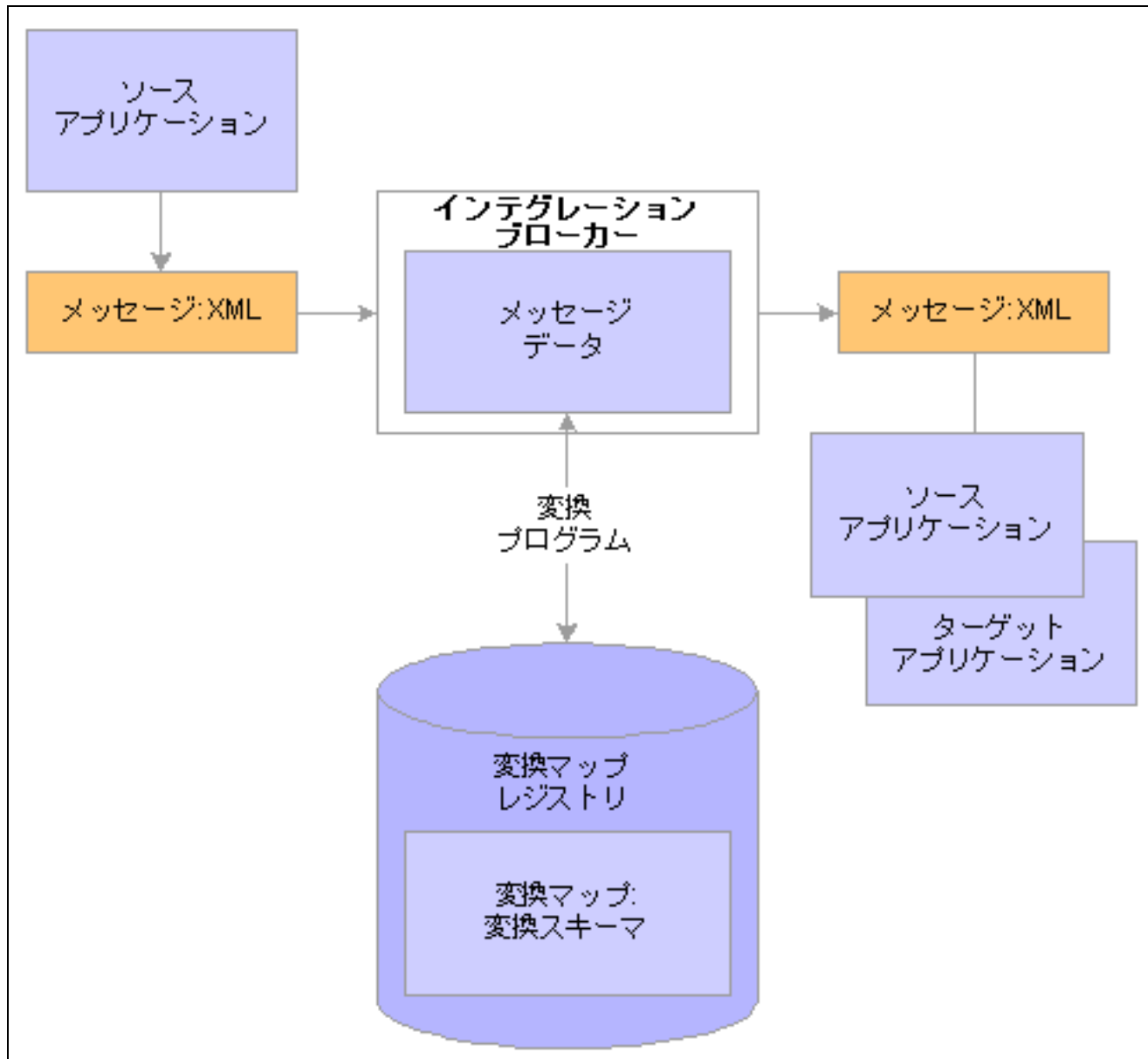
変換フレームワークでは、6 つの変換プログラムがサポートされています。

- HTMF_TR_IA: インバウンド非同期通信
- HTMF_TR_IS: インバウンド同期通信
- HMTF_TR_ISR: インバウンド同期レスポンス
- HTMF_TR_OA: アウトバウンド非同期通信
- HTMF_TR_OS: アウトバウンド同期通信
- HMTF_TR_OSR: アウトバウンド同期レスポンス

トランザクションのタイプに基づいて適切な変換プログラムを選択して、メッセージに関連付けます。

変換する必要があるメッセージがアプリケーションからパブリッシュされると、PeopleSoft インテグレーション ブローカーによってメッセージに関連付けられた変換プログラムが起動されます。変換プログラムによって、ターゲット メッセージに対応する変換マップが決定され、XML 変換言語である XSLT を使用して変換スキーマがメッセージ データに適用されます。変換スキーマでは、ターゲット アプリケーションの要件に合わせて、メタデータまたはメッセージ データそのものを修正できます。変換されたメッセージ データは、PeopleSoft インテグレーション ブローカーによって、ターゲット アプリケーションに構造的に準拠する XML ドキュメントに再パッケージされます。この後、インテグレーション ブローカーによって、このメッセージを受信アプリケーションに送信できます。

次の図は、HCM 変換フレームワークを使用したデータ変換における、1 つのアプリケーションから別のアプリケーションへのデータの流れを示しています。



変換フレームワークを使用したデータ変換

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Integration Brokerの「Applying Filtering, Transformation and Translation」

PeopleSoft インテグレーション ブローカーの基本メッセージ フォーマット

変換スキーマを作成する前に、アプリケーション データをパッケージするために PeopleSoft インテグレーション ブローカーで使用する XML ドキュメントの基本フォーマットについて理解しておくことをお勧めします。

```
<?xml version="1.0"?>
<PeopleSoftMessageName>
  <FieldTypes>
    <RecordName1 class="R">
      <fieldname1 type="CHAR"/>
      <fieldname2 type="NUMBER"/>
      ...
    </RecordName1>
    <RecordName2 class="R">
      <fieldname1 type="CHAR"/>
      <fieldname2 type="NUMBER"/>
      ...
    </RecordName2>
    ...
  </FieldTypes>
  <MsgData>
    <Transaction>
      <RecordName1 class="R">
        <fieldname1>Fieldvalue</fieldname1>
        <fieldname2>Fieldvalue</fieldname2>
        ...
      </RecordName1>
      <RecordName2 class="R">
        <fieldname1 type="CHAR"/>
        <fieldname2 type="NUMBER"/>
        ...
      </RecordName2>
      <PSCAMA class="R">
        <AUDIT_ACTN>ActionCode</AUDIT_ACTN>
        </PSCAMA> ...
      </Transaction>
      ...
    </MsgData>
  </PeopleSoftMessageName>
```

このフォーマットは、ターゲット アプリケーションへ送信されるために、XML ドキュメントにパッケージされます。変換フレームワークでサポートされている変換プログラムのうちの 1 つをメッセージに関連付けておくと、この変換プログラムによって適切な変換マップが指定され、メッセージに変換スキーマが適用されて、メッセージ構造が修正されます。メッセージは修正された形式で XML ドキュメントに再パッケージされ、送信されます。

注: 変換プログラムは、変換フレームワークによってサポートされている必要があります。サポートされたプログラムのみ、変換マップと連動して処理できます。変換フレームワークとは無関係に、設定済みのアプリケーション エンジンまたは XSLT 変換プログラムも関係定義の一部として追加できます。

変換プログラムでは、標準メッセージ構造の以下のエレメントを修正できます。

PeopleSoftMessageName	アプリケーション デザイナを使用して PeopleSoft に定義されたメッセージの名称。 変換プログラムにより、メッセージ名を変更できます。
FieldTypes	レコードとそのフィールドのメタデータ。 変換プログラムにより、ターゲット アプリケーションに必要なフィールドを選択して、その名称を変更できます。
Transaction	レコードとそのフィールドのデータが含まれ、階層に構成されたもの。各レベルのレコード タグには、そのレコードのフィールドが含まれます。 変換プログラムにより、ターゲット サービス オペレーションに必要な 1 つまたは複数のレコード サブセットとそのフィールドを選択するか、またはフィールドのサブセットを 1 つだけ選択して、その名称を変更できます。
PSCAM (PeopleSoft 共通アプリケーション メッセージ属性)	トランザクション全体に関する情報を提供する、トランザクション内の最後のレコード。PSCAMA レコードには、全てのメッセージで共通するフィールドが含まれます。〈PSCAMA〉タグは、メッセージのトランザクション セクションの各レベルの各行について繰り返されます。送信者は PSCAMA フィールドを設定して、メッセージ言語や行のトランザクション タイプなど、メッセージに関する基本情報を指定できます。 変換プログラムにより、この構造がターゲット メッセージ構造にコピーされます。

HCM 変換マップの設定と管理

HCM 変換マップを設定および管理するには、“変換マップの登録” コンポーネント (HMTF_WZ_STEP1) と変換マップ レジストリ コンポーネント (HMTF_TRF_REGISTRY) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 変換マップの設定
- HCM 変換マップ レジストリの使い方

HCM 変換マップの設定と管理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
変換マップ	HMTF_WZ_STEP1	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[変換マップの登録]、[変換マップ]	変換マップ(変換 XML スキーマ)の定義や修正を行います。
HCM 変換マップ	HMTF_TRF_REGISTRY	[HRMS 基本設定]、[システム管理]、[HCM レジストリ]、[変換マップレジストリ]、[HCM 変換マップ]	メッセージ名、メッセージバージョン、アプリケーションバージョンおよびトランザクションタイプに基づいて変換マップの体系を構成します。 変換マップ URL をクリックして、変換マップを修正します。

HCM 変換マップの設定

変換マップ ページにアクセスします。

変換マップ

変換元

メッセージ名
PERSON_BASIC_SYNC

メッセージ バージョン
INTERNAL

*アプリケーション リリース
デフォルト

オブジェクト オーナー ID
HR コア

変換先

メッセージ名
PERSON_BASIC_SYNC

メッセージ バージョン
VERSION_3

トランザクション タイプ
アウトバウンド - 非同期

UUID

変換定義

```
<?xml version="1.0"?>
<transformation>
<structure>
<message message_name="PERSON_BASIC_SYNC">
  <PERSON class="R" source_record="PERSON_V3">
    <EMPLID type="CHAR" source_file="EMPLID"/>
    <BIRTHDATE type="DATE" source_file="BIRTHDATE"/>
    <BIRTHPLACE type="CHAR" source_file="BIRTHPLACE"/>
    <BIRTHCOUNTRY type="CHAR" source_file="BIRTHCOUNTRY"/>
    <BIRTHPSTATE type="CHAR" source_file="BIRTHPSTATE"/>
  </PERSON>
</message>
</structure>
</transformation>
```

キャンセル

登録

変換マップ ページ

変換マップは、HCM 変換マップ コンポーネントのポータル レジストリ (HC_REGISTRY) に HTML テンプレートとして保存されます。

[メッセージ名]、[メッセージ バージョン]	ソース (変換元) アプリケーションとターゲット (変換先) アプリケーションの両方について、メッセージ名とバージョンを選択します。
[アプリケーション リリース]	ソース アプリケーションのリリースを選択します。
[トランザクション タイプ]	トランザクション タイプが [インバウンド - 同期]、[インバウンド - 非同期]、[アウトバウンド - 同期]、[アウトバウンド - 非同期]、[インバウンド - 同期レスポンス]、または [アウトバウンド - 同期レスポンス] のいずれであるかを指定します。
[オブジェクト オーナー ID]	オブジェクトのオーナーを選択します。
[変換定義]	ソース サービス オペレーション構造をターゲット サービス オペレーション構造にマッピングするためのマッピング情報 (スキーマ) を定義します。

変換スキーマの定義

変換定義には、以下のコードが含まれます。

```
<?xml version="1.0"?>
<transformation type="IA" application_release="Application Name and?
Release" default_node="Default Node Name">
  <structure>
    <message message_name="Original Message Name" new_message_name="New Message?
Name">
      <TargetMessageRecord class="R" source_record="SourceMessageRecord ">
        < TargetMessageRecordField1 type="CHAR" value="DefaultValue"/>
        < TargetMessageRecordField2 type="CHAR" source_field="SourceMessageRecord?
Field" [source_record="SourceMessageRecord"/>
        ...
      </TargetMessageRecord>
    </message>
  </structure>
</transformation>
```

次のエレメントに値を入力してください。

XML タグ	エレメント	値
transformation	type	変換タイプを入力します。使用可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • インバウンド非同期 • インバウンド同期 • アウトバウンド非同期 • アウトバウンド同期
	application_release	(省略可) PeopleSoft インテグレーション ブローカーで定義した関係の Category.AppRelease プロパティを入力します。
	default_node	(省略可) 使用するデフォルトのノードを入力します。
message	message_name	ソース サービス オペレーションの名称を入力します。
	new_message_name	(省略可) 変換先の構造でのメッセージの名称を入力します。
[TargetMessageRecord] 注: このタグは、ターゲットメッセージレコード名となるように編集します。	class	エレメント クラスを入力します。メッセージ構造に基づく PeopleSoft レコードの値は "R" です。
	source_record	(省略可) ソースレコードの名称を入力します。ソースレコードとターゲットレコードの名称が異なる場合は、この値を入力する必要があります。
[TargetMessageRecordField] 注: このタグは、ターゲットメッセージレコードのフィールド名となるように編集します。	type	ターゲットアプリケーション用に変換されたメッセージのフィールドのデータタイプを選択します。有効値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • CHAR • DATE • NUMBER
	source_field または value	ターゲットアプリケーション用に変換されたメッセージ構造に値をコピーする必要があるソースレコードフィールド名か、またはデフォルト値を入力します。 注: source_field または value のいずれかに値を入力します。両方に値を入力することはできません。

HCM 変換マップ レジストリの使い方

HCM 変換マップ ページにアクセスします。



HCM 変換マップ ページ

メッセージ名、メッセージ バージョン、アプリケーション バージョン、トランザクション タイプによって変換マップをドリルダウンします。テンプレート URL をクリックして、その変換マップの変換マップ ページにアクセスします。

第 29 章

定型文書の設定と作成

この章では、HRMS 定型文書の概要と以下の内容について説明します。

- PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用定型文書の作成
- 標準文書コードの設定
- その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書の作成
- サンプル定型文書

PeopleSoft Enterprise HRMS 定型文書について

このセクションでは、PeopleSoft Enterprise HRMS 定型文書のための事前設定と PeopleSoft Enterprise HRMS 定型文書的使用方法について説明します。

事前設定

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の PeopleSoft プロセス スケジューラを使用して、PeopleSoft Enterprise HRMS で提供されているサンプル定型文書を作成します。PeopleSoft プロセス スケジューラでは、次のジョブが実行されます。

1. SQR (Structured Query Report) を実行して、SQRibe Technology 社の Structured Query Report Writer を使ってデータベースからデータを抽出します。
2. Microsoft Word for Windows をワープロとして使用して、このデータを Word の文書テンプレートに差し込みます。
3. 結果の文書を Web サーバーに送ります。

SQRibe Technology 社の Structured Query Report Writer 以外のレポートライター、または Microsoft Word for Windows 以外のワープロを使用する場合は、この章の説明を参考にし、定型文書の作成手順についての理解を深めてください。次に、使用しているレポートライターまたはワープロの説明書を参照し、サンプル文書に合わせて手順を変更します。

サンプル文書についての理解が深まると、他のタスク用に定型文書を変更したり、新たに作成できるようになります。

注: 文書を作成するには、Microsoft Word for Windows の差し込み印刷機能について理解しておく必要があります。

関連項目:

第 29 章、「定型文書の設定と作成」、「定型文書の応用」、708ページ

PeopleSoft Enterprise HRMS 定型文書の使い方

PeopleSoft Enterprise HRMS では、PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションで使用するいくつかのサンプル定型文書が用意されています。定型文書を作成するには、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用と、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理以外のアプリケーション（“その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション”と呼びます）用の 2 つの方法があります。

該当する方法を使用して、定型文書を作成してください。

多くのヒューマン リソース管理用アクティビティには、次のような定期的な定型の文書やメモの送信が含まれています。

- (PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理) コース セッションの登録、キャンセル、およびスケジュール変更を通知する文書
- (PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール、Pension Administration、Benefits Administration) 各種文書類、通知定型文書、プラン更新を通知する文書

このような文書の文言は、住所、日付などの情報が変わるだけで、内容はいつもほとんど同じです。PeopleSoft Enterprise HRMS では、ヒューマン リソース管理データベースの必要なデータにアクセスし、使用しているワープロで定型文書を作成できます。

複数タイプの文書の作成と印刷を同時に行ったり、文書を作成して先に確認し、後で印刷することもできます。この章の最後に、2 つのサンプル定型文書が用意されています。

関連項目:

Microsoft Word for Windows User's Guide

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 教育・研修管理、「受講者の登録と登録待ち」

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 労使関係管理、「労使関係管理データの設定」、「労使関係管理での懲戒・指導、苦情、措置の分類の設定」

PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理 9.0 PeopleBook、「採用プロセスの設定」

PeopleSoft Enterprise 応募者ゲートウェイ 9.0 PeopleBook、「応募者ゲートウェイの利用」

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の定型文書の作成

このセクションでは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の定型文書の概要と、以下の作業方法について説明します。

- PeopleSoft プロセス スケジューラを使った定型文書の作成
- 定型文書ファイルでの名称指定規則の使用
- 定型文書の設定
- 定型文書を印刷するための準備
- 定型文書の応用
- 定型文書のトラブルシューティング

注: これらの説明は、テンプレートを使って PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の定型文書を作成するためのものです。その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用の定型文書を作成するには、別の方法で行います。該当する説明に従って、定型文書を作成してください。

関連項目:

第 29 章、「定型文書の設定と作成」、「その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書の作成」、715 ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の 定型文書の作成について

PeopleSoft では、以下のアプリケーションで使用するサンプル定型文書が用意されています。

- PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理: 教育・研修管理
- PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理: 労使関係管理

定型文書プロセスでは、特定の文書コードでタグ付けされているレコードについてデータベースを検索します。たとえば、教育・研修管理ビジネス プロセスを使用して従業員を研修コースに登録するとき、必要な文書のタイプを識別する文書コードを従業員レコードに追加できます。その後、研修関連文書レポートを実行すると、研修関連文書に関する文書コードの設定されたレコードが検索されます。

定型文書プロセスでは Microsoft Word for Windows を使用して PeopleSoft データベースから抽出されたデータに基づいて文書が作成されます。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用定型文書を作成するには、次の手順に従います。

1. 標準文書テーブル ページ (STANDARD_LTR_TABLE) を使用して文書コードを作成します。
文書コードは定型文書を表し、レコードと必要な文書を関連付けるために使用します。
2. PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理データベースの従業員レコードに、該当する文書コードを挿入してタグを付けます。
定型文書を作成するときに、応募者、従業員、非従業員、または関係者のレコードに文書コードを入力してレコードにタグを付けます。
たとえば、受講者を登録または研修コースの登録待ちリストに追加すると、その受講者の従業員レコード、非従業員レコード、または関係者レコードに文書コードが挿入されます。
3. 以下のプロセスを行うレポートを実行して、定型文書を作成します。
 - a. SQR データ抽出プロセス
 - b. WinWord WORDINIT プロセス
 - c. PSMERGE アプリケーション エンジン プロセス

最後に、配信エージェントを使用して、文書ファイルをレポート リポジトリに転送します。

4. 研修関連文書を電子メールで送信します。
この手順は、研修関連文書のみ該当します。電子メール アドレスが従業員レコードに存在する受講者に対して、研修関連文書が電子メールで送信されます。

注: 研修関連文書を電子メールで自動的に送信するには、SMTP を設定してワークフローをアクティブにする必要があります。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: System and Server Administration

5. Microsoft Word for Windows を使用して文書を印刷します。

定型文書は Web サーバー上の一時ディレクトリに作成され、同じタイプの文書は全て 1 つのファイルにまとめられます。

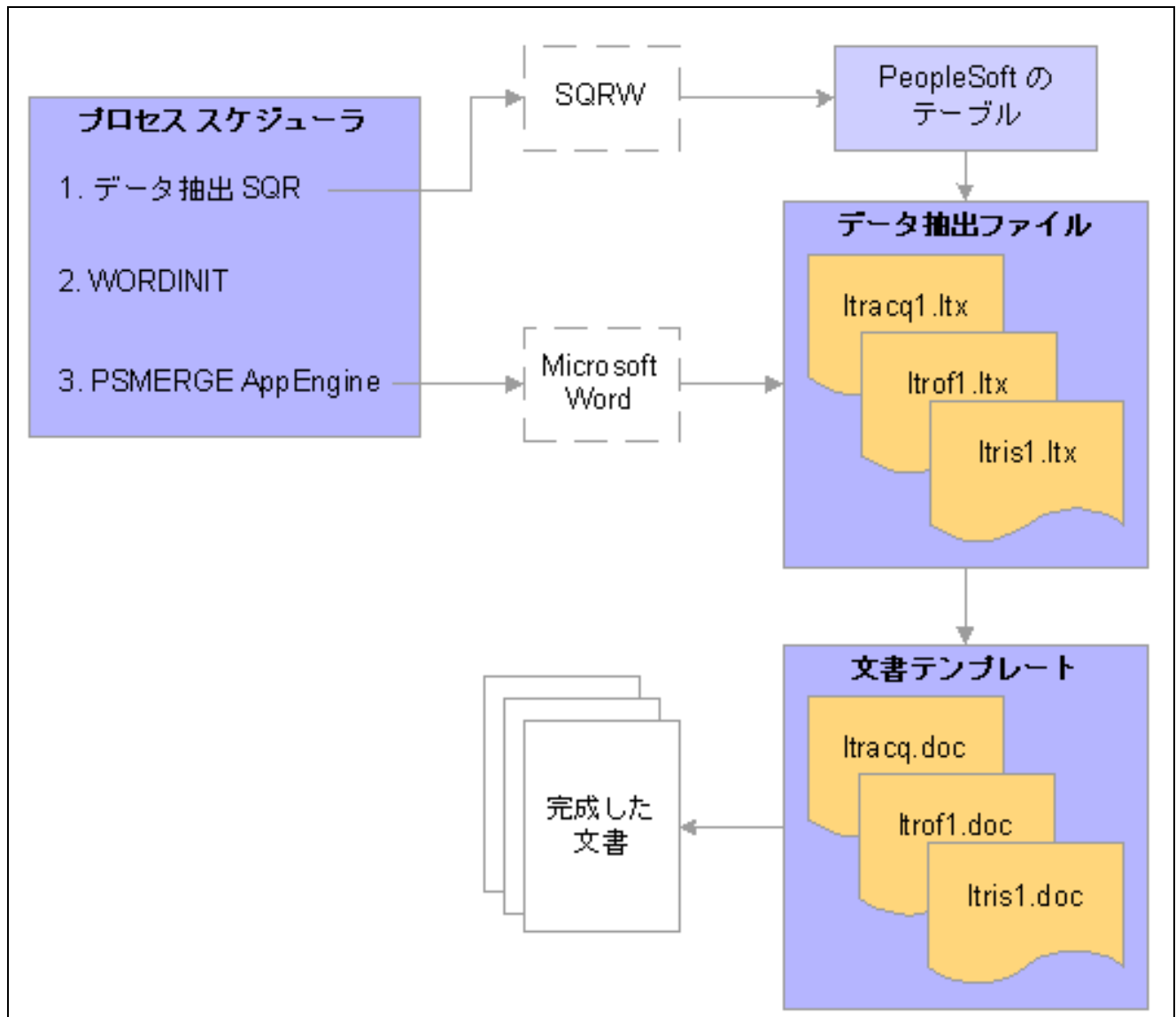
PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システムが提供するアーキテクチャによって、アプリケーション サーバーはユーザーのマシンから離れた場所に設置できるため、文書はデフォルトプリンタには自動的に出力されません。その代わりに、Microsoft Word for Windows の標準印刷オプションを使用して文書の印刷先を選択できます。

関連項目:

第 29 章、「定型文書の設定と作成」、「標準文書コードの設定」、713 ページ

定型文書の作成

次の図は、PeopleSoft プロセス スケジューラを使った PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用定型文書の作成方法を示しています。



PeopleSoft プロセス スケジューラを使った PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用定型文書の作成

ステップ 1: SQR データ抽出プロセス

SQR データ抽出プロセスでは、以下の処理を行います。

- 該当する文書コードが設定され印刷日の指定されていないレコードを、データベースで検索します。
- これらのタグで識別されたレコードからデータを抽出します。
- タグ付きレコードの印刷日フィールドを更新します。
- データを格納したデータ抽出ファイルを、拡張子 .ltr で文書ごとに作成します。

たとえば、条件提示文書のデータを含むファイルは ltrof1.ltr となります。このとき、of1 は条件提示、.ltr は文書であることを表します。

SQR プロセスにより、出力内容は SQR レポートに定義された log/output ディレクトリに送信されます。log/output ディレクトリは、プロセス スケジューラの設定ファイルで定義します。

ステップ 2: WORDINIT WinWord プロセス

WORDINIT WinWord プロセスは初期化プロセスです。このプロセスを行うことにより、PSMERGE アプリケーション エンジン プロセスで以下の場所を取得できるようにします。

- Microsoft Word for Windows の実行ファイルである winword.exe の保存場所
- 文書テンプレートの格納された PS_HOME ディレクトリ

WORDINIT プロセスにより winword.exe および PSINIT と呼ばれるダミー マクロが実行されます。このマクロは、出力を作成せずに psmerge.doc ファイルを開いたり閉じたりします。WORDINIT WinWord プロセスをジョブ定義に含めることにより、winword.exe ファイルへのパスがプロセス スケジューラによって PSPRCSPARMS にロードされます。

PSMERGE アプリケーション エンジン プロセスは、この情報を使用して Microsoft Word for Windows を呼び出します。

ステップ 3: PSMERGE アプリケーション エンジン プロセス

PSMERGE アプリケーション エンジン プロセスにより、データ抽出ファイルから Word テンプレートへの差し込みが完了します。このプロセスでは、以下の処理を行います。

- データ抽出ファイル、winword.exe、および PS_HOME Winword ディレクトリの場所を検索します。
- param.txt と呼ばれるファイルを log/output ディレクトリに作成します。
このファイルには、ファイルの場所と差し込まれるファイルのリストが含まれます。
- Microsoft Word for Windows を呼び出し、差し込み処理を実行します。

Microsoft Word for Windows では、以下の処理を行います。

- データ抽出ファイルに対応する定型文書テンプレートを開きます。
- 各テンプレートのフィールド コードに該当する抽出ファイルのデータを差し込みます。

たとえば、条件提示文書の場合、テンプレートは ltrof1.doc で、氏名、住所、提示額のフィールド コードが含まれています。

- 該当する .ltr ファイルから、テンプレートのフィールド コードにデータを挿入します。
たとえば、ltrof1.ltr 抽出ファイルから ltrof1.doc テンプレートへデータを挿入します。
- 結果の文書を log/output ディレクトリに保存します。

定型文書ファイルでの名称指定規則の使用

既存の定型文書を応用する、または新規の定型文書を作成する前に、プロセスの各エレメントの名称指定規則について理解する必要があります。自分で新たに作成した定型文書コンポーネントには、同じ名称指定規則を使用します。

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 文書コードの使い方
- データ抽出ファイルおよび対応する Word の文書テンプレートの使い方

文書コードの使い方

標準文書テーブル コンポーネントで文書コードを作成します。文書コードを使用して、特定のレコードに必要な文書のタイプについて指定します。サンプル文書で使用する PeopleSoft 標準の文書コードについて、下の表に示します。

データ抽出ファイルおよび対応する Word の文書テンプレートの使い方

拡張子 .ltr は定型文書であることを表し、拡張子 .doc は標準テンプレートであることを表します。定型文書を作成する文書コードには、それぞれに対応するデータ抽出ファイルと、データ抽出ファイルと同じ名前のテンプレートが必要です。

オブジェクト	例
新規文書コード	xyz
データ抽出ファイル名	aaaxyz.ltr
テンプレート名	aaaxyz.doc

以下に文書コードと、それに関連付けられたデータ抽出ファイルおよび Word のテンプレートを示します。

- 研修関連文書

文書の目的	文書コード	データ抽出ファイル	Word の文書テンプレート
セッション登録の確認	CON	ltrcon.ltr	ltrcon.doc
セッションのスケジュール変更通知	RSC	ltrrsc.ltr	ltrrsc.doc
セッションのキャンセル通知	CAN	ltrcan.ltr	ltrcan.doc

注: 標準文書テーブルには、WTC と WTS の 2 つの文書コードも含まれており、教育・研修管理で登録待ちリストに入っている受講者に使用されます。これらのコードには関連付けられたマクロおよびサンプル文書はありません。

• 労使関係関連文書

文書の目的	文書コード	データ抽出ファイル	Word の文書テンプレート
懲戒・指導の確認	DAF	ltrdaf.ltr	ltrdaf.doc
懲戒・指導最終決定の確認	DAR	ltrdar.ltr	ltrdar.doc
苦情の確認	GRF	ltrgrf.ltr	ltrgrf.doc
苦情最終処理の確認	GRR	ltrgrr.ltr	ltrgrr.doc

定型文書の設定

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- プロセス スケジューラの設定
- WinWord セキュリティの設定
- 文書テンプレートの設定
- WORDSAMP プロセスの実行
- SQR プロセスの出力タイプとフォーマットの指定

プロセス スケジューラの設定

定型文書を作成するためにプロセス スケジューラを設定するには、次の手順に従います。

1. プロセス スケジューラを実行するマシンに Microsoft Word for Windows をインストールします。
2. WINWORD パラメータをプロセス スケジューラの設定ファイルに定義します。

WINWORD パラメータによって、Microsoft Word for Windows 実行ファイルである winword.exe のサーバー上の場所を定義します。パスの中にスペースが含まれていないこと、およびパスの最後がスラッシュ (/) で終わっていないことを確認してください。

3. プロセス スケジューラを使用して、定型文書プロセスの実行専用サーバーを定義します。

[PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[サーバー定義] の順にクリックして、サーバーを定義します。配信ページの [レポート リポジトリへのシステム ファイル転送] チェック ボックスをオフにします。

プロセス スケジューラをサービスとして実行する場合は、以下の方法でデスクトップとの対話を行うようにサービスを変更します。

1. Microsoft Windows のコントロール パネルで [Administrative Tools] の [Services] を開きます。

2. Process Scheduler サービスを開いて、[ログオン] タブにアクセスします。
3. [ログオン] で [ローカル システム アカウント] オプション ボタンを選択して、[デスクトップとの対話をサービスに許可] チェック ボックスをオンに設定します。

これにより、Microsoft Word for Windows をサーバーのフォアグラウンドで実行可能になります。Microsoft Word for Windows のマクロをバックグラウンド サービスとして実行することはできません。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler の「Appendix: Using the PSADMIN Utility」

Winword セキュリティの設定

差し込み処理を完了させるマクロを実行するには、マクロ ウイルス保護機能を“低”に設定する必要があります。このためには、次の手順に従います。

1. Microsoft Word for Windows を実行して、メニュー バーから [ツール] を選択します。
2. 使用している Word のバージョンに合わせて、セキュリティを設定します。
 - Microsoft Word for Windows 97: [オプション] を選択して [全般] タブをクリックします。[マクロウイルスを自動検出する] チェック ボックスをオフにします。
 - Microsoft Word for Windows 2000: [マクロ]、[セキュリティ] の順にクリックして [セキュリティ] ウィンドウを表示します。セキュリティ レベルの設定を [低] に設定します。

参照: Microsoft Word for Windows User's Guide

文書テンプレートの設定

定型文書を作成するには、文書テンプレートとマクロを %PSHOME%\winword ディレクトリに置く必要があります。

psmerge.doc ファイルと psmerge.dot ファイル、および他の全ての文書テンプレートが読取専用であることを確認してください。

WORDSAMP プロセスの実行

定型文書プロセスを実行する前に、WORDSAMP プロセスを実行して環境についてテストします。このプロセスが正常に終了した場合は、Microsoft Word プロセスを実行するための環境が正しく設定されていることを示します。

注: WORDSAMP プロセスが正常に終了したかどうかの確認は、wordsamp.doc という名前の文書が作成されたことを確認して行います。

WORDSAMP プロセスを実行するには、次の手順に従います。

1. [PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[プロセス リクエスト] の順にクリックします。検索ページでラン コントロール ID を入力してから、通知文書作成ページで [実行] ボタンをクリックします。
2. プロセス リクエスト ページが表示されます。
3. [サーバー名] フィールドでサーバーを選択して、[Winword サンプル プロセス] チェック ボックスをオンに設定します。
4. [OK] をクリックします。
5. [プロセス モニター] リンクをクリックして、プロセスが正常に実行されたこと（実行ステータスが [成功] になる）を確認します。

6. wordsamp.doc という名前の文書が作成されたことを確認します。この文書は、通常のレポートとしてレポート リポジトリに転送されます。

プロセスが正常に終了しない、または wordsamp.doc が作成されない場合は、マシンの環境が WinWord プロセスを実行するために正しく設定されていません。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler の「Submitting and Scheduling a Process Request」

SQR プロセスの出力タイプとフォーマットの指定

定型文書レポートを実行して文書を作成する際に、[出力タイプ] フィールドと [フォーマット] フィールドが、SQR データ抽出プロセス用に正しく設定されていることを確認します。SQR プロセスでは、出力タイプを [ファイル] に、フォーマットを [LP] に設定する必要があります。

たとえば、研修通知を作成する場合は、出力タイプとフォーマットを次のように設定します。

1. [教育・研修管理]、[受講者の登録]、[研修通知作成] の順にクリックして、研修通知ページ (RUNCTL_TRN001) にアクセスします。
2. 実行パラメータを入力して、[実行] をクリックします。
3. プロセス リクエスト ページで [研修通知] リンクをクリックして、ジョブ詳細ページにアクセスします。
4. 通知を作成する 3 つのプロセスがリストされている [プロセス リスト] グループ ボックスで SQR プロセス TRN001 を見つけ、[出力タイプ] フィールドで [ファイル] を選択し、[フォーマット] フィールドで [LP] を選択します。

定型文書レポートの実行に関する詳細については、該当する PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 PeopleBook を参照してください。

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 労使関係管理、「懲戒・指導および苦情データの管理」

参照: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 教育・研修管理、「受講者の登録と登録待ち」、「受講者宛て定型文書の作成」

定型文書を印刷するための準備

定型文書を印刷できるようにするには、PeopleSoft 提供の付属のマクロを環境に合わせて変更し、プロセス スケジューラの設定ファイルを設定する必要があります。

設定によっては、付属の Microsoft Word for Windows の標準マクロに以下の変更を加える必要があります。

- 全てのマクロを含む empty.doc ファイルへのデフォルトのパス
- 文書の作成される場所

マクロにより、文書はアプリケーション サーバーの C:\TEMP ディレクトリに作成されます。マクロを編集して文書の場所を変更し、Microsoft Word for Windows から文書を印刷する際にローカル プリンタに出力できるようにしてください。

定型文書を印刷するためにシステムを設定するには、次の手順に従います。

1. “サーバー定義” の配信ページで、[レポート リポジトリへのシステム ファイル転送] チェック ボックスをオフにしたまま、定型文書を実行する専用のプロセス スケジューラを新規作成します。
2. WINWORD 変数をプロセス スケジューラの設定ファイルに定義します。

WINWORD は、定型文書を作成するためにプロセス スケジューラによって実行される Microsoft Word for Windows の実行ファイルの場所を定義します。たとえば、Microsoft Word for Windows がアプリケーション サーバーで稼動している場合、プロセス スケジューラの設定ファイルのこの行は次のようになります。

```
WINWORD=C:\¥APPS¥OFFICE97¥OFFICE
```

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler

定型文書の応用

定型文書は、サンプル文書が用意されている管理業務だけでなく、多くの管理業務でも便利に利用できます。サンプル定型文書には、いろいろな方法で変更を加えることができます。テンプレートのテキストに簡単な変更を加えるだけの場合も、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で他のページに [文書コード] フィールドを追加する場合もあります。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- サンプル文書テンプレートのテキストの変更
- サンプル文書へのフィールドの追加
- 新規定型文書の作成
- ページへの文書コード フィールドの追加

サンプル文書テンプレートのテキストの変更

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理に付属する定型文書テンプレートには、各種のタスク用のサンプル テキストが含まれており、ユーザーのニーズに合わせて変更することができます。たとえば、文書の送信者名を、組織でのタスク管理の責任者である従業員名に変更する場合などです。使用するフィールドや、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で参照されるページやテーブルを変更せずに、テキストだけを変更する必要がある場合は、以下に示す手順に従います。

定型文書のテキストを変更するには、次の手順に従います。

1. 更新する Word の文書テンプレートを探します。
テンプレートは ¥PS¥WINWORD ディレクトリにあります。
2. Microsoft Word for Windows で、変更する文書を開きます。
文書に “ ” がある場合は、[ツール]、[オプション] を選択し、[フィールド コード] チェック ボックスをオンに設定します。
3. 一般にドキュメントのテキストを変更するのと同じ方法で、テキストに変更を加えてファイルを保存します。

警告: 中かっこ ({ }) で囲まれているフィールド コードは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理から抽出される値のプレースホルダなので、上書きしないよう注意してください。

サンプル文書へのフィールドの追加

サンプル文書は、テキストを更新できるだけでなく、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の他のタイプのデータを含めることができます。

注: この変更を行うには、Microsoft Word for Windows のフィールド、および PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理データベースからデータ値を抽出するために使われるレポート ライターに精通している必要があります。

定型文書で追加フィールドを使用するには、次の手順に従います。

1. 新しいタイプのデータを含める場合は、そのデータ用のフィールド コードを定型文書テンプレートに追加します。
2. PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理からデータを抽出する SQR を変更し、使用する全てのフィールドから値が取得され、その値が適切なデータ抽出ファイルに書き込まれるようにします。

たとえば、研修登録確認文書 ltrcon.doc にコース名を含めるには、定型文書テンプレートにコース名のフィールド コードを追加します。また、TRN001.sqr にコース名の変数を追加し、SQR によってコース名の値が取得され、それがデータ抽出ファイルに書き込まれるようにします。

変更前のデータ抽出ファイルは次のとおりです。

```
systemdate, Name, . . . ,
"August 10, 2001", "Barry Robert Campbell"
```

変更後のデータ抽出ファイルは次のとおりです。

```
systemdate, Name, Title...
"August 10, 2001", "Barry Robert Campbell", "Director ". . .
```

新規定型文書の作成

他の目的に使用する新規の定型文書を作成することができます。たとえば、コース セッションの登録待ちの状態にあることを受講者に通知する定型文書を作成できます。

新規定型文書を作成するには、次の手順に従います。

1. 新規文書コードを標準文書テーブルに作成します。
2. 適切なテキスト、フィールド コード、およびデータ ステートメントの参照が含まれている Word 文書テンプレートを作成します。

テンプレートのファイル名は、データ抽出ファイル名 (拡張子は .ltr) と一致する必要があります。たとえば、データ抽出ファイル名が app004.ltr の場合は、Word のテンプレート ファイル名も app004.doc である必要があります。

定型文書を新規に作成するよりも、既存の定型文書テンプレートを応用する方が簡単です。定型文書テンプレートを調べて、若干の変更を加えるだけで新規定型文書テンプレートとして使用できるものがないかどうか確認してください。

たとえば、面接スケジュール用の定型文書 (INT) は、条件提示テンプレートを応用して作成します。¥PS¥WINWORD ディレクトリで ltr0f1.doc を開きます。必要に応じてテキストを変更し、使用する新規フィールド コードを文書に追加します。新しいテンプレートを別の名前 (ltrint.doc) で保存します。

3. PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の他のテーブルからデータを選択、抽出し、それを別のデータ抽出ファイルに保存する SQR を編集します。

差し込みプロセスによってデータ抽出ファイルから文書にデータを挿入させるための MERGEFIELD フィールド コードを挿入します。MERGEFIELD フィールド コードの挿入は、Alt + F9 キーを押して行います。

たとえば、面接スケジュール用の新規定型文書を作成する場合、全てのフィールドから値を抽出し、面接スケジュール文書情報を保存するための別のデータ抽出ファイルを作成する新規プロシージャを app007.sqr に作成します。

SQR プロセスには、作成されるデータ抽出ファイルの名前と拡張子 (.ltr) を含める必要があります。以下に例を示します。

```
begin-procedure Write-Heading
move ' {IMPORTPREFIX}' to $FileName !start a new report file
do Get-prcsoutputdir
if (rtrim($prcsoutputdir,' ') <> '')
move $prcsoutputdir to $Filename
concat ' APP004.LTR' with $Filename
end-if
NEW-REPORT $Filename
Let $InputField1 = ' LANG, Audience, Job_Requisition, JobTitle, DeptID, DeptName, Min_Rt_
Annual, Max_Rt_Annual, Name1, Value1, Name2, Value2, Name3, Value3, Name4, Value4, Name5, Val
ue5, Name6, Value6, Name7, Value7, Name8, Value8, '
Let $InputField2 = ' Name9, Value9, Name10, Value10, Name11, Value11, Name12, Value12, Name1
3, Value13, Name14, Value14, Name15, Value15, Name16, Value16, Name17, Value17, Name18, Value1
8, Name19, Value19, Name20, Value20, AsOfToday'
Let $InputFieldTot = $InputField1 || $InputField2
move
$InputFieldTot
to $ioarea
print $ioarea (1,1)
next-listing
end-procedure
```

アプリケーション エンジン プロセスを作成する場合、このプロセスによって作成されるファイルの拡張子は .ltr である必要があります。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: SQR for PeopleSoft Developers

4. 新規文書テンプレートを、プロセス スケジューラ %PS_HOME%\winword ディレクトリにコピーします。
5. PSJOB を作成して、SQR、WORDINIT、および PSMERGE の各プロセスが正しい順番で実行されるようにします。

これらのプロセスが以下の順番で含まれるようにジョブを定義します。

- a. SQR プロセス、またはアプリケーション エンジン データ抽出プロセス
- b. WORDINIT Winword プロセス
- c. PSMERGE アプリケーション エンジン プロセス

注: Winword の標準マクロまたは標準テンプレートは、変更しないことをお勧めします。

注: 新規文書を PeopleSoft プロセス スケジューラにリンクするには、ヒューマン リソース管理プロジェクトの責任者に相談するか、以下の参考文書を参照してください。

参照: Microsoft Word for Windows User's Guide

ページへの文書コード フィールドの追加

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理は、[文書コード] フィールドが教育・研修管理、および人事・労務管理の労使関係の複数のページに含まれた状態で出荷されています。

[文書コード] フィールドは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理にある他のどのページ（およびその元になるテーブル）にも追加できます。たとえば、キャリア プラン セッションの通知文書を従業員宛に定期的に送る場合、[キャリア プラン] メニューのページの 1 つに [文書コード] フィールドを追加できます。

注: この変更を行うには、PeopleSoft アプリケーション デザイナ、Microsoft Word for Windows のフィールドコード、マクロ、データ ステートメント、および PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理データベースからデータ値を抽出するために使用される SQR に精通している必要があります。

[文書コード] フィールドをシステム内の他のページや元になるテーブルに追加する場合は、以下についても作成する必要があります。

- 特定のアプリケーションを表す文書コード
- 適切なテキスト、フィールド コード、およびデータ ステートメントが含まれる定型文書テンプレート
- PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の適切なテーブルからデータを抽出し、新規データ抽出ファイルを作成するための SQR
- SQR、WinWord プロセス WORDINIT、およびアプリケーション エンジン PSMERGE で構成されるジョブ

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Using PeopleSoft Applications の「Working With Processes and Reports」

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler

Microsoft Word for Windows User's Guide

定型文書のトラブルシューティング

このセクションでは、以下について説明します。

- SQR プロセスのトラブルシューティング
- WORDINIT プロセスのトラブルシューティング
- PSMERGE アプリケーション エンジン プロセスのトラブルシューティング
- プロセス スケジューラのトラブルシューティング
- Winword ディレクトリのトラブルシューティング
- Winword プロセスのトラブルシューティング
- PSMERGE プロセスのトラブルシューティング

SQR プロセスのトラブルシューティング

SQR データ抽出プロセスについて、以下の確認/作業を行います。

- SQR プロセスが、出力タイプを [ファイル] に、フォーマットを [LP] に設定して実行されているかを確認します。出力タイプやフォーマットに他の値を設定して SQR プロセスを実行した場合は、必ずそのデータ抽出ファイルを削除します。
- データ抽出ファイルが、プロセス スケジューラの log/output ディレクトリに xxx.ltr の形式で作成されているかを確認します。
- プロセス モニターを使用して、異常終了したプロセス リクエストを全て削除します。

WORDINIT プロセスのトラブルシューティング

WORDINIT プロセスが異常終了し、環境が正しく設定されている場合は、マクロ セキュリティが原因である可能性が高いです。一部の Microsoft NT ネットワークで使用されるマクロ セキュリティ機能をオフにします。さらに、システム管理者に連絡する必要があります。

一部のネットワークでは、プロセスの実行中に Microsoft Word のセキュリティ レベルが自動的に “高” に戻ります。たとえば、Winword のマクロ セキュリティを NT ユーザー プロファイル レベルで定義する場合は、PeopleSoft プロセス スケジューラ サービスを実行する NT ID について、マクロ セキュリティを “低” に設定する必要があります。

注: Windows NT や Windows XP では、Winword のマクロ ウイルス保護設定がロックおよびキャッシュされるため、マクロ ウイルス保護機能をオフにすると問題を引き起こす可能性があります。

以下の手順で、WORDINIT のプロセス定義で PS_HOME へのパスをハード コードにします。

1. [PeopleTools]、[プロセス スケジューラ]、[プロセス] の順にクリックします。
2. [検索条件] フィールドで [プロセス名] を選択し、“WORDINIT” と入力します。
3. [上書きオプション] タブを選択します。
4. [パラメータ リスト] フィールドで、%%PS_HOME%% を、ハード コードされるディレクトリへのパスで置き換えます。

PSMERGE アプリケーション エンジン プロセスのトラブルシューティング

PSMERGE アプリケーション エンジン プロセスが完了せず、SQR データ抽出プロセスにフィールドを追加している場合は、それらのフィールドが文書テンプレートにも含まれていること、およびフィールドが同じ順番に並んでいることを確認します。

プロセス スケジューラのトラブルシューティング

プロセス スケジューラが正しく設定されていることを確認します。

- プロセス スケジューラ定義レベルで別のプロセス スケジューラ サーバーを定義して、[レポート リポジトリへのシステム ファイル転送] チェック ボックスをオフに設定する必要があります。
- WINWORD パラメータが prcs.cfg ファイルで正しく指定されていることを確認します。

プロセス モニターを使用して、定型文書の実行時に異常終了した全てのプロセスが削除されているかを確認します。異常終了したプロセス リクエストがあれば、全て削除します。

Windows のタスク マネージャを使用して、実行中の Winword プロセスがないことを確認します。実行中の Winword プロセスを削除してから、定型文書レポートを再実行します。

Microsoft Word をデスクトップとの対話を許可する設定にすると、Microsoft Word の再インストールが試みられる可能性があります。これを避けるため、Windows インストーラを使用不可にします。

Winword ディレクトリのトラブルシューティング

テンプレート ファイルが正しいディレクトリにあることを確認します。

- Winword のテンプレートとマクロは %PSHOME%\winword ディレクトリにある必要があります。
- psmerge.doc ファイルと psmerge.dot ファイル、および %PSHOME%\winword ディレクトリにある全ての文書テンプレートは、読取専用でなければなりません。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler

Winword プロセスのトラブルシューティング

エラーを表示して Winword プロセスをデバッグするには、プロセス スケジューラの設定ファイル psprcs.cfg を変更します。この変更は、このファイルのプロセス スケジューラ (Process Scheduler) セクションの動的変更の許可 (Allow Dynamic Changes) パラメータの後ろに、以下に示す行を追加して行います。

```
Allow To Interact With Desktop=1
```

変更を保存してキャッシュをクリアした後、アプリケーション サーバーを再起動します。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler の「Using the PSADMIN Utility」

PSMERGE プロセスのトラブルシューティング

PSMERGE アプリケーション エンジン プロセスが異常終了する、またはステータスが [処理中] のまま変わらない場合は、トレース ファイル AE_PSMERGE_<PI>.trc (<PI> はプロセス インスタンス番号) から引数を抽出して組み合わせたものを、コマンドラインから実行します。これにより、プロセス スケジューラの外部でプロセスがテストされます。

AE_PSMERGE_<PI>.trc が次のように設定されているとします。

```
cmd = D:\PSHR88\WINWORD\run.bat
cwd = (null)
argc = 5
argv[0] = D:\PSHR88\WINWORD\run.bat
argv[1] = C:\PROGRAM~1\MICROS~4\OFFICE\WINWORD.EXE
argv[2] = D:\PSHR88\appserv\prcs\HCUPG3WD\log_output\AE_PSMERGE_387\387_PARAM.TXT
argv[3] = D:\PSHR88\WINWORD\PSMERGE.DOC
argv[4] = /mPSMERGE
```

これを DOS のコマンドラインから次のように実行します。

```
D:\PSHR88\WINWORD\run.bat C:\PROGRAM~1\MICROS~4\OFFICE\WINWORD.EXE
D:\PSHR88\appserv\prcs\HCUPG3WD\log_output\AE_PSMERGE_387\387_PARAM.TXT
D:\PSHR88\WINWORD\PSMERGE.DOC /mPSMERGE
```

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Engine の「Tracing Application Engine Programs」

標準文書コードの設定

標準文書コードを設定するには、標準文書テーブル コンポーネント (STANDARD_LTR_TABLE) を使用します。

このセクションでは、標準文書コードの設定方法について説明します。

注: 文書コードは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で使用される PeopleSoft Enterprise HRMS 定型文書についてのみ設定します。その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションで使用される PeopleSoft Enterprise HRMS 定型文書については設定しません。

標準文書コードの設定と一覧出力に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
標準文書テーブル	STANDARD_LTR_TABLE	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[標準文書テーブル]	文書コードを定義します。
標準文書レポート－ランコントロール	PRCSRUNCNTL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[文書/書類]、[標準文書レポート]	標準文書テーブルレポート (PER711) を実行します。このレポートには標準文書テーブルに設定されたコードの一覧が出力されます。

標準文書コードの設定

標準文書テーブル ページにアクセスします。

標準文書テーブル

文書コード: DAF

*セット文書コード: 労使関係関連文書

*名称: 懲戒・指導申請

略称: 申請

標準文書テーブル ページ

サンプル文書用の文書コードが標準で提供されています。ユーザー独自のコードを追加して別の定型文書を作成することもできます。

注: 文書コードはテンプレートごとに提供されていますが、全ての文書コードにテンプレートが設定されているわけではありません。文書コードを使用する前に、対応するテンプレートがあることを確認してください。

[セット文書コード]

有効値のリストからコードを選択します。このコードは、同じような文書コードをグループ化し、必要なコードを見つけやすくするために使用されます。以下のいずれかを選択します。

- [顧客関連文書]: このオプションは、他のどのカテゴリにも当てはまらない自社用文書を作成した場合に選択します。
- [人事考課関連文書]: 人事考課関連文書用に選択します。
- [労使関係関連文書]: 労使関係関連文書用に選択します。懲戒・指導および苦情の標準文書です。
- [研修関連文書]: 研修関連文書用に選択します。

[セット文書コード] フィールドの値によって、文書コードのフィールドに表示される文書コードが決まります。

その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書の作成

このセクションでは、その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用の定型文書の概要と、以下の作業方法について説明します。

- PeopleSoft プロセス スケジューラを使った定型文書の作成
- 定型文書ファイルでの名称指定規則の使用
- 定型文書を印刷するための準備
- 定型文書の応用

注: これらの説明は、テンプレートを使って PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理以外の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用の定型文書を作成するためのものです。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の定型文書を作成するには、別の方法で行います。該当する説明に従って、定型文書を作成してください。

関連項目:

第 29 章、「定型文書の設定と作成」、「PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の定型文書の作成」、700 ページ

その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書について

定型文書の作成または PeopleSoft Enterprise HRMS に付属するサンプル定型文書の変更を行う前に、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理以外の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションでのプロセスの処理のしくみを理解する必要があります。

その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書を作成するには、次の手順に従います。

1. レポート ライターを使用して SQR を実行します。

SQR によって PeopleSoft Enterprise HRMS データベースが検索され、データが抽出されて、1 文書につき 1 行のデータを含んだデータ抽出ファイルが作成されます。

2. Microsoft Word for Windows のマクロを実行して、各タイプの定型文書テンプレートにそれぞれのデータ抽出ファイルを差し込みます。

PeopleSoft プロセス スケジューラを使って定型文書を作成するために、Word マクロが含まれている 2 つのファイル（アプリケーション CD の ¥PS¥WINWORD ディレクトリにある stdltr.dot および stdltr.95）が同梱されています。必ず、使用しているシステムに適したマクロ ファイルを使ってください。

- stdltr.dot のマクロは Microsoft Office 97 の Word 97 用で、Visual Basic で書かれています。
- stdltr.95 のマクロは Microsoft Windows 95 で使用される Word 7.0 用で、Word Basic で書かれています。

stdltr.95 を使う場合は、システムにコピーしてからファイル名を stdltr.dot に変更します。

3. Microsoft Word for Windows を使用して文書を印刷します。

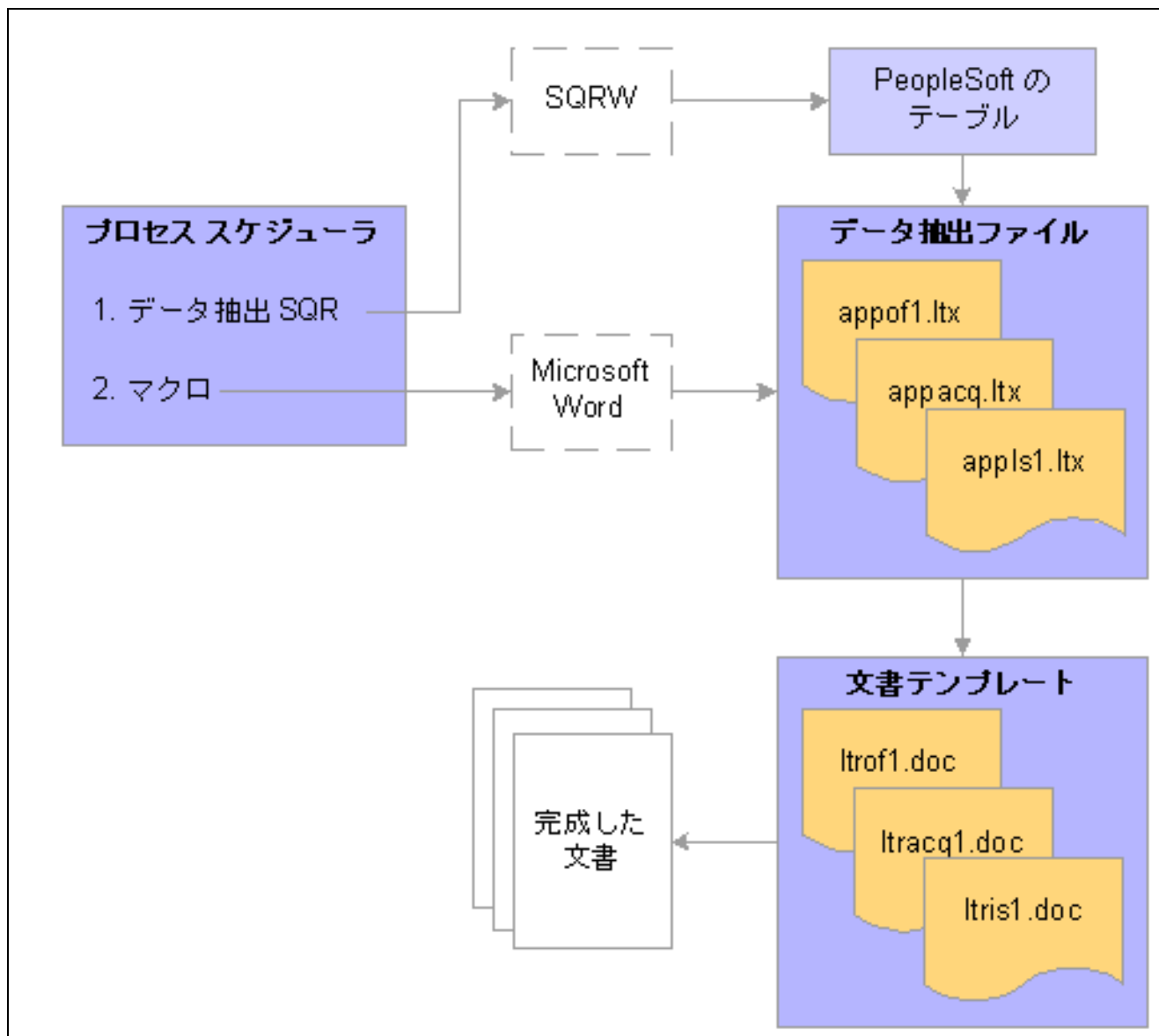
定型文書はアプリケーション サーバー上の一時ディレクトリに作成され、同じタイプの文書は全て 1 つのファイルにまとめられます。

PeopleSoft Enterprise HRMS システムが提供するアーキテクチャによって、アプリケーション サーバーはユーザーのマシンから離れた場所に設置できるため、文書はデフォルト プリンタには自動的に出力されません。その代わり、Microsoft Word for Windows の標準印刷オプションを使用して文書の印刷先を選択できます。

PeopleSoft プロセス スケジューラを使った定型文書の作成

PeopleSoft プロセス スケジューラでは、Microsoft Word for Windows を使ってマクロを実行し、データ抽出ファイルから定型文書テンプレートへの差し込みと、文書の印刷を行います。各ステップを順に実行するためのジョブを実行することも、手動で各ステップを順に実行することもできます。各プロセスを手動で実行する場合、最初に SQR、次に対応するマクロ、という順でステップを実行する必要があります。これは、PeopleSoft プロセス スケジューラからレポート ライターとワープロを同時に呼び出すことはできないためです。また、Word マクロを実行する前に、SQR でデータ抽出ファイルを作成しておく必要もあります。

次の図は、PeopleSoft プロセス スケジューラを使ったその他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書の作成方法を示しています。



PeopleSoft プロセス スケジューラを使ったその他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書の作成

PeopleSoft プロセス スケジューラで、その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書を作成するには、次の手順に従います。

1. SQR PAWRL01:
 - a. 各従業員の個人データレコードをスキャンします。
 - b. レコードの情報を取得します。
 - c. データ抽出ファイル pastdext.dat をマクロに定義された TEMP ディレクトリに作成します。
2. マクロ PAWRL01:
 - a. データ抽出ファイルに対応する定型文書テンプレートを開きます。
 - b. 該当の抽出ファイル データをテンプレート rollover.doc に差し込みます。
 - c. pastdext.dat からテンプレートのフィールドコードにデータを挿入します。

定型文書ファイルでの名称指定規則の使用

Microsoft Word for Windows によって、全ての文書に拡張子 .doc が付けられます。このタイプの文書には、他の名称指定規則は必要ありません。

定型文書を印刷するための準備

定型文書を印刷できるようにするには、PeopleSoft 提供の付属のマクロを環境に合わせて変更し、プロセス スケジューラの設定ファイルを設定する必要があります。

設定によっては、付属の Microsoft Word for Windows の標準マクロに以下の変更を加える必要があります。

- 全てのマクロを含む empty.doc ファイルへのデフォルトのパス
- 文書の作成される場所

マクロにより、文書はアプリケーション サーバーの C:\TEMP ディレクトリに作成されます。マクロを編集して文書の場所を変更し、Microsoft Word for Windows から文書を印刷する際にローカル プリンタに出力できるようにしてください。

定型文書を印刷するためにシステムを設定するには、次の手順に従います。

1. ローカル マシン上に文書用の共有ディレクトリを設定します。

この設定を行い、アプリケーション サーバーによってこのディレクトリに文書を追加できるようにします。たとえば、ユーザーが教育・研修管理者である場合、ローカル マシン上の C:\TEMP ディレクトリを TRNTEMP として共有できます。

マルチリンガル文書の場合、文書を実行する言語ごとにサブディレクトリを設定します。たとえば、[言語] フィールドが [英語] に設定された文書を実行する場合は、C:\TEMP\ENG ディレクトリを作成します。共有ディレクトリの設定方法がわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

2. empty.doc ファイルの場所および共有ディレクトリの場所を使ってマクロを更新します。

置換前のマクロの行は次のとおりです。

```
WordBasic.Call "FuncLib.MergeReport", "C:\TEMP", "PASTDEXT.DAT", "C:\HR800\WINWORD", "ROLLOVER.DOC", ""
```

置換後は次のとおりです。

```
WordBasic.Call "FuncLib.MergeReport", "C:\TEMP", "PASTDEXT.DAT", "C:\<path>
```

¥WINWORD", "ROLLOVER.DOC", "¥¥<machine_name>¥TRNTEMP"

説明

<path> は empty.doc があるディレクトリへのパスです。

<machine_name> は、ユーザーのマシンに割り当てられたマシン名です。

3. WINWORD 変数をプロセス スケジューラの設定ファイルに定義します。

WINWORD は、定型文書を作成するためにプロセス スケジューラによって実行される Microsoft Word for Windows の実行ファイルの場所を定義します。たとえば、Microsoft Word for Windows がアプリケーション サーバーで稼動している場合、プロセス スケジューラの設定ファイルのこの行は次のようになります。

```
WINWORD=C:\APPS\OFFICE97\OFFICE
```

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler

定型文書の応用

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- サンプル文書の Word マクロの変更
- サンプル文書テンプレートのテキストの変更
- サンプル文書へのフィールドの追加
- 新規定型文書の作成

サンプル文書の Word マクロの変更

Microsoft Word for Windows の各マクロにいくつかの環境変数を指定し、定型文書プロセスで Word のテンプレートとデータ抽出ファイルが参照されるようにします。たとえば、ネットワークまたはワークステーションの構成によって、マクロに指定されている場所とは異なる場所にファイルがある場合があります。その場合、パスを修正して正しい場所を反映させる必要があります。

既存のマクロを編集したり、マクロを新規作成する前に、Microsoft Word for Windows の文書、マクロ、およびレポート ライター SQR のコピーを印刷して、慎重に検討してください。

注: マクロを変更するには、Microsoft Word for Windows のテンプレート、マクロ、およびレポート ライターに精通している必要があります。

マクロは全て ¥PS¥WINWORD ディレクトリのファイルに添付されています（インストールの方法によってパスが異なる場合がありますが、マクロの添付されるファイルは常に WINWORD サブディレクトリにあります）。マクロは、empty.doc という空の Microsoft Word for Windows ファイルに添付されます。

マクロを変更するには、次の手順に従います。

1. Microsoft Word で empty.doc ファイルを開きます。
2. [ツール]、[マクロ] の順に選択します。
3. [マクロ名] フィールドで、[Stdltr](テンプレート) を選択します。
4. 変更するマクロを選択して、[編集] ボタンをクリックします。

サンプル文書テンプレートのテキストの変更

PeopleSoft Enterprise HRMS に付属する定型文書テンプレートには、各種のタスク用のサンプル テキストが含まれており、ユーザーのニーズに合わせて変更することができます。たとえば、文書の送信者名を、組織でのタスク管理の責任者である従業員名に変更する場合などです。使用するフィールドや、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理で参照されるページやテーブルを変更せずに、テキストだけを変更する必要がある場合は、以下に示す手順に従います。

定型文書のテキストを変更するには、次の手順に従います。

1. 更新する Word の文書テンプレートを探します。
テンプレートは ¥PS¥WINWORD ディレクトリにあります。
2. Microsoft Word for Windows で、変更する文書を開きます。
文書に " " がある場合は、[ツール]、[オプション] を選択し、[フィールド コード] チェック ボックスをオンに設定します。
3. 一般にドキュメントのテキストを変更するのと同じ方法で、テキストに変更を加えてファイルを保存します。

警告: 中かっこ ({}) で囲まれているフィールド コードは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理から抽出される値のプレースホルダなので、上書きしないよう注意してください。

サンプル文書へのフィールドの追加

サンプル文書は、テキストを更新できるだけでなく、PeopleSoft Enterprise HRMS の他のタイプのデータを含めることができます。

注: この変更を行うには、Microsoft Word for Windows のフィールド、および PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理データベースからデータ値を抽出するために使われるレポート ライターに精通している必要があります。

定型文書で追加フィールドを使用するには、次の手順に従います。

1. 新しいタイプのデータを含める場合は、そのデータ用のフィールド コードを定型文書テンプレートに追加します。
2. PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理からデータを抽出する SQR を変更し、使用する全てのフィールドから値が取得され、その値が適切なデータ抽出ファイルに書き込まれるようにします。
たとえば、通知文書 rollover.doc に通貨を含めるには、定型文書テンプレートに通貨のフィールドコードを追加します。また、pastdext.sqr に通貨の変数を追加し、SQR によって通貨の値が取得され、それがデータ抽出ファイルに書き込まれるようにします。

変更前のデータ抽出ファイルは次のとおりです。

```
LANG, NAME, PLAN, ADDR1, ADDR2, ADDR3, NATIONAL_ID, CURDATE
USA", "Mr. John Matson", " BEN01", . . . , "May 15, 1993"
```

変更後のデータ抽出ファイルは次のとおりです。

```
LANG, NAME, PLAN, ADDR1, ADDR2, ADDR3, NATIONAL_ID, CURDATE, Currency
USA", "Mr. John Matson", " BEN01", . . . , "May 15, 1993", " US Dollars"
```

新規定型文書の作成

他の目的に使用する新規の定型文書を作成することができます。たとえば、従業員が署名する必要がある福利厚生プランに関する定型文書を送信することなどが可能です。

新規定型文書を作成するには、次の手順に従います。

1. 適切なテキスト、フィールド コード、およびデータ ステートメントの参照が含まれている Word 文書テンプレートを作成します。

定型文書を実際に作成するよりも、既存の定型文書テンプレートを応用の方が簡単です。定型文書テンプレートを調べて、若干の変更を加えるだけで新規定型文書テンプレートとして使用できるものがないかどうか確認してください。

2. PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の他のテーブルからデータを選択、抽出し、それを別のデータ抽出ファイルに保存する SQR を作成します。
3. 抽出したデータを読み取り、それを Word の文書テンプレートに差し込むマクロを新規作成します。既存のマクロをコピーして応用する方が簡単です。

注: 新規文書を PeopleSoft プロセス スケジューラにリンクするには、ヒューマン リソース管理プロジェクトの責任者に相談するか、以下の参考文書を参照してください。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler

Microsoft Word for Windows User's Guide

サンプル定型文書

このセクションでは、2 つの PeopleSoft Enterprise HRMS サンプル定型文書を掲載します。

- 研修関連文書サンプル – 研修で使用する登録確認文書 (PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の教育・研修管理ビジネス プロセス)
- 年金関連定型文書サンプル – 年金申請のために従業員が記入しなければならないダイレクト ロールオーバーの選択書 (PeopleSoft Enterprise Pension Administration)

研修関連文書サンプル

August 10, 2001

Barry Robert Campbell 4928 Wildwood Place Toronto, ON

Dear Barry:

I am pleased to confirm your enrollment in training course K018 titled PeopleTools 1 beginning 09/11/2000 and ending 09/15/2000. Course hours are 9:00 AM to 6:00 PM daily, unless otherwise advised. The course will commence at: Corporation Headquarters Bldg 2000 Floor 2 Room Training Room 2

500 George Washington Pkway

New York, NY

Directions:

From the Airport, take the shuttle bus to George Washington Parkway.

Sincerely,

Barbara Smith Training Coordinator

年金関連定型文書サンプル

DIRECT ROLLOVER ELECTION FORM «PLAN» (Sample Form) < >

«NAME»

Date: «CURDATE»

«ADDR1»

«ADDR2»

Social Security No: «NATIONAL_ID»

«ADDR3»

I. Distribution Information:

Amount of distribution: _____ (If distribution is for the entire account balance enter "account balance")

II. Information About Plan or IRA to Receive Direct Rollover:

Name of Plan: _____

Name of Plan Administrator: _____

Address of Plan: _____

OR

Name of Plan Trustee or Custodian of IRA : _____

Address of Plan Trustee or Custodian: _____

Account Number of IRA: _____

Check which Applies to the Plan to Receive Your Rollover:

☐ The plan is a qualified plan under Internal Revenue Code Section 401(a).☐ The plan accepts direct rollover contributions.☐ The plan accepts noncash contributions (optional).I hereby certify that the information I have entered on this form is true, correct, and complete. _____
_____ Date _____

Signature of Participant

第 30 章

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスク – 360 度ビューの設定

この章では、PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクの概説と、次の作業方法について説明します。

- HRMS 情報の抽出と表示
- PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクに対するセキュリティの設定
- PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクに対する直属部下の設定

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクについて

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスク – 360 度ビューには、従業員の HRMS データを全て表示できるビューが用意されています。この PeopleSoft Enterprise CRM アプリケーションは PeopleSoft Enterprise CRM から設定、操作しますが、PeopleSoft Enterprise HRMS に格納されているデータを抽出、表示することができます。

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクの設定の一環として、以下の設定を行う必要があります。

- ヘルプデスク エージェントに従業員データへのアクセス権限を与える HRMS セキュリティの設定
- 組織の管理者に対する直属部下の構造の設定

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook: PeopleSoft HelpDesk

PeopleSoft Enterprise HRMS 情報の抽出と表示

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクを使うと、PeopleSoft Enterprise HRMS から以下の情報を抽出し、表示することができます。

- 個人情報
- 職務情報
- ポジション サマリ
- 給与計算サマリ

- 福利厚生サマリ
- 扶養家族および受益者情報
- 直属部下情報

上記の情報は、ヘルプデスクのページから変更することはできません。

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクに対するセキュリティの設定

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクに対するデータ権限セキュリティは、PeopleSoft Enterprise HRMS 全体に対すると同じように機能します。PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクを使用するヘルプデスク エージェントが 360 度ビュー ページでデータを照会するには、該当データへのアクセス権限が必要です。

エージェントのレベルと権限

CRM データベース内のヒューマン リソース ヘルプデスクには、レベル 1、レベル 2、レベル 3 という 3 つのレベルがあります。レベル 1 とレベル 2 のエージェントは、アクション リンクを使って HRMS のある特定のページにアクセスすることができません。また、レベル 1 のエージェントは、HRMS のページを表示することだけはできますが、変更はできません。次の表は、HRMS データベース内でエージェントがアクセスできるページを示しています。

アクション リンク	レベル 1 エージェント	レベル 2 エージェント	レベル 3 エージェント
ヒューマンリソース管理 - 個人情報	不可	可	可
ヒューマンリソース管理 - 緊急連絡先	可	可	可
ヒューマンリソース管理 - 人事異動サマリ	可	可	可
ヒューマンリソース管理 - 職務データ情報	可	可	可
福利厚生管理 - 福利厚生サマリ	可	可	可
福利厚生管理 - 扶養家族補償	不可	可	可
福利厚生管理 - 所得補償保険	可	可	可
福利厚生管理 - 福利厚生登録	不可	可	可
福利厚生管理 - FSA プラン	可	可	可
福利厚生管理 - 医療保険	可	可	可
福利厚生管理 - 休職プラン	可	可	可
福利厚生管理 - 生命/傷害保険プラン	可	可	可

アクション リンク	レベル 1 エージェント	レベル 2 エージェント	レベル 3 エージェント
福利厚生管理 - 年金プラン	可	可	可
福利厚生管理 - 退職プラン	可	可	可
福利厚生管理 - 貯蓄プラン	可	可	可
福利厚生管理 - 休暇プラン	可	可	可
給与計算 - 自動振込 - US	不可	可	可
給与計算 - 自動振込 - USF	不可	可	可
給与計算 - 一般控除 - US	不可	不可	可
給与計算 - 一般控除 - USF	不可	不可	可
給与計算 - 給与小切手 - US	可	可	可
給与計算 - 給与小切手 - USF	可	可	可
給与計算 - ペイシート - US	不可	不可	可
給与計算 - ペイシート - USF	不可	不可	可
給与計算 - 貯蓄債権 - US	可	可	可
給与計算 - 住民税データ - US	不可	不可	可
給与計算 - 住民税データ - USF	不可	不可	可
Stock - 株式アクティビティ	不可	可	可
Stock - 株式の権利行使	不可	可	可
研修 - コース登録	不可	可	可
研修 - 研修サマリ	可	可	可

関連項目:

第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、39 ページ

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプ デスクに対する直属部下の設定

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクに対して直属部下を設定するには、“直属部下の設定” コンポーネント (SS_LINK_TBL) を使用します。

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスクでは、“直属部下の設定” ページでアクセス タイプを設定した場合に限り、適切な直属部下の構造を取得することができます。

PeopleSoft Enterprise CRM ヒューマン リソース ヘルプデスク に対する直属部下の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ターゲット情報	SS_LINK_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下の設定]	HD_360_COMPONENT に対して、アクセスタイプを設定します。

直属部下のアクセス タイプの設定

アクセス タイプを設定するには、次の手順に従います。

1. “直属部下の設定” コンポーネントにアクセスして、コンポーネント名に HD_360_COMPONENT を選択します。
2. ターゲット情報ページの [アクセス タイプ] に [監督者の従業員 ID 別] を選択します。
3. ページを保存します。

第 31 章

セルフサービス トランザクションの設定と使い方

セルフサービス トランザクションは PeopleSoft コア アプリケーションの拡張機能として使用されます。これを使って従業員は、個人情報を更新したり、職務に必要な基本タスクの一部を実行することができます。

この章では、以下の作業方法について説明します。

- セルフサービス トランザクションの設定
- トランザクションの確認
- 直属部下データへのアクセス権限の設定
- セルフサービス トランザクションにおけるワークフローの使い方

注: PeopleSoft には、セルフサービス トランザクション用に 2 つの異なるワークフロー テクノロジが用意されています。ワークフローを使用する標準のセルフサービス トランザクションは、承認ワークフロー エンジン (AWE) フレームワーク用、またはこの章に説明されているテクノロジ用に事前設定されています。

関連項目:

第 25 章、「承認の設定と使い方」、565ページ

セルフサービス トランザクションの設定

セルフサービス トランザクションを設定するには、セルフサービス ワークフロー設定ページ (WF_CO_CONFIG) を使用します。

このセクションでは、セルフサービス トランザクションのルールの概要と、以下の作業方法について説明します。

- 承認およびデータベース更新の設定
- アプリケーション管理者への通知ルールの設定
- コンポーネント インターフェイス ルールの設定

注: セルフサービス トランザクションで承認処理に承認ワークフロー エンジンを使用する場合は、承認ワークフロー エンジンとそのフレームワークでの使用が可能なようにトランザクションを設定しておくことも必要です。

参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、565ページ

セルフサービス トランザクションのルールについて

以下の事柄を判断するためのルールを設定することができます。

- トランザクションを承認処理するかどうか。
- トランザクションでデータベースを更新するか、またはアプリケーション管理者に通知を送信してトランザクションを手動で完了するか。
- トランザクションの処理中に問題が発生した場合、あるいはトランザクションが正常終了した場合に特定の個人に通知するか。

設定可能なトランザクション

次の表には、設定可能なトランザクションと、それぞれに対して出荷時にアクティブになっている承認/委任機能が示されています。

設定可能なトランザクション名	承認ワークフローが出荷時にアクティブになっている	開始の委任が出荷時にアクティブになっている	承認の委任が出荷時にアクティブになっている
記入票 (Performance Document)	はい (AWE)		はい (AWE)
住所の変更 (Address Change)			
常勤/パートタイムステータスの変更 (Change Full/Part Time Status)		はい	
勤務地の変更 (Change Location)		はい	
婚姻区分 (Marital Status)			
氏名変更 (Name Change)			
昇進・昇格 (Promotion)	はい (AWE)	はい (AWE)	はい (AWE)
管理者変更 (Reporting Change)	はい (AWE)		
従業員の退職処理 (Retire Employee)		はい	
アドホック給与変更 (Ad Hoc Salary Change)	はい		
従業員の雇用終了処理 (Terminate Employee)		はい	
研修登録 (Training Enrollment)			
管理者による研修登録 (Training Enrollment by Manager)	はい		
転属 (Transfer)	はい (AWE)	はい (AWE)	はい (AWE)

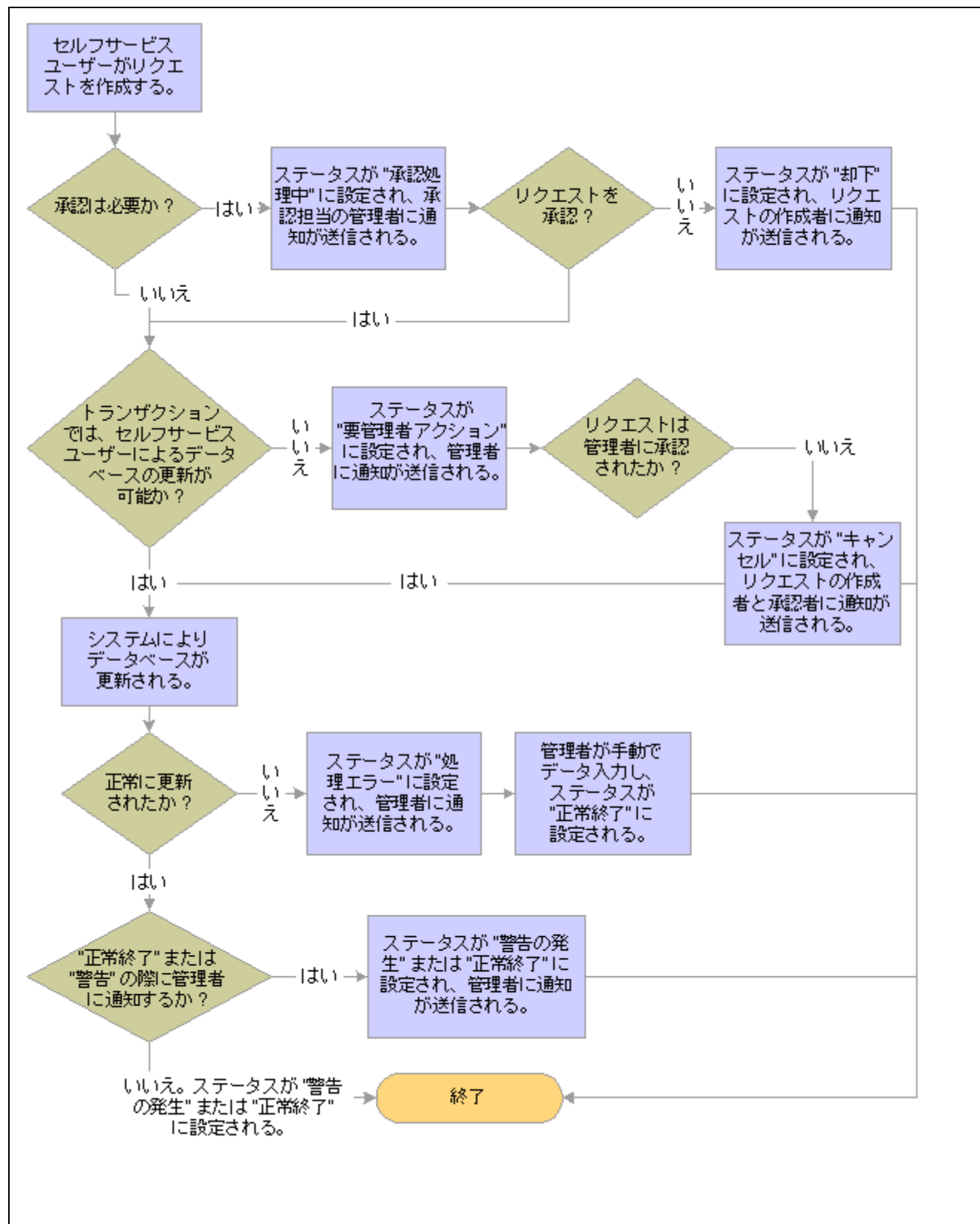
トランザクションの委任設定の変更は、ワークフロー トランザクション ページで行うことができます。承認ワークフロー エンジン (AWE) フレームワークを使用しないワークフローの場合は、開始の委任トランザクションは有効にできますが、承認の委任トランザクションを有効にすることはできません。

参照: 第 26 章、「委任の設定と使い方」、637ページ

承認ワークフロー エンジン機能と委任機能を使用するトランザクションには追加設定が必要です。PeopleSoft が提供するこれらのトランザクションは、この 2 つの機能を使用できるように事前設定されています。

セルフサービス プロセスの概要

次の図は、設定ルールに従うように設定されている場合のセルフサービス トランザクションで行われる処理を示しています。



プロセス設定を使ったトランザクションのプロセス フロー

注: トランザクションで承認ワークフロー エンジン (AWE) フレームワークが使用され、適切なユーザーが見つからない場合は、そのトランザクションは確認および承認のために AWE 管理者に自動的に送信されます。トランザクションでワークフローに AWE が使用されず、適切なユーザーが見つからない場合は、エラー通知が管理者に送信されます。管理者はこのエラーをセルフサービスの照会ページで参照できます。プロファイル一般情報ページで代替ユーザーを入力する場合は、入力するユーザー ID に、必要なページへのアクセス権限が付与されているかを確認してください。

ルールの例外

トランザクションによっては、従業員の職務データを更新するものがあります。以下のセルフサービス ルールは、ポジション管理で管理されている情報を上書きできません。

ポジション管理の設定	従業員の職務	データベースの自動更新
なし	該当なし	可
一部	ポジション管理されている	不可 このルールの例外に、管理者が従業員に対する管理者変更をリクエストしている場合があります。従業員がポジション管理されており、[監督者の従業員 ID] フィールドに従業員 ID が入力された場合は、自動更新は可能です。 注: インストール ページのポジション管理オプションで[一部]を選択し、人事・労務管理の職務ページでポジション上書きチェックボックスをオンにした場合は、ポジション データが自動的に更新されます。インストール ページのポジション管理オプションで[全体]を選択した場合は、全てのポジション データが自動的に更新されます。
全体	ポジション管理されている	不可 このルールの例外に、従業員の転属および昇進・昇格があります。これは、既存のポジション番号を変更するのではなく、新しいポジション番号を選択して管理者が従業員を転属または昇進・昇格させるためです。この場合、自動更新により新しいポジション番号が挿入され、全ての関連フィールドが更新されます。ポジション データに影響はありません。

関連項目:

[第 25 章、「承認の設定と使い方」、565ページ](#)

[第 26 章、「委任の設定と使い方」、637ページ](#)

セルフサービス トランザクションのルールの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
セルフサービス ワークフロー設定	WF_CO_CONFIG	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[セルフサービス]、[ワークフローの設定]、[セルフサービス ワークフロー設定]	トランザクションの承認処理とトランザクションによるデータベースの自動更新を行うかどうか、およびエラーを処理しデータベースを手動で更新する担当者のロールを指定します。
管理者通知設定	WF_HR_TRANS_NOT	セルフサービス ワークフロー設定ページで[通知設定]リンクをクリックします。	自動更新が正常終了した場合、または警告メッセージが更新時に発行された場合に、アプリケーション管理者が電子メールによる通知を受信する必要があるかどうかを定義します。
SS コンポーネントインターフェイス設定	SS_TRANS_CIDTL_SEC	セルフサービス ワークフロー設定ページで[コンポーネントインターフェイス設定]リンクをクリックします。	トランザクションで 사용되는コンポーネントインターフェイスの名前、およびエラーメッセージと警告メッセージの場所を定義します。

承認およびデータベース更新の設定

セルフサービス ワークフロー設定ページにアクセスします。

セルフサービス ワークフロー設定					
名称	承認処理	DB の更新	*管理者ロール	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
パフォーマンス記入票	<input checked="" type="checkbox"/>		Personnel Administrator	適用不可	適用不可
住所変更	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
常勤/パートタイム ステータスの変更	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
勤務地の変更	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
婚姻区分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
氏名の変更	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
昇進	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
管理者変更	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
従業員退職処理	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
外ホック給与変更	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
従業員雇用終了処理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
研修登録	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Training Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
研修登録 - 管理者	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Training Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定
転属	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Personnel Administrator	通知設定	コンポーネント インターフェイス設定

セルフサービス ワークフロー設定ページ

- [名称]

付属のセルフサービス トランザクションが一覧表示されます。これらはプロセス設定プロセスと連動するように設計されています。
- [承認処理]

このチェック ボックスは、承認処理を使用するように設計されたトランザクションについてのみ使用できます。チェック ボックスをオンにすると、管理者レベルの承認が必要になります。チェック ボックスがオフの場合、管理者レベルの承認は必要ありません。

注: 承認ワークフロー エンジン フレームワークを使用するトランザクションには、追加の承認設定が必要です。
- [DB の更新]

このチェック ボックスをオンにすると、トランザクションによるデータベースの更新が可能になります。チェック ボックスをオフにすると、アプリケーション管理者に変更の通知が行われ、アプリケーション管理者はプロセス リクエストを完了する必要があります。アプリケーション管理者は、ワークフローの照会ページ、またはセルフサービス トランザクション ページでリクエストを完了できます。
- [管理者ロール]

エラーが発生した場合にトランザクションの結果を確認する担当者のロールを指定します。

管理者通知設定ページで [完了時に通知] チェック ボックスまたは [警告の通知] チェック ボックスをオンにした場合、処理の正常終了時、または警告の発生時にこのロールが通知を受信します。
- [通知設定]

このリンクをクリックすると、管理者通知設定ページにアクセスします。
- [コンポーネント インターフェイス設定]

このリンクをクリックすると、SS コンポーネント インターフェイス設定ページにアクセスします。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBooks: Security Administration

アプリケーション管理者への通知ルールの設定

管理者通知設定ページにアクセスします。

管理者通知設定

住所変更

コンポーネント	完了時に通知	警告の通知	ビジネスプロセス名	アクティビティ名	イベント名		
HR_HOME_MAILING	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	HR_SS_WORK_EVENTS	HR_SS_CI_ADMIN_ORIG	Address Change CI Notify	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
WF_HOME_MAIL_CHG	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	HR_SS_WORK_EVENTS	HR_SS_CI_ADMIN_ADMN	Address Change CI Notify	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

管理者通知設定ページ

- [コンポーネント]

トランザクションの名前。
- [完了時に通知]

セルフサービス ワークフロー設定ページで [DB の更新] がオンになっている場合のみ使用できます。このチェック ボックスをオンにすると、自動更新が正常終了したときに、セルフサービス ワークフロー設定ページで選択されたロールが電子メールを受信します。

[警告の通知]

このチェック ボックスをオンにすると、HR データベースを正常に更新している時に警告メッセージが発生した場合に、セルフサービス ワークフロー設定ページで選択されたロールが電子メールを受信します。

[ビジネス プロセス名]、[アクティビティ名]、[イベント名]

これは事前に定義されたシステム データですが、別のビジネス プロセスを使用したい場合は変更することができます。

コンポーネント インターフェイス ルールの設定

SS コンポーネント インターフェイス設定ページにアクセスします。

SS コンポーネント インターフェイス設定

連番	*コンポーネント インターフェイス名	*BC アイテム論理名	*テーブル名	*例外テーブル
1	CI_PERSONAL_DATA	COLL_ADDRESSES	ADDRESSES	WF_PER_ERR_WRN

SS コンポーネント インターフェイス設定ページ

注: 独自に作成または修正したコンポーネント インターフェイスまたは例外テーブルを使用しない限り、このページを変更する必要はありません。これは事前に定義されたシステム データですが、別のコンポーネント インターフェイスを使用したい場合は変更することができます。

トランザクションの確認

このセクションでは、トランザクション アクティビティの確認方法について説明します。

注: 承認ワークフロー エンジン フレームワークを使用するトランザクションを確認するには、承認モニターを使用します。

関連項目:

第 25 章、「承認の設定と使い方」、「承認の管理」、625ページ

トランザクションの確認に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ワークフローの照会	WF_SS_STAGED	[人事・労務管理]、[セルフサービス管理]、[ワークフローの照会]	管理者が、承認ワークフロー エンジン フレームワークを使用しないセルフサービス トランザクションのアクティビティを確認します。

トランザクション アクティビティの確認

ワークフローの照会ページにアクセスします。

必須検索フィールド

トランザクション名または従業員 ID を指定してください。

従業員 ID:

トランザクション名:

オプション検索フィールド

日付:

検索

検索範囲を絞り込むには、1 つ以上のステータスを以下から選択します。

☐ 処理エラー
☐ 承認処理中
☐ 要管理者アクション
☐ 警告表示
☐ 更新正常終了
☐ 却下/キャンセル

管理者変更

トランザクションタイプ 1

更新情報

ステータス	名前	従業員 ID	雇用 ID No.	有効日	処理番号	直属上司のトランザクション番号	監督者の従業員 ID	職務へ移動	ステータス更新
1 承認処理中	Carolina Cardenas	KUZ102	0	2002/10/01	1		KUZ013	職務へ移動	ステータス更新
2 承認処理中	Hether Hawthorne	KUZ107	0	2002/10/01	1		KUZ013	職務へ移動	ステータス更新

ワークフローの照会ページ

- [必須検索フィールド]

特定の従業員のアクティビティを照会するには、[従業員 ID] フィールドに従業員 ID を入力します。Tab キーを押して必ずフィールドから出てください。

<トランザクション名> のアクティビティを照会するには、[トランザクション名] フィールドで <トランザクションのオブジェクト名> を選択します。Tab キーを押して必ずフィールドから出てください。

特定のステータスのアクティビティを選択するには、ステータス名の横にあるチェック ボックスをオンにします。1 つ以上のステータスを選択することができます。
- [オプション検索フィールド]

特定の日付に発生したトランザクションのアクティビティを照会するには、[日付] フィールドにその日付を入力します。
- [検索]

このボタンをクリックすると、検索条件を満たすトランザクションが検索されます。検索結果は [検索] ボタンの下に表示されます。

検索結果

- トランザクションに関する情報が、検索領域の下に表示されます。各種タブをクリックして、トランザクションに関連する情報を表示します。
- [エラー] または [警告] リンクをクリックすると、エラーおよび警告のメッセージが表示されます。
 - 移動先リンクをクリックすると、トランザクションに関連するコンポーネント ページが表示されます。
 - [ステータス更新] リンクをクリックすると、ステータスを表示または更新できます。

直属部下データへのアクセス権限の設定

直属部下データへのアクセス権限を設定するには、“直属部下の設定” コンポーネント (SS_LINK_TBL) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 管理者セルフサービスへのアクセス権限の決定
- 直属部下の設定
- トランザクション手順メッセージの設定

注: ePerformance-パフォーマンス管理または eProfile-人材プロフィールに対して直属部下データを設定する場合は、「共通コンポーネントの使い方」の章で説明されているページを使用します。

参照: 第 32 章、「共通コンポーネントの使い方」、「直属部下機能の設定」、746ページ

直属部下の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ターゲット情報	SS_LINK_TBL	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下の設定]、[ターゲット情報]	管理者用セルフサービスオプションでの、従業員データへのアクセス権限を設定します。
手順テキスト	SS_LINK_TBL2	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下の設定]、[手順テキスト]	該当のトランザクションコンポーネントサービスの“従業員の選択”ページ (OPRROWS) に手順メッセージを追加します。
直属部下関連 UI の設定	HR_DR_UI_CFG_1	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下関連 UI の設定]	直属部下またはユーザー インターフェイスの動作に対して設定する ePerformance-パフォーマンス管理および eProfile-人材プロフィールのトランザクションを選択します。 参照: 第 32 章、「共通コンポーネントの使い方」、「直属部下機能の設定」、746ページ
直属部下関連 UI の設定	HR_DR_UI_CFG_2	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下関連 UI の設定] 選択したトランザクションの [設定] ボタンをクリックします。	ePerformance-パフォーマンス管理または eProfile-人材プロフィールのセルフサービストランザクションに対して直属部下またはユーザー インターフェイスの動作を設定します。 参照: 第 32 章、「共通コンポーネントの使い方」、「直属部下機能の設定」、746ページ

管理者セルフサービスへのアクセス権限の決定

システムでは、次の 2 項目を確認し、その内容によって管理者セルフサービスのコンポーネントとデータへのアクセスを許可します。

- 管理者ユーザーであるかどうか

• その直属部下

権限リスト コンポーネントでコンポーネントへのアクセス権限を定義するときに、管理者用のセルフサービス コンポーネントの一部または全部についてユーザーのアクセス権限を決定します。“直属部下の設定” コンポーネントでは、特定の管理者セルフサービス トランザクションでユーザーがデータを参照できる直属部下を指定します。

システムにより、管理者とその直属部下の関係が判断されます。このために、職務情報ページ (JOB_DATA_JOBCODE) と部門プロファイル ページ (DEPARTMENT_TBL_GBL) が使用されます。職務情報ページでは、従業員の管理者を指定します。部門プロファイル ページでは、部門の管理者と、その部門に所属する従業員を指定します。

注: このセクションの内容は、PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理の管理者ロールには適用されません。

関連項目:

第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「プライマリ権限リストの基本設定」、268ページ

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「雇用データの追加」、「従業員の勤務地とポジションの情報の入力」

第 11 章、「組織構造基本テーブルの設定」、「部門の基本情報の定義」、262ページ

直属部下の設定

ターゲット情報ページにアクセスします。

ターゲット情報		手順テキスト	
コンポーネント名:	CO_PE_MGRRPTS_COMP	マーケット:	GBL
メニュー名:	ROLE_MANAGER		
メニュー パター名:	INQUIRE		
アイテム名:	HR_EE_INF_MGR		
ページ名:	HR_EE_INF_HOME		
アクセス モード:	更新/表示		
レポート (テーブル) 名:	HR_SS_EMPL_SRCH		
アクセス タイプ:	部門管理者 ID 別		
<input type="checkbox"/> 自分自身のデータを更新			

ターゲット情報ページ

注: ePerformance-パフォーマンス管理または eProfile-人材プロファイルに対して直属部下データを設定する場合は、「共通コンポーネントの使い方」の章で説明されているページを使用します。

参照: 第 32 章、「共通コンポーネントの使い方」、「直属部下機能の設定」、746ページ

注: システム オブジェクトのテクニカル名を定義するには、PeopleSoft アプリケーション デザイナを使用してください。

[コンポーネント名]	PeopleSoft アプリケーション デザイナでメニューに定義されているコンポーネント名を入力します。
	このコンポーネント名は、ユーザーが管理者セルフサービス トランザクションを選択したときに表示される“従業員の選択” ページのコンポーネント名です。トランザクション コンポーネントの名前ではありません。
[メニュー名]	ROLE MANAGER を選択します。管理者セルフサービス トランザクションは全てこのメニューに属しています。他のメニューのコンポーネントへのアクセスを管理者に許可する場合は、該当コンポーネントのメニュー名を選択します。
[メニュー バー名]	トランザクション コンポーネントが属すメニュー バー名を選択します。
[アイテム名]	コンポーネントのアイテム名を入力します。アイテム名は、トランザクション コンポーネントのシステム名であり、“従業員の選択” ページのコンポーネント名ではありません。 トランザクション コンポーネントには、管理者が従業員データを参照、または操作するために使用するページが含まれています。
[ページ名]	トランザクション コンポーネント ページのオブジェクト名を入力します。管理者セルフサービス トランザクションのオブジェクト名は、ページに関する説明の導入部分にある表に記載されています。 トランザクション コンポーネントにページが複数ある場合は、ユーザーが従業員名を選択する際、最初に表示されるトランザクション ページ（通常、コンポーネントの最初のページ）の名前を入力します。
[アクセス モード]	ユーザーがトランザクションで使用するアクション モードを選択します。オプションには、[追加]、[更新/表示]、[全て更新/表示]、[修正] があります。
[レコード (テーブル) 名]	トランザクション コンポーネントのページを構成するレコードのオブジェクト名を入力します。
[アクセス タイプ]	このフィールドは、該当トランザクション コンポーネントの従業員の選択 ページで使われる直属関係を定義します。使用可能なオプションは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [部門管理者 ID 別]: 部門プロファイル ページの [管理者 ID] フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。部門管理者のユーザーには、自分の部門に所属する従業員の一覧が表示されます。 • [部門セキュリティ ツリー別]: セキュリティ ツリーの情報を使って、従業員データのアクセス権限を決定します。セキュリティ ツリーに基づき、ユーザーがデータへのアクセスを許可された従業員の一覧が表示されます。 • [グループ ID 別]: グループ ビルド機能で設定されたグループ ID を使って、データのアクセス権限を決定します。 • [部門管理者 ID 別 - 一部ポジション管理]: 職務情報ページの [直属上司ポジション] フィールドと、部門プロファイル ページの [管理者 ID] フィールドの情報を使って直属関係を定義します。このオプションは、ポジション管理オプションで“一部”が設定されている組織を対象にしてい

まず、直属関係の検索は、まず直属上司のポジション番号に基づいて行われ、次に部門管理者 ID について行われます。

- [監督者 ID 別 – 一部ポジション管理]: 職務情報ページの [直属上司ポジション] フィールドと [監督者の従業員 ID] フィールドの両方を使って直属関係を定義します。このオプションは、ポジション管理オプションで “一部” が設定されている組織を対象にしています。直属関係の検索は、まず直属上司のポジション番号に基づいて行われ、次に監督者の従業員 ID について行われます。
- [直属上司のポジション別]: 職務情報ページの [直属上司ポジション] フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。ユーザーのポジションが、職務レコードの直属上司のポジションとして指定されている従業員の一覧が表示されます。
- [監督者の従業員 ID 別]: 職務情報ページの [監督者の従業員 ID] フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。ユーザーの ID が、職務レコードの監督者 ID として指定されている従業員の一覧が表示されます。

[自分自身のデータを更新] セルフサービスには適用されません。このチェック ボックスをオンにすると、管理者は該当のトランザクション コンポーネントにある自分の情報を更新できます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer
第 5 章、「HRMS セキュリティの設定と管理」、「セキュリティ ツリーの構築と修正」、83 ページ

トランザクション手順メッセージの設定

手順テキスト ページにアクセスします。

ターゲット情報

手順テキスト

コンポーネント名:CO_PE_MGRRPTS_COMP

マーケット:GBL

直属部下 – ページ アクセス手順テキスト

タイトル メッセージ セット:18032

メッセージ テキスト:従業員情報

タイトル メッセージ 番号:378

手順メッセージ セット:18032

説明:

従業員名をクリックして、情報を表示する従業員を選択します。特定の従業員を検索するには、[組織内従業員の検索] をクリックします。各従業員の直属部下を表示するには、組織図アイコンをクリックしてください。

手順メッセージ 番号:693

手順テキスト ページ

[直属部下 – ページ アクセス手順テキスト]

[タイトル メッセージ セット]、 選択したコンポーネントの “従業員の選択” ページに表示される、トランザ
[タイトル メッセージ番号] クション手順のタイトルのメッセージ セット番号とメッセージ番号を入力しま
す。

- [メッセージ テキスト]** タイトル メッセージ番号に関連付けられたトランザクション手順タイトルのテキストが表示されます。このテキストが、選択したコンポーネントの“従業員の選択”ページに表示されます。
- [手順メッセージ セット]、[手順メッセージ番号]** 選択したコンポーネントの“従業員の選択”ページに表示される、手順メッセージのセット番号とメッセージ番号を入力します。
- [説明]** 手順メッセージ番号に関連付けられた手順メッセージのテキストが表示されます。このテキストが、選択したコンポーネントの“従業員の選択”ページに表示されます。
- 参照、または操作したいデータを持つ従業員の選択方法について説明します。

セルフサービス トランザクションにおけるワークフローの使い方

セルフサービス トランザクションにおいてワークフローを使うには、ワークフロー デフォルト設定コンポーネント (WF_SYSTEM_DEFAULTS)、トランザクション カテゴリ コンポーネント (EO_TRAN_CATS)、ワークフロートランザクション コンポーネント (EO_TRANSACTIONS)、システム ワークフロー ルール コンポーネント (EO_SYS_WF_RULES)、ワークフロー ステータス コンポーネント (HR_WF_STATUS)、およびワークフロー ユーザー設定コンポーネント (HR_SS_WF_EE_PREF) を使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- ワークフロー メッセージ デフォルトのアクティブ化
- ユーザー基本設定の通知方法の設定
- ワークフローの通知ルールの定義

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Workflow Technology

ワークフローのアクティブ化に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ワークリスト デフォルト設定	WF_SYS_DEFAULTS	[PeopleTools]、[ワークフロー]、[デフォルト/メッセージ]、[ワークフロー デフォルト設定]	ワークフロー メッセージに対するデフォルトパラメータを設定します。
ワークフロートランザクション カテゴリ	EO_TRAN_CATS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[セルフサービス]、[トランザクション カテゴリ]、[ワークフロートランザクション カテゴリ]	セルフサービス トランザクションのカテゴリを定義します。通常、セルフサービス トランザクションは全て HR_TRANSACTIONS に割り当てられます。この情報は事前に定義されているため、変更しないでください。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ワークフロー トランザクション	EO_TRANSACTIONS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[セルフサービス]、[ワークフロー トランザクション]	<p>セルフサービス トランザクションを適切なワークフロー機能に関連付けて、ワークフロー トランザクション カテゴリを割り当てることで、セルフサービス トランザクションをワークフロー トランザクションとして登録します。</p> <p>承認ワークフロー エンジンを使用しない トランザクションの場合は、カテゴリは事前に定義されているため、この情報は変更しないでください。</p> <p>承認ワークフロー エンジンを使用する トランザクションの場合は、トランザクションに関連付けられている承認プロセス ID をさらに指定する必要があります。トランザクションの開始の委任および承認の委任を有効にすることもできます。</p> <p>参照: 第 25 章、「承認の設定と使い方」、「ワークフロー トランザクションのリンク」、582 ページ</p>
システム ワークフロー ルール	EO_SYS_WF_RULES	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[セルフサービス]、[システム ワークフロー ルール]	ワークフローを使用する予定の全てのセットIDについて、ワークフローの通知ルールを設定します。
ワークフロー ステータス	HR_WF_STATUS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[セルフサービス]、[ワークフロー ステータス]	各セルフサービス トランザクションについて、ワークフローによってトリガされるものを指定します。承認パスを変更することはできませんが、できるだけ変更しないでください。
ワークフロー ユーザー 基本設定	HR_SS_WF_EE_PREF	[セルフサービス]、[ワークフロー ユーザー設定]	ワークフロー メッセージに対するユーザーの通知方法を設定します。

ワークフロー メッセージ デフォルトのアクティブ化

ワークリスト デフォルト設定ページにアクセスします。

ワークリスト デフォルト設定

システム デフォルト ユーザー
 *ユーザー ID:

システム全般のルート処理
☒ ワークリスト使用 ☐ 共用のルール ワークリストを削除
☒ 電子メール使用
☒ HR 導入済

バッチル アップロード ワークリストの再送信
☒ 不許可
☐ 管理者/ロール ユーザーのみ
☐ 全ユーザーに許可

ワークリスト デフォルト設定ページ

[ワークリスト使用]、[電子メール使用]、[HR 導入済] の各チェック ボックスがオンになっていることを確認してください。

ワークフローの通知ルールの定義

システム ワークフロー ルール ページにアクセスします。

システム ワークフロー ルール

セットID: SHARE Table Set shared across Corp

[ワークフロー ルール] フィールドでは、全てのユーザーへの通知方法が示されます。それぞれの通知チェック ボックスをオンにすることで、トランザクションの作成者に通知するタイミングを指定できます。

カテゴリ ワークフロー ルール	*ワークフロー ルール	送信時に通知	承認時に通知	最終ステップ時に通知		
*トランザクション カテゴリ						
HR_TRANSACTIONS	両方	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	+	-

システム ワークフロー ルール ページ

ビジネス ユニットごとに異なるルールを使用できるように、セットID レベルでルールを指定します。

注: この情報は、PeopleSoft Enterprise HRMS を導入するときに指定する必要があります。

[トランザクション カテゴリ] トランザクション カテゴリを選択します。

[ワークフロー ルール] ユーザーの処理が必要な場合に、ユーザーにそれを通知する方法を定義します。以下の値から選択します。

- [電子メール]: ユーザーに電子メールで通知されます。
- [ワークリスト]: ユーザーのワークリストにエントリを設定することにより、ユーザーに通知されます。
- [両方]: 電子メールとワークリストの両方により、ユーザーに通知されます。
- [なし]: 通知されません。

- [ユーザー]: ユーザーが基本設定を定義できます。ワークフロー ユーザー基本設定ページで基本設定を指定します。

[送信時に通知]

このチェック ボックスをオンにすると、トランザクションを送信したときにユーザーは確認メッセージを受け取ります。

[承認時に通知]

このチェック ボックスをオンにすると、トランザクションが承認されたときにユーザーは通知を受け取ります。

[最終ステップ時に通知]

このチェック ボックスをオンにすると、リクエストの最終処理が行われたときにユーザーは通知を受け取ります。

関連項目:

[付録 C、「PeopleSoft Enterprise HRMS の標準ワークフロー、」817ページ](#)

ユーザー基本設定の通知方法の設定

ワークフロー ユーザー基本設定ページにアクセスします。

ワークフロー ユーザー基本設定	
Betty Locherty	
トランザクションカテゴリ	*通知方法
HR_TRANSACTIONS	電子メール

ワークフロー ユーザー基本設定ページ

ワークフローの通知方法を選択します。

第 32 章

共通コンポーネントの使い方

この章では、PeopleSoft Enterprise HRMS 共通コンポーネントの概要と以下の作業方法について説明します。

- 直属部下機能の設定
- 個人検索の設定
- HR ノートパッドの設定
- テキスト カタログの設定

注: PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理には、共通コンポーネントとして承認ワークフロー機能、委任機能、XML パブリッシュ機能も用意されています。これらの機能については、それぞれの章で説明します。

関連項目:

[第 25 章、「承認の設定と使い方」、565ページ](#)

[第 26 章、「委任の設定と使い方」、637ページ](#)

[第 28 章、「HCM 変換フレームワークの使い方」、691ページ](#)

PeopleSoft Enterprise HRMS 共通コンポーネントについて

このセクションでは、共通フィールドと共通コンポーネント ページについて説明します。

この章で使用する共通フィールド

- | | |
|-----------------------|---|
| オブジェクト オーナー ID | 共通コンポーネントで使用されるアプリケーションを指定します。これは、標準で提供されている機能です。 |
| サブ ID | コンポーネント エントリをさらに機能別に分類します。たとえば、M (管理者) のサブ ID では、E (従業員) のサブ ID とは異なるコンポーネント エントリが許可されます。 |

共通コンポーネント ページ

PeopleSoft には、複数の HCM アプリケーション間で機能を実行するための共通ページが用意されています。これらのページは、標準 API による設定とアプリケーションへの組み込みが簡単なプラグイン アプリケーションとして導入されます。

これらのアプリケーションは通常、eRecruit-採用管理、ePerformance-パフォーマンス管理、福利厚生管理などの呼出アプリケーションの適用条件内における、特定の汎用機能に関する情報の取得、保存および表示に使用されます。

データ構造

各共通コンポーネントでは、固有のデータソースが管理されます。これらの共通コンポーネントにはキーがあります。プラグインの組み込まれた全てのアプリケーションは、ユーザー定義が可能なキー構造を使用する同一のデータ構造を共有しています。これにより、各アプリケーションのさまざまなデータ処理要件に対応しています。プラグインの組み込まれたアプリケーションの適用条件下でプラグインの実行時に使用される実際のキーが、アプリケーションごとに定義または登録されます。プラグインの設定ページでアプリケーションのエントリを作成して、キーを登録します。この情報には、組み込み先アプリケーションのオブジェクト オーナー ID がキーとして指定されます。

ユーザー インターフェイス

プラグインを使用することにより、プラグインが組み込まれた全てのアプリケーションにおいて、一貫性のあるデータ表示が可能になります。たとえば、同一のフォーマットを使用して、eRecruit-採用管理、ePerformance-パフォーマンス管理、Payroll for North America、または福利厚生管理のいずれを使用しているかに応じたメモが取得され、表示されます。HCM 全体で整合性のあるスタイルを維持しつつ、適用条件に応じた手順テキスト、ラベルなどを提供するため、各プラグイン アプリケーションではテキストカタログが使用されます。

ユーザー定義可能な動作

組み込み先アプリケーションの一部では、プラグイン機能を有効または無効に設定したり、変更する機能を必要とします。これらの設定オプションは、キーの登録場所でもあるプラグインの設定ページで、アプリケーションごとに操作されます。

テキスト カタログ以外の HCM プラグインは、ページにグラフィック ボタンを挿入し、このボタンの FieldChange PeopleCode に簡易 API コールを挿入することにより、アプリケーションに組み込まれます。テキスト カタログは、コンポーネントビルドや PageActivate コード内の API によって呼び出されます。

警告: 設定を変更する場合は注意してください。キー値を変更したりすると、アプリケーションの他の機能が正常に働かなくなる恐れがあるため、PeopleSoft ではこうした修正はサポートしていません。

直属部下機能の設定

直属部下機能を設定するには、「直属部下関連 UI の設定」(HR_DR_UI_CFG) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、直属部下の概要と以下の作業方法について説明します。

- 直属部下機能に関するコンポーネントとトランザクションの設定
- 直属部下 UI に表示されるアクションとフィールドの選択
- 直属部下 API のテスト
- メソッドから返される例外とデータの表示
- メソッド実行のトレース ログの表示
- 直属部下ユーザー インターフェイスのテスト

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ePerformance-パフォーマンス管理 9.0 PeopleBook、「記入票の作成」、「管理者による記入票の作成」

直属部下機能について

直属部下情報は HCM アプリケーション全体で使用されますが、特に管理者セルフサービス アプリケーションで使用されます。直属部下情報には、通常、組織階層のナビゲーションが含まれます。たとえば、管理者は直属部下情報を使用して、従業員の昇進・昇給を行います。直属部下情報は以下のモードで使用できます。

- ドリルダウン モード: 管理者がセルフサービス アプリケーションで処理する従業員を選択できます。
- コマンド チェーン モード: 承認と通知用のワークフローを決定します。

直属部下機能を実行するための主なコンポーネントには、次の 2 つがあります。

- データ サービス

データ サービスは組織構造をナビゲートして、特定の管理者の管轄下にある従業員の一覧、または特定の従業員の指揮命令系統を返します。データ サービスでは適用条件は完全に無視され、オンライン リクエストとバッチ リクエストの両方に対するサービスが可能です。

- ユーザー インターフェイス

データ サービスから切り離された、ユーザー設定可能な共通ユーザー インターフェイス (UI) です。データ サービスから情報を受け取り、一貫性のある、わかりやすい、再利用可能な UI として表示されます。これにより、ユーザーは組織構造を視覚的にナビゲートして、1 人または複数の処理対象の従業員を選択できます。

セルフサービス アプリケーションの直属部下

直属部下機能を設定するには 2 つの方法があります。以下のアプリケーションについて直属部下機能を設定するには、“直属部下の設定” (SS_LINK_TBL) コンポーネントを使用します。

- PeopleSoft Enterprise eDevelopment-人材開発
- PeopleSoft Enterprise eCompensation-報酬管理
- HRMS ポータル パック
- PeopleSoft Enterprise ePay-給与
- PeopleSoft Enterprise Stock Administration

注: この他のアプリケーションについては、このセクションで説明する“直属部下関連 UI の設定”コンポーネントを使用します。

関連項目:

第 31 章、「セルフサービストラザクションの設定と使い方」、「直属部下データへのアクセス権限の設定」、735 ページ

直属部下機能の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
管理者デスクトップトランザクション	HR_DR_UI_CFG_1	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下関連 UI の設定]	直属部下機能を含むコンポーネントとトランザクションを設定します。
管理者デスクトップトランザクション: 設定	HR_DR_UI_CFG_2	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下関連 UI の設定] 管理者デスクトップトランザクション ページの [名称] フィールドの右側にある [設定] ボタンをクリックします。	トランザクションについて直属部下 UI に表示されるアクションとフィールドを選択します。
直属部下 API の呼出 - 設定/実行	HR_DRPT_API_EXEC	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下 API の呼出]、[設定/実行]	直属部下 API をテストします。
直属部下 API の呼出 - 実行結果	HR_DRPT_API_RSLTS	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下 API の呼出]、[設定/実行] “直属部下 API の呼出” コンポーネントで [実行結果] タブを選択します。	メソッドから返される例外とデータを表示します。
直属部下 API の呼出 - 追跡結果	HR_DRPT_API_TRACE	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下 API の呼出]、[設定/実行] “直属部下 API の呼出” コンポーネントで [追跡結果] タブを選択します。	メソッド実行のトレース ログを表示します。
直属部下関連 UI の API の呼出	HR_DRPT_API_UITEST	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[直属部下]、[直属部下関連 UI API の呼出]、[直属部下関連 UI の API の呼出]	直属部下のユーザー インターフェイスをテストします。

直属部下機能に関するコンポーネントとトランザクションの設定

管理者デスクトップ トランザクション ページにアクセスします。

管理者デスクトップ* トランザクション				
		カスタマイズ 検索	最初	1-29/29
*コンポーネント名	トランザクション名	*名称		
EP_APPR_SELECT	EP_CREATE	View-Only Documents	設定	-
EP_CREATE_MY_DVL	EP_CREATE	Create Documents: Development	設定	-
EP_CREATE_MY_DVL_G	EP_CREATE_GRP	Create Documents by Group: Dev	設定	-
EP_CREATE_MY_PRF	EP_CREATE	Create Documents: Performance	設定	-
EP_CREATE_MY_PRF_G	EP_CREATE_GRP	Create Documents by Group: Prf	設定	-

管理者デスクトップ トランザクション ページ

直属部下機能が有効なコンポーネントとトランザクションの一覧が表示されます。新規のコンポーネントとトランザクションを追加できます。また [設定] ボタンをクリックして、特定のコンポーネントとトランザクションにおける直属部下 API の処理方法と UI の表示方法を指定できます。

直属部下 UI に表示されるアクションとフィールドの選択

管理者デスクトップ トランザクション: 設定ページにアクセスします。

検索 全件表示 最初 1/29 最後		
コンポーネント名: EP_APPR_SELECT トランザクション名: EP_CREATE View-Only Documents		
処理ルール		
アクセス タイプ: 部門管理者 ID 別 <input type="checkbox"/> 強制グループ リフレッシュ		
<input type="checkbox"/> 自分自身のデータを更新 <input checked="" type="checkbox"/> 間接的部下の処理を許可 <input type="checkbox"/> 複数の従業員を選択		
表示フィールド		
<input checked="" type="checkbox"/> 従業員 ID	<input type="checkbox"/> 職務コード	<input type="checkbox"/> 所在地コード
<input type="checkbox"/> 雇用コード	<input checked="" type="checkbox"/> 職務名	<input type="checkbox"/> 勤務地名
<input type="checkbox"/> ホンション番号	<input type="checkbox"/> 部門 ID	
<input type="checkbox"/> 従業員ステータス	<input checked="" type="checkbox"/> 部門名	
<input type="checkbox"/> 常勤/パートタイム		

管理者デスクトップ トランザクション: 設定ページ

[処理ルール]

[アクセス タイプ]

上司と部下の関係を判断するために使用する指揮命令系統の情報を選択します。このフィールドによって、該当するトランザクション コンポーネントの従業員の選択ページで使用する直属関係を定義し、トランザクションの承認者を識別するための方法を決定します。使用可能なオプションは以下のとおりです。

- [部門管理者 ID 別]: 部門プロファイル ページ (DEPARTMENT_TBL_GBL) の [管理者 ID] フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。部

門管理者のユーザーには、自分の部門に所属する従業員の一覧が表示されます。

- [部門セキュリティツリー別]: セキュリティツリーの情報を使って、従業員データのアクセス権限を決定します。セキュリティツリーに基づき、ユーザーがデータへのアクセスを許可された従業員の一覧が表示されます。
- [グループ ID 別]: グループビルド機能で設定されたグループ ID を使って、データのアクセス権限を決定します。
- [部門管理者 ID 別 - 一部ポジション管理]: 職務情報ページ (JOB_DATA_JOB_CODE) の [直属上司ポジション] フィールドと、部門プロファイル ページの [管理者 ID] フィールドの情報を使って直属関係を定義します。このオプションは、ポジション管理オプションで “一部” が設定されている組織を対象にしています。直属関係の検索は、まず直属上司のポジション番号に基づいて行われ、次に部門管理者 ID について行われます。
- [監督者 ID 別 - 一部ポジション管理]: 職務情報ページの [直属上司ポジション] フィールドと [監督者の従業員 ID] フィールドの両方を使って直属関係を定義します。このオプションは、ポジション管理オプションで “一部” が設定されている組織を対象にしています。直属関係の検索は、まず直属上司のポジション番号に基づいて行われ、次に監督者の従業員 ID について行われます。
- [直属上司のポジション別]: 職務情報ページの [直属上司ポジション] フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。ユーザーのポジションが、職務レコードの直属上司のポジションとして指定されている従業員の一覧が表示されます。
- [監督者の従業員 ID 別]: 職務情報ページの [監督者の従業員 ID] フィールドの情報に基づいて直属関係を定義します。ユーザーの ID が、職務レコードの監督者 ID として指定されている従業員の一覧が表示されます。

[自分自身のデータを更新] このチェック ボックスをオンに設定すると、ユーザーが自分のレコードを更新できます。また、管理者自身の情報が、直属部下または指揮命令系統の情報と共に直属部下結果リストに表示されます。

[間接的部下の処理を許可] このチェック ボックスをオンに設定すると、ユーザーの間接的部下が表示されます。組織階層をナビゲート ダウンすることにより、直属部下の直属部下が、階層の最下位に達するまで表示されます。

[複数の従業員を選択] このチェック ボックスをオンに設定すると、検索結果から複数の従業員を選択できます。また、結果リストの名前の隣にチェック ボックスが表示されます。オフにすると、オプション ボタンが表示されます。

注: 標準トランザクションではこの設定を変更しないでください。標準トランザクションは、単一値または複数值のいずれかを選択する設計のため、この設定を変更すると、標準トランザクションが機能しなくなる可能性があります。

[強制グループ リフレッシュ] このチェック ボックスをオンに設定すると、グループビルド プロセス (GBP002) を実行して、直属部下を表示する前に割当先グループがリフレッシュされます。オフにすると、プロセスの最終スケジュール実行時の割当先グループがページに表示されます。アクセス タイプに [グループ ID 別] を選択した場合のみ、このチェック ボックスが使用可能になります。

[表示フィールド]

アプリケーションによる直属部下リストの表示時にリスト内に表示するフィールドを選択します（複数選択可）。

関連項目:

第 31 章、「セルフサービストランザクションの設定と使い方」、727ページ

直属部下 API のテスト

“直属部下 API の呼出” - 設定/実行ページにアクセスします。

“直属部下 API の呼出” - 設定/実行ページ

[クラス メソッド]

有効値のリストからメソッドを選択します。

- GetSupervisor()

ターゲット従業員の監督者を取得します。このメソッドは、アプリケーションが監督者の直属部下ではなく、ターゲット従業員の監督者を決定する必要がある場合に有効です。たとえば、従業員の監督者に通知を送信するには、アプリケーションによって監督者の ID を決定する必要があります。

- DrillDown()

指揮命令系統の 1 レベル下に論理的に移動して、従業員の全ての直属部下を取得します。これはアプリケーション クラスの最も一般的な使い方です。このメソッドは、従業員/職務の直属部下を返します。

- DrillUp()

指揮命令系統の 1 レベル上に論理的に移動して、従業員の監督者と、その監督者の全ての直属部下を取得します。

- GetPeers()

まずターゲット従業員について GetSupervisor() メソッドを呼び出し、次に DrillDown() メソッドを呼び出して、この監督者の全ての直属部下を取得します（これは特定従業員の全ての同僚を取得するのと同じです）。

[メソッドの実行]

このボタンをクリックすると、ユーザーが設定したクラス プロパティを使用してメソッドが実行されます。

[クラス プロパティ]

選択したクラスに存在するプロパティとそのデフォルト値が表示されます。メソッドを実行する前に、どのプロパティの設定も変更できます。

[ナビゲーション メソッド]

直属関係の判断時に使用するメソッドを選択します。オプションは [1 - 部門セキュリティ ツリー]、[2 - 監督者 ID]、[3 - 部門管理者 ID]、[4 - 直属上司のポジション]、[5 - ポジション/管理者 ID]、[6 - ポジション/部門管理者]、[7 - グループ ID] です。

[対象従業員 ID]

対象従業員の従業員 ID を入力します。

[対象雇用レコード]

対象従業員の雇用レコード番号を入力します。

[ポジション番号]

対象従業員のポジション番号を入力します。

[指定日]

直属関係の判断時に使用する指定日を入力します。

[グループ ID]

[ナビゲーション メソッド] で “グループ ID” を選択した場合に、グループ ID を入力します。

[氏名表示]

[直接部下行セット] に従業員名を返すかどうかを指定します。デフォルトは[真]です。

[空きポジション表示]

[ナビゲーション メソッド] でポジション ベースのメソッドを選択した場合に、[直接部下行セット] に空きポジションを返すかどうかを指定します。デフォルトは[偽]です。

[間接インジケータ表示]

対象の従業員 ID/雇用レコード番号に直属部下があるかどうかを示す各行のインジケータを、[直接部下行セット] に表示するかどうかを指定します。デフォルトは[偽]です。

注: [ナビゲーション メソッド] が “部門セキュリティ” または “グループ ID” の場合は該当しません。

[対象従業員を含む]

返された直属部下行セットおよび監督者行セットから、対象従業員を除外するかどうかを指定します。[真] の場合は、対象従業員は除外されません。[偽] (デフォルト) の場合は、ループ状態の直属関係は表示されません。

[ドリルアップ制限]

ユーザーが、最初に指定された対象従業員/職務よりも高いレベルにドリルアップできるかどうかを指定します（たとえば、管理者 SS (セルフサービス) トランザクションで使用する場合、2 レベルドリル ダウンしてから 3 レベルドリル アップし、同僚を表示して選択できるかなど）。一方、通知プロセスで使用する場合は、最初に指定された対象従業員/職務よりも高いレベルへのドリルアップが必須です。[真] (デフォルト) の場合は、ドリルアップが制限されます。

- [一部統合]

一部をポジション管理するナビゲーション メソッドを使用している場合に、第 1 のメソッドが有効なデータを返した場合でも、第 2 のメソッドを適用するかどうかを指定します。デフォルトは[真]です。
- [グループ再作成]

[ナビゲーション メソッド] が “グループ ID” の場合に、この有効日に対してグループの結果が既に存在している場合でも、グループを再作成するかどうかを指定します。
- [バッファ]

パフォーマンスを向上するために、サービス バッファを次のレベルにレベル アップまたはレベル ダウンするかどうかを指定します。デフォルトは[偽]です。
- [追跡]

クラス メソッドの実行時に処理の追跡を生成するかどうかを指定します。デフォルトは[偽]です。
- [デバッグ モード]

[デバッグ モード] が [真] の場合は、結果セットの表示前に、実行中に発生した例外が表示されます。

メソッドから返される例外とデータの表示

“直属部下 API の呼出” - 実行結果ページにアクセスします。

設定/実行 **実行結果** 追跡結果

クラス メソッド: DrillDown0

時間: 0.02

例外行セット

変更度	メッセージ セット	メッセージ	説明
-----	-----------	-------	----

監督者行セット

カスタマイズ | 検索 |  最初 1/1 最後

従業員 ID	雇用コード No.	給与計算ステータス	名前	職務コード	部門 ID	所在地コード	サブジョブ番号	被代理者の従業員 ID	被代理雇用コード	被代理サブジョブ
	0									

直属部下行セット

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |  最初 1-5/5 最後

従業員 ID	雇用コード No.	給与計算ステータス	名前	職務コード	部門 ID	所在地コード	サブジョブ番号	直接の部下
KOW002		0 A	Danilo Travantti	790000	20000	KUCA00		N
KOW003		0 A	Owen Wills	230000	15000	KUCA00		N
KOW004		0 A	Will Smitherson	790000	22000	KUCA00		N
KOW005		0 A	Laura Jones	770005	25000	KUCA00		N
KOW006		0 A	Paul Harvest	600120	53000	KUCA00		N

“直属部下 API の呼出” - 実行結果ページ

メソッドの実行結果が表示されます。

メソッド実行のトレース ログの表示

“直属部下 API の呼出” - 追跡結果ページにアクセスします。

設定/実行

実行結果

追跡結果

実行追跡結果

カラム名 | 検索 |

最初 1-25/25 最後

サブメソッド名	追跡情報
1 DrillDown0	AppClass Method Invoked.
2 iDrillDown0	private method invoked.
3 iDrillDown0	class property NavigationMethod= 5
4 iDrillDown0	class property TargetEmplid= K0W001
5 iDrillDown0	class property TargetERN= 0
6 iDrillDown0	class property AsOfDate= 2007-05-28
7 iDrillDown0	class property ShowName= True
8 iDrillDown0	class property ShowIndirectIndicator= False
9 iDrillDown0	class property ShowEmptyPositions= False
10 iDrillDown0	class property CombinePartials= True
11 iDrillDown0	class property LimitDrillUp= True
12 iDrillDown0	class property RebuildGroup= False
13 iDrillDown0	class property BufferNextLevel= False
14 GetPosition0	Lookup position for Emplid: K0W001, ERN: 0, Effdt: 2007-05-28.
15 GetPosition0	Returns Position: .

“直属部下 API の呼出” - 追跡結果ページ (1/2)

16	FetchReportsMethod40	method 4 - Cannot resolve position. This Target Emplid (K0W001) is not assigned to a Position.
17	FetchReportsMethod40	The returned rowset contains only 1 row, which is a dummy row.
18	FetchReportsMethod20	Method returns 5 rows.
19	MergeRowsets0	merging rowsets - RS_ByPosition (primary): 1 rows, RS_Fallback (secondary): 5 rows.
20	MergeRowsets0	merged 5 secondary rows into primary rows, returns 5 rows.
21	MergeRowsets0	0 secondary rows were duplicates of a primary row.
22	RemoveTargetEmployee0	Searching for Target Employee in rowset.
23	iDrillDown0	private method returns 5 rows in DirectReports rowset.
24	DrillDown0	Pushed Target onto Breadcrumb[1].
25	DrillDown0	Class Method returns 5 rows in DirectReports rowset.

“直属部下 API の呼出” - 追跡結果ページ (2/2)

[追跡] クラス プロパティに [真] を選択した場合のみ、このページにデータが表示されます。

直属部下ユーザー インターフェイスのテスト

“直属部下関連 UI の API の呼出” ページにアクセスします。

直属部下関連 UI の API の呼出

アプリケーション コンテキスト設定

コンポーネント名

API を実行

API の結果

従業員 ID	表示名
KU0101	Cynthia Adams

“直属部下関連 UI の API の呼出” ページ

この API のテストでは、現在の設定に基づいて表示される結果セットが表示されます。

コンポーネント名を選択して、[API を実行] ボタンをクリックします。このコンポーネントの適用条件で直属部下プラグインが実行され、[API の結果] グリッドに結果が表示されます。

たとえば上のスクリーン ショットでは、勤務地変更コンポーネントで Cynthia Adams を選択した場合の結果が表示されています。

勤務地の変更

新しい勤務地に移動する従業員を選択してください。

▼ 手順

新しい勤務地に移動する従業員を選択します。処理できるのは、前のページで指定した日付時点であなたの管轄下にある従業員のみです。

選択したら [続行] ボタンをクリックして、新しい勤務地を入力します。

[選択従業員の表示](#)

[キャンセル](#)

従業員の選択

直属上司: **Betty Locherty**

指定日: 2007/03/27

続行

従業員の選択

		検索		最初	1-50/109	最後
選択	名前	従業員 ID	職務	給与計算ステータス	HR ステータス	アクション番号
<input checked="" type="checkbox"/>	Cynthia Adams	KU0101	0 アクティブ	アクティブ		19000032
<input type="checkbox"/>	Angelica Alvarez	KUZ100	0 アクティブ	アクティブ		
<input type="checkbox"/>	Christelle Baker	KULK11	0 アクティブ	アクティブ		19000026
<input type="checkbox"/>	Bianca Baltran	KUZ101	0 アクティブ	アクティブ		
<input type="checkbox"/>	Christelle Bickler	KULK13	0 アクティブ	アクティブ		19000026

勤務地の変更ページの例

個人検索の設定

個人検索機能を設定するには、“個人単純検索の設定” (HR_PSS_CONFIG) コンポーネントを使用します。このセクションでは、個人単純検索の概要と、以下の作業方法について説明します。

- 個人単純検索用コンポーネントの設定
- 個人単純検索のテスト

個人単純検索について

個人単純検索のページでは、アプリケーションのユーザーが処理対象の個人を検索して選択できます。このコンポーネントを使用することで、名前の一部を入力するようにユーザーに求める UI を表示したり、候補者の一覧を検索結果に表示してユーザーが値を選択できるようにする作業をアプリケーションで簡単に行うことができます。追加機能には、適用条件に依存しない追加データへの任意のドリルダウン機能が含まれます。

個人単純検索の設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
設定	HR_PSS_CONFIG	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[個人検索]、[個人単純検索の設定]、[設定]	個人単純検索用コンポーネントを設定します。
単純検索 API の呼出	HR_PSS_TEST_API	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[個人検索]、[単純検索 API の呼出]、[単純検索 API の呼出]	アプリケーションの適用条件で個人単純検索をテストします。
個人検索 - 単純検索	HR_PSS_SEARCH	このページは、複数の呼出アプリケーションから呼び出されます。	個人を検索して選択します。

個人単純検索用コンポーネントの設定

設定ページにアクセスします。

設定

オーナー ID ePerformance-パフォーマンス管理

サブ アプリケーション NOM

最大表示行数

☒ 複数の従業員を選択

☒ 名前をフリガナ表記

☐ 従業員 ID を表示

*HR ステータス 非表示

☒ HR ステータスがアクティブ

☐ HR ステータスが非アクティブ

*雇用形態 非表示

☒ 従業員

☒ 非従業員

☐ 関係者

設定ページ

アプリケーションの個人検索 - 単純検索ページにおける、個人情報の検索方法と表示方法を制御するオプションを選択します。

[最大表示行数]

呼出アプリケーションに返す最大表示行数を入力します。検索条件を満たす行は全て返され、結果リストに表示されます。検索結果が最大表示行数を超える場合は、最大表示行数を超える検索結果が返されたため検索条件を絞り込むように指示するメッセージが表示されます。

[HR ステータス]

次の値の中から 1 つ選択します。

- [非表示]
検出された個人の HR ステータス値は、結果リストに表示されません。
- [表示専用]
検出された個人の HR ステータス値は、結果リストに表示されます。
- [入力可能]
HR ステータス値による検索が可能です。雇用形態は、個人検索ページにチェック ボックスとして表示されます。

[HR ステータスがアクティブ]

このチェック ボックスをオンにすると、アクティブな従業員の行だけが返されます。デフォルトではこのチェック ボックスはオンになっています。

[HR ステータスが非アクティブ]

このチェック ボックスをオンにすると、非アクティブな従業員の行だけが返されます。

[複数の従業員を選択]

このチェック ボックスをオンに設定すると、検索結果から複数の従業員を選択できます。また、結果リストの名前の隣にチェック ボックスが表示されます。オフにすると、オプション ボタンが表示されます。

[名前をフリガナ表記]

このチェック ボックスをオンに設定すると、フリガナ フォーマットに検索文字列を入力して名前を検索できます。システム設定でフリガナ フォーマット

トでの名前の入力を可能にしている場合、デフォルトではこのチェック ボックスはオンになっています。

【従業員 ID を表示】

このチェック ボックスをオンに設定すると、結果の詳細に従業員の ID が表示されます。デフォルトでは、このチェック ボックスはオフになっています。

【雇用形態】

以下のいずれかの値を選択して、個人検索ページにおける個人の雇用形態の表示方法を管理します。

- **【非表示】**
雇用形態は結果リストに表示されません。
- **【表示専用】**
雇用形態は結果リストに表示されます。
- **【入力可能】**
検索対象の雇用形態を選択できます。雇用形態は、個人検索ページにチェック ボックスとして表示されます。

【従業員】

このチェック ボックスをオンに設定すると、検索結果として従業員だけが返されます。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。

【非従業員】

このチェック ボックスをオンに設定すると、臨時従業員や契約社員などの非従業員だけが検索結果として返されます。

【関係者】

このチェック ボックスをオンに設定すると、退職者や応募者などのその他の関係者だけが検索結果として返されます。

個人単純検索のテスト

“単純検索 API の呼出” ページにアクセスします。

単純検索 API の呼出

アプリケーション コンテキスト設定

オーナー ID

サブ アプリケーション

API を実行

API の結果

従業員 ID	表示名
KU0101	Cynthia Adams

“単純検索 API の呼出” ページ

このページでは、選択したアプリケーションやサブ アプリケーションに固有の条件下での、個人検索 - 単純検索ページの設定をテストできます。[API を実行] ボタンをクリックすると、このアプリケーションについて設定したとおりに作成された検索ページが表示されます。このページで検索条件を入力して、検索結果の表示について確認できます。

個人単純検索の結果の表示

個人検索 - 単純検索ページにアクセスします。

個人検索 - 単純検索
検索条件と結果

▶ 手順

姓 検索

名

フリガナ

☒ 従業員 ☐ 非従業員 ☐ その他

☒ アクティブ ☐ 非アクティブ

検索結果

☒ Cynthia Adams i

OK キャンセル

個人検索 - 単純検索ページ

HR ノートパッドの設定

HR ノートパッドを設定するには、“HR ノートパッドの設定” (HR_NP_CONFIG) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、HR ノートパッドの概要および以下の作業方法について説明します。

- アプリケーションで使用する HR ノートパッドの設定
- メモの保存条件の設定
- アプリケーション メモ ページ リンクの設定
- ノートパッド設定のテスト

HR ノートパッドについて

ノートパッドはテキスト ベースのメモの論理グループ、言い換えれば、アプリケーションの適用条件においてユーザーが入力したメモの集まりです。たとえば、ePerformance-パフォーマンス管理の適用条件においては従業員が評価メモを持ち、eRecruit-採用管理の適用条件においては管理者が採用管理用のメモを持っています。

HR ノートパッドを更新するプラグイン アプリケーションは、全ての HCM アプリケーションと統合できます。このプラグイン アプリケーションでは、アプリケーション データ行に関連する論理メモを記録できます。アプリケーション別に分類された共通データ構造を使用して、メモが保存されます。

ノートパッドは、テキスト ベースのメモを作成、編集、表示、削除可能な一貫性のあるユーザー インターフェイス (UI) を提供します。ノートパッド UI は、メモを選択して管理するための 2 つのページと、警告とエラーを表示するための 2 次ページと、メモ履歴を表示するための 3 次ページから成る単一コンポーネントです。

ノートパッド UI は全てのアプリケーションで一貫性がありますが、特定のアプリケーションに固有の詳細なノートパッド表示や動作については、設定テーブルの、そのアプリケーション用のエントリで定義します。このエントリでは、ノートパッド UI の動作、および特定のアプリケーションで使用されるキーを定義します。この設定テーブルを使用して、現在標準でノートパッド機能が提供されていないアプリケーションとノートパッド ページとを統合できます。また、PeopleTools で作成したアプリケーションにノートパッド機能を追加したり、ノートパッド ページの外観を変更することもできます。

HR ノートパッドの設定に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
HR ノートパッドの設定 (アプリケーションの選択)	HR_NP_CONFIG_HDR	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[HR ノートパッドの設定]、[HR ノートパッドの設定]	アプリケーション別に HR ノートパッドを設定します。
HR ノートパッドの設定 (キーの設定)	HR_NP_CONFIG2	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[HR ノートパッドの設定]、[HR ノートパッドの設定] “HR ノートパッドの設定” ページで該当するアプリケーションの行の [設定] リンクをクリックします。	メモの保存条件を設定します。
HR ノートパッドの設定 (リンクの設定)	HR_NP_CONFIG3	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[HR ノートパッドの設定]、[HR ノートパッドの設定] “HR ノートパッドの設定” (キーの設定) ページで、[リンクの設定] リンクをクリックします。	アプリケーション メモ ページに表示されるリンクを設定します。
ノートパッド API	HR_NP_TEST_API	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[HR ノートパッド API の呼出]、[ノートパッド API]	ノートパッドの設定内容についてテストします。

アプリケーションで使用する HR ノートパッドの設定

“HR ノートパッドの設定” (アプリケーションの選択) ページにアクセスします。

HR ノートパッドの設定

応募データ

カスタマイズ | 検索 | 全件表示 |

最初 1-5/5 最後

オーナー ID	サブID	*プライバシー	削除可	移管可	オーディット	設定	
ePerformance-パフォーマンス管理	E	個人専用	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設定	<input type="button" value="－"/>
ePerformance-パフォーマンス管理	M	個人専用	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設定	<input type="button" value="－"/>
ヒューマンリソース管理	JOB	他者表示可	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設定	<input type="button" value="－"/>
ヒューマンリソース管理	MIL	他者表示可	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設定	<input type="button" value="－"/>
ヒューマンリソース管理	WAGE	他者編集可	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設定	<input type="button" value="－"/>

+

“HR ノートパッドの設定” (アプリケーションの選択) ページ

[プライバシー]

以下のオプションから選択します。

- [個人専用]: メモの所有者のみがメモにアクセスできます。
- [他者表示可]: 誰でもこのアプリケーションの既存メモを表示できますが、更新できるのはメモの所有者のみです。
- [他者編集可]: 誰でもこのアプリケーションの既存メモを表示および編集できます。

[削除可]

このチェック ボックスをオンに設定すると、メモを削除できます。

[移管可]

このチェック ボックスをオンに設定すると、メモを入力した所有者がメモの所有権を別の個人に移管できます。

[オーディット]

このチェック ボックスをオンに設定すると、このアプリケーションの変更のオーディット機能が使用可能になります。移管や削除を含めた既存のメモに対する全ての変更履歴が、自動的に保持されます。

[設定]

キーの設定ページにアクセスします。

メモの保存条件の設定

“HR ノートパッドの設定” (キーの設定) ページにアクセスします。

HR ノートパッドの設定

オーナー ID: ePerformanceパフォーマンス管理

サブID: E

キー 1	キー 2
<input checked="" type="checkbox"/> キー 1 使用 キー 1 プロンプト テーブル: PERSON_NAME キー 1 プロンプト フィールド: EMPLID キー 1 表示フィールド: NAME <input checked="" type="checkbox"/> 非表示 <input checked="" type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 入力可能 <input checked="" type="checkbox"/> グリッドに必須 <input type="checkbox"/> グリッド上に表示	<input checked="" type="checkbox"/> キー 2 使用 キー 2 プロンプト テーブル: PERSON_NAME キー 2 プロンプト フィールド: EMPLID キー 2 表示フィールド: NAME <input checked="" type="checkbox"/> 非表示 <input checked="" type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 入力可能 <input checked="" type="checkbox"/> グリッドに必須 <input type="checkbox"/> グリッド上に表示
<input checked="" type="checkbox"/> キー 3 使用 キー 3 プロンプト テーブル: EP_APPR キー 3 プロンプト フィールド: EP_APPRAISAL_ID キー 3 表示フィールド: EP_APPRAISAL_ID <input checked="" type="checkbox"/> 非表示 <input type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 入力可能 <input type="checkbox"/> グリッドに必須 <input type="checkbox"/> グリッド上に表示	<input checked="" type="checkbox"/> キー 4 使用 キー 4 プロンプト テーブル: EP_SECTION_DEFN キー 4 プロンプト フィールド: EP_SECTION_TYPE キー 4 表示フィールド: DESCR <input checked="" type="checkbox"/> 非表示 <input type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 入力可能 <input type="checkbox"/> グリッドに必須 <input type="checkbox"/> グリッド上に表示

[アプリケーションの選択](#)

キーの設定

[リンクの設定](#)

“HR ノートパッドの設定” (キーの設定) ページ

このページは、それぞれ条件キーを示す 4 つの領域で構成されます。これらの 4 つのキーの設定フィールドに関する説明と使用方法は、以下に説明する [キー 1] グリッドのフィールドに関する内容と同様です。

[キー 1 使用]

このチェック ボックスをオンに設定すると、アプリケーションでこの条件キーが使用されることを示します。また、このページの [キー 1] グリッド内の全てのコントロールが使用可能になります。

[キー 1 プロンプト テーブル]

ユーザーが UI のキー 1 検索フィールドに値を入力するときに、有効値リストへの値の表示やエントリの検証に使用されるテーブルを選択します。

[キー 1 プロンプト フィールド]

有効値リストの値を取得する、プロンプト テーブル内のフィールドを選択します。[キー 1 プロンプト テーブル] フィールドに値を入力する場合は、このフィールドにも値を入力する必要があります。

[キー 1 表示フィールド]

キー 1 の値の関連フィールドとして UI に表示される、プロンプト テーブル内のフィールドを選択します。このフィールドに対する入力は任意です。このフィールドを指定しない場合、この条件キーには関連フィールドは表示されません。たとえば、日付や番号の条件キーには、通常は表示フィールドを指定しません。

[非表示]

UI ページにこのキー フィールドを表示させるかどうかを設定します。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。

- [必須]** このチェック ボックスをオンに設定すると、メモを追加する際に、このキー フィールドが必須入力フィールドであることを示します。デフォルトでは、このチェック ボックスはオフになっています。
- [入力可能]** このチェック ボックスをオンに設定すると、UI 検索条件でこのキー フィールドに値を入力できます。デフォルトでは、このチェック ボックスはオンになっています。このチェック ボックスをオフにすると、このキーの値は API によって自動的にロードされて UI に表示されます。ユーザーによる変更は認められません。
- [クエリーに必須]** このチェック ボックスをオンに設定すると、検索条件に一致するメモの一覧を参照したり、新規メモを追加する際に、UI 検索条件にこのキーを入力する必要があります。デフォルトでは、このチェック ボックスはオフになっています。
- [グリッド上に表示]** このチェック ボックスをオンに設定すると、検索条件を満たすメモの一覧に条件キー値が表示されます。[クエリーに必須] チェック ボックスがオフに設定されている条件キーでは、このチェック ボックスは通常オンに設定されます。

アプリケーション メモ ページ リンクの設定

“HR ノートパッドの設定” (リンクの設定) ページにアクセスします。

HR ノートパッドの設定

オーナー ID: ePerformance-パフォーマンス管理 サブID: E

ナビゲーション リンク - リンク先

メニュー/バー アイテム/ページ

*リンク フィールド名 *メニュー名 *メニュー バー名

アプリケーションの選択 キーの設定 リンクの設定

HR ノートパッドの設定 - リンク先 - メニュー/バー タブ

このページを使用して、ノートパッド UI ページの下部のナビゲーション リンクの 1 つをクリックすると実行されるナビゲーションについて定義します。

- [リンク フィールド名]** ナビゲーション リンク名を選択します。このフィールドの有効値リストには、メモ詳細 UI 用に標準で用意されている 4 つのナビゲーション フィールドが表示されます。ここで、リンク行を追加しない場合は、このアプリケーションの UI にはリンクは表示されません。
- [メニュー名]** リンクをクリックすると転送される先のメニュー名を選択します。このフィールドの有効値リストには、データベースの全てのメニューが表示されます。
- [メニュー バー名]** リンクをクリックすると転送される先のメニュー バー名を選択します。このフィールドの有効値リストには、[メニュー名] フィールドに指定されたメニューの全てのメニュー バーが表示されます。

- [バー アイテム名] リンクをクリックすると転送される先のメニュー バー アイテム名を選択します。このフィールドの有効値リストには、[メニュー バー名] フィールドに指定されたメニュー バーの全てのアイテムが表示されます。
- [ページ アイテム名] リンクをクリックすると転送される先のページ名を選択します。このフィールドの有効値リストには、[バー アイテム名] フィールドに指定されたバー アイテムの全てのページが表示されます。
- [モード] ドロップダウン値の [追加]、[更新/表示]、[履歴の修正]、[更新/全て表示] からページの動作モードを選択します。

ノートパッド設定のテスト

ノートパッド API ページにアクセスします。

ノートパッド API ページ

このページを使用して、必要に応じてアプリケーション、サブ ID を指定してノートパッドの設定をテストします。

このページには、指定したオブジェクト オーナー ID およびサブ ID について定義されたアプリケーション キーが表示されます。このページに最初にアクセスしたときには、[オーナー ID] フィールドのみが入力可能になっています。オブジェクト オーナー ID を入力すると、このアプリケーションの有効なサブ ID が全て [サブ ID] フィールドのドロップダウン リストに表示されます。サブ ID を選択すると、“HR ノートパッドの設定” (キーの設定) ページで設定したアプリケーション キーが表示されます。

[API のメソッド] テストのメソッドを選択します。

- Add()
- Edit()
- InvokeNotepad()
- View()

[API を実行] このボタンをクリックすると、入力したキーを使用して API メソッドが実行されます。

テキスト カタログの設定

テキスト カタログを設定するには、“テキスト カタログの設定” (HR_SSTEXT_CFG) コンポーネントと “テキスト カタログの翻訳” (HR_SSTEXT_LANG) コンポーネントを使用します。

このセクションでは、テキスト カタログの概要および共通フィールドについて取り上げた後、以下の作業手順を説明します。

- テキスト カタログの設定
- テキスト カタログ エントリに対するキーの指定
- テキスト カタログ エントリの定義
- テキスト カタログ エントリの HTML 形式での表示
- テキスト カタログ エントリの翻訳の定義
- テキスト検索のテスト
- テキスト ID に関する全ての有効日と適用条件の表示

テキスト カタログについて

テキスト カタログ機能には、フィールド ラベル、ボタン名、リンク、ページ説明、警告など、HRMS アプリケーションのセルフサービス ページに表示される標準テキストが保存されています。さらに、自動電子メール通知で使用されるテキストと件名も含まれます。HCM には、事前定義されたテキスト エントリが用意されており、テキスト カタログ機能を使用して変更できます。

テキスト カタログ機能のエントリは、適用される条件に依存します。つまり、ページに表示される各テキストは、ページの用途や使用される状況によって異なります。たとえば、管理者に対して表示される指示メッセージは、従業員に対して表示される指示メッセージとは異なる場合があります。

テキスト カタログ キー

アプリケーションに適切なテキスト カタログ エントリを取得するためのキーを使用することにより、適用条件に応じたテキストを表示できます。各アプリケーションのニーズを満たすため、アプリケーションごとに異なるキーが使用されます。

同じテキストに対して複数のバージョンを作成することが可能ですが、シナリオごとに別々にテキストを設定する必要はありません。全ての適用条件を空白にして標準のテキストを 1 つ作成し、標準とは異なる状況ごとにテキストを追加します。空白の適用条件はワイルドカードとして機能します。

警告: テキスト検索の際、適用条件の検索キーによって選択肢が 1 行に絞り込まれると、検索は停止され、下位の適用条件に設定されているキーは無視されます。正しく設定されていないと、誤った検索結果が出る場合があります。事前に計画を行ってから条件を変更してください。複雑なシナリオについては特に注意してください。ランダムに変更を行うとエラーが発生し、後からデバッグを行うことが困難になる可能性があります。

“テキスト カタログのテスト” ページを使用して、変更をテストできます。エントリをテストするには、テキストに関連付けられたテキスト ID、および適用条件の組み合わせを入力して、[テスト] ボタンをクリックし、入力した適用条件に対して取得されるテキストを表示させます。

テキスト ID

テキストの内容を更新するには、テキスト ID が必要です。テキスト ID は、“テキスト カタログの設定” ページの [テキスト ID 表示] オプションを使用して特定することができます。このオプションをアクティブにすると、セルフサービス ページ、警告、および電子メールにおいて、テキストの代わりに対応するテキスト ID が表示されます。

正しいテキスト ID を表示するには、ページ、警告、および電子メールでテキストが表示される条件を指定する必要があります。たとえば、特定のロールを使用してサインインする必要がある場合があります。

注: このオプションをアクティブにしたらセルフサービス ページを印刷し、その後非アクティブに戻します。この印刷したハードコピーは、各セルフサービス ページで使用されている全てのテキスト ID の参照資料として使用できます。

このセクションで使用する共通フィールド

テキスト ID	テキスト カタログのエントリにアクセスするために入力する一意な ID。
適用箇所	電子メール本文、電子メール件名、エラー/警告、フィールド ラベル、グリッド/スクロール見出し、グループボックス タイトル、ハイパーリンク/ボタン、ページ説明、ページ タイトルなど、テキストが使用される箇所を示します。変更できないテキストは、トランスレート値と Microsoft Windows のエラーボックスに表示されるエラー メッセージのみです。[適用箇所] フィールドは、保存したテキストのテキスト ID が不明である場合に、“テキスト カタログの更新” ページで検索キーとして使用できます。
有効日	特定のテキスト カタログ エントリがアクティブになる日付。システムに用意されているテキストは、PeopleSoft Enterprise HRMS データベースのシステム データとして定義されており、有効日は 1900/01/01 となっています。
重要: PeopleSoft Enterprise ePerformance パフォーマンス管理が将来アップデートされる際にユーザーが追加、変更したテキストが上書きされないようにするには、新しいテキストを追加するときに 1900/01/01 より後の有効日を指定してください。また、システムに用意されたテキストを変更するときは、新しい有効日でデータを挿入してください。	

テキスト カタログの処理に使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
テキスト カタログの設定 - 一般	HR_SSTEXT_CFG	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキスト カタログとノートパッド]、[テキスト カタログの設定]、[テキスト カタログの設定]	アプリケーションのテキスト カタログを設定します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
テキストカタログの設定 - 適用条件 1, テキストカタログの設定 - 適用条件 2, テキストカタログの設定 - 適用条件 3, テキストカタログの設定 - 適用条件 4	HR_SSTEXT_CFG	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[テキストカタログの設定]、[テキストカタログの設定] “テキストカタログの設定”の一般ページから、[適用条件 1] タブ、[適用条件 2] タブ、[適用条件 3] タブ、または [適用条件 4] タブを選択します。	テキストカタログ エントリの保存と検索に使用するキーを指定します。
テキストカタログの更新	HR_SSTEXT_TEXT□	<ul style="list-style-type: none"> □[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[ePerformance]、[テキストカタログ]、[テキストカタログの更新]、[テキストカタログの更新] • [HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[テキストカタログの更新]、[テキストカタログの更新] 	テキストカタログ エントリを定義して、適用条件依存のキーの値を定義します。
テキストカタログの更新 (HTML 表示)	HR_SSTEXT_HTML□	<ul style="list-style-type: none"> □[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[ePerformance]、[テキストカタログ]、[テキストカタログの更新]、[テキストカタログの更新] “テキストカタログの更新” ページで [HTML ページ] として表示/編集 リンクをクリックします。 • [HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[テキストカタログの更新]、[テキストカタログの更新] “テキストカタログの更新” ページで [HTML ページ] として表示/編集 リンクをクリックします。 	テキストカタログ エントリを HTML 形式で表示します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
テキストカタログ - 全適用条件の表示	HR_SSTEXT_ALLKEYS□	<ul style="list-style-type: none"> □[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[ePerformance]、[テキストカタログ]、[テキストカタログの更新]、[テキストカタログの更新] <p>“テキストカタログの更新” ページまたは “テキストカタログのテスト” ページで、[このテキストIDに関する全ての有効日と適用条件を表示] リンクをクリックして、[適用条件表示] リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[テキストカタログの更新]、[テキストカタログの更新] <p>“テキストカタログの更新” ページまたは “テキストカタログのテスト” ページで、[このテキストIDに関する全ての有効日と適用条件を表示] リンクをクリックして、[適用条件表示] リンクをクリックします。</p>	特定のテキストIDと有効日の組み合わせについて、バージョンと適用条件を表示します。
セルフサービステキストの翻訳 - 説明	HR_SSTEXT_LANG	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[テキストカタログの翻訳]、[説明]	テキストカタログの翻訳対象言語を選択して言語について説明します。
セルフサービステキストの翻訳 - カタログテキスト	HR_SSTEXT_LANG2	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[テキストカタログとノートパッド]、[テキストカタログの翻訳]、[カタログテキスト]	テキストカタログの翻訳に関する情報を入力します。
テキストカタログのテスト	HR_SSTEXT_TEST	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[ePerformance]、[テキストカタログ]、[テキストカタログのテスト]	適用条件の組み合わせを使用して、テキストIDに対して検索されるテキストをテストします。

テキスト カatalog の設定

“テキスト カatalog の設定” の一般ページにアクセスします。

テキスト カタログの設定

一般 適用条件 1 適用条件 2 適用条件 3 適用条件 4					
オーナー ID	サブ ID	名称	キャッシュ	テキスト ID 表示	
ePerformance-パフォーマンス管理		パフォーマンス	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
ePerformance-パフォーマンス管理	D	キャリア開発	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
休暇管理		休暇管理	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
ヒューマンリソース管理	DRPT		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
ヒューマンリソース管理	NP		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
ヒューマンリソース管理	PSS	個人検索 - 単純検索	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
RS Applicant Manager		RS 候補者側のキー	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
RS 共通コンポーネント		RS 管理キー	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
TL Scheduling			<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
+					

“テキスト カタログの設定” - 一般ページ

このページを使用して、テキスト カタログにアプリケーションを追加または削除し、アプリケーション内のテキスト カタログの動作に影響するオプションを設定します。上のスクリーン ショットには、標準でテキスト カタログ機能が使用可能となっている PeopleSoft Enterprise HCM アプリケーションが示されています。

[キャッシュ]

このチェック ボックスをオンに設定すると、アプリケーションへのアクセス時にテキスト カタログの内容全体がキャッシュにロードされます。これにより、テキスト カタログを検索するたびにデータベースを呼び出す必要がなくなるため、システム パフォーマンスが向上します。

[テキスト ID 表示]

このチェック ボックスをオンに設定すると、対応するテキストではなく、テキスト エントリのシステム ID が表示されます。このオプションを使用して、変更したい部分のテキストに対応するテキスト ID を検出できます。

テキスト カタログ エントリに対するキーの指定

“テキスト カタログの設定” の適用条件 1 ページにアクセスします。

注: 適用条件 2、適用条件 3、適用条件 4ページの外觀と用途は、適用条件 1 ページと同じです。

テキスト カタログの設定

一般適用条件 1適用条件 2適用条件 3適用条件 4

オーナー ID	カテゴリ ID	適用条件 1 プロンプト テーブル	適用条件 1 フィールド名	
ePerformance-パフォーマンス管理		EP_SECTION_DEFN	EP_SECTION_TYPE	
ePerformance-パフォーマンス管理	D	EP_SECTION_DEFN	EP_SECTION_TYPE	
休暇管理		GP_COUNTRY	COUNTRY	
ヒューマンリソース管理	DRPT	HR_DR_PNLGRP_VW	PNLGRPNAME	
ヒューマンリソース管理	NP	HR_NP_OO_VW	OBJECTOWNERID	
ヒューマンリソース管理	PSS	HR_PSS_OO_VW	OBJECTOWNERID	
RS Applicant Manager		HRS_SITE_ID	HRS_SITE_ID	
RS 共通コンポーネント		COMPANY_VW	COMPANY	
TL Scheduling				
+				

“テキスト カタログの設定” - 適用条件 1 ページ

- [適用条件 1 プロンプト テーブル]

アプリケーションに関してテキスト カタログの分類に使用される値を定義したプロンプト テーブルのオブジェクト名を選択します。

テキスト カタログを定義および更新するときに、このプロンプト テーブルの値が表示されます。セルフサービス ページまたは通知にエントリが表示される条件に適合する値を選択します。
- [適用条件 1 フィールド名]

このキーの有効値リストに表示される値を含む、プロンプト テーブル内のフィールドを選択します。

注: プロンプト テーブルの値を入力する場合は、同じ行にフィールド名も入力する必要があります。

テキスト カタログ エントリの定義

“テキスト カタログの更新” ページにアクセスします。

“テキスト カタログの更新” ページ

【適用条件/テキスト】

このページに表示される適用条件は、アプリケーションのテキスト カタログ設定によって定義されます。適用条件を使用して、メッセージやテキストの対象を特定のユーザーに絞ったり、またテキストの適切な使用条件を指定できます。

注: 空白の適用条件はワイルドカードとして機能します。つまり、全ての適用条件でエントリが表示されることを意味します。

たとえば、上記のスクリーン ショットは ePerformance-パフォーマンス管理アプリケーションのボタンの設定を示します。テキスト ボックスで定義されたボタン テキストは、記入票ステータスが“記入中”(IP) の従業員 (E) に対してのみ適用されます。

各テキスト ID と有効日の組み合わせに対して、全ての適用条件を空白にした完全なワイルドカード エントリを定義します。このエントリは、ルート エントリと呼ばれ、セクション タイプ、記入者タイプ、ユーザーロール、記入票ステータスのいずれも指定されていない場合に使用される、デフォルトのテキスト エントリです。

【HTML として表示/編集】 テキストがページの HTML 領域に表示される場合は、このリンクをクリックして HTML タグを表示させて編集します。

【説明】

%1 や %2 などの特定トークンを代替するテキスト文字列は、テキスト カタログで代替トークンを使用するアプリケーションごとに異なります。代替トークンは、アプリケーションに標準で用意されています。

テキスト カタログの代替トークンは、PeopleTools のメッセージ カタログの代替トークンと同じ働きをします。PeopleCode 関数のコール実行時のトークンの値を指定する必要があります。テキストが記入票に適用されるときに、それらの値は PeopleCode のパラメータによって置換されます。この機能を使用するには、PeopleCode の知識が必要です。

代替のトークンに異なる意味を持たせる、または順番を変えるなど、システムに用意されているテキスト ID を更新する場合は、テキスト カタログの検索関数を呼び出す PeopleCode も変更する必要があります。それはこの関数により、トークンの代わりに使用する値がコピーされるためです。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleCode Developer's Guide

HTML としてテキスト カタログ エントリを表示

“テキスト カタログの更新” の HTML 表示ページにアクセスします。

“テキスト カタログの更新” (HTML 表示) ページ

[テキスト スタイル]

テキストに対応したスタイルを選択します。[太字]、[エラー]などのスタイルをテキスト エントリに適用すると、セルフサービス ページで表示されるテキストの状態が [HTML 表示] 領域に示されます。

テキスト ID に関する全ての有効日と適用条件の表示

“テキスト カタログ - 全適用条件の表示” ページにアクセスします。

テキスト カタログ – 全適用条件の表示

ePerformance-パフォーマンス管理 サブ ID:

テキスト ID: APPR_MAIN1_CMPPB

バージョン	適用条件表示
1900/01/01	適用条件表示
1900/01/01	適用条件表示
1900/01/01	適用条件表示
1900/01/01	適用条件表示

[戻る](#)

適用条件				
適用条件 1	適用条件 2	適用条件 3	適用条件 4	
<空白>	E	<空白>	<空白>	英語
<空白>	E	<空白>	<空白>	日本語
<空白>	M	<空白>	<空白>	英語
<空白>	M	<空白>	<空白>	日本語

適用条件が全て空白 (ワイルドカード) のエントリは、一致する適用条件が見つからなかった場合のデフォルト エントリとして使用されます。こうした “ワイルドカード” エントリが設定されていない場合、テキスト カタログから取得されるテキストが期待したものと異なる結果になる場合があります。

テキスト

“テキスト カタログ – 全適用条件の表示” ページ

[バージョン] グループ ボックスには、選択したテキスト ID の全てのバージョンが有効日付きで表示されます。

[適用条件表示] リンクをクリックすると、選択したバージョンに関連する適用条件の各セットが表示されます。言語のリンクをクリックすると、適用条件に関連付けされたテキストが指定した言語で表示されます。

テキスト カタログ エントリの翻訳

“セルフサービス テキストの翻訳” – 説明ページにアクセスします。

説明
カタログ テキスト

セルフサービス テキストの翻訳

ePerformance-パフォーマンス管理 サブ ID:

有効日: 1900/01/01

テキスト ID: ADHOC-NOM-BDY **適用箇所:** 電子メール本文

説明:

指名に関するアブストラクト通知の電子メール本文

[新規言語の追加](#)
[全言語を折りたたむ](#)
[全言語を展開](#)

テキスト ID 説明

▼ 日本語

言語コード:

日本語

説明:

指名に関するアブストラクト通知の電子メール本文

“セルフサービス テキストの翻訳” – 説明ページ

テキスト カatalog エントリと翻訳先の言語について表示します。[全言語を折りたたむ] リンクと [全言語を展開] リンクを使用して、言語リストの表示方法を制御します。このページでは言語の追加と削除を行うことができますが、翻訳テキストは入力できません。

セルフサービス テキストの翻訳

ePerformance-パフォーマンス管理

サブ ID:

有効日: 1900/01/01

テキスト ID: ADHOC-NOM-BDY

適用箇所: 電子メール本文

説明: 指名に関するアトミック通知の電子メール本文

テキスト入力 検索 | 全件表示 最初 1/1 最後

テキスト: 記入票 %11 について送信された指名に関するアトミック通知です。
%7

[新規言語の追加](#) [全言語を折りたたむ](#) [全言語を展開](#)

翻訳

▶ [新規言語追加](#)

“セルフサービス テキストの翻訳” – カatalog テキスト ページ



テキスト カatalog に翻訳を入力します。[全言語を折りたたむ] リンクと [全言語を展開] リンクを使用して、言語リストと翻訳エントリの表示方法を制御します。このページでは言語の追加と削除を行い、翻訳テキストを表示できます。





テキスト検索のテスト

“テキスト カatalog のテスト” ページにアクセスします。

テキスト カタログのテスト

アプリケーション コンテキスト設定
 オーナー ID: サブ ID:

テキスト ID:  有効日: 
[このテキスト ID に関する全ての有効日と適用条件を表示](#) 言語コード:

適用条件
 セクション タイプ: 
 記入者タイプ:  ☐ キャッシュを使用
 ユーザー ロール: 
 記入票ステータス: 

代替表現とスタイル
 代替表現 1: 代替表現 2:
 代替表現 3: 代替表現 4:
 代替表現 5: テキスト スタイル:

最適表現
 Complete Performance Criteria

“テキスト カタログのテスト” ページ

このページでは、パラメータを入力し、そのパラメータに適合する条件下でテキスト カタログ内のエントリがどのようにセルフサービスのページに表示されるかをテストできます。

テキスト検索をテストするには、次の手順に従います。

1. テキストのテキスト ID を入力します。
2. (省略可) 必要に応じて適用条件に値を入力します。
 - 全ての適用条件を空白にして、[テスト] ボタンをクリックすると、ルート テキストが表示されます。
 - 適用条件のフィールドに値を入力すると、条件に最も適合するテキストが検索されます。
3. (省略可) 1 つまたは複数の代替表現フィールドに値を入力します。
 [テスト] ボタンをクリックすると、テキスト内の変数 (%1、%2、%3、%4、%5) がここで指定した値に置き換えられます。
4. (省略可) [テキスト スタイル] を選択すると、HTML で特定のスタイルに変換されたテキストを確認できます。
 この機能により、テキストがセルフサービス ページでどのように表示されるかを確認できます。指定できる値は、[追加説明]、[太字]、[エラー]、[ページ説明] および [ページ タイトル] です。
5. [テスト] ボタンをクリックします。
 選択したテキスト ID に対して指定した適用条件に最も適合したテキストが表示されます。

第 33 章

PeopleSoft Enterprise HRMS における PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスの使い方

この章では、PeopleSoft Enterprise HRMS と併用した場合の PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスの概要について説明します。説明する項目は以下のとおりです。

- HRMS 用データのロード
- HRMS における PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスの使い方

注: PeopleSoft Enterprise Campus Solutions のライセンスも取得している場合は、『PeopleSoft Enterprise Campus Solutions Application Fundamentals PeopleBook』の「Working with PeopleSoft Directory Interface for PeopleSoft Campus Solutions」を参照してください。

PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスについて

PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスを使うと、PeopleSoft Enterprise HRMS データベースに保持されているデータを LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) ディレクトリと共有することができ、これによってディレクトリ設定とデータの保守管理が簡単になります。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft Enterprise HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook

DSMAPINPUT FullSync ロード プロセスを使ったディレクトリ データのロード

このセクションでは、ディレクトリ ロード プロセスの概要と、以下の作業方法について説明します。

- 一時テーブルの消去
- フル データ パブリッシュの実行
- サービス オペレーション モニターを使ったトランザクションの確認
- メンバーシップ エントリ プロセスの実行

ディレクトリ ロード プロセスについて

PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスを設定すると、ディレクトリ ロード プロセスまたは DSMAPINPUT FullSync ロード プロセスを使ってディレクトリにデータをロードすることができます。

従業員などの個人データと職務データのみをロードする場合は、DSMAPINPUT FullSync ロード プロセスを使用します。個人データと職務データに加えて、勤務地や部門のデータもロードする場合は、ディレクトリ ロード プロセスを使用します。

注: ディレクトリ ロード プロセスでは、大量の個人データをロードするときにパフォーマンスの問題が発生することがあります。この問題を回避するには、DSMAPINPUT FullSync ロード プロセスを使用します。

注: DSMAPINPUT FullSync ロード プロセスおよびディレクトリ ロード プロセスはいずれもディレクトリにある既存データを上書きします。

DSMAPINPUT FullSync ロード プロセスを使ったディレクトリのロードに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ディレクトリのロード	EO_RUNCTL_DS_LOAD	[エンタープライズ コンポーネント]、[ディレクトリ インターフェイス]、[ディレクトリのロード]、[ディレクトリのロード]	<ul style="list-style-type: none"> 一時ファイルを消去します。 メンバーシップ エントリ プロセスを実行します。
フル データ パブリッシュ	EO_FULLDATAPUB	[エンタープライズ コンポーネント]、[インテグレーション定義]、[プロセス実行]、[フル データ パブリッシュ]	従業員データと職務データをディレクトリにロードします。
モニター概要	IB_MONITOR_OVRVIEW	[PeopleTools]、[インテグレーションブローカー]、[サービスオペレーションモニター]、[モニター]、[非同期サービス]、[モニター概要]	DSMAPINPUT_FULLSYNC サービスオペレーションのステータスを確認します。

一時テーブルの消去

“ディレクトリのロード” ページから一時テーブル消去 (DSMAPINPUT) プロセスを実行します。

- 適切なマップ名を指定して [実行] をクリックします。
- リストから DS_CLEANTEMP プロセスを選択して [OK] をクリックします。

注: ここでは、ディレクトリ ロード プロセス (EO_DS_AUDIT) を実行しないでください。

フル データ パブリッシュの実行

DSMAPINPUT サービス オペレーションは、個人の職務データと個人データの情報を 1 つにまとめたサービス オペレーションです。DSMAPINPUT_FULLSYNC サービス オペレーションは、DSMAPINPUT サービス オペレーション構造に基づいたサービス オペレーションで、DSMANCHNL サービス オペレーション キューに定義されます。フル データ パブリッシュ ユーティリティでは、DSMAPINPUT_FULLSYNC サービス オペレーションを使って、複数の従業員 ID データのストリームをディレクトリにロードします。

ユーティリティでは、ディレクトリ マップ テーブルで最初に検出されたアクティブなマップを処理します。DSMAPINPUT をメッセージ名として含むマップが複数存在する場合は、このプロセスを実行する前に必ず目的のメッセージのサービス オペレーションだけをアクティブにしてください。

1. フル データ パブリッシュ ページにアクセスします。
2. 処理頻度の [1 回限り] を選択します。
3. [メッセージ名] フィールドに、“DSMAPINPUT_FULLSYNC” と入力します。
4. リクエスト ID と名称を指定し、変更を保存して [実行] をクリックします。
5. テーブル データ フル パブリッシュ プロセス (EOP_PUBLISHT) を選択し、[OK] をクリックします。

サービス オペレーション モニターを使ったトランザクションの確認

メッセージ キューを監視して、DSMANCHNL サービス オペレーション キュー内の DSMAPINPUT_FULLSYNC サービス オペレーションのステータスを判断します。

1. 非同期サービス コンポーネントのモニター概要ページにアクセスします。
2. [開始済] 列に 0 よりも大きい数値が表示されている場合、メッセージが処理中であることを示しています。サブスクリプションが完了すると、[完了] 列だけに 0 よりも大きい数値が表示されます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Integration Broker

メンバーシップ エントリ プロセスの実行

全てのメッセージ サブスクリプションが完了したことをモニター概要ページで確認した後、エントリ メンバーシップ プロセス (DSMAPINPUT) を実行し、エントリ メンバーシップ ルールに基づいてメンバーをディレクトリ グループにロードします。

1. “ディレクトリのロード” ページにアクセスします。
2. 適切なマップを指定して [実行] をクリックします。
3. DS_ENTRY プロセスを選択して [OK] をクリックします。

注: ここでは、一時テーブル消去/ディレクトリからロード プロセスまたはディレクトリ オーディット プロセス (EO_DS_AUDIT) を実行しないでください。

DSMAPINPUT FullSync プロセスを使ったディレクトリ データのオーディット

このセクションでは、ディレクトリ オーディット プロセスの概要と、以下の作業方法について説明します。

- 一時テーブルの消去とロード
- DSMAPINPUT_FULLSYNC_A のフル データ パブリッシュの実行
- サービス オペレーション モニターを使ったトランザクションの確認
- ディレクトリ グループ メンバーのロードと LDIF ファイルのマージ

ディレクトリ オーディット プロセスについて

ディレクトリにデータをロードしてトランザクションの処理を開始した後は、定期的にディレクトリ オーディット プロセスまたは DSMAPINPUT FullSync オーディット プロセスを実行して、データベースのデータをディレクトリのデータと比較できます。

従業員などの個人データと職務データのみをオーディットする場合は、DSMAPINPUT FullSync オーディットプロセスを使用します。個人データと職務データに加えて、勤務地や部門のデータもオーディットする場合は、ディレクトリ オーディット プロセスを使用します。

注: ディレクトリ オーディット プロセスでは、大量の従業員データをオーディットするときにパフォーマンスの問題が発生することがあります。この問題を回避するには、DSMAPINPUT FullSync オーディット プロセスを使用します。

DSMAPINPUT FullSync オーディット プロセスを使ったディレクトリのオーディットに使用するページ

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ディレクトリ オーディット	EO_RUNCTL_DS_AUDIT	[エンタープライズ コンポーネント]、[ディレクトリ インターフェイス]、[ディレクトリ オーディットの実行]、[ディレクトリ オーディット]	<ul style="list-style-type: none"> 一時テーブルを消去、およびロードします。 エントリ ルールを使用してディレクトリ グループにメンバーをロードして、複数の LDIF ファイルの内容を1つのファイルにマージします。
フル データ パブリッシュ	EO_FULLDATAPUB	[エンタープライズ コンポーネント]、[インテグレーション定義]、[プロセス実行]、[フル データ パブリッシュ]	一連のルールを使用して DSMAPINPUT_FULLSYNC_A サービス オペレーションをパブリッシュします。
モニター概要	IB_MONITOR_OVRVIEW	[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[サービス オペレーション モニター]、[モニター]、[非同期サービス]、[モニター概要]	DSMAPINPUT_FULLSYNC_A サービス オペレーションのステータスを確認します。

一時テーブルの消去とロード

ディレクトリ オーディット ページから一時テーブル消去/ディレクトリからロード (EODS_CLEANLD) プロセスを実行します。

- 適切なマップ名を指定して [実行] をクリックします。
- リストから EODS_CLEANLD プロセスを選択して [OK] をクリックします。

注: ディレクトリ オーディット プロセス (EO_DS_AUDIT) を実行しないでください。

DSMAPINPUT_FULLSYNC_A のフル データ パブリッシュの実行

DSMAPINPUT サービス オペレーションは、個人の職務データと個人データの情報を 1 つにまとめたサービス オペレーションです。DSMAPINPUT_FullSync_A は、DSMAPINPUT サービス オペレーション構造に基づいた FullSync サービス オペレーションで、DSMANCHNL サービス オペレーション キューに定義されます。このキューは従業員 ID フィールドで分割して、並行処理することができます。フル データ パブリッシュ ユーティリティは、サービス オペレーションをパブリッシュします。サブスクリプション ユーティリティは、複数の従業員 ID データのストリームを同時に処理します。各サブスクリプションは、該当する個人の集合について、LDAP コマンドを含む一意な LDIF ファイルを作成します。

ユーティリティでは、ディレクトリ マップ テーブルで最初に検出されたアクティブなマップを処理します。DSMAPINPUT をメッセージ名として含むマップがいくつか存在する場合は、このプロセスを実行する前に必ず目的のメッセージのサービス オペレーションだけをアクティブにしてください。

1. フル データ パブリッシュ ページにアクセスします。
2. 処理頻度の [1 回限り] を選択します。
3. [メッセージ名] フィールドに、“DSMAPINPUT_FULLSYNC_A” と入力します。
4. リクエスト ID と名称を指定し、変更を保存して [実行] をクリックします。
5. テーブル データ フル パブリッシュ プロセス (EOP_PUBLISHT) を選択し、[OK] をクリックします。

注: DSMAPINPUT_FULLSYNC_A の代わりに独自のサービス オペレーションを選択することもできますが、ディレクトリ マップのサービス オペレーション名に FULLSYNC_A を追加する必要があります。たとえば、PERSMMSG が個人データ エントリのマップに指定された設定サービス オペレーションである場合は、サービス オペレーションの名称を PERSMMSG_FULLSYNC_A とします。

サービス オペレーション モニターを使ったトランザクションの確認

サービス オペレーション キューを監視して、DSMANCHNL サービス オペレーション キュー内の DSMAPINPUT_FULLSYNC_A メッセージのステータスを判断します。

1. モニター概要ページにアクセスします。
2. [開始済] 列に 0 よりも大きい数値が表示されている場合、メッセージが処理中であることを示しています。サブスクリプションが完了すると、[完了] 列だけに 0 よりも大きい数値が表示されます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Integration Broker

ディレクトリ グループ メンバーのロードと LDIF ファイルのマージ

全てのサービス オペレーション サブスクリプションが完了したことをメッセージ概要ページで確認した後、エントリ メンバーシップ/LDIF マージ プロセス (EODS_LDIFMRG) を実行します。そして、エントリ メンバーシップ ルールに基づいてメンバーをディレクトリ グループにロードし、フル テーブル パブリッシュ プロセスの実行時に作成された LDIF ファイルの内容をマージします。マージされたファイルは、後で内容を確認して変更し、ディレクトリにインポートできます。

エントリ メンバーシップ/LDIF マージ プロセスを実行するには、次の手順に従います。

1. ディレクトリ オーディット ページにアクセスします。
2. 適切なマップを指定して [実行] をクリックします。
3. EODS_LDIFMRG プロセスを選択して [OK] をクリックします。

注: ここでは、一時テーブル消去/ディレクトリからロード プロセスまたはディレクトリ オーディット プロセス (EO_DS_AUDIT) を実行しないでください。

HRMS における PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスの使い方

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- サンプル マッピングと付属のサービス オペレーションへのアクセス

- サンプル マッピングの使い方
- 付属のサービス オペレーションの確認

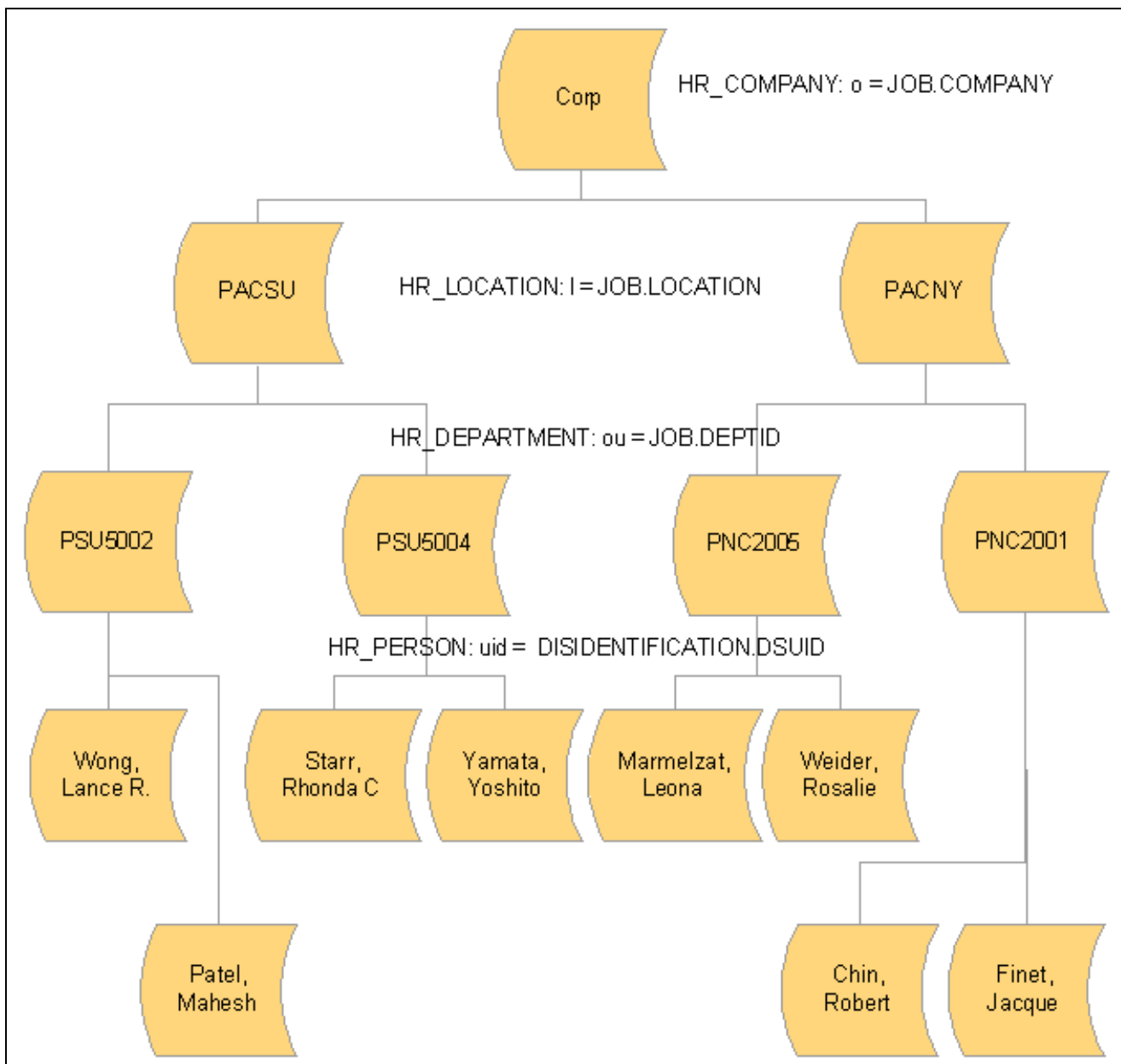
サンプル マッピングと付属のサービス オペレーションへのアクセス

HRMS 用の PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスのライセンスがある場合は、HRMS 用にサンプルのマッピングとサービス オペレーションが用意されています。

サンプル マッピングの使い方

付属のサンプル マッピングを使用するには、ディレクトリ ID をディレクトリ設定コンポーネント (PSDSSETUP) に登録し、ディレクトリ ID をマッピングに追加します。サンプル マッピングでは、標準の Novell eDirectory のスキーマ オブジェクトを使用しています。

サンプル マッピングは、以下に示すようなツリー構造を使用していることを前提に開発されています。



サンプル ディレクトリ インターフェイス ツリー

注: サンプル マッピングとして HR_LOCATION、HR_DEPARTMENT および HR_PERSON が標準で用意されています。

付属のサービス オペレーションの確認

以降のセクションでは、付属のサンプル サービス オペレーションと、ディレクトリ マッピングに関係のある PeopleCode 関数について説明します。

ディレクトリ インターフェイス サービス オペレーション

PeopleSoft ディレクトリ インターフェイスには、PeopleSoft データをディレクトリにマッピングするための以下のサンプル メッセージが同梱されています。

サービス オペレーション名	ディレクトリ エントリ
DSLOCATION_SYNC	勤務地エントリ(レコード全体の同期)
DSLOCATION_SYNC_EFF	勤務地エントリ(現在行の同期)
DSDEPT_SYNC	部門エントリ(レコード全体の同期)
DSDEPT_SYNC_EFF	部門エントリ(現在行の同期)
DSWORKFORCE_SYNC	職務エントリ(レコード全体の同期)
DSWORKFORCE_SYNC_EFF	職務エントリ(現在行の同期)
DSPERSON_BASIC_SYNC	個人データエントリ(レコード全体の同期)
DSPERSON_BASIC_SYNC_EFF	個人データエントリ(現在行の同期)

注: ディレクトリ インターフェイス エンジンでは、メッセージ レベル HCDI_SERVICES: HCDIUtilities.runPOIandIdentifictn を使用して、ディレクトリ インターフェイス マップの作成に使用可能な HRMS 値を DSIDENTIFICTN テーブルにロードします。たとえば、共通する固有 ID 文字列を作成して DSIDENTIFICTN.DSUID に保存し、デフォルトの固有 ID を DSIDENTIFICTN.DSUID に保存します。デフォルトの固有 ID のデフォルト値には、現在の従業員の電子メール アドレスか、このアドレスが空白の場合は名前 + 姓が使用されます。

UID フィールドには最大 50 文字まで入力できます。従業員名が 50 文字を超える場合、超過した部分は切り捨てられます。

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Integration Broker

DSMAPINPUT メッセージ

DSMAPINPUT サービス オペレーションはディレクトリ入力に対応するもので、個人の職務データと個人データを 1 つにまとめたサービス オペレーションのサンプルです。DSWORKFORCE_SYNC サービス オペレーションは、個人の職務情報をパブリッシュします。DSPERSON_BASIC_SYNC サービス オペレーションは、個人情報情報をパブリッシュします。

DSWROKFORCE_SYNC および DSPERSON_BASIC_SYNC のサブスクリプションでは、サービス オペレーションが入力として BuildMappingMessage に渡されます。BuildMappingMessage によって、DSMAPINPUT サービス オペレーションに従業員の職務データと個人データがロードされます。そのため、1 つのサービス オペレーションの職務データと個人データを 1 つのディレクトリ エントリにマッピングできます。

BuildMappingMessage の構文

BuildMappingMessage 関数は、別のサービス オペレーションに保存されているデータおよびローカル データベースのデータをサービス オペレーションにロードします。データを 2 つのデータ ソースからサービス オペレーションにロードした後、マッピング関数をコールします。ディレクトリ マッピングに必要なデータの全てが、パブリッシュされた元のサービス オペレーションにない場合は、マッピング関数を直接コールする代わりに次の関数を使用します。

```
BuildMappingMessage (input message, output message, on-line flag, [, map name])
```

この関数では、次のタスクが実行されます。

- ・ 入力サービス オペレーションから出力サービス オペレーションへ同じレコードのデータをコピーする。
- ・ 出力サービス オペレーション内の空レコードを検索する。
- ・ 空レコードのキー値の有無について、サービス オペレーション内のデータを調べる。
- ・ 空レコードのキー値が見つかった場合は、データベースの現在行を取得して出力サービス オペレーション内の空レコードにロードする。
- ・ マップ名が指定されている場合は、指定された名前のマッピング関数をコールする。指定されていない場合は、出力サービス オペレーションを参照するマップごとにマッピング関数をコールする。

BuildMappingMessage は、_EFF サービス オペレーションのハンドラに関連付けられているアプリケーション パッケージおよびアプリケーション クラスにあります。たとえば、DSLOCATION_SYNC_EFF サービス オペレーションの BuildMappingMessage は、DSLOCATION_SYNC_EFF アプリケーション パッケージに属している DSMappingSub アプリケーション クラスにあります。BuildMappingMessage コードは FUNCLIB_EO_DS ディライブド レコード、DSMAPMESSAGE フィールドのフィールド フォーミュラ イベントにあります。

パラメータ

名前	タイプ	説明
input service operation (入力サービス オペレーション)	メッセージ	パブリッシュされた元のデータを含むメッセージを渡します。
output service operation (出力サービス オペレーション)	文字列	作成、ロードされ、マッピング関数に渡されるメッセージの名前を指定します。
online flag (オンライン フラグ)	ブール演算子	メッセージのオンライン パブリッシュが行われた後に関数がコールされる場合は、true を設定します。このフラグは BuildMappingMessage 関数では使用されませんが、マッピング関数に渡されます。
map name (マップ名)	文字列	関数が出力メッセージに関連付けられているマップ全てをコールする必要がない場合に使用されるマップ名を指定します。

例:

```
Local Message &MsgIn;  
BuildMappingMessage(&MsgIn, "DSMAPINPUT", True, "PERSON_NDS");
```

第 34 章

PeopleSoft Enterprise HRMS におけるインテグレーション ポイントの使い方

この章では、以下の項目について説明します。

- 導入するインテグレーションの特定
- サービス オペレーションおよびキューのアクティブ化
- HRMS ローカル インテグレーションの使い方
- その他の HRMS インテグレーションの使い方

導入するインテグレーションの特定

PeopleSoft では PeopleSoft インテグレーション ブローカーを使用して、HRMS アプリケーションを以下のアプリケーションと統合します。

- データベース内の PeopleSoft Enterprise HRMS の他のアプリケーション (ローカル インテグレーション)
- PeopleSoft Enterprise HRMS 以外の PeopleSoft アプリケーション
- サードパーティのアプリケーション

導入が必要なインテグレーションを特定するには、Customer Connection のインタラクティブ サービス リポジトリ (ISR) を使用します。Customer Connection に ISR アプリケーションと共に提供されているドキュメンテーションには、さまざまな条件を指定してリポジトリを照会するための検索ページの使用方法が説明されています。

- インテグレーション ポイント名で検索
- 製品で検索
- 製品間のインテグレーション
- ビジネス プロセスで検索
- インテグレーション テクノロジで検索
- 詳細検索ページの使い方

詳細検索ページを使用すると、1 つの検索に個別の検索条件を組み合わせて使用することができます。

検索結果のインテグレーション ポイントをクリックし、詳細を確認します。

関連項目:

Customer Connection の [Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Interactive Services Repository]

Customer Connection で [Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Interactive Services Repository] を選択すると、掲載されている資料『Interactive Services Repository』(PDF)

サービス オペレーションおよびキューのアクティブ化

インテグレーション メッセージは、非アクティブな状態で提供されているサービス オペレーションに接続されます。自社が使用するサービス オペレーションをアクティブ化する必要があります。

[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[サービス オペレーション] の順にクリックし、以下の作業を行います。

- 一般ページで、サービス オペレーションのステータスが [アクティブ] になっていることを確認し、[アクティブ] になっていない場合は [アクティブ] を選択します。
- 一般ページで、適切なルーティング ステータスが選択されていることを確認し、ステータスが適切でない場合は適切なステータスを選択します。
- ハンドラ ページで、該当ハンドラのステータス、および関連付けられているアプリケーション クラスのステータスをアクティブにします。
- ルーティング ページで、適切なルーティングをアクティブにします。

[PeopleTools]、[インテグレーション ブローカー]、[インテグレーション設定]、[キュー] の順にクリックして、該当するサービス オペレーションのキュー ステータスを [実行] に設定します。

注: インテグレーション ブローカーの設定も必要です。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Integration Broker

PeopleSoft Enterprise Components for PeopleSoft HRMS and Campus Solutions 9.0 PeopleBook

HRMS ローカル インテグレーションの使い方

パブリッシュを行うデータベースにも、そのデータベース内の他の処理をトリガするサービス オペレーションのハンドラと、関連付けられているアプリケーション クラスがある場合は、ローカル/ローカル インテグレーションが使用されます。

設定要件

ローカル インテグレーションを使用している場合は、ローカル ノードの設定以外に必要な処理はありませんが、アプリケーション サーバーでパブリッシュ サーバーとサブスクライブ サーバーの両方が稼動している必要があります。ローカル ゲートウェイとノードの正しい設定も必要です。ローカル/ローカル インテグレーションでは、ローカル ノード内の非同期ルーティング (ローカル/ローカル) をアクティブ化する必要があります。

次の表には、ローカル/ローカル サービス オペレーションがアルファベット順に記載されています。

サービス オペレーション	サービス オペレーション	サービス オペレーション
ACCOUNT_CHARTFIELD_FULLSYNC	EP_REVW_RATING	PSXP_CLEANATTR
ACTUAL_TIME_ADD	EP_SUB_COMP	PSXP_RATTR
ACTUAL_TIME_BATCH_ADD	EP_SUB_DEV	PTAF_MASS_APPROVALS
AWARD_GRANT_ISSUE	EP_SUB_PROF	PUNCHED_TIME_ADD
BUDGET_POSITION_FULLSYNC	EP_SUB_WRT	QAS_CRASH_MSG
BUS_UNIT_FS_FULLSYNC	ESTIMATED_TIME_BATCH_ADD	ROLE_MAINT
BUS_UNIT_FS_SYNC	FUND_LOAD	TIME_DEVICE_EMPL_ATT_FULLSYNC
BUS_UNIT_GL_FULLSYNC	GP_POST_GL	TIME_DEVICE_EMPL_ATT_SYNC
BUS_UNIT_GL_SYNC	GRANT_AWARD_UPDATE	TIME_DEVICE_PER_HRS_FULLSYNC
COUNTRY_FULLSYNC	HCR_EM_EVENT	TIME_DEVICE_PROFILES_FULLSYNC
COUNTRY_SYNC	HCR_EM_EVENT_QUEUE_1	TIME_DEVICE_RESTRICT_FULLSYNC
DEPBEN_SYNC	HCR_EM_EVENT_QUEUE_2	TIME_DEVICE_RPTG_CODE_FULLSYNC
DEPT_FULLSYNC	HCR_EM_EVENT_QUEUE_3	TIME_DEVICE_RPT_ELMNT_FULLSYNC
DEPT_FULLSYNC_EFF	HIRE_REQUEST	TIME_DEVICE_SCHEDULE_FULLSYNC
DEPT_SYNC	HR_ACCT_CD_LOAD	TIME_DEVICE_SUPERVSOR_FULLSYNC
DEPT_SYNC_EFF	HR_CHARTFLD_COMBO_SYNC	TIME_DEVICE_TASK_VALS_FULLSYNC
DETAIL_CALENDAR_FULLSYNC	JOURNAL_GEN_APPL_ID_FULLSYNC	TIME_DEVICE_TEMPLATES_FULLSYNC
ELAPSED_TIME_ADD	LOCATION_SYNC	TIME_REPORTING_CODE_FULLSYNC
EP_CHK_SUG	PAYMENT_ERECRUIT_ACKNOWLEDGE	TREE_CHANGE
EP_CHK_WRD	PAYMENT_ERECRUIT_ISSUED	UOM_FULLSYNC

サービス オペレーション	サービス オペレーション	サービス オペレーション
EP_COMPETENCY	PAYMENT_ERECRUIT_REQUEST	UOM_SYNC
EP_COMP_DEV	PERSON_ERN_DELETE	USER_PROFILE
EP_COMP_PROF	POST_HIRE_REQUEST	VAR_COMP_PAYMENT_ACKNOWLEDGE
EP_DEV_TIP	PRODUCT_CHARTFIELD_FULLSYNC	WORKFORCE_FULLSYNC
EP_JPM_CAT_ITEMS	PRODUCT_CHARTFIELD_SYNC	WORKFORCE_SYNC
EP_JPM_CAT_ITEM_RD	PROJECT_ACTIVITY_FULLSYNC	WP_PSHARING_MSG
EP_JPM_CAT_I_RLAT	PROJECT_FULLSYNC	
EP_RATING_MDL	PSXP_ARCHATTR	

参照: Enterprise PeopleTools PeopleBook: Integration Broker

その他の HRMS インテグレーションの使い方

特定のビジネス プロセスをサポートするインテグレーションについては、PeopleSoft Enterprise HRMS の各 PeopleBook で説明されています。

次の表は、PeopleBook 内のインテグレーション情報の参照先一覧です。

PeopleBook	参照先
PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook	参照: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook、「PeopleSoft Enterprise 一般会計との統合」
PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook	参照: PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロール 9.0 PeopleBook、「変動報酬機能との統合」
PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Manage Professional Compliance	
PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Manage Variable Compensation	
PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook	
PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook	
PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook	

PeopleBook	参照先
PeopleSoft Enterprise Payroll for North America 9.0 PeopleBook	
PeopleSoft Enterprise Stock Administration 9.0 PeopleBook	
PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理 9.0 PeopleBook	参照: PeopleSoft Enterprise タレント獲得管理 9.0 PeopleBook、「従業員紹介プログラムの管理」
PeopleSoft Enterprise HRMS 勤務管理 9.0 PeopleBook	参照: PeopleSoft Enterprise HRMS 勤務管理 9.0 PeopleBook、「時間集計デバイスの使い方」、「TCD からの勤務時間のロード」
PeopleSoft Enterprise HRMS 勤務管理 9.0 PeopleBook	参照: PeopleSoft Enterprise HRMS 勤務管理 9.0 PeopleBook、「PeopleSoft Financials およびエンタープライズ パフォーマンス マネジメント (EPM) との統合」
PeopleSoft Enterprise HRMS 勤務管理 9.0 PeopleBook	参照: PeopleSoft Enterprise HRMS 勤務管理 9.0 PeopleBook、「時間集計デバイス (TCD) インターフェイス」
PeopleSoft Enterprise HRMS 勤務管理 9.0 PeopleBook	参照: PeopleSoft Enterprise HRMS 勤務管理 9.0 PeopleBook、「時間集計デバイス (TCD) インターフェイス」

注: PeopleSoft アプリケーションで使用されるインテグレーション ポイントの技術的な詳細については、Customer Connection の Implementation Guide セクションのインタラクティブ サービス リポジトリを参照してください。

付録 A

グループ ビルドの導入（開発者向け）

この付録には、以下の項目が記載されています。

- グループ ビルド機能を導入したアプリケーション プログラムまたはバッチ プログラムの作成
- グループ バージョンの使い方

グループ ビルド機能を導入したアプリケーション プログラムまたはバッチ プログラムの作成

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- PeopleCode API コールの導入
- PeopleSoft アプリケーション エンジン API コールの導入
- クライアント専用ワークフローの開発

PeopleCode API コールの導入

このセクションでは、開発者が作成するアプリケーションでグループ ビルドを使用するために必要な手順について説明します（ここでのアプリケーションとはクライアント アプリケーションのことです）。

注: セクション全体を一読してから、各手順を実行してください。

PeopleCode API コールを導入するには、次の手順に従います。

1. （省略可）グループ ビルドの結果テーブルを設定します。

グループ ビルドには、GB_GRP_RES_TBL という標準のグループ結果テーブルが用意されています。このテーブルには、ユーザーが作成したグループの結果が含まれ、その内容は全てグループ ビルド アプリケーションで管理されます。このテーブルは、グループ ビルドの結果の主要な保存場所であり、その結果はグループ ビルドを使う全てのアプリケーションで共有できます。このテーブルに対する行の追加、削除、または変更は行わないでください。

クライアント アプリケーション用に、行の追加、削除、変更ができるテーブルが必要な場合は、以下の任意の手順を実行する必要があります。作成したテーブルは、グループ ビルド アプリケーションの構築および消去の処理対象として扱われます。

ユーザー独自のテーブルを設定するには、以下の 2 つの方法があります。

- a. PeopleSoft アプリケーション デザイナにログ オンし、レコード GB_GRP_RES_TBL をコピーして MyClientModuleResultTable という名前を付けます。

このレコードは、クライアントアプリケーション用の結果テーブルになります。

- b. 新規レコード (MyClientModuleResultTable) を作成し、少なくともサブレコード GB_GRP_RES_SBR (カスタム結果テーブルの最小の構造) を挿入します。カスタム結果テーブルには、サブレコードに定義されたフィールドよりも多くのフィールドを含めることができます。ただし、標準クエリー GB_DEFAULT_QUERY を使用することはできません。カスタムの開発者クエリーを作成する必要があります。そこで追加したフィールドは [field (フィールド)] タブに表示されます。たとえば、結果テーブルを DEPTID として定義した場合、カスタムクエリーは以下のフィールドで定義します。

- GB_QRY_LINK_VW の全てのフィールド

- ユーザーの全ての追加フィールド

2. (省略可) クライアント アプリケーション レコードに 2 つのフィールドを追加して、グループ ID とグループ指定日を格納します。この情報を記録する代わりに、ディライブド/ワーク レコード (手順 3 参照)、またはシステム変数 (システム日付など) を使用することもできます。

PeopleSoft アプリケーション デザイナで、クライアント アプリケーション レコード (MyClientModuleRecord) に 2 つのフィールドを追加します。

- GB_GROUP_ID フィールドを追加して、グループ ID を格納します。

このフィールドは、GB_GROUP_TBL でプロンプト表示されます。

- MyAsOfDate フィールドを追加して、グループ指定日を格納します。

3. PeopleSoft アプリケーション デザイナで、ディライブド/ワーク レコードを作成してグループ作成ボタンを格納します。

- a. 新しいレコード DERIVED_MyClientModule を作成するか、既存のディライブドレコードを使用します。
- b. 新しいフィールド MyClientModule_GEN_BTN を作成します。
- c. DERIVED_MyClientModule レコードに新しいフィールド MyClientModule_GEN_BTN を追加します。

4. PeopleSoft アプリケーション デザイナで、ワーク ページ GB_API_WRK をクライアント アプリケーション コンポーネントに含めます。

- a. コンポーネント (MyClientModuleComponent) を開きます。このコンポーネントには、グループビルド API をコールするページ (MyClientModulePage) が含まれています。
- b. MyClientModuleComponent にページ GB_API_WRK (グループビルドワークページ) を挿入して非表示に設定します。

5. (省略可) PeopleSoft クエリーを使用して、グループを絞り込むために追加するクエリー、つまり開発者クエリーを定義します。

- a. ビュー GB_QRY_LINK_VW を挿入します (必須)。
- b. 結合および条件に必要なレコードを挿入します。
- c. グループビルドの制約に従ってクエリーを作成します。

参照: グループビルド クエリーの制約 (開発者向け)

- d. [criteria (条件)] タブで必要なプロンプトを全て追加します。
プロンプト値は、GB_BIND API コールを使用してバインドされます。
- e. クエリーが PUBLIC であることを確認します。
- f. クエリーを MyDeveloperQueryName という名前で保存します。

6. カスタム フィールドをクライアント アプリケーション ページに追加します。

- a. MyClientModuleRecord.GB_GROUP_ID フィールドを MyClientModulePage に追加します。
- b. MyClientModuleRecord.MyAsOfDate フィールドを MyClientModulePage に追加します。
- c. DERIVED_MyClientModule.MyClientModule_GEN_BTN グループ作成ボタンを MyClientModulePage に追加します。

7. グループ ビルド API へのコールを導入するための PeopleCode を追加します。

警告: グループ ビルド API へのコールは全て、クライアント アプリケーション ページのレベル 0 で実行する必要があります。

- グループビルド API へのコールは PeopleCode イベントの FieldChange で実行します。
- PeopleCode イベントのプロパティをアプリケーション サーバーに設定します。
- PeopleCode Event Properties (PeopleCode イベントプロパティ) ページで [Application Server (アプリケーション サーバー)] を選択します。

参照: PeopleCode API 関数

8. グループがコンポーネントで使用可能かどうかを検証するために PeopleSoft セキュリティを導入します。
- GB_GROUP_ID フィールドがページに含まれている必要があります。また、[Record Field Property (レコードフィールドプロパティ)] で [Prompt Table Edit (プロンプトテーブル編集)] を選択し、[GB_GROUP_SEC_VW] を指定する必要があります。
 - DERIVED_XXX.PNLGRPNAME および DERIVED_XXX.OPRID をページのレベル 0 に追加します。これらのフィールドは、表示専用かつ非表示に設定する必要があります。

PeopleCode API 関数

このリストは、PeopleCode の関数ライブラリ (DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula) です。使用する API グループ、絞り込み用のクエリー名、結果テーブルを指定します。

- 使用するグループ、クエリー名、結果テーブルを指定します。

```
&ret_bool = GB_DECLARE(group_id, AsOfDate of the group, query_name, result_table_name)
```

- パラメータ group_id は必須です。
- パラメータ AsOfDate は必須です。
- パラメータ query_name で、絞り込むための開発者クエリーの名前を指定します。このパラメータは省略できます。デフォルトのクエリー名は、GB_DEFAULT_QUERY (ビューは PS_GB_QRY_LINK_VW) です。
- パラメータ result_table_name は、カスタム結果テーブルを作成した場合に必要です。このパラメータは省略できます。デフォルトの結果テーブルは、PS_GB_GRP_RES_TBL です。パラメータ result_table_name には、PS_MY_RESULT_TABLE など、完全な名前を指定する必要があります。

- 値をバインドします。

```
&ret_bool = GB_BIND(prompt_code, value)
```

- カスタム開発者クエリーでプロンプトが定義されている場合、値をバインドできます。標準クエリー GB_DEFAULT_QUERY を使用する場合、バインドされる値は絞込日のみです。その場合は、システムに用意されている API の GB_BIND_DATE を使用します。
- パラメータ prompt_code は、開発者クエリーにプロンプトとして定義する必要があります。
- パラメータ value は必須です。

- 標準クエリーの使用時に日付を絞込日としてバインドします。

```
&ret_bool = GB_BIND_DATE(value)
```

- この関数は、標準クエリー GB_DEFAULT_QUERY を使用しているときに使います。日付 (値) を絞込日としてバインドできます。

- パラメータ value は省略でき、絞込日を指定します。デフォルト設定は %date です。
- SQL ステートメントを作成、実行します。

```
&group_version_number = GB_EXEC(refresh_flag)
```

- この API により、SQL ステートメントが作成および実行されます。
- 作成されたグループのバージョン番号が返されます。
- パラメータ refresh_flag に Y を設定すると、この関数がコールされるたびに SQL ステートメントが作成されます。パラメータ refresh_flag に N を設定すると、作成済みのグループが存在するかどうかを確認され、そのバージョン番号が返されます。グループが存在しない場合は、パラメータによって作成されます。パラメータ refresh_flag は必須です。
- 結果テーブルの内容を削除します。

```
GB_DELETE()
```

- 汎用ワークフローおよび専用ワークフローの使用可/不可の切り替えを行います。

```
GB_SET_JOB_WF(job_name)
```

- job_name の値に従って、汎用ワークフローと専用ワークフローの使用可/不可を切り替えます。必要に応じて、デフォルトのジョブ名 (汎用ワークフローに使用) の代わりにジョブ (job_name) を指定し、スケジュールに使用します。
- パラメータ job_name は省略できます。
- job_name を指定する場合は、ワークフローに関するセクションで説明されているように、job_name に指定した名前のジョブを PeopleSoft プロセス スケジューラで指定する必要があります。
- job_name にヌル以外の値を指定すると、対応するワークフローが使用可能になります。汎用ワークフローは使用不可になります。
- job_name にヌルを指定すると、汎用ワークフロー (デフォルトのワークフロー) が使用可能になります。
- DERIVED_MyClientModule.MyClientModule_GEN_BTN の PeopleCode イベントの FieldChange で、次の 2 つのシナリオのいずれかに従って、以下のコードを追加します。

シナリオ 1

標準のグループ結果テーブルとクエリーを使ってグループビルド コールを導入する場合、DERIVED_MyClientModule.MyClientModule_GEN_BTN の PeopleCode イベント FieldChange は、以下のようになります。

```
Declare Function GB_DECLARE PeopleCode DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula;
Declare Function GB_BIND PeopleCode DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula;
Declare Function GB_EXEC PeopleCode DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula;
/* Use this instruction if you plan to use GB_GRP_RES_TBL */
GB_DECLARE (MyClientModuleRecord.GB_GROUP_ID, MyClientModuleRecord.MyAsOfDate, «
», « »);
/* Bind all parameters for the default Query : The Effdt of JOB */
GB_BIND_DATE (Any Date);
/* Execute the SQL and fill the group result table */
&MyVersion = GB_EXEC (« Y »); /* <Y> Forces to rebuild the group even if one
is available */
* The list of employees for the group is now available for your own usage */
/* The code presented above populates the Group Result table GB_GRP_RES_TBL */
/* You can now use this record to populate your scrolls or can be used as a join
```

```

for a SQL Statement */
/* ADD YOUR CODE HERE */
/* Clear the group result table only in the case you know the group will not be
used anymore*/
[GB_DELETE() ;]

```

シナリオ 2

ユーザー独自のカスタム グループ結果テーブルとクエリーを使ってグループ ビルド コールを導入する場合、DERIVED_MyClientModule.MyClientModule_GEN_BTN の PeopleCode イベント FieldChange は、以下のようになります。

```

Declare Function GB_DECLARE PeopleCode DERIVED_HR_GB. GB_API FieldFormula;
Declare Function GB_BIND PeopleCode DERIVED_HR_GB. GB_API FieldFormula;
Declare Function GB_EXEC PeopleCode DERIVED_HR_GB. GB_API FieldFormula;
/* Give your result table name to GB_DECLARE (STEP 1 must have been previously
performed) and your Query Name if you created one */
GB_DECLARE (MyClientModuleRecord. GB_GROUP_ID, MyClientModuleRecord. MyAsOfDate,
« MyDeveloperQueryName », « MyClientModuleResultTable ») ;
/* Bind all parameters for MyDeveloperQueryName */
/* Each prompt in MyDeveloperQueryName must be bound */
GB_BIND (« :1 », MyClientModuleRecord. MyField1) ;
[...]
GB_BIND (« :n », MyClientModuleRecord. MyFieldn) ;
/* Or use local variable for binding */
GB_BIND (« :n », &MyLocalVarn) ;
/* Execute the SQL and fill the group result table */
&MyVersion = GB_EXEC (« N ») ; /* <N> Don' t rebuild the group if it is
available */
/* Employee group is now available for your module */
/* This populates the group result table MyClientModuleResultTable */
/* You can now use this record to populate your scrolls or work on this table... */
/* ADD YOUR CODE HERE */
/* Clear the group result table only in the case you know the group will not be
used anymore*/
[GB_DELETE() ;]

```

グループ ビルド クエリーの制約 (開発者向け)

PeopleTools クエリーの標準的な使用に際しては、以下のような制約があります。

- 開発者クエリーは、PUBLIC クエリーとして定義する必要があります。
- ユニオンは使用できません。
- 集計式は使用できません。
- ツリー オプションを式として使用することはできません。
- ビュー GB_QRY_LINK_VW をクエリーに含める必要があります。
- QUERY に追加するレコードには、最低 1 つの条件が必要です。
- プロンプトは、変数をバインドする式として使用できます。

PeopleSoft アプリケーション エンジン API コールの導入

このセクションでは、開発者が PeopleSoft アプリケーション エンジンを利用して作成するアプリケーションで、グループビルドを使用するために必要な手順について説明します（ここでのアプリケーションとはクライアント アプリケーションのことです）。

PeopleSoft アプリケーション エンジン API コールを導入するには、次の手順に従います。

1. PeopleSoft アプリケーション デザインでラン コントロール ページを作成します。
2. 新しいラン コントロールのレコードを作成するか、既存のレコードを使用します。
このレコードには以下のものを追加します。
 - パラメータ GB_GROUP_ID、GB_EFFDT、および GB_REFINE_DATE
 - フィールド VERSIONGBQDM
3. PeopleSoft アプリケーション エンジンを使用して新しいプログラムを作成します。
このプログラムには、以下のものを含める必要があります。
 - パラメータの抽出

Step01. SQL:

```
%Select (AE_GBP002_AET.GB_GROUP_ID, AE_GBP002_AET.GB_EFFDT, AE_GBP002_AET.GB_REFINE_DATE) SELECT GB_GROUP_ID , GB_EFFDT , GB_REFINE_DATE FROM PS_RUN_CNTL_HR WHERE OPRID = %Bind (OPRID) AND RUN_CNTL_ID = %Bind (RUN_CNTL_ID)
```

- グループビルド PeopleCode API へのコール

Step02. PeopleCode:

```
Declare Function GB_DECLARE PeopleCode DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula;
Declare Function GB_BIND PeopleCode DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula;
Declare Function GB_RESET PeopleCode DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula;
Declare Function GB_BIND_DATE PeopleCode DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula;
Declare Function GB_SET_PANELGROUP PeopleCode DERIVED_HR_GB.GB_API FieldFormula;
GB_SET_PANELGROUP ("APPENGINE"); /* This is due to a tools issue and will disappear as soon as the TPRD is closed */
GB_RESET ();
&RET = GB_DECLARE (AE_GBP002_AET.GB_GROUP_ID, AE_GBP002_AET.GB_EFFDT, "", "");
&RET = GB_BIND_DATE (AE_GBP002_AET.GB_REFINE_DATE);
AE_GB_API_AET.REFRESH_SW.Value = "N"; /* You can see that the REFRESH_FLAG is set to "N" Equivalent to GB_EXEC ("N"). As we can't call a section with direct parameters, we must use the cache record of the AE API to perform this operation */
```

- グループビルド AE API GB_EXEC へのコール

Step02. Call Section:

Call the section GB_API.GB_EXEC. You must not call GB_EXEC_LIB.GB_EXEC Directly. You will always use the GB_API AppEngine Lib.

• グループのバージョン番号

Step01. SQL:

```
UPDATE PS_RUN_CNTL_HR SET VERSIONGBQDM = %Bind(AE_GB_API_AET.VERSIONGBQDM)
WHERE OPRID = %Bind(OPRID) AND RUN_CNTL_ID = %Bind(RUN_CNTL_ID)
```

注: このグループを使って、ユーザー独自のアプリケーション エンジン処理を実行します。

4. ジョブを設定して、作成したばかりのグループに基づいたレポートを作成します。

SQR が起動すると、ラン コントロール レコードから GB_GROUP_ID VERSIONGBQDM (グループのバージョン) が返されます。これにより、グループをグループ結果テーブルから抽出し、印刷や処理を行うことができます。

PeopleCode API とアプリケーション エンジン API の相違点

質問	回答
PeopleCode API と PeopleSoft アプリケーション エンジン API の相違点	<p>グループを作成するのに、この 2 つの API にはそれほど大きな違いはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • どちらの API も、PeopleCode 関数 GB_DECLARE、GB_BIND または GB_BIND_DATE を使用します。 • PeopleCode API では、REFRESH_FLAG ("Y" または "N") をパラメータとして指定して GB_EXEC ("Y") をコールします。関数からはグループのバージョン番号が返されます。 • PeopleSoft アプリケーション エンジン API では、セクション GB_API.GB_EXEC をコールします。AE_GB_API_AET.REFRESH_SW の更新によって、コール前にリフレッシュフラグが設定されます。また、キャッシュレコード AE_GB_API_AET.VERSIONGBQDM にあるグループのバージョンが検索されます。
PeopleSoft アプリケーション エンジンの PeopleCode ステップで直接 PeopleCode API を使用できない理由	<p>PeopleTools には、以下の制約があります。CallAppEngine() 関数は、アプリケーション エンジンの PeopleCode ステップに挿入する仕様にはなっていません。あるアプリケーション エンジン プログラムから別のアプリケーション エンジン プログラムをコールする必要がある場合、セクションの呼び出しアクションを使う必要があります。</p>

クライアント専用ワークフローの開発

このセクションでは、ワークフロー導入の際に実行する必要のある追加手順について説明します。この専用ワークフローは、グループ ビルド アプリケーションでデフォルトで提供される一般的なワークフローを拡張したものです。ワークフローの導入は全て、クライアント アプリケーションの開発者が行います。このセクションでは、グループ ビルドのワークフローとワークフローの標準的な導入方法との主な相違点について説明します。

ビジネス プロセス図はグループ ビルドの汎用ワークフロー ビジネス プロセスと同じように見えますが、グループ ビルドの汎用ワークフローによって提供される情報を拡張するために、各クライアント アプリケーション用にビジネス プロセスを作成する必要があります。理由は以下のとおりです。

- ユーザー情報を拡張するためのワークリスト ルートでは、コール元のクライアント アプリケーション ページにユーザーが直接分岐されている必要があります。
- ビジネス イベントはクライアント アプリケーション ページからトリガされます。

ワークリスト レコード テーブルには、クライアント アプリケーション ページにアクセスするためのキー フィールドが含まれている必要があるため、これらのフィールドをクライアント アプリケーション ページの適切なフィールドにマッピングします (ワークフローはコール元のページからトリガされます)。

メッセージ エージェントによって、専用ワークフローをトリガするためのデータがクライアント アプリケーション ページに入力されます。データベース エージェントでは、メッセージ エージェントの入力フィールドとして渡される値を検索するクエリーが実行されます。つまり、データベース エージェント クエリーによって、ワークフローをトリガするために必要なキー値と条件を取得する必要があるということになります。

クライアント専用テーブル レコード (MySpecificWorkflowTable) を新しく定義する必要があります。このレコードには、全てのクライアント アプリケーションのキー フィールド、グループ ID フィールド (GB_GROUP_ID)、およびバージョン フィールド (VERSIONGBQDM) が保存されます。(バージョン番号を取得するために) グループビルドをコールした後、MySpecificWorkflow テーブルにデータをロードします。

概要

クライアント アプリケーションの開発者は、以下の作業を行う必要があります。

1. ページ キー、グループ ID、およびバージョン番号の各フィールドを保存するために新規テーブル (MySpecificWorkflowTable) を定義します。
2. 新しいワークリスト テーブル レコードを定義します。
3. ワークフローのトリガを実行するディライブド/ワーク フィールドを定義します。
4. そのフィールドを非表示フィールドとして、クライアント アプリケーション ページに追加します。
5. グループビルドをコールする前にページ キー値を保存する PeopleCode を指定します。
6. キー フィールド値であるグループ ID、バージョン番号、ユーザー ID を取得するためのデータベース エージェント クエリーを定義します。
7. ビジネス プロセス (アクティビティ、ステップ、ビジネス イベント、ワークリスト ルート、電子メール ルート、データベース エージェント、およびメッセージ エージェント) を設計し、必要な属性とフィールド マッピングを定義します。
8. PeopleSoft プロセス スケジューラで、カスタム データベース エージェント (MyDBAGProcess) 用に新しいプロセスを定義します。
9. PeopleSoft アプリケーション エンジン (アプリケーション エンジン GB_API でセクション GB_EXEC をコール) と、カスタム データベース エージェント プロセス (MyDBAGProcess) を順次処理するジョブ (MySpecificJobName) を新しく定義します。
10. この新しいジョブ名をパラメータとして、新しい API 関数 GB_SET_JOB_WF (MySpecificJobName) を介してグループビルドに渡します。API 関数 GB_SET_JOB_WF では、スケジュール対象の新しいジョブ名を渡し、専用ワークフローを使用可能にし、汎用ワークフローを使用不可にします。この関数のコールは、GB_EXEC のコールより先に行う必要があります。
11. MySpecificWorkflowTable に必要な情報を保存するための PeopleCode を追加します (次の手順を参照してください)。

MySpecificWorkflowTable に情報を保存するための PeopleCode を追加するには、次の手順に従います。

1. MySpecificWorkflowTable を、クライアント アプリケーション ページへのアクセスに必要なキー フィールドが全て記録されるように設計します。
 - a. 2つのキーフィールド GB_GROUP_IDとVERSIONGBQDMをレコードに追加します。
 - b. ワークフローフラグ WF_FLAGを追加します。
2. MySpecificWorkflowDerived/Work を設計します。

- a. ワークフローをトリガする GB_TRIGGER_WF とルーティングで重要な OPRID の 2 つのフィールドを追加します。
 - b. これらのフィールドは非表示に設定します。
3. コール元のクライアント アプリケーション ページにルーティングするためのワークリスト レコード MyWorklistRecord を定義します。
 BUSPROCNAME、ACTIVITYNAME、EVENTNAME、WORKLISTNAME、INSTANCEID、および TRANSACTIONID は、どのワークリスト レコードについても標準の必須フィールドです。
 ページの全てのキー フィールド、および GB_GROUP_ID と VERSIONGBQDM の両フィールドを追加します。
4. データベース エージェント (DBAG) クエリーを定義します。
 DBAG クエリーによって、グループ ID、グループのバージョン番号、およびユーザー ID といったクライアント アプリケーションのキー フィールド値がコールされます。
 - a. PeopleSoft ツリー マネージャを使用して、次の手順で MySpecificWorkflowTable を HR ACCESS GROUP に追加します。
 - b. PeopleSoft クエリーに移動します。
 - c. MySpecificWorkflowTable と GB_GENERICWF をグループ ID およびバージョン番号で結合し、グループ ID、グループのバージョン番号、ワークフロートリガフラグ、およびユーザー ID といった特定のキー値を返すようにします。
 - d. グループ ID とバージョン番号の 2 つのプロンプトを条件に含めます。
 - e. クエリーをパブリックデータベース エージェント クエリーとして、_DBAG_MySpecificWorkflowQuery という名前で保存します。
5. MySpecificBusinessProcess を設計します。
 - a. PeopleSoft アプリケーション デザインで、ビジネス プロセスを定義します。
 MySpecificBusinessProcess には、以下の 2 つのアクティビティがあります。
 MySpecificWorkflowModule
 MySpecificWorkflowModuleResult
 それぞれのアクティビティには、クライアント アプリケーション ページに分岐するステップが 1 つだけあります。
 - b. MySpecificWorkflowModule アクティビティに、ビジネス イベント、ワークリスト ルート、電子メール ルート、データベース エージェント、およびリンクを追加します。
 - c. 各アイテムとその必須属性を定義します。
 ビジネス イベントは MySpecificWorkflowDerived/Work レコードからトリガされます。
 - d. [Edit Business Rules (ビジネス ルールの編集)] ボタンを使用してワークフロー PeopleCode を追加し、表示されているとおりにコードを記述して、TriggerBusinessEvent 関数をコールするための条件を指定します。トリガするビジネス プロセス、アクティビティ、およびビジネス イベントの各パラメータを正しく指定します。
 - e. Worklist Attributes (ワークリスト属性) ページで、手順 3 で定義したレコードをワークリスト レコードとして選択します。ワークリスト (MySpecificWorkflowModuleResult) を実行するアクティビティを持つビジネス プロセスを指定します。
 - f. フィールド マッピングのページで、ワークリスト レコードのフィールドとクライアント アプリケーション ページのキーをマッピングします。
 - g. OPRID フィールドについては、ロール名 Roleuser by Oprid Qry を選択し、OPRID クエリー変数を MySpecificWorkflowDerived/Work.OPRID フィールドにバインドします。

- h. 電子メール ルートについては、電子メールのフィールド (SUBJECT、NOTETEXT、TO、CC、および BCC) とアプリケーション フィールドの間にフィールド マッピングを定義します。
- i. データベース エージェント アイテムを定義します。

Message Attributes (メッセージ属性) ページでターゲット コンポーネントを定義し、クライアント アプリケーション コンポーネントへのパスを指定します。

[Query Name (クエリー名)] フィールドに、手順 4 で定義したデータベース エージェント クエリーを入力します。

クエリー選択のフィールド (2 列目) とクライアント アプリケーション ページのフィールド (最後の列) の間にマッピングを定義します。

- 6. PeopleSoft プロセス スケジューラへ移動し、MySpecificWorkflowDBAGProcess を定義します。

- a. プロセス タイプが Database Agent の新しいプロセスをプロセス定義ページで追加します。
- b. プロセス定義オプション ページで、値の追加モードでパラメータリストを上書きし、以下をパラメータとして指定します。

E100 -T -L /A MySpecificWorkflowModule /MD MyDatabaseAgentName

kbind1=:DERIVED_HR_GB.GB_GROUP_ID2 -kbind2=:DERIVED_HR_GB.VERSIONGBQDM

/A は、アクティビティ名を表します。

/MD は、メッセージ定義を表します。

-kbind1 および -kbind2 は、API ワーク ページのバインド変数です。

- 7. PeopleSoft プロセス スケジューラで、MySpecificWorkflowJob を定義します。

グループビルドのアプリケーション エンジン プロセス (GB_API.GB_EXEC をコールするプロセス) と MySpecificWorkflowDBAG データベース エージェント プロセスを順次処理する新しいジョブを追加します。

- 8. グループビルド API へのコールをクライアント アプリケーションに追加します。

グループビルド コール ボタンの PeopleCode イベント FieldChange で、「PeopleCode API コールの導入」セクションの手順 7 で説明されているように、グループビルド API を使用します。必ず GB_SET_JOB_WF 関数をコールして、専用ワークフローを使用可能に、汎用ワークフローを使用不可にしてください。

- 9. MySpecificWorkflowTable に必要な情報を保存するための PeopleCode を追加します。

グループ バージョンの使い方

このセクションでは、バージョン番号の概要とバージョンの使い方について、開発者向けに説明します。

バージョン番号について

グループを作成するたびに、バージョン番号が生成されてグループ結果テーブルに保存されます。以下のいずれかが、前回グループを実行したときから変更されている場合、新しいバージョン番号が自動的に生成され、結果テーブルが更新されます。

- グループ定義
- クエリー定義
- グループ作成に使用した全てのパラメータ (有効日付きの職務データを使用する場合など)

バージョンの使い方 (開発者向け)

このセクションを読む前に、「グループ ビルド機能を導入したアプリケーション プログラムまたはバッチ プログラムの作成」を参照してください。

アプリケーションにグループ ビルドを導入するには、以下の 2 つの方法があります。

- デフォルトの開発者クエリーを使用する方法

デフォルトの開発者クエリーでは、デフォルトのグループ結果テーブルを使用します。

- ユーザー独自のクエリーを作成する方法

ユーザー独自のクエリーを使用する場合、ユーザー独自のグループ結果テーブルを使用してパラメータやフィールドを追加定義できます。

ただし、ユーザー独自のグループ結果テーブルはデフォルトの開発者クエリーでも使用できます。また、デフォルトのグループ結果テーブルをユーザー独自のクエリーで使用することもできます。この場合、クエリーで選択されるフィールドがデフォルトのグループ結果テーブルの構造と一致していることが前提となります。

このため、グループを前回実行した後で以下のいずれかが変更された場合、そのグループは再作成され、バージョン番号が変更されます。

- 開発者によって追加されたクエリー定義
- グループ結果テーブル

注: GB_EXEC ("Y") をコールすると、バージョン採番機能をバイパスできます。その後、コールされるたびにグループは再作成されます。

注: 開発者クエリーまたはユーザー クエリーを使用する際には、GB_QRY_LINK_VIEW が JOB レコードに基づいていることに注意してください。グループ ビルドにより SQL が生成されるときには、GB_QRY_LINK_VIEW を参照している全ての箇所がシステムによって JOB レコードで置き換えられます。この処理の後、右辺と左辺のレコード フィールドが同じである行については、グループ ビルドは SQL 生成の際にその行を処理しません。

たとえば、クエリーで GB_QRY_LINK_VIEW.EFFDT <= JOB.EFFDT という条件があり、グループ ビルドによりその条件が JOB.EFFDT <= JOB.EFFDT で置き換えられるとします。この場合、左側のレコードフィールドと右側のレコード フィールドが同じなので、この行はシステムによって削除されます。このため、クエリーカウントがグループ ビルドから返されたものと異なる場合があります。

付録 B

PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの診断プラグイン

この章では、PeopleTools 診断フレームワークの概要、および HRMS に標準で提供される診断プラグインのリストを示します。

PeopleTools 診断フレームワークについて

PeopleTools 診断フレームワークにより、アプリケーションの問題を調査するクエリーを実行し、その取得データを PeopleSoft のグローバル サポート センターと共有可能な標準フォーマットで出力できるインターフェイスが提供されます。

診断フレームワークでは、以下の機能が提供されます。

- 動的プロンプト（クエリーを限定し、トランザクション データを含めることが可能）
- HTML および XML による出力
- 送信機能（出力データをグローバル サポート センターのアナリストの電子メール アドレスに直接送信可能）
- 行セット取得のサポート

HRMS には、このバージョンに対応する、アプリケーション別のクエリーを含む多数の診断プラグインが標準で用意されています。一般出荷開始日以降に開発されたプラグインは、Customer Connection に全て掲載されます。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Data Management の「Running Diagnostics with Diagnostic Framework」

標準装備の HRMS アプリケーション診断プラグイン

以下に、アプリケーション別に標準で提供される診断プラグインを示します。

ヒューマン リソース管理の基本福利厚生管理

基本福利厚生管理には、1 つのプラグインが標準で用意されています。

BA_EVENT_DIAGNOSTICS

以下は、BA_EVENT_DIAGNOSTICS プラグイン（福利厚生イベント定義とルール設定情報）についての説明です。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - イベント ルール ID
 - 有効日
- 福利厚生イベント設定と、それに関連付けられている保障コード ルールの診断が生成されます。

BAS_EVENT_RULE、BAS_EVENT_CLASS、BAS_CVG_CD_RULE という 3 つの主要テーブルからデータが抽出されます。この診断を使用して、PeopleSoft Enterprise Benefits Administration の処理で使用される処理用のデータベースで定義されている基となるデータを表示します。

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の基本報酬管理と予算計画

“基本報酬管理と予算計画” には、1 つのプラグインが標準で用意されています。

SP_DIAGNOSTICS_SALARY_STEP

以下は、SP_DIAGNOSTICS_SALARY_STEP プラグイン（給与ステップ詳細）についての説明です。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - セットID
 - 給与管理プラン
 - 等級
 - 有効日
- 指定したプランの給与ステップ詳細の診断が生成されます。

ePerformance-パフォーマンス管理

“ePerformance-パフォーマンス管理” には、次の 2 つのプラグインが標準で用意されています。

- 記入票テンプレート

注: この診断スクリプトは、ヒューマン リソース管理の“記入票の管理”でも使用できます。

- デバッグ/トレース結果

記入票テンプレート

以下は、記入票テンプレート プラグインについての説明です。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - テンプレート ID
 - 有効日
- 特定の記入票を作成した記入票テンプレートの構成の診断が生成されます。これにより、記入票に関する問題を解決する際に、グローバル サポート センターのアナリストに重要な情報を提供することが

できます。以下のテーブルがダンプされます。これらのテーブルは全て、テンプレート ID および有効日がキーに指定されています。

- テンプレート ヘッダー (EP_TMPL_DEFN)
- プロセスの関与者ロール (EP_TMPL_PARTIC)
- 記入票セクション (EP_TMPL_SECTION)
- ロール レベル ルール (EP_TMPL_ROLE)
- 共通コンテンツ: 項目 (EP_TMPL_ITEM)
- 共通コンテンツ: サブ項目 (EP_TMPL_SUBITEM)

デバッグ/トレース結果

以下は、デバッグ/トレース結果プラグインについての説明です。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - 記入票 ID
 - ユーザー ロール
- 標準装備のデバッグ/トレース機能によって作成されるデバッグ/トレース結果テーブル ビュー (EP_DBG_DIAG_VW) の診断が生成されます。このビューは、記入票 ID とユーザー ロールがキーに指定されています。

また、デバッグ/トレース結果ページの [PeopleSoft に送信] リンクをクリックすると、“診断プラグインの起動” ページが表示され、このデータを PeopleSoft に送信することができます。

グローバル ペイロール

グローバル ペイロールには、以下のプラグインが標準で用意されています。

- GP_DIAG_000
- GP_DIAG_005
- GP_DIAG_010
- GP_DIAG_020
- GP_DIAG_030
- GP_DIAG_040
- GP_DIAG_100
- GP_DIAG_200

GP_DIAG_000

以下は、GP_DIAG_000 プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、一般情報が返されます。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - オペレーティング システム
 - ISO の半角 3 文字の国コード
- 以下のテーブルおよび情報の診断が生成されます。
 - PSRELEASE (リリース情報)

- PSOPTION (ライセンス情報)
- PS_INSTALLATION (HRMS インストール情報)
- PS_GP_PIN (最終使用エレメント番号)
- PS_GP_INSTALLATION (グローバル ペイロール インストール情報)
- PS_MAINTENANCE_LOG (データベースに適用されたバンドルと修正)
- PS_GP_COUNTRY (国情報)

注: 国コード パラメータが空白の場合、カレンダー グループの国情報が返されます。国コード パラメータが "ALL" (全て) の場合、全ての国情報が返されます。

GP_DIAG_005

以下は、GP_DIAG_005 プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、ログ ファイルが返されます。

- ファイルへのフル パスとログ ファイル名がパラメータとして使用されます。
- [フル パス + ログ ファイル名を入力] フィールドで指定したファイルの診断が生成されます。

GP_DIAG_010

以下は、GP_DIAG_010 プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、COBOL プログラム用の SQL ステートメントが返されます。

- COBOL プログラム名がパラメータとして使用されます。
- PSSQLSTMT_TBL の診断が生成され、[COBOL プログラム名] フィールドで指定した COBOL 名に使用される全ての SQL ステートメントが返されます。

GP_DIAG_020

以下は、GP_DIAG_020 プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、アプリケーション エンジン プログラム定義が返されます。

- アプリケーション エンジン プログラム名がパラメータとして使用されます。
- 以下のアプリケーション エンジン情報の診断が生成されます。
 - PSAEAPPLDEFN
 - PSAEAPPLSTATE
 - PSAESECTDTLDEFN
 - PSAESTEPDEFN
 - PSAESTEPMSGDEFN
 - PSAESTMTDEFN
 - PSSQLTEXTDEFN

GP_DIAG_030

以下は、GP_DIAG_030 プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、エレメント定義が返されます。

- エレメント名 1 から 5 がパラメータとして使用されます。

- 5 つまでの各エレメント定義に対して、返されたエレメント タイプに基づき、以下のテーブルの診断が生成されます。
 - エレメント名情報 (PS_GP_PIN)
 - 休暇取得エレメント (GP_ABS_TAKE、GP_ABS_TAKE_CFG、GP_ABS_TAKE_DAY、GP_ABS_TAKE_ELM、GP_ABS_TK_FCST)
 - 累計エレメント (GP_ACCUMULATOR、GP_ACM_MBR)
 - アレイ エレメント (GP_ARRAY、GP_ARRAY_FLD、GP_ARRAY_KEY、GP_ARRAY_PRC)
 - ブラケット エレメント (GP_BRACKET)
 - カウント エレメント (GP_COUNT)
 - 日付エレメント (GP_DATE)
 - デュレーション エレメント (GP_DURATION、GP_DUR_GNRN)
 - 支給および控除エレメント (GP_ERN_DED、GP_ELM_DFN_SOVR、GP_PIN_CMPNT、GP_RCP_DED)
 - エレメント グループ名 (GP_ELEM_GRP、GP_ELEM_GRP_MBR)
 - 仮再計算エレメント (GP_FC_IN、GP_FC_OUT、GP_FC_OUT_DTL、GP_FC_SEG、GP_FC_TBL)
 - フォーミュラ エレメント (GP_FORMULA、GP_FORMULA_CLUE、GP_FORMULA_DTL、GP_FORMULA_VAR)
 - ジェネレーション コントロール エレメント (GP_GCTL、GP_GCTL_DTL)
 - 再計算/履歴抽出ルール エレメント (GP_HIST_ELEM、GP_HIST_RULE)
 - プロセス エレメント (GP_PROCESS、GP_PROCESS_DTL)
 - 比例配分エレメント (GP_PRORATION)
 - レート コード エレメント (GP_RATE_CODE)
 - セクション エレメント (GP_SECTION、GP_SECTION_DTL)
 - システム エレメント (GP_SYSTEM_PIN)
 - 変数エレメント (GP_VARIABLE)
 - 書込可能アレイ エレメント (GP_WA_ARRAY、GP_WA_FLD)

GP_DIAG_040

以下は、GP_DIAG_040 プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、アレイおよび書込可能アレイ検証が返されます。

- ISO の半角 3 文字の国コードがパラメータとして使用されます。
- 以下のテーブルおよび情報の診断が生成されます。
 - PS_GP_DIAG_ARRAY_D (レコード定義と同期していない特定の国の全てのアレイ)
 - PS_GP_DIAG_WA_D (レコード定義と同期していない特定の国の全ての書込可能アレイ)

GP_DIAG_100

以下は、GP_DIAG_100 プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、組織設定データが返されます。

- カレンダー グループ ID パラメータが使用されます。
- 以下のテーブルおよび情報の診断が生成されます。

- PS_GP_PYENT (支給元情報)
- PS_GP_PYENT_DTL (支給元の詳細情報)
- PS_GP_CAL_RUN (カレンダー グループ情報)
- PS_GP_CAL_RUN_DTL (カレンダー グループの詳細情報)
- PS_GP_CALENDAR (カレンダー情報)
- PS_GP_RUN_TYPE (実行タイプ情報)

GP_DIAG_200

以下は、GP_DIAG_200 プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、従業員情報が返されます。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - 従業員 ID
 - 雇用レコード番号
 - カレンダー グループ ID
 - カレンダー ID
- 以下のテーブルおよび情報の診断が生成されます。
 - PS_GP_DIAG_JOB_D (給与データを含まない給与計算情報)
 - PS_GP_DIAG_EMPL_D (日付)
 - PS_GP_DIAG_CTR1_D (契約情報)
 - PS_WKFCNT_TYPE (関連契約情報)
 - PS_GP_DIAG_CTR2_D (関連契約情報)
 - PS_GP_PAYEE_DATA (受給者情報)
 - PS_GP_DIAG_PI_D (金額データを含まないポジティブ入力)
 - PS_GP_NET_DIST_DTL (銀行振込および支給情報)
 - PS_GP_RTO_TRGR (トリガ情報)
 - PS_GP_SEG_TRGR (関連トリガ情報)
 - PS_GP_DIAG_P_SEG_D (総支給および純支給データを含まない給与計算結果ヘッダー)
 - PS_GP_DIAG_MSG_D (給与計算エラー メッセージ)

勤務管理

勤務管理には、以下のプラグインが標準で用意されています。

- TL_DIAGNOSTICS_TA_EMPL_PAY
- TL_DIAGNOSTICS_TA_EMPL_GRP
- TL_DIAGNOSTICS_TA_TACODE
- TL_DIAGNOSTICS_TA_RPTD_TIME
- TL_DIAGNOSTICS_PT_INV_PAYTIME
- TL_DIAGNOSTICS_PT_DUP_SEQ

- TL_DIAGNOSTICS_PT_INV_OFFSET
- TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TIMEPRD
- TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TIMEZONE
- TL_DIAGNOSTICS_SETUP_RULEPGM
- TL_DIAGNOSTICS_SETUP_EXWRKGRP
- TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TCD

TL_DIAGNOSTICS_TA_EMPL_PAY

指定した期間の従業員の給与支給対象時間が表示されます。また、その期間に対して例外が作成された場合は、その例外も表示されます。

以下は、TL_DIAGNOSTICS_TA_EMPL_PAY プラグインについての説明です。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - 従業員 ID
 - 雇用レコード
 - 開始日
 - 終了日
- 以下の診断が生成されます。
 - TL_DU_TA_PT_VW ビューの SQL


```
SELECT A.EMPLID, A.EMPL_RCD, A.DUR, A.TRC, A.TL_QUANTITY, A.PAYABLE_STATUS FROM PS_TL_PAYABLE_TIME A
```
 - TL_DU_TA_EX_VW ビューの SQL


```
SELECT A.EXCEPTION_ID, A.EMPLID, A.EMPL_RCD, A.DUR, A.EXCEPTION_SOURCE, A.MSG_DATA1 FROM PS_TL_EXCEPTION A
```
 - CreateSQL


```
SELECT %DateOut(EARLIEST_CHGDT), TA_STATUS FROM PS_TL_TR_STATUS WHERE EMPLID= :1 AND EMPL_RCD = :2
```

TL_DIAGNOSTICS_TA_EMPL_GRP

ラン コントロール ID に動的グループが含まれる場合、そのグループの従業員のリストが処理されます。これらの従業員は、プロセス終了日とその前の 31 日間にアクティブかどうかチェックされます。

以下は、TL_DIAGNOSTICS_TA_EMPL_GRP プラグインについての説明です。

- ラン コントロール ID がパラメータとして使用されます。
- 以下の診断が生成されます。
 - TL_DU_TA_GRP_VW ビューの SQL


```
SELECT A.EMPLID, A.EMPL_RCD, A.EFFDT, A.EMPL_STATUS FROM PS_JOB A
```
 - SQLExec


```
SELECT %DATEOUT(A.THRUDATE) FROM PS_TL_TA_RUNCTL A WHERE A.RUN_CNTL_ID=:1 AND A.OPRID=:2
```

- CreateSQL

```
SELECT DISTINCT A.EMPLID, A.EMPL_RCD FROM PS_JOB A WHERE (EXISTS (SELECT
'X' FROM PS_TL_RUN_CTRL_GRP B WHERE B.RUN_CNTL_ID=:1 AND B.GROUP_ID='Z' AND
B.INCLUD_EXCLUDE_IND='+' AND A.EMPLID=B.EMPLID AND A.EMPL_RCD=B.EMPL_RCD )
OR EXISTS(SELECT 'X' FROM PS_TL_GROUP_DTL B1 WHERE B1.GROUP_ID IN (SELECT
B.GROUP_ID FROM PS_TL_RUN_CTRL_GRP B WHERE B.RUN_CNTL_ID=:1 AND B.GROUP_ID <>
'Z') AND A.EMPLID=B1.EMPLID AND A.EMPL_RCD=B1.EMPL_RCD)) AND NOT EXISTS(SELECT
'X' FROM PS_TL_RUN_CTRL_GRP B2 WHERE B2.RUN_CNTL_ID=:1 AND B2.GROUP_ID='Z' AND
B2.INCLUD_EXCLUDE_IND='-' AND A.EMPLID=B2.EMPLID AND A.EMPL_RCD=B2.EMPL_RCD)
AND EMPL_STATUS='A' AND (A.EFFDT =(SELECT MAX(EFFDT) FROM PS_JOB J1 WHERE
A.EMPLID=J1.EMPLID AND A.EMPL_RCD= J1.EMPL_RCD AND J1.EFFDT <=%DATEIN(:2) )
OR A.EFFDT =(SELECT MAX(EFFDT) FROM PS_JOB J2 WHERE A.EMPLID=J2.EMPLID AND
A.EMPL_RCD=J2.EMPL_RCD AND J2.EFFDT >%DATEIN(:2) AND J2.EFFDT <=%DATEIN(:3) AND
J2.EMPL_STATUS='A'))
```

TL_DIAGNOSTICS_TA_TACODE

以下は、TL_DIAGNOSTICS_TA_TACODE プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、勤務時間管理プロセスで使用される SQL オブジェクト ID と SQL ステートメントのリストが表示されます。

- SQL オブジェクト ID がパラメータとして使用されます。
- TL_DU_TA_SQL_VW ビューの SQL の診断が生成されます。

```
SELECT A.SQLID, A.SQLTEXT FROM PSSQLTEXTDEFN A
```

TL_DIAGNOSTICS_TA_RPTD_TIME

[レポート時間のステータス] フィールドに入力した値に基づき、指定期間での従業員のレポート時間の詳細が表示されます。従業員 ID を入力しない場合、指定した期間およびレポート時間のステータスに適合する全ての従業員が表示されます。

以下は、TL_DIAGNOSTICS_TA_RPTD_TIME プラグインについての説明です。

- 以下の追加パラメータが使用されます。

- 従業員 ID
- レポート時間ステータス
- 開始日
- 終了日

- 以下の診断が生成されます。

- TL_DU_TA_RPT_VW ビューの SQL

```
SELECT A.EMPLID, A.EMPL_RCD, A.DUR, A.PUNCH_TYPE, A.PUNCH_DTTM, A.TASKGROUP, A.TASK_
PROFILE_ID, A.TRC, A.TL_QUANTITY, B.XLATLONGNAME FROM PS_TL_RPTD_TIME A, XLATTABLE_
VW B WHERE B.FIELDNAME = 'REPORTED_STATUS' AND B. FIELDVALUE = A.REPORTED_STATUS
```

- TL_DU_TA_RPL_VW ビューの SQL

```
SELECT A.EMPLID, A.EMPL_RCD, A.DUR, A.PUNCH_TYPE, A.PUNCH_DTTM, A.TASKGROUP, A.TASK_
PROFILE_ID, A.TRC, A.TL_QUANTITY, B.XLATLONGNAME FROM PS_TL_RPTD_TIME A, XLATTABLE_
LNG B WHERE B.FIELDNAME = 'REPORTED_STATUS' AND B. FIELDVALUE = A.REPORTED_STATUS
```

- SQLExec

```
SELECT A.XLATLONGNAME FROM XLATTABLE_VW A WHERE A.FIELDNAME='REPORTED_STATUS'
AND %Upper(A.XLATLONGNAME) = :1
```

- SQLExec

```
SELECT A.XLATLONGNAME FROM XLATTABLE_LNG A WHERE A.FIELDNAME='REPORTED_
STATUS' AND %Upper(A.XLATLONGNAME) = :1
```

- CreateSQL

```
SELECT A.XLATLONGNAME FROM XLATTABLE_VW A WHERE A.FIELDNAME='REPORTED_STATUS'
```

- CreateSQL

```
SELECT A.XLATLONGNAME FROM XLATTABLE_LNG A WHERE A.FIELDNAME='REPORTED_
STATUS'
```

TL_DIAGNOSTICS_PT_INV_PAYTIME

以下は、TL_DIAGNOSTICS_PT_INV_PAYTIME プラグインについての説明です。このプラグインを使用すると、指定期間に給与支給ステータスが“給与計算で却下”になっている、給与支給対象時間が表示されます。

- 以下の追加パラメータが使用されます。

- 開始日
- 終了日

- 以下の診断が生成されます。

- TL_DU_PT_PT_VW ビューの SQL

```
SELECT A.EMPLID, A.EMPL_RCD, A.DUR, A.TL_QUANTITY , B.XLATSHORTNAME FROM
PS_TL_PAYABLE_TIME A , XLATTABLE_VW B WHERE ((A.PAYABLE_STATUS = 'RP' AND
A.PAYROLL_REQ_NUM = 0) OR (A.PAYABLE_STATUS = 'CL' AND A.PAYROLL_REQ_NUM = 0) OR
(A.PAYABLE_STATUS = 'TP' AND A.PAYROLL_REQ_NUM = 0) OR (A.PAYABLE_STATUS = 'SP' AND
A.PAYROLL_REQ_NUM <> 0) ) AND B.FIELDNAME='PAYABLE_STATUS' AND B. FIELDVALUE =
A.PAYABLE_STATUS
```

- TL_DU_PT_PTL_VW ビューの SQL

```
SELECT A.EMPLID, A.EMPL_RCD, A.DUR, A.TL_QUANTITY , B.XLATSHORTNAME FROM
PS_TL_PAYABLE_TIME A , XLATTABLE_LNG B WHERE ((A.PAYABLE_STATUS = 'RP' AND
A.PAYROLL_REQ_NUM = 0) OR (A.PAYABLE_STATUS = 'CL' AND A.PAYROLL_REQ_NUM = 0) OR
(A.PAYABLE_STATUS = 'TP' AND A.PAYROLL_REQ_NUM = 0) OR (A.PAYABLE_STATUS = 'SP' AND
A.PAYROLL_REQ_NUM <> 0) ) AND B.FIELDNAME = 'PAYABLE_STATUS' AND B. FIELDVALUE =
A.PAYABLE_STATUS
```

TL_DIAGNOSTICS_PT_DUP_SEQ

TL_DIAGNOSTICS_PT_DUP_SEQ プラグイン (相殺対象の重複連番のリストを表示) を使用すると、TL_DU_PT_SEQ_VW ビューの SQL の診断が生成されます。

```
SELECT A.SEQ_NBR, COUNT(*) FROM PS_TL_PAYABLE_TIME A GROUP BY A.SEQ_NBR HAVING COUNT
(*) > 1
```

TL_DIAGNOSTICS_PT_INV_OFFSET

TL_DIAGNOSTICS_PT_INV_OFFSET プラグイン (給与計算で却下されている給与支給対象時間の相殺のリストを表示) を使用すると、TL_DU_PT_OFF_VW ビューの SQL の診断が生成されます。

```
SELECT A.EMPLID, A.EMPL_RCD, A.DUR, A.SEQ_NBR, A.TL_QUANTITY, A.PAYABLE_STATUS,
A.RECORD_ONLY_ADJ, A.ORIG_SEQ_NBR FROM PS_TL_PAYABLE_TIME A WHERE EXISTS (SELECT 増・
FROM PS_TL_PAYABLE_TIME C WHERE A.EMPLID =C.EMPLID AND A.EMPL_RCD =C.EMPL_RCD AND
A.DUR=C.DUR AND A.ORIG_SEQ_NBR=C.SEQ_NBR AND C.ORIG_SEQ_NBR <> 0 AND C.RECORD_ONLY_
ADJ = 'N' AND C.PAYABLE_STATUS NOT IN ('ES','NA') AND C.TL_QUANTITY > 0 AND NOT EXISTS
(SELECT 'X' FROM PS_TL_PAYABLE_TIME A2 WHERE A2.EMPLID =C.EMPLID AND A2.EMPL_RCD
=C.EMPL_RCD AND A2.DUR=C.DUR AND A2.ORIG_SEQ_NBR=C.SEQ_NBR AND A2.TL_QUANTITY < 0)) OR
EXISTS (SELECT 増・FROM PS_TL_PAYABLE_TIME C1 WHERE A.EMPLID =C1.EMPLID AND A.EMPL_RCD
=C1.EMPL_RCD AND A.DUR=C1.DUR AND A.ORIG_SEQ_NBR=C1.SEQ_NBR AND C1.ORIG_SEQ_NBR =0
AND C1.RECORD_ONLY_ADJ = 'N' AND C1.PAYABLE_STATUS NOT IN ('ES','NA') AND EXISTS (SELECT
'X' FROM PS_TL_PAYABLE_TIME A1 WHERE A1.EMPLID=C1.EMPLID AND A1.EMPL_RCD =C1.EMPL_RCD
AND A1.DUR=C1.DUR AND A1.TL_QUANTITY < 0 AND A1.ORIG_SEQ_NBR=C1.SEQ_NBR))
```

TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TIMEPRD

このプラグインを使用すると、PS_TL_WRKGRP_TBL からワークグループが取得され、指定期間以外で作成された期間 ID と共に表示されます。

以下は、TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TIMEPRD プラグインについての説明です。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - 開始日
 - 終了日
- TL_DU_ST_TP_VW ビューの SQL の診断が生成されます。

```
SELECT PERIOD_ID, WORKGROUP FROM PS_TL_WRKGRP_TBLCreateSQL:SELECT DISTINCT
A.PERIOD_ID FROM PS_TL_TIME_PERIODS A WHERE A.PERIOD_ID NOT IN (SELECT DISTINCT
B.PERIOD_ID FROM PS_TL_CALENDAR B WHERE ((%DateIn(:1)>B.START_DT AND %DateIn(:2)<B.END_
DT) OR (%DateIn(:1)<B.END_DT AND %DateIn(:2) >B.START_DT)))
```

TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TIMEZONE

このプラグインを使用すると、入力した従業員 ID に基づいて従業員のタイムゾーンが取得され、指定期間内のタイムゾーンの時差が表示されます。

以下は、TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TIMEZONE プラグインについての説明です。

- 以下の追加パラメータが使用されます。
 - 従業員 ID
 - 開始日
 - 終了日
- SQL 実行の診断が生成されます。

```
SELECT B.TIMEZONE FROM PS_TL_EMPL_DATA B WHERE B.EMPLID= :1 AND B.EFFDT=(SELECT MAX
(EFFDT) FROM PS_TL_EMPL_DATA A WHERE A.EMPLID=:1 AND A.EFFDT<=%DateIn(:2) AND A.TIME_
RPTG_STATUS='A')
```

TL_DIAGNOSTICS_SETUP_RULEPGM

このプラグインを使用すると、ルール プログラムが割り当てられていないワークグループのリストが表示されます。

TL_DIAGNOSTICS_SETUP_RULEPGM プラグインにより、TL_DU_ST_RUL_VW ビューの SQL の診断が生成されます。

```
SELECT A.WORKGROUP FROM PS_TL_WRKGRP_TBL A WHERE A.RULE_PGM_ID = ''
```

TL_DIAGNOSTICS_SETUP_EXWRKGRP

このプラグインを使用すると、スケジュール ID のない全ての例外タイム レポーター ワークグループのリストが表示されます。例外タイム レポーター ワークグループは、スケジュール ID が関連付けられていない場合に表示されます。

TL_DIAGNOSTICS_SETUP_EXWRKGRP プラグインにより、TL_DU_ST_SCH_VW ビューの SQL の診断が生成されます。

```
SELECT A.WORKGROUP FROM PS_TL_WRKGRP_TBL A WHERE A.TIME_RPTG_TYPE = 'E' AND A.SCHEDULE_ID=''
```

TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TCD

このプラグインを使用すると、TCD 設定データが検証されます。指定した TCD ID に基づいて、TCD (メッセージ ノード名)、メッセージ名、メッセージ ステータス、トランザクション ステータス、およびトランザクション タイプが追跡されます。また、インテグレーション タイプについても検証が行われます。フラット ファイル インテグレーションにインバウンドおよびアウトバウンド ディレクトリが指定されているかどうかが表示されます。

以下は、TL_DIAGNOSTICS_SETUP_TCD プラグインについての説明です。

- TCD ID がパラメータとして使用されます。
- 以下の診断が生成されます。

- TL_DU_ST_TCD_VW ビューの SQL

```
SELECT A.RQSTMSGNAME, A.MSGNODENAME, B.MSGSTATUS, C.XLATSHORTNAME, A.EFF_
STATUS FROM PSNODETRX A, PSMMSGDEFN B, XLATABLE_VW C WHERE A.RQSTMSGNAME=
B.MSGNAME AND C.FIELDNAME='TRXTYPE' AND C.FIELDVALUE=A.TRXTYPE
```

- CreateSQL

```
SELECT A.XLATSHORTNAME, A.FIELDVALUE FROM XLATABLE_VW A WHERE A.FIELDNAME =
'INTEGRATION_TYPE' AND A.FIELDVALUE=(SELECT B.INTEGRATION_TYPE FROM PS_TL_TCDDEF_
TBL B WHERE B.TCD_TYPE_ID=:1 AND B.EFFDT = (SELECT MAX(B1.EFFDT) FROM PS_TL_TCDDEF_
TBL B1 WHERE B1.TCD_TYPE_ID=:1))
```

- CreateSQL

```
SELECT A.XLATSHORTNAME, A.FIELDVALUE FROM XLATABLE_LNG A WHERE A.FIELDNAME
= 'INTEGRATION_TYPE' AND A.FIELDVALUE=(SELECT B.INTEGRATION_TYPE FROM PS_TL_
TCDDEF_TBL B WHERE B.TCD_TYPE_ID =:1 AND B.EFFDT=(SELECT MAX(B1.EFFDT) FROM
PS_TL_TCDDEF_TBL B1 WHERE B1.TCD_TYPE_ID=:1))CreateSQL:SELECT FILE_OUTPUT_DIR,
FILE_ARCHIVE_DIR FROM PS_TL_INSTALLATION
```


付録 C

PeopleSoft Enterprise HRMS の標準ワークフロー

この付録では、一般的なワークフロー情報、および以下の PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理アプリケーションの標準ワークフローについて説明します。

- 教育・研修管理
- 人事・労務管理
- 基本報酬管理と予算計画
- 記入票の管理
- 利潤分配管理（フランス機能）
- 公認資格認定管理
- 変動報酬管理

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Workflow Technology

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Using PeopleSoft Applications

一般ワークフロー情報

1 人の従業員が日常業務として行うタスクの多くは、複数のステップで構成される大きなタスクの一部であり、複数の人がそのタスクに携わっています。たとえば、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理を使用して従業員の入社手続きをする場合、以下のように、実際には複数の担当者が手続きにかかわります。

- 福利厚生の手続きをする人
- 必要な備品を検討して承認する人
- 給与計算用に税金情報を入力する人

PeopleSoft のワークフローによって、このプロセス全体が自動化されます。他のプロセスも同様です。

注: PeopleSoft Enterprise HRMS システムにはワークフロー ビジネス プロセスがいくつか用意されていますが、初期設定では全てのワークフローがオフになっています。ワークフローを使用するには、PeopleSoft のワークフロー設定をオンにしておく必要があります。

注: [HRMS 基本設定]、[共通定義]、[セルフサービス] の順にクリックし、このメニューに含まれる各コンポーネントを使用して、PeopleSoft セルフサービス アプリケーションのワークフローを設定する必要があります。

参照: 第 31 章、「セルフサービストランザクションの設定と使い方」、「セルフサービストランザクションにおけるワークフローの使い方」、740 ページ

メッセージ エージェントを使ったロール ユーザーの作成

PeopleSoft Enterprise HRMS には、アクティブな職務レコードを持つ従業員全員を自動的にロール ユーザーとして入力するためのメッセージ エージェントが用意されています。

ユーザー プロファイル コンポーネントで従業員を 1 人ずつロール ユーザーとして手動入力することもできますが、ユーザーとして指定する従業員の数が多い場合、この処理は非常に大変な作業です。一部のワークフロー プロセスでは、組織の全従業員が対象になることもあります。メッセージ エージェントを使用すると、従業員をワークフローのロール ユーザーに変換する時間を大幅に短縮できます。

動的ロール ユーザー クエリーの使い方

監督者のロールが関係するワークフローの開始時には、稼働中のヒューマン リソース管理データベースでクエリーを実行する 3 つの動的 SQR のうちの 1 つを使用します。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システムのポジション管理の運用方法 (“全体”、“一部”、“なし” のいずれか) に合わせて、これらのロール ユーザー クエリーのうち 1 つを選択し、監督者のルートに割り当てます。次の表は、選択可能なロール クエリーのリストです。自社の人事管理方法に適したものを 1 つ選択します。

ポジション管理の運用状態	クエリー
全体	[ROLE] Supervisor-Full Posn Mgt
なし (ポジション管理がオフ)	[ROLE] Supervisor-No Posn Mgt
一部	[ROLE] Supervisor-Part Posn Mgt

動的ロール ユーザー クエリーを使うと、監督者のロール ユーザーの割り当てが、稼働中のヒューマン リソース管理データと同様、正確なものになります。また、この動的クエリーを使うと、監督者の人事データをヒューマン リソース管理システムとロール ユーザー テーブルの 2 か所で管理する必要がなくなります。

デフォルトのクエリーは [ROLE] Supervisor-Part Posn Mgt ロール ユーザー クエリーです。PeopleTools の一般的なワークフローでは、全てこのクエリーが使われます。クエリーの対象となるのは、稼働中のヒューマン リソース管理データベースではなく、ロール ユーザー テーブルです。

他の 2 つの監督者のロール ユーザー クエリーを PeopleSoft ワークフローで使う場合は、監督者が含まれるルートを全て修正する必要があります。

教育・研修管理の標準ワークフロー

このセクションでは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の教育・研修管理のワークフローについて説明します。ワークフローは、ワークフロー名のアルファベット順に記載されています。

研修リクエストの承認イベント

このセクションでは、研修リクエストの承認イベント ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	受講者をコースに登録すると、HR Technical/Admin にワークリストアイテムが送信され、研修リクエストに対する確認および承認の指示が通知されます。
通知方法	ワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	TRN_STUDNT_CRS_DT2
ワークフローアクション	自動
ロール	HR Technical/Admin
電子メール テンプレート	Approve Training WL
ビジネスプロセス	Approve Training Request
ビジネスアクティビティ	APPROVE_TRAINING_REQ_USF
ビジネスイベント	Approve Training Request Event

研修の承認イベント

このセクションでは、研修の承認イベント ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	受講者をコースに登録すると、Training Administrator にワークリストアイテムが送信され、承認の指示が通知されます。
通知方法	ワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	TRN_STUDNT_CRS_DT2
ワークフローアクション	自動
ロール	Training Administrator
電子メール テンプレート	Authorize Training Request WL
ビジネスプロセス	Authorize Training Request
ビジネス アクティビティ	AUTHORIZE_TRAINING_REQ_USF
ビジネス イベント	Authorize Training Event

研修リクエスト イベント (CSE)

このセクションでは、研修リクエスト イベント (CSE) のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	受講者をコースに登録すると、Supervisor-Part Posn Mgt にワークリストアイテムが送信され、研修リクエストに対する確認および承認の指示が通知されます。
通知方法	ワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	COURSE_ENROLLMENT1
ワークフローアクション	自動
ロール	Supervisor-Part Posn Mgt
電子メール テンプレート	Request Training WL (CSE)
ビジネスプロセス	Course Session Enrollment
ビジネス アクティビティ	REQUEST_TRAINING_USF
ビジネス イベント	Request Training Event (CSE)

研修リクエスト イベント (SCE)

このセクションでは、研修リクエスト イベント (SCE) のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	受講者をコースに登録すると、Supervisor-Part Posn Mgt にワークリストアイテムが送信され、研修リクエストに対する確認および承認の指示が通知されます。
通知方法	ワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	CRSE_ENRL_WL
ワークフローアクション	自動
ロール	Supervisor-Part Posn Mgt
電子メールテンプレート	Request Training WL (SCE)
ビジネスプロセス	Student Course Enrollment
ビジネスアクティビティ	REQUEST_TRAINING_USF
ビジネスイベント	Request Training Event (SCE)

研修リクエスト イベント (ST)

このセクションでは、研修リクエスト イベント (ST) のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	受講者をコースに登録すると、Supervisor-Part Posn Mgt にワークリストアイテムが送信され、研修リクエストに対する確認および承認の指示が通知されます。
通知方法	ワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	TRN_STUDNT_CRS_DT2
ワークフローアクション	自動
ロール	Supervisor-Part Posn Mgt
電子メールテンプレート	Request Training WL (ST)
ビジネスプロセス	Student Training
ビジネスアクティビティ	REQUEST_TRAINING_USF
ビジネスイベント	Request Training Event (ST)

確認の送信

このセクションでは、確認の送信ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	受講者がクラスに登録されると、その受講者には登録されたコースの詳細が記載された電子メールが届きます。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

イベント	RUNCTL_TRN001
ワークフローアクション	自動
ロール	Training Administrator
電子メール テンプレート	Student Confirmation
ビジネス プロセス	Training Letters
ビジネス アクティビティ	Report Training Data
ビジネス イベント	Send Confirmation

キャンセルの送信

このセクションでは、キャンセルの送信ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	コースがキャンセルされた場合、そのコースに登録されている受講者にはキャンセルされたコースの詳細が記載された電子メールが届きます。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

イベント	RUNCTL_TRN001
ワークフローアクション	自動
ロール	Training Administrator
電子メール テンプレート	Student Cancellation
ビジネス プロセス	Training Letters
ビジネス アクティビティ	Report Training Data
ビジネス イベント	Send Cancellation

スケジュール変更の送信

このセクションでは、スケジュール変更の送信ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	コースのスケジュール変更が行われた場合、そのコースに登録されている受講者にはコースの新しいスケジュールが記載された電子メールが届きます。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

イベント	RUNCTL_TRN001
ワークフローアクション	自動
ロール	Training Administrator
電子メール テンプレート	Student Rescheduling
ビジネス プロセス	Training Letters
ビジネス アクティビティ	Report Training Data
ビジネス イベント	Send Rescheduling

人事・労務管理の標準ワークフロー

このセクションでは、人事・労務管理のワークフローについて説明します。ワークフローは、ワークフロー名のアルファベット順に記載されています。

従業員の入社手続き

このセクションでは、従業員の入社手続きワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	<p>Hire Employee (従業員の入社手続き) ビジネス イベントは、新しい従業員が採用されるたびに開始します。入社手続きビジネス プロセス全体がこの 1 つのイベント内で発生します。ワークフローにより、入社手続き処理を行う必要のある組織内の各ロールに対して、新入社員に関する通知が送信されます。</p> <p>フランスで従業員を採用した場合は、各イベントの Personal Administrator に対しても電子メールまたはワークリストアイテムが自動送信されます。</p>
--------	---

アクション内容	<p>Benefits Administrator – Benefits Administrator に対し、新規採用者の福利厚生登録管理アクティビティの開始を指示する電子メールが送信されます。</p> <p>Facilities Administrator – Facilities Administrator に対し、会社資産コンポーネントで新規採用者に必要な備品を支給することを指示する電子メールが送信されます。</p> <p>Payroll Administrator – Payroll Administrator に対し、新規採用者の控除データの更新アクティビティの開始を指示する電子メールが送信されます。</p> <p>Training Administrator – Training Administrator に対し、受講者の登録アクティビティを開始して、新規採用者を会社のオリエンテーションに登録することを指示する電子メールが送信されます。</p> <p>VC Administrator – VC Administrator (Variable Compensation Administrator) に対し、新規採用者に関する情報を示し、その新規採用者を報酬プランに含めることができるかどうかを決定することを指示する電子メールが送信されます。</p> <p>Benefits Administrator – Benefits Administrator に対し、新規採用者の福利厚生登録管理アクティビティの開始を指示するワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>Facilities Administrator – Facilities Administrator に対し、会社資産コンポーネントで新規採用者に必要な備品を支給することを指示するワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>Payroll Administrator – Payroll Administrator に対し、新規採用者の控除データの更新アクティビティの開始を指示するワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>Training Administrator – Training Administrator に対し、受講者の登録アクティビティを開始して、新規採用者を会社のオリエンテーションに登録することを指示するワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>Personal Administrator (FRA) に対し、入社日前に最低限の必須情報が記載された個人別採用明細を送信することを確認する電子メールが送信されます。</p> <p>HR Administrator (FRA) に対し、入社日前に最低限の必須情報が記載された個人別採用明細を送信することを確認するワークリストアイテムが送信されます。</p>
アクション内容 (続き)	<p>HR Administrator (FRA) に対し、新規採用者が将来日付の採用日でシステムに追加された際に、電子メールが送信されます。これにより、HR Administrator に対し、入社日前に最低限の必須情報が記載された個人別採用明細を送信するように警告されます。</p> <p>HR Administrator (FRA) に対し、新規採用者がシステムに追加され、その新規採用者に関する追加情報が必要になった場合に、ワークリストアイテムが送信されます。</p>
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	JOB_DATA_EMP EE_HIRE
ワークフロー アクション	自動
ロール	Benefits Administrator Facilities Administrator MIS Administrator Payroll Administrator Training Administrator Variable Compensation Administrator HR Administrator FRA Worklist Administrator
電子メール テンプレート	Benefits Administrator Facilities Administrator MIS Administrator Payroll Administrator Training Administrator VC_HIRE_EMAIL Single Hiring Statement SHS_EMAIL_DELAY Complete Employee Info
ビジネス プロセス	Administer Workforce Recruit Employees ADMINISTER_WORKFORCE_USF REPORT_REGULATIONS
ビジネス アクティビティ	Hire Workforce HIRE_WORKFORCE_FRA
ビジネス イベント	Hire Employee VC_HIRE_EVENT SHS_HIRE_EVENT SHS_HIRE_DELAY SHS_HIRE_INFO

職務データの管理

このセクションでは、職務データの管理ワークフローについて説明します。

説明

アクション内容	<p>従業員の勤務開始日に変更があると、福利厚生に関して適切な処理が行えるように、Benefits Administrator に対して電子メールおよびワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>複数の職務を持つ従業員に人事異動が実行された場合、Benefits Administrator にワークリストアイテムが送信され、主雇用レコードインジケータおよび主雇用レコードフラグを確認する指示が通知されます。</p> <p>VC Administrator (Variable Compensation Administrator) に対して、変更を確認し、必要に応じて適切な処理が行えるように、電子メールが送信されます。</p> <p>従業員の福利厚生システムに変更があると、福利厚生に関して適切な処理が行えるように、Benefits Administrator に対して電子メールおよびワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>従業員の職務レコードに変更があり、追加または変更されたアクションが株式措置理由テーブル ページで定義した株式措置と一致する場合、Stock Administrator に対して、適切な処理が行えるようにワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>(経営協議会固有) HR Administrator が職務変更リクエストについての決定をすると、経営協議会に対して、確認を指示する電子メールおよびワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>(経営協議会固有) HR Administrator が職務変更リクエストについての決定をすると、従業員に対して、その決定を通知する電子メールが送信されます。</p> <p>(経営協議会固有) HR Administrator が職務変更リクエストについての決定をすると、新しい管理者に対して、その決定を通知する電子メールおよびワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>(経営協議会固有) HR Administrator が職務変更リクエストについての決定をすると、現在の管理者に対して、その決定を通知する電子メールおよびワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>(経営協議会固有) HR Administrator が従業員の職務変更をリクエストすると、そのリクエストは電子メールおよびワークリストアイテムによって経営協議会に送信され、確認と承認の指示が通知されます。</p>
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	JOB_DATA WC_JOB_CHG_REQ_HR EE_HR_PROC
ワークフローアクション	自動

ロール	Benefits Administrator VC Administrator Stock Administrator Roleuser By EMPLID Works Council Representative
電子メール テンプレート	Benefits Administrator Benefits Administrator1 Benefits Administrator2 Benefits Administrator3 Variable Comp Administrator Stock Admin Works Council Employee New Manager Current Manager Works Council
ビジネス プロセス	Administer Workforce ADMINISTER_WORKFORCE_USF WORKS_COUNCIL_NOTIFICATION ADMINISTER_STOCK
ビジネス アクティビティ	Maintain Job Data WC_HR_DECISION WC_RJC_HR STOCK_ACTION

ビジネス イベント	Change in Service Date MultiJob Change Job Change Primary Jobs Audit Change in Benefits System Stock_Action_List Notify WC Notify EE Notify New Manager Notify Current Manager
-----------	---

個人データの管理

このセクションでは、個人データの管理ワークフローについて説明します。

説明

アクション内容	<p>従業員の生年月日に変更があると、福利厚生に関して適切な処理が行えるように、Benefits Administrator に対して電子メールおよびワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>(CAN) 従業員の居住する州が変更されると、給与計算に関して適切な処理が行えるように、Payroll Administrator に対して電子メールおよびワークリストアイテムが送信されます。</p> <p>従業員の居住する都道府県/州が変更されると、給与計算に関して適切な処理が行えるように、Payroll Administrator に対して電子メールおよびワークリストアイテムが送信されます。</p>
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	PERSONAL_DATA EE_HR_PROC
ワークフロー アクション	自動
ロール	Benefits Administrator Payroll Administrator
電子メール テンプレート	Benefits Administrator Payroll Administrator Payroll Administrator1
ビジネス プロセス	Administer Workforce ADMINISTER_WORKFORCE_USF
ビジネス アクティビティ	Maintain Personal Data
ビジネス イベント	Change in Birth Date Change Province in Canada Change State in U.S.

従業員の雇用終了手続き

このセクションでは、従業員の雇用終了手続きワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	従業員の雇用を終了すると、組織内の複数のロールに対し、さまざまなアクションの実行を指示する通知が送信されます。
アクション内容	<p>従業員の管理者に対し、その従業員の雇用が終了したことを通知する電子メールが送信されます。</p> <p>Training Administrator に対して電子メールが送信され、従業員の雇用が終了したため、適切な処理を行ってその従業員の研修コースの登録をキャンセルするように通知されます。</p> <p>Training Administrator に対してワークリストアイテムが送信され、従業員の雇用が終了したため、適切な処理を行ってその従業員の研修コースの登録をキャンセルするように通知されます。</p> <p>指定の従業員に対して電子メールが送信され、従業員の雇用が終了したため、適切な処理を行ってその従業員の利潤分配を確認するように通知されます。</p> <p>指定の従業員に対してワークリストアイテムが送信され、従業員の雇用が終了したため、適切な処理を行ってその従業員の利潤分配を確認するように通知されます。</p> <p>Benefits Administrator に対して電子メールが送信され、従業員の雇用が終了したため、適切な処理を行ってその従業員の福利厚生をキャンセルするように通知されます。</p> <p>Benefits Administrator に対してワークリストアイテムが送信され、従業員の雇用が終了したため、適切な処理を行ってその従業員の福利厚生をキャンセルするように通知されます。</p> <p>Payroll Administrator に対して電子メールが送信され、従業員の雇用が終了したため、適切な処理を行ってその従業員の最終支給の処理をするように通知されます。</p> <p>Payroll Administrator に対してワークリストアイテムが送信され、従業員の雇用が終了したため、適切な処理を行ってその従業員の最終支給の処理をするように通知されます。</p> <p>雇用終了対象の従業員が利潤分配権を持っている場合、その従業員に対して電子メールが送信され、アカウントの管理方法を選択するように通知されます。</p> <p>雇用終了対象の従業員が利潤分配権を持っている場合、その従業員に対してワークリストアイテムが送信され、アカウントの管理方法を選択するように通知されます。</p>
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	JOB_DATA
ワークフローアクション	自動
ロール	MIS Administrator Supervisor-Part Posn Mgt Training Administrator Roleuser by EmplID Benefits Administrator Payroll Administrator Facilities Administrator
電子メールテンプレート	MIS Administrator Supervisor Training Administrator Profit Sharing to be reviewed Benefits Administrator Payroll Administrator Facilities Administrator
ビジネスプロセス	Administer Workforce
ビジネスアクティビティ	Terminate Workforce
ビジネスイベント	Notification Crse Enrollment Cancellation Profit Sharing Benefit Cancellation Payroll Termination Company Property Retrieval

基本報酬管理と予算計画の標準ワークフロー

このセクションでは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の基本報酬管理と予算計画のワークフローについて説明します。ワークフローは、ワークフロー名のアルファベット順に記載されています。

アドホック給与変更の承認または却下

このセクションでは、アドホック給与変更の承認または却下のワークフローについて説明します。

説明

このセクションでは、アドホック給与変更の承認または却下のワークフローについて説明します。

イベント内容	監督者または管理者は、アドホック給与変更リクエストの承認または却下を行います。
アクション内容	アドホック給与変更リクエストが承認または却下されると、従業員に電子メールが届きます。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	Process Salary Change
ワークフローアクション	Process Salary Change
ロール	Personnel Administrator

予算計上済み給与変更の承認または却下

このセクションでは、予算計上済み給与変更の承認または却下のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	監督者または管理者は、従業員グループに対する予算計上済み給与変更リクエストの承認または却下を行います。
アクション内容	従業員グループに対する予算計上済み給与変更リクエストが承認または却下されると、管理者に電子メールが届きます。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	Process Salary Change
ワークフローアクション	Process Salary Change
ロール	Personnel Administrator

給与変更処理

このセクションでは、給与変更処理のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	管理者は、グループ給与予算の計算をリクエストします。
アクション内容	グループ給与予算が計算されます。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	Process Salary Change
ワークフローアクション	Process Salary Change
ロール	Personnel Administrator

給与変更リクエスト

このセクションでは、給与変更リクエストのワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	管理者は、グループ給与予算の計算をリクエストします。
アクション内容	グループ給与予算に加えた変更が計算されます。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	Request Salary Change
ワークフローアクション	Request Salary Change
ロール	Roleuser by Roleuser Query

記入票の管理の標準ワークフロー

このセクションでは、記入票の管理のワークフローについて説明します。

記入票の管理の通知イベント

このセクションでは、記入票の通知ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	従業員および管理者が記入票を使用して評価を作成すると、この汎用通知イベントにより、該当する評価者に対して電子メールによる通知が送信されます。
アクション内容	該当する評価者に対し、記入票の表示と更新が可能であること、記入票ステータスの変更に関する情報、および新しい管理者への記入票の移管に関する情報が電子メールにより通知されます。
通知方法	電子メール

利潤分配管理（フランス機能）の標準ワークフロー

このセクションでは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の利潤分配管理（フランス機能）のワークフローについて説明します。ワークフローは、ワークフロー名のアルファベット順に記載されています。

資金リリース リクエストの承認

このセクションでは、資金リリース リクエストの承認ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	管理者が従業員による利潤分配資金のリリースリクエストを承認すると、ワークフローが開始されます。
アクション内容	従業員に対して、資金リリースリクエストが承認されたことを通知する電子メールが送信されます。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

イベント	WP_PROFIT_SHARING
ワークフロー アクション	手動
ロール	Employee
電子メール テンプレート	APP_REL_REQ_MAIL
ビジネス プロセス	MAN_REL_REQ
ビジネス アクティビティ	WP_PROFIT_SHARING_FRA
ビジネス イベント	APP_REL_REQ_EVENT

資金エラー

このセクションでは、資金エラーのワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	利息/支給の処理プロセスで従業員の資金にエラーが検出されると、管理者に対し、確認することを指示する電子メールが送信されます。
アクション内容	管理者に対して、従業員の資金にエラーが検出されたことを通知する電子メールが送信されます。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

イベント	WP_FUND_STATUS
ワークフローアクション	自動
ロール	HR Administrator FRA
電子メールテンプレート	FUN_STA_ERR_MAIL
ビジネスプロセス	MAN_FUN_STA_STEP
ビジネスアクティビティ	WP_PROFIT_SHARING_FRA
ビジネスイベント	FUN_STA_ERR_EVENT

金融機関の変更

このセクションでは、金融機関の変更ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	従業員が“契約の個人別設定”コンポーネント(WP_AGREEMENT_CUST)の投資ページで金融機関を変更すると、その変更を管理者に通知するワークフローが開始されます。
アクション内容	管理者に対して、金融機関が変更されたことを通知するワークリストアイテムおよび電子メールが送信されます。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	WP_AGREEMENT_CUST
ワークフローアクション	手動
ロール	HR Administrator FRA
電子メールテンプレート	MOD_FIN_ORG_MAIL
ビジネスプロセス	MOD_FIN_ORG_STEP
ビジネスアクティビティ	WP_PROFIT_SHARING_FRA
ビジネスイベント	MOD_FIN_ORG_EVENT

資金ステータスの変更

このセクションでは、資金ステータスの変更ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	利息/支給の処理プロセスにより資金ステータスが変更されると、メンバーに対し、変更を通知する電子メールが送信されます。
アクション内容	従業員に対して、資金ステータスが変更されたことを通知する電子メールが送信されます。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

イベント	WP_FUND_STATUS
ワークフローアクション	自動
ロール	Employee
電子メール テンプレート	FUN_STA_MOD_MAIL
ビジネスプロセス	MAN_FUN_STA_STEP
ビジネス アクティビティ	WP_PROFIT_SHARING_FRA
ビジネス イベント	FUN_STA_MOD_EVENT

資金リリース リクエストの却下

このセクションでは、資金リリース リクエストの却下ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	管理者が従業員による利潤分配資金のリリースリクエストを却下すると、ワークフローが開始されます。
アクション内容	従業員に対して、資金リリースリクエストが却下されたことを通知する電子メールが送信されます。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

イベント	WP_PROFIT_SHARING
ワークフローアクション	手動
ロール	Employee
電子メール テンプレート	REJ_REL_REQ_MAIL
ビジネスプロセス	MAN_REL_REQ
ビジネス アクティビティ	WP_PROFIT_SHARING_FRA
ビジネス イベント	REJ_REL_REQ_EVENT

資金のリリース リクエスト

このセクションでは、資金のリリース リクエスト ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	従業員が“個人の割当確認”コンポーネント (WP_FUND_RELEASE) で利潤分配資金のリリースリクエストを送信すると、そのリクエストを管理者に通知するワークフローが開始されます。
アクション内容	管理者は、受け取った電子メールまたはワークリストアイテムから従業員リリース詳細ページに直接アクセスし、資金リリースリクエストの表示、承認、または却下を行うことができます。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	WP_FUND_RELEASE
ワークフローアクション	手動
ロール	HR Administrator FRA
電子メールテンプレート	REQ_FUN_REL_MAIL
ビジネスプロセス	REQ_FUN_REL_STEP
ビジネスアクティビティ	WP_PROFIT_SHARING_FRA
ビジネスイベント	REQ_FUN_REL_EVENT

公認資格認定管理の標準ワークフロー

このセクションでは、公認資格認定管理のワークフローについて説明します。ワークフローは、ワークフロー名のアルファベット順に記載されています。

公認資格認定管理の採用ワークフロー

このセクションでは、公認資格認定管理の採用アクティビティにおける採用ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	新しく従業員が採用されると、その新規採用者は、公認資格認定管理ビジネスプロセスに追加されます。 注: これは、公認資格認定タイプのデフォルトが、採用された従業員の職務コードに関連付けられている場合にのみ適用されます。
アクション内容	PCMP_BUS_PROCビジネスプロセスによって、以下の処理が行われます。 新規採用者の業務監督者のワークリストに、採用通知が追加されます。 新規採用者の業務監督者に対し、電子メールによる通知が送信されます。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

ビジネスプロセス	PCMP_BUS_PROC
アクティビティ	Professional Compliance Hire

公認資格認定管理の追加ワークフロー

このセクションでは、公認資格認定管理の追加ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	従業員が、公認資格認定管理ビジネスプロセスに手動で追加されます。
アクション内容	PCMP_BUS_PROCビジネスプロセスによって、従業員の業務監督者に電子メールが送信され、その従業員が公認資格認定管理ビジネスプロセスに追加されたこと、および適切なアクションを実行する必要があることが通知されます。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

ビジネスプロセス	PCMP_BUS_PROC
アクティビティ	Professional Compliance Add

公認資格認定管理の分類変更ワークフロー

このセクションでは、公認資格認定管理の分類変更ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	公認資格認定管理ビジネスプロセスに含まれる従業員の分類レベルに変更があります。
アクション内容	PCMP_BUS_PROCビジネスプロセスによって、従業員の認定プラン監督者に電子メールが送信され、公認資格認定管理ビジネスプロセスに分類変更が存在すること、および適切なアクションを実行する必要があることが通知されます。 分類変更が監督者に対してのものである場合、認定プラン管理者に通知する必要があります。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

ビジネスプロセス	PCMP_BUS_PROC
アクティビティ	Professional Compliance Classification Change

公認資格認定管理の職務変更ワークフロー

このセクションでは、公認資格認定管理の職務変更ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	公認資格認定管理ビジネスプロセスに含まれる従業員の職務に変更があります。
アクション内容	PCMP_BUS_PROCビジネスプロセスによって、従業員の認定プラン監督者に電子メールが送信され、職務変更が存在すること、および適切なアクションを実行する必要があることが通知されます。 分類変更が監督者に対してのものである場合、認定プラン管理者に通知する必要があります。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

ビジネスプロセス	PCMP_BUS_PROC
アクティビティ	Professional Compliance Job Change

公認資格認定管理の再認定ワークフロー

このセクションでは、公認資格認定管理の再認定ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	公認資格認定管理ビジネスプロセスに含まれる従業員に対し、再認定アプリケーションエンジンプログラムが実行されます。
アクション内容	PCMP_BUS_PROC ビジネスプロセスによって、認定プラン監督者に電子メールが送信され、免許および資格の認定有効期限までの残日数や認定失効後の経過日数が通知されます。 認定情報が監督者に対してのものである場合、認定プラン管理者に通知する必要があります。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

ビジネスプロセス	PCMP_BUS_PROC
アクティビティ	Professional Compliance Re-Certification

公認資格認定管理の雇用終了ワークフロー

このセクションでは、公認資格認定管理の雇用終了ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	公認資格認定管理ビジネスプロセスに含まれる従業員の雇用が終了されます。
アクション内容	PCMP_BUS_PROC ビジネスプロセスによって、以下の処理が行われます。 ワークリストに採用通知が追加されます。 従業員の認定プラン監督者に電子メールが送信され、その従業員の雇用が終了したこと、および適切なアクションを実行する必要があることが通知されます。 分類変更が監督者に対してのものである場合、認定プラン管理者に通知する必要があります。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

ビジネスプロセス	PCMP_BUS_PROC
アクティビティ	Professional Compliance Job Change

変動報酬管理の標準ワークフロー

このセクションでは、PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理の変動報酬管理のワークフローについて説明します。ワークフローは、ワークフロー名のアルファベット順に記載されています。

プラン別報奨割当（承認）

このセクションでは、プラン別報奨割当のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	ユーザーは、各変動報酬プランの計算済み報奨または報奨ステータスを変更します。
アクション内容	管理者は、各変動報酬プランの計算済み金額または報奨ステータスに対して行われた変更を承認します。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

ロール	Roleuser by Emplid Qry
-----	------------------------

プラン別報奨割当（却下）

このセクションでは、プラン別報奨割当のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	ユーザーは、各変動報酬プランの計算済み報奨または報奨ステータスを変更します。
アクション内容	管理者は、各変動報酬プランの計算済み金額または報奨ステータスに対して行われた変更を却下します。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	Email for Denial
ワークフローアクション	Email for Denial
ロール	Roleuser by Emplid Qry

グループ別報奨割当（承認）

このセクションでは、グループ別報奨割当のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	ユーザーは、各変動報酬プランのグループメンバーの計算済み報奨または報奨ステータスを変更します。
アクション内容	管理者は、各変動報酬プランのグループメンバーの計算済み金額または報奨ステータスに対して行われた変更を承認します。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

ロール	Roleuser by Emplid Qry
-----	------------------------

グループ別報奨割当（却下）

このセクションでは、グループ別報奨割当のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	ユーザーは、各変動報酬プランのグループメンバーの計算済み報奨または報奨ステータスを変更します。
アクション内容	管理者は、各変動報酬プランのグループメンバーの計算済み金額または報奨ステータスに対して行われた変更を却下します。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	Email for Denial
ワークフローアクション	Email for Denial
ロール	Roleuser by Emplid Qry

資金割当（グループ）

このセクションでは、資金割当（グループ）のワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	管理者または承認者は、グループの変動報酬報奨に変更を加えます。
アクション内容	承認管理者は、グループの変動報酬報奨に対する変更を承認または却下します。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	Funds Change Event
ワークフローアクション	Funds Change Event
ロール	Roleuser by Emplid Qry

変動報酬ツリーの変更

このセクションでは、変動報酬ツリーの変更ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	管理者または承認者は、変動報酬ツリーに変更を加えます。
アクション内容	承認管理者は、変動報酬ツリーに対する変更を承認または却下します。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	VC Tree Change Event
ワークフローアクション	VC Tree Change Event
ロール	VC Administrator、HR Administrator

変動報酬ツリーの削除

このセクションでは、変動報酬ツリーの削除ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	管理者または承認者は、変動報酬ツリーを削除します。
アクション内容	承認管理者は、変動報酬ツリーの削除を承認または却下します。
通知方法	電子メールとワークリスト

ワークフロー オブジェクト

イベント	VC Tree Delete Event
ワークフローアクション	VC Tree Delete
ロール	VC Administrator

変動報酬ツリー名の変更

このセクションでは、変動報酬ツリー名の変更ワークフローについて説明します。

説明

イベント内容	管理者または承認者は、変動報酬ツリー名を変更します。
アクション内容	承認管理者は、変動報酬ツリー名の変更を承認または却下します。
通知方法	電子メール

ワークフロー オブジェクト

イベント	VC Tree Rename Event
ワークフローアクション	VC Tree Rename Event
ロール	VC Administrator

付録 D

PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーションの基礎のレポート群

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理には、一連の標準レポートが用意されています。これらのレポートを使って、部門、会社、所在地、職務コードなどを含む PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理システムのコントロール設定に使用するさまざまなテーブル内の情報を確認できます。また、複数の国で業務を行っている場合は、レポートを使って通貨コードおよび為替レートを確認し、データを更新する必要があるかどうかを判断することができます。

この付録では、HRMS の基本レポートおよびヒューマン リソース管理の各機能で使用するレポートの概要を表に示します。

注: レポート群のサンプルについては、CD-ROM 内にある PDF ファイルをドキュメンテーションと併せてご確認ください。

関連項目:

Enterprise PeopleTools PeopleBook: Process Scheduler

PeopleSoft Enterprise HRMS 基本レポート: 概要

以下の表は、PeopleSoft Enterprise HRMS の基本レポート、および PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理のビジネス プロセス特有のレポートを、レポート ID でソートして一覧にしたものです。各レポートに関する詳細については、この付録の後半の詳細説明を参照してください。

HRMS 基本レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
AWEAUDIT 承認オーデジットレポート	承認ワークフロー エンジンに関連付けられている承認 トランザクションリクエスに関するデータが含まれています。	[人事・労務管理]、[セルフ サービス管理]、[承認/委任]、[承認オーデジットレポート]、[承認オーデジットレポート]	HCSCAWE_RUN_CNTL
GBP001 グループ メンバー重複	複数のグループに所属するメンバーが出力されます。	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[グループ重複]	RUNCTL_GBP001
GBP002 割当先グループリスト	特定グループの全メンバーが出力されます。	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[グループビルド]、[割当先グループリスト]	RUNCTL_GBP002

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PAY701 銀行/支店	銀行/支店テーブルに入力された銀行および支店が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[金融機関関連]、[銀行/支店]	PRCSRUNCNTL
PAY710 勘定コード	トランザクションで使用される勘定コードが出力されます。	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[勘定コード]	PRCSRUNCNTL
PAY711 支給グループ	各支給グループとその有効日が、グループに適用される処理特性と共に出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[給与計算インターフェイス]、[レポート]、[Pay Group Table]	PRCSRUNCNTL
PAY717 支給プログラム テーブル	支給プラン定義の詳細が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[給与計算インターフェイス]、[レポート]、[Earnings Program]	PRCSRUNCNTL
PAY760 Combination Code Report (組合せコードレポート)	Combination Code Report (組合せコードレポート) で設定した勘定コードの一覧が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[Combination Code Report]	PRCSRUNCNTL
PER506 セキュリティツリー検証	部門コンポーネントで入力されたデータと、部門セキュリティツリーの部門データとの間の不一致リストが出力されます。	[HRMS 基本設定]、[セキュリティ]、[行レベル セキュリティ]、[セキュリティツリー検証レポート]	PRCSRUNCNTL
PER701 部門テーブル	全ての部門が部門 ID 別に出力されます。	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[部門テーブルレポート]	PRCSRUNCNTL
PER702 インストール テーブル	会社コード、標準勤務時間の上限と下限、社会保障番号などのフィールドにデフォルトとして設定されている値が一覧で出力されます。	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[インストール テーブルレポート]	PRCSRUNCNTL
PER705 所在地テーブル	所在地コード別に実際の所在地が出力されます。所在地は有効日別に定義できるため、過去、現在、および将来の所在地が全て出力されます。	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[所在地テーブルレポート]	PRCSRUNCNTL
PER707 会社テーブル	会社テーブルにある全ての会社と、会社の名称、住所、会社コード、有効日などのデフォルト情報が出力されます。 別のレポートプログラム (PAY702) には、会社テーブルに入力した一般会計情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[組織構造]、[会社テーブルレポート]	PRCSRUNCNTL
PER708 国テーブル	全ての国の文字コードの一覧が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[インストール]、[国テーブルレポート]	PRCSRUNCNTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER709A 職務コード テーブル USA	全ての職務コードと有効日のリストが出力されます。また、アメリカに拠点を置く企業の職務コード ページに保存されている情報も全て出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[人事・労務管理]、[職務コード レポート USA]	PRCSRUNCNTL
PER709B 職務コード テーブル CAN	全ての職務コードと有効日のリストが出力されます。また、カナダに拠点を置く企業の職務コード ページに保存されている情報も全て出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品 / 業務別定義]、[人事・労務管理]、[職務コード レポート CAN]	PRCSRUNCNTL
PER709C 職務コード テーブル	全ての職務コードと有効日のリストが出力されます。	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[任務属性]、[職務コード テーブル レポート]	PRCSRUNCNTL
PER711 標準文書 テーブル	標準文書 テーブルに設定されたコードの一覧が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[共通定義]、[文書 / 書類]、[標準文書 レポート]	PRCSRUNCNTL
PER713 通貨コード テーブル	各通貨の情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[通貨・市場レート]、[通貨コード テーブル]	PRCSRUNCNTL
PER714 通貨レート テーブル	為替レートの情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[基本 テーブル]、[通貨・市場レート]、[通貨レート レポート]	PRCSRUNCNTL

社有車管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CAR002 P11D 情報の印刷	P11D 情報の計算プロセス (CAR001) の結果が、イギリス政府の P11D フォームに似たフォーマットで印刷されます。 このページを使う前に、CAR001 レポートのプロセスを実行しておく必要があります。	[福利厚生管理]、[社有車管理]、[P11D 情報の印刷]	RUNCTL_COMPCAR001
CAR003 車両リスト	会社保有車両の一覧がその車両の基本情報と共に出力されます。	[福利厚生管理]、[社有車管理]、[車両リスト作成]	PRCSRUNCNTL

報酬管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CMP013 年功給更新	従業員とその従業員の年功に加えた変更が全て出力されます。このレポートは、年功給の更新プロセス (HR_CMP013) を実行した後、および変更内容を職務データにロードする年功給更新 - データロードプロセス (HR_CMP013_CI) を実行する前に実行します。	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[年功給処理]、[年功給の更新]	RUNCTL_SENPAY2
CMP014S 年功給対象者の更新	従業員とその従業員の年功に加えた変更が全て出力されます。このレポートは、年功給対象者の更新プロセス (HR_CMP014) を実行した後、および変更内容を職務データにロードする年功給対象者の更新 - データロードプロセス (HR_CMP014_CI) を実行する前に実行します。	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[年功給処理]、[年功給対象者の更新]	RUNCTL_SENPAY
CMP015 従業員給与のリフレッシュ	従業員給与のリフレッシュプロセスの実行で加えられた変更が全て出力されます。このレポートを実行する前に、従業員報酬のリフレッシュプロセス (HR_CMP015) を実行します。	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[給与データのリフレッシュ]	RUNCTL_CMP015
CMP016 デフォルトルール資格	指定日の時点で、選択したデフォルトルールに該当する従業員が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[基本テーブル]、[報酬ルール設定]、[デフォルトルール該当者レポート]	RUNCTL_CMP016

オランダ給与管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
INT003NL 支給グループ	システムに入力した支給グループの概要が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[福利厚生 NLD]、[レポート]、[支給グループ]	PRCSRUNCNTL
INT004NL 支給テーブル (NLD)	システムに入力した全ての有効な支給コードと、それぞれの支給コードに割り当てた給与計算特性を確認します。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[福利厚生 NLD]、[レポート]、[支給]	PRCSRUNCNTL
INT005NL 控除/周期 (NLD)	システムに入力した全ての有効な控除コードを確認します。SQR はプランタイプ、控除コード、有効日別にソートされます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[福利厚生 NLD]、[レポート]、[控除]	PRCSRUNCNTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
INT006NL 一般控除/控除周期 (NLD)	各控除の計算タイプコードと、該当する場合には、均一レートまたはパーセント値、従業員の支給周期、およびその他の固定控除額が表示されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[福利厚生 NLD]、[レポート]、[一般控除/周期]	PRCSRUNCNTL

給与パッケージ管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PKG003 確認対象パッケージ	確認準備ができているパッケージがある従業員が全て表示されます。	[報酬管理]、[給与パッケージ AUS]、[パッケージレポート作成]、[確認対象パッケージ]	RUNCTL_PKG003
PKG004 パッケージ モデル	応募者または従業員の給与パッケージについてレポートできます。従業員/応募者の給与パッケージのページに表示される詳細が、このレポートの情報として表示されます。コンポーネント金額(年間)とコンポーネント金額(パッケージ期間)、追加コンポーネント金額(年間)と追加コンポーネント金額(パッケージ期間)、給与/税額、TPV 金額、TEC 金額が表示されます。	[報酬管理]、[給与パッケージ AUS]、[パッケージレポート作成]、[パッケージ モデル]	RUNCTL_PKG004
PKG006 FBT 照合	フリンジ ベネフィット税年度末の 3 月 31 日にオーストラリア税務署に提出する給付と負債に関する報告書の作成が容易になります。オーストラリア税務署は、フリンジ ベネフィットの各種カテゴリを定めています。各カテゴリには、課税対象額の計算のための独自の固有ルールがあります。	[報酬管理]、[給与パッケージ AUS]、[パッケージレポート作成]、[FBT 照合]	RUNCTL_PKG006
PKG007 パッケージ詳細	各支給期間におけるパッケージの各コンポーネントの予算額についてレポートします。従業員別にのみ実行されるこのレポートには、レポート期間の開始日と終了日が必要です。	[報酬管理]、[給与パッケージ AUS]、[パッケージレポート作成]、[パッケージ詳細]	RUNCTL_PKG007

教育・研修管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
MXSTP001 (フォーマット) (MEX) DC-1 研修合同委員会発足	研修合同委員会と、合同委員会に関連付けられた事業所の構成に関する詳細情報が出力されます。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-1 フォーマット MEX]	RUNCTL_STP001
MXSTP002 STPS レポート DC-1 (取消)	上記を参照してください。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-1 フォーマット MEX]	RUNCTL_STP001
MXSTP003 (フォーマット) (MEX) DC-2 研修・能力開発プラン	研修目標の優先度などの研修および能力開発プランの情報が出力されます。また、合同委員会に関連付けられた事業所も出力されます。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-2 フォーマット MEX]	RUNCTL_STP003
MXSTP004 STPS レポート DC-2 (取消)	上記を参照してください。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-2 フォーマット MEX]	RUNCTL_STP003
MXSTP005 (MEX) DC-2B 研修および能力開発登録申請書	研修および能力開発登録申請書レポートが作成されます。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-2B フォーマット MEX]	RUNCTL_STP005
MXSTP006 (MEX) DC-3 コース/イベント修了証書	コース/イベント修了証書が作成されます。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-3 フォーマット MEX]	RUNCTL_STP006
MXSTP007 (MEX) DC-4 コース/イベント修了証書の一覧	コース/イベント修了証書の一覧が出力されます。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-4 フォーマット MEX]	RUNCTL_STP007
MXSTP008 (フォーマット) (MEX) DC-5 研修および能力開発の外部登録申請書	研修および能力開発の外部登録申請書と講師の一覧が出力されます。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-5 フォーマット MEX]	RUNCTL_STP008
MXSTP009 STPS レポート DC-5 (取消)	上記を参照してください。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[STPS DC-5 フォーマット MEX]	RUNCTL_STP008
PER107GR (GER) 社内専門教育ステータス	社内専門研修プランに登録している従業員の現在のステータスの詳細が出力されます。専門教育/研修ページで、[社内専門教育]チェックボックスがオン、[卒業]チェックボックスがオフになっている従業員のみ表示されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[社内専門教育ステータス DEU]	PRCSRUNCNTL
PER703 コース テーブル	受講可能なコースが出力されます。コース内容、タイプコード、研修場所、研修期間、学校名も記載されます。このレポートを使って、社内および社外のコースを管理できます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コースレポート]、[コーステーブル]	PRCSRUNCNTL
TRN001 研修通知	研修通知が作成されます (SQR、Word for Windows)。	[教育・研修管理]、[受講者の登録]、[研修通知作成]	RUNCTL_TRN001

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
TRN002 コース セッション名簿	コース名、セッション番号、セッション開始日、およびコースに登録されている全受講者が出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コースレポート]、[コース セッション名簿]	RUNCTL_TRN002
TRN003 コース登録待ちリスト	対象コースのコース/セッション登録待ちリストに載っている全受講者が出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コースレポート]、[コース登録待ちリスト]	RUNCTL_TRN003
TRN004 研修スケジュール	指定の期間内に予定されている全てのコースセッションが出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[研修スケジュール]	RUNCTL_TRN004
TRN005 研修施設スケジュール	指定の期間内に研修施設で実施される予定のコースセッションが全て出力されます。全セッションがコースの開始日順に出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[研修施設スケジュール]	RUNCTL_TRN005
TRN010 アクティブ シナリオ サマリ	ビジネスユニットの承認済み研修申請と予算情報のサマリが出力されます (SQR)。	[教育・研修管理]、[研修予算]、[予算レポート]、[アクティブ シナリオ サマリ]	RUNCTL_TRN010
TRN011 グローバル シナリオ サマリ	部門またはビジネスユニットの承認済みの研修申請と予算情報のサマリが出力されます。この情報は選択したグローバル シナリオから抽出されます (SQR)。	[教育・研修管理]、[研修予算]、[予算レポート]、[グローバル シナリオ サマリ]	RUNCTL_TRN011
TRN016 取得目標 - 証明書	受講者がコース修了時に授与される免許/資格が出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コースレポート]、[取得目標 - 証明書]	RUNCTL_TRN016
TRN017 コース評価	コースセッションに対する評価の詳細が出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コースレポート]、[コース評価]	RUNCTL_TRN017
TRN018 コース出席状況	コース受講者の出席状況が出力されます (SQR)。	[教育・研修管理]、[コースレポート]、[出席状況]	RUNCTL_TRN018
TRN019 コース評価テンプレート	コースセッションに登録した受講者が記入する評価テンプレートとして機能します (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コースレポート]、[コース評価テンプレート]	RUNCTL_TRN019
TRN020 コース受講履歴	受講者が修了したコースおよびセッションが出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[コース受講履歴]	RUNCTL_TRN020
TRN021 研修プログラム	従業員の研修プログラムが出力されます (SQR)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[研修プログラム]、[研修プログラム]	RUNCTL_TRN021
TRN022 登録済従業員の統計	コースに登録されている従業員、および会社別、所在地別、部門別のコース統計が出力されます (SQR)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[登録済従業員の統計]、[登録済従業員統計]	RUNCTL_TRN022
TRN023 コース内容	コース内容が出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コースレポート]、[コース内容]	RUNCTL_TRN023

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
TRN024 コース カテゴリ	研修カタログのコース カテゴリが出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コース レポート]、[コース カテゴリ]	RUNCTL_TRN024
TRN025 コース 備品/教材	コースに必要な備品/教材の一覧が出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コース レポート]、[コース 備品 /教材]	RUNCTL_TRN025
TRN026 研修委託機関	コース テーブルのコースに関連付けられている研修委託機関が出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コース レポート]、[研修委託機関]	RUNCTL_TRN026
TRN027 事前必須コース	各コースを受講するために事前に受講が必要なコースが出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コース レポート]、[事前必須 コース]	RUNCTL_TRN027
TRN028 取得目標 - 資格	各コースで育成または改善を目的とするコンピテンシーが出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[コース レポート]、[取得目標 - 資格]	RUNCTL_TRN028
TRN029 (FRA) 研修レポート 2483	フランスの組織で従業員に提供された職業訓練を申告するために、2483 インジケータの計算結果が取りまとめられます。このレポートを実行する前に、研修レポート 2483 用データ計算 (DEC2483) プロセスを実行して、インジケータを計算します。“2483 用データの編集 FRA” の 2483 用データ編集ページで、計算結果を確認し、更新を行います (Crystal)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[税金申告書 2483 FRA]	RUNCTL_TRN029
TRN030 研修プラン サマリ	指定した予算期間とビジネスユニットに対する研修プランに含まれる全コースの一覧が出力されます。 レポートには、コース別にコース費用、承認人数、研修合計時間数が出力されます。研修合計時間数は、承認人数とコース期間を乗算して計算します (SQR)。	[教育・研修管理]、[研修予算]、[予算レポート]、[研修プラン サマリ]	RUNCTL_TRN030
TRN032 従業員別セッション費用 サマリ	コースを受講する従業員に関連付けられたコース費用が出力されます。レポートには、コース費用として、給与費用、研修委託機関費用、研修施設費用、講師費用、諸経費、およびセッション費用が出力されます (SQR)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[従業員別セッション費用サマリ]	RUNCTL_TRN032
TRN033 研修講師スケジュール	指定した期間に講師が研修を行う予定のコースが出力されます (Crystal)。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[研修講師スケジュール]	RUNCTL_TRN033

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
TRN034 備品チェックリスト	コース セッションに必要な備品が出力されます。アイテムごとに、必要数、研修室と施設で使用可能な数、および指定した期間に施設で予約されている合計数が出力されます (SQR)。 このレポートを実行する前に、コース セッションテーブルにコース セッションを設定しておく必要があります。	[教育・研修管理]、[研修レポート]、[備品チェックリスト]	RUNCTL_TRN034
TRN035 (FRA) 研修プラン別予算配分	フランスの組織の研修申請が、性別や、幹部役員、管理職、事務職、有資格従業員、無資格従業員などの職業カテゴリごとにどのように分布されているのかが詳細にレポートされます (SQR)。	[教育・研修管理]、[研修予算]、[予算レポート]、[研修プラン別予算配分 FRA]	RUNCTL_TRN035
TRN036 (FRA) 研修プラン別費用詳細	フランスの組織の各コースに関連付けられている研修費用の一覧が出力されます。施設、講師、委託機関、備品、給与費用、諸経費などの各費用タイプが詳細にレポートされます (SQR)。	[教育・研修管理]、[研修予算]、[予算レポート]、[研修プラン別費用詳細 FRA]	RUNCTL_TRN036

人事・労務管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CNT001 契約情報	選択した従業員または全従業員の契約履歴の一覧が出力されます。全ての契約履歴が含まれるようにレポートの期間を指定できます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[契約管理]、[契約情報レポート]	RUNCTL_CNT001
HR_EDM_NLD 雇用開始通知 NLD	雇用開始通知 (Eerste Dag Melding) を使用して、雇用開始日前に新規従業員に関して税務当局に通知します。	[人事・労務管理]、[人事・労務レポート]、[雇用開始通知 NLD]	RUNCTL_EDM_NLD
PER001 部門内人事通知	特定の期間または有効期限が設定された異動通知が出力されます。人事異動通知をもれなく作成するためのメモとして使うことができます。 このレポートを実行する前に、従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておきます。	[人事・労務管理]、[人事・労務レポート]、[部門内人事通知]	PRCSRUNCNTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER001CH 会社別統計 CHE	このレポートには、従業員の賃金、職種など会社別統計レポート (Betriebszaehlung) に必要なデータが表示されます。スイスにある会社は全て、スイス連邦統計局からこの会社別統計レポートを 10 年ごとに作成することが義務付けられています。	[職場環境管理]、[会社別統計 CHE]	RUNCTL_PER001_CHE
PER002 従業員の生年月日	従業員、従業員の生年月日、およびその他の識別情報の一覧が出力されます。 このレポートを実行する前に、従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておきます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[一般情報]、[生年月日レポート]	RUNCTL_PER002
PER003 勤続年数	指定した時点で特定の勤続年数を満了した従業員のリストが出力されます。福利厚生プランや勤続手当の受給資格がある従業員のメモとして活用できます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[勤続年数]	RUNCTL_PER003
PER004 緊急連絡先	緊急連絡先テーブルに入力された各従業員の連絡先のリストが全て出力されます。 このレポートを実行する前に、従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておきます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[個人関連]、[緊急連絡先レポート]	PRCSRUNCNTL
PER005 休職中の従業員	休職中の全従業員と各従業員の復職予定日の一覧が出力されます。このレポートは、PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理に入力済みの復職日と従業員の復職予定日を比較したり、復職情報をシステムに入力するためのメモとして使うことができます。 このレポートを実行する前に、従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておきます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[休職中の従業員]	PRCSRUNCNTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER006 宛名ラベル	PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理の データベースに入力されて いる全従業員の住所ラベ ルが、横方向に3ラベルず つ作成されます。 このレポートを実行する前 に、従業員テーブルのリフ レッシュプロセスを実行 しておきます。	[人事・労務管理]、[個人情 報]、[一般情報]、[宛名ラ ベルレポート]	PRCSRUNCNTL
PER007 臨時従業員	臨時従業員として指定され た全ての従業員がアルファ ベット順に出力されます。 勤続期間や、その他の雇 用情報の詳細についても 出力されます。	[人事・労務管理]、[職 務情報]、[レポート]、[臨時従業員]	RUNCTL_ASOFDATE
PER010 部門別異動率分析	各部門 ID と指定日の時点 での従業員数が出力さ れます。	[人事・労務管理]、[人事・ 労務レポート]、[部門別 異動率分析]	RUNCTL_FROMTHRU
PER015 人事異動履歴	入力した各人事異動によっ て影響を受けた全ての従業 員のリストが出力されます。	[人事・労務管理]、[職務 情報]、[レポート]、[人 事異動履歴]	RUNCTL_PER015
PER020 従業員の住所録	全従業員について住所お よび自宅の電話番号が 出力されます。	[人事・労務管理]、[個 人情報]、[一般情報]、[住所レポート]	PRCSRUNCNTL
PER021 予定人事異動	将来、人事異動通知を受け 取る予定のある全従業員 のリストが出力されます。	[人事・労務管理]、[人 事・労務レポート]、[予 定人事異動]	RUNCTL_ASOFDT_COMP
PER029 データベース検証	給与金額など、扱いに注意 を要するフィールドに対す る変更、追加、削除の管理 に使用します。	[人事・労務管理]、[人 事・労務レポート]、[デー タベース検証]	RUNCTL_FROMTHRU
PER032 旅券/査証の有効期限	レポートの実行日から 90 日以内に有効期限が切れ る旅券、査証、または労働 許可証を所持する従業員 および扶養家族のリストが 出力されます。 このレポートは 2 つのセク ションに分かれています。 最初のセクションには、国、 旅券番号、発行日、有効期 限などの旅券情報が出力 されます。2 つ目のセクショ ンには、国、査証番号およ び労働許可番号、区分、発 行日、有効期限など、査証 や労働許可に関する情報 が出力されます。	[人事・労務管理]、[個人情 報]、[旅券/査証情報]、[旅 券/査証の有効期限]	PRCSRUNCNTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER033 市民権/国/査証の検証	従業員の国籍または市民権ステータスと査証データの整合性の検証結果が出力されます。 個人データテーブルに保存されている従業員の市民権ステータスに関して検出された整合性のないさまざまなデータが出力されます。 インストールテーブルで指定された国が検索され、従業員の所在国として使用されます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[旅券/査証情報]、[市民権/国/査証の検証]	PRCSRUNCNTL
PER038NL SAMEN 年レポート	SAMEN 出身の従業員数、または両親のどちらかが SAMEN 出身の従業員数に関する SAMEN 統計の必須情報が表示されます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[SAMEN 準拠管理 NLD]、[SAMEN レポート]	RUNCTL_PER038_NL
PER039GR 重度障害者 DEU	このレポートには、重度の障害を持つ従業員とその障害に関する追加情報の一覧が出力されます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[障害者データ]、[重度障害者 DEU]	DSB_RUNCTL_GER
PER054ES 従業員の公式リスト ESP	従業員登録のレポート作成に必要な情報が収集されています。	[人事・労務管理]、[人事・労務レポート]、[従業員の公式リスト ESP]	RUNCTL_PER054_ESP
PER058 主雇用レコードの検証	職務レコードに問題があると思われる全ての従業員の一覧が出力されます。	[人事・労務管理]、[人事・労務レポート]、[主雇用レコードの検証]	RUNCTL_PER058
PER060 障害レポート-ITA	年次レポート、従業員名リストレポート、または障害統計レポートが実行されます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[障害者データ]、[障害レポートITA]	RUNCTL_PER060
PER063JP 辞令 JPN	辞令を作成します。ランコントロールで指定する異動区分と異動理由の組み合わせに基づいて、各従業員の採用、再雇用、退職、異動、および昇進・昇格に関する辞令が出力されます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[辞令 JPN]	RUNCTL_NTF_JPN
PER064JP 通達 JPN	通達レポートを実行します。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[通達 JPN]	RUNCTL_NTF2_JPN
PER065JP 出向満了予定一覧 JPN	出向中の従業員が出力されます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[出向満了予定者一覧 JPN]	RUNCTL_PER065_JPN
PER066BE 雇用終了通知	Claeys 計算による通知期間に基づき、ベルギーの事業主に対して、雇用終了の場合の契約および給与関連の詳細情報が出力されます。	[人事・労務管理]、[一括更新処理]、[管理 BEL]、[通知の作成]	RUNCTL_PER066_BEL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER066IT PER066IT – 採用通知	採用時に出力され、従業員と事業主によって署名される採用通知が作成されます。試用期間などの職務規約の詳細が記載されます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[採用通知 ITA]	RUNCTL_PER066_ITA
PER066JP 人員配置表 JPN	兼務している従業員を含む従業員の一覧が部門別に出力されます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[人員配置 JPN]	RUNCTL_EMPLIST_JPN
PER067BE 社会保険レポート	ベルギー政府が提出を義務付けている事業主と従業員に関するさまざまな情報が出力されます。	[人事・労務管理]、[人事・労務レポート]、[社会保険レポート BEL]	RUNCTL_PER067_BEL
PER100CN 採用者リスト CAN	指定した期間内の社会保険番号、有効日、バッジ/給与支給番号の情報を含む採用者リストが出力されます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[採用者レポート CAN]	RUNCTL_FROMTHRU
PER103CN 職業別 OEE グループ	オンタリオ州の従業員には、現在、OEEC (Ontario Employment Equity Commission: オンタリオ雇用機会均等委員会) による労働力調査票への回答の義務はありませんが、PeopleSoft では引き続き OEE レポート作成機能を提供しています。このレポートには、指定期間内に定義した地域で雇用されたアクティブな従業員の合計数が出力されます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[OEE 労働力調査 CAN]、[職業別グループレポート]	RUNCTL_FTCANAC
PER104CN 雇用タイプ別 OEE グループ	オンタリオ州の従業員には、現在、OEEC (Ontario Employment Equity Commission: オンタリオ雇用機会均等委員会) による労働力調査票への回答の義務はありませんが、PeopleSoft では引き続き OEE レポート作成機能を提供しています。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[OEE 労働力調査 CAN]、[雇用タイプ別グループレポート]	RUNCTL_FTCANAC
PER105CN OEE 労働力調査統計	オンタリオ州の従業員には、現在、OEEC (Ontario Employment Equity Commission: オンタリオ雇用機会均等委員会) による労働力調査票への回答の義務はありませんが、PeopleSoft では引き続き OEE レポート作成機能を提供しています。このレポートには、調査を受けた回数とその調査への回答数が出力されます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[OEE 労働力調査 CAN]、[労働力調査統計]	RUNCTL_PER105CN

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER106CN 空席状況別 OEE グループ	オンタリオ州の従業員には、現在、OEEC (Ontario Employment Equity Commission: オンタリオ雇用機会均等委員会) による労働力調査票への回答の義務はありませんが、PeopleSoft では引き続き OEE レポート作成機能を提供しています。このレポートには、指定期間内に定義した地域で雇用されたアクティブな従業員の合計数が出力されます。	[人事・労務管理]、[個人情報]、[OEE 労働力調査 CAN]、[グループ/職務空席状況別レポート]	RUNCTL_FTCANAC
PER706A 給与等級テーブル	給与管理プランおよび給与等級、名称、有効日、通貨コード、各等級の給与レンジ(上限額、下限額、中間額)が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[給与等級]	PRCSRUNCNTL
PER706B 給与等級/ステップ テーブル	給与等級テーブルおよび給与ステップコンポーネントテーブルで入力された情報が、社内の各給与プランに対する全ての給与等級および設定されたステップに対する時給、月給、年間給の金額と共に出力されます。各ステップのコンポーネントが出力されるように選択することもできます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[給与等級/ステップ]	RUNCTL_PER706B
PER710 異動理由テーブル	各人事異動に対する理由コードが、異動別にアルファベット順で出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[人事・労務管理]、[異動理由レポート]	PRCSRUNCNTL
PER801SG 従業員リスト	部門、従業員氏名、従業員 ID など、ランコントロール ページで選択した値に基づいて従業員情報が出力されます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[レポート]、[従業員リスト SGP]	RUNCTL_EMP_LIST
SOCS_AFI_ESP AFI レポート ESP	AFI プロセスにより、採用、雇用終了、個人データまたは職務データの変更など、指定期間の人事・労務管理における変更が出力されたフラットファイルが作成されます。このファイルは、社会保障管理当局に提出されます。	[人事・労務管理]、[人事・労務レポート]、[AFI レポート ESP]	RC_SOCS_AFI_ESP
TAS001 期限なし臨時職務	現在、終了日が定義されていない臨時職務に就いている従業員の一覧が出力されます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[臨時職務]、[期限なし臨時職務]	RUNCTL_TAS001
TAS002 期限付き臨時職務	指定期間内に臨時職務を終了する予定の従業員の一覧が出力されます。	[人事・労務管理]、[職務情報]、[臨時職務]、[期限付き臨時職務]	RUNCTL_TAS002

基本福利厚生管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN001 医療保険加入者リスト	指定日の時点でアクティブな医療保険加入者の一覧が出力されます。特定の保険取扱機関によって提供されたプランタイプに含まれる従業員数を決定する際に役立ちます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[福利厚生加入状況]、[医療保険加入者リスト]	RUNCTL_ASODATE_BEN
BEN002 生命保険加入者リスト	指定日の時点でアクティブな生命保険加入者の一覧が出力されます。特定の保険取扱機関によって提供されたプランタイプに含まれる従業員数を決定する際に役立ちます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[福利厚生加入状況]、[生命保険加入者リスト]	RUNCTL_ASODATE_BEN
BEN003 福利厚生拠出金	従業員別および事業主別に福利厚生拠出金のサマリが出力されます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[拠出金/控除]、[福利厚生拠出金登録]	RUNCTL_BEN003
BEN003CN 福利厚生拠出金 CAN	カナダの会社について、従業員別および事業主別に福利厚生拠出金のサマリが出力されます。このレポートは、BEN003と同じものです。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[拠出金/控除]、[拠出金登録 CAN]	RUNCTL_BEN003CN
BEN004 貯蓄投資配分	投資配分付き貯蓄プランに加入している従業員の全控除、および会社拠出額が出力されます。また、サードパーティの管理者が使用するインターフェイスファイルも作成されます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[福利厚生加入状況]、[貯蓄投資配分]	RUNCTL_BEN004
BEN007 有給休暇	このレポートには、休暇プラン別および従業員別に有給休暇情報が表示されます。プラン年の付与時間数、繰り越し時間数の年間累計、取得時間数の年間累計、および休暇残数などの情報が出力されます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[福利厚生加入状況]、[有給休暇付与/取得サマリ]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN008 415 準拠レポート	415 の制限を超える、または下回る従業員負担額の一覧が出力されます。会社、従業員 ID、有効日、特別累計、福利厚生プログラム、給与比率、福利厚生の算定基礎の上限、および年間累計総額などの情報も表示されます。また、415 制限から除外されるプランおよび 415 制限に含まれるプランが、制限対象のプランと共に出力されます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[法令準拠]、[415 準拠従業員レポート]	RUNCTL_ASODATE_BEN

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN009 415 非準拠レポート	415 制限を超過している従業員のレポートが作成されます。会社、従業員 ID、カレンダー年/月、年間累計総額、有効日、支給コード、福利厚生プログラム、給与比率、および福利厚生の算定基礎の上限などの情報が表示されます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[法令準拠]、[415 非準拠従業員レポート]	RUNCTL_ASODATE_BEN
BEN020 FMLA ステータス レポート	間近に迫った休暇リクエスト、現在の FMLA 休暇リクエスト、最近満了した FMLA 休暇、および却下された FMLA 休暇リクエストなどのサマリ情報が出力されます。 このレポートを使用して、FMLA 休暇プロセスを最初から最後まで管理することができます。このレポートを確認することにより、間もなく休暇に入る従業員、休暇をサポートするために必要なフォローアップ、間もなく休暇資格を使い果たす従業員などがわかります。	[福利厚生管理]、[FMLA 管理]、[ステータス レポート]	RUNCTL_BEN020
BEN021 FMLA 給与計算検証	FMLA 休暇中の従業員または最近休暇を満了した従業員について、従業員 ID、氏名、FMLA リクエスト番号、開始日と終了日、職務ステータス、休暇期間中の給与支給、FMLA 取得時間(有給および無給)、および給与計算で支給対象として報告された時間と FMLA システムで支給対象として記録された時間との差異の合計が出力されます。	[福利厚生管理]、[FMLA 管理]、[給与計算検証レポート]	RUNCTL_BEN021

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN022、BEN023 HIPAA 医師証明書	<p>BEN022 プロセスでは、HIPAA (Health Insurance Portability and Accountability Act of 1996、医療保健の携行性と責任に関する法律)の規定に従い、指定したプランタイプに対する元従業員のグループ健康保険の履歴が 18 か月分出力されます。</p> <p>BEN023 プロセスでは、選択した扶養家族の履歴が出力されます。</p> <p>これらのレポートに HIPAA 履歴が表示されるのは、福利厚生プログラムテーブルコンポーネントで [HIPAA プラン] チェックボックスをオンにしたプランタイプのみです。</p>	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[法令準拠]、[HIPAA レポート]	RUN_CNTL_HIPAA
BEN040 請求明細	<p>福利厚生請求管理システムに登録されていてアクティブになっている未決済残高を持つ全ての従業員について、請求明細が出力されます。この明細には、アクティビティの開始日と終了日、アクティビティタイプ、プランタイプ、福利厚生プラン、補償、金額および期日などが表示されます。また、合計支払額、合計未支払額、および請求カレンダーに入力されたコメントなども出力されます。</p>	[福利厚生管理]、[福利厚生請求管理]、[請求書明細]、[請求明細の印刷]	RUNCTL_BEN040
BEN041 支払滞納口座	<p>福利厚生請求管理プランテーブルで定義された諸条件に従って、支払いの遅れている従業員の請求/支払いアクティビティが出力されます。</p> <p>このレポートを使用して、滞納している加入者と期日後の経過日数、および合計未払金額などを確認することができます。また、滞納している加入者の合計数と期限後の経過期間、および合計未払金額などを確認することもできます。</p>	[福利厚生管理]、[福利厚生請求管理]、[請求管理レポート作成]、[支払滞納口座レポート]	RUNCTL_BEN041

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN042 売掛金管理レポート	<p>入金額とその適用方法を含む、全ての入金アクティビティが出力されます。</p> <p>このレポートを使用して、従業員から受け取った入金額を検証することができます。また、その入金の適用方法を確認することもできます。このレポートは、一般会計の照合や検証に使用することもできます。</p>	[福利厚生管理]、[福利厚生請求管理]、[請求管理レポート作成]、[売掛金管理レポート]	RUNCTL_BEN042
BEN043 請求履歴	<p>指定期間の全ての請求履歴アクティビティが従業員別に出力されます。</p> <p>このレポートを使用すると、請求履歴に関する従業員からの質問に答えることができます。また、請求アクティビティのトラブルシューティングツールおよび検証ツールとして使うこともできます。請求履歴ページには、開始日と終了日を入力するフィールドが表示されます。</p>	[福利厚生管理]、[福利厚生請求管理]、[請求管理レポート作成]、[履歴アクティビティレポート]	RUNCTL_BEN043
BEN044 請求計算エラー	請求計算エラーの一覧が出力されます。	[福利厚生管理]、[福利厚生請求管理]、[処理結果レビュー]、[計算エラーレポート]	RUNCTL_BILL_CAL
BEN045 福利厚生請求検証	<p>オープン請求およびオープンクレジットのある従業員、アクティブ登録検証、非アクティブ登録検証、3 か月以上の保留のある従業員、および3 か月以上の保留のある登録などが出力されます。</p> <p>このレポートを使用して、フォローアップアクティビティが必要な可能性のある請求登録を検証します。たとえば、エラー条件が存在する場合は、オープン請求およびオープンクレジットのある従業員のデータのみが表示されます。</p>	[福利厚生管理]、[福利厚生請求管理]、[請求管理レポート作成]、[検証レポート]	RUNCTL_BEN_LANG

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN050 主雇用レコードの検証	主雇用レコードテーブルにレコードのない従業員、主雇用レコードテーブルに職務のない従業員、主雇用レコードフラグがオンになっていない従業員、主雇用レコードが特定の福利厚生レコードに対して指定されていない従業員、および特定の福利厚生レコード番号に対して複数の主雇用レコードが指定されている従業員などが識別されます。	[福利厚生管理]、[主雇用レコード管理]、[検証レポート作成]	RUNCTL_BEN050
BEN110 スナップショット保険料レポート	<p>福利厚生加入スナップショットの結果を使用して、福利厚生取扱機関に支払うべき総保険料を計算し、被保険従業員の補償額と保険料を機関およびプランタイプ別にソートして報告します。</p> <p>このレポートは3つの方法で実行できます。(1)“スナップショット保険料-計算”プロセス(個々の保険料を計算して保存するアプリケーション エンジン)だけを実行する。(2)“スナップショット保険料-レポート”(以前に計算された保険料を使用して、福利厚生取扱機関およびプランタイプ別に報告する SQR レポート)だけを実行する。(3)結合された“スナップショット保険料レポート”ジョブ(計算プロセスとレポートプロセスをひとまとめにして、同じランコントロール条件を使って一度に実行する)を実行する。</p>	[福利厚生管理]、[取扱機関とのインターフェイス]、[スナップショット保険料レポート]	RUNCTL_BEN110

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN140 請求支払インターフェイス	<p>このプログラムにより、サードパーティのインターフェイスファイルから支払い情報が読み込まれ、オープンなアカウントに対して転記されます。バッチ インターフェイス プロセスで処理される福利厚生請求支払いに関する情報が出力されます。</p> <p>このプログラムは、支払い入力のページで支払いを入力する代わりに使用できます。期日内の最も古い期日からプランタイプ別に支払いが請求に適用されます。支払いは、トランザクションの転記日の時点で転記されます。</p>	[福利厚生管理]、[福利厚生請求管理]、[請求インターフェイスの処理]、[ファイルの支払転記]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN141 A/R インターフェイス	<p>このレポートには、指定した請求期間の全ての請求および請求期間内の転記日を持つ全ての請求調整が抽出されます。従業員情報、および請求と請求調整の会計情報の2つのタイプのレコードを保持するBILLARというファイルが作成されます。</p> <p>このレポートを使用して、請求情報を売掛金管理システムに送信することができます。</p>	[福利厚生管理]、[福利厚生請求管理]、[請求インターフェイスの処理]、[請求管理売掛金ロード]	RUNCTL_BILL_CAL
BEN701 FSA 福利厚生テーブルリスト	FSA テーブルの情報が出力されます。このレポートを使用して、FSA テーブルの更新および変更が正しく行われたかどうかを確認できます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[FSA プラン]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN703 所得補償保険プランテーブルリスト	所得補償保険プランテーブルから情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[所得補償保険プラン]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN705 生命/傷害保険テーブルリスト	生命/傷害保険プランテーブルから情報が出力されます。プランタイプ、プラン名、福利厚生プランID、福利厚生プラン名、有効日、補償、固定額、レート係数、およびグループコードなどの情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[生命/傷害保険プランテーブル]	RUNCTL_BEN_LANG

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN707 貯蓄プラン/投資テーブル	貯蓄プランテーブルから情報が出力されます。貯蓄プランタイプ、福利厚生プラン、有効日、事業主投資マッチングオプション、従業員控除と事業主拠出金および投資オプションの条件などの情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[貯蓄プラン]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN708 計算ルールテーブルリスト	計算ルール情報が、計算ルール ID 別に出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[レート/ルールレポート作成]、[計算ルール]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN709 福利厚生プランテーブルリスト	福利厚生プランテーブルから情報が出力されます。有効日、名称、機関 ID、機関名、デフォルト控除コードとその名称、および差別禁止テストのインジケータなどの情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[福利厚生プラン]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN710 休暇プランテーブルリスト	休暇プランテーブル 1 から情報が出力されます。プランタイプ、プラン名、福利厚生プラン名、福利厚生プラン ID、有効日、累計処理日、付与周期、勤続期間、特別計算ルーチン、プラン開始年、休暇残数の上限、および休暇繰越数の上限などの情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[休暇プラン - 基本属性]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN710A 休暇プランテーブル (勤続レート)	休暇プランテーブル 2 および 3 から情報が出力されます。各プランタイプの名称および ID、有効日、勤続期間、各加算値と賞与値、金銭で支給するかどうか、雇用終了時に金銭で支給するかどうか、雇用終了時の支給率、超過取得が可能かどうか、各初年度レート値などの情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[休暇プラン - 有給休暇と賞与]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN711 退職プランテーブルリスト	カリフォルニア州職員退職年金基金 (PERS) の年金プランを定義する退職プランテーブルから情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[退職プラン]	RUNCTL_BEN_LANG

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN713 福利厚生プログラム	福利厚生プログラム テーブルから情報が出力されます。福利厚生プログラムと福利厚生プランとの関係、レート、計算ルール、給与計算ルールなどの情報が出力されます。このレポートは、福利厚生プログラム テーブルで定義された情報の監査証跡として機能します。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プラン レポート作成]、[福利厚生プログラム]	RUNCTL_BEN713
BEN715 休暇売買プラン リスト	各休暇売買プラン タイプ名とプランタイプ ID、有効日、休暇の買い上げまたは売却の選択、支給タイプ、処理周期、休暇時間数(増加、下限、上限)、給与比率、休暇額の上限などの情報が出力されます。このレポートは、休暇売買テーブルで定義された情報の監査証跡として機能します。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プラン レポート作成]、[休暇売買]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN716CN 年金プラン テーブル リスト 1	カナダの年金プラン テーブルから情報が出力されます。プランタイプ ID とその名称、福利厚生プラン ID とその名称、有効日、特別累計コード、年金プランタイプ、任意拠出が可能かどうか、CPP との調整を行うかどうか、プランの登録番号、拠出金パーセント、YMPE までの拠出金および YMPE を超える拠出金についての従業員拠出率と事業主拠出率などの情報が出力されます。 このレポートは、カナダの年金プラン テーブルで定義された情報の監査証跡として機能します。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プラン レポート作成]、[カナダ年金プラン-基本]	RUNCTL_BEN_LANG

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN717CN 年金プラン テーブル リスト 2	<p>カナダの年金プランテーブルから情報が出力されます。プランタイプ ID とその名称、福利厚生プラン ID とその名称、有効日、拠出金のレートタイプ、給付限度、YMPE までの拠出金および YMPE を超える拠出金についての従業員拠出率と事業主拠出率などの情報が出力されます。</p> <p>このレポートは、カナダの年金プランテーブルで定義された情報の監査証跡として機能します。</p>	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[カナダ年金プラン-レート]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN718CN 年金プラン テーブル リスト 3	<p>カナダの年金プランテーブルから情報が出力されます。プランタイプ ID とその名称、福利厚生プラン ID とその名称、有効日、特別累計、年金プランタイプ、任意拠出が可能かどうか、YMPE 以下および YMPE 超過での拠出金パーセント、年金管理の支給除外範囲、手当給付額の上限、年間基本時間などの情報が出力されます。</p> <p>このレポートは、カナダの年金プランテーブルで定義された情報の監査証跡として機能します。</p>	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[カナダ年金プラン-限度]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN720 FMLA プラン テーブル リ スト	<p>FMLA プランテーブルから情報が出力されます。FMLA カレンダータイプ、資格条件、年間休暇付与週数などの情報が出力されます。このレポートは、FMLA プランテーブルで定義された情報の監査証跡として機能します。</p>	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[FMLA]、[FMLA プランテーブルレポート]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN721 制限テーブル リスト	<p>加入者が有資格のプランから受け取ることができる、または拠出することができる金額を制限する政府規定の定義を行う制限テーブルから情報が出力されます。このレポートは、制限テーブルで定義された情報の監査証跡として機能します。</p>	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[レート/ルールレポート作成]、[制限テーブル]	RUNCTL_ASODATE_BEN

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BEN733 基本福利厚生データの検証	<p>基本福利厚生ビジネスプロセスに関連する、該当する可能性のある従業員データエラー条件のサマリが出力されます。</p> <p>雇用レコードのない従業員、職務レコードのない従業員、16 歳未満の従業員、補償契約した例外的な扶養家族がいる従業員、配偶者（または他の扶養家族）と共に医療保険に加入している従業員、年齢超過扶養家族が補償対象になっている従業員、および福利厚生プログラムテーブルで間違った医療保険が設定されている従業員などが出力されます。</p>	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[福利厚生検証レポート]、[基本福利厚生検証]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN734 裁判所命令検証レポート	裁判所命令による扶養家族補償または最低配偶者補償に準拠していない従業員が出力されます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[福利厚生検証レポート]、[裁判所命令補償額検証]	RUNCTL_BEN734
BEN740 請求カレンダーテーブルリスト	<p>このレポートには、作成済みの請求期間が出力されます。このレポートは、請求期間別に支払期日情報を参照できるクイックリファレンスとしても活用できます。</p> <p>各請求期間について、請求期間 ID、期間開始日、期間終了日、支払期日、COBRA 支払期日、請求管理計算の有無、請求明細の印刷の有無などの情報が出力されます。</p>	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生請求定義]、[カレンダーレポート]	RUNCTL_BEN_LANG
BEN741 福利厚生レートテーブル	このレポートを使用して、福利厚生レートを確認できます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[レート/ルールレポート作成]、[福利厚生レートテーブル]	RUNCTL_BEN741
CBR001 COBRA 第 1 回通知文書	有資格 COBRA 加入者の医療補償の終了、有資格の COBRA 補償、および選択内容を報告またはリクエストを放棄する際の回答期限日などが記載された通知文書が作成されます。また、登録フォームも出力されます。	[福利厚生管理]、[COBRA 福利厚生管理]、[自動加入管理]、[第1回通知文書作成]	RUNCTL_CBR001

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CBR002 COBRA 第 2 回通知文書	第 2 資格適用イベントを経験済みの COBRA 加入者に対する COBRA 継続補償の延長に関する情報などが記載された通知文書が作成されます。	[福利厚生管理]、[COBRA 福利厚生管理]、[自動加入管理]、[第2回通知文書作成]	RUNCTL_CBR002
CBR003 COBRA 解約予告通知	COBRA 補償の有効期限が間もなく切れることを COBRA 加入者に通知する文書が作成されます。	[福利厚生管理]、[COBRA 福利厚生管理]、[COBRA 補償終了]、[解約予告通知作成]	RUNCTL_CBR003
CBR004 COBRA オープン登録通知	COBRA 加入者のオープン登録通知が作成されます。	[福利厚生管理]、[COBRA 福利厚生管理]、[オープン登録通知作成]	RUNCTL_CBR004
CBR005 COBRA イベント サマリ	COBRA イベントが発生した全ての従業員が、イベントステータスと共に出力されます。	[福利厚生管理]、[COBRA 福利厚生管理]、[処理結果レビュー]、[イベントサマリ作成]	RUNCTL_CBR005
CBR006 COBRA 登録データレポート	全ての COBRA 加入者、および各加入者の補償開始日などを含む現在の選択内容が出力されます。	[福利厚生管理]、[COBRA 福利厚生管理]、[処理結果レビュー]、[登録データレポート]	RUNCTL_CBR006
CBR007 COBRA 検証レポート	COBRA 医療補償に登録されているアクティブな従業員、同じ扶養家族 ID で医療保険に加入している従業員と配偶者（または他の扶養家族）、超過年齢扶養家族を持つ従業員などが出力されます。	[福利厚生管理]、[COBRA 福利厚生管理]、[処理結果レビュー]、[検証レポート]	RUNCTL_ASODATE_BEN
CBR008 COBRA 管理エラー	COBRA イベントコンフリクト、有資格の福利厚生プログラムがないかまたは有資格の福利厚生プログラムが複数ある、重複 COBRA イベントが存在するなど、COBRA プロセスのエラーが出力されます。	[福利厚生管理]、[COBRA 福利厚生管理]、[処理結果レビュー]、[エラーレポート]	RUNCTL_CBR008
NDT004 401 差別禁止テスト	401(k) 差別禁止テスト SQR (NDT002) および 401(m) 差別禁止テスト SQR (NDT003) による出力結果が表示されます。	[福利厚生管理]、[差別禁止テスト]、[セクション 401]、[401 テストレポート]	RUNCTL_NDT004
NDT008 129 差別禁止テスト	次の 3 つのセクション 129 の差別禁止テスト SQR による結果が出力されます。 NDT005: 有資格クロスセクションテスト(有資格従業員テスト) NDT006: 55% 平均福利厚生テスト NDT007: 集中テスト(5% オーナーテスト)	[福利厚生管理]、[差別禁止テスト]、[セクション 129]、[129 テストレポート]	PRCSRUNCTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PAY031 控除および福利厚生登録	控除が控除コード順にソートされて出力されます。	[福利厚生管理]、[レポート作成]、[拠出金/控除]、[控除/福利厚生登録]	RUNCTL_PAYINIT2
PAYVNDR 取扱機関	機関テーブルから情報が出力されます。機関名と機関 ID、機関の有効日、機関の住所、必要に応じて保険支払いのための個別の住所欄などの情報が出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[基本福利厚生]、[福利厚生プランレポート作成]、[取扱機関]	RUNCTL_PAYVNDR

コミットメント会計管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BUD001 部門別 FTE	部門別 FTE (常勤換算) レポートを実行します。このレポートには、部門ごとの常勤換算の上限と実績常勤換算との間の差異が表示されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[コミットメント会計]、[レポート作成 USA]、[部門別 FTE]	RUNCTL_FRMTHRU_DPT
BUD009 エンカンバランス メッセージ	エンカンバランス メッセージ レポートを実行します。このレポートには、エンカンバランス処理のエラーメッセージに関する情報が表示されます。 このページを使う前に、エンカンバランス処理を実行しておく必要があります。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[コミットメント会計]、[レポート作成 USA]、[エンカンバランス メッセージ]	RUNCTL_BUD009
BUD011 資金割当サマリ	資金割当サマリレポートページを実行します。このページには、部門内のポジションや従業員に関する資金割り当てのサマリ情報が一覧表示されます。ランコントロールとして従業員情報やポジション情報を入力すると、特定のポジションや従業員に関する情報を出力することもできます。 このページを使う前に、レポートを作成する部門の資金割り当ての情報を設定しておく必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[コミットメント会計]、[レポート作成 USA]、[積立サマリレポート] [HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[コミットメント会計]、[レポート作成 USA]、[積立サマリレポート] 	RUNCTL_BUD011C, RUNCTL_BUD011
BUD012 FTE ロールアップ	FTE ロールアップレポートを実行します。このレポートには、部門ごとの人員割り当て済みと未割り当ての FTE (常勤換算) 数の合計の詳細リストが出力されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[コミットメント会計]、[レポート作成 USA]、[FTE ロールアップレポート]	RUNCTL_BUD012

フランス利潤分配管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
WP0001FR 個人レポート	利潤分配額の計算時または従業員の退職時に、利潤分配額の詳細が従業員情報と共に出力されます。このレポートは、従業員の給与明細に標準で出力することができます。	[報酬管理]、[利潤分配制度 FRA]、[利潤分配の管理]、[個人レポート]	RUNCTL_WP_IND_RPT
WP0002FR 契約別レポート	このレポートは、管理者用です。選択した契約が有効な全ての従業員が出力されます。従業員の資金ステータス、利潤分配総額、利潤分配純額、控除、投資方法などの情報が出力されます。	[報酬管理]、[利潤分配制度 FRA]、[利潤分配の管理]、[契約別レポート]	RUNCTL_WP_AGRT_RPT

労使関係管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
HRLAY001 一時解雇対象者名簿	一時解雇対象者名簿の設定情報、名簿リスト情報についてのレポートが作成されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[一時解雇対象者名簿]	HR_RUNCTL_LAY001
HRLAY002 降格配転	このレポートには、従業員の職務データ履歴、および職務の階層が出力されます。職務の階層により、一時解雇の際に降格配転権を持つ人物を判断できます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[降格配転レポート]	HR_RUNCTL_LAY002
HRLAY003 年功	従業員とその年功起算日、および年功起算日の値が出力されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[年功情報]	HR_RUNCTL_LAY003
HRLAY004 候補者リスト	復職権期限が有効期間内にある従業員の一覧が出力されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[候補者リスト]	HR_RUNCTL_LAY004
HRLAY005 復職対象者名簿	復職対象者名簿の設定情報、名簿リスト情報についてのレポートが作成されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[復職対象者名簿]	HR_RUNCTL_LAY005

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
HRLAY006 一時解雇対象者名簿の後処理	<p>一時解雇プロセス ページで一時解雇プロセスを実行すると、このレポートが作成され、一時解雇対象の従業員の一覧が出力されます。</p> <p>注: 一時解雇プロセス ページの [自動現職復帰] チェックボックスをオンにすると、一時解雇プロセスを実行してもこのレポートは作成されません。</p>	<p>[人事・労務管理]、[労使関係]、[一時解雇と復職]、[一時解雇対象者名簿]、[一時解雇名簿リスト]</p> <p>[一時解雇の処理] ボタンをクリックします。</p>	HR_RUNCTL_LAY
HR_REIN_EXEC 復職権の後処理	<p>一時解雇プロセス ページで一時解雇プロセスを実行すると、このレポートが作成され、復職権が付与された従業員の一覧が出力されます。</p> <p>注: 一時解雇プロセス ページの [自動現職復帰] チェックボックスをオンにすると、一時解雇プロセスを実行してもこのレポートは作成されません。</p> <p>復職/現職復帰処理 ページで復職プロセスまたは現職復帰プロセスを実行すると、このレポートが作成され、再雇用された従業員の復職権の一覧が出力されます。</p>	<p>[人事・労務管理]、[労使関係]、[一時解雇と復職]、[一時解雇対象者名簿]、[一時解雇名簿リスト]</p> <p>[一時解雇の処理] ボタンをクリックします。</p> <p>[人事・労務管理]、[労使関係]、[一時解雇と復職]、[復職対象者名簿]、[復職対象者名簿リスト]</p> <p>[復職の処理] ボタンをクリックします。</p> <p>[人事・労務管理]、[労使関係]、[一時解雇と復職]、[現職復帰対象者名簿]、[現職復帰名簿リスト]</p> <p>[現職復帰の処理] ボタンをクリックします。</p>	HR_RUNCTL_LAY, HR_RUNCTL_REINSTAT
HRLAY008 復職の後処理	<p>復職/現職復帰処理 ページで復職プロセスまたは現職復帰プロセスを実行すると、このレポートが作成され、復職対象または現職復帰対象の従業員の一覧が出力されます。</p>	<p>[人事・労務管理]、[労使関係]、[一時解雇と復職]、[復職対象者名簿]、[復職対象者名簿リスト]</p> <p>[復職の処理] ボタンをクリックします。</p> <p>[人事・労務管理]、[労使関係]、[一時解雇と復職]、[現職復帰対象者名簿]、[現職復帰名簿リスト]</p> <p>[現職復帰の処理] ボタンをクリックします。</p>	HR_RUNCTL_REINSTAT
OHS002 懲戒・指導措置サマリ	<p>指定した期間内に従業員に対してとられた全ての懲戒・指導措置のサマリが出力されます。このレポートには、日付別、問題行為別、従業員別に措置が出力されます。</p>	<p>[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[懲戒・指導措置サマリ]</p>	RUNCTL_OHS_FROMTO

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
OHS004 苦情詳細	会社に対して正式に申し立てられた苦情に関する詳細な情報が出力されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[苦情詳細]	RUNCTL_OHS_NONE
OHS005 問題行為	特定の従業員に関する問題行為の詳細情報が出力されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[問題行為]	RUNCTL_OHS005
OHS006 苦情サマリ	会社に対して正式に申し立てられた苦情とその苦情に関連付けられた措置と解決策のサマリが出力されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[苦情サマリ]	RUNCTL_OHS_FROMTO
PER009 組合会員資格	(アメリカ/カナダ機能) 各組合組織とその組合員である従業員の一覧が出力されます。 このレポートを実行する前に、従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておきます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[組合員リスト]	PRCSRUNCNTL
PER053 雇用機会均等 ITA	このレポートは、2 年ごとに提出され、8 つの異なるテーブルから構成されています。従業員が 100 人以上いる会社は全て、このレポートを提出するように義務付けられています。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[雇用機会均等 ITA]	RUNCTL_PER053
PER055ES 月単位の組合費	(ESP) 従業員と、組合ごとの月単位の組合費が表示されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[組合費 ESP]	RUNCTL_PER055_ESP
PER059 組合レポート ITA	(ITA) イタリアの組合レポートは 2 種類あります。組合レポートを実行して、従業員と従業員情報のリストを組合別に作成できます。また、カテゴリ別に各組合に所属する従業員数を出力することもできます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[組合レポート ITA]	RUNCTL_PER059
PER061 労使関係関連文書	入力されたデータと選択された文書タイプに基づいて、さまざまな労使関係関連文書が作成されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[レポート]、[労使関係関連文書]	RUNCTL_PER061
WP001 賃金引上対象従業員	賃金引上処理プロセスで引き上げの対象となる全ての従業員の一覧が作成されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[賃金引上]、[賃金引上処理]、[賃金引上処理]	RUN_UPD_WP_ADVOC
WP002 例外	特定の賃金引上実行 ID グループに属する従業員の中から、例外が未承認となっている従業員が検索され、例外のタイプと共に出力されます。	[人事・労務管理]、[労使関係]、[賃金引上]、[賃金引上例外レポート]、[例外レポート]	RUN_WP002

ポジション管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
POS001 ポジション ステータス	組織内のポジション タイプの一覧、および人員が割り当てられているポジションと欠員のあるポジションが全て出力されます (SQR)。	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[ポジション レポート]、[ポジション ステータス]	RUNCTL_ASOFDATE
POS002 アクティブ/非アクティブ ポジション	アクティブなポジション、非アクティブなポジション、またはその両方について、選択内容に従い、ポジションに関連した最新データが出力されます (Crystal)。	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[ポジション レポート]、[アクティブ/非アクティブ ポジション]	RUNCTL_POS002
POS003 ポジション 歴任者	組織内の現職者およびそれまでの歴任者全てのリストが、ポジション別に最新の現職者から順に出力されます。各歴任者について、ポジションに就いた日付とポジションから退任した日付、および就任時の給与と退任時の給与が出力されます (SQR)。	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[ポジション レポート]、[ポジション 歴任者]	RUNCTL_ASOFDT_COMP
POS004 アクティブ ポジションの履歴	組織内のアクティブなポジション全てに関し、ポジションに関連付けられた現在および過去のデータが全て表示されます (SQR)。	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[ポジション レポート]、[アクティブ ポジションの履歴]	RUNCTL_ASOFDATE
POS006 レポート体系の作成	組織内のポジション間の従属関係がレベル別 (該当する場合) に出力されます (SQR)。 このレポートを実行する前に、ポジション ツリー構造の作成プロセスを実行して、システムに入力されたポジションをリンクし、このレポートに出力されるポジション階層を作成しておく必要があります。	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[組織構造の作成]、[レポート体系の作成]	RUNCTL_POS006
POS006A ポジション ツリー構造の作成	システム内のポジションがリンクされ、“レポート体系の作成” レポートに出力されるポジション間の階層が作成されます (SQR)。	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[組織構造の作成]、[ポジション構造の構築]	RUNCTL_ASOFDATE
POS007 予算計上済の空きポジション	予算計上済みで現在欠員のある組織内のポジションが全て出力されます (SQR)。	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[ポジション レポート]、[空きポジション]	PRCSRUNCNTL
POS008 ポジションの例外/未更新	ポジション データコンポーネントおよび現職者の職務データコンポーネントで共通するフィールドのデータが検証されます (SQR)。	[組織計画/管理]、[ポジション管理]、[ポジション レポート]、[ポジションの例外/未更新]	RUNCTL_POS008

公認資格認定管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PCMP002 公認資格認定プラン	社内認定プランの詳細が出力されます。	[職場環境管理]、[公認資格認定]、[レポート]、[社内認定プラン]	RUN_CNTL_PCMP2
PCMP003 公認資格認定対象者の審査	認定対象者審査の詳細が出力されます。	[職場環境管理]、[公認資格認定]、[レポート]、[認定対象者審査]	RUN_CNTL_PCMP3
PCMP004 公認資格認定対象者評価	認定対象者評価の詳細が出力されます。	[職場環境管理]、[公認資格認定]、[レポート]、[認定対象者評価]	RUN_CNTL_PCMP4

プロフィール管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CMM007 資格/免許更新	資格や免許の更新が必要な従業員の一覧が出力されます。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[レポート]、[免許/資格更新]	RUNCTL_CMM007
JPM_CATLRPT コンテンツカタログリスト	選択したコンテンツタイプまたは全てのコンテンツタイプに対して設定されているコンテンツアイテムが一覧表示されます。	[HRMS 基本設定]、[製品/業務別定義]、[プロフィール管理]、[コンテンツカタログ]、[コンテンツカタログリスト]	JPM_CATLIST_RPT
JPM_JPNP_RPT 非個人プロフィール	実行パラメータにリストされているそれぞれの非個人プロフィールの PDF ファイルを作成します。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[レポート]、[非個人プロフィールレポート]	JPM_NPPROF_RPT
JPM_JPPP_RPT 個人プロフィール	実行パラメータにリストされているそれぞれの個人プロフィールの PDF ファイルを作成します。実行パラメータに指定した日付の時点で有効な個人のプロフィールの全てのアイテムが一覧表示されます。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[レポート]、[個人プロフィールレポート]	JPM_PPROF_RPT
NVQ001 (GBR) UK NVQ - 従業員ステータス	NVQ に割り当てられた従業員と、そのステータスの一覧が出力されます。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[NVQ レポート GBR]、[NVQ 従業員ステータス]	PRCSRUNCNTL
NVQ002 (GBR) UK NVQ - ユニットリスト	定義された NVQ ユニット全部の一覧が出力されます。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[NVQ レポート GBR]、[ユニットリスト]	PRCSRUNCNTL
NVQ003 (GBR) UK NVQ - NVQ リスト	定義された NVQ ユニット全部の一覧が出力されます。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[NVQ レポート GBR]、[NVQ リスト]	PRCSRUNCNTL
NVQ004 (GBR) UK NVQ ユニット/エレメントリスト	NVQ ユニットに関連付けられたエレメントの一覧が出力されます。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[NVQ レポート GBR]、[NVQ ユニット/エレメント]	PRCSRUNCNTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
NVQ006 (GBR) UK NVQ – 従業員 プラン	従業員の NVQ ユニットプランのサマリが出力されます。このレポートを作成するには、最初に NVQ プランの初期化プロセスを実行しておきます。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[NVQ レポート GBR]、[NVQ 従業員プラン]	PRCSRUNCNTL
PER011 コンピテンシー インベントリ	指定した部門内の従業員とそのコンピテンシーが出力されます。 新規に採用された従業員と彼らに関連付けられたコンピテンシーをこのレポートに含めるには、このレポートの実行前に従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておく必要があります。従業員テーブルのリフレッシュプロセスとコンピテンシー インベントリレポートには、同じランコントロール ID を使用します。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[レポート]、[コンピテンシー インベントリ]	RUNCTL_PER011
PER034 社内用履歴書	従業員の個人プロフィールに入力されているデータやその他の情報から、履歴書タイプのドキュメントが作成されます。このレポートには、従業員氏名、住所、職歴、学歴、給与履歴、業績、研修、特別プロジェクト、コンピテンシー、語学力、国籍、査証/労働許可証、免許/資格、専門組織の会員資格、および表彰/報奨などの情報が含まれます。	[人材開発]、[プロフィール管理]、[レポート]、[社内用履歴書]	RUNCTL_PER034

変動報酬管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
VC001 実績報奨	報奨が支給のためパブリッシュされた後に実行します。このレポートには、ユーザーが報奨割当ページで報奨に加えた変更が出力されます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[報奨レポート]、[実績報奨]	RUNCTL_VC_REP
VC002 予算レポート	プランに割り当てる資金額を計算する際に役立ちます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[変動報酬レポート]、[予算]	RUNCTL_VC_REP
VC003 計算済報奨レポート	報奨計算処理の結果が出力されます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[報奨レポート]、[報奨計算]	RUNCTL_VC_REP

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
VC004 繰越レポート	繰越残高が出力されます。詳細レポートでは、プランの全従業員がグループ別に出力され、従業員の繰越残高も出力されます。要約レポートには、各グループの繰越残高の合計、およびプランの総計のリストが出力されます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[報奨レポート]、[繰越]	RUNCTL_VC_REP
VC005 従業員履歴レポート	このレポートでは、各従業員について、目標値、報奨値、ユニットが、プラン別および支給期間別に出力されます。また、各プランの合計値と合計ユニット数も出力されます。さらに、各従業員について全てのプランの総計を出力するよう選択することもできます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[報奨レポート]、[従業員履歴]	RUNCTL_VC_EEHIS_RP
VC006 資金割当レポート	資金をグループに割り当てた後、任意の資金割当レポートを使ってプランの全グループへの資金の配分を確認および評価します。このレポートには、全てのデータがグループレベルのサマリ情報としてリストされます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[変動報酬レポート]、[資金割当]	RUNCTL_VC_REP
VC007 保証額レポート	従業員の保証額が出力されます。詳細レポートには、プランの全従業員がグループ別に出力されます。各従業員の保証金額も出力されます。要約レポートには、各グループの保証金額の合計、およびプランの総計がリストされます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[変動報酬レポート]、[保証額]	RUNCTL_VC_REP
VC008 金銭外報酬レポート	プランに基づいて従業員に与えられた報奨のユニット数、および従業員にとっての報奨価値を管理します。レポートには、初期計算のステータスを超える報奨だけがリストされます。詳細レポートには、プランの全従業員のグループ別リスト、目標報奨値、計算済報奨、金銭外ユニットの実績報奨、および実績報奨の金銭価値が出力されます。要約レポートには、各グループの金銭外ユニットの合計、およびプランの総計が出力されます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[報奨レポート]、[金銭外報酬]	RUNCTL_VC_REP

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
VC009 プラン履歴レポート	このレポートには、ラン コントロール ページで指定したプラン ID について、プラン 定義に関する情報が出力 されます。また、報奨値、比 例配分、および承認者の情 報が支給期間別に一覧 出力されます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[報奨レポート]、[プラ ン履歴]	RUNCTL_VC_REP
VC010 差異レポート	目標報奨値と報奨割当 ページに表示される[実績 報奨]フィールドの値との差 異が表示されます。 詳細レポートには、プラン の全従業員がグループ別 に出力され、従業員の目標 報奨値、実績報奨値、およ び目標報奨と実績報奨の 差異が出力されます。ま た、報奨がプランの最低支 給値または最高支給値で あるかどうかが表示されま す。さらに、目標報奨の合 計値、実績報奨値、各グ ループでのこの2つの値の 差異、およびプランの報奨 の総計が表示されます。 要約レポートには、目標報 奨の合計値、実績報奨 値、各グループでのこの2 つの値の差異、および プランの報奨の総計が 出力されます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[報奨レポート]、[差異]	RUNCTL_VC_REP
VC011 組織/グループ目標レ ポート	指定した変動報酬プラン ID と期間 ID について、プラン 目標加重が出力されます。 また、プランの組織および グループの全加重目標とそ の加重率および達成率も 出力されます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[変動報酬レポート]、[組織/ グループ目標]	RUNCTL_VC_REP
VC012 整合性レポート	ツリーから削除された従業 員のリスト、およびその従 業員が所属していたグルー プが出力されます。変動報 酬の管理者または従業員 の管理者はこの情報を使っ て、各従業員が適切な報 奨を確実に受けられる ようにします。	[報酬管理]、[変動報酬]、 [変動報酬レポート]、[ツリー整合性]	RUNCTL_VC_REP

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
VC013 サブスクリプション エラー レポート	PeopleSoft Enterprise Payroll for North America または PeopleSoft Enterprise Stock Administration から、エラーが発生した報奨または却下された報奨が返されたという内容のワークフロー電子メール通知を受け取った後に、このレポートを実行します。	[報酬管理]、[変動報酬]、[報奨レポート]、[サブスクリプション エラー]	RUNCTL_VC_REP
VCP001 ツリー メンバー重複レ ポート	ツリーに複数存在する従業員を検出します。これにより、グループのメンバーを確認したり、必要に応じて変更したりできます。	[報酬管理]、[変動報酬]、[変動報酬レポート]、[ツリーのグループメンバー重複]	RUNCTL_VCP001

法定提出書類用レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
HRS001 差別分析	採用や雇用状況に関する情報が出力されます。少数民族や女性の採用決定と白人男性の採用決定が比較されます。このレポートには、差別分析ページで指定した期間に記録された人事異動の対象となった従業員だけが出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[差別分析]	RUN_CNTL_REG
HRS002 職務グループ異動分析	組織に対する性別と民族グループ別の異動分析と、昇進パターンが出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[職務グループ異動分析]	RUN_CNTL_REG
OHS001 OSHA-200 ログ	特定のカレンダー一年に発生した負傷と疾病の申し立て番号と詳細が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[OSHA-200 ログ]	RUNCTL_CALENDARYR
PER016 EEO-1 事業主情報	民営の組織に関する雇用機会均等 (EEO) 情報が出力されます。このレポートは、単一の事業所および複数の事業所のレポートについて、雇用機会均等委員会 (EEOC) の要件に準拠しています。単一事業所の事業主である場合、1つのレポートを提出します。複数の事業所の事業主の場合は、個別にレポートを提出する必要があります。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[EEO レポート]、[EEO-1 事業主情報]	RUNCTL_PER016
PER017 EEO-1 職務分析	民間セクターに対する従業員数の代わりに、標準職務カテゴリ別の従業員数が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[EEO レポート]、[EEO-1 職務分析レポート]	RUNCTL_PER017

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER019 雇用終了分析	年齢、勤続年数、性別、人種など、あらかじめ決められたグループを基に、組織内の雇用終了が分析されます。各グループ内の従業員数と退職者数が計算され、アクティブな従業員の総数に対する割合がそれぞれ示されます。また、雇用終了者率も示されます。 このレポートには、性別や民族グループが指定されていない従業員は含まれません。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[雇用終了分析]	RUN_CNTL_REG
PER022 EEO-5 職務分析	学校関連の標準職務カテゴリの従業員数が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[EEO レポート]、[EEO-5 職務分析]	RUNCTL_PER022
PER024 職務グループ分析	事業所、EEO 職務グループ、職務名、および給与等級別に従業員構成が分析されます。特定の職務名および給与等級に対して、少数民族の合計、および性別、各性別での民族別の合計が出力されます。この情報を使うと、職務グループ分けを会社の組織構造に照らし合わせて検討し、必要に応じて変更および追加することができます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[職務グループ分析]	RUN_CNTL_REG2
PER024A 職務グループ分析サマリ	各事業所内の職務グループ別に従業員構成が分析されます。少数民族の合計、および性別、各性別での民族別の合計が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[職務グループ分析サマリ]	RUN_CNTL_REG2
PER025 人材分析	職務名に基づいて部門別に採用状況が追跡されます。その職務名に関連付けられている給与等級や、その職務に就いている従業員および少数民族の総数が出力されます。このレポートは、採用時の差別のパターンを分析するために使用します。レポートには、各部門の少数民族の割合も出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[人材分析]	RUN_CNTL_REG2

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER027 VETS-100 処理	このレポートでは、職務カテゴリおよび採用勤務地ごとに、特別障害を持つ退役軍人、ベトナム戦争退役軍人、およびその他の保護対象の退役軍人の従業員数が出力されます。また、レポート期間中に採用された従業員、特別障害を持つ退役軍人、ベトナム戦争退役軍人、およびその他の保護対象の退役軍人の各総数も出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[VETS-100 レポート]、[VETS-100 処理]	RUNCTL_PER027
PER027B VETS-100 分析	VETS-100 プロセスで作成された VETS-100 データに関するレポートが作成されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[VETS-100 レポート]、[VETS-100 分析]	RUNCTL_PER027C
PER027C VETS-100 送信	政府に提出するためのデジタルファイルが作成されます。このレポートを実行する前に、VETS-100 プロセスを実行しておく必要があります。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[VETS-100 レポート]、[VETS-100 送信]	RUNCTL_PER027C
PER030 職務グループ名簿	民族グループ、性別、着任日、給与等級、時給、月給、部門名、みなし初回採用日、採用時の職務名などの個人データおよび職務データが出力されます。従業員は、関連付けられた職務グループおよび事業所ごとにグループ分けされます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[職務グループ名簿]	RUN_CNTL_REG2
PER031 EEO-4 州政府と地方自治体	州政府および地方政府の規定フォーマットで雇用件数が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[EEO レポート]、[EEO-4 州政府と地方自治体]	RUNCTL_PER031
PER036 連邦 PRWORA 新規採用	従業員の新規採用後に、事業主が連邦に対して報告する必要がある情報が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[連邦 PRWORA - 新規採用]、[連邦 PRWORA]	RUNCTL_PER036
PER036S 州 PRWORA 新規採用	従業員の新規採用後に、事業主が州に対して報告する必要がある情報が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[連邦 PRWORA - 新規採用]、[州 PRWORA]	RUNCTL_PER036_S

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER040 IPEDS-S	IPEDS-S (Fall Staff Survey) レポートは、米国連邦政府プログラムから資金援助を受けている高等教育機関に義務付けられているレポートです。このレポートでは、従業員が常勤教職員、教職以外の常勤従業員、非常勤従業員、新規採用者などのタイプごとに分類されています。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件]、[差別撤廃措置レポート]、[IPEDS-S]	RUNCTL_PER040

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Meet Regulatory Requirements

(AUS) オーストラリア法定提出書類用レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER712AUS ASCO	ASCO レポートコードの一覧が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 AUS]、[ASCO レポート]	PRCSRUNCNTL

(BRA) ブラジル法定提出書類用レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
BRCGED01 CAGED レポート	CAGED (Cadastro Geral de Empregados e Desempregados) レポートにより、事業所別の月次の従業員の異動を含むファイルが作成されます。統合労働法で規定された雇用契約を持つ従業員の採用、解雇、転属などの異動があった事業所は全て、その異動をブラジル労働雇用省に報告する必要があります。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 BRA]、[CAGED ファイル/レポート BRA]	CAGED_RC_BRA
BREREG01 従業員登録	採用日や退職日などの従業員の雇用データや社会保障拠出期間についての情報を含むファイルが作成されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 BRA]、[従業員登録レポート BRA]	EMPL_REG_RC_BRA

(CAN) カナダ法定提出書類用レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER101CN 雇用機会均等	カナダの雇用機会均等のソフトウェアにデータをエクスポートするためのインターフェイスファイルが作成されます (SQR)。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 CAN]、[レポート]、[雇用機会均等]	RUNCTL_PER101CN
PER102CN 公用語データファイル CAN	公用語情報をレポートするためのインポートファイルが作成されます (SQR)。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 CAN]、[レポート]、[公用語要件]	RUNCNTL_PER102CN
PER715CN 支給均等テーブル	職務評価情報が出力されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 CAN]、[レポート]、[支給均等]	PRCSRUNCNTL
PER716CN 全国職業分類コード	職務コードの分類に使用されている全国職業分類コードが出力されます (SQR)。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 CAN]、[レポート]、[全国職業分類コード]	PRCSRUNCNTL

(FRA) フランス法定提出書類用レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
DIS001 障害	<p>会社が採用すべき障害者の理論上の数が算出され、臨時従業員や研修生、見習い生を除く障害を持つ従業員の一覧が出力されます。フランスでは、従業員が 20 人を超える会社は、このレポートを提出することが義務付けられています (SQR)。</p> <p>このレポートを実行する前に、INSEE (National Institute for Statistic and Economic Studies、国立統計経済研究所) テーブルに正確なコードを入力し、外部変数テーブルに正しい障害率コードを入力しておく必要があります。</p>	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 FRA]、[必須レポート]、[障害]	RUNCTL_DIS001_FRA
ELE001 選挙	従業員および管理者を対象とした従業員代表選挙の結果が出力されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 FRA]、[選挙モニター管理]、[選挙レポート]	RUNCTL_ELE001
HRSHSFR 個人別採用明細	新しく従業員を採用したときに提出する法定レポートです。このレポートは、従業員、会社、事業所の各テーブルの情報をを使用して作成されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 FRA]、[必須レポート]、[採用の明細]	SHS_FRA_RUN_CTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
REG001FR 月間従業員	会社内の特定の事業所における1か月間に発生した人事異動の一覧が出力されます。従業員が50人以上いる会社は全て、このレポートを提出する必要があります (SQR)。 このレポートを実行する前に、契約タイプグループページを使ってこのレポートに含める契約タイプを定義しておく必要があります。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 FRA]、[必須レポート]、[月間従業員]	RUNCTL_REG001_FRA
REG002FR 個人記載事項	会社内の特定の事業所の従業員が出力されます。このレポートは、組織内の特定の事業所、または組織内の全ての事業所に対して実行できます。(SQR)	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 FRA]、[必須レポート]、[個人記載事項]	RUNCTL_REG002_FRA
REG003FR 国籍別従業員	社内の外国人の労働力が総合的に分析されます。(SQR)	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 FRA]、[必須レポート]、[国籍別従業員]	RUNCTL_REG003_FRA
REG004FR BIAF レポート	この法定レポートは、固定期間契約の従業員を対象としています。従業員の研修資格に関する詳細が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 FRA]、[必須レポート]、[BIAF]	RUNCTL_BIAF_FRA
SOC001 従業員調査	組織内の従業員数や従業員の平均給与など、いくつかのインジケータの計算に基づいた企業の年次概要が作成されます (Crystal)。 このレポートを実行する前に、“従業員調査の集計”の従業員調査パラメータページを使用して、従業員調査インジケータの計算プロセスを実行しておく必要があります。“従業員調査の編集”の従業員調査ページで計算結果を確認し、必要に応じて結果を更新します。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 FRA]、[従業員調査]、[従業員調査レポート]	RUNCTL_SOC001

(GBR) イギリス法定提出書類用レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
HRS001UK 差別分析	イギリス独自の人種グループおよび性別ごとに、求人数と応募者数が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 GBR]、[レポート]、[差別分析]	RUNCTL_FROMTHRU
PER019UK 雇用終了分析	現在の従業員数および雇用終了者数が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 GBR]、[レポート]、[雇用終了分析]	RUNCTL_FROMTHRU

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER025UK 人材分析	部門内の職務名に基づいて、部門別またはその他の組織ユニット別に採用状況が追跡されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 GBR]、[レポート]、[人材分析]	RUNCTL_PER025UK
PER030UK 職務グループ名簿	職務グループの従業員が出力されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 GBR]、[レポート]、[職務グループ名簿]	RUNCTL_PER030UK
PER037UK 合同作業	職務コード、性別、および常勤またはパートタイムステータス別に区分された従業員の内訳が作成されます。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 GBR]、[レポート]、[合同作業]	RUNCTL_ASOFDATE
UKNI001 北アイルランド	従業員、応募者、および内定者の宗教構成が出力されます。このレポートのフォーマットは、北アイルランドで営業する組織に対して提出が義務付けられている Monitoring Return レポートを模倣したものです。	[職場環境管理]、[法定提出書類要件 GBR]、[レポート]、[北アイルランド公正雇用]	RUNCTL_UKNI

休暇欠勤管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
ABS001 休暇欠勤リスト	従業員の休暇欠勤履歴に関する情報が出力されます。 注: このレポートを実行する前に、従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておきます。	[人事・労務管理]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤レポート]、[休暇欠勤リスト]	RUNCTL_ABS001
ABS002 休暇欠勤期間	従業員の休暇欠勤期間数に関する情報が出力されます。	[人事・労務管理]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤レポート]、[休暇欠勤期間]	RUNCTL_FROMTHRU
ABS003 休暇欠勤時間数	従業員の休暇欠勤時間に関する情報が出力されます。 注: このレポートを実行する前に、従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておきます。	[人事・労務管理]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤レポート]、[休暇欠勤時間数]	RUNCTL_ABS003

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
ABS004UK Bradford スコア	<p>イギリス (GBR) の法定区域のみを対象に、従業員の休暇欠勤が出力されます。部門、従業員氏名、従業員 ID、従業員タイプ、職務名、休暇欠勤の合計数、合計日数、および Bradford スコアが含まれます。</p> <p>このレポートの Bradford スコア列は、以下の情報に基づいて計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 休暇欠勤の合計数 (A) • 休暇欠勤の合計日数 (B) • $A^2 \times B$ <p>注: このレポートを実行する前に、従業員テーブルのリフレッシュプロセスを実行しておきます。</p>	[人事・労務管理]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤レポート]、[Bradford スコア GBR]	RUNCTL_ABS004UK
ABS005NL 疾病登録 (1)	疾病の合計数、割合、頻度が算出されます。	[人事・労務管理]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤レポート]、[疾病登録 NLD]	RUNCTL_ABS005_NL
ABS006NL 疾病登録 (2)	同上	[人事・労務管理]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤レポート]、[疾病登録 NLD]	RUNCTL_ABS005_NL
ABS007NL 長期疾病 NLD	<p>完全には回復しない長期疾病を持ち、オランダの法律 Wet Poortwachter の対象となる従業員のレポートが出力されます。従業員チェックリストを使って、従業員の疾病のステータスを管理できます。</p> <p>注: このレポートは、PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理、または PeopleSoft Global Payroll for the Netherlands から実行することができます。またこのレポートは、GPNLD インストールフラグの設定に基づいて、ヒューマンリソース管理または給与計算のテーブルから休暇欠勤データを取得しています。</p>	[人事・労務管理]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤レポート]、[長期疾病 NLD]	RUNCTL_ABS007_NL
ABS702NL 統計作成	オランダにある会社の休暇欠勤統計を作成します。まずこのプロセスを実行してから、疾病登録レポートを作成します。特定の年月を指定して実行します。	[人事・労務管理]、[休暇欠勤管理]、[休暇欠勤レポート]、[疾病統計作成 NLD]、[統計作成]	RUNCTL_ABS702_NL

安全衛生モニター管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
OHS001BR PPP レポート BRA	作業エリア別の危険度に関する情報を追跡します。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[PPP レポート BRA]	PPP_RC_BRA
OHS001CN WCB フォーム 7	州の WCB フォーム 7 に必要な情報の一部が出力されます。このレポートを参照して、カナダのほとんどの州の WCB が規定している印刷フォームに必要な情報を書き写します。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[WCB フォーム 7 CAN]	RUNCTL_OHS001CN
RUNCTL_OHS001FR 保険事故レポート	事業主、事業所、負傷者、および証人や第三者などの事故の詳細情報が追跡されます。この情報を使って、フランスの公式レポートを作成します。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故 FRA]	RUNCTL_OHS001FR
OHS001GR 事故レポート	選択した事故について、負傷者、身体部位、医師と医療施設データ、負傷原因と内容、危険行為、危険環境、原因、改善/予防措置、および証人についての情報が出力されます。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[事故 DEU]	RUNCTL_OHS501GR
OHS001UK 負傷/危険事象	イギリスにおける安全衛生関連の法定レポートの作成に必要な保険事故についてのデータが出力されます (Crystal)。 このレポートを実行する前に、SQR プロセスの RIDDOR データの収集 GBR プロセスを実行して、一時テーブルをロードします。このレポートは、公的レポートを正確に複製した Crystal レポートです。 注: このレポートを作成するには、まず、“保険事故の詳細”コンポーネントを使って保険事故の情報をシステムに登録しておく必要があります。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[負傷/危険事象 GBR]	RUNCTL_OHS_UK
OHS002GR レポート対象の事故/疾病	ドイツ用のレポート対象の事故/疾病レポートが出力されます。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[報告対象の事故/疾病 DEU]	RUNCTL_OHS002GR

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
OHS002UK 疾病レポート	<p>イギリスにおける安全衛生関連の法定レポートの作成に必要な情報が表示されます (Crystal)。</p> <p>このレポートを実行する前に、SQR プロセスの RIDDOR データの収集 GBR を実行して、一時テーブルをロードします。このレポートは、公的レポートを正確に複製した Crystal レポートです。</p> <p>レポートにデータを入力した後、署名してイギリスの安全衛生事務局 (HSE: Health and Safety Executive) に郵送します。</p>	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[疾病 GBR]	RUNCTL_OHS_UK
OHS003 保険事故被災者 - 非従業員	<p>指定期間内に発生した保険事故に遭った非従業員の概要が出力されます。疾病または負傷を被ったかどうかも出力されます (Crystal)。</p>	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故被災者の非従業員]	RUNCTL_OHS_FROMTO
OHS003GR 保険事故発生場所サマリ	<p>移動、交通手段、薬物使用の有無、事故関係者の詳細情報などが出力されます。</p> <p>このレポートは、ドイツのユーザーにのみ使用可能です (SQR)。</p>	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故発生場所サマリ DEU]	RUNCTL_OHS003GR
OHS004GR 疾病レポート	<p>個人データ、国籍、子供、職務、医師などの個人に関する情報が出力されます。</p> <p>このレポートを作成するには、まず、疾病管理コンポーネントを使って疾病の情報をシステムに入力する必要があります。また、疾病の詳細もシステムに正しく登録しておく必要があります。SQR プロセスの疾病レポートデータの収集 (OHS504GR) を実行して、一時データテーブルをロードしてから、レポートを実行します。</p> <p>このレポートは、ドイツのユーザーにのみ使用可能です (Crystal)。</p>	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[疾病 DEU]	RUNCTL_OHS504GR

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
OHS008BC WCB 保険事故	カナダの労働基準局 (WCB) によって義務付けられている保険事故発生情報、休職と復職、責任者、応急処置などの特定の保険事故情報やその他の情報が出力されます。このレポートを参照して、WCB レポートのフォームに情報を記入します (SQR)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[WCB 保険事故 CAN]	RUNCTL_OHS_INC
OHS009 保険事故の詳細	このレポートには、事故発生情報の他に、全ての保険事故の原因と対応改善措置、証人、事故関係者 (負傷の詳細情報を含む)、OSHA 情報、休業、および医師情報などの一覧が出力されます。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故の詳細]	RUNCTL_OHS_INC
OHS010 保険事故サマリ	指定期間内に発生した保険事故のサマリが出力されます。このレポートには、全ての事故関係者、および事故関係者に対する OSHA レポートが提出されたかどうか出力されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故サマリ]	RUNCTL_OHS_FROMTO
OHS011 所在地別保険事故サマリ	特定の所在地、および指定期間内に発生した保険事故のサマリが出力されます。このレポートには、全ての事故関係者、および事故関係者が OSHA レポートの対象になる疾病または負傷を被ったかどうか出力されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[所在地別保険事故サマリ]	RUNCTL_OHS_FROMTO
OHS012 保険事故請求サマリ	指定期間内に記録された保険事故請求のサマリが出力されます。このレポートには、請求タイプの金額別明細、請求タイプ別小計と請求別小計、さらにレポート期間内の全ての請求の合計金額が出力されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故請求サマリ]	RUNCTL_OHS_FROMTO
OHS013 保険事故被災者 - 従業員	指定期間内に発生した保険事故に遭った従業員のサマリが出力されます。従業員が負傷または疾病のどちらを負ったかが出力されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故被災者の従業員]	RUNCTL_OHS_FROMTO

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
OHS014 保険事故による休業	指定したレポート期間内に保険事故に遭った従業員の休業日数や制限勤務日数の一覧が出力され、それらの日数が保険事故別に合計されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故による休業]	RUNCTL_OHS_FROMTO
OHS014ES 休業なしの保険事故	結果として休業とならなかった事故の一覧が出力されます。このレポートには、従業員名、性別、NSS、事故日、および事故タイプが出力されます。 またこのレポートには、職業センター規定の印刷フォームが使用されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[休業なしの保険事故 ESP]	RUNCTL_OHS_FROMTO
OHS015 保険事故請求詳細	特定の保険事故に対する請求、請求を行った従業員、請求の取扱機関、請求の詳細 (請求タイプ別) が出力されます。請求タイプ別の小計と請求自体の小計、保険事故の全請求の合計が順に出力されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[保険事故請求の詳細]	RUNCTL_OHS_INC
OHS016 車両事故サマリ	指定期間内に起きた保険事故にかかわった車両のサマリが出力されます。車両および装置情報と事故関係者の関連情報が表示されます (Crystal)。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[車両事故サマリ]	RUNCTL_OHS_FROMTO
PER002CH 事故レポート	スイスの法律で義務付けられている情報がスイスの保険会社で承認されたフォーマットで出力されます (SQR)。このレポートを使って、会社が契約している事故処理を行う保険会社に提出する事故レポートを作成します。	[職場環境管理]、[安全衛生管理]、[レポート]、[事故 CHE]	RUNCTL_PER002_CHE

キャリア プランと後任計画レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CARPLAN 従業員のキャリアプラン	複数の評価者によって入力された従業員のキャリアプランが出力されます (Crystal)。	[人材開発]、[キャリアプラン]、[キャリアレポート]、[キャリアプラン]	RUNCTL_CAR001
CARTRAIN 従業員のキャリア研修プラン	キャリア目標を達成するための従業員の研修プランが出力されます (Crystal)。	[人材開発]、[キャリアプラン]、[キャリアレポート]、[研修プラン]	RUNCTL_CAR002

基本報酬管理と予算計画レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CMP001 給与構造	全ての給与等級が等級別に降順で出力されます。それぞれの等級について、支給された年間給与の最高額、中間額および最低額のリストが出力されます。中間額差の列には、各等級の中間額の差異がパーセントで表示されます。このレポートでは、上限額を下限額で割った値から1を引いた値が、給与レンジ比率として算出されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[給与構造]	RUNCTL_ASOFFDATE
CMP002 点数別給与等級	組織の全ての給与等級と、各等級内の全職務に対する給与データが、職務評価の点数順に出力されます。給与等級内の全ての職務名が職務評価の点数順に出力されます。評価点数を使って、組織内の各職務の職責に値が割り当てられ、それに従って各給与等級に給与額が割り当てられます。このレポートには、給与の調査情報と、関連する点数比率および中間額も出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[点数別給与等級]	RUNCTL_ASOFFDATE
CMP003 給与等級別相対比率分析	このレポートには、給与等級別の従業員および各等級の給与中間額が出力されます。従業員別に、職務コード、職務名、氏名、部門IDが表示されます。レポートの対象となるのは、HR ステータスがアクティブ、休職、停職、または休職（有給）のいずれかである従業員です。 最後の2列には、各従業員の年間給与と相対比率が計算されて表示されます。相対比率とは、従業員の給与額と給与等級の中間給与額を比較した値のことです。たとえば、従業員の現在の給与が中間金額と同じ場合、相対比率は1.00、つまり中間金額の100%ということになります。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[相対比率分析]	RUNCTL_ASOFFDATE

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CMP004 下限以下の給与分析	このレポートでは、給与額が下限額に満たない従業員を含む給与等級のリストが出力され、該当する下限額、その従業員の年間給与、および不足額が金額とパーセントで表示されます。レポートの対象となるのは、HR ステータスがアクティブ、休職、停職、または休職(有給)の従業員です。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[下限以下の給与分析]	RUNCTL_ASOFDAT
CMP005 上限以上の給与分析	このレポートには、給与額が上限を超えている従業員について、職務コード、職務名、氏名、部門 ID、上限額、年間給与、および金額とパーセントで表された超過額が表示されます。レポートの対象となるのは、HR ステータスがアクティブ、休職、停職、または休職(有給)の従業員です。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[上限以上の給与分析]	RUNCTL_ASOFDAT
CMP008 給与プラン/グループ別更新	このレポートは、給与プラン/グループ別更新のアプリケーション エンジン プロセスを実行した後に作成します。レポートには、従業員の過去および新規の給与パッケージが出力されます。データロード プロセス (HR SP_CI) を実行すると、全てのデータが職務データのレコードにロードされます。 このレポートは、給与プラン/グループ別更新プロセスを実行するための3つのステップのうち、第2のステップとして実行します。これら3つのステップは全て、給与プラン/グループ別更新プロセスのランコントロール ページを使用する際に、PeopleSoft プロセス スケジューラで実行できます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プラン管理]、[給与プラン/グループ別更新]	RUNCTL_CMP008

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
CMP010 職務コード別更新	<p>データロードプロセス (HR_SP_CI) を実行して新規の職務レコードを実際に挿入する前に、従業員の職務レコードに対して行われる予定の給与管理プラン、給与等級、および給与ステップへの変更の内容が出力されます。このレポートには、従業員の過去と新規の給与管理プラン、給与等級、および給与ステップが出力されます。</p> <p>このレポートは、職務コード別更新のアプリケーションエンジンプロセスを実行した後に作成します。レポートには、従業員の過去と新規の給与管理プラン、給与等級、および給与ステップが出力されます。データロードプロセス (HR_SP_CI) を実行すると、全てのデータが職務データのレコードにロードされます。</p> <p>このレポートは、職務コード別更新プロセスを実行するための3つのステップのうち、第2のステップとして実行します。これら3つのプロセスは、職務コード別更新プロセスのランコントロールページを使用する際に、PeopleSoft プロセススケジューラで実行できます。</p>	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プラン管理]、[職務コード別更新]	RUNCTL_CMP010
CMP011 従業員別給与履歴	指定した期間における従業員の給与変更が出力されます。各給与変更について、関連する異動区分、有効日、職務コード、職務名、給与等級、給与レート、変更金額および変更率が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与履歴レポート]、[従業員別給与履歴]	RUNCTL_CMP011
CMP014 グループ別給与履歴	指定した期間におけるグループ内の従業員の給与変更が出力されます。各給与変更について、関連する異動区分、有効日、職務コード、職務名、給与等級、給与レート、変更金額および変更率が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与履歴レポート]、[グループ別給与履歴]	RUNCTL_CMP014
CMP020JP (JPN) 昇給シミュレーション	昇給シミュレーション プロセスの結果が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[昇給率による昇給 JPN]、[昇給シミュレーションレポート]	RUN_SALREPORT_JPN

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
LMS001、LMS002 予測給与	シナリオで定義されているイベントの予測期間での影響、および2つの期間にわたる給与と人員数の変動値(LMS002: 変動値)が分析されます。	[報酬管理]、[給与予測 FRA]、[予測プロセス]、[予測給与レポート]	RUNCTL_LMS_REPORT
LMS003 シナリオ比較	2つのシナリオが比較されます。	[報酬管理]、[給与予測 FRA]、[予測プロセス]、[シナリオ比較レポート]	RUNCTL_LMS_REPORT
LMS004 クラスなしレートコード	給与レートコードクラスが関連付けられていない給与レートコードが出力されます。 給与予測計算の機能は、各従業員に割り当てられた給与レートコードにクラスが関連付けられていないと正しく機能しません。従業員の給与パッケージに含まれている全ての給与コンポーネントに給与レートコードクラスが関連付けられているかを確認します。このレポートは、計算処理を実行する前に実行します。	[報酬管理]、[給与予測 FRA]、[予測プロセス]、[クラスなしレートコードレポート]	RUNCTL_LMS_RATE_CL
PER008 考課状況確認	グループ内の従業員に対する全ての人事考課が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[人事考課履歴]、[考課状況確認]	RUNCTL_PER008
PER012 部門別給与	このレポートには、部門別の従業員リストがアルファベット順に出力され、基本的な職務データ情報、および各従業員の給与レートの内訳が表示されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与履歴レポート]、[部門別給与履歴]	PRCSRUNCTL_LC_HR
PER013 給与変更従業員	指定した期間内に給与レートが変更された従業員の一覧が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与履歴レポート]、[給与変更従業員]	RUNCTL_PER013
PER023 会社別給与履歴	指定した期間における従業員の給与変更が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与履歴レポート]、[会社別給与履歴]	RUNCTL_PER023
PER041 特別昇給レポート	能力調査グループの従業員に対する特別昇給とその承認ステータスが出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[特別昇給]、[特別昇給レポート]	RUNCTL_SP_MERIT
PER062JP (JPN) 昇格候補者一覧	入力した等級から昇格する資格のある従業員が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[昇格候補者一覧 JPN]	RUNCTL_PER062_JPN
PER706A 給与等級テーブル	給与管理プランおよび給与等級、名称、有効日、通貨コード、各等級に対する時給、日給、月給、年間給の上限額、下限額、中間額が出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[給与等級]	PRCSRUNCTL

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER706B 給与等級/ステップ テーブル	給与プラン、給与等級、給与ステップ、給与等級の名称および有効日が出力されます。また、各コンポーネントの時給、日給、月給、年間給与の範囲が、通貨および支給周期と共に出力されます。	[報酬管理]、[基本報酬]、[給与プランレポート]、[給与等級/ステップ]	RUNCTL_PER706B

パフォーマンス管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
HEP001 記入票未作成者一覧	従業員グループ(グループ ID)ごとに記入票未作成者の一覧、該当の記入票のタイプおよび期間が出力されます。	[人材開発]、[パフォーマンス管理]、[レポート]、[記入票未作成者一覧]	RUNCTL_EP_RPT
HEP002 記入期日遅延者一覧	期日が過ぎている管理者記入票の一覧が出力されます。	[人材開発]、[パフォーマンス管理]、[レポート]、[記入期日遅延者一覧]	RUNCTL_EP_RPT

総合人件費レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
TC001 従業員別人件費内訳	各従業員の全ての人件費の一覧が従業員に配布できる形式で出力されます。	[報酬管理]、[総合人件費]、[総合人件費の照会]、[従業員別人件費内訳レポート]	TC_BEN_RUN_CNTL
TC002 グループ人件費合計	指定したグループに属する各従業員についての集計情報が出力されます。	[報酬管理]、[総合人件費]、[総合人件費の照会]、[グループ別人件費合計レポート]	TC_GRP_RUN_CNTL
TC003 グループ人件費詳細	指定したグループに属する各従業員についての給与タイプ別の詳細情報が出力されます。	[報酬管理]、[総合人件費]、[総合人件費の照会]、[グループ別人件費明細レポート]	TC_GRP_RUN_CNTL

海外赴任管理レポート

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション	ラン コントロール ページ
PER717 海外赴任従業員リスト	海外に赴任中の従業員が出力されます (Crystal)。	[人事・労務管理]、[海外赴任管理]、[赴任管理]、[海外赴任従業員リストレポート]	RUNCTL_PER717

PeopleSoft Enterprise HRMS レポート: 主要レポート

このセクションでは、各主要レポートについて詳細情報を提供します。レポートは、レポート ID 別に説明されています。

PER044 – 複数年功給コンポーネント – 基本レポート

このレポートでは、年功給レートコードのオリジンについて、以下の情報が提供されます。

- 年功給レートコードに関連付けられたグループに所属しているという理由で、従業員が年功給コンポーネントを受け取る場合は、その年功給レートコードに対応するグループ ID が表示されます。
- 全従業員に年功給レートコードが関連付けられているという理由で、従業員が年功給コンポーネントを受け取る場合は、その年功給レートコードのオリジンとして“全て”が表示されます。
- 年功給レートコードが手動で追加されたという理由で、従業員が年功給コンポーネントを受け取る場合は、年功給レートコードのオリジンとして“手動で追加”が表示されます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 報酬管理、「年功給管理」

PER033 – 市民権/国/査証の検証 – 人事・労務管理

レポートでは、6 つの異なるタイプのデータの整合性が検証されます。特に、以下のデータの組み合わせが存在する場合に、職務レコードが検出されます。

市民権ステータス	<ul style="list-style-type: none">• 自国または帰化• 外国または帰化
市民権保持国	<ul style="list-style-type: none">• 外国• 自国
査証記録	<ul style="list-style-type: none">• 査証あり• 査証なし

レポートは、カテゴリごとにページが分けられます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「人事レコードへの追加情報の入力」、「市民権と査証/許可証情報の管理」

PER058 – 主雇用レコードの検証 – 人事・労務管理

主雇用レコードと副雇用レコードを設定する主な理由の 1 つは、法定レポートに使用するための正確なデータを作成することです。従業員の主雇用レコードのデータのみを使ってレポートを作成すると、差別撤廃措置や官公庁に提出するレポート用に正確な従業員数を出力することができます。PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理では、主雇用レコードと副雇用レコードを指定できるという柔軟性を提供していますが、レポートデータの正確さについて、妥協が必要となる場合があります。従業員に主雇用レコードが指定されていない場合、複数の主雇用レコードが指定されている場合、または主雇用レコードが非アクティブに設定されている場合なども考えられます。定期的に職務レコードを確認し、このような矛盾点を修正することをお勧めします。主雇用レコードの検証レポートを使えば、複数の雇用レコードを持つ従業員について、主雇用レコードの整合性を検証することができます。

このレポートには、職務レコードに以下の問題がある全ての従業員が出力されます。

- 複数の主雇用レコード: 複数のアクティブな職務が同時に主雇用レコードとして指定されている場合。
- 主雇用レコードの雇用終了: 主雇用レコードに関する雇用は終了したが、非主雇用レコードの職務がアクティブになっている場合。
- 主雇用レコードなし: 兼任している職務中に主雇用レコードとして指定されているものがない場合。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: 人事・労務管理、「個人情報と職務情報の更新」、「職務データ レポートの実行」

PER066JP – 人員配置表 JPN

このレポートには、従業員が部門別、および役職別に一覧表示されます。兼務している従業員も含まれます。

レポートを実行するには、1 つ以上の部門ツリーを作成しておく必要があります。部門セキュリティのため、通常、DEPT_SECURITY ツリーが既にあります。このツリーを選択するか、DEPARTMENT ツリー構造の下に部門階層を新規で作成します。

このレポートは部門別にソートされ、以下の順序で表示されます。

- 役職ツリーに登録された役職を持つ従業員がツリー順に表示されます。
- 役職ツリーに登録されていない役職を持つ従業員が役職のアルファベット順に表示されます。
- 役職を持たない従業員が、従業員 ID のアルファベット順に表示されます。

注: ソートに使用される役職ツリーは、辞令レポートと通達レポートに使用されているものです。システムで使用される役職ツリーは、SUPERVISOR_LEVEL という名前で定義されている必要があります。役職ツリーがこの名前前で定義されていないと、ソートは役職のアルファベット順になります。

POS006A – ポジション ツリー構造の作成 – ポジション管理

ポジション データ コンポーネントでポジション間の従属関係を全て設定した後に、この SQR を実行します。ポジション ツリー構造の作成レポートでは、ORG_CODE フィールドに値が入力され、ポジションが階層定義されます。このレポートを実行すると、指定した日付、またはそれ以前の有効なデータを使ってポジション構造が更新されます。

最初に従属関係を入力するとき、新しいポジションを追加するとき、および既存のポジション間の従属関係を変更するとき、必ずこのレポートを実行します。最初にこの SQR を実行しないと、ポジションインデント レポート (POS006) は実行できません。

ポジション ツリー構造の作成レポートを実行すると、ユーティリティの出力結果を説明する診断メッセージが表示される場合があります。表示されるメッセージは、次のとおりです。

- ルート ノードのポジションが見つからない場合（直属上司ポジションが自分自身であるポジション）は、エラー メッセージが表示されます。ルート ノードがないと、レポートは作成されません。
- ポジション 1 の直属上司ポジションにポジション 2 が設定されており、ポジション 2 の直属上司ポジションにポジション 1 が設定されているように、従属関係がループの状態になっている場合は、警告メッセージが表示され、該当するポジションはレポートに出力されません。
- ポジションの“直属上司ポジション番号” フィールドにデータがない場合は、警告メッセージが表示されます。該当するポジションはレポートに出力されません。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジション データの最大活用」、「組織構造作成レポートの実行」

POS008 – ポジションの例外/未更新 – ポジション管理

相互更新が自動的に行われないように設定した現職者の職務データを出力したり（未更新レポート）、その他の理由で現職者の職務データとポジション データが一致していない例外だけを出力したり（例外レポート）することができます。

例外/未更新レポートには、ポジション名とそのポジションに割り当てられた従業員の氏名、およびポジション データ コンポーネントと職務データ コンポーネントで共通するフィールドのデータが表示されます。レポートの対象となるのは、HR ステータスがアクティブ、休職、停職、または休職（有給）の従業員です。

例外レポートを実行する際、現職者の雇用データの肩書きが、ポジション データのポジション名と一致しない場合、ポジション名の横にアスタリスク（*）が出力されます。また、現職者の職務データとポジション データの間で郵便箱データが一致しているかによって、郵便箱の列に一致または不一致が表示されます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理 9.0 PeopleBook: ポジション管理、「ポジション データの管理」、「ポジション データの検証」

PKG006 – 給与パッケージ FBT 照合 – 給与パッケージ管理

レポートを作成するには、フリンジ ベネフィットの全てのカテゴリと、その課税対象額を特定する必要があります。FBT 照合レポートでは、パッケージ コンポーネント テーブルのコンポーネントで定義するコンポーネント タイプに基づいて、全ての FBT カテゴリが特定されます。コンポーネント タイプまたは FBT カテゴリごとに、FBT 年度に付加給付を受け取った従業員が出力されます。また、付加給付の課税対象総額の見積と実績に関する情報も出力されます。これらの値は、従業員別に表示され、コンポーネントごとに合計されます。

FBT 照合レポートで提供される情報とその他の管理システムからの情報を組み合わせて、オーストラリア税務署に提出する FBT 申告書を正確に作成することができます。

注: FBT 照合レポートには、パッケージ費用の計算時に算出された値が出力されます。FBT 照合レポートに出力される合計額が正確であることを確認するには、FBT 照合レポートの実行対象となる FBT 年度の最終日にパッケージ費用の計算を実行します。FBT 照合レポートを実行する前に、パッケージ費用の計算を完了しておく必要があります。

VC011 – 組織/グループ目標 – 変動報酬管理

組織/グループ目標レポートは、目標測定対象期間の前または後に任意に実行できるレポートです。このレポートには、指定した変動報酬プラン ID と期間 ID についてプラン目標加重が出力されます。また、プランの全ての組織およびグループ加重目標と、その加重率および達成率も出力されます。

このレポートには、以下の情報が含まれます。

- 指定した変動報酬プラン ID と期間 ID に対するプラン目標加重
- プランに指定されている全ての組織加重目標、およびその加重率と達成率のリスト
- プランに指定されている全てのグループ加重目標（グループ別）、およびその加重率と達成率のリスト

グループに目標が設定されていない場合、レポートでは子グループの目標が親グループの目標である旨が示されます。

VC013 – サブスクリプション エラー レポート – 変動報酬管理

このレポートには、指定した変動報酬プラン ID および支給期間 ID について、エラーが発生した、または却下された報奨のいずれかが設定されている従業員が出力されます。エラーが発生した、または却下された各報奨について、従業員、報奨値、報奨ステータス、却下理由（給与計算のみ）が出力されます。

給与計算の有効な却下理由コードは以下のとおりです。

- 無効支給コード（無効 EC）
- 無効従業員 ID & レコード番号（無効 EE）
- 無効通貨コード（無効 CC）
- 既存のトランザクションあり（トランザクション）
- 金額が給与上限を超過（上限超過）
- 全て却下 – ユーザー リクエスト（全て却下）

BEN004 – 貯蓄投資配分 – 基本福利厚生

このレポートには、貯蓄プランを含む福利厚生プログラムに加入している従業員について、指定日までに行われた全ての控除、および合計会社拠出額が出力されます。投資可能金額の合計が投資配分ごとに分類されて、金額と合計に対するパーセントで出力されます。

各プラン タイプに対し、そのプラン タイプでの従業員の合計控除額および会社拠出額が示されます。このレポートは、会社、福利厚生プログラム、プラン タイプ、および福利厚生プランごとにページが分かれており、各合計額が示されます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Manage Base Benefits

BEN733 – 基本福利厚生データの検証 – 基本福利厚生

このレポートには、基本福利厚生ビジネス プロセスに関連する、問題のある可能性がある従業員データのサマリが出力されます。これにより、登録または変更の処理の際に表示される可能性があるエラーをキャッチすることができます。

雇用レコードのない従業員、職務レコードのない従業員、16 歳未満の従業員、補償契約した例外的な扶養家族がいる従業員、配偶者（または他の扶養家族）と共に医療保険に加入している従業員、年齢超過扶養家族が補償対象になっている従業員、福利厚生プログラム テーブルで間違った医療保険が設定されている従業員などが検証対象となります。また、婚姻や扶養家族などの続柄に関する整合性も検証されます。

これらの検証は、加入者の登録前の導入時に実行し、プラン年の間に定期的に実行します。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Manage Base Benefits

CBR005 – COBRA イベント レポート – 基本福利厚生

このレポートには、COBRA 受益者に関するデータがイベント レベルで出力されます。COBRA イベントが発生した全ての従業員の一覧が出力されます。各従業員の COBRA 資格ステータスの列には、“資格あり”(QL)、“資格なし”(NQ)、“資格なし/重複”(ND)、または “資格エラー”(QE) が示されます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Manage Base Benefits

CBR007 – COBRA 検証レポート – 基本福利厚生

このレポートには、COBRA 医療補償に登録されているアクティブな従業員、同じ扶養家族 ID で医療保険に加入している従業員と配偶者（または他の扶養家族）、および超過年齢扶養家族を持つ従業員などに関する情報が出力されます。

このレポートを使用して、COBRA とアクティブな補償の間に重複があるかどうか、扶養家族が複数の従業員 ID で補償対象になっているかどうか、または超過年齢扶養家族が検出されていないかどうかなどを分析することができます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Manage Base Benefits

CBR008 – COBRA 管理エラー – 基本福利厚生

このレポートには、COBRA プロセスの実行の結果生じるエラーについての情報が出力されます。COBRA イベント コンフリクト、有資格の福利厚生プログラムがないかまたは複数ある、重複 COBRA イベントが存在するなどのエラーが出力されます。

このレポートを使用して、COBRA プロセスの結果として表れるエラーを特定し、問題を解決することができます。また、オンラインでこれらのエラーを特定することもできます。レポートを印刷し、スタッフにリクエストして各エラーを照合しながら解決策を割り出します。これにより、全てのエラーが分析されたことを証明する監査証跡が作成されます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Manage Base Benefits

NDT004 – 401(k)/401(m) 差別禁止テスト – 基本福利厚生

401(k) または 401(m) のどちらのレポートを出力するかを指定します。

このレポートが年度途中に実行され、401 NDT ラン コントロールで予測パーセントが指定されている場合、予測済みの年度末支給、拠出金、および関連する ADP/ACP 結果が出力されます。

このレポートは、実態繰り延べパーセント (ADP) の再計算や差別禁止テストを通過したかどうかの判断を行うものではありません。このレポートは、NDT002 SQR または NDT003 SQR によって、これらのテストが処理されたことを想定しています。ただし、リミット テスト集計を使う必要がある場合、このレポートはこれらのテストを呼び出す唯一のメソッドとして機能し、このための個別の SQR はありません。

リミット テスト集計が呼び出された場合、各レポートには、リミット テスト集計合格/不合格ステータスと、401(m) および 401(k) の両方のテスト結果が出力されます。ラン コントロールが更新済みで、以下の SQR を起動していない場合、NDT004 を起動することはできません。

- NDT001: この SQR により、プラン タイプ、プラン名、福利厚生プラン名、福利厚生プラン ID、有効日、累計処理日、付与周期、勤続期間、特別計算ルーチン、プラン開始年、休暇残数の上限、および休暇繰越数の上限などの情報が出力されます。
- NDT002: この SQR を NDT001 の後に起動して、401(k) NDT の差別禁止テスト ラン コントロール テーブルの実際額と予測額を更新することができます。
- NDT003: この SQR により、401(m) NDT の差別禁止テスト ラン コントロール テーブルの実際額と予測額を更新することができます。

関連項目:

PeopleSoft Enterprise Human Resources 9.0 PeopleBook: Manage Base Benefits

PeopleSoft Enterprise 用語一覧

EIM 元帳	Enterprise Incentive Management 元帳の略。PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、参加者のスコープ内の増分結果を処理するオブジェクトのことです。元帳には、データオリジンと、元になった処理ステップに対する全ての適切な追跡を含んだ結果セットがキャプチャされます。
GDS	“Global Distribution System (グローバル販売システム)” の略です。旅行計画を作成するためのコンピュータ予約システム全般を示す広義的な用語です。
GL ビジネス ユニット/GL ユニット	一般会計ビジネスユニットのことです。会計処理上、独立している組織内のエンティティを指します。GL ユニットごとに固有の会計帳簿が管理されます。 ビジネス ユニットの説明も参照してください。
KPI	“Key Performance Indicator (主要業績評価指標)” の略です。組織の重要成功要因の達成度を測るための、上位レベルの尺度です。KPIにより、評価の基準となるデータ値や計算方法が定義されます。
KVI	“Known Value Item (価格や価値が消費者によく知られている商品)” の略です。販売価格を上げたり下げたりすることができない製品または製品グループに使用する用語です。
LDIF ファイル	“LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) Data Interchange Format (LDAP データ交換フォーマット) ファイル” の略です。このファイルには、PeopleSoft Enterprise のデータとディレクトリ データとの差異が記録されます。
MCF サーバー	PeopleSoft MultiChannel Framework (マルチチャネルフレームワーク) サーバーの略です。ユニバーサル キュー サーバーと MCF ログ サーバーで構成されます。どちらのプロセスも、アプリケーション サーバードメイン設定で MCF サーバーが選択されたときに開始されます。
NDP	“Non-Discountable Products (割引対象外の製品)” の略です。販売価格を下げるできない製品または製品グループに使用する用語です。
PeopleCode	PeopleSoft Enterprise コンポーネントプロセッサによって実行される固有の言語です。PeopleCode は、既存のデータやユーザーのアクションに基づいて結果を生成します。PeopleTools で提供されるさまざまなツールを使用すると、PeopleCode を実行可能な全ての PeopleSoft Enterprise アプリケーションで外部サービスが利用できるようになります。
PeopleCode イベント	“イベント” の説明を参照してください。
PeopleSoft ピュア インターネット アーキテクチャ (PIA)	リレーショナル データベース管理システム (RDBMS)、アプリケーション サーバー、Web サーバー、およびブラウザで構成される、PeopleSoft 8 の基本アーキテクチャです。
REN サーバー	PeopleSoft マルチチャネルフレームワークの Real-time Event Notification サーバーの略です。
RFI イベント	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、情報の依頼を指します。
RFx イベント	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、入札者間の競争が少なく、複数の入札者が予算内の最高金額で入札した場合に行われる提案依頼または見積イベントの依頼を指します。
SCP SCBM XML メッセージ	SCP = サプライチェーン プランニング、SCBM = サプライチェーン ビジネス モデラを意味しています。サプライチェーン ビジネス モデラでは、データのインポートおよびエクスポートは、全て XML の形式で行われます。

XLink (XML リンク)	XMLドキュメントに、リソース間のリンクを記述するためのリンク言語です。
XML スキーマ	アプリケーション メッセージ、コンポーネント インターフェイス、またはビジネス インターリンクの表示を統一する XML 定義です。
XPI	eXtended Process Integrator の略です。PeopleSoft XPI は、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションとのリアルタイムおよびバッチでの連携を可能にする統合インフラストラクチャです。
アイテム	<p>PeopleSoft Enterprise 在庫管理では、ビジネス ユニットに保管されている(または倉庫から出荷される)物品を指します。</p> <p>PeopleSoft Enterprise 需要計画、在庫ポリシー計画、および供給管理では、計画の目的のみで使用する非在庫アイテムを指します。非在庫アイテムを使用して、在庫アイテムのファミリまたはグループを表すことができます。計画部品表や計画工程手順を設定することができ、計画部品表の構成部品として使用することもできます。計画アイテムは、生産用または設計用の部品表や工程手順に指定することはできず、生産の構成部品として使用することもできません。手持数量は管理されません。</p> <p>PeopleSoft Enterprise 売掛金管理では、個々の売掛金を指します。たとえば、請求書、貸方メモ、借方メモ、償却、または調整などがアイテムに該当します。</p>
アクション テンプレート	PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、顧客やアイテムが、アクションプランの特定の状態にどのくらいの期間とどまっていたかに基づいて、システムまたはユーザーによって段階的に実行されるアクションの概要を定義します。
アクティビティ	<p>PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントでは、登録可能なカタログ アイテム (クラス) のインスタンスを指します。このアクティビティによって、提供物に関連する費用、登録の制限と期限、および登録待ち人数の定員などが定義されます。</p> <p>PeopleSoft Enterprise パフォーマンス マネジメントでは、アクティビティベース マネジメントでコスト計算に使用される、組織の業務と一連のアクションを指します。</p> <p>PeopleSoft Enterprise プロジェクトコスト管理では、プロジェクトをさらに細かく(通常は各タスクに)分類するための業務単位を指します。</p> <p>PeopleSoft ワークフローでは、ビジネス プロセス内で実行する必要がある各トランザクションを指します。アクティビティは、トランザクションを実行するための各ステップで構成されるため、ステップ マップとも呼ばれます。</p>
アプリケーション メッセージング	PeopleSoft Enterprise 製品ファミリのアプリケーションと、他の PeopleSoft Enterprise 製品またはサードパーティのアプリケーションとを同期または非同期の形式で連携させることができる機能です。アプリケーション メッセージには、パブリッシュ/サブスクライブの対象となるレコードとフィールドが定義されます。
異動理由	従業員の職務または雇用情報が更新された理由です。異動理由は、人事異動(昇進、雇用終了、支給グループの変更など)と、その理由という2つの部分から成ります。異動理由は、PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理、PeopleSoft Enterprise Benefits Administration、PeopleSoft Enterprise Stock Administration、および基本福利厚生管理ビジネスプロセスの COBRA 管理機能によって使用されます。
イベント	<p>コンポーネントプロセッサフローまたはプログラムフロー内にあらかじめ定義されたポイントです。各ポイントに達すると、イベントによって各コンポーネントがアクティブ化され、そのコンポーネントとイベントに関連付けられている PeopleCode プログラムが開始されます。イベントの例としては、FieldChange、SavePreChange、および RowDelete などがあります。</p> <p>また、PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理では、福利厚生の給付条件に影響する出来事を指します。</p>
イベント継承プロセス	PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、元の PeopleSoft Enterprise Incentive Management イベントの継承を(ロジックを通じて)決定し、他

	<p>のオブジェクトによって処理される元のイベントのデリバティブを作成するプロセスのことです。PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、このメカニズムを使用して分割やロールアップなどが実装されます。イベント継承により、貸方金額をだれが受け取るかが決定します。</p>
イベント制約	<p>PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、特定のソーシングイベントに関連付けられる制約を指します。選択したイベント内で支出が追跡されます。</p>
依頼者	<p>PeopleSoft Enterprise eSettlement-決済管理において、商品またはサービスを依頼し、発注書を参照するさまざまな購買ページに ID が表示されている担当者を指します。</p>
インテグレーション	<p>システム間の連携を可能にする2つのインテグレーションポイント間の関係です。インテグレーションによって、PeopleSoft Enterprise アプリケーションは、他の PeopleSoft Enterprise アプリケーションやサードパーティのシステム/ソフトウェアとシームレスに連携することができます。</p>
インテグレーション セット	<p>同じ目的で使用するインテグレーションの論理グループです。たとえば、インテグレーション セット ADVANCED SHIPPING ORDER には、注文に対する出荷を顧客に通知するために使用される全てのインテグレーションが含まれます。</p>
インテグレーション ポイント	<p>他の PeopleSoft Enterprise アプリケーションや外部アプリケーションとの連携に使用されるインターフェイスです。</p>
ウェアハウス	<p>定義済み ETL マップ、データウェアハウスツール、およびデータマート定義で構成された PeopleSoft Enterprise データウェアハウスです。</p>
売掛金担当者	<p>PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、売上調整と未解決アイテムを追跡および解決する担当者のことを指します。</p>
オークション イベント	<p>PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、最適な価格またはスコアを達成するために、入札者間で積極的な競争が行われるソーシングイベントを指します。</p>
会計処理クラス	<p>PeopleSoft Enterprise パフォーマンス マネジメントにおいて、一般に認められている会計原則 (GAAP) で、リソースがどのように取り扱われるかを定義します。在庫クラスは、リソースが貸借対照表勘定科目に含まれるかどうか (在庫や固定資産など) を示し、非在庫クラスは、リソースが発生した期間の費用として処理されることを示します。</p>
会計処理日	<p>取引が実際に発生した日ではなく、取引が認識された日付を示します。会計処理日と取引日は同じである場合もあります。会計処理日により、取引の転記先の総勘定元帳における会計期間が決まります。選択できる会計処理日は、転記先の元帳のオープン期間内の日付に限られます。通常、アイテムの会計処理日は請求日になります。</p>
会計分割	<p>会計分割メソッドは、1つまたは複数の会計チャートフィールドセットに、支出がどのように割り当てまたは分割されるかを示します。</p>
回収ルール	<p>PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、未決済残高の金額と期限からの経過日数に基づき、顧客に対して実行するアクションを定義するユーザー定義のルールのことを指します。</p>
価格コンポーネント	<p>PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、全体の入札価格を構成する材料費、人件費、出荷費用などの各種コンポーネントを指します。</p>
価格設定	<p>PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、落札数量に基づいて入札者が行う値引きまたは金額の上乗せを指します。</p>
価格リスト	<p>価格リストを使用して、製品および取引の際に適用される条件を選択できます。取引の際は、その取引に定義されている検索階層に基づいて製品の価格が自動的に決定されるか、または製品に関連付けられたアクティブな価格リ</p>

	ストの最低価格が使用されます。この価格は、以後の全ての割引や割増に対する基準として使用されます。
価格ルール	基本価格に調整が適用されるための条件です。それぞれの条件が満たされれば、複数のルールが適用される場合もあります。
価格ルール キー	価格ルールに対して価格ルール条件(取引のマッチングに使用)を定義するために利用可能なフィールドを定義します。
価格ルール条件	価格設定フィールドとその値を選択し、価格設定フィールドが取引にどのように適用されるかを決定する演算子を選択します。
学習者グループ	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、同じラーニング環境にリンクされた学習者のグループを指します。同じ学習者グループのメンバーは、部門や職務コードなど、同じ属性を共有します。学習者グループを使用して、ラーニング アクティビティやプログラムへのアクセスや登録を制御することができます。また、バックオフィスでグループ登録や一括登録を実行するためにも使用されます。
学習予定	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、学習者ごとに計画されている全てのラーニング アクティビティおよびプログラムを格納するセルフサービスリポジトリです。
学習履歴	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、学習者が完了した全てのラーニング アクティビティやプログラムを記録するセルフサービスリポジトリです。
カタログ アイテム	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、学習者が学習および追跡できるトピックを指します。たとえば、“Microsoft Word について”などがこれに該当します。カタログ アイテムには、トピックについての一般的な情報に加え、コースコード、説明、カテゴリ分類、キーワード、および提供方法が含まれています。1つのカタログ アイテムには、1つまたは複数のラーニング アクティビティが含まれます。
カタログ パートナ	PeopleSoft Enterprise カatalog 管理において、カタログ コンテンツの管理責任を企業のカatalog 管理者と共有します。
カタログ マップ	PeopleSoft Enterprise カatalog 管理において、カタログのソース データから会社仕様のカタログに値を変換するために使用されます。
各国機能	PeopleSoft Enterprise HRMS において、国ごとに利用できる情報セットを指します。この情報にアクセスするには、グローバル ウィンドウで目的の国のフラグをクリックするか、または特定の国向けのメニューからアクセスします。
カテゴリ分類	パートナからのオファーをカタログのオファーに関連付け、それらを会社のカatalog カテゴリにグループ化します。
仮受消費税記録フラグ	“仮払消費税記録フラグ”の説明を参照してください。
仮払消費税記録フラグ	PeopleSoft Enterprise 購買管理、買掛金管理、および一般会計では、このフラグは取引に仮払消費税が記録されることを示します。このフラグは、仮受消費税記録フラグと併せて、取引に対して作成される会計入力と、消費税申告書での取引の申告方法を決定するために使用されます。購買管理と買掛金管理では、取引の消費税情報が追跡されるので、このフラグは必ず“記録する”に設定します。常に仮受消費税だけが記録される PeopleSoft Enterprise 受注管理、請求管理、売掛金管理と、常に仮払消費税だけが記録される PeopleSoft Enterprise 経費管理では、このフラグは使用されません。
関係オブジェクト	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、これらのオブジェクトは給与オブジェクトとビジネス オブジェクトの間の関連性を設定することによって、取引を解決するための給与構造を詳細に定義します。
関係者	ワークフォースの一員ではないものの、組織が情報を管理する対象となる個人を指します。

換算先通貨	予算表示や照会のために、入力通貨から換算する単一の通貨です。
期間コンテキスト	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、参加者は通常複数の期間に同じ給与プランを使用するので、期間コンテキストによってプランのコンテキストが特定のカレンダー期間と会計年度に関連付けられます。期間コンテキストは、関連するプランコンテキストを参照してチェーンを形成します。各プランコンテキストには対応する期間コンテキストのセットがあります。
基本期間	PeopleSoft Enterprise ビジネス プランニングにおいて、カレンダー内の最も基本的な期間を指します。
キャッシュドロア	現金を収納して支払をその場で行うための引出しです。
休暇取得	受給者が、有給休暇を認められるために満たす必要のある条件を定義するエレメントです。
休暇付与	病欠、休養、産休など、有効と認められる休暇について、有給休暇を承認するためのルールを定義するエレメントです。休暇付与エレメントにより、承認可能な金額、頻度、および期間が定義されます。
給与オブジェクト	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、給与構造内のノードを指します。給与オブジェクトは、給与構造の階層を構成する基本単位です。
給与構造	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、給与オブジェクトの階層関係のことです。これは、オブジェクト間の給与関連の関係を表します。
行	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、入札できる個々のアイテムまたはサービスを指します。
業績指標	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、奨励プランの適用範囲内でデータを格納するために使用される変数を指します(アグリゲータと似ていますが、あらかじめ定義されている計算式はありません)。業績指標は、プランのカレンダー、地域、および参加者に関連付けられます。業績指標は割当額の計算やレポートに使用されます。
共通アローワンス	PeopleSoft Enterprise プロモーション マネジメントにおいて、制限付きで資金供給された企業レベルでのプロモーションを指します。業界一般では、これはコーポレートプロモーションやコーポレートディスカウントなどと呼ばれます。
共通ナビゲーション ヘッダー	全ての PeopleSoft Enterprise ポータルには、ナビゲーション ヘッダーが含まれます。これは、ユーザーがそのポータルにサインインしている限り、全てのページで上部に表示されます。ナビゲーション ヘッダーには、標準のナビゲーション ボタン(ホーム、お気に入り、サインオフなど)に加え、各ユーザーへのメッセージなども表示できます。
共有ドライバ計算式	PeopleSoft Enterprise ビジネス プランニングで使用される、ドライバ計算式に似たプランニング メソッドです。1つのプランニング アプリケーション内で共有するためにグローバルに設定したり、PeopleSoft Enterprise ウェアハウスを通じて複数のプランニング アプリケーション間で共有するように設定したりできます。
金融制裁	<p>米国に拠点を置く企業やその企業の海外の子会社は、米国財務省海外資産管理局 (OFAC) の連邦規制により、支払前に取引先が特定国籍業者 (SDN) リストの対象かどうかを確認することが求められます。</p> <p>PeopleSoft Enterprise 買掛金管理、eSettlement-決済管理、資金管理、および Order to Cash では、取引先が金融制裁リスト (SDN リストや欧州連合のリストなど) の対象であるかを確認できます。</p>
クラス チャートフィールド	予算を予算期間、資金、部門 ID、およびプログラムコードと組み合わせた場合に、一意の支出予算キーを識別するためのチャートフィールド値です。以前はサブ分類と呼ばれていました。

グループ	<p>PeopleSoft Enterprise 請求管理と売掛金管理では、1 つまたは複数の取引で構成される転記対象を指します。たとえば、アイテム、入金、振替、マッチング、償却などがあります。</p> <p>PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理とサプライチェーン マネジメントでは、PeopleSoft ビジネス プロセスで計算を実行するため、同一の名前または変数に関連付けられたレコードのセットを指します。たとえば、PeopleSoft Enterprise 勤務管理では、従業員は勤務時間報告用のグループにまとめられます。</p>
グローバル制約	<p>PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、複数のストラテジックソーシングビジネス ユニットに適用される制約を指します。複数のストラテジックソーシングビジネス ユニットの全てのイベントにわたって支出が追跡されます。</p>
契約	<p>PeopleSoft Enterprise eSettlement-決済管理において、支払条件、銀行情報、通知などの処理オプションを、購買者とサプライヤの所在地の組み合わせによってグループ化および指定するための手段です。</p>
原価プロファイル	<p>受領原価計算方法、原価フロー、および払出原価計算方法の組み合わせです。プロファイルは台帳に関連付けられ、その台帳におけるアイテムの評価方法や、アイテムの物理的移動の評価方法を決定します。</p>
現在の学習内容	<p>PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、現在進行している全てのラーニング アクティビティおよびプログラムに対するセルフサービスリポトリを指します。</p>
検索クエリー	<p>検索エンジンにクエリー文字列と演算子を渡すために使用されます。検索インデックスは、一致する結果のセットをソースドキュメントへのキーと共に返します。</p>
検索/マッチング	<p>PeopleSoft Enterprise ヒューマンリソース管理において、データベース内の重複するレコードを検索、特定するための機能です。</p>
合計コスト	<p>PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、特定の落札方法の見積コスト(実際の金額と、“ソフトダラー”すなわち現金などの直接の支払以外の支払手段によるものの合計)を指します。</p>
購買イベント	<p>PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、イベント作成者にとっては、商品やサービスを購入することを指し、通常は見積依頼、提案、またはリバースオークションに関連付けられます。入札者にとっては、商品やサービスを販売することを指します。</p>
購買者	<p>PeopleSoft Enterprise eSettlement-決済管理において、システム内でサプライヤ(取引先)と取引をする組織またはビジネス ユニットを指します(個人ではありません)。購買者は、システム内で実行された購買に対する支払いを作成します。</p>
顧客サブグループタイプ	<p>詳細な履歴、エージング、イベント、およびプロファイルの生成が可能な区分に顧客を分類するための値です。</p>
コストプラス価格設定	<p>PeopleSoft Enterprise Pricer において、商品の原価を基準に価格を設定する方法を指します。</p>
コストプラス契約行	<p>報奨、固定、奨励金、またはその他の料金コンポーネントに関連付けられるレートベースの契約行です。料金タイプが“なし”に関連付けられるレートベースの契約行は、コストプラス契約行とは見なされません。</p>
コレクション	<p>ドキュメントのセットを Verity で検索可能にするには、最初にコレクションを少なくとも1 つは作成する必要があります。コレクションとは、ディレクトリおよびファイルのセットです。コレクションにより、検索アプリケーションのユーザーが Verity 検索エンジンを使用して、検索条件に一致するソースドキュメントをすばやく検索および表示することが可能になります。コレクションは、ファイル サーバー別に固有のフォーマットで格納されたソースドキュメントに対する統計値とポインタで構成されます。コレクションは単一の場所の情報しか格納できないため、PeopleTools では検索索引オブジェクトごとに複数のコレクションのセット(言語コードごとに1 つ)が管理されます。</p>

コンテキスト	<p>PeopleCode において、PeopleCode プログラムの実行中に、前後関係から見てどのバッファフィールドが参照可能か、各スクロールレベル上の現在のデータ行がどの行か、などを判断する基準を指します。</p> <p>PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、プロセスの実行範囲の決定に使用されるメカニズムを指します。PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、計画、期間、および実行レベルの 3 つのタイプが使用されます。</p>
コンテンツ参照	ポータルレジストリに登録されているコンテンツへのポインタです。通常は URL か iScript のいずれかになります。コンテンツ参照は、ターゲットコンテンツ、テンプレート、およびテンプレートページレットの 3 つのカテゴリに分類されます。
コントロールテーブル	アプリケーションの処理を制御する情報が格納されます。このような情報は、組織全体を通じて一貫している場合もあれば、データの共有がより限定され、組織の一部分によってのみ使用される場合もあります。
コンポーネント インターフェイス	API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) のセットであるコンポーネント インターフェイスを介すことにより、PeopleSoft クライアントを使用していなくても、プログラムを通じて PeopleSoft Enterprise データベース情報にアクセスしたりデータを修正したりすることができます。
サードパーティ	PeopleSoft によって認定され、PeopleSoft Enterprise アプリケーションと互換性のある製品やインテグレーションを提供する会社やベンダーです。通常は PeopleSoft Enterprise の製品に関して幅広い知識を持っています。
最適化エンジン	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングで使用される PeopleTools コンポーネントで、入札を評価して割り当てる、最適な落札金額を決定します。推奨落札金額は、購買と会社の目的および制約に従って価額が最大になるように設定されます。
作業指示	PeopleSoft Enterprise サービスプロキュアメントにおいて、サービスプロバイダとの契約の基本条件を指定する、リソースベースや成果物ベースの取引を作成できるようにします。サービスプロバイダと契約したら、そのサービスプロバイダは作業指示に従って時刻と進捗状況を記録します。
作業別歩留	PeopleSoft Enterprise 生産管理において、生産されるアイテムに対し、作業ごとの損失を見積もる機能です。
サブビジネスプロセス	ビジネスプロセスのサブセットです。たとえば、“資金管理”というビジネスプロセスのサブセットとして“キャッシュポジションの決定”というサブビジネスプロセスがあります。
サマリツリー	要約元帳内のレポートのタイプごとに勘定科目をロールアップするために使用されるツリーです。サマリツリーを使用すると、ツリーのツリーを定義できます。サマリツリー内の詳細値は、実際には詳細ツリーまたは別のサマリツリー (基本ツリー) 上のノードにあります。サマリツリーの構造によって、そのサマリツリーの土台となる詳細値が指定されます。
参加者	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、参加者は奨励報酬計算プロセスの受取人のことです。
参加者オブジェクト	各参加者オブジェクトは、1 つまたは複数の給与オブジェクトに関連付けられます。“給与オブジェクト”を参照してください。
参照オブジェクト	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、このディメンジョンタイプのオブジェクトによってビジネスをより詳細に定義します。参照オブジェクトには、製品ツリー、顧客ツリー、業種ツリー、地理ツリーなど、独自の階層を定義できます。
参照データ	PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、担当地域、参加者、製品、顧客、チャネルなどの販売単位を表すシステム オブジェクトのことです。

参照取引	コミットメントコントロールにおいて、より上位のレベルの（かつ通常はより最近の）ソース取引によって参照されるソース取引を指します。これは、参照先取引の予算チェック済み金額の一部または全てを自動的に取り消すために行われます。これにより、異なるコミットメントレベルで取引が順次入力される際に重複転記を防ぐことができます。たとえば、エンカンパランス取引（発注など）の金額が予算と比較してチェックおよび記録される際、同時に、対応するブレエンカンパランス取引（調達依頼など）の金額の一部または全てが参照され自動的に取り消されます。
資金	PeopleSoft Enterprise プロモーション マネジメントにおいて、プロモーション アクティビティへの資金を供給する予算です。資金供給方法には、トップダウン、固定計上、ローリング計上、ゼロ基準計上の4つがあります。
資産クラス	レポート目的に使用される資産グループです。資産区分と組み合わせて使用することにより、資産をさらに綿密に分類できます。
システム機能	PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、一般会計の会計入力がシステム内でどのように作成されるかを定義するアクティビティです。
システム ソース	<p>システム ソースによって、データベースの取引行のソースが識別されます。たとえば、PeopleSoft Enterprise 経費管理から開始するトランザクションには、システムソースコード“BEX”（経費管理バッチ）が含まれます。</p> <p>PeopleSoft Enterprise プロジェクトコスト管理で請求用のソース取引行の価格を設定すると、新規行のシステムソースを表すシステムソースコード“PRP”（プロジェクトコスト価格設定）が付いた行が作成されます。システムソースコードでは、PeopleSoft Enterprise システム内外のソースを表すことができます。たとえば、Microsoft Project から PeopleSoft Enterprise アプリケーションにデータをインポートするプロセスでは、ソースコード“MSP”（Microsoft Project）が付いた取引行が作成されます。</p>
実行レベルコンテキスト	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、特定のプロセス実行（およびバッチ ID）を期間コンテキストとプランコンテキストに関連付けるために使用します。特定のプロセス実行に関連する全てのプランコンテキストには個別の実行レベルコンテキストがあります。1つのプロセス実行が複数の期間にまたがることはできないので、各プランコンテキストには1つの実行レベルコンテキストだけが関連付けられます。
支払サイクル	PeopleSoft Enterprise 買掛金管理において、支払作成の際に、支払予定を選択するための基準を定義するルールセットを指します。
従業員/非従業員	ワークフォースの一員となる個人です。従業員または非従業員が含まれます。
重要度	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、イベント全体に対する行または質問の重要度を指します。重要度は入札のスコア付けと分析に使用します。RFx イベントとRFI イベントでは、重要度は入札者に示される場合と示されない場合があります。
出張グループ	PeopleSoft Enterprise 経費管理において、特定のビジネスユニット、部門または従業員に関連付けられる組織の出張規定および方針を指します。PeopleSoft Enterprise 経費管理の出張機能を設定する場合は、出張グループを1つ以上定義する必要があります。また、旅行会社には出張グループを1つ以上定義して関連付ける必要があります。
出張パートナ	PeopleSoft Enterprise 経費管理において、組織が契約関係を結んだ旅行会社を指します。
取得価格行	チャートフィールドのセットに対する原価取引と金額です。
条件	PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、与信限度額に達したり、ユーザー定義の未払残高を超えたりして、顧客の勘定のステータスが変更された場合に発生する状況を指します。

消費税対象外(非課税)	消費税の課税対象ではない商品やサービスを指します。消費税対象外の商品やサービスを提供する組織は、関連する仮払消費税を回収することはできません。これは、回収不能免除とも呼ばれます。
消費税保留	消費税支払の一時的免除を許可された組織を指します。
消費税免除(免税)	組織の性質を理由に消費税支払の永久的免除を許可された組織を指します。
消費税例外	組織に対して許可された、一時的または永久的な消費税支払免除のことです。これには、消費税免除と消費税保留の両方の状況が含まれます。
奨励オブジェクト	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、PeopleSoft Enterprise Incentive Management の計算プロセスと結果を定義およびサポートする、奨励関連のオブジェクトのことです(プランテンプレート、プラン、結果データ、ユーザー介入オブジェクトなど)。
奨励ルール	PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、取引に対して動作し、それらを報酬に変えるコマンドのことです。1つのルールは、取引を報酬に変えるプロセスの一部分です。
所在地	さまざまなタイプの住所を示すために使用します。たとえば企業の場合、請求書受け取り先、出荷先、郵送先などの各住所や、別の建物などを表すために使用できます。各住所には異なる所在地番号があります。1で表される主要所在地は、最も頻繁に使用する住所を示します。これは、主住所とは異なる場合があります。
シリアル/ロット構成	PeopleSoft Enterprise 生産管理において、シリアル管理アイテムの生産工程を追跡するための機能です。
シリアル/ロット生産管理	PeopleSoft Enterprise 生産管理において、製造アイテムのシリアル情報を追跡するための機能です。この情報は、アイテム マスターレコード内で管理されます。
シングルサインオン	シングル サインオンを使用すると、ユーザーは PeopleSoft Enterprise アプリケーション サーバーによる認証を受けた後、ユーザー ID やパスワードを再入力せずに2つ目の PeopleSoft Enterprise アプリケーション サーバーにアクセスできます。
シンジケート	会社のカタログの実用バージョンをパートナーに配布することです。
進捗ログ	PeopleSoft Enterprise サービス プロキユアメントにおいて、成果物ベースのプロジェクトを追跡するために使用されます。進捗ログは、タイム シートと同様に機能し処理されます。サービス プロバイダの担当者は、進捗ログを使用して成果物の進捗状況を記録および提出します。進捗状況は、実行されるアクティビティごとに記録するか、作業の完了率で記録するか、またはプロジェクトに対して定義されているマイルストーン アクティビティの完了ごとに記録することができます。
スコア	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングでは、イベントの入札要因に対する回答数(パーセント)を指します。スコアはオークション イベント入札者にのみ示されます。
ステージ	選択したパートナー オファーを、企業の他のパートナーからのオファーと統合する方法です。
ステップ	PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、プラン内のセクションのコレクションを指します。各ステップは、ジョブ実行に含まれる特定のステップに対応します。
スピードチャート	複数のチャートキーを指定するユーザー定義の省略キーです。支払伝票入力に使用されます。スピードチャート定義内の各チャートキーにパーセンテージを関連付けることもできます。
スピード入力	チャートフィールド値の組み合わせを表すコードです。スピード入力を使用すると、一緒に使用されることの多い複数のチャートフィールドを簡単に入力できるようになります。

製品	PeopleSoft Enterprise またはサードパーティの提供する製品を指します。PeopleSoft では、提供するソフトウェア製品を製品ファミリまたは製品ラインに分類しています。Interactive Services Repository には、PeopleSoft によって販売される全ての製品の各リリースに関する情報が提供されています。また認定されたサードパーティの製品についても情報提供されています。それぞれの製品は、製品名とリリース番号によって区別されています。
製品カテゴリ	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、PeopleSoft Enterprise Incentive Management 製品スイート内の 1 アプリケーションを指します。PeopleSoft Enterprise Incentive Management システム内の各取引は、特定の製品カテゴリに関連付けられます。
製品追加	製品 A を購入すると製品 B が無料または特定の価格で購入できるようにする価格設定機能です (以前の名称は “無償提供品”)。
製品ファミリ	共通の機能を持つ製品のグループを指します。Interactive Service Repository で検索に使用できる製品ファミリ名としては、オラクル社の PeopleSoft Enterprise、JD Edwards EnterpriseOne、JD Edwards World、サードパーティ (認定されたパートナー) があります。
製品ライン	PeopleSoft Enterprise 製品ラインまたは認定されたパートナー (サードパーティ) の会社名を指します。Integration Services Repository では、製品ラインごとにインテグレーション ポイントを検索することもできます。
制約	ソーシング イベントでの落札方法に関する業務方針またはルールです。制約には、ビジネス、グローバル、イベントの 3 つのタイプがあります。
積載	PeopleSoft Enterprise 在庫管理において、まとめて出荷される商品のグループを指します。積載管理は、重量、容積、および出荷先を追跡するために使用される PeopleSoft Enterprise 在庫管理の機能です。
セキュリティイベント	コミットメントコントロールにおいて、セキュリティ権限チェックをトリガするイベントです。たとえば、予算の入力、振り替え、および調整、例外の上書きと通知、照会などがあります。
セクション	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、特定のタイプの取引に対して適用される奨励ルールのコレクションを指します。セクションを使用することにより、プランをセグメント化して、異なるセクション内の論理イベントを処理することが可能になります。
セッション	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、1 つのアクティビティの各集合日を指します。つまり、1 日の開始時刻と終了時刻の間の時間です。セッションには、日付、場所、集合時刻、および講師の情報が格納されます。セッションはスケジュールの決められた研修に使用されます。
セッション テンプレート	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、アクティビティのスケジュール設定に繰返し使用できる共通のアクティビティ特性を設定したものです。共通の特性としては、曜日、開始/終了時刻、施設と教室の割当、講師、設備などが挙げられます。セッション テンプレートは、スケジュールを設定する対象のアクティビティに関連付けることができます。アクティビティにテンプレートを関連付けると、テンプレートの全てのデフォルト情報がアクティビティセッション パターンに入力されます。
設定パラメータカタログ	PeopleSoft Enterprise と連携する外部システムを設定するために使用されます。たとえば、設定パラメータカタログを使用して、外部サーバー用の構成および通信のパラメータを設定できます。
設定プラン	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、設定プランは共通の変数 (奨励ルールではありません) についての割当情報を保持するもので、参加者のないノードに関連付けられます。設定プランは取引によって処理されるものではありません。

設定リレーションシップ	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、任意のストラクチャノードに設定プランを関連付ける関係オブジェクトタイプを指します。
ゼロ税率/ゼロ消費税	税率が0パーセントの消費税コードを持つ消費税取引を指します。実際には消費税が課税されない消費税対象アクティビティを追跡するために使用されます。ゼロ税率の商品やサービスを供給する企業は、関連する仮払消費税を回収できます。これは回収可能免除とも呼ばれます。
先行タスク	次のタスクを開始する前に終了する必要があるタスクです。
ソーシング目標	制約において、ビジネスルールを必要(必須)にするか、推奨(目標)のみにするかを指定するオプションを指します。
ソース取引	コミットメントコントロールにおいて、コミットメントコントロールと統合された PeopleSoft Enterprise またはサードパーティアプリケーションで生成された取引で、コミットメントコントロール予算との比較チェックが可能な取引を指します。たとえば、プレエンカンパランス、エンカンパランス、支出、認識済収入、回収済収入などの取引がこれに当たります。
属性/値(ペア)	PeopleSoft Enterprise ディレクトリ インターフェイスにおいて、ディレクトリ情報ツリー内のエントリを構成するデータを表します。
代替勘定科目	PeopleSoft Enterprise 一般会計において、一部の国で必要とされる特別な記録方法や申告方法に従って、法定の勘定科目一覧表を作成したり勘定取引を詳細取引レベルで入力したりできる機能です。
台帳	PeopleSoft Enterprise 資産管理において、取得価額、減価償却属性、処分などの会計および税関連の情報を格納するために使用されます。
タイムスパン	PeopleSoft Enterprise 一般会計のさまざまな機能やレポートにおいて、特定の日付ではなく一定の期間が必要となき使用できる相対的な期間です。たとえば、会計年度の初めから今日までの期間や当期間などがあります。
代理入札	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、入札者の代わりに入札を行うことを指します。代理入札者は、入札者が指定した金額を下げたり上乗せして、その入札者が落札できるようにします。
タスク	詳細なソーシングプランの成果物アイテムです。
多通貨	ビジネスユニットの基本通貨以外の通貨で、取引を処理できる機能です。
段階価格	スケジュールを分割してそれぞれに異なる価格を設定できます。
短期顧客	テンプレートを使用した受注入力時に入力された、システムに登録されていない顧客です。
地域ソーシング	PeopleSoft Enterprise 購買管理において、複数の入荷先所在地を地域別にグループ化したソーシングモデルに基づいて、適切な取引先と取引先価格設定の構造を管理、表示、および選択するためのインフラストラクチャです。ソーシングは、入荷先所在地より上位のレベルで行われる場合もあります。
チェックブック	PeopleSoft Enterprise プロモーション マネジメントにおいて、資金やプロモーションに関連する財務データ(計画、発生、および実際の金額)を参照するために使用します。
チャートキー	テーブル内の各行を一意に識別するための1つまたは複数のフィールドです。テーブルによって、キーとなるフィールドが1つだけの場合もあれば、複数必要な場合もあります。
チャートフィールド	PeopleSoft Enterprise アプリケーションに応じて、勘定科目やリソースなどの一覧を格納するフィールドです。各チャートフィールド値は、個別の勘定科目番号や部門コードなどを表します。

チャートフィールド一致	特定のチャートフィールドを、取引の貸借が常に一致するよう指定することができます。
チャートフィールド組合せ編集	ユーザー定義のルールに基づき、有効なチャートフィールドの組み合わせに対して仕訳行を検証するプロセスです。
チャネル	PeopleSoft マルチチャネル フレームワークにおいて、電子メール、チャット、ボイス (CTI (Computer Telephone Integration)) などのイベントや汎用イベントを指します。
調整プラン	取引に複数の価格ルールが適合する場合の調整の役割を果たします。調整プランでは、取引の基本価格に適用する価格ルールの順序を決定します。
直接受領	倉庫または取引先から別の倉庫に出荷されるアイテムです。
直納	取引先または倉庫から顧客に直接出荷されるアイテムです。
ツリー	全ての会計単位 (社内部門、プロジェクト、レポーティンググループ、勘定科目番号など) 間の関係と要約上の階層を視覚的に表すために、PeopleSoft Enterprise システムで使用される階層です。
提供方法タイプ	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、組織内で選択可能なラーニング アクティビティの提供方法を示します。オンライン学習、教室での指導、セミナー、教本などがあります。このタイプによって、提供方法にスケジュール型のコンポーネントが含まれるかどうかが決まります。
提供方法/配送方法	<p>PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントでは、それぞれのラーニング アクティビティを提供するための主な方法を示します。また、ラーニング アクティビティのデフォルト値 (費用や言語など) も併せて指定されます。これは主に、学習者が最も適した提供方法をカタログで検索できるようにする目的で使用されます。PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントは混合型の学習システムなので、特定の提供方法を強制することはありません。</p> <p>PeopleSoft Enterprise サプライチェーン マネジメントでは、商品を出荷先へ送る手段 (トラック、航空、鉄道など) を示します。配送方法は、出荷スケジュールの作成時に指定されます。</p>
ディメンション	PeopleSoft 分析計算エンジンでは、分析モデルの基本的なコンポーネントとして、多岐にわたって使用される 1 種類のデータのリストがディメンションに格納されます。ディメンションは、分析モデル内で 1 つまたは複数のキューブに関連付けられます。PeopleSoft キューブ マネージャでは、OLAP キューブの最も基本的なコンポーネントとして、ディメンションの階層構造の作成に使用される PeopleSoft メタデータを指定します。PeopleSoft 分析計算エンジンで使用されるディメンションとデータキューブは、PeopleSoft キューブ マネージャで使用されるディメンションと OLAP (オンライン分析処理) キューブとは無関係です。
ディレクトリ情報ツリー	PeopleSoft Enterprise ディレクトリ インターフェイスにおいて、ディレクトリの階層構造を表します。
データエレメント	<p>最も単純なレベルでは、データのサブセットと、それらをグループ化するためのルールを定義するものです。</p> <p>ワークフォース アナリティクスでは、ワークフォース グループについてどのデータを取得し、どの測定値を適用するかをシステムに定義するルールを指します。</p>
データキューブ	PeopleSoft 分析計算エンジンにおいて、種類別にデータ (受注データなど) を格納するものです。データキューブは、1 つまたは複数のディメンションと併せて使用されます。PeopleSoft 分析計算エンジンで使用されるディメンションとデータキューブは、PeopleSoft キューブ マネージャで使用されるディメンションと OLAP (オンライン分析処理) キューブとは無関係です。
データ取得	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、外部のソースシステムから業務取引の生データを取得し、それをオペレーショナル データストア (ODS) に渡すプロセスのことです。

データセット	データをロールベースでフィルタリングおよび配布するためのデータグループです。データセットルールをユーザーロールに関連付けることにより、ユーザーごとに表示されるデータの範囲と量を制限できます。データセットルールを使用すると、ユーザーのロールに対して適切なデータのセットを取得できます。
テーブルセット	実際のデータ値は異なってもテーブルの構造が同じであるコントロールテーブル間で、類似する値セットを共有するための方法です。
テーブルセット共有	同じテーブルセットに基づく複数のテーブル内に格納されている共有データです。テーブルセット共有を使用しているテーブルには、追加キーまたは固有 ID として SETID フィールドが含まれます。
手配タスク	PeopleSoft Enterprise サービスプロキュアメントにおいて、サービスプロバイダを利用するにあたって発生する管理タスクを指します。手配タスクは、作業指示のサービスタイプにリンクされます。これにより、サービスのタイプに応じて異なる手配タスクを適用することができるようになります。手配タスクには、承認前タスク(新しい記章の割り当てや新しいノートパソコンの注文など)と承認後タスク(説明会のスケジュールリングやサービスプロバイダ宛て電子メールの設定など)があります。手配タスクは、必須にすることもオプションにすることもできます。必須の承認前タスクの場合、作業指示が承認される前に完了しておく必要があります。これに対し、必須の承認後タスクは、作業指示がサービスプロバイダにリリースされる前に完了しておく必要があります。
テリトリ	PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、地域、製品、顧客、業種、参加者などのビジネスオブジェクトの階層関係のことです。
店頭受取数量	店頭販売の環境で顧客が持ち帰る製品の数量です。
店頭販売	顧客との対面取引です。通常、顧客が店頭で商品を選んだり、事前に注文した製品を受け取ります。顧客は商品の代金を店頭で支払います。商品は倉庫から発送してもらう代わりに、店頭で受け取り自分で持ち帰ります。
テンプレート	特定の Web ページに関連付けられた HTML コードです。ページのレイアウトや、ページの各部に対応する HTML の取得場所が定義されます。PeopleSoft Enterprise では、テンプレートを使用して、多数のソースから HTML を連結して 1 つのページを構築します。PeopleSoft Enterprise ポータルでは、全てのテンプレートがポータルレジストリに登録され、各コンテンツ参照にはテンプレートが割り当てられている必要があります。
動的詳細ツリー	ユーザーによって入力された値の範囲からではなく、データベースのテーブルから詳細値(動的詳細)を直接取得するツリーです。
ドキュメント連番	法定レポートの作成や商取引アクティビティの追跡に使用する目的で、システム内の会計取引(請求、発注、入金、支払など)に連続した番号を柔軟に付けるための方法です。
特別価格設定	PeopleSoft Enterprise 受注管理において、価格ルールに関連付けられる調整プランタイプの 1 つです。特別価格設定は、受注取引の価格設定に使用されます。
トランスレートテーブル	データベース内のフィールドで、専用の編集テーブルを必ずしも持っていないさまざまなフィールドについて、コードとトランスレート値を格納するシステム編集テーブルです。
取引ステータス	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、給与ルールによって取引に割り当てられた値を指します。取引ステータスを使用すると、システム処理の特定のステージにある取引だけがセクションで処理されるようにすることができます。正常に処理された場合、取引は次の取引ステータスに更新され、別の処理を実行するために異なるセクションによって取得されます。
取引割当	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、取引のオーナーを識別するプロセスを指します。取引の生データがバッチからプランコンテキストに割

	り当てられると、取引は PeopleSoft Enterprise Incentive Management の取引テーブルにコピーされます。
トレース適用	PeopleSoft Enterprise 生産管理において、生産プロセス中にどの構成部品を追跡するかを制御する機能です。追跡できるのは、シリアル管理およびロット管理されている構成部品です。この情報は、アイテム マスターレコード内で管理されます。
入札回答	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングでは、イベントに対して入札者が回答することを指します。
入カイベント	PeopleSoft Enterprise 一般会計、売掛金管理、買掛金管理、購買管理、および請求管理において、単一の取引から生じる複数の借方および貸方を生成して、標準の補足会計入力を作成するビジネスプロセスです。
認証サーバー	システムのユーザーを確認するよう設定されたサーバーです。
ノードツリー	詳細構造に基づいているものの、詳細値は使用されないツリーを指します。
パートナー	ユーザー企業によって再販売または購入される製品やサービスを供給する企業を指します。
発生	PeopleSoft Enterprise プロモーション マネジメントにおいて、プロモーション関連の支払義務が発生することを指します。つまり、プロモーション アクティビティについて顧客にその金額を支払う義務があることを意味します。
パブリッシュ	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、奨励関連の結果を参加者に対して利用可能にする処理ステージのことです。
販売イベント	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、イベント作成者にとっては、商品やサービスを販売することを指し、通常はフォワードオークションに関連付けられます。入札者にとっては、商品やサービスを購入することを指します。
ビジネス アクティビティ	サブビジネス プロセスを構成するサブセットです。ビジネス プロセス内で実行する特定のトランザクション、タスク、アクションなどがこれに当たります。
ビジネス イベント	PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、手形アクティビティに対する売掛金更新プロセスの処理特性を定義します。 PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、PeopleSoft Enterprise Incentive Management イベント (販売など) の作成の妥当性を示す、元となるビジネス取引またはアクティビティを指します。
ビジネス タスク	ビジネス プロセスを構成する個々の機能です。
ビジネス プロセス	PeopleSoft Enterprise 製品ファミリでは、17 の標準ビジネス プロセスが定義および管理されています。これらのビジネス プロセスは、ビジネス プロセス エンジニアリング グループによってサポートされます。ビジネス プロセスの例としては、受注、契約、在庫管理と出庫、請求までの一連の流れを管理する“オーダーフルフィルメント”などが挙げられます。 サブビジネス プロセスの説明も参照してください。
ビジネス ユニット	経営上または会計上の役割という点で独立している、企業または企業のサブセットを指します。
ビジネス ユニット制約	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、選択したストラテジックソーシング ビジネス ユニットに適用される制約を指します。選択したストラテジックソーシング ビジネス ユニット内の全てのイベントにわたって支出が追跡されます。
評価ルール	PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、顧客の勘定や個別のアイテムの状況を評価して、フォローアップアクションを生成する必要があるかどうかを自動的に決定するためのユーザー定義ルールです。

ファクト	PeopleSoft Enterprise アプリケーションにおいて、ソース データベースや分析アプリケーションのフィールドから取得される数値データの値です。収益、実績、予算データ、売上など、業務を評価するためのあらゆる値がファクトに該当します。ファクトは、ファクトテーブルに格納されます。
フェーズ	レベル 1 のタスクを指します。タスクにサブタスクがある場合、レベル 1 のタスクはフェーズと見なされます。
複数帳簿	PeopleSoft Enterprise 一般会計において、1 つのビジネス ユニットに対し複数の基本通貨に対応する複数の元帳を定義することを指します。1 つの取引を全ての基本通貨(全ての元帳)に転記するか、1 つの基本通貨(1 つの元帳)に転記するかを選択できます。
複製	PeopleCode において、固有のコピーを作成することです。単なる“コピー”では、オブジェクトへの参照が新しく作成されるだけの場合もあり、その場合は元のオブジェクトが変更されると、コピーとオリジナルの両方が変更されます。
プランニング インスタンス	PeopleSoft Enterprise 供給管理において、供給計画の入力と出力を構成するデータのセット(ビジネス ユニット、アイテム、供給、需要)を指します。
プラン	PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、PeopleSoft Enterprise Incentive Management エンジンに取引の処理方法を指示する配賦ルール、変数、ステップ、セクション、および奨励ルールのコレクションのことです。
プラン コンテキスト	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、プラン コンテキストによって参加者がその割り当て先の給与プランとノードに関連付けられ、それにより、PeopleSoft Enterprise Incentive Management システムはそのノードに何が関連付けられているかや給与処理の実行に何が必要かを判断します。各参加者、ノード、およびプランの組み合わせは、固有のプラン コンテキストを表します。たとえば、3 人の参加者が同じ給与構造の場合、それらの参加者はそれぞれ異なるプラン コンテキストを持ちます。設定プランはプラン コンテキストによって識別され、それらを参照する参加者に関連付けられます。
プランチ	PeopleSoft ツリー マネージャで定義されたツリー階層において、上位ノードから分岐しているノードのことです。
プラン テンプレート	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、プランを作成するためのベースとなるものを指します。プラン テンプレートには、テンプレートから作成する全てのプランによって継承される共通のセクションと変数が含まれます。テンプレートにはまた、プラン定義内では確認できないステップやセクションが含まれる場合もあります。
プログラム	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、カタログ アイテムの各セクションの学習順序を示した大まかなグループ単位を指します。PeopleSoft Enterprise ラーニングシステムには、カリキュラムと認定という 2 つのタイプのプログラムがあります。
プロジェクト取引	PeopleSoft Enterprise プロジェクトコスト管理において、コスト、時間、予算、またはその他の取引行を表す個々の取引行を指します。
プロセス インスタンス	各プロセスリクエストを識別するための一意の番号です。この番号は自動的に増加しながら、プロセスリクエストの実行時に提出されたリクエストに割り当てられます。
プロセス カテゴリ	PeopleSoft プロセス スケジューラにおいて、サーバーのロード バランシングと優先順位を基準にグループ化されたプロセスを指します。
プロセス グループ	PeopleSoft Enterprise Financials において、ユーザーが取引入力ページからリアルタイムに直接開始できるアプリケーションプロセスのグループを指します。プロセスは、定義された順序で実行されます。

プロセスジョブ	複数のプロセス定義を1つのジョブリクエストに関連付け、各リクエストを連続または並行して処理します。また、先行するリクエストのリターンコードに応じて、後続のプロセスの開始を制御することができます。
プロセスタイプ	PeopleSoft プロセス スケジューラにおいて、プロセスの種類を識別します。たとえば、SQR のプロセスタイプには、SQR プロセスや SQR レポートなど、全ての SQR プロセスが含まれます。
プロセス定義	各実行リクエストを定義します。
プロセスランコントロール	ランコントロール ID を参照する全てのリクエストについて、実行時に必要となる PeopleSoft プロセス スケジューラの値を取得するための PeopleTools 変数です。アプリケーションランコントロールと混同しないよう注意してください。後者も同じランコントロール ID を使用して定義される場合がありますが、各アプリケーションプロセスリクエストに固有の情報だけが含まれます。
プロセスリクエスト	PeopleSoft プロセス スケジューラを通じて実行する単一の実行リクエストです。SQR (Structured Query Report)、COBOL またはアプリケーション エンジンプログラム、Crystal レポートなどがあります。
プロモーション	PeopleSoft Enterprise プロモーション マネジメントにおいて、通常、取引資金から資金供給され、消費財の売上を伸ばすために製造元によって行われるプロモーションを指します。
ページレット	ホームページ上のコンテンツの各ブロックをページレットと呼びます。ページレットは、ページ上の小さな四角形の領域内にサマリ情報を表示します。ページレットを使用することで、PeopleSoft Enterprise の内外を問わずユーザーに最も関連のあるコンテンツを提供することができます。
変数	PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、計算の中間結果を指します。変数は計算結果を保持し、後で他の計算に入力されます。変数は、エンジンの実行後も保持されるプラン変数である場合と、特定のセクションの処理中にだけ存続するローカル変数である場合があります。
編集テーブル	固有のレコード定義を持つデータベース内のテーブルです。たとえば、部門テーブルなどがあります。PeopleSoft Enterprise アプリケーションでフィールドに値が入力されると、システム全体を通じてデータの整合性を確保するために、編集テーブルと照合して値が検証されます。
ベンチマーク職務	PeopleSoft Enterprise ワークフォース アナリティクス ソリューションにおいて、職務に対する給与調査データがサードパーティ機関から公にされている職務コードを指します。
法定勘定科目	財務結果の記録と申告について行政当局から要求される勘定科目です。PeopleSoft Enterprise では、これは代替勘定科目 (ALTACCT) チャートフィールドに相当します。
ポータルレジストリ	PeopleSoft Enterprise アプリケーションにおいて、コンテンツ参照を編成、分類、および登録するためのツリー構造です。フォルダによる階層ツリー構造を使用して、ポータルの構造とコンテンツの両方を定義します。これにより、コンテンツ参照の整理とセキュリティの確保を効率的に行うことができます。
保管レベル	PeopleSoft Enterprise 在庫管理において、資材保管場所のレベルを識別します。資材保管場所は、ビジネスユニット、保管区域、および保管レベルで構成されます。保管レベルは4つのレベルまで設定できます。
保存済入札	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングにおいて、作成済みで提出していない入札を指します。落札資格を得られるのは、提出した入札のみです。
マーケットテンプレート	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、特定のマーケットや業種に固有のものとして、製品カテゴリの最上位に作成される補足機能のことです。

マッチンググループ	PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、売掛金アイテムとマッチング相殺アイテムのグループを指します。マッチンググループは、選択されたフィールド値に対するユーザー定義のマッチング条件を使用して自動的に作成されます。
未受付取引	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、データ喪失や不完全データなどが原因で割当処理の完了後にノードや参加者によって受け付けられなかった取引を指します。未受付取引は、給与管理者によって適切なノードまたは参加者に手動で割り当てられる場合があります。
未転記アイテム	PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、入力または自動作成されたものの、まだ転記されていない個々の売掛金（請求書、貸方メモ、償却など）を指します。
メタ SQL	メタ SQL のコンストラクトは、プラットフォーム固有の SQL サブ文字列に展開されます。これは、SQL オブジェクト、SQLExec 関数、PeopleSoft アプリケーション エンジン プログラムなどで、SQL 文字列を渡す関数で使用されます。
メタ文字列	SQL 文字列リテラルに含まれる特別な表現です。メタ文字列には、プレフィックスとしてパーセント記号(%) が付けられ、文字列リテラルに直接含まれます。実行時には、使用されているデータベースプラットフォームに対応する適切なサブ文字列に展開されます。
持分法	PeopleSoft Enterprise 一般会計において、親会社が1か月ごとに子会社の純利益を計算し、その金額を調整して、連結の実行前に投資額と資本収益額に反映させることができるビジネスプロセスです。
元帳マッピング	経費データを一般会計の勘定科目からリソース オブジェクトに関連付けるために使用します。複数の元帳行アイテムを、1 つまたは複数のリソース ID にマッピングできます。また、元帳マッピングを使用して、ビジネス ユニットに金額（レート）をマッピングすることもできます。金額をマッピングする際は、会計期間の実際のコストを表す実際金額と、キャパシティレートや予算モデル結果の計算に使用できる予算金額の2種類でマッピングできます。PeopleSoft Enterprise ウェアハウスでは、一般会計の勘定科目を EW 元帳テーブルにマッピングできます。
有効日	PeopleSoft Enterprise アプリケーション内の情報に日付を付ける方法です。システムに履歴データを追加するために過去の日付を指定したり、実際に有効になる前にデータを入力する場合は将来の日付を指定することもできます。有効日を使用することにより、古い値を削除せずに、新しい値を現在の有効日で入力できます。
ユーザー介入オブジェクト	PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management では、参加者が自分のコンテキストでアクセスできるレポーティング コンポーネントやレポートを定義するために使用します。PeopleSoft Enterprise Sales Incentive Management の全てのユーザー インターフェイス オブジェクトおよびレポートは、ユーザー介入オブジェクトとして登録されます。ユーザー介入オブジェクトは、給与関係オブジェクトを通じて（個別またはグループで）給与構造ノードにリンクすることもできます。
要約期間	PeopleSoft Enterprise ビジネスプランニングにおいて、他の要約期間や基本期間（四半期や年間）など、複数の期間の集合体である任意の期間を指します。基本期間はこれに該当しません。
要約チャートフィールド	特定の詳細値または選択したツリー ノードに基づいて、詳細金額をロールアップする要約元帳を作成するために使用します。詳細値がツリー ノードを使用して要約されている場合は、ノード名の最大長（20 文字）に対応するため、要約チャートフィールドを要約元帳データレコード内で使用する必要があります。
要約元帳	明細元帳からの勘定科目残高の合計を格納するため、主に配賦、照会、および PS/nVision レポート作成で使用される会計機能です。要約元帳を使用すると、レポート作成がリクエストされるたびに明細元帳の残高を集計する手間が省け、レポート作成の効率性とスピードが向上します。要約元帳には、ユーザー指定の条件に従ってバックグラウンドで処理された明細残高が保存されます。値が保存された要約元帳には、レポート作成時に直接アクセスできます。

予算会計のみ	システムによってのみ使用される勘定科目で、ユーザーが使用することはなく、取引を受け付けることもありません。この勘定科目では予算会計のみが可能です。以前は“システム管理勘定科目”と呼ばれていました。
予算期間	予算やレポート関連の目的で分割された時間の間隔です(月や四半期など)。チャートフィールドでは、1つの暦だけに制限されることなく、経営上の会計期間を非常に柔軟に定義できます。
予算コントロール	コミットメントコントロールにおいて、コミットメントと支出が予算を超過しないように管理する機能です。予算コントロールにより、予算額に対する取引額を追跡し、定義された予算条件が満たされない場合はドキュメントのサイクルを終了することができます。たとえば、発注に関連する予算の資金が足りない場合に、発注書が取引先に送付されるのを防ぐことができます。
予算チェック	コミットメントコントロールにおいて、コントロール予算元帳に照らし合わせてソース取引を処理し、取引がパスするかどうか、または警告付きでパスするかを検証するプロセスです。
予測アイテム	需要予測の基準として使用される需要データと予測データの固有のセットから成る論理要素です。予測アイテムは、さまざまな用途で作成されますが、最終的には組織内で購入、販売、または使用され、使用の予測が必要とされるアイテムを表します。
予約	PeopleSoft Enterprise 経費管理において、旅行会社に予約済みの出張予約を指します。
ラーニング環境	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、学習者グループが利用できるカテゴリやカタログ アイテムのセットを指します。また、ラーニング環境ごとに作成されるラーニング アクティビティやプログラムに割り当てられるデフォルト値も併せて定義されます。ラーニング環境を使用すると、カタログを区別化することにより、学習者からは自分たちに関連するアイテムしか見えないようにすることができます。
ラーニング コンポーネント	PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントにおいて、ラーニング アクティビティの基本構成単位を指します。PeopleSoft Enterprise ラーニング マネジメントでは、Web ベース、セッション、Webcast、テスト、調査、課題という6つのタイプのラーニング コンポーネントをサポートしています。この中の1つまたは複数のコンポーネントによって、1つのラーニング アクティビティが構成されます。
ライブラリ セクション	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、特定のプラン(またはテンプレート)で定義され、他のプランでも共有できるセクションのことです。ライブラリセクションに加えた変更は、それを使用する全てのプランに反映されます。
ランコントロール	プロセスを開始するために使用されるオンライン ページの1タイプです。プロセスの例としては、給与計算のバッチ処理などがあります。ランコントロール ページでは、通常データを操作するプログラムが開始されます。
ランコントロール ID	ユーザーとランコントロール テーブルのエントリを関連付ける一意の ID です。
理想回答	PeopleSoft Enterprise ストラテジックソーシングでは、入札する場合に、落札資格を得るためには回答を理想値と一致させる必要がある質問を指します。回答が理想値と一致していない場合、入札はできますが、不適格な入札と見なされ落札資格は得られません。
リモートデータ/ソースデータ	別のデータベースから抽出され、ローカルのデータベースに移行されたデータです。
流通業取引アクティビティ	PeopleSoft Enterprise プロモーション マネジメントにおいて、割引を受けるのに必要なパフォーマンスを定義する、取引のプロモーションに関連付けられた割引タイプを指します(請求時値引き、請求後値引き、一括支払など)。業界一般で使用されている用語では、オファー、値引き、販促イベント、戦術などに該当します。

旅程	PeopleSoft Enterprise 経費管理において、出張予約をまとめたものを指します。旅程には、選択した予約および旅行会社を通じた予約が表示されます。旅程に表示される予約は支払いが済んでいないため、“未完了予約”と呼ばれます。支払いが済んでいる予約は、“確認済予約”と呼ばれます。
リンクセクション	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、プラン テンプレートで定義されていて、特定のプランにも含まれるセクションを指します。リンク セクションに加えた変更は、そのセクションを使用している各プランに継承されます。
リンク変数	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、プラン テンプレートで定義および管理されていて、特定のプランにも含まれる変数を指します。リンク変数に加えた変更は、その変数を使用している各プランに継承されます。
累計	定義済みアイテムの処理時に、その累計値が格納されるエレメントです。累計エレメントには、単一または複数の値について、時間の経過に応じた累計値が格納されます。たとえば、全ての任意控除の金額が累計されるエレメント、または全ての会社控除の金額が累計されるエレメントなどを作成できます。これにより、期間やそれに基づく累計値を柔軟に処理できるようになります。
例外	PeopleSoft Enterprise 売掛金管理において、売上調整アイテムか未解決アイテムのいずれかを指します。
レコードグループ	論理的および機能的に関連付けられたコントロール テーブルとビューのセットです。レコード グループによって、重複するデータ入力を防ぐためのテーブルセット共有が可能になります。全ての関連するテーブルとビューにおいて、テーブルセットを一貫して共有できるようになります。
レコード名	1 つまたは複数の値が一致する関連フィールドを判別するのに使用されるレコードの名前です。
連結消去セット	PeopleSoft Enterprise 一般会計において、連結中に処理される会社間勘定科目のグループです。
ロール	PeopleSoft ワークフローにおける各ユーザーの役割を表します。ロールは、担当者や管理者など、行う作業のタイプごとに分類されるユーザーのクラスです。ビジネス ルールの定義では、通常、各アクティビティを行う必要のあるユーザー ロールを指定します。
ロールアップ	ツリー内で、階層に基づいて総額を計算することです。
ロール ユーザー	PeopleSoft ワークフローのユーザーです。個人のロール ユーザー ID は、システムの他の部分で使用されるユーザー ID とほぼ同じ目的で使用されます。PeopleSoft ワークフローでは、ロール ユーザー ID を使用して、ワークリスト アイテムをユーザーに送る方法(電子メールの使用など)を決定すると共に、ユーザーがワークフロー内で果たす役割を追跡します。ロール ユーザーには PeopleSoft ユーザー ID は必要ありません。
ワークシート	PeopleSoft Enterprise BAM(ビジネス分析モデラー) インターフェイスを使用してデータを分析する方法の 1 つです。ユーザーは、ワークシートを使用して、ピボットテーブル、チャート、メモ、および履歴情報に基づく詳細な分析を実行できます。
ワークセット	1 つのセットとして関連付けられる個人と組織のグループです。ワークセットを使用すると、個人と組織のグループのデータ取得と、取得した情報に対する作業を 1 つのページで同時に行うことができます。
ワークリスト	PeopleSoft ワークフローによって自動的に作成されるタスクリストです。ワークリストを使用すると、次のアクションの実行に必要なページに直接アクセスでき、その後再びワークリストに戻って別のアイテムを処理することができます。
割当ルール	PeopleSoft Enterprise Incentive Management では、システムが各ノードおよび関係者に取引を割り当てるために使用する、給与プラン内の式のことで、取引の割り当てを実行するとき、割当エンジンは、現在のノードからルー

割戻

トノードへと給与構造をトラバースし、割当ルールを含んだプランと比較して各ノードをチェックします。

卸売業界において、サプライヤとディストリビュータ間で取り交わされる契約を指し、この契約においては、指定した製品または製品グループが対象の顧客または顧客グループに販売された時点で、ディストリビュータに一定金額が支払われます。

索引

数字/記号

- 360 度ビュー 723
- API コール
 - グループビルドでの導入 798
- (AUS) オーストラリア
 - オーストラリア用デフォルトの設定 136
- AWE, 参照: 承認ワークフロー エンジン
- Benefits Administration
 - HRMS で使用する福利厚生機能の選択 132
- BuildMappingMessage 785
- BU オプション デフォルト ページ 217, 222
- Claeys (BEL) ページ 224, 237
- CLASS_ID
 - セキュリティ結合テーブルについて 58
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 99
 - データ取得とデータ権限セキュリティについて 45
 - フィールド値による権限リストへのデータアクセス権の付与 89
 - ユーザー セキュリティ データについて 51
- Customer Connection Web サイト xxxiv
- DEU
 - 産業調査コードの設定 365
- DS_CLEANTEMP プロセス 778
- DSMAPINPUT FullSync オーディット
 - ディレクトリのオーディット 779
- DSMAPINPUT FullSync プロセス
 - ディレクトリのロード 779
- DSMAPINPUT FullSync ロード
 - ディレクトリのロード 777
- DSMAPINPUT FullSync ロード プロセス
 - ディレクトリのロード 777
- DSMAPINPUT プロセス 778
- Email Address ページ 397
- EMPLOYEES (従業員) テーブル
 - リフレッシュ 439, 440
- 『Enterprise HCM Approval Workflow Engine』ガイド 573, 574, 636
- FLSA 支給期間
 - 定義 301
 - FLSA 支給期間定義ページ 303
 - FLSA 支給期間定義ページ (USA) 310
 - FTE 200
 - 関連項目: 常勤換算
 - GBP002 プロセス 750
 - GL ビジネス ユニット ページ 217
 - HCDL_ADMIN_ADD_DLG コンポーネント 639
 - HCDL_ADMIN_DLG コンポーネント 639
 - HCDL_BATCH コンポーネント 639
 - HCM インターフェイス レジストリ 453
 - HCM インターフェイス レジストリ ページ 454, 455
 - HCM サービス
 - インテグレーション ブローカーへのマッピング 486
 - マッピング (削除) 488
 - HCM サービス (インテグレーション ブローカーへのマッピング) 486
 - HCM 変換マップ ページ 483, 695, 697
 - HCR_EM_REGISTRY コンポーネント 497
 - HMCR_CONTENT_ADMIN コンポーネント 480
 - HMCR_IFC_REGISTRY コンポーネント 453
 - HMCR_SRV_TESTER コンポーネント 482
 - HMCR_WZ_REGSRV コンポーネント 466
 - HMTF_TRF_REGISTRY コンポーネント 483
 - HMTF_WZ_TRF コンポーネント 483
- HR 360 度ビュー 723
- HR_DR_UI_CFG コンポーネント 746
- HRMS インストール
 - HRMS オプションの選択 128
 - HRMS オプション ページ 126, 128
 - PeopleSoft 製品の選択 127
 - インストール済インテグレーション パック ページ 126
 - 開始番号の指定 137
 - 国情報の更新 143
 - 国情報の表示 143
 - 国別機能インストール ページ 127, 136

- 国別機能の選択 136
- 国別指定ページ 126, 134
- 国別情報の指定 145
- 国別情報の入力 134
- “グローバル ペイロールの国別機能”
ページ 126
- 産業別情報の入力 131
- サードパーティ アプリケーション用パラ
メータの定義 140
- サードパーティ/システム ページ 127,
140
- 自動採番ページ 127, 137
- 州情報の設定 147
- 住所フォーマットの指定 144
- 製品別情報の入力 131
- 製品別設定ページ 126, 131
- 製品ページ 126, 127
- 都道府県情報の設定 147
- フリガナの入力 141
- フリガナ ページ 127, 141
- 法定区域 148
- 法定区域の設定 147, 148
- ラン コントロール ページ – インストー
ル テーブル レポート 127
- HRMS インテグレーション ポイント, 参照:
インテグレーション ポイント
- HRMS オプション ページ 126, 128
- HRMS データ
 - 検証 439, 441, 443
 - リフレッシュ 439, 440, 441, 442
- HRMS レポート
 - 安全衛生モニター管理
リスト 887
 - オランダ給与管理レポート
リスト 848
 - 海外赴任管理
リスト 895
 - 概要 845
 - 基本
リスト 845
 - 基本福利厚生
リスト 859
 - 基本報酬と予算計画
リスト 891
 - キャリア プランと後任計画
リスト 890
 - 休暇欠勤管理
リスト 885
 - 給与パッケージ管理
リスト 849
- 教育・研修管理
リスト 850
- 公認資格認定管理
リスト 875
- コミットメント会計管理レポート一
覧 870
- 社有車管理
リスト 847
- 主要レポート
リスト 896
- 人事・労務管理
リスト 853
- 総合人件費
リスト 895
- フランス利潤分配
リスト 871
- プロファイル管理 875
- 変動報酬管理
リスト 876
- 報酬管理
リスト 848
- 法定提出書類用
リスト 879
- 法定提出書類用 (AUS)
リスト 882
- 法定提出書類用 (CAN)
リスト 883
- 法定提出書類用 (FRA)
リスト 883
- 法定提出書類用 (GBR)
リスト 884
- ポジション管理
リスト 874
- 労使関係管理レポート一覧 871
- HR_NP_CONFIG コンポーネント 759
- HR_PSS_CONFIG コンポーネント 756
- HRS_SJT_JO
セキュリティ結合テーブルについ
て 54
- セキュリティ結合テーブルのリフレッ
シュ 90, 96, 97
- HRS_SJT_JO 検索ページ 104, 112
- HR_SSTEXT_CFG コンポーネント 765
- HR_SSTEXT_TEXT コンポーネント 765
- [HR ステータス] フィールド 757
- HR データ
 - PeopleSoft ヘルプデスクでの表
示 723
- HR ノートパッド
HR ノートパッドについて 759

- HR ノートパッドの設定について 759
- アプリケーションの設定 760
- キーの設定 761
- テスト 764
- ナビゲーションの設定 763
- “HR ノートパッドの設定” (HR_NP_CONFIG)
- コンポーネント 759
- “HR ノートパッドの設定” (アプリケーションの選択) ページ 760
- “HR ノートパッドの設定” (キーの設定) ページ 760
- “HR ノートパッドの設定” (リンクの設定) ページ 760
- HR レポート
 - 安全衛生モニター管理
 - リスト 887
 - オランダ給与管理レポート
 - リスト 848
 - 海外赴任管理
 - リスト 895
 - 概要 845
 - 基本
 - リスト 845
 - 基本福利厚生
 - リスト 859
 - 基本報酬と予算計画
 - リスト 891
 - キャリア プランと後任計画
 - リスト 890
 - 休暇欠勤管理
 - リスト 885
 - 給与パッケージ管理
 - リスト 849
 - 教育・研修管理
 - リスト 850
 - 公認資格認定管理
 - リスト 875
 - コミットメント会計管理レポート一
 - 覧 870
 - 社有車管理
 - リスト 847
 - 主要レポート
 - リスト 896
 - 人事・労務管理
 - リスト 853
 - 総合人件費
 - リスト 895
 - フランス利潤分配
 - リスト 871
 - プロファイル管理 875
- 変動報酬管理
 - リスト 876
- 報酬管理
 - リスト 848
- 法定提出書類用
 - リスト 879
- 法定提出書類用 (AUS)
 - リスト 882
- 法定提出書類用 (CAN)
 - リスト 883
- 法定提出書類用 (FRA)
 - リスト 883
- 法定提出書類用 (GBR)
 - リスト 884
- ポジション管理
 - リスト 874
- 労使関係管理レポート一覧 871
- HTML
 - テキスト カタログ エントリを表示 772
- IBAN
 - 設定 321
- IBAN 国別設定ページ 322
- IBAN 情報
 - 設定 322
 - 編集 326
- ID
 - ID の削除の制限 439
 - 自動採番の指定 139
 - “ID 削除コントロール” ページ 439
- LDAP
 - HRMS データのロード 777, 779
 - HRMS における PeopleSoft ディレクトリ
 - インターフェイスの使い方 777, 781
 - サンプルと付属のサービス オペレー
 - ションへのアクセス 782
 - サンプル マッピングの使い方 782
 - ディレクトリ オーディット プロセスに
 - ついて 779
 - ディレクトリ ロード プロセスについ
 - て 777
 - 付属のサービス オペレーションの確
 - 認 783
- Microsoft Word
 - 定型文書での使い方 704
 - 定型文書に関する Winword セキュリ
 - ティの設定 706
 - 定型文書のマクロの変更 718
- NEM, 参照: 通知/エスカレーション マ
 - ネージャ (NEM)
- NID, 参照: 国民 ID タイプ

- Page Help ページ 530
- Payroll for North America
 - HRMS システム デフォルトの設定 132
 - HRMS のペイシート オプションの設定 133
- PeopleBook
 - 注文 xxxiv
- PeopleCode
 - 法定区域のトランザクション処理 34
- PeopleCode API コール
 - グループビルドでの導入 793, 795
- PeopleCode 関数
 - BuildMappingMessage 785
- PeopleCode の表記規則 xxxvi
- PeopleSoft アプリケーション エンジン
 - コール
 - グループビルドでの導入 798
- PeopleSoft ツリー マネージャ
 - 部門ツリーによるデータ セキュリティについて 80
- PeopleSoft ディレクトリ インターフェイス
 - HRMS データのロード 777, 779
 - HRMS における使い方 777
 - HRMS 用のライセンス 777, 781
 - サンプルと付属のサービス オペレーションへのアクセス 782
 - サンプル マッピングの使い方 782
 - ディレクトリ オーディット プロセスについて 779
 - ディレクトリ ロード プロセスについて 777
 - 付属のサービス オペレーションの確認 783
- PeopleTools
 - PeopleTools の HRMS オプションの設定 141
- PeopleTools オプション ページ 141
 - HRMS オプションの設定 141
- PeopleTools 診断フレームワーク
 - “ePerformance-パフォーマンス管理”の標準装備の診断プラグインの確認 806
 - PeopleTools 診断フレームワークについて 805
 - 基本福利厚生管理の標準装備の診断プラグインの確認 805
 - “基本報酬管理と予算計画”の標準装備の診断プラグインの確認 806
- 勤務管理の標準装備の診断プラグインの確認 810
- グローバル ペイロールの標準装備の診断プラグインの確認 807
- 標準装備の診断プラグインの確認 805
- PERSONAL_DATA
 - リフレッシュ オプションの設定 439, 440, 441
- PERSONAL_DATA (個人データ) テーブル
 - 将来日付のデータによるリフレッシュ 439, 440
 - リフレッシュ 439, 440
- Phone Information ページ 397, 400
- RegistryDoc (表示) 462
- REG_REGION
 - ヒューマン リソース管理トランザクションへの追加 35
- ROWSECCLASS
 - セキュリティ結合テーブルについて 58
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 99
 - データ取得とデータ権限セキュリティについて 45
 - フィールド値による権限リストへのデータアクセス権の付与 89
 - 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113
 - 部門セキュリティ ツリーの設定 80
 - 部門ツリーによるデータ アクセス権の行セキュリティ権限リストへの付与 87
 - ユーザー セキュリティ データについて 51
 - ユーザーへの割り当て 42
- RUNCTL_CITYUPDATE コンポーネント 365
- RUN_POSTAL_NLD コンポーネント 372
- SAC_AW_PRCs コンポーネント 592
- SCRTY_SJT_SBP
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 96, 97, 99
- SCRTY_TBL_DEPT
 - セキュリティ結合テーブルについて 58

- セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 99
 - 部門ツリーによるデータ アクセス権の行セキュリティ権限リストへの付与 87
 - SJT_CLASS
 - セキュリティ結合テーブルについて 58
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 99
 - フィールド値による権限リストへのデータ アクセス権の付与 89
 - SJT_CLASS_ALL
 - セキュリティ結合テーブルについて 58
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 99
 - SJT_DEPT
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 96, 97
 - SJT_DEPT 検索ページ 104, 111
 - SJT_OPR_CLS
 - セキュリティ結合テーブルについて 58
 - SJT_OPR_CLS リフレッシュ ページ 96, 100
 - SJT_PERSON
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 96, 97
 - SJT_PERSON_USF
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 90, 96, 97
 - SJT_PERSON_USF 検索ページ 104, 110
 - SJT_PERSON 検索ページ 103, 110
 - “SJT の夜間更新” ページ 96
 - SJT リフレッシュ ページ 96
 - SQL
 - クエリー結果の表示 688
 - クエリー条件の選択 686
 - クエリーの属性の選択 684
 - クエリーの保存とロード 688
 - クエリー ビルダーによる SQL クエリーの作成 681
 - 結果の属性のロード 686
 - 定義済みクエリーの実行 689
 - SQLView
 - 利用 479
 - SQLView インターフェイス (HCM、実装) 476
 - SS_LINK_TBL コンポーネント 747
 - SS コンポーネント インターフェイス設定 ページ 732, 734
 - USA
 - FICA 情報の入力 240
 - 税情報の入力 240
 - チップ割り当ての設定 238
 - Visio
 - 組織図 533
 - 組織図の作成 535, 537
 - Web ライブラリ 624
 - Word
 - 定型文書のマクロの変更 718
 - WORDSAMP プロセス 706
- あ**
- アクションステータスページ 338
 - アクセス/更新テーブルの分析レポート
 - アクセス/更新テーブルの分析レポートについて 444
 - 実行 445
 - トラブルシューティング 444
 - “アクセス/更新テーブル” ページ 445
 - [アクセス タイプ] フィールド 749
 - “値の選択” ページ 683, 687
 - アドホック承認 571, 587, 625
 - アドホック レビュー 572
 - アナリスト
 - 承認タスク 568
 - アプリケーション管理者への通知ルール設定 733
 - アプリケーション クラスの条件 600
 - アプリケーションの基礎 xxxiii
 - アメリカ (USA)
 - 送金元銀行の追加情報の設定 324, 327
 - チップ割り当ての設定 238
 - 安全衛生モニター管理
 - レポート
 - リスト 887
- い**
- イギリス (GBR)

- 銀行の設定 315
- 住宅金融組合の設定 315
- イギリス国民保険番号プレフィックス 373
- イタリア
 - 市区町村コードの設定 365
- 一時テーブル
 - 消去 778
 - 消去とロード 780
- 一時テーブル消去プロセス (DSMAPINPUT) 778
- “一般会計勘定科目テーブル” ページ 343
- 一般会計負債勘定 (USA/CAN) 225, 239
- 一般ページ - ロール 610
- 異動
 - セキュリティに関する注意事項 122
- 異動区分
 - マス アップデートの指定 551
- 異動理由
 - マス アップデートの指定 551
- 委任
 - 委任について 637
 - インストール設定 646
 - 管理 639, 653
 - 管理者によるリクエストの追加 652
 - 権限リストとロール (設定) 644
 - コンポーネント (移動) 642
 - 承認ワークフロー エンジンとの統合 638
 - 所属階層からの代理人の選択 662
 - 設定 637
 - 設定手順 641
 - セルフサービス 656
 - セルフサービスでの委任リクエストの作成 638
 - 代理権の管理 666
 - 代理人の管理 665
 - 通知 639
 - 使い方 637
 - 定義 567
 - 導入に際しての注意事項 641
 - トランザクションの設定 648
 - トランザクションの選択 661
 - バッチ リクエストの処理 656
 - 日付の入力 660
 - 標準の通知テンプレートの確認 669
 - 複数トランザクションの詳細の表示 668
- フレームワーク 638
- ヘルプ (表示) 659
- 有効化 583, 585
- [有効階層] 647
- 用意されているトランザクションの確認 651
- 用語 637
- リクエスト (職務の選択) 660
- リクエスト (送信) 664
- リクエストの辞退 (確認の表示) 668
- リクエストの受諾 (確認の表示) 667
- リクエストの詳細の表示 666
- リクエストの送信確認の表示 664
- ワークフロー トランザクションの登録 642
- “委任インストール設定” ページ 646
- “委任管理” - “委任について” ページ 657, 659
- 委任管理コンポーネント (HCDL_ADMIN_DLG) 639
- “委任管理” ページ 653, 657, 658
- “委任管理” - “リクエスト詳細” ページ 653
- 委任設定センター ページ 642
- 委任代理人
 - 管理 665
 - 所属階層からの選択 662
 - 名前による選択 663
- “委任トランザクション設定” ページ 649
- 委任リクエスト
 - 辞退確認の表示 668
 - 受諾確認の表示 667
 - 詳細の表示 666
- “委任リクエストの作成” - “委任の詳細” ページ 658, 664
- “委任リクエストの作成” - 確認ページ 664
- “委任リクエストの作成” - “職務名の選択” ページ 657, 660
- “委任リクエストの作成” - “代理人を階層から指定” ページ 658, 662
- “委任リクエストの作成” - “代理人を名前で指定” ページ 658, 663
- “委任リクエストの作成” - “トランザクションの選択” ページ 657, 661
- “委任リクエストの作成” - “日付の入力” ページ 657, 660
- “委任リクエストの辞退” ページ 658, 668

- “委任リクエストの受諾” ページ 658, 667
- “委任リクエストの詳細” ページ 658, 666
- 委任リクエストの追加コンポーネント (HCDL_ADMIN_ADD_DLG) 639
- “委任リクエストの追加” ページ 652
- イベント
 - イベント マネージャ フレームワークへの登録 499
 - インスタンスの確認 524
 - エスケーションの設定 621
 - 監視 523
 - 起動 521
 - サーバーへの関連付け 621
 - 承認 (アクションの例) 580
 - 承認設定 588
 - 承認 (定義) 566
 - ステータスの表示 622
 - 定義 497
 - テスト 517, 519
 - 登録 497
 - ログ削除オプション 622
- イベント インスタンス
 - 確認 524
 - サマリの表示 528
- イベント インスタンス (確認) 524
- イベント インスタンス (サマリの表示) 528
- イベント インスタンスの確認 524
- イベント (監視) 523
- イベント (起動) 521
- イベント サマリ
 - 表示 528
- イベント サマリの表示 528
- イベント (新規)
 - アプリケーション クラスの作成 498
 - 新規イベントについて 497
- イベント ステータス ページ 621, 622
- イベント タイプの定義ページ 621
- イベント定義ページ 498, 499
- イベント (テスト) 517, 519
- イベントの監視 523
- イベントの定義ページ 621
- イベントのテストについて 517
- イベント ハンドラ
 - 作成 503
 - 失敗 (表示) 529
 - テスト 517
 - 同期 493
 - 同期および非同期 495
 - 登録 513
 - 非同期 494
 - 例外の確認 527
- イベント ハンドラ クラス
 - 承認 580
- イベント ハンドラ (作成) 503
- イベント ハンドラ (失敗、表示) 529
- イベント ハンドラ (テスト) 517
- イベント ハンドラ (登録) 513
- イベント ハンドラ例外
 - 確認 527
- イベント ハンドラ例外の確認 526, 527
- イベント マネージャ
 - イベントとイベント ハンドラ 492
 - イベント マネージャについて 491
 - 拡張する場合のルール 496
 - 実装 496
 - 使い方 491
 - ノード (ローカルとリモート) 492
 - フレームワーク (利点) 491
- イベント マネージャ - アドホック テスト イベントの起動ページ 517, 519
- イベント マネージャ - イベント サマリ ページ 528
- イベント マネージャ - イベント ハンドラのテスト ページ 517
- イベント マネージャ コンポーネント
 - ヘルプの表示 530
- イベント マネージャ - ハンドラ エラー ページ 528, 529
- イベント マネージャ フレームワーク
 - イベントの登録 499
 - 利点 491
- イベント マネージャ - モニター ページ 524
- イベント モニター - ハンドラ ページ 524, 526
- イベント モニター - ハンドラ例外 ページ 524, 527, 528
- イベント (リモート) 495
- イベント レジストリ コンポーネント (HCR_EM_REGISTRY) 497
- イベント (ローカル)
 - 同期イベント ハンドラ 493
 - 同期イベント ハンドラと非同期イベント ハンドラ 495
 - 非同期イベント ハンドラ 494
- 依頼者
 - 承認トランザクションの送信 568

定義 566
 依頼者へ転送 572
 オプション設定 595
 印刷
 定型文書の準備 707, 717
 インストール
 PeopleSoft Enterprise HRMS 125
 インストール済インテグレーション パッ
 ク ページ 126
 インストール テーブル
 HRMS オプション ページ 126, 128
 インストール済インテグレーション パッ
 ク ページ 126
 国別機能インストール ページ 127,
 136
 国別指定ページ 126, 134
 “グローバル ペイロールの国別機能”
 ページ 126
 サードパーティ/システム ページ 127,
 140
 自動採番ページ 127, 137
 製品別設定ページ 126, 131
 製品ページ 126, 127
 導入デフォルトの設定 125
 フリガナ ページ 127, 141
 ラン コントロール ページ - インストー
 ル テーブル レポート 127
 インストール テーブル - 製品ペー
 ジ 127
 インターフェイス (HCM) 477
 SQLView の実装 476
 コンポーネントのプール 479
 サービスの実装 473
 サービスの登録 470
 実装 471
 仕様の入力 469
 新規 466
 タイプの実装 472
 登録 451, 466
 登録 (利用) 476
 例外の実装 475
 レジストリ (管理) 453
 インターフェイス (HCM、登録) 466
 実装 472
 利用 476
 インターフェイス サービス
 実装 473
 テスト 482
 インターフェイス サービス (実装) 473
 インターフェイス サービス (テスト) 482

インターフェイス仕様 (入力) 469
 インターフェイス タイプ (実装) 472
 インターフェイスの仕様ページ 467, 469
 インターフェイス例外
 実装 475
 インターフェイス レジストリ - 詳細ペー
 ジ 454, 458
 インテグレーション ブロカー
 HCM 変換フレームワークについ
 て 691
 基本メッセージ フォーマットについ
 て 693
 インテグレーション ポイント 787
 PeopleBook の参照先 790
 アクティブ化 788
 インテグレーションの特定 787
 機関テーブル 393
 チャートフィールド値 341
 チャートフィールドとチャートフィールド
 組み合わせ 333
 ローカル 788

え

エスカレーション
 イベントの設定 621
 通知 (概要) 620
 エラー ログ ページ 448
 エレメント定義
 周期の使い方 203

お

応募者データ セキュリティ
 データ アクセス権の設定 118, 120
 オブジェクト オーナー ID フィールド 745
 オブジェクト カタログ
 メタデータ リポジトリについて 671
 メタデータ リポジトリの管理 671
 オブジェクト クラス
 クラス関係の詳細の入力 678
 クラス属性の詳細の入力 677
 メタデータ オブジェクト クラスの定
 義 676
 メタデータ定義のインポート 681
 メタデータ定義のエクスポート 680
 “オブジェクト クラスの定義” ペー
 ジ 674, 676
 クラスの関係の詳細 674
 クラスの属性の詳細 674
 オペレータ データ

セキュリティ結合テーブルについて 54, 58
 セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 58, 90, 99
 ユーザー セキュリティ データについて 48
 オランダ
 郵便番号のロード 372
 オランダ給与管理レポート
 レポート
 リスト 848
 “オーディット - <レジストリ フォルダ ラ
 ベル>” ページ 454, 458

か

海外赴任
 セキュリティ アクセス タイプの使用可
 能設定 77
 データ権限セキュリティの導入 72
 海外赴任管理
 レポート
 リスト 895
 買掛金管理
 HRMS でのデフォルトの設定 133
 開始 (委任) 583, 585
 会社
 会社所在地の設定 260
 所在地の作成 253
 設定 223
 定義 225
 デフォルト情報の設定 227
 法人タイプの定義 224
 ルールの定義 243
 会社情報
 Claeys (BEL) ページ 224, 237
 一般会計負債勘定 (USA/CAN) 225,
 239
 会社所在地ページ 224, 225
 税詳細ページ (USA) 225, 240
 チップの処理ページ (USA) 224, 238
 デフォルト設定ページ 224, 227
 電話番号ページ 225, 242
 取扱機関 (BEL) ページ 224, 238
 ルール定義ページ 225, 243
 会社所在地
 設定 260
 会社所在地テーブル ページ 260
 “会社所在地のビジネス ユニット” ペー
 ジ 253
 会社所在地ページ 224, 225
 会社テーブル
 Claeys (BEL) ページ 224, 237
 一般会計負債勘定 (USA/CAN) 225,
 239
 会社所在地ページ 224, 225
 税詳細ページ (USA) 225, 240
 チップの処理 (USA) ページ 224
 チップの処理ページ (USA) 238
 デフォルト設定ページ 224, 227
 電話番号ページ 225, 242
 取扱機関 (BEL) ページ 224, 238
 ルール定義ページ 225, 243
 階層
 承認 (定義) 567
 ガイド
 承認ワークフロー エンジン 573, 574,
 636
 開発者
 承認タスク 568
 確認の送信
 ワークフロー 821
 確認ページ 658
 学齢
 概要 (JPN) 366
 計算 (JPN) 366
 設定 (JPN) 368
 “学齢テーブル JPN” ページ 368
 カタログ
 メタデータ リポジトリについて 671
 メタデータ リポジトリの管理 671
 カナダ
 送金元銀行の追加情報の設定 324,
 327
 カナダ (CAN)
 カナダ用デフォルトの設定 135
 カレンダー期間
 周期での使い方 206
 為替レート
 計算情報の表示 194
 為替レート詳細ページ 194
 関係会社チャートフィールド
 設定 346
 関係者
 セキュリティ アクセス タイプについ
 て 63
 セキュリティ セットについて 63
 データ権限セキュリティについて 44,
 63
 データ権限セキュリティの権限リストへ
 の割り当て 87, 88

部門セキュリティ ツリーに基づく管理
 者用データ権限プロファイルの作
 成 113
 部門ツリーによるデータ セキュリティ
 について 80
 マス アップデートでの選択 546
 関係者タイプ
 承認 590
 関係者タイプ テーブル ページ 212
 関係者データ
 マス アップデートでの選択 546
 マス アップデートを使った更新 539
 勘定科目チャートフィールド 341
 勘定コード, 参照: チャートフィールド
 勘定コード テーブル 355
 勘定コード テーブル ページ 355
 勘定コード ページ 355
 勘定コード ロード ページ 352
 監督者
 承認 (定義) 566
 管理
 承認 568
 管理者
 承認 (権限リスト) 624
 承認 (定義) 566
 管理者セルフサービス
 アクセス権限の決定 736
 管理者通知設定ページ 732, 733
 管理者デスクトップ トランザクション: 設
 定ページ 748
 管理者デスクトップ トランザクション ペ
 ージ 748
 管理者のデータ アクセス権
 部門セキュリティ ツリーに基づく管理
 者用データ権限プロファイルの作
 成 113
 管理対象事業所ページ 244
 関連ドキュメンテーション xxxiv

き

機関

HRMS 機関の PeopleSoft Enterprise
 買掛金管理との統合 393
 機関について 393
 銀行口座情報の設定 404
 支払オプションの設定 406
 住所情報の入力 402
 情報の入力 394
 所在地の入力 404
 設定 393

代替名の入力 403
 プレフィックスの指定 401
 保険証券情報の入力 408
 名称とクラスの入力 401
 連絡先の設定 407
 機関管理ページ 395, 401
 機関情報コンポーネント
 Email Address ページ 397
 Phone Information ページ 397, 400
 機関情報ページ 396, 401
 銀行口座ページ 398, 404
 銀行住所ページ 398
 コメント ページ 399
 支払オプション ページ 400, 406
 住所ページ 396, 402
 所在地ページ 397, 404
 代替名ページ 396, 403
 電話番号ページ 399
 保険証券情報ページ 401, 408
 連絡先ページ 400, 407
 機関情報ページ 395, 396, 401
 基本カタログ
 メタデータ リポジトリについて 671
 メタデータ リポジトリの管理 671
 基本クラス
 クラス関係の詳細の入力 678
 クラス属性の詳細の入力 677
 メタデータ基本クラスの定義 675
 メタデータ定義のインポート 681
 メタデータ定義のエクスポート 680
 “基本クラスの定義” ページ 674, 675
 クラスの関係の詳細 674
 クラスの属性の詳細 674
 基本通貨
 デフォルトの選択 130
 基本テーブル
 個人情報の設定 273
 市民権ステータス コードの定義 273
 基本福利厚生
 HRMS で使用する福利厚生機能の選
 択 132
 レポート
 リスト 859
 基本報酬と予算計画
 レポート
 リスト 891
 キャッシュ (テキスト カタログに対して
 有効化) 769
 キャリア プランと後任計画
 レポート

リスト 890
 キャンセルの送信
 ワークフロー 822
 休暇欠勤管理
 レポート
 リスト 885
 休日スケジュール ページ 215
 給与
 周期換算係数 199
 周期デフォルト 197
 マス アップデートでのデータの選
 択 546
 給与計算
 HRMS システム デフォルトの設
 定 132
 給与計算インターフェイス
 HRMS システム デフォルトの設
 定 132
 給与計算システムのデフォルト
 設定 269
 給与係数
 会社情報の入力 (BEL) 237
 給与コンポーネント設定 (JPN) 371
 “給与統計マッピングの定義” ペー
 ジ 388
 給与パッケージ管理
 レポート
 リスト 849
 給与プラン
 職務コードへの関連付け 297
 職務コードへの固定的賃金の給与
 レートコードの関連付け 297
 給与レート
 月次から隔週への換算例 202
 時間毎から月次への換算例 201
 常勤換算の定義 200
 職務データでの周期 202
 年次化係数の定義 199
 年次周期からの換算 201
 年次周期への換算 201
 標準勤務時間の定義 199
 標準勤務周期の定義 199
 他の周期への換算 198
 給与レートコード
 デフォルトの選択 130
 教育・研修管理
 レポート
 リスト 850
 行クラス セキュリティ
 データ権限セキュリティの導入 69, 72

行セキュリティ, 参照: データ権限セキュ
 リティ
 行セキュリティ権限リスト
 SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ 83
 応募者データへのアクセス権の設
 定 118, 120
 セキュリティ結合テーブルについ
 て 58
 セキュリティ結合テーブルのリフレッ
 シュ 90, 97, 99
 データ取得とデータ権限セキュリティ
 について 45
 フィールド値による権限リストへのデー
 タアクセス権の付与 89
 部門セキュリティ ツリーに基づく管理
 者用データ権限プロファイルの作
 成 113
 部門セキュリティ ツリーの設定 80
 部門ツリーによるデータアクセス権
 の行セキュリティ権限リストへの付
 与 87
 ユーザー セキュリティ データについ
 て 51
 ユーザーへの割り当て 42
 “行セキュリティの設定” ページ 115
 “行セキュリティのリフレッシュ” ペー
 ジ 96
 行セキュリティ権限リストのリフレッ
 シュ 83
 セキュリティ ツリーのリフレッシュ 83
 共通コンポーネント
 共通コンポーネントについて 745
 設定 746
 直属部下機能の設定 746
 共通の変更ページ 547, 549
 共通フィールド xxxix
 業務
 作業内容テーブル ページ 300
 職務コードへの関連付け 300
 “職務作業内容テーブル” ページ 300
 定義 299
 業務ユニット
 チャートフィールド 342
 業務ユニット ページ 344
 行レベル
 承認 571
 金額条件 600
 銀行
 (GBR) 銀行支店の設定 321
 (GBR) 設定 315, 317, 319

銀行支店住所ページ 318
 銀行/支店情報コンポーネント 315
 銀行支店の設定 320
 銀行支店 - ブラジル ページ 318
 銀行テーブル ページ 318
 “銀行の追加情報 CAN” ページ 327
 “銀行の追加情報 JPN” ページ 324,
 328
 “銀行の追加情報 USA” ページ 324,
 327
 支店テーブル ページ 318
 設定 315, 317, 318
 設定について 315
 送金元銀行口座ページ 324
 送金元銀行の定義 323, 324
 レポート 329
 銀行口座ページ 398, 404
 銀行支店
 (GBR) 設定 321
 銀行支店住所ページ 318
 銀行支店 - ブラジル ページ 318
 設定 315, 317, 320
 設定について 315
 レポート 329
 銀行支店住所ページ 318
 銀行/支店情報コンポーネント 315
 銀行支店 - ブラジル ページ 318
 銀行/支店レポート ページ 329
 銀行住所ページ 398
 銀行テーブル ページ 318
 “銀行の追加情報 CAN” ページ 324,
 327
 “銀行の追加情報 JPN” ページ 324,
 328
 “銀行の追加情報 USA” ページ 327
 勤務管理
 HRMS のペイシート オプションの設
 定 133
 勤務周期
 デフォルトの設定 129
 キー
 HR ノートパッド 761
 テキスト カタログ 765, 769
 テキスト カタログ (表示) 772

く

クエリー
 クエリー結果の表示 688
 クエリー条件の選択 686
 クエリーの属性の選択 684

クエリーの保存とロード 688
 クエリー ビルダーによる SQL クエリー
 の作成 681
 グループ ビルドの制約 797
 結果の属性のロード 686
 定義済みクエリーの実行 689
 動的ルール ユーザー クエリーの使
 い方 818
 クエリーの作成
 クエリー ビルダーについて 682
 “クエリーの保存/ロード” ページ 684,
 688
 クエリー ビルダー
 使い方 671
 “クエリー ビルダー” - 結果ページ 684,
 688
 “クエリー ビルダー” - 条件ページ 683,
 686
 国
 国コード, 参照: 国コード
 国のデフォルト値の入力 135
 国別機能の選択 136
 住所フォーマットの指定 144
 州の設定 147
 都道府県の設定 147
 有効な住所の指定 145
 国コード
 管理 142
 国民 ID タイプの割り当て 274
 設定 142
 レポート 143
 国情報
 更新 143
 国テーブル 142
 国名ページ 143
 住所フォーマット ページ 143, 144,
 145
 “有効な住所” ページ 143
 国別機能
 国別機能に対するアクセス権の設
 定 120, 121
 国別 (設定) 363
 セキュリティの設定 120, 121
 国別機能インストール ページ 127, 136
 国別機能 (設定) 363
 国別指定ページ 126, 134
 国別デフォルト
 オーストラリア用デフォルトの設
 定 136
 カナダ用デフォルトの設定 135

- 日本用デフォルトの設定 136
- 国名ページ 143
- 組合せコード, 参照: チャートフィールド
- 組合せコード検索ページ 358, 359
- 組合せコード テーブル
 - ロード 352
- “組合せコード テーブル” ページ 352, 353
- 組合せコード レポート ページ 352
- クラス関係
 - クラス関係の詳細の入力 678
- クラス属性
 - 詳細の入力 677
- “クラスの関係の詳細” ページ 674, 678
- “クラスの属性の詳細” ページ 674, 677
- クラス フィールド
 - チャートフィールド 342
- クラス フィールド ページ 344
- クラス メソッド
 - 直属部下 API 751
- グループ 411
 - 関連項目: グループ定義
 - NOGROUP グループ ID 412
 - PeopleCode API コールの導入 793, 795
 - PeopleSoft アプリケーション エンジン コールの導入 798
 - 会社と部門構造別の生成 427
 - 技術的な詳細情報 (開発者向け) 793
 - クエリーの制約 797
 - クライアント専用ワークフローの開発 799
 - グループ結果について 434
 - グループ定義の表示 425
 - グループに対するセキュリティ アクセスの有効化 428
 - グループについて 411
 - グループ ビルドでの管理者と承認者の指定 419
 - グループ ビルドに使用するクエリーの定義 415
 - グループ ビルドの使い方 411
 - グループ ビルド レポート 433
 - グループ ビルドを使用したアプリケーション 411
 - グループ別のセキュリティ アクセスの有効化 431
 - グループ メンバーの表示とソート 426
 - 結果の消去 434
 - 結果の表示 433
 - 絞り込み 432
 - 使用不可結果の消去 435
 - セキュリティについて 428
 - 設定 411
 - 設定手順の概要 412
 - 定義 417
 - 定義の設定 412
 - 定義の方法 413
 - デフォルト コンポーネントのセキュリティ アクセス 429
 - バッチ プログラムの作成 793
 - バージョンの使い方 802
 - バージョンの使い方 (開発者向け) 803
 - 複合グループ結果の表示 434
 - 部門構造別のグループの生成 415
 - 変動報酬用グループの作成 412
 - メンバー資格について 433
 - ユーザー別のセキュリティ アクセスの有効化 432
- グループ結果消去ページ 435
- グループ結果ページ 417, 426
- グループ条件ページ 417, 419
- グループ セキュリティ ページ 429
- グループ重複ページ 434
- グループ定義
 - 会社または部門別 415
 - クエリーの使い方 415
 - グループ条件の定義 419
 - グループ定義について 413
 - グループ定義のレコードとフィールドの選択 417
 - グループ定義へのグループ条件またはクエリーの指定 419
 - 設定 412
 - 定義と絞り込み 421
 - 表示 425
 - 有効日付きのデータの定義 425
- グループ定義ページ 417, 421
- グループビルド, 参照: グループ
 - グループ別のユーザー ID のロック 116, 118
 - ユーザー グループのユーザー ID の作成 116, 117
- グループビルド (GBP002) プロセス 750
- “グループビルド定義の表示” ページ 417, 425
- グループビルド ページ 417, 427
- グループ プロファイル ページ 417, 419
- グループ別セキュリティ ページ 429, 431

グループ メンバー リスト ページ 434
 グローバル セキュリティ アクセス
 設定 120, 121
 グローバル セキュリティの設定コンポー
 ネント
 除外コンポーネント ページ 121
 グローバル ペイロール
 周期 203
 “グローバル ペイロールの国別機能”
 ページ 126
 グローバル ペイロールのジェネレーショ
 ン コントロール周期テーブル
 PeopleSoft Enterprise グローバル ペイ
 ロールでの周期の設定 205
 グローバル ページ コンポーネント
 除外コンポーネント ページ 121
 “グローバル ページ” ページ 121
 軍
 所在地 259

け

警告 xxxvii
 警告条件 594, 597
 計算パラメータ ページ 303, 308
 計算ルール設定ページ 368, 371
 敬称サフィックス
 定義 281
 敬称サフィックス ページ 278, 281
 敬称プレフィックス
 定義 280
 敬称プレフィックス ページ 278, 280
 係数
 周期年次化係数の定義 199
 桁数
 通貨桁数拡張に伴うデータベースの
 拡張 191
 通貨の設定 189
 結果サマリ ページ 434
 “結果の属性” - 属性のロード ペー
 ジ 686
 “結果の属性” ページ 682, 684
 権限 (承認) 602
 権限のチェック 609, 612
 権限のないユーザー 602
 権限のないユーザーをスキップ 609,
 612
 権限リスト
 応募者データへのアクセス権の設
 定 118, 120

国別機能に対するアクセス権の設
 定 120, 121
 作成とユーザーへの割り当て 39, 40
 承認 623
 セキュリティ結合テーブルについ
 て 58
 セキュリティ結合テーブルのリフレッ
 シュ 90, 97, 99
 データ取得とデータ権限セキュリティ
 について 45
 フィールド値による権限リストへのデー
 タ アクセス権の付与 89
 部門ツリーによるデータ アクセス権
 の行セキュリティ権限リストへの付
 与 87
 ユーザー セキュリティ データについ
 て 51
 権限リスト別セキュリティ ページ 89
 言語
 PeopleSoft Enterprise HRMS のサポー
 ト 179
 グローバル ページ関連のフリガナ
 フィールド 182
 使用言語の設定 179
 “使用言語の設定” ページ 181
 使用言語の選択ページ 180
 設定 180
 全角文字
 システム設定 185
 使い方 181, 186
 全角文字システム アーキテク
 チャ 182
 使い方 179
 名前でソートするヒューマン リソース
 管理レポート 184
 フリガナ
 システム設定 185
 フリガナ システム アーキテクチャ 182
 フリガナ情報の入力 186
 フリガナ フィールドによるレコード検
 索 183
 フリガナを使ったレコード検索 187
 言語名ボタン 180
 検索 169
 個人 756
 検索キー ページ 381, 385
 “検索結果の権限” ページ 159, 167
 “検索結果の詳細” ページ 158, 166
 “検索結果の例外” ページ 159, 166
 検索結果ページ 158, 164, 174

検索結果ページ(手動検索結果) 170
 検索条件
 検索条件の選択 170
 検索条件ページ 170
 “検索の権限” ページ 158, 162
 検索パラメータ
 定義 161
 検索パラメータ ページ 158, 161
 検索ビュー
 データ取得とデータ権限セキュリティ
 について 45
 “検索ビューの検索” ページ 103, 104
 検索/マッチング 155
 結果の表示 174
 使い方 169
 検索/マッチング結果フィールド ペー
 ジ 158, 163
 検索/マッチング ページ
 検索結果ページ 174
 検索条件ページ 170
 検索/マッチング ルール ページ 158,
 159
 検索レコード
 データ権限セキュリティについて 45
 研修の承認イベント
 ワークフロー 819
 研修リクエスト イベント (CSE)
 ワークフロー 820
 研修リクエスト イベント (SCE)
 ワークフロー 820
 研修リクエスト イベント (ST)
 ワークフロー 821
 研修リクエストの承認イベント
 ワークフロー 819
 兼務
 兼務用データ権限セキュリティの導
 入 72
 セキュリティ アクセス タイプの使用可
 能設定 77
 データ権限セキュリティの導入 72
 兼務 (JPN)
 兼務用データ権限セキュリティの導
 入 72
 セキュリティ アクセス タイプの使用可
 能設定 77
 データ権限セキュリティの導入 72

こ

コア CI 呼出ページ 448
 コア セキュリティ ビュー

データ取得とデータ権限セキュリティ
 について 45
 ご意見 xxxviii
 公認資格認定管理
 レポート
 リスト 875
 公認資格認定管理の雇用終了ワークフ
 ロー 840
 公認資格認定管理の再認定ワークフ
 ロー 839
 公認資格認定管理の採用ワークフ
 ロー 837
 公認資格認定管理の職務変更ワークフ
 ロー 839
 公認資格認定管理の追加ワークフ
 ロー 838
 公認資格認定管理の分類変更ワークフ
 ロー 838
 国際銀行口座番号ページ 326
 国民 ID タイプ
 国コードの割り当て 274
 設定 274
 定義 274
 国民 ID タイプ テーブル ページ 274
 “国民 ID プレフィックス (GBR)” ペー
 ジ 374
 “国民 ID プレフィックス詳細” ペー
 ジ 374, 375
 国民保険番号プレフィックス (GBR) 373
 国民保険番号プレフィックスの設定
 (GBR) 373
 個人
 HRMS における個人構造とポジション
 構造の比較 5
 個人検索 756
 コンポーネントの設定 756
 テスト 758
 個人検索 - 単純検索ページ 756
 個人検索の設定 (HR_PSS_CONFIG) コ
 ンポーネント 756
 “個人情報の設定” ページ 440, 441
 個人単純検索
 個人検索 756
 個人データ
 個人情報コンポーネントに対するリフ
 レッシュ オプションの設定 439, 440,
 441
 将来日付のデータによるリフレッ
 シュ 439, 440
 マス アップデートを使った更新 539

リフレッシュ 439, 440
 “個人データの更新” ページ 440
 “個人データのリフレッシュ” ページ 440
 個人の ID
 検索 169
 検索/マッチング 169
 固定的賃金外の給与レートコード
 職務コードへの関連付け 299
 固定的賃金外ページ 287, 299
 固定的賃金の給与レートコード
 職務コードへの関連付け 297
 コマンドチェーン モード(直属部下) 747
 コミットメント会計
 部門への適用 266
 “コミットメント会計/E&G” ページ 262, 266
 コミットメント会計管理
 レポート一覧 870
 コメント
 承認 632
 コメント ページ 399, 417
 [雇用形態] フィールド 758
 ご要望 xxxviii
 コンテンツ管理ページ 480
 コントロール テーブル
 HRMS コントロール テーブルの設定 3
 コンポーネント
 承認 574
 コンポーネント インターフェイス
 CI_BANK_EC 317
 セルフサービスのルールの設定 734
 テスト 448
 コンポーネント インターフェイス (テスト) 448

さ

最終小切手プログラム
 支給グループ 309
 再送信
 承認 631
 [最大表示行数] フィールド 757
 採用
 セキュリティに関する注意事項 122
 採用管理ソリューション
 応募者データへのアクセス権の設定 118, 120
 採用管理の行レベル セキュリティ
 応募者データへのアクセス権の設定 120

“採用管理の行レベル セキュリティ” ページ 119

採用管理の人材募集

応募者データへのアクセス権の設定 118, 120
 セキュリティ アクセス タイプについて 63
 セキュリティ セットについて 63
 データ権限セキュリティについて 44, 63
 データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て 87, 88
 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113
 部門ツリーによるデータ セキュリティについて 80

再割当

マス再割当 629

作業内容テーブル ページ 300

差押機関テーブル

Phone Information ページ 400

連絡先ページ 400, 407

差押機関テーブル コンポーネント

Email Address ページ 397

Phone Information ページ 397

機関情報ページ 396, 401

銀行口座ページ 398, 404

銀行住所ページ 398

コメント ページ 399

支払オプション ページ 400, 406

住所ページ 396, 402

所在地ページ 397, 404

代替名ページ 396, 403

電話番号ページ 399

差し戻し 572, 631

サブ ID フィールド 745

サフィックス

氏名サフィックスの入力 280

サマリ ページ - マス アップデート定義 547

産業アクティビティ ページ (ESP) 373

産業調査ページ (DEU) 365

サードパーティ

デフォルトの設定 140

サードパーティ/システム ページ 127, 140

サードパーティのアプリケーション

パラメータの定義 140

サービス (Web) 488

サービス インターフェイス
 呼び出し 477
 サービス テスタ コンポーネント
 (HMCR_SRV_TESTER) 482
 サービス テスタ ページ 482
 サービス (呼び出し) 477
 無効データ チェックの設定 478
 サービス呼び出し (無効データ チェック
 の設定) 478
 サービス レジストリ コンポーネント
 (HMCR_IFC_REGISTRY) 453
 サービス レジストリの管理コンポーネント
 (HMCR_CONTENT_ADMIN) 480

し

支給
 支給グループに対する定義 310
 支給グループ
 FLSA 支給期間定義ページ 303
 FLSA 支給期間の設定 303
 管理 301
 支給グループ ページ 313
 設定 301, 302, 303, 305, 308
 設定について 301
 レポートの実行 312
 支給グループ テーブル 301, 302
 計算パラメータ ページ 303, 308
 定義ページ 303
 プロセス コントロール ページ 303,
 305
 支給グループ テーブル ページ 301
 支給グループ ページ 313
 事業所
 定義 243
 電話番号の設定 251
 プロファイルの作成 244
 事業所住所ページ 244
 事業所テーブル
 管理対象事業所ページ 244
 事業所住所ページ 244
 電話番号ページ 244, 251
 資金コード
 チャートフィールド 341
 資金コード ページ 344
 市区町村コード
 (ITA) 設定 365
 市区町村テーブルのロード ITA コンポー
 ネント (RUNCTL_CITYUPDATE) 365
 自己承認 572, 603, 604, 629, 631
 市場給与

給与統計データのマッピング 388
 “給与統計マッピングの定義” ペー
 ジ 388
 検索キー ページ 381, 385
 市場給与データの職務コードへの関
 連付け 389
 “市場給与データのロード” ペー
 ジ 388, 391
 市場給与について 377
 “市場給与の一致” ページ 388, 390
 “市場給与の職務コードへの関連付
 け” ページ 388
 事前設定 379
 出力ページ 381, 385
 手動によるデータのロード 392
 条件指定マトリックス キーのロー
 ド 381
 職務コード テーブルを使用した職務
 コードへの関連付け 390
 職務コード別市場給与データの表
 示 392
 職務コード別市場給与レポート ペー
 ジ 388
 職務コードへの関連付け 287
 地域の定義 381
 “地域の定義” ページ 381
 “データの内容” ページ 381, 386
 入力ページ 381, 383
 表示ページ 381, 387
 ファイルからの市場給与データのロー
 ド 391
 プロセス フローについて 377
 フロー図 377
 マトリックスについて 380
 “マトリックスの定義” ページ 381, 382
 ワークフォース リワードからのデータ
 のロード 391
 “市場給与データのロード” ページ 388,
 391
 “市場給与の一致” ページ 287, 388,
 390
 “市場給与の職務コードへの関連付け”
 ページ 388, 389
 システム エLEMENT
 周期での使い方 207
 システム デフォルト
 システム デフォルトとビジネス ユニッ
 トの関連付け 24
 違いについて 27
 ビジネス ユニット デフォルト 25

- システム データ規定
 - 計画 10
 - システム データ規定について 9
 - セットID 18
 - テーブルの設定 10
 - ビジネス ユニット 10, 12, 18, 24, 25, 27
 - ビジネス ユニットとセットID の設定 10
- システム ワークフロー ルール ページ 741, 742
- 事前設定 (承認) 577
- 市町村更新ページ 365
- 実装ページ 467, 471
- 失敗したイベント ハンドラ
 - 表示 529
- 失敗したイベント ハンドラ (表示) 529
- 支店テーブル ページ 318, 320
- 自動採番ページ 127, 137
- 自動承認 572, 595, 629, 631
- 支払オプション ページ 400, 406
- 市民権ステータス
 - 定義 273
- 市民権ステータス コード
 - 定義 273
- 市民権ステータス テーブル ページ 273
- 氏名
 - サフィックスの設定 276
 - 氏名表示のリフレッシュ 439, 441, 442
 - タイプの設定 276
 - プレフィックスの設定 276
- 氏名サフィックス
 - 敬称サフィックスの定義 281
 - 入力 280
- 氏名サフィックス ページ 278, 280
- 氏名情報
 - 敬称サフィックスの定義 281
 - 敬称情報の設定 276
 - 敬称プレフィックスの定義 280
 - 氏名サフィックスの入力 280
 - 氏名タイプの入力 278
 - 氏名プレフィックスの入力 279
- 氏名タイプ
 - 入力 278
- 氏名タイプ テーブル ページ 278
- "氏名表示のリフレッシュ" ページ 441, 442
- 氏名フォーマット テーブル ページ 278
- 氏名プレフィックス
 - 作成 278
 - 入力 279
- 氏名プレフィックス ページ 278, 279
- 社有車管理
 - レポート
 - リスト 847
- 州
 - 設定 147
- 周期
 - PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールのジェネレーション コントロール周期テーブル 205
 - PeopleSoft の標準周期 195
 - エレメント定義での使い方 203
 - カレンダー期間での使い方 206
 - 給与計算での使い方 203, 205, 206, 207
 - 給与レートでの使い方 198
 - 給与レートに対する標準勤務時間の定義 199
 - 給与レートに対する標準勤務周期の定義 199
 - 給与レートの年次化係数の定義 199
 - 国別デフォルトの設定 209
 - グローバル ペイロール 203
 - グローバル ペイロールでの例 206
 - システム エレメントでの使い方 207
 - 周期 ID の定義 208
 - 周期タイプの定義 208
 - 周期テーブル ページ 208
 - 周期年次化係数の定義 208
 - 常勤換算 200
 - 職務データでの給与 202
 - 使い方 195
 - 定義 207
 - デフォルト周期ページ 208, 209
 - ヒューマン リソース管理の周期テーブル 205
 - レートコードでの使い方 207
- 周期 ID
 - 周期 ID について 195
- 周期テーブル ページ 208
- 周期年次化係数
 - 定義 199
- 従業員
 - 承認 (権限リスト) 624
 - マス アップデートでの選択 546
- 従業員 ID
 - ID の削除の制限 439
 - 自動採番の指定 139
- 従業員データ

- 従業員各自によるデータ更新の許可 122
- セキュリティ アクセス タイプについて 63
- セキュリティ セットについて 63
- データ権限セキュリティについて 44, 63
- データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て 87, 88
- 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113
- 部門ツリーによるデータ セキュリティについて 80
- マス アップデートでの選択 546
- マス アップデートを使った更新 539
- 住所タイプ
 - 定義 281
 - 入力 282
- 住所タイプ テーブル ページ 282
- 住所フォーマット
 - 国別指定 144
- 住所フォーマット ページ 143
- 住所ページ 253
- 住所ページ - 機関情報コンポーネント 395, 396, 402
- 住所ページ - 所在地 253
- 終身在職権処理
 - 部門への適用 266
- 住宅金融組合
 - (GBR) 設定 315
 - 設定 317
- 出力されたドキュメンテーション xxxiv
- 出力ページ 381, 385
- 主要レポート
 - リスト 896
- 常勤換算
 - 定義 200
- 条件
 - 承認ステップ定義 603
 - 承認(定義) 567
 - 承認パス定義 601
 - 承認プロセス定義 594, 597
- "使用言語の設定" ページ 181
- 使用言語の選択ページ 180
- 条件指定マトリックス キーのロード 381
- "条件属性ツリー" ページ 683
- 条件定義ページ 592, 597, 610
- "条件の保存" ページ 683
- "条件のロード" ページ 684
- 小数
 - 多通貨の桁数の変更 189
 - 通貨桁数拡張に伴うデータベースの拡張 191
 - 通貨桁数機能のアクティブ化 190
 - 通貨桁数とレポート作成 190
- 承認
 - NEM の設定 620
 - 概要 565
 - 管理 625, 627, 630
 - 事前設定(トランザクション登録) 577
 - 情報ソース 573
 - 処理レベル 569
 - ステータス モニター設定 581
 - セキュリティの設定 623
 - 設計 569
 - 設定と使用 565
 - セルフサービストランザクション 634
 - 他の機能 571
 - 通知テンプレートの設定 613, 614
 - トランザクション設定 585, 586
 - ナビゲーション 574
 - ビジネス プロセス フロー 567
 - ユーザーの設定 615, 617, 618
 - 用語 565
 - ワークフロー トランザクションのリンク 582, 583
- 承認/委任ページ 575, 642
- 承認イベント
 - 定義 566
 - ハンドラ クラス 580
- 承認オーディット レポート (AWEAUDIT)
 - 概要 632
 - サンプル 634
 - 生成 633
- 承認オーディット レポート ページ 633
- 承認階層 567
- 承認管理者 623
 - 定義 566
 - トラブルシューティング 625, 627, 630
 - ロールの選択 594
- 承認権限
 - 動的 609, 611
- 承認権限ページ 610, 611
- 承認コメント 573
- 承認者
 - 定義 566
 - リクエストに対するアクションの実行 569
- 承認条件 567

- 承認ステップ 566
 - 設定 602
- 承認ステップ定義ページ 592, 602, 610
- 承認ステージ 566
 - 設定 592
- 承認ステータス 566
- 承認ステータス ページ 635
- 承認設定センター ページ 575
- 承認トランザクション
 - 承認レベル 581, 582
 - ジョブの選択 636
 - 設定 568, 585, 586
 - 登録 568, 575, 577
 - トラブルシューティング 568
 - 標準プロセス ID 575
 - リクエストの確認 635
 - ワークフロー リンク 582, 583
- 承認トランザクション リクエスト
 - アクションの実行 631, 634
- 承認の委任 585
- 承認のモニター ページ 627, 630
- 承認パス 566
 - 設定 601
- 承認パス定義ページ 592, 601, 610, 611
- 承認プレビュー ページ 592
- 承認プロセス
 - 図 570
 - 定義 565
 - 動的 609
 - パスの定義 601, 602
 - 標準 575
- 承認プロセス コンポーネント (SAC_AW_PRCS) 592
- 承認プロセス定義
 - HRMS の例 605
 - 条件定義 597
 - 設定 568, 591, 592
 - 定義 566
- 承認プロセスのコピー ページ 592
- 承認レベル 581, 582
- 承認ワークフロー エンジン
 - HRMS トランザクションの見直し 573
 - 概要 567
 - 定義 565
 - トランザクション登録 575, 577
 - トランザクションの送信 569
 - ワークフロー リンク 583
- 承認ワークフロー エンジン管理者 623
 - 定義 566
 - トラブルシューティング 625, 627, 630
- ロールの選択 594
- 使用不可結果消去ページ 435
- 将来の日付のセキュリティ行
 - データ権限セキュリティの導入 72
- 除外コンポーネント ページ 121
- 職種コード
 - 職種テーブル ページ 283, 284
 - 定義 283
- 職種テーブル ページ 283, 284
- 職能等級管理
 - 職務コード (JPN) 286
- 職務
 - HRMS における個人構造とポジション
 - 構造の比較 5
 - 業務の定義 299
 - 作業内容テーブル ページ 300
 - 支給グループの設定 301, 302, 303, 305, 308
 - 職種コードの設定 284
 - 職種コードの定義 283
 - 職種テーブル ページ 283, 284
 - 職務系列の設定 285
 - 職務系列へのグループ化 285
 - 職務コード テーブル - 固定的賃金外 ページ 287, 299
 - 職務コード テーブル - デフォルト給与 ページ 287, 297
 - 職務コード テーブル - 評価基準ページ 287, 294
 - 職務コードと職能等級管理 (JPN) 286
 - 職務コードとポジションについて 286
 - 職務コードの作成 285
 - 職務コードのビジネス ユニット ページ 287
 - 職務コードの分類 285
 - 職務コード プロファイル ページ 287
 - “職務作業内容テーブル” ページ 300
 - 設定 283
 - 補助職種コードの設定 284
 - 補助職種ページ 283, 284
- 職務機能アナリスト
 - 承認タスク 568
- 職務系列
 - 職務のグループ化 285
 - 設定 285
- 職務系列ページ 285
- 職務コード
 - 給与プランとの関連付け 297
 - 業務との関連付け 300

- 固定的金銭外の給与レートコードとの関連付け 299
- 固定的金銭の給与レートコードとの関連付け 297
- 作成 285
- 職能等級管理 (JPN) 286
- 職務コードとポジションについて 286
- “職務作業内容テーブル” ページ 300
- 職務の分類 285
- 追加 287
- 評価基準の点数の割り当て 294
- ラン コントロール ページ - 職務コードテーブル レポート 313
- レポートの実行 312
- 職務コード テーブル
 - 固定的金銭外ページ 287, 299
 - 職務コードのビジネス ユニット ページ 287
 - 職務コード プロファイル ページ 287
 - デフォルト給与ページ 287, 297
 - 評価基準ページ 287, 294
- 職務コードのビジネス ユニット ページ 287
- 職務コード プロファイル ページ 287
- 職務コード別市場給与レポート ページ 388, 392
- “職務作業内容テーブル” ページ 300
- 職務データ
 - アクセス権を制御するデータについて 48
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 54, 90, 96, 97
 - マス アップデートでの選択 546
- 所在地
 - 会社所在地の設定 260
 - 作成 253
 - 設定 252
 - プロファイルの設定 254
- 所在地 (軍)
 - 設定 259
- 所在地住所ページ - 所在地 MIL 259
- 所在地住所ページ - 所在地テーブル MIL 259
- 所在地詳細 BRA ページ 253
- 所在地テーブル 252
- “会社所在地のビジネス ユニット” ページ 253
- 住所ページ 253

- 電話番号ページ 253
- プロフィール ページ 253, 254
- 所在地ページ 397, 404
- 所在地ページ - 機関情報コンポーネント 395
- ジョブセット定義のスケジューリング ページ 621, 623
- ジョブの選択ページ 635, 636
- 処理レベル (承認) 569
- 新規イベント
 - アプリケーション クラスの作成 498
 - 新規イベントについて 497
- 人材募集
 - 応募者データへのアクセス権の設定 118, 120
 - セキュリティ アクセス タイプについて 63
 - セキュリティ セットについて 63
 - データ権限セキュリティについて 44, 63
 - データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て 87, 88
 - 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロフィールの作成 113
 - 部門ツリーによるデータ セキュリティについて 80
- 人事・労務管理
 - レポート
 - リスト 853
- 診断
 - “ePerformance-パフォーマンス管理”の標準装備の診断プラグインの確認 806
 - PeopleTools 診断フレームワークについて 805
 - 基本福利厚生管理の標準装備の診断プラグインの確認 805
 - “基本報酬管理と予算計画”の標準装備の診断プラグインの確認 806
 - 勤務管理の標準装備の診断プラグインの確認 810
 - グローバル ペイロールの標準装備の診断プラグインの確認 807
 - 標準装備の診断プラグインの確認 805

す

図 533
関連項目: 組織図

- 市場給与プロセス 377
- スイス
 - 郵便番号のロード 363
- スケジュール変更の送信
 - ワークフロー 822
- ステップ
 - 承認(定義) 566, 569
 - 設定 602
- ステージ
 - 承認(定義) 566, 569
 - 設定 592
- ステータス
 - イベントの表示 622
 - 承認(定義) 566
- スピード入力検索ページ 358, 360
- スピード入力ページ 352
- スペイン
 - コントロール テーブルの設定 373

せ

- 税詳細ページ (USA) 225, 240
- 製品
 - チャートフィールド 341
- 製品別設定ページ 126, 131
 - 一般会計の設定 336
- 製品ページ 126, 127, 344
 - 一般会計の設定 336
- セキュリティ
 - PeopleSoft Enterprise HRMS における管理 39
 - PeopleSoft ヘルプデスクに対する設定 724
 - アクセス権を制御するデータについて 48
 - 異動のための修正 122
 - 応募者データへのアクセス権の設定 118, 120
 - 国別機能に対するアクセス権の設定 120, 121
 - グループ セキュリティについて 428
 - グループに対するセキュリティ アクセスの有効化 428
 - グループのデフォルト コンポーネント 429
 - グループ別のユーザー ID のロック 116, 118
 - 権限リストについて 40
 - 権限リスト、ロールおよびユーザーについて 39
 - 採用のための修正 122
 - 承認 623
 - セキュリティ アクセス タイプについて 63
 - セキュリティ アクセス タイプの確認 77
 - セキュリティ インストール 設定ページ 72
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - セキュリティ セットについて 63
 - 設定 66
 - 設定について 66
 - データ権限セキュリティの修正 122
 - データ権限セキュリティの導入 69, 72
 - データ取得について 45
 - フィールド値による権限リストへのデータ アクセス権の付与 89
 - 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113
 - 部門セキュリティ ツリーの検証 87
 - 部門セキュリティ ツリーの構築 83
 - 部門セキュリティ ツリーの自動構築 85
 - 部門セキュリティ ツリーの修正 83, 86
 - 部門セキュリティ ツリーの手動による構築 84
 - 部門セキュリティ ツリーの設定 80
 - 部門セキュリティ ツリーの番号調整 86
 - 部門ツリーによるデータ アクセス権の行セキュリティ権限リストへの付与 87
 - 部門ツリーによるデータ セキュリティについて 80
 - 部門の相互チェック 267
 - ユーザー グループのユーザー ID の作成 116, 117
 - ユーザーについて 42
 - リフレッシュ中に更新する行の設定 76
 - ロールについて 41
 - セキュリティ アクセス タイプ
 - SQL ステートメントの入力 78
 - 確認と使用可能設定 77
 - セキュリティ セットで使用可能なセキュリティ アクセス タイプの表示 75
 - セキュリティ アクセス タイプ コンポーネント

- セキュリティ タイプ SQL ページ 72, 78
- セキュリティ タイプ テーブル ページ 72, 77
- セキュリティ インストール設定ページ 72
- セキュリティ結合テーブル
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - トランザクション セキュリティ結合テーブルの夜間リフレッシュ 90, 96
 - トランザクション セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 54, 90, 97
 - ユーザー セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 58, 90, 99
 - リフレッシュ中に更新する行の設定 76
- セキュリティ更新グループ ページ 72, 76
- セキュリティ セット
 - セキュリティ アクセス タイプの使用可能設定 77
 - 表示 75
 - リフレッシュ中に更新する行の設定 76
- セキュリティ セット コンポーネント
 - セキュリティ更新グループ ページ 72, 76
 - セキュリティ セット テーブル ページ 72, 75
- セキュリティ セット テーブル ページ 72, 75
- セキュリティ タイプ SQL ページ 72, 78
- セキュリティ タイプ テーブル ページ 72, 77
- セキュリティ ツリー 80
 - SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ 83
 - データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て 87
 - 部門セキュリティ ツリーについて 80
 - 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113
 - 部門セキュリティ ツリーの検証 87
 - 部門セキュリティ ツリーの構築 83
 - 部門セキュリティ ツリーの自動構築 85
 - 部門セキュリティ ツリーの修正 83, 86
 - 部門セキュリティ ツリーの手動による構築 84
 - 部門セキュリティ ツリーの設定 80
- 部門セキュリティ ツリーの番号調整 86
- 部門ツリーによるデータ アクセス権の行セキュリティ権限リストへの付与 87
- セキュリティ ツリー検証レポート
 - 部門テーブル/セキュリティ ページ 83
- “セキュリティ データの表示” ページ 103, 105
- セキュリティ ビュー
 - データ取得とデータ権限セキュリティについて 45
- 設定オプション ページ, 参照: セルフサービス ワークフロー設定ページ
- SS コンポーネント インターフェイス設定ページ 732
- 設定ページ - 個人単純検索 756
- 設定ページ - プライマリ権限リスト基本設定 268, 269
- セットID
 - (BEL) 会社の取扱機関との関連付け 238
 - HRMS におけるセットID について 4
 - システム データ規定 18
 - テーブルセット共有と複数のセットID 19
 - テーブルセットとセットID について 14
 - ビジネス ユニット間でのテーブルセット共有について 16
 - 法定区域のデフォルトの設定 149
- セルフサービス
 - 承認トランザクション 634
- “セルフサービス テキストの翻訳” - カタログ テキスト ページ 768, 773
- “セルフサービス テキストの翻訳” - 説明ページ 768, 773
- セルフサービス トランザクション
 - アプリケーション管理者への通知ルールの設定 733
 - 管理者アクセス権限の決定 736
 - コンポーネント インターフェイス ルールの設定 734
 - 設定 727
 - 設定ルール 727
 - 直属部下データへのアクセス権限の設定 735
 - 直属部下の設定 737
 - トランザクション アクティビティの確認 734

トランザクション手順メッセージの設定 739
 プロセスフロー 729
 ポジション管理の例外 731
 ユーザー ワークフローの通知の設定 743
 ワークフロー承認の設定 732
 ワークフロー データベース更新の設定 732
 ワークフローの通知ルールの定義 742
 ワークフローの使い方 740
 ワークフロー メッセージ デフォルトのアクティブ化 741
 セルフサービス ページ
 標準テキスト 765
 セルフサービス ワークフロー設定ページ 732
 管理者通知設定ページ 732
 ゼロの自動挿入 139
 全角文字 179
 グローバル ページ関連のフリガナフィールド 182
 システム アーキテクチャ 182
 システム設定 185
 使い方 181, 186
 名前でソートするヒューマン リソース管理レポート 184
 フリガナ情報の入力 186
 フリガナ フィールドによるレコード検索 183
 前提知識 xxxiii

そ

送金元銀行
 “銀行の追加情報 CAN” ページ 324, 327
 “銀行の追加情報 JPN” ページ 324, 328
 “銀行の追加情報 USA” ページ 327
 送金元銀行口座ページ 324
 定義 323, 324
 送金元銀行口座ページ 324
 総合人件費
 レポート
 リスト 895
 相互参照 xxxvii
 遡及支給プログラム
 支給グループ 309

“属性の保存” ページ 683
 “属性のロード” ページ 683
 組織構造基本テーブル
 HRMS での設定 211
 組織図
 ORGCHART.TXT ファイルの確認 536
 Visio 組織図ウィザードの使用 537
 作成 533
 サードパーティ プログラムの選択 140
 事前設定 533
 組織図について 533
 ツリーを使った作成 535
 ファイルのクライアント コンピュータへのコピー 535
 部門を使った作成 535
 組織図ページ 534
 組織の ID
 検索 169
 その他の変更ページ 547, 552
 ソース (承認) 573

た

対象者
 承認 (定義) 566
 代替勘定科目
 チャートフィールド 342
 代替勘定科目ページ 345, 347
 代替承認者 567, 572
 代替テキスト 771
 代替トークン (テキスト文字列) 771
 代替名ページ 396, 403
 代替ユーザー 617
 代替ユーザー ID 567
 タイトル テーブル ページ 278
 タイプ別法定区域ページ 29, 150
 タイムアウト オプション
 承認パス 602
 代理権 (管理) 666
 “代理権の確認” ページ 658, 666
 代理権の管理コンポーネント (HCDL_BATCH) 639
 “代理権の管理” ページ 656
 “代理人の確認” ページ 658, 665
 多通貨
 通貨桁数機能のアクティブ化 190
 通貨桁数の変更 189
 [多通貨] チェック ボックス 190
 単純検索 API の呼出ページ 756
 ターゲット情報ページ 736

ち

“地域の定義” ページ 381
 チップの処理ページ (USA) 224, 238
 チップの割り当て
 設定 238
 チャートフィールド
 Financials からの値のインポート 341
 HRMS トランザクションでの使い方 357
 PeopleSoft Enterprise Financials からの有効な組み合わせのインポート 349
 値の設定 341
 値の入力 342
 一般会計システムの指定 334
 インテグレーション ポイント 333
 概要 331
 関係会社 346
 勘定コードのロード 352
 組合せコード 348
 組み合わせをトランザクションとして保存 355
 検証 357
 代替勘定科目 347
 チャートフィールド組み合わせのスピード入力 352
 チャートフィールド値のインテグレーション ポイント 341
 トランザクションの確認 355
 標準 331
 標準チャートフィールド設定テンプレート 336
 標準チャートフィールド設定テンプレートの修正 337, 338
 フラット ファイルによる有効組み合わせのロード 350
 プロジェクト/グラント 346
 チャートフィールド 1
 チャートフィールド 342
 チャートフィールド 1 ページ 345
 チャートフィールド 2
 チャートフィールド 342
 チャートフィールド 2 ページ 345
 チャートフィールド 3
 チャートフィールド 342
 チャートフィールド 3 ページ 346
 チャートフィールド組み合わせのスピード入力 352
 “チャートフィールド詳細” ページ 358

チャートフィールド値ページ 343
 チャートフィールド ラベル ページ 338
 注 xxxvii
 注意事項 xxxvii
 重複レコードの検出, 参照: 検索/マッチング
 直属部下
 PeopleSoft ヘルプデスクでの表示 726
 アクセス権限の設定 736
 セルフサービストランザクションの設定 737
 “直属部下 API の呼出” - 実行結果ページ 748
 “直属部下 API の呼出” - 設定/実行ページ 748
 “直属部下 API の呼出” - 追跡結果ページ 748
 直属部下 UI (テスト) 754
 直属部下関連 UI の API の呼出ページ 748
 “直属部下関連 UI の設定” (HR_DR_UI_CFG) コンポーネント 746
 直属部下機能
 API のテスト 751
 UI の設定 749
 コンポーネントとトランザクションの設定 748
 実行結果の表示 753
 設定 746
 直属部下機能について 747
 トレース ログの表示 753
 直属部下の構造
 PeopleSoft ヘルプデスクでの表示 726
 “直属部下の設定” (SS_LINK_TBL) コンポーネント 747
 “直属部下の設定” コンポーネント
 ターゲット情報ページ 736, 737
 手順テキスト ページ 736, 739
 直属部下へのアクセス権限
 設定 735

つ

追加職務
 セキュリティ アクセス タイプの使用可能設定 77
 データ権限セキュリティの導入 72
 追加ドキュメンテーション xxxiv

通貨

HRMS 189
 HRMS における通貨について 189
 HRMS レポート 194
 為替レート計算情報の表示 194
 桁数拡張に伴うデータベースの拡張 191
 桁数機能のアクティブ化 190
 桁数とレポート作成 190
 桁数の設定 189
 多通貨の桁数の変更 189
 多通貨の表示 193
 使い方 189

通貨コード テーブル レポート 194

通貨レート レポート 194

通知

エスカレーション (概要) 620
 承認テンプレート 613, 614
 セルフサービストラランザクションにおけるワークフローの使い方 740

通知/エスカレーション マネージャ (NEM) 設定 620, 623

通知オプション

承認設定 588, 589
 承認トラランザクション登録 579

ツリー

組織図の作成 535
 部門ツリーによるデータ セキュリティについて 80

ツリー マネージャ

部門セキュリティ ツリーについて 80
 部門セキュリティ ツリーの検証 87
 部門セキュリティ ツリーの構築 83
 部門セキュリティ ツリーの自動構築 85
 部門セキュリティ ツリーの修正 83, 86
 部門セキュリティ ツリーの手動による構築 84
 部門セキュリティ ツリーの設定 80
 部門セキュリティ ツリーの番号調整 86
 部門ツリーによるデータ アクセス権の行セキュリティ権限リストへの付与 87

ツリー マネージャ ページ 83

て

“定義済クエリー” ページ 684, 689
 定義ページ 303
 定型文書 699

HRMS における使い方 700

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用に作成 700

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の定型文書について 701

PeopleSoft Enterprise ヒューマン リソース管理用の名称指定規則 704

SQR の出力タイプの指定 707

WORDSAMP プロセスを使ってテスト 706

Word の文書テンプレートの使い方 704

印刷するための準備 707, 717

応用 708, 718

研修関連文書サンプル 720

作成 702, 719

サンプル 720

事前設定 699

新規作成 709

その他の HRMS アプリケーション用に作成 715

その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用定型文書について 715

その他の PeopleSoft Enterprise HRMS アプリケーション用の名称指定規則 717

テキストの変更 708, 719

データ抽出ファイルの使い方 704

トラブルシューティング 711

年金関連文書サンプル 721

標準文書コードの設定 713, 714

フィールドの追加 708, 719

プロセス スケジュールの使用 702

プロセス スケジュールの設定 705

プロセス スケジュールを使った作成 716

文書コードの使い方 704

ページへの文書コード フィールドの追加 710

マクロの設定 707, 717

マクロの変更 718

ディレクトリ インターフェイス サービスオペレーション

使い方 783

ディレクトリ インターフェイス ツリー 782

ディレクトリ オーディット プロセス

ディレクトリ オーディット プロセスについて 779

ディレクトリ オーディット ページ 780

- ディレクトリのロード ページ 778
- ディレクトリ マッピング
 - サンプルと付属のサービス オペレーションへのアクセス 782
 - サンプル マッピング 782
 - 付属のサービス オペレーションの確認 783
- ディレクトリ ロード プロセス
 - ディレクトリ ロード プロセスについて 777
- テキスト ID (テキスト カタログ) 766
- テキスト エントリ
 - 変更 766
- テキスト カタログ
 - HTML としてエントリを表示 771
 - アプリケーションの設定 768
 - エントリの定義 770
 - キャッシュ 769
 - 設定 765
 - テキスト カタログについて 765
 - テスト 774
 - 翻訳 773
- “テキスト カタログ – 全適用条件の表示” ページ 768, 772
- “テキスト カタログの更新” (HTML 表示) ページ 767
- “テキスト カタログの更新” ページ 767
- “テキスト カタログの設定” (HR_SSTEXT_CFG) コンポーネント 765
- “テキスト カタログの設定” – 一般ページ 766, 768
- “テキスト カタログの設定” – 適用条件 1 ページ 767
- “テキスト カタログの設定” – 適用条件 2 ページ 767
- “テキスト カタログの設定” – 適用条件 3 ページ 767
- “テキスト カタログの設定” – 適用条件 4 ページ 767
- “テキスト カタログのテスト” ページ 768
- “テキスト カタログの翻訳” (HR_SSTEXT_LANG) コンポーネント 765
- 適用箇所 (テキスト カタログ エントリ) 766
- 手順テキスト ページ 736
- デフォルト
 - HRMS 導入デフォルトの設定 125
 - システム デフォルトとビジネス ユニットの関連付け 24
 - システム デフォルトの設定 141
 - 周期 197
 - 違いについて 27
 - ビジネス ユニット デフォルト 25
 - 法定区域 33
 - デフォルト給与ページ 287, 297
 - デフォルト周期ページ 208, 209
 - デフォルト承認コンポーネント 579
 - デフォルト設定ページ 224, 227
 - “デフォルトの検索結果” ページ 170
 - デフォルトの番号
 - 自動採番の指定 137
 - デフォルト ページ – プライマリ権限リスト基本設定 268
 - 電子メール テンプレート
 - 評価 568
 - テンプレート
 - 承認の通知 613, 614
 - 定型文書テキストの変更 708, 719
 - 電子メール (評価) 568
 - 電話番号情報
 - 会社情報の入力 242
 - 電話番号ページ 225, 242, 244, 251, 253, 399
 - データ
 - 共有 18
 - データ アクセス
 - アクセス権を制御するデータについて 48
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - データ規定
 - システム 9
 - データ権限セキュリティ
 - 応募者データへのアクセス権の設定 118, 120
 - 権限リストへの割り当て 87, 88
 - 修正 122
 - データ権限セキュリティの導入 69, 72
 - データ取得について 45
 - フィールド値による権限リストへのデータアクセス権の付与 89
 - 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113
 - 部門セキュリティ ツリーの検証 87
 - 部門セキュリティ ツリーの構築 83

- 部門セキュリティ ツリーの自動構築 85
- 部門セキュリティ ツリーの修正 83, 86
- 部門セキュリティ ツリーの手動による構築 84
- 部門セキュリティ ツリーの設定 80
- 部門セキュリティ ツリーの番号調整 86
- 部門ツリーによるデータ アクセス権の行セキュリティ権限リストへの付与 87
- 法定区域について 44
- ユーザーへの割り当て 42
- データ構造
 - 共通コンポーネント 746
- “データ整合性の検証” ページ 441, 443
- データ セキュリティ プロファイル ページ, 参照: 部門ツリー セキュリティ ページ
- データ抽出ファイル
 - 定型文書用 704
- データの更新
 - ユーザー各自によるデータ更新の許可 122
- “データの内容” ページ 381, 386
- データベースの拡張
 - 通貨桁数拡張に伴う拡張 191
- テーブル
 - HRMS コントロール テーブルの設定 3
 - システム データ規定 10
 - セキュリティ結合テーブルについて 54
 - 法定区域 29
- テーブルセット
 - HRMS におけるテーブルセット共有について 4
 - 既存ビジネス ユニットからの設定のコピー 219
 - 共有のデフォルト設定 268
 - 使い方 14
 - データの共有 18
 - テーブルセット共有について 15
 - テーブルセットとセットID について 14
 - テーブルセットについて 14
 - レコード グループとテーブルセット共有について 16
- テーブルセット共有
 - オプションについて 218
 - 権限リストへの関連付け 24
 - 設定 17

- デフォルトの設定 268
- テーブルセット共有と複数のセットID 19
- 特定のデフォルト セットID の使用 218
- ビジネス ユニット 218
- ビジネス ユニットへの関連付け 24

と

- ドイツ
 - 産業調査コードの設定 365
- 動的承認
 - 権限のないユーザーをスキップ オプション 602
 - 権限をチェック オプション 602
 - 定義 609
 - 例 612
- 動的承認の権限 609, 611
- 動的パス 609
- 導入
 - HRMS デフォルトの設定 125
 - 承認 567, 573
- 登録されたインターフェイスの利用 476
- 登録済ハンドラ ページ 514
- ドキュメンテーション
 - 関連 xxxiv
 - 最新版 xxxiv
 - 出力 xxxiv
- 都道府県
 - 設定 147
- 都道府県/州ページ 143, 147
- トラブルシューティング
 - 承認 568
- トランザクション
 - 承認(設定) 568, 585, 586
 - 承認(導入) 573
 - 承認(登録) 568
 - 承認リクエストの確認 635
 - 承認レベル 581, 582
 - ジョブの選択 636
 - 法定区域 29
 - 法定区域との関連付け 31
 - 法定区域を使った処理 32
 - ワークフロー リンク 582, 583
- トランザクション詳細ページ 555, 559
- トランザクション設定ページ 586
- トランザクション タイプ別法定区域テーブル
 - タイプ別法定区域ページ 150
 - トランザクション タイプ ページ 150
- トランザクション タイプ ページ 150

トランザクション手順メッセージ
 セルフサービス トランザクションの設定 739
 トランザクション データ
 セキュリティ結合テーブルについて 54
 セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 54, 90, 96, 97
 トランザクション セキュリティ データ
 について 48
 トランザクション登録ページ 577
 トランザクション プロセッサ
 設定 542
 トランザクション ページ 29
 トランザクション レジストリ
 標準定義 568
 取扱機関 (BEL) ページ 224, 238
 ドリルダウン モード (直属部下) 747

な

ナビゲーション
 ポータル ナビゲーションの分析 437
 ナビゲーション (“HR ノートパッドの設定”
 ページ) 763

に

日本
 学齢 366
 学齢の計算 366
 学齢の設定 368
 給与コンポーネントのパラメータ設定 371
 コントロール テーブルの設定 366
 職務コードと職能等級管理 286
 送金元銀行の追加情報の設定 324, 328
 郵便番号の管理 370
 日本 (JPN)
 日本用デフォルトの設定 136
 入力ページ 381, 383

ね

年次周期
 給与レートの換算 201

の

ノートパッド API ページ 760

は

パス
 承認 (定義) 566, 569
 設定 601
 発信者
 承認 629
 定義 566
 パフォーマンス モニタ パラメータ
 システム デフォルトの設定 140
 パラメータ
 パフォーマンス モニタ パラメータの
 設定 140
 パラメータ ページ
 従業員テーブル コンポーネントのリフ
 レッシュ 440
 番号
 自動採番の指定 137
 ゼロの自動挿入 139
 汎用テンプレート
 概要 613, 614
 評価 568
 汎用テンプレート定義 614

ひ

ビジネス アナリスト
 承認タスク 568
 ビジネス プロセス
 承認 567
 ビジネス ユニット
 BU オプション デフォルト ページ 217, 222
 GL ビジネス ユニットの確認 217
 GL ビジネス ユニット ページ 217
 HRMS におけるビジネス ユニットにつ
 いて 4
 権限リストによる違い 27
 更新 216, 217
 システム デフォルト 25
 システム デフォルトの関連付け 24
 システム データ規定 10, 12, 18, 24, 25, 27
 指定 216
 追加 216, 217
 定義 10, 12
 デフォルトの設定 222
 テーブルセット共有 218
 導入 14
 ビジネス ユニット間でのテーブルセット
 共有について 16

ビジネス ユニット - 相互参照ページ 217, 221
 ビジネス ユニットについて 11
 ビジネス ユニット ページ 217
 他のアプリケーションのビジネス ユニットの指定 221
 ビジネス ユニット - 相互参照ページ 217, 221
 ビジネス ユニット テーブル
 BU オプション デフォルト ページ 217
 ビジネス ユニット - 相互参照ページ 217
 ビジネス ユニット ページ 217
 ビジネス ユニット ページ 217
 非従業員
 セキュリティ アクセス タイプについて 63
 セキュリティ セットについて 63
 データ権限セキュリティについて 44, 63
 データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て 87, 88
 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113
 部門ツリーによるデータ セキュリティについて 80
 マス アップデートでの選択 546
 非従業員データ
 マス アップデートでの選択 546
 ユーザー各自によるデータ更新の許可 122
 日付
 HRMS における有効日について 5
 ヒューマン リソース管理
 機能の選択 133
 ヒューマン リソース管理の周期テーブル
 PeopleSoft Enterprise グローバル ペイロールでの周期の設定 205
 評価基準ページ 287, 294
 表記規則 xxxvi
 表示ページ 381, 387
 標準勤務時間
 定義 199
 デフォルト 199
 デフォルトの設定 129
 ビジネス ユニットのデフォルトの設定 222
 標準勤務周期
 定義 199

デフォルト 199
 標準氏名プレフィックス
 作成 278
 標準チャートフィールド設定テンプレート
 インポート 338
 概要 337
 修正 338
 設定 336
 その他の一般会計システムを使用している場合の修正 337
 “標準チャートフィールド設定” ページ 338
 標準文書テーブル ページ 714
 “標準文書レポート” - ラン コントロール ページ 714

ふ

フィールド条件 599
 複数言語
 PeopleSoft Enterprise HRMS のサポート 179
 グローバル ページ関連のフリガナフィールド 182
 システム アーキテクチャ 182
 使用言語の設定 180
 “使用言語の設定” ページ 181
 使用言語の選択ページ 180
 全角文字 181
 名前でソートするヒューマン リソース管理レポート 184
 フリガナ フィールドによるレコード検索 183
 フリガナを使ったレコード検索 187
 “複数トランザクション” ページ 658, 668
 複数の職務
 ユーザー リスト 619
 福利厚生
 HRMS で使用する福利厚生機能の選択 132
 福利厚生プログラム
 支給グループ 309
 部門
 管理 261
 基本情報の定義 262
 勤務管理配分の使用 266
 コミットメント会計の使用 266
 終身在職権処理の使用 266
 セキュリティ アクセス タイプについて 63
 セキュリティ セットについて 63

- 相互チェック 267
- 組織図の作成 535
- データ権限セキュリティについて 44, 63
- データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て 87, 88
- フィールド値による権限リストへのデータアクセス権の付与 89
- 部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113
- 部門セキュリティ ツリーの検証 87
- 部門セキュリティ ツリーの構築 83
- 部門セキュリティ ツリーの自動構築 85
- 部門セキュリティ ツリーの修正 83, 86
- 部門セキュリティ ツリーの手動による構築 84
- 部門セキュリティ ツリーの設定 80
- 部門セキュリティ ツリーの番号調整 86
- 部門ツリーによるデータ アクセス権の行セキュリティ権限リストへの付与 87
- 部門ツリーによるデータ セキュリティについて 80
- 部門セキュリティ
 - データ権限セキュリティの権限リストへの割り当て 87, 88
 - 部門セキュリティ ツリーの検証 87
 - 部門セキュリティ ツリーの構築 83
 - 部門セキュリティ ツリーの自動構築 85
 - 部門セキュリティ ツリーの修正 83, 86
 - 部門セキュリティ ツリーの手動による構築 84
 - 部門セキュリティ ツリーの設定 80
 - 部門セキュリティ ツリーの番号調整 86
 - 部門ツリーによるデータ アクセス権の行セキュリティ権限リストへの付与 87
- 部門セキュリティ ツリー
 - SJT_CLASS_ALL のリフレッシュ 83
- 部門ツリー セキュリティ ページ 83, 87
- 部門テーブル 261
- “コミットメント会計/E&G” ページ 262, 266
- 部門プロファイル ページ 262
- レポート 262
- 部門テーブル/セキュリティ ページ 83
- 部門プロファイル ページ 262
- 部門ページ 343
- [プライバシー] フィールド (HR ノートパッド) 761
- プライマリ権限リスト
 - 基本設定 268
 - 国別機能に対するアクセス権の設定 120, 121
- プライマリ権限リスト基本設定テーブル設定ページ 268
- デフォルト ページ 268
- プラグイン
 - “ePerformance-パフォーマンス管理”の標準装備の診断プラグインの確認 806
 - PeopleTools 診断フレームワークについて 805
 - 基本福利厚生管理の標準装備の診断プラグインの確認 805
 - “基本報酬管理と予算計画”の標準装備の診断プラグインの確認 806
 - 勤務管理の標準装備の診断プラグインの確認 810
 - グローバル ペイロールの標準装備の診断プラグインの確認 807
 - 標準装備の診断プラグインの確認 805
- フラット ファイル
 - 有効なチャートフィールド組み合わせのロード 350
- フランス利潤分配レポート
 - リスト 871
- フリガナ
 - グローバル ページ関連のフィールド 182
 - システム アーキテクチャ 182
 - システム設定 185
 - 名前でソートするヒューマン リソース管理レポート 184
 - 入力 141
 - フリガナ情報の入力 186
 - フリガナ フィールドによるレコード検索 183
- フリガナによる検索
 - レコード検索 187
- フリガナ ページ 127, 141
- フル データ パブリッシュ ページ 778, 780

プレフィックス
 敬称プレフィックスの定義 280
 氏名プレフィックスの入力 279
 プログラム コード
 チャートフィールド 341
 プログラム コード ページ 344
 プロジェクト ID
 チャートフィールド 341
 プロジェクト/グラント ページ 344, 346
 プロセス ID
 承認(設定) 591, 592
 定義 566
 標準 575
 プロセス コントロール ページ 303, 305
 プロセス スケジューラ
 定型文書作成のための設定 705
 定型文書の作成に使用 700, 702, 716
 プロセス定義(承認), 参照: 承認プロセス定義
 プロセス定義の設定ページ 592, 610
 プロセッサの設定 - 必要条件ページ 543, 546
 プロセッサの設定ページ 543
 プロファイル管理
 レポート 875
 プロファイル ページ 253, 254
 プロファイル(ユーザー)
 ワークフロー 617
 プロンプト編集トランザクション ビュー
 REG_REGION 34
 文書, 参照: 定型文書
 文書コード
 設定 713, 714
 定型文書 704
 ページへの文書コード フィールドの追加 710
 レポート 714

へ

ペイシート オプション
 HRMS の Payroll for North America オプションの設定 133
 HRMS の勤務管理オプションの設定 133
 ヘッダー レベル
 承認 571
 ベルギー
 会社の給与係数の入力 237
 デフォルト会社情報の入力 237

取扱機関とセットID の関連付け 238
 ヘルプデスク 723
 HR データの表示 723
 セキュリティの設定 724
 直属部下の設定 726
 変換フレームワーク
 HCM 変換フレームワークについて 691
 HCM 変換フレームワークの使い方 691
 HCM 変換マップの管理 694
 HCM 変換マップの設定 694
 変換マップ
 設定 695
 登録 484
 表示 483
 表示と登録 483
 変換マップの登録コンポーネント (HMTF_WZ_TRF) 483
 変換マップ(表示と登録) 483
 変換マップ ページ 483, 484, 695
 変換マップ レジストリ
 使い方 697
 変換マップ レジストリ コンポーネント (HMTF_TRF_REGISTRY) 483
 変動報酬管理
 レポート
 リスト 876

ほ

報酬管理
 レポート
 リスト 848
 法人タイプ
 定義 224
 法人タイプ ページ 224
 法定区域
 PeopleCode トランザクション処理 34
 管理 31
 修正 30
 設定 30, 147
 定義 148
 デフォルト 33
 テーブルの相互関係 29
 トランザクション処理 32
 トランザクション タイプへの追加 150
 トランザクションとの関連付け 31
 トランザクションの修正 37
 ヒューマン リソース管理トランザクションへの REG_REGION の追加 35

表記規則 30
 プロンプト編集トランザクション
 ビュー 34
 法定区域について 29
 例
 安全衛生トランザクションへの
 REG_REGION の追加 35
 職務データトランザクションへの
 REG_REGION の追加 35
 法定区域ページ 29, 148
 法定提出書類用
 レポート
 リスト 879
 法定提出書類用 (AUS)
 レポート
 リスト 882
 法定提出書類用 (CAN)
 レポート
 リスト 883
 法定提出書類用 (FRA)
 レポート
 リスト 883
 法定提出書類用 (GBR)
 レポート
 リスト 884
 法定トランザクション
 タイプの設定 149
 定義 150
 “他の通貨で表示” ページ 193
 保険会社テーブル ページ (ESP) 373
 保険証券情報ページ 401, 408
 保険証券情報ページ - 機関情報コン
 ポーネント 395
 ポジション
 HRMS における個人構造とポジション
 構造の比較 5
 職務コードとポジションについて 286
 ポジション管理デフォルトの設定 130
 ポジション管理
 レポート
 リスト 874
 補助職種コード 283
 補助職種ページ 283, 284
 補助職種ページ 283, 284
 本国/赴任先データ
 セキュリティ アクセス タイプの使用可
 能設定 77
 データ権限セキュリティの導入 72
 ポータル
 ナビゲーションの分析 437

ポータル分析ページ 437

ま

前のパスを省略 572
 マクロ
 定型文書における変更 718
 定型文書に関する設定 707, 717
 マス アップデート
 一般情報 (定義) 547
 異動区分と異動理由の指定 551
 管理 555
 共通のデータ変更 (定義) 549
 作成 552
 実行 541, 560
 従業員データの更新 539
 正しく実行 541
 追加のデータ変更 (定義) 552
 定義の作成 546
 定義の設定 546
 トランザクションの詳細の確認 559
 トランザクション プロセッサ (設
 定) 542, 543
 必要条件エレメント (定義) 546
 マス アップデートについて 539
 未処理 (削除) 562
 マス アップデート (管理) 555
 マス アップデート管理ページ 555
 マス アップデート削除ページ 562
 マス アップデート (作成) 552
 マス アップデート作成ページ 553
 マス アップデート実行ページ 561
 マス アップデート定義ページ 546, 547
 マス アップデートページ 560
 マス アップデート レポート ページ 554
 マッピング
 ディレクトリ サンプル マッピングの使
 い方 782
 マッピングされた HCM サービスの削
 除 488
 “マトリックスの定義” ページ 381, 382

め

メタデータ
 HCM リポジトリについて 671
 HCM リポジトリの管理 671
 オブジェクト クラスの定義 676
 基本クラスの定義 675
 クラス属性の詳細の入力 677
 使い方 671

メタデータ定義のインポート 681
 メタデータ定義のエクスポート 680
 “メタデータ定義のインポート” ページ 675, 681

“メタデータ定義のエクスポート” ページ 675, 680

メッセージ

DSMAPINPUT 784

HCM 変換フレームワークについて 691

HCM 変換フレームワークの使い方 691

HCM 変換マップの管理 694

HCM 変換マップの設定 694

付属のディレクトリ サービス オペレーションの確認 783

メモ

プライバシーの保証 761

も

モニター概要ページ 778, 780

モニター（承認） 581

ゆ

“有効な住所のロード CHE” ページ 364

“有効な住所” ページ 143

有効日

HRMS における有効日について 5

有効日とセキュリティ ツリーについて 82

有効日付きのデータ

有効日付きのレコードのグループの定義 425

有効日フィールド

テキスト カタログ 766

郵便番号

管理 (JPN) 370

設定 (JPN) 369

郵便番号のロード (NLD) 372

ロード (CHE) 363

郵便番号 NLD コンポーネント

(RUN_POSTAL_NLD) 372

郵便番号のロード JPN

プロセス ログ レポート 370

“郵便番号のロード JPN” ページ 368, 369

“郵便番号のロード NLD” ページ 372

郵便番号ページ (JPN) 368, 370
 設定 369

ユーザー

承認の設定 615, 617, 618

セキュリティのロールと権限リストの割り当て 39, 42

マス アップデートでの選択 546

ワークフロー ロール 615

ユーザー ID

グループ別のユーザー ID のロック 116, 118

部門セキュリティ ツリーに基づく管理者用データ権限プロファイルの作成 113

ユーザー グループのユーザー ID の作成 116, 117

ユーザー インターフェイス

共通コンポーネント 746

ユーザー セキュリティ データ ページ 103, 108

ユーザー通知

セルフサービス トランザクションにおけるワークフローの使い方 740

ユーザー データ

セキュリティ結合テーブルについて 54, 58

セキュリティ結合テーブルのリフレッシュ 58, 90, 99

ユーザー各自によるデータ更新の許可 122

ユーザー セキュリティ データについて 48

ユーザー入力条件

“ユーザーの作成” ページ 117

“ユーザーのロック” ページ 117, 118

ユーザー プロファイル

ワークフロー 617

ユーザー プロファイル ページ 611

ユーザー別セキュリティ ページ 429, 432

ユーザー ユーティリティ

承認設定 588

ユーザー リスト

HRMS 標準 619

承認者 597

承認ステップ 603, 604

承認パス 602

設定 618

定義 567

評価 568

複数の職務 619

ユーザー リスト定義ページ 611, 615, 618
 ユーティリティ
 ポータル ナビゲーションの分析 437

よ

用語 903
 承認 565
 用語一覧 903
 予算参照
 チャートフィールド 342
 予算参照ページ 345

ら

ライブラリ (Web) 624
 ラン コントロール ページ - インストール
 テーブル レポート 127
 ラン コントロール ページ - 国テーブル
 レポート 143
 ラン コントロール ページ - 職務コード
 テーブル レポート 313
 ラン コントロール ページ - 通貨コード
 テーブル 194
 ラン コントロール ページ - 通貨レート
 レポート 194
 ラン コントロール ページ - 部門テーブ
 ル レポート 262

り

リクエスト
 承認 (定義) 566
 リモート イベント 495

る

ルール定義ページ 225, 243

れ

レコード グループ
 セットID のレコード グループへの割り
 当て 18
 レコード グループとテーブルセット共
 有について 16
 レコード/フィールド ページ 417
 レジストリ ウィザード コンポーネント
 (HMCR_WZ_REGSRV) 466
 <レジストリ エントリ名> ページ 454, 461
 レジストリ情報ページ 467
 レジストリ フォルダ構造 (管理) 480

<レジストリ フォルダ ラベル> ペー
 ジ 454, 457
 レビュー担当者
 承認トランザクションの参照 569
 レポート
 HRMS
 基本 845
 HRMS における通貨 194
 HRMS の概要 845
 安全衛生モニター管理
 リスト 887
 オランダ給与管理レポート
 リスト 848
 海外赴任管理
 リスト 895
 基本福利厚生
 リスト 859
 基本報酬と予算計画
 リスト 891
 キャリア プランと後任計画
 リスト 890
 休暇欠勤管理
 リスト 885
 給与パッケージ管理
 リスト 849
 教育・研修管理
 リスト 850
 グループビルド レポート 433
 公認資格認定管理
 リスト 875
 コミットメント会計管理レポート一
 覧 870
 社有車管理
 リスト 847
 主要レポート
 リスト 896
 人事・労務管理
 リスト 853
 総合人件費
 リスト 895
 通貨桁数 190
 フランス利潤分配
 リスト 871
 プロファイル管理 875
 変動報酬管理
 リスト 876
 報酬管理
 リスト 848
 法定提出書類用
 リスト 879

法定提出書類用 (AUS)
 リスト 882
 法定提出書類用 (CAN)
 リスト 883
 法定提出書類用 (FRA)
 リスト 883
 法定提出書類用 (GBR)
 リスト 884
 ポジション管理
 リスト 874
 労使関係管理レポート一覧 871
 連絡先 xxxviii
 連絡先ページ 400, 407
 連絡先ページ - 機関情報コンポーネント 395
 レートコード
 周期での使い方 207

ろ

労使関係管理
 レポート一覧 871
 ログ削除オプション (イベント) 622
 ロール
 作成とユーザーへの割り当て 39, 41
 承認 623
 動的ロール ユーザー クエリーの使い方 818
 フィールド値による権限リストへのデータアクセス権の付与 89
 メッセージ エージェントを使った作成 818
 ワークフローとユーザー 615
 ロール ページ - ユーザー プロファイル 615

わ

割当変更
 管理者としての割当変更 632
 自分に割り当てられたタスク 631
 承認管理 625, 626
 承認パス 602
 保留中のタスク 631
 ワークリスト アイテム 617
 ワークフロー
 確認の送信 821
 キャンセルの送信 822
 グループビルド用の開発 799
 研修の承認イベント 819
 研修リクエスト イベント (CSE) 820

研修リクエスト イベント (SCE) 820
 研修リクエスト イベント (ST) 821
 研修リクエストの承認イベント 819
 従業員の入社手続き 823
 承認 567
 承認 (導入) 565, 573
 承認トランザクション 582, 583
 スケジュール変更の送信 822
 セルフサービス承認の設定 732
 セルフサービス データベース更新の設定 732
 セルフサービス トランザクション 740
 セルフサービス トランザクションにおけるアクティブ化 740
 セルフサービス トランザクションのアクティブ化 741
 ユーザー プロファイル 617
 ロールとユーザー 615
 ワークフロー ステータス ページ 741
 ワークフロー設定
 管理者通知設定ページ 732
 セルフサービス ワークフロー設定ページ 732
 ワークフロー トランザクション カテゴリ ページ 740
 ワークフロー トランザクション ページ 582, 643, 741
 ワークフローの照会ページ 734
 ワークフローの通知方法 743
 ワークフロー ページ - ユーザー プロファイル 615, 617
 ワークフロー ユーザー 基本設定ページ 741, 743
 ワークリスト デフォルト設定ページ 740, 741